

日本医科大学研究業績年報

第 63 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 63

平成 28 (2016) 年度

April 2016 — March 2017

まえがき

学長 弦 間 昭 彦

日本医科大学研究業績年報の発刊は、大学として、研究業績を世の中に発信する重要な事業であります。研究機関としての評価は、研究論文、学会発表、公的資金の獲得、知的財産権の保持など、多岐に渡る指標でなされていますが、いずれも客観的に表しやすい指標であります。しかし、これらの研究実績は量的評価ばかりでなく、「影響の大きさや深さ」が加味されなければなりません。特に、近年は、国家的戦略として、実社会での応用の視点が重視されるようになりました。公的資金の獲得、知的財産権の保持については、「影響の大きさや深さ」の一面を表している様に思いますが、その指標でも内容の吟味が必要であります。すべての根幹にあたる研究論文、学会発表は、尚更であります。

2016年度の総論文数は1,860編、欧文数が937編、また学会発表数は4,750件であります。我が国の医学論文数の減少が問題視されておりますが、本学も順調な右肩上がりとは言えない状況ではあります。しかし、内容的に高く評価されているものが多く見られる様に思います。今年度文部科学省関連の科学研究費は、約3億5千万円で2年間で約1億円増加しました。これも、教職員の皆さんの日頃の努力による研究業績の蓄積あつてのことであることは語るまでもありません。この傾向が継続することを願っております。

現在、人工知能、ロボット工学、仮想現実、拡張現実など、テクノロジーの大きな変化のうねりの真ただ中にいます。大学として、次年度以降の研究業績を質量ともにさらに高める必要があります。さらなる研究の推進発展を期待しております。

最後にこの業績年報の編集にご尽力下さいました近藤幸尋研究部委員会委員長ならびに関係各位に謝意を表します。

目 次

〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[医療心理学]	1
2. 自然科学	3
[数 学]	3
[物理学]	3
[化 学]	4
[生物学]	5
3. 外国語	8
[英語]	8
4. スポーツ科学	9

〔2〕基礎医学

1. 分子解剖学分野	11
2. 解剖学・神経生物学分野	13
3. 感覚情報科学分野	15
4. 生体統御科学分野	17
5. 代謝・栄養学分野	19
6. 分子遺伝医学分野	21
7. 薬理学分野	27
8. 解析人体病理学分野	29
9. 統御機構診断病理学分野	37
10. 微生物学・免疫学分野	42
11. 衛生学公衆衛生学分野	45
12. 法医学分野	50
13. 基礎医学共同研究利用施設	52
[実験動物管理室]	52
[基礎医学放射性同位元素研究室]	53

〔3〕臨床医学

1. 総合医療・健康科学分野	55
[付属病院総合診療科]	55
2. 循環器内科学分野	56
[付属病院循環器内科]	56
[武蔵小杉病院循環器内科]	70
[多摩永山病院内科、循環器内科]	75
[千葉北総病院循環器内科]	81
3. 神経内科学分野	86
[付属病院神経・脳血管内科]	86
[武蔵小杉病院神経内科]	96
[多摩永山病院脳神経内科]	99
[千葉北総病院神経・脳血管内科]	100
[脳病態画像解析学講座]	101
4. 腎臓内科学分野	105
[付属病院腎臓内科]	105
[千葉北総病院腎臓内科]	108
5. アレルギー・膠原病内科学	110
[付属病院リウマチ・膠原病内科]	110

6.	血液内科学分野	115
	[付属病院血液内科]	115
	[千葉北総病院血液内科]	123
7.	消化器内科学分野	126
	[付属病院消化器・肝臓内科]	126
	[千葉北総病院消化器内科]	129
8.	内分泌糖尿病代謝内科学分野	135
	[付属病院糖尿病・内分泌代謝内科]	135
	[武蔵小杉病院動脈硬化・糖尿病・内分泌内科]	139
	[千葉北総病院内分泌内科]	139
9.	呼吸器内科学分野	142
	[付属病院呼吸器内科、化学療法科]	142
	[武蔵小杉病院呼吸器内科]	147
	[武蔵小杉病院腫瘍内科]	147
	[千葉北総病院呼吸器内科]	150
10.	精神・行動医学分野	151
	[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]	151
11.	小児・思春期医学分野	156
	[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科、小児外科、新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]	156
12.	臨床放射線医学分野	162
	[付属病院放射線科、放射線治療科]	162
	[武蔵小杉病院放射線科]	170
	[武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター]	171
	[多摩永山病院放射線科]	175
	[多摩永山病院放射線治療科]	176
	[千葉北総病院放射線科]	177
13.	皮膚粘膜病態学分野	178
	[付属病院皮膚科]	178
	[武蔵小杉病院皮膚科]	186
	[多摩永山病院皮膚科]	188
14.	消化器外科学分野	191
	[付属病院消化器外科・一般外科・移植外科]	191
	[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]	213
	[千葉北総病院外科・消化器外科]	232
15.	乳腺外科学分野	242
	[付属病院乳腺科]	242
	[武蔵小杉病院乳腺外科]	245
16.	内分泌外科学分野	246
	[付属病院内分泌外科]	246
	[武蔵小杉病院内分泌外科]	250
17.	心臓血管外科学分野	251
	[付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科]	251
	[武蔵小杉病院心臓血管外科]	257
18.	呼吸器外科学分野	260
	[付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科]	260
	[武蔵小杉病院呼吸器外科]	263
19.	脳神経外科学分野	265
	[付属病院脳神経外科]	265

	[武蔵小杉病院脳神経外科]	280
	[多摩永山病院脳神経外科]	284
	[千葉北総病院脳神経外科]	285
20.	整形外科学分野	293
	[付属病院整形外科・リウマチ外科、武蔵小杉病院整形外科、多摩永山病院整形外科、 千葉北総病院整形外科]	293
21.	女性生殖発達病態学分野	301
	[付属病院女性診療科・産科]	301
	[武蔵小杉病院女性診療科・産科]	307
	[多摩永山病院女性診療科・産科]	311
	[千葉北総病院女性診療科・産科]	316
22.	頭頸部・感覚器科学分野	318
	[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・ 千葉北総病院耳鼻咽喉科]	318
23.	男性生殖器・泌尿器科学分野	324
	[付属病院泌尿器科]	324
	[武蔵小杉病院泌尿器科]	329
	[多摩永山病院泌尿器科]	330
	[千葉北総病院泌尿器科]	330
24.	眼科学分野	332
	[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科]	332
25.	疼痛制御麻酔科学分野	342
	[付属病院麻酔科・ペインクリニック]	342
	[武蔵小杉病院麻酔科]	345
	[多摩永山病院麻酔科]	346
	[千葉北総病院麻酔科]	346
26.	救急医学分野	348
	[付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・ 多摩永山病院救命救急センター]	348
	[武蔵小杉病院救命救急センター]	360
	[多摩永山病院救命救急センター]	362
	[千葉北総病院救命救急センター]	366
27.	形成再建再生医学分野	374
	[付属病院形成外科・再建外科・美容外科]	374
	[武蔵小杉病院形成外科]	388
	[千葉北総病院形成外科]	389
28.	リハビリテーション学分野	391
	[付属病院リハビリテーション科]	391
29.	付属病院付置施設等	392
	[付属病院遺伝診療科]	392
	[付属病院心臓血管集中治療科]	394
	[付属病院病理診断科・病理部]	397
	[付属病院臨床検査部]	399
	[付属病院薬剤部]	400
	[付属病院看護部]	402
	[付属病院放射線科技師室]	404
	[付属病院ME部]	405
	[ワクチン療法研究施設]	406
	[付属病院東洋医学科]	407

	[ゲノム先端医療部].....	412
30.	武蔵小杉病院付置施設等.....	415
	[武蔵小杉病院消化器病センター].....	415
	[武蔵小杉病院中央検査室].....	419
	[武蔵小杉病院薬剤部].....	419
	[武蔵小杉病院看護部].....	421
	[武蔵小杉病院放射線科技師室].....	423
	[武蔵小杉病院認知症センター].....	423
31.	多摩永山病院付置施設等.....	426
	[多摩永山病院病理部].....	426
	[多摩永山病院中央検査室].....	428
	[多摩永山病院薬剤部].....	429
	[多摩永山病院看護部].....	431
	[多摩永山病院消化器科].....	432
32.	千葉北総病院付置施設等.....	436
	[千葉北総病院集中治療室].....	436
	[千葉北総病院病理部].....	437
	[千葉北総病院薬剤部].....	438
	[千葉北総病院放射線センター].....	440
	[千葉北総病院歯科].....	440
	[千葉北総病院看護部].....	441
[4]	付置研究施設	
1.	先端医学研究所.....	443
	[分子細胞構造学分野].....	443
	[細胞生物学分野].....	444
	[遺伝子制御学分野].....	445
	[生体機能制御学分野].....	446
2.	健診医療センター.....	448
3.	成田国際空港クリニック.....	449
[5]	その他	
1.	研究部.....	451
	[共同研究施設形態解析研究室].....	451
2.	医学教育センター.....	453
3.	学生部学生相談室.....	454
付表：1.	各種研究費補助金・研究助成金交付状況.....	455
1)	平成28年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金）交付決定一覧.....	455
2)	平成28年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金）研究分担の交付決定一覧.....	456
3)	平成28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）交付決定一覧.....	457
4)	平成28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究分担の交付決定一覧.....	464
5)	平成28年度補助・委託一覧.....	466
6)	平成28年度学術賞受賞一覧.....	482
7)	平成28年度知的財産一覧（特許権）.....	484
2.	動物実験実施状況.....	485
1)	平成28年度教室別動物実験実施予定者数、実験計画書（課題）数および 使用動物数（平成28年4月～平成29年3月）.....	485
2)	平成28年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率（ケージ数を基に算出（%））.....	486
3)	平成28年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数.....	487
4)	平成28年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数.....	488
5)	平成28年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数.....	489

〔1〕 基 礎 科 学

1. 人文科学・社会科学

[医療心理学]

研究概要

高齢者、軽度認知障害、認知症患者などを対象とする非薬物療法やケアのあり方をテーマとして介入・調査研究を実施している。認知症ケアに関しては、武蔵小杉病院街ぐるみ認知症相談センターの活動に参加し、早期発見・早期対応に取り組み、介護者への支援や認知症を発症した患者へのケアのあり方を検討している。またこうした対象者に医療機関や地域をフィールドとして認知行動療法を適応する試みを進めている。

高齢者の犯罪増加という新しい問題に対して刑事施設（刑務所）の高齢受刑者の認知機能と個人プロフィールを追跡調査を行い、地域においては犯罪行為の前兆としての迷惑行為を取り上げ、主に地域包括支援センターや保健所を対象にインタビュー調査を行い、実態の把握に努めている。高齢受刑者の増加は大きな社会問題になりつつあり、今後も重要性が増すことが予想される研究課題である。

法と精神医学、医療心理学にまたがる領域が研究の対象であり、上記矯正施設での調査研究や医療機関や地域における介入研究、医療観察法の審判への参加、労務災害・公務災害の判定への参加などを行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 矢野健次¹⁾、野村俊明²⁾、鷺野明美³⁾、新妻宏文⁴⁾、松本 勲⁵⁾、津村省吾⁶⁾、加藤昌義⁷⁾ (1) 広島刑務所、2) 日本医科大学、3) 健康科学大学、4) 宮城刑務所、5) 大阪医療刑務所、6) 広島刑務所尾道刑務支所、7) 法務省矯正局)：刑事施設における高齢者の動向と健康管理。矯正医学 2016；65：21-36.
- 2) Fukumori T¹⁾、Kuroda H²⁾、Ito M³⁾、Kashimura M⁴⁾ (1) Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Tokushima University、2) Hiratani Child Developmental Clinic、3) National Center for Cognitive Behavior Therapy and Research, National Center of Neurology and Psychiatry、4) Department of Medical Psychology, Nippon Medical School)：Effect of guided, structured, writing program on self-harm ideations and emotion regulation. The Journal of Medical Investigation 2017；64 (1, 2)：74-78.
- 3) 鋤柄のぞみ¹⁾、加藤優子¹⁾、櫻村正美^{1,2)}、野村俊明^{1,2)} (1) 日本医科大学学生相談室、2) 日本医科大学医療心理学教室)：UPI (University Personality Inventory) からみる本学新入生の特徴。日本医科大学基礎科学紀要 2016；45：1-18.

(2) 総説：

- 1) 櫻村正美¹⁾、野村俊明¹⁾ (1) 日本医科大学医療心理学教室)：認知行動療法の紹介。日本医科大学医学会雑誌 2016；12：57-60.
- 2) 櫻村正美：認知症におけるうつ・不安に対する認知行動療法の可能性。精神科 2016；28：406-410.

著書

- 1) 野村俊明¹⁾ (1) 日本医科大学医療心理学教室)：[分担] 予診・初診の進め方。精神医療・臨床心理の知識と技法 (下山晴彦・中嶋義文 (編))、2016；pp113-115、医学書院。
- 2) 野村俊明¹⁾ (1) 日本医科大学医療心理学教室)：[分担] 拘禁反応。今日の精神疾患治療指針第2版 (樋口輝彦他 (編))、2016；pp281-282、医学書院。
- 3) 林 直樹¹⁾、松本俊彦²⁾、野村俊明³⁾ (1) 帝京大学医学部精神神経科学講座、2) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部、3) 日本医科大学医療心理学教室)：[監修] 暮らしの中の心理臨床第2巻パーソナリティ障害。(林直樹・松本俊彦・野村俊明 (編著))、2016；福村出版。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 櫻村正美：認知症患者を対象とした認知行動療法の取り組みから見えてくること。日本認知療法学会 (第16回) (大阪)、2016. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 並木香奈子¹⁾、根本留美¹⁾、稲垣千草¹⁾、川西智也¹⁾、三品雅洋²⁾、野村俊明³⁾、北村 伸⁴⁾ (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター、2) 日本医科大学脳病態画像解析学講座、3) 日本医科大学医療心理学教室、4) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター)：認知症予防と街づくり。認知症予防学会 (第6回)、2016.
- 2) 川西智也¹⁾、櫻村正美²⁾、原 祐子³⁾、根本留美¹⁾、稲垣千草¹⁾、並木香奈子¹⁾、三品雅洋⁴⁾、野村俊明²⁾、北村 伸⁵⁾、深津 亮³⁾ (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター、2) 日本医科大学医療心理学教室、3) 公益財団法人西熊谷病院、4) 日本医科大学脳病態画

- 像解析学講座, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 地域包括支援センターが関与した地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (1): 迷惑行為の実態. 認知症予防学会 (第6回), 2016.
- 3) 櫻村正美, 川西智也, 原 祐子, 根本留美, 稲垣千草, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸, 深津 亮: 地域包括支援センターが関与した地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (2): 迷惑行為が関連する要因について. 認知症予防学会 (第6回), 2016.
 - 4) 原 祐子, 櫻村正美, 根本留美, 稲垣千草, 川西智也, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸, 深津 亮: 地域包括支援センターが関与した地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (3): 当該高齢者への対応と支援上の課題. 認知症予防学会 (第6回), 2016.
 - 5) 稲垣千草, 根本留美, 川西智也, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸: 地域の認知症相談における MCI への対応. 認知症予防学会 (第6回), 2016.
 - 6) 根本留美, 稲垣千草, 川西智也, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸: 若年層におけるもの忘れ相談の現状. 認知症予防学会 (第6回), 2016.
 - 7) 櫻村正美, 野村俊明: 軽度認知障害の高齢者を対象とした認知行動療法の試み. 心理臨床学会 (第35回), 2016.
 - 8) 太田雪子, 野村俊明: 重症心身障害児施設における行事食についてのアンケートと咀嚼嚥下障害児にもやさしい行事食の一形態. 小児保健学会 (第63回), 2016.
 - 9) 根本留美, 稲垣千草, 川西智也, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸: 若年層における認知症早期発見に関する一考察. 老年精神医学会 (第31回), 2016.
 - 10) 川西智也, 櫻村正美, 原 祐子, 稲垣千草, 根本留美, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸: 地域包括支援センターが関与した高齢者の迷惑行為とその特徴. 老年精神医学会 (第31回), 2016.
 - 11) 稲垣千草, 根本留美, 川西智也, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸: 地域における継続的相談が認知症早期受診に果たす意義. 老年精神医学会 (第31回), 2016.
 - 12) 川西智也, 稲垣千草, 根本留美, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸: 認知症発症への不安を抱える高齢者に対するもの忘れ相談についての一考察: 認知機能低下が軽微な事例から. 日本認知症ケア学会 (第17回), 2016.
 - 13) 櫻村正美: 介護家族と介護準備家族を対象とした集団版認知行動療法プログラムの試み: 日本語版 START 短縮版プログラム報告. 日本家族研究・家族療法学会 (第33回) (長崎), 2016. 9.
 - 14) 櫻村正美: 介護ストレスの軽減を目的とした家族への心理的介入: 日本語版 START (STrAtegies for RelaTives) を実施した一事例報告. 日本家族心理学会 (第33回)・日本交流分析学会 (第41回) 合同大会 (千葉), 2016. 10.

2. 自然科学

[数学]

研究概要

波動方程式やシュレーディンガー方程式の定常問題の解の評価の導出に当たり、従来、係数の小ささの仮定が必要となっていたが、これを外す試みを考察中である。特に摩擦項を伴う波動方程式に定常問題に関し、摩擦項の係数関数の小ささを外すために必要な不等式を開発したが、現状では適用可能な問題が外部問題に限られており、全空間での問題への適用可能性が今後の課題である(中澤)。Holder-McCarthy 不等式の逆不等式である Kantorovich 不等式について、以前私が作ったものとは異なる条件のもとで構成することを目指した。順序の異なる積についての Numerical range について調べた。また Mathematics and the Real World の翻訳(分担)「数学がいまの数学になるまで」の第4章「数学と近代の世界観」をまとめた。これは今年4月に丸善出版から発行される予定である(儀我)。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 儀我真理子⁽¹⁾ 日本医科大学医学部基礎科学数学教室: 対数関数. 日本医科大学基礎科学紀要 2016; (45): 19-28.

学会発表

(1) 招待講演:

- 1) 中澤秀夫⁽¹⁾ 日本医科大学 医学部 基礎科学 数学教室: 磁場中のシュレーディンガー方程式に対する一様リゾルベント評価とその応用 I & II. RIMS 共同研究(京都大学数理解析研究所), 2016. 9.

(2) 一般講演:

- 1) 儀我真理子⁽¹⁾ 日本医科大学医学部 基礎科学数学教室: $1/x$ と $\log x$. 数学教育学会(2016年度秋季例会)(大阪), 2016. 9.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Mariko G⁽¹⁾ Nippon Medical School Department of Mathematics: Reverse inequality of triangle inequality and a generalization. Natural Science Report of the Ochanomizu University 2015; 66 (1): 19-23.
- 2) Giga M⁽¹⁾ Nippon Medical School Department of Mathematics: Reverse inequality of triangle inequality and a generalization. Natural Science Report of the Ochanomizu University 2015; 66 (1): 19-23.

[物理学]

研究概要

今年度の研究概要は以下の通りである。1. キサンチン酸化還元酵素(XOR)とその阻害剤BOFとの相互作用に関して、動力学的な視点で研究を継続している。XORのポケットに阻害剤が結合した状態から $1\mu\text{s}$ 間の分子動力学計算を行い、XORのポケット入り口付近のペプチドターンに関する興味深い結果を得たので、その計算の信頼性の確認とペプチドターン以外の箇所動きに関する解析を行っている。(菊地・藤崎) 2. 溶媒を熱浴として近似した場合について、励起分子のスペクトル形状関数を具体的に計算するためのプログラムを作成している。同時に、励起分子のスペクトル形状関数に、溶媒による熱浴以外の効果を含めるための定式化も試みている。(菊地) 3. 楯真一氏(広島大)、米澤康滋(近畿大)との共同研究で、プロリン異性化酵素の1つであるPIN1の分子動力学計算を行い、いくつかの国内外の研究会で発表した。(藤崎) 4. 去年に引き続き、伊庭幸人氏(統計数理研究所)、末谷大道氏(大分大)とともに、レアイベントやデータサイエンスに関するシンポジウムを共同企画した。また、複雑な反応から反応座標を抜き出すための手法についても共同で開発を行っている。(藤崎) 5. 本学の形成外科で研究が進められているメカノセラピーに関連して、Cellular Potts modelを用いた細胞ダイナミクスの研究に着手した。(藤崎) なお、1, 4に関しては科研費基盤Cの助成を受けている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Fujisaki H, Yagi K¹, Kikuchi H, Takami T², Stock G³ (1) Theoretical Molecular Science Laboratory, Advanced Science Institute, RIKEN, (2) Department of Computer Science and Intelligent Systems, Oita University, (3) Biomolecular Dynamics, Institute of Physics, Albert Ludwigs University) : Vibrational energy transport in acetylbenzotrile described by an ab initio-based quantum tier model. Chem. Phys. 2016 ; 482 : 86-92.
- 2) 藤崎弘士：生体分子におけるレアイベントの探求. 生物物理 2017 ; 57 : 40-41.

(2) 研究報告書：

- 1) 藤崎弘士：統計力学に基づく細胞ダイナミクスの計算手法について. 日本医科大学基礎科学紀要 2016 ; 45 : 29-50.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 藤崎弘士：生体分子のパスサーチと反応のキネティクス：複雑な道筋の生体ダイナミクスをどのように計算するか. 大つくば物理化学セミナー（第17回）（城西大学 鋸南セミナーハウス），2016. 11.
- 2) 藤崎弘士：複雑な分子はどんな道筋でどれくらい速く反応するのか？：生体分子の構造変化とレアイベント. 高知工科大学「理工学のフロンティア」（高知工科大学（高知県香美市）），2016. 12.
- 3) Fujisaki H : Ab initio molecular tier model for quantum vibrational dynamics. International workshop on numerical methods and simulations for materials design and strongly correlated quantum matters (RIKEN AICS Kobe, Japan), 2017. 3.

(2) 一般講演：

- 1) 藤崎弘士, 米澤康滋¹, 志賀基之², 楯 真一³ (1) 近畿大学, (2) 原子力研究開発機構, (3) 広島大学) : プロリン異性化酵素の反応経路シミュレーション. 日本物理学会秋季大会（金沢大学角間キャンパス），2016. 9.
- 2) 菊地浩人, 藤崎弘士, 古田忠臣¹, 岡本 研, 西野武士² (1) 東京工業大学, (2) 東京大学) : ヒトには効くがバクテリアには効かない痛風薬 酵素と阻害剤 BOF との相互作用ダイナミクス. 日本物理学会秋季大会（金沢大学角間キャンパス），2016. 9.
- 3) Fujisaki H, Yonezawa Y¹, Shiga M², Maragliano L³, Tate S⁴ (1) Kindai Univ., (2) JAEA, (3) Italian Inst. Tech., (4) Hiroshima Univ.) : Exploring reaction pathways for peptidylprolyl-isomerase. Biophysical Society Meeting 61st Annual Meeting (New Orleans, USA), 2017. 2.
- 4) Fujisaki H : Molecular dynamics simulations and dimensional reduction techniques. Simulations Encounter with Data Science : Data Assimilation, Emulators, Rare Events and Design (Tachikawa, Tokyo), 2017. 3.
- 5) 藤崎弘士, 末谷大道¹, 光武重代理² (1) 近畿大学, (2) 慶応大学) : 生体分子の分子シミュレーションから反応座標をどう抜き出すか？. 日本物理学会年次大会（第72回）（大阪大学豊中キャンパス），2017. 3.

[化学]

研究概要

中村：(1) フラーレン誘導体の合成及び、その HIV 逆転写酵素阻害、アポトーシス誘導などの生物活性に関する研究。(2) 薬物代謝酵素シトクロム P450 によるフェノール類の代謝反応機構の解明及び、新規代謝物の探索。(3) 天然物を規範とした抗酸化物質のデザイン・合成及び、抗酸化作用との構造活性相関。菅原：アルカリ金属-ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び、不飽和酸とジクロロカルベンの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成。(1) 生理活性を有するラクトン類の合成。(2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成。永井：2, 2'-ビビリジンまたは 1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学。(1) 錯体の合成。(2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構。(3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究。(4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究。武田：イオン交換体を用いる無機イオンのクロマトグラフィーに関する研究。(1) 弱酸性陽イオン交換体に対するアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動。(2) 弱酸性陽イオン交換体を用いるジルコニウム (IV)、ハフニウム (IV)、および他の金属の三成分分離 (3) イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の回収と定量。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kataoka H¹, Ohe T¹, Takahashi K¹, Nakamura S, Mashino T¹ (1) Dept Pharm Sci, Keio Univ) : Novel fullerene derivatives as dual inhibitors of Hepatitis C virus NS5B polymerase and NS3/4A protease. Bioorg Med Chem Lett 2016 ; 26 (19) : 4565-4567.

2) Yasuda D¹⁾, Takahashi K¹⁾, Ohe T¹⁾, Nakamura S, Mashino T¹⁾ (1) Dept Pharm Sci, Keio Univ) : Preparation and antioxidant/pro-oxidant activities of 3-monosubstituted 5-hydroxyoxindole derivatives. J Clin Biochem Nutr 2016 ; 59 (3) : 165-173.

(2) 総説 :

1) 大江知之¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : 肝毒性を示す医薬品の代謝活性化機構の解析とそれに基づいた創薬戦略. YAKUGAKU ZASSHI 2017 ; 137 (3) : 249-255.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 片岡裕樹¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 中村成夫, 大江知之¹⁾, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : HCV ポリメラーゼ/プロテアーゼを阻害する2重標的型フラレン誘導体の創製. 日本薬学会関東支部大会 (第60回) (東京), 2016. 9.
- 2) 岡崎希望¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : ヒダントイン型抗酸化剤のラジカル消去活性と消去機構. 日本薬学会関東支部大会 (第60回) (東京), 2016. 9.
- 3) 安野拓実¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : 薬剤耐性がん治療薬を目指した新規ジカチオン型 C60 誘導体の創製. 日本薬学会 (第137年会) (仙台), 2017. 3.
- 4) 轟 龍馬¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : ラジカル消去活性を有するインドール型環状ジペプチドの構造展開. 日本薬学会 (第137年会) (仙台), 2017. 3.
- 5) 立石泰寛¹⁾, 藤澤眞太郎¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 中村成夫, 大江知之¹⁾, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : ネビラピン A 環及び B 環の変換により代謝活性化を回避した新規誘導体の合成. 日本薬学会 (第137年会) (仙台), 2017. 3.
- 6) 片岡裕樹¹⁾, 上田優輝²⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 加藤宣之²⁾, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬, 2) 岡山大院・医歯薬) : HCV ポリメラーゼ/プロテアーゼ2重阻害活性を有するフラレン誘導体の細胞内 HCV 複製阻害及び酸化ストレス抑制効果. 日本薬学会 (第137年会) (仙台), 2017. 3.
- 7) 橋本航匠¹⁾, 片岡裕樹¹⁾, 加藤 舞¹⁾, 秋葉智紘¹⁾, 安野拓実¹⁾, 高橋恭子¹⁾, 大江知之¹⁾, 中村成夫, 増野匡彦¹⁾ (1) 慶應大・薬) : HIV 逆転写酵素及びプロテアーゼを阻害する多標的型新規フラレン誘導体の創製. 日本薬学会 (第137年会) (仙台), 2017. 3.

[生物学]

研究概要

本教室では、遺伝子操作が容易なアフリカツメガエルの消化管を実験モデルとして用い、幹細胞制御の研究を行っている。この実験モデルでは、甲状腺ホルモン (TH) を引き金として幹細胞ニッチが形成され、吸収上皮細胞の一部が LGR5 を発現する小腸上皮幹細胞へと脱分化する。そこで現在、幹細胞の発生とニッチ形成の機構解明を目指して、TH 応答遺伝子の解析を進めている。この他、カロテノイドの研究も継続して行っている。今年度の研究内容は以下の通りである。1) ヒトの小腸上皮では、陰窩で Wnt 標準経路が活性化され、幹細胞の増殖を促進していることが知られている。そこで Wnt 経路に関わる TH 応答遺伝子の発現解析を行い、Wnt リガンドに結合する SFRP2 や Wnt 標的遺伝子 CD44 の発現が、幹細胞出現と同時に TH により一過性に上昇することを見出した。さらに、培養実験により、SFRP2 が Wnt 経路を促進して幹細胞の増殖を高めることを明らかにした (Cell Tissue Res)。また、CD44 の機能を明らかにするため、CD44 のリガンドであるヒアルロン酸 (HA) に注目して解析を進め、ヒアルロン酸合成酵素 Has2 および Has3 遺伝子の発現が、幹細胞の活発な増殖時期に上昇する等の結果を得た。2) ヒトの小腸上皮では、Notch 経路も幹細胞で活性化している。この経路に関わる TH 応答遺伝子の発現解析を行い、Notch 経路も幹細胞でその出現と同時に活性化されることを見出した。さらに、阻害実験により、Notch 経路が吸収上皮細胞と分泌細胞の運命決定だけでなく、幹細胞の発生にも必須であることを明らかにした。3) 昨年度に引き続き、幹細胞の起源を探るため、Ror2 などの予定幹細胞特異的に発現する遺伝子のエンハンサー/プロモーター領域を使ってトランスジェニックカエルを複製し、その解析を進めた。また、予定幹細胞の脱分化機構を追究していくために、変態前の小腸上皮から予定幹細胞のみを分離する方法の確立に着手した。Ror2 の細胞外領域を特異的に認識する抗体を作製し、この抗体を用いた予定幹細胞の分離を現在試みている。4) TH の作用機構を明らかにするため、TH 受容体 α (TR α) ノックアウトカエルを解析し、TR α が小腸幹細胞の発生に関与することを示す知見を得た。(Cincinnati 大学 Buchholz 博士らとの共同研究) (以上、藤本、長谷部、岡) 5) 関節リウマチ患者由来の滑膜線維芽細胞において、interleukin-6 刺激による MMP 遺伝子の活性化が、ヒストンのメチル化とシグナル伝達性転写因子 STAT3 により制御されていることを明らかにした (Arthritis Rheumatol) (埼玉医科大学荒木講師らとの共同研究、藤本) 6) カロテノイドの同定、物理化学的な機能や性質、生理学的な機能などの研究や、生合成遺伝子・酵素や生合成経路の研究を国内外の多数の研究室と進めている。さらに大学院生や若い研究者の相談を受けアドバイスをしている。紅藻のカロテノイド組成は3種類のタイプに分けられ、各タイプの分布は紅藻の系統分類と一致することを見出した (J Phycol)。多数の光合成生物におけるカロテノイドを分析してきたので、その合成経路の多様性を統一化する見地を検討している。(高市)

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tanaka K¹, Iida S¹, Takaichi S, Mimuro M², Murakami A¹, Akimoto S¹ (1) Kobe Univ, (2) Kyoto Univ) : Excitation relaxation dynamics and energy transfer in pigment-protein complexes of a dinoflagellate, revealed by ultrafast fluorescence spectroscopy. *Photosynth Res* 2016 ; 130 (1) : 183-191.
- 2) Takaichi S, Yokoyama A¹, Mochimau M², Uchida H³, Murakami A³ (1) Univ Tsukuba, (2) Komazawa Univ, (3) Kobe Univ) : Carotenogenesis diversification in phylogenetic lines of Rhodophyta. *J Phycol* 2016 ; 52 (3) : 329-338.
- 3) Hasebe T, Fujimoto K, Kajita M¹, Ishizuya-Oka A (1) Dept Mol Biol, Inst Adv Med Sci, Nippon Med Sch) : Thyroid hormone activates Wnt/ β -catenin signaling involved in adult epithelial development during intestinal remodeling in *Xenopus laevis*. *Cell Tissue Res* 2016 ; 365 (2) : 309-318.
- 4) Araki Y¹, Tsuzuki-Wada T¹, Aizaki Y¹, Sato K¹, Yokota K¹, Fujimoto K, Kim Y¹, Oda H, Kurokawa R¹, Mimura T¹ (1) Saitama Med Univ) : Histone methylation and STAT-3 differentially regulate interleukin-6-induced matrix metalloproteinase gene activation in rheumatoid arthritis synovial fibroblasts. *Arthritis Rheumatol* 2016 ; 68 (5) : 1111-1123.

(2) 総説：

- 1) 高市真一：光合成生物におけるカロテノイド合成系の進化. *光合成研究* 2016 ; 26 (3) : 216-221.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 高市真一：光合成生物の進化とカロテノイド合成系の進化・変化. カロテノイド研究談話会（第30回）（沖縄），2016. 6.

(2) シンポジウム：

- 1) 高市真一：光合成生物におけるカロテノイド合成系の進化. 日本光合成学会年会（第7回）（葛飾），2016. 5.

(3) 一般講演：

- 1) 佐藤諒一¹, 河野 優², 太田啓之¹, 高市真一, 寺島一郎², 増田真二¹ (1) 東京工業大, (2) 東京大) : Light Acclimation Protein 1 の関与する強光順化メカニズムの解析. 日本光合成学会年会（第7回）（葛飾），2016. 5.
- 2) 高市真一, 海老澤雅¹, 山田昌治¹, 杉山健二郎¹ (1) 工学院大) : シアノバクテリアの機能を持つリコペンシクラーゼ. 光合成セミナー2016（第24回）（京都），2016. 7.
- 3) Takaichi S, Ebisawa M¹, Yamada M¹, Sugiyama K¹ (1) Kogakuin Univ) : Functional lycopene cyclases in cyanobacteria. International Congress on Photosynthesis Research (17th) (Maastricht, The Netherlands), 2016. 8.
- 4) Masuda S¹, Sato R¹, Kono M¹, Ohta H¹, Takaichi S (1) Tokyo Inst Technol) : A novel chloroplast membrane protein, conserved in oxygenic phototrophs, regulates ion homeostasis and non-photochemical quenching induction. International Congress on Photosynthesis Research (17th) (Maastricht, The Netherlands), 2016. 8.
- 5) Ikeuchi M¹, Kiyota H¹, Chin T¹, Matsumura M¹, Okuda Y¹, Takaichi S, Umeno D², Yokota-Hirai M³ (1) Univ Tokyo, (2) Chiba Univ, (3) RIKEN) : Improving the photosynthetic biomass production in cyanobacteria. International Congress on Photosynthesis Research (17th) (Maastricht, The Netherlands), 2016. 8.
- 6) 加藤翔太¹, 高市真一, 石川孝博², 永田典子³, 朝比奈雅志¹, 高橋宣治¹, 篠村知子¹ (1) 帝京大理工, (2) 島根大, (3) 日本女子大) : 光ストレス下における微細藻類 *Euglena gracilis* のカロテノイド組成と葉緑体構造の解析. 日本植物学会大会（第80回）（沖縄），2016. 9.
- 7) 池内昌彦¹, 清田浩史¹, 松村雅子¹, 裕紀子裕紀子¹, 高市真一 (1) 東京大) : 代謝経路改変によるカロテノイド含有量の操作. 日本植物学会大会（第80回）（沖縄），2016. 9.
- 8) 加藤翔太¹, 高市真一, 石川孝博², 永田典子³, 朝比奈雅志¹, 篠村知子¹ (1) 帝京大, (2) 島根大, (3) 日本女子大) : 強光が微細藻類ユーグレナの光合成色素含量に及ぼす影響. 宇都宮大学オプトバイオシンポジウム（第6回）（宇都宮），2016. 12.
- 9) 曾篠美花¹, 加藤翔太¹, 高市真一, 石川孝博², 朝比奈雅志¹, 篠村知子¹ (1) 帝京大, (2) 島根大) : 微細藻類ユーグレナのフィトエン合成酵素遺伝子の発現抑制がカロテノイド組成に及ぼす影響. 宇都宮大学オプトバイオシンポジウム（第6回）（宇都宮），2016. 12.
- 10) 高市真一, 原田二郎¹ (1) 久留米大) : 緑色糸状性細菌 *Chloroflexus aurantiacus* のフィトエン不飽和化酵素は CrI 型である. 日本植物生理学会（第58回）（鹿児島），2017. 3.
- 11) 高橋拓子¹, 草間友里¹, 李 新祥¹, 高市真一, 伊藤 繁², 山川伯壽², 西山佳孝¹ (1) 埼玉大, (2) 名古屋大) : シアノバクテリア光化学系 II の光防御機構におけるオレンジカロテノイドプロテインの役割. 日本植物生理学会（第58回）（鹿児島），2017. 3.
- 12) 松村雅子¹, 清田浩史¹, 奥田裕紀子¹, 高市真一, 池内昌彦¹ (1) 東京大) : イソプレノイド及びカロテノイド生合成経路の改変. 日

本植物生理学会（第58回）（鹿児島），2017. 3.

- 13) 長谷部孝, 藤本健太, 岡 敦子: アフリカツメガエルの消化管再構築において Wnt シグナルは甲状腺ホルモンにより活性化され成体型上皮の発生に関与する. 日本組織細胞化学会総会・学術集会（第57回）（三鷹），2016. 9.
- 14) Hasebe T, Fujimoto K, Kajita IM, Fu L²⁾, Shi Y²⁾, Ishizuya-Oka A. A ⁽¹⁾ Dept Mol Biol, Inst Adv Med Sci, Nippon Med Sch, ²⁾ LGRD/NICHD/NIH): Thyroid hormone-induced activation of Notch signaling is required for intestinal remodeling during *Xenopus laevis* metamorphosis. Joint Meeting of The International Congress of Zoology (22nd) & The Meeting of The Zoological Society of Japan (87th) (Okinawa), 2016. 11.
- 15) 藤本健太, 長谷部孝, 梶田満子¹⁾, 岡 敦子 ⁽¹⁾ 日医大・先端医学研・分子生物): アフリカツメガエルの消化管再構築におけるヒアルロン酸合成酵素の遺伝子発現解析. 日本分子生物学会年会（第39回）（横浜），2016. 12.

著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) Kosumi D¹⁾, Maruta S¹⁾, Fujii R¹⁾, Sugisaki M¹⁾, Takaichi S, Cogdell R²⁾, Hashimoto H¹⁾ ⁽¹⁾ Osaka City Univ, ²⁾ Univ Glasgow):
〔分担〕 A regulation of energy flow in purple bacterial photosynthetic antennas. *Ultrafast Phenomena* (K. Yamanouchi, S. Cundiff, R. de Vivie-Riedle, M. Kuwata-Gonokami, L. DiMauro), 2015; pp572-575, Springer.

3. 外国語

[英語]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Stone P, Nishikawa S: Implementing an Extensive Reading Project at a Medical School. The Bulletin of Liberal Arts & Sciences, Nippon Medical School 2016 ; (45) : 51-67.

著書

- 1) Minton T¹⁾, 鈴木利彦²⁾, 芦田ルリ³⁾, 西川純恵, 岡野一也⁴⁾, 堀口寛治⁵⁾ (1) 慶應義塾大学, 2) 早稲田大学, 3) 慈恵会医科大学, 4) 開智中学・高等学校, 5) 芝中学・高等学校) : [共著] Revised Polestar English Expression I (数研出版株式会社 編集部), 2017 ; pp1-151, 数研出版.
- 2) Minton T¹⁾, 鈴木利彦²⁾, 芦田ルリ³⁾, 西川純恵, 堀口寛治⁴⁾ (1) 慶應義塾大学, 2) 早稲田大学, 3) 慈恵会医科大学, 4) 芝中学・高等学校) : [共著] Revised Polestar English Expression I, Teacher's Manual (数研出版株式会社 編集部), 2017 ; pp1-261, 数研出版.

4. スポーツ科学

研究概要

武藤：1) 日本における健康づくりに貢献しているラジオ体操を継続的に実施している高齢者の形態，生活活動力，生理機能等の測定結果，およびアンケート結果を継続的に分析した．体内年齢や体力年齢が実年齢より低く，健康関連 QOL が高く，健康に好影響を及ぼすことが示唆された．さらにラジオ体操がきっかけとなり他の運動も実施し，身体活動量が増加することが明らかになった．2) 都心近郊の有料老人ホームにおいて生活活動力測定を実施し，その評価方法およびフィードバック方法の実際を報告した．3) 「健康運動教室」に参加する中高年者を対象に，体格・生活活動力等を縦断的に調査している．継続して運動を実施し積極的に健康調査に参加する中高年者は生活活動力では有意に低下する項目は少なく増加がみられた項目もあるなど，長年の運動習慣がもたらす効果が示唆された．4) カンボア・シムリアップにおいて青少年の体格・体力，生活習慣，生活環境等の調査研究を継続的にやっている．

研究業績

論文

(1) 研究報告書：

- 1) 若山葉子¹⁾，武藤三千代，川田智之¹⁾ (1) 日本医科大学衛生学公衆衛生学)：高齢者の血圧・血液生化学値の検討：年齢別・肥満の有無別による検討．平成 28 年度高齢者における健康維持増進のための総合的追及研究報告書 2017；3-6.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 武藤三千代，桜田敬子¹⁾，渡部隼二²⁾ (1) NPO 法人全国ラジオ体操連盟，²⁾ 神奈川県立保健福祉大学)：有料老人ホームにおける生活活動力測定の実際．日本運動・スポーツ科学学会 (第 23 回大会) (札幌)，2016. 7.
- 2) 武藤三千代，渡部隼二¹⁾，白石まりも²⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学，²⁾ 二松学舎大学)：ラジオ体操を励行している高齢者の生活習慣と生活活動力について．日本体育学会 (第 67 回大会) (大阪)，2016. 8.
- 3) 武藤三千代，渡部隼二¹⁾，若山葉子²⁾，渡部月子¹⁾ (1) 神奈川県立保健福祉大学，²⁾ 日本医科大学衛生学公衆衛生学)：ラジオ体操を継続実施している高齢者の生活習慣と効果について．日本公衆衛生学会 (第 75 回総会) (大阪)，2016. 10.
- 4) 若山葉子¹⁾，武藤三千代，渡部隼二²⁾，渡部月子²⁾，川田智之¹⁾ (1) 日本医科大学衛生学公衆衛生学，²⁾ 神奈川県立保健福祉大学)：ラジオ体操実施効果に関する調査研究．日本公衆衛生学会 (第 75 回総会) (大阪)，2016. 10.
- 5) 勝又聖夫¹⁾，平田紀美子¹⁾，稲垣弘文¹⁾，武藤三千代，川田智之¹⁾ (1) 日本医科大学衛生学公衆衛生学)：日本体育協会加盟団体等へのタバコ対策を中心としたアンケート調査．日本衛生学会 (第 87 回学術総会) (宮崎)，2017. 3.

論文

[追加分]

追加分研究報告書：

- 1) 若山葉子¹⁾，武藤三千代，川田智之¹⁾ (1) 日本医科大学衛生学公衆衛生学)：高齢者の血圧・血液生化学値の検討．平成 27 年度高齢者における健康維持増進のための総合的追及研究報告書 2016；3-6.

〔2〕 基 礎 医 学

1. 分子解剖学分野

研究概要

(1) ノンコーディング RNA (ncRNA) の分子解剖学的研究：a) 臓器・疾患における ncRNA プロファイリングと機能解析 (Banyar 助教, 瀧澤敬講師, 大学院生・宋, ホスドク・Kyi-Tha-Thu, 技術員・小管), b) エクソソームについての分子解剖学的解析 (院生・坂本, 小管) を行った。(当大学院 消化器外科学, 女性生殖発達病態学, 侵襲生体管理学分野, 自治医科大学・大口昭英教授, 松原茂樹教授, 富山大学・齋藤滋教授, および東京大学・程久美子准教授との共同研究) (2) 胎盤の分子解剖学的研究：栄養膜細胞の解析を進めた (Kyi-Tha-Thu, Banyar, 小管)。(当大学院女性生殖発達病態学, 米国オハイオ州立大学・John M Robinson 教授, 自治医科大学・大口昭英教授, 松原茂樹教授, 屋代隆教授との共同研究) (3) バイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：ncRNA 発現解析のための in situ hybridization 解析の開発とその応用を行った (Kyi-Tha-Thu, Banyar, 宋, 小管)。(4) 神経解剖学：視床下部におけるキスペプチン親和性受容体の検索を行った (澤井講師, 趙助教)。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takahashi H^{1, 2)}, Ohkuchi A²⁾, Kuwata T²⁾, Usui R²⁾, Baba Y²⁾, Suzuki H²⁾, Kyi-Tha-Thu C¹⁾, Matsubara S²⁾, Saito S³⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi 329-0498, Japan, (3) Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, University of Toyama, Toyama 930-0194, Japan) : Endogenous and exogenous miR-520c-3p modulates CD44-mediated extravillous trophoblast invasion. *Placenta* 2017 ; 50 : 25-31.

著書

- 1) 瀧澤俊広¹⁾, 大口昭英²⁾, 竹下俊行³⁾, 齋藤 滋⁴⁾ (1) 日本医科大学大学院分子解剖学分野, (2) 自治医科大学産科婦人科学講座, (3) 日本医科大学大学院女性生殖発達病態学分野, (4) 富山大学医学薬学研究部) : [分担] (第2編 機能研究 第1章 情報伝達における機能) 第2節 周産期における胎盤由来エクソソーム機能. *パラダイムシフトをもたらしエクソソーム機能研究最前線：シグナル伝達からがん, 免疫, 神経疾患との関わり, 創薬利用まで* (監修 落谷 孝広), 2017 ; pp61-67, (株) エヌ・ティー・エス.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 瀧澤俊広¹⁾, Naing BT¹⁾, 高橋宏典²⁾, 大口昭英²⁾, 竹下俊行³⁾, 齋藤 滋⁴⁾ (1) 日本医科大学 分子解剖, (2) 自治医科大学 産婦人科, (3) 日本医科大学 産婦人科, (4) 富山大学 産婦人科) : 妊娠高血圧症候群の病態における non-coding RNA の関与 .(SII-3). 第37回日本妊娠高血圧学会学術集会 (2016年10月8日(土), 大宮ソニックシティ (埼玉県産業文化センター) /埼玉), 2016. 10.
- 2) 高橋宏典¹⁾, 瀧澤俊広²⁾, 松原茂樹¹⁾ (1) 自治医科大学 産科婦人科, (2) 日本医科大学 分子解剖) : 絨毛外栄養膜細胞の浸潤制御機構：CD44と胎盤特異的 microRNA.(TSY1-3). 第24回日本胎盤学会学術集会 (2016年11月25日(金), ホテルアバローム紀の国/和歌山), 2016. 11.
- 3) 高橋宏典¹⁾, 瀧澤俊広²⁾, 松原茂樹¹⁾ (1) 自治医大 産科婦人科, (2) 日本医大 分子解剖) : 絨毛外栄養膜の新たな浸潤制御機構：CD44と胎盤特異的 microRNA.(2S14-5). 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会 (2017年3月29日(水), 長崎大学坂本キャンパス/長崎), 2017. 3.

(2) 一般講演：

- 1) 瀧澤俊広¹⁾, 高橋宏典²⁾, 桑田知之²⁾, 大口昭英²⁾, 松原茂樹²⁾ (1) 日本医大 分子解剖, (2) 自治医大 産婦人科) : 絨毛外栄養膜細胞に発現している長鎖 non-coding RNA の次世代シーケンス解析 .(P2-35-2). 第68回日本産科婦人科学会学術講演会 (2016年4月23日(土), 東京国際フォーラム/東京), 2016. 4.
- 2) Naing BT¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医大 分子解剖) : マウス胎盤における H19 と miR-675 の発現解析 .(P2-35-3). 第68回日本産科婦人科学会学術講演会 (2016年4月23日(土), 東京国際フォーラム/東京), 2016. 4.
- 3) Naing BT¹⁾, Kyi-Tha-Thu C¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学 分子解剖) : マウス胎盤迷路層における H19 は単核栄養膜細胞と胎児血管内皮に特異的に発現する .(TO1-4). 第24回日本胎盤学会学術集会 (2016年11月25日(金), ホテルアバローム紀の国/和歌山), 2016. 11.
- 4) Kyi-Tha-Thu C¹⁾, Naing BT¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学 分子解剖) : マウス胎盤における I 型グルコース輸送体の組織化学的解

- 析.(TO3-4). 第24回日本胎盤学会学術集会(2016年11月25日(金), ホテルアバローム紀の国/和歌山), 2016. 11.
- 5) Kyi-Tha-Thu C¹, Naing BT¹, 瀧澤俊広¹ (1) 日本医科大学 分子解剖学: I型グルコース輸送体(Slc2a1)は子宮間膜側脱落膜リンパ系集合体に発現している.(68). 第31回日本生殖免疫学会総会・学術集会(2016年12月3日(土), 神戸国際会議場/兵庫), 2016. 12.
- 6) 宋 曉輝¹, Kyi-Tha-Thu C¹, Naing BT¹, 瀧澤敬美¹, 瀧澤俊広¹ (1) 日本医科大学 分子解剖学: マウス精巣特異的長鎖ノンコーディングRNAの発現解析.(76). 第31回日本生殖免疫学会総会・学術集会(2016年12月3日(土), 神戸国際会議場/兵庫), 2016. 12.
- 7) 宋 曉輝^{1,2)}, Kyi-Tha-Thu C¹, Naing BT¹, 瀧澤敬美¹, 瀧澤俊広¹ (1) 日本医科大学 分子解剖学, ²⁾ 哈尔滨医科大学基礎医学学院 薬理学・中国: マウス精巣に特異的に発現している長鎖 ノンコーディングRNAの同定. Identification of mouse testis-associated long noncoding RNAs. 第27回学校法人日本医科大学 外国人留学生研究会プログラム(2017年2月4日(土), 日本医科大学橋桜会館2階 橋桜ホール(千駄木校舎)), 2017. 2.
- 8) 澤井信彦¹, 趙 東威¹, 瀧澤俊広¹ (1) 日本医大 分子解剖学: 性ホルモンによる視床下部室傍核 TRH および生殖関連ペプチド受容体の亜核間 mRNA 発現量変化の比較解析.(2P-28). 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会(2017年3月29日(水), 長崎大学坂本キャンパス/長崎), 2017. 3.
- 9) 瀧澤敬美¹, 瀧澤俊広¹ (1) 日本医大 分子解剖学: 新しい学生中心型能動的グループ学習法 TEO (Teach Each Other) の開発(第2報): TEO履修後の学習や学生生活への影響.(2P-91). 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会(2017年3月29日(水), 長崎大学坂本キャンパス/長崎), 2017. 3.
- 10) 宋 曉輝¹, Kyi-Tha-Thu C¹, Naing BT¹, 瀧澤敬美¹, 瀧澤俊広¹ (1) 日本医大 分子解剖学: In situ hybridization analysis shows that long noncoding RNA 1700101O22Rikis expressed exclusively in mouse spermatids.(3OamE-3). 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会(2017年3月30日(木), 長崎大学坂本キャンパス/長崎), 2017. 3.
- 11) Naing BT¹, Kyi-Tha-Thu C¹, 瀧澤俊広¹ (1) 日本医大 分子解剖学: In situ hybridizationにより明らかにされたマウス満期胎盤における miR-675-3P の傍分泌.(3OamE-4). 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会(2017年3月30日(木), 長崎大学坂本キャンパス/長崎), 2017. 3.
- 12) Kyi-Tha-Thu C¹, Naing BT¹, 瀧澤俊広¹ (1) 日本医大 分子解剖学: Glucose transporter type1 (Slc2a1) is expressed in uterine natural killer cells of the mouse placenta.(3OamE-5). 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会(2017年3月30日(木), 長崎大学坂本キャンパス/長崎), 2017. 3.
- 13) 島田春貴^{1,2)}, 瀧澤敬美²⁾, Naing BT²⁾, 山口祐樹³⁾, 瀧澤俊広²⁾ (1) 日本医大 医学部3年, ²⁾ 日本医大 分子解剖, ³⁾ 日本電子: ヒト満期胎盤絨毛における栄養膜細胞層のシリアルブロックフェイス走査電子顕微鏡による3D微細構造解析.(1STpmC-5). 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会(2017年3月28日(火), 長崎大学坂本キャンパス/長崎), 2017. 3.

論文

{追加分}

追加分原著:

- 1) Sakamoto W¹, Masuno T², Yokota H², Takizawa T¹ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, ²⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan: Expression profiles and circulation dynamics of rat mesenteric lymph microRNAs. *Molecular Medicine Reports* 2017; 15 (4): 1989-1996.

2. 解剖学・神経生物学分野

研究概要

思春期は子供から大人へのゲートであり、これを通り抜けることによって、身体的、精神的に成熟し、大人としての社会活動、行動に適応する身体の仕組みが構築される。この思春期が誘発される詳細な神経機能メカニズムであるが、視床下部-下垂体-性腺系への強い抑制はネガティブフィードバック機構だけでは説明がつかず、中枢性の強い抑制性制御が関わっていると考えられていた。近年、オーファン受容体 GPR54 のリガンドとして、新規生理活性物質 kisspeptin が同定され、kisspeptin による GnRH ニューロンの活性誘導が明らかになってきた。「脳内の神経ネットワーク」による思春期発動機序の解明については、未だ多くの課題を残している。我々は「脳とホルモン」、「脳における神経回路形成とホルモン」を中心課題に、ステロイドホルモンとその受容体によって調節される神経細胞機能と形態の変動を多角的に調べてきた。特に性ステロイドホルモンは、脳における性機能調節系制御に深く関わっており、性機能発動の大きなターニングポイントである思春期が生じるメカニズムにはステロイドホルモンが大きく関わりを持つ。我々はこれまでの研究アプローチをより具体的な生理作用解明に適用させ、思春期発動と関連する「性」、「摂食」、「ストレス」といった神経制御機構の3次元神経ネットワークを明らかにし、ネットワークの相互作用、と思春期前後の精神的、身体的な不安定の発生の関連を探求することを目指す研究を行っている。また性ホルモン受容体の分子機構、特に変異受容体遺伝子の発現とその機能的意義に関する分子生物学的研究も活発に展開している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Higo S, Honda S, Iijima N, Ozawa H : Mapping of Kisspeptin Receptor mRNA in the Whole Rat Brain and its Co-Localisation with Oxytocin in the Paraventricular Nucleus. *Journal of Neuroendocrinology* 28 (2016) 2016 ; 28 (4).
- 2) Matsuo I, Iijima N, Takumi K, Higo S, Aikawa S, Anzai M, Ishii H, Sakamoto A, Ozawa H : Characterization of sevoflurane effects on Per2 expression using ex vivo bioluminescence imaging of the suprachiasmatic nucleus in transgenic rats. *Neuroscience Research* 2016 ; 620 : 163-168.
- 3) Hattori Y, Ishii H, Munetomo A, Watanabe H, Morita A, Sakuma Y, Ozawa H : Human C-terminally truncated ER α variants resulting from the use of alternative exons in the ligand-binding domain. *Molecular and Cellular Endocrinology* 2016 ; 425 : 111-122.
- 4) Higo S, Iijima N, Ozawa H : Characterisation of Kiss 1r (Gpr54) -Expressing Neurons in the Arcuate Nucleus of the Female Rat Hypothalamus. *Journal of Neuroendocrinology* 2017 ; 29 (2).
- 5) Kunimura Y, Iwata K, Ishigami A, Ozawa H : Age-related Alterations in hypothalamic kisspeptin, neurokinin B, and dynorphin neurons And in pulsatile LH release in female and male rats. *Neurobiology of Aging* 2017 ; 50 : 30-38.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 小澤一史：新しい生殖制御システムとそこから解明される生理的・医学的現象について。日本分子脳神経外科学会（第17回）（東京），2016. 8.
- 2) 小澤一史：医学者から見た生の尊厳，死の尊厳，医の倫理。女子栄養大学栄養科学研究所講演会（第26回）（東京），2016. 10.

(2) 招待講演：

- 1) 小澤一史：「木を見て森を見ない」から「木を見て森も見る」へ。日本神経内分泌学会学術集会（第43回）（浜松），2016. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) 小澤一史：Kisspeptin を上位中枢とした新しい概念に基づく生殖神経内分泌学：その医学的，生理的展開と展望。日本内分泌学会学術総会（第89回）（京都），2016. 4.
- 2) 小澤一史：新しい概念による生殖神経内分泌学研究の展開と臨床課題への応用。日本内分泌学会 第34回内分泌代謝学サマーセミナー（福岡），2016. 7.
- 3) 肥後心平，尾崎紗恵子，飯島典生，小澤一史：Kisspeptin ニューロンの作用と脳内 Kisspeptin 受容体マッピング。日本組織細胞化学会総会・学術集会（第57回）（東京），2016. 9.
- 4) 飯島典生，松本恵介，託見 健，小澤一史：無麻酔・非拘束動物の脳への光ファイバーを介したイメージング。日本医科大学・東京理科大学合同シンポジウム（第3回）（東京），2016. 12.

- 5) 小澤一史：生殖神経制御系を基盤とした生殖行動と辺縁系の連関。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- (4) ワークショップ：
- 1) 飯島典生，託見 健，石井寛高，岩田衣世，楊 春英，肥後心平，小澤一史：日本医科大学における実習手順：全体のデザイン，モチベーション，評価。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- (5) 一般講演：
- 1) 國村有弓，岩田衣世，石神昭人，小澤一史：雌雄ラットの加齢に伴う LH パルス分泌機構の変化。日本内分泌学会内分泌代謝学サマナーセミナー（第34回）（福岡），2016. 7.
- 2) 國村有弓，岩田衣世，石神昭人，小澤一史：雌雄ラットにおける LH パルス分泌機構の加齢変化。日本繁殖生物学会大会（第109回）（相模原），2016. 9.
- 3) 石井寛高，服部裕次郎，渡部 寛，小澤一史：C 末端欠損型エストロゲン受容体 α 変異体の恒常的活性化にはリガンド結合領域内のヘリックス5の欠損が必須である。日本神経内分泌学会学術集会（第43回）（浜松），2016. 10.
- 4) 國村有弓，岩田衣世，石神昭人，小澤一史：雌雄ラットにおける加齢による LH パルス分泌機構の変化。日本神経内分泌学会学術集会（第43回）（浜松），2016. 10.
- 5) 友利裕二，託見 健，飯島典生，高井信朗，小澤一史：甲状腺機能低下が視床下部におけるキスペプチン発現に及ぼす影響。日本神経内分泌学会学術集会（第43回）（浜松），2016. 10.
- 6) 金谷萌子，岩田衣世，小澤一史：雌ラット弓状核の dynorphin 発現に対するエストロゲンのネガティブフィードバック制御。日本神経内分泌学会学術集会（第43回）（浜松），2016. 10.
- 7) Ozawa H, Ozaki S: Whole brain mapping of kiss1r-expression and its region-specific regulation by estradiol in the rat. INTERNATIONAL MEETING STEROIDS AND NERVOUS SYSTEM (9th) (Torino), 2017. 2.
- 8) Higo S, Iijima N, Ozawa H: Neurochemical characterization of neurons expressing Kiss 1r (Gpr54) in the female rat hypothalamus using in situ hybridization and immunofluorescence. INTERNATIONAL MEETING STEROIDS AND NERVOUS SYSTEM (9th) (Torino), 2017. 2.
- 9) Iwata K, Kunimura Y: Expression of androgen receptor in kisspeptin neurons of female rats. INTERNATIONAL MEETING STEROIDS AND NERVOUS SYSTEM (9th) (Torino), 2017. 2.
- 10) 國村有弓，岩田衣世，石神昭人，小澤一史：雌雄ラットのパルス状 LH 分泌と弓状核キスペプチン，ニューロキニン B，ダイノルフィンニューロン発現の加齢変化に関する研究。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- 11) 金谷萌子，岩田衣世，小澤一史：エストロゲンの濃度変化における雌ラット弓状核 dynorphin の発現変動。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- 12) 肥後心平，飯島典生，小澤一史：ラット弓状核における Gpr54 発現ニューロンの神経化学的特性の同定。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- 13) 中尾仁彦，岩田衣世，竹下俊行，小澤一史：Zucker fatty ラットにおける視床下部 KNDy ニューロンの組織細胞化学的解析。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- 14) 友利裕二，託見 健，飯島典生，高井信朗，小澤一史：甲状腺機能低下が視床下部におけるキスペプチン発現に及ぼす影響。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- 15) 楊 春英，託見 健，小澤一史：性成熟に伴う正中隆起の星状グリア細胞の形態変化及び GnRH ニューロン軸索終末との連関。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- 16) 託見健健，金谷萌子，佐越祥子，永田知代，小川園子，小澤一史：エストロゲン受容体サブタイプ (α, β) のキスペプチン発現調節における役割の解明。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- 17) 石井寛高，服部裕次郎，渡部 寛，小澤一史：C 末端欠損型性ステロイド受容体変異体の恒常的転写活性化能獲得機構の解明。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- 18) 渡部 寛，石井寛高，高橋謙治，高井信朗，小澤一史：変形性膝関節症滑膜での最適参照遺伝子の選定に基づいたステロイド受容体の発現解析とその BMI, 性との相関について。日本解剖学会総会・全国学術集会（第122回）（長崎），2017. 3.
- 19) Iwata K: Aging and kisspeptin. World Conference on Kisspeptin 2017 (3rd) (Florida), 2017. 3.

3. 感覚情報科学分野

研究概要

網膜神経生理学研究プロジェクトでは、網膜神経回路における視覚情報処理機構の解析を目的として研究を進めている。現在は、電気生理学的手法、免疫組織化学的手法、分子生物学的手法といった多様な研究手法を組み合わせ、研究を進めている。研究対象は網膜アマクリン細胞や、網膜双極細胞といった網膜2次ニューロンであり、視細胞から送られた情報が、2次ニューロンでどのように処理されて高次視覚系に送られているのかに焦点を当て、研究を進めている。またこうした研究を通じて、神経系全般に共通するシナプス入力統合の原理の解明に取り組んでいる。再生医学研究プロジェクトは、視細胞と心筋の再生医学研究に取り組んでおり、ヒト心筋モデルを用いた薬理実験系の確立を目指している。共同研究を藤田保健衛生大学医学部生理学教室（宮地研究室）、国立障害者リハビリテーションセンター研究所感覚機能系研究障害部視覚機能障害研究室（世古室長）と実施している。藤田保健衛生大学とは、網膜神経回路の可視化に向けた新しい研究手法の開発に取り組んでいる。国立障害者リハビリテーションセンター研究所感覚機能系研究障害部視覚機能障害研究室とは、再生視細胞の機能評価に取り組んでおり、再生視細胞からの光応答の記録に成功している。学会活動としては、日本生理学会、日本神経科学学会などの全国規模の国内学会、海外では北米神経科学学会といった、生理機能に焦点を当てた神経科学関連の学会を中心として活動している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Oikawa S, Kai Y, Tsuda M¹⁾, Ohata H, Mano A, Mizogusho N²⁾, Sugama S, Nemoto T, Suzuki K, Kurabayashi A³⁾, Muramoto K²⁾, Kaneda M, Kakinuma Y (1) Institute for Laboratory Animal Reserch, Kochi Medical School, 2) Department of Physiology, School of Dentistry, Meikai University, 3) Department of Pathology, Kochi Medical School) : Non-neuronal cardiac cholinergic system influences CNS via the vagus nerve to acquire a stress-refractory propensity. *Clinical Science* 2016 ; 130 : 1913-1928.
- 2) Komuta Y¹⁾, Ishii T, Kaneda M, Ueda Y²⁾, Miyamoto K¹⁾, Toyoda M³⁾, Umezawa A⁴⁾, Seko Y¹⁾ (1) Visual Functions Section, Department of Rehabilitation for Sensory Functions, Research Institute, National Rehabilitation Center for Persons with Disabi, 2) ID Pharma Co.Ltd., 3) Department of Vascular Medicine, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 4) Department of Reproductive Biology, Center for Regenerative Medicine, National Institute for Child Health and Development) : In vitro trans-differentiation of human peripheral blood mononuclear cells to photoreceptor-like cells. *Biology Open* 2016 ; 5 (6) : 709-719.
- 3) Kaewkhaw R^{1, 2)}, Swaroop M³⁾, Homma K, Nakamura J¹⁾, Brooks M¹⁾, Dogan-Kaya K¹⁾, Chaitankar V¹⁾, Michael S³⁾, Tawa G³⁾, Zou J⁴⁾, Rao M⁵⁾, Zheng W³⁾, Cogliati T¹⁾, Swaroop A¹⁾ (1) Neurobiology-Neurodegeneration & Repair Laboratory, National Eye Institute, National Institutes of Health, 2) Research Center, Faculty of Medicine, Ramathibodi Hospital, Mahidol University, 3) National Therapeutics for Rare and Neglected Diseases, National Center for Advancing Translational Sciences, National Institutes of Health, 4) iPSC Core, Center for Molecular Medicine, National Heart, Lung, and Blood Institute, 5) The New York Stem Cell Foundation Research Institute) : Treatment Paradigms for Retinal and Macular Diseases Using 3-D Retina Cultures Derived From Human Reporter Pluripotent Stem Cell Lines. *Investigative Ophthalmology & Visual Science* 2016 ; 57 (5).
- 4) Yoshikawa F¹⁾, Sato Y¹⁾, Tohyama K²⁾, Akagi T, Furuse T⁴⁾, Sadakata T^{1, 5)}, Tanaka M⁶⁾, Shinoda Y^{1, 7)}, Hashikawa T³⁾, Itohara S⁶⁾, Sano Y⁸⁾, Ghandour M⁹⁾, Wakana S⁴⁾, Furuichi T^{1, 8)} (1) Laboratory for Molecular Neurogenesis, RIKEN Brain Science Institute, 2) The Center for Electron Microscopy and Bio-Imaging Research and Department of Physiology, Iwate Medical University, 3) Support Unit for Neuromorphological Analysis, RIKEN Brain Science Institute, 4) Technology and Development Team for Mouse Phenotype Analysis, RIKEN BioResource Center, 5) Advanced Scientific Research Leaders Development Unit, Gunma University, 6) Laboratory for Behavioral Genetics, RIKEN Brain Science Institute, 7) School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, 8) Department of Applied Biological Science, Faculty of Science and Technology, Tokyo University of Science, 9) Department of Anatomy and Neurobiology, Virginia Commonwealth University) : Mammalian-Specific Central Myelin Protein Opalin Is Redundant for Normal Myelination : Structural and Behavioral Assessments. *PLoS One* 2016 ; 11 (11).
- 5) Ichinohe S¹⁾, Ishii T, Takahashi H¹⁾, Kaneda M (1) Department of Ophthalmology, Nippon Medical School) : Physiological contribution of P2X receptors in postreceptoral signal processing in the mouse retina. *Neuroscience Research* 2017 ; 115 : 5-12.
- 6) Homma K, Usui S, Kaneda M : Knock-in strategy at 3' -end of Crx gene by CRISPR/Cas9 system shows the gene expression

profiles during human photoreceptor differentiation. *Genes to Cells* 2017 ; 22 (3) : 250-264.

(2) 研究報告書 :

- 1) Ogiwara ¹⁾, Tatsukawa T¹⁾, Mazaki E¹⁾, Yamakawa K¹⁾ (¹⁾ Laboratory for Neurogenetics, RIKEN Brain Science Institute) : Transplantation of medial ganglionic eminence derived GABAergic interneurons in Dravet syndrome model mice. Annual Report of the Japan Epilepsy Research Foundation 2016 ; 27 : 93-100.

著 書

- 1) Kaneda M : [翻訳] オックスフォード生理学 (4 版), 2016 ; pp195-243, 丸善.
- 2) 濱田知宏, 佐久間康夫¹⁾ (¹⁾ 東京医療学院大学) : [共著] Sexual Dimorphism in the Preoptic Area : An Adaptive Outcome to Environment. *Adaptation Biology and Medicine : Volume 8 : Current Trends* (Y. Kawai, A.R. Hargen, P.K. Singal), 2017 ; Narosa Publishing House.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 金田 誠 : 眼と老化. ようざん認知症介護研究会 (第 12 回) (高崎市), 2017. 1.

(2) シンポジウム :

- 1) Akagi T, Rai D, Kiyama-Wada Y, Ogiwara I, Kaneda M : Analysis of molecular mechanisms controlling the polarized targeting of metabotropic glutamate receptor type 6. 日本生理学会大会 (第 94 回) (浜松市), 2017. 3.
- 2) 柿沼由彦, 及川詩乃, 甲斐裕子, 大島久幸, 眞野あすか, 溝口尚子¹⁾, 洲鎌秀永, 根本崇宏, 鈴木健治, 村本和世¹⁾, 金田 誠 (¹⁾ 明海大学歯学部生理学教室) : 非神経性心臓コリン作動系は迷走神経を介してストレス抵抗性を亢進させる. 日本生理学会大会 (第 94 回) (浜松市), 2017. 3.
- 3) 金田 誠, 石井俊行, 本間耕平, 眞野あすか, 重松康秀¹⁾, 井上浩義²⁾, 柿沼由彦 (¹⁾ Tokyo Women's Med. Univ., ²⁾ Keio Univ. Sch. of Med.) : P2X 受容体を介したコリン取り込み機構. 日本生理学会大会 (第 94 回) (浜松市), 2017. 3.

(3) 一般講演 :

- 1) Kaneda M, Ishii T, Homma K, Mano A, Shigematsu Y¹⁾, Inoue H²⁾, Shimoda Y¹⁾, Kakinuma Y (¹⁾ Tokyo Women's Med. Univ., ²⁾ Keio Univ. Sch. of Med.) : Choline transport through P2X₂-purinergic receptors in the mouse retina. *Neuroscience* (46th) (San Diego), 2016. 11.
- 2) 本間耕平, 金田 誠 : 視細胞関連遺伝子レポーターヒト iPS 細胞を用いた遺伝子発現解析. 視覚科学フォーラム研究会 (第 20 回) (大阪), 2016. 8.
- 3) 本間耕平, 金田 誠 : 視細胞関連遺伝子レポーターノックインヒト iPS 細胞による視細胞関連遺伝子発現の解析. 日本分子生物学会年会 (第 39 回) (横浜市), 2016. 12.
- 4) Hamada T, Sakuma Y¹⁾ (¹⁾ Univ. of Tokyo Health Sciences) : Enhanced cell dispersion by estradiol establishes the sex difference in the rat preoptic area. Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (The 39th) (横浜市), 2016. 7.
- 5) 荻原郁夫¹⁾, 立川哲也¹⁾, 眞崎恵美¹⁾, 山川和弘¹⁾ (¹⁾ 理化学研究所 脳科学総合研究センター 神経遺伝研究チーム) : Dravet 症候群発症機構解明のための SCN1A 遺伝子発現可視化マウスの開発. てんかん治療研究報告会 (第 28 回) (大阪市), 2017. 3.
- 6) Ichinohe S¹⁾, Ishii T, Takahashi H¹⁾, Kaneda M (¹⁾ Department of Ophthalmology, Nippon Medical School) : Physiological contribution of P2X₂-purinoceptor at postreceptor processing in the mouse retina. 日本神経科学大会 (第 39 回) (横浜), 2016. 7.
- 7) Kakinuma Y, Oikawa S, Kai Y, Tsuda M¹⁾, Ohata H, Mano A, Mizogushi N²⁾, Sugama S, Nemoto T, Suzuki K, Kurabayashi A³⁾, Muramoto K²⁾, Kaneda M (¹⁾ Institute for Laboratory Animal Reserch, Kochi Medical School, ²⁾ Department of Physiology, School of Dentistry, Meikai University, ³⁾ Department of Pathology, Kochi Medical School) : A stress-refractory propensity in the CNS is provided by augmented non-neuronal cardiac cholinergic system via the vagus nerve to acquire. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢市), 2017. 3.

(4) 研究褒章受賞記念報告 :

- 1) 荻原郁夫 : SCN1A 遺伝子変異マウスを用いた Dravet 症候群発症機構解明. てんかん治療研究報告会 (第 28 回) (大阪市), 2017. 3.

4. 生体統御科学分野

研究概要

本研究の現在進行中のプロジェクトは、1) a non-neuronal cardiac cholinergic systemの循環器系以外の表現型すなわち神経系をはじめ代謝系の影響の解析、2) DOHAD Developmental Origins of Health and Disease 理論に基づく低身長・低体重などの表現型への介入、3) パーキンソン病などの神経変性疾患発症メカニズムにおける慢性ストレスに由来するミクログリア系活性化の解析、4) CRF 受容体に対する新規作製抗体を用いた脳下垂体での発現制御解析とストレス負荷モデルマウスにおける CRF 受容体挙動の変化の解析、5) 脳室壁を構成する上衣細胞における糖負荷後の血管新生因子と細胞増殖メカニズムについての解析、6) 神経毒素による脳部位特異的機能欠損ラットを用いたストレス応答への影響の解析の6つであり、すでに4プロジェクトにおいては、いくつか論文にて報告しており、成果として実っているものである。さらに、その後も多岐にわたる研究協力のもと、発展を続けていくことが予想されている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sugama S, Kakinuma Y : Loss of dopaminergic neurons occurs in the ventral tegmental area and hypothalamus of rats following chronic stress : Possible pathogenetic loci for depression involved in Parkinson's disease. *Neurosci Res* 2016 ; 111 : 48-55.
- 2) Arikawa M¹), Kakinuma Y, Noguchi T²), Todaka H³), Sato T³) (¹) Dept. of Natural Science, Faculty of Science, Kochi University, ²) Dept. of Cardiology, Neurology and Aging Science, Kochi Medical School, ³) Dept. of Cardiovascular Control, Kochi Medical School) : Donepezil, an acetylcholinesterase inhibitor, attenuates LPS-induced inflammatory response in murine macrophage cell line RAW 264.7 through inhibition of nuclear factor kappa B translocation. *Eur J Pharmacol.* 2016 ; 789 : 17-26.
- 3) Oikawa S, Kai Y, Tsuda M¹), Ohata H, Mano A, Mizoguchi N²), Sugama S, Nemoto T, Suzuki K, Kurabayashi A³), Muramoto K²), Kaneda M, Kakinuma Y (¹) Institute for Laboratory Animal Research, Kochi University, ²) Dep of Physiology, Meikai University School of Dentistry, ³) Dep. of Pathology, Kochi Medical School) : Non-neuronal cardiac cholinergic system influences CNS via the vagus nerve to acquire a stress-refractory propensity. *Clin Sci (Lond)* 2016 ; 130 (21) : 1913-1928.
- 4) Mano A, Nemoto T, Yamauchi N, Kakinuma Y, Shibasaki T : Distribution of corticotropin-releasing factor type 1 receptor-like immunoreactivity in the rat pituitary. *J Neuroendocrinol* 2016 ; 28 (12) : 1-15.
- 5) Sugama S, Kakinuma Y : Letter to the Editor Re : "Reconsidering the role of glial cells in chronic stress-induced dopaminergic neurons loss within the substantia nigra? Friend of foe?" by Ong et al. *Brain Behavior and Immunity*, 2016. *Brain Behav Immun.* 2017 ; 60 : 383.
- 6) Sugama S, Kakinuma Y : Evidence of dopaminergic neuronal loss in the substantia nigra induced by chronic restraint stress as demonstrated by in situ hybridization and immunohistochemistry. *日本医科大学雑誌* 2016 ; 12 (2) : 42-43.
- 7) Nakakura T¹), Suzuki T²), Nemoto T, Tanaka H³), Asano-Hoshino A³), Arisawa K³), Nishijima Y³), Hagiwara H³) (¹) Department of Anatomy, Graduate School of Medicine, Teikyo University, ²) Department of Biology, Sapporo Medical University, ³) Department of Anatomy, Graduate School of Medicine, Teikyo University) : Intracellular localization of α -tubulin acetyltransferase ATAT1 in rat ciliated cells. *Med Mol Morphol* 2016 ; 49 (3) : 133-143.
- 8) Nakakura T¹), Nemoto T, Suzuki T²), Asano-Hoshino A³), Tanaka H³), Arisawa K³), Nishijima Y³), Kiuchi Y³), Hagiwara H³) (¹) Department of Anatomy and Cell Biology, Teikyo University School of Medicine, ²) Department of Biology, Sapporo Medical University, ³) Department of Anatomy and Cell Biology, Teikyo University School of Medicine) : Adrenalectomy facilitates ATAT1 expression and α -tubulin acetylation in ACTH-producing corticotrophs. *Cell Tissue Res.* 2016 ; 366 (2) : 363-370.

著書

- 1) 柿沼由彦 : [自著] 心臓の力 : 休めない臓器はなぜ「それ」を宿したのか. 心臓の力 (第2刷発行) (柿沼 由彦), 2016 ; pp1-221, 講談社 (ブルーバックス).

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 柿沼由彦 : 心臓自らが作り出す ACh とは何か (a non-neuronal cardiac cholinergic system NNCCS の発見) : 心臓以外の個体レベルでのほたらきとは何か. 取手・守谷地区循環器講演会 (第4回) (守谷), 2016. 11.

- 2) 柿沼由彦：a non-neuronal cardiac cholinergic system (NNCCS) のモデルマウスから見えてきたもの：あらためて問いかける心：脳連関の意味. 旭川心血管リモデリング研究会学術講演会（第18回）（旭川），2016. 10.
- (2) シンポジウム：
- 1) 根本崇宏，柿沼由彦，芝崎 保：妊娠中の低栄養は仔の世代を超えて影響を及ぼす. 日本神経内分泌学会学術集会（第43回）（浜松），2016. 10.
 - 2) 根本崇宏：Dysregulated hormone secretion in stressed- or prenatally malnourished-rats. 国際動物学会議（第22回）および日本動物学会（第87回）合同大会（那覇），2016. 11.
 - 3) 根本崇宏：Transgeneration of short body length and low body weight-induced by maternal low carbohydrate and calorie restriction. 日本分子生物学会年会（第39回）（横浜），2016. 12.
 - 4) 根本崇宏，柿沼由彦：impact on fetal malnutrition of the next generation. 日本生理学会大会（第94回）（浜松），2017. 3.
- (3) セミナー：
- 1) 柿沼由彦：循環器領域において a non-neuronal cholinergic system が意味するもの. 長崎循環器疾患連携セミナー（長崎），2016. 8.
- (4) 一般講演：
- 1) Kakinuma Y, Oikawa S, Kai Y, Tsuda M¹, Ohata H, Mano A, Mizoguchi N², Sugama S, Nemoto T, Suzuki K, Kurabayashi A³, Muramoto K², Kaneda M (¹ Institute for Laboratory Animal Research, Kochi University, ² Department of Physiology, School of Dentistry, Meikai University, ³ Department of Pathology, Kochi Medical School) : A stress-refractory propensity in the CNS is provided by augmented non-neuronal cardiac cholinergic system via the vagus nerve to acquire. 日本循環器学会学術集会（第81回）（金沢），2017. 3.
 - 2) Kakinuma Y, Oikawa S, Kai Y, Tsuda M¹, Ohata H, Mano A, Mizoguchi N², Sugama S, Nemoto T, Suzuki K, Kurabayashi A³, Muramoto K², Kaneda M (¹ Institute for Laboratory Animal Research, Kochi University, ² Department of Physiology, School of Dentistry, Meikai University, ³ Department of Pathology, Kochi Medical School) : Non-neuronal cardiac cholinergic system induces central anti-stress responses. 日本生理学会大会（第94回）（浜松），2017. 3.
 - 3) Sugama S, Kakinuma Y : Loss of dopaminergic neurons occurs in the ventral tegmental area and hypothalamus of rats following chronic stress : possible loci for depression involved in Parkinson's disease. 日本生理学会大会（第94回）（浜松），2017. 3.
 - 4) 眞野あすか，柿沼由彦，芝崎 保：過活動性拒食症モデル動物におけるCRFの機能異常の解明. 日本内分泌学会学術集会（第89回）（京都），2016. 4.
 - 5) 根本崇宏，柿沼由彦，芝崎 保：胎生期低栄養による短体長低体重は次世代にも影響する. 日本内分泌学会学術総会（第89回）（京都），2016. 4.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Sugama S, Sekiyama K¹, Kodama T¹, Takamatsu Y¹, Takenouchi T², Hashimoto M¹, Bruno C³, Kakinuma Y (¹ Division of Sensory and Motor Systems, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, ² Animal Immune and Cell Biology Research Unit, Division of Animal Sciences, National Institute of Agrobiological Sciences, ³ Chemical Physiology, The Scripps Research Institute, CA, USA) : Chronic restraint stress triggers dopaminergic and noradrenergic neurodegeneration : Possible role of chronic stress in the onset of Parkinson's disease. *Brain Behav Immun* 2016 ; 51 : 39-46.

5. 代謝・栄養学分野

研究概要

多くは学内外との共同研究だが、個別の表示は一部割愛した。1. 石灰化の分子機構とアルカリホスファターゼ (ALP) 1) 低ホスファターゼ症をきたす変異組織非特異型 ALP 蛋白質の解析: 2 量体 interface の変異 (p. T68M と p. R71S), p. A33V / p. S367T, p. Y236C, p. S310RfsX27. また多型とされてきた p. V505A の GPI 修飾についても解析している。2) 構造解析を目的とした野生型蛋白質の大量発現系の構築。カイコ Sf9 細胞とヒト SaOS-2 細胞を用いて施行中。3) 基質小胞の解析: 石灰化時に骨芽細胞より芽出する基質小胞の性質と構成タンパク質の解析を形態解析研究室、理科大と共同で行なっている。4) 石灰化における ALP 遺伝子のエピジェネティック調節。5) 血管壁異所性石灰化モデルの血管平滑筋培養細胞を用いた高リンによる細胞応答の解析。6) 腎不全患者の動脈壁異所性石灰化の解析。7) 急性酸化ストレスと ALP の関係。8) 小腸型 ALP 遺伝子とメタボリック症候群の関連解析。2. キサンチン酸化還元酵素 (XOR) ドイツ、ブラウンシュヴァイク工科大学からの留学生と XOR による活性酸素産生機構の酵素的、構造生物学的解析を行った。さらに XOR 阻害剤の神経変性疾患に対する作用機序をメタボロミクスを用いて解析するとともに、疾患モデルマウスを用いて新規開発抗痛風薬 (フェブリックとトピロキソスタット) が発症の遅延や延命に有効であったことを報告し、治療薬としての用法の国際特許を取得した。ポツダム大学との共同研究で同大研究者とアルデヒド酸化酵素による活性酸素生成機構を解析した。3. 好熱菌等の鉄硫黄酵素 好熱菌等の安定同位体標識酵素の構造機能解析のためのアミノ酸要求性大腸菌発現宿主株の作成, mitoNEET ホモログ機能生理研究など。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ju D^{1,2)}, Yamaguchi F¹⁾, Zhan G¹⁾, Higuchi T¹⁾, Asakura T¹⁾, Morita A¹⁾, Orimo H, Hu S²⁾ (1) Department of Neurological Surgery, 2) Department of Neurosurgery, The Second Affiliated Hospital of Harbin Medical University, Harbin 150086, China): Hyperthermotherapy enhances antitumor effect of 5-aminolevulinic acid-mediated sonodynamic therapy with activation of caspase-dependent apoptotic pathway in human glioma. *Tumor Biology* 2016; 37 (8): 10415-10426.
- 2) Kato S¹⁾, Kato M²⁾, Kusano T, Nishino T (1) Division of Neuropathology, Department of Pathology, Tottori University Faculty of Medicine, 2) Division of Molecular Pathology, Department of Pathology, Tottori University Faculty of Medicine): New Strategy That Delays Progression of Amyotrophic Lateral Sclerosis in G1H-G93A Transgenic Mice: Oral Administration of Xanthine Oxidoreductase Inhibitors That Are Not Substrates for the Purine Salvage Pathway. *J Neuropathol Exp Neurol* 2016; 75 (12): 1124-1144.

(2) 総説:

- 1) Orimo H: Pathophysiology of hypophosphatasia and the potential role of asfotase alfa. *Therapeutics and Clinical Risk Management* 2016; 122: 777-786.
- 2) 岡本 研: キサンチン尿症モリブデンコファクター欠損症. *日本臨床* 2016; 74 (9): 382-385.

(3) その他:

- 1) Matsumura T, Saito S, Orimo H: Immunofluorescence labeling of a mutant of tissue non-specific alkaline phosphatase lacking the glycosylphosphatidylinositol anchor. *J. Nippon Med. Sch.* 2016; 83 (4): 140-141.

著書

- 1) 折茂英生: [編集] 第1章 医学と栄養学 第2章 栄養学の基礎 第3章 栄養学の応用 第5章 症例と栄養 [概要]. 研修医・医学生のための 症例で学ぶ栄養学 (折茂英生, 勝川史憲, 田中芳明, 吉田 博), 2017; pp1-185, 建帛社.
- 2) Nishino T, Okamoto K, Leimkuehler S: [分担] Enzymes of the Xanthine Oxidase Family. "Molybdenum and Tungsten Enzymes: Biochemistry" (Russ Hille, Carola Schulzke, Martin L Kirk), 2016; pp143-91, Royal Society of Chemistry.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 折茂英生: 医師の学生教育に栄養学を (シンポジウム 「病棟での臨床栄養学実践活動の未来 —病棟管理栄養士の常駐にむけて—」). 日本臨床栄養学会総会 (第38回) (大阪), 2016. 10.

(2) 一般講演:

- 1) 松村智裕, 齋藤志ほ, 折茂英生: 組織非特異型アルカリホスファターゼ GPI 修飾シグナル配列の変異体の解析. 日本生化学会大会

(第 89 回) (仙台), 2016. 9.

2) 齋藤志ほ, 松村智裕, 松田 帆¹⁾, 折茂英生, 池園哲郎¹⁾ (¹⁾ 埼玉医大・耳鼻咽喉科): 内耳外リンパに含まれる Cochlin tomo-protein の質量分析解析. 日本生化学会大会 (第 89 回) (仙台), 2016. 9.

3) 片山 映, 栗原佐知子, 鈴木英紀¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 折茂英生 (¹⁾ 共同研究施設・形態解析研究室): 骨芽細胞様細胞株 Saos-2 由来基質小胞タンパク質の網羅的解析. 日本分子生物学会年会 (第 39 回) (横浜), 2016. 12.

(3) フォーラム:

1) 岩崎俊雄: 生命初期進化と補酵素・補欠分子族 (「フォーラム: 生命システム原材料の起源と進化: 現在の生化学反応に生命初期進化の痕跡は残っているか」). 日本生化学会大会 (第 89 回) (仙台), 2016. 9.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

1) Taguchi-T A, Dikanov-A S¹⁾, Iwasaki T (¹⁾ Univ of Illinois at Urbana-Champaign): Exploring the through-bond outer-sphere interactions in biological [2Fe-2S] proteins by two-dimensional ¹³Cβ (cysteine) pulsed EPR. Gordon Conference Metals in Biology 2016 (Ventura, CA, USA), 2016. 1.

6. 分子遺伝医学分野

研究概要

分子遺伝学では遺伝子細胞治療の基盤技術開発を中心に、幅広くゲノム医学や再生医療に取り組んでいる。遺伝子治療研究としては、アデノ随伴ウイルス (AAV) ベクター関連技術の開発を推進した。GMP 準拠ベクター製造法の確立に向け、イオン交換とゲル濾過により超遠心操作が不要なプロトコルを立案し検証した。その応用として、難治性遺伝性疾患 (デュシェンヌ型筋ジストロフィー、低フォスファターゼ症、異染性白質ジストロフィー)、網膜疾患や癌に関する分子病態解析および治療研究を推進した。単一遺伝子病に対する遺伝子治療では遺伝子産物に対する免疫応答が課題となるが、その対策として炎症制御細胞を併用した免疫寛容遺伝子治療を提案し、中型動物における効果を証明した。また、骨髄間質細胞や歯髄幹細胞を応用した炎症制御療法に向け、デュシェンヌ型筋ジストロフィーや脳虚血再還流障害の動物モデルを用いて治療研究を推進した。これら基盤技術の臨床応用に向け、民間企業と協力し共同研究を実施した。臨床展開の取り組みとして医薬品医療機器総合機構の薬事戦略相談を実施し、医師主導治験に向けた取り組みについて指導を受けた。さらに遺伝子細胞治療の ELSI (倫理, 法, 社会的課題) に関し、遺伝子治療ガイドラインの改正や遺伝子治療におけるカルタヘナ法第一種使用等の規制緩和に関する事業 (日本医療研究開発機構 (AMED)) に参加し政策提言を行った。ハイテクリサーチプロジェクトで設置されたゲノム解析室では、全学的な遺伝子研究の共同利用施設としての運営に加え、遺伝診療科と協力して日本全国から依頼された遺伝病の遺伝子解析を行った。また、ゲノム先端医療部と協力してオーダーメイド医療のための薬剤感受性遺伝子や易罹患性遺伝子の検索を行った。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Takahashi K, Igarashi T, Miyake K, Kobayashi M, Yaguchi C, Iijima O, Yamazaki Y, Katakai Y, Miyake N, Kameya S, Shimada T, Takahashi H, Okada T : Improved Intravitreal AAV-Mediated Inner Retinal Gene Transduction after Surgical Internal Limiting Membrane Peeling in Cynomolgus Monkeys. *Mol Ther.* 2017 ; 4 (25) : 296-302.
- 2) Kasahara-Nitahara Y, Takeda S¹⁾, Okada T (1) Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry) : Inflammatory predisposition predicts disease phenotypes in muscular dystrophy. *Inflammation and Regeneration.* 2016 ; 36 (14) : 0019-0023.
- 3) Igarashi T¹⁾, Miyake K, Kobayashi M¹⁾, Kameya S²⁾, Fujimoto C¹⁾, Nakamoto K¹⁾, Takahashi H¹⁾, Igarashi T³⁾, Miyake N, Iijima O, Hirai Y, Shimada T, Okada T, Takahashi H¹⁾ (1) Department of Ophthalmology, 2) Department of Ophthalmology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Department of Pediatrics) : Tyrosine triple mutated AAV2-BDNF gene therapy in a rat model of transient IOP elevation. *Mol Vis.* 2016 ; 16 (22) : 816-826.
- 4) Nakata M, Gantulga D, Santoso P, Zhang B, Masuda C, Mori M, Okada T, Yada T : Paraventricular NUCB2/Nesfatin-1 Supports Oxytocin and Vasopressin Neurons to Control Feeding Behavior and Fluid Balance in Male Mice. *Endocrinology.* 2016 ; 157 (6) : 2322-2332.
- 5) Kuraoka M, Kimura E, Nagata T, Okada T, Aoki Y, Tachimori H, Yonemoto N, Imamura M, Takeda S : Serum osteopontin as a novel biomarker for muscle regeneration in Duchenne muscular dystrophy. *American Journal of Pathology* 2016 ; 186 (5) : 1302-1312.
- 6) Hirata M¹⁾, Nagai A²⁾, Kamatani Y³⁾, Ninomiya T⁴⁾, Tamakoshi A⁵⁾, Watanabe A (1) Laboratory of Genome Technology, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, 2) Department of Public Policy, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, 3) Laboratory for Statistical Analysis, RIKEN Center for Integrative Medical Sciences, 4) Department of Epidemiology and Public Health, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, 5) Department of Public Health, Hokkaido University Graduate School of Medicine) : Overview of BioBank Japan follow-up data in 32 diseases. *J Epidemiology* 2017 ; 27 (3) : 22-28.
- 7) Ito N^{1,2)}, Sakai A¹⁾, Miyake N, Maruyama M^{1,3)}, Iwasaki H^{1,2)}, Miyake K, Okada T, Sakamoto A²⁾, Suzuki H¹⁾ (1) Department of Pharmacology, 2) Department of Anesthesiology, 3) Division of Laboratory Animal Science) : miR-15b mediates oxaliplatin-induced chronic neuropathic pain through BACE1 down-regulation. *Br J Pharmacol.* 2017 ; 174 (5) : 386-395.
- 8) Okabe H¹⁾, Yang J¹⁾, Sylakowski K¹⁾, Miyagawa Y, Nagarajan S¹⁾, Chikina M²⁾, Thompson M³⁾, Oertel M¹⁾, Baba H⁴⁾, Monga S¹⁾, Nejak-Bowen K¹⁾ (1) Department of Pathology, University of Pittsburgh School of Medicine, Pittsburgh, PA, 2) Department of Computational and Systems Biology, University of Pittsburgh School of Medicine, Pittsburgh, PA, 3) Department of Pediatrics, Nationwide Children's Hospital, Columbus, OH, 4) Department of Gastroenterological Surgery, Graduate School of Life Sciences, Kumamoto University) : Wnt signaling regulates hepatobiliary repair following cholestatic liver injury in mice. *Hepatology.*

2016 ; 64 (5) : 1652-1666.

- 9) Shibata T^{1,2)}, Uchida H^{1,2)}, Shiroyama T^{1,2)}, Okubo Y^{1,2)}, Suzuki T^{1,2)}, Ikeda H^{1,2)}, Yamaguchi M³⁾, Miyagawa Y, Fukuhara T²⁾, Cohen J⁴⁾, Glorioso J⁴⁾, Watabe T^{2,5)}, Hamada H^{2,3)}, Tahara H¹⁾ (1) Division of Bioengineering, Advanced Clinical Research Center, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, 2) Laboratory of Oncology, School of Life Sciences, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, 3) Department of Molecular Medicine, Research Institute for Frontier Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine, 4) Department of Microbiology and Molecular Genetics, School of Medicine, University of Pittsburgh, Pittsburgh, PA, USA, 5) Section of Biochemistry, Department of Hard Tissue Engineering, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University) : Development of an oncolytic HSV vector fully retargeted specifically to cellular EpCAM for virus entry and cell-to-cell spread. *Gene Ther.* 2016 ; 23 (6) : 479-488.
- 10) Tosa M¹⁾, Watanabe A, Ghazizadeh M¹⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : IL-6 polymorphism and susceptibility to keloid formation in Japanese population. *J Invest Dermatol* 2016 ; 136 (5) : 1069-1072.
- 11) Yamada K¹⁾, Watanabe A, Takeshita H²⁾, Matsumoto K¹⁾ (1) Department of Biosignaling and Radioisotope Experiment, Interdisciplinary Center for Science Research, Organization for Research, Shimane University, 2) Department of Legal Medicine, Faculty of Medicine, Shimane University) : A method for quantification of serum tenascin-X by nano-LC/MS/MS. *Clin Chim Acta* 2016 ; 2016 (459) : 94-100.
- 12) Yotsumoto J¹⁾, Sekizawa A²⁾, Suzumori N³⁾, Yamada T⁴⁾, Samura O⁵⁾, Watanabe A, et al. (1) Natural Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Showa University School of Medicine, 3) Division of Clinical and Molecular Genetics, Department of Obstetrics and Gynecology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, 5) Department of Obstetrics and Gynecology, The Jikei University School of Medicine) : A survey on awareness of genetic counseling for non-invasive prenatal testing : The first year experience in Japan. *J Hum Genet* 2016 ; 2016 (61) : 995-1001.
- 13) Iwasaki N¹⁾, Tsurumi M²⁾, Asai K²⁾, Shimizu W²⁾, Watanabe A, Ogata M²⁾, Takizawa M²⁾, Ide R³⁾, Yamamoto T³⁾, Saito K³⁾ (1) Diabetes Center, Tokyo Women's Medical University, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, 3) Tokyo Women's Medical University Institute of Medical Genetics) : Pancreatic developmental defect evaluated by celiac artery angiography in a patient with MODY5. *Hum Genome Var* 2016 ; 2016 (3) : 16022-16025.
- 14) Yamamoto-Nemoto S¹⁾, Shimada R¹⁾, Tajima H²⁾, Iwasawa E¹⁾, Shimizu Y¹⁾, Tuna E³⁾, Ogawa K¹⁾, Watanabe A, Shimizu T¹⁾ (1) Department of Pediatric Dentistry, Nihon University School of Dentistry at Matsudo, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, 3) Department of Pediatric Dentistry, Istanbul University Faculty of Dentistry, Istanbul, Turkey) : Oral symptoms and bone observations in odonto-hypophosphatasia. *Open J Stomatology* 2016 ; 6 (12) : 245-251.
- 15) 藤本英也^{1,2)}, 渡邊 淳¹⁾, 堤正 好^{1,3)}, 山口敏和^{1,4)}, 伊藤尚志¹⁾, 権藤延久^{1,5)}, 神山 誠^{1,6)}, 菅野康吉^{1,7)}, 野村文夫^{1,7)} (1) 一般社団法人日本衛生検査所協会, 2) 株式会社 LSI メディエンス, 3) 株式会社 エスアールエル, 4) 株式会社 ビー・エム・エル, 5) 株式会社 ファルコバイオシステムズ, 6) 株式会社 保健科学研究所, 7) 栃木県立がんセンター研究所がん遺伝子研究室・がん予防研究室) : 衛生検査所における遺伝子関連検査・染色体検査の受託状況. *日本遺伝カウンセリング学会誌* 2016 ; 37 (3) : 143-148.

(2) 総説 :

- 1) 伴野太郎, 岡田尚巳 : 遺伝子導入用ウイルスベクターの作製法. *PHARM STAGE* 2016 ; 15 (11) : 36-48.

著 書

- 1) 岡田尚巳, 武田伸一¹⁾ (1) 国立精神・神経医療研究センター) : [分担] デュシェンヌ型筋ジストロフィー. 遺伝子医学 Mook30号 (監修・編集 : 金田安史), 2016 ; pp164-172, メディカルドゥ.
- 2) 宮川世志幸, 岡田尚巳 : [分担] iPS細胞による筋ジストロフィーの病態解明と治療法への活用. iPS細胞の安全・高品質な作製技術, 2016 ; pp149-157, 技術情報協会.
- 3) 渡邊 淳 : [分担] 低フォスファターゼ症. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (監修 : 福嶋義光), 2016 ; pp212-213, 南江堂.
- 4) 渡邊 淳 : [分担] エーラス・ダンロス症候群. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (監修 : 福嶋義光), 2016 ; pp225-226, 南江堂.
- 5) 渡邊 淳 : [分担] 皮膚弛緩症. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (監修 : 福嶋義光), 2016 ; pp226-227, 南江堂.
- 6) 渡邊 淳 : [分担] 薬理遺伝学. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (監修 : 福嶋義光), 2016 ; pp405-409, 南江堂.
- 7) 渡邊 淳 : [翻訳] 第3章 ヒトゲノム : 遺伝子の構造と機能. トンプソン&トンプソン遺伝医学 (原書8版) (監修 : 福嶋義光), 2017 ; pp405-409, メディカル・サイエンス・インターナショナル.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 岡田尚巳：Duchenne 型筋ジストロフィーの遺伝子細胞治療. 日本筋学会学術集会（第2回）（東京），2016. 8.

(2) シンポジウム：

- 1) Okada T：Attractive characteristics of self-complementary AAV vectors and improved methods for efficient production. The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy（Tokyo），2016. 7.
- 2) 岡田尚巳：遺伝子治療. New Insights of Molecular Genetics on Growth Disorders（東京），2016. 7.
- 3) Okada T：AAV vector transduction strategy with MSCs-mediated immune-modulation to ameliorate neuromuscular disorders. The 29th Annual and International Meeting of Japanese Association for Animal Cell Technology（JAACT）（Kobe），2016. 11.
- 4) 岡田尚巳：Duchenne 型筋ジストロフィーに対する遺伝子細胞治療. 東京医科大学医科学フォーラム（東京），2016. 12.
- 5) 岡田尚巳：AAV ベクターを用いた遺伝子治療の現状と課題. 日本遺伝子細胞治療学会 若手研究会セミナー（第1回）（東京），2016. 12.
- 6) 岡田尚巳：遺伝子細胞治療研究の進歩と展望. Total Care Management Forum 91（金沢），2016. 12.

(3) 一般講演：

- 1) Kinoh H, Okada H, Kasahara Y, Chiyo T¹, Imagawa K¹, Tachibana K², Okada T¹ (Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience, ² JCR Pharmaceuticals Co., Ltd.)：Improved Transduction of Canine X-Linked Muscular Dystrophy with rAAV9-Microdystrophin by Introducing Immune Tolerance. The 19th Annual Meeting of American Society of Gene & Cell Therapy（Washington, DC），2016. 5.
- 2) Okada H, Ishibashi H¹, Masuda C, Kinoh H, Chiyo T², Kasahara Y, Takahashi Y³, Kato K², Negishi Y³, Takeda S², Okada T¹ (Animal Research Center, University Hospital, Tokyo Medical University, ² Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience, ³ Department of Drug Delivery and Molecular Biopharmaceutics, School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences)：Transient ultrasound-mediated microbubble-assisted modulation of blood brain interface in adult common marmoset to improve rAAV-mediated brain transduction. The 19th Annual Meeting of American Society of Gene & Cell Therapy（Washington, DC），2016. 5.
- 3) Miyake N, Miyake K, Yamamoto M, Shimada T, Okada T：Successful Treatment of Neonatal Metachromatic Leukodystrophy Model Mice by Low Dose of Self-Complementary AAV Type9 Vector Expressing ASA. The 19th Annual Meeting of American Society of Gene & Cell Therapy（Washington, DC），2016. 5.
- 4) Miyagawa Y, Verlengia G², Simonato M², Cohen J¹, Glorioso J¹ (Department of Microbiology and Molecular Genetics, University of Pittsburgh School of Medicine, Pittsburgh, PA, ² Department of Medical Sciences, University of Ferrara, Italy)：Generation of non-cytotoxic herpes simplex based vector for neural transduction. The 13th International Congress of Human Genetics（Kyoto），2016. 4.
- 5) Takahashi A, Miyake K, Watanabe A, Hirai Y, Iijima O, Miyake N, Adachi K, Kasahara Y, Kinoshita H¹, Noguchi T², Abe S², Shimada T, Okada T (Department of Dental Materials Science, Tokyo Dental College, ² Department of Anatomy, Tokyo Dental College)：Therapeutic effects of recombinant adeno-associated virus-mediated muscle transduction to express bone-targeted alkaline phosphatase of lethal hypophosphatasia model mice. The 13th International Congress of Human Genetics（Kyoto），2016. 4.
- 6) Koshoh T¹, Tsumita N², Masuda C, Kasahara Y, Watanabe A, Okada T, et al. (Division of Clinical and Molecular Genetics, Shinshu University Hospital, ² Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry)：Pathophysiological investigation of Ehlers-Danlos syndrome caused by CHST14/D4ST1 deficiency using iPS cells and knockout mice. The 13th International Congress of Human Genetics（Kyoto），2016. 4.
- 7) Watanabe A, Tajima H², Nemoto S³, Sasaki M¹, Kawamura M, Okada T, Shimada T¹ (Division of Clinical Genetics Nippon Medical School Hospital, ² Department of Pediatrics, Nippon Medical School Hospital, ³ Department of Pediatrics Dentistry, Nihon University school of Dentistry)：Hypophosphatasia diagnosed during childhood in Japan. The 13th International Congress of Human Genetics（Kyoto），2016. 4.
- 8) Yoshizawa T¹, Mizumoto S², Nakayama J³, Hirose T⁴, Takehana K⁴, Fengming Y⁵, Tsumita N⁶, Masuda C, Kasahara Y, Takahashi Y⁷, Takeda S⁶, Okada T, Matsumoto K¹, Kosyo T⁷ (Division of Laboratory Animal Research, Research Center for Human and Environmental Sciences, Shinshu University, ² Department of pathobiochemistry, Faculty of Pharmacy, Meikyo University, ³ Department of Molecular Pathology, Shinshu University Graduate school of Medicine, ⁴ Department of Veterinary Pathology, School of Veterinary Medicine Rakuno Gakuen University, ⁵ Department of Histology and Embryology, Shinshu University School of Medicine, ⁶ Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience, ⁷

- Department of Medical Genetics, Shinshu University School of Medicine) : Placental phenotypes of Chst14 fetal mice : a model for vascular manifestations in Ehlers-Danlos syndrome caused by CHST14/D4ST1 deficiency. The 13th International Congress of Human Genetics (Kyoto), 2016. 4.
- 9) 岨 康太, 仁藤智香子¹⁾, 中島壯崇, 須田 智¹⁾, 上田雅之¹⁾, 笠原優子, 今川 究²⁾, 平戸 徹²⁾, 岡田尚巳, 木村和美¹⁾ (1) 神経内科学, 2) JCR ファーマ (株) : ラット局所脳虚血モデルにおける HGF 強発現歯髄幹細胞移植の神経保護効果. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
 - 10) 笠原優子, 倉岡陸季¹⁾, 喜納裕美, 島津苑子, 増田千明, 高橋有希²⁾, 今川 究³⁾, 平戸 徹³⁾, 武田伸一¹⁾, 岡田尚巳 (1) 国立精神・神経医療研究センター 遺伝子疾患治療研究部, 2) 東京歯科大学薬理学講座, 3) JCR ファーマ (株) : 歯髄幹細胞を用いた筋ジストロフィーに対する細胞治療 仙台 2017.3.8. 日本再生医療学会総会 (第 16 回) (仙台), 2017. 3.
 - 11) Miyagawa Y, Verlengia G¹⁾, Simonato M²⁾, Cohen J³⁾, Glorioso J³⁾ (1) University of Ferrara Department of Medical Sciences Section of Pharmacology via Fossato di Mortara 17-19 44121 Ferrara, Italy, 2) Division of Bioengineering, Advanced Clinical Research Center, Institute of Medical Science, The University of Tokyo) : Deletion of virion host shut off protein promotes neural-specific transgene expression by a non-cytotoxic herpes simplex virus-based vector. 日本分子生物学会 (第 39 回) (横浜), 2016. 12.
 - 12) Kuroda S, Miyagawa Y, Adachi K, Yamamoto M, Cohen J, Glorioso J, Suzuki H, Uchida E, Okada T : Protocol optimization for high-yield production of a non-toxic herpes simplex virus-based vector using a novel producer cell line. 日本分子生物学会 (第 39 回) (横浜), 2016. 12.
 - 13) Watanabe A : Genetic Education for Undergraduate Medical Students in Japan. The 13th International Congress of Human Genetics (kyoto), 2016. 4.
 - 14) Sasaki M¹⁾, Watanabe A, Miyake H¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Hosaka A¹⁾, Mine K²⁾, Yonezawa M²⁾, Kuroda T³⁾, Aoyama N³⁾, Kawasaki N³⁾, Hayashi H³⁾, Kato K³⁾, Shimada T¹⁾, Takeshita T²⁾ (1) Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 3) Kato Ladies Clinic) : Genetic counseling for chromosome abnormality found in the examine of infertility or miscarriage - the role of clinical genetics division. The 13th International Congress of Human Genetics (kyoto), 2016. 4.
 - 15) 岨 康太, 仁藤智香子¹⁾, 中島壯崇, 須田 智¹⁾, 坂本悠記, 西山康裕²⁾, 上田雅之²⁾, 高橋有希, 笠原優子, 今川 究³⁾, 立花克彦³⁾, 岡田尚巳, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学神経内科学, 2) 東京都立多摩総合医療センター 神経・脳血管内科, 3) JCR ファーマ株式会社) : ラット局所脳虚血モデルにおける HGF 強発現歯髄幹細胞移植の治療効果. 日本脳循環代謝学会学術集会 (第 59 回) (徳島), 2016. 11.
 - 16) 廣中浩平, 山崎吉之, 平井幸彦, 山本基子, 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆, 岡田尚巳, 喜多村孝幸, 森田明夫^{1) 2)} (1) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科) : Enzyme replacement in the CSF to treat metachromatic leukodystrophy in mouse model using single intracerebroventricular injection of adeno-associated virus vector. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 9.
 - 17) 笠原優子, 積田奈々¹⁾, 増田千明, 島津苑子, 水本秀二²⁾, 井上 (上野) 由紀子¹⁾, 井上高良¹⁾, 吉沢隆浩³⁾, 中山 淳³⁾, 武田伸一, 渡邊 淳, 古庄知己⁴⁾, 岡田尚巳 (1) 国立精神神経医療研究センター, 2) 名城大学薬学部病態生化学, 3) 信州大学ヒト環境科学研究支援センター, 4) 信州大学医学部付属病院・遺伝診療部) : デルマタン 4-O-硫酸基転移酵素-1 欠損に基づくエーラスダンロス症候群モデルマウスの作製および病態解析. 日本生化学会大会 (第 89 回) (仙台), 2016. 9.
 - 18) 岡田浩典, 石橋英俊²⁾, 喜納裕美, 増田千明, 笠原優子, 武田伸一¹⁾, 岡田尚巳 (1) 国立精神神経医療研究センター, 2) 東京医科大学動物実験センター) : AAV ベクターを用いた PABPN1 優性阻害変異体発現によるマーモセット眼咽頭型筋ジストロフィーモデルの作製. 日本筋学会学術集会 (第 2 回) (東京), 2016. 8.
 - 19) 倉岡陸季¹⁾, 木村 円¹⁾, 永田哲也^{1, 2)}, 岡田尚巳, 青木吉嗣¹⁾, 立森久照¹⁾, 米本直裕¹⁾, 今村道博¹⁾, 武田伸一¹⁾ (1) 国立精神神経医療研究センター, 2) 東京医科歯科大学医学部脳神経病態学分野) : イヌ型ジストロフィーモデルにおける血清オステオポンチン : 筋再生マーカーとしての可能性の提唱. 日本筋学会学術集会 (第 2 回) (東京), 2016. 8.
 - 20) Kasahara-Nitahara Y, Kuraoka M¹⁾, Kinoh-Hayashita H, Takahashi-Nakamura A, Masuda C, Imagawa K²⁾, Tachibana K²⁾, Takeda S¹⁾, Okada T (1) Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience National Center of Neurology and Psychiatry, 2) JCR Pharmaceuticals Co.,Ltd) : Cell therapeutic approach using dental pulp stromal cells for Duchenne muscular dystrophy. The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy (Tokyo), 2016. 7.
 - 21) Kinoh-Hayashita H, Kasahara-Nitahara Y, Kuraoka M¹⁾, Okada H, Imagawa K²⁾, Tachibana K²⁾, Takeda S¹⁾, Okada T (1) Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, 2) JCR Pharmaceuticals Co.,Ltd) : Systemic administration of rAAV9-microdystrophin with MSCs pre-treatment improves transgene expression and phenotype in CXMDJ. The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy (Tokyo), 2016. 7.

- 22) Takahashi K, Igarashi T¹⁾, Miyake K, Kobayashi M¹⁾, Yaguchi C¹⁾, Iijima O, Yamazaki Y, Miyake N, Kameya S²⁾, Shimada T, Takahashi H¹⁾, Okada T (¹ Department of Ophthalmology, Nippon Medical School, ² Department of Ophthalmology, Nippon Medical School Chibba Hokusoh Hospital) : AAV-mediated efficient transduction of the nonhuman primate retina by surgical internal limiting membrane (ILM) peeling. The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy (Tokyo), 2016. 7.
- 23) Tomono T, Hirai Y, Okada H, Adachi K, Sakamoto S²⁾, Kawano Y²⁾, Chono H²⁾, Mineno J²⁾, Ishii A³⁾, Shimada T, Onodera M¹⁾, Akira Tamaoka⁴⁾, Okada T (¹ Department of Human Genetics, National Center for Child Health and Development., ² CDM center Takara Bio Inc., ³ Department of Neurology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba) : Simple and effective ultracentrifugation-free large-scale purification of recombinant adeno-associated virus serotype9 (rAAV9). The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy (Tokyo), 2016. 7.
- 24) Ikeue R¹⁾, Takahashi A³⁾, Muranmatsu T²⁾, Kasahara Y, Watanabe A, Shimada T, Okada T, Sato T¹⁾ (¹ Department of Fixed Prosthodontics, Tokyo Dental College, ² Department of Endodontics and Clinical Cariology, Tokyo Dental College, ³ Department of Pharmacology, Tokyo Dental College) : Assessment of the alveolar bone and tooth in lethal hypophosphatasia mice treated by rAAV8-TNALP-D10. The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy (Tokyo), 2016. 7.
- 25) Takahashi-Nakamura A¹⁾, Ikeue R²⁾, Kasahara-Nitahara Y, Watanabe A, Hirai Y, Kasahara M¹⁾, Okada T (¹ Department of Pharmacology, Tokyo Dental College, ² Department of Fixed Prosthodontics, Tokyo Dental College) : Therapeutic effects of scAAV8-mediated high dose expression of bone targeted alkaline phosphatase on the lethal hypophosphatasia mice. The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy (Tokyo), 2016. 7.
- 26) Ishii A²⁾, Okada H, Kinoh-Hayashita H, Hong Shin J¹⁾, Okada T, Takeda S¹⁾ (¹ Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience, ² Department of Neurology, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba) : Effective microdystrophin expression in non-human primate muscle with AAV type 8 vectors under immune suppression. The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy (Tokyo), 2016. 7.
- 27) Nito C¹⁾, Sowa K, Nakajima M, Ueda M¹⁾, Nishiyama Y¹⁾, Suda S¹⁾, Takahashi A, Imagawa K²⁾, Tachibana K²⁾, Kasahara Y, Kimura K¹⁾, Okada T (¹ Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ² JCR Pharmaceuticals Co., Ltd.) : Neuroprotective effects of intravenous administration of dental pulp stem cells after ischemic-reperfusion injury. The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy (Tokyo), 2016. 7.
- 28) Miyake N, Miyake K, Yamamoto M, Shimada T, Okada T : ssAAV vectors are able to pass through the BBB as well as scAAV. The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy (Tokyo), 2016. 7.
- 29) Okada H, Tomono T, Adachi K, Hirai K, Okada T (¹ Graduate School of Comprehensive Human Sciences Master's Program in Medical Sciences, University of Tsukuba) : Feasibility of large-scale rAAV production from suspension HEK293 cell line using flow electroporation system. The 22nd Annual Meeting of Japan Society of Gene and Cell Therapy (Tokyo), 2016. 7.
- 30) 坂井 敦¹⁾, 三宅紀子, 丸山基世^{1, 2)}, 三宅弘一, 島田 隆, 岡田尚巳, 鈴木秀典¹⁾ (¹ 日本医科大学薬理学, ² 日本医科大学実験動物管理室) : 神経障害性疼痛における miR-17-92 クラスターによる電位依存性カリウムチャネル調節. 回日本神経科学大会 (第39回) (横浜), 2016. 7.
- 31) 広瀬拓哉, 吉沢隆浩, 笠原優子, 岡田尚巳, 古庄知己, 美名口順, 竹花一成 : デルマタン 4-O- 硫酸基転移酵素 1 (D4ST1) 欠損に基づく新型エーラスダンロス症候のマウスモデル (Chst14^{-/-} マウス) における皮膚形態解析. 日本結合組織学会学術集会 (第48回) (長崎), 2016. 6.
- 32) 中島壯崇 : 脳梗塞における IL-10 強発現骨髄間葉系幹細胞移植の治療効果. Stoke Treatment and Research Meeting in Tokyo (東京), 2016. 7.
- 33) 坂井 敦¹⁾, 丸山基世^{1, 2)}, 三宅紀子, 齋藤文仁¹⁾, 三宅弘一, 島田 隆, 岡田尚巳, 鈴木秀典¹⁾ (¹ 日本医科大学薬理学, ² 日本医科大学実験動物管理室) : 神経障害性疼痛における miR-17-92 クラスターによるカリウムチャネルの調節. 日本疼痛学会 (第38回) (北海道), 2016. 6.
- 34) 黒木直美^{1, 2)}, 坂井 敦²⁾, 三宅紀子, 三宅弘一, 岡田尚巳, 鈴木秀典²⁾, 坂本篤裕¹⁾ (¹ 日本医科大学疼痛制御麻酔科学, ² 日本医科大学薬理学) : 1 次感覚神経節 miR-15b のオキサリプラチン誘発性神経障害性疼痛における解析. 日本麻酔科学会 (第63回) (福岡), 2016. 5.
- 35) 宮川世志幸, 喜納裕美, 岡田尚巳 : ウイルスベクターによる遺伝子治療の可能性. 日本臨床プロテオーム研究会 (第12回) (東京), 2016. 5.
- 36) Reinhart B¹⁾, Marzulli M¹⁾, Leronni D¹⁾, Miyagawa Y, Cohen J¹⁾, Glorioso J¹⁾ (¹ Microbiology and Molecular Genetics, University of Pittsburgh, Pittsburgh, PA) : HSV Vector Development for Targeted Gene Delivery. 19th Annual Meeting of the American

Society of Gene & Cell Therapy (Washington, DC), 2016. 5.

- 37) Sakai A¹⁾, Kuroki-Ito N^{1,2)}, Maruyama, M^{1,3)}, Miyake N, Iwasaki H^{1,2)}, Miyake K, Okada T, Sakamoto, A²⁾, Suzuki H¹⁾ (¹⁾ Department of Pharmacology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School) : miR-15b role in the oxaliplatin-induced neuropathic pain. 16th World Congress on Pain (Yokohama), 2016. 9.
- 38) Kobayashi M¹⁾, Igarashi T¹⁾, Miyake K, Miyake N, Nakamoto K¹⁾, Hirai Y, Takahashi H¹⁾, Okada T (¹⁾ Department of Ophthalmology, Nippon Medical School) : Tyrosine-mutated AAV2 (Y730, 500, 444F) mediated BDNF rescued inner retina in rat retinal ischemic injury model. The European Society of Gene and Cell Therapy (ESGCT) (Florence), 2016. 10.
- 39) Kasahara Y, Kinoh H, Tsumita N¹⁾, Masuda C, Okada H, Takeda S¹⁾, Okada T (¹⁾ Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience) : Exacerbation in the IL-10 deficient dystrophic mice and an anti-inflammatory strategy with mesenchymal stromal cells. The 13th International Congress of Human Genetics (Kyoto), 2016. 4.
- 40) Kinoh-Hayashita H, Kasahara-Nitahara Y, Okada H, Imagawa K²⁾, Tachibana K²⁾, Takeda S¹⁾, Okada T (¹⁾ Department of Molecular Therapy, National Institute of Neuroscience, ²⁾ JCR Pharmaceuticals Co., Ltd) : Improved transduction of canine X-linked muscular dystrophy with rAAV9-microdystrophin by MSCs pre-treatment. The 13th International Congress of Human Genetic (Kyoto), 2016. 4.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Tomono T, Hirai Y, Okada H, Adachi K, Ishii A, Shimada T, Onodera M, Tamaoka A, Okada T : Ultracentrifugation-free chromatography-mediated large-scale purification of recombinant adeno-associated virus serotype 1 (rAAV1). *Mol Ther Methods Clin Dev.* 2016 ; 3 (15058) : 1-7.
- 2) Nakamura-Takahashi A, Miyake K, Watanabe A, Hirai Y, Iijima O, Miyake N, Adachi K, Nitahara-Kasahara Y, Kinoshita H, Noguchi T, Abe S, Narisawa S, Millán JL, Shimada T, Okada T : Treatment of hypophosphatasia by muscle-directed expression of bone-targeted alkaline phosphatase via self-complementary AAV8 vector. *Mol Ther Methods Clin Dev.* 2016 ; 3 (15059) : 1-9.
- 3) Nakata M, Yamamoto S, Okada T, Darambazar G, Hokano H, Ozawa K, Yada T : IL-10 gene transfer upregulates arcuate POMC and ameliorates hyperphagia, obesity and diabetes by substituting for leptin. *International Journal of Obesity* 2016 ; 40 (3) : 425-433.
- 4) Nakata M M¹⁾, Zhang B B¹⁾, Yang Y Y¹⁾, Okada T T, Shintani N N²⁾, Hashimoto H H²⁾, Yada T T¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology, Division of Integrative Physiology, Jichi Medical University School of Medicine, ²⁾ Laboratory of Molecular Neuropharmacology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University) : High-Fat Diet Augments VPAC1 Receptor-Mediated PACAP Action on the Liver, Inducing LAR Expression and Insulin Resistance. *J Diabetes Res.* 2016 ; 2016 (2) : 1-10.
- 5) Yaoita M¹⁾, Niihori T¹⁾, Mizuno S²⁾, Okamoto N³⁾, Hayashi S⁴⁾, Watanabe A (¹⁾ Department of Medical Genetics, Tohoku University School of Medicine, ²⁾ Department of Pediatrics, Central Hospital, Aichi Human Service Center, ³⁾ Department of Medical Genetics, Osaka Medical Center, Research Institute for Maternal and Child Health, ⁴⁾ Department of Neonatology, The Jikei University Hospita) : Spectrum of mutations and genotype-phenotype analysis in Noonan syndrome patients with RIT1 mutations. *Human Genet.* 2016 ; 135 (2) : 209-222.
- 6) Watanabe A, Satoh K K¹⁾, Maniwa T T¹⁾, Matsumoto K¹⁾ (¹⁾ Department of Biosignaling and Radioisotope Experiment, Interdisciplinary Center for Science Research, Organization for Research, Shimane University) : Proteomic analysis for the identification of serum diagnostic biomarkers for joint hypermobility syndrome. *Int J Mol Med* 2016 ; 37 (2) : 461-467.

学会発表

追加分シンポジウム :

- 1) 岡田尚巳 : AAV ベクターを用いた遺伝子治療の現状と展望. バイオロジクスフォーラム学術集会 (第13回) (東京), 2016. 2.
- 2) 岡田尚巳 : 筋ジストロフィーの遺伝子・細胞治療. 日本再生医療学会総会 (第15回) (大阪), 2016. 3.

7. 薬理学分野

研究概要

28年度は以下の成果を得た。a) miR-17-92 クラスターが複数の電位依存性カリウムチャネルの発現を調節することにより神経障害性疼痛に寄与することを明らかにした。また、RNA シーケンスにより神経障害性疼痛に伴い発現変化する複数の新規長鎖非コード RNA を後根神経節において同定した。b) 自閉症モデル動物における前頭前皮質神経回路の異常を興奮性/抑制性のバランスに着目すると、野生型に比べて出力細胞である第5層錐体細胞は興奮性に傾いていることが実験的に示唆された。c) 電気痙攣刺激によって海馬シナプス伝達のドパミンによる修飾が急速かつ長期的に増強され、そのメカニズムにドパミン D1 受容体の発現上昇が関与することを明らかにした。d) マウスを用いた研究において、妊娠後期の低酸素状態は、生まれた子供が成長した後、オスとメスで異なる行動変容を引き起こすことを明らかにした。その変容は出生後3週間の fluoxetine 投与によって改善することも明らかになった。e) ヒト iPS 細胞由来神経幹細胞を用いて向精神薬が神経分化を促進することを明らかにした。f) ヒトを対象にした脳機能画像研究において、鎮痛薬トラマドールが報酬予測に関わる側坐核の脳活動を増加させることを明らかにした。g) ADHD モデルラットを用いて、前頭前皮質第5層の錐体細胞における GABA 作動性シナプス伝達に対するドパミンの修飾作用を検討した。その結果、ADHD モデルラットでは対照ラットよりドパミンによる増強作用が有意に小さかった。さらに、この増強効果が D1 受容体を介していることを見出した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakayama A¹, Kubota R², Sakatsume M³, Suzuki H, Katayama A⁴, Kanamori K¹, Shiba K¹, Iijima S¹ (1) Bunkyo Gakuin University, 2) Saitama Prefectural University, 3) Niigata University, 4) Dept Biochem Mol Biol, Nippon Medical School) : Cellulose Acetate Membrane Electrophoresis Based Urinary Proteomics for the Identification of Characteristic Proteins. J Clin Lab Anal 2016 ; 30 (5) : 359-367.
- 2) Asada M, Mizutani S¹, Takagi M¹, Suzuki H (1) Tokyo Medical and Dental University) : Antipsychotics promote neural differentiation of human iPS cell-derived neural stem cells. Biochem Biophys Res Commun 2016 ; 480 (4) : 615-621.
- 3) Kobayashi K¹, Imoto Y², Yamamoto F³, Kawasaki M³, Ueno M³, Segi-Nishida E^{2, 3}, Suzuki H¹ (1) Japan Science and Technology Agency, Core Research for Evolutional Science and Technology, 2) Kyoto University, 3) Tokyo University of Science) : Rapid and lasting enhancement of dopaminergic modulation at the hippocampal mossy fiber synapse by electroconvulsive treatment. J Neurophysiol 2017 ; 117 (1) : 284-289.
- 4) Ito N¹, Sakai A, Miyake N², Maruyama M³, Iwasaki H¹, Miyake K², Okada T², Sakamoto A¹, Suzuki H (1) Dept Anesthesiol, Nippon Medical School, 2) Dept Biochem Mol Biol, Nippon Medical School, 3) Div Lab Anim Sci, Nippon Medical School) : miR-15b mediates oxaliplatin-induced chronic neuropathic pain through BACE1 down-regulation. Br J Pharmacol 2017 ; 174 (5) : 386-395.
- 5) Imoto Y¹, Segi-Nishida E^{1, 2}, Suzuki H³, Kobayashi K³ (1) Kyoto University, 2) Tokyo University of Science, 3) Japan Science and Technology Agency, Core Research for Evolutional Science and Technology) : Rapid and stable changes in maturation-related phenotypes of the adult hippocampal neurons by electroconvulsive treatment. Mol Brain 2017 ; 10 (1) : 8.

(2) 総説：

- 1) 鈴木秀典：2020年に向けたアンチ・ドーピング。日本臨床スポーツ医学会誌 2016；24（2）：197-199.
- 2) 小林克典：成体歯状回における神経成熟度の制御とその機能的意義。日本薬理学雑誌 2016；148（4）：176-179.
- 3) 鈴木秀典：アンチ・ドーピング検査の最近の進歩。アニムス 2017；22（1）：9-12.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 鈴木秀典：東京オリンピック・パラリンピックに向けたアンチ・ドーピング活動。日本高気圧環境・潜水医学会 第51回学術総会（日本医科大学），2016. 12.

(2) シンポジウム：

- 1) 鈴木秀典：ドーピングとの戦いの現状と未来：新たな禁止物質の動向。第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会（幕張メッセ（千葉県千葉市）），2016. 11.

(3) 海外留学生講演：

- 1) 齋藤文仁：小脳 GABA シナプスにおけるセクレチンによる修飾機構. 第 84 回日本医科大学医学会総会（日本医科大学橋桜会館），2016. 9.

(4) 一般講演：

- 1) Nagano M, Saitow F, Takumi T¹⁾, Suzuki H (¹⁾ RIKEN Brain Science Institute) : Neonatal fluoxetine restores sociability in a mouse model of autism. 29th European College of Neuropsychopharmacology Congress (Vienna Austria), 2016. 9.
- 2) Sakai A, Ito-Kuroki N¹⁾, Maruyama M²⁾, Miyake N³⁾, Iwasaki H¹⁾, Miyake K³⁾, Okada T³⁾, Sakamoto A¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Dept Anesthesiol, Nippon Medical School, ²⁾ Div Lab Anim Sci, Nippon Medical School, ³⁾ Dept Biochem Mol Biol, Nippon Medical School) : miR-15b role in the oxaliplatin-induced neuropathic pain. 16th World Congress on Pain (Pacifco Yokohama), 2016. 9.
- 3) Nagano M, Suzuki H : Neonatal fluoxetine treatment restored prenatal hypoxia-induced behavioral changes in male and female mice offspring. The Joint meeting of the 22nd International Congress of Zoology & the 87th meeting of the Zoological Society of Japan (Okinawa), 2016. 11.
- 4) 黒木直美¹⁾, 坂井 敦, 三宅紀子²⁾, 三宅弘一²⁾, 岡田尚巳²⁾, 鈴木秀典, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 日医大院・疼痛制御麻酔科学, ²⁾ 日医大・分子遺伝医学) : 1 次感覚神経節 miR-15b のオキサリプラチン誘発性神経障害性疼痛における解析. 日本麻酔科学会 (第 63 回) (福岡国際会議場), 2016. 5.
- 5) 坂井 敦, 丸山基世¹⁾, 三宅紀子²⁾, 齋藤文仁, 三宅弘一²⁾, 島田 隆²⁾, 岡田尚巳²⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日医大・実験動物管理室, ²⁾ 日医大・分子遺伝医学) : 神経障害性疼痛における miR-17-92 クラスターによるカリウムチャネルの調節. 日本疼痛学会 (第 38 回) (北海道立道民活動センター), 2016. 6.
- 6) Nagano R¹⁾, Nagano M, Nakai A¹⁾, Takeshita T¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Dept Obstet & Gynecol, Nippon Medical School) : Differential effects of prenatal hypoxia on behaviors in male and female mice offspring. 日本神経科学大会 (第 39 回) (パシフィコ横浜), 2016. 7.
- 7) Sakai A, Miyake N¹⁾, Maruyama M²⁾, Miyake K¹⁾, Shimada T¹⁾, Okada T¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Dept Biochem Mol Biol, Nippon Medical School, ²⁾ Div Lab Anim Sci, Nippon Medical School) : Voltage-gated potassium channel modulation by miR-17-92 cluster in the neuropathic pain. 日本神経科学大会 (第 39 回) (パシフィコ横浜), 2016. 7.
- 8) 鈴木智弓¹⁾, 山本真由美¹⁾, 浅川 伸¹⁾, 河野一郎¹⁾, 赤間高雄¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本アンチ・ドーピング機構) : Global DRO JAPAN サイトの利用状況. 日本臨床スポーツ医学会学術集会 (第 27 回) (幕張メッセ), 2016. 11.
- 9) 高須久望子¹⁾, 山本真由美¹⁾, 浅川 伸¹⁾, 河野一郎¹⁾, 赤間高雄¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本アンチ・ドーピング機構) : アンチ・ドーピングを通じたスポーツの価値を基盤とした教育の構築：日本とイギリスのスポーツにおける「フェア/アンフェア」の観点の比較. 日本臨床スポーツ医学会学術集会 (第 27 回) (幕張メッセ), 2016. 11.
- 10) 坂井 敦, 丸山基世¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日医大・実験動物管理室) : Increased extracellular release of miR-21 from injured primary sensory neurons. 日本分子生物学会年会 (第 39 回) (パシフィコ横浜), 2016. 11.
- 11) 齋藤文仁, 鈴木秀典：小脳核苔上線維シナプスのカテコールアミンによる修飾. 日本薬理学会年会 (第 90 回) (長崎ブリックホール), 2017. 3.
- 12) 丸山基世¹⁾, 坂井 敦, 鈴木秀典 (¹⁾ 日医大・実験動物管理室) : 神経障害性疼痛における長鎖ノンコーディング RNA の発現解析. 日本薬理学会年会 (第 90 回) (長崎ブリックホール), 2017. 3.
- 13) 小林克典, 鈴木秀典：電気けいれん刺激によるセロトニン 5-HT₄ 受容体依存性シナプス修飾の増強. 日本生理学会大会 (第 94 回) (アクトシティ浜松), 2017. 3.

(5) 座長・発表：

- 1) Kobayashi K, Suzuki H : Electroconvulsive stimulation enhances hippocampal synaptic modulation mediated by endogenous monoamines. 日本神経科学大会 (第 39 回) (パシフィコ横浜), 2016. 7.
- 2) 齋藤文仁, 鈴木秀典：背側縫線核におけるムスカリン受容体を介した GABA 作動性シナプスの調節. 日本薬理学会関東部会 (第 135 回) (アクトシティ浜松), 2016. 10.

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 鈴木秀典：ドーピング検査の現状と将来. 生物試料分析 2016 ; 39 (2) : 164-168.

8. 解析人体病理学分野

研究概要

基礎研究として、腎、肺、角膜移植の病理を中心に行われた。腎では発生過程におけるラット腎糸球体係蹄の成熟、ラット骨髄移植における腎の急性および慢性 GVHD や血栓性微小血管症、ラット糸球体腎炎における PPAR α 、PPAR γ アゴニストの半月体形成抑制効果、実験的ラット Heymann 腎炎モデル、菲薄基底膜病や IgA 腎症の糸球体係蹄障害に関する研究結果を報告した。さらに液体クロマトグラフ質量分析法の腎生検診断・臨床病理学への応用についても基礎研究結果を報告すると共に各関連学会で積極的に紹介した。肺では上葉優位型肺線維症での新生弾性線維の解析、特発性間質性肺炎の IV 型コラーゲン α 鎖や canstatin の発現の解析結果やリウマチ肺モデルマウスの肺病変と高濃度水素分子水素水の効果、mTOR 阻害薬肺障害における脂質代謝ストレスを介した肺胞上皮傷害の解明など傷害モデルを使った研究結果も報告した。眼病理では、PPAR 分子に着目した炎症抑制効果の検討を継続して行ない、PPAR ファミリー分子の角膜障害モデルでの解析結果を報告した。移植では、腎移植における血管内皮細胞傷害や大型動物を用いた臓器移植モデルの解析結果を報告した。診断病理学に関しては、腎では IgA 腎症前向きコホート研究、IgA 腎症と乾癬性関節炎の合併、糸球体 crystal-storing histiocytosis、EB ウイルス関連 T 細胞増殖性疾患、腎臓移植後 PLA2R 陽性膜性腎症、尿細管間質性腎炎ぶどう膜炎症候群、補体介在性の血栓性微小血管症、monoclonal IgG1- λ 沈着膜性腎症、CRB2 変異ネフローゼ症候群、肺では IgG4 関連肺病変と Castleman 病の肺病変、クリスタル沈着をみた肺の MALT リンパ腫、婦人科病理では線維肉腫様成分を伴う卵巣神経外胚葉性腫瘍について報告した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hashisako M^{1,9)}, Tanakat1) T¹⁾, Terasaki Y, Uekusa T²⁾, Achcar DR³⁾, Aswad IB⁴⁾, Bamefleh SH⁵⁾, Capelozzi LV⁶⁾, English CJ⁷⁾, Fabro TA⁶⁾, Kataoka K⁸⁾, Hayashi T⁹⁾, Kondoh Y⁸⁾, Taniguchi H⁸⁾, Fukuoka J¹⁾ (1) Department of Pathology, Nagasaki University Hospital, (2) Department of Pathology, Japan Labour Health and Welfare Organization, Kanto Rosai Hospital, (3) Division of Pathology, National Jewish Health, Denver, Colorado, (4) Department of Pathology, Rhode Island Hospital, Providence, (5) Department of Pathology and Laboratory Medicine, King Abdullah Medical City, Riyadh, Saudi Arabia, (6) The Faculty of Medicine, University of São Paulo, São Paulo, Brazil, (7) Department of Pathology, Vancouver General Hospital, Vancouver, British Columbia, Canada, (8) Department of Respiratory Medicine and Allergy, Tosei General Hospital, (9) Department of Pathology, Nagasaki Prefecture Shimabara Hospital, (10) and others) : Interobserver Agreement of Usual Interstitial Pneumonia Diagnosis Correlated With Patient Outcome. Arch Pathol Lab Med. 2016 ; 140 (10) : 1375-1382.
- 2) Morikawa M¹⁾, Fukuda Y²⁾, Terasaki Y, Itoh H³⁾, Demura Y⁴⁾, Sasaki M⁵⁾, Imamura Y⁶⁾, Honjo C¹⁾, Umeda Y¹⁾, Anzai M¹⁾, Ameshima S¹⁾, Ishizaki T¹⁾, Ishizuka T¹⁾ (1) Third Department of Internal Medicine Itabashi Chuo Medical Center, Tokyo, Japan, (2) Department of Diagnostic Pathology, Itabashi Chuo Medical Center, Tokyo, Japan, (3) Department of Radiology, University of Fukui Faculty of Medical Sciences, Fukui, Japan, (4) Department of Respiratory Medicine, Japanese Red Cross Fukui Hospital, Fukui, Japan, (5) Division of Thoracic Surgery University of Fukui Hospital, Fukui, Japan, (6) Division of Surgical Pathology, University of Fukui Hospital, Fukui, Japan, (7) Department of Respiratory Medicine, Kanazawa Medical University, Ishikawa, Japan) : Osteogenesis Imperfecta Associated with Dendriiform Pulmonary Ossification. Am J Respir Crit Care Med. 2016 ; 193 : 460-461.
- 3) Noguchi S¹⁾, Saito A^{1,2)}, Mikami Y^{1,3)}, Urushiyama H¹⁾, Horie M¹⁾, Matsuzaki H¹⁾, Takeshima H¹⁾, Makita K¹⁾, Miyashita N¹⁾, Mitani A¹⁾, Jo T^{1,2)}, Yamauchi Y¹⁾, Terasaki Y, Nagase T¹⁾ (1) Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, (2) Division for Health Service Promotion, The University of Tokyo, (3) Department of Clinical Laboratory, The University of Tokyo Hospital) : TAZ contributes to pulmonary fibrosis by activating profibrotic functions of lung fibroblasts. Sci Rep. 2017 ; 7 : 42595-42605.
- 4) Yui S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Imadome K¹⁾, Arai A¹⁾, Takahashi M¹⁾, Ohashi R¹⁾, Tamai H¹⁾, Moriya K¹⁾, Nakayama K¹⁾, Shimizu A, Inokuchi K¹⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School) : Epstein-Barr Virus-positive T-cell lymphoproliferative disease following umbilical cord blood transplantation for acute myeloid leukemia. J Nippon Med Sch. 2016 ; 83 (1) : 35-42.
- 5) Ozaki S¹⁾, Funasaka Y¹⁾, Shimizu A, Kawarasaki M¹⁾, Kanzaki A¹⁾, Matano Y¹⁾, Futagami A¹⁾, Yamaguchi H²⁾, Sugisaki Y³⁾, Saeki H¹⁾ (1) Department of Dermatology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Department of Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Follicular lymphoma presenting follicular papules in the skin : A case report. J Dermatol. 2017 ; 44 (1) : 111-113.

- 6) Miura K¹, Sahara H², Waki S², Kawai A², Sekijima M², Kobayashi T³, Zhang Z³, Wakai T³, Shimizu A, Yamada K⁴
⁽¹⁾ Division of Organ Replacement and Xenotransplantation Surgery, Kagoshima University : Division of Digestive and General Surgery, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ⁽²⁾ Division of Organ Replacement and Xenotransplantation Surgery, Kagoshima University, ⁽³⁾ Division of Digestive and General Surgery, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ⁽⁴⁾ Division of Organ Replacement and Xenotransplantation Surgery, Kagoshima University) : Development of the Intestinal Transplantation Model With Major Histocompatibility Complex Inbred CLAWN Miniature Swine. *Transplant Proc.* 2016 ; 48 (4) : 1315-1319.
- 7) Katafuchi R¹, Kawamura T², Joh K³, Hashiguchi A⁴, Hisano S⁵, Shimizu A, Miyazaki Y², Nagata M⁶, Matsuo S⁷, Iga Nephropathy Study Group In Japan ⁽¹⁾ Kidney Unit, National Fukuoka-Higashi Medical Center, 1-1-1, Chidori, Koga-City, Fukuoka, 811-3195, Japan, ⁽²⁾ Division of Kidney and Hypertension, Department of Internal Medicine, Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ Department of Pathology, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai, Japan, ⁽⁴⁾ Department of Pathology, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁽⁵⁾ Department of Pathology, Faculty of Medicine, Fukuoka University, Fukuoka, Japan, ⁽⁶⁾ Department of Medicine and Clinical Science, Graduate School of Medical Science, Kyushu University, Fukuoka, Japan, ⁽⁷⁾ Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, University of Nagoya, Nagoya, Japan) : Pathological sub-analysis of a multicenter randomized controlled trial of tonsillectomy combined with steroid pulse therapy versus steroid pulse monotherapy in patients with immunoglobulin A nephropathy. *Clin Exp Nephrol.* 2016 ; 20 (2) : 244-52.
- 8) Hisano S¹, Joh K², Katafuchi R³, Shimizu A, Hashiguchi N⁴, Kawamura T⁵, Matsuo S⁶, Iga Nephropathy Study Group In Japan. ⁽¹⁾ Department of Pathology, Faculty of Medicine, Fukuoka University, Nanakuma 7-45-1, Jonan-ku, Fukuoka, 814-0180, Japan., ⁽²⁾ Department of Pathology, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai, Japan., ⁽³⁾ Kidney Unit, National Fukuoka-Higashi Medical Center, Fukuoka, Japan., ⁽⁴⁾ Department of Pathology, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan., ⁽⁵⁾ Division of Kidney and Hypertension, Department of Internal Medicine, Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan., ⁽⁶⁾ Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, University of Nagoya, Nagoya, Japan.) : Reproducibility for pathological prognostic parameters of the Oxford classification of IgA nephropathy : a Japanese cohort study of the Ministry of Health, Labor and Welfare. *Clin Exp Nephrol.* 2017 ; 21 (1) : 92-96.
- 9) Urushiyama U¹, Terasaki Y, Nagasaka S, Kokuho N, Terasaki M, Kunugi S, Mikami Y¹, Noguchi S¹, Horie M¹, Nagahama K, Yamauchi Y¹, Shimizu A, Nagase T¹ ⁽¹⁾ Department of Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan) : Role of canstatin in early fibrotic lesions of idiopathic interstitial pneumonias and migration of lung fibroblasts. *Int J Clin Exp Pathol* 2016 ; 9 (12) : 12714-12722.
- 10) Higashihara T¹, Okada A^{2,3}, Kusano T¹, Ishigaki K⁴, Shimizu A, Takano H¹ ⁽¹⁾ Department of Nephrology, Tokyo Teishin Hospital, ⁽²⁾ Department of Nephrology, Tokyo Teishin Hospital, ⁽³⁾ Division of Nephrology and Endocrinology, The University of Tokyo Graduate School of Medicine, ⁽⁴⁾ Department of Allergy and Rheumatology, The University of Tokyo Graduate School of Medicine) : A novel case of renal pathergy reaction in a Behçet's disease patient complicated by IgA vasculitis. *BMC Nephrol.* 2017 ; 18 (1) : 12714-12722.
- 11) Matsuda Y¹, Hamayasu H¹, Seki A¹, Nonaka K¹, Wang T^{1,2}, Matsumoto T³, Hamano Y⁴, Sumikura H⁵, Kumasaka T⁶, Murayama S⁵, Ishizu A⁷, Shimizu A, Sugihara T³, Arai T^{1,8} ⁽¹⁾ Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, Tokyo, Japan, ⁽²⁾ Department of Pathology, Henan University of Traditional Chinese Medicine, ZhengZhou, China, ⁽³⁾ Department of Rheumatology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, Tokyo, Japan, ⁽⁴⁾ Department of Nephrology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, Tokyo, Japan, ⁽⁵⁾ Department of Neuropathology (Brain Bank for Aging Research), Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Tokyo, Japan, ⁽⁶⁾ Department of Pathology, Japanese Red Cross Medical Center, Tokyo, Japan, ⁽⁷⁾ Faculty of Health Sciences, Hokkaido University, Sapporo, Japan, ⁽⁸⁾ Research Team for Geriatric Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Tokyo, Japan) : Presence of Citrullinated Histone H3-Positive Neutrophils in Microscopic Polyangiitis from the Early Phase : An Autopsy Proven Case. *Pathol Int.* 2016 ; 66 (8) : 466-471.
- 12) Ishida R¹, Shimizu A, Kitani T¹, Nakata M¹, Ota N¹, Kado H¹, Shiotsu Y¹, Ishida M¹, Tamagaki K¹ ⁽¹⁾ Division of Nephrology, Department of Medicine, Kyoto Prefecture University of Medicine, Japan) : Hematopoietic Stem Cell Transplantation Nephropathy Associated with Chronic Graft-versus-Host Disease without Extrarenal Involvement. *Intern Med.* 2016 ; 55 (19) : 2837-2842.
- 13) Pathiraja V¹, Villani V¹, Tasaki M¹, Matar JA¹, Duran-Struuck R¹, Yamada R¹, Moran GS¹, Clayman SE¹, Hanekamp J¹, Shimizu A¹, Sachs HD¹, Huang AC¹, Yamada K¹ ⁽¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA) : Tolerance of Vascularized Islet-Kidney Transplants in Rhesus Monkeys. *Am J Transplant.* 2017 ; 17 (1) : 91-102.

- 14) Ohashi R¹⁾, Fukazawa R²⁾, Watanabe M²⁾, Hashimoto K²⁾, Suzuki N²⁾, Nagi-Miura N³⁾, Ohno N³⁾, Shimizu A, Itoh Y²⁾ (1) Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, (2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Laboratory for Immunopharmacology of Microbial Products, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, Tokyo, Japan) : Characterization of a murine model with arteritis induced by Nod1 ligand, FK565 : a comparative study with a CAWS-induced model. *Mod Rheumatol.* 2017 ; 2 : 1-19.
- 15) Kanzaki A¹⁾, Funasaka Y¹⁾, Nakamizo M²⁾, Shima A³⁾, Ryotokuji T³⁾, Dan K³⁾, Terasaki M, Sugisaki Y, Fukuda Y, Kawana S¹⁾, Saeki H¹⁾ (1) Department of Dermatology, (2) Department of Otorhinolaryngology, (3) Division of Hematology, Department of Internal Medicine) : Extranodal Natural Killer/T-Cell Lymphoma, Nasal Type, with Primary Manifestation as an Upper Eyelid Swelling. *J Nippon Medical School* 2016 ; 83 : 381-389.
- 16) 神崎 剛, 岡林佑典, 清水 章 : シェーグレン症候群とIgG4関連腎臓病の尿管間質性腎炎の相違. *新 膠原病・血管炎の腎障害 東京医学社* 2016 ; 144-153.
- 17) Yamauchi H¹⁾, Bando M¹⁾, Baba T²⁾, Kataoka K³⁾, Yamada Y⁴⁾, Yamamoto H⁵⁾, Miyamoto A⁶⁾, Ikushima S⁷⁾, Johkoh T⁸⁾, Sakai F⁹⁾, Terasaki Y, Hebisawa A¹⁰⁾, Sugiyama Y¹⁾, Ogura T²⁾, et al. (1) Department of Medicine, Jichi Medical University, (2) Department of Respiratory Medicine, Kanagawa Cardiovascular and Respiratory Center, (3) Department of Respiratory Medicine and Allergy, Tosei General Hospital, (4) Department of Respiratory Medicine, JR Tokyo General Hospital, East Japan Railway Company, (5) First Department of Internal Medicine, Shinshu University School of Medicine, (6) Department of Respiratory Medicine, Toranomon Hospital, (7) Department of Respiratory Medicine, Japanese Red Cross Medical Center, (8) Department of Radiology, Kinki Central Hospital of Mutual Aid Association of Public School Teachers, (9) Department of Diagnostic Radiology, Saitama Medical University International Medical Center, (10) and others) : Clinical Course and Changes in High-Resolution Computed Tomography Findings in Patients with Idiopathic Pulmonary Fibrosis without Honeycombing. *PLoS One.* 2016 ; 11 (11) : e01661-e01668.
- 18) Miura Y¹⁾, Saito Y¹⁾, Atsumi K¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Miyanaga A¹⁾, Mizutani H¹⁾, Minegishi Y¹⁾, Noro R¹⁾, Seike M¹⁾, Kunugi S, Kubota K¹⁾, Gemma A¹⁾ (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology) : Interstitial lung disease associated with amrubicin chemotherapy in patients with lung cancer : a single institutional study. *Jpn J Clin Oncol* 2016 ; 46 : 674-680.
- (2) 総説 :
- 1) Kokuho N¹⁾, Terasaki Y, Urushiyama H, Terasaki M, Kunugi S, Morimoto T¹⁾, Azuma A¹⁾, Usuda J²⁾, Gemma A¹⁾, Eishi Y³⁾, Shimizu A (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Thoracic Surgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, (3) Department of Human Pathology, Tokyo Medical and Dental University) : Pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma associated with pulmonary sarcoidosis : a case report and literature review. *Hum Pathol.* 2016 ; 51 : 57-63.
- 2) 寺崎泰弘 : 気道, 肺, 胸膜・縦隔. *集中講義病理学 改訂第2版* 2016 ; 180-193.
- 3) 金光剛史, 清水 章 : 糸球体内皮細胞と蛋白尿. *腎と透析* 2016 ; 81 (1) : 36-41.
- 4) 長濱清隆, 清水 章 : 分子標的薬による腎障害. *病理と臨床* 2016 ; 34 (12) : 1326-1330.
- 5) 大橋隆治¹⁾, 清水 章 (1) 附属病院病理診断科) : 腎生検病理診断の実際とその進歩. *病理と臨床* 2016 ; 34 (12) : 1265-1271.
- 6) 清水 章, 北村博司¹⁾ (1) 国立病院機構千葉東病院臨床病理診断部) : 腎生検病理診断の実際と新たな展開. *病理と臨床* 2016 ; 34 (12) : 1251-1264.
- 7) 清水 章 : 病理からみた間質微小血管障害と尿管間質病変の進展. *腎と透析* 2016 ; 81 (3) : 438-443.
- 8) 岩堀本一, 清水 章 : 多重染色フローサイトメトリー法を用いたANCA関連血管炎, 糸球体腎炎における末梢血免疫細胞解析. *アレルギーの臨床* 2016 ; 36 : 450-457.
- 9) 岡林佑典, 清水 章 : 糸球体腎炎の病理像と疾患分類 : 増殖性炎症による病理像の多様性と疾患分類. *日本腎臓学会誌* 2016 ; 58 (5) : 315-320.
- 10) 勝馬 愛, 清水 章 : 感染症に伴う免疫反応による腎障害. *腎と透析 増大号* 2016 ; 81 (4) : 471-477.
- 11) 長濱清隆, 清水 章 : 分子標的薬による腎障害. *病理と臨床* 2016 ; 34 : 1326-1330.
- 12) 岡林佑典, 清水 章 : 老化に伴う腎組織変化. *腎臓内科・泌尿器科* 2016 ; 3 (4) : 315-320.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 國保成暁, 功刀しのぶ, 寺崎美佳, 漆山博和, 寺崎泰弘 : mTOR 阻害薬肺障害における脂質代謝ストレスを介した肺胞上皮傷害の解析. *厚生労働省難治性疾患政策研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究 平成 28 年度研究報告書* 2016.
- (4) 診療ガイドライン :
- 1) 長濱清隆, 清水 章 : ANCA 関連血管炎の病理組織. *ANCA 関連血管炎 診療ガイドライン* 2017.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) Shimizu A : Pathology of renal transplantation : Endothelial cell injury in renal transplant pathology. Advanced course on renal pathology and nephrology (Hanoi, Vietnam), 2016. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) 寺崎泰弘：私たちは間質性肺炎をこのように診断，治療している セッション 2：慢性経過の間質性肺炎病理. 日本画像医学会（第 36 回），2017. 2.
- 2) 寺崎泰弘：fibrosing OP の病理所見. 大阪呼吸器シンポジウム（第 9 回），2016. 8.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 福永 恵¹⁾，長濱清隆⁽¹⁾ 豊中けいじん会クリニック）：腎再生検を施行した，Apolipoprotein E 変異を伴う分類不能慢性糸球体腎炎の 1 症例. 日本腎臓学会学術総会（第 59 回），2016. 6.

(4) セミナー：

- 1) Shimizu A, Tagawa M, Nagahama K : Pathology of nephrotic syndrome in children. The 14th China-Japan-Korea Pediatric Nephrology Seminar (Beijing), 2016. 5.
- 2) 寺崎泰弘：慢性過敏性肺炎 (chronic hypersensitivity pneumonitis, CHP) の病理所見. 東京びまん性肺疾患研究会（第 17 回），2016. 10.

(5) ワークショップ：

- 1) 清水 章：Renal diseases with monoclonal immunoglobulin deposition に含まれる疾患群. 日本病理学会総会（第 105 回），2016. 5.

(6) 一般講演：

- 1) 梶本雄介，青木路子，金光剛史，岡林佑典，肥後清一郎¹⁾，永坂真也，康 徳東，益田幸成，長濱清隆，清水 章⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 腎臓内科）：菲薄基底膜病における糸球体係蹄障害. 日本比較病理学研究会（第 5 回），2017. 2.
- 2) Shimizu A : Pathology of lupus nephritis : pathology and classifications. Advanced course on renal pathology and nephrology (Hanoi, Vietnam), 2016. 11.
- 3) 梶本雄介，青木路子，金光剛史，岡林佑典，肥後清一郎¹⁾，永坂真也，康 徳東，益田幸成，長濱清隆，清水 章⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 腎臓内科）：菲薄基底膜病における糸球体係蹄障害と臨床病理学的検討. 氷川フォーラム（第 10 回），2016. 11.
- 4) 漆山博和¹⁾，寺崎泰弘，國保成暁，功刀しのぶ，山内康宏¹⁾，長瀬隆英¹⁾（¹⁾ 東京大学医学部附属病院呼吸器内科）：間質性肺炎の早期線維化巣における IV 型コラーゲン由来血管新生抑制因子 (canstatin) の産生とその機能についての解析. 日本呼吸器学会学術講演会（第 56 回），2016. 4.
- 5) Kokuho N, Terasaki Y, Terasaki M, Kunugi S, Hebisawa A¹⁾, Kawabata Y²⁾, Fukuda Y, Shimizu A⁽¹⁾ NHO Tokyo National, Division of Clinical Pathology Tokyo, Japan, ²⁾ Saitama Prefectural Cardiovascular, Respiratory Center, Division of Diagnostic Pathology, Saitama, Japan) : Comparative Analysis of Lung Lesions of Systemic IgG4-Related Disease and Idiopathic Multicentric Castleman's Disease. USCAP (United States and Canadian Academy of Pathology) Annual Meeting (San Antonio), 2017. 3.
- 6) 國保成暁，功刀しのぶ，寺崎泰弘，漆山博和，寺崎美佳，羽鳥 努¹⁾，清水 章⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理診断科・病理部）：肺 MALT リンパ腫に合併した肺限局性 crystal-storing histiocytosis の 1 例. 日本病理学会（第 105 回），2016. 5.
- 7) 國保成暁，寺崎泰弘，齋藤好信¹⁾，功刀しのぶ，寺崎美佳，弦間昭彦¹⁾，清水 章⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科学）：mTOR 阻害薬肺障害における肺胞上皮での脂肪毒性障害の検討. 日本医科大学医学会総会（第 84 回），2016. 9.
- 8) Kokuho N, Kunugi S, Onda N^{1,2)}, Urushiyama H, Terasaki M, Azuma A, Hino M²⁾, Gemma A¹⁾, Terasaki Y⁽¹⁾ Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Respiratory Disease Center, Japan) : Localized pulmonary crystal-storing histiocytosis complicating pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma. Transbronchial lung biopsy study was key step for final diagnosis. ATS (American Thoracic Society) International Conference (San Francisco), 2016. 5.
- 9) Terasaki M, Terasaki Y, Kunugi S, Kokuho N, Nagahama K, Urushiyama H, Kajimoto Y, Shimizu A : A case of sarcomatoid mesothelioma with osteosarcomatous element of the pleura : high expression of receptor activator of nuclear factor kappa B ligand (RANKL). American Thoracic Society (San Francisco), 2016. 5.
- 10) 米山剛一¹⁾，寺崎美佳，川瀬里衣子²⁾，山本晃人²⁾，黒瀬圭輔²⁾，竹下俊行²⁾（¹⁾ 武蔵小杉病院 女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学病院 女性診療科・産科）：組織学的に破骨細胞様巨細胞が特徴的であった子宮平滑筋肉腫の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会（第 58 回），2016. 7.
- 11) Aratani S¹⁾，Mii A¹⁾，Yuzawa R¹⁾，Miyamoto D¹⁾，Sowa K²⁾，Morita M¹⁾，Kumagai T²⁾，Sakai Y¹⁾，Shimizu A, Tsuruoka S¹⁾（¹⁾ Department of Nephrology, ²⁾ Department of Neurological Science) : LONG-TERM COMPLETE REMISSION IN A PATIENT

- OF FOCAL SEGMENTAL GLOMERULOSCLEROSIS ASSOCIATED WITH GUILLAIN-BARRE SYNDROME. The 15th Asian Pacific Congress of Nephrology (Perth), 2016. 9.
- 12) 仲野裕一郎¹⁾, 有馬武志¹⁾, 内山昌明¹⁾, 清水 章, 高橋 浩¹⁾ (1) 感覚器視覚機能医学 (眼科学) : ラット眼球の PPAR (peroxisome proliferator-activated receptors) α , γ の局在. 日本眼科学会総会 (第 120 回), 2016. 4.
 - 13) 有馬武志¹⁾, 仲野裕一郎¹⁾, 内山昌明¹⁾, 清水 章, 高橋 浩¹⁾ (1) 眼科 : peroxisome proliferator-activated receptor のラット眼球での局在. 日本病理学会 (第 105 回), 2016. 4.
 - 14) Kanemitsu T, Higo S¹⁾, Okabayashi Y, Aoki M, Dedong K, Kajimoto Y, Nagahama K, Shimizu A (1) The Division of Nephrology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Development of experimental model of renal thrombotic microangiopathy in rat allogeneic bone marrow transplantation. The American Society of Nephrology (Kidney Week 2016), 2016. 11.
 - 15) Katagiri D¹⁾, Wang F¹⁾, Nagasaka S¹⁾, Li H¹⁾, Wang S¹⁾, Takahashi K¹⁾, Zhang M¹⁾, Shimizu A, Harris R¹⁾, Takahashi T¹⁾ (1) Division of Nephrology, Vanderbilt Univ, Nashville) : Quantitative Magnetization Transfer Imaging to Evaluate Renal Fibrosis in Mouse Diabetic Nephropathy. ASN Kidney Week 2016 (Chicago), 2016. 11.
 - 16) Kanemitsu T, Okabayashi Y, Aoki M, Kajimoto Y, Nagahama K, Shimizu A : Development of Experimental Model of Renal Thrombotic Microangiopathy in Rat Allogeneic Bone Marrow Transplantation. ASN Kidney Week 2016 (Chicago), 2016. 11.
 - 17) Aoki M, Kang D, Katsuma A, Okabayashi Y, Kanemitsu T, Kajimoto Y, Nagahama K, Shimizu A : The Diagnosis of Renal Amyloidosis Using Laser Microdissection and Liquid Chromatography-Mass Spectrometry. ASN Kidney Week 2016 (Chicago), 2016. 11.
 - 18) 金光剛史, 肥後清一郎¹⁾, 岡林佑典, 青木路子, 康 徳東, 梶本雄介, 長濱清隆, 清水 章 (1) 千葉北総病院腎臓内科) : 骨髄移植後血栓性微小血管症 (TMA) の動物モデルの開発. 日本病理学会 (第 105 回), 2016. 5.
 - 19) Kajimoto Y, Kanemitsu T, Aoki M, Okabayashi Y, Nagasaka S, Kang D, Shimizu A, Nagahama K : Injuries of Glomerular Capillaries and Basement Membrane May Be Involved in Renal Dysfunction in Thin Basement Membrane Disease. ASN Kidney Week 2016 (Chicago), 2016. 11.
 - 20) 金光剛史, 肥後清一郎¹⁾, 岡林佑典, 青木路子, 康 徳東, 梶本雄介, 長濱清隆, 清水 章 (1) 千葉北総病院腎臓内科) : 骨髄移植後血栓性微小血管症 (TMA) の動物モデルの開発. 日本腎臓学会総会 (第 59 回), 2016. 6.
 - 21) Kanzaki G¹⁾, Puelles V²⁾, Cullen-McEwen L²⁾, Hoy W¹⁾, Okabayashi Y, Tsuboi N¹⁾, Shimizu A, Yokoo T¹⁾, Bertram J²⁾ (1) Dept of Internal Medicine, The Jikei Univ School of Medicine, Japan, 2) Dept of Anatomy and Developmental Biology, Monash Univ, Australia) : Low Nephron Number in Japanese Subjects Without Overt Renal Disease : The Effect of Race and Hypertension. ASN Kidney Week 2016 (Chicago), 2016. 11.
 - 22) 梁 非, 康 徳東, 蘭 平, 梶本雄介, 永坂真也, 長濱清隆, 清水 章 : ラット発生過程における腎糸球体係蹄の成熟. 日本比較病理学研究会 (第 5 回), 2017. 2.
 - 23) 蘭 平, 康 徳東, 梁 非, 永坂真也, 長濱清隆, 清水 章 : 実験的ラット Heymann 腎炎モデルにおける腎糸球体係蹄基底膜傷害. 日本比較病理学研究会 (第 5 回), 2017. 2.
 - 24) Kanzaki G¹⁾, Puelles V²⁾, Cullen-McEwen L²⁾, Okabayashi Y, Tsuboi N¹⁾, Shimizu A, Yokoo T¹⁾, Bertram J²⁾ (1) The Jikei Univ School of Medicine, Japan, 2) Dept of Anatomy and Developmental Biology, Monash Univ, Australia) : A Clinical Perspective of Glomerular Hyperfiltration in Health and Disease. ASN Kidney Week 2016 (Chicago), 2016. 11.
 - 25) 康 徳東, 青木路子 : 腎疾患における液体クロマトグラフィータンデム型質量分析の実際. 日本腎病協研究会 (第 15 回), 2017. 1.
 - 26) Ishimoto Y¹⁾, Nangaku M¹⁾, Kugita M¹⁾, Nagao S²⁾, Shimizu A, Zhou J³⁾, Inagi R¹⁾ (1) Nephrology and Endocrinology, Tokyo Univ, Tokyo, Japan, 2) Education and Research Center of Animal Models for Human Diseases, Fujita Health Univ, Aichi, Japan, 3) Center for Polycystic Kidney Disease Research and Renal Div, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, Cambridge, USA) : Mitochondrial Dysfunction Contributes to Cyst Proliferation of Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease. ASN Kidney Week 2016 (Chicago), 2016. 11.
 - 27) Okabayashi Y, Kanzaki G, Katsuma A, Kanemitsu T, Aoki M, Kajimoto Y, Kang D, Nagahama K, Shimizu A : PPAR α and PPAR γ Attenuate the Anti-Glomerular Basement Membrane Glomerulonephritis Through the Actions on the Different Inflammatory Cells, T Cells and Macrophages. ASN Kidney Week 2016 (Chicago), 2016. 11.
 - 28) 康 徳東, 青木路子, 新井孝司, 寺崎美佳, 桑原尚美, 金光剛史, 岡林佑典, 梶本雄介, 長濱清隆, 清水 章 : 液体クロマトグラフ質量分析法により腎生検の糸球体に蓄積されたアミロイド前駆蛋白の発現. 日本病理学会総会 (第 105 回), 2016. 5.
 - 29) Higashihara T¹⁾, Okada A¹⁾, Shimizu A, Takano H¹⁾ (1) Nephrology, Tokyo Teishin Hospital, Tokyo, Japan) : A Novel Case of Renal Pathergy Reaction in a Behçet's Disease Patient Complicated by IgA Vasculitis. ASN Kidney Week 2016 (Chicago), 2016. 11.

- 30) 樋口真一¹⁾, 柳 智貴¹⁾, 川井沙記¹⁾, 桂川史子¹⁾, 七松 東¹⁾, 矢嶋 優¹⁾, 安藝昇太¹⁾, 青柳 誠¹⁾, 田中啓之¹⁾, 長濱清隆¹⁾ (横須賀共済病院腎臓内科): 播種性カンジダ血症に至った慢性透析患者の1例. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回), 2016. 10.
- 31) 梶本雄介, 益田幸成, 肥後清一郎, 神崎 剛, 永坂真也, 長濱清隆, 清水 章: 菲薄基底膜病における糸球体係蹄障害を含めた臨床病理学的検討. 日本病理学会総会(第105回), 2016. 5.
- 32) 源馬 拓¹⁾, 大石真理子¹⁾, 平井俊行¹⁾, 藤井徹郎¹⁾, 長濱清隆¹⁾ (平塚共済病院腎臓内科): IgA腎症に対するステロイドパルス療法中に霧視を呈し, 多発性後極部網膜色素上皮症の診断に至った1例. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回), 2016. 10.
- 33) 長濱清隆: 質量分析の腎生検への応用. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回), 2016. 10.
- 34) 岡林佑典, 神崎 剛, 金光剛史, 青木路子, 梶本雄介, 康 徳東, 永坂真也, 長濱清隆, 清水 章: 抗糸球体基底膜腎炎ラットにおけるPPAR α , PPAR γ アゴニストの半月体形成抑制効果についての研究. 日本病理学会総会(第105回), 2016. 5.
- 35) 船越俊貴¹⁾, 平野良隆¹⁾, 荒川裕輔¹⁾, 平間章郎¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 酒井行直¹⁾, 清水 章, 鶴岡秀一¹⁾ (日本医科大学付属病院腎臓内科): 腎生検にてコレステロール塞栓が発見されたANCA関連血管炎の1例. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回), 2016. 10.
- 36) 有馬武志¹⁾, 仲野祐一郎¹⁾, 内山昌明¹⁾, 清水 章, 高橋 浩¹⁾ (眼科学): Peroxisome proliferator activated receptorのラット眼球での局在. 日本病理学会総会(第105回), 2016. 5.
- 37) 青木路子, 康 徳東, 新井孝司, 寺崎美佳, 桑原尚美, 金光剛史, 岡林佑典, 梶本雄介, 長濱清隆, 清水 章: 液体クロマトグラフ質量分析法により同定される重鎖と軽鎖アミロイドシスの臨床病理学的比較. 日本病理学会総会(第105回), 2016. 5.
- 38) 康 徳東, 青木路子, 新井孝司, 寺崎美佳, 桑原尚美, 金光剛史, 岡林佑典, 梶本雄介, 長濱清隆, 清水 章: 液体クロマトグラフ質量分析法により腎生検の糸球体に蓄積されたアミロイド前駆蛋白の発現. 日本病理学会総会(第105回), 2016. 5.
- 39) 長濱清隆, 高野秀樹¹⁾, 東原崇明¹⁾, 康 徳東, 青木路子, 梶本雄介, 岡林佑典, 金光剛史, 北村博司²⁾, 清水 章¹⁾ (東京通信病院腎臓内科, ²⁾ 国立千葉東病院 臨床研究センター腎病理研究部): 腎生検にて悪性リンパ腫 (IVLBCL) が明らかとなった2例. 日本病理学会総会(第105回), 2016. 5.
- 40) 青木路子, 康 徳東, 新井孝司, 寺崎美佳, 桑原尚美, 金光剛史, 岡林佑典, 梶本雄介, 長濱清隆, 清水 章: 液体クロマトグラフ質量分析法を用いた重鎖と軽鎖アミロイドシスの臨床病理学的比較. 日本腎臓学会学術総会(第59回), 2016. 6.
- 41) 新井桃子¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 酒井行直²⁾, 清水 章, 鶴岡秀一¹⁾ (日本医科大学付属病院腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院): 妊娠中にネフローゼ症候群を合併し, Focal Segmental Glomerulosclerosisと診断された1例. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回), 2016. 10.
- 42) 康 徳東, 青木路子, 新井孝司, 寺崎美佳, 桑原尚美, 金光剛史, 岡林佑典, 梶本雄介, 長濱清隆, 清水 章: 液体クロマトグラフ質量分析法により腎糸球体に沈着したアミロイド前駆蛋白の発現. 日本腎臓学会学術総会(第59回), 2016. 6.
- 43) 功刀しのぶ, 寺崎泰弘, 呉 壮香¹⁾, 許田典男²⁾, 國保成暁, 寺崎美佳, 清水 章¹⁾ (日本医科大学統御機構診断病理学, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理診断科): 血液疾患に2次性肺胞蛋白症を呈した剖検肺2症例の検討. 日本病理学会総会(第105回), 2016. 5.
- 44) 松村実美子¹⁾, 宇仁理恵¹⁾, 東原崇明¹⁾, 清水 章, 高野秀樹¹⁾ (東京通信病院腎臓内科): 急速進行性糸球体腎炎との鑑別に苦慮した高血圧緊急症の病理学的検討とその予後. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回), 2016. 10.
- 45) 田口慎也¹⁾, 東原崇明¹⁾, 松村実美子¹⁾, 宇仁理恵¹⁾, 清水 章, 高野秀樹¹⁾ (東京通信病院腎臓内科): ネフローゼ症候群を伴うIgA血管炎に対し, 血漿交換療法を含む集学的治療にて軽快した1例. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回), 2016. 10.
- 46) 梶本雄介, 肥後清一郎, 神崎 剛, 永坂真也, 長濱清隆, 益田幸成, 清水 章: 菲薄基底膜病における糸球体係蹄障害を含めた臨床病理学的検討. 日本腎臓学会学術総会(第59回), 2016. 6.
- 47) Endoh I¹⁾, Endoh Y²⁾, Kawaguchi N¹⁾, Katayama H³⁾, Kunugi S, Nakagomi A¹⁾, Shimizu W²⁾, Kusama Y¹⁾, Geczy LC⁴⁾ (Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, ⁴⁾ School of Medical Sciences, Faculty of Medicine, University of New South Wales, Sydney, Australia): Induction of S100A8 in M2 Macrophages: A new Mechanism Mediating Anti-inflammatory Effects. 日本循環器学会学術集会(第81回), 2017. 3.
- 48) 金光剛史, 肥後清一郎, 岡林佑典, 青木路子, 康 徳東, 梶本雄介, 長濱清隆, 清水 章: 骨髄移植後血栓性微小血管症 (TMA) の動物モデルの開発. 日本腎臓学会学術総会(第59回), 2016. 6.
- 49) 神田祥一郎¹⁾, 堀田 茂²⁾, 柳原 剛³⁾, 秋岡祐子⁴⁾, 新田孝作⁵⁾, 清水 章, 服部元史⁴⁾ (東京大学小児科, ²⁾ 東京女子医科大学腎臓センター病理部, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ⁴⁾ 東京女子医科大学腎臓小児科, ⁵⁾ 東京女子医科大学第四内科): 小児膜性腎症症例における原因抗原の検討. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回), 2016. 10.
- 50) 田口慎也¹⁾, 東原崇明¹⁾, 宇仁理恵¹⁾, 松村実美子¹⁾, 清水 章, 高野秀樹¹⁾ (東京通信病院): 腎生検によってのみ診断し得た, 血管内大細胞型B細胞リンパ腫の1症例. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回), 2016. 10.
- 51) 谷 崇¹⁾, 藤原めぐみ²⁾, 片山 映²⁾, 岡本 研²⁾, 清水 章, 折茂英生²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (日本医科大学付属病院腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学大学院代謝・栄養学): キサンチンオキシダーゼ阻害薬による腎保護効果の機構解明. 日本腎臓学会学術総会(第59回),

2016. 6.

- 52) 石本 遊¹⁾, 南学正臣¹⁾, 吉原大輔³⁾, 釘田雅則³⁾, 長尾静子³⁾, 清水 章, Zhou J⁴⁾, Murphy M⁵⁾, 中谷嘉寿⁶⁾, 稲城玲子²⁾ (1) 東京大学腎臓内分泌内科, 2) 東京大学CKD病態生理学, 3) 藤田保健衛生大学疾患モデル教育研究センター, 4) Center for Polycystic Kidney Disease Research and Renal Division, Department of Medicine, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, 5) Affiliations: MRC Mitochondrial Biology Unit, Hills Road, Cambridge, 6) 近畿大学腎臓内科): ミトコンドリア機能異常は多発性嚢胞腎の嚢胞形成に関与する. 日本腎臓学会学術総会 (第59回), 2016. 6.
- 53) 上原正樹¹⁾, 川口武彦¹⁾, 山川貴史²⁾, 熊倉 慧¹⁾, 岡田絵里¹⁾, 首村守俊¹⁾, 康 徳東, 清水 章, 北村博司³⁾, 今澤俊之¹⁾ (1) 千葉東病院内科, 2) 東京慈恵医大腎臓・高血圧内科, 3) 千葉東病院病理): 質量分析により重鎖軽鎖(AHL)型アミロイドーシスの診断に至った1例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第46回), 2016. 10.
- 54) 宇田川智宏¹⁾, 徐 東博²⁾, 柳原 剛²⁾, 清水 章, 張田 豊¹⁾ (1) 東京大学小児科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の原因としてのCRB2変異. 日本腎臓学会東部学術大会 (第46回), 2016. 10.
- 55) 宮城泰雄¹⁾, 川瀬康裕¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 青山純也¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 森嶋素子¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 佐々木孝¹⁾, 石井庸介¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾, 功刀しのぶ, 清水 章 (1) 心臓血管外科): CIED関連腫瘍の病理学的検討: 感染/非感染症例の疣腫組成に基づく新たな治療戦略への提言. 植込みデバイス関連冬季大会 (第9回), 2017. 2.
- 56) 野口智史¹⁾, 齋藤 朗¹⁾, 三上 優¹⁾, 漆山博和¹⁾, 寺崎泰弘, 堀江真史¹⁾, 松崎博崇¹⁾, 竹島英之¹⁾, 横田広佑¹⁾, 三谷 明¹⁾, 山内康宏¹⁾, 長瀬隆英¹⁾ (1) 東京大学 呼吸器内科): Hippo pathway の構成因子であるTAZの肺線維症における役割. 日本呼吸器学会学術講演会 (第56回), 2016. 4.
- 57) 功刀しのぶ, 國保成暁, 寺崎泰弘: 検討を要する肺扁平上皮癌の1例. 呼吸器病理研究会 (第50回), 2017. 1.
- 58) 柏田 建¹⁾, 阿部信二¹⁾, 蛸井浩行¹⁾, 渥美健一郎¹⁾, 林 宏紀¹⁾, 藤田和恵¹⁾, 齋藤好信¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 久保田馨¹⁾, 國保成暁, 寺崎泰弘, 吾妻安良太¹⁾ (1) 呼吸器内科): 金属加工業者に発症し, DLST, HLA-DPB1 アレルより診断した慢性ペリリウム肺の1例. 東京サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会 (第183回), 2016. 6.
- 59) 岡本彬美¹⁾, 田村秀樹²⁾, 清水 渉³⁾, 林 洋史³⁾, 杉谷 巖⁴⁾, 五十嵐健人⁴⁾, 寺崎泰弘, 原田太郎¹⁾, 福田いづみ¹⁾, 杉原 仁¹⁾ (1) 内分泌内科, 2) 田村医院, 3) 心臓血管集中治療科, 4) 内分泌外科): 血圧と脈拍の周期性変動を来した褐色細胞腫クリーゼの1例. 臨床内分泌代謝 Update (第26回), 2016. 11.
- 60) 竹ヶ原京志郎¹⁾, 佐藤 明¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 井上達哉¹⁾, 石角太一郎¹⁾, 寺崎泰弘, 清水 章, 平田知己¹⁾, 白田実男 (1) 日本医科大学附属病院呼吸器外科): 硬性鏡下腫瘍摘出後に二期的に手術を施行した, DIPNECHを伴うatypical carcinoidの1例. 日本呼吸器内視鏡学会学術集会 (第39回), 2016. 6.
- 61) 橋迫美貴子¹⁾, 田中伴典¹⁾, 田畑和宏¹⁾, 植草利公²⁾, 寺崎泰弘, 林徳真吉¹⁾, 谷口博之³⁾, 近藤康博³⁾, 片岡健介³⁾, 福岡順也¹⁾ (1) 長崎大学医学部病理, 2) 関東労災病院病理部, 3) 陶生病院呼吸器内科): 2011年ATS/ERS/JRS/ALATのIPFガイドラインを用いた診断一致率の検討 (Inter-Observer Agreement of Usual Interstitial Pneumonia Diagnosis Correlated with Patient Outcome). 日本病理学会 (第105回), 2016. 5.
- 62) 柏田 建¹⁾, 根井貴仁¹⁾, 齋藤好信¹⁾, 中山幸治¹⁾, 渥美健一郎¹⁾, 林 宏紀¹⁾, 藤田和恵¹⁾, 久保田馨¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 國保成暁, 功刀しのぶ, 寺崎泰弘, 弦間昭彦¹⁾ (1) 呼吸器内科): 当院における抗ARS抗体陽性間質性肺炎の臨床病理学的検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第56回), 2016. 4.
- 63) Terasaki Y, Kokuho N, Terasaki M, Kunigi S, Urushiyama H, Maruyama M¹⁾, Akimoto T¹⁾, Kanazawa S²⁾, Shimizu A (1) Division of Laboratory Animal Science, 2) Department of Molecular and Cellular Biology, Nagoya City University): The process of development of lung fibrosis in the Rheumatoid Arthritis lung model and the effect of H2 treatment in DICC mice. ATS (American Thoracic Society) International Conference 2016 (San Francisco), 2016. 5.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 寺崎泰弘: びまん性肺疾患の分類と診断「病理診断と問題点」特集ここまで進んだ! びまん性肺疾患の診断と治療. 臨床雑誌内科 2016; 117 (2): 205-209.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 鄒 奮飛^{1,2)}, Cheol-Hong K¹⁾, 清家正博¹⁾, 野呂林太郎¹⁾, 功刀しのぶ, 久保田馨¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (1) 日本医科大学 呼吸器内科, 2) 江蘇泰州市市民病院内科 中国): 肺腺癌のバイオマーカー探索. 学校法人日本医科大学外国人留学生研究会 (第26回), 2016. 2.
- 2) 寺崎泰弘, 國保成暁, 漆山博和, 寺崎美佳, 功刀しのぶ, 大澤郁朗¹⁾, 金沢 智²⁾, 清水 章 (1) 東京都健康長寿医療センター研究

所生体環境応答研究, ²⁾ 名古屋市立大学大学院細胞分子生物学) : リウマチ肺モデル D1CC マウスの肺病変の病理形態学的に解析と高濃度水素分子 (H₂) 水飲水の病変に対する効果. 日本分子状水素医学生物学会 (第 6 回), 2015. 5.

- 3) 寺崎泰弘, 國保成暁, 寺崎美佳, 功刀しのぶ, 桑原尚美, 比島恒和¹⁾, 井上幸治²⁾, 橋本 潔³⁾, 西岡安彦⁴⁾, 清水 章 ¹⁾ 都立駒込病院病理部, ²⁾ 大阪大学大学院 呼吸器・免疫アレルギー内科学, ³⁾ 鳥取大学医学部 分子制御内科学, ⁴⁾ 徳島大学大学院 呼吸器・膠原病内科学分野) : 特発性と骨髄移植後の弾性線維増生 (PPFE 型) 肺線維症病変の病理学的特徴と弾性線維関連病態の UIP 型病変との比較. 日本病理学会総会 (第 105 回), 2015. 5.

9. 統御機構診断病理学分野

研究概要

統御機構診断病理学分野では、消化器をはじめ、子宮・卵巣、甲状腺、皮膚、唾液腺などの腫瘍において、分子病理学的・細胞生物学的解析やオミックス解析による遺伝子やタンパク質の発現変化と局在の検討から、腫瘍の発生・進展に関わる分子の同定や新規の診断法さらに分子標的治療法の開発を目指している。平成28年度の業績の概略は以下の通りである。①膵臓癌：癌幹細胞マーカー、各種増殖因子やRNA結合蛋白質の前癌病変や癌細胞での発現の意義について検討している。また2-deoxy-D-glucose (2DG)の抗腫瘍効果の機序についても解析を進めている。②大腸癌：薬剤耐性に関与する分子の発現変化とその機序の解明や、オミックス解析により腫瘍の診断に有用な分子の網羅的解析を進めている。③肝細胞癌：オミックス解析により腫瘍増殖に関与する分子やその機序、治療標的としての有用性を検討している。④胃癌：オミックス解析で得られた標的分子の発現と局在から、胃癌の進展を抑制する新たな治療標的の創出を目指している。⑤神経内分泌腫瘍：増殖に関連する分子の同定と培養細胞を用いた実験的治療を目指して検討を進めている。⑥卵巣癌：オミックス解析により発癌や治療抵抗性に関わる分子の同定を進めている。明細胞癌では、早期発見や癌の進展抑制の可能性がある分子を同定し、臨床応用をめざして検討を進めている。⑦皮膚腫瘍：RNA結合蛋白質の発現や関連分子の発現解析を行い、鑑別診断への有効性や関連分子の機能につき解析を進めている。⑧甲状腺癌：腫瘍の発生・進展に係わる分子の発現や変異について解析している。⑨唾液腺腫瘍：多形腺腫由来癌でのRNA結合蛋白質とその関連分子の発現変化と機能について解析している。⑩乳癌：増殖や転移に関わる分子機構を解析している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takata H^{1,2)}, Kudo M²⁾, Yamamoto T³⁾, Ueda J¹⁾, Ishino K²⁾, Peng WX²⁾, Tani N¹⁾, Yoshida H¹⁾, Uchida E¹⁾, Naito Z²⁾ ⁽¹⁾ Dept. of Gastrointestinal Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, ⁽²⁾ Dept. of Integrated Diagnostic Pathology, ⁽³⁾ Faculty of Pharmacy, Kinki University, Osaka) : Increased expression of PDIA3 and its association with cancer cell proliferation and poor prognosis in hepatocellular carcinoma. *Oncol Lett.* 2016 ; 12 (6) : 4896-4904.
- 2) Matsumoto NM¹⁾, Aoki M¹⁾, Nakao J¹⁾, Peng WX²⁾, Takami Y¹⁾, Umezawa H¹⁾, Akaishi S¹⁾, Ohashi R³⁾, Naito Z²⁾, Ogawa R¹⁾ ⁽¹⁾ Dept. of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, ⁽²⁾ Dept. of Integrated Diagnostic Pathology, ⁽³⁾ Division of Pathology, NMSH) : Experimental Rat Skin Flap Model That Distinguishes between Venous Congestion and Arterial Ischemia : The Reverse U-Shaped Bipedicled Superficial Inferior Epigastric Artery and Venous System Flap. *Plast Reconstr Surg.* 2017 ; 139 (1) : 79e-84e.
- 3) Tomori Y¹⁾, Ohashi R²⁾, Naito Z^{2,3)}, Nanno M¹⁾, Takai S¹⁾ ⁽¹⁾ Dept. of Orthopaedic Surgery, NMSH, ⁽²⁾ Dept. of Diagnostic Pathology, NMSH, ⁽³⁾ Dept. of Integrated Diagnostic Pathology) : Florid reactive periostitis in the fifth phalange of a professional boxer : A case report. *Medicine (Baltimore)* 2016 ; 95 (51) : e5697.
- 4) Ohashi R¹⁾, Hayama A¹⁾, Yanagihara K²⁾, Yamashita K²⁾, Sakatani T^{1,3)}, Takei H²⁾, Naito Z^{1,3)} ⁽¹⁾ Dept. of Diagnostic Pathology, NMSH, ⁽²⁾ Dept. of Breast Surgery, NMSH, ⁽³⁾ Dept. of Integrated Diagnostic Pathology) : Prognostic significance of mucin expression profiles in breast carcinoma with signet ring cells : a clinicopathological study. *Diagn Pathol.* 2016 ; 11 (1) : 131.
- 5) Wada R¹⁾, Yagihashi S²⁾, Naito Z¹⁾ ⁽¹⁾ Dept. of Integrated Diagnostic Pathology, ⁽²⁾ Dept. of Pathology and Molecular Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Aomori) : mRNA expression of delta-HER2 and its clinicopathological correlation in HER2-overexpressing breast cancer. *Mol Med Rep.* 2016 ; 14 (6) : 5104-5110.
- 6) Yamamoto T¹⁾, Kudo M, Peng WX, Takata H²⁾, Takakura H¹⁾, Teduka K, Fujii T, Mitamura K¹⁾, Taga A¹⁾, Uchida E²⁾, Naito Z ⁽¹⁾ Pathological and Biomolecule Analyses Laboratory, Faculty of Pharmacy, Kindai University, Osaka, ⁽²⁾ Dept. of Gastrointestinal Hepato Biliary Pancreatic Surgery) : Identification of aldolase A as a potential diagnostic biomarker for colorectal cancer based on proteomic analysis using formalin-fixed paraffin-embedded tissue. *Tumour Biol.* 2016 ; 37 (10) : 13595-13606.
- 7) Wada R, Arai H, Kure S, Peng WX, Naito Z : "Wild type" GIST : Clinicopathological features and clinical practice. *Pathol Int.* 2016 ; 66 (8) : 431-7.
- 8) Ohashi R¹⁾, Kawahara K²⁾, Fujii T²⁾, Takei H³⁾, Naito Z^{1,2)} ⁽¹⁾ Dept. of Pathology, NMSH, ⁽²⁾ Dept. of Integrated Diagnostic Pathology, ⁽³⁾ Division of Breast Surgery, NMSH) : Higher expression of EpCAM is associated with poor clinical and pathological responses in breast cancer patients undergoing neoadjuvant chemotherapy. *Pathol Int.* 2016 ; 66 (4) : 210-7.
- 9) Sumiyoshi H¹⁾, Matsushita A¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Matsuda Y²⁾, Ishiwata T²⁾, Naito Z, Uchida E¹⁾ ⁽¹⁾ Dept. of Gastrointestinal

and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, ²⁾ Dept. of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Suppression of STAT5b in pancreatic cancer cells leads to attenuated gemcitabine chemoresistance, adhesion and invasion. *Oncol Rep.* 2016 ; 35 (6) : 3216-26.

- 10) Ohashi R¹⁾, Sakatani T^{1, 2)}, Matsubara M¹⁾, Watarai Y¹⁾, Yanagihara K³⁾, Yamashita K³⁾, Tsuchiya S^{1, 4)}, Takei H³⁾, Naito Z^{1, 2)} (¹⁾ Dept. of Diagnostic Pathology, NMSH, ²⁾ Dept. of Integrated Diagnostic Pathology, ³⁾ Division of Breast Surgery, NMSH, ⁴⁾ Dept. of Diagnostic Pathology, Iida Hospital, Nagano) : Mucinous carcinoma of the breast : a comparative study on cytohistological findings associated with neuroendocrine differentiation. *Cytopathology* 2016 ; 27 (3) : 193-200.
- 11) Ohashi R¹⁾, Matsubara M²⁾, Watarai Y²⁾, Yanagihara K³⁾, Yamashita K³⁾, Tsuchiya S^{1, 4)}, Takei H³⁾, Naito Z^{1, 5)} (¹⁾ Dept. of Diagnostic Pathology, NMSH, ²⁾ Dept of Pathology, NMSH, ³⁾ Division of Breast Surgery, NMSH, ⁴⁾ Dept. of Diagnostic Pathology, Iida Hospital, Nagano, ⁵⁾ Dept. of Integrated Diagnostic Pathology) : Cytological features of complex type fibroadenoma in comparison with non-complex type fibroadenoma. *Breast Cancer* 2016 ; 23 (5) : 724-31.
- 12) Ohashi R¹⁾, Matsubara M²⁾, Watarai Y²⁾, Yanagihara K³⁾, Yamashita K³⁾, Tsuchiya S^{1, 4)}, Takei H³⁾, Naito Z^{1, 5)} (¹⁾ Dept. of Diagnostic Pathology, NMSH, ²⁾ Dept of Pathology, NMSH, ³⁾ Division of Breast Surgery, NMSH, ⁴⁾ Dept. of Diagnostic Pathology, Iida Hospital, Nagano, ⁵⁾ Dept. of Integrated Diagnostic Pathology) : Diagnostic value of fine needle aspiration and core needle biopsy in special types of breast cancer. *Breast Cancer* 2016 ; 23 (4) : 675-83.
- 13) Leung-Cy S¹⁾, Nielsen OT¹⁾, Sakatani T^{1, 2)}, Dowsett M¹⁾, et al. (¹⁾ the International Ki67 in Breast Cancer Working Group of the Breast International Group and North American Breast Cancer Group (BIG-NABCG), ²⁾ Dept. of Integrated Diagnostic Pathology) : Analytical validation of a standardized scoring protocol for Ki67 : phase 3 of an international multicenter collaboration. *npj Breast Cancer* 2016 ; 2 : 16014.

(2) 総説 :

- 1) 内藤善哉 : 医療事故調査制度の経緯と現状 (連載第3回) 日本病理学会としての対応. *病理と臨床* 2016 ; 34 (6) : 649-653.
- 2) 内藤善哉 : 診療関連死の現在・医療事故 (安全) 調査機構. *病理と臨床* (深山正久委員長, 特集編集 : 深山正久・北川昌伸) 2016 ; 34 (11) : 1158-1161.

(3) 症例報告 :

- 1) Kure S, Wada R, Peng WX, Ishii H¹⁾, Kitamura T, Fujii T, Inai S²⁾, Nagao T³⁾, Naito Z (¹⁾ Dept. of pathology, NMSH, ²⁾ Dept. of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, NMSH, ³⁾ Dept. of Anatomic Pathology, Tokyo Medical University) : A case of oncocytic papillary cystadenocarcinoma of the parotid gland -Pathological and molecular features of a rare tumor. *Human Pathology : Case Reports* 2016 ; 5 : 18-22.
- 2) Hagiwara N¹⁾, Matsutani T¹⁾, Nomura T¹⁾, Fujita I¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Ueda J¹⁾, Arai H¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Kanno H¹⁾, Naito Z, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Dept. of Gastrointestinal Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery) : Pancreatic Metastasis from Gastrointestinal Stromal Tumor of the Stomach : A Case Report. *J Nippon Med Sch.* 2016 ; 83 (3) : 133-8.
- 3) Kubo T¹⁾, Sugita S¹⁾, Wada R, Kikuchi N¹⁾, Iwasaki M²⁾, Ito Y¹⁾, Sugawara T¹⁾, Fujita H¹⁾, Emori M³⁾, Tanaka R³⁾, Hirano H¹⁾, Saito T³⁾, Hasegawa T⁴⁾ (¹⁾ Dept. of Surgical Pathology, School of Medicine, Sapporo Medical University, ²⁾ Dept. of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine, Sapporo Medical University, ³⁾ Dept. of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Sapporo Medical University, ⁴⁾ Dept. of Surgical Pathology, School of Medicine, Sapporo Medical University) : Uterine epithelioid leiomyosarcoma with c-kit expression and YWHAE gene rearrangement : a case report of a diagnostic pitfall of uterine sarcoma. *Diagn Pathol.* 2017 ; 12 (1) : 26-26.
- 4) 篠塚恵理子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 新井洋紀^{1, 2)}, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 消化器外科, ²⁾ 統御機構診断病理学) : 短期間に3度小腸穿孔をきたしたコレステロール塞栓症の1例. *日本消化器病学会雑誌* 2016 ; 113 (5) : 804-812.

著書

- 1) 遠藤陽子, 内藤善哉 : [分担] 消化器 食道, 胃. カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 (清水道生・内藤善哉), 2016 ; pp198-208, メジカルビュー社.
- 2) 和田龍一 : [分担] 消化器 肝. カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 (清水道生・内藤善哉), 2016 ; pp216-226, メジカルビュー社.
- 3) 彭 為霞 : [分担] 婦人科, 男性生殖器. カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 (清水道生・内藤善哉), 2016 ; pp298-317, メジカルビュー社.
- 4) 坂谷貴司 : [分担] 乳腺. カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 (清水道生・内藤善哉), 2016 ; pp288-297, メジカルビュー社.
- 5) 坂谷貴司 : [分担] 消化器 小腸・大腸. カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 (清水道生・内藤善哉), 2016 ; pp209-215, メ

ジカルビュー社.

- 6) 許田典男, 恩田宗彦: [分担] 口腔・唾液腺. カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 (清水道生・内藤善哉), 2016; pp194-196, メジカルビュー社.
- 7) 許田典男, 恩田宗彦: [分担] 運動器・軟部腫瘍. カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 (清水道生・内藤善哉), 2016; pp333-342, メジカルビュー社.
- 8) 内藤善哉: [分担] 睪生検, 細胞診の判定と報告様式. 病理と臨床「特集 睪癌取扱いに関する新たな知見と基準」(深山正久委員長, 特集編集: 内藤 善哉, 清水道生), 2016; pp824-831, 文光堂.
- 9) 内藤善哉: [分担] VIII. 睪腫瘍の生検・細胞診所見. 睪癌取扱い規約第7版 (日本睪臓学会編, 伊佐地秀司委員長), 2016; pp96-110, 金原出版.
- 10) 坂谷貴司: [分担] B) 4. 乳癌における heterogeneity. 乳癌診療のための分子病理エッセンシャル (津田均, 木下貴之, 田村研治), 2016; pp49-55, 南山堂.
- 11) 坂谷貴司: [分担] 異型乳管過形成. 乳癌 第2版 腫瘍病理鑑別診断アトラス (森谷卓也, 津田均), 2016; pp40-45, 文光堂.
- 12) 坂谷貴司: [分担] Ki-67の判定. 乳癌 第2版 腫瘍病理鑑別診断アトラス (森谷卓也, 津田均), 2016; pp246-249, 文光堂.
- 13) 坂谷貴司: [分担] 2. 病理. 乳腺腫瘍学 第2版 (日本乳癌学会編), 2016; pp11-37, 金原出版社.
- 14) 坂谷貴司: [分担] Ki-67の判定. 乳癌 第2版 腫瘍病理鑑別診断アトラス (森谷卓也, 津田均), 2016; pp40-45, 文光堂.
- 15) 内藤善哉: [編集] (全章). カラーイラストで学ぶ集中講義病理学 (清水道生, 内藤善哉), 2016; pp1-383, メジカルビュー社.
- 16) 呉 壮香: [分担] 消化器 胆嚢・胆管. カラーイラストで学ぶ集中講義病理学 (清水道生, 内藤善哉), 2016; pp228-232, メジカルビュー社.
- 17) 和田龍一: [分担] 消化器 睪. カラーイラストで学ぶ集中講義病理学 (清水道生, 内藤善哉), 2016; pp233-235, メジカルビュー社.
- 18) 和田龍一: [分担] 内分泌・栄養・代謝. カラーイラストで学ぶ集中講義病理学 (清水道生, 内藤善哉), 2016; pp258-267, メジカルビュー社.
- 19) 細根 勝¹⁾, 内藤善哉 (多摩永山病院病理部): [分担] 血液・造血器・リンパ節. カラーイラストで学ぶ集中講義病理学 (清水道生, 内藤善哉), 2016; pp238-257, メジカルビュー社.
- 20) 内藤善哉: [編集] 特集 睪癌取扱いに関する新たな知見と基準. 病理と臨床, 2016; pp789-844, 文光堂.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 内藤善哉: 睪癌取扱い規約の改定と EUS-FNA に関する最新の話. 山梨県臨床細胞学会学術集会 (第 32 回) (山梨県甲府市), 2017. 2.

(2) シンポジウム:

- 1) 片山博徳¹⁾, 細根 勝¹⁾, 新井 悟¹⁾, 内藤善哉, 前田昭太郎²⁾, 清水道生³⁾ (多摩永山病院病理診断科, ²⁾ LSI メディエンス病理・細胞診センター, ³⁾ 博慈会記念総合病院病理診断センター): 消化管の細胞診「ニッチな領域の細胞診」. 日本臨床細胞学会 (第 55 回) (大分県別府市), 2016. 11.

(3) セミナー:

- 1) 坂谷貴司: HER2 病理診断を適正に行うために: 乳癌 HER2 病理診断ガイドラインを中心に. 日本病理学会総会 (第 105 回) (仙台市), 2016. 5.

(4) 一般講演:

- 1) 和田龍一, 木村相泰¹⁾, 内藤善哉 (新田塚医療福祉センター): 剖検輯報を用いた日本人の糖尿病患者の癌の罹患についての統計解析. 日本病理学会総会 (第 105 回) (仙台市), 2016. 5.
- 2) 新井洋紀, 和田龍一, 彭 為霞, 坂谷貴司, 内藤善哉: 胃癌の網羅的蛋白質発現解析 接合部胃癌の病態関連分子の同定の試み. 日本病理学会総会 (第 105 回) (仙台市), 2016. 5.
- 3) 呉 壮香, 和田龍一, 彭 為霞, 坂谷貴司, 内藤善哉: 平滑筋分化を伴った low grade endometrial stromal sarcoma の 1 例. 日本病理学会総会 (第 105 回) (仙台市), 2016. 5.
- 4) 横山康行, 和田龍一, 下田朋宏, 近藤亮太, 内藤善哉: 潰瘍性大腸炎に発症した S 状結腸および直腸の多発性扁平上皮癌の 1 例. 日本病理学会総会 (第 105 回) (仙台市), 2016. 5.
- 5) 和田龍一: 稀な GIST. GIST Advisory Board (東京都), 2016. 12.
- 6) 中村祐司¹⁾, 前本直子¹⁾, 牧野隆浩¹⁾, 許田典男¹⁾, 北山康彦¹⁾, 内藤善哉 (武蔵小杉病院病理診断科): 組織型推定を誤った肺類基底扁平上皮癌の 1 例. 日本臨床細胞学会総会春期大会 (第 57 回) (横浜), 2016. 5.
- 7) 前本直子¹⁾, 許田典男¹⁾, 加藤舞子¹⁾, 川上陽子¹⁾, 中村祐司¹⁾, 永井祥子¹⁾, 牧野隆浩¹⁾, 北山康彦¹⁾, 内藤善哉 (武蔵小杉病院病

- 理診断科)：小細胞癌との鑑別に苦慮した膀胱肉腫様癌の1例。日本臨床細胞学会総会春期大会(第57回)(横浜), 2016. 5.
- 8) 河本陽子, 和田龍一, 彭 為霞, 手塚 潔, 川原清子, 恩田宗彦, 遠藤陽子¹⁾, 石井英昭¹⁾, 内藤善哉¹⁾ 付属病院病理診断科)：未治療漿液性腺癌の原発巣と播種巣の細胞像と発現マーカーの比較検討。日本臨床細胞学会総会春期大会(第57回)(横浜), 2016. 5.
- 9) 坂谷貴司, 小塚祐司¹⁾, 吉田正行²⁾ (1) 三重大学附属病院病理部, 2) 国立がん研究センター中央病院病理科)：乳癌 HER2 病理診断ガイドライン；作成プロセスとポイント。日本病理学会総会(第105回)(仙台市), 2016. 5.
- 10) 石野孔祐, 工藤光洋, 彭 為霞, 川原清子, 河本陽子, 北村妙子, 手塚 潔, 藤井雄文, 和田龍一, 内藤善哉)：2-デオキシグルコースは蛋白質の糖鎖修飾変化を介して腫瘍増殖を抑制する。日本病理学会総会(第105回)(仙台市), 2016. 5.
- 11) 森田真央香, 工藤光洋, 和田龍一, 彭 為霞, 川原清子, 藤井雄文, 河本陽子, 手塚 潔, 北村妙子, 内藤善哉)：多形腺腫由来癌における IMP3 染色の検討。日本病理学会総会(第105回)(仙台市), 2016. 5.
- 12) 遠藤陽子¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 稲井俊太²⁾, 彭 為霞^{1,4)}, 和田龍一^{1,4)}, 石井英昭¹⁾, 坂谷貴司^{1,4)}, 大久保公裕²⁾, 長尾俊孝³⁾, 内藤善哉^{1,4)} (1) 付属病院病理診断科, 2) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 3) 東京医科大学人体病理学, 4) 統御機構診断病理学)：顎下腺の多形腺腫由来癌肉腫の1例。日本病理学会総会(第105回)(仙台市), 2016. 5.
- 13) 寺崎美佳¹⁾, 寺崎泰弘¹⁾, 長濱清隆¹⁾, 功刀しのぶ¹⁾, 國保成暁¹⁾, 川瀬里衣子²⁾, 山本晃人²⁾, 黒瀬圭輔²⁾, 内藤善哉, 清水 章¹⁾ (1) 解析人体病理学, 2) 付属病院女性診療科)：線維肉腫様成分を伴う卵巣神経外胚葉性腫瘍の1例。日本病理学会総会(第105回)(仙台市), 2016. 5.
- 14) 彭 為霞, 藤井雄文, 手塚 潔, 呉 壮香, 石野孔祐, 工藤光洋, 和田龍一, 内藤善哉)：子宮内膜ポリープに発生した漿液性癌の1例。日本病理学会総会(第105回)(仙台市), 2016. 5.
- 15) 大橋隆治¹⁾, 川原清子, 並松茂樹¹⁾, 坂谷貴司¹⁾, 杉谷 巖²⁾, 内藤善哉 (1) 付属病院病理診断科, 2) 付属病院内分泌外科)：甲状腺乳頭癌の固形成分の臨床的意義。日本病理学会総会(第105回)(仙台市), 2016. 5.
- 16) 石野孔祐, 工藤光洋, 彭 為霞, 呉 壮香, 川原清子, 河本陽子, 北村妙子, 藤井雄文, 手塚 潔, 和田龍一, 内藤善哉)：2-デオキシグルコースによる解糖系阻害が膀胱癌細胞株のタンパク発現に及ぼす影響。日本癌学会学術総会(第75回)(横浜), 2016. 10.
- 17) 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也²⁾, 松谷 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田陽子³⁾, 石渡俊行³⁾, 内藤善哉, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 2) 千葉北総病院消化器外科, 3) 東京都健康長寿医療センター)：ヒト膀胱癌細胞における STAT5b のゲムシタピン抵抗性, 接着能, 浸潤能への関与。日本癌学会学術総会(第75回)(横浜), 2016. 10.
- 18) 進士誠一¹⁾, 松田陽子²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 石渡俊行²⁾, 新井富生²⁾, 内藤善哉, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 2) 東京都健康長寿医療センター)：低分化成分を有する右側結腸癌と左側結腸癌の臨床病理学的比較。日本癌学会学術総会(第75回)(横浜), 2016. 10.
- 19) 眞田麻梨恵¹⁾, 長岡竜太¹⁾, 岡村律子¹⁾, 軸蘭智雄¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 杉谷 巖¹⁾, 大橋隆治²⁾, 内藤善哉 (1) 付属病院内分泌外科, 2) 付属病院病理診断科)：若年者甲状腺濾胞癌の1例。日本臨床外科学会総会(第78回)(品川), 2016. 11.
- 20) 高田英志¹⁾, 和田龍一, 工藤光洋, 石野孔祐, 谷合信彦²⁾, 吉岡正人²⁾, 清水哲也²⁾, 上田純志²⁾, 内田英二²⁾, 内藤善哉 (1) 多摩永山病院消化器外科, 2) 付属病院消化器外科)：肝細胞癌における protein disulfide-isomerase A3 の発現と臨床病理学的検討。日本消化器外科学会総会(第71回)(徳島県), 2016. 7.
- 21) 石野孔祐, 工藤光洋, 彭 為霞, 和田龍一, 内藤善哉)：2-デオキシグルコースによる蛋白質の糖鎖修飾変化は膀胱癌細胞増殖を抑制する。日本生化学学会大会(第89回)(仙台市), 2016. 9.
- 22) 石原彩子¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 松橋智彦²⁾, 山本晃人¹⁾, 川瀬里衣子¹⁾, 山田 隆²⁾, 米山剛一³⁾, 鴨井青龍²⁾, 大橋隆治⁴⁾, 内藤善哉, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院女性診療科, 2) 千葉北総病院女性診療科, 3) 武蔵小杉病院女性診療科, 4) 付属病院病理診断科)：子宮体部 Dedifferentiated carcinoma の1例。日本臨床細胞学会(第55回)(大分県別府市), 2016. 11.
- 23) 石原彩子¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 庄田有里¹⁾, 山本晃人¹⁾, 川瀬里衣子¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 遠藤陽子²⁾, 和田龍一, 大橋隆治²⁾, 内藤善哉 (1) 付属病院女性診療科, 2) 付属病院病理診断科)：子宮体部脱分化癌の1例。日本医科大学医学会総会(第84回)(千駄木), 2016. 9.
- 24) 柳原恵子¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 中井麻木¹⁾, 山下浩二¹⁾, 山根 彩²⁾, 村上隆介²⁾, 和田龍一, 石井英昭³⁾, 大橋隆治³⁾, 坂谷貴司, 武井寛幸¹⁾ (1) 付属病院乳腺外科, 2) 付属病院放射線科, 3) 付属病院病理診断科)：転移性乳がんに対するエリプリンの有用性と安全性。日本乳癌学会学術総会(第24回)(東京ビッグサイト), 2016. 6.
- 25) 中井麻木¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 金谷洋平, 柳原恵子¹⁾, 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 坂谷貴司, 渡邊 淳²⁾ (1) 付属病院乳腺外科, 2) 付属病院遺伝診療科)：当院でのトリプルネガティブ乳癌に対する治療方針の検討。日本乳癌学会学術総会(第24回)(東京ビッグサイト), 2016. 6.
- 26) 進士誠一¹⁾, 松田陽子²⁾, 横山康行, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 新井富生²⁾, 内藤善哉, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 2) 東京都健康長寿医療センター)：低分化成分を有する大腸癌における hMLH1 発現と serrated pathway. 日本外科学会定期学術総会(第116回)(大阪), 2016. 4.
- 27) 赤間悠一¹⁾, 松田明久¹⁾, 山瀬 綾²⁾, 市山 進²⁾, 由井俊輔³⁾, 幸野 健²⁾, 安齋眞一⁴⁾, 内藤善哉, 宮下正夫¹⁾, 内田英二⁵⁾ (1) 千葉

北総病院病院消化器外科, 2) 付属病院皮膚科, 3) 千葉北総病院血液内科, 4) 武蔵小杉病院皮膚科, 5) 付属病院消化器外科): 紅皮症併存S状結腸癌術後, 非白血性皮膚白血病を発症し急性増悪を来した1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会(第32回)(鹿児島市), 2016. 5.

(5) 研究講演会(診療領域別講習特別プログラム):

- 1) 内藤善哉: 病理学教育, 特に病理学総論・各論実習のあり方と問題点「国際認証の渦中にある今, 病理学における医学教育の未来を考える」. 日本病理学会総会(第105回)(仙台市), 2016. 5.

(6) 指定演題(剖検講習会):

- 1) 坂谷貴司: 病理解剖と剖検症例のまとめ方. 日本病理学会総会(第105回)(仙台市), 2016. 5.

(7) 特別企画/男女共同参画:

- 1) 坂谷貴司: これまでのキャリアとワークライフバランス, そしてこれから. 日本病理学会秋期特別総会(第62回)(金沢市), 2016. 11.

(8) 班研究報告:

- 1) 杉江知治¹⁾, 森谷卓也²⁾, 三上芳喜³⁾, 山口 倫⁴⁾, 宮下 穰⁵⁾, 鈴木栄治⁶⁾, 垣見和宏⁷⁾, 佐藤永一⁸⁾, 坂谷貴司, 小塚祐司⁹⁾, 森谷鈴子¹⁰⁾ (1) 関西医科大学附属病院乳腺外科, 2) 川崎医科大学病理学2, 3) 熊本大学医学部附属病院病理部, 4) 久留米大学医療センター病理診断科, 5) 東北大学腫瘍外科, 6) 京都大学医学部附属病院乳腺外科, 7) 東京大学医学部附属病院免疫細胞治療学講, 8) 東京医科大学病院病理診断部, 9) 三重大学医学部附属病院病理部, 10) その他): 乳癌における腫瘍浸潤リンパ球の臨床病理学的研究(中間報告). 日本乳癌学会総会(第24回)(東京), 2016. 6.

(9) 要望講演:

- 1) 内藤善哉: 睪臓の細胞診ガイドラインと新睪癌取扱い規約の細胞診報告様式について. 日本臨床細胞学会(第55回)(大分県別府市), 2016. 11.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Matsumoto NM¹⁾, Umezawa H¹⁾, Ohashi R, Peng WX, Naito Z, Ogawa R¹⁾ (1) Dept. of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery): Surgical Treatment of Rare Sclerosing Polycystic Adenosis of the Deep Parotid Gland. *Plast Reconstr Surg Glob Open*. 2016; 4 (3): e645.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 高倉英樹¹⁾, 山本哲志¹⁾, 三田村邦子¹⁾, 工藤光洋, 内藤善哉, 多賀 淳¹⁾ (1) 近畿大学薬学部病態分子解析学): ショットガンプロテオミクス解析に基づく, 大腸癌における新規治療標的 CyclophilinA の役割. 日本薬学会(第136年会)(横浜), 2016. 3.

10. 微生物学・免疫学分野

研究概要

当微生物学・免疫学講座では「自然免疫」システム、特にその中枢を担う樹状細胞（DC）及びDCにより統御されたナチュラルキラーT（NKT）細胞、並びに $\gamma\delta$ 型T細胞、さらにはこれら自然免疫の活性化による腫瘍・感染の制御に関する研究を主として展開している。感染症学および感染免疫学：[A] HIV 感染伝播機構の解明とその制御法の開発（1）HIVは粘膜組織より体内に侵入し、粘膜上皮内に棲息するランゲルハンス細胞（LC）を介して、粘膜内のCD4陽性DCあるいはNKT細胞に感染する。こうした自然免疫担当細胞群に持続感染したHIVの制御法は未だ発されていない。我々は、そのメカニズムを解明するため、感染標的であるLCを臍帯血より誘導することに成功した（*Biomed Res*, 37, 271, 2016）。（2）また、HIV由来のNef遺伝子が感染制御に関わること及びその機序を明らかにした（*Virology*, 487:285, 2016）。腫瘍免疫学 [B]（1）腫瘍内には抗腫瘍作用を誘導するもの（helper DC:hDC）と腫瘍増殖を助けるもの（tolerogenic DC:tDC）とが存在するが、糖脂質抗原 α -galactosylceramideがtDCをhDCに変換し腫瘍増殖を抑制する現象を見いだした（*Immunology*, 2017 (in press)）。（2）また、妊娠時において、DC亜群（DEC-205と33DI）のバランス子宮筋層内で破綻しNKT細胞が活性化すると流産が誘導される現象をヒト（*AGRI*, 2017 (in press)）ならびにマウスモデル（*Eur J Immunol*, 46, 1867, 2016）で明らかにした。さらにアレルギー免疫学 [C] マスト細胞からのヒスタミン遊離をDCが制御することを発見した（*Int Arch Allergy Immunol*, 168:219, 2016）。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ichikawa T¹⁾, Negishi Y¹⁾, Shimizu M, Takeshita T¹⁾, Takahashi H (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : α -galactosylceramide-activated murine NK1.1⁺ invariant-NKT cells in the myometrium induce miscarriages in mice. *European Journal of Immunology* 2016 ; 46 (8) : 1867-1877.
- 2) Azuma H, Watanabe E, Ohtsuka Y, Negishi Y, Ohkura S, Shinya E, Takahashi H : Induction of langerin⁺ Langerhans cell-like cells expressing reduced TLR3 from CD34⁺ cord blood cells stimulated with GM-CSF, TGF-beta1, and TNF-alpha. *Biomedical Research* 2016 ; 37 (5) : 271-281.
- 3) Osono E, Honda K, Inoue Y, Norose Y, Takahashi M, Ichimura K, Kamano C, Shinya E, Takaku S, Okamatsu K, Kawamoto S, Takizawa H, Takahashi H : Detection method for aquatic bacteria of the fingers, as a potential origin of the aqueous solution contamination. *Biocontrol Science* 2017 ; 22 (1) : 61-65.

(2) 総説：

- 1) 高橋秀実：最新の免疫学からみた東洋医学による治療戦略の意義。アレルギー・免疫 2016 ; 23 (3) : 349-356.
- 2) 高橋秀実：未病と自然炎症：生薬成分による制御の可能性。日本東洋医学雑誌 2016 ; 67 (2) : 195-203.
- 3) 高橋秀実：HIV感染と自然免疫。アレルギー・免疫 2016 ; 23 (5) : 684-690.
- 4) 高橋秀実：エイズウイルスの新たな感染標的とその制御。東京都医師会雑誌 2016 ; 69 (5) : 431-435.
- 5) 高橋秀実： $\gamma\delta$ T細胞と生体制御（序）。炎症と免疫 2016 ; 24 (3) : 171-172.
- 6) 高橋秀実：HIV感染と $\gamma\delta$ T細胞。炎症と免疫 2016 ; 24 (3) : 173-177.
- 7) 高橋秀実：未病と自然炎症：生薬成分による制御の可能性。日本小児東洋医学雑誌 2016 ; 29 (1) : 195-203.
- 8) 新谷英滋：フランスの医療制度は参考になるのか Systeme de santéde la France devrait donner l'exemple pour le Japon?. 日仏医学 Bulletin Medical Franco-Japonais 2017 ; 38 (1) : 1-6.

著書

- 1) 新谷英滋：〔監修〕HIV感染症/AIDS, 感染症と薬。薬がみえる, 2016 ; pp302-308, メディック・メディア社。
- 2) 高橋秀実：〔監修〕免疫疾患。臨床病理学各論, 看護師特定行為研修, 2016 ; pp1-4, ヴェクソンインターナショナル株式会社。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：丸山ワクチン作用機序に関する最新の知見。NPO「丸山ワクチンとがんを考える会」講演会（第14回）（東京），2016. 5.
- 2) 高橋秀実：生薬成分による制御の可能性：丸山ワクチン作用機序について。KAMPO Medical Conference（東京），2016. 6.

- 3) 高橋秀実：丸山ワクチンの作用機序と展望. 医療問題懇談会（平成 28 年度第 1 回）（東京），2016. 7.
 - 4) 高橋秀実：東洋医学の考え方「気血陰陽とは」. KAMPO Medical Conference（東京），2016. 10.
 - 5) 高橋秀実：東洋医学の考え方（2）気滞証，陰虚証，六経弁証と営血弁証の導入. KAMPO Medical Conference（東京），2017. 1.
 - 6) 高橋秀実：漢方処方構成と効果，副作用「葛根湯」. 日本漢方教育懇話会（第 3 回）（神奈川），2017. 2.
 - 7) 高橋秀実：Suppression of a Tumor Growing through Activated CD8⁺ CTLs Primed by Administration of α -galactosylceramide (α -GalCer) in vivo. 平成 27 年度丸山ワクチン研究助成発表会（東京），2017. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 若林あや子：食品学の基礎. アレルギー大学（第 11 期）（千葉），2016. 6.
 - 2) 高橋秀実：日本医科大学における東洋医学に関する卒前・卒後教育. 日本東洋医学会学術総会（第 67 回）（香川），2016. 6.
 - 3) 若林あや子：アレルギーの食品栄養学. アレルギー大学（千葉）ベーシックプログラム（千葉），2016. 7.
- (3) シンポジウム：
- 1) Takahashi H, Murakami R¹⁾, Nakagawa Y, Shimizu M, Wakabayashi A, Negishi Y, Hiroi T²⁾, Shinya E, Ohkubo K¹⁾ (1) Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School, (2) Department of Allergy and Immunology, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science) : Airway allergy can be controlled through dendritic cell subset manipulation in a mouse model. 16TH International Congress of Immunology. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne, Australia), 2016. 8.
 - 2) Negishi Y¹⁾, Ichikawa T¹⁾, Shimizu M, Takeshita T¹⁾, Takahashi H (1) Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Roles of iNKT and dendritic cells in myometrium for the induction of miscarriages by α -galactosylceramide. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne, Australia), 2016. 8.
 - 3) Takeshita H¹⁾, Watanabe E, Kobayashi F¹⁾, Nakagawa Y, Yamanishi S¹⁾, Norose Y, Shinya E, Kumagai Y, Ito Y¹⁾, Takahashi H (1) Departments of Pediatrics, Nippon Medical School) : Autoantibody production by murine B-1a cells stimulated with Helicobacter pylori urease through Toll-like receptor 2 signaling. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne, Australia), 2016. 8.
 - 4) Shinya E, Shimizu M, Owaki A, Okura S, Takahashi H : HIV-1 Nef down-regulated CD1a lipid antigen presentation in immature dendritic cells through hemopoietic cell kinase (Hck) and p21-activated kinase 2 (PAK2). 16TH International Congress of Immunology (Melbourne, Australia), 2016. 8.
 - 5) Otsuka Y¹⁾, Koike E, Azuma H, Mayumi N¹⁾, Saeki H¹⁾, Takahashi H (1) Department of Dermatology, Nippon Medical School) : Effect of TNF- α on the process of Langerhans cell induction from human peripheral mononuclear cells. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne, Australia), 2016. 8.
 - 6) Kogo H, Shimizu M, Tomita Y, Matsumura J, Uchida E¹⁾, Takahashi H (1) Surgery for Organ and Biological Regulation, Nippon Medical School) : In vivo suppression of a tumor growing through activated CD8⁺ CTLs primed by administration of α -galactosylceramide. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne, Australia), 2016. 8.
 - 7) Wakabayashi A, Yonekawa M, Ishii K, Kuroki K, Shinya E, Takahashi H : HMGB-1 contributes to the enhancement of costimulatory molecule-expression and cross-presentation by mucosal DCs through oral administration of cholera toxin. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne, Australia), 2016. 8.
 - 8) 高橋秀実：丸山ワクチン作用機序について. 日本医科大学医学会公開シンポジウム（第 26 回）（東京），2016. 6.
- (4) 一般講演：
- 1) Ishii K, Nakagawa Y, Negishi Y, Shimizu M, Takahashi M, Takaku S, Takahashi H : Extracellular pH and hypoxia affect on the function and development of antigen-specific cytotoxic T lymphocytes. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne, Australia), 2016. 8.
 - 2) Wakabayashi A, Yonekawa M, Ishii K, Murakami R, Takahashi H : High mobility group box protein-1 released from damaged intestinal tissues contributes to the activation of mucosal dendritic cells and the sensitization of antigen-specific T cells. 日本アレルギー学会学術大会（第 65 回）（東京），2016. 6.
 - 3) 村上亮介¹⁾, 中川洋子, 清水真澄, 若林あや子, 根岸靖幸, 廣井隆親²⁾, 大久保公裕¹⁾, 高橋秀実 (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科学, (2) 東京都医学総合研究所花粉症プロジェクト) : アレルギー性鼻炎マウスモデルにおける DEC-205 陽性樹状細胞亜群選択的活性化による抗アレルギー効果の検討. 日本アレルギー学会学術大会（第 65 回）（東京），2016. 6.
 - 4) 高久 俊¹⁾, 廣田 薫¹⁾, 小野野人¹⁾, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院東洋医学科) : 玉屏風散末処方 20 症例の検討：その体質改善薬としての有用性. 日本東洋医学会学術総会（第 67 回）（高松），2016. 6.
 - 5) Shinya E, Shimizu M, Owaki A, Nakamura Y¹⁾, Matsu-Ura N¹⁾, Ishizuya T¹⁾, Mori L²⁾, De Libero G²⁾, Takahashi H (1) Students, Nippon Medical School, (2) Singapore Immunology Network) : Hck might be a key player in the quadruple interaction between HIV-1 Nef, CD1, PAK2 and Hck in the down-regulation of CD1 lipid Ag presentation by Nef. 日本エイズ学術集会・総会

- (第30回) (鹿児島), 2016. 11.
- 6) 松村次郎, 大脇敦子, 清水真澄, 大倉定之, 新谷英滋, 高橋秀実: ART中のreservoirであるNKT細胞の制御に関わる $\gamma\delta$ T細胞の役割. 日本エイズ学会・総会(第30回)(鹿児島), 2016. 11.
 - 7) Negishi Y¹⁾, Shima Y²⁾, Takeshita T¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Kinetics of dendritic cells, NK cells and natural killer T cells in the late preterm delivery without Chorioamnionitis. 日本生殖免疫学会総会(第31回)(神戸), 2016. 12.
 - 8) Wakabayashi A, Yonekawa M, Takeshita H, Azuma H, Kumagai Y, Takahashi H : Intestinal DEC-205⁺ DCs activated by HMGB-1 released through cholera toxin-stimulation contribute to cross-priming of mucosal CTLs. 日本免疫学会学術集会(第45回)(沖縄), 2016. 12.
 - 9) Negishi Y¹⁾, Ichikawa T¹⁾, Shimizu M, Kioke E, Ohtsuka Y, Takeshita T¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : NK1.1⁺ invariant natural killer T cells in the myometrium induce murine miscarriages via selective activation of DEC-205⁺ dendritic cells by α -Galactosylceramide. 日本免疫学会学術集会(第45回)(沖縄), 2016. 12.
 - 10) Kumagai Y, Takahashi H : The analysis of interaction between HIV-1 gp120 and chemokine receptor by using multivalent V3 epitope grafted at immunoglobulin hypervariable regions. 日本免疫学会学術集会(第45回)(沖縄), 2016. 12.
 - 11) Kogo H¹⁾, Shimizu M, Negishi Y, Tomita Y, Uchida E¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Surgery for Organ and Biological Regulation, Nippon Medical School) : Sequential administration of α -galactosylceramide induced suppression of a murine tumor growing in vivo through CD8⁺ CTLs via activated DEC-205⁺ dendritic cells in vivo. 日本免疫学会学術集会(第45回)(沖縄), 2016. 12.
 - 12) Takaku S, Shimizu M, Ishii K, Matsumura J, Takahashi H : Synergistic enhancement of CD8⁺ T cell-mediated tumor vaccine effects by Japanese Kampo medicine ninjin'yoeito. 日本免疫学会学術集会(第45回)(沖縄), 2016. 12.
 - 13) Takahashi H, Murakami R¹⁾, Shimizu M, Wakabayashi A, Takeshita H, Koike E, Negishi Y, Ohkura S, Ohkubo K¹⁾ (¹⁾ Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School) : Airway allergy induced by histamine released from IgE-sensitized mast cells can be controlled through dendritic cell subset manipulation in a mouse model. 日本免疫学会学術集会(第45回)(沖縄), 2016. 12.
 - 14) Shinya E, Shimizu M, Owaki A, De Libero G¹⁾, Mori L¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Singapore Immunology Network) : Hematopoietic cell kinase (Hck) might play a key role in HIV-1 Nef down-regulation of CD1s lipid Ag presentation in iDCs. 日本免疫学会学術集会(第45回)(沖縄), 2016. 12.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Negishi Y¹⁾, Shima Y²⁾, Takeshita T¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Distribution of invariant natural killer T cells and dendritic cells in late preterm birth without acute chorioamnionitis. American Journal of Reproductive Immunology 2017 ; (6).
- 2) Takaku S, Shimizu M, Takahashi H : Japanese kampo medicine ninjin'yoeito synergistically enhances tumor vaccine effects mediated by CD8⁺ T cells. Oncology Letters 2017 ; 13 (5) : 3481-3478.
- 3) Kogo H¹⁾, Shimizu M, Negishi Y, Uchida E¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Surgery for Organ and Biological Regulation, Nippon Medical School) : Suppression of murine tumor growth through CD8⁺ CTLs via activated DEC-205⁺ dendritic cells by sequential administration of α -galactosylceramide in vivo. Immunology 2017 ; 151 (3) : 324-339.
- 4) 大藪英一¹⁾, 富岡敏一²⁾, 井上有紀¹⁾, 本田和美¹⁾, 市村恭子¹⁾, 岡松健太郎^{1,3)}, 青木弘之⁴⁾, 藤岡紀昭⁴⁾, 滝澤英明^{1,5)}, 野呂瀬嘉彦, 高久 俊, 新谷英滋, 高橋秀実, 坂元 仁⁶⁾, 土戸哲明⁶⁾ (¹⁾ 越谷大袋クリニック, ²⁾ 関西大学理工学教育開発センター, ³⁾ 駒込おおばクリニック, ⁴⁾ 上野透析クリニック, ⁵⁾ 東京薬科大学社会医療研究所, ⁶⁾ 大阪府立大学地域連携研究機構放射線研究センター) : 血液透析システムにおける透析液品質の維持向上に関する細菌叢の生体制御学的研究 (B) 透析機器設置後一年間の微生物汚染状況の追跡調査. 日本透析医会雑誌 2016 ; 31 (1) : 209-216.

追加分症例報告:

- 1) 高久 俊^{1,2)}, 大藪英一²⁾, 高久千鶴乃¹⁾, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院東洋医学科, ²⁾ 越谷大袋クリニック) : 透析患者の手根管症候群の随伴症状の緩和に五積散が有用であった3例. 日本東洋医学雑誌 2016 ; 67 (1) : 28-33.

11. 衛生学公衆衛生学分野

研究概要

衛生学公衆衛生学分野では、社会医学に関連した研究テーマを選択し、疫学調査および実験研究を継続的に行っている。研究手法は多様であるが、最終的には「人間」を対象とした予防医学研究につながるものである。各教員が研究を進めるにあたり、外部研究資金の獲得が基本であるが、本年度は以下の教員が、文科省科研費補助金等の外部資金を研究代表者として獲得している。・睡眠時呼吸障害とメタボリックシンドロームに関する総合的研究（基盤（C））（川田智之）・カーバメイト系農薬による抗癌免疫機能への影響及びその機序（基盤（C））（李卿）・メタボリック症候群発症予測指標としての血中多価不飽和脂肪酸の有用性：職域疫学研究（基盤（C））（大塚俊昭）・好中球性アレルギー喘息病態における Nrf2 の役割（基盤（C））（李英姫）・「ニコチンはドーピング防止規程の監視対象物質である」ことの認識に基づくタバコ対策（基盤（C））（勝又聖夫）・非正規雇用の健康影響に関する国際比較研究（基盤（C））（可知悠子）獲得した研究費を用いて、学術成果を論文あるいは著書等で報告することが各教員の使命であり、今後ともインパクトある業績を積み重ねることを期待したい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kawada T : Glucose intolerance and General Health Questionnaire 12-item version scores of male two-shift workers stratified by precariousness of work. *Diabetes Metab Syndr* 2016 ; 10 (2) : 75-77.
- 2) Kawada T, Otsuka T, Nakamura T¹, Kon Y¹ (1) Ota Memorial Hospital) : Relationship between sleep-disordered breathing and metabolic syndrome after adjustment with cardiovascular risk factors. *Diabetes Metab Syndr* 2016 ; 10 (2) : 92-95.
- 3) Kawada T, Andou T¹, Fukumitsu M¹ (1) Sano City Hospital) : Metabolic syndrome showed significant relationship with carotid atherosclerosis. *Heart Vessels* 2016 ; 31 (5) : 664-670.
- 4) Li Y, Shimizu T, Shinkai Y¹, Hirata Y, Inagaki H, Takeda K¹, Azuma A², Yamamoto M³, Kawada T (1) The Center for Environmental Health Science for the Next Generation, Research Institute for Science and Technology, Japan, (2) Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, Japan, (3) Department of Biochemistry, Tohoku University Graduate School of Medicine, Japan) : Nrf2 Regulates the Risk of a Diesel Exhaust Inhalation-Induced Immune Response during Bleomycin Lung Injury and Fibrosis in Mice. *Int J Mol Sci* 2017 ; 18 (3) : 649-1-649-15.
- 5) Kurihara O¹, Takano M¹, Mizuno K², Shibata Y¹, Matsushita M¹, Hidenori K¹, Masanori Y¹, Kato K¹, Munakata R¹, Murakami D¹, Okamoto K¹, Hata N¹, Seino Y¹, Shimizu W² (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, (2) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Impact of Diabetic Retinopathy on Vulnerability of Atherosclerotic Coronary Plaque and Incidence of Acute Coronary Syndrome. *Am J Cardiol* 2016 ; 118 (7) : 944-949.
- 6) Kurihara O¹, Seino Y¹, Shibata Y¹, Matsushita M¹, Komiyama H¹, Kato K¹, Murakami D¹, Munakata R¹, Takano M¹, Miyauchi Y¹, Hata N¹, Shimizu W² (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, (2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Blunted renal vasoconstriction in patients with subclinical contrast-induced renal injury. *Clin Exp Pharmacol Physiol* 2016 ; 43 (11) : 1148-1150.
- 7) Uetake S¹, Maruyama M¹, Yamamoto T¹, Kato K¹, Miyauchi Y¹, Seino Y¹, Shimizu W² (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, (2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Left ventricular stiffness estimated by diastolic wall strain is associated with paroxysmal atrial fibrillation in structurally normal hearts. *Clin Cardiol* 2016 ; 39 (12) : 728-732.
- 8) Okajima F¹, Emoto N¹, Kato K², Sugihara H³ (1) Division of Endocrinology, Department of Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (2) Department of Cardiology, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (3) Department of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Effect of Glycemic Control on Chylomicron Metabolism and Correlation between Postprandial Metabolism of Plasma Glucose and Chylomicron in Patients with Type 2 Diabetes Treated with Basal-bolus Insulin Therapy with or without Vildagliptin. *J Atheroscler Thromb* 2017 ; 24 (2) : 157-168.
- 9) Kachi Y, Abe A¹, Ando E², Kawada T (1) School of Humanities and Social Sciences, Tokyo Metropolitan University, (2) Department of Mental Health, The University of Tokyo) : Socioeconomic disparities in mental health in a nationally representative sample of Japanese adolescents : A time trend study. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 2017 ; 51 (3) : 278-286.
- 10) 可知悠子, 井上真智子¹, 川田智之 (1) Division of General Medicine and Primary Care Research, Beth Israel Deaconess Medical

Center, Harvard Medical School) : 経済的理由による受診抑制に関する医師の認識と診療上の対応 : 都内一般診療所への郵送調査から. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 2016 ; 39 (4) : 214-218.

(2) 手紙 :

- 1) Kawada T : Long working hours and the risk of coronary heart disease. *Am J Ind Med* 2016 ; 59 (4) : 336-337.
- 2) Kawada T : Cross-sectional and longitudinal study on the association between serum uric acid and metabolic syndrome. *Clin Chim Acta* 2016 ; 455 : 201-201.
- 3) Kawada T : Antidepressant use, clinical depression and mortality in patients with heart failure. *Int J Cardiol* 2016 ; 209 : 68-69.
- 4) Kawada T : Smoking cessation and the incidence of impaired fasting glucose and type 2 diabetes mellitus. *J Diabetes Complications* 2016 ; 30 (3) : 561-561.
- 5) Kawada T : Depressive symptoms, antidepressant use, and cognitive decline. *Am J Med* 2016 ; 129 (4) : e31-e31.
- 6) Kawada T : Efficacy of positive airway pressure on serum brain natriuretic peptide levels in patients with heart failure and sleep-disordered breathing. *Lung* 2016 ; 194 (2) : 333-333.
- 7) Kawada T : Plasma homocysteine level, serum leptin and estimated glomerular filtration rate with special emphasis on sex difference. *Clin Nutr* 2016 ; 35 (2) : 541-541.
- 8) Kawada T : Risk factors of burnout in gynecologic oncologist. *Am J Obstet Gynecol* 2016 ; 214 (4) : 550-551.
- 9) Kawada T : Assessment of job burnout by standard questionnaire survey for Chinese correctional officers. *Public Health* 2016 ; 133 : 127-128.
- 10) Kawada T : Risk of rupture of unruptured cerebral aneurysms in elderly patients. *Neurology* 2016 ; 86 (17) : 1650-1650.
- 11) Kawada T : Short sleep duration and serum copper. *J Trace Elem Med Biol* 2016 ; 35 : 122-122.
- 12) Kawada T : Blood cadmium level in the elderly population : perspective for the cause of inconsistent results. *Occup Environ Med* 2016 ; 73 (5) : 355-355.
- 13) Kawada T : Sleep duration and dementia in older adults. *Neuroepidemiology* 2016 ; 46 (4) : 269-270.
- 14) Kawada T : Inflammatory markers in patients with obstructive sleep apnea. *Sleep Breath* 2016 ; 20 (2) : 889-890.
- 15) Kawada T : Commentary on : Sleep disordered breathing and the risk of psoriasis among US women. *Arch Dermatol Res* 2016 ; 308 (4) : 283-284.
- 16) Kawada T : Serum adiponectin, its gene polymorphism and metabolic syndrome in adolescents. *Eur J Clin Nutr* 2016 ; 70 (5) : 645-645.
- 17) Kawada T : Several metabolic risk factors in subjects with increased plasma adiponectin levels : Causality of positive associations. *Heart Lung* 2016 ; 45 (3) : 295-295.
- 18) Kawada T : Actigraphic evaluation in patients with endometrial cancer. *Gynecol Oncol Rep* 2016 ; 17 : 12-12.
- 19) Kawada T : Metabolic syndrome and sudden cardiac death : validity on risk assessment. *Int J Cardiol* 2016 ; 212 : 109-109.
- 20) Kawada T : Depression screening by Patient Health Questionnaire in patients with cardiac surgery. *Int J Cardiol* 2016 ; 212 : 355-356.
- 21) Kawada T : Insulin resistance and sarcopenia are closely related to metabolic syndrome in male and female adolescents. *Public Health Nutr* 2016 ; 19 (8) : 1528-1528.
- 22) Kawada T : Gout and erectile dysfunction with special reference to depression. *Eur J Intern Med* 2016 ; 31 : e13-e13.
- 23) Kawada T : Obstructive sleep apnea and cardiovascular risk. *Can J Cardiol* 2016 ; 32 (6) : 830.e11-830.e11.
- 24) Kawada T : Letter by kawada regarding article, "Sleep fragmentation, cerebral arteriosclerosis, and brain infarct pathology in community-dwelling older people.". *Stroke* 2016 ; 47 (6) : e174-e174.
- 25) Kawada T : Prediction of non-alcoholic fatty liver disease by obesity indices. *Eat Weight Disor* 2016 ; 21 (2) : 313-314.
- 26) Kawada T : Duration of depressive symptoms significantly related to the increase in mortality. *Br J Psychiatry* 2016 ; 208 (6) : 593-593.
- 27) Kawada T : Predictors of biological antirheumatic drug discontinuation in patients with rheumatoid arthritis while in remission. *J Rheumatol* 2016 ; 43 (6) : 1253-1253.
- 28) Kawada T : Sleep and health-related quality of life in pregnant women : actigraphic and questionnaire survey. *Int J Nurs Studies* 2016 ; 59 : 105-106.
- 29) Kawada T : Human cognition and psychopathology. *Med Hypotheses* 2016 ; 92 : 59-59.
- 30) Kawada T : Sleep duration and coronary heart disease mortality. *Int J Cardiol* 2016 ; 215 : 110-110.
- 31) Kawada T : The effect of air pollution on lung function in children. *Int J Hyg Environ Health* 2016 ; 219 (4-5) : 475-475.
- 32) Kawada T : Air pollution and depressed mood : consistency of association. *Int J Hyg Environ Health* 2016 ; 219 (4-5) : 477-477.

- 33) Kawada T : Prostate cancer among East Asian men : screening and management strategies. *Urol Oncol* 2016 ; 34 (7) : 333-333.
- 34) Kawada T : Risk of suicidal mortality among multiple attempters. *J Formos Med Assoc* 2016 ; 115 (7) : 589-589.
- 35) Kawada T : Psychosocial work stressors and depressive symptoms in bank employees. *Occup Med (Lond)* 2016 ; 66 (5) : 421-421.
- 36) Kawada T : Smoking, systolic blood pressure, fasting plasma glucose and progression of carotid atherosclerosis. *Nicotine Tob Res* 2016 ; 18 (7) : 1680-1680.
- 37) Kawada T : Inter-relationship among renal arteriosclerosis, vascular function indexes, estimated renal function indexes and biochemical markers in patients with chronic kidney disease. *Nephrology* 2016 ; 21 (7) : 633-633.
- 38) Kawada T : Sleep, mental status and biological markers in saliva in patients with oral lichen planus. *J Oral Pathol Med* 2016 ; 45 (6) : 467-467.
- 39) Kawada T : Sensitization to inhalant allergens in schoolchildren with special reference to passive smoking. *Int Arch Allergy Immunol* 2016 ; 170 (1) : 67-68.
- 40) Kawada T : Factors affecting preventability of stroke. *JAMA Neurol* 2016 ; 73 (7) : 890-890.
- 41) Kawada T : Applicability of the actigraphy for astronauts in spaceflight. *Sleep Sci* 2016 ; 9 (2) : 59-59.
- 42) Kawada T : Sleep disturbance and emotional distress in patients with advanced cancer. *J Pain Symptom Manage* 2016 ; 52 (1) : e3-e4.
- 43) Kawada T : Cadmium, lead and kidney function with special reference to biological specimen. *Int J Hyg Environ Health* 2016 ; 219 (6) : 573-573.
- 44) Kawada T : Working hours and incident cardiovascular disease with special reference to sleep parameters. *J Occup Environ Med* 2016 ; 58 (8) : e318-e318.
- 45) Kawada T : Proton pump inhibitors and dementia incidence. *JAMA Neurol* 2016 ; 73 (8) : 1025-1026.
- 46) Kawada T : Do temporary workers have a higher risk of occupational injury compared to permanent employees?. *Public Health* 2016 ; 137 : 204-205.
- 47) Kawada T : Dairy intake and CVD : causality of the association. *Br J Nutr* 2016 ; 116 (4) : 762-762.
- 48) Kawada T : Factors affecting cognitive performance in children with special reference to sleep and sedentary behavior. *Physiol Behav* 2016 ; 167 : 179-179.
- 49) Kawada T : All-cause mortality associated with tumor necrosis factor-alpha inhibitor in patients with rheumatoid arthritis. *Am J Med* 2016 ; 129 (9) : e217-e217.
- 50) Kawada T : Prediction of adiposity by body mass index in patients with multiple sclerosis. *Arch Phys Med Rehabil* 2016 ; 97 (9) : 1598-1599.
- 51) Kawada T : Plasma uric acid and risk of ischaemic stroke in women. *Eur J Neurol* 2016 ; 23 (9) : e65-e65.
- 52) Kawada T : Serum granzyme-B, insulin resistance, metabolic syndrome and cardiovascular risk : statistical validity for risk assessment. *Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol* 2016 ; 204 : 122-122.
- 53) Kawada T : Comparison of two accelerometers for monitoring sleep : agreement and validity. *Physiol Behav* 2016 ; 163 : 332-332.
- 54) Kawada T : Validation study of STOP-Bang score for screening sleep-disordered breathing. *Sleep Breath* 2016 ; 20 (3) : 1093-1093.
- 55) Kawada T : Green tea consumption and cardiovascular disease or stroke. *Int J Cardiol* 2016 ; 221 : 831-831.
- 56) Kawada T : Chronic kidney disease and cognitive impairment in the very old. *Aging Clin Exp Res* 2016 ; 28 (5) : 1031-1031.
- 57) Kawada T : Posttraumatic stress disorder and its predictors in disaster-bereaved survivors. *Arch Psychiatr Nurs* 2016 ; 30 (5) : 498-498.
- 58) Kawada T : Dairy product consumption and the risk of type 2 diabetes in the elderly. *Eur J Nutr* 2016 ; 55 (7) : 2335-2336.
- 59) Kawada T : Sickness absence and precarious employment. *Int J Occup Environ Med* 2016 ; 7 (4) : 243-244.
- 60) Kawada T : Prevalence of hepatitis E infection. *J Clin Virol* 2016 ; 83 : 5-5.
- 61) Kawada T : Risk-reduction program for cardiovascular and limb events in patients with peripheral arterial disease. *JAMA Surgery* 2016 ; 151 (10) : 990-990.
- 62) Kawada T : Factors associated with depression in chronic obstructive pulmonary disease. *Lung* 2016 ; 194 (5) : 867-868.
- 63) Kawada T : New Stress Check program in Japan's workplace. *Occup Med* 2016 ; 66 (7) : 527-527.
- 64) Kawada T : Factors affecting recurrence after return to workplace in workers with mental problems. *Occup Med* 2016 ; 66 (7) : 586-586.

- 65) Kawada T : Factors affecting mental health status in medical students : methodological validity. *Public Health* 2016 ; 139 : 241-242.
- 66) Kawada T : Depression in ALS in a large self-reporting cohort. *Neurology* 2016 ; 87 (15) : 1631-1632.
- 67) Kawada T : STOP-BANG questionnaire to screen sleep-disordered breathing for football players : methodological validity. *Respir Care* 2016 ; 61 (11) : 1565-1565.
- 68) Kawada T : Dietary approaches to stop hypertension diet and metabolic syndrome. *J Pediatr* 2016 ; 178 : 307-307.
- 69) Kawada T : Risk factors for suicide ideation in the workplace. *J Occup Environ Med* 2016 ; 58 (11) : e366-e366.
- 70) Kawada T : Patients with Parkinson disease and caregiver burden : risk assessment. *J Am Med Dir Assoc* 2016 ; 17 (11) : 1060-1060.
- 71) Kawada T : Survival risk of salivary cortisol and serum N-terminal pro-hormone B-type natriuretic peptide in patients with systolic heart failure. *Int J Cardiol* 2016 ; 222 : 1054-1054.
- 72) Kawada T : Sitagliptin and cardiovascular outcomes in diabetic patients with chronic kidney disease after acute myocardial infarction. *Int J Cardiol* 2016 ; 222 : 1072-1073.
- 73) Kawada T : Transient ischaemic attack and subsequent cognitive impairment. *Eur J Neurol* 2016 ; 23 (11) : e75-e75.
- 74) Kawada T : Maternal pre-pregnant obesity, gestational weight gain and cardio-metabolic risk in adolescent offspring. *BJOG* 2016 ; 123 (12) : 2053-2054.
- 75) Kawada T : Risk of hemodialysis against peritoneal dialysis for chronic heart failure in patients with end-stage renal disease. *Int J Cardiol* 2016 ; 223 : 360-360.
- 76) Kawada T : Long TV watching time and the risk of physical, mental and psychiatric disorders. *Int J Cardiol* 2016 ; 223 : 764-765.
- 77) Kawada T : Sleep duration and metabolic syndrome. *Int J Occup Med Environ Health* 2016 ; 29 (6) : 877-878.
- 78) Kawada T : Diagnostic ability of cerebrospinal fluid tap test for predicting shunt responsiveness in patients with normal pressure hydrocephalus. *J Neurol Sci* 2016 ; 370 : 152-152.
- 79) Kawada T : Cadmium exposure and renal effect in soldering iron workers. *Biol Trace Elem Res* 2016 ; 174 (2) : 484-484.
- 80) Kawada T : Physical exercise and dementia in patients with type 2 diabetes mellitus. *Endocrine* 2016 ; 54 (3) : 839-839.
- 81) Kawada T : Risk of sternal wound infection after open heart operations stratified by the type of operation. *Ann Thorac Surg* 2016 ; 102 (6) : 2137-2138.
- 82) Kawada T : Onset of puberty and testicular function in healthy young men. *Hum Reprod* 2016 ; 31 (12) : 2896-2896.
- 83) Kawada T : Coronary artery calcification and lifestyle factors. *J Cardiol* 2016 ; 68 (6) : 559-559.
- 84) Kawada T : Shift work : a risk factor for central serous chorioretinopathy. *Am J Ophthalmol* 2016 ; 171 : 151-151.
- 85) Kawada T : Predictive validity of a specific questionnaire for psychiatric morbidity and suicidal ideation. *J Formos Med Assoc* 2016 ; 115 (11) : 1019-1020.
- 86) Kawada T : Loneliness and mortality in older men : causal association. *Am J Geriatr Psychiatry* 2017 ; 25 (1) : 102-102.
- 87) Kawada T : Insomnia and cardiac events in patients with heart failure. *Circ J* 2017 ; 81 (1) : 125-125.
- 88) Kawada T : Comments on "Association of consumption of dairy products and meat with retinal vessel calibers in subjects at increased cardiovascular risk.". *Nutr Metab Cardiovasc Dis* 2017 ; 27 (1) : 88-89.
- 89) Kawada T : Maternal obesity, gestational weight gain and childhood cardiac outcome at age 6 years. *Int J Obes (Lond)* 2017 ; 41 (1) : 95-95.
- 90) Kawada T : Predictors of poor sleep quality in call handlers. *Int J Occup Environ Med* 2017 ; 8 (1) : 65-66.
- 91) Kawada T : Risk of colorectal neoplasia in patients with colonic diverticula. *Dig Endosc* 2017 ; 29 (1) : 125-126.
- 92) Kawada T : Risk reduction of Parkinson disease by statin therapy in patients with diabetes. *Ann Neurol* 2017 ; 81 (1) : 157-157.
- 93) Kawada T : Poor sleep and fatigue in patients with multiple sclerosis. *J Neurol Sci* 2017 ; 373 : 143-143.
- 94) Kawada T : Risk assessment of cerebral microbleeds and white matter hyperintensities in patients with non-valvular atrial fibrillation. *J Neurol Sci* 2017 ; 373 : 249-249.
- 95) Kawada T : Effect of continuous positive airway pressure treatment on glucose tolerance and insulin resistance. *Respir Med* 2017 ; 123 : 149-149.
- 96) Kawada T : Thiazide diuretics and fracture in patients with hypertension. *J Hypertens* 2017 ; 35 (3) : 645-646.
- 97) Kawada T : Bladder cancer and smoking with special reference to education. *Eur J Cancer* 2017 ; 75 : 1-2.
- 98) Kawada T : Depressive symptoms and mortality in community-dwelling older adults by a follow-up study. *Geriatr Gerontol Int* 2017 ; 17 (2) : 361-362.

- 99) Kawada T : Risk factors for colonic diverticular readmission and operation. *Int J Surg* 2017 ; 40 : 112-112.
- 100) Kawada T : Academic failure, use of electronic device and sleep duration in adolescents. *Brain Dev* 2017 ; 39 (3) : 275-275.
- 101) Kawada T : Hypoglycemia and dementia in patients with type 2 diabetes mellitus. *Diabetes Res Clin Pract* 2017 ; 125 : 65-65.
- 102) Kawada T : Bleeding in patients with atrial fibrillation treated with dabigatran, rivaroxaban or warfarin. *Eur J Intern Med* 2017 ; 38 : e20-e20.
- 103) Kawada T : Cardiovascular and all-cause mortality in patients with type 2 diabetes mellitus and chronic kidney disease. *J Diabetes Complications* 2017 ; 31 (3) : 646-646.
- (3) 連載 :
- 1) 可知悠子 : 多様な雇用形態と健康管理 : 誰が健康ハイリスク者なのか. *産業保健と看護* 2016 ; 8 (6) : 37-39.
- (4) 話題 :
- 1) 川田智之 : 心の問題と医学的アプローチ. *日医大医会誌* 2016 ; 12 (2) : 64-64.

著 書

- 1) 川田智之 : [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 2017 年版 (鈴木庄亮 監修), 2017 ; pp286-296, 南江堂.
- 2) 若山葉子, 武藤三千代¹⁾, 川田智之⁽¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学 : [分担] 高齢者の血圧・血液生化学値の検討 : 年齢別・肥満の有無別による検討. 高齢者における健康維持増進のための総合的追及研究 (「健康調査グループ」神奈川県立保健福祉大学), 2017 ; pp3-6, (株) アシスト.

学会発表

- (1) シンポジウム :
- 1) 可知悠子, 藤野善久¹⁾ ⁽¹⁾ 産業医科大学医学部公衆衛生学教室 : 多様な雇用形態と健康管理のあり方 : 産業保健スタッフが明日からできること. 第日本産業衛生学会 (第 89 回) (福島), 2016. 5.
- (2) 一般講演 :
- 1) 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之 : 電子タバコの健康リスクを可視化する. 日本産業衛生学会 (第 89 回) (福島市), 2016. 5.
- 2) 勝又聖夫, 平田紀美子, 稲垣弘文, 武藤三千代¹⁾, 川田智之⁽¹⁾ 日本医科大学 スポーツ科学教室 : 日本体育協会加盟団体等へのタバコ対策を中心としたアンケート調査. 日本衛生学会学術総会 (第 87 回) (宮崎市), 2017. 3.
- 3) 平田紀美子, 勝又聖夫, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 川田智之 : タバコ製品 (無煙タバコ, 加熱式タバコ及び紙巻きタバコ) 中の Nicotine 測定. 日本薬学会第 137 年会 (第 137 回) (仙台市), 2017. 3.
- 4) 稲垣弘文, 平田幸代 : NK92MI 細胞による Granzyme 3 の産生. 日本薬学会第 137 年会 (第 137 回) (仙台市), 2017. 3.
- 5) 若山葉子, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部鎌二²⁾, 渡部月子²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学スポーツ科学, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学 : ラジオ体操の実施効果に関する調査研究. 日本公衆衛生学会総会 (第 75 回) (大阪市), 2016. 10.
- 6) 若山葉子, 川田智之, 勝又聖夫 : ウイルス肝炎地域流行既往者の長期追跡成績 : 凍結保存血清を用いた病因の検討. 日本衛生学会総会 (第 87 回) (宮崎市), 2017. 3.
- 7) 平田幸代, 稲垣弘文 : ラットグランザイム 3 の基質アミノ酸配列の検索. 日本薬学会第 137 年会 (第 137 回) (仙台市), 2017. 3.
- 8) Li Y, Shimizu T, Kobayashi M, Hirata Y, Inagaki H, Azuma A¹⁾, Takizawa H²⁾, Kawada T ⁽¹⁾ Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, Japan, ²⁾ Department of Respiratory Medicine, Kyorin University Hospital, Japan) : Diesel exhaust particle induce epithelial-to-mesenchymal transition in human bronchial epithelial cell. Congress of Asian Pacific Society of Respiriology (21st) (Bangkok,Thailand), 2016. 11.
- 9) 李 英姫, 清水孝子, 新海雄介¹⁾, 平田幸代, 稲垣弘文, 武田 健¹⁾, 吾妻安良太²⁾, 山本雅之³⁾, 川田智之⁽¹⁾ 東京理科大学 薬学部 衛生化学, ²⁾ 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍内科, ³⁾ 東北大学大学院 医化学分野) : Nrf2 欠損マウスにおけるディーゼル排ガス吸入曝露のプレオマイシン肺障害病態への影響. 日本衛生学会学術総会 (第 87 回) (宮崎), 2017. 3.
- 10) 小林麻衣子, 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之 : ヒト気道上皮細胞遊走におけるディーゼル排気粒子の作用と細胞内シグナル伝達経路. 日本衛生学会学術総会 (第 87 回) (宮崎), 2017. 3.
- 11) 西城由之, 大塚俊昭, 加藤活人 : The association between cardiometabolic risk factors and highmedical expenditures in middle-aged workers. 第 81 回日本循環器学会学術集会 (金沢), 2017. 3.
- 12) 可知悠子, 橋本英樹¹⁾, 江口 尚²⁾ ⁽¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科保健社会行動学分野, ²⁾ 北里大学医学部公衆衛生学) : 雇用の不安定性の経年変化が心理的ストレス反応に及ぼす影響. 日本疫学会学術総会 (第 27 回) (甲府), 2017. 1.
- (3) 優秀口演賞選考会 :
- 1) 可知悠子, 安藤絵美子¹⁾, 川田智之⁽¹⁾ 東京大学大学院 医学系研究科 精神保健学分野) : 社会経済的要因と心理的ストレス反応との関連 : 思春期の子どもにおける経時的検討. 日本公衆衛生学会総会 (第 75 回) (大阪), 2016. 10.

12. 法医学分野

研究概要

1. 法医中毒学：法医解剖等の資料に対して，GC/MS, LC/MS, LC/MS/MS等を用いた薬毒物分析システムを運用し，成果を挙げている。質量分析計を用いて剖検資料に含まれる睡眠薬の新規代謝物を探索し，別途化学合成した標準品とデータを比較することで，その存在を明らかにした。質量分析機器を用いた最新技法(LC-TOF, QTOF)を用いた薬毒物および代謝物の微量分析法の開発にも取り組んでいる。2. アルコール(Alc)の代謝とその細胞および生体に及ぼす影響を研究：Alc脱水素酵素(ADH1・ADH3)のAlc代謝における役割を遺伝子，蛋白質，細胞，動物個体の各レベルで検討し，Alc感受性およびAlc関連障害の個体差およびその機序を研究している。またAlcの心臓への影響を，培養心筋細胞を用いて，蛋白質と遺伝子の発現レベルで解析している。3. NMRおよびMRIを用いた研究：共同研究センター磁気共鳴分析施設のNMR装置や他施設のMRI装置を用いて，NMR技術を用いた死体髄液からの頭蓋内傷病変の診断法の新規開発に関する研究，筑波剖検センターと共同で死後画像診断，MR組織学に関する基礎研究，形成外科学と共同で美容医療材料と美容医療後遺症との関連に関する研究を行っている。さらに京都大学との共同研究の成果物であるNMRデータ解析技術を用いて，救急医学，神経内科学および京都大学附属病院各科と新しい診断技術に関する共同研究を進めている。4. 東京都監察医務院と共同で都内の孤独死の特徴を統計学的に抽出し，適切な行政施策への応用を目的としている。5. 法医実務的研究：2003年6月より千葉県警の司法解剖を受託している(日本大学医学部法医解剖室を借用)ので，剖検例にかかわる具体的問題を病理組織学的検討を含めて研究している。またそれ以外の刑事・民事事件についても依頼があれば積極的に対応している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Uchigasaki S¹⁾, Tie J¹⁾, Haseba T²⁾, Cui F²⁾, Ohno Y²⁾, Isobe E¹⁾, Isahai I¹⁾, Tsutsumi H³⁾ (1) Division of Legal Medicine, Department of Social Medicine, Nihon University School of Medicine, 2) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Legal medicine, Nihon University School of Dentistry) : Real-time PCR assay for the detection of picoplankton DNA distribution in the tissues of drowned rabbits. *Legal Medicine* 2016 ; 20 (-) : 33-36.
- 2) 大嶋俊二¹⁾, 椎谷幸恵¹⁾, 神田智正¹⁾, 長谷場健²⁾, 大野曜吉²⁾ (1) アサヒグループホールディングス株式会社 イノベーション研究所, 2) 日本医科大学法医学) : ALDH2 遺伝子多型は飲酒後の脱水傾向に影響する：飲酒後のヘマトクリット値の変動より，アルコールと医学生物学 2016 ; 34 : 4-10.
- 3) Okuda T¹⁾, Shiotani S²⁾, Kobayashi T³⁾ (1) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Radiology, Seirei Fuji Hospital, 3) Department of Radiological Technology, Tsukuba Medical Center) : Principles of fetal postmortem ultrasound : a personal review. *Journal of Forensic Radiology and Imaging* 2016 ; 5 (-) : 50-51.
- 4) 長谷場健^{1, 2)} (1) 日本医科大学法医学, 2) 神奈川歯科大学大学院災害医療歯科学講座法医歯科学) : 総合人間学の方法論試論：「人間の自律」をキーワードとして. *総合人間学* 2017 ; - (11) : 32-41.
- 5) 富田ゆかり¹⁾, 金浦佳雅¹⁾, 崔 范来¹⁾, 大野曜吉¹⁾ (1) 日本医科大学法医学) : 遠位前大脳動脈 A2 部動脈瘤破裂の一剖検例. *法医学の実際と研究* 2016 ; 59 (-) : 81-87.

学会発表

(1) その他：

- 1) 長谷場健^{1, 2)} (1) 日本医科大学法医学, 2) 神奈川歯科大学大学院災害医療歯科学講座法医歯科学) : 学会10周年記念フォーラム この10年の試みから総合人間学における〈総合〉を問う. 総合人間学会研究大会(第11回)(東京・渋谷(國學院大學)), 2016. 5.

(2) シンポジウム：

- 1) 長谷場健^{1, 2)} (1) 日本医科大学法医学, 2) 神奈川歯科大学大学院災害医療歯科学講座法医歯科学) : アルコール濃度推定法の問題点とその対策について. 日本アルコール・アディクション医学会学術総会(第51回)(東京(船堀)), 2016. 10.

(3) 一般講演：

- 1) 金浦佳雅^{1, 2)}, 森晋二郎²⁾, 舟山真人³⁾, 大野曜吉^{1, 2)} (1) 日本医科大学法医学, 2) 東京都監察医務院, 3) 東北大学法医学) : 東京都区部の男性孤独死と関連する地域要因：主成分分析を用いた分析. 日本法医学会学術全国集会(第100次)(大井町(東京)), 2016. 6.
- 2) 平川慶子¹⁾, 金浦佳雅¹⁾, 小池 薫²⁾, 今田トモ子³⁾, 鈴木俊美⁴⁾, 大野曜吉¹⁾ (1) 日本医科大学法医学, 2) 京都大学初期診療・救急医学, 3) 日本医科大学 NMR 研究室, 4) 住友電気工業株式会社光通信研究所) : 広領域近赤外イメージングシステムの血痕検査への

- 応用の試み. 日本法医学会学術全国集会 (第 100 次) (大井町 (東京)), 2016. 6.
- 3) 奥田貴久^{1,2)}, 早川秀幸^{1,2)}, 塩谷清司³⁾, 大野曜吉¹⁾ (1) 日本医科大学法医学, 2) 筑波剖検センター, 3) 聖隷富士病院): 死後超音波の画像コントラストが不明瞭な理由. 日本法医学会学術全国集会 (第 100 次) (大井町 (東京)), 2016. 6.
 - 4) 山口晃志¹⁾, 普神敬悟²⁾, 石川慎吾²⁾, 大野曜吉¹⁾ (1) 日本医科大学法医学, 2) 東京医科大学化学): 7-ヒドロキシゾルピデムの合成及び剖検で得られた胆汁からの検出. 日本法中毒学会 (第 35 年会) (大阪 (大阪)), 2016. 7.
 - 5) 滝埜昌彦¹⁾, 林田眞喜子²⁾ (1) アジレント・テクノロジー株式会社, 2) 日本医科大学法医学): 新規吸着剤を用いた LC-MS による生体試料中薬物分析. 日本法中毒学会 (第 35 年会) (大阪 (大阪)), 2016. 7.
 - 6) Okuda T¹⁾, Cui F¹⁾, Ohno Y¹⁾ (1) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School): Unexpected Deaths Due to Bedrail Entrapment During Hospitalization : Two Autopsy Cases Reporting for Patient Safety. WAML 2016 (世界医事法学会 2016) (Los Angeles, California, USA), 2016. 8.
 - 7) Yamaguchi K¹⁾, Fugami K²⁾, Ishikawa S²⁾, Ohno Y¹⁾ (1) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Chemistry, Tokyo Medical School): Analysis of zolpidem metabolites in human bile : identification of hydroxyzolpidems by LC-MS/MS and chemical synthesis. TIAFT 2016 (国際法中毒学会 第 54 年会) (Brisbane,Australia), 2016. 8.
 - 8) Haseba T^{1,3)}, Maruyama M²⁾, Akimoto T²⁾, Okuda T¹⁾ (1) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, 3) Department of Dental Sociology, Kanagawa Dental College): Roles of high km ADH3 in an increase in alcohol metabolism by chronic alcohol consumption and in development of alcoholic liver disease. ISBRA / ESBRA Congress 2016 (世界アルコール医学会 2016) (Berlin, Germany), 2016. 9.
 - 9) 金涌佳雅¹⁾, 大野曜吉¹⁾ (1) 日本医科大学法医学): 世帯分類別による病院死亡の異状死例に関する記述統計. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (千駄木 (東京)), 2016. 9.
 - 10) 金涌佳雅¹⁾, 谷藤隆信²⁾, 福永龍繁²⁾, 大野曜吉¹⁾ (1) 日本医科大学法医学, 2) 東京都監察医務院): 東京都 23 区における入浴死死亡率と気象条件との関連. 日本法医学会学術関東地方集会 (第 84 回) (横須賀 (神奈川)), 2016. 10.
 - 11) 長谷場健^{1,3)}, 丸山基世²⁾, 秋元敏雄²⁾, 成尾宗浩¹⁾, 奥田貴久¹⁾ (1) 日本医科大学法医学, 2) 日本医科大学実験動物管理室, 3) 神奈川歯科大学大学院災害医療歯科学講座法医歯科学): High km アルコール脱水素酵素 ADH3 のアルコール摂取量ならびにアルコール性肝障害発症における役割. 日本アルコール・アディクション医学会学術総会 (第 51 回) (東京 (船堀)), 2016. 10.

13. 基礎医学共同研究利用施設

[実験動物管理室]

研究概要

遺伝性疾患モデル動物の開発、病態解析および原因遺伝子の同定によって疾患の解明・医学研究への貢献を目指して研究を進めている。非肥満2型糖尿病モデル動物である WBN/Kob ラットに Zucker fatty ラット由来の肥満遺伝子を導入した肥満2型糖尿病モデル動物 WBN/Kob-fatty ラットは、糖尿病発症時期の短縮、膵炎の増悪、糖尿病性合併症の早期発症が認められている。このことから肥満遺伝子が WBN/Kob ラットの病態への関わりについて研究を行っている。WBN/Ila ラットに貧毛遺伝子 Ht を導入したヘアレスラット (WBN/Ila-Ht ラット) はアトピー性皮膚炎のモデルで、このラットは皮膚炎発症および被毛の病態だけでなく、2次性胆汁性肝硬変モデル作成のための胆管結紮切除手術に起因する出血への抵抗性が明らかとなったことから、遺伝的要因との関連について調べている。

神経障害性疼痛は、感覚神経の障害に起因する痛覚過敏やアロディニアを特徴とし、既存の抗炎症薬やモルヒネなどの薬物に対して抵抗性を示す難治性の慢性疼痛である。温度感覚や痛覚において重要な役割を担っている TRP チャネルや近年様々な生理機能や疾患との関連が明らかになりつつあるノンコーディング RNA に焦点を当て、神経障害性疼痛に対する新たな治療標的の同定および治療法開発のための基礎研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Maruyama M, Fujisawa M¹⁾, Yokosuka M²⁾, Saito RT²⁾, Hayama S³⁾, Akimoto T, Hakamata Y¹⁾ (1) Department of Basic Science, School of Veterinary Nursing and Technology, Faculty of Veterinary Science, Nippon Veterinary and Life Science University, 2) Laboratory of Comparative and Behavioral Medicine, School of Veterinary Medicine, Faculty of Veterinary Science, Nippon Veterinary and Life Science Un, 3) Laboratory of Wildlife Medicine, School of Veterinary Medicine, Faculty of Veterinary Science, Nippon Veterinary and Life Science University) : A new in vivo analysis model to detect sexually dimorphic rat liver cytochrome P450 gene expression dependent on growth hormone secretory patterns. *Experimental Animals* 2016 ; 65 (4) : 447-454.
- 2) Orikasaa C¹⁾, Kondo Y²⁾, Katsumata H¹⁾, Terada M³⁾, Akimoto T⁴⁾, Sakuma Y⁵⁾, Minami S¹⁾ (1) Institute for Advanced Medical Sciences, Nippon Medical School, 2) Department of Animal Sciences, Teikyo University of Science, 3) Laboratory Animal Research Center, Dokkyo Medical University, 4) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, 5) University of Tokyo Health Science) : Vomeronasal signal deficiency enhances parental behavior in socially isolated male mice. *Physiol Behav.* 2017 Jan 1 ; 168 : 98-102. doi : 10.1016/j.physbeh.2016.11.004. Epub 2016 Nov 10. 2016 ; 168 (1) : 98-102.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Haseba T¹⁾, Maruyama M, Akimoto T, Naruo M¹⁾, Okuda T¹⁾ (1) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Roles of high km ADH3 in increase in alcohol metabolism by chronic alcohol consumption and in progression of alcoholic liver disease. 16th ESBRA CONGRESS (Conference for the European Society for Biomedical Research on Alcoholism) (BERLIN), 2016. 9.
- 2) 長谷場健¹⁾, 丸山基世, 秋元敏雄, 成尾宗浩¹⁾, 奥田貴久¹⁾ (1) 日本医科大学 法医学教室) : High km アルコール脱水素酵素 ADH3 のアルコール摂取量ならびにアルコール性肝障害発症における役割. アルコールアディクション医学会 (第 51 回) (東京), 2016. 10.
- 3) 坂井 敦¹⁾, 丸山基世, 三宅紀子²⁾, 齋藤文仁¹⁾, 三宅弘一²⁾, 島田 隆²⁾, 岡田尚巳²⁾, 鈴木秀典¹⁾ (1) 日本医科大学 薬理学, 2) 日本医科大学 分子遺伝医学) : 神経障害性疼痛における miR17-92 クラスターによるカリウムチャネルの調節. 日本疼痛学会 (第 38 回) (札幌), 2016. 6.
- 4) 坂井 敦¹⁾, 三宅紀子²⁾, 丸山基世, 三宅弘一²⁾, 島田 隆²⁾, 岡田尚巳²⁾, 鈴木秀典¹⁾ (1) 日本医科大学 薬理学, 2) 日本医科大学 分子遺伝医学) : 神経障害性疼痛における miR-17-92 クラスターによる電位依存性カリウムチャネル調節. 日本神経科学大会 (第 39 回) (横浜), 2016. 7.
- 5) 坂井 敦¹⁾, 丸山基世, 鈴木秀典¹⁾ (1) 日本医科大学 薬理学) : 感覚神経傷害による miR-21 の細胞外放出の上昇. 日本分子生物学会 年会 (第 39 回) (横浜), 2016. 11.
- 6) Sakai A¹⁾, Ito N^{1,2)}, Maruyama M, Miyake N³⁾, Iwasaki H^{1,2)}, Miyake K³⁾, Okada T³⁾, Sakamoto A²⁾, Suzuki H¹⁾ (1) Depart-

ment of Pharmacology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : miR-15b role in the oxaliplatin-induced neuropathic pain. 16th World Congress on Pain (Yokohama), 2016. 9.

- 7) 丸山基世, 坂井 敦¹⁾, 鈴木秀典¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 薬理学) : 神経障害性疼痛における長鎖ノンコーディング RNA の発現解析. 日本薬理学会年会 (第 90 回) (長崎), 2017. 3.
- 8) 秋元敏雄¹⁾, 岡田嘉仁²⁾, 丸山基世¹⁾, 鈴木龍一郎³⁾, 福生吉裕⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学実験動物管理室, ²⁾ 明治薬科大学天然薬物学, ³⁾ 城西大学薬学部生薬学, ⁴⁾ 博慈会老人病研究所) : WBN/Kob 雄ラットおよび WBN/Kob-fatty 雄ラットの糖尿病発症に至る未病期の比較. 日本未病システム学会学術総会 (第 23 回) (福岡), 2016. 11.
- 9) 寺田 節¹⁾, 今 弘枝¹⁾, 秋元敏雄²⁾, 篠田元扶¹⁾ (¹⁾ 獨協医科大学実験動物センター, ²⁾ 日本医科大学実験動物管理室) : 2 次性胆汁性肝硬変ラットにおける麻酔方法の相違による血液パラメーターに与える影響. 第 63 回日本実験動物学会総会 (川崎), 2016. 5.

[基礎医学放射性同位元素研究室]

研究概要

基礎医学放射性同位元素研究室 (以下, 基礎医学 RI 研究室) は平成 24 年 6 月より放射線主任者永原准教授が専任教員として任命され, 法的および管理業務一般, 従事者に対する教育訓練, 放射線影響に関する教育, 大学院講義, 研究を行った. メルカプトビルビン酸硫黄転移酵素 (MST) の酵素化学とシステインレドックス化学に関する研究を中心に継続するとともに, 環境医学, 病態生化学, 酵素学, タンパク質化学, proteomics の分野の研究を展開した. 既に MST の酵素機能の多様性 (抗酸化タンパク質であること SO_x を産生する事) を明らかにした. さらに共同研究者により H₂S やポリスルフィドが産生される事が証明された. 現在, 科研費研究として作成した MST ノックアウト (KO) マウスの網羅的研究を行い, 精神遅延発達障害を伴うヒトの MST 先天性欠損症 (mercaptolactate cysteine disulfiduria) の病態解明を目指している. 本学・薬理学分野との共同研究で KO マウスに不安障害が認められ, 現在病態の解明を進めている上記の研究を含め, 国内や欧米と複数の共同研究 (国立精神神経医療センター研究所木村博士, 熊本大学伊藤教授, 嶋村教授, 東京都健康長寿医療センター研究所遠藤博士, 神奈川県立こども医療センター田中博士, 東北大学赤池教授, 明治薬科大学小笠原教授, ジャギロニア大 (ポーランド) Wrobelk 教授, アテネ大学 (ギリシャ) Papapetropoulos 教授, マックスプランク研究所 (ドイツ) Morty 教授, LSH 健康科学センター (アメリカ) Lefer 教授) を行っている. 専任教員が一名配置され約 4 年が経過した. 海外から留学生 (武田科学財団) とポストドクを受け入れた, 教員室, 実験スペース, 分析機器, 実験器具など整備の必要性が課題である.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Tomita M¹⁾, Nagahara N²⁾, Ito T¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology and Experimental Medicine, Graduate School of Medical Science, Kumamoto Univ., ²⁾ Isotope Research Center, Nippon Medical School) : Expression of 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase in the mouse. *Molecules* 2016 ; 21 (12).

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Nagahara N¹⁾, Suwanai Y¹⁾ (¹⁾ Isotope Research Center, Nippon Medical School) : 3-Mercaptopyruvate sulfurtransferase and biological functions. 9th international Conference on Nitric oxide (Sendai, Jaon), 2016. 5.

(2) 一般講演 :

- 1) Bibli S¹⁾, Katsouda A¹⁾, Pavlidou A¹⁾, Nagahara N²⁾, Papapetropoulos A¹⁾ (¹⁾ Faculty of Pharmacy, University of Athens, ²⁾ Isotope Research Center, Nippon Medical School) : Alterations in the cardiovascular system of 3-MST Knockout mice. 4th International conference on the biology of hydrogen sulfide (Naples, Italy), 2016. 6.
- 2) 木村英雄¹⁾, 木村由佳¹⁾, 小池 伸²⁾, 豊福優希子¹⁾, 渋谷典広¹⁾, 小笠原裕樹²⁾, 永原則之³⁾ (¹⁾ 国立精神・神経医療研究センター・神経研 神経薬理, ²⁾ 明治薬科大学・分析化学, ³⁾ 日本医科大学・アイソトープ研究室) : 硫化水素 (H₂S) とポリサルファイド (H₂Sn) によるシグナル伝達. 第 89 回日本生化学会大会 (仙台), 2016. 9.
- 3) Kimura Y¹⁾, Toyofuku Y¹⁾, Koike S²⁾, Shibuya N¹⁾, Nagahara N¹⁾, Ogasawara Y³⁾, Kimura H²⁾ (¹⁾ Department of Molecular Pharmacology, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, ²⁾ Department of Analytical Biochemistry, Meiji Pharmaceutical University, ³⁾ Isotope Research Center, Nippon Medical School) : Identification of H₂S and H₂S produced by 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase. 第 89 回日本生化学会大会 (仙台), 2016. 9.
- 4) 渋谷典広¹⁾, 小池 伸²⁾, 田中真紀子¹⁾, 湯浅磨里¹⁾, 木村由佳¹⁾, 小笠原祐樹²⁾, 福井 清³⁾, 永原則之⁴⁾, 木村英雄¹⁾ (¹⁾ 国立精神・

神経医療研究センター・神経研 神経薬理, ²⁾ 明治薬科大学・分析化学, ³⁾ 徳島大学・疾患酵素学研究センター, ⁴⁾ 日本医科大学・アイソトープ研究室) : D-システインからの硫化水素産生. 第89回日本生化学会大会(仙台), 2016. 9.

- 5) Nagahara N¹⁾, Tomita M²⁾, Suwanai Y¹⁾, Ito T²⁾ (¹⁾ Isotope Center, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology and Experimental Medicine, Graduate School of Medical Science, Kumamoto University) : Tissue distribution of 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase in the mouse. 第89回日本生化学会大会(仙台), 2016. 9.

論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) Suwanai Y¹⁾, Nagahara N¹⁾, Naito Z¹⁾, Orimo H²⁾ (¹⁾ Isotope Research Center, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Metabolism and Nutrition, Graduate school of Medicine, Nippon Medical School) : Functional analysis of 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase using knockout mice. *Adv Tech Biol Med* 2016 ; 4 (167).

〔3〕臨 床 医 学

1. 総合医療・健康科学分野

[付属病院総合診療科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 須崎 真¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 若栗大朗¹⁾, 桐木園子¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 兵働英也¹⁾, 荒木 尚^{1,2)}, 宮内雅人^{1,2)}, 川井 真^{1,2)}, 横田裕行²⁾, 安武正弘¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 日本医科大学付属病院総合診療センターにおける救急・総合診療研修の取り組みと初期臨床研修医による評価. 日本病院総合診療医学会雑誌 2016 ; 10 (2) : 29-34.

(2) 症例報告：

- 1) Wakakuri H¹⁾, Hyodo H¹⁾, Ohara T¹⁾, Yasutake M¹⁾ (1) Department of General Medicine and Health Science, Nippon Medical School) : Perivascular hematoma along pulmonary artery complicating aortic dissection. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (5) : 182-183.
- 2) Wakakuri H¹⁾, Nakamura S²⁾, Utsumi K³⁾, Shimizu W²⁾, Yasutake M¹⁾ (1) Department of General Medicine and Health Science, Nippon Medical School, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Nephrology, Nippon Medical School) : Novel α -galactosidase A mutation (K391E) in a young woman with severe cardiac and renal manifestations of Fabry disease. Int Heart J 2016 ; 57 (5) : 637-639.

学会発表

(1) ポスター：

- 1) 須崎 真¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 若栗大朗¹⁾, 桐木園子¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 兵働英也¹⁾, 荒木 尚^{1,2)}, 宮内雅人^{1,2)}, 川井 真^{1,2)}, 横田裕行²⁾, 安武正弘¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院救命救急センター) : 大学病院 ER 救急外来を受診したてんかん・痙攣症例の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 若栗大朗¹⁾, 出川龍哉¹⁾, 三枝太郎¹⁾, 須崎 真¹⁾, 桐木園子¹⁾, 小野寺麻加¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 松村典昭¹⁾, 兵働英也¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 安武正弘¹⁾, 川井 真¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 総合診療科) : 全身性炎症反応症候群 (SIRS) 患者における血清ヘプシジン値の臨床的意義. 日本病院総合診療医学会学術総会 (第14回) (岡山大学岡田キャンパス), 2017. 3.
- 2) 井野 創¹⁾, 若栗大朗²⁾, 出川龍哉²⁾, 三枝太郎²⁾, 須崎 真²⁾, 竹之内菜菜²⁾, 小野寺直子²⁾, 町田 幹³⁾, 兵働英也²⁾, 松村典昭²⁾, 小原俊彦²⁾, 川井 真²⁾, 安武正弘²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 臨床研修センター, 2) 日本医科大学付属病院 総合診療センター, 3) 日本医科大学付属病院 放射線科) : CT で傍下行結腸窩ヘルニアが疑われた急性腹痛の1例. 日本病院総合診療医学会学術総会 (第13回) (品川プリンスホテル), 2016. 9.
- 3) Wakakuri H¹⁾, Degawa T¹⁾, Saigusa T¹⁾, Suzaki M¹⁾, Kirinoki S¹⁾, Onodera A¹⁾, Hyodo H¹⁾, Ohara T¹⁾, Kawai M¹⁾, Yasutake M¹⁾ (1) Department of General Medicine and Health Science, Nippon Medical School) : Perivascular hemorrhage along the pulmonary artery showing abnormal lung shadow : an unusual complication of acute aortic dissection. 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 (第7回) (東京浅草), 2016. 6.
- 4) Wakakuri H¹⁾, Degawa T¹⁾, Saigusa T¹⁾, Suzaki M¹⁾, Kirinoki S¹⁾, Onodera A¹⁾, Hosokawa Y²⁾, Onodera N¹⁾, Akutsu K²⁾, Hyodo H¹⁾, Yamamoto T²⁾, Ohara T¹⁾, Shimizu W²⁾, Kawai M¹⁾, Yasutake M¹⁾ (1) Department of General Medicine and Health Science, Nippon Medical School, 2) Division of Cardiovascular Intensive Care, Nippon Medical School Hospital) : Clinical characteristics of acute coronary syndrome patients visiting the General Medical Center of Nippon Medical School Hospital. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京千駄木), 2016. 8.
- 5) Wakakuri H¹⁾, Hosokawa Y²⁾, Akutsu K²⁾, Hyodo H¹⁾, Yamamoto T²⁾, Ohara T¹⁾, Shimizu W²⁾, Kawai M¹⁾, Yasutake M¹⁾ (1) Department of General Medicine and Health Science, Nippon Medical School, 2) Division of Cardiovascular Intensive Care, Nippon Medical School Hospital) : Clinical characteristics of acute coronary syndrome patients visiting department of general medicine in a teaching hospital of Japan. WONCA Europe 2016 (Denmark), 2016. 6.
- 6) 須崎 真^{1,4)}, 藤田和恵^{1,2)}, 渥美健一郎²⁾, 林 宏紀²⁾, 小野寺直子^{1,3)}, 兵働英也^{1,3)}, 小原俊彦^{1,3)}, 宮内雅人^{1,4)}, 齋藤好信²⁾, 弦間昭彦²⁾, 安武正弘^{1,3)} (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 日本医科大学大学院医学研究科内科学 (呼吸器内科学), 3) 日本医科大学大学院医学研究科総合医療・健康科学, 4) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学) : 当院総合診療センターにおける感染症診療の現状と課題. 日本感染症学会中日本地方会学術集会 (第59回) (沖縄), 2016. 11.

2. 循環器内科学分野

[付属病院循環器内科]

研究概要

内科学（循環器内科学）教室では循環器病学では、以下に示すような臨床的、基礎的研究を行った。1. 慢性心房細動に対する至適な高周波カテーテル焼灼術の開発 2. 3次元マッピング機器を用いた開心術後心房頻拍の機序解明と治療法の開発 3. 器質的心疾患に合併した重症心室性不整脈の薬物・非薬物治療（高周波カテーテル焼灼術、デバイス治療）4. 遺伝性不整脈疾患の遺伝子診断とこれに基づいた薬物・非薬物治療 5. 次世代シーケンサを用いた網羅的全エクソン（Exome）解析、全ゲノム解析、ゲノムワイド関連解析（GWAS）による遺伝性不整脈の新規遺伝子同定 6. iPS細胞を用いた遺伝性不整脈の病態解明とテラーメイド治療 7. 心電図 Wavelet 解析を用いて心サルコイドーシスの病態進行評価 8. 急性冠症候群の発生機序解明：PET-冠動脈CT融合画像により非侵襲的に検出される炎症に富む冠動脈プラークと血管内視鏡：OCTなどの血管内画像診断による組織特性との対比 9. 拡張型心筋症患者の心筋脂肪酸代謝障害からの予後の検討 10. 肥大型心筋症のカテーテル心筋焼灼術後の左室形態と血行動態の変化、および長期効果の検討 11. 心疾患に対する運動療法の効果とその機序 12. 自己骨髄細胞による血管新生療法と徐放化増殖因子ハイドロゲルによる血管再生治療 13. マゴットセラピー法の活用 14. 3Dエコーによる弁膜症評価 15. 心MRIのMOLLI法による心筋線維化と予後評価 16. 電子顕微鏡による心筋 Autophagy の評価と心機能、予後との関連性 17. 耐糖能異常合併冠動脈疾患患者のプラークの性状の特徴 18. 血圧変動と冠動脈プラーク性状の関係 19. 高気圧酸素治療による血管新生促進研究 20. 栄養サポートチームによる循環器重症管理プロトコール作成 21. iPS細胞の冠動脈内注入による低侵襲心筋再生療法 22. 不眠および睡眠薬が心不全の発症、経過に及ぼす影響

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kamakura T, Wada M, Nakajima I, Ishibashi K, Miyamoto K, Okamura H, Noda T, Aiba T, Takaki H, Yasuda S, Ogawa H, Shimizu W, Makiyama T, Kimura T, Nakamura S, et al. : Significance of electrocardiogram recording in high intercostal spaces in patients with early repolarization syndrome. *Eur Heart J* 2016 ; 37 (7) : 630-637.
- 2) Kaitani K, Inoue K, Kobori A, Nakazawa Y, Ozawa T, Kurotobi T, Morishima I, Miura F, Watanabe T, Masuda M, Naito M, Fujimoto H, Nishida T, Furukawa Y, Shirayama T, et al. : Efficacy of Antiarrhythmic Drugs Short-Term Use After Catheter Ablation for Atrial Fibrillation (EAST-AF) trial. *Eur Heart J* 2016 ; 37 (7) : 610-618.
- 3) Tanaka A, Inoue T, Kitakaze M, Oyama J, Sata M, Taguchi I, Shimizu W, Watada H, Tomiyama H, Ako J, Sakata Y, Anzai T, Uematsu M, Suzuki M, Eguchi K, et al. : Rationale and design of a randomized trial to test the safety and non-inferiority of canagliflozin in patients with diabetes with chronic heart failure : the CANDLE trial. *Cardiovasc Diabetol* 2016 ; 15 (1) : 57.
- 4) Koizumi A, Sasano T, Kimura W, Miyamoto Y, Aiba T, Ishikawa T, Nogami A, Fukamizu S, Sakurada H, Takahashi Y, Nakamura H, Ishikura T, Koseki H, Arimura T, Kimura A, et al. : Genetic defects in a His-Purkinje system transcription factor, IRX3, cause lethal cardiac arrhythmias. *Eur Heart J* 2016 ; 37 (18) : 1469-1475.
- 5) Miyachi H, Takagi A, Miyauchi K, Yamasaki M, Tanaka H, Yoshikawa M, Saji M, Suzuki M, Yamamoto T, Shimizu W, Nagao K, Takayama M : Current characteristics and management of ST elevation and non-ST elevation myocardial infarction in the Tokyo metropolitan area : from the Tokyo CCU network registered cohort. *Heart Vessels* 2016 ; 31 (11) : 1740-1751.
- 6) Munakata R, Otsuka T, Uchiyama S, Shimura T, Kurihara O, Kimata N, Inami T, Murakami D, Ohba T, Takano M, Ibuki C, Seino Y, Shimizu W : Volume elastic modulus of the brachial artery and coronary artery stenosis in patients with suspected stable coronary artery disease. *Heart Vessels* 2016 ; 31 (9) : 1467-1475.
- 7) Itoh H, Berthet M, Fressart V, Denjoy I, Maugenre S, Klug D, Mizusawa Y, Makiyama T, Hofman N, Stallmeyer B, Zumhagen S, Shimizu W, Wilde AA, Schulze-Bahr E, Horie M, et al. : Asymmetry of parental origin in long QT syndrome : preferential maternal transmission of KCNQ1 variants linked to channel dysfunction. *Eur J Hum Genet* 2016 ; 24 (8) : 1160-1166.
- 8) Itoh H, Crotti L, Aiba T, Spazzolini C, Denjoy I, Fressart V, Hayashi K, Nakajima T, Ohno S, Makiyama T, Wu J, Hasegawa K, Mastantuono E, Dagradi F, Pedrazzini M, et al. : The genetics underlying acquired long QT syndrome : impact for genetic screening. *Eur Heart J* 2016 ; 37 (18) : 1456-1464.
- 9) Kubota Y, Asai K, Murai K, Tsukada YT, Hayashi H, Saito Y, Azuma A, Gemma A, Shimizu W : COPD advances in left ventricular diastolic dysfunction. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2016 ; 11 : 649-655.

- 10) Yagihara N, Watanabe H, Barnett P, Duboscq-Bidot L, Thomas AC, Yang P, Ohno S, Hasegawa K, Kuwano R, Chatel S, Redon R, Schott JJ, Probst V, Koopmann TT, Bezzina CR, et al. : Variants in the SCN5A promoter associated with various arrhythmia phenotypes. *J Am Heart Assoc* 2016 ; 5 (9).
- 11) Okata S, Yuasa S, Suzuki T, Ito S, Makita N, Yoshida T, Li M, Kurokawa J, Seki T, Egashira T, Aizawa Y, Kodaira M, Motoda C, Yozu G, Shimojima M, et al. : Embryonic type Na⁺ channel β -subunit, SCN3B masks the disease phenotype of Brugada syndrome. *Sci Rep* 2016 ; 6 : 34198, doi : 10.1038/srep34198.
- 12) Akutsu K, Yamanaka H, Katayama M, Yamamoto T, Takayama M, Osaka M, Sato N, Shimizu W : Usefulness of Measuring the Serum Elastin Fragment Level in the Diagnosis of an Acute Aortic Dissection. *Am J Cardiol* 2016 ; 118 (9) : 1405-1409.
- 13) Ikeda T, Atarashi H, Inoue H, Uchiyama S, Kitazono T, Yamashita T, Shimizu W, Kamouchi M, Kaikita K, Fukuda K, Origasa H, Sakuma I, Saku K, Okumura Y, Nakamura Y, et al. : Study Design and Baseline Characteristics of the EXPAND Study : Evaluation of Effectiveness and Safety of Xa Inhibitor, Rivaroxaban for the Prevention of Stroke and Systemic Embolism in a Nationwide Cohort of Japanese Patients Diagnosed as Non-Valvular Atrial Fibrillation. *Tohoku J Exp Med* 2016 ; 240 (4) : 259-268.
- 14) Ishibashi K¹), Miyamoto K¹), Kamakura T¹), Wada M¹), Nakajima I¹), Inoue Y¹), Okamura H¹), Noda T¹), Aiba T¹), Kamakura S¹), Shimizu W, Yasuda S¹), Akasaka T²), Kusano K¹) (¹) Department of Cardiovascular Medicine National Cerebral and Cardiovascular Center, ²) Department of Cardiovascular Medicine Wakayama Medical University) : Risk factors associated with bleeding after multi antithrombotic therapy during implantation of cardiac implantable electronic devices. *Heart Vessels* 2017 ; 32 (3) : 333-340.
- 15) Kawata H¹), Ohno S¹), Aiba T¹), Sakaguchi H¹), Miyazaki A¹), Sumitomo N¹), Kamakura T¹), Nakajim I¹), Inoue Y¹), Miyamoto K¹), Okamura H¹), Noda T¹), Kusano K¹), Kamakura S¹), Miyamoto Y¹), et al. (¹) National Cerebral and Cardiovascular Center) : Catecholaminergic Polymorphic Ventricular Tachycardia (CPVT) Associated With Ryanodine Receptor (RyR2) Gene Mutations : Long-Term Prognosis After Initiation of Medical Treatment. *Circ J* 2016 ; 80 (9) : 1907-1915.
- 16) Wilde AA, Moss AJ, Kaufman ES, Shimizu W, Peterson D, Benhorin J, Lopes C, Towbin JA, Squazzolini C, Crotti L, Zareba W, Goldenberg I, Kanters J, Robinson J, Qi M, et al. : Clinical Aspects of Type 3 Long-QT Syndrome An International Multicenter Study. *Circulation* 2016 ; 134 (12) : 872-882.
- 17) Lam CS¹), Teng TK¹), Tay WT¹), Anadrd I²), Zhang S³), Shimiau W, Narashimhan C⁴), Park SW⁵), Yu CM⁶), Ngarumukos T⁷), Omar R⁸), Reyes EB⁹), Siswanto BB¹⁰), Hung CL, Ling LH, et al. (¹) National Heart Centre Singapore, ²) University of Minnesota, ³) Care Hospital, ⁴) Korea University, ⁵) The Chinese University, ⁶) Mahidol University, ⁷) Institut Jantrung Negara, ⁸) Manila Doctors Hospital, ⁹) National Cardiovascular Center University, Indonesia, ¹⁰) and others) : Regional and ethnic differences among patients with heart failure in Asia : the Asian sudden cardiac death in heart failure registry. *Eur Heart J* 2016 ; 37 (41) : 3141-3153.
- 18) Mahati E¹), Li P¹), Kurata Y²), Maharani N¹), Ikeda N¹), Sakata S²), Ogura K²), Miake J²), Aiba T³), Shimizu W, Nakasone N²), Ninomiya H²), Higaki K¹), Yamamoto K²), Nakai A⁴), et al. (¹) Tottori University Graduate School of Medicine Science, ²) Kanazawa Medical University, ³) National Cerebral and Cardiovascular Medicine, ⁴) Yamaguchi University) : M3 Muscarinic Receptor Signaling Stabilizes a Novel Mutant Human Ether-a-Go-Go-Related Gene Channel Protein via Phosphorylation of Heat Shock Factor 1 in Transfected Cells. *Circ J* 2016 ; 80 (12) : 2443-2452.
- 19) Ichikawa M¹), Aiba T²), Ohno S¹), Shigemizu D³), Ozawa J¹), Sonoda K¹), Fukuyama M¹), Itoh H¹), Miyamoto Y²), Tsunoda K³), Makiyama T⁴), Tanaka T⁵), Shimizu W, Horie M¹) (¹) Shiga University of Medical Science, ²) National Cerebral and Cardiovascular Center, ³) Department of Medical Science Mathematics, Medical Research Institute, ⁴) Tokyo Medical and Dental University, ⁵) Kyoto University Graduate School of Medicine) : Phenotypic Variability of ANK2 Mutations in Patients With Inherited Primary Arrhythmia Syndromes. *Circ J* 2016 ; 80 (12) : 2435-2442.
- 20) Kondo T¹), Hisatome I¹), Yoshimura S¹), Nahati E¹), Notsu T¹), Li P¹), Iitsuka K¹), Kato M¹), Ogura K¹), Miake J¹), Aiba T²), Shimizu W, Kurata Y³), Sakata S¹), Nakasone N¹), et al. (¹) Tottori University, ²) National Cerebral and Cardiovascular Center, ³) Kanazawa Medical University) : Characterization of the novel mutant A78T-HERG from a long QT syndrometype 2 patient : Instability of the mutant protein and stabilization by heat shock factor 1. *J Arrhythm* 2016 ; 32 (5) : 433-440.
- 21) Antzelevitch C¹), Yan G²), Ackerman M³), Borggrefe M⁴), Corrado D⁵), Guo J⁶), Gussak I⁷), Hasdemir C⁸), Horie M⁹), Hui-kuri H¹⁰), Morita H, Nam G, Sacher F, Shimizu W, Viskin S, et al. (¹) Lankenau Institute for Medical Research, ²) Lankenau Medical Center, ³) Windland Smith Rice Sudden Death Genomics Laboratory, Mayo Clinic, Rochester, ⁴) University Medical Centre Mannheim, ⁵) University of Padua Medical School, ⁶) Peking University of People's Hospital, ⁷) Rutgers University, New Brunswick, ⁸) Ege University School of Medicine, ⁹) Shiga University of Medical Sciences, ¹⁰) and others) : J-Wave syndromes expert

- consensus conference report : Emerging concepts and gaps in knowledge. *J Arrhythm* 2016 ; 32 (5) : 315-339.
- 22) Inami T¹, Seino Y¹, Shimura T¹, Kurihara O¹, Kimata N¹, Murakami D¹, Munakata R¹, Takano M¹, Ohba T¹, Shimizu W (1 Chiba Hokusoh Hospital) : Linkage of sleep-disordered breathing and acute aortic dissection with patent false lumen. *Heart Vessels* 2016 ; 31 (7) : 1069-1076.
 - 23) Fujimoto Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Ydogawa K, Yamamoto T, Tsuboi I, Takahashi K, Izumi Y, Oka E, Hagiwara K, Miyauchi Y, Shimizu W : Blankin Period Phenomenon After a Second Atrial Fibrillation Ablation Session : The Application and Factors Related to It. *J Cardiovasc Electrophysiol* 2017 ; 28 (2) : 159-166.
 - 24) Inui K, Tachi M¹, Saito T, Murai K, Kato K, Takano H, Amano Y¹, Asai K, Shimizu W (1 Department of Radiology) : Superiority of the extracellular volume fraction over the myocardial T1 value for the assessment of myocardial fibrosis in patients with non-ischemic cardiomyopathy. *Magn Reson Imaging* 2016 ; 34 (8) : 1141-1145.
 - 25) Suzuki K, Takano H, Kubota Y, Inui K, Nakamura S, Tokita Y, Kato K, Asai K, Shimizu W : Plaque Characteristics in Coronary Artery Disease Patients with Impaired Glucose Tolerance. *PLoS One* 2016 ; 11 (12) : e0167645.
 - 26) Best C¹, Tara S, Wiet M¹, Reinhardt J¹, Pepper V¹, Ball M², Yi T¹, Shinoka T¹, Breuer C¹ (1 Tissue Engineering and Surgical Research The Research Institute at Nationwide Children's Hospital, 2) Department of Pathology The Ohio State University College of Medicine) : Deconstructing the Tissue Engineered Vascular Graft : Evaluating Scaffold Pre-Wetting, Conditioned Media Incubation, and Determining the Optimal Mononuclear Cell Source. *ACS Biomater Sci Eng* 2016 ; Epub.
 - 27) Kobayashi N¹, Takano M¹, Hata N¹, Kume N², Tsurumi M¹, Shirakabe A¹, Okazaki H¹, Shibuya J¹, Shiomura R¹, Nishigori S¹, Seino Y¹, Shimizu W (1 Chiba Hokusoh Hospital, 2) Kobe Gakuin University) : Matrix Metalloproteinase-9, as a Marker for Plaque Rupture and a Predictor of Adverse Clinical Outcome in Patients with Acute Coronary Syndrome : An Optical Coherence Tomography Study. *Cardiology* 2016 ; 135 (1) : 56-65.
 - 28) Okazaki H¹, Shirakabe A¹, Kobayashi N¹, Hata N¹, Shinada T¹, Matsushita M¹, Yamamoto Y¹, Shibuya J¹, Shiomura R¹, Nishigori S¹, Asai K, Shimizu W (1 Chiba Hokusoh Hospital) : The Prognostic Impact of Uric Acid in Patients with Severely Decompensated Acute Heart Failure. *J Cardiol* 2016 ; 68 (5) : 384-391.
 - 29) Shirakabe A¹, Kobayashi N¹, Hata N¹, Shinada T¹, Tomita K¹, Tsurumi M¹, Okazaki H¹, Matsushita M¹, Yamamoto Y¹, Yokoyama S¹, Asai K, Shimizu W (1 Chiba Hokusoh Hospital) : The serum heart-type fatty acid-binding protein (HFABP) levels can be used to detect the presence of acute kidney injury on admission in patients admitted to the non-surgical intensive care unit. *BMC Cardiovasc Disord* 2016 ; 16 (1) : 174.
 - 30) Nozaki A¹, Shirakabe A², Hata N², Shinada T², Kobayashi N², Okazaki H², Matsushita M², Yamamoto Y², Asai K, Shimizu W (1 Tamagayama Hospital, 2) Chiba Hokusoh Hospital) : The Prognostic Impact of Gender in Patients with Acute Heart Failure : An evaluation of the Age of Female Patients with Severely Decompensated Acute Heart Failure. *J Cardiol* 2016 ; Epub.
 - 31) Munakata R¹, Otsuka T², Uchiyama S¹, Shimura T¹, Kurihara O¹, Kimata N¹, Inami T¹, Munakata D¹, Ohba T¹, Takano M¹, Iyiki C¹, Seino Y¹, Shimizu W (1 Chiba Hokusoh Hospital, 2) Hygiene and Public Health) : Volume elastic modulus of the brachial artery and coronary artery stenosis in patients with suspected stable coronary artery disease. *Heart Vessels* 2016 ; 31 (9) : 1467-1475.
 - 32) Kurihara O¹, Takano M¹, Mizuno K, Shibata Y¹, Matsushita M¹, Komiyama H¹, Kato K¹, Munakata R¹, Murakami D¹, Okamoto K¹, Miyauchi Y¹, Hata N¹, Seino Y¹, Shimizu W (1 Chiba Hokusoh Hospital) : Relationship between Body Mass Index and Coronary Atherosclerosis Analyzed by Multivessel Angioscopic Study. *Angioscopy* 2016 ; 2 (1) : 19-24.
 - 33) Komiyama H¹, Takano H, Nakamura S, Takano M¹, Hata N¹, Yasushi M¹, Seino Y¹, Mizuno K, Shimizu W (1 Chiba Hokusoh Hospital) : Geographical predisposition influences on the distribution and tissue characterisation of eccentric coronary plaques in non-branching coronary arteries : cross-sectional study of coronary plaques analysed by intravascular ultrasound. *Cardiovasc Ultrasound* 2016 ; 14 (1) : 47-47.
 - 34) Uetake S¹, Maruyama M¹, Yamamoto T, Kato K¹, Miyauchi Y¹, Seino Y¹, Shimizu W (1 Chiba Hokusoh Hospital) : Left ventricular stiffness estimated by diastolic wall strain is associated with paroxysmal atrial fibrillation in structurally normal hearts. *Clin Cardiol* 2016 ; 39 (12) : 728-732.
 - 35) Kurihara O¹, Takano M¹, Mizuno K, Shibata Y¹, Matsushita M¹, Komiyama H¹, Yamamoto M¹, Kato K¹, Munakata R¹, Murakami D¹, Okamoto K¹, Hata N¹, Seino Y¹, Shimizu W (1 Chiba Hokusoh Hospital) : Impact of Diabetic Retinopathy on Vulnerability of Atherosclerotic Coronary Plaque and Incidence of Acute Coronary Syndrome. *Am J Cardiol* 2016 ; 118 (7) : 944-949.
 - 36) Takahashi K, Miyauchi Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Ydogawa K, Tsuboi I, Hayashi H, Oka E, Ito Hagiwara K, Fujimoto Y,

- Shimizu W : Mechanisms of Post-operative Atrial Tachycardia following Biatrial Surgical Ablation of Atrial Fibrillation in Relation to the Surgical Lesion. *Heart Rhythm* 2016 ; 13 (5) : 1059-1065.
- 37) Kubo T¹⁾, Akasaka T¹⁾, Tanimoto T¹⁾, Takano M²⁾, Seino Y³⁾, Nasu K⁴⁾, Itoh T⁵⁾, Mizuno K, Okura H⁶⁾, Shinke T⁷⁾, Kotani J⁸⁾, Ito S⁹⁾, Yokoi H¹⁰⁾, Muramatsu T, Nakamura M, et al. (1) Wakayama Medical University, (2) Chiba Hokusoh Hospital, (3) Hoshi General Hospital, (4) Toyohashi Heart Center, (5) Iwate Medical School, (6) Kawasaki Medical School, (7) Kobe University Graduate School of Medicine, (8) Osaka University Graduate School of Medicine, (9) Nagoya City East Medical Center, (10) and others) : Assessment of vascular response after drug-eluting stents implantation in patients with diabetes mellitus : an optical coherence tomography sub-study of the J-DESSERT. *Heart Vessels* 2016 ; 31 (4) : 465-473.
- 38) Ogano M¹⁾, Iwasaki Y, Tanabe J¹⁾, Takagi H¹⁾, Umemoto T¹⁾, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W (1) Shizuoka Medical Center) : Restoration of ventricular septal hypoperfusion by cardiac resynchronization therapy in patients with permanent right ventricular pacing. *Int J Cardiol* 2016 ; 224 : 353-359.
- 39) Yodogawa K, Mii A, Fukui M, Iwasaki Y, Hayashi M, Kaneko T, Miyauchi Y, Tsuruoka S, Shimizu W : Warfarin use and incidence of stroke in Japanese hemodialysis patients with atrial fibrillation. *Heart Vessels* 2016 ; 31 (10) : 1676-1680.
- 40) 林 洋史, 岩崎雄樹, 藤本雄飛, 岡英一郎, 萩原かな子, 高橋健太, 坪井一平, 淀川顕司, 林 明聡, 宮内靖史, 清水 渉, 新博次¹⁾, 加藤貴雄 (1) 多摩永山病院) : 心不全と心房細動 頻脈性心房細動・心房頻拍に対するアミオダロン静注薬の有効性と安全性. *Prog Med* 2016 ; 36 (suppl) : 467-469.
- 41) 坪井一平¹⁾, 新田 隆²⁾, 清水 渉 (1) 多摩永山病院, (2) 心臓血管外科) : MRI 対応型ペースメーカー/ICD. *心臓* 2016 ; 48 (9) : 1007-1013.
- 42) Hashimoto H, Fukushima Y, Kumita S, Miyamoto M, Takagi G, Yamazaki J, Ikeda T : Prognostic value of lower limb perfusion single-photon emission computed tomography-computed tomography in patients with lower limb atherosclerotic peripheral artery disease. *Jpn J Radiol* 2017 ; 35 (2) : 68-77.
- 43) 高木 元, 久保田芳明, 桐木園子, 宮本正章 : 心血管病急性期における CGM 管理の有用性. *Calm* 2016 ; 3 (2) : 80-81.
- 44) Hagiwara K, Iwasaki Y, Fujimoto Y, Oka E, Takahashi K, Tsuboi I, Yodogawa K, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W : Massive right atrial thrombus formation followed by an atrial flutter with 1 to 1 atrioventricular conduction in a patient with arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy. *Intern Med* 2016 ; 55 (16) : 2213-2217.
- 45) Inoue Arita Y¹⁾, Akutsu K¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Kawanaka H¹⁾, Kitamura M¹⁾, Murata H¹⁾, Miyachi H¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Tanaka K¹⁾, Shimizu W (1) Cardiovascular Intensive Care) : A Fever in Acute Aortic Dissection is Caused by Endogenous Mediators that Influence the Extrinsic Coagulation Pathway and Do Not Elevate Procalcitonin. *Internal Medicine* 2016 ; 55 (14) : 1845-1852.
- 46) 林 洋史¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 三軒豪仁¹⁾, 古瀬領人¹⁾, 黄 俊憲¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 清水 渉 (1) 心臓血管集中治療科) : Purkinje 線維を起源とする複数の心室期外収縮に対しカテーテルアブレーションを行い electrical storm を抑制し得た心筋梗塞の 1 例. *心臓* 2016 ; 48 (12) : 166-171.
- 47) Iwasaki Y, Yamashita T, Sekiguchi A, Hayami N, Shimizu W : Importance of Pulmonary Vein Preferential Fibrosis for Atrial Fibrillation Promotion in Hypertensive Rat Hearts. *Can J Cardiol* 2016 ; 32 (6) : 767-776.
- 48) Hayami N, Sekiguchi A, Iwasaki Y, Murakawa Y, Yamashita T : No Additional Effect of DPP-4 Inhibitor on Preventing Atrial Fibrosis in Streptozotocin-Induced Diabetic Rat as Compared With Sulfonyleurea. *Int Heart J* 2016 ; 57 (3) : 336-349.
- (2) 総説 :
- 1) 岩崎雄樹, 清水 渉 : 話題 心房細動を合併する心不全で β 遮断薬は有効か? . *循環器内科* 2016 ; 80 (2) : 118-122.
- 2) 林 明聡, 清水 渉 : 心臓突然死の先制医療 遺伝性不整脈における心臓突然死を予測する. *医学のあゆみ* 2016 ; 258 (7, 8) : 773-777.
- 3) 清水 渉 : 5 不整脈を治す. C. 遺伝性不整脈での使い方. *Heart View* 2016 ; 20 (12) : 154-161.
- 4) 清水 渉 : 12 誘導心電図を読み解くコツ. QT 延長症候群 mBrugada 症候群, 早期再分極症候群. *診断と治療* 2017 ; 105 (2) : 195-201.
- 5) 斎藤恒徳¹⁾, 浅井邦也, 清水 渉 (1) 多摩永山病院) : 拡張型心筋症の心筋細胞に認められるオートファジー空胞. *日本医科大学医学雑誌* 2016 ; 12 (3) : 76-77.
- 6) Saito T¹⁾, Ikeda M²⁾, Asai K, Shimizu W (1) Tama Nagayama Hospital, (2) Nephrology) : Crystalline cardiomyopathy due to secondary oxalosis after short-bowel syndrome and end-stage renal failure. *Clin Res Cardiol* 2016 ; 105 (8) : 714-716.
- 7) 宮本正章, 高木 元, 久保田芳明, 桐木園子, 手塚晶人, 太良修平, 清水 渉, 福嶋善光, 汲田伸一郎, 田畑泰彦 : 難治性末梢動脈疾患 (PAD) に対する血管再生治療. *日本臨床* 2016 ; 74 (2) : 343-351.
- 8) 宮本正章, 高木 元 : マゴットセラピーは wound bed preparation (創傷治癒環境改善) においてきわめて優れた生物学的 debride-

mentである。医学のあゆみ 2016 ; 258 (9) : 844-848.

- 9) 宮本正章, 桐木園子, 太良修平, 高木 元 : 高気圧酸素治療の現状と可能性 糖尿病性足病変に対する高気圧酸素治療の有効性. 臨床整形外科 2016 ; 51 (10) : 909-914.
 - 10) 岩崎雄樹, 清水 渉 : 【地域でみる心房細動 - 専門医とかかりつけ医の連携】 専門医の立場から. 脳梗塞と心房細動 2016 ; 3 (2) : 46-49.
 - 11) 岩崎雄樹, 清水 渉 : 心房細動を合併する心不全で β 遮断薬は有効か?. 脳梗塞と心房細動 2016 ; 80 (2) : 118-122.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 林 洋史, 丸 有人, 藤本雄飛, 萩原かな子, 岡英一郎, 坪井一平, 山本哲平, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 林 明聡, 清水 渉 : うっ血性心不全に合併した頻脈性心房細動に対するアミオダロン静注の有効性と安全性. Prog Med 2016 ; 36 (suppl2) : 1765-1767.
- (4) レター :
- 1) Kurihara O¹⁾, Seino Y¹⁾, Shibata Y¹⁾, Matsushita M¹⁾, Komiyama H¹⁾, Kato K¹⁾, Murakami D¹⁾, Munakata R¹⁾, Takano M¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Blunted renal vasoconstriction in patients with subclinical contrast-induced renal injury. Clin Exp Pharmacol Physiol 2016 ; 43 (11) : 1148-1150.
- (5) 症例報告 :
- 1) Ito K, Iwasaki YK, Fujimoto Y, Oka E, Takahashi K, Tsuboi I, Yodogawa K, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W : Massive Right Atrial Thrombus Formation Followed by an Atrial Flutter with 1 : 1 Atrioventricular Conduction in a Patient with Arrhythmogenic Right Ventricular Cardiomyopathy. Intern Med 2016 ; 55 (16) : 2213-2217.
 - 2) Kimura Y, Aiba T, Sasano T, Furukawa T, Kusano K, Shimizu W : IRX3 variant as a modifier of Brugada syndrome with frequent ventricular fibrillation. HeartRhythm Case Rep 2016 ; 2 (6) : 465-468.
 - 3) Wakakuri H, Nakamura S, Utsumi K, Shimizu W, Yasutake M : Novel α -galactosidase A mutation (K391E) in a young woman with severe cardiac and renal manifestations of Fabry disease. Int Heart J 2016 ; 57 (5) : 637-639.
 - 4) Taniguchi Y¹⁾, Miyazaki A¹⁾, Sakaguchi H¹⁾, Hayama Y¹⁾, Ebishima N¹⁾, Negishi J¹⁾, Noritake K¹⁾, Miyamoto Y¹⁾, Shimizu W, Aiba T¹⁾, Ohuchi H¹⁾ (1) National Cerebral and Cardiovascular Center) : Prominent QTc prolongation in a patient with a rare variant in the cardiac ryanodine receptor gene. Heart Vessels 2017 ; 32 (2) : 229-233.
 - 5) Inami T¹⁾, Okabe M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Inokuchi K¹⁾, Hata N¹⁾, Seino Y¹⁾, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Jak2 mutation and acute coronary syndrome complicated with stent thrombosis. Heart Vessels 2016 ; 31 (10) : 1714-1716.
 - 6) Shiomura R¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Rapid Growth of Giant Coronary Artery Aneurysm following Treatment of Stent Edge Dissection. JACC : Cardiovasc Interv 2016 ; 9 (13) : e127-e128.
 - 7) Kobayashi N¹⁾, Shibata Y¹⁾, Hata N¹⁾, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Formation of Infectious Coronary Artery Aneurysms After Percutaneous Coronary Intervention in a Patient With Acute Myocardial Infarction Due to Septic Embolism. JACC : Cardiovasc Interv 2017 ; 10 (3) : e21-e22.
 - 8) Maruyama M¹⁾, Takatsuji S²⁾, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital, 2) Keio University School of Medicine) : Disproportionate delay in ventricular capture during atrial overdrive pacing in a long RP supraventricular tachycardia : What is the mechanism?. Heart Rhythm 2016 ; 13 (7) : 1563-1564.
 - 9) Shimura T¹⁾, Takano M¹⁾, Imaizumi T²⁾, Tabata A²⁾, Seino Y¹⁾, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital, 2) Kobayashi Hospital) : Optical coherence tomography visualisation of burst balloon catheter trapped by coronary stent. EuroIntervention 2016 ; 12 (6) : 757-757.
 - 10) Komiyama H¹⁾, Takano M¹⁾, Sawatani T¹⁾, Shibata Y¹⁾, Matsushita M¹⁾, Kurihara O¹⁾, Kato K¹⁾, Munakata R¹⁾, Murakami D¹⁾, Hata N¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno Y²⁾, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital, 2) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Very Late In-stent Restenosis due to Neoatherosclerosis in the Second-generation Everolimus-eluting Stent. Angioscopy 2016 ; 2 (1) : 126-128.
 - 11) 岡英一郎, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 坪井一平, 林 洋史, 高橋健太, 萩原かな子, 藤本雄飛, 清水 渉, 副島京子 : 左室外膜側癒痕内の Ectopy の進出ブロックによりアブレーションの効果判定ができた拡張型心筋症に伴う持続性心室頻拍の1例. 臨床心臓電気生理 2016 ; 39 (1) : 287-294.
 - 12) Shibuya J¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Bessho R¹⁾, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Intravascular Ultrasound and Optical Coherence Tomography Images for Direct Right Coronary Artery Injury after Tricuspid Valve Annuloplasty. Eurointervention 2017 ; 12 (16) : 1969.
- (6) Editorial :
- 1) Iwasaki Y, Shimizu W : Current Optimal Anticoagulation Regimen of Rivaroxaban in Atrial Fibrillation Catheter Ablation. Circ

J 2016 ; 32 (6) : 2287-2288.

(7) Reply :

- 1) Kawata H¹⁾, Shimizu W (¹⁾ National Cerebral and Cardiovascular Center) : Management of Gene-Positive Catecholaminergic Polymorphic Ventricular Tachycardia : Are the Long Term Outcomes on Therapy Really So Poor? : Reply. Circ J. 2016 ; 80 (12) : 2566-2566.

(8) Study protocol :

- 1) Tanaka A¹⁾, Inoue T¹⁾, Kitakaze M¹⁾, Oyama J¹⁾, Sata M¹⁾, Taguchi I¹⁾, Shimizu W, Watada H¹⁾, Tomiyama H¹⁾, Ako J¹⁾, Sakata Y¹⁾, Anzai T¹⁾, Uematsu M¹⁾, Suzuki M¹⁾, Eguchi K¹⁾, et al. (¹⁾ the CANDLE trial) : Rationale and design of a randomized trial to test the safety and non-inferiority of canagliflozin in patients with diabetes with chronic heart failure : the CANDLE trial. Cardiovasc Diabetol 2016 ; 15 (57) : Epub.

著 書

- 1) 清水 渉 : [分担] 6章 循環器・呼吸器疾患. 5 QT延長症候群. 遺伝カウンセリングマニュアル (福島義光 (監修), 櫻井晃洋 (編集)), 2016 ; pp166-167, 南江堂.
- 2) 清水 渉 : [分担] 第2章 各論—臨床心室頻拍診療学: 個々の心室頻拍の詳細— B. 遺伝性疾患. B-IQT延長症候群. 5 QT延長症候群 症例1 electrical stormを呈したLQT2症例. 心室頻拍のすべて (野上昭彦, 小林義典, 里見和浩 (編集)), 2016 ; pp206-214, 南江堂.
- 3) 林 洋史, 清水 渉 : [分担] I 急性心筋梗塞. Q8 合併症 : 心房細動. これだけは知っておきたい循環器管理—研修医からの質問 323—(山科 章特集編集), 2016 ; ppe49-e54, 総合医学社.
- 4) 高野仁司 : [分担] 冠動脈ステント留置術後のDAPT継続期間は?. ICUとCCU (心血管集中治療 pros・cons 清野精彦), 2016 ; pp709-716, 医学図書.
- 5) 藤本雄飛, 岩崎雄樹, 清水 渉 : [分担] 波形からみた心電図 心臓の器質的疾患 Plus QT時間の異常. 心電図が臨床につながる本, 2016 ; pp1212-1217, 医学書院.
- 6) 高橋健太, 林 明聡 : [共著] 繰り返す心室細動において, 第一選択はアミオダロンか?. 不整脈-その常識は正しいか? (里見和浩), 2017 ; pp233-239, 総合医学社.
- 7) 小鹿野道雄¹⁾, 林 明聡 (¹⁾ 静岡医療センター) : [分担] ベラパミル感受性心室頻拍. これから始めるカテーテルアブレーション (大塚 崇之), 2016 ; pp187-194, Medical View.
- 8) 淀川顕司, 清水 渉 : [共著] 心房細動のない慢性心不全における脳卒中発症とその対策. 循環器内科, 2016 ; pp557-560, 科学評論社.
- 9) 時田美和, 福間長知, 高圓雅博, 小野寺健太 : [共著] 冠動脈疾患と睡眠呼吸障害. 睡眠医療 (百村伸一), 2016 ; pp1601-1606, ライフサイエンス.
- 10) 萩原かな子, 岩崎雄樹 : [共著] 心房細動を合併する心不全でバイオマーカーはどれだけ使えるか?. 循環器内科, 2016 ; pp93-100, 科学評論社.
- 11) 萩原かな子, 岩崎雄樹 : [共著] 不整脈のインターベンション治療頻脈性不整脈アブレーションの発展 : 持続性心房細動. Coronary Intervention, 2017 ; メディアルファ.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Shimizu W : Genetics of long QT syndrome. Special Focus Session 6 "Cardiac Genetics". IGHG 2016 (Kyoto), 2016. 4.
- 2) Shimizu W : Genotype-phenotype correlation in long QT syndrome. SCD 02 : Long QT Syndrome. 9th APHRS Scientific Sessions (Seoul, Korea), 2016. 10.
- 3) Shimizu W : Early repolarization syndrome in relation to Brugada syndrome. SCD 08 : Inherited Arrhythmias. 9th APHRS Scientific Sessions (Seoul, Korea), 2016. 10.
- 4) Shimizu W : Role of implantable cardioverter defibrillator in different cardiac diseases. Device (Tachycardia) -Session Cardio Rhythm 2017 (Hong Kong, China), 2017. 2.
- 5) 高圓雅博, 福間長知, 小野寺健太, 時田美和, 加藤和代, 高橋 啓, 清水 渉 : アルドステロン・食塩の周辺病態と心臓リハビリテーション. 日本心臓リハビリテーション学会学術総会 (第22回) (東京), 2016. 7.
- 6) Saito T¹⁾, Asai K, Shimizu W (¹⁾ Tama Nagayama hospital) : Clinical Utility of Myocardial Autophagy in Patients with Dilated Cardiomyopathy to Predict Prognosis and Recovery of Cardiac Function. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 7) 高木 元 : 自己細胞由来増殖因子 (多血小板血漿) を用いた再生治療. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.

(2) 教育講演：

1) 清水 渉：致死性遺伝性不整脈の遺伝子診断と治療. 日本小児循環器学会総会・学術集会（第52回）（東京），2016. 7.

(3) シンポジウム：

- 1) Shimizu W：Stroke Prevention of the Patients with Atrial Fibrillation. -New Options for Anticoagulant Therapy-. Luncheon Symposium 1. 8th Annual Scientific Session of Korean Heart Rhythm Society (Seoul), 2016. 7.
- 2) Hayashi M, Iwasaki Y, Maru Y, Fujimoto Y, Oka E, Hagiwara K, Takahashi K, Tsuboi I, Hayashi H, Yamamoto T, Yodogawa K, Shimizu W：Urgent Radiofrequency Catheter Ablation for Recurrent Ventricular Fibrillation during Acute Heart Failure. シンポジウム 14. 日本不整脈心電学会学術集会（第63回）（札幌），2016. 7.
- 3) Iwasaki YK, Hayashi M, Shimizu W, Nitta T：The Current Status and Future Prospects of Wearable Cardioverter Defibrillator in Japan. シンポジウム 4 着用型自動除細動器（WCD）の心臓突然死予防における役割. 日本不整脈心電学会（第63回）（札幌），2016. 7.
- 4) 高木宏治¹⁾，三石達也¹⁾，嶋原祥太¹⁾，曾根教子¹⁾，菊池有史¹⁾，石原嗣郎¹⁾，石川昌弘¹⁾，佐藤直樹¹⁾，清水 渉¹⁾（武蔵小杉病院）：入院を要するうっ血性心不全における頻脈性心房細動に対する心拍コントロールに関する検討. 日本集中治療学会学術集会（第44回）（札幌），2017. 3.
- 5) Shirakabe A¹⁾，Ikeda Y²⁾，Saito T²⁾，Peiyong Z²⁾，Hata N¹⁾，Asai K, Shimizu W, Sadojima J²⁾（¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Rutgers New Jersey Medical School）：Drp1-dependent mitochondrial autophagy plays a protective role against pressure-overload-induced mitochondrial dysfunction and heart failure. 日本生理学会大会（第94回）（浜松），2017. 3.
- 6) 村上大介¹⁾，高野雅充¹⁾，宮内靖史¹⁾，清野精彦¹⁾，清水 渉¹⁾（千葉北総病院）：難治性冠攣縮性狭心症に対する薬効判定の意義：投薬下 Ach 負荷試験の可能性. 日本シネアンジオ研究会（第118回）（松山），2016. 6.
- 7) 松下誠人¹⁾，高野雅充¹⁾，谷 憲一¹⁾，澤谷倫史¹⁾，宮國知世¹⁾，柴田祐作¹⁾，栗原 理¹⁾，小宮山英徳¹⁾，小林宣明¹⁾，村上大介¹⁾，宮内靖史¹⁾，清野精彦¹⁾，清水 渉¹⁾（千葉北総病院）：4Fr ガイドカテーテルを用いた非閉塞型血管内視鏡の有効性と安全性. 日本心臓血管内視鏡学会（第30回）（兵庫），2016. 10.
- 8) Michio O¹⁾，Iwasaki Y, Tanabe J¹⁾，Yodogawa K, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W（¹⁾ Shizuoka Medical Center）：Importance of time-course assessment of durable LV reverse remodeling to identify true cardiac resynchronization therapy responders. 日本不整脈心電学会学術大会（第63回）（札幌），2016. 7.
- 9) 斎藤恒徳¹⁾，清水 渉¹⁾（多摩永山病院）：電子顕微鏡を活用する. 日本心臓病学会学術集会（第64回）（東京），2016. 9.
- 10) 宮本正章，高木 元，太良修平，桐木園子，久保田芳明，手塚晶人，高瀬仁志，海平和男：救肢を目的としたマゴットセラピー（医療用無菌ウジ治療）. 日本衛生動物学会大会（第68回）（宇都宮），2016. 4.
- 11) 高木 元，宮本正章，桐木園子，手塚晶人，古瀬領人，乾 恵輔，久保田芳明，高木郁代，清水 渉：下肢救済におけるマゴットセラピーの位置づけ. 日本下肢救済・足病学会学術集会（第8回）（東京），2016. 6.
- 12) 桐木園子，高木 元，宮本正章：ダイバーが注意すべき心疾患と心エコー検査. 日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会・学術集会（第16回）（東京），2016. 9.
- 13) 高木 元，宮本正章，太良修平，桐木園子，久保田芳明，羽田朋人，高木郁代，清水 渉：創傷治療の多様化する治療法とその未来. 日本フットケア学会年次学術集会（第15回）（岡山），2017. 3.
- 14) 高木 元，宮本正章，清水 渉：血管再生治療最前線（臨床適応疾患と方法の考察）. 日本創傷治療学会（第46回）（東京），2016. 12.
- 15) 相庭武司¹⁾，草野研吾¹⁾，宮本恵宏¹⁾，清水 渉¹⁾（国立循環器病研究センター）：Overall Clinical and Genetic Backgrounds of Ventricular Fibrillation or Cardiac Arrest in Patients with Inherited Primary Arrhythmia Syndromes. 日本循環器学会学術集会（第81回）（金沢），2017. 3.
- 16) 堀米仁志¹⁾，吉永正夫²⁾，住友直方³⁾，林 立申¹⁾，加藤愛章¹⁾，牛ノ濱大也⁴⁾，田内宣生⁵⁾，大野聖子⁶⁾，清水 渉，堀江 稔⁶⁾，長嶋正實⁵⁾（¹⁾ 筑波大学，²⁾ 鹿児島医療センター，³⁾ 埼玉医科大学，⁴⁾ 福岡市立こども病院，⁵⁾ 愛知済生会リハビリテーション病院，⁶⁾ 滋賀医科大学）：Genetic Background of Congenital Long QT Syndrome Diagnosed in Infancy and Comparison of Their Gene Mutations with Those in SIDS. 日本循環器学会学術集会（第81回）（金沢），2017. 3.
- 17) Shimizu W：Genetics of Inherited Arrhythmia Syndromes. 日本循環器学会学術集会（第81回）（金沢），2017. 3.
- 18) 三軒豪仁¹⁾，山本 剛¹⁾，小野寺健太¹⁾，鈴木啓士¹⁾，高橋健太¹⁾，黄 俊憲¹⁾，太良修平¹⁾，細川雄亮¹⁾，塚 宏一¹⁾，高野仁司，清水 渉¹⁾（心臓血管集中治療科）：Cardiologist Should be a Cardiac Intensivist in Emergency Cardiovascular Care. 日本循環器学会学術集会（第81回）（金沢），2017. 3.
- 19) 青山里恵，高野仁司，小林靖弘，北村光信，浅井邦也，汲田伸一郎，清水 渉：Clinical significance of the assessment of myocardial glucose metabolism using 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography in patients with hypertrophic cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会（第81回）（金沢），2017. 3.

- 20) Iwasaki Y, Hayashi M, Shimizu W, Nitta T : The Current Status and Future Prospects of Wearable Cardioverter Defibrillator in Japan. 日本不整脈心電学会学術大会 (第 63 回) (札幌), 2016. 7.
- 21) Iwasaki Y, Sekiguchi A, Hayami N, Shimizu W, Yamashita T : Importance of Pulmonary Vein Preferential Fibrosis for Atrial Fibrillation Promotion in Hypertensive Rat Hearts. APHRS 2016 (Seoul), 2016. 11.
- 22) 岩崎雄樹 : 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における心房細動の発症機序. 日本睡眠学会定期学術集会 (第 41 回) (東京), 2016. 7.
- 23) 岩崎雄樹 : ヒトの進化の歴史から頻脈性心房細動について考えてみよう. 日本不整脈心電学会学術大会 (第 63 回) (札幌), 2016. 7.
- (4) ポスター :
- 1) Takano H : The impact of electrolyte imbalance on inhospital mortality in patients with acute myocardial infarction patients. Sub-analysis from Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition. ACC 2016 (Chicago), 2016. 4.
 - 2) Fujimoto Y, Yamamoto T, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S¹⁾, Kato K¹⁾, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Maruyama M, Miyauchi Y¹⁾, Hata N¹⁾, Seino Y¹⁾, Shimizu W (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : The Prognostic Values of Left Ventricular Stiffness Assessed by Diastolic Wall Strain in Patients with Frequent Premature Ventricular Complexes. AHA 2016 (New Orleans), 2016. 11.
 - 3) Fujimoto Y, Yodogawa K, Oka E, Hagiwara K, Takahashi K, Hayashi H, Yamamoto T, Iwasaki Y, Hayashi M, Yashima M, Shimizu W : A New Electrocardiographic Marker for Recurrence of Atrial Fibrillation after Electrical Cardioversion. AHA 2016 (New Orleans), 2016. 11.
 - 4) Fujimoto Y, Yodogawa K, Oka E, Hagiwara K, Takahashi K, Hayashi H, Yamamoto T, Iwasaki Y, Hayashi M, Yashima M, Shimizu W : A New Electrocardiographic Marker for Recurrence of Atrial Fibrillation after Electrical Cardioversion. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
 - 5) Fujimoto Y, Yodogawa K, Oka E, Hagiwara K, Takahashi K, Hayashi H, Yamamoto T, Iwasaki Y, Hayashi M, Yashima M, Shimizu W : Significance of Fragmented QRS complex in Systemic Sclerosis Patients : Correlations with Clinical Complication. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
 - 6) 嶋原祥太¹⁾, 曾根教子¹⁾, 高木宏治¹⁾, 菊池有史¹⁾, 石原嗣郎¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 清水 渉 (¹⁾ 武蔵小杉病院) : RTX レスビレータを用いて超高齢者の呼吸不全を改善し得た 1 例. 日本集中治療学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
 - 7) 三石達也¹⁾, 高木宏治¹⁾, 嶋原祥太¹⁾, 曾根教子¹⁾, 菊池有史¹⁾, 石原嗣郎¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 清水 渉 (¹⁾ 武蔵小杉病院) : 重症インフルエンザ肺炎に対し急性期理学療法により ECMO を早期離脱し得た 1 例. 日本集中治療学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
 - 8) 田中咲里¹⁾, 岩本脩成¹⁾, 田中 綾¹⁾, 島田香寿美¹⁾, 村上智亮¹⁾, 黒部裕嗣²⁾, 太良修平, 中澤靖元¹⁾ (¹⁾ 東京農工大, ²⁾ 徳島大学) : 組織再生型心臓弁を指向したエラスチン架橋型シルクフィブロインの作製と評価. 高分子学会年次大会 (第 65 回) (神戸), 2016. 5.
 - 9) 塩村玲子¹⁾, 小林宣明¹⁾, 内山沙央里¹⁾, 西郡 卓¹⁾, 澁谷淳介¹⁾, 岡崎大武¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 畑 典武¹⁾, 清水 渉 (¹⁾ 千葉北総病院) : 収縮期血圧低値の急性心不全は予後不良であり, 肝胆道系酵素値が予後を予測しうる. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
 - 10) Shirakabe A¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Okazaki H¹⁾, Matsushita M¹⁾, Shibuya J¹⁾, Nishigoori S¹⁾, Hata N¹⁾, Asai K, Shimizu W (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : The Serum Heart-type Fatty Acid-Binding Protein (HFABP) Levels Can be Used to Detect the Presence of Acute Kidney Injury on Admission in Patients Admitted to the Non-surgical Intensive Care Unit. AHA 2016 (New Orleans), 2016. 11.
 - 11) Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Okazaki H¹⁾, Matsushita M¹⁾, Shibuya J¹⁾, Nishigoori S¹⁾, Asai K, Shimizu W (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Clinical significance of the measurement of Urinary Liver-Fatty Acid-Binding Protein (LFABP) Excretion in Acute Heart Failure Patients. AHA 2016 (New Orleans), 2016. 11.
 - 12) Takahashi K, Miyauchi Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Tsuboi I, Hayashi H, Oka E, Hagiwara K, Fujimoto Y, Nitta T¹⁾, Shimizu W (¹⁾ Surgery) : Atrial fibrillation following surgical maze in patients with complete lesion sets. 日本不整脈心電学会学術大会 (第 63 回) (札幌), 2016. 7.
 - 13) 戸村泰規¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 市場晋吾¹⁾, 高橋健太, 岩崎雄樹, 林 明聡, 丸 有人, 藤本雄飛, 萩原かな子, 岡英一郎, 坪井一平, 林洋史, 山本哲平, 淀川顕司, 清水 渉, その他 3 名 (¹⁾ ME 部) : 術中 CARTO マッピングにより同定した, 左前下行枝近位部直下起源の心室性期外収縮に対して開胸下冷凍凝固が奏功した 1 例. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2016 (福岡), 2016. 10.
 - 14) 小宮山英徳¹⁾, 高野雅充¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 村上大介¹⁾, 加藤活人¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 栗原 理¹⁾, 松下誠人¹⁾, 柴田祐作¹⁾, 澤谷倫史¹⁾, 畑典武¹⁾, 清野精彦¹⁾, 清水 渉 (¹⁾ 千葉北総病院) : リバースワイヤーに適切なガイドワイヤー選択. CVIT 2016 (東京), 2016. 7.

- 15) 柴田祐作¹⁾, 小林宣明¹⁾, 松下誠人¹⁾, 澤谷倫史¹⁾, 栗原 理¹⁾, 小宮山英徳¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 村上大介¹⁾, 高野雅充¹⁾, 岡崎大武¹⁾, 畑典武¹⁾, 清野精彦¹⁾, 清水 渉¹⁾ (千葉北総病院) : 近位下大静脈血栓を8Fr シースを用いて吸引し血栓破碎術に成功した1例. CVIT 2016 (東京), 2016. 7.
- 16) Yodogawa K, Seino Y¹⁾, Ohara T, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y¹⁾, Shimizu W¹⁾ (Chiba Hokusoh Hospital) : Prognostic Significance of Ventricular Late Potentials in Patients with Pulmonary Sarcoidosis. AHA 2016 (New Orleans), 2016. 11.
- 17) Ogano M¹⁾, Iwasaki Y, Tanabe J¹⁾, Takagi H¹⁾, Umemoto T¹⁾, Hayashi M, Miyauchi Y¹⁾, Shimizu W¹⁾ (Shizuoka Medical Center) : Procedural feasibility and importance of DF-1 lead in patients undergoing down-grade from cardiac resynchronization therapy with defibrillato. ESC 2016 (Rome Italy), 2016. 8.
- 18) 久保田芳明, 高野仁司, 谷田篤史, 乾 恵輔, 高木 元, 塚田弥生, 浅井邦也, 宮本正章, 清水 渉 : 急性冠症候群患者における耐糖能異常有病率と 冠動脈重症度病変スコア. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第59回) (京都), 2016. 5.
- 19) 久保田芳明, 浅井邦也, 吉永 綾, 泉 佑樹, 村井綱児, 時田祐吉, 吉川雅智, 塚田弥生, 清水 渉 : 不眠症・ベンゾジアゼピン系睡眠薬が心不全に及ぼす影響. 日本心不全学会 (第20回) (札幌), 2016. 10.
- 20) Kubota Y, Takano H, Onodera K¹⁾, Tanida A, Fukuizumi I¹⁾, Suzuki K¹⁾, Nakamura Y, Sangen H¹⁾, Inui K, Aoyama R, Imori Y, Tara S, Tokita Y, Yamamoto T¹⁾, Asai K, その他1名¹⁾ (Cardiovascular Care Unit) : Influence of time to peak post-challenge plasma glucose level on Syntax Score in Patients without diabetes mellitus. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 21) Kubota Y, Asai K, Yoshinaga A, Izumi Y, Murai K, Tokita Y, Yoshikawa M, Tsukada Y, Shimizu W, その他1名 : Influence of insomnia and benzodiazepines in heart failure patients. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 22) 笹本 希, 坏 宏一¹⁾, 高橋健太¹⁾, 黄 俊憲¹⁾, 三軒豪仁¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 太良修平¹⁾, 山本 剛¹⁾, 清水 渉¹⁾ (心臓血管集中治療科) : 急性大動脈解離における血圧の左右差の検討. 日本集中治療学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 23) 森澤太郎¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 井川 修¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 清水 渉¹⁾ (多摩永山病院) : 冠動脈疾患患者においてスタチン前 (長期) 投与は冠動脈の石灰化を抑制する (iMap-IVUS を用いた検討). 日本心臓病学会学術集会 (第64回) (東京), 2016. 9.
- 24) Endoh I¹⁾, Endoh Y, Kawaguchi N¹⁾, Katayama H¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Shimizu W, Kusama Y¹⁾, Geczy Y²⁾ (Tama Nagayama Hospital, ²⁾ University of New South Wales) : Induction of S100A8 in M2 Macrophages : A New Mechanism Mediating Anti-inflammatory Effects. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 25) Kohashi K¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Morisawa T¹⁾, Kosugi M¹⁾, Kusama Y¹⁾, Shimizu W¹⁾ (Tama Nagayama Hospital) : Dipeptidyl Peptide-4 Inhibitors Reduce the Inflammation and Improve Cardiac Function and Long-term Prognosis of Chronic Heart Failure Patients with Diabetes. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 26) 井川 修¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 足立正光¹⁾, 新 博次¹⁾, 清水 渉¹⁾ (多摩永山病院) : Extracardiac Pockets behind Right Atrium in the Pericardial Cavity : Specific Structure Related to Catheter Manipulation in the Pericardial Cavity. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 27) 吉永 綾, 青山里恵, 小野寺健太, 萩原かな子, 泉 佑樹, 時田祐吉, 吉川雅智, 松崎つや子¹⁾, 本間 博, 森嶋素子²⁾, 石井庸介²⁾, 新田 隆²⁾, 清水 渉¹⁾ (生理機能センター, ²⁾ 心臓血管外科) : 結節性痒疹の自己搔爬から三尖弁感染性心内膜炎を来した1例. 日本心エコー図学会学術集会 (第27回) (大阪), 2016. 4.
- 28) 時田美和, 塚田弥生, 中村有希, 久保田芳明, 青山里恵, 村井綱児, 時田祐吉, 浅井邦也, 清水 渉 : 骨粗鬆症患者における脊椎変形は心機能に影響するか?. 日本心臓病学会学術集会 (第64回) (東京), 2016. 9.
- 29) Oka E, Iwasaki Y, Fujimoto Y, Hagiwara K, Takahashi K, Tsuboi I, Hayashi H, Yamamoto T, Yodogawa K, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W : Manifestation of Early Repolarization ECG Pattern in the Patients with Acute Myocarditis. 日本不整脈心電学会学術大会 (第63回) (札幌), 2016. 7.
- 30) Oka E, Iwasaki Y, Maru Y, Fujimoto Y, Hagiwara K, Takahashi K, Hayashi H, Tsuboi I, Yamamoto T, Yodogawa K, Hayashi M, Shimizu W : Differential Effectiveness of Landiolol among Atrial Fibrillation and Atrial Flutter/Tachycardia in the Patients with Left Ventricular Dysfunction. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 31) 小野寺健太, 高野仁司, 三軒豪仁, 久保田芳明, 乾 恵輔, 青山里恵, 北村光信, 太良修平, 村井綱児, 時田祐吉, 吉川雅智, 浅井邦也, 本間 博, 高山守正¹⁾, 清水 渉¹⁾ (榊原記念病院) : 閉塞性肥大型心筋症患者におけるアルコール中隔焼灼術の左室拡張能に対する影響. 日本心臓病学会学術集会 (第64回) (東京), 2016. 9.
- 32) 細川雄亮, 黄 俊憲, 厚見佳彦, 宮國知世, 小野寺健太, 鈴木啓士, 古瀬領人, 三軒豪仁, 中村有希, 久保田芳明, 青山里恵, 村井綱児, 太良修平, 時田祐吉, 坏 宏一, その他5名 : Dio を用いてロータブレータを施行した高度屈曲病変のST 上昇心筋梗塞の1例. CVIT 2016 (東京), 2016. 7.
- 33) Takagi G, Miyamoto M, Kirinoki S, Kubota Y, Tara S, Hada T, Takagi I, Shimizu W : Hyperbaric Oxygenation Enhances

- Transplanted Cell Graft Survival and Functional Recovery in Critical Limb Ischemia. AHA 2016 (New Orleans), 2016. 11.
- 34) Takagi G, Miyamoto M, Kirinoki S, Kubota Y, Tara S, Hada T, Takagi I, Shimizu W : Hyperbaric Oxygenation Enhances Transplanted Cell Graft Survival and Functional Recovery in Critical Limb Ischemia. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 35) 高木 元, 桐木園子, 日ノ澤進一郎, 杉山未緒, 本城和義, 永積 渉, 杉山理恵, 柿沼香里, 酒井良子, 菅野仁士, 渡邊友起子, 三原恵理 : 動脈硬化疾患患者の栄養リスク評価. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (第 32 回) (岡山), 2017. 3.
- 36) 泉 佑樹, 萩原かな子, 吉永 綾, 時田祐吉, 吉川雅智, 本間 博, 清水 渉 : 複数の欠損孔を有する心房中隔欠損症を合併した心房中隔瘤の 1 例. 日本超音波医学会 (第 89 回) (京都), 2016. 5.
- 37) Izumi Y, Hagiwara K, Yoshinaga A, Tokita Y, Yoshikawa M, Honma H, Shimizu W : Left Atrial Dilatation Effect Mitral Annulus Geometry and Mitral Regurgitation in Patients with Atrial Fibrillation : Insights from Three-Dimensional Transoesophageal Echocardiography. ASE 2016 (Seattle USA), 2016. 6.
- 38) Izumi Y, Hagiwara K, Yoshinaga A, Tokita Y, Yoshikawa M, Honma H, Shimizu W : Left atrial dilation effect mitral regurgitation in relation to increasing mitral annulus sphericity in patients with lone atrial fibrillation. ESC 2016 (Rome Italy), 2016. 8.
- 39) Izumi Y, Mahara K, Hagiwara K, Yoshinaga A, Tokita Y, Yoshikawa M, Honma H, Shimizu W : Alteration of Mitral Annulus Morphology in Patients with Lone Atrial Fibrillation. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 40) 井守洋一, Frangieh A¹⁾, Ghadri J¹⁾, Cammann V¹⁾, Diekmann J¹⁾, Lüscher T¹⁾, Templin C¹⁾ (1) Zurich University Hospital) : たこつば型心筋症の診断における心筋バイオマーカーの有用性. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
- 41) Imori Y, Takano H, Onodera K, Fukuizumi I, Koen M, Ko T, Nakamura Y, Sangen H, Inui K, Kubota Y, Aoyama R, Kitamura M, Tara S, Tokita Y, Yamamoto T, et al. : Percutaneous transluminal septal myocardial ablation for hypertrophic obstructive cardiomyopathy through the anomalous septal branch. CCT2016 (神戸), 2016. 10.
- 42) 黄 俊憲¹⁾, 稲見茂信, 高野仁司, 小野寺健太¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 三軒豪仁¹⁾, 乾 恵輔, 久保田芳明, 青山里恵, 太良修平¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 山本 剛¹⁾, 浅井邦也, 清水 渉 (1) 心臓血管集中治療科) : 安定冠動脈疾患患者における高感度 CRP 値とコレステロール結晶の関連 : 光干渉断層検査 (OCT) を用いた検討. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
- 43) 黄 俊憲¹⁾, 稲見茂信, 高野仁司, 小野寺健太¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 三軒豪仁¹⁾, 乾 恵輔, 久保田芳明, 青山里恵, 太良修平¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 山本 剛¹⁾, 浅井邦也, 清水 渉 (1) 心臓血管集中治療科) : 安定冠動脈疾患患者における高感度 CRP 値とコレステロール結晶の関連 : 光干渉断層検査 (OCT) を用いた検討. 日本冠疾患学会学術集会 (第 30 回) (東京), 2016. 12.
- 44) Ko T¹⁾, Inami S, Takano H, Onodera K¹⁾, Suzuki K¹⁾, Furuse E¹⁾, Sangen H¹⁾, Inui K, Kubota Y, Aoyama R, Tara S¹⁾, Tokita Y, Yamamoto T¹⁾, Asai K, Shimizu W (1) Cardiovascular Care Unit) : Relationship between high-sensitivity CRP levels and non-culprit lesion cholesterol crystals assessed by OCT in patients with stable coronary artery disease. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 45) Kashiwa A¹⁾, Aiba T¹⁾, Makimoto H²⁾, Yagihara N³⁾, Watanabe H³⁾, Ohno S⁴⁾, Hayashi K⁵⁾, Sumitomo N⁶⁾, Yoshinaga M⁷⁾, Morita H⁸⁾, Miyamoto Y¹⁾, Makita N⁹⁾, Horie M⁴⁾, Yasuda S¹⁾, Kusano K¹⁾, et al. (1) National Cerebral and Cardiovascular Center, 2) The University of Tokyo Hospital, 3) Niigata University, 4) Kanazawa University, 5) Shiga University, 6) Saitama Medical University, 7) National Hospital Organization Kagoshima Medical Center, 8) Okayama University, 9) Nagasaki University) : Mutation Spot-sensitive Clinical Features and Risk of Life-threatening Arrhythmia in Long QT Syndrome Type 1 in Japan. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 46) Takahashi K, Miyauchi Y, Fujimoto Y, Oka E, Hagiwara K, Tsuboi I, Hayashi H, Yamamoto T, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Nitta T¹⁾, Shimizu W (1) Surgery) : Atrial Fibrillation Following Surgical Maze in Patients with Complete Lesion Sets. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 47) Koen M, Fukuma N, Onodera K, Tokita M, Katoh K, Takahashi H, Shimizu W : Alteration of 24hrs Urinary Aldosterone Secretion by LV Diastolic Dysfunction in Patients with Sub-acute MI. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 48) Takagi K¹⁾, Sato N¹⁾, Ohkuma S¹⁾, Ishizuka A¹⁾, Sone M¹⁾, Nakama K¹⁾, Omote T¹⁾, Kikuchi A¹⁾, Ishihara S¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Takahashi N¹⁾, Shimizu W (1) Musashi Kosugi Hospital) : Clinical Significance of the Combined Therapy with Aquaretic and Natriuretic Agents for Fluid Managements in Hospitalized Heart Failure Patients. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 49) Komiyama H¹⁾, Takano M¹⁾, Matsushita M¹⁾, Kurihara O¹⁾, Murakami D¹⁾, Seino Y¹⁾, Shimizu W, Mizuno K²⁾, Ikeda T¹⁾, Miyakuni T¹⁾, Miyauchi Y¹⁾ (1) Chiba Hokuso Hospital, 2) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : The Relationship between Endothelial Shear Stress and Plaque Morphology. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 50) 石川昌弘¹⁾, 高橋直人¹⁾, 野原 剛¹⁾, 大熊 慧¹⁾, 三石達也¹⁾, 石塚淳史¹⁾, 嶋原祥太¹⁾, 曾根教子¹⁾, 高木宏治¹⁾, 中摩健二¹⁾, 表

- 俊也¹⁾, 菊池有史¹⁾, 石原嗣郎¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 武蔵小杉病院) : Impact of End-stage Renal Disease on Left Ven-tricular Mechanical Dyssynchrony in Non-ischemic Heart Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 51) 福岡長知, 高圓雅博, 小野寺健太, 時田美和, 清水 渉 : β -blocker Improves Ratio of Aldosterone to Salt in Patients with Chronic CAD. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 52) 福岡長知, 高圓雅博, 小野寺健太, 時田美和, 清水 渉 : Differences between Plasma Aldosterone Concentration and Potassium-to-Creatinine Ratio in Patients after Acute Myocardial Infarction. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 53) Aoyama R, Takano H, Kobayashi Y, Kitamura M, Asai K, Kumita S, Shimizu W : Clinical implication of myocardial glucose metabolism in patients with hypertrophic cardiomyopathy assessed by 18F-FDG-PET. ACC 2016 (Chicago), 2016. 4.
- 54) Hosokawa Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Nagao K¹⁾, Kuroki N¹⁾, Tachibana E¹⁾, Takayama T¹⁾, Shimizu W, Takayama M⁽¹⁾ Tokyo CCU Network Scientific Committee) : Hemodynamic compromise during transportation predicts in-hospital mortality among cardiogenic shock patients from Tokyo CCU Network. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- (5) 一般講演 :
- 1) 高圓雅博, 坪 宏一¹⁾, 吉永 綾, 青山里恵, 村井綱児, 岩崎雄樹, 浅井邦也, 清水 渉⁽¹⁾ 心臓血管集中治療科) : 短期間に大動脈解離を再発し腎機能障害合併で血圧コントロールに難渋した 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 242 回) (東京), 2016. 12.
- 2) 野原 剛¹⁾, 高橋直人¹⁾, 伊藤祐輔¹⁾, 大熊 慧¹⁾, 三石達也¹⁾, 石塚淳史¹⁾, 嶋原祥太¹⁾, 曾根教子¹⁾, 高木宏治¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 中摩健二¹⁾, 表 俊也¹⁾, 菊池有史¹⁾, 石原嗣郎¹⁾, 石川昌弘¹⁾, その他 2 名⁽¹⁾ 武蔵小杉病院) : 慢性期まで Multi-modality で評価し得た Mid-ventricular balloon たこつば型心筋症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 243 回) (東京), 2017. 2.
- 3) 大熊 慧¹⁾, 徳山榮男¹⁾, 石原嗣郎¹⁾, 高橋直人¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 菊池有史¹⁾, 表 俊也¹⁾, 中摩健二¹⁾, 高木宏治¹⁾, 曾根教子¹⁾, 嶋原祥太¹⁾, 石塚淳史¹⁾, 三石達也¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, その他 3 名⁽¹⁾ 武蔵小杉病院) : 治療に難渋した結核性収縮性心膜炎の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 240 回) (東京), 2016. 6.
- 4) Takagi K¹⁾, Ishihara S¹⁾, Sato N¹⁾, Shimizu W⁽¹⁾ Musashi Kosugi Hospital) : The relationship between arterial and left ventricular ejection fraction in heart failure. Heart Failure 2016 (Florence Italy), 2016. 5.
- 5) Fujimoto Y, Yodogawa K, Oka E, Hagiwara K, Takahashi K, Tsuboi I, Yamamoto T, Iwasaki Y, Hayashi M, Shimizu W : Prediction of AF recurrence after electrical cardioversion can be assessed by P wave abnormality. 日本不整脈心電学会学術大会 (第 63 回) (札幌), 2016. 7.
- 6) 藤本雄飛, 淀川頭司, 八島正明, 高橋健太, 坪井一平, 岩崎雄樹, 林 明聡, 清水 渉 : 心房細動に対する電氣的除細動を P 波で予測可能か. ホルターノンインベイスブ心電学会研究会 (第 36 回) (埼玉), 2016. 6.
- 7) 乾 恵輔, 城 正樹¹⁾, 久保田芳明, 桐木園子²⁾, 天野康雄¹⁾, 浅井邦也, 宮本正章, 清水 渉⁽¹⁾ 放射線科, ²⁾ 総合診療科) : 非虚血性心筋症の心筋障害における糖尿病の影響に関して : T1 マッピングを用いた心臓 MRI 評価からの知見. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回) (京都), 2016. 5.
- 8) 木内一貴¹⁾, 小林宣明¹⁾, 西郡 卓¹⁾, 岡崎大武¹⁾, 畑 典武¹⁾, 栗原 里¹⁾, 清野精彦¹⁾, 鶴見昌史²⁾, 脇田智志³⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 千葉北総病院, ²⁾ 石川島記念病院, ³⁾ 血液内科) : 肺動脈塞栓症を契機に遺伝子変異の特定に至った先天性アンチトロンビン欠乏症の 1 例. 日本内科学会関東甲信越地方会 (第 624 回) (東京), 2016. 6.
- 9) 澁谷淳介¹⁾, 小林宣明¹⁾, 内山沙央里¹⁾, 西郡 卓¹⁾, 塩村玲子¹⁾, 岡崎大武¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 畑 典武¹⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 千葉北総病院) : 冬季発症急性冠症候群の臨床的特徴と予後 : Optical coherence tomography を用いた検討. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
- 10) 白壁章宏¹⁾, 小林宣明¹⁾, 岡崎大武¹⁾, 松下誠人¹⁾, 澁谷淳介¹⁾, 西郡 卓¹⁾, 畑 典武¹⁾, 浅井邦也, 清水 渉⁽¹⁾ 千葉北総病院) : Clinical significance of the measurement of urinary liver-fatty acid-binding protein (LFABP) excretion in acute heart failure patients. 日本心不全学会 (第 20 回) (札幌), 2016. 10.
- 11) 説田浩一¹⁾, 北原康行¹⁾, 清野精彦²⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 都立駒込病院, ²⁾ 千葉北総病院) : 本態性高血圧症における心電図上の左室ストレイン・パターンは潜在性微小心筋障害と関連する. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
- 12) 植竹俊介¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 清野精彦¹⁾, 清水 渉, その他 3 名⁽¹⁾ 千葉北総病院) : 冠静脈洞周囲を時計方向・半時計方向に旋回するマクロリエンリー性心房頻拍の 1 例. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2016 (福岡), 2016. 10.
- 13) 谷 憲一¹⁾, 栗原 理¹⁾, 高野雅充¹⁾, 水野杏一²⁾, 柴田祐作¹⁾, 松下誠人¹⁾, 小宮山英徳¹⁾, 加藤活人¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 村上大介¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 畑 典武¹⁾, 清野精彦¹⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 千葉北総病院, ²⁾ 三越厚生事業団) : BMI と冠動脈硬化 : 血管内視鏡からの検討. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 30 回) (兵庫), 2016. 10.
- 14) 小鹿野道雄¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 清水 渉⁽¹⁾ 静岡医療センター) : 除細動機能付き心臓再同期療法の Down grade における DF-1 リードの必要性. 植え込みデバイス関連冬季大会 (第 9 回) (大阪), 2017. 2.
- 15) 久保田芳明, 村井綱児, 泉 佑樹, 浅井邦也, 中島育太郎, 石橋耕平, 和田 暢, 鈴木 敦, 久武真二, 安岡良文, 野田 崇, 栗田隆志, 池田隆徳, 萩原誠久, 清水 渉 : アジアにおける日本の心不全患者の検討 : Asian Sudden Cardiac Death in Heart Failure

- (ASIAN HF) レジストリーからのメッセージ. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
- 16) 斎藤恒徳¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 野崎文華¹⁾, 中野博之¹⁾, 田中貴久¹⁾, 山本良也¹⁾, 羽田朋人¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 森澤太郎¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 中込明裕¹⁾, 井川 修¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 清水 渉¹⁾ (多摩永山病院): P-ANCA 陽性糸球体腎炎を合併した感染性心内膜炎の 1 例. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第 44 回) (東京), 2016. 5.
 - 17) 小橋啓一¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 大山 亮¹⁾, 田中貴久¹⁾, 斎藤恒徳¹⁾, 中野博之¹⁾, 野崎文華¹⁾, 森澤太郎¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 清水 渉, 丸山雄二²⁾, 井村 肇²⁾ (1) 多摩永山病院, (2) 武蔵小杉病院): 感染性心内膜炎と鑑別が困難であった前乳頭筋部分断裂による僧帽弁閉鎖不全症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 240 回) (東京), 2016. 6.
 - 18) 小杉宗範¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 野間さつき¹⁾, 森澤太郎¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 川口直美¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新井 悟¹⁾, 清水 渉¹⁾ (多摩永山病院): 間質性肺炎・急性呼吸促迫症候群 (ARDS) を合併した成人ステイル病の剖検例. 日本内科学会関東甲信越地方会 (第 624 回) (東京), 2016. 6.
 - 19) 小杉宗範¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 森澤太郎¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 川口直美¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 清水 渉¹⁾ (多摩永山病院): 比較的高齢者に発症した特発性急性好酸球性肺炎の 1 例. 日本内科学会関東甲信越地方会 (第 625 回) (東京), 2016. 7.
 - 20) 小杉宗範¹⁾, 中込明裕¹⁾, 斎藤恒徳¹⁾, 森澤太郎¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 清水 渉¹⁾ (多摩永山病院): 冠攣縮性狭心症における喫煙に関する検討. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
 - 21) 小橋啓一¹⁾, 中込明裕¹⁾, 森澤太郎¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 清水 渉¹⁾ (多摩永山病院): 糖尿病を有する慢性心不全患者におけるシタグリブチンリンの炎症, 心機能, 長期予後への影響. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
 - 22) 小杉宗範¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 中野博之¹⁾, 斎藤恒徳¹⁾, 野崎文華¹⁾, 森澤太郎¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 川口直美¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 清水 渉¹⁾ (多摩永山病院): 自己免疫性肝炎に合併した門脈圧亢進症に伴う肺動脈性肺高血圧症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 242 回) (東京), 2016. 12.
 - 23) Nakagomi A¹⁾, Kohashi K¹⁾, Morisawa T¹⁾, Endo I¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Kusama Y¹⁾, Shimizu W (1) Tama Nagayama Hospital): Effects of Smoking on the Monocyte Tissue Factor Activity, Carotid Atherosclerosis and the Long-Term Prognosis in Patients with Metabolic Syndrome. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
 - 24) Morisawa T¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Kohashi K¹⁾, Kosugi M¹⁾, Kusama Y¹⁾, Shimizu W (1) Tama Nagayama Hospital): Serum Tartrate-resistant Acid Phosphatase-5b is Associated with the Severity and Extent of Coronary Atherosclerosis in Patients with Coronary Artery Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
 - 25) Igawa O¹⁾, Kusama Y¹⁾, Adachi M¹⁾, Atarashi H¹⁾, Shimizu W (1) Tama Nagayama Hospital): Risk of His Bundle Damage Due to Catheter Ablation around Anterior Mitral Valve Annulus: From the View Point of Anatomy. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
 - 26) Igawa O¹⁾, Kusama Y¹⁾, Adachi M¹⁾, Atarashi H¹⁾, Shimizu W (1) Tama Nagayama Hospital): "Left Atrial Diverticulum", Common Structure Related to Catheter Ablation: Anatomical Examination Concerning Its Location and Structure. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
 - 27) 井川 修¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 足立正光¹⁾, 新 博次¹⁾, 清水 渉¹⁾ (多摩永山病院): Anatomical Pitfall in 3DMapping, "Right Atrial Recess": Unexpected Structure in Posterior Wall of Right Atrium. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
 - 28) Tokita M, Tsukada Y, Kubota Y, Aoyama R, Tokita Y, Asai K, Shimizu W: Does Osteoporosis-related Kyphosis Impair Cardiac Function?. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
 - 29) 岡英一郎, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 林 明聡, 淀川顕司, 山本哲平, 坪井一平, 林 洋史, 高橋健太, 萩原かな子, 藤本雄飛, 丸 有人, 清水 渉: 洞不全症候群に対する DDD ペースメーカー植え込み後, 部分的心房静止に伴う右房隔離を生じ, 右室ペーシング後の逆行性左房収縮により心不全を惹起した 1 例. 臨床心臓電気生理学研究会 (第 46 回) (金沢), 2016. 5.
 - 30) 岡英一郎, 岩崎雄樹, 坪井一平, 林 洋史, 丸 有人, 藤本雄飛, 萩原かな子, 高橋健太, 山本哲平, 淀川顕司, 林 明聡, 清水 渉: たこつば型心筋症の併発により, 診断および治療方針の決定に苦慮した発作性房室ブロックの 1 例. 植込みデバイス関連冬季大会 (第 9 回) (大阪), 2017. 2.
 - 31) Oka E, Iwasaki Y, Maru Y, Fujimoto Y, Hagiwara K, Takahashi K, Hayashi H, Tsuboi I, Yamamoto T, Yodogawa K, Hayashi M, Shimizu W: Unique Early Repolarization ECG Pattern in the Patients with Acute Myocarditis: Evidence of Epicardial Localized Myocardial Inflammation. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
 - 32) Onodera K, Takaho H, Sangen H, Kubota Y, Inui K, Aoyama R, Kitamura M, Tara S, Murai K, Tokita Y, Yoshikawa M, Asai K, Honma H, Takayama M¹⁾, Shimizu W (1) Sakakibara Heart Institute): Impact of alcohol septal ablation on left ventricular diastolic function in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy. CVIT 2016 (東京), 2016. 7.
 - 33) 小野寺健太¹⁾, 三軒豪仁¹⁾, 高橋健太¹⁾, 黄 俊憲¹⁾, 林 洋史¹⁾, 坪井一平, 太良修平¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 心臓血管集中治療科): 一時的ペーシングが必要な重症心疾患患者への冠静脈洞ペーシングの有用性. 日本集中治療学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.

- 34) 高木 元, 宮本正章, 桐木園子, 久保田芳明, 太良修平, 羽田朋人, 高木郁代, 清水 渉 : 高気圧酸素療法による幹細胞移植効率向上と下肢虚血予後改善効果. 日本脈管学会総会 (第 57 回) (奈良), 2016. 10.
- 35) Kirinoki S, Takagi G, Kubota Y, Tara S, Miyamoto M, Shimizu W : The Effectiveness of Multiplace Chamber Hyperbaric Oxygen Therapy in Treating Refractory Limb Ischemia in Diabetic Patients. 11th IDF-WPR (Taipei), 2016. 10.
- 36) 泉 佑樹, 萩原かな子, 吉永 綾, 時田祐吉, 吉川雅智, 本間 博, 清水 渉 : 心房細動における左房拡大と僧帽弁輪形態および僧帽弁逆流との関係, 3 次元経食道心エコー図を用いた検討. 日本心エコー図学会学術集会 (第 27 回) (大阪), 2016. 4.
- 37) 泉 佑樹 : 心臓超音波で診る. 日本画像医学会 (第 36 回) (東京), 2017. 2.
- 38) Ito Hagiwara K, Iwasaki Y, Maru Y, Fujimoto Y, Oka E, Takahashi K, Tsuboi I, Yamamoto T, Yodogawa K, Hayashi M, Shimizu W : Efficacy of Nifekalant for the Patient with Direct Current-Refractory Atrial Fibrillation During Radiofrequency Catheter Ablation. 日本不整脈心電学会学術大会 (第 63 回) (札幌), 2016. 7.
- 39) 説田浩一¹⁾, 北原康行¹⁾, 清野精彦²⁾, 清水 渉⁽¹⁾ 都立駒込病院, ²⁾ 千葉北総病院) : 本態性高血圧症における心電図上の左室ストレーン・パターンは潜在性微小心筋障害と関連する. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
- 40) Ko T¹⁾, Inami S, Takano H, Onodera K¹⁾, Suzuki K¹⁾, Furuse E¹⁾, Sangen H¹⁾, Inui K, Kubota Y, Aoyama R, Tara S¹⁾, Tokita Y, Yamamoto T¹⁾, Asai K, Shimizu W⁽¹⁾ Cardiovascular Care Unit) : Relationship between high-sensitivity C-reactive protein levels and non-culprit lesion cholesterol crystals assessed by optical coherence tomography in patients with stable coronary artery disease. CVIT 2016 (東京), 2016. 7.
- 41) Imori Y, Takano H, Kitamura M, Onodera K, Fukuizumi I, Noma S, Koen M, Ko T, Nakamura Y, Sangen H, Inui K, Kubota Y, Aoyama R, Tara S, Tokita Y, et al. : Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation for Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy through the Anomalous Septal Branch. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 42) 中込明裕¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 森澤太一郎¹⁾, 遠藤育子¹⁾, 川口直美¹⁾, 草間芳樹, 清水 渉⁽¹⁾ 多摩永山病院) : Effects of Smoking on the Monocyte Tissue Factor Activity, Carotid Atherosclerosis and the Long-Term Prognosis in Patients with Metabolic Syndrome. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 43) 林 洋史, 丸 有人, 藤本雄飛, 萩原かな子, 岡英一郎, 坪井一平, 山本哲平, 淀川顕司, 岩崎雄樹, 林 明聡, 清水 渉 : Efficacy of Intravenous Amiodarone for Tachycardic Atrial Fibrillation in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. 日本不整脈心電学会学術大会 (第 63 回) (札幌), 2016. 7.
- 44) 三室 嶺, 青山里恵, 宮國知世, 小野寺健太, 高橋健太, 吉永 綾, 泉 佑樹, 時田祐吉, 吉川雅智, 岩崎雄樹, 清水 渉, その他 3 名 : 結節性痒疹への自己搔爬から感染性心内膜炎を発生した 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 240 回) (東京), 2016. 6.
- 45) 青山里恵, 高野仁司, 三軒豪仁, 久保田芳明, 乾 恵輔, 北村光信, 浅井邦也, 清水 渉 : The efficacy and the safety of percutaneous septal myocardial ablation (PTSMA) procedure for Hypertrophic cardiomyopathy (HCM) with mid-ventricular obstruction (MVO). CVIT 2016 (東京), 2016. 7.
- 46) 青山里恵, 塚田弥生, 小野寺健太, 久保田芳明, 村井綱児, 時田祐吉, 浅井邦也, 清水 渉, 真鍋葉子, 田中 旬, 原田和昌 : The Efficacy of Tolvaptan on Dasatinib induced Pleural Effusions in Patients with Chronic Myelogenous Leukemia. 日本心不全学会 (第 20 回) (札幌), 2016. 10.
- 47) 青山里恵, 高野仁司, 三軒豪仁, 北村光信, 時田祐吉, 浅井邦也, 清水 渉 : 孤立性右胸心及び肥大型心筋症による左室流出路狭窄に対して PTSMA を施行した 1 例. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第 48 回) (東京), 2016. 10.
- 48) 青山里恵, 高野仁司, 三軒豪仁, 北村光信, 時田祐吉, 浅井邦也, 清水 渉 : 孤立性右胸心及び肥大型心筋症による左室流出路狭窄に対して PTSMA を施行した 1 例. HOCM フォーラム (第 4 回) (東京), 2016. 10.
- 49) 三軒豪仁¹⁾, 太良修平¹⁾, 高木 元, 鈴木啓士¹⁾, 古瀬領人¹⁾, 黄 俊憲¹⁾, 林 洋史, 小野寺健太¹⁾, 中村有希, 乾 恵輔, 久保田芳明, 青山里恵, 細川雄亮¹⁾, 村井綱児, 時田祐吉, その他 6 名⁽¹⁾ 心臓血管集中治療科) : 膝窩動脈三分枝の解剖学的亜型と重症下肢虚血発症の関連. CVIT 2016 (東京), 2016. 7.
- 50) 成田憲紀¹⁾, 三軒豪仁²⁾, 古瀬領人²⁾, 鈴木啓士²⁾, 黄 俊憲²⁾, 乾 恵輔, 青山里恵, 久保田芳明, 細川雄亮²⁾, 太良修平²⁾, 時田祐吉, 坪 宏一²⁾, 山本 剛²⁾, 高野仁司, 清水 渉⁽¹⁾ 弘前大学, ²⁾ 心臓血管集中治療科) : 高度腎機能低下を有する腎動脈狭窄患者に対する PTRAs の有用性. CVIT 2016 (東京), 2016. 7.
- 51) 淀川顕司, 清水 渉, 吾妻安良太¹⁾, 清野精彦²⁾ (1) 呼吸器内科, ²⁾ 千葉北総病院) : 緩徐進行性の房室伝導障害に対し早期にステロイドを導入し伝導改善を認めたサルコイドーシスの 1 例. 東京サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会 (第 184 回) (東京), 2016. 12.
- (6) Featured Research Session :
- 1) Shimamoto K¹⁾, Aiba T¹⁾, Ishibashi K¹⁾, Kamakura T¹⁾, Wada M¹⁾, Miyamoto K¹⁾, Inoue-Yamada Y¹⁾, Okamura H¹⁾, Nagase S¹⁾, Noda T¹⁾, Miyamoto Y¹⁾, Yasuda K¹⁾, Shimizu W, Kusano K¹⁾ (1) National Cerebral and Cardiovascular Center) : Clinical

Features and Long-term Prognosis of Patients with Genotype-unknown Long-QT Syndrome. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.

- 2) Nakajima K¹⁾, Aiba T¹⁾, Nishiuchi S²⁾, Makiyama T²⁾, Onoue K³⁾, Kamakura T¹⁾, Wada M¹⁾, Ishibashi K¹⁾, Inoue Y¹⁾, Miyamoto K¹⁾, Okamura H¹⁾, Nagase S¹⁾, Noda T¹⁾, Ohno S⁴⁾, Miyamoto Y¹⁾, et al. (1) National Cerebral and Cardiovascular Center, 2) Kyoto University, 3) Nara Medical University, 4) Shiga Medical University of Science) : Risk Stratification of Laminopathy in Japan from Multicenter Registry. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.

(7) Late Breaking Cohort Studies :

- 1) Yamagata K¹⁾, Horie M²⁾, Aiba T¹⁾, Ogawa S³⁾, Aizawa Y, Ohe T⁴⁾, Yamagishi M⁵⁾, Makita N⁹⁾, Sakurada H, Tanaka T, Shimizu A, Hagiwara N⁶⁾, Kishi R, Nakano Y⁷⁾, Takagi M⁸⁾, et al. (1) National Cerebral and Cardiovascular Center, 2) Shiga University of Medical Science, 3) Keio University, 4) Okayama University, 5) Kanazawa University, 6) Tokyo Women's Medical University, 7) Hiroshima University, 8) Osaka City University, 9) Nagasaki University) : Genotype-Phenotype Correlation of SCN5A Mutations for the Clinical and Electrocardiographic Characteristics of Proband with Brugada Syndrome : A Japanese Multicenter Registry. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 2) 山下武志¹⁾, 新 博次²⁾, 井上 博³⁾, 内山真一郎⁴⁾, 北園孝成⁵⁾, 清水 渉, 池田隆徳⁶⁾, 海北幸一⁷⁾, 鴨打正浩⁴⁾, 福田浩二⁸⁾, 折笠秀樹⁹⁾, 下川宏明⁸⁾ (1) 心臓血管研究所, 2) 鶴巻温泉病院, 3) 富山病院, 4) 国際医療福祉大学, 5) 九州大学, 6) 東邦大学, 7) 熊本大学, 8) 東北大学, 9) 富山大学) : Effectiveness and Safety of Rivaroxaban in Patients with Non-Valvular Atrial Fibrillation : The First Report from the EXPAND Study. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 3) 石原正治¹⁾, 中尾浩一²⁾, 尾崎行男³⁾, 木村一雄⁴⁾, 阿古潤哉⁵⁾, 野口暉夫⁶⁾, 安田 聡⁶⁾, 諏訪 哲⁷⁾, 藤本和輝⁸⁾, 中間泰晴⁹⁾, 森田孝¹⁰⁾, 清水 渉, 斎藤能彦, 廣畑 敦, 森田康弘, その他5名 (1) 兵庫医科大学, 2) 済生会熊本病院心臓血管センター, 3) 藤田保健衛生大学, 4) 横浜市立大学市民総合医療センター, 5) 北里大学, 6) 国立循環器病研究センター, 7) 順天堂大学付属静岡病院, 8) 熊本医療センター心臓血管センター, 9) 広島市民病院, 10) その他) : Long-term Outcomes of Non-ST-elevation Myocardial Infarction without Creatine Kinase Elevation : The J-MINUET Study. 日本循環器学会学術集会 (第81回) (金沢), 2017. 3.

(8) 学術奨励賞 :

- 1) Takahashi K, Miyauchi Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Tsuboi I, Hayashi H, Oka E, Ito Hagiwara K, Fujimoto Y, Shimizu W : Mechanisms of Post-operative Atrial Tachycardia following Biatrial Surgical Ablation of Atrial Fibrillation in Relation to the Surgical Lesion. 日本不整脈心電学会学術大会 (第63回) (札幌), 2016. 7.

論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 岩崎雄樹 : 自律神経と不整脈 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における不整脈発生と自律神経の関係. 心電図 2016 ; 36 (1) : 55-63.

追加分原著 :

- 1) Antzelevitch C¹⁾, Yan G¹⁾, Ackerman M¹⁾, Borggrefe M¹⁾, Corrado D¹⁾, Guo J¹⁾, Gussak I¹⁾, Hasdemir C¹⁾, Horie M¹⁾, Hukuri H¹⁾, Mac C¹⁾, Morita H¹⁾, Nam G¹⁾, Sacher F¹⁾, Shimizu W, et al. (1) APHRS, HRS, SOLACE) : J-Wave syndromes expert consensus conference report : Emerging concepts and gaps in knowledge. Europace 2017 ; 19 (4) : 665-694.
- 2) Kamakura T¹⁾, Wada M¹⁾, Ishibashi K¹⁾, Inoue Y¹⁾, Miyamoto K¹⁾, Okamura H¹⁾, Nagase S¹⁾, Noda T¹⁾, Aiba T¹⁾, Yasuda S¹⁾, Shimizu W, Kamakura S¹⁾, Kusano K¹⁾ (1) National Cerebral and Cardiovascular Center) : Differences in the onset mode of ventricular tachyarrhythmia between patients with J wave in anterior leads and those with J wave in inferolateral leads. Heart Rhythm 2017 ; 14 (4) : 553-561.
- 3) Fujino M¹⁾, Ishihara M¹⁾, Ogawa H¹⁾, Nakano K¹⁾, Yasuda S¹⁾, Noguchi T¹⁾, Ozaki Y¹⁾, Kimura K¹⁾, Suwa S¹⁾, Fujimoto K¹⁾, Nakama Y¹⁾, Morita T¹⁾, Shimizu W, Saito Y¹⁾, Hirohata A¹⁾, et al. (1) J-MINUET Investigators) : Impact of symptom presentation on in-hospital outcomes in patients with acute myocardial infarction. J Cardiol 2017 ; 70 (1) : 29-34.
- 4) Aoyama R, Takano H, Suzuki K, Kubota Y, Inui K, Tokita Y, Shimizu W : The impact of blood pressure variability on coronary plaque vulnerability in stable angina : an analysis using optical coherence tomography. Coronary Artery Dis 2017 ; 28 (3) : 225-231.
- 5) Okazaki H¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Shinada T¹⁾, Matsushita M¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Shibuya J¹⁾, Shiomura R¹⁾, Nishigori S¹⁾, Asai K, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Are Atherosclerotic Risk Factors Associated with a Poor Prognosis in Patients with Hyperuricemic Acute Heart Failure? : The Evaluation of the Causal Dependence of Acute Heart Failure and Hyperuricemia. Heart Vessels 2017 ; 32 (4) : 436-445.
- 6) Matsushita M¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Hata N¹⁾, Shinada T¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Tomita K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Yamamoto

Y¹), Asai K, Shimizu W (1) Chiba Hokusoh Hospital) : Association between the body mass index and the clinical findings in patients with acute heart failure : evaluation of the obesity paradox in patients with severely decompensated acute heart failure. Heart Vessels 2017 ; 32 (5) : 600-608.

7) Takano M¹), Imaizumi T²), Tabata A²), Hata N¹), Seino Y¹), Shimizu W, Mizuno K³) (1) Chiba Hokusoh Hospital, 2) Kobayashi Hospital, 3) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Minimally invasive coronary angiography : observation using a new non-occlusive fibroscope through a 4 Fr guiding catheter. AsiaIntervention 2015 ; 1 (2) : 126-128.

8) Takagi G, Miyamoto M, Fukushima Y, Yasutake M, Tara S, Takagi I, Seki N, Kumita S, Shimizu W : Imaging angiogenesis using 99mTc-MAA scintigraphy in patients with peripheral artery disease. J Nucl Med 2016 ; 57 (2) : 192-197.

追加分症例報告 :

1) Shimura T¹), Takano M¹), Seino Y¹), Shimizu W, Mizuno K²) (1) Chiba Hokusoh Hospital, 2) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Angioscopic Comparison of Six-month Arterial Healing between Bare-metal and Drug-eluting Stents in Superficial Femoral Arteries. Angioscopy 2015 ; 1 (1) : 38-41.

2) Munakata R¹), Takano M¹), Hata T¹), Shimura T¹), Kurihara O¹), Kimata N¹), Inami T¹), Murakami D¹), Ohba T¹), Seino Y¹), Shimizu W, Mizuno K²) (1) Chiba Hokusoh Hospital, 2) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Angioscopic Observation of Acute Femoral Artery Occlusion Complicated by Use of Angio-seal Vascular Closure Device. Angioscopy 2015 ; 1 (1) : 35-37.

著 書

追加分 :

1) 岩崎雄樹, 清水 渉 : [分担] 不整脈治療薬. Pocket Drugs 2016 (福井 次矢 小松 康宏 渡邊 裕司), 2016 ; pp133-146, 医学書院.

[武蔵小杉病院循環器内科]

研究概要

今年度は、慢性肺血栓症の経皮的肺動脈拡張術を行った症例報告、モダリティーを組み合わせる病態を解明したたこつぼ心筋症の症例報告を行った。心不全領域で、低アルブミン血症あるいは蛋白尿を有する利尿薬の効果や末梢血管機能に関する研究成果の論文投稿中である。多施設共同研究では、トルバプタンのコホート研究であるMT-FUJI研究が、日本循環器学会においてLate breakingセッションに採択され発表し、その結果について論文を準備中である。神奈川県における心房細動疫学研究も欧州心不全学会に採択され発表した。研究は終了した非侵襲的血液動態評価法の有用性と簡易電解質測定器の有用性の研究については、それぞれ論文作成中である。

研究業績

論 文

(1) 原著 :

1) Asano R¹), Kajimoto K²), Oka T³), Sugiura R³), Okada H³), Kamishima K³), Hirata T³), Sato N⁴) (1) Department of Cardiology, Seirei Hamamatsu General Hospital, Shizuoka, Japan, 2) Division of Cardiology, Sekikawa Hospital, Tokyo, Japan, 3) Department of Cardiology, Seirei Hamamatsu General Hospital, Shizuoka, Japan, 4) Internal Medicine, Cardiology, and Intensive Care Unit, Nippon Medical School Musashi-Kosugi Hospital, Kanagawa, Japan) : Association of New York Heart Association functional class IV symptoms at admission and clinical features with outcomes in patients hospitalized for acute heart failure syndromes. International Journal of Cardiology 2017 ; 230 : 585-591.

2) Minami Y¹), Kajimoto K²), Sato N, Hagiwara N¹), Takano T³), Attend Study Investigators.(1) Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University,, 2) Division of Cardiology, Sekikawa Hospital, 3) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : End-stage renal disease patients on chronic maintenance hemodialysis in a hospitalized acute heart failure cohort : Prevalence, clinical characteristics, therapeutic options, and mortality. International Journal of Cardiology 2016 ; 224 : 267-270.

3) Kajimoto K¹), Minami Y²), Sato N, Kasnuki H³), Attend Study Investigators.(1) Division of Cardiology, Sekikawa Hospital, 2) Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, 3) Department of Bioscience and Biotechnology, Faculty of Science and Engineering, Waseda University) : Etiology of Heart Failure and Outcomes in Patients Hospitalized for Acute Decompensated Heart Failure With Preserved or Reduced Ejection Fraction. The American Journal of Cardiology 2016 ; 118 : 1881-1887.

4) Akutsu K¹), Yamanaka H²), Katayama M³), Yamamoto T¹), Takayama M^{4,5}), Osaka M, Sato N, Shimizu W^{1,4}) (1) Division of Cardiovascular Intensive Care, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Internal Medicine and Cardiology, Tsurumi University School of Dental Medicine, 3) Pharmaceutical Laboratories, Mochida Pharmaceutical Co., Ltd., Shizuoka, 4) Department

- of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute) : Usefulness of Measuring the Serum Elastin Fragment Level in the Diagnosis of an Acute Aortic Dissection. *The American Journal of Cardiology* 2016 ; 118 : 1405-1409.
- 5) Kajimoto K¹⁾, Minami Y²⁾, Sato N, Takano T, Attend Study Investigators.(¹⁾ Division of Cardiology, Sekikawa Hospital, ²⁾ Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, ³⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Serum sodium concentration, blood urea nitrogen, and outcomes in patients hospitalized for acute decompensated heart failure. *International Journal of Cardiology* 2016 ; 222 : 195-201.
- 6) Hatori Y¹⁾, Sakai H²⁾, Kunishima T³⁾, Hatori N⁴⁾, Chen L⁵⁾, Ishigami T⁵⁾, Sato N, On Behalf Of The Assaf-K Investigators (¹⁾ Hatori Clinic, Kanagawa, Japan, ²⁾ Sakai Clinic, Kanagawa, Japan, ³⁾ Kunishima Clinic, Kanagawa, Japan, ⁴⁾ Kobayashi Hospital, Kanagawa, Japan, ⁵⁾ Yokohama City University Graduate School of Medicine, Department of Medical Science and Cardio-Renal Medicine, Kanagawa, Japan) : Rationale and design of ASSAF-K (A study of the safety and efficacy of anticoagulant therapy in the treatment of atrial fibrillation in Kanagawa). *Journal of Arrhythmia* 2016 ; 33 : 111-116.
- 7) Mentz JR¹⁾, Roessig L²⁾, Greenberg HB³⁾, Sato N, Shinagawa K⁴⁾, Yeo D⁵⁾, Kwok WB⁶⁾, Reyes BE⁷⁾, Krum H⁸⁾, Pieske B⁹⁾, Greene JS¹⁾, Ambrosy PA¹⁾, Kelly PJ¹⁾, Zannad F¹⁰⁾, Pitt B¹⁰⁾, et al. (¹⁾ Duke Clinical Research Institute and the Department of Medicine, Division of Cardiology, Duke University Medical Center, Durham, North Carolina, ²⁾ Bayer HealthCare, Wuppertal, Germany, ³⁾ Division of Cardiology, University of California San Diego, San Diego, California, ⁴⁾ Office of New Drug II, Pharmaceuticals and Medical Devices Agency, ⁵⁾ Gleneagles Hospital, Singapore, ⁶⁾ Farrer Park Medical Centre, Singapore, ⁷⁾ Cardiology, Manila Doctors Hospital, Manila, Philippines, ⁸⁾ Centre of Cardiovascular Research and Education in Therapeutics, School of Public Health and Preventive Medicine, Monash University, Melbourne, Australia, ⁹⁾ Department of Cardiology, Charité University Medicine, Campus Virchow Klinikum, and German Heart Center Berlin, Berlin, Germany, ¹⁰⁾ and others) : Heart Failure Clinical Trials in East and Southeast Asia : Understanding the Importance and Defining the Next Steps. *JACC : Heart Failure* 2016 ; 4 : 419-427.
- 8) Kajimoto K¹⁾, Sato N, Takano T²⁾, Attend Study Investigators.(¹⁾ Division of Cardiology, Sekikawa Hospital, Tokyo, Japan., ²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan.) : Functional mitral regurgitation at discharge and outcomes in patients hospitalized for acute decompensated heart failure with a preserved or reduced ejection fraction. *European Journal of Heart Failure* 2016 ; 18 : 1051-1059.
- 9) Sato N, Ajioka M¹⁾, Yamada T²⁾, Kato M³⁾, Myoishi M³⁾, Yamada T³⁾, Kim S⁴⁾, Nowack C⁴⁾, Kolkhof P⁵⁾, Shiga T⁶⁾, Arts-Hf Japan Study Group.(¹⁾ Tosei General Hospital, ²⁾ Division of Cardiology, Osaka General Medical Center, ³⁾ Bayer Yakuhin Ltd, ⁴⁾ Global Clinical Development, Bayer HealthCare AG, ⁵⁾ Heart Diseases Research, Global Drug Discovery, Bayer HealthCare AG, ⁶⁾ Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University) : A Randomized Controlled Study of Finerenone vs. Eplerenone in Japanese Patients With Worsening Chronic Heart Failure and Diabetes and/or Chronic Kidney Disease. *Circulation Journal* 2016 ; 80 (5) : 1113-1122.
- 10) Kajimoto K¹⁾, Sato N, Takano T²⁾, Attend Study Investigators (¹⁾ Division of Cardiology, Sekikawa Hospital, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Relationship of renal insufficiency and clinical features or comorbidities with clinical outcome in patients hospitalized for acute heart failure syndromes. *European Heart Journal : Acute Cardiovascular Care* 2016 ; [Epub ahead of print].
- 11) Minami Y¹⁾, Kajimoto K²⁾, Sato N, Hagiwara N¹⁾, Takano T³⁾, Mebazaa A⁴⁾, Attend Study Investigators.(¹⁾ Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, ²⁾ Division of Cardiology, Towa Hospital, Tokyo, ³⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ⁴⁾ University Paris Diderot, PRES Sorbonne Paris Cité and Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine) : Heterogeneity of the prognostic significance of B-type natriuretic peptide levels on admission in patients hospitalized for acute heart failure syndromes. *European Journal of Internal Medicine* 2016 ; 31 : 41-49.
- 12) Vaduganathan M¹⁾, Marti NC²⁾, Mentz R³⁾, Greene JS³⁾, Ambrosy PA³⁾, Subacius PH⁴⁾, Fonarow CG⁵⁾, Chioncel O⁶⁾, Bazari H⁷⁾, Maggioni PA⁸⁾, Zannad F⁹⁾, Konstam AM⁹⁾, Sato N, Gheorghiade M¹⁰⁾, Butler J¹⁰⁾ (¹⁾ Brigham and Women's Hospital Heart and Vascular Center, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, ²⁾ Division of Cardiology, Emory University School of Medicine, Atlanta, Georgia, ³⁾ Duke University Medical Center, Durham, North Carolina, ⁴⁾ Division of Cardiology, Department of Medicine, Northwestern University Feinberg School of Medicine, Chicago, Illinois, ⁵⁾ Ahmanson-University of California Los Angeles Cardiomyopathy Center, Ronald Reagan-University of California Los Angeles Medical Center, Los Angeles, ⁶⁾ Institute of Cardiovascular Diseases "Prof. C. Iliescu", Cardiology, Bucuresti, Romania, ⁷⁾ Department of Medicine, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, ⁸⁾ Italian Association of Hospital Cardiologists Research Center, Florence, Italy, ⁹⁾ Department of Cardiology, Nancy University, Nancy, France, ¹⁰⁾ and others) : Serum Osmolality and Postdischarge Out-

comes After Hospitalization for Heart Failure. *The American Journal of Cardiology* 2016 ; 117 : 1144-1150.

- 13) Ishihara S, Gayat E, Sato N, Arrigo M, Laribi S, Legrand M, Placido R, Manivet P, Cohen-Solal A, Abraham W, Jessup M, Mebazaa A : Similar hemodynamic decongestion with vasodilators and inotropes : systematic review, meta-analysis, and meta-regression of 35 studies on acute heart failure. *Clinical research in cardiology* 2016 ; 105 (12) : 971-980.
- 14) 佐藤直樹 : 急性心不全の最新薬物治療. *医学のあゆみ 循環器薬物療法 UPDATE* 2016 ; 259 (14) : 1265-1269.
- 15) Ganovska E^{1,2)}, Arrigo M^{3,4)}, Helanova K^{1,2)}, Littnerova S⁶⁾, Sadoune M¹⁾, Kubena P^{1,2)}, Pavlusova M^{1,2)}, Jarkovsky J⁶⁾, Gottwaldova J^{7,8)}, Kala P^{1,2)}, Dastyh M^{7,8)}, Ishihara S, Van Aelst L^{3,5)}, Cohen-Solal A^{3,5)}, Gayat E^{3,4)}, et al. (¹⁾ Department of Cardiology, University Hospital Brno, ²⁾ Medical Faculty, Masaryk University, ³⁾ INSERM UMR-S 942, ⁴⁾ Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, APHP, Saint Louis Lariboisière University Hospitals, ⁵⁾ Department of Cardiology, APHP, Lariboisière University Hospital, ⁶⁾ Institute of Biostatistics and Analyses, Masaryk University, ⁷⁾ Department of Biochemistry, University Hospital Brno, Brno, Czech Republic, ⁸⁾ Department of Laboratory Methods, Faculty of Medicine, Masaryk University, ⁹⁾ KU Leuven, Department of Cardiovascular Sciences, ¹⁰⁾ and others) : Natriuretic peptides in addition to Zwolle score to enhance safe and early discharge after acute myocardial infarction : A prospective observational cohort study. *International Journal of Cardiology* 2016 ; 215 : 527-531.

(2) 総説 :

- 1) 高木宏治, 佐藤直樹 : 急性心不全の検査・診断. *日本臨床* 2016 ; 74 (増刊号 6) : 349-353.
- 2) 佐藤直樹 : 急性心不全治療薬 (セレラキシン). *日本臨床* 2016 ; 74 (増刊号 6) : 396-399.
- 3) 表 俊也, 佐藤直樹 : 経胸壁心エコー. *INTENSIVIST* 2017 ; 9 (1) : 75-81.
- 4) Sato N, Lam C¹⁾, Teerlink J²⁾, Greenberg B³⁾, Tsutsui H⁴⁾, Oh B⁵⁾, Zhang J⁶⁾, Lefkowitz M⁷⁾, Hua T⁷⁾, Holbro T⁸⁾, Mars-hood M⁷⁾, Wang K⁷⁾, Ge J⁹⁾ (¹⁾ National Heart Centre Singapore and Duke-NUS, Singapore, ²⁾ University of California, San Francisco, and San Francisco Veterans Affairs Medical Center, Los Angeles, California., ³⁾ Division of Cardiology, University of California, San Diego, La Jolla, California, ⁴⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Faculty of Medical Sciences, Kyushu University, Fukuoka, Japan, ⁵⁾ Department of Internal Medicine, Seoul National University, College of Medicine, Seoul, South Korea, ⁶⁾ Fuwai Hospital, National Center for Cardiovascular Diseases, Chinese Academy of Medical Sciences and Peking Union Medical College, Beijing, People's, ⁷⁾ Novartis Pharmaceuticals Corporation, East Hanover, New Jersey, ⁸⁾ Novartis Pharma, Basel, Switzerland, ⁹⁾ Department of Cardiology, Zhongshan Hospital, Fudan University, Shanghai, China) : Evaluating the Efficacy, Safety, and Tolerability of Serelaxin When Added to Standard Therapy in Asian Patients With Acute Heart Failure : Design and Rationale of RELAX-AHF-ASIA Trial. *Journal of Cardiac Failure* 2017 ; 23 (1) : 63-71.
- 5) 佐藤直樹 : 真なる心不全チーム医療を行うために. *ハートナーシング* 2016 ; 222-225.
- 6) 佐藤直樹 : 急性心不全の最新薬物治療. *医学のあゆみ* 2016 ; 259 (14) : 1265-1269.
- 7) 佐藤直樹 : 心不全治療薬. *新薬展望* 2017 ; 53 : 428-436.
- 8) 佐藤直樹 : 患者・家族, スタッフと共有した 見逃してはいけない! 心不全のサイン. *訪問看護と介護* 2016 ; 21 (10) : 774-777.
- 9) 曾根教子, 佐藤直樹 : 多臓器障害と循環管理のプラクティス : 早期に察知, 迅速な介入, そしてトータルな弱点での管理. *重症患者ケア* 2016 ; 5 (4) : 588-595.
- 10) 佐藤直樹 : Clinical Scenarios とは何か? . *循環器ジャーナル* 2017 ; 65 (1) : 14-18.
- 11) 佐藤直樹 : 在宅モニタリングの進展. *Medical Science Digest* 2016 ; 42 (5) : 18-21.
- 12) 佐藤直樹 : 特集にあたって. ICU と CCU 2016 ; 40 (11) : 729-729.
- 13) 佐藤直樹 : 入院診療で診る慢性心不全. *Heart View* 2016 ; 20 (8) : 14-19.
- 14) 佐藤直樹 : 低心機能症例に対する冠血行再建術. *日本冠疾患学会雑誌* 2016 ; 22 (3) : 185-187.
- 15) 佐藤直樹 : 腎障害と全身臓器の関わり の理解のために 心臓・腎血管心腎連関と急性腎障害. *Medical Practics* 2016 ; 33 (6) : 885-888.
- 16) 佐藤直樹 : 在宅モニタリングの進展. *メディカル・サイエンス・ダイジェスト* 2016 ; 42 (5) : 18-21.
- 17) 石川昌弘, 佐藤直樹 : 急性心不全の病態と治療のストラテジー. *月間薬事* 2017 ; 59 (4) : 59-64.
- 18) 佐藤直樹 : わが国の心不全レジストリー. *心臓* 2017 ; 49 (2) : 184-191.

(3) その他 :

- 1) 佐藤直樹 : 高血圧から心不全? . *きょうの健康* 2016 ; 339 (6) : 102-103.
- 2) 佐藤直樹 : 心不全の治療. *きょうの健康* 2016 ; 339 (6) : 104-105.

著 書

- 1) 佐藤直樹 : [分担] 急性心不全に合併する不整脈の疫学. *心不全×不整脈* (佐藤幸人 山下武志), 2016 ; pp21-26, メディカ出版.

- 2) 佐藤直樹：〔分担〕なぜ、静脈うっ血で乏尿になるのか？. 右心不全を識り評価して治療に活かす（中村一文），2016；pp108-110, 文光堂.
- 3) 佐藤直樹：〔分担〕急性心不全：虚血性・非虚血性. ここが知りたい 重症心不全の患者さんが来ました（北風政史），2016；pp155-158, 中外医学社.
- 4) 佐藤直樹：〔監修〕1日でマスターする心不全の基本知識と患者ケア. 1日でマスターする心不全の基本知識と患者ケア—5step で学ぶ最もやさしいテキスト—（佐藤直樹），2017；総合医学社.
- 5) 佐藤直樹：〔分担〕バイタルサインはこうみる！：うっ血所見の取り方のコツ. 1日でマスターする心不全の基本知識と患者ケア—5step で学ぶ最もやさしいテキスト—（佐藤直樹），2017；pp31-45, 総合医学社.
- 6) 佐藤直樹：〔分担〕患者さんへの服薬指導のコツ：どうしてこの薬が必要なのか. 1日でマスターする心不全の基本知識と患者ケア—5step で学ぶ最もやさしいテキスト—（佐藤直樹），2017；pp83-100, 総合医学社.
- 7) 石原嗣郎：〔分担〕心不全のステージ分類を理解する！：急性と慢性は一連の流れとして捉える. 1日でマスターする心不全の基本知識と患者ケア—5step で学ぶ最もやさしいテキスト—（佐藤直樹），2017；pp1-30, 総合医学社.
- 8) 石原嗣郎：〔分担〕心不全治療の基本を知る：薬物療法, 非薬物療法の適応はこれでわかった. 1日でマスターする心不全の基本知識と患者ケア—5step で学ぶ最もやさしいテキスト—（佐藤直樹），2017；pp47-81, 総合医学社.
- 9) 佐藤直樹：〔分担〕リラキシン. ここが知りたい 循環器の薬と使い方, 2017；pp290-292, 中外.
- 10) 佐藤直樹：〔編集〕序文. 明日から役立つ急性心不全薬物治療のテクニック（編集 佐藤直樹），2017；文光堂.
- 11) 佐藤直樹：〔分担〕総論. 明日から役立つ急性心不全薬物治療のテクニック（編集 佐藤直樹），2017；pp2-4, 文光堂.
- 12) 佐藤直樹：〔分担〕利尿薬 総論. 明日から役立つ急性心不全薬物治療のテクニック（編集 佐藤直樹），2017；pp41-44, 文光堂.
- 13) 佐藤直樹：〔分担〕血管拡張薬 総論. 明日から役立つ急性心不全薬物治療のテクニック（編集 佐藤直樹），2017；pp32-34, 文光堂.
- 14) 佐藤直樹：〔分担〕強心薬・昇圧薬 総論. 明日から役立つ急性心不全薬物治療のテクニック（編集 佐藤直樹），2017；pp48-51, 文光堂.
- 15) 佐藤直樹：〔分担〕抗不整脈薬 総論. 明日から役立つ急性心不全薬物治療のテクニック（編集 佐藤直樹），2017；pp54-57, 文光堂.
- 16) 佐藤直樹：〔分担〕総論. 明日から役立つ急性心不全薬物治療のテクニック（編集 佐藤直樹），2017；pp62-65, 文光堂.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 佐藤直樹, 絹川弘一郎¹⁾, 猪俣孝元²⁾, 濱野高行³⁾, 飯田 圭⁴⁾ (1) 富山大学内科学第二, 2) 北里大学北里研究所病院 循環器内科, 3) 大阪大学腎疾患統合医療学, 4) 日本大学病院循環器内科)：利尿薬のコンビネーションセラピー：心不全の体液管理における神経体液性因子を考える. 日本心臓病学会学術集会（第64回）（東京），2016. 9.
- 2) 佐藤直樹：心原性ショック治療における補助循環：現状と今後の展開. 日本 Shock 学会総会（第31回）（東京），2016. 10.
- 3) 佐藤直樹, 川上利香¹⁾, Lee H²⁾ (1) 奈良県立医科大学第一内科, 2) Seoul National University of Medicine)：Heart Failure Registry Asia. 日本心不全学会学術集会（第20回）（札幌），2016. 10.
- 4) 佐藤直樹：NPPVの早期活用意義, 急性期治療におけるASVの可能性. 心不全ASVリサーチ・フォーラム学術集会（第4回）（東京），2016. 10.
- 5) 石原嗣郎：急性期（院内）使用I. 心不全ASVリサーチ・フォーラム学術集会（第4回）（東京），2016. 10.
- 6) 高木宏治, 三石達也, 嶋原祥太, 曾根教子, 菊池有史, 石原嗣郎, 石川昌弘, 佐藤直樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科)：入院を要するうっ血性心不全における頻脈性心房細動に対する心拍コントロールに関する検討. 日本集中治療医学会学術集会（第44回）（札幌），2017. 3.

(2) セミナー：

- 1) 石原嗣郎, 佐藤直樹：最新の病態評価方法. 日本集中治療医学会学術集会（第44回）（札幌），2017. 3.
- 2) 田島廣之¹⁾, 佐藤直樹, 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 一色彩子²⁾, 市川太郎²⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低浸襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院放射線科)：肺血栓塞栓症の画像診断. 日本集中治療医学会学術集会（第44回）（札幌），2017. 3.
- 3) 佐藤直樹：心房細動合併循環器系疾患のマネージメント：課題と今後の展開. 日本集中治療医学会学術集会（第44回）（札幌），2017. 3.
- 4) 佐藤直樹：性心腎症候群の管理：虚血ストレスマーカー L-FABPの可能性. 日本循環器学会学術集会（第81回）（金沢），2017. 3.
- 5) 佐藤直樹¹⁾：急性心腎症候群の管理：虚血ストレスマーカー L-FABPの可能性. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2017) (Kanazawa), 2017. 3.

(3) 一般講演：

- 1) Ishihara S, Takagi K, Sato N : Repetitive decompensation of heart failure leads truly to deterioration of organ function. Heart Failure 2016 (Florence Italy), 2016. 5.
- 2) Takagi K, Ishihara S, Sato N, Shimizu W¹⁾ (1) Nippon Medical School Department of Internal Medicine Hospital Cardiology) : The relationship between arterial stiffness and left ventricular ejection fraction in heart failure. Heart Failure 2016 (Florence Italy), 2016. 5.
- 3) 大熊 慧, 徳山榮男, 石原嗣郎, 高橋直人, 網谷賢一, 石川昌弘, 菊池有史, 表 俊也, 中摩健二, 高木宏治, 曾根教子, 嶋原祥太, 石塚淳史, 三石達也, 佐藤直樹, その他4名 : 治療に難渋した結核性収縮性心膜炎の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第240回) (東京), 2016. 6.
- 4) 高橋直人, 佐藤直樹, 花岡大輔, 大熊 慧, 三石達也, 石塚淳史, 嶋原祥太, 高木宏治, 曾根教子, 表 俊也, 中摩健二, 菊池有史, 石原嗣郎, 石川昌弘, 汲田伸一郎¹⁾, et al. (1) 日本医科大学付属病院放射線科) : 非虚血性心不全における Contractile Dyssynchrony. iHF フォーラム (第3回) (東京), 2016. 6.
- 5) Ishihara S : Clinical Site Enrollment in Global Trials and Outcome. HEART FAILURE (Brescia), 2016. 9.
- 6) 中摩健二, 三石達也, 大熊 慧, 石塚淳史, 嶋原祥太, 曾根教子, 高木宏治, 表 俊也, 菊池有史, 石原嗣郎, 石川昌弘, 高橋直人, 佐藤直樹 : バルーン肺動脈形成術により安全に大腿骨人工骨置換術を施行し得た高齢者慢性血栓性肺高血圧の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第241回) (東京), 2016. 9.
- 7) 石原嗣郎, 木田圭亮¹⁾, 山口徹雄²⁾, 中原さちこ³⁾, 辻井由紀⁴⁾, 石田洋子⁵⁾ (1) 聖マリアンナ医科大学循環器内科, 2) 日本赤十字社武蔵野赤十字病院循環器内科, 3) 済生会福岡総会病院看護部, 4) 兵庫県立姫路循環器病センター看護部, 5) 武蔵小杉病院看護部) : 心不全チームはどうあるべきか? Pros/Cons から存在価値について再考する. 日本心不全学会学術集会 (第20回) (札幌), 2016. 10.
- 8) 野原 剛, 高橋直人, 伊藤祐輔, 大熊 慧, 三石達也, 石塚淳史, 嶋原祥太, 曾根教子, 高木宏治, 徳山榮男, 中摩健二, 表 俊也, 菊池有史, 石原嗣郎, 石川昌弘, その他2名 : 慢性期まで Multi-modality で評価し得た Mid-ventricular balloon type たこつぼ型心筋症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第243回) (東京), 2017. 2.
- 9) 嶋原祥太 : この急性心腎症候群例をどう治療しますか? . 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 10) 三石達也, 高木宏治, 嶋原祥太, 曾根教子, 菊池有史, 石原嗣郎, 石川昌弘, 佐藤直樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : 重症インフルエンザ肺炎に対し急性期理学療法により ECMO を早期離脱し得た1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 11) 嶋原祥太, 高木宏治, 曾根教子, 菊池有史, 石原嗣郎, 石川昌弘, 佐藤直樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : RTX レスピレータを用いて超高齢者の呼吸不全を改善し得た1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 12) Ishikawa M, Takahashi N, Hanaoka D, Ohkuma S, Mitsuishi T, Ishizuka A, Shigihara S, Sone M, Takagi K, Nakama K, Omote T, Kikuchi A, Ishihara S, Sato N, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School Hospital) : Impact of End-stage Renal Disease on Left Ventricular Mechanical Dyssynchrony in Non-ischemic Heart Disease. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2017) (Kanazawa), 2017. 3.
- 13) Sato N¹⁾ : One Year Mortality of Acute Heart Failure Patients with Hyponatremia from the Pre trial Registry : The MT FUJI Study. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2017) (Kanazawa), 2017. 3.
- 14) Sato N¹⁾ : Consideration of Optimal Blood Pressure in Terms of Improved Outcome in Hospitalized Heart Failure. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2017) (Kanazawa), 2017. 3.
- 15) Takagi K, Sato N, Ohkuma S, Ishizuka A, Sone M, Nakama K, Omote T, Kikuchi A, Ishihara S, Ishikawa M, Takahashi N, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School Hospital) : Clinical Significance of the Combined Therapy with Aquaretic and Natriuretic Agents for Fluid Managements in Hospitalized Heart Failure Patients. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (JCS2017) (Kanazawa), 2017. 3.

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 佐藤直樹 : 最近の心不全治療のコンセプト展開と薬物治療. 日本医師会雑誌 2016 ; 144 (10) : 2069-2071.
- 2) 佐藤直樹 : トルバプタンのエビデンス. Fluid management Renaissance 2016 ; 6 (21) : 98-103.
- 3) 佐藤直樹 : 必要とする立場から. Fluid management Renaissance 2016 ; 6 (1) : 78-79.
- 4) 高橋直人, 佐藤直樹 : 各国ガイドラインにみる循環器救急診断アルゴリズム. ICU と CCU 2016 ; 40 (20) : 123-132.
- 5) 佐藤直樹 : 急性心不全管理にスワングアンツカテーテル留置は, なるべく避けるべきか? . 救急・集中治療 2016 ; 28 (1) : 30-34.

- 6) 田島廣之¹⁾, 金城 忠¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 市川太郎²⁾, 一色彩子²⁾, 中摩健二, 佐藤直樹, 村田 智³⁾, 小野澤志郎³⁾, 三樹いずみ³⁾, 山本 剛⁴⁾, 中沢 賢⁵⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, (2) 武蔵小杉病院, (3) 付属病院放射線科, (4) 付属病院心臓集中治療科, (5) 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科) : 肺血栓塞栓症に対する interventional radiology の実際. 臨床放射線 2016 ; 61 (1) : 177-184.
- 7) 田島廣之¹⁾, 金城 忠¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 市川太郎²⁾, 一色彩子²⁾, 菊池有史, 佐藤直樹, 村田 智³⁾, 小野澤志郎³⁾, 三樹いずみ³⁾, 山本 剛⁴⁾, 中沢 賢⁵⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, (2) 武蔵小杉病院放射線科, (3) 付属病院放射線科, (4) 付属病院心臓集中治療科, (5) 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科) : 急性肺血栓塞栓症のIVR (画像下治療). 血管外科 2016 ; 35 (1) : 24-29.
- 8) 田島廣之¹⁾, 金城 忠¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 市川太郎²⁾, 中摩健二, 菊池有史, 佐藤直樹, 松田 潔³⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, (2) 武蔵小杉病院放射線科, (3) 武蔵小杉) : 急性肺血栓塞栓症のIVR. 救急医学 2016 ; 40 (2) : 194-197.

追加分原著 :

- 1) Kajimoto K¹⁾, Sato N, Takano T²⁾, Attend Investigators. (1) Division of Cardiology, Sekikawa Hospital, Tokyo, Japan, (2) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : eGFR and Outcomes in Patients with Acute Decompensated Heart Failure with or without Elevated BUN. Clinical journal of the American Society of Nephrology 2016 ; 11 (3) : 405-412.
- 2) Mebazaa A^{1,2)}, Tolppanen H^{1,3)}, Mueller C⁴⁾, Lassus J³⁾, Disomma S⁵⁾, Disomma S⁶⁾, Bakstyte G⁷⁾, Cecconi M⁸⁾, Choi D⁹⁾, Cohen Solal A¹⁾, Christ M¹⁰⁾, Masip J¹⁰⁾, Arrigo M¹⁰⁾, Nouira S¹⁰⁾, Sato N, et al. (1) U 942 Inserm, Paris, France, (2) University Paris Diderot, Sorbonne Paris Cité, Paris, France, (3) Heart and Lung Center, Helsinki University Central Hospital, Helsinki, Finland, (4) Department of Cardiology and Cardiovascular Research Institute Basel (CRIB), University Hospital Basel, Basel, Switzerland, (5) Department of Medical Sciences and Translational Medicine, University of Rome Sapienza, Sant'Andrea Hospital, Rome, Italy., (6) Department of Medical Sciences and Translational Medicine, University of Rome Sapienza, Sant'Andrea Hospital, Rome, Italy., (7) Department of Cardiology, Kaunas University of Medicine, Kaunas, Lithuania, (8) Anaesthesia and Intensive Care, St George's Hospital and Medical School, London, (9) Department of Internal Medicine, Seoul National University Bundang Hospital, Seongnam, Korea, (10) and others) : Acute heart failure and cardiogenic shock : a multidisciplinary practical guidance. Intensive Care Medicine 2016 ; 42 : 147-163.
- 3) Mizuno M¹⁾, Kajimoto K²⁾, Sato N, Yumino D¹⁾, Minami Y¹⁾, Murai K³⁾, Munakata R³⁾, Asai K⁴⁾, Keida T⁵⁾, Sakata Y⁶⁾, Hagiwara N¹⁾, Takano T³⁾ (1) Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan, (2) Department of Cardiology, Sekikawa Hospital, Tokyo, Japan, (3) Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (4) Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (5) Department of Cardiology, Edogawa Hospital, Tokyo, Japan, (6) Department of Cardiology, Osaka University, Osaka, Japan) : Clinical profile, management, and mortality in very-elderly patients hospitalized with acute decompensated heart failure : An analysis from the ATTEND registry. European journal of internal medicine 2016 ; 27 : 80-85.

追加分その他 :

- 1) 佐藤直樹 : 心不全の治療. きょうの健康 2016 ; 337 (4) : 62-65.
- 2) 佐藤直樹 : 高血圧から心不全?. きょうの健康 2016 ; 337 (4) : 58-61.

著 書

追加分 :

- 1) 佐藤直樹 : [分担] 急性心不全の初期対応と治療. 循環器研修ノート (永井良三), 2016 ; pp312-318, 診断と治療社.
- 2) 石原嗣郎 : [分担] 体液の「圧」と心不全. 心腎関連を深め体液管理を極める (猪又孝元), 2016 ; pp11-16, 文光堂.
- 3) 佐藤直樹 : [分担] 腎保護と心保護の優先権, 管理におけるバランスシート. 心腎関連を深め体液管理を極める (猪又孝元), 2016 ; pp140-144, 文光堂.
- 4) 佐藤直樹 : [分担] 疫学. ここが知りたい 急性心不全の救急・集中治療管理 (佐藤幸人), 2016 ; pp1-11, 中外医学社.

[多摩永山病院内科, 循環器内科]

研究概要

当科は循環器専攻の内科医により構成され虚血性心疾患, 不整脈などの循環器疾患を中心に診療を行っている. また多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とし, 専門領域の他, 高血圧, 糖尿病, 脂質異常症, メタボリックシンドローム, 慢性腎臓病 (CKD) などを対象に実地臨床に即した研究を行っている. 1) 急性冠症候群の急性期治療および予後規定因子に関する研究 2) 冠攣縮性狭心症の病態と予後規定因子に関する研究 3) 心室細動を伴う冠攣縮性狭心症例に対する植込み型除細動器の適応に関する研究 4)

慢性心不全患者におけるサイトカインと予後に関する研究 5) 心房細動症例の登録研究への参加 (EXPAND, ANAFIA 等) 6) 不整脈診断のための臨床電気生理とカテーテル治療 7) 不整脈治療に必要な臨床心臓解剖学の研究 8) 心房細動, 動脈硬化の発症に関わる炎症に関する研究 9) エイコサペンタエン酸と心不全の関連についての研究 10) 食塩感受性高血圧に対する薬物治療, 食塩摂取量に関する研究 11) インクレチン製剤と SGLT-2 阻害薬の血糖非依存効果に関する研究 12) S100A8 蛋白の循環器疾患における発現とその臨床的意義 13) 特定健診を用いた心房細動と慢性腎臓病に関する多摩市医師会との共同研究 14) 日本循環器学会認の他施設共同研究への参加 15) 高齢者医療に関する共同研究 16) 経口抗凝固薬 (ワルファリン他) の適正使用に関する研究以上を中心に研究を行い, 日本内科学会, 日本循環器学会, 日本心臓病学会, 日本心血管インターベンション治療学会, 日本不整脈心電学会, 日本成人病 (生活習慣病) 学会, 日本高血圧学会, 日本糖尿病学会, 日本老年医学会, 及びその他の関連学会へ研究成果を報告するとともに, 内科総合診療部門として稀な内科系疾患の症例報告も積極的に行っている。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Watanabe E, Yamamoto M, Kodama I, Inoue H, Atarashi H, Okumura K, Yamashita T, Lip G, Kodani E, Okuyama Y, Chishaki A, Kiyono K, Origasa H : Net clinical benefit of adding aspirin to warfarin in patients with atrial fibrillation : Insights from the J-RHYTHM Registry. *Int J Cardiol* 2016 ; 212 : 311-317.
- 2) Inoue H¹⁾, Kodani E, Atarashi H, Okumura K²⁾, Yamashita T³⁾, Origasa H⁴⁾ (1) Seikai Toyama Hospital, 2) Department of Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, 3) The Cardiovascular Institute, 4) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama, Graduate School of Medicine) : Impact of body mass index on the prognosis of Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation. *Am J Cardiol* 2016 ; 118 (2) : 215-221.
- 3) Inoue H, Atarashi H, Kodani E, Okumura K, Yamashita T, Origasa H, Sakurai M, Kawamura Y, Kubota I, Matsumoto K, Kaneko Y, Ogawa S, Aizawa Y, Chinushi M, Kodama I, et al. : Regional differences in frequency of warfarin therapy and thromboembolism in Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation : Analysis of the J-RHYTHM registry. *Circ J* 2016 ; 80 (7) : 1548-1555.
- 4) Kodani E, Atarashi H, Inoue H¹⁾, Okumura K²⁾, Yamashita T³⁾, Otsuka T⁴⁾, Tomita H⁵⁾, Origasa H⁶⁾ (1) Saiseikai Toyama Hospital, 2) Saiseikai Kumamoto Hospital, 3) The Cardiovascular Institute, 4) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, 5) Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, 6) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama) : Impact of blood pressure control on thromboembolism and major hemorrhage in patients with non-valvular atrial fibrillation : A subanalysis of the J-RHYTHM Registry. *J Am Heart Assoc* 2016 ; 5 (9) : e004075.
- 5) Nakagomi A, Kohashi K, Morisawa T, Kosugi M, Endoh I, Kusama Y, Atarashi H, Shimizu W¹⁾ (1) Division of Cardiovascular Intensive Care, Nippon Medical School Hospital) : Nutritional Status is Associated with Inflammation and Predicts a Poor Outcome in Patients with Chronic Heart Failure. *J Atheroscler Thromb* 2016 ; 23 (6) : 713-727.
- 6) Inoue-Arita Y¹⁾, Akutsu K¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Kawanaka H¹⁾, Kitamura M¹⁾, Murata H, Miyachi H¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Tanaka K¹⁾, Shimizu W¹⁾ (1) Division of Cardiovascular Intensive Care, Nippon Medical School Hospital) : A Fever in Acute Aortic Dissection is Caused by Endogenous Mediators that Influence the Extrinsic Coagulation Pathway and Do Not Elevate Procalcitonin. *Intern Med* 2016 ; 55 (14) : 1845-1852.
- 7) Inoue H¹⁾, Atarashi H, Okumura K²⁾, Yamashita T³⁾, Fukuzawa M⁴⁾, Shiosakai K⁵⁾, Kimura T⁶⁾ (1) Saiseikai Toyama Hospital, 2) Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, 3) The Cardiovascular Institute, 4) Clinical Execution Department, Daiichi Sankyo Co Ltd, 5) Clinical Data & Biostatistics Department, Daiichi Sankyo Co Ltd, 6) Clinical Planning Department, Daiichi Sankyo Co Ltd) : Heart rate control by carvedilol in Japanese patients with chronic atrial fibrillation : The AF Carvedilol study. *J Cardiol* 2017 ; 69 (1) : 293-301.
- 8) Inoue H¹⁾, Uchiyama S²⁾, Atarashi H, Okumura K³⁾, Koretsune Y⁴⁾, Yasaka M⁵⁾, Yamashita T⁶⁾, Ohnishi M⁷⁾, Yagi N⁸⁾, Fukaya T⁹⁾ (1) Saiseikai Toyama Hospital, 2) Clinical Research Center for Medicine, International University of Health and Welfare, 3) Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, 4) Institute for Clinical Research, National Hospital Organization Osaka National Hospital, 5) Department of Cerebrovascular Disease, Clinical Research Institute, National Hospital Organization Kyushu Medical Center, 6) Department of Cardiovascular Medicine, The Cardiovascular Institute, 7) Pharmacovigilance Department, Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd, 8) Medical Data Service Department, Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd, 9) Clinical Development and Medical Affairs, Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd) : Post-marketing surveillance on the long-term use of dabigatran in Japanese patients with nonvalvular atrial fibrillation : Preliminary report of the J-dabigatran surveillance. *J Arrhythm* 2016 ; 32 (2) : 145-150.

- 9) Nozaki A, Shirakabe A¹, Hata N¹, Kobayashi N¹, Okazaki H¹, Matsushita M¹, Shibata Y¹, Nishigoori S¹, Uchiyama S¹, Kusama Y, Asai K², Shimizu W² (¹ Division of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ² Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : The prognostic impact of gender in patients with acute heart failure-An evaluation of the age of female patients with severely decompensated acute heart failure. *J Cardiol* 2016 ; 16.
- 10) Kodani E, Atarashi H, Inoue H, Okumura K, Yamashita T, Origasa H : Beneficial Effect of Non-Vitamin K Antagonist Oral Anticoagulants in Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation : Results of the J-RHYTHM Registry 2. *Circ J* 2016 ; 80 (4) : 843-851.
- 11) Yamamoto T¹, Kanazawa H¹, Tanosaki S¹, Goto S¹, Kimura M¹, Tsuruta H¹, Itabashi Y¹, Murata M¹, Kunitomi A¹, Aizawa Y¹, Nishiyama T¹, Kohno T¹, Maekawa Y¹, Takatsuki S¹, Igawa O, et al. (¹ Department of Cardiology, Keio University School of Medicine) : A Novel Mechanism of Atrioventricular Block Following Transcatheter Closure of an Atrial Septal Defect. *JACC Cardiovasc Interv.* 2016 ; 9 (19) : 2067-2069.
- 12) 林 洋史, 岩崎雄樹, 藤本祐飛, 岡英一郎, 萩原かな子, 高橋健太, 坪井一平, 淀川賢司, 林 明聡, 宮内靖史, 清水 渉, 新 博次, 加藤貴雄 (¹ 日本医科大学付属病院 循環器内科) : 心不全と心房細動 頻脈性心房細動・心房頻拍に対するアミオダロン静注薬の有効性と安全性. *Progress in Medicine* 2016 ; 36 (supp.1) : 467-469.
- 13) 喜久川浩子¹, 矢野安左子¹, 小谷英太郎, 池尻由香¹, 佐々木和美¹ (¹ 多摩永山病院 看護部) : 新生児室における環境音の実態調査 看護師意識と新生児のストレス反応. *日本看護学会論文集ヘルスプロモーション* 2016 ; 46 : 65-68.
- 14) Inui K¹, Tachi M¹, Saito T, Kubota Y¹, Murai K¹, Kato K¹, Takano H¹, Amano Y¹, Asai K¹, Shimizu W¹ (¹ Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Superiority of the extracellular volume fraction over the myocardial T1 value for the assessment of myocardial fibrosis in patients with non-ischemic cardiomyopathy. *Magn Reson Imaging* 2016 ; 34 (8) : 1141-1145.
- 15) Kodani E : Genitourinary Hemorrhagic Complications and Malignancies in Patients Receiving Anticoagulation Therapy. *Circ J* 2017 ; 81 (2) : 149-150.
- 16) 川上大志¹, 西村和久¹, 永井啓行¹, 大木元昭義¹, 飯尾千春子¹, 清家史靖¹, 東 晴彦¹, 河野珠美¹, 上谷晃由¹, 青野 潤¹, 井上勝次¹, 鈴木 純¹, 土居原拓也², 松田 正², 井川 修, その他 2 名 (¹ 愛媛大学大学院循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座, ² 愛媛大学大学院解剖学・発生学講) : 植込みデバイス治療の安全性および技術向上を目指したカダバートレーニングの経験. *心電図* 2017 ; 37 (1) : 12-21.
- (2) 総説 :
- 1) 斎藤恒徳, 浅井邦也¹, 清水 渉¹ (¹ 日本医科大学付属病院 循環器内科) : 拡張型心筋症の心筋細胞に認められるオートファジー空胞. *日医大医会誌* 2016 ; 12 (3) : 76-77.
- 2) 村田広茂, 新 博次 : 発作性・持続性・永続性心房細動の分類定義とは? (Q & A). *日本医事新報* 2016 ; 4804 : 61-62.
- 3) 村田広茂, 新 博次 : スポーツ・運動療法は患者治療にどこまで有効か: 不整脈と運動療法・スポーツ. *成人病と生活習慣病* 2016 ; 46 (6) : 737-741.
- 4) Kodani E : Genitourinary Hemorrhagic Complications and Malignancies in Patients Receiving Anticoagulation Therapy. *Circ J* 2017 ; 81 (2) : 149-150.
- 5) Saito T, Ikeda M¹, Asai K², Shimizu W² (¹ Department of Nephrology, Nippon Medical School, ² Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Crystalline cardiomyopathy due to secondary oxalosis after short-bowel syndrome and end-stage renal failure. *Clin Res Cardiol* 2016 ; 105 (8) : 714-716.
- 6) Imaizumi Y¹, Eguchi K¹, Imada H¹, Hidano K¹, Nijima S¹, Kawata H¹, Fukushima N¹, Saito T, Hiroe M², Kario K¹ (¹ Nippon Medical School, ² International Medical Center) : Electron Microscopy of Contact Between a Monocyte and a Multinucleated Giant Cell in Cardiac Sarcoidosis. *Can J Cardiol* 2016 ; 32 (1577) : e19-20.

著 書

- 1) 斎藤恒徳¹ (¹ 心筋生検研究会) : [共著] 診断モダリティとしての心筋病理, 2017 ; 南江堂.
- 2) 小谷英太郎 : [分担] 心房細動患者での選択と使い方 1) 低~中等度リスク患者の場合. 超実践的! 抗凝固薬の使いかた (池田隆徳), 2017 ; pp96-102, 株式会社メディカ出版.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Saito T, Asai K¹, Shimizu W¹ (¹ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Clinical Utility of Myocardial Autophagy in Patients with Dilated Cardiomyopathy to Predict Prognosis and Recovery of Cardiac Function. *日本循環器学会学術集会 (第 81 回)*, 2017. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 井川 修, 細根 勝¹⁾, 新 博次, 清水 渉²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 日本医科大学付属病院 循環器内科)：循環器診療に役立つ心臓解剖 (心臓解剖/病理標本展示). 日本不整脈心電学学会 (第 63 回), 2016. 7.
- 2) 井川 修：心房細動アブレーションに役立つ心臓解剖 (心臓解剖/病理標本展示). 日本不整脈心電学学会 (第 63 回), 2016. 7.
- 3) 井川 修：循環器診療に役立つ心臓解剖：大動脈基部・房室接合部・心室乳頭筋・心房/心室中隔・卵円窩 (心臓解剖/病理標本展示). 日本不整脈心電学学会 (第 63 回), 2016. 7.
- 4) 井川 修：心臓構造評価における解剖学的な落とし穴 (心臓解剖/病理標本展示). 日本不整脈心電学学会 (第 63 回), 2016. 7.
- 5) 井川 修：アブレーションに必要な心臓解剖 (カテーテルアブレーション研修セミナー FUNDAMENTAL COURSE). 日本不整脈学会カテーテルアブレーション関連秋季大会 2016, 2016. 11.

(3) シンポジウム：

- 1) 大塚俊昭¹⁾, 宗像 亮²⁾, 小谷英太郎 (1) 日本医科大学臨床研究総合センター/衛生学公衆衛生学, 2) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター)：オシロメトリック法による上腕動脈断面積および volume elastic modulus の測定とその臨床応用. 日本血管不全学会 (第 1 回), 2016. 4.
- 2) 小谷英太郎：心房細動例におけるイベント発症抑制のための血圧管理の重要性. 臨床高血圧フォーラム (第 5 回), 2016. 5.
- 3) 井川 修：心臓構造からみた心房細動：心臓構造の特殊性と病態評価 (左房評価を心房細動の臨床に活かす). 日本心臓超音波医学会 (第 89 回), 2016. 5.
- 4) 齋藤恒徳, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科)：電子顕微鏡を活用する. 日本心臓病学会 (第 64 回), 2016. 9.
- 5) Igawa O：Atrioventricular Conduction System (Normal conduction system). The 9th Asis-Pacific Heart Rhythm Society (APHRS2015) (Seoul), 2016. 10.
- 6) Igawa O：Fluoroscopic Anatomy for CIED Implantation：The anatomy of the right atrium related to the CIED therapy (Allied professional CIED Basic I). The 9th Asis-Pacific Heart Rhythm Society (APHRS2016) (Seoul), 2016. 10.

(4) 一般講演：

- 1) 杉原加寿子¹⁾, 亀山明美¹⁾, 菅谷量俊¹⁾, 村田和也¹⁾, 小谷英太郎, 草間芳樹 (1) 多摩永山病院薬剤部)：メトホルミン投与例における造影剤使用後の腎機能. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回), 2016. 5.
- 2) 藤井仁美¹⁾, 伊野 勲²⁾, 明石のぞみ³⁾, 黒石川誠³⁾, 小谷英太郎, 佐々部一³⁾, 中村弘之³⁾, 本城 聡³⁾, 渡辺敏樹³⁾, 立川慎一³⁾, 宮川高一³⁾, 田村 豊³⁾ (1) 多摩センタークリニックみらい, 2) 多摩市保険年金課, 3) 多摩市医師会)：多摩市の「糖尿病重症化予防事業」の取り組み～ハイリスク・アプローチかポピュレーションアプローチか?：医師会の立場から. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回), 2016. 5.
- 3) 齋藤恒徳, 小谷英太郎, 野崎文華, 中野博之, 田中貴久, 山本良也, 羽田朋人, 小橋啓一, 森澤太郎, 小杉宗範, 中込明裕, 井川修, 草間芳樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科)：P-ANCA 陽性糸球体腎炎を合併した感染性心内膜炎の 1 例. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第 44 回), 2016. 5.
- 4) 小橋啓一, 小谷英太郎, 大山 亮, 田中貴久, 齋藤恒徳, 中野博之, 野崎文華, 森澤太郎, 小杉宗範, 中込明裕, 草間芳樹, 清水 渉¹⁾, 丸山雄二²⁾, 井村 肇²⁾ (1) 付属病院 循環器内科, 2) 武蔵小杉病院 心臓血管外科)：感染性心内膜炎と鑑別が困難であった前乳頭筋部分断裂による僧帽弁閉鎖不全症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 240 回), 2016. 6.
- 5) 小杉宗範, 小谷英太郎, 野間さつき, 森澤太郎, 小橋啓一, 川口直美, 中込明裕, 草間芳樹, 新井 悟¹⁾, 清水 渉²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 付属病院循環器内科)：間質性肺炎・急性呼吸促迫症候群 (ARDS) を合併した成人ステイル病の剖検例. 日本内科学会関東地方会 (第 624 回), 2016. 6.
- 6) 大野 敦¹⁾, 植木彬夫¹⁾, 小谷英太郎, 住友秀孝¹⁾, 関口芳弘¹⁾, 宮川高一¹⁾ (1) 糖尿病治療多摩懇話会)：多摩地域における糖尿病と CKD に関するアンケート結果の推移. 日本腎臓学会学術総会 (第 59 回), 2016. 6.
- 7) 小杉宗範, 小谷英太郎, 森澤太郎, 小橋啓一, 川口直美, 中込明裕, 草間芳樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科)：比較的高齢者に発症した特発性急性好酸球性肺炎の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 625 回), 2016. 7.
- 8) Kodani E, Inoue H¹⁾, Atarashi H¹⁾, Okumura K¹⁾, Yamashita T¹⁾, Origasa H²⁾ (1) J-RHYTHM Registry Investigators, 2) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama Graduate School of Medicine)：Influence of digitalis use on mortality in patients with non-valvular atrial fibrillation：A report from J-RHYTHM Registry. Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society 2016 (The 63rd), 2016. 7.
- 9) Inoue H¹⁾, Kodani E, Atarashi H, Okumura K²⁾, Yamashita T³⁾, Origasa H⁴⁾ (1) Saiseikai Toyama Hospital, 2) Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, 3) The Cardiovascular Institute, 4) Graduate School of Medicine, University of Toyama)：Regional differences in thromboembolic and hemorrhagic events among patients with non-valvular atrial

- fibrillation : a subanalysis of J-RHYTHM Registry. Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society 2016 (The 63rd), 2016. 7.
- 10) 小杉宗範, 中込明裕, 齋藤恒徳, 森澤太一郎, 小橋啓一, 小谷英太郎, 草間芳樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : 冠攣縮性狭心症における喫煙に関する検討. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回), 2016. 9.
 - 11) 森澤太一郎, 中込明裕, 草間芳樹, 井川 修, 小谷英太郎, 小杉宗範, 小橋啓一, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学循環器内科) : 冠動脈疾患患者においてスタチン前 (長期) 投与は冠動脈の石灰化を抑制する (iMap-IVUS を用いた検討). 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回), 2016. 9.
 - 12) 小谷英太郎, 草間芳樹 : SGLT2 阻害薬による体重減少と HbA1c 低下効果の関連. 日本臨床内科医学会 (第 30 回), 2016. 10.
 - 13) 遠藤友佳¹⁾, 杉原加寿子¹⁾, 亀山明美¹⁾, 菅谷量俊¹⁾, 加藤浩子²⁾, 小谷英太郎²⁾, 横山 正^{2, 3)}, 中井章人^{2, 4)}, 高瀬久光¹⁾ (1) 多摩永山病院薬剤部, 2) 多摩永山病院医療安全管理部, 3) 多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, 4) 多摩永山病院女性診療科・産科) : 糖尿病治療薬関連のインシデント調査. 日本くすりと糖尿病学会学術集会 (第 5 回), 2016. 10.
 - 14) 中野博之, 小谷英太郎, 齋藤恒徳, 野崎文華, 森澤太一郎, 小橋啓一, 中込明裕, 草間芳樹 : 急性心筋梗塞亜急性期に腸管穿孔を合併し, DAPT 中止により血栓症を発症し救命しえなかった 1 例. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第 45 回), 2016. 11.
 - 15) 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次 : SGLT2 阻害薬による体重減少効果に関連する因子の検討. 日本臨床薬理学会学術総会 (第 37 回), 2016. 12.
 - 16) 小杉宗範, 小谷英太郎, 中野博之, 齋藤恒徳, 野崎文華, 森澤太一郎, 小橋啓一, 川口直美, 中込明裕, 草間芳樹, 清水 渉 (1) 付属病院循環器内科) : 自己免疫性肝炎に合併した門脈圧亢進症に伴う肺動脈性肺高血圧症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 242 回), 2016. 12.
 - 17) Inoue H¹⁾, Kodani E, Atarashi H, Okumura K²⁾, Yamashita T³⁾, Origasa H⁴⁾ (1) Saiseikai Toyama Hospital, 2) Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, 3) The Cardiovascular Institute, 4) Graduate School of Medicine, University of Toyama) : Impact of body mass index on the prognosis of Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation : a sub-analysis of JRHYTHM Registry. Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society 2016 (The 63th), 2016. 7.
 - 18) Igawa O : Anatomical Pitfall in 3D-Mapping, "Right Ventricular Recess". Heart Rhythm 2016-The Heart Rhythm Scientific Societys (37th Annual Scientific Sessions) (San Francisco), 2016. 5.
 - 19) 小橋啓一, 中込明裕, 森澤太一郎, 小杉宗範, 草間芳樹, 清水 渉¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : 糖尿病を有する慢性心不全患者におけるシタグリプチンリンの炎症, 心機能, 長期予後への影響. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回), 2016. 9.
 - 20) 小谷英太郎, 草間芳樹 : SGLT2 阻害薬による体重変化に関する因子の検討. 日本成人病 (生活習慣病) 学会 (第 51 回), 2017. 1.
 - 21) 大野 敦¹⁾, 植木彬夫²⁾, 小谷英太郎, 住友秀孝³⁾, 関口芳弘⁴⁾, 宮川高一⁵⁾ (1) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科, 2) 高村内科クリニック, 3) すみとも内分泌クリニック, 4) 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科, 5) クリニックみらい国立) : 多摩地域の内科医における肥満糖尿病患者の管理に関するアンケート調査 (第 1 報). 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第 54 回), 2017. 1.
 - 22) 関口芳弘¹⁾, 大野 敦²⁾, 植木彬夫³⁾, 小谷英太郎, 住友秀孝⁴⁾, 宮川高一⁵⁾ (1) 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科, 2) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科, 3) 高村内科クリニック, 4) すみとも内分泌クリニック, 5) クリニックみらい国立) : 多摩地域の内科医における肥満糖尿病患者の管理に関するアンケート調査 (第 2 報). 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第 54 回), 2017. 1.
 - 23) 山下貴正, 中込明裕, 中野博之, 齋藤恒徳, 小橋啓一, 森澤太一郎, 川口直美, 小谷英太郎, 井川 修, 草間芳樹 : QT 延長症候群の原因として, ACTH 単独欠損症が疑われた 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 630 回), 2017. 2.
 - 24) Kodani E, Inoue H¹⁾, Atarashi H²⁾, Okumura K³⁾, Yamashita T⁴⁾, Origasa H⁵⁾ (1) Saiseikai Toyama Hospital, 2) Tsurumaki Onsen Hospita, 3) Osaka Minami Medical Center, National Hospital Organization, 4) Saiseikai Kumamoto Hospital, 5) The Cardiovascular Institute, 6) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama) : Predictors for Quality of Warfarin Therapy in Japanese Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation. A subanalysis of the J-RHYTHM Registry. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
 - 25) Kodani E, Inoue H¹⁾, Atarashi H²⁾, Okumura K³⁾, Yamashita T⁴⁾, Origasa H⁵⁾ (1) Saiseikai Toyama Hospital, 2) Tsurumaki Onsen Hospital, 3) Saiseikai Kumamoto Hospital, 4) The Cardiovascular Institute, 5) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama) : Prior Quality of Warfarin Therapy Predicts Subsequent Events in Japanese Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation. A subanalysis of the J-RHYTHM Registry 2. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
 - 26) 中込明裕, 小橋啓一, 森澤太一郎, 遠藤育子, 川口直美, 草間芳樹, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 循環器内科) : Effects of Smoking on the Monocyte Tissue Factor Activity, Carotid Atherosclerosis and the Long-Term Prognosis in Patients with Metabolic Syndrome. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
 - 27) Morisawa T, Nakagomi A, Kohashi K, Kosugi M, Kusama Y, Shimizu W¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 循環器内科) : Serum

- Tartrate-resistant Acid Phosphatase-5b is Associated with the Severity and Extent of Coronary Atherosclerosis in Patients with Coronary Artery. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
- 28) Kohashi K, Nakagomi A, Morisawa T, Kosugi M, Kusama Y, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Dipeptidyl Peptide-4 Inhibitors Reduce the Inflammation and Improve Cardiac Function and Long-term Prognosis of Chronic Heart Failure Patients with Diabetes. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
- 29) Igawa O, Kusama Y, Adachi M, Atarashi H, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Risk of His Bundle Damage Due to Catheter Ablation around Anterior Mitral Valve Annulus : From the View Point of Anatomy. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
- 30) Igawa O, Kusama Y, Adachi M, Atarashi H, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : “Left Atrial Diverticulum” , Common Structure Related to Catheter Ablation : Anatomical Examination Concerning Its Location and Structure. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
- 31) 井川 修, 草間芳樹, 足立正光, 新 博次, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 循環器内科) : Anatomical Pitfall in 3DMapping, “Right Atrial Recess” : Unexpected Structure in Posterior Wall of Right Atrium. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
- 32) 井川 修, 草間芳樹, 足立正光, 新 博次, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 循環器内科) : Extracardiac Pockets behind Right Atrium in the Pericardial Cavity : Specific Structure Related to Catheter Manipulation in the Pericardial Cavity. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
- 33) Endoh I, Endoh Y¹⁾, Kawaguchi N, Katayama H²⁾, Nakagomi A, Shimizu W¹⁾, Kusama Y, Geczy C³⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon medical School, 2) Department of pathology, Nippon Medical School Tama-Nagayama hospital, 3) Inflammation and Infection Research Centre, School of Medical Sciences, University of New South Wales) : Induction of S100A8 in M2 Macrophages : A New Mechanism Mediating Anti-inflammatory Effects. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
- 34) Kohsaka S¹⁾, Nakamura F²⁾, Kimura T¹⁾, Kodani E, Suzuki S³⁾, Akao M⁴⁾, Hayashi K⁵⁾, Toyoda K¹⁾, Miyamoto Y¹⁾, Miyata H⁶⁾, Gohya M⁷⁾, Yamashita T⁴⁾, Okamura T⁸⁾, Tomita H⁹⁾, Okumura K¹⁰⁾ (1) Department of Cardiology, Keio University, 2) National Cerebral and Cardiovascular Center, 3) The Cardiovascular Institute, 4) National Hospital Organization Kyoto Medical Center, 5) Kanazawa University, 6) The Tokyo University, 7) Tokyo Medical and Dental University, 8) Keio University, 9) Hiroshima University, 10) and others) : Efficacy and Safety of Direct Oral Anticoagulants Compared to Warfarin and Non-Anticoagulated. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
- 35) Tomita H¹⁾, Okumura K²⁾, Inoue H³⁾, Atarashi H, Yamashita T⁴⁾, Kodani E, Origasa H⁵⁾ (1) Department of Cardiology, Hiroshima University Graduate School of Medicine, 2) Division of Cardiology, Saiseikai Kumamoto Hospital, 3) Saiseikai Toyama Hospital, 4) Cardiovascular Institute Hospital, 5) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama School of Medicine) : Warfarin Reduces Mortality in High CHADS2 Score of Japanese Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation : A Subanalysis of the J-RHYTHM Registry. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
- 36) 奥村 謙¹⁾, 中村文明²⁾, 小谷英太郎, 鈴木信也³⁾, 赤尾昌治⁴⁾, 林 研至⁵⁾, 香坂 俊⁶⁾, 合屋雅彦⁷⁾, 山下武志³⁾, 福田恵一⁶⁾, 磯部光章⁷⁾, 豊田一則⁸⁾, 宮本恵宏⁹⁾, 宮田裕章¹⁰⁾, 笹原祐介²⁾, その他 1 名 (1) 弘前大学循環器腎臓内科学, 2) 国立循環器病研究センター統合情報センターデータ統合室, 3) 公益財団法人心臓血管研究所循環器内科, 4) 国立病院機構京都医療センター循環器内科, 5) 金沢大学医薬保健研究域医学系・臓器機能制御学循環器内科 (検査部), 6) 慶應義塾大学循環器内科, 7) 東京医科歯科大学循環制御内科学, 8) 国立循環器病研究センター脳血管内科, 9) 国立循環器病研究センター予防健診部, 10) その他) : Risk Stratification for Ischemic Stroke in Japanese Non-valvular Atrial Fibrillation Patients : Pooled Analysis of Five Major Japanese Atrial Fibrillation Registries. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回), 2017. 3.
- 37) 井川 修, 坪井一哉¹⁾ (1) 名古屋セントラル病院) : カテーテルアブレーション・デバイス植込みから学ぶ解剖学. 日本不整脈心電学会学術大会 (第 63 回), 2016. 7.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Homma A¹⁾, Atarashi H, Kubota N²⁾, Nakai K²⁾, Takase T²⁾ (1) Tokyo Dementia Care Research and Training Center, 2) Eisai Co., Ltd) : Efficacy and Safety of Sustained Release Donepezil High Dose versus Immediate Release Donepezil Standard Dose in Japanese Patients with Severe Alzheimer’s Disease : A Randomized, Double-Blind Trial. J Alzheimers Dis 2016 ; 52 (1) : 345-357.

[千葉北総病院循環器内科]

研究概要

千葉北総病院循環器内科では、虚血性心疾患（冠動脈疾患）、不整脈、うっ血性心不全、末梢血管疾患、睡眠時無呼吸症候群、心血管バイオマーカーの臨床開発を中心に研究活動を展開しています。虚血性心疾患では、冠動脈造影（CAG）、血管内視鏡（AGS）、血管内超音波（IVUS）、光干渉断層像（OCT）といった最新画像診断に新規不安定プラーク関連バイオマーカーによる解析を加えた特徴的な研究成果を英文原著論文として多数発表しています。当科の冠動脈画像診断に対する外部の評価は高く、今後も一層の発展を目指しています。不整脈では、症例数の増加に伴い貴重な症例の英文ケースレポート、心房細動の機序に関する研究、上室性および心室性不整脈の発生機序に関する研究成果を英文原著論文として発表しています。心不全については、以前から心筋バイオマーカーの臨床開発を継続していますが、これに加えて睡眠時無呼吸症候群や他の全身疾患と心不全発症の関係についての研究発表を重ねています。末梢血管疾患については、虚血性心疾患とともに危険因子（とりわけ糖尿病や慢性腎疾患など）に関する研究を進めており今後の進歩が期待されます。また、地域医療連携の形で睡眠時無呼吸症候群が各種循環器疾患の危険因子であることを発信しています。千葉北総病院は循環器疾患の症例数が多く、スタッフの研究意欲もとても高いので、文科省科研費を獲得するなど、今後さらなる飛躍が実現できるよう努めています。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) McMurray J¹⁾, Seino Y, Krum H²⁾, Abraham TW³⁾, Dickstein K⁴⁾, Køber VL⁵⁾, Desai SA⁶⁾, Solomon DS⁶⁾, Greenlaw N⁷⁾, Ali MA⁸⁾, Chiang Y⁸⁾, Shao Q⁸⁾, Tarnesby G⁸⁾, Massie MB⁹⁾, et al. (1) the British Heart Foundation Cardiovascular Research Centre, 2) University of Glasgow, Glasgow, United Kingdom ; Centre of Cardiovascular Research and Education in Therapeutics, School of Public Health and Preventiv, 3) the Division of Cardiovascular Medicine, Davis Heart and Lung Research Institute, Ohio State University, Columbus, 4) Stavanger University Hospital, Stavanger, and the Institute of Internal Medicine, University of Bergen, Bergen-both in Norway, 5) Rigshospitalet Copenhagen University Hospital, Copenhagen, 6) the Cardiovascular Division, Brigham and Women's Hospital, Boston, 7) the Robertson Centre for Biostatistics, 8) Novartis Pharma, Basel, Switzerland) : Aliskiren, Enalapril, or Aliskiren and Enalapril in Heart Failure. *The New England Journal of Medicine* 2016 ; 374 (16) : 1521-1532.
- 2) Kobayashi N¹⁾, Takano M, Hata N¹⁾, Kume N²⁾, Tsurumi M¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Okazaki H¹⁾, Shibuya J¹⁾, Shiomura R¹⁾, Nishigoori S¹⁾, Seino Y, Shimizu W³⁾ (1) Intensive Care Unit, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, 2) Division of Clinical Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kobe Gakuin University, Kobe, 3) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Matrix Metalloproteinase-9 as a Marker for Plaque Rupture and a Predictor of Adverse Clinical Outcome in Patients with Acute Coronary Syndrome : An Optical Coherence Tomography Study. *Cardiology* 2016 ; 135 (1) : 56-65.
- 3) Inami T, Seino Y, Shimura T, Kurihara O, Kimata N, Murakami D, Munakata R, Takano M, Ohba T, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Linkage of sleep-disordered breathing and acute aortic dissection with patent false lumen. *Heart and Vessels* 2016 ; 31 (7) : 1069-1076.
- 4) Munakata R, Otsuka T¹⁾, Uchiyama S, Shimura T, Kurihara O, Kimata N, Inami T, Murakami D, Ohba T, Takano M, Ibuki C, Seino Y, Shimizu W²⁾ (1) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Volume elastic modulus of the brachial artery and coronary artery stenosis in patients with suspected stable coronary artery disease. *Heart and Vessels* 2016 ; 31 (9) : 1467-1475.
- 5) Inami T, Okabe M¹⁾, Matsushita M, Kobayashi N²⁾, Inokuchi K¹⁾, Hata N²⁾, Seino Y, Shimizu W³⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 3) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : JAK2 mutation and acute coronary syndrome complicated with stent thrombosis. *Heart and Vessels* 2016 ; 31 (10) : 1714-1716.
- 6) Kubo T¹⁾, Akasaka T¹⁾, Tanimoto T¹⁾, Takano M, Seino Y²⁾, Nasu K³⁾, Itoh T⁴⁾, Mizuno K⁵⁾, Okura H⁶⁾, Shinke T⁷⁾, Kotani J⁸⁾, Ito S⁹⁾, Yokoi H¹⁰⁾, Nanto S⁸⁾, et al. (1) Department of Cardiovascular Medicine, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan, 2) Department of Cardiology, Hoshi General Hospital, Koriyama, Japan, 3) Department of Cardiology, Toyohashi Heart Center, Toyohashi, Japan, 4) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Memorial Heart Center, Iwate Medical School, Morioka, Japan, 5) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 6) Division of Cardiology, Kawasaki Medical School, Kurashiki, Japan, 7) Division of Cardiovascular Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine, Kobe, Japan, 8) Advanced Cardiovascular Therapeutics, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan,

- 9) Division of Cardiology, Nagoya City East Medical Center, Nagoya, Japan, 10) and others) : Assessment of vascular response after drug-eluting stents implantation in patients with diabetes mellitus : an optical coherence tomography sub-study of the J-DESsERT. *Heart and Vessels* 2016 ; 31 (4) : 465-473.
- 7) Kitamura M¹⁾, Hata N¹⁾, Takayama T²⁾, Hirayama A²⁾, Ogawa M³⁾, Yamashita A³⁾, Mera H⁴⁾, Yoshino H⁴⁾, Nakamura F⁵⁾, Seino Y (1) Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 2) Division of Cardiology, Department of Medicine, Nihon University School of Medicine, Tokyo, Japan, 3) Department of Cardiology, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan, 4) Second Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, 5) Third Department of Internal Medicine, Teikyo University Chiba Medical Center, Chiba, Japan) : Different characteristics of cardiac biomarkers to decide and predict the culprit lesions in patients with suspicious acute coronary syndrome. *Heart and Vessels* 2016 ; 31 (6) : 907-917.
- 8) Kurihara O, Takano M, Mizuno K¹⁾, Shibata Y, Matsushita M, Komiyama H, Kato K, Munakata R, Murakami D, Okamoto K, Miyauchi Y, Hata N, Seino Y, Shimizu W²⁾ (1) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo, Japan, 2) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Relationship between Body Mass Index and Coronary Atherosclerosis Analyzed by Multivessel Angioscopic Study. *Angioscopy* 2016 ; 2 (1) : 19-24.
- 9) Komiyama H, Takano H¹⁾, Nakamura S¹⁾, Takano M, Hata N, Miyauchi Y, Seino Y, Mizuno K¹⁾, Shimizu W¹⁾ (1) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Geographical predisposition influences on the distribution and tissue characterisation of eccentric coronary plaques in non-branching coronary arteries : cross-sectional study of coronary plaques analysed by intravascular ultrasound. *Cardiovascular Ultrasound* 2016 ; 14 (1) : 47-47.
- 10) Uetake S, Maruyama M, Yamamoto T¹⁾, Kato K, Miyauchi Y, Seino Y, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Left ventricular stiffness estimated by diastolic wall strain is associated with paroxysmal atrial fibrillation in structurally normal hearts. *Clinical Cardiology* 2016 ; 39 (12) : 728-732.
- 11) Kurihara O, Takano M, Mizuno K¹⁾, Shibata Y, Matsushita M, Komiyama H, Yamamoto M, Kato K, Munakata R, Murakami D, Okamoto K, Hata N, Seino Y, Shimizu W¹⁾ (1) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Impact of Diabetic Retinopathy on Vulnerability of Atherosclerotic Coronary Plaque and Incidence of Acute Coronary Syndrome. *The American Journal of Cardiology* 2016 ; 118 (7) : 944-949.
- 12) Inoue K¹⁾, Murakawa Y²⁾, Nogami A³⁾, Shoda M⁴⁾, Naito S⁵⁾, Kumagami K⁶⁾, Miyauchi Y, Yamane T⁷⁾, Morita N⁸⁾, Okuma K⁹⁾ (1) Cardiovascular Center, Sakurabashi Watanabe Hospital, Osaka, Japan, 2) Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, Kawasaki, Japan, 3) Cardiovascular Division, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan, 4) Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan, 5) Division of Cardiology, Gunma Prefectural Cardiovascular Center, Maebashi, Japan, 6) Heart Rhythm Center, Fukuoka Sanno Hospital, Fukuoka, Japan, 7) The Department of Cardiology, The Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan, 8) Division of Cardiology, Department of Medicine, Tokai University Hachioji Hospital, Hachioji, Japan, 9) Division of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan) : Current status of catheter ablation of atrial fibrillation in Japan : Summary of the 4th survey of the Japanese Catheter Ablation Registry of Atrial Fibrillation (J-CARAF). *Journal of Cardiology* 2016 ; 68 (1) : 83-88.
- 13) Okajima F¹⁾, Emoto N¹⁾, Kato K, Sugihara H²⁾ (1) Division of Endocrinology, Department of Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, Chiba, Japan, 2) Division of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Effect of Glycemic Control on Chylomicron Metabolism and Correlation between Postprandial Metabolism of Plasma Glucose and Chylomicron in Patients with Type 2 Diabetes Treated with Basal-bolus Insulin Therapy with or without Vildagliptin. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis* 2017 ; 24 (2) : 157-168.
- 14) Saiki Y¹⁾, Otsuka T¹⁾, Kato K, Kawada T¹⁾ (1) Department of Hygiene and Public Health, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : A Proposal for the Optimal Management Target for Serum Non-High-Density Lipoprotein Cholesterol Level in Low-Risk Japanese Workers. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis* 2016 ; 23 (4) : 422-430.
- (2) 総説 :
- 1) 清野精彦 : 冠動脈疾患の進展と心筋バイオマーカー. *日本臨牀* 2016 ; 74 (増刊号 4) : 327-333.
 - 2) 清野精彦 : わが国の循環器診療 pros・cons 2016. *循環器内科* 2016 ; 79 (6) : 495-495.
 - 3) 清野精彦 : 睡眠時無呼吸と心血管疾患のリンケージ. *循環器内科* 2016 ; 79 (6) : 568-573.
 - 4) 清野精彦 : 狭心症の検査・診断. *日本臨牀* 2016 ; 74 (増刊号 6) : 17-21.
 - 5) 青野真弓¹⁾, 實川東洋¹⁾, 福田恵子¹⁾, 清野精彦 (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部) : がん化学療法における心筋障害の病態と対策 - アントラサイクリン心筋症など. *呼吸と循環* 2016 ; 64 (9) : 849-857.
 - 6) 志摩綾香, 清野精彦 : 循環器領域における睡眠呼吸障害の疫学. *睡眠医療* 2016 ; 10 (3) : 341-347.

(3) レター :

- 1) Kurihara O, Seino Y, Shibata Y, Matsushita M, Komiyama H, Kato K, Murakami D, Munakata R, Takano M, Miyauchi Y, Shimizu W¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Blunted renal vasoconstriction in patients with subclinical contrast-induced renal injury. *Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology* 2016 ; 43 (11) : 1148-1150.

(4) 症例報告 :

- 1) Maruyama M, Takatsuji S¹⁾, Shimizu W²⁾ (1) Department of Cardiology, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Disproportionate delay in ventricular capture during atrial overdrive pacing in a long RP supraventricular tachycardia : What is the mechanism?. *Heart Rhythm* 2016 ; 13 (7) : 1563-1564.
- 2) Shimura T, Takano M, Imaizumi T¹⁾, Tabata A¹⁾, Seino Y, Shimizu W²⁾ (1) Department of Cardiology, Kobayashi Hospital, Kitami, Japan, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Optical coherence tomography visualisation of burst balloon catheter trapped by coronary stent. *EuroIntervention* 2016 ; 12 (6) : 757-757.
- 3) Komiyama H, Takano M, Sawatani T, Shibata Y, Matsushita M, Kurihara O, Kato K, Munakata R, Murakami D, Hata N, Seino Y, Mizuno K¹⁾, Shimizu W²⁾ (1) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo, Japan, 2) Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Very Late In-stent Restenosis due to Neoatherosclerosis in the Second-generation Everolimus-eluting Stent. *Angioscopy* 2016 ; 2 (1) : 25-28.
- 4) Kim C¹⁾, Seino Y, Sakamoto A¹⁾ (1) Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Japan) : A Case Report : Adaptive Servo Ventilation for a Patient with Acute Heart Failure and Central Sleep Apnea. *International Journal of Anesthetics and Anesthesiology* 2017 ; 4 (1) : 1-5.

(5) Editorial :

- 1) Miyauchi Y : Regional Differences in Warfarin Therapy Among Japanese Patients With Atrial Fibrillation. *Circulation Journal* 2016 ; 80 (7) : 1520-1522.

著 書

- 1) 宮内靖史, 清野精彦 : [分担] 血管拡張薬. 治療薬ハンドブック 2017 (高久史磨), 2017 ; pp416-423, 株式会社じほう.
- 2) 清野精彦 : [分担] 急性心不全. year note TOPICS 2017-2018 (医療情報科学研究所), 2017 ; pp81-85, 株式会社メディックメディア.
- 3) 清野精彦 : [分担] 慢性心不全. year note TOPICS 2017-2018 (医療情報科学研究所), 2017 ; pp86-96, 株式会社メディックメディア.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 清野精彦 : 虚血性心疾患の診断 (心筋障害マーカー). 日本冠疾患学会学術集会 (第30回) (東京), 2016. 12.

(2) シンポジウム :

- 1) 丸山光紀 : 抗不整脈薬の新展開. 日本不整脈心電学会学術大会 (第63回) (札幌), 2016. 7.
- 2) 村上大介, 高野雅充, 宮内靖史, 清野精彦, 清水 渉¹⁾ (1) 日本医科大学循環器内科) : 難治性冠攣縮性狭心症に対する薬効判定の意義 : 投薬下 Ach 負荷試験の可能性. 日本シネアンジオ研究会 (第118回) (松山), 2016. 6.
- 3) Maruyama M : A New Index for Entrainment Mapping. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (The 9th) (Seoul), 2016. 10.
- 4) Miyauchi Y : Treatment of Recurrent VT After Surgery for Refractory VT. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (The 9th) (Seoul), 2016. 10.
- 5) Miyauchi Y : Ablation of Atrial Tachycardia After Surgical Maze. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (The 9th) (Seoul), 2016. 10.
- 6) 松下誠人, 高野雅充, 谷 憲一, 澤谷倫史, 宮國知世, 柴田祐作, 栗原 理, 小宮山英徳, 小林宣明¹⁾, 村上大介, 宮内靖史, 清野精彦, 清水 渉²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 集中治療部, 2) 日本医科大学附属病院循環器内科) : 4Fr ガイドカテーテルを用いた非閉塞型血管内視鏡の有効性と安全性. 日本心臓血管内視鏡学会 (第30回) (西宮), 2016. 10.

(3) パネルディスカッション :

- 1) 高野雅充 : State of art debate session about Physiology and imaging (Physiology and Imaging Debate Session). TOPIC 2016 (東京), 2016. 7.

(4) セミナー :

- 1) 丸山光紀 : How to differentiate the mechanism of supraventricular tachycardia in case the tachycardia is terminated during diagnostic ventricular pacing. 日本不整脈心電学会学術大会 (第 63 回) (札幌), 2016. 7.
- 2) 宮内靖史 : 心臓ペースメーカー技士養成のためのセミナー. 日本不整脈心電学会学術大会 (第 63 回) (札幌), 2016. 7.
- 3) Miyauchi Y : Mapping and Ablation of Incisional AT. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (The 9th) (Seoul), 2016. 10.
- 4) 宮内靖史 : 心房粗動・心房頻拍. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2016 (福岡), 2016. 10.
- 5) 高野雅充 : 血管内視鏡の診断について. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 30 回) (西宮), 2016. 10.
- 6) 清野精彦 : 急性心筋梗塞の早期診断バイオマーカー : H-FABP update. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 7) 宮内靖史 : 心臓ペースメーカー技士養成のためのセミナー. 日本不整脈心電学会 (東京), 2016. 11.

(5) ワークショップ :

- 1) 宮内靖史 : Catheter ablation of atrial tachycardia following surgical maze. CardioRhythm 2017 (香港), 2017. 2.

(6) ポスター :

- 1) 志摩綾香, 清野精彦 : SAS-CHSARC Cohort Study-Comparative Investigation between Sleep Apnea PSG Parameters and the Heart Failure Stages. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 2) Komiyama H : The Relationship between Endothelial Shear Stress and Plaque Morphology. 日本循環器学会学術集会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 3) 池田 健 : 左主幹部の分岐部病変の治療に 3 次元 OCT と側枝拡張用バルーン Glider が有効であった 1 例. Beyond Angiography Japan (第 22 回) (金沢), 2017. 3.

(7) 一般講演 :

- 1) 水野正之¹⁾, 井村昌弘²⁾, 小林宣明³⁾, 高野雅充, 畑 典武³⁾, 清野精彦 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 ME 部, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院集中治療室) : OCT は色を表現するか?. CVIT 2016 (第 25 回) (東京), 2016. 7.
- 2) 説田浩一¹⁾, 北原康行²⁾, 清野精彦, 清水 渉³⁾ (¹⁾ 都立駒込病院 循環器内科・臨床検査科, ²⁾ 都立駒込病院 循環器内科, ³⁾ 日本医科大学 循環器内科) : 本態性高血圧症における心電図上の左室ストレイン・パターンは潜在性微小心筋障害と関連する. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
- 3) Yodogawa K¹⁾, Seino Y, Ohara T¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Miyauchi Y, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Prognostic Significance of Ventricular Late Potentials in Patients with Pulmonary Sarcoidosis. AHA2016 (New Orleans), 2016. 11.
- 4) 植竹俊介, 丸山光紀, 宮内靖史, 清野精彦, 清水 渉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院循環器内科) : 冠静脈洞周囲を時計方向・半時計方向に旋回するマクロリエントリー性心房頻拍の 1 例. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2017 (福岡), 2016. 10.
- 5) 水野正之¹⁾, 高野雅充, 清野精彦 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 放射線センター) : 2 種類の血管内視鏡カテーテルが色調評価に及ぼす差の検討. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第 49 回) (東京), 2016. 10.
- 6) 谷 憲一, 栗原 理, 高野雅充, 水野杏一¹⁾, 柴田祐作, 松下誠人, 小宮山英徳, 加藤活人, 宗像 亮, 村上大介, 岡松健太郎, 畑 典武, 清野精彦, 清水 渉²⁾ (¹⁾ 三越厚生事業団, ²⁾ 日本医科大学付属病院循環器内科) : BMI と冠動脈硬化 : 血管内視鏡からの検討. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 30 回) (西宮), 2016. 10.
- 7) 淀川顕司¹⁾, 清水 渉¹⁾, 吾妻安良太²⁾, 清野精彦 (¹⁾ 日本医科大学循環器内科, ²⁾ 日本医科大学呼吸器内科) : 緩徐進行性の房室伝導障害に対し早期にステロイドを導入し伝導改善を認めたサルコイドーシスの 1 例. 東京サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会 (第 184 回) (東京), 2016. 12.

(8) ポスター発表 :

- 1) 小宮山英徳, 高野雅充, 宗像 亮, 村上大介, 加藤活人, 木股伸恒, 栗原 理, 松下誠人, 柴田祐作, 澤谷倫史, 畑 典武, 清野精彦, 清水 渉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学循環器内科) : リバースワイヤーに適切なガイドワイヤー選択. CVIT 2016 (第 25 回) (東京), 2016. 7.
- 2) 柴田祐作, 小林宣明¹⁾, 松下誠人, 澤谷倫史, 栗原 理, 小宮山英徳, 宗像 亮, 村上大介, 高野雅充, 岡崎大武¹⁾, 畑 典武¹⁾, 清野精彦, 清水 渉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, ²⁾ 日本医科大学付属病院循環器内科) : 近位下大静脈血栓を 8Fr シースを用いて吸引し血栓破砕術に成功した 1 例. CVIT 2016 (第 25 回) (東京), 2016. 7.
- 3) Fujimoto Y¹⁾, Yamamoto T, Takahashi K¹⁾, Tsuboi I¹⁾, Uetake S, Kato K, Maruyama M, Miyauchi Y, Hata N, Seino Y, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : The Prognostic Values of Left Ventricular Stiffness Assessed by Diastolic Wall Strain in Patients with Frequent Premature Ventricular Complexes. AHA2016 (New Orleans), 2016. 11.

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) Takano M : Pharmacological Intervention. *Coronary Angioscopy* 2015 ; 217-227.

追加分原著：

- 1) Takano M, Imaizumi T¹⁾, Tabata A¹⁾, Hata N, Seino Y, Shimizu W²⁾, Mizuno K³⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Kobayashi Hospital, Hokkaido, Japan, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo, Japan) : Minimally invasive coronary angioscopy : observation using a new non-occlusive fibroscope through a 4 Fr guiding catheter. *AsiaIntervention* 2015 ; 1 (2) : 126-128.

追加分症例報告：

- 1) Shirakabe A¹⁾, Takano M, Yamamoto M, Kurihara O, Kobayashi N¹⁾, Matsushita M, Tsurumi M¹⁾, Okazaki H¹⁾, Hata N¹⁾, Shimizu W²⁾ (¹⁾ Division of Intensive Care Unit, Chiba-Hokusho Hospital, Nippon Medical School, Chiba, Japan, ²⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Preventable effects of bare-metal stent on restenosis after everolimus-eluting stent deployment. *Heart and Vessels* 2016 ; 31 (3) : 434-437.
- 2) Shimura T, Takano M, Seino Y, Shimizu W¹⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo, Japan) : Angioscopic Comparison of Six-month Arterial Healing between Bare-metal and Drug-eluting Stents in Superficial Femoral Arteries. *Angioscopy* 2015 ; 1 (1) : 38-41.
- 3) Munakata R, Takano M, Hada T, Shimura T, Kurihara O, Kimata N, Inami T, Murakami D, Ohba T, Seino Y, Shimizu W¹⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo, Japan) : Angioscopic Observation of Acute Femoral Artery Occlusion Complicated by Use of Angio-seal Vascular Closure Device. *Angioscopy* 2015 ; 1 (1) : 35-37.

著書

追加分著書：

- 1) 清野精彦：〔分担〕心血管生化学マーカー。循環器研修ノート 改訂第2版（永井良三），2016；pp122-126，診断と治療社。
- 2) Mizuno K¹⁾, Takano M (¹⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo, Japan) : 〔編集〕*Coronary Angioscopy* (Kyoichi Mizuno, Masamichi Takano), 2015 ; pp1-231, Springer.

3. 神経内科学分野

[付属病院神経・脳血管内科]

研究概要

臨床研究では、年間約700症例のSCU (Stroke Care Unit) での急性期診療における様々な情報をデータベース化し、脳卒中急性期の診断・治療についての様々な研究を行っている。特に超急性期脳梗塞に対するtPA静注療法、血栓除去デバイスを中心とした血管内治療、MRIや超音波、SPECT、血液尿マーカー、抗凝固薬をはじめとする薬物を用いた診断・治療の研究がなされている。また頸動脈狭窄に対するステント留置や脳出血の病態についての研究を行っている。基礎研究では、脳卒中モデルに対する幹細胞治療を主なテーマとして研究を行っている。骨髄由来幹細胞の経静脈的移植は、1) 脾臓を介した抗炎症・免疫調節作用、2) 血管新生作用、3) 内在性の神経再生作用などにより、神経症状の改善を促すことを報告してきた。更に、歯髄由来幹細胞やウイルスベクターを用いて治療遺伝子を強発現させた幹細胞を作成し、移植することで更なる治療効果が得られるかを検討しており、臨床へのトランスレーションを目指している。パーキンソン病に関しては、非運動症状に関した研究を中心に、特にイストラデフィリンの抗うつ効果の検討などを行っている。さらにはレボドパの体内動態に影響する消化管機能との関連の検討、ドパミントランスポーターSPECTの正常データベース構築に関する検討へも参加した。認知症に関しては、物忘れ外来からの年間約300症例の新規患者を含めたデータベースに基づき臨床研究を行っている。アミロイドPETを用いた、糖尿病を背景に持つアルツハイマー病患者の至適治療介入時期の検討や、軽度認知障害を対象とした認知行動療法が糖代謝に与える影響などの研究を行った。一方、急性期脳卒中患者を対象に、脳卒中後に発症する認知症の発症率や臨床的特徴を明らかにする研究も行っている。当科では付属病院の他、千葉北総病院および武蔵小杉病院内科、全国多くの関連病院へ人員を派遣し、各施設での診療、研究に貢献している。以上、当教室では神経内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの優れた論文を発表している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kanamaru T, Suda S, Muraga K, Okubo S, Watanabe Y¹⁾, Tsuruoka S¹⁾, Kimura K (1) Department of Nephrology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Albuminuria predicts early neurological deterioration in patients with acute ischemic stroke. *J Neurol Sci* 2016 ; 15 (372) : 417-420.
- 2) Shimoyama T^{1, 2)}, Kimura K^{1, 2)}, Uemura J¹⁾, Saji N¹⁾, Shibasaki K¹⁾ (1) Department of Stroke Medicine, Kawasaki Medical School, 2) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Post Stroke Dysglycemia and Acute Infarct Volume Growth : A Study Using Continuous Glucose Monitoring. *Eur Neurol* 2016 ; 76 (3-4) : 167-174.
- 3) Shiromoto T^{1, 2)}, Okabe N¹⁾, Lu F¹⁾, Maruyama-Nakamura E¹⁾, Himi N¹⁾, Narita K¹⁾, Yagita Y²⁾, Kimura K, Miyamoto O¹⁾ (1) Second Department of Physiology, Kawasaki Medical School, 2) Department of Stroke Medicine, Kawasaki Medical School) : The Role of Endogenous Neurogenesis in Functional Recovery and Motor Map Reorganization Induced by Rehabilitative Therapy after Stroke in Rats. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 2017 ; 26 (2) : 260-272.
- 4) Suzuki K, Aoki J, Sakamoto Y, Kanamaru T, Abe A, Suda S, Okubo S, Kimura K : Efficiency of the Penumbra 5MAX ACE Reperfusion Catheter in Acute Ischemic Stroke Patients. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 2016 ; 25 (12) : 2981-2986.
- 5) Abe A, Sakamoto Y, Nogami A, Nagai K, Takahashi S, Kajio M, Nito C, Kimura K : Superior binasal quadrantanopsia due to acute ischemic stroke. *J Neurol Sci* 2016 ; 369 : 375-376.
- 6) Sakamoto Y, Tanabe M¹⁾, Masuda K¹⁾, Ozaki H¹⁾, Okubo S, Suda S, Abe A, Aoki J, Muraga K, Kanamaru T, Suzuki K, Katano T, Kimura K (1) Nursing Department, Nippon Medical School) : Feasibility of using magnetic resonance imaging as a screening tool for acute stroke thrombolysis. *J Neurol Sci* 2016 ; 368 : 168-172.
- 7) Suzuki K, Aoki J, Tanizaki Y¹⁾, Sakamoto Y, Takahashi S²⁾, Abe A, Kimura H³⁾, Kano T¹⁾, Suda S, Nishiyama Y, Akaji K¹⁾, Mihara B³⁾, Kimura K (1) Department of Neurosurgery, Institute of Brain and Blood Vessels, Mihara Memorial Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Keio University, 3) Department of Neurology, Institute of Brain and Blood Vessels, Mihara Memorial Hospital) : Characteristics of subcortical infarction due to distal MCA penetrating artery occlusion. *J Neurol Sci* 2016 ; 368 : 160-164.
- 8) Suda S, Muraga K, Kanamaru T, Okubo S, Abe A, Aoki J, Suzuki K, Sakamoto Y, Shimoyama T, Nito C, Kimura K : Low free triiodothyronine predicts poor functional outcome after acute ischemic stroke. *J Neurol Sci* 2016 ; 368 : 89-93.
- 9) Aoki J, Kimura K : Stroke : The question of alteplase dose for stroke is not resolved. *Nature Reviews Neurology* 2016 ; 12 :

- 10) Abe A, Nito C, Sakamoto Y, Nogami A, Hokama H, Takahashi S, Kirita K, Ueda M, Ishimaru Y¹⁾, Kimura K (¹⁾ Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo) : Spontaneous Bilateral Cervical Internal Carotid and Vertebral Artery Dissection in a Japanese Patient without Collagen Vascular Disease with Special Reference to Single-Nucleotide Polymorphisms. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 2016 ; 25 (8) : e114-e117.
- 11) Saji N^{1, 2)}, Kimura K, Yohei T³⁾, Fujimoto S⁴⁾, Kaneko N⁵⁾, Urabe T⁶⁾, Tsujino A³⁾, Iguchi Y⁷⁾, da Vinci Study Group (¹⁾ Department of Stroke Medicine, Kawasaki Medical School, ²⁾ Center for Comprehensive Care and Research on Memory Disorders, National Center for Geriatrics and Gerontology, ³⁾ Cerebrovascular Center, Department of Neurology and Stroke, Nagasaki University Hospital, ⁴⁾ Stroke Center, Steel Memorial Yawata Hospital, ⁵⁾ Stroke Center, Okinawa Kyodo Hospital, ⁶⁾ Department of Neurology, Juntendo University Urayasu Hospital, ⁷⁾ Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine) : Safety and efficacy of non-vitamin K oral anticoagulant treatment compared with warfarin in patients with non-valvular atrial fibrillation who develop acute ischemic stroke or transient ischemic attack : a multicenter prospective cohort study (daVinci study). *J Thromb Thrombolysis* 2016 ; 42 (4) : 453-462.
- 12) 小澤明子, 藤澤洋輔, 山崎峰雄, 戸田諭補, 木村和美 : IgA 腎症を同時発症した抗 SRP 抗体陽性ミオパチーの 1 例. *神経内科* 2016 ; 85 (5) : 559-562.
- 13) Suda S, Kanamaru T, Okubo S, Shimoyama T, Suzuki K, Nito C, Ishiwata A, Kimura K : Urinary albumin-to-creatinine ratio is associated with white matter lesions severity in first-ever stroke patients. *J Neurol Sci* 2017 ; 373 : 258-262.
- 14) Aoki J^{1, 2)}, Kimura K^{1, 2)}, Morita N³⁾, Harada M⁴⁾, Metoki N⁵⁾, Tateishi Y⁶⁾, Todo K⁷⁾, Yamagami H⁷⁾, Hayashi K⁸⁾, Terasawa Y⁹⁾, Fujita K⁹⁾, Yamamoto N⁹⁾, Deguchi I¹⁰⁾, Tanahashi N¹⁰⁾, Behalf Of The Yamato Study Investigators, et al. (¹⁾ Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Stroke Medicine, Kawasaki Medical School, ³⁾ Department of Radiology, National Cerebral and Cardiovascular Center, ⁴⁾ Department of Radiology, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University, ⁵⁾ Hirosaki Stroke and Rehabilitation Center, ⁶⁾ Department of Neurology and Stroke, Nagasaki University Hospital, ⁷⁾ Department of Neurology, Kobe City Medical Center General Hospital, ⁸⁾ Fukui-ken Saiseikai Hospital, ⁹⁾ Department of Clinical Neuroscience, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University, ¹⁰⁾ and others) : YAMATO Study (Tissue-Type Plasminogen Activator and Edoxaban Combination Therapy). *Stroke* 2017 ; 48 (3) : 712-719.
- 15) Sakamoto Y^{1, 2)}, Shimizu T¹⁾, Tobisawa S¹⁾, Isozaki E¹⁾ (¹⁾ Department of Neurology, Tokyo Metropolitan Neurological Hospital, ²⁾ Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Prevalence and clinical characteristics of corticobasal syndrome with an initial symptom outside of the upper limb. *Neurol Sci* 2017 ; In press.
- 16) 三品雅洋 : 血管性認知症の診断はどうすべきか. *老年精神医学雑誌* 2016 ; 27 (12) : 1289-1296.
- 17) Nagayama H, Maeda T¹⁾, Uchiyama T²⁾, Hashimoto M³⁾, Nomoto N⁴⁾, Kano O⁵⁾, Takahashi T⁶⁾, Terashi H⁷⁾, Hamada S⁸⁾, Hasegawa T⁹⁾, Hatano T¹⁰⁾, Takahashi T, Baba Y, Sengoku R, Yj-Expands, et al. (¹⁾ Department of Neurology and Movement Disorder Research, Research Institute for Brain and Blood Vessels-Akita, ²⁾ Department of Neurology, Seirei Hamamatsu General Hospital, ³⁾ Department of Neurology, The Jikei University Katsushika Medical Center, ⁴⁾ Division of Neurology, Department of Internal Medicine, Toho University Ohashi Medical Center, ⁵⁾ Division of Neurology, Department of Internal Medicine, Toho University Omori Medical Center, ⁶⁾ Department of Neurology, National Hospital Organization Yokohama Medical Center, ⁷⁾ Department of Neurology, Tokyo Medical University, ⁸⁾ Department of Neurology, Hokuyukai Neurological Hospital, ⁹⁾ Division of Neurology, Department of Neuroscience & Sensory Organs, Tohoku University Graduate School of Medicine, ¹⁰⁾ and others) : Anhedonia and its correlation with clinical aspects in Parkinson's disease. *J Neurol Sci* 2017 ; 372 (1) : 403-407.
- 18) Ishiwata A, Kimura K : Homonymous Hemianopsia Associated with Probable Alzheimer's Disease. *J Nippon Med Sch* 2016 ; 83 (2) : 87-92.
- (2) 総説 :
- 1) 下山 隆, 木村和美 : Constructive Debate 脳梗塞超急性期の抗凝固療法 是とする立場から. *Cardio-Coagulation* 2016 ; 3 (3) : 186-190.
- 2) 三品雅洋 : アデノシン A2A 受容体の PET. *Clin Neurosci* 2016 ; 34 (11) : 1268-1269.
- 3) 永山 寛 : Parkinson 病治療におけるセロトニン系薬剤の意義. *神経内科* 2016 ; 85 (4) : 422-430.
- 4) 永山 寛 : パーキンソン病の気分障害. *日本医科大学医学会雑誌* 2016 ; 12 (3) : 78-85.
- 5) 長尾毅彦 : 併存症のある心房細動症例 この患者の抗凝固療法はどうするか? ! 認知症や転倒リスクの高い患者および独居高齢者. *薬局* 2016 ; 67 (7) : 2387-2390.
- 6) 長尾毅彦 : 抗凝固療法中の出血時の対応の実際. *Cardio-Coagulation* 2016 ; 3 (3) : 163-168.

- 7) 長尾毅彦：DOAC 登場 5 年現在の評価と使い方 脳梗塞急性期の対応は？. Cardiovascular Contemporary 2016；5（2）：18-23.
- (3) 症例報告：
- 1) Hijikata N, Sakamoto Y, Nito C, Matsumoto N, Abe A, Nogami A, Sato T, Hokama H, Okubo S, Kimura K：Multiple Cerebral Infarctions in a Patient with Adenomyosis on Hormone Replacement Therapy：A Case Report. J Stroke Cerebrovasc Dis 2016；25（10）：e183-e184.
 - 2) Sakamoto Y, Kirita K, Kajio M, Nito C, Abe A, Nogami A, Nagai K, Takahashi S, Okubo S, Kimura K：Remote intracerebral hemorrhage followed by re-bleeding after intravenous thrombolysis in a patient taking a non-vitamin K antagonist oral anti-coagulant：A case report. J Neurol Sci 2016；367：1-2.
 - 3) 戸田諭補, 山崎峰雄, 太田智大, 藤澤洋輔, 木村和美：細菌性髄膜炎治療中に意識障害が出現し, 非癲癇性てんかん重積との鑑別が問題となった Cefepime 脳症の 1 例. 臨床神経学 2016；56（10）：678-683.
 - 4) Suda S, Okubo S, Ueda M, Sowa K, Abe A, Aoki J, Muraga K, Suzuki K, Mizuta I¹⁾, Mizuno T¹⁾, Kimura K⁽¹⁾ Department of Neurology, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine)：A Japanese CADASIL kindred with a novel two-base NOTCH3 mutation. Eur J Neurol 2016；23（5）：e32-e34.
 - 5) Sakamoto Y, Nito C, Abe A, Nogami A, Sato T, Sawada K, Hokama H, Yamada M, Hijikata N, Kumagai T, Ishiwata A, Nagayama H, Kimura K：Aspirin, but not clopidogrel, ameliorates vasomotor symptoms due to essential thrombocythemia：A case report. J Neurol Sci 2016；365：74-75.
- (4) Q&A：
- 1) 長尾毅彦：国内での急性期経口抗血栓療法の見通し. 日本医事新報 2017；(4843)：58-59.

著書

- 1) 鈴木健太郎：〔分担〕左内頸動脈閉塞症の 1 例（虚血手術：頭蓋内血管の手術）. 脳神経外科 M&M カンファレンス（寶金清博・森田明夫），2016；pp220-224, メジカルビュー社.
- 2) Suda S：〔分担〕Chaper1：Bone Marrow-Derived Mononuclear Cells. Cell Therapy against Cerebral Stroke (Comprehensive Reviews for Translational Researches and Clinical Trials) (Houkin K, Abe K, Kuroda S), 2017；pp3-14, Springer Japan.
- 3) 林 俊行, 木村和美：〔分担〕ラクナ梗塞. 抗血小板療法 エキスパートの“勘どころ”（中村正人），2016；pp76-77, 南江堂.
- 4) 青木淳哉：〔分担〕脳卒中専門医のための画像診断【第 3 回】DWI-FLAIR mismatch (Negative-FLAIR). 分子脳血管病（「分子脳血管病」編集委員会），2017；pp65-69, 先端医学社.
- 5) 鈴木健太郎, 木村和美：〔分担〕【抗凝固薬の救急対応】抗凝固療法中の t-PA 治療. 脳梗塞と心房細動（峰松一夫），2016；pp74-77, 公益社団法人 日本脳卒中協会.
- 6) 石渡明子：〔分担〕医師による DLB チェックリストの活用意義（レビー小体型認知症）. CLINICIAN, 2016；pp462-468, エーザイ株式会社.
- 7) 長尾毅彦：〔分担〕心原性脳塞栓症の急性期, 慢性期はどのように治療すればよろしいでしょうか？. 神経内科 Clinical Question and Pearls 脳血管障害（鈴木則宏・伊藤義彰），2016；pp104-112, 中外医学社.
- 8) 長尾毅彦：〔分担〕慢性期抗血栓療法. 脳梗塞診療読本 第 2 版（豊田一則），2016；pp182-192, 中外医学社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 三品雅洋：認知症の診断と薬物治療：画像診断のピットフォールから. 脳神経外科手術ビデオセミナー（第 3 回）（東京），2016. 6.
- 2) 三品雅洋：パーキンソン病におけるアデノシン受容体を指標とした画像と治療. 東北パーキンソン病研究会（第 5 回）（仙台），2016. 9.
- 3) 三品雅洋：パーキンソン病治療とアデノシン受容体. Parkinson's Disease Meeting 特別講演（第 4 回）（大分），2016. 9.
- 4) 三品雅洋：BPSD の対応について. 墨田認知症セミナー・症例検討会（東京），2016. 11.
- 5) 三品雅洋：今できるアルツハイマー病の診断と治療. 川崎中部認知症診療を考える会（川崎），2016. 11.
- 6) 三品雅洋：パーキンソン病におけるアデノシン受容体を指標とした画像と治療. アデノシン受容体を考える会（横浜），2016. 11.

(2) 教育講演：

- 1) 木村和美：その他の脳血管障害（奇異性脳塞栓症, 脳静脈・静脈洞閉塞症, 他）（新ガイドラインを学ぶ）. 日本脳卒中学会学術集会（第 41 回）（札幌），2016. 4.
- 2) 青木淳哉：rtPA 静注療法. 日本脳卒中学会学術集会（第 42 回）（大阪），2017. 3.
- 3) 三品雅洋：それって本当にレヴィ小体型認知症？. 川崎認知症ケアミーティングーかかりつけ医ネットワークをめざしてー（第 9 回）（川崎），2016. 10.

- 4) 三品雅洋：核医学画像で見たパーキンソニズムを呈する疾患. 神奈川 PET・SPECT 研究会－脳－(第 39 回)(横浜), 2016. 11.
 - 5) 長尾毅彦：脳梗塞急性期治療(抗凝固療法). 日本脳卒中学会学術集会(第 41 回)(札幌), 2016. 4.
- (3) シンポジウム：
- 1) 木村和美：t-PA アップデート(急性期血行再開通療法－Honolulu, Nashville の先へ). 日本脳卒中学会学術集会(第 41 回)(札幌), 2016. 4.
 - 2) 片野雄大^{1, 2)} (1) 脳血管研究所美原記念病院 脳卒中部門, 2) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野)：当院における Embolic Stroke of Undetermined Source (ESUS) の治療と予後(ESUS・Mysterious Stroke の謎を解く). 日本脳卒中学会学術集会(第 41 回)(札幌), 2016. 4.
 - 3) 木村和美：NOAC 内服中の脳卒(NOAC (DOAC) 内服患者における脳卒中). 日本心血管脳卒中学会学術集会(第 3 回)(品川), 2016. 6.
 - 4) 木村和美：t-PA 静注療法の update(超急性期脳梗塞の診断と治療). 日本脳卒中学会学術集会(第 42 回)(大阪), 2017. 3.
 - 5) 長尾毅彦：転換期を迎えた抗凝固療法関連脳出血の対策(脳出血診療とその周辺). 日本脳卒中学会学術集会(第 42 回)(大阪), 2017. 3.
 - 6) 長尾毅彦：－Study World と Real World をどうつなげるか－ 臨床試験の結果から. 日本栓子検出と治療学会総会(第 19 回)(神戸), 2016. 10.
 - 7) Nagao T：Novel pharmacotherapies for acute stroke. 13th International symposium on thrombolysis thrombectomy and acute stroke therapy(神戸), 2016. 10.
 - 8) 長尾毅彦：「抗凝固療法珍時代」にならないための提言－脳卒中専門医より－. 日本臨床薬理学会学術大会(第 37 回)(米子), 2016. 12.
 - 9) 長尾毅彦：脳梗塞の血栓止血学的病態とその治療. 日本画像医学会(第 36 回)(東京), 2017. 2.
 - 10) Mishina M：Imaging and treatment targeting adenosine receptors in Parkinson's disease. 日本神経学会学術集会(第 57 回)(神戸), 2016. 5.
- (4) パネルディスカッション：
- 1) 長尾毅彦：DOAC は本当に採血をしなくて大丈夫なのか?. 日本心脳卒中学会学術大会(第 3 回)(東京), 2016. 6.
- (5) セミナー：
- 1) 木村和美：NOAC 内服時の再灌流療法. 日本脳卒中学会学術集会(第 41 回)(札幌), 2016. 4.
 - 2) 長尾毅彦：もう一つ、忘れてはいけない脂質代謝：不飽和脂肪酸からみた脳血管障害. 日本脳卒中学会学術集会(第 41 回)(札幌), 2016. 4.
 - 3) 木村和美¹⁾, 青木淳哉¹⁾, 井口保之²⁾, 大崎正登³⁾, 坂本悠記^{1, 4)}, 藤本 茂⁵⁾, 松本典子¹⁾, 三村秀毅²⁾ (1) 日本医科大学大学院医科研究科 神経内科学分野, 2) 東京慈恵会医科大学 神経内科, 3) 製鉄記念八幡病院 脳血管内科, 4) 東京都立神経病院 神経内科, 5) 自治医科大学 脳卒中センター)：7. 超音波(経頭蓋ドプラ)(第 13 回生涯教育セミナー「Hands-on」). 日本神経学会学術総会(第 57 回)(神戸), 2016. 5.
 - 4) 木村和美：脳梗塞急性期に役に立つバイオマーカー：心不全の検査 BNP を中心に. 日本神経学会学術総会(第 57 回)(神戸), 2016. 5.
 - 5) 坂本悠記：脳梗塞急性期に役に立つバイオマーカー：心不全の検査 BNP を中心に. 日本神経学会学術総会(第 57 回)(神戸), 2016. 5.
 - 6) 永山 寛：実臨床におけるパーキンソン病治療の実際と今後の展望. 日本神経学会学術総会(第 57 回)(神戸), 2016. 5.
 - 7) 大久保誠二：ハンズオン：超音波(頸部血管超音波検査). 日本脳ドッグ学会総会(第 25 回)(軽井沢), 2016. 6.
 - 8) 木村和美：脳卒中治療の最前線. 日本脳ドッグ学会総会(第 25 回)(軽井沢), 2016. 6.
 - 9) 木村和美：心房細動と脳梗塞：心原性脳塞栓症の新時代. 日本心血管脳卒中学会学術集会(第 3 回)(品川), 2016. 6.
 - 10) 木村和美：心房細動と脳梗塞：DOAC の新しい挑戦. 日本栓子検出と治療学会(第 19 回)(神戸), 2016. 10.
 - 11) 長尾毅彦：抗凝固療法の選択で頭が痛くならないために. 日本頭痛学会総会(第 44 回)(京都), 2016. 10.
 - 12) 長尾毅彦：脳卒中専門医としての DOAC 選択：他科医へ発信しなければならないこと. 日本脳循環代謝学会学術集会(第 59 回)(徳島), 2016. 11.
 - 13) 石渡明子：脳 SPECT 検査(脳血流, DAT)による DLB の診断の実際(エキスパートのココが知りたい!!～DaT SPECT による認知症診断～). 日本認知症学会学術集会(第 35 回)(東京), 2016. 12.
 - 14) 坂本悠記^{1, 2)} (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 2) 寿泉堂総合病院 神経内科)：基礎から考える BNP 検査の臨床応用. 日本脳卒中学会学術集会(第 42 回)(大阪), 2017. 3.
 - 15) 長尾毅彦：抗血栓療法 Update 2016. 日本血栓止血学会学術集会(第 38 回)(奈良), 2016. 6.
 - 16) 長尾毅彦：脳卒中専門医から循環器専門医への提言：真の心原性脳塞栓症予防のために必要なこと. 日本不整脈心電学会学術大会

(第 63 回) (札幌), 2016. 7.

(6) 一般講演 :

- 1) Suzuki S, Suda S, Shimoyama T, Takayama Y, Ouchi T, Arakawa M, Okubo S, Aoki J, Suzuki K, Mishina M, Kimura K : Prevalence And Clinical Character Of Cortical Superficial Siderosis In Stroke Patient. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
- 2) Suzuki K, Aoki J, Takayama Y, Abe A, Suda S, Kimura K : Good Reperfusion Can Rescue Acute Ischemic Stroke Patients Treated With Endovascular Therapy Beyond 6 Hours After Onset. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
- 3) Aoki J, Kimura K, Morita N¹⁾, Harada M²⁾, Metoki N³⁾, Tateishi Y⁴⁾, Todo K⁵⁾, Yamagami H⁵⁾, Hayashi K⁶⁾, Terasawa Y⁷⁾, Fujita K⁷⁾, Yamamoto N⁷⁾, Deguchi I⁸⁾, Tanahashi N⁸⁾, Yamato Study Group, et al. (¹⁾ National Cerebral and Cardiovascular Center, ²⁾ Tokushima University, ³⁾ Hirosaki Stroke and Rehabilitation Center, ⁴⁾ Nagasaki University Hospital, ⁵⁾ Kobe City Medical Center General Hospital, ⁶⁾ Fukui-ken Saiseikai Hospital, ⁷⁾ Tokushima University, ⁸⁾ Saitama Medical University International Medical Center) : Diabetes Mellitus Prevents The Complete Recanalization In Patients With Middle Cerebral Artery Occlusion. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
- 4) Suda S, Shimoyama T, Takayama Y, Ouchi T, Arakawa M, Suzuki S, Okubo S, Aoki J, Suzuki K, Mishina M, Kimura K : Low Free Triiodothyronine on Admission Should Be Associated With Post-stroke Infection in Acute Stroke Patients. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
- 5) Shimoyama T, Suda S, Takayama Y, Ouchi T, Arakawa M, Suzuki S, Okubo S, Mishina M, Kimura K : Albuminuria Should Be A Strong Predictor Of Acute Kidney Injury in Acute Ischemic Stroke Patients. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
- 6) Suda S, Shimoyama T, Takayama Y, Ouchi T, Arakawa M, Suzuki S, Okubo S, Aoki J, Suzuki K, Mishina M, Kimura K : Urinary Albumin/creatinine Ratio Should Be Associated With White Matter Lesion Severity in First-ever Stroke Patients. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
- 7) Aoki J, Suzuki K, Suda S, Okubo S, Mishina M, Kimura K : In Hyperacute Recanalization Therapy, Early Hospital Arrival Should Improve Outcome in Patients With Large Artery Occlusion but Not Without It. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
- 8) Arakawa M, Shimoyama T, Suda S, Takayama Y, Ouchi T, Suzuki S, Okubo S, Mishina M, Kimura K : Plasma Brain Natriuretic Peptide Should be a Predictor for 3-Month Mortality in Non-Cardioembolic Stroke. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
- 9) 野上 茜, 永山 寛, 呉 壮香¹⁾, 山崎峰雄, 木村和美 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 病理診断科) : MIBG 心筋シンチグラフィ集積低下を認めた多系統萎縮症 2 剖検例の神経病理学的検討. 日本自律神経学会総会 (第 69 回) (熊本), 2016. 11.
- 10) 澤田和貴, 青木淳哉, 熊谷智昭, 下山 隆, 大内崇弘, 大久保誠二, 永山 寛, 木村和美 : 緩徐進行性の認知機能障害を認めた血管内リンパ腫の 64 歳女性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 217 回) (東京), 2016. 6.
- 11) 奥畑好章¹⁾, 三品雅洋, 西山康裕, 水越元気, 藤澤洋輔, 阿部 新, 林 俊行, 木村和美 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科) : 被殻ラクナ梗塞で発症したタコツボ様心筋障害の 88 歳女性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 217 回) (東京), 2016. 6.
- 12) 荒川将史, 下山 隆, 高山洋平, 大内崇弘, 鈴木静香, 栗田二郎¹⁾, 須田 智, 松本典子, 大久保誠二, 木村和美 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 左房粘液腫との鑑別が困難であった巨大左房内血栓の脳梗塞の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (626 回) (東京), 2016. 9.
- 13) 呉 侑樹, 須田 智, 鈴木健太郎, 阿部 新, 大久保誠二, 松本典子, 宮城泰雄¹⁾, 功刀しのぶ²⁾, 木村和美 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 病理診断科) : 粘液腫による脳梗塞, 塞栓源は血栓それとも腫瘍?. 日本脳神経超音波学会総会 (第 35 回) (横浜), 2016. 6.
- 14) 松本典子, 木村和美 : 頸動脈の外科治療における超音波検査 : 頸部血管エコーの役割を中心に. 日本脳神経超音波学会総会 (第 35 回) (横浜), 2016. 6.
- 15) 坂本悠記, 大久保誠二, 上田雅之, 木村和美 : 急性期脳梗塞患者における血管内 T1 高信号の頻度と関連因子. 日本脳卒中学会学術集会 (第 41 回) (札幌), 2016. 4.
- 16) 中島壯崇¹⁾, 仁藤智香子¹⁾, 上田雅之¹⁾, 岨 康太^{1,2)}, 高橋有希²⁾, 笠原優子²⁾, 今川 究³⁾, 立花克彦³⁾, 岡田尚巳²⁾, 木村和美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, ²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 分子遺伝子医学分野, ³⁾ JCR ファーマ株式会社) : ラット脳梗塞モデルにおけるアデノ随伴ウイルスベクターを用いた IL-10 強発現骨髄間葉系幹細胞移植. 日本脳卒中学会学術集会 (第 41 回) (札幌), 2016. 4.

- 17) 松本典子, 村賀香名子, 坂本悠記, 原田未那, 青木淳哉, 須田 智, 大久保誠二, 仁藤智香子, 上田雅之, 木村和美: 急性期脳梗塞の臨床病型診断と治療方針決定における超音波検査の意義. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 18) 須田 智, 村賀香名子, 金丸拓也, 坂本悠記, 大久保誠二, 松本典子, 阿部 新, 青木淳哉, 鈴木健太郎, 木村和美: 遊離トリヨードサイロニン低値は脳梗塞予後不良の予測因子である. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 19) 青木淳哉, 鈴木健太郎, 坂本悠記, 阿部 新, 須田 智, 大久保誠二, 木村和美: 主幹動脈閉塞例のFLAIR画像で血管高信号がないことは慢性の動脈閉塞を意味する. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 20) 青木淳哉^{1,2)}, 木村和美^{1,2)}, 森田奈緒美³⁾, 原田雅史⁴⁾, 永廣信治⁵⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 2) 川崎医科大学 脳卒中医学, 3) 国立循環器病研究センター 放射線部, 4) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 放射線科学分野, 5) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 脳神経外科学分野): 虚血性脳血管障害急性期例に対するアルテプラザーとエダラボンとの併用に関する多施設共同前向き研究. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 21) 下山 隆, 青木淳哉, 坂本悠記, 鈴木健太郎, 阿部 新, 大久保誠二, 木村和美: 椎骨・脳底動脈におけるFLAIR-hyper vesselsの検討. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 22) 鈴木健太郎, 青木淳哉, 坂本悠記, 村賀香名子, 金丸拓也, 阿部 新, 須田 智, 大久保誠二, 長尾毅彦, 木村和美: 新規経口抗凝固薬内服患者に対する急性期血行再開通療法の安全性. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 23) 高山洋平^{1,3)}, 重島裕也¹⁾, 矢澤由加子¹⁾, 古井英介¹⁾, 佐藤健一²⁾, 松本康史²⁾, 板橋 亮¹⁾, 木村和美³⁾ (1) 広南病院 脳血管内科, 2) 広南病院 血管内脳神経外科, 3) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野): Tandem lesionに対する当院での血管内治療. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 24) 呉 侑樹, 外間裕之, 坂本悠記, 大久保誠二, 木村和美: 脳梗塞発症前後でのBNP上昇は重症度と相関する. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 25) 金丸拓也, 須田 智, 村賀香名子, 大久保誠二, 渡辺容子¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 木村和美 (1) 日本医科大学大学院医学研究科 腎臓内科学分野): 急性期脳梗塞患者における早期神経徴候増悪と蛋白尿の関係. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 26) 林 俊行, 青木淳哉, 鈴木健太郎, 坂本悠記, 阿部 新, 須田 智, 大久保誠二, 木村和美: CT上の急性期脳出血はMRIスカウト画像で判別できる. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 27) 三品雅洋, 大久保誠二, 仁藤智香子, 松本典子, 須田 智, 木村和美: 就労者における急性期脳卒中. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 28) 上田雅之, 仁藤智香子, 西山康裕, 村賀香名子, 須田 智, 中島壯崇, 岨 康太, 稲葉俊東, 中久木正則¹⁾, 木村和美 (1) 持田製薬株式会社 開発研究所): ラット一過性局所脳虚血に対するEPA-EとDHA-Eの効果の差異. 日本脳卒中学会学術集会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 29) Suzuki K, Aoki J, Nagao T, Kimura K: Revascularization therapy in acute stroke patients treated with NOAC should be SAFE. The 2nd European Stroke Organisation Conference2017 (Barcelona, Spain), 2016. 5.
- 30) Hayashi T, Aoki J, Suzuki K, Abe A, Suda S, Kimura K: MRI scout images can detect the acute intracerebral hemorrhage on CT. The 2nd European Stroke Organisation Conference2017 (Barcelona, Spain), 2016. 5.
- 31) 酒巻雅典, 澤田和貴, 鈴木健太郎, 金丸拓也, 村賀香名子, 須田 智, 大久保誠二, 内海甲一¹⁾, 山崎峰雄, 福地孝明²⁾, 木村和美 (1) うつみ内科クリニック, 2) 府中恵仁会 脳卒中センター): ファブリー病と脳血管障害. 日本神経学会学術総会 (第57回) (神戸), 2016. 5.
- 32) 阿部 新, 坂本悠記, 原田未那, 鈴木健太郎, 青木淳哉, 須田 智, 木村和美: 中大脳動脈狭窄部ブランクの造影MRIによる経時変化. 日本神経学会学術総会 (第57回) (神戸), 2016. 5.
- 33) 野村浩一^{1,2)}, 沓名章仁^{1,2)}, 齊藤智成^{2,3)}, 木村和美²⁾ (1) 医療法人SHIODA 塩田病院 脳神経内科, 2) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 3) 神戸市立医療センター中央市民病院 神経内科): 特定健康診査における認知症スクリーニング導入の試み. 日本神経学会学術総会 (第57回) (神戸), 2016. 5.
- 34) 石渡明子, 藤澤洋輔, 水越元気, 西山康裕, 木村和美: 「レビー小体型認知症の臨床診断基準チェックシート」を用いた診断の検討. 日本神経学会学術総会 (第57回) (神戸), 2016. 5.
- 35) 野上 茜, 永山 寛, 呉 壮香¹⁾, 山崎峰雄, 木村和美 (1) 日本医科大学付属病院 病理診断科): MIBG心筋シンチグラフィ集積低下を認めた多系統萎縮症2剖検例の神経病理学的検討. 日本神経学会学術総会 (第57回) (神戸), 2016. 5.
- 36) 鈴木健太郎, 青木淳哉, 坂本悠記, 村賀香名子, 金丸拓也, 阿部 新, 須田 智, 大久保誠二, 木村和美: MRI firstで行う来院再開通時間短縮の取り組み. 日本神経学会学術総会 (第57回) (神戸), 2016. 5.
- 37) Nagayama H, Kubo S^{1,2)}, YJ-EXPANDS²⁾ (1) Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine, 2) The Young Japanese Expert Group for Parkinson's Disease and Movement Disorders): A Japanese Multicenter Survey Characterizing Pain in Parkinson's Disease. 日本神経学会学術総会 (第57回) (神戸), 2016. 5.
- 38) Nakajima M^{1,2)}, Nito C¹⁾, Ueda M¹⁾, Sowa K^{1,2)}, Suda S¹⁾, Takahashi A²⁾, Kasahara Y²⁾, Imagawa K³⁾, Tachibana K³⁾,

- Okada T², Kimura K¹) (1) Department of Neurology, Nippon Medical School Graduate School, (2) Department of Molecular and Genetic Medicine, Nippon Medical School Graduate School, (3) JCR Pharmaceuticals Company Ltd) : Effect of mesenchymal stem cells overexpressing IL-10 by AAV vector in a rat stroke model. 日本神経学会学術総会 (第 57 回) (神戸), 2016. 5.
- 39) Nito C¹, Sowa K^{1,2}, Nakajima M^{1,2}, Ueda M¹, Nishiyama Y¹, Suda S¹, Takahashi A^{1,2}, Imagawa K³, Tashibana K³, Okada T², Kimura K¹) (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, (3) JCR Pharmaceuticals Co.,Ltd) : Transplantation of dental pulp stem cells ameliorates brain damage after focal cerebral ischemia. 日本神経学会学術総会 (第 57 回) (神戸), 2016. 5.
- 40) 野上 茜 : 19 年の長期にわたる臨床的経過を示した多系統萎縮症の一部検例. 日本神経病理学会総会学術研究会 (第 57 回) (弘前), 2016. 6.
- 41) 阿部 新 : 脳梗塞リスク値の有用性の検討 : 無症候性脳梗塞, 深部皮質下白質病変, 脳室周囲白質病変の検出率. 日本脳ドッグ学会総会 (第 25 回) (軽井沢), 2016. 6.
- 42) Nagayama H : Anhedonia and its correlation with clinical aspects in Parkinson's disease. 20th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Berlin, GER), 2016. 6.
- 43) Mishina M, Suzuki M, Ishii K, Sakata M, Wagetsuma K, Ishibashi K, Toyohara J, Zhang RM, Kimura K, Ishiwata K : Density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 in de novo patients with Parkinson's disease using 11C-ITMM PET. 20th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Berlin, GER), 2016. 6.
- 44) 青木淳哉 : Baby Trevo によって良好な再開通が得られたアテローム血栓性中大脳動脈閉塞症の 1 例. 日本栓子検出と治療学会 (第 19 回) (神戸), 2016. 10.
- 45) 荒川将史 : MAZE 手術及び左房内腫瘍様血栓摘出術後, 左房内血栓の再発を認めた脳梗塞の 1 例. 日本栓子検出と治療学会 (第 19 回) (神戸), 2016. 10.
- 46) 武井悠香子 : 陳旧性肺疾患が肺内シャントの原因として疑われた奇異性脳塞栓症の 1 例. 日本栓子検出と治療学会 (第 19 回) (神戸), 2016. 10.
- 47) 酒巻雅典, 鈴木静香, 阿部 新, 水越元気, 松本典子, 臼田和弘, 三品雅洋, 木村和美 : 原因として椎骨動脈解離が考えられた, 美容院頭痛症候群の 2 症例. 日本頭痛学会総会 (第 44 回) (京都), 2016. 10.
- 48) 鈴木静香, 下山 隆, 須田 智, 高山洋平, 青木淳哉, 鈴木健太郎, 大久保誠二, 木村和美 : 頭痛のみを症状として発症した脳動脈解離症例の臨床的特徴について. 日本頭痛学会総会 (第 44 回) (京都), 2016. 10.
- 49) 小澤明子, 戸田諭補, 大田智大, 高橋史郎, 江畑琢也, 高橋幸利, 峯清一郎, 山崎峰雄, 木村和美 : 抗 NMDA 受容体脳炎後遺症としての症候性てんかん : 自験例 6 例での検討. 日本神経治療学会総会 (第 34 回) (米子), 2016. 11.
- 50) 大内崇弘, 熊谷智昭, 永山 寛, 山崎峰雄, 木村和美 : 画像上の変化を認めなかった亜急性の高次機能障害を呈した血管内リンパ腫の 70 歳男性例. 日本神経治療学会総会 (第 34 回) (米子), 2016. 11.
- 51) 野上 茜, 永山 寛, 呉 莊香¹, 山崎峰雄, 木村和美 (1) 日本医科大学付属病院 病理診断科) : MIBG 心筋シンチグラフィー集積低下を認めた多系統萎縮症 2 剖検例の神経病理学的検討. 日本自律神経学会総会 (第 69 回) (熊本), 2016. 11.
- 52) 須田 智, 大久保誠二, 青木淳哉, 下山 隆, 鈴木健太郎, 仁藤智香子, 石渡明子, 木村和美 : 急性期脳梗塞患者における尿中微量アルブミン尿と大脳白質病変との関連. 日本脳循環代謝学会学術集会 (第 59 回) (徳島), 2016. 11.
- 53) 大内崇弘, 須田 智, 下山 隆, 高山洋平, 荒川将史, 鈴木静香, 大久保誠二, 三品雅洋, 木村和美 : 入院時の尿アルブミン/クレアチニン比高値は脳出血転帰不良の予知因子である. 日本脳循環代謝学会学術集会 (第 59 回) (徳島), 2016. 11.
- 54) 仁藤智香子¹, 岨 康太^{1,2}, 中島壯崇^{1,2}, 須田 智¹, 上田雅之¹, 西山康裕¹, 坂本悠記¹, 高橋有希², 今川 究³, 平戸 徹³, 岡田尚巳², 木村和美¹) (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, (2) 日本医科大学大学院医学研究科 生化学・分子生物学分野, (3) JCR ファーマ株式会社) : 虚血再灌流障害における歯髄幹細胞移植の神経保護効果. 日本脳循環代謝学会学術集会 (第 59 回) (徳島), 2016. 11.
- 55) 岨 康太^{1,2}, 仁藤智香子¹, 中島壯崇¹, 須田 智¹, 坂本悠記¹, 西山康裕^{1,3}, 上田雅之^{1,3}, 高橋有希², 笠原優子², 今川 究⁴, 岡田尚巳², 木村和美¹) (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, (2) 日本医科大学大学院医学研究科 分子遺伝医学分野, (3) 東京都立多摩総合医療センター 神経・脳血管内科, (4) JCR ファーマ株式会社) : ラット局所脳虚血モデルにおける HGF 強発現歯髄幹細胞移植の治療効果. 日本脳循環代謝学会学術集会 (第 59 回) (徳島), 2016. 11.
- 56) 青木淳哉, 鈴木健太郎, 高山洋平, 由井奏子, 片野雄大, 杵名章仁, 澤田和貴, 須田 智, 阿部 新, 大久保誠二, 木村和美 : DWI-ASPECTS ≤ 4 例に対する超急性期血行再建術の検討. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回) (神戸), 2016. 11.
- 57) 荒川将史, 高山洋平, 澤田和貴, 杵名章仁, 片野雄大, 鈴木健太郎, 青木淳哉, 阿部 新, 大久保誠二, 木村和美 : 高齢者に対する急性期再開通療法. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回) (神戸), 2016. 11.
- 58) 高山洋平, 青木淳哉, 鈴木健太郎, 片野雄大, 杵名章仁, 澤田和貴, 須田 智, 阿部 新, 大久保誠二, 木村和美 : 中大脳動脈 M2 閉塞に対する急性期再開通療法のデバイスによる違い. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回) (神戸), 2016. 11.

- 59) 片野雄大, 鈴木健太郎, 荒川将史, 澤田和貴, 杓名章仁, 高山洋平, 青木淳哉, 阿部 新, 大久保誠二, 木村和美: 頸動脈ステント留置術における頸動脈反射の検討. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回) (神戸), 2016. 11.
- 60) 杓名章仁, 鈴木健太郎, 荒川将史, 澤田和貴, 片野雄大, 高山洋平, 青木淳哉, 阿部 新, 大久保誠二, 木村和美: 後方循環領域梗塞に対する血行再建術の転帰良好は発症-穿刺時間に起因する. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回) (神戸), 2016. 11.
- 61) 阿部 新, 鈴木健太郎, 坂本悠記, 青木淳哉, 三品雅洋, 木村和美: 主幹動脈閉塞の再開通治療直後の頭部 CT 造影効果の頻度および意義について検討. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回) (神戸), 2016. 11.
- 62) 鈴木健太郎, 青木淳哉, 荒川将史, 杓名章仁, 澤田和貴, 片野雄大, 高山洋平, 木村和美: A Direct Aspiration, First Pass Technique (ADAPT) の吸引時間 90 秒は最適か. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回) (神戸), 2016. 11.
- 63) 石渡明子, 藤澤洋輔, 水越元気, 西山康裕, 木村和美: レビー小体型認知症の診断における「チェックシート」の有用性. 日本認知症学会学術集会 (第 35 回) (東京), 2016. 12.
- 64) 松本典子, 片野雄大, 高山洋平, 鈴木健太郎, 下山 隆, 青木淳哉, 須田 智, 大久保誠二, 仁藤智香子, 木村和美: 当院における Embolic source of undetermined source (ESUS) 症例の経食道心エコー所見. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 65) 鈴木健太郎, 青木淳哉, 杓名章仁, 片野雄大, 高山洋平, 大久保誠二, 木村和美: 発症から 6 時間以上経過した急性期脳梗塞に対する血管内治療の有用性. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 66) 青木淳哉, 鈴木健太郎, 須田 智, 大久保誠二, 三品雅洋, 木村和美: 急性期再灌流療法例において, 早期来院が転帰に強く関連するのは主幹動脈閉塞例である. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 67) 岨 康太, 仁藤智香子, 中島壯崇, 須田 智, 上田雅之, 笠原優子¹⁾, 今川 究²⁾, 平戸 徹²⁾, 岡田尚巳^{1, 3)}, 木村和美 (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 細胞遺伝子治療学, ²⁾ JCR ファーマ株式会社, ³⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 分子遺伝学分野): ラット局所脳虚血モデルにおける HGF 強発現歯髄幹細胞移植の神経保護効果. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 68) 須田 智, 下山 隆, 鈴木静香, 高山洋平, 荒川将史, 青木淳哉, 鈴木健太郎, 大久保誠二, 三品雅洋, 木村和美: 脳卒中患者における脳表ヘモジエリン沈着の検出率と特徴. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 69) 仲座方辰, 須田 智, 下山 隆, 高山洋平, 青木淳哉, 鈴木健太郎, 大久保誠二, 三品雅洋, 木村和美: 遊離トリヨードサイロニン低値は脳出血患者の転帰不良と関連する. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 70) 櫻井星羅, 杓名章仁, 片野雄大, 高山洋平, 鈴木健太郎, 青木淳哉, 大久保誠二, 木村和美: MRI first で行う来院再開通時間の短縮の取り組み. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 71) Nagayama H: Re-considering the clinical significance of Dopamine Agonist in Parkinson's Disease treatment (Controversy: DA treatment). The 16th Japan International Parkinson's Disease & Movement Symposium in Takamatsu (高松), 2017. 3.
- 72) 外間裕之^{1, 2)}, 中嶋信人¹⁾, 木村和美²⁾ (¹⁾ 北村山公立病院 神経内科, ²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野): 意識障害にて発症し, 経時的に拡散強調画像の異常所見の変化を呈した 67 歳男性例. 日本神経学会東北地方会 (第 98 回), 2016. 9.
- 73) 下山 隆, 須田 智, 高山洋平, 大内崇弘, 荒川将史, 鈴木静香, 大久保誠二, 木村和美: 急性期脳梗塞患者における入院時尿中アルブミン値は急性腎障害発症の予測因子となり得る. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 74) 坂本悠記, 木村和美: 病前 DOAC 内服は心原性脳塞栓症を軽症化させるか. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 75) 増田恭子¹⁾, 漆原美穂¹⁾, 大久保誠二, 木村和美 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 看護部 CCU/SCU): 脳卒中地域連携パス適用にむけたチーム連携の構築. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 76) 川西智也¹⁾, 根本留美¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 三品雅洋, 野村俊明²⁾, 北村 伸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, ²⁾ 日本医科大学 医療心理学教室): 認知症発症への不安を抱える高齢者に対するもの忘れ相談についての一考察: 認知機能低下が軽微な事例から. 日本認知症ケア学会 (第 17 回) (神戸), 2016. 6.
- 77) 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 川西智也¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 野村俊明²⁾, 三品雅洋, 北村 伸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, ²⁾ 日本医科大学 医療心理学教室): 地域における継続的相談が認知症早期受診に果たす意義: 初回来談者と継続来談者の受診推奨時の MMSE 得点の比較より. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
- 78) 根本留美¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 川西智也¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 石渡明子, 三品雅洋, 野村俊明²⁾, 北村 伸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, ²⁾ 日本医科大学 医療心理学教室): 若年層における認知症早期発見に関する一考察: 若年性アルツハイマー病が疑われた地域のもの忘れ相談事例から. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
- 79) 川西智也¹⁾, 櫻村正美²⁾, 原 祐子³⁾, 並木香奈子¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 三品雅洋, 野村俊明²⁾, 北村 伸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, ²⁾ 日本医科大学 医療心理学教室, ³⁾ 公益財団法人西熊谷病院): 地域包括支援センターが関与した高齢者の迷惑行為の分類: フォーカスグループインタビューによる調査. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
- 80) 平井歌織¹⁾, 林 俊行, 阿部 新, 水越元気, 酒巻雅典, 三品雅洋, 木村和美 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科): 脳梁膨大・放線冠に可逆性の MRI 拡散強調画像高信号を示した低血糖脳症の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.

- 81) 川西智也¹⁾, 櫻村正美²⁾, 原 祐子³⁾, 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 山下真里¹⁾, 並木香奈子³⁾, 深津 亮, 三品雅洋, 野村俊明²⁾, 北村伸¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, 2) 日本医科大学 医療心理学教室, 3) 公益財団法人西熊谷病院): 地域包括支援センターが関与した, 地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (1): 迷惑行為の類型. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 82) 櫻村正美¹⁾, 川西智也²⁾, 原 祐子³⁾, 稲垣千草²⁾, 根本留美²⁾, 山下真里²⁾, 並木香奈子²⁾, 深津 亮³⁾, 三品雅洋, 野村俊明¹⁾, 北村伸²⁾ (1) 日本医科大学 医療心理学教室, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, 3) 公益財団法人西熊谷病院): 地域包括支援センターが関与した, 地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (2): 迷惑行為に関連する要因について. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 83) 原 祐子¹⁾, 櫻村正美²⁾, 川西智也³⁾, 稲垣千草³⁾, 根本留美³⁾, 山下真里³⁾, 並木香奈子³⁾, 三品雅洋, 野村俊明²⁾, 北村伸³⁾, 深津亮¹⁾ (1) 公益財団法人西熊谷病院, 2) 日本医科大学 医療心理学教室, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター): 地域包括支援センターが関与した, 地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (3): 当該高齢者への対応と支援上の課題. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 84) 根本留美¹⁾, 川西智也¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 山下真里¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 三品雅洋, 野村俊明²⁾, 北村伸¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, 2) 日本医科大学 医療心理学教室): 若年層におけるもの忘れ相談の現状: 街ぐるみ認知症相談センター利用状況から. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 85) 並木香奈子¹⁾, 小八重幹生²⁾, 井上志津子¹⁾, 長久美江子¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 川西智也¹⁾, 根本留美¹⁾, 三品雅洋, 野村俊明³⁾, 北村伸⁴⁾ (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター, 2) 株式会社富士通ゼネラル, 3) 日本医科大学 医療心理学教室, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター): 高齢者健康支援モバイルサービスを利用した認知症予防と早期発見の有効性. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 86) 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 川西智也¹⁾, 山下真里¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 長久美江子¹⁾, 井上志津子¹⁾, 三品雅洋, 野村俊明²⁾, 北村伸¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, 2) 日本医科大学 医療心理学教室): 地域の認知症相談における軽度認知障害への対応. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 87) 三品雅洋^{1,2)}, 鈴木正彦^{2,3)}, 石井賢二²⁾, 坂田宗之²⁾, 我妻 慧²⁾, 石橋賢士²⁾, 豊原 潤²⁾, 張 明榮⁴⁾, 木村和美^{1,5,6)}, 石渡喜一²⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 2) 東京都健康長寿医療センター研究所 神経画像研究チーム, 3) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 神経内科, 4) 放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター, 5) 脳神経疾患研究所 南東北創薬・サイクロトロン研究所, 6) 福島県立医科大学 生体機能イメージング講座): [C-11] ITMM PET を用いた未治療パーキンソン病における代謝型グルタミン酸受容体1型密度の検討-第1報-. 日本核医学会学術総会 (第56回) (名古屋), 2016. 11.
- 88) 澤田和貴^{1,2)}, 西山康裕^{1,2)}, 村賀香名子^{1,2)}, 久保田真由美³⁾, 堀川弘史³⁾, 太田貴裕³⁾, 木村和美²⁾, 上田雅之^{1,2)} (1) 東京都立多摩総合医療センター 神経・脳血管内科, 2) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 3) 東京都立多摩総合医療センター 脳神経外科): 水泳が誘引となった内頸動脈解離の45歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第220回) (東京), 2017. 3.
- 89) 杏名章仁, 熊谷智昭, 鈴木健太郎, 荒川将史, 武井悠香子, 仁藤智香子, 大久保誠二, 木村和美: 急性期脳梗塞に対する血行再建術後に広範な白質脳症を呈した76歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第220回) (東京), 2017. 3.
- 90) 外間裕之, 戸田諭補, 小澤明子, 江畑琢矢, 山崎峰雄, 木村和美: ステロイド治療で筋力低下を発症した純粋感覚障害型慢性進行性脱髄性多発神経炎の74歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第220回) (東京), 2017. 3.
- 91) 石渡明子: 日常診療における認知症へのアプローチ. 新宿区医師会戸塚支部二火会学術講演会 (東京), 2016. 5.
- 92) 石渡明子: 生活習慣病と認知症. 糖尿病治療セミナー (東京), 2016. 6.
- 93) 石渡明子: 認知症診療における画像活用術-画像診断結果の伝え方のコツ-. 足立区認知症サポート医の会特別講演会 (第1回) (東京), 2016. 6.
- 94) 石渡明子: 言語症状を前景とした多彩な皮質症状を呈した1症例. Sendagi Dementia Conference (第9回) (東京), 2016. 7.
- 95) 石渡明子: 超高齢社会における認知症へのアプローチ: 1次予防から3次予防まで. 認知症カンファレンス (東京), 2016. 7.
- 96) 石渡明子: 実臨床に役立つ高齢者認知症の鑑別のコツ. 地域連携フォーラム (東京), 2016. 10.
- 97) 石渡明子: 東京超高齢社会における認知症へのアプローチ: 予防と治療のUp To date. 千代田区認知症カンファレンス (東京), 2016. 11.
- 98) 石渡明子: 「自分らしさ」をより長く: 認知症の治療と予防のUp To Date. 江戸川区認知症カンファレンス (東京), 2016. 11.
- 99) 石渡明子: 研修医・若手医師が知っておきたい認知症の画像診断. 東北認知症画像研究会 (第4回) (仙台), 2017. 2.
- 100) 石渡明子: 「自分らしさ」をより長く: 認知症 予防から治療の3step. 笛吹市認知症カンファレンス (山梨), 2017. 2.
- 101) 山崎昌子¹⁾, 志賀 剛²⁾, 長尾毅彦^{1,3)}, 遠井素乃¹⁾, 水野聡子¹⁾, 家子正裕⁴⁾, 北川一夫¹⁾ (1) 東京女子医科大学 神経内科, 2) 東京女子医科大学 循環器内科, 3) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 4) 北海道医療大学 内科): 直接経口抗凝固薬服用患者のプロトロンビン時間と活性化部分トロンボプラスチン時間の日差変動. 日本血栓止血学会学術集会 (第38回) (奈良), 2016. 6.
- 102) 倉重 綾¹⁾, 岩野美由紀¹⁾, 沼尾知諒¹⁾, 高橋 南¹⁾, 斉藤聖子¹⁾, 内藤はるか¹⁾, 長尾毅彦, 東麻衣子¹⁾, 小針聡司¹⁾, 伊坂智光¹⁾, 長

嶋浩貴¹⁾ (1) 新宿リサーチパーククリニック) : アルツハイマー型認知症患者を対象とする臨床試験実施における取り組みについて, 日本臨床薬理学会学術大会 (第 37 回) (米子), 2016. 12.

(7) 公開講座 :

- 1) 三品雅洋 : 認知症の診断は進歩したのに治せないのか : ならば 家族・社会ができること. 日本医科大学武蔵小杉病院公開講座 (川崎), 2016. 4.
- 2) 三品雅洋 : 認知症になってもなんとかする!. 川崎市整形外科医会・川崎市医師会健康スポーツ医部市民公開講座 (川崎), 2016. 10.
- 3) 三品雅洋 : 認知症, 治せなくてもなんとかできる : 薬に頼らないケアのテクニック. 地域セミナー (川崎), 2016. 11.

(8) デイバートセッション :

- 1) 鈴木健太郎 : 急性内頸動脈閉塞例に対する rt-PA 静注スキップ+血栓回収療法. 日本栓子検出と治療学会 (第 19 回) (神戸), 2016. 10.

論文

[追加分]

追加分症例報告 :

- 1) Nagayama H, Kajimoto Y, Kumagai T, Nishiyama Y, Mishina M, Kimura K : Pharmacokinetics of Levodopa before and after Gastrointestinal Resection in Parkinson's Disease. *Case Rep Neurol* 2015 ; 7 (3) : 181-185.
- 2) Sakamoto Y, Ouchi T, Okubo S, Abe A, Aoki J, Nogami A, Sato T, Hokama H, Ogawa Y, Suzuki S, Misina M, Kimura K : Thrombolysis, Complete Recanalization, Diffusion Reversal, and Luxury Perfusion in Hyperacute Stroke. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 2016 ; 25 (1) : 238-239.
- 3) Muraga K, Suda S, Nagayama H, Okubo S, Abe A, Aoki J, Nogami A, Suzuki K, Sakamoto Y, Ueda M, Mishina M, Kimura K : Limb-shaking TIA : cortical myoclonus associated with ICA stenosis. *Neurology* 2016 ; 86 (3) : 307-309.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) 林 俊行^{1,2)}, 中嶋信人¹⁾, 木村和美²⁾ (1) 北村山公立病院 神経内科, (2) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 多彩な神経症状を呈し大量ガンマグロブリン療法が著効した抗 GT1b 陽性免疫性ニューロパチーの 56 歳男性例. 日本神経学会東北地方会 (第 99 回) (仙台), 2016. 2.
- 2) Ishiwata A, Fujisawa Y, Mizukoshi G, Nishiyama Y, Kimura K : Accuracy of A Simple Check Sheet for Clinical Diagnosis of Lewy Body Dementia. 13th International Conference on Alzheimer's & Parkinson's Diseases (Austria), 2016. 3.
- 3) Mishina M, Ishii K^{1,2)}, Ishiwata K²⁾, Sakata M²⁾, Toyohara J²⁾, Oda K²⁾, Kimura K (1) Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (2) Department of Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University of Science) : Regional accumulation of [C-11] PiB and [F-18] FDG in subtype of Lewy body disease. 日本神経学会総会 (第 56 回) (新潟), 2015. 5.
- 4) Mishina M, Ishii K^{1,2)}, Ishiwata K²⁾, Sakata M²⁾, Toyohara J²⁾, Oda K²⁾, Kimura K (1) Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (2) Department of Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University of Science) : REGIONAL ACCUMULATION OF [C-11] PIB AND [F-18] FDG IN SUBTYPE OF LEWY BODY DISEASE. *European Society of Neuroradiology (38th) (Naples)*, 2015. 9.
- 5) Mishina M^{1,2)}, Suzuki M^{2,3)}, Ishii K²⁾, Kimura Y^{2,4)}, Ishibashi K²⁾, Sakata M²⁾, Oda K^{2,5)}, Toyohara J²⁾, Kobayashi S⁶⁾, Nagayama H⁷⁾, Kitamura S²⁾, Kimura K⁷⁾, Ishiwata K (1) Department of Neurology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, (2) Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (3) Department of Neurology, Katsushika Medical Center, The Jikei University School of Medicine, (4) Department of Computational Systems Biology, Faculty of Biology-Oriented Science & Technology, Kinki University, (5) Department of Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University of Science, (6) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (7) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Striatal density of adenosine A₁ receptors in early Parkinson's disease measured with ¹¹C-MPDX PET. *Society for Neuroscience annual meeting (45th) (Chicago)*, 2015. 10.
- 6) 後藤由也, 西山康裕, 水越元気, 藤澤洋輔, 熊谷智昭, 石渡明子, 三品雅洋, 木村和美 : 皮膚筋炎に対して免疫抑制剤 2 剤併用が奏功した 31 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 215 回) (東京), 2015. 12.

追加分招待講演 :

- 1) Mishina M : Brain Imaging of Adenosine Receptors. KEYSTONE SYMPOSIA on Molecular and Cellular Biology Purinergic Signal-

ing (Vancouver), 2016. 1.

追加分特別講演：

- 1) 三品雅洋：PET でみる大脳基底核. 日本医科大学医学会総会（第83回）（東京），2015. 9.

[武蔵小杉病院神経内科]

研究概要

武蔵小杉病院は長年単一の内科で、平成11年4月北村伸先生と山室学先生が赴任するまで、神経内科医は不在であった。平成19年4月には文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業社会連携部門の助成のもと、「認知症街ぐるみプロジェクト」がスタートした。このプロジェクトの目玉である「街ぐるみ認知症相談センター」は同年12月に開設され、認知症の早期発見と地域連携の促進に寄与した。平成23年4月濱本真先生が神経内科部長に就任、平成24年11月神経内科が開設、付属病院より医局員が派遣されるようになった。平成26年濱本先生の退職に伴い、7月石渡明子先生が部長代理に就任、8月から部長に昇進された。平成25年10月三品雅洋が部長に赴任した。日本医科大学内で唯一の認知症疾患医療センターである特徴を活かし、医療連携を強化するシステムを実現した。認知症中心の診療から、パーキンソン病・多発性硬化症・フェブリー病など神経難病を増やすとともに、パーキンソン病の脳深部刺激術の調節を脳神経外科から神経内科が担うことで、診療実績を改善した。認知症ケアチームを結成し、身体疾患で入院する認知症患者のサポート体制を構築した。外来・入院・認知症ケア回診の診療実績はデータベースに登録し、内科専門医や研修医の教育に応用している。研究面では、パーキンソン病における代謝型グルタミン酸受容体1型分布の研究、レヴィ小体病における脳機能の代償とアミロイド分布の関連に関する研究、未治療パーキンソン病におけるアデノシン A₁ 受容体分布の研究、DatSCAN 解析法に関する近畿大学との共同研究などが始まった。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 三品雅洋：血管性認知症の診断はどうすべきか. 老年精神医学雑誌 2016；27（12）：1289-1296.

(2) 総説：

- 1) 三品雅洋：アデノシン A_{2A} 受容体の PET. Clin Neurosci 2016；34（11）：1268-1269.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 三品雅洋：認知症の診断と薬物治療：画像診断のピットフォールから. 脳神経外科手術ビデオセミナー（第3回）（東京），2016. 6.
- 2) 三品雅洋：パーキンソン病におけるアデノシン受容体を指標とした画像と治療. 東北パーキンソン病研究会（第5回）（仙台），2016. 9.
- 3) 三品雅洋：パーキンソン病治療とアデノシン受容体. Parkinson's Disease Meeting 特別講演（第4回）（大分），2016. 9.
- 4) 三品雅洋：BPSDの対応について. 墨田認知症セミナー・症例検討会（東京），2016. 11.
- 5) 三品雅洋：今できるアルツハイマー病の診断と治療. 川崎中部認知症診療を考える会（川崎），2016. 11.
- 6) 三品雅洋：パーキンソン病におけるアデノシン受容体を指標とした画像と治療. アデノシン受容体を考える会（横浜），2016. 11.

(2) 教育講演：

- 1) 三品雅洋：それって本当にレヴィ小体型認知症？. 川崎認知症ケアミーティング-かかりつけ医ネットワークをめざして-（第9回）（川崎），2016. 10.
- 2) 三品雅洋：核医学画像で見たパーキンソニズムを呈する疾患. 神奈川 PET・SPECT 研究会-脳-（第39回）（横浜），2016. 11.

(3) シンポジウム：

- 1) Mishina M：Imaging and treatment targeting adenosine receptors in Parkinson's disease. 日本神経学会学術集会（第57回）（神戸），2016. 5.

(4) 一般講演：

- 1) Suzuki S¹， Suda S¹， Shimoyama T¹， Takayama Y¹， Ouchi T¹， Arakawa M¹， Okubo S¹， Aoki J¹， Suzuki K¹， Mishina M， Kimura K¹（¹ Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School）：Prevalence And Clinical Character Of Cortical Superficial Siderosis In Stroke Patient. International Stroke Conference 2017（Houston, The US），2017. 2.
- 2) Suda S¹， Shimoyama T¹， Takayama Y¹， Ouchi T¹， Arakawa M¹， Suzuki S¹， Okubo S¹， Aoki J¹， Suzuki K¹， Mishina M， Kimura K¹（¹ Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School）：Low Free Triiodothyronine on Admission Should Be Associated With Post-stroke Infection in Acute Stroke Patients. International Stroke Confer-

- ence 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
- 3) Shimoyama T¹⁾, Suda S¹⁾, Takayama Y¹⁾, Ouchi T¹⁾, Arakawa M¹⁾, Suzuki S¹⁾, Okubo S¹⁾, Mishina M, Kimura K¹⁾ (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Albuminuria Should Be A Strong Predictor Of Acute Kidney Injury in Acute Ischemic Stroke Patients. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
 - 4) Suda S¹⁾, Shimoyama T¹⁾, Takayama Y¹⁾, Ouchi T¹⁾, Arakawa M¹⁾, Suzuki S¹⁾, Okubo S¹⁾, Aoki J¹⁾, Suzuki K¹⁾, Mishina M, Kimura K¹⁾ (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Urinary Albumin/creatinine Ratio Should Be Associated With White Matter Lesion Severity in First-ever Stroke Patients. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
 - 5) Aoki J¹⁾, Suzuki K¹⁾, Suda S¹⁾, Okubo S¹⁾, Mishina M, Kimura K¹⁾ (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : In Hyperacute Recanalization Therapy, Early Hospital Arrival Should Improve Outcome in Patients With Large Artery Occlusion but Not Without It. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
 - 6) Arakawa M¹⁾, Shimoyama T¹⁾, Suda S¹⁾, Takayama Y¹⁾, Ouchi T¹⁾, Suzuki S¹⁾, Okubo S¹⁾, Mishina M, Kimura K¹⁾ (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Plasma Brain Natriuretic Peptide Should be a Predictor for 3-Month Mortality in Non-Cardioembolic Stroke. International Stroke Conference 2017 (Houston, The US), 2017. 2.
 - 7) 奥畑好章, 三品雅洋, 西山康裕, 水越元気, 藤澤洋輔, 阿部 新, 林 俊行, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 被殻ラクナ梗塞で発症したタコツボ様心筋障害の 88 歳女性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 217 回) (東京), 2016. 6.
 - 8) 三品雅洋, 大久保誠二¹⁾, 仁藤智香子¹⁾, 松本典子¹⁾, 須田 智¹⁾, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 就労者における急性期脳卒中. 日本脳卒中学会総会 (第 41 回) (札幌), 2016. 4.
 - 9) Mishina M, Suzuki M, Ishii K, Sakata M, Wagetsuma K, Ishibashi K, Toyohara J, Zhang-R M : Density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 in de novo patients with Parkinson's disease using ¹¹C-ITMM PET. 20th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Berlin, GER), 2016. 6.
 - 10) 大内崇弘¹⁾, 須田 智¹⁾, 下山 隆¹⁾, 高山洋平¹⁾, 荒川将史¹⁾, 鈴木静香¹⁾, 大久保誠二¹⁾, 三品雅洋, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 入院時の尿アルブミン/クレアチニン比高値は脳出血転帰不良の予知因子である. 日本脳循環代謝学会学術集会 (第 59 回) (徳島), 2016. 11.
 - 11) 阿部 新, 鈴木健太郎¹⁾, 坂本悠記¹⁾, 青木淳哉¹⁾, 三品雅洋, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 主幹動脈閉塞の再開通治療直後の頭部 CT 造影効果の頻度および意義について検討. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回) (神戸), 2016. 11.
 - 12) 青木淳哉¹⁾, 鈴木健太郎¹⁾, 須田 智¹⁾, 大久保誠二¹⁾, 三品雅洋, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 急性期再灌流療法例において, 早期来院が転帰に強く関連するのは主幹動脈閉塞例である. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
 - 13) 須田 智¹⁾, 下山 隆¹⁾, 鈴木静香¹⁾, 高山洋平¹⁾, 荒川将史¹⁾, 青木淳哉¹⁾, 鈴木健太郎¹⁾, 大久保誠二¹⁾, 三品雅洋, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 脳卒中患者における脳表へモジエリン沈着の検出率と特徴. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
 - 14) 仲座方辰¹⁾, 須田 智¹⁾, 下山 隆¹⁾, 高山洋平¹⁾, 青木淳哉¹⁾, 鈴木健太郎¹⁾, 大久保誠二¹⁾, 三品雅洋, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 遊離トリヨードサイロニン低値は脳出血患者の転帰不良と関連する. 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
 - 15) 川西智也, 根本留美, 稲垣千草, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸 : 認知症発症への不安を抱える高齢者に対するもの忘れ相談についての一考察 : 認知機能低下が軽微な事例から. 日本認知症ケア学会 (第 17 回) (神戸), 2016. 6.
 - 16) 稲垣千草, 根本留美, 川西智也, 並木香奈子, 野村俊明, 三品雅洋, 北村 伸 : 地域における継続的相談が認知症早期受診に果たす意義 : 初回来談者と継続来談者の受診推奨時の MMSE 得点の比較より. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
 - 17) 根本留美, 稲垣千草, 川西智也, 並木香奈子, 石渡明子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸 : 若年層における認知症早期発見に関する一考察 : 若年性アルツハイマー病が疑われた地域のもの忘れ相談事例から. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
 - 18) 川西智也, 櫻村正美, 原 祐子, 並木香奈子, 稲垣千草, 根本留美, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸 : 地域包括支援センターが関与した高齢者の迷惑行為の分類 : フォーカスグループインタビューによる調査. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
 - 19) 平井歌織, 林 俊行, 阿部 新, 水越元気, 酒巻雅典, 三品雅洋, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 脳梁膨大・放線冠に可逆性の MRI 拡散強調画像高信号を示した低血糖脳症の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.

- 20) 川西智也, 櫻村正美, 原 祐子, 稲垣千草, 根本留美, 山下真里, 並木香奈子, 深津 亮, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸: 地域包括支援センターが関与した, 地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (1): 迷惑行為の類型. 日本認知症予防学会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
 - 21) 櫻村正美, 川西智也, 原 祐子, 稲垣千草, 根本留美, 山下真里, 並木香奈子, 深津 亮, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸: 地域包括支援センターが関与した, 地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (2): 迷惑行為に関連する要因について. 日本認知症予防学会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
 - 22) 原 祐子, 櫻村正美, 川西智也, 稲垣千草, 根本留美, 山下真里, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸, 深津 亮: 地域包括支援センターが関与した, 地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (3): 当該高齢者への対応と支援上の課題. 日本認知症予防学会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
 - 23) 根本留美, 川西智也, 稲垣千草, 山下真里, 並木香奈子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸: 若年層におけるもの忘れ相談の現状: 街ぐるみ認知症相談センター利用状況から. 日本認知症予防学会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
 - 24) 並木香奈子, 小八重幹生, 井上志津子, 長久美江子, 稲垣千草, 川西智也, 根本留美, 三品雅洋, 北村 伸: 高齢者健康支援モバイルサービスを利用した認知症予防と早期発見の有効性. 日本認知症予防学会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
 - 25) 稲垣千草, 根本留美, 川西智也, 山下真里, 並木香奈子, 井上志津子, 長久美江子, 三品雅洋, 野村俊明, 北村 伸: 地域の認知症相談における軽度認知障害への対応. 日本認知症予防学会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
 - 26) 三品雅洋, 鈴木正彦, 石井賢二, 坂田宗之, 我妻 慧, 石橋賢士, 豊原 潤, 張 明榮, 木村和美, 石渡喜一: [C-11] ITMM PET を用いた未治療パーキンソン病における代謝型グルタミン酸受容体1型密度の検討-第1報-. 日本核医学会学術総会 (第56回) (名古屋), 2016. 11.
- (5) 公開講座:
- 1) 三品雅洋: 認知症の診断は進歩したのに治せないのか: ならば 家族・社会ができること. 日本医科大学武蔵小杉病院公開講座 (川崎), 2016. 4.
 - 2) 三品雅洋: 認知症になってもなんとかする!. 川崎市整形外科医会・川崎市医師会健康スポーツ医部市民公開講座 (川崎), 2016. 10.
 - 3) 三品雅洋: 認知症, 治せなくてもなんとかできる: 薬に頼らないケアのテクニック. 地域セミナー (川崎), 2016. 11.

論文

[追加分]

追加分症例報告:

- 1) Muraga K¹, Suda S¹, Nagayama H¹, Okubo S¹, Abe A¹, Aoki J¹, Nogami A¹, Suzuki K¹, Sakamoto Y¹, Ueda M¹, Mishina M, Kimura K¹ (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Limb-shaking TIA : cortical myoclonus associated with ICA stenosis. *Neurology* 2016 ; 86 (3) : 307-309.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) Ishiwata A¹, Fujisawa Y, Mizukoshi G, Nishiyama Y, Kimura K¹ (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Accuracy of A Simple Check Sheet for Clinical Diagnosis of Lewy Body Dementia. 13th International Conference on Alzheimer's & Parkinson's Diseases (Austria), 2016. 3.
- 2) Mishina M, Ishii K^{1, 2}, Ishiwata K², Sakata M², Toyohara J², Oda K², Kimura K³ (1) Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (2) Department of Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University of Science, (3) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Regional accumulation of [C-11] PiB and [F-18] FDG in subtype of Lewy body disease. 日本神経学会総会 (第56回) (新潟), 2015. 5.
- 3) Mishina M, Ishii K^{1, 2}, Ishiwata K², Sakata M², Toyohara J², Oda K², Kimura K³ (1) Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (2) Department of Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University of Science, (3) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : REGIONAL ACCUMULATION OF [C-11] PIB AND [F-18] FDG IN SUBTYPE OF LEWY BODY DISEASE. European Society of Neuro-radiology (38th) (Naples), 2015. 9.
- 4) Mishina M, Suzuki M^{1, 2}, Ishii K¹, Kimura Y^{1, 3}, Ishibashi K¹, Sakata M¹, Oda K^{1, 4}, Toyohara J¹, Kobayashi S⁵, Nagayama H⁶, Kitamura S, Kimura K⁷, Ishiwata K¹ (1) Department of Neuro-pathophysiological imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, (2) Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (3) Department of Neurology, Katsushika Medical Center, The Jikei University School of Medicine, (4) Department of Computational Systems

Biology, Faculty of Biology-Oriented Science & Technology, Kinki University Science, ⁵⁾ Department of Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University of Science, ⁶⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ⁷⁾ Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Striatal density of adenosine A₁ receptors in early Parkinson's disease measured with ¹¹C-MPDX PET. Society for Neuroscience annual meeting (45th) (Chicago), 2015. 10.

- 5) 後藤由也, 西山康裕, 水越元気, 藤澤洋輔, 熊谷智昭, 石渡明子, 三品雅洋, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 皮膚筋炎に対して免疫抑制剤 2 剤併用が奏功した 31 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 215 回) (東京), 2015. 12.

追加分招待講演 :

- 1) Mishina M : Brain Imaging of Adenosine Receptors. KEYSTONE SYMPOSIA on Molecular and Cellular Biology Purinergic Signaling (Vancouver), 2016. 1.

追加分特別講演 :

- 1) 三品雅洋 : PET でみる大脳基底核. 日本医科大学医学会総会 (第 83 回) (東京), 2015. 9.

[多摩永山病院脳神経内科]

研究概要

2015 年 6 月多摩永山病院脳神経内科部長として長尾毅彦が赴任して 1 年半が経過した. 赴任当初の計画通り, 当院循環器内科に協力を仰ぎ, 静岡県立大学栄養学教室とのワルファリン内服症例におけるビタミン K 摂取量の研究は, 症例登録が完了し, 現在検体採取, 分析中である. また, わが国で行われた 3 つの大規模臨床研究のアスピリン投与群の統合解析も 1 次解析が終了し, 次年度の国際学会で順次発表の予定である. これらの研究に続いて, 次年度の実施をめざし日本血栓止血学会凝固線溶検査部会主導の凝固能検査標準化に関する多施設研究の実施準備中である.

研究業績

論文

(1) 総説 :

- 1) 長尾毅彦 : 併存症のある心房細動症例 この患者の抗凝固療法はどうか? ! 認知症や転倒リスクの高い患者および独居高齢者. 薬局 2016 ; 67 (7) : 2387-2390.
- 2) 長尾毅彦 : 抗凝固療法中の出血時の対応の実際. Cardio-Coagulation 2016 ; 3 (3) : 163-168.
- 3) 長尾毅彦 : DOAC 登場 5 年現在の評価と使い方 脳梗塞急性期の対応は?. Cardio Vascular Contemporary 2016 ; 5 (2) : 18-23.

(2) Q&A :

- 1) 長尾毅彦 : 国内での急性期経口抗血栓療法の展望. 日本医事新報 2017 ; (4843) : 58-59.

著書

- 1) 長尾毅彦 : [分担] 心原性脳塞栓症の急性期, 慢性期はどのように治療すればよろしいでしょうか?. 神経内科 Clinical Question and Pearls 脳血管障害 (鈴木則宏・伊藤義彰), 2016 ; pp104-112, 中外医学社.
- 2) 長尾毅彦 : [分担] 慢性期抗血栓療法. 脳梗塞診療読本 第 2 版 (豊田一則), 2016 ; pp182-192, 中外医学社.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 長尾毅彦 : 脳梗塞急性期治療 (抗凝固療法). 日本脳卒中学会学術集会 (第 41 回) (札幌), 2016. 4.

(2) シンポジウム :

- 1) 長尾毅彦 : 転換期を迎えた抗凝固療法関連脳出血の対策 (脳出血診療とその周辺). 日本脳卒中学会学術集会 (第 42 回) (大阪), 2017. 3.
- 2) 長尾毅彦 : - Study World と Real World をどうつなげるか - 臨床試験の結果から. 日本栓子検出と治療学会総会 (第 19 回) (神戸), 2016. 10.
- 3) 長尾毅彦 : 「抗凝固療法珍時代」にならないための提言 - 脳卒中専門医より -. 日本臨床薬理学会学術大会 (第 37 回) (米子), 2016. 12.
- 4) 長尾毅彦 : 脳梗塞の血栓止血学的病態とその治療. 日本画像医学会 (第 36 回) (東京), 2017. 2.
- 5) Nagao T : Novel pharmacotherapies for acute stroke. 13th International symposium on thrombolysis thrombectomy and acute

stroke therapy (神戸), 2016. 10.

(3) パネルディスカッション：

1) 長尾毅彦：DOACは本当に採血をしなくて大丈夫なのか？. 日本心脳卒中学会学術大会（第3回）（東京），2016. 6.

(4) セミナー：

1) 長尾毅彦：もう一つ、忘れてはいけない脂質代謝：不飽和脂肪酸からみた脳血管障害. 日本脳卒中学会学術集会（第41回）（札幌），2016. 4.

2) 長尾毅彦：抗凝固療法の選択で頭が痛くならないために. 日本頭痛学会総会（第44回）（京都），2016. 10.

3) 長尾毅彦：脳卒中専門医としてのDOAC選択：他科医へ発信しなければならないこと. 日本脳循環代謝学会学術集会（第59回）（徳島），2016. 11.

4) 長尾毅彦：抗血栓療法 Update 2016. 日本血栓止血学会学術集会（第38回）（奈良），2016. 6.

5) 長尾毅彦：脳卒中専門医から循環器専門医への提言：真の心原性脳塞栓症予防のために必要なこと. 日本不整脈心電学会学術大会（第63回）（札幌），2016. 7.

(5) 一般講演：

1) 山崎昌子¹⁾，志賀 剛²⁾，長尾毅彦^{1,3)}，遠井素乃¹⁾，水野聡子¹⁾，家子正裕⁴⁾，北川一夫¹⁾（¹⁾ 東京女子医科大学 神経内科，²⁾ 東京女子医科大学 循環器内科，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院 脳神経内科，⁴⁾ 北海道医療大学 内科）：直接経口抗凝固薬服用患者のプロトロンビン時間と活性化部分トロンボプラスチン時間の日差変動. 日本血栓止血学会学術集会（第38回）（奈良），2016. 6.

2) 倉重 綾¹⁾，岩野美由紀¹⁾，沼尾知諒¹⁾，高橋 南¹⁾，斉藤聖子¹⁾，内藤はるか¹⁾，長尾毅彦，東麻衣子¹⁾，小針聡司¹⁾，伊坂智光¹⁾，長嶋浩貴¹⁾（¹⁾ 新宿リサーチパーククリニック）：アルツハイマー型認知症患者を対象とする臨床試験実施における取り組みについて. 日本臨床薬理学会学術大会（第37回）（米子），2016. 12.

3) Suzuki K¹⁾，Aoki J¹⁾，Nagao T，Kimura K¹⁾（¹⁾ Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School）：Revascularization therapy in acute stroke patients treated with NOAC should be SAFE. The 2nd European Stroke Organisation Conference 2017 (Barcelona, Spain), 2016. 5.

[千葉北総病院神経・脳血管内科]

研究概要

平成27年度から症例報告として発表していた抗NMDA受容体陽性脳炎での合併症を共同演者の千葉県循環器病センター脳神経外科の峯清一郎先生にご指導いただき、まとめて「抗NMDA受容体脳炎後遺症としての症候性てんかん：自験例6例での検討」として第34回日本神経治療学会総会で発表した。当院で経験の多い脳炎・脳症に関して今後も継続的に研究を行っていく予定である。自己免疫性神経疾患としての脳症や神経筋疾患の症例研究も行っており、日本神経学会関東地方会では、「ステロイド治療で筋力低下を発症した純粹感覚障害型慢性進行性脱髄性多発神経炎の74歳男性例」、「非痙攣性てんかん発作で発症し、小脳症状と末梢神経障害を呈したメトロニダゾール脳症の60歳女性例」などの症例報告を行った。平成27年度に報告した症例を「IgA腎症を同時発症した抗SRP抗体陽性ミオパチーの1例」（小澤明子ら：神経内科；85：559-562，2016）、「細菌性髄膜炎治療中に意識障害が出現し、非痙攣性てんかん重積との鑑別が問題となったCefepime脳症の1例」（戸田諭補ら：臨床神経学；56：678-683，2016）として論文化した。平成27年度から科研費（挑戦的萌芽）に採用された。京都大学との共同研究「血清NMRデータを用いた新たなアルツハイマー病診断法の開発」を平成28年度も引き続き継続研究した。本研究は患者血清を用いて、独自開発された「NMR核磁気共鳴」計測とパターン認識によるデータ解析を行うことにより、アルツハイマー病患者と、認知正常例および軽度認知障害例との識別が可能か否かを検討するもので、すでに150名以上のサンプル収集が完了しており、解析作業が進行中である。本解析技術は特許申請中であり、そのため学会発表と論文が遅れているが、平成29年度中には発表予定である。

研究業績

論文

(1) 症例報告：

1) 小澤明子，藤澤洋輔，山崎峰雄，戸田諭補，木村和美¹⁾（¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野）：IgA腎症を同時発症した抗SRP抗体陽性ミオパチーの1例. 神経内科 2016；85（5）：559-562.

2) 戸田諭補，山崎峰雄，太田智大，藤澤洋輔，木村和美¹⁾（¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野）：細菌性髄膜炎治療中に意識障害が出現し、非痙攣性てんかん重積との鑑別が問題となったCefepime脳症の1例. 臨床神経学 2016；56（10）：678-683.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 小澤明子¹⁾, 戸田諭補¹⁾, 太田智大¹⁾, 高橋史郎¹⁾, 江畑琢矢¹⁾, 山崎峰雄²⁾, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院神経・脳血管内科, ²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : MRI 拡散強調画像で硬膜下腔に高信号域を認めた細菌性髄膜炎の61歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第217回) (千代田区), 2016. 6.
- 2) 戸田諭補¹⁾, 小澤明子¹⁾, 太田智大^{1,2)}, 山崎峰雄¹⁾, 木村和美³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 神経・脳血管内科, ²⁾ 関川病院神経内科, ³⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 非痙攣性てんかん発作で発症し, 小脳症状と末梢神経障害を呈したメトロナゾール脳症の60歳女性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第218回) (千代田区), 2016. 9.
- 3) 山田剛久¹⁾, 肥後清一郎¹⁾, 柏木哲也³⁾, 小澤明子²⁾, 戸田諭補²⁾, 山崎峰雄²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 神経・脳血管内科, ³⁾ 清瀬博済堂クリニック) : 低Na血症に関してコンサルトを受けSIADHを併発した視神経脊髄炎スペクトラム疾患と診断した1症例. 臨床体液研究会 (第48回) (港区), 2016. 10.
- 4) 小澤明子¹⁾, 戸田諭補¹⁾, 太田智大^{1,5)}, 高橋史郎¹⁾, 江畑琢矢¹⁾, 高橋幸利⁴⁾, 峯清一郎³⁾, 山崎峰雄¹⁾, 木村和美²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 神経・脳血管内科, ²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, ³⁾ 千葉循環器病センター 脳神経外科, ⁴⁾ 静岡てんかん・神経医療センター小児科, ⁵⁾ 関川病院神経内科) : 抗NMDA受容体脳炎後遺症としての症候性てんかん: 自験例6例での検討. 日本神経治療学会総会 (第34回) (米子), 2016. 11.
- 5) 江畑琢矢¹⁾, 戸田諭補¹⁾, 小澤明子¹⁾, 高橋史郎¹⁾, 山崎峰雄¹⁾, 木村和美²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 神経・脳血管内科, ²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : 中大脳動脈および内頸動脈狭窄を認め, 脳梗塞を発症したTurner症候群の28歳女性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (千代田区), 2016. 12.
- 6) 野上 茜¹⁾, 永山 寛¹⁾, 呉 壮香²⁾, 山崎峰雄³⁾, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学, ²⁾ 日本医科大学付属病院 病理診断科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 神経脳血管内科) : MIBG心筋シンチグラフィ集積低下を認めた多系統萎縮症2割検例の神経病理学的検討. 日本神経学会学術大会 (第57回) (神戸), 2016. 5.
- 7) 野上 茜¹⁾, 山崎峰雄³⁾, 永山 寛¹⁾, 呉 壮香²⁾, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 病理診断科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 神経脳血管内科) : 19年の長期にわたる臨床的経過を示した多系統萎縮症の一部検例. 日本神経病理学会総会学術研究会 (第57回) (弘前), 2016. 6.
- 8) 野上 茜¹⁾, 永山 寛¹⁾, 呉 壮香²⁾, 山崎峰雄³⁾, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, ²⁾ 日本医科大学付属病院 病理診断科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 神経脳血管内科) : MIBG心筋シンチグラフィ集積低下を認めた多系統萎縮症2割検例の神経病理学的検討. 自律神経学会総会 (熊本), 2016. 11.
- 9) 酒巻雅典¹⁾, 澤田和貴¹⁾, 鈴木健太郎¹⁾, 金丸拓也¹⁾, 村賀香名子¹⁾, 須田 智¹⁾, 大久保誠二¹⁾, 内海甲一²⁾, 山崎峰雄⁴⁾, 福地孝明³⁾, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, ²⁾ うつみ内科クリニック, ³⁾ 府中恵仁会 脳卒中センター, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院 神経脳血管内科) : ファブリー病と脳血管障害. 日本神経学会学術大会 (第57回) (神戸), 2016. 5.
- 10) 外間裕之, 戸田諭補, 小澤明子, 江畑琢矢, 山崎峰雄, 木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野) : ステロイド治療で筋力低下を発症した純粋感覚障害型慢性進行性脱髄性多発神経炎の74歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第220回) (東京都千代田区), 2017. 3.

[脳病態画像解析学講座]

研究概要

2014年12月1日に開設された日本医科大学大学院医学研究科脳病態画像解析学講座は3年目に突入した。2016年の活動は脳病態画像解析学講座のサイトからPDFがダウンロードできる。本年度は、パーキンソン病における代謝型グルタミン酸受容体1型分布の研究についてベルリンで開催されたThe MDS 20th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disordersにおいて発表した。認知症ケアチームのシステム作り、DatSCAN解析法に関する近畿大学との共同研究などが始まった。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 三品雅洋：アデノシン A_{2A} 受容体のPET. Clin Neurosci 2016 ; 34 (11) : 1268-1269.
- 2) 三品雅洋：血管性認知症の診断はどうすべきか. 老年精神医学雑誌 2017 ; 27 (12) : 1289-1296.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Mishina M¹⁾ (1) Department of Neuro-pathophysiological imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Imaging and treatment targeting adenosine receptors in Parkinson's disease. 日本神経学会学術集会 (第 57 回) (神戸), 2016. 5.

(2) 一般講演：

- 1) 三品雅洋¹⁾, 大久保誠二²⁾, 仁藤智香子²⁾, 松本典子²⁾, 須田 智²⁾, 木村和美²⁾ (1) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座, 2) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野) : 当就労者における急性期脳卒中. 日本脳卒中学会総会 (第 41 回) (札幌), 2016. 4.
- 2) 奥畑好章¹⁾, 三品雅洋^{1, 2)}, 西山康裕^{1, 3)}, 水越元気^{1, 3)}, 藤沢洋輔^{1, 3)}, 阿部 新^{1, 3)}, 林 俊行^{1, 3)}, 木村和美³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 2) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座, 3) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野) : 被殻ラクナ梗塞で発症したたこつば様心筋障害の 88 歳女性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 217 回) (東京), 2016. 6.
- 3) 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 川西智也¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 野村俊明²⁾, 三品雅洋^{3, 4)}, 北村 伸^{1, 5)} (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学 医療心理学教室, 3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター) : 地域における継続的相談が認知症早期受診に果たす意義 - 初回来談者と継続来談者の受診推奨時の MMSE 得点の比較より -. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
- 4) 根本留美¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 川西智也¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 石渡明子⁶⁾, 三品雅洋^{3, 4)}, 野村俊明²⁾, 北村 伸^{1, 5)} (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学 医療心理学教室, 3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, 6) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野) : 若年層における認知症早期発見に関する一考察 : 若年性アルツハイマー病が疑われた地域のもの忘れ相談所事例から. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
- 5) 川西智也¹⁾, 櫻村正美²⁾, 原 祐子⁶⁾, 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 三品雅洋^{3, 4)}, 野村俊明²⁾, 北村 伸^{1, 5)} (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学 医療心理学教室, 3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, 6) 西熊谷病院) : 地域包括支援センターが関与した高齢者の迷惑行為の分類 : フォークスグループインタビューによる調査. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
- 6) Mishina M^{1, 2)}, Suzuki M^{2, 3)}, Ishii K²⁾, Sakata M²⁾, Wagatsuma K²⁾, Ishibashi K²⁾, Toyohara J²⁾, Zhang M⁴⁾, Kimura K⁵⁾, Ishiwata K^{6, 7)} (1) Department of Neuro-pathophysiological Imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3) Department of Neurology, Katsushika Medical Center, The Jikei University School of Medicine, 4) Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 5) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 6) Institute of Cyclotron and Drug Discovery Research, Southern TOHOKU Research Institute for Neuroscience, 7) Department of Biofunctional Imaging, Fukushima Medical University) : Density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 in de novo patients with Parkinson's disease using ¹¹C-ITMM PET. The MDS 20th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (20th) (Berlin), 2016. 6.
- 7) 平井歌織¹⁾, 林 俊行^{1, 3)}, 阿部 新^{1, 3)}, 水越元気^{1, 3)}, 酒巻雅典^{1, 3)}, 三品雅洋^{1, 2)}, 木村和美³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 2) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座, 3) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野) : 脳梁膨大・放線冠に可逆性の MRI 拡散強調画像高信号を示した低血糖脳症の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 8) 酒巻雅典^{1, 3)}, 鈴木静香³⁾, 阿部 新^{1, 3)}, 水越元気^{1, 3)}, 松本典子³⁾, 白田和弘³⁾, 三品雅洋^{1, 2)}, 木村和美³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 2) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座, 3) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野) : 原因として椎骨動脈解離が考えられた, 美容院頭痛症候群の 2 症例. 日本頭痛学会総会 (第 44 回) (京都), 2016. 10.
- 9) 川西智也¹⁾, 櫻村正美²⁾, 原 祐子⁶⁾, 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 山下真里¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 深津 亮⁶⁾, 三品雅洋^{3, 4)}, 野村俊明²⁾, 北村 伸^{1, 5)} (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学 医療心理学教室, 3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, 6) 西熊谷病院) : 地域包括支援センターが関与した, 地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (1) : 迷惑行為の類型. 日本認知症予防学会 (第 6 回) (仙台), 2016. 9.
- 10) 櫻村正美²⁾, 川西智也¹⁾, 原 祐子⁶⁾, 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 山下真里¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 深津 亮⁶⁾, 三品雅洋^{3, 4)}, 野村俊明²⁾, 北村 伸^{1, 5)} (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学 医療心理学教室, 3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター, 6) 西熊谷

病院)：地域包括支援センターが関与した，地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (2)：迷惑行為に関連する要因について．日本認知症予防学会 (第6回) (仙台)，2016. 9.

- 11) 原 祐子⁶⁾，櫻村正美²⁾，川西智也¹⁾，稲垣千草¹⁾，根本留美¹⁾，山下真里¹⁾，並木香奈子¹⁾，三品雅洋^{3, 4)}，野村俊明²⁾，北村 伸¹⁾，深津 亮⁶⁾ (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター，2) 日本医科大学 医療心理学教室，3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座，4) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科，5) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター，6) 西熊谷病院)：地域包括支援センターが関与した，地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (3)：当該高齢者への対応と支援上の課題．日本認知症予防学会 (第6回) (仙台)，2016. 9.
- 12) 並木香奈子¹⁾，小八重幹生²⁾，井上志津子¹⁾，長久美江子¹⁾，稲垣千草¹⁾，川西智也¹⁾，根本留美¹⁾，三品雅洋^{3, 4)}，北村 伸^{1, 5)} (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター，2) 株式会社富士通ゼネラル，3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座，4) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科，5) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター)：高齢者健康支援モバイルサービスを利用した認知症予防と早期発見の有効性．日本認知症予防学会 (第6回) (仙台)，2016. 9.
- 13) 稲垣千草¹⁾，根本留美¹⁾，川西智也¹⁾，山下真里¹⁾，並木香奈子¹⁾，井上志津子¹⁾，長久美江子¹⁾，三品雅洋^{3, 4)}，野村俊明²⁾，北村 伸^{1, 5)} (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター，2) 日本医科大学 医療心理学教室，3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座，4) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科，5) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター)：地域の認知症相談における軽度認知障害への対応．日本認知症予防学会 (第6回) (仙台)，2016. 9.
- 14) 根本留美¹⁾，川西智也¹⁾，稲垣千草¹⁾，山下真里¹⁾，並木香奈子¹⁾，三品雅洋^{3, 4)}，野村俊明²⁾，北村 伸^{1, 5)} (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター，2) 日本医科大学 医療心理学教室，3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座，4) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科，5) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター)：若年層におけるもの忘れ相談の現状：街ぐるみ認知症相談センター利用状況から．日本認知症予防学会 (第6回) (仙台)，2016. 9.
- 15) 川西智也¹⁾，根本留美¹⁾，稲垣千草¹⁾，並木香奈子¹⁾，三品雅洋^{3, 4)}，野村俊明²⁾，北村 伸^{1, 5)} (1) 日本医科大学 街ぐるみ認知症相談センター，2) 日本医科大学 医療心理学教室，3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座，4) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科，5) 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター)：認知症発症への不安を抱える高齢者に対するもの忘れ相談についての一考察：認知機能低下が軽微な事例から．日本認知症ケア学会 (第17回) (神戸)，2016. 6.
- 16) 三品雅洋^{1, 2)}，鈴木正彦^{2, 3)}，石井賢二²⁾，坂田宗之²⁾，我妻 慧²⁾，石橋賢士²⁾，豊原 潤²⁾，張 明榮⁴⁾，木村和美⁵⁾，石渡喜一^{6, 7)} (1) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座，2) 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 神経画像研究チーム，3) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 神経内科，4) 放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター 分子認識研究プログラム，5) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野，6) 一般財団法人脳神経疾患研究所 南東北創薬・サイクロトロン研究所，7) 福島県立医科大学 生体機能イメージング講座)：[C-11] ITMM PET を用いた未治療パーキンソン病における代謝型グルタミン酸受容体1型密度の検討：第1報．日本核医学会学術総会 (第56回) (名古屋)，2016. 11.
- 17) 須田 智¹⁾，下山 隆¹⁾，鈴木静香¹⁾，高山洋平¹⁾，荒川将史¹⁾，青木淳哉¹⁾，鈴木健太郎¹⁾，大久保誠二¹⁾，三品雅洋²⁾，木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野，2) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座)：脳卒中患者における脳表へモジゲリン沈着の検出率と特徴．日本脳卒中学会学術集会 (第42回) (大阪)，2017. 3.
- 18) 青木淳哉¹⁾，鈴木健太郎¹⁾，須田 智¹⁾，大久保誠二¹⁾，三品雅洋²⁾，木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野，2) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座)：急性期再灌流療法例において，早期来院が転帰に強く関連するのは主幹動脈閉塞例である．日本脳卒中学会学術集会 (第42回) (大阪)，2017. 3.
- 19) 仲座方辰¹⁾，須田 智¹⁾，下山 隆¹⁾，高山洋平¹⁾，青木将淳哉¹⁾，鈴木健太郎¹⁾，大久保誠二¹⁾，三品雅洋²⁾，木村和美¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野，2) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座)：遊離トリヨードサイロニン低値は脳出血患者の転帰不良と関連する．日本脳卒中学会学術集会 (第42回) (大阪)，2017. 3.

論文

[追加分]

追加分症例報告：

- 1) Nagayama H¹⁾，Kajimoto Y¹⁾，Kumagai T¹⁾，Nishiyama Y¹⁾，Mishina M²⁾，Kimura K¹⁾ (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Neuro-pathophysiological imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：Pharmacokinetics of Levodopa before and after Gastrointestinal Resection in Parkinson's Disease. Case Rep Neurol 2015 ; 7 (3) : 181-185.
- 2) Sakamoto Y¹⁾，Ouchi T¹⁾，Okubo S¹⁾，Abe A¹⁾，Aoki J¹⁾，Nogami A¹⁾，Sato T¹⁾，Hokama H¹⁾，Ogawa Y¹⁾，Suzuki S¹⁾，Mishina M²⁾，Kimura K¹⁾ (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Neuro-pathophysiological Imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：Thrombolysis, Complete Recanalization, Diffusion Reversal, and Luxury Perfusion in Hyperacute Stroke. J Stroke Cerebrovasc Dis 2016 ; 25 (1) : 238-239.

- 3) Muraga K¹⁾, Suda S¹⁾, Nagayama H¹⁾, Okubo S¹⁾, Abe A¹⁾, Aoki J¹⁾, Nogami A¹⁾, Suzuki K¹⁾, Sakamoto Y¹⁾, Ueda M¹⁾, Mishina M²⁾, Kimura K¹⁾ (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Neuro-pathophysiological imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Limb-shaking TIA : cortical myoclonus associated with ICA stenosis. *Neurology* 2016 ; 86 (3) : 307-309.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) Mishina M^{1,2)}, Ishii K²⁾, Ishiwata K²⁾, Sakata M²⁾, Toyohara J²⁾, Oda K^{2,3)}, Kimura K⁴⁾ (1) Department of Neuro-pathophysiological imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3) Department of Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University of Science, 4) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Regional accumulation of [C-11] PiB and [F-18] FDG in subtype of Lewy body disease. *日本神経学会総会 (第56回) (新潟)*, 2015. 5.
- 2) Mishina M^{1,2)}, Ishii K²⁾, Ishiwata K²⁾, Sakata M²⁾, Toyohara J²⁾, Oda K^{2,3)}, Kimura K⁴⁾ (1) Department of Neuro-pathophysiological imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3) Department of Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University of Science, 4) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : REGIONAL ACCUMULATION OF [C-11] PIB AND [F-18] FDG IN SUBTYPE OF LEWY BODY DISEASE. *European Society of Neuroradiology (38th) (Naples)*, 2015. 9.
- 3) Mishina M^{1,2)}, Suzuki M^{2,3)}, Ishii K²⁾, Kimura Y^{2,4)}, Ishibashi K²⁾, Sakata M²⁾, Oda K^{2,5)}, Toyohara J²⁾, Kobayashi S⁶⁾, Nagayama H⁷⁾, Kitamura S⁸⁾, Kimura K⁷⁾, Ishiwata K²⁾ (1) Department of Neuro-pathophysiological imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3) Department of Neurology, Katsushika Medical Center, The Jikei University School of Medicine, 4) Department of Computational Systems Biology, Faculty of Biology-Oriented Science & Technology, Kinki University, 5) Department of Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University of Science, 6) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 7) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 8) Department of Neurology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Striatal density of adenosine A₁ receptors in early Parkinson's disease measured with ¹¹C-MPDX PET. *Society for Neuroscience annual meeting (45th) (Chicago)*, 2015. 10.
- 4) 後藤由也^{1,2)}, 西山康裕^{1,2)}, 水越元気^{1,2)}, 藤澤洋輔^{1,2)}, 熊谷智昭²⁾, 石渡明子^{1,2)}, 三品雅洋^{1,3)}, 木村和美²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 2) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野, 3) 日本医科大学大学院 医学研究科 脳病態画像解析学講座) : 皮膚筋炎に対して免疫抑制剤2剤併用が奏功した31歳男性例. *日本神経学会関東・甲信越地方会 (第215回) (東京)*, 2015. 12.

追加分招待講演 :

- 1) Mishina M¹⁾ (1) Department of Neuro-pathophysiological imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Brain Imaging of Adenosine Receptors. *KEYSTONE SYMPOSIA on Molecular and Cellular Biology-Purinergic Signaling (Vancouver)*, 2016. 1.

追加分特別講演 :

- 1) 三品雅洋 : PET でみる大脳基底核. *日本医科大学医学会総会 (第83回) (東京)*, 2015. 9.

4. 腎臓内科学分野

[付属病院腎臓内科]

研究概要

付属病院腎臓内科は臨床および基礎面ともに精力的な研究と発表を行った（英文原著7編，和文原著1編）。臨床研究としては，慢性腎臓病患者に対する治療薬の薬効評価，維持透析患者における合併症の新しい評価法開発などを中心に国内外での関連学会への発表と論文発表を行った。基礎研究としては主に病理学教室との共同により各種腎疾患モデルにおける障害機序解明に関わる研究を行った。また生化学教室および自治医科大学，京都大学，独協医科大学との共同研究により，急性腎障害における新規バイオマーカーに関する研究および腎不全における血管石灰化機序解明に関する研究，腎尿酸排泄機構に関する研究なども行い，それぞれ論文作成と発表を行った。一方，症例報告も積極的に多数の国内外における関連学会に発表し，そのうち4例が論文としても受理された（英文2編，和文2編）。研究助成としては厚生労働省科学研究費（分担）1件を継続した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Otsuka Y^{1,2)}, Ohno Y^{1,4)}, Morita A³⁾, Otani N³⁾, Promsuk J³⁾, Ouchi M³⁾, Tsuruoka S²⁾, Anzai N^{1,3)} (1) Department of Pharmacology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan, 2) Department of Nephrology, Graduate of Medicine, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, 3) Department of Pharmacology and Toxicology, Dokkyo Medical University School of Medicine, Tochigi, Japan, 4) Department of Pharmacy Gifu University, Hospital, Gifu, Japan) : Molecular mechanism of urate-lowering effects of anserine nitrate. 痛風と核酸代謝 2016 ; 40 (2) : 137-143.
- 2) 榎本純子¹⁾, 野路佳子¹⁾, 作間俊介¹⁾, 渡部百合子¹⁾, 井上 淳¹⁾, 金子朋広²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 中央検査室, 2) 日本医科大学多摩永山病院 腎臓内科) : 全自動尿分析装置 US-3500 の基礎的検討. 医療と検査機器・試薬 2016 ; 39 (5) : 521-529.
- 3) Yanagihara H¹⁾, Ushijima K¹⁾, Arakawa Y²⁾, Aizawa K¹⁾, Fujimura A¹⁾ (1) Division of Clinical Pharmacology, Department of Pharmacology, Jichi Medical University, 2) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical University) : Effects of telmisartan and olmesartan on insulin sensitivity and renal function in spontaneously hypertensive rats fed a high fat diet. Journal of Pharmacological Sciences 2016 ; 131 (3) : 190-197.
- 4) Sato Y¹⁾, Mii A¹⁾, Yoko H²⁾, Harumi F²⁾, Hirosuke N¹⁾, Kyoko M³⁾, Shingo N¹⁾, Shinsuke S⁴⁾, Hironori H⁴⁾, Osamu O⁵⁾, Akira S⁶⁾, Shuh N⁷⁾, Tsuneyasu K⁸⁾, Makoto A⁹⁾, Masashi Y¹⁰⁾, et al. (1) Department of Nephrology, Kyoto University, 2) Department of Immunology and Cell Biology, Kyoto University, 3) Department of Immunology, Institute for Frontier Medical Science, Kyoto University, 4) Department of Diagnostic Pathology, 5) Department of Urology, 6) Department of Experimental Therapeutics, Institute for Advancement of Clinical and Translational Science, Kyoto University, 7) Medical Innovation Center, Graduate School of Medicine, 8) Department of Immunology, Institute of Advanced Medicine, Wakayama Medical University, 9) Laboratory for Metabolomics, RIKEN Center for Integrative Medical Sciences, 10) and others) : Heterogeneous fibroblasts underlie age-dependent tertiary lymphoid tissues in the kidney. JCI insight 2016 ; 1 (11) : e87680.
- 5) Yamazaki T¹⁾, Kawahara N¹⁾, Arai K¹⁾, Oyoshi K¹⁾, Oshima M¹⁾, Koike S¹⁾, Miyauchi A¹⁾, Hayasaka T¹⁾, Saito T¹⁾, Tsuruoka S²⁾ (1) Moka Hospital, 2) Nippon Medical School) : Utility of Ultrasonography of the Median Nerve With a High-Frequency Probe for the Diagnosis of Dialysis-Related Carpal Tunnel Syndrome. Ther Apher Dial 2016 ; 20 (5) : 483-491.
- 6) Yodogawa K, Mii A, Fukui M, Iwasaki Y, Kaneko T, Miyauchi Y, Tsuruoka S, Shimizu W : Warfarin use and incidence of stroke in Japanese hemodialysis patients with atrial fibrillation. Heart Vessels 2016 ; 31 (10) : 1670-1680.

(2) 総説：

- 1) 酒井行直¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科) : 薬剤性腎障害：定義，分類，診断. 日本腎臓学会誌 2016 ; 58 (7) : 1051-1054.
- 2) 吉田幸恵, 酒井行直, 鶴岡秀一 : 高尿酸血症, 低尿酸血症. 腎と透析 ; 診療指針 2016 2016 ; 80 (増刊) : 84-88.
- 3) 板垣史朗, 鶴岡秀一 : CKD の診断の意義と初期段階の対処法. 内科 2016 ; 118 (1) : 13-18.
- 4) 三井亜希子¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科) : 腎機能低下時に気をつけるべき薬物動態 トランスポーターをふまえて. 腎臓内科・泌尿器科 2016 ; 4 (5) : 514-520.
- 5) Usui J, Yamagata K, Imai E, Okuyama H, Kajiyama H, Kanamori H, Kaneko S, Kono Y, Sakai Y, Sakai N, Sakamaki Y, Taniguchi Y, Nakai K, Nishiwaki H, Hirata S, et al. : Clinical practice guideline for drug-induced kidney injury in Japan 2016 : digest version. Clin Exp Nephrol. 2016 ; 20 (6) : 827-831.

著 書

- 1) 麦島康司¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科): [共著] 慢性腎臓病. ガイドライン外来診療 2017 (泉孝英), 2017; pp434-438, 日経メディカル開発.
- 2) 金子朋広¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 腎臓内科): [共著] II バスキュラーアクセス 7. AVF と穿刺技術 3) 肘部. 実践 インターベンショナルネフロロジー (監修代表: 池田雅人 編集: インターベンショナルネフロロジー研究会), 2016; pp75-80, 東京医学社.
- 3) 金子朋広¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 腎臓内科): [分担] 第 2 章 症候 4. 酸塩基平衡障害. 腎と透析 診療指針 2016 (「腎と透析」編集委員会), 2016; pp53-56, 東京医学社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 鶴岡秀一, 酒井行直: 薬剤性腎障害ガイドライン: 薬物動態. 日本腎臓学会学術総会 (第 59 回) (横浜), 2016. 6.
- 2) 鶴岡秀一: 薬剤性腎障害について - ガイドラインの目指すもの -. 日本臨床薬理学会学術集会 (第 37 回) (米子), 2016. 12.

(2) シンポジウム:

- 1) 酒井行直¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科腎臓内科学分野): 血球成分除去療法と生物製剤・カルシニューリン阻害薬との融合. 日本アフレスシ学会学術大会 (第 37 回) (横浜), 2016. 11.
- 2) 山本伸也¹⁾, 中村 仁¹⁾, 三井亜希子^{1, 2)}, 今村博巳³⁾, 山本正道^{1, 4)}, 柳田素子¹⁾ (1) 京都大学腎臓内科, 2) 日本医科大学腎臓内科, 3) 京大学生命科学研究科, 4) 科学技術振興機構さきがけ): 腎臓におけるエネルギー代謝の in vivo imaging. 日本腎臓学会学術総会 (第 59 回) (横浜), 2016. 6.

(3) 一般講演:

- 1) 池田まり子¹⁾, 岩堀 徹²⁾, 金子朋広³⁾, 新井桃子³⁾, 永坂真也⁴⁾, 酒井行直¹⁾, 清水 章⁴⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学病院腎臓内科, 2) スラージュ内科クリニック, 3) 日本医科大学多摩永山病院腎臓内科, 4) 日本医科大学解析人体病理学教室): 多重染色フローサイトメトリー法を用いた糸球体腎炎の腎生検時における末梢血免疫細胞解析. 日本内科学会総会 (第 113 回) (東京), 2016. 4.
- 2) 池田まり子¹⁾, 森田めぐみ¹⁾, 渡辺容子¹⁾, 平間章郎¹⁾, 藤田恵美子²⁾, 金子朋広²⁾, 酒井行直¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学病院腎臓内科, 2) 日本医科大学多摩永山病院腎臓内科): 多発性嚢胞腎 (PKD) 患者における tolvaptan (T) 中止の短期的影響 (続報). 日本腎臓学会学術総会 (第 59 回) (横浜), 2016. 6.
- 3) 荒川裕輔, 鶴岡秀一¹⁾, 藤村昭夫 (1) 自治医科大学 臨床薬理学): ラット腎虚血再灌流障害における NGAL の有用性. 日本腎臓学会学術総会 (第 59 回) (横浜), 2016. 6.
- 4) 楊 朋洋¹⁾, 荒谷紗絵¹⁾, 板垣史朗²⁾, 平間章郎¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 腎臓内科): 回腸導管造設術後の CKD 患者で下痢による AKI から著明な代謝性アシドーシスを呈し透析導入となった 1 例. 第 624 回 関東内科地方会 (東京都), 2016. 5.
- 5) 浅井梨沙¹⁾, 荒谷紗絵¹⁾, 根井貴仁²⁾, 白川 真³⁾, 宮城泰雄³⁾, 酒井行直¹⁾, 大楠清文⁴⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院 感染制御部, 3) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, 4) 東京医科大学 微生物学教室): グラフトシャント造設後に菌血症となり血液培養から *Helicobacter cinaedi* を検出した 1 例. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 61 回) (大阪), 2016. 6.
- 6) 湯澤 令¹⁾, 荒谷紗絵¹⁾, 宮本大資¹⁾, 森田めぐみ¹⁾, 渡辺容子¹⁾, 酒井行直¹⁾, 清水 章²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院 解析人体病理学): Guillain-Barré 症候群を合併した FSGS の 1 例. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 61 回) (大阪), 2016. 6.
- 7) 油川 翔¹⁾, 荒谷紗絵¹⁾, 了徳寺剛²⁾, 浅井梨沙¹⁾, 麦島康司¹⁾, 丸毛淳史²⁾, 酒井行直¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院 血液内科): 急性骨髄性白血病患者で腫瘍浸潤による急性腎不全をきたし, 化学療法により腎機能が著明に改善した 2 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 46 回) (東京), 2016. 10.
- 8) Sae A¹⁾, Mii A¹⁾, Yuzawa R¹⁾, Miyamoto D¹⁾, Sowa K²⁾, Morita M¹⁾, Kumagai T²⁾, Sakai Y¹⁾, Shimizu A³⁾, Tsuruoka S¹⁾ (1) Division of Nephrology, Nippon Medical School, Japan, 2) Division of Neurological science, Nippon Medical School, Japan, 3) Division of Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, Japan): COMPLETE REMISSION IN A PATIENT OF FOCAL SEGMENTAL GLOMERULOSCLEROSIS ASSOCIATED WITH GUILLAIN-BARRE SYNDROME. 15th Asian Pacific Congress of Nephrology (パース (オーストラリア)), 2016. 9.
- 9) 谷 崇¹⁾, 清水 章³⁾, 折茂英生²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 腎臓内科学, 2) 日本医科大学大学院 代謝・栄養学, 3) 日本医科大学大学院 形態解析人体病理学): CKD 合併の血管中膜石灰化には高リン血症が必須である: アデニン負荷腎不全モデルマウスを用いた解析. 日本透析医学会学術集会・総会 (第 61 回) (大阪), 2016. 6.
- 10) 荒谷紗絵¹⁾, 楊 朋洋¹⁾, 平間章郎¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科): 回腸導管造設

術後の患者で著明な下痢を契機に発症したアニオンギャップ開大性代謝性アシドーシスの1例：Stewart法と古典的方法の日常診療での相補的な活用法. 第48回 臨床体液研究会(東京), 2016. 10.

- 11) 谷 崇¹⁾, 藤原めぐみ²⁾, 片山 映²⁾, 岡本 研²⁾, 清水 章³⁾, 折茂英生²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 2) 日本医科大学大学院 代謝・栄養学, 3) 日本医科大学大学院 形態解析人体病理学)：キサンチンオキシダーゼ阻害薬による腎保護効果の機構解明. 日本腎臓学会学術総会(第59回)(パシフィコ横浜, 東京), 2016. 6.
- 12) 谷 崇¹⁾, 岡本 研²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 2) 日本医科大学大学院 生化学・分子生物学(代謝・栄養)：虚血再灌流臓器におけるXOR阻害薬による代謝変動解析. 日本痛風・核酸代謝学会総会(第50回)(京王プラザホテル, 東京), 2017. 2.
- 13) 寺田光佑¹⁾, 楊 朋洋¹⁾, 麦島康司¹⁾, 住祐一郎¹⁾, 平間章郎¹⁾, 酒井行直¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科)：肝硬変に伴う難治性腹水を合併する患者に、腹膜透析を導入し社会復帰を果たした1例. 日本腹膜透析医学会学術集会・総会(第22回)(札幌；札幌プリンスホテル 国際館パミール), 2016. 9.
- 14) 住祐一郎¹⁾, 寺田光佑²⁾, 酒井行直²⁾, 鶴岡秀一²⁾, 大塚智之¹⁾, 由井静香¹⁾, 片山安奈¹⁾, 平間章郎²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院, 2) 日本医科大学付属病院 腎臓内科)：MPALに対する骨髄移植後の慢性GVHDによる肝機能障害および腹水コントロールのために腹膜透析を導入した1例. 日本透析医学会学術集会・総会(第61回)(大阪), 2016. 6.
- 15) 住祐一郎¹⁾, 大塚智之¹⁾, 酒井行直²⁾, 由井静香¹⁾, 片山安奈¹⁾, 麦島康司²⁾, 浅井理沙¹⁾, 久能木俊之助¹⁾, 森 剛¹⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腎臓内科, 2) 日本医科大学大学院医学研究科腎臓内科学分野)：腹膜透析患者に対するクエン酸第二鉄の有効性. 日本腹膜透析医学会学術集会・総会(第22回)(札幌；札幌プリンスホテル 国際館パミール), 2016. 9.
- 16) 片山安奈, 菱田まさみ, 由井静香, 大塚裕介, 住祐一郎, 麦島康司, 大塚智之, 酒井行直, 鶴岡秀一：診断に苦慮した血栓性微小血管炎による難治性ネフローゼ症候群の1例. 日本透析医学会学術集会・総会(第61回)(大阪), 2016. 6.
- 17) 大塚裕介^{1,2)}, 大野雄太^{2,4)}, 森田亜州華³⁾, 大谷直由³⁾, Promsuk J³⁾, 大内基司³⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 安西尚彦²⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科, 2) 千葉大学医学部薬理学講座, 3) 獨協医科大学医学部薬理学講座, 4) 岐阜大学病院薬剤部)：アンセリンのキサンチンオキシダーゼ阻害を介した尿酸降下作用の可能性. 日本腎臓学会学術総会(第59回)(パシフィコ横浜), 2016. 6.
- 18) Otsuka Y^{1,2)}, Ohno Y^{1,4)}, Morita A³⁾, Otani N³⁾, Promusk J³⁾, Ouchi M³⁾, Tsuruoka S²⁾, Anzai N^{1,3)} (1) Department of Pharmacology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan, 2) Department of Nephrology, Graduate of Medicine, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, 3) Department of Pharmacology and Toxicology, Dokkyo Medical University School of Medicine, Tochigi, Japan, 4) Department of Pharmacy Gifu University, Hospital, Gifu, Japan)：Molecular Mechanism of the urate-lowering effects of anserine. 15th Asian Pacific Congress of Nephrology (Perth Convention and Exhibition Centre), 2016. 9.
- 19) 新井桃子¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 三井亜希子²⁾, 酒井行直²⁾, 清水 章³⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 腎臓内科, 2) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 3) 日本医科大学解析人体病理学)：妊娠中にネフローゼ症候群を合併し、Focal Segmental Glomerulosclerosisと診断された1例. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回)(東京), 2016. 10.
- 20) 藤田恵美子¹⁾, 新井桃子¹⁾, 金子朋広¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 腎臓内科)：シャント閉鎖術とASV導入により心不全症状の改善を認めた1例. 日本透析医学会学術集会・総会(第61回)(大阪), 2016. 6.
- 21) 三井亜希子^{1,2)}, 山本伸也¹⁾, 中村 仁¹⁾, 山本恵則¹⁾, 今村博巳³⁾, 山本正道^{1,4)}, 柳田素子¹⁾ (1) 京都大学腎臓内科, 2) 日本医科大学腎臓内科, 3) 京都大学生命科学研究科, 4) 科学技術振興機構さきがけ)：胎生期腎臓のATPイメージング. 日本腎臓学会学術総会(第59回)(横浜), 2016. 6.
- 22) 山本伸也¹⁾, 中村 仁¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 今村博巳³⁾, 山本正道⁴⁾, 柳田素子¹⁾ (1) 京都大学腎臓内科, 2) 日本医科大学腎臓内科, 3) 京都大学生命科学研究科, 4) 科学技術振興機構さきがけ)：尿管上皮細胞内ATPのin vivo imaging. 日本腎臓学会学術総会(第59回)(横浜), 2016. 6.
- 23) 船越俊貴¹⁾, 平野良隆¹⁾, 荒川裕輔¹⁾, 平間章郎¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 酒井行直¹⁾, 清水 章²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科, 2) 日本医科大学解析人体病理学)：腎生検にてコレステロール塞栓が発見されたANCA関連血管炎の1例. 日本腎臓学会東部学術大会(第46回)(東京), 2016. 10.
- 24) 神谷真理子¹⁾, 山本良也¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 中込明裕¹⁾, 井川 修¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新井桃子²⁾, 藤田恵美子²⁾, 金子朋広²⁾, 松本雅則³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 内科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 腎臓内科, 3) 奈良県立医科大学輸血部)：急性冠症候群の症状で発症した難治性TTPの1例. 日本内科学会関東地方会(第628回)(東京), 2016. 11.
- 25) 成美雄人¹⁾, 北川貴祥¹⁾, 樋口政人¹⁾, 高地由紀子¹⁾, 仲田将義¹⁾, 樋上信幸¹⁾, 楠 正昭¹⁾, 片山安奈²⁾, 斉藤京子¹⁾, 鎌野千佐子¹⁾, 大沢弘和¹⁾, 柏木哲也¹⁾, 橋本和政²⁾, 鶴岡秀一²⁾ (1) 博慈会腎クリニック, 2) 日本医大)：レボカルニチン静注製剤投与1年後の経過について. 日本透析医学会学術集会・総会(第61回)(大阪), 2016. 6.
- 26) 大島昌恵¹⁾, 萩原 啓¹⁾, 河原直美¹⁾, 荒井和紀¹⁾, 大吉孝治¹⁾, 清水久孝¹⁾, 小池幸子¹⁾, 宮内明子¹⁾, 山崎 忠¹⁾, 早坂常江¹⁾, 鶴岡秀一²⁾, 斉藤鉄男¹⁾ (1) 真岡病院, 2) 日本医大)：維持透析患者におけるNT-proBNPと心エコーの関連性. 日本透析医学会学術集会・総会(第61回)(大阪), 2016. 6.
- 27) 大吉孝治¹⁾, 河原直美¹⁾, 荒井和紀¹⁾, 小池幸子¹⁾, 宮内明子¹⁾, 山崎 忠¹⁾, 早坂常江¹⁾, 鶴岡秀一²⁾, 斉藤鉄男¹⁾ (1) 真岡病院, 2) 日

本医大)：手根管解放術前後で正中神経エコー所見を経時的に評価し得た手根管症候群の2透析例。日本透析医学会学術集会・総会(第61回)(大阪), 2016. 6.

28) 山田剛久, 山田祥子, 池ノ内綾子, 肥後清一郎, 柏木哲也：血漿交換が奏功した視神経脊髄炎の1症例。日本透析医学会学術集会(第61回)(大阪), 2016. 6.

29) 山田剛久, 肥後清一郎, 柏木哲也, 小澤明子, 戸田諭補, 太田智大, 山崎峰雄：低Na血症に関してコンサルトを受けSLADHを併発した視神経脊髄炎スペクトラム疾患と診断した1症例。臨床体液研究会(第48回)(東京), 2016. 10.

論文

〔追加分〕

追加分総説：

1) 酒井行直¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科)：全身性疾患としての慢性腎臓病。日本医科大学医学会雑誌 2016; 12 (1) : 7-14.

追加分原著：

1) Kusano T, Takano H, Kang D, Nagahama K, Aoki M, Morita M, Kaneko T, Tsuruoka S, Shimizu A : Endothelial cell injury in acute and chronic glomerular lesions in patients with IgA nephropathy. Hum Pathol. 2016 ; 49 : 135-44.

追加分症例報告：

1) Hasegawa M¹⁾, Taki-K F¹⁾, Shimizu K²⁾, Aratani S¹⁾, Fujimaru T¹⁾, Aoki K³⁾, Komatsu Y¹⁾ (1) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, St. Luke's International Hospital, Tokyo, Japan, 2) Department of Internal Medicine, St. Luke's International Hospital, Tokyo, Japan, 3) Department of Critical Care Medicine, St. Luke's International Hospital, Tokyo, Japan) : A Case of Continuous Venovenous Hemofiltration for Anuric Acute Kidney Injury With Severe Hyponatremia : A Simple Method Involving Flexible Adjustment of Sodium Replacement Solution. KI Reports 2016 ; 1 (2) : 85-88.

著書

追加分：

1) 柴垣有吾¹⁾, 緒方浩顕²⁾, 宇田 晋³⁾, 大塚智之⁴⁾, 市川大介¹⁾ (1) 聖マリアンナ医科大学, 2) 昭和大学横浜市北部病院, 3) 川崎幸病院, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科) : [共著] 常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) の最新治療の現状 神奈川県川崎地区を中心に。医薬ジャーナル, 2016 ; pp124-131, 医薬ジャーナル.

学会発表

追加分一般講演：

1) 谷 崇¹⁾, 清水 章³⁾, 折茂英生²⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科, 2) 日本医科大学大学院 代謝・栄養学, 3) 日本医科大学大学院 形態解析人体病理) : アデニン負荷腎不全モデルマウスにおいて, 高リン血症の存在は著しくCKD-MBDを進行させる。日本腎性骨症研究会 2016 (経団連会館, 東京), 2016. 2.

2) 大塚裕介^{1, 2)}, 大野雄太^{2, 4)}, 森田亜州華²⁾, 大谷直由²⁾, Promsuk J²⁾, 大内基司²⁾, 鶴岡秀一¹⁾, 安西尚彦^{2, 3)} (1) 日本医科大学腎臓内科, 2) 獨協大学医学部薬理学, 3) 千葉大学医学部薬理学, 4) 岐阜大学病院薬剤部) : アンセリンによる尿酸降下作用の分子機序解明。日本痛風・核酸代謝学会総会 (第49回) (千里ライフサイエンスセンター), 2016. 2.

〔千葉北総病院腎臓内科〕

研究概要

腎臓内科は持続性蛋白尿, 血尿に対し腎生検を施行し積極的に診断, 治療を行い外来での長期観察を行っている。腎生検症例は日本腎臓学会東部地方会に報告し治療方針や予後に関して外部の専門医の意見を賜り以後の診療に役立っている。慢性腎不全の保存期は外来にて経過観察し出来るだけ計画的な血液浄化への導入に努めている。慢性腎不全の重篤な合併症に対しては各科の協力を得てICUやSCUにて積極的な治療を施している。血液透析以外の血液浄化療法(血漿交換やLDL吸着など)も各科よりの依頼があれば積極的に対応している。教育的な示唆に富む透析症例は日本透析医学会学術集会に発表し外部の透析医の評価を受けるようにしている。

研究業績

論文

(1) 総説：

1) 板垣史朗, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学腎臓内科) : CKDの診断の意義と初期段階の対処法。内科 2016 ; 118 (1) : 13-18.

2) 吉田幸恵, 酒井行直¹⁾, 鶴岡秀一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院腎臓内科) : 高尿酸血症 低尿酸血症。腎と透析; 診療指針 2016 2016 ;

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 山田剛久, 山田祥子, 池ノ内綾子, 肥後清一郎, 柏木哲也¹⁾, 小澤明子²⁾, 戸田諭補²⁾, 太田智大²⁾, 山崎峰雄²⁾ (1) 付属病院腎臓内科, 2) 千葉北総病院 神経脳血管内科) : 血漿交換が奏功した視神経脊髄炎の1症例. 日本透析医学会学術集会 (第61回) (大阪市), 2016. 6.
- 2) 山田剛久, 肥後清一郎, 柏木哲也, 小澤明子¹⁾, 戸田諭補¹⁾, 山崎峰雄¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 神経・脳血管内科) : 低Na血症に関してコンサルトを受けSLADHを併発した視神経脊髄炎スペクトラム疾患と診断した1症例. 臨床体液研究会 (第48回) (港区), 2016. 10.

5. アレルギー膠原病内科学分野

[付属病院リウマチ・膠原病内科]

研究概要

教室立ち上げから2年を経過し、研究スタッフの充実(教員6名, 専修医3名, 研究員1名), 新規患者数の増加(平成28年12月現在約850名), 丸山記念研究棟3階の実験室スペースの稼働により研究実施体制が整ったことから, 公的資金を積極的に獲得し, 以下に挙げる研究を立ち上げた。また, 小野薬品, アステラス製薬との共同研究も新たに展開した。1) 厚生労働科学研究費 ①「疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域横断的な難治性肺高血圧症症例登録研究」②「強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成事業」③「バーチェット病に関する調査研究」④「血液凝固異常症等に関する研究」ITPの臨床診断薬の開発。2) 日本医療研究開発機構研究費 ①「強皮症の病態解明および革新的医薬品開発の研究」②「重症肺高血圧症に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究」。3) 科学研究費助成事業 ①基盤研究(C)「末梢血単球を標的とした強皮症に対する新規治療法の開発」②基盤研究(C)「バーチェット病におけるM2マクロファージ機能不全とその修復による治療戦略」③基盤研究(C)「ユビキチン化修飾系を治療標的とする膠原病の新規治療法の可能性について」④基盤研究(C)「強皮症難治性臓器病変克服に向けた発症前治療標的の同定」。4) 共同研究 ①アステラス「多発性筋炎/皮膚炎症合併間質肺炎の予後予測因子の検討」②アステラス「特発性血小板減少性紫斑病患者組織を用いた創薬標的分子の機能解析」③小野薬品「アバタセプトに関するCTLA4-CD80/CD86シグナルがヒト単球・マクロファージに及ぼす機能変化の追究研究」研究成果は日本内科学会, 日本リウマチ学会, 日本肺高血圧・肺循環学会など(国内), 欧州リウマチ学会, 米国リウマチ学会, アジアパシフィックリウマチ学会など(国外)で発表し, 英文査読論文も34件掲載された。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kawasumi H, Gono T¹⁾, Kawaguchi Y²⁾, Kuwana M³⁾, Kaneko H⁴⁾, Katsumata Y, Kataoka S, Hanaoka M, Yamanaka H¹⁾ (自治医科大学, ²⁾ 東京女子医科大学, ³⁾ 日本医科大学, ⁴⁾ 慶應義塾大学): Clinical manifestations and myositis-specific autoantibodies associated with physical dysfunction after treatment in patients with polymyositis and dermatomyositis: An observational study of physical dysfunction with myositis in Japan. *BioMed Res Int* 2016; Epub.
- 2) Ma X, Chen Z, Hu W, Guo Z, Wang Y, Kuwana M¹⁾, Sun L¹⁾ (日本医科大学アレルギー膠原病内科): Clinical and serological features of patients with dermatomyositis complicated by spontaneous pneumomediastinum. *Clin Rheumatol* 2016; 35 (2): 489-493.
- 3) Hanaoka H, Ota Y, Takeuchi T¹⁾, Kuwana M²⁾ (¹⁾ 慶應義塾大学リウマチ内科, ²⁾ 日本医科大学アレルギー膠原病内科): Poor renal outcomes in patients with anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated crescentic glomerulonephritis and normal renal function at diagnosis. *Clin Rheumatol* 2016; 35 (2): 495-500.
- 4) Sato S, Murakami A, Kuwajima A, Takehara K¹⁾, Mimori T²⁾, Kawakami A, Mishima M, Suda T, Seishima M, Fujimoto M, Kuwana M¹⁾ (金沢大学, ²⁾ 京都大学): Clinical utility of an enzyme-linked immunosorbent assay for detecting anti-melanoma differentiation-associated gene 5 autoantibodies. *PLoS One* 2016; 11 (4): e0154285.
- 5) Moghadam KS, Oddis C, Kuwana M¹⁾, Aggarwal R¹⁾ (日本医科大学アレルギー膠原病内科): Anti-MDA5 is associated with rapidly progressive lung disease and poor survival in U.S. patients with amyopathic and myopathic dermatomyositis. *Arthritis Care Res* 2016; 68 (5): 689-694.
- 6) Akiyama M¹⁾, Ueno T¹⁾, Kanzaki A¹⁾, Kuwana M¹⁾, Nagao M¹⁾, Saeki H¹⁾ (日本医科大学): Association of psoriasis with Hashimoto's thyroiditis, Sjögren syndrome and dermatomyositis. *J Dermatol* 2016; 43 (6): 711-712.
- 7) Cao H, Xia Q, Pan M, Zhao X, Li X, Shi R, Ding X, Kuwana M¹⁾, Zheng J¹⁾ (日本医科大学アレルギー膠原病内科): Gottron's papules and Gottron's sign with ulceration: A distinctive cutaneous feature in a subset of DM/CADM patients. *J Rheumatol* 2016; 43 (9): 1735-1742.
- 8) Akiyama M¹⁾, Kaneko Y¹⁾, Hanaoka H²⁾, Kuwana M³⁾, Takeuchi T¹⁾ (¹⁾ 慶應義塾大学, ²⁾ 聖マリアンナ医科大学, ³⁾ 日本医科大学): Polychondritis presenting with oculomotor and abducens nerve palsies as the initial manifestation. *Mod Rheumatol* 2016; 26 (5): 790-793.
- 9) Fujimoto M, Murakami A, Kurei S, Okiyama N, Kawakami A, Mishima M, Sato S, Seishima M, Suda T, Mimori T, Takehara K, Kuwana M: Enzyme-linked immunosorbent assays for detection of anti-transcriptional intermediary factor-1 γ and anti-Mi-2 autoantibodies in dermatomyositis. *J Dermatol Sci* 2016; 84 (3): 272-281.

- 10) Yoshida N, Okamoto M, Kaieda M, Fujimoto K, Ebata T, Tajiri M, Nakamura M, Tominaga M, Wakasugi D, Kawayama T, Kuwana M, Mimori T, Ida H, Hoshino T : Association of anti-aminoacyl-transfer RNA synthetase antibody and anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody with the therapeutic response of polymyositis/dermatomyositis-associated interstitial lung disease. *Respir Invest* 2016 ; 55 (1) : 24-32.
 - 11) Hamaguchi Y, Sumida T¹⁾, Kawaguchi Y⁵⁾, Ihn H⁴⁾, Tanaka S, Asano Y, Motegi S, Kuwana M²⁾, Endo H, Takehara K³⁾ (¹⁾ 筑波大学, ²⁾ 日本医科大学, ³⁾ 金沢大学, ⁴⁾ 熊本大学, ⁵⁾ 東京女子医科大学) : Safety and tolerability of bosentan for digital ulcers in Japanese patients with systemic sclerosis : prospective, multicenter, open-label study. *J Dermatol* 2017 ; 44 (1) : 13-17.
 - 12) Takeuchi A, Matsushita T, Kaji K, Okamoto Y, Yasui M, Hirata K, Oishi N, Higashi A, Seishima M, Asano T, Fujimoto M, Kuwana M²⁾, Takehara K¹⁾, Hamaguchi Y (¹⁾ 金沢大学, ²⁾ 日本医科大学) : Autoantibody to scaffold attachment factor B (SAFB) : a novel connective tissue disease-related autoantibody associated with interstitial lung disease. *J Autoimmun* 2017 ; 76 (1) : 101-107.
 - 13) Hanaoka H¹⁾, Kaneko Y²⁾, Suzuki S, Takada T, Hirakata M, Takeuchi T²⁾, Kuwana M³⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医科大学, ²⁾ 慶應義塾大学, ³⁾ 日本医科大学) : A unique case of polymyositis with anti-SRP antibody complicated by subacute interstitial lung disease, subluxing arthropathy, resembling anti-synthetase syndrome. *Mod Rheumatol* 2016 ; 26 (6) : 979-980.
 - 14) Matsushita T, Mizukami K, Kano M, Yagi M, Tennichi M, Takeuchi A, Okamoto Y, Hamaguchi Y, Murakami A, Hasegawa M, Kuwana M¹⁾, Fujimoto M, Takehara K²⁾ (¹⁾ 日本医科大学, ²⁾ 金沢大学) : Anti-MDA5 antibody level is a novel tool for monitoring disease activity in rapidly progressive interstitial lung disease with dermatomyositis. *Br J Dermatol* 2017 ; 176 (2) : 395-402.
 - 15) Kobayashi N, Tozawa Y, Ueko M, Takezaki S, Watanabe S, Iwafuchi H, Yasuda M, Kuwana M¹⁾, Ariga T (¹⁾ 日本医科大学) : Tacrolimus in combination with methotrexate and corticosteroid for the treatment of child-onset anti-SRP antibody-positive necrotizing myopathy. *Scand J Rheumatol* 2016 ; 29 : Epub.
 - 16) Uruha A, Ishikawa A, Tsuburaya R, Hamanaka K, Kuwana M¹⁾, Watanabe Y, Suzuki S, Suzuki N, Nishino I (¹⁾ 日本医科大学) : Sarcoplasmic MxA expression-a marker highly diagnostic of dermatomyositis. *Neurology* 2017 ; 88 (5) : 493-500.
 - 17) Moghadam-Kia S, Oddis C, Sato S, Kuwana M¹⁾, Aggarwal R (¹⁾ 日本医科大学) : Anti-MDA5 autoantibody : expanding the clinical spectrum in North American dermatomyositis patients. *J Rheumatol* 2017 ; 44 (3) : 319-325.
 - 18) Naniwa T, Tamechika S, Okazaki Y¹⁾, Maeda S, Kuwana M¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学) : Coexistence of anti-melanoma differentiation-associated gene 5 and anti-aminoacyl-transfer RNA synthetase antibodies in a patient with dermatomyositis and rapidly progressive and relapsing interstitial lung disease. *MR Case Rep* 2017 ; 1 (1) : 3-8.
 - 19) Mimori T²⁾, Harigai M, Atsumi T, Fujii T, Kuwana M¹⁾, Matsuno H, Momohara S, Takei S, Tamura N, Koike T (¹⁾ 日本医科大学, ²⁾ 京都大学) : Safety and effectiveness of 24-week treatment with iguratimod, a new oral disease-modifying antirheumatic drug, for patients with rheumatoid arthritis : interim analysis of a postmarketing surveillance study of 2679 patients in Japan. *Mod Rheumatol* 2016 ; 21 : 1-11.
 - 20) Kondo Y, Kaneko Y¹⁾, Sugiura H, Matsumoto S, Nishina N¹⁾, Kuwana M²⁾, Jinzaki M²⁾, Takeuchi T¹⁾ (¹⁾ 慶應義塾大学, ²⁾ 日本医科大学) : Pre-treatment Interleukin-6 levels strongly affect bone erosion progression and repair detected by magnetic resonance imaging rheumatoid arthritis patients. *Rheumatology* 2017 ; 8 : Epub.
 - 21) Kuwana M¹⁾, Shirai Y¹⁾, Takeuchi T²⁾ (¹⁾ 日本医科大学, ²⁾ 慶應義塾大学) : Elevated serum Krebs von den Lungen-6 in early disease predicts subsequent deterioration of pulmonary function in patients with systemic sclerosis and interstitial lung disease. *J Rheumatol* 2016 ; 43 (10) : 1825-1831.
- (2) 総説 :
- 1) Kuwana M¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学) : What do we learn from immunomodulation in patients with immune thrombocytopenia?. *Semin Hematol* 2016 ; 53 (1) : S27-S30.
 - 2) Gono T¹⁾, Kuwana M¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学) : Choosing the right biomarkers to predict ILD in myositis. *Nat Rev Rheumatol* 2016 ; 12 (9) : 504-506.
 - 3) Kahaleh B, Guiducci S, Kuwana M³⁾ (³⁾ 日本医科大学) : Recent updates in experimental protocols for endothelial cells. *J Scleroderma Rel Dis* 2016 ; 1 (3) : 257-265.
 - 4) 桑名正隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : 全身性強皮症. *内科* 2016 ; 117 (4) : 901-907.
 - 5) 桑名正隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : 膠原病性肺高血圧症. *血栓と循環* 2016 ; 24 (1) : 76-79.
 - 6) 桑名正隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : 単球由来多能性細胞を用いた膠原病治療の可能性を探る. *分子リウマチ治療* 2016 ; 9 (3) : 19-23.
 - 7) 桑名正隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : 全身性硬化症 (強皮症) の早期診断と治療. *日本内科学会雑誌* 2016 ; 105

- (9) : 1864-1869.
- 8) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : 強皮症の自然歴と早期診断. 医学のあゆみ 2016 ; 258 (10) : 945-950.
- 9) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : 特発性血小板減少性紫斑病とは?. Helicobacter Research 2016 ; 21 (1) : 80-84.
- 10) 五野貴久¹⁾, 寺井千尋 (1) 日本医科大学) : 多発性筋炎・皮膚筋炎の診療における最近の捉え方. 日本内科学会雑誌 2016 ; 105 (11) : 2251-2258.
- 11) Khanna D, Furst D, Clements P, Allanore Y, Baron M, Czirjak L, Distler O, Foeldvari I, Kuwana M, Matucci-Cerinic M, Mayes M, Medsger TJ, Merkel P, Pope J, Seibold J, et al. (1) 日本医科大学) : Use and standardization of the modified Rodnan skin score for use in clinical trials of systemic sclerosis. J Scleroderma Rel Dis 2017 ; 2 (1) : 11-18.
- 12) Kuwana M¹⁾ (1) 日本医科大学) : Circulating anti-nuclear antibodies in systemic sclerosis : utility in diagnosis and disease subsetting. J Nippon Med Sch 2017 ; 84 (2) : 56-63.

著 書

- 1) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : [自著] 強皮症 (全身性硬化症) (SSc). 膠原病・リウマチ・アレルギー研修ノート (上阪 等), 2016 ; pp319-323, 診断と治療社.
- 2) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : [自著] 間質性肺疾患. 強皮症の基礎と臨床 (佐藤伸一), 2016 ; pp194-203, 医薬ジャーナル社.
- 3) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : [自著] 肺臓. 強皮症の基礎と臨床 (佐藤伸一), 2016 ; pp127-137, 医薬ジャーナル社.
- 4) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : [自著] 2次性 TMA (その他の TMA) の診断と治療. 血管性微小血管症 (TMA) 診断・治療実践マニュアル (宮川義隆, 松本雅則, 南学正臣), 2016 ; pp114-124, 医薬ジャーナル社.
- 5) 岳野光洋¹⁾, 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : [共著] 検査所見. 全身性エリテマトーデス 診断と治療の ABC 118 (門脇孝, 工藤正俊, 倉林正彦, 田中良哉, 畠清彦, 三嶋理晃), 2016 ; pp65-74, 最新医学社.
- 6) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : [自著] 膠原病肺の分類と治療薬. 呼吸器疾患—最新の薬物療法—2. 感染症・免疫アレルギー・びまん性肺疾患ほか (川名明彦, 江口研二), 2017 ; pp176-181, 克誠堂.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : Biologics 時代の光と影. 日本皮膚科学会東京支部学術大会 (横浜), 2017. 2.

(2) 招待講演 :

- 1) Kuwana M¹⁾ (1) 日本医科大学) : Clinical aspects and pathogenic roles of autoantibodies in systemic sclerosis. The 13th International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity (第13回) (Kyoto), 2016. 10.

(3) 教育講演 :

- 1) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 全身性硬化症 (強皮症) の早期診断と治療. 日本内科学会総会・講演会 (第113回) (東京), 2016. 4.
- 2) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 強皮症治療の新たな展開. 日本リウマチ学会関東支部学術集会 (第27回) (東京), 2016. 12.

(4) シンポジウム :

- 1) Kuwana M¹⁾ (1) 日本医科大学) : Predictors of digital ulcer in SSc : endothelial progenitor cells and circulating biomarkers. 18th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (第18回) (Shanghai), 2016. 9.
- 2) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 強皮症. 日本呼吸器学会学術講演会 (第56回) (京都), 2016. 4.
- 3) 白井悠一郎¹⁾, 安岡秀剛²⁾, 田村雄一³⁾, 竹内 勤²⁾, 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学, ²⁾ 慶應義塾大学, ³⁾ 国際医療福祉大学) : 強皮症に伴う肺高血圧症における肺拡散能の経時的評価の意義 (強皮症による肺高血圧症の問題点 (診断, 治療, 展望)). 日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (第1回) (東京), 2016. 10.

(5) パネルディスカッション :

- 1) 白井悠一郎¹⁾, 安岡秀剛²⁾, 田村雄一³⁾, 竹内 勤²⁾, 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学, ²⁾ 慶應義塾大学, ³⁾ 国際医療福祉大学) : 強皮症に伴う肺高血圧症における肺拡散能の経時的評価の意義. 日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (第1回) (東京), 2016. 10.
- 2) 白井悠一郎¹⁾, 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 膠原病関連肺動脈性肺高血圧症 (CTD-PAH) の予後. 日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (第1回) (東京), 2016. 10.

(6) セミナー :

- 1) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 多発性筋炎・皮膚筋炎スペクトラムにおける間質性肺疾患の多様性. 日本呼吸器学会学術講演会 (第

- 56回) (京都), 2016. 4.
- 2) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 抗製剤抗体を考える. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (横浜), 2016. 4.
 - 3) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 早期関節リウマチに対する TNF 阻害薬を用いた治療の実践. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 60 回) (横浜), 2016. 4.
 - 4) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : ITP の最新知見 : 病態から治療まで. 日本血液学会学術集会 (第 78 回) (横浜), 2016. 10.
 - 5) Kuwana M (1) 日本医科大学) : Autoantibodies in systemic sclerosis (tentative). The 13th International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity (第 13 回) (Kyoto), 2016. 10.
 - 6) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 関節リウマチにおける自己抗体の臨床的意義. 日本臨床免疫学会総会 (第 44 回) (東京), 2016. 9.
- (7) ワークショップ :
- 1) 鍋木 誠¹⁾, 白井悠一郎¹⁾, 岳野光洋¹⁾, 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 間質性肺疾患併多発性筋炎/皮膚筋炎の胸部 HCT スコアリングによる検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 60 回) (横浜), 2016. 4.
 - 2) 白井悠一郎¹⁾, 岳野光洋¹⁾, 竹内 勤²⁾, 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学, 2) 慶應義塾大学) : 全身性強皮症における血清 KL-6 値の経済的測定の臨床的意義. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 60 回) (横浜), 2016. 4.
 - 3) 渥美達也, 桑名正隆²⁾, 武井修治, 田村直人, 針谷正祥, 藤井隆夫, 松井博明, 桃原茂樹, 山本一彦, 遠藤 穰, 小久保毅, 杉山直伸, 廣瀬智弘, 森嶋洋輔, 吉井規敏, その他 1 名 (, 2) 日本医科大学) : 日本人 RA 患者を対象としたトファシチニブ市販後調査における安全性・有効性の中間解析結果. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 60 回) (横浜), 2016. 4.
 - 4) 門田寛子¹⁾, 白井悠一郎¹⁾, 岡崎有佳¹⁾, 岳野光洋¹⁾, 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 抗 TIF-1 γ 抗体陽性悪性腫瘍関連筋炎の臨床および病理組織学的特徴. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (横浜), 2016. 4.
 - 5) 仁科 直¹⁾, 川口鎮司²⁾, 川上 純³⁾, 佐藤慎二⁴⁾, 五野貴久⁵⁾, 田村真麻⁶⁾, 池田 啓⁷⁾, 布川貴博⁴⁾, 金子祐子⁸⁾, 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学, 2) 東京女子医科大学, 3) 長崎大学, 4) 東海大学, 5) 自治医科大学, 6) 長岡赤十字病院, 7) 千葉大学, 8) 慶應義塾大学) : 間質性肺疾患を伴う多発性筋炎/皮膚筋炎における発症時期の季節性の検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 60 回) (横浜), 2016. 4.
 - 6) 桑名正隆¹⁾, 白井悠一郎¹⁾, 安岡秀剛²⁾ (1) 日本医科大学, 2) 慶應義塾大学) : 膠原病性肺高血圧症の克服への試み. 日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (第 1 回) (東京), 2016. 10.
- (8) 一般講演 :
- 1) Salem D, Subang S, Okazaki Y³⁾, Laplante P, Levine-S JS, Kuwana M³⁾, Rauch J (, 3) 日本医科大学) : The role of β 2-glycoprotein I-reactive T cells in promoting the development of systemic lupus erythematosus (SLE). 15th International Congress on Antiphospholipid Antibodies (Kyrenia), 2016. 9.
 - 2) Kadota H¹⁾, Shirai Y¹⁾, Nagahama K, Okazaki Y¹⁾, Takeno M¹⁾, Shimizu A, Kuwana M¹⁾ (1) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : In situ expression of transcriptional intermediary factor-1 γ (TIF-1 γ) in patients with cancer-associated myositis (CAM). The 13th International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity (第 13 回) (Kyoto), 2016. 10.
 - 3) Salazar G, Kuwana M²⁾, Wu M, Jun Y, Charles J, Maureen DD, Assasi S (, 2) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : KL-6 and Not CCL-18 Is a Predictor of Early Progression in Systemic Sclerosis Related Interstitial Lung Disease. 80th Annual Scientific Meeting of American College of Rheumatology (第 80 回) (Washington, DC), 2016. 11.
 - 4) Nishina N¹⁾, Sato S²⁾, Kawaguchi Y³⁾, Kawakami A, Tamura M, Ikeda K, Nunokawa T, Tanino Y, Asakawa K, Kaneko Y¹⁾, Gono T⁴⁾, Masui K, Kuwana M⁴⁾, Jami Investigators (1) 慶應義塾大学リウマチ内科, 2) 東海大学, 3) 東京女子医科大学, 4) 日本医科大学アレルギー膠原病内科) : Influence of Season and Residential Environment on Development of Anti-Melanoma Differentiation-Associated Gene 5 Antibody-Positive Dermatomyositis with Interstitial Lung Disease. Annual Scientific Meeting of American College of Rheumatology (80th) (Washington, DC), 2016. 11.
 - 5) Sato S¹⁾, Masui K²⁾, Nishina N³⁾, Kawaguchi Y, Kawakami A, Tamura M, Ikeda K, Nunokawa T, Tanino Y, Asakawa K, Kaneko Y³⁾, Gono T, Kuwana M, Jami Investigators (1) 東海大学, 2) 防衛医科大学校, 3) 慶應義塾大学リウマチ内科) : Initial Predictors of Short-Term Poor Survival Rates in Patients with Polymyositis/Dermatomyositis-Associated Interstitial Lung Disease. Annual Scientific Meeting of American College of Rheumatology (80th) (Washington, DC), 2016. 11.
 - 6) Yamaguchi Y, Shirai Y²⁾, Ono J, Kawaguchi Y⁴⁾, Izuhara K, Kuwana M²⁾, Aihara M (, 2) 日本医科大学, 4) 東京女子医科大学) : An Increased Circulating Level of Periostin in Patients with Systemic Sclerosis : Associations with Functional Impairment in Various Affected Organs Display combined fields only if separate fields don't exist. Annual Scientific Meeting of American College of Rheumatology (80th) (Washington, DC), 2016. 11.
 - 7) 桑名正隆¹⁾ (1) 日本医科大学) : 全身性強皮症の早期診断と治療. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 60 回) (横浜), 2016. 4.

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) Kuwana M¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学) : A to-do list at diagnosis of systemic sclerosis in case of positive anti-RNA polymerase III antibodies. *J Rheumatol* 2017 ; 44 (5) : 550-552.
- 2) Terao C, Kawaguchi T, Dieude P, Varga J, Kuwana M, Hudson M, Kawaguchi Y, Matucci-Cerinic M, Ohmura K, Riemekasten G, Kawasaki A, Airo P, Horita T, Oka A, Hachulla E, et al. : Trans-ethnic meta-analysis identifies GSDMA and PRDM1 as susceptibility genes to systemic sclerosis. *Ann Rheum Dis* 2017 ; 76 (6) : 1150-1158.

追加分原著：

- 1) Hamaguchi Y, Kuwana M¹⁾, Takehara T²⁾ (¹⁾ 日本医科大学, ²⁾ 金沢大学) : Comparison of anti-OJ antibody detection assays between an immunoprecipitation assay and a line blot assay. *Mod Rheumatol* 2017 ; 27 (3) : 551-552.
- 2) Togawa R, Tanino Y, Nikaïdo T, Fukuhara N, Uematsu M, Misa K, Matsuda N, Matsuda Y, Kobayashi H, Hamaguchi Y, Fujimoto M, Kuwana M¹⁾, Munakata M (¹⁾ 日本医科大学) : Three cases of interstitial pneumonia with anti-signal recognition particle antibody. *Allergol Int* 2017 ; 66 (3) : 485-487.
- 3) Coghlan J, Galie N, Barbera J, Frost A, Ghofrani H, Hoepfer M, Kuwana M¹⁾, Mclaughlin V, Peacock A, Simonneau G, Vachiery J, Blair C, Gillies H, Miller K, Harris J, et al. (¹⁾ 日本医科大学) : Initial combination therapy with ambrisentan and tadalafil in connective tissue disease-associated pulmonary arterial hypertension (CTD-PAH) : subgroup analysis from the AMBITION trial. *Ann Rheum* 2017 ; 76 (7) : 1219-1227.
- 4) Nishimoto T, Okazaki Y¹⁾, Numajiri M, Kuwana M¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学) : Mouse immune thrombocytopenia is associated with Th1 bias and expression of activating Fc γ receptors. *Int J Hematol* 2017 ; 105 (5) : 598-605.
- 5) Rubic-Schneider T, Kuwana M¹⁾, Christen B, Assenmacher M, Hainzl O, Zimmermann F, Fischer R, Koppenburg V, Chibout S, Wright T, Seidl A, Kammüller M (¹⁾ 日本医科大学) : T cell assays confirm immunogenicity of tungsten-induced erythropoietin aggregates associated with pure red cell aplasia. *Blood Adv* 2017 ; 1 (6) : 367-379.
- 6) Hanaoka H¹⁾, Kaneko Y²⁾, Suzuki S, Takada T, Hirakata M, Takeuchi T²⁾, Kuwana M³⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医科大学, ²⁾ 慶應義塾大学, ³⁾ 日本医科大学) : Anti-signal recognition particle antibody in patients without inflammatory myopathy ; a survey of 6180 patients with connective tissue diseases. *Scand J Rheumatol* 2015 ; 27 : 1-5.
- 7) Uehara T, Takeno M²⁾, Hama M, Yoshimi R¹⁾, Suda A, Ihata A, Ueda A, Tateishi U, Ishigatsubo Y¹⁾ (¹⁾ 横浜市立大学, ²⁾ 日本医科大学) : Deep-inspiration breath-hold 18F-FDG-PET/CT is useful for assessment of connective tissue disease associated interstitial pneumonia. *Mod Rheumatol* 2016 ; 26 (1) : 121-127.

6. 血液内科学分野

[付属病院血液内科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Koiti I¹⁾, Muneo O¹⁾, Kazutaka N¹⁾, Hayato T¹⁾, Hiroki Y¹⁾ (¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Late-onset Imatinib-induced Liver Failure Treated with Dasatinib for Two Years Resulted in Long-term Undetectable Response. *Journal of Leukemia* 2016 ; 4 (4) : 220.
- 2) Isono N¹⁾, Imai Y¹⁾, Watanabe A¹⁾, Moriya K²⁾, Tamura H H²⁾, Inokuchi K²⁾, Asano C C³⁾, Masuda M M³⁾, Shimura H H¹⁾, Mitsuhashi K K¹⁾, Kazama H H¹⁾, Sugimori H H⁴⁾, Motoji T T¹⁾, Tanaka J J¹⁾ (¹⁾ Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Hematology/Oncology, Tokyo Women's Medical University Yachiyo Medical Center, Chiba, Japan, ⁴⁾ Department of Health Science, Daito Bunka University, Tokyo, Japan) : Cytomegalovirus reactivation in low-grade B-cell lymphoma patients treated with bendamustine. *Leukemia & lymphoma* 2016 ; 57 (9) : 2204-2207.
- 3) Inami T¹⁾, Okabe M²⁾, Matsushita M³⁾, Kobayashi N³⁾, Inokuchi K²⁾, Hata N³⁾, Seino Y⁴⁾, Shimizu W⁵⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 1715 Kamagari, Inzai, Chiba, 270-1694, Japan., ²⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan., ⁴⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 1715 Kamagari, Inzai, Chiba, 270-1694, Japan., ⁵⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan.) : JAK2 mutation and acute coronary syndrome complicated with stent thrombosis. *Heart Vessels* 2016 ; 31 (10) : 1714-1716.
- 4) Yui S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Imadome K¹⁾, Arai A¹⁾, Takahashi M¹⁾, Ohashi R¹⁾, Tamai H¹⁾, Moriya K¹⁾, Nakayama K¹⁾, Shimizu A¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School.) : Epstein-Barr Virus-positive T-cell Lymphoproliferative Disease Following Umbilical Cord Blood Transplantation for Acute Myeloid Leukemia. *Journal of Nippon Medical school* 2016 ; 83 (1) : 35-42.
- 5) Kurosawa S¹⁾, Yamaguchi H²⁾, Yamaguchi T³⁾, Fukunaga K²⁾, Yui S²⁾, Wakita S²⁾, Kanamori H⁴⁾, Usuki K⁵⁾, Uoshima N⁶⁾, Yanada M⁷⁾, Shono K⁸⁾, Ueki T⁹⁾, Mizuno I¹⁰⁾, Yano S, Takeuchi J, et al. (¹⁾ Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan., ³⁾ Division of Biostatistics, Tohoku University Hospital, Sendai, Japan, ⁴⁾ Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan, ⁵⁾ Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Hematology, Matsushita Memorial Hospital, Moriguchi, Japan, ⁷⁾ Department of Hematology, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake, Japan, ⁸⁾ Department of Hematology, Chiba Aoba Municipal Hospital, Chiba, Japan, ⁹⁾ Department of Hematology, Nagano Red Cross Hospital, Nagano, Japan, ¹⁰⁾ and others) : Decision Analysis of Postremission Therapy in Cytogenetically Intermediate-Risk Acute Myeloid Leukemia : The Impact of FLT3 Internal Tandem Duplication, Nucleophosmin, and CCAAT/Enhancer Binding Protein Alpha. *Biology of blood and marrow transplantation : journal of the American Society for Blood and Marrow Transplantation* 2016 ; 22 (6) : 1125-1132.
- 6) Ryotokuji T¹⁾, Yamaguchi H²⁾, Ueki T³⁾, Usuki K⁴⁾, Kurosawa S⁵⁾, Kobayashi Y⁶⁾, Kawata E⁶⁾, Tajika K⁷⁾, Gomi S⁷⁾, Kanda J⁸⁾, Kobayashi A¹⁾, Omori I¹⁾, Marumo A¹⁾, Fujiwara Y¹⁾, Yui S¹⁾, et al. (¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan., ²⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Hematology, Nagano Red Cross Hospital, Tokyo, Japan., ⁴⁾ Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan, ⁵⁾ Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan., ⁶⁾ Department of Hematology, Japanese Red Cross Kyoto Daini Hospital, Japan., ⁷⁾ Department of Hematology, Yokohama Minami Kyousai Hospital, Kanagawa, Japan., ⁸⁾ Division of Hematology, Saitama Medical Center Jichi Medical University, Japan.) : Clinical characteristics and prognosis of acute myeloid leukemia associated with DNA-methylation regulatory gene mutations. *Haematologica* 2016 ; 101 (9) : 1074-1081.
- 7) Fujiwara Y¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Kobayashi K¹⁾, Marumo A¹⁾, Omori I¹⁾, Yamanaka S¹⁾, Yui S¹⁾, Fukunaga K¹⁾, Ryotokuji T¹⁾, Hirakawa T¹⁾, Okabe M¹⁾, Wakita S¹⁾, Tamai H¹⁾, Okamoto M¹⁾, Nakayama K¹⁾, et al. (¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, Japan.) : The Therapeutic Outcomes of Mechanical Ventilation in Hematological Malignancy Patients with Respiratory Failure. *Internal medicine* 2016 ; 55 (12) : 1537-1545.

- 8) Ishibashi M¹, Tamura H², Sunakawa M¹, Kondo-Onodera A¹, Okuyama N¹, Hamada Y¹, Moriya K¹, Choi I³, Tamada K⁴, Inokuchi K¹ (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan., (2) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Department of Microbiology and Immunology, Advanced Research Center for Multiple Myeloma, Inje University College of Medicine, Busan, Republic of Kor., (4) Department of Immunology, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, Yamaguchi, Japan) : Myeloma Drug Resistance Induced by Binding of Myeloma B7-H1 (PD-L1) to PD-1. *Cancer immunology research* 2016 ; 2 ; 4 (9) : 779-788.
- 9) Hagihara M¹, Iriyama N², Yoshida C³, Wakita H⁴, Chiba S⁵, Okamoto S⁶, Kawakami K⁷, Takezako N⁸, Kumagai T⁹, Inokuchi K¹⁰, Ohyashiki K, Taguchi J, Yano S, Igarashi T, Kouzai Y, et al. (1) Department of Hematology, Yokohama City University Medical Center, Kanagawa, Japan., (2) Division of Hematology and Rheumatology, Department of Medicine, Nihon University School of Medicine, Tokyo, Japan., (3) Department of Hematology, National Hospital Organization Mito Medical Center, Ibaraki, Japan., (4) Division of Hematology and Oncology, Japanese Red Cross Society, Narita Red Cross Hospital, Chiba, Japan, (5) Department of Hematology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Ibaraki, Japan, (6) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan., (7) Department of Hematology and Clinical Oncology, Kagawa Prefectural Central Hospital, Kagawa, Japan, (8) Department of Hematology, National Hospital Organization Disaster Medical Center, Tokyo, Japan., (9) Department of Hematology, Ohme Municipal General Hospital, Tokyo, Japan, (10) and others) : Association of pleural effusion with an early molecular response in patients with newly diagnosed chronic-phase chronic myeloid leukemia receiving dasatinib : Results of a D-First study. *Oncology reports* 2016 ; 38 (5) : 2976-2982.
- 10) Moriya K¹, Tamura H¹, Nakamura K², Hosone M³, Inokuchi K¹ (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8603, Japan, (2) Shin Akasaka Clinic, Tokyo, Japan., (3) Department of Pathology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Tokyo, Japan) : A primary esophageal MALT lymphoma patient with *Helicobacter pylori* infection achieved complete remission after *H. pylori* eradication without anti-lymphoma treatment. *Leukemia research reports* 2016 ; 20 (7) : 2-5.
- 11) Ichiyama S¹, Funasaka Y², Yamashita H², Tamura H³, Inokuchi K³, Saeki H² (1) Department of Dermatology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan., (2) Department of Dermatology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Leukocytoclastic vasculitis with eosinophilic infiltration associated with thalidomide therapy for multiple myeloma : A case report. *Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology* 2017.
- 12) Imai Y¹, Ohta E¹, Takeda S², Sunamura S², Ishibashi M³, Tamura H³, Wang Y¹, Deguchi A⁴, Tanaka J¹, Maru Y⁴, Motoji T¹, et al. (1) Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University, (2) Department of Physiology and Cell Biology, Graduate School of Medicine and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University, (3) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (4) Department of Pharmacology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan) : Histone deacetylase inhibitor panobinostat induces calcineurin degradation in multiple myeloma. *Journal of Clinical Investigation Insight* 2016 ; 1 (5) : e85061.
- 13) Tsukune Y¹, Sasaki M², Odajima T³, Isoda A⁴, Matsumoto M⁴, Koike M⁵, Tamura H⁶, Moriya K⁶, Ito S⁷, Asahi M⁸, Imai Y⁹, Tanaka J⁹, Handa H¹⁰, Koiso H, Tanosaki S, et al. (1) Department of Hematology, Juntendo University School of Medicine, (2) Department of Hematology, Juntendo University School of Medicine, (3) Faculty of Health Science, Daito Bunka University School of Sports and Health Science, (4) Department of Hematology, National Hospital Organization Nishigunma Hospital, (5) Department of Hematology, Juntendo University Shizuoka Hospital, (6) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, (7) Department of Medical Oncology, Iwate Medical University School of Medicine, (8) Hematology and Oncology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University School of Medicine, (9) Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University, (10) and others) : Incidence and clinical background of hepatitis B virus reactivation in multiple myeloma in novel agents'era. *Annals of Hematology* 2016 ; 95 (9) : 1465-1472.
- 14) Terakura S¹, Wake A^{2,3}, Inamoto Y⁴, Murata M¹, Sakai R⁵, Yamaguchi T⁶, Takahashi S⁷, Uchida N^{3,8}, Onishi Y⁹, Ohashi K¹⁰, Ozawa Y, Kanamori H, Yamaguchi H, Fukuda T, Ichinohe T, et al. (1) Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan, (2) Department of Hematology, Toranomon Hospital Kajigaya, Kawasaki, Japan, (3) Okinaka Memorial Institute of Medical Research, Tokyo, Japan., (4) Division of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan., (5) Department of Medical Oncology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan., (6) Division of Biostatistics, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai, Japan, (7) Department of Cell Processing and Transfusion, Research Hospital, Institute of Medical Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan., (8) Department of Hematology, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan., (9) Department of Hematology and Rheumatology, Tohoku University Hospital,

- Sendai, Japan., ¹⁰ and others) : Exploratory research for optimal GvHD prophylaxis after single unit CBT in adults : short-term methotrexate reduced the incidence of severe GvHD more than mycophenolate mofetil. *Bone Marrow Transplantation* 2017 ; 52 (3) : 423-430.
- 15) Muramatsu H, Okuno Y, Yoshida K, Shiraiishi Y, Doisaki S, Narita A, Sakaguchi H, Kawashima N, Wang X, Xu Y, Chiba K, Tanaka H, Hama A, Sanada M, Takahashi Y, et al. : Clinical application of Capture-based Target Sequencing for Inherited Bone Marrow Failure Syndromes. *Genetics in Medicine*. In press 2017 ; Epub.
- 16) Moriya K¹⁾, Suzuki T, Watanabe Y, Saito-Nanjo Y, Niizuma H, Onuma M, Rikiishi T¹⁾, Kakuta F, Abukawa D, Yamaguchi H²⁾, Sasahara Y¹⁾, Kure S¹⁾ (¹ Department of Pediatrics, Tohoku University Graduate School of Medicine, Aoba-ku, Sendai, Japan., ² Department of Hematology, Nippon Medical School, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan.) : Hoyeraal-Hreidarsson syndrome in a patient with novel compound heterozygous RTEL1 gene mutations. *Pediatric Blood & Cancer* 2016 ; 63 (9) : 1683-1684.
- 17) Ozaki S¹⁾, Funasaka Y¹⁾, Shimizu A¹⁾, Kawarasaki M¹⁾, Kanazaki A¹⁾, Futagami A¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Sugisaki Y¹⁾, Saeki H¹⁾ (¹ Department of Dermatology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Follicular lymphoma presenting follicular papules in the skin : a case report. *Journal of Dermatology* 2017 ; 44 (1) : 111-113.
- 18) 山口博樹¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : 急性骨髄性白血病の遺伝子変異. *臨床血液* 2016 ; 57 (12) : 2535-2542.
- 19) 田村秀人¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : 初発移植非適応の多発性骨髄腫における治療戦略. *臨床血液* 2016 ; 2074-2083.
- (2) 総説 :
- 1) 山口博樹¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : 急性骨髄性白血病における遺伝子異常の蓄積とその臨床的意義. *血液内科* 2017 ; 74 (2) : 239-246.
 - 2) 山口博樹¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : 骨髄不全症におけるテロメア制御異常. *血液フロンティア* 2017 ; 27 (1) : 5-9.
 - 3) 山口博樹¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : 急性骨髄性白血病の遺伝子変異解析と臨床応用. *Cefiro* 2016 ; 24 : 35-43.
 - 4) 山口博樹¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : 貧血の検査, 診断の変遷と展望. *日本臨床* 2017 ; 75 : 19-23.
 - 5) 山口博樹¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : 真性赤血球增多症, 本態性血小板血症, 原発性骨髄線維症におけるゲノム, エピゲノム異常. *血液内科* 2016 ; 73 : 279-289.
 - 6) 山口博樹¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : 真性多血症の診断と治療—プライマリ・ケア医のための基礎知識. *最新医学* 2016 ; 71 (11) : 135-144.
 - 7) 山口博樹¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : 急性白血病の予後因子 急性骨髄性白血病. *日本臨床* 2016 ; 74 (8) : 463-468.
 - 8) 山口博樹¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : 再生不良性貧血と骨髄異形性症候群. *血液内科* 2016 ; 72 (6) : 748-753.
 - 9) 奥山奈美子¹⁾, 玉田耕治¹⁾, 田村秀人 (¹ 山口大学大学院医学系研究科 免疫学講座) : がん免疫療法の最前線と展望. *臨床血液* 2016 ; 2388-2395.

著書

- 1) 猪口孝一¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : [自著] アナグレリド. AGORA, 2016 ; pp19-21, 株式会社 昆沙門堂.
- 2) 猪口孝一¹⁾ (¹ 日本医科大学大学院医学研究科 血液内科学) : [自著] 白血病の現況と展望—オーバービュー—. *Cefiro*, 2016 ; pp1-4, 株式会社 保健科学.
- 3) 玉井勇人¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : [自著] 白血病の現況と展望—その分子標的治療時代—急性リンパ性白血病の現況と展望. *Cefiro*, 2016 ; pp13-17, 株式会社 保健科学.
- 4) 奥山奈美子¹⁾, 玉田耕治¹⁾ (¹ 山口大学大学院医学系研究科 免疫学講座) : [自著] 白血病の現況と展望—その分子標的治療時代—白血病における免疫チェックポイント阻害剤の現況と展望. *Cefiro*, 2016 ; pp25-29, 株式会社 保健科学.
- 5) 猪口孝一¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : [自著] 白血病の治療標的としてのチロシンキナーゼ遺伝子変異. *血液内科*, 2016 ; pp739-743, 科学評論社.
- 6) 猪口孝一¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : [自著] オーバービュー. *臨床血液*, 2016 ; pp2517-2518, 一般社団法人 日本血液学会.
- 7) 猪口孝一¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : [自著] 貧血の定義・分類. *貧血学*, 2017 ; pp13-18, 株式会社 日本臨牀社.
- 8) 玉井勇人¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : [自著] 特集 骨髄増殖性腫瘍のマネジメントと最近の展開非定型慢性骨髄性白血病の臨床像と CSF3R・SETBP1 異常の意義. *血液内科*, 2016 ; pp345-348, 科学評論社.
- 9) 玉井勇人¹⁾ (¹ 日本医科大学血液内科) : [自著] 急性リンパ性白血病 (ALL) の最新治療戦略 ALL の分子病態に関する最新の知見. *最新医学*, 2016 ; pp2056-2063, 最新医学社.
- 10) 田村秀人¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : [自著] 免疫調節薬による多発性骨髄腫の治療. *造血器腫瘍アトラス 改訂第5版*, 2016 ; pp755-761, 日本医事新報社.
- 11) 田村秀人¹⁾ (¹ 日本医科大学 血液内科) : [自著] 合併症に対する治療 : 高カルシウム血症. *多発性骨髄腫の診療指針 第4版*, 2016 ; pp93-94, 文光堂.

- 12) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔自著〕合併症に対する治療：貧血. 多発性骨髄腫の診療指針 第4版, 2016；pp94-95, 文光堂.
- 13) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔自著〕免疫チェックポイント阻害剤：抗PD-1抗体, 抗PD-L1抗体の臨床. 多発性骨髄腫 Updating 第9巻, 2016；pp100-110, 医薬ジャーナル.
- 14) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔自著〕骨髄腫. がん薬物療法 現場のルール, 2016；pp124-129, 南江堂.
- 15) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔自著〕プロテアソーム阻害剤. がん薬物療法 現場のルール, 2016；pp200-201, 南江堂.
- 16) 濱田泰子¹⁾, 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔自著〕貧血. ガイドライン外来診療 2017年版, 2017；pp157-164, 日経メディカル開発.
- 17) 石橋真理子¹⁾, 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔自著〕多発性骨髄腫におけるSLAMファミリー分子の発現と機能. 日本臨床, 2016；pp158-162, 日本臨床社.
- 18) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔自著〕多発性骨髄腫に対する免疫治療の可能性. 血液内科, 2016；pp658-663, 科学評論社.
- 19) 守屋慶一¹⁾, 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔自著〕Castleman病. 呼吸器内科, 2017；pp78-83, 科学評論社.
- 20) 山口博樹¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔共著〕骨髄増殖性腫瘍 予後分類. 診断と治療のABC 113慢性骨髄性白血病・骨髄増殖性腫瘍 (木村文彦), 2016；pp166-173, 最新医学社.
- 21) 山口博樹¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔共著〕第3章：骨髄線維症の診断と予後3.細胞遺伝学 (染色体検査). 骨髄線維症～分子病態の解明から新規治療薬の開発まで～(小松則夫), 2016；pp90-93, 医薬ジャーナル社.
- 22) 山口博樹¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔共著〕急性骨髄性白血病 (AML) 【トピックス】AMLにおける遺伝子異常と予後は？. EBM 血液疾患の治療 (金倉 謙), 2016；pp77-78, 中外医学社.
- 23) 山口博樹¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔共著〕白血病. がん薬物療法 現場のルール (弦間昭彦), 2016；pp112-119, 南江堂.
- 24) 山口博樹¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：〔共著〕慢性骨髄増殖性腫瘍の遺伝子突然変異と臨床的意義. 造血器腫瘍アトラス (谷脇雅史), 2016；pp298-307, 日本医事新報社.

学会発表

(1) その他：

- 1) 丸毛淳史¹⁾, 山口博樹¹⁾, 大森郁子¹⁾, 山中 聡¹⁾, 藤原裕介¹⁾, 由井俊輔¹⁾, 福永景子¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 岡部雅弘¹⁾, 脇田知志¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 岡本宗雄¹⁾, 中山一隆¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：造血器幹細胞移植に伴う非感染性呼吸器合併症の検討. 日本内科学会総会・講演会 (第113回) (東京都), 2016. 4.

(2) 教育講演：

- 1) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：初発移植非適応の多発性骨髄腫における治療戦略. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) 石橋真理子¹⁾, 田村秀人¹⁾, 砂川実香¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科)：免疫チェックポイント分子B7-H1 (PD-L1) を介した多発性骨髄腫の病態進行. 日本骨髄腫学会学術集会 (第41回) (徳島県), 2016. 5.
- 2) 田村秀人¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 血液内科学)：血液がんに対する免疫治療の可能性. 日本医科大学・東京理科大学 第3回合同シンポジウム (東京都文京区), 2016. 12.
- 3) 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 血液内科学)：白血病幹細胞 Hippo pathway による遺伝子変異獲得と耐性機序の解明. 日本医科大学・東京理科大学 第3回合同シンポジウム (東京都文京区), 2016. 12.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 濱田泰子^{1,2)}, 水木太郎¹⁾, 佐々木純³⁾, 小松則夫³⁾, 半田 寛⁴⁾, 田村秀人²⁾, 田野崎栄¹⁾, 猪口孝一²⁾ (1) 同愛記念病院, 2) 日本医科大学 血液内科, 3) 順天堂大学医学部順天堂医院血液内科, 4) 群馬大学附属病院血液内科)：胃に形質細胞浸潤を来した多発性骨髄腫3症例と文献的考察. 日本骨髄腫学会学術集会 (第41回) (徳島県), 2016. 5.
- 2) 砂川実香¹⁾, 田村秀人¹⁾, 石橋真理子¹⁾, 今井陽一²⁾, 半田 寛³⁾, 佐々木純⁴⁾, 小松則夫⁴⁾, 田野崎栄⁵⁾, 磯田 淳⁶⁾, 松本守生⁶⁾, 伊藤薫樹⁷⁾, 石田陽治⁸⁾, 小池道明⁹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) 東京女子医科大学 血液内科, 3) 群馬大学医学部附属病院 血液内科, 4) 順天堂大学医学部順天堂医院 血液内科, 5) 同愛記念病院 血液内科, 6) 国立病院機構西群馬病院 血液内科, 7) 岩手医科大学 腫瘍内科学科, 8) 岩手医科大学 血液腫瘍内科, 9) 順天堂大学医学部附属静岡病院 血液内科)：可溶性B7-H1 (PD-L1) の機能と多発性骨髄腫患者における臨床的意義. 日本骨髄腫学会学術集会 (第41回) (徳島県), 2016. 5.
- 3) 山田晃子¹⁾, 田村秀人¹⁾, 石橋真理子¹⁾, 佐々木純²⁾, 今井陽一³⁾, 半田 寛⁴⁾, 田野崎栄⁵⁾, 伊藤薫樹⁶⁾, 石田陽治⁷⁾, 磯田 淳⁸⁾, 松本守生⁸⁾, 小池道明⁹⁾, 小松則夫²⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) 順天堂大学医学部順天堂医院 血液内科, 3) 東京女子医科大学 血液内科, 4) 群馬大学医学部附属病院 血液内科, 5) 同愛記念病院 血液内科, 6) 岩手医科大学 腫瘍内科学科, 7) 岩

- 手医科大学 血液腫瘍内科, ⁸⁾ 国立病院機構西群馬病院 血液内科, ⁹⁾ 順天堂大学医学部附属静岡病院 血液内科) : 形質細胞性白血病となり増悪した KL-6 産生骨髄腫の 1 例と骨髄腫における KL-6 の臨床的解析. 日本骨髄腫学会学術集会 (第 41 回) (徳島県), 2016. 5.
- 4) 添田沙織¹⁾, 田村秀人¹⁾, 石橋真理子¹⁾, 磯田 淳²⁾, 松本守生²⁾, 佐々木純³⁾, 小松則夫³⁾, 半田 寛⁴⁾, 今井陽一⁵⁾, 田野崎栄⁶⁾, 伊藤薫樹⁷⁾, 石田陽治⁸⁾, 小池道明⁹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科, 2) 国立病院機構西群馬病院 血液内科, 3) 順天堂大学医学部順天堂医院 血液内科, 4) 群馬大学医学部附属病院 血液内科, 5) 東京女子医科大学 血液内科, 6) 同愛記念病院 血液内科, 7) 岩手医科大学 腫瘍内科学科, 8) 岩手医科大学 血液腫瘍内科, 9) 順天堂大学医学部附属静岡病院 血液腫瘍内科) : 多発性骨髄腫における血清可溶性 SLAMP7 の臨床的意義. 日本骨髄腫学会学術集会 (第 41 回) (徳島県), 2016. 5.
- 5) 古田 稜¹⁾, 山口博樹¹⁾, 植木俊充²⁾, 臼杵憲祐³⁾, 小林 裕⁴⁾, 田近賢二⁵⁾, 五味聖二⁵⁾, 黒澤彩子⁶⁾, 齊藤理帆¹⁾, 土蔵太一朗¹⁾, 宮寺恵希¹⁾, 寺田和樹¹⁾, 福永景子¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 大崎由喜¹⁾, その他 5 名 (1) Dept.Hematology,Nippon Medical School,Tokyo,Japan, 2) Department of Hematology,Nagano Red Cross Hospital,Nagano,Japan, 3) Department of Hematology,NTT Medical Center Tokyo,Japan, 4) Department of Hematology,Kyoto Second Red Cross Hospital,Kyoto,Japan, 5) Department of Hematology,Yokohama Minami Kyou Sai Hospital,Kanagawa,Japan, 6) Stem Cell Transplantation Division,National Cancer Center Hospital,Tokyo,Japan) : The clinical features and prognostic impact of acute myeloid leukemia with NOCTH1/2 gene mutation. 日本血液学会学術集会 (第 78 回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 6) 海渡裕太¹⁾ (1) Division of Hematology,Nippon Medical School,Tokyo,Japan) : Clinical and laboratory features of mixed-phenotype acute leukemia. 日本血液学会学術集会 (第 78 回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 7) 山田晃子¹⁾, 田村秀人¹⁾, 石橋真理子¹⁾, 佐々木純²⁾, 小松則夫²⁾, 半田 寛³⁾, 今井陽一⁴⁾, 田野崎栄⁵⁾, 伊藤薫樹⁶⁾, 磯田 淳⁷⁾, 松本守生⁷⁾, 小池道明⁸⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) Division of Hematology,Department of Medicine,Nippon Medical School, 2) Division of Hematology,Department of Internal Medicine,Juntendo University School of Medicine, 3) Department of Medicine and Clinical Science,Gunma University Graduate School of Medicine, 4) Department of Hematology,Tokyo Women's Medical University, 5) Department of Hematology,Fraternity Memorial Hospital, 6) Department of Hematology and Oncology,Department of Internal Medicine,Iwate Medical University School of Medicine, 7) Department of Hematology,National Hospital Organization Nishigunma National Hospital, 8) Department of Hematology,Juntendo University Shizuoka Hospital) : An aggressive myeloma patient with high KL-6 production and clinical impact of serum KL-6 in myeloma. 日本血液学会学術集会 (第 78 回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 8) 守屋慶一¹⁾, 石橋真理子¹⁾, 田村秀人¹⁾, 半田 寛²⁾, 佐々木純³⁾, 磯田 淳⁴⁾, 今井陽一⁵⁾, 伊藤薫樹⁶⁾, 田野崎栄⁷⁾, 猪口孝一¹⁾, 小松則夫³⁾, 松本守生⁴⁾, 田中淳司⁵⁾, 小池道明⁸⁾ (1) Division of Hematology,Department of Medicine,Nippon Medical School,Tokyo,Japan, 2) Department of Medicine and Clinical Science,Gunma University Graduate School of Medicine,Gunma,Japan, 3) Division of Hematology,Department of Internal Medicine,Juntendo University School of Medicine,Tokyo,Japan, 4) Department of Hematology,National Hospital Organization Nishigunma National Hospital,Gunma,Japan, 5) Department of Hematology,Tokyo Women's Medical University,Tokyo,Japan, 6) Department of Medical Oncology,Iwate Medical University School of Medicine,Iwate,Japan, 7) Department of Hematology,Fraternity Memorial Hospital,Tokyo,Japan, 8) Department of Hematology,Juntendo University Shizuoka Hospital,Shizuoka,Japan) : Clinical significance of IL-6 and IGF-1 receptor expression on myeloma cells. 日本血液学会学術集会 (第 78 回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 9) 小野寺麻加^{1, 2)}, 田村秀人¹⁾, 兵頭英也¹⁾, 安武正弘¹⁾, 田野崎栄^{2, 3)}, 猪口孝一²⁾ (1) Nippon Medical School,Department of General Medicine,Tokyo,Japan, 2) Nippon Medical School,Department of Hematology,Tokyo,Japan, 3) The Fraternity Memorial Hospital,Tokyo,Japan) : Six patients with disseminated carcinomatosis of the bone marrow and literature review. 日本血液学会学術集会 (第 78 回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 10) 濱田泰子^{1, 2)}, 田村秀人²⁾, 守屋慶一²⁾, 水木太郎¹⁾, 田近賢二³⁾, 五味聖二³⁾, 猪口孝一²⁾, 田野崎栄¹⁾ (1) Division of Hematology,the Fraternity Memorial Hospital, 2) Division of Hematology,Department of Medicine Nippon Medical School, 3) Division of Hematology,Yokohama Minami Kyou Sai Hospital) : Pericardial effusion in three patients with myelodysplastic syndrome and literature review. 日本血液学会学術集会 (第 78 回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 11) 中山一隆¹⁾, 高久智生²⁾, 吉藤康太³⁾, 岡本宗雄¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 山口博樹¹⁾, 横瀬紀夫¹⁾, 熊谷隆志³⁾, 小松則夫²⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) Div. Hematology, Dept. Int. Med., Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Division of Hematology, Department of Medicine, Juntendo University School of Medicine, Japan, 3) Department of Hematology, Ohme Municipal General Hospital, Tokyo, Japan) : Clinical characteristics of CML with a complex three-way translocation in the era of TKIs therapy. 日本血液学会学術集会 (第 78 回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 12) 中山一隆¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 平川経晃¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 福永景子¹⁾, 大森郁子¹⁾, 丸毛淳史¹⁾, 藤原裕介¹⁾, 岡部雅弘¹⁾, 山口博樹¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学血液内科) : 造血器腫瘍に対する同種移植後に ICU 管理となった 17 例の臨床的特徴. 日本造血細胞移植学会

総会（第39回）（鳥根県松江市），2017. 3.

- 13) 大森郁子¹⁾，平川経晃¹⁾，山口博樹¹⁾，了徳寺剛¹⁾，藤原裕介¹⁾，丸毛淳史¹⁾，山中 聡¹⁾，由井俊輔¹⁾，福永景子¹⁾，岡部雅弘¹⁾，脇田知志¹⁾，玉井勇人¹⁾，岡本宗雄¹⁾，中山一隆¹⁾，猪口孝一¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院血液内科）：同種造血幹細胞移植に伴う肝障害の背景と予後. 日本造血細胞移植学会総会（第39回）（鳥根県松江市），2017. 3.
 - 14) 丸毛淳史¹⁾，平川経晃¹⁾，木下量介¹⁾，大森郁子¹⁾，山中 聡¹⁾，藤原裕介¹⁾，由井俊輔¹⁾，福永景子¹⁾，了徳寺剛¹⁾，岡部雅弘¹⁾，脇田知志¹⁾，玉井勇人¹⁾，岡本宗雄¹⁾，中山一隆¹⁾，山口博樹¹⁾，その他1名（¹⁾ 日本医科大学血液内科）：当院で施行した自家末梢血幹細胞採取患者における採取幹細胞数の検討. 日本造血細胞移植学会総会（第39回）（鳥根県松江市），2017. 3.
 - 15) Kaito Y¹⁾， Tamura H¹⁾， Soeda S¹⁾， Asayama T¹⁾， Mariko I¹⁾， Sasaki M³⁾， Handa H⁴⁾， Imai Y⁴⁾， Tanaka J⁵⁾， Tanosaki S⁶⁾， Ito S⁷⁾， Koiti I¹⁾（¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, ³⁾ Department of Medicine and Clinical Science, Gunma University Graduate School of Medicine, Maebashi, ⁴⁾ Department of Hematology/Oncology, the Institute of Medical Science, the University of Tokyo, Tokyo, ⁵⁾ Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, ⁶⁾ Department of Hematology, Fraternity Memorial Hospital, Tokyo, ⁷⁾ Division of Hematology and Oncology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan）：Serum soluble SLAMF7 is correlated with disease progression in multiple myeloma and may affect anti-SLAMF7 antibody therapy. 16th International Myeloma Workshop (New Delhi, India), 2017. 2.
 - 16) Sunakawa M¹⁾， Tamura H¹⁾， Ishibashi M¹⁾， Sasaki M²⁾， Handa H³⁾， Imai Y^{4,5)}， Tanaka J⁵⁾， Tanosaki S⁶⁾， Ito S⁷⁾， Inokuchi K¹⁾（¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Medicine and Clinical Science, Gunma University Graduate School of Medicine, Maebashi, Japan, ⁴⁾ Department of Hematology/Oncology, the Institute of Medical Science, the University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁵⁾ Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Hematology, Fraternity Memorial Hospital, Tokyo, Japan, ⁷⁾ Division of Hematology and Oncology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan）：Clinical impact and possible immunosuppressive function of soluble B7-H1 (PD-L1) in multiple myeloma. 16th International Myeloma Workshop (New Delhi, India), 2017. 2.
- (5) 一般講演：
- 1) 大森郁子¹⁾，中山一隆¹⁾，守屋慶一¹⁾，玉井勇人¹⁾，熊谷智昭²⁾，濱田泰子³⁾，山口博樹¹⁾，猪口孝一¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 血液内科，²⁾ 日本医科大学付属病院 神経内科，³⁾ 同愛記念病院 血液内科）：ITPに対する γ -グロブリン大量療法後に可逆性後頭葉白質脳症（PRES）を発症した1例. 日本血液学会 関東甲信越地方会（第5回）（新潟県），2016. 7.
 - 2) 朝山敏夫¹⁾，石橋真理子¹⁾，田村秀人¹⁾，濱田泰子¹⁾，奥山奈美子¹⁾，小野寺（近藤）麻加¹⁾，山田晃子¹⁾，守屋慶一¹⁾，横瀬紀夫²⁾，猪口孝一¹⁾（¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan）：The expression and function of Tim-3 in myelodysplastic syndromes. 日本血液学会学術集会（第78回）（神奈川県横浜市），2016. 10.
 - 3) 添田沙織¹⁾，田村秀人¹⁾，石橋真理子¹⁾，佐々木純²⁾，半田 寛³⁾，今井陽一⁴⁾，田野崎栄⁵⁾，磯田 淳⁶⁾，松本守生⁶⁾，伊藤薫樹⁷⁾，小池道明⁸⁾，小松則夫²⁾，猪口孝一¹⁾（¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Medicine and Clinical Science, Gunma University Graduate School of Medicine, Maebashi, Japan, ⁴⁾ Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan, ⁵⁾ Department of Hematology, Fraternity Memorial Hospital, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Hematology, National Hospital Organization Nishigunma National Hospital, Shibui, Japan, ⁷⁾ Department of Medical Oncology, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, ⁸⁾ Department of Hematology, Juntendo University Shizuoka Hospital, Shizuoka, Japan）：The impact of serum soluble SLAMF7 on myeloma pathogenesis and anti-SLAMF7 antibody-based therapy. 日本血液学会学術集会（第78回）（神奈川県横浜市），2016. 10.
 - 4) 石橋真理子¹⁾，田村秀人¹⁾，高橋理紗¹⁾，坪田朝子¹⁾，山田晃子¹⁾，朝山敏夫¹⁾，濱田泰子¹⁾，守屋慶一¹⁾，猪口孝一¹⁾（¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan）：The immunoreceptor SLAMF3 is associated with acquired drug resistance in multiple myeloma. 日本血液学会学術集会（第78回）（神奈川県横浜市），2016. 10.
 - 5) 岡部雅弘¹⁾，山口博樹¹⁾，白杵憲祐²⁾，小林 裕³⁾，河田英里³⁾，黒田純也⁴⁾，木村晋也⁵⁾，田近賢二⁶⁾，五味聖二⁶⁾，有馬靖佳⁷⁾，森慎一郎⁸⁾，伊藤薫樹⁹⁾，伊藤良和¹⁰⁾，脇田知志¹⁾，大崎由喜¹⁾，その他5名（¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Hematology, Japanese Red Cross Kyoto Daini Hospital, Kyoto, Japan, ⁴⁾ Division of Hematology and Oncology, Kyoto Prefectural University of Medicine, Kyoto, Japan, ⁵⁾ Division of Hematology, Respiratory and Medicine and Oncology, Department of Internal Medicine, Faculty

- of Medicine,Saga University,Saga,Japan, ⁶⁾ Division of Hematology,Yokohama Minami Kyou Sai Hospital,Kanagawa,Japan, ⁷⁾ Department of Hematology, Kitano Hospital,Osaka,Japan, ⁸⁾ Hemato-Oncology Department,St.Luke's International Hospital,Tokyo,Japan, ⁹⁾ Department of Medical Oncology,Iwate Medical University,Morioka,Japan, ¹⁰⁾ and others) : Mutational analysis of Japanese patients with triple mutations negative essential thrombocythemia. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 6) 坪田朝子¹⁾, 田村秀人¹⁾, 石橋真理子¹⁾, 佐々木純²⁾, 半田 寛³⁾, 今井陽一⁴⁾, 田野崎榮⁵⁾, 磯田 淳⁶⁾, 松本守生⁶⁾, 伊藤薫樹⁷⁾, 小池道明⁸⁾, 小松則夫²⁾, 猪口孝一¹⁾ (¹⁾ Division of Hematology,Department of Medicine,Nippon Medical School,Tokyo,Japan, ²⁾ Division of Hematology,Department of Internal Medicine,Juntendo University School of Medicine,Tokyo,Japan, ³⁾ Department of Medicine and Clinical Science,Gunma University Graduate School of Medicine,Maebashi,Japan, ⁴⁾ Department of Hematology,Tokyo Women's Medical University,Tokyo,Japan, ⁵⁾ Department of Hematology,Fraternity Memorial Hospital,Tokyo,Japan, ⁶⁾ Department of Hematology, National Hospital Organization Nishigunma National Hospital,Shibui,Japan, ⁷⁾ Department of Medical Oncology,Iwate Medical University School of Medicine,Morioka,Japan, ⁸⁾ Department of Hematology,Juntendo University Shizuoka Hospital,Shizuoka,Japan) : Clinical significance of serum soluble and plasma cell-surface SLAMF3 levels in multiple myeloma. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 7) 平川経晃^{1, 2)}, 田島絹子¹⁾, 黒澤彩子¹⁾, 山崎裕介¹⁾, 公益財団法人 日本骨髓バンク³⁾, 池田奈未⁴⁾, 小島裕人⁴⁾, 田中秀則⁴⁾, 金森平和⁵⁾, 宮村耕一⁶⁾, 小寺良高⁷⁾, 福田隆浩¹⁾ (¹⁾ 国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科, ²⁾ 日本医科大学 血液内科, ³⁾ 公益財団法人 日本骨髓バンク, ⁴⁾ 公益財団法人 HLA 研究所, ⁵⁾ 神奈川県立がんセンター 血液内科, ⁶⁾ 名古屋第一赤十字病院 血液内科, ⁷⁾ 愛知医科大学医学部 造血細胞移植振興寄付講座) : 過去10年間における骨髓バンクコーディネートの実情把握. 日本血液学会学術集会血液 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 8) 寺田和樹¹⁾, 山口博樹¹⁾, 植木俊充²⁾, 白杵憲祐³⁾, 小林 裕⁴⁾, 田近賢二⁵⁾, 五味聖二⁵⁾, 黒澤彩子⁶⁾, 宮寺恵希¹⁾, 丸毛淳史¹⁾, 藤原裕介¹⁾, 由井俊介¹⁾, 福永景子¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 大崎由喜¹⁾, その他5名 (¹⁾ Department of Hematology,Nippon Medical School,Tokyo, ²⁾ Nagano Red Cross Hospital,Nagano, ³⁾ Department of Hematology,NTT Medical Center,Tokyo, ⁴⁾ Department of Hematology,Kyoto Second Red Cross Hospital,Kyoto, ⁵⁾ Department of Hematology,Yokohama Minami Kyou Sai Hospital,Kanagawa, ⁶⁾ Stem Cell Transplantation Division,National Cancer Center Hospital) : TP53 abnormality in acute myeloid leukemia is associated with poor prognosis. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 9) 由井俊輔¹⁾, 黒澤彩子²⁾, 山口博樹¹⁾, 金森平和³⁾, 植木俊充⁴⁾, 魚嶋伸彦⁵⁾, 水野石一⁶⁾, 鐘野勝洋⁷⁾, 白杵憲祐⁸⁾, 大越 靖⁹⁾, 中邑幸伸¹⁰⁾, 柳田正光, 諫田淳也, 田近賢二, 五味聖二, その他6名 (¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan, ⁴⁾ Department of Hematology, Nagano Red Cross Hospital, Nagano, Japan, ⁵⁾ Department of Hematology, Japanese Red Cross, Kyoto Dai-ni Hospital, Kyoto, Japan, ⁶⁾ Department of Hematology, Hyogo Cancer Center, Akashi, Japan, ⁷⁾ Department of Hematology, Chiba Aoba Municipal Hospital, Chiba, Japan, ⁸⁾ Department of Hematology, NTT medical Center Tokyo, Tokyo, Japan, ⁹⁾ Department of Hematology, University of Tsukuba, Kasama, Japan, ¹⁰⁾ and others) : The prognostic impact of c-kit D816 mutations in core binding factor acute myeloid leukemia. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 10) 玉井勇人¹⁾, 山口博樹¹⁾, 三宅弘一²⁾, 鷹取美雪³⁾, 北野智章¹⁾, 由井俊輔¹⁾, 福永景子¹⁾, 中山一隆¹⁾, 猪口景子¹⁾ (¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology,Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology,Nippon Medical School,Tokyo, ³⁾ Research Center for Life Science,Nippon Medical School,Tokyo,Japan) : Amlexanox as a possible breakthrough of MLL/AF4-positive ALL. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 11) 藤原裕介¹⁾, 山口博樹¹⁾, 丸毛淳史¹⁾, 大森郁子¹⁾, 山中 聡¹⁾, 寺田和樹¹⁾, 由井俊輔¹⁾, 福永景子¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 岡部雅弘¹⁾, 脇田知志¹⁾, 大崎由喜¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 北野智章¹⁾, その他5名 (¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School) : Comprehensive analysis of gene mutations in the elderly patients with acute myeloid leukemia. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 12) 了徳寺剛¹⁾, 山口博樹¹⁾, 植木俊充²⁾, 白杵憲祐³⁾, 小林 裕⁴⁾, 田近賢二⁵⁾, 五味聖二⁵⁾, 黒澤彩子⁶⁾, 丸毛淳史⁶⁾, 藤原裕介¹⁾, 寺田和樹¹⁾, 由井俊輔¹⁾, 福永景子¹⁾, 脇田知志¹⁾, 大崎由喜¹⁾, その他6名 (¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Hematology,Nagano Red Cross Hospital,Nagano,Japan, ³⁾ Department of Hematology,NTT Medical Center Tokyo,Japan, ⁴⁾ Department of Hematology,Kyoto Second Red Cross Hospital,Kyoto,Japan, ⁵⁾ Department of Hematology,Yokohama Minami Kyou Sai Hospital,Kanagawa,Japan, ⁶⁾ Hematopoietic Stem Cell Transplantation,National Cancer Center Hospital,Tokyo,Japan) : Clinical characteristics and prognosis of acute myeloid leukemia with DNMT3A R882 mutation. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.

- 13) 齊藤理帆¹⁾, 山口博樹¹⁾, 植木俊充²⁾, 白杵憲祐³⁾, 小林 裕⁴⁾, 田近賢二⁵⁾, 五味聖二⁵⁾, 黒澤彩子⁶⁾, 古田 稔¹⁾, 土蔵太一朗¹⁾, 宮寺恵希¹⁾, 由井俊輔¹⁾, 福永景子¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 大崎由喜¹⁾, その他6名 (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Hematology, Nagano Red Cross Hospital, Nagano, Japan, (3) Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan, (4) Department of Hematology, Japanese Red Cross, Kyoto Dai-ni Hospital, Kyoto, Japan, (5) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyou Sai Hospital, Kanagawa, Japan, (6) Stem Cell Transplantation Division, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan) : The clinical features and prognostic impact of acute myeloid leukemia with BCOR/BCORL1 gene mutation. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 14) 福永景子¹⁾, 山口博樹²⁾, 植木俊充³⁾, 白杵憲祐⁴⁾, 小林 裕⁵⁾, 田近賢二¹⁾, 五味聖二¹⁾, 黒澤彩子⁶⁾, 丸毛淳史²⁾, 藤原裕介²⁾, 寺田和樹²⁾, 由井俊輔²⁾, 了徳寺剛²⁾, 脇田知志²⁾, 大崎由喜²⁾, その他6名 (1) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyou Sai Hospital, Kanagawa, Japan, (2) Department of Hematology, Nippon Medical School, (3) Department of Hematology, Nagano Red Cross Hospital, Nagano, (4) Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, (5) Department of Hematology, Kyoto Second Red Cross Hospital, (6) Stem Cell Transplantation Division, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan) : The clinical features and prognostic impact of AML with mutation in the cohesin complex genes. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 15) 丸毛淳史¹⁾, 山口博樹¹⁾, 大森郁子¹⁾, 山中 聡¹⁾, 藤原裕介¹⁾, 寺田和樹¹⁾, 由井俊輔¹⁾, 福永景子¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 岡部雅弘¹⁾, 脇田知志¹⁾, 荒井邦仁¹⁾, 北野智章¹⁾, 小坂文子¹⁾, その他4名 (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : High sensitivity analysis of DNMT3A R882 mutation is useful for minimal residual disease in AML. 日本血液学会学術集会 (第78回) (神奈川県横浜市), 2016. 10.
- 16) 平川経晃¹⁾, 山口博樹¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 藤原裕介¹⁾, 丸毛淳史¹⁾, 大森郁子¹⁾, 木下量介¹⁾, 山中 聡¹⁾, 由井俊輔¹⁾, 福永景子¹⁾, 岡部雅弘¹⁾, 脇田知志¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 岡本宗雄¹⁾, 中山一隆¹⁾, その他1名 (1) 日本医科大学血液内科) : 短期メソトレキセート投与におけるロイコボリンレスキューが毒性軽減に与える影響. 日本造血細胞移植学会総会 (第39回) (島根県松江市), 2017. 3.
- 17) Tamai H¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Miyake K²⁾, Takatori M³⁾, Kitano T¹⁾, Yui S¹⁾, Fukunaga K¹⁾, Nakayama K¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, 113-8603, Japan, (2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, Tokyo, (3) Research Center for Life Science, Nippon Medical School, Tokyo, 113-8603, Japan) : Amlexanox As a Possible Breakthrough Drug for MLL/AF4-Positive Acute Lymphoblastic Leukemia. 58th American Society of Hematology (San Diego, USA), 2016. 12.
- 18) 三神絵理奈¹⁾, 帆足俊彦¹⁾, 芹澤直隆¹⁾, 船坂陽子¹⁾, 丸毛淳史²⁾, 田村秀人²⁾, 猪口孝一²⁾, 佐伯秀久¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 皮膚科, (2) 日本医科大学付属病院 血液内科) : IgG κ 型多発性骨髄腫の皮膚転移による続発性皮膚形質細胞腫の1例. 日本皮膚科学会総会 (第115回) (京都市), 2016. 6.
- 19) 丸毛淳史¹⁾, 山口博樹¹⁾, 大森郁子¹⁾, 山中 聡¹⁾, 藤原裕介¹⁾, 由井俊輔¹⁾, 福永景子¹⁾, 了徳寺剛¹⁾, 平川経晃¹⁾, 岡部雅弘¹⁾, 脇田知志¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 岡本宗雄¹⁾, 中山一隆¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 日本医科大学 血液内科) : 造血器幹細胞移植に伴う非感染性呼吸器合併症の検討. 日本内科学会総会・講演会 (第113回) (東京都), 2016. 4.
- 20) Yui S¹⁾, Kurosawa S²⁾, Yamaguchi H¹⁾, Kanamori H³⁾, Ueki T⁴⁾, Uoshima N⁵⁾, Mizuno I⁶⁾, Shono K⁷⁾, Usuki K⁸⁾, Okoshi Y⁹⁾, Nakamura Y¹⁰⁾, Yanada M, Kanda J, Tajika K, Gomi S, et al. (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan, (3) Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan, (4) Department of Hematology, Nagano Red Cross Hospital, Nagano, Japan, (5) Department of Hematology, Japanese Red Cross, Kyoto dai-ni Hospital, Kyoto, Japan, (6) Department of Hematology, Hyogo Cancer Center, Akashi, Japan, (7) Department of Hematology, Chiba Aoba Municipal Hospital, Chiba, Japan, (8) Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan, (9) Department of Hematology, University of Tsukuba, Kasama, Japan, (10) and others) : The Prognostic Impact of KIT D816 Mutations in Core Binding Factor Acute Myeloid Leukemia. 58th American Society of Hematology (San Diego, USA), 2016. 12.

論文

{追加分}

追加分原著 :

- 1) Tamai H¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Miyake K²⁾, Takatori M³⁾, Kitano T⁴⁾, Dan K⁵⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Research center for Life Science, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (4) Research Center for Life Science, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (5) Medical Education Center, Ryotokuji University, Urayasu, Japan) : Leukemogenicity of RCSD1 and Sensitivity to TKIs Vary between Fusion sites in Phlike Acute Lymphoblastic Leukemia. International Journal of Recent scientific Research 2016 ; 7 (3) : 9729-9733.
- 2) Kobayashi S¹⁾, Ueda Y²⁾, Nannya Y³⁾, Shibayama H⁴⁾, Tamura H⁵⁾, Ogata K^{5,6)}, Akatsuka Y⁷⁾, Usuki K⁸⁾, Ito Y⁹⁾, Okada

M¹⁰), Suzuki T, Hata T, Matsuda A, Tohyama K, Kakumoto K, et al. ⁽¹⁾ Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine, ⁽²⁾ Department of Haematology/Oncology, Transfusion and Haemapheresis Center, Kurashiki Central Hospital, ⁽³⁾ Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ⁽⁴⁾ Department of Hematology and Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, ⁽⁵⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, ⁽⁶⁾ Department of Hematology, Shin-Yurigaoka General Hospital, ⁽⁷⁾ Department of Hematology, Fujita Health University School of Medicine, ⁽⁸⁾ Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, ⁽⁹⁾ Department of Hematology, Tokyo Medical University Hospital, ⁽¹⁰⁾ and others) : Prognostic significance of Wilms tumor 1 mRNA expression levels in peripheral blood and bone marrow in patients with myelodysplastic syndromes. *Cancer Biomarkers* 2016 ; 17 (1) : 21-32.

- 3) Tamai H¹), Yamanaka S¹), Yamaguchi H¹), Nakayama K¹), Inokuchi K¹) ⁽¹⁾ Department of Hematology Nippon Medical School) : Effective Management of Acute promyelocytic leukemia with high risk of fatal intracranial hemorrhage. *Medical Science* 2015 ; 8 (262).

著書

追加分 :

- 1) 田村秀人¹) ⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科) : [自著] 貧血. *ガイドライン外来診療* 2016年版, 2016 ; pp154-161, 日経メディカル開発.
2) 濱田泰子¹), 田村秀人¹) ⁽¹⁾ 日本医科大学 血液内科) : [自著] Monoclonal gammopathy of undetermined significance (MGUS). *日本臨床*, 2016 ; pp771-775, 日本臨牀社.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) Ishibashi M¹), Tamura H¹), Asayama T¹), Onodera A¹), Moriya K¹), Sasaki M²), Handa H³), Imai Y^{4,5}), Tanaka J⁵), Tanosaki S⁶), Ito S⁷), Komatsu N²), Inokuchi K¹) ⁽¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, ⁽²⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Juntendo University School of Medicine, ⁽³⁾ Department of Medicine and Clinical Science, Gunma University Graduate School of Medicine, ⁽⁴⁾ Department of Hematology/Oncology, the Institute of Medical Science, the University of Tokyo, ⁽⁵⁾ Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University, ⁽⁶⁾ Department of Hematology, Fraternity Memorial Hospital, ⁽⁷⁾ Department of Medical Oncology, Iwate Medical University School of Medicine) : Pathophysiological functions and clinical impact of the new immunoreceptor SLAMF3 in multiple myeloma. *The 22nd European Hematology Association (2017EHA) (Madrid, Spain)*, 2017. 6.
2) Kuribayashi-Hamada Y¹), Ishibashi M¹), Tamura H¹), Moriya K¹), Asayama T¹), Jeon Y²), Choi I²), Inokuchi K¹) ⁽¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, Japan, ⁽²⁾ Department of Microbiology and Immunology, Inje University College of Medicine, Korea) : V-set and immunoglobulin domain-containing 4 (VSIG4) expressed on monocytes including tumor-associated macrophages suppressed antitumor immune responses in myelodysplastic syndromes. *The 22nd European Hematology Association (2017EHA) (Madrid, Spain)*, 2017. 6.
3) 市山 進¹), 船坂陽子¹), 山下裕子¹), 岡部雅弘²), 玉井勇人²), 田村秀人²), 佐伯秀久¹) ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 皮膚科, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院 血液内科) : 多発性骨髄腫に対するサリドマイドによる好酸球浸潤を伴った白血球破砕性血管炎の1例. *日本皮膚科学会東京支部学術大会 (第79回) (東京都)*, 2016. 2.

[千葉北総病院血液内科]

研究概要

血液内科 概要白血病, 悪性リンパ腫, 多発性骨髄腫等の造血器腫瘍, 造血不全症, 血小板減少症など血液疾患全般の診療に当たっています. 当科では原則的に病名を告知し, 病状・治療方針・予想される副作用について詳しくご説明し, 納得して頂いたうえで治療を開始しています. 個々の患者さんにとってのベストの治療法を御本人・御家族とともに考え, 治癒のみならず, 患者満足度の高い医療を目指しています. 自家末梢血幹細胞移植を H21 年度より開始して, 症例を蓄積しています. H23 年度には同系 (一卵性双生児) 末梢血幹細胞移植を実施しました. 骨髄増殖性腫瘍の JAK2 遺伝子の解析を行っています. 骨髄異形成症候群に対する少量メルファラン療法に関する臨床研究を実施しています. また, 慢性骨髄性白血病の分子標的治療に関する研究 (ダサチニブの stop 試験), 治療抵抗性・再発性高齢多発性骨髄腫に対する新規化学療法といった多施設共同研究に参加しています. 日本血液学会の総会および地方会で研究・症例報告を行いました.

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Yui S, Kurosawa S²⁾, Yamaguchi H¹⁾, Kanamori H³⁾, Ueki T⁴⁾, Uoshima N⁵⁾, Ishikazu M⁶⁾, Shono K⁷⁾, Usuki K⁸⁾, Okoshi Y⁹⁾, Nakamura Y¹⁰⁾, Fukunaga K¹⁾, Wakita S¹⁾, Ryoutokuji T¹⁾, Inokuchi K¹⁾, et al. (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, 2) Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, 3) Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, 4) Department of Hematology, Nagano Red Cross Hospital, 5) Department of Hematology, Japanese Red Cross, Kyoto dai-ni Hospital, 6) Department of Hematology, Hyogo Cancer Center, 7) Department of Hematology, Chiba Aoba Municipal Hospital, 8) Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, 9) Department of Hematology, University of Tsukuba, 10) and others) : The prognostic impact of c-kit D816 mutations in core binding factor acute myeloid leukemia. 日本血液学会学術集会 (第78回) (横浜市), 2016. 10.
- 2) Asayama T¹⁾, Ishibashi M¹⁾, Tamura H¹⁾, Hamada Y¹⁾, Okuyama N¹⁾, Onodera A¹⁾, Yamada A¹⁾, Moriya K¹⁾, Yokose N²⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital) : The expression and function of Tim-3 in myelodysplastic syndromes. 日本血液学会学術集会 (第78回) (横浜市), 2016. 10.
- 3) Nakayama K¹⁾, Takaku T²⁾, Yoshifuji K³⁾, Okamoto M¹⁾, Tamai H¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Yokose N⁴⁾, Kumagai T³⁾, Komatsu N²⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Hematology, Department of Medicine, Juntendo University School of Medicine, 3) Department of Hematology, Ohme Municipal General Hospital, 4) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital) : Clinical characteristics of CML with a complex three-way translocation in the era of TKIs therapy. 日本血液学会学術集会 (第78回) (横浜市), 2016. 10.
- 4) Kurosawa S¹⁾, Yamaguchi H²⁾, Yamaguchi T³⁾, Fukunaga K²⁾, Yui S, Uoshima N⁴⁾, Kanamori H⁵⁾, Usuki K⁶⁾, Yanada M⁷⁾, Takeuchi J⁸⁾, Mizuno I⁹⁾, Kanda J¹⁰⁾, Inokuchi K²⁾, Fukuda T¹⁾, et al. (1) Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, 2) Department of Hematology, Nippon Medical School, 3) Division of Biostatistics, Tohoku University Graduate School of Medicine, 4) Department of Hematology, Japanese Red Cross, Kyoto Dai-ni Hospital, 5) Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, 6) Department of Hematology, NTT Medical Center, 7) Department of Hematology, Fujita Health University School of Medicine, 8) Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine, 9) Department of Hematology, Hyogo Cancer Center, 10) and others) : The impact of FLT3-ITD, NPM1 and CEBPA on prognosis of intermediate-risk AML after relapse. 日本血液学会学術集会 (第78回) (横浜市), 2016. 10.
- 5) Terada K¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Ueki T²⁾, Usuki K³⁾, Kobayashi Y⁴⁾, Tajika K⁵⁾, Gomi S⁵⁾, Kurosawa S⁶⁾, Miyadera K¹⁾, Marumo A¹⁾, Fujiwara Y¹⁾, Yui S, Fukunaga K¹⁾, Ryoutokuji T¹⁾, Inokuchi K¹⁾, et al. (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, 2) Nagano Red Cross Hospital, Nagano, 3) Department of Hematology, NTT Medical Center, 4) Department of Hematology, Kyoto Second Red Cross Hospital, 5) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyousai Hospital, 6) Stem Cell Transplantation Division, National Cancer Center Hospital) : TP53 abnormality in acute myeloid leukemia is associated with poor prognosis. 日本血液学会学術集会 (第78回) (横浜市), 2016. 10.
- 6) Tamai H¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Miyake K²⁾, Takatori M³⁾, Kitano T¹⁾, Yui S, Fukunaga K¹⁾, Nakayama K¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, 2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, 3) Research Center for Life Science, Nippon Medical School) : Amlexanox as a possible breakthrough of MLL/AF4-positive ALL. 日本血液学会学術集会 (第78回) (横浜市), 2016. 10.
- 7) Ryotokuji T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Ueki T²⁾, Usuki K³⁾, Kobayashi Y⁴⁾, Tajika K⁵⁾, Gomi S⁵⁾, Kurosawa S⁶⁾, Marumo A¹⁾, Fujiwara Y¹⁾, Terada K¹⁾, Yui S, Fukunaga K¹⁾, Wakita S¹⁾, Inokuchi K¹⁾, et al. (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, 2) Department of Hematology, Nagano Red Cross Hospital, 3) Department of Hematology, NTT Medical Center, 4) Department of Hematology, Kyoto Second Red Cross Hospital, 5) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyousai Hospital, 6) Hematopoietic Stem Cell Transplantation Division, National Cancer Center Hospital) : Clinical characteristics and prognosis of acute myeloid leukemia with DNMT3A R882 mutation. 日本血液学会学術集会 (第78回) (横浜市), 2016. 10.
- 8) Saito R¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Ueki T²⁾, Usuki K³⁾, Kobayashi Y⁴⁾, Tajika K⁵⁾, Gomi S⁵⁾, Kurosawa S⁶⁾, Furuta Y¹⁾, Tokura T¹⁾, Miyadera K¹⁾, Yui S, Fukunaga K¹⁾, Ryoutokuji T¹⁾, Inokuchi K¹⁾, et al. (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, 2) Department of Hematology, Nagano Red Cross Hospital, 3) Department of Hematology, NTT Medical Center, 4) Department of Hematology, Japanese Red Cross, Kyoto Dai-ni Hospital, 5) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyousai Hospital, 6) Stem Cell Transplantation Division, National Cancer Center Hospital) : The clinical features and prognostic impact of acute

- myeloid leukemia with BCOR/BCORL1 gene mutation. 日本血液学会学術集会（第78回）（横浜市），2016. 10.
- 9) Fukunaga K¹, Yamaguchi H², Ueki T³, Usuki K⁴, Kobayashi K⁵, Tajika K¹, Gomi S¹, Kurosawa S⁶, Marumo A², Fujiwara Y², Terada K², Yui S, Ryoutokuji T², Wakita S², Inokuchi K², et al. ⁽¹⁾ Department of Hematology, Yokohama Minami Kyousoi Hospital, ⁽²⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School, ⁽³⁾ Department of Hematology, Nagano Red Cross Hospital, ⁽⁴⁾ Department of Hematology, NTT Medical Center, ⁽⁵⁾ Department of Hematology, Kyoto Second Red Cross Hospital, ⁽⁶⁾ Stem Cell Transplantation Division, National Cancer Center Hospital) : The clinical features and prognostic impact of AML with mutation in the cohesin complex genes. 日本血液学会学術集会（第78回）（横浜市），2016. 10.
- 10) Marumo A¹, Yamaguchi H¹, Omori I¹, Yamanaka S, Fujiwara Y¹, Terada K¹, Yui S, Fukunaga K¹, Ryotokuji T¹, Hirakawa T¹, Okabe M¹, Wakita S¹, Arai K¹, Kitano T¹, Inokuchi K¹, et al. ⁽¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School) : High sensitivity analysis of DNMT3A R882 mutation is useful for minimal residual disease in AML. 日本血液学会学術集会（第78回）（横浜市），2016. 10.
- 11) Fujiwara Y¹, Yamaguchi H¹, Marumo A¹, Omori I¹, Yamanaka S, Terada K¹, Yui S, Fukunaga K¹, Ryotokuji T¹, Hirakawa T¹, Okabe M¹, Wakita S¹, Osaki Y¹, Arai K¹, Inokuchi K¹, et al. ⁽¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School) : Comprehensive analysis of gene mutations in the elderly patients with acute myeloid leukemia. 日本血液学会学術集会（第78回）（横浜市），2016. 10.

追加分一般講演：

- 1) 瀬理 祥, 由井俊輔, 藤原祐介¹, 横瀬紀夫, 猪口孝一¹ ⁽¹⁾ 付属病院血液内科) : 前立腺肥大として発症し診断に苦慮した小型 B 細胞リンパ腫の 1 例. 日本血液学会関東甲信越地方会（第4回）（東京都），2016. 3.

7. 消化器内科学分野

[付属病院消化器・肝臓内科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Futagami S, Yamawaki H, Hashimoto S, Iwakiri K : Sleep Disturbances in Functional Gastrointestinal Disorders. Intern Med. 2016 ; 55 (12) : 1509-1510.
- 2) Nakagawa A, Atsukawa M, Tubota A, Kondo C, Okubo T, Arai T, Itokawa N, Narahara Y, Iwakiri K : Usefulness of portal vein pressure for predicting the effects of tolvaptan in cirrhotic patients. World J Gastroenterol 2016 ; 22 (21) : 5104-5113.
- 3) 岩切勝彦, 星野慎太郎, 川見典之 : IV. 逆流性食道炎の危険因子と対策 : 一過性 LES 弛緩. 日本臨床 2016 ; 74 (8) : 1343-1348.
- 4) 橋本知美, 二神生爾, 金子恵子, 山脇博士, 河越哲郎, 中塚雄久, 川本智章, 三宅一昌, 坂本長逸, 赤水尚史¹⁾, 岩切勝彦¹⁾ (和歌山県立医科大学 内科学 第一講座) : EPS 症例における潜在的膵機能障害の検討. Ulcer Research 2016 ; 43 : 91-95.
- 5) 藤森俊二, 岩切勝彦 : NSAIDs 起因性小腸潰瘍の発症メカニズム : 臨床的見地から. G. I. Research 2016 ; 24 (5) : 40-46.
- 6) Hoshino S, Kawami N, Takenouchi N, Umezawa M, Hanada Y, Hoshikawa Y, Kawagoe T, Sano H, Hoshihara Y, Nomura IT, Iwakiri K¹⁾ (Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine) : Efficacy of Vonoprazan for Proton Pump Inhibitor-Resistant Reflux Esophagitis. Digestion 2017 ; 95 (2) : 156-161.
- 7) Kawami N, Takenouchi N, Umezawa M, Hoshino S, Hanada Y, Hoshikawa Y, Sano H, Hoshihara Y, Nomura T¹⁾, Uchida E¹⁾, Iwakiri K¹⁾ (Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine) : Pathogenesis of Double-Dose Proton Pump Inhibitor-Resistant Non-Erosive Reflux Disease, and Mechanism of Reflux Symptoms and Gastric Acid Secretion-Suppressive Effect in the Presence or Absence of Helicobacter pylori Infection. Digestion 2017 ; 95 (2) : 140-145.
- 8) Sakaguchi M¹⁾, Manabe N²⁾, Ueki N³⁾, Miwa J⁴⁾, Inaba T⁵⁾, Yoshida N⁶⁾, Sakurai K⁷⁾, Nakagawa M⁸⁾, Yamada H⁹⁾, Saito M¹⁰⁾, Nakada K, Iwakiri K, Joh T, Haruma K¹⁾ (Department of Gastroenterology, Moriguchi Keijinkai Hospital, Osaka, ²⁾ Division of Endoscopy and Ultrasonography, Department of Clinical Pathology and Laboratory Medicine, Kawasaki Medical School, Okayama, ³⁾ Department of Internal Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Rosai Hospital, Tokyo, ⁴⁾ Department of Gastroenterology, Toshiba General Hospital, Tokyo, ⁵⁾ Department of Gastroenterology, Kagawa Prefectural Central Hospital, Kagawa, ⁶⁾ Department of Gastroenterology, Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital, Kyoto, ⁷⁾ Hattori Clinic, Kumamoto, ⁸⁾ Department of Endoscopy, Hiroshima City Hospital, Hiroshima, ⁹⁾ Department of Gastroenterology and Hepatology, Shinko Hospital, Kobe, ¹⁰⁾ and others) : Factors associated with complicated erosive esophagitis : A Japanese multicenter, prospective, cross-sectional study. World Journal of Gastroenterology 2017 ; 23 (2) : 318-327.
- 9) Kinoshita Y¹⁾, Sakurai Y²⁾, Shiino M²⁾, Kudou K²⁾, Nishimura A²⁾, Miyagi T³⁾, Iwakiri K, Umegaki E⁴⁾, Ashida K⁵⁾ (1) Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine, Izumo, ²⁾ Takeda Development Center, Osaka, ³⁾ Department of Gastroenterology and Hepatology, Yao Municipal Hospital, Yao, ⁴⁾ Department of Gastroenterology, Kobe University Graduate School of Medicine, Kobe, ⁵⁾ Department of Gastroenterology, Rakuwakai Otowa Hospital, Kyoto) : Evaluation of the Efficacy and Safety of Vonoprazan in Patients with Nonerosive Gastroesophageal Reflux Disease : A Phase III, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Multicenter Study. Current Therapeutic Research 2016 ; 81-82 : 1-7.
- 10) Nomura T¹⁾, Iwakiri K, Matsutani T¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Fujita I¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Makino H²⁾, Kawami N, Miyashita M³⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ³⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Characteristics and Outcomes of Laparoscopic Surgery in Patients with Gastroesophageal Reflux and Related Disease : A Single Center Experience. J Nippon Med Sch 2017 ; 84 (1) : 25-31.

(2) 総説：

- 1) 二神生爾, 山脇博士, 橋本知美, 岩切勝彦 : 機能性ディスぺプシア : 病態の新たな展開. 日本消化器病学会雑誌 2016 ; 113 (6) : 927-935.
- 2) 二神生爾, 山脇博士, 岩切勝彦 : 慢性便秘の病態 : なぜ便秘になるのか? . medicina 2016 ; 53 (9) : 1319-1321.
- 3) 岩切勝彦 : 「他領域からのトピックス」胃食道逆流症 (GERD) 診療ガイドライン. 日本耳鼻咽喉科学会会報 2016 ; 119 (10) : 1273-1281.

- 4) 星野慎太郎, 川見典之, 岩切勝彦:胃酸分泌抑制薬による治療の現状:(4)逆流性食道炎. 臨牀消化器内科 2017;32(2):199-204.
- (3) 解説:
- 1) 川見典之, 岩切勝彦:手技の解説:上部消化管運動機能検査 Starlet®. 臨牀消化器内科 2016;31(12):1646-1651.

著書

- 1) 二神生爾, 山脇博士, 岩切勝彦:[共著]慢性便秘総論:慢性便秘の病態 なぜ便秘になるのか?. medicina, 2016; pp1319-1321, 株式会社医学書院.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 岩切勝彦:食道運動異常症の内視鏡診断. 日本消化器内視鏡学会北陸支部例会(第108回)(金沢), 2016. 12.

(2) 教育講演:

- 1) 岩切勝彦:食道良性疾患の病態・診断・治療(「一歩進んだ消化器病学-診断と治療-」. 日本消化器病学会関東支部教育講演会(第29回)(東京), 2016. 11.

(3) シンポジウム:

- 1) Iwakiri K:Japanese guidelines for the management of GERD, what is new?. ANMA & JSNM Joint Meeting 2017(大阪), 2017. 3.

(4) セミナー:

- 1) 岩切勝彦:内視鏡検査による食道運動異常の評価. 日本消化器内視鏡学会中国支部例会(第116回)(出雲), 2016. 6.
- 2) 岩切勝彦:逆流性食道炎とその他食道良性疾患の内視鏡診断と治療. 日本消化器内視鏡学会四国支部例会(第117回)(松山), 2016. 12.

(5) ワークショップ:

- 1) 中田浩二¹⁾, 松橋信行²⁾, 城 卓志³⁾, 樋口和秀⁴⁾, 岩切勝彦⁴⁾, 春間 賢⁴⁾ (1) 慈恵医科大学 外科, 2) NTT 東日本関東病院 消化器外科, 3) 名古屋市立大学 医学部 消化器・代謝内科学, 4) GERD 研究会):逆流性食道円重症度と GERD 患者の臨床的特徴および PPI 治療反応性に関する検討. 日本食道学会学術集会(第70回)(東京), 2016. 7.
- 2) 眞部紀明¹⁾, 春間 賢²⁾, 中田浩二³⁾, 岩切勝彦 (1) 川崎医科大学 内視鏡・超音波センター, 2) 川崎医科大学川崎病院 総合内科 2, 3) 川村病院 外科):逆流性食道炎の臨床像と食道合併症に関する危険因子-多施設共同前向き横断研究-. 日本食道学会学術集会(第70回)(東京), 2016. 7.
- 3) 星野慎太郎, 川見典之, 星川吉正, 花田優理子, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 星原芳雄, 野村 務, 岩切勝彦¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科学):PPI 抵抗性逆流性食道炎に対するボノプラザンの治療効果. 日本食道学会学術集会(第70回)(東京), 2016. 7.
- 4) 野村 務, 岩切勝彦, 松谷 毅, 萩原信敏, 藤田逸郎, 牧野浩司, 金沢義一, 川見典之, 宮下正夫, 内田英二:GERD に対する外科治療:病態による臨床像と治療成績の比較. 日本食道学会学術集会(第70回)(東京), 2016. 7.
- 5) 山脇博士, 二神生爾, 岩切勝彦:FD 患者における膈機能障害の検討 -超音波内視鏡の有用性-. 日本消化器病学会大会(第58回)(神戸), 2016. 11.
- 6) 糸川典夫, 厚川正則, 岩切勝彦:B型慢性肝炎に対する Peg-IFN 療法における治療効果予測因子の検討:HBs 抗原量低下に着目して. 日本消化器病学会大会(第58回)(神戸), 2016. 11.
- 7) 星野慎太郎, 川見典之, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 星川吉正, 花田優理子, 佐野弘仁, 星原芳雄, 岩切勝彦:PPI 抵抗性逆流性食道炎に対するボノプラザンの治療効果. 日本消化管学会総会学術集会(第13回)(名古屋), 2017. 2.
- 8) 川見典之, 星野慎太郎, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 星川吉正, 花田優理子, 佐野弘仁, 星原芳雄, 岩切勝彦:P-CAB 抵抗性 NERD の病態. 日本消化管学会総会学術集会(第13回)(名古屋), 2017. 2.

(6) 一般講演:

- 1) 片岡宏章, 川見典之, 星川吉正, 花田優理子, 星野慎太郎, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 星原芳雄, 岩切勝彦, 野村 務¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科学):食道筋層の著明な肥厚を認め外科的筋層切開術で改善した Jackhammer esophagus の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会(第340回)(東京), 2016. 7.
- 2) 川見典之, 梅澤まり子, 竹之内菜菜, 星野慎太郎, 花田優理子, 星川吉正, 河越哲郎, 野村 務¹⁾, 星原芳雄, 岩切勝彦 (1) 日本医科大学 消化器外科学):2012年と2015年のシカゴ分類(食道運動障害分類)の比較検討. 日本食道学会学術集会(第70回)(東京), 2016. 7.
- 3) 星川吉正, 川見典之, 竹之内菜菜, 星野慎太郎, 花田優理子, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 河越哲郎, 星原芳雄, 岩切勝彦:PPI 抵抗性 NERD 患者におけるピロリ感染の有無による酸分泌抑制効果と症状出現の機序. 日本食道学会学術集会(第70回)(東京), 2016.

- 7.
- 4) 梅田隆満, 河越哲郎, 梅澤まり子, 川見典之, 荻原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 大川敬一²⁾, 宮下正夫³⁾, 岩切勝彦 (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科学, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科, ³⁾ 元郷病院) : 集学的治療により長期生存が得られた根治術後再発食道癌の1例. 日本食道学会学術集会 (第70回) (東京), 2016. 7.
 - 5) Iwakiri K, Umegaki E¹⁾, Hiramatsu N²⁾, Sakurai Y³⁾, Shiino M³⁾, Okamoto H³⁾, Nishimura A³⁾, Ashida K⁴⁾ (¹⁾ Kobe University Graduate School of Medicine, Kobe, Japan, ²⁾ Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, Japan, ³⁾ Takeda Pharmaceutical Company, Ltd., Osaka, Japan, ⁴⁾ Otowa Hospital, Kyoto, Japan) : A Phase 3, Randomized, Double-Blind, Multicenter Study to Evaluate the Dose-Response Relationships of Acid-Inhibitory Effect of Vonoprazan (20 mg, 40 mg) in Patients With Proton Pump Inhibitor-Resistant Erosive Esophagitis. AGA 2016 (San Diego, U.S.A.), 2016. 5.
 - 6) Hanada Y, Hoshino S, Hoshikawa Y, Takenouchi N, Umezawa M, Kawami N, Hoshihara Y, Iwakiri K : Efficacy of Vonoprazan on PPI-Resistant Reflux Esophagitis. AGA 2016 (San Diego, U.S.A.), 2016. 5.
 - 7) Kawami N, Yamada A, Hoshihara Y, Hanada Y, Hoshikawa Y, Takenouchi N, Hoshino S, Umezawa M, Aida J¹⁾, Takubo K¹⁾, Iwakiri K (¹⁾ Research Team for Geriatric Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology, Tokyo, Japan) : Circumferential Distribution of Mild Esophageal Mucosal Break (Los Angeles Classification Grades a and B) in the Lower Esophagus. AGA 2016 (San Diego, U.S.A.), 2016. 5.
 - 8) 星野慎太郎, 花田優理子, 川見典之, 星川吉正, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 星原芳雄, 岩切勝彦 : 内視鏡検査による滑脱型裂孔ヘルニアの診断は食道内圧診断と一致せず, 過剰診断されている. 日本平滑筋学会総会 (第58回) (仙台), 2016. 8.
 - 9) 桐田久美子, 鈴木将大, 高木信介, 重松 秀, 西本崇良, 秋元直彦, 大森 順, 佐藤 航, 小杉友紀, 馬來康太郎, 江原彰仁, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, その他2名 : 虫垂原発の Mixed Adenoneuroendocrine Carcinoma (MANEC) の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第341回) (東京), 2016. 9.
 - 10) 小泉英里子, 江原彰仁, 重松 秀, 高木信介, 西本崇良, 大森 順, 秋元直彦, 佐藤 航, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, その他2名 : 小腸憩室に対するダブルバルーン内視鏡の有用性について. 日本消化器病学会関東支部例会 (第341回) (東京), 2016. 9.
 - 11) 星野慎太郎, 川見典之, 星川吉正, 花田優理子, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 星原芳雄, 岩切勝彦 : PPI 抵抗性逆流性食道炎に対するボノプラザンの治療効果. 消化器疾患病態治療研究会 (第25回) (高崎), 2016. 9.
 - 12) 星野慎太郎, 花田優理子, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 星川吉正, 佐野弘仁, 川見典之, 星原芳雄, 岩切勝彦 : PPI 抵抗性逆流性食道炎に対するボノプラザンの治療効果. 日本消化器病学会大会 (第58回) (神戸), 2016. 11.
 - 13) 植木信江, 鮑本哲兵, 丸木雄太, 山脇博士, 小高康裕, 名児耶浩幸, 楠 正典, 河越哲郎, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦 : 高齢者の胃腫瘍性病変におけるESDの有効性と安全性. 日本消化器病学会大会 (第58回) (神戸), 2016. 11.
 - 14) 川見典之, 竹之内菜菜, 星野慎太郎, 梅澤まり子, 花田優理子, 星川吉正, 佐野弘仁, 星原芳雄, 岩切勝彦 : 2012年と2015年の食道運動障害分類-シカゴ分類による診断の変化. 日本消化器病学会大会 (第58回) (神戸), 2016. 11.
 - 15) 樋口和寿, 二神生爾, 山脇博士, 金子恵子, 橋本知実, 小高康裕, 名児耶浩幸, 植木信江, 河越哲郎, 中塚雄久, 川本智章, 岩切勝彦 : 難治性心窩部痛症候群に対しEUS施行することで早期慢性膵炎と診断できた5症例. 日本消化器病学会大会 (第58回) (神戸), 2016. 11.
 - 16) 星川吉正, 川見典之, 竹之内菜菜, 星野慎太郎, 花田優理子, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 星原芳雄, 岩切勝彦 : PPI 抵抗性NERD患者におけるピロリ感染の有無による酸分泌抑制効果と症状出現の機序. 日本消化器病学会大会 (第58回) (神戸), 2016. 11.
 - 17) 花田優理子, 川見典之, 星野慎太郎, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 星川吉正, 佐野弘仁, 星原芳雄, 岩切勝彦 : P-CAB 抵抗性NERDの原因. 日本消化器病学会大会 (第58回) (神戸), 2016. 11.
 - 18) 星野慎太郎, 星川吉正, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 花田優理子, 佐野弘仁, 川見典之, 星原芳雄, 岩切勝彦 : “Esophageal Rosette” を認めないアカラシア患者の下部食道内視鏡所見. 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 (第103回) (東京), 2016. 12.
 - 19) 川本愛美, 河越哲郎, 丸木雄太, 鮑本哲兵, 山脇博士, 小高康裕, 新福摩弓, 名児耶浩幸, 植木信江, 二神生爾, 岩切勝彦 : 長期観察し得た化学療法による臨床的CR達成切除不能胃癌の1例. 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 (第103回) (東京), 2016. 12.
 - 20) 河越哲郎, 丸木雄太, 池田 剛, 名児耶浩幸, 小杉友紀, 植木信江, 辰口篤志, 二神生爾, 岩切勝彦 : 高腫瘍量切除不能大腸癌の治療戦略. 日本消化管学会総会学術集会 (第13回) (名古屋), 2017. 2.
 - 21) 星川吉正, 星野慎太郎, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 花田優理子, 佐野弘仁, 川見典之, 星原芳雄, 岩切勝彦 : “Esophageal Rosette” を認めないアカラシア患者の下部食道内視鏡所見. 日本消化管学会総会学術集会 (第13回) (名古屋), 2017. 2.
 - 22) Kawami N, Hoshino S, Umezawa M, Hoshikawa Y, Hanada Y, Takenouchi N, Hoshihara Y, Iwakiri K : Pathogenesis of double-dose proton pump inhibitor-resistant non-erosive reflux disease, and mechanism of reflux symptoms and gastric acid secretion-suppressive effect in the presence or absence of Helicobacter pylori infection. ANMA & JSNM Joint Meeting 2017 (大阪), 2017. 3.

- 23) Hoshino S, Kawami N, Hoshikawa Y, Hanada Y, Takenouchi N, Umezawa M, Iwakiri K : Efficacy of vonoprazan for proton pump inhibitor-resistant reflux esophagitis. ANMA & JSNM Joint Meeting 2017 (大阪), 2017. 3.
- 24) Ikeda G, Futagami S, Agawa S, Noda H, Higuchi K, Akimoto T, Yamawaki H, Kodaka Y, Nagoya H, Ueki N, Kaneko K, Kawagoe T, Kawamoto C, Iwakiri K : Impact of epigastric pain syndrome accompanying pancreatic enzyme abnormalities exhibited rapid early phase of gastric emptying and early chronic pancreatitis using endosonography. ANMA & JSNM Joint Meeting 2017 (大阪), 2017. 3.
- 25) Yamawaki H, Futagami S, Kirita K, Ikeda G, Higuchi K, Agawa S, Noda H, Satou S, Kodaka Y, Sakasegawa N, Wakabayashi M, Ueki N, Kawagoe T, Iwakiri K : Improvement of meal-related symptoms and epigastric pain in patients with functional dyspepsia treated with acotiamide was associated with acylated ghrelin levels in Japan. ANMA & JSNM Joint Meeting 2017 (大阪), 2017. 3.
- 26) Kirita K, Futagami S, Yamawaki H, Ikeda G, Agawa S, Higuchi K, Noda H, Sakasegawa N, Wakabayashi M, Kodaka Y, Satou S, Ueki N, Kawagoe T, Iwakiri K : Impact of acotiamide affect meal-related symptoms and lower abdominal symptoms in functional dyspepsia in Japan. ANMA & JSNM Joint Meeting 2017 (大阪), 2017. 3.

[千葉北総病院消化器内科]

研究概要

食道領域では難治性の胃食道逆流症患者に対する病態検査および病態に基づいた治療・研究を行っている。胃領域では *H. pylori* 除菌を年間 500 例近く行い、新規除菌療法の有用性を検討・報告した。小腸領域では、カプセル内視鏡検査を積極的に行い原因不明消化管出血、小腸潰瘍について検討を行っている。大腸領域では大腸憩室出血・大腸憩室炎・大腸腫瘍の内視鏡治療に焦点をあて研究・発表した。肝臓領域ではウイルス性肝炎に対するビタミン D の影響と肝硬変の腹水コントロールを中心とした解析・発表を継続して行っている。胆・膵臓領域では膵胆管内視鏡治療・内視鏡的超音波検査を積極的に行い、治療のみならず解析・発表も行っている。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Fujita T¹⁾, Waga E¹⁾, Kitaoka K¹⁾, Imagawa T¹⁾, Komatsu Y¹⁾, Takanashi K¹⁾, Anbo F¹⁾, Anbo T¹⁾, Katuki S¹⁾, Ichihara S²⁾, Fujimori S³⁾, Yamasaki H⁴⁾, Morishima Y⁴⁾, Sugiyama H⁴⁾, Katahira H^{5, 6)} (1) Department of Medical Gastroenterology, Otaru-Ekisaikai Hospital, 2) Department of Diagnostic Pathology, Sapporo-Kosei General Hospital, 3) Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School, 4) Department of Parasitology, National Institute of Infectious Diseases, 5) Graduate School of Environmental Earth Science, Hokkaido University, 6) National Research Center for Protozoan Diseases, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine) : Human infection by acanthocephalan parasites belonging to the genus *Corynosoma* found from small bowel endoscopy. *Parasitology International* 2016 ; 65 (5) : 491-493.
- 2) Iio E¹⁾, Shimada N²⁾, Abe H³⁾, Atsukawa M⁴⁾, Yoshizawa K⁵⁾, Takaguchi K⁶⁾, Eguchi Y⁷⁾, Nomura H⁸⁾, Kuramitsu T⁹⁾, Kang J¹⁰⁾, Matsui T¹⁰⁾, Shinkai N¹⁾, Fujiwara K¹⁾, Nojiri S¹⁾, Tanaka Y¹⁾, et al. (1) Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, Kawasumi, Mizuho, Nagoya, 2) Ootakanomori Hospital, Kashiwa, 3) Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, Tokyo, 4) Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, 5) Machida Municipal Hospital, Tokyo, 6) Kagawa Prefectural Central Hospital, Takamatsu, 7) Saga University Hospital, Saga, 8) Shin-Kokura Hospital, Kitakyushu, 9) Kuramitsu Clinic, Akita, 10) and others) : Efficacy of daclatasvir/asunaprevir according to resistance-associated variants in chronic hepatitis C with genotype 1. *Journal of Gastroenterology* 2017 ; 52 (1) : 94-103.
- 3) Kumagai E^{1, 2)}, Mano Y¹⁾, Yoshio S¹⁾, Shoji H¹⁾, Sugiyama M¹⁾, Korenaga M¹⁾, Ishida T³⁾, Arai T⁴⁾, Itokawa N⁴⁾, Atsukawa M⁴⁾, Hyogo H^{5, 6)}, Chayama K⁵⁾, Ohashi T⁷⁾, Yoneda M⁷⁾, Kawaguchi T⁸⁾, et al. (1) The Research Center for Hepatitis and Immunology, National Center for Global Health and Medicine, Ichikawa, 2) Department of Gastroenterology, Juntendo University School of Medicine, Hongo, Bunkyo, Tokyo, 3) Department of Pathology and Laboratory Medicine, Kohnodai Hospital, National Center for Global Health and Medicine, Ichikawa, 4) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, 5) Department of Gastroenterology and Metabolism, Hiroshima University, Hiroshima, 6) Department of Gastroenterology and Hepatology, JA Hiroshima General Hospital, Hiroshima, 7) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, 8) Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Kurume University School of Medicine, Kurume) : Serum YKL-40 as a marker of liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease. *Scientific Reports* 2016 ; 6 (35282).

- 4) Itokawa N¹⁾, Atsukawa M^{1, 3)}, Tsubota A²⁾, Okubo T¹⁾, Arai T¹⁾, Nakagawa A^{1, 3)}, Kondo C^{1, 3)}, Iwakiri K³⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Core Research Facilities for Basic Science, Research Center for Medical Sciences, Jikei University, School of Medicine, (3) Division of Gastroenterology and Hepatology, Nippon Medical School) : Effects of sorafenib combined with low-dose interferon therapy for advanced hepatocellular carcinoma : a pilot study. *International Journal of Clinical Oncology* 2016 ; 21 (4) : 676-683.
- 5) Shoji H^{1, 2)}, Yoshio S¹⁾, Mano Y¹⁾, Kumagai E¹⁾, Sugiyama M¹⁾, Korenaga M¹⁾, Arai T³⁾, Itokawa N³⁾, Atsukawa M³⁾, Aikata H⁴⁾, Hyogo H^{4, 5)}, Chayama K⁴⁾, Ohashi T⁶⁾, Ito K⁶⁾, Yoneda M⁶⁾, et al. (1) The Research Center for Hepatitis and Immunology, National Center for Global Health and Medicine, Ichikawa, Chiba, (2) Department of Gastroenterological Surgery I, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Hokkaido, (3) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, Chiba, (4) Department of Gastroenterology and Metabolism, Applied Life Sciences, Institute of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima University, Hiroshima, (5) Department of Gastroenterology and Hepatology, JA Hiroshima General Hospital, (6) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Aichi Medical University School of Medicine) : Interleukin-34 as a fibroblast-derived marker of liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease. *Scientific Reports* 2016 ; 6 (28814).
- 6) Nakagawa A¹⁾, Atsukawa M^{1, 3)}, Tsubota A²⁾, Kondo C¹⁾, Okubo T¹⁾, Arai T¹⁾, Itokawa N¹⁾, Narahara Y³⁾, Iwakiri K³⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Core Research Facilities for Basic Science, Research Center for Medical Sciences, Jikei University School of Medicine, Tokyo, (3) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Usefulness of portal vein pressure for predicting the effects of tolvaptan in cirrhotic patients. *World Journal of Gastroenterology* 2016 ; 7 (22) : 5104-5113.
- 7) Kondo C¹⁾, Atsukawa M¹⁾, Tsubota A²⁾, Shimada N³⁾, Abe H⁴⁾, Asano T⁵⁾, Yoshizawa K⁶⁾, Okubo T¹⁾, Chuganji Y⁵⁾, Aizawa Y⁷⁾, Iio E⁸⁾, Tanaka Y⁸⁾, Iwakiri K⁹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Core Research Facilities for Basic Science, Jikei University School of Medicine, (3) Division of Gastroenterology and Hepatology, Otakanomori Hospital, Chiba, (4) Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, (5) Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital, (6) Machida Municipal Hospital, Asahi-cho, Machida, Tokyo, (7) Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, (8) Department of Virology & Liver Unit, Nagoya City University, Graduate School of Medical Sciences, (9) Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Daclatasvir and asunaprevir for genotype 1b chronic hepatitis C patients with chronic kidney disease. *Hepatology Research* 2017.
- (2) 総説 :
- 1) 藤森俊二 : カプセル内視鏡を用いた小腸出血の診断. *消化器・肝臓内科* 2017 ; 1 (1) : 7-13.
- 2) 田中 周¹⁾, 西本崇良²⁾, 高木信介²⁾, 佐藤 航¹⁾, 大森 順²⁾, 鈴木将大¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二²⁾, 岩切勝彦²⁾ (1) 付属病院消化器・肝臓内科, (2) 千葉北総病院消化器内科) : ダブルバルーン小腸内視鏡を用いた小腸出血の診断・治療. *消化器・肝臓内科* 2017 ; 1 (1) : 21-29.
- 3) 藤森俊二¹⁾, 岩切勝彦²⁾ (1) 千葉北総病院消化器内科, (2) 付属病院消化器・肝臓内科) : NSAIDs 起因性小腸潰瘍の発症メカニズム臨床の見地から. *GI Research* 2016 ; 24 (5) : 348-354.
- 4) 藤森俊二¹⁾, 岩切勝彦²⁾ (1) 千葉北総病院消化器内科, (2) 付属病院消化器・肝臓内科) : 炎症性腸疾患とマイクロバイオーム. *呼吸器内科* 2016 ; 29 (4) : 344-348.
- (3) 症例報告 :
- 1) Fujita T¹⁾, Waga E¹⁾, Kitaoka K¹⁾, Imagawa T¹⁾, Komatsu Y¹⁾, Takanashi K¹⁾, Anbo F¹⁾, Anbo T¹⁾, Katuki S¹⁾, Ichihara S²⁾, Fujimori S³⁾, Yamasaki H⁴⁾, Morishima Y⁴⁾, Sugiyama H⁴⁾, Katahira H^{5, 6)} (1) Department of Medical Gastroenterology, Otaru-Ekisaikai Hospital, (2) Department of Diagnostic Pathology, Sapporo-Kosei General Hospital, (3) Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School, (4) Department of Parasitology, National Institute of Infectious Diseases, (5) Graduate School of Environmental Earth Science, Hokkaido University, (6) National Research Center for Protozoan Diseases, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine) : Human infection by acanthocephalan parasites belonging to the genus *Corynosoma* found from small bowel endoscopy. *Parasitology International* 2016 ; 65 (5) : 491-493.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 糸川典夫¹⁾, 厚川正則¹⁾, 岩切勝彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, (2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : B型慢性肝炎に対する Peg-IFN 療法における治療効果予測因子の検討 (B型肝炎治療の現状と未来). *日本消化器病学会総会 (第102回)*

(東京), 2016. 4.

(2) パネルディスカッション :

- 1) 大久保知美¹⁾, 厚川正則¹⁾, 岩切勝彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : 高齢と血清 Vitamin D 濃度の低下は HCV NS5A 領域の Y93 薬剤耐性変異獲得に関連する (ウイルス性肝炎研究の新戦略). 日本消化器病学会総会 (第 102 回) (東京), 2016. 4.
- 2) 糸川典夫¹⁾, 厚川正則^{1,2)}, 岩切勝彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : B 型慢性肝炎に対する Sequential 療法における治療効果予測因子と適応症例の検討. 日本肝臓学会東部会 (第 41 回) (東京), 2016. 12.
- 3) 厚川正則^{1,3)}, 池上 正²⁾, 岩切勝彦^{1,3)} (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 東京医科大学茨城医療センター, 3) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : CKD 合併 C 型慢性肝炎患者に対する ombitasvir/r/paritaprevir 療法の有効性と安全性の検討. 日本肝臓学会東部会 (第 41 回) (東京), 2016. 12.

(3) ワークショップ :

- 1) 中川 愛¹⁾, 厚川正則¹⁾, 岩切勝彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : 肝性浮腫に対する tolvaptan の治療効果予測因子についての検討 (肝硬変症のトータルケア・マネージメント). 日本消化器病学会総会 (第 102 回) (東京), 2016. 4.
- 2) 糸川典夫¹⁾, 厚川正則^{1,2)}, 岩切勝彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : B 型慢性肝炎に対する Peg-IFN 療法における治療効果予測因子の検討 : HBs 抗原量低下に着目して. 日本消化器関連学会週間 (第 24 回), 日本肝臓学会大会 (第 20 回), 日本消化器病学会大会 (第 58 回), 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (神戸), 2016. 11.
- 3) 大久保知美¹⁾, 厚川正則^{1,2)}, 岩切勝彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : C 型肝炎患者における肝臓専門医と透析専門医の医療連携の重要性についての検討. 日本肝臓学会東部会 (第 41 回) (東京), 2016. 12.
- 4) 新井泰央¹⁾, 厚川正則^{1,2)}, 岩切勝彦^{1,2)} (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : 本邦の NAFLD 患者の血清ビタミン D の特徴と展望について. 日本肝臓学会東部会 (第 41 回) (東京), 2016. 12.

(4) プレナリーセッション :

- 1) 大森 順^{1,2)}, 三井啓吾¹⁾, 高木信介¹⁾, 重松 秀¹⁾, 秋元直彦^{1,2)}, 佐藤 航¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 勝矢由紀子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 米澤真興^{1,2)}, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二^{1,2)}, その他 1 名 (1) 日本医科大学消化器・肝臓内科学, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科) : バルーン内視鏡を中心とした小腸悪性リンパ腫診断とその予後. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 91 回) (東京), 2016. 5.

(5) 一般講演 :

- 1) Atsukawa M¹⁾, Shimada N²⁾, Tsubota A³⁾, Abe H⁴⁾, Okubo T¹⁾, Nakagawa A¹⁾, Arai T¹⁾, Itokawa N¹⁾, Kondo C¹⁾, Tanaka Y⁵⁾, Aizawa Y⁴⁾, Iwakiri K⁶⁾ (1) Gastroenterology and Hepatology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Gastroenterology and Hepatology, Ootakanomori Hospital, Chiba, 3) Gastroenterology and Hepatology, Tokyo Jikeikai Medical School, 4) Gastroenterology and Hepatology, Tokyo jikeikai Medical School, 5) Gastroenterology and Hepatology, Nagoya City University, 6) Gastroenterology and Hepatology, Nippon Medical School, Tokyo) : Efficacy of Daclatasvir/Asunaprevir for patients with chronic hepatitis C 1B complicated with renal insufficiency. The Annual Meeting of the European Association for the study of the Liver (The 51st) (Barcelona), 2016. 4.
- 2) Okubo T¹⁾, Atsukawa M¹⁾, Shimada N²⁾, Abe H³⁾, Arai T¹⁾, Nakagawa A¹⁾, Itokawa N¹⁾, Kondo C¹⁾, Aizawa Y³⁾, Iwakiri K⁴⁾ (1) Nippon Medical Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, 2) Ootakanomori Hospital, Kashiwa, 3) The Jikei University Katsushika Medical Center, Katsushika, 4) Nippon Medical Hospital, Bunkyo) : Low serum 25 (OH) D₃ level affects the existence of drug-resistant mutations at the NS5A region in patients with chronic hepatitis C 1B. The Annual Meeting of the European Association for the study of the Liver (The 51st) (Barcelona), 2016. 4.
- 3) 厚川正則¹⁾, 島田紀朋²⁾, 岩切勝彦³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) おおたかの森病院, 3) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : 実臨床における腎機能障害合併 C 型慢性肝炎に対する DCV/ASV 療法の成績. 日本消化器病学会総会 (第 102 回) (東京), 2016. 4.
- 4) 近藤千紗¹⁾, 厚川正則¹⁾, 島田紀朋²⁾, 加藤慶三³⁾, 安部 宏³⁾, 大久保知美¹⁾, 新井泰央¹⁾, 中川 愛¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 坪田昭人⁴⁾, 相澤良夫⁴⁾, 岩切勝彦⁵⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) おおたかの森病院消化器・肝臓内科, 3) 新松戸中央総合病院消化器・肝臓内科, 4) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器・肝臓内科, 5) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : 実臨床における Genotype 2 の C 型慢性肝炎患者に対するソホスブビル, リバビリン併用療法の治療成績. 日本消化器病学会総会 (第 102 回) (東京), 2016. 4.
- 5) 島田紀朋¹⁾, 厚川正則²⁾, 田中靖人³⁾ (1) おおたかの森病院消化器肝臓内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 3) 名古屋市立大学病態医科学) : Genotype2 の C 型慢性肝疾患に対する SOF/RBV 併用療法の AFP, M2BPGi を含めた早期治療効果の検討. 日本

- 消化器病学会総会（第 102 回）（東京），2016. 4.
- 6) 榊 卓史¹⁾，中塚雄久^{1, 2)}，張本滉智¹⁾，城所秀子^{1, 2)}，新井泰央^{1, 4)}，中川 愛^{1, 4)}，橋本知実^{1, 2)}，糸川典夫^{1, 4)}，松下洋子¹⁾，福田健¹⁾，厚川正則^{1, 4)}，金子恵子¹⁾，川本智章¹⁾，高橋秀実³⁾，岩切勝彦¹⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器内科，²⁾ 日本医科大学消化器肝臓内科，³⁾ 日本医科大学微生物学免疫学，⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科）：抗 CD137 抗体による HER2 低発現ヒト膀胱癌細胞株に対する trastuzumab の ADCC 増強作用と CD16-polymorphism の関連. 日本消化器病学会総会（第 102 回）（東京），2016. 4.
 - 7) 糸川典夫¹⁾，厚川正則¹⁾，大久保知美¹⁾，新井泰央¹⁾，中川 愛¹⁾，近藤千紗¹⁾，岩切勝彦²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，²⁾ 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科）：非アルコール性脂肪性肝疾患に対する Vitamin D 投与の有用性. 日本消化器病学会総会（第 102 回）（東京），2016. 4.
 - 8) 新井泰央¹⁾，厚川正則¹⁾，大久保知美¹⁾，中川 愛¹⁾，糸川典夫¹⁾，近藤千紗¹⁾，加藤慶三³⁾，川本智章²⁾，岩切勝彦²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，²⁾ 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科，³⁾ 新松戸中央総合病院消化器・肝臓内科）：本邦における非アルコール性脂肪性肝疾患と vitamin D. 日本消化器病学会総会（第 102 回）（東京），2016. 4.
 - 9) 佐藤 航¹⁾，三井啓吾¹⁾，高木信介¹⁾，重松 秀¹⁾，大森 順^{1, 2)}，秋元直彦¹⁾，鈴木将大¹⁾，小杉友紀¹⁾，馬來康太郎¹⁾，勝矢由紀子¹⁾，江原彰仁¹⁾，瀬尾継彦¹⁾，米澤真興^{1, 2)}，田中 周¹⁾，藤森俊二^{1, 2)}，その他 2 名（¹⁾ 日本医科大学消化器・肝臓内科学，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院）：術後再建腸管症例におけるバルーン内視鏡による ERCP 関連手技の検討. 日本消化器病学会総会（第 102 回）（東京），2016. 4.
 - 10) 大久保知美¹⁾，厚川正則¹⁾，岩切勝彦²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，²⁾ 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科）：HCV NS5A 薬剤耐性変異と血清ビタミン D 濃度の関連の解明. 日本肝臓学会総会（第 52 回）（千葉），2016. 5.
 - 11) 新井泰央¹⁾，厚川正則¹⁾，岩切勝彦²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，²⁾ 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科）：非アルコール性脂肪性肝疾患における血清ビタミン D 濃度と肝線維化との関連. 日本肝臓学会総会（第 52 回）（千葉），2016. 5.
 - 12) 熊谷恵里奈^{1, 3)}，間野洋平¹⁾，由雄祥代¹⁾，正司裕隆¹⁾，杉山真也¹⁾，是永匡紹¹⁾，厚川正則²⁾，渡辺純夫³⁾，溝上雅史¹⁾，考藤達哉¹⁾（¹⁾ 国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，³⁾ 順天堂大学医学部消化器内科）：非アルコール性脂肪性肝疾患における線維化マーカー YKL40 の検討. 日本肝臓学会総会（第 52 回）（千葉），2016. 5.
 - 13) 近藤千紗¹⁾，厚川正則¹⁾，島田紀朋²⁾，加藤慶三³⁾，安部 宏³⁾，大久保知美¹⁾，新井泰央¹⁾，中川 愛¹⁾，糸川典夫¹⁾，坪田昭人⁴⁾，相澤良夫⁴⁾，岩切勝彦⁵⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，²⁾ おおたかの森病院消化器・肝臓内科，³⁾ 新松戸中央総合病院消化器・肝臓内科，⁴⁾ 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器・肝臓内科，⁵⁾ 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科）：実臨床における Genotype 2 の C 型慢性肝炎患者に対するソホスブビル，リバビリン併用療法の治療成績. 日本肝臓学会総会（第 52 回）（千葉），2016. 5.
 - 14) 島田紀朋¹⁾，厚川正則²⁾，田中靖人³⁾（¹⁾ おおたかの森病院消化器肝臓内科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，³⁾ 名古屋市立大学病態医科学）：Genotype2 の C 型慢性肝疾患に対する SOF/RBV 併用療法は早期から AFP，M2BPGi を低下させる. 日本肝臓学会総会（第 52 回）（千葉），2016. 5.
 - 15) 中川 愛¹⁾，厚川正則¹⁾，岩切勝彦²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，²⁾ 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科）：肝性浮腫に対する tolvaptan の治療効果と肝線維化進行度との関連. 日本肝臓学会総会（第 52 回）（千葉），2016. 5.
 - 16) 厚川正則¹⁾，島田紀朋²⁾，安部 宏³⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，²⁾ おおたかの森病院消化器・肝臓内科，³⁾ 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター）：C 型慢性肝炎に対する DAAs 治療における難治例の成績の検討. 日本肝臓学会総会（第 52 回）（千葉），2016. 5.
 - 17) 糸川典夫¹⁾，厚川正則¹⁾，島田紀朋²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，²⁾ おおたかの森病院消化器・肝臓内科）：B 型慢性肝炎に対する Peg-IFN 療法における治療効果予測因子の解明：HBs 抗原量低下に着目して. 日本肝臓学会総会（第 52 回）（千葉），2016. 5.
 - 18) Fujimori S^{1, 6)}，Fukunaga K²⁾，Taisei M²⁾，Kubo M²⁾，Hanada R³⁾，Hayashida M⁴⁾，Sakurai T⁵⁾，Mitsui K¹⁾，Iwakiri K¹⁾，Sakamoto C¹⁾（¹⁾ Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, Department of Gastroenterology, Tokyo, ²⁾ RIKEN Center for Integrative Medical Sciences, Yokohama, ³⁾ Medical Co. LTA Sumida Hospital, Tokyo, ⁴⁾ Kyorin University School of Medicine, The Third Department of Internal Medicine, Tokyo, ⁵⁾ National Center for Global Health and Medicine, Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo, ⁶⁾ Gastroenterology and Hepatology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital）：Bactericidal/permeability increasing fold-containing family B member4 (BPIFB4) associated with NSAID-induced small intestinal mucosal injury. United European Gastroenterology Week (The 24th) (Vienna), 2016. 10.
 - 19) 大久保知美¹⁾，厚川正則^{1, 2)}，島田紀朋³⁾，安部 宏⁴⁾，新井泰央¹⁾，中川 愛¹⁾，糸川典夫¹⁾，近藤千紗¹⁾，相澤良夫⁴⁾，岩切勝彦²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院消化器内科，²⁾ 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科，³⁾ おおたかの森病院・消化器肝臓科，⁴⁾ 東京慈恵会医大葛飾医療センター・消化器・肝臓内科）：HCV NS5A 薬剤耐性変異と血清 25 (OH) D₃ 濃度. 日本消化器関連学会週間（第 24 回），日本肝臓学会大会（第 20 回）（神戸），2016. 11.

- 20) 新井泰央¹⁾, 厚川正則^{1, 4)}, 大久保知美¹⁾, 中川 愛¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 加藤慶三²⁾, 坪田昭人³⁾, 岩切勝彦⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院・消化器・肝臓科, 3) 東京慈恵会医大葛飾医療センター・消化器・肝臓内科, 4) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : 本邦における NAFLD 患者と血清ビタミン D 代謝. 日本消化器関連学会週間 (第 24 回), 日本肝臓学会大会 (第 20 回) (神戸), 2016. 11.
- 21) 厚川正則^{1, 3)}, 加藤慶三²⁾, 大久保知美¹⁾, 新井泰央¹⁾, 中川 愛¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 岩切勝彦³⁾, 溝上雅史⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院・消化器・肝臓科, 3) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科, 4) 国立国際医療研究センター国府台病院) : 慢性肝疾患における肝線維化マーカー M2BP と M2BPGi. 日本消化器関連学会週間 (第 24 回), 日本肝臓学会大会 (第 20 回) (神戸), 2016. 11.
- 22) 中川 愛¹⁾, 厚川正則^{1, 2)}, 大久保知美¹⁾, 新井泰央¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 岩切勝彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : 肝性浮腫に対する tolvaptan の治療効果予測因子と中長期予後に与える影響. 日本消化器関連学会週間 (第 24 回), 日本肝臓学会大会 (第 20 回) (神戸), 2016. 11.
- 23) 大森 順^{1, 2)}, 三井啓吾¹⁾, 高木信介¹⁾, 重松 秀¹⁾, 秋元直彦^{1, 2)}, 佐藤 航¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 米澤真興^{1, 2)}, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二^{1, 2)}, 岩切勝彦¹⁾ (1) 日本医科大学消化器・肝臓内科学, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科) : バルーン内視鏡による小腸悪性リンパ腫の内視鏡診断とその特徴. 日本消化器関連学会週間 (第 24 回), 日本消化器内視鏡学会総会 (第 92 回) (神戸), 2016. 11.
- 24) Arai T¹⁾, Atsukawa M²⁾, Ikegami T³⁾, Mikami S⁴⁾, Shimada N⁵⁾, Tsubota A⁶⁾, Kato K⁷⁾, Abe H⁷⁾, Okubo T¹⁾, Nakagawa A¹⁾, Itokawa N¹⁾, Kondo C¹⁾, Iwakiri K²⁾ (1) Gastroenterology and Hepatology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, Department of Gastroenterology, 3) Tokyo Medical University, Ibaraki Medical Center, 4) Kikkoman General Hospital, 5) Ootakanomori Hospital, Kashiwa, 6) Tokyo Jikei Medical School, 7) Shinmat-sudo Central General Hospital) : Efficacy and safety of ombitasvir/ritonavir/paritaprevir combination therapy for genotype 1b chronic hepatitis C patients complicated with chronic kidney disease. AASLD's The Liver Meeting 2016, The American Association for the Study of Liver Diseases (The 67th) (Boston), 2016. 11.
- 25) 秋元直彦¹⁾, 三井啓吾²⁾, 西本崇良¹⁾, 高木信介²⁾, 重松 秀²⁾, 大森 順¹⁾, 佐藤 航²⁾, 小杉友紀²⁾, 鈴木将大²⁾, 馬來康太郎²⁾, 江原彰仁²⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周²⁾, 辰口篤志²⁾, 藤森俊二¹⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : 虫垂・直腸術後で ESD が困難であった盲腸腫瘍の 1 例. 日本消化管学会総会学術集会 (第 13 回) (名古屋), 2017. 2.
- 26) 西本崇良¹⁾, 野田啓人¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 大久保知美¹⁾, 大森 順¹⁾, 新井泰央¹⁾, 秋元直彦¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 厚川正則^{1, 2)}, 米澤真興¹⁾, 小高康裕²⁾, 岩切勝彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : ポノプラザンを用いた H.Pylori 除菌治療の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第 13 回) (名古屋), 2017. 2.
- 27) 大森 順¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 野田啓人¹⁾, 大久保知美¹⁾, 西本崇良¹⁾, 新井泰央¹⁾, 秋元直彦¹⁾, 鈴木将大²⁾, 糸川典夫¹⁾, 厚川正則^{1, 2)}, 三井啓吾²⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周²⁾, 岩切勝彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : 当院における大腸憩室出血の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第 13 回) (名古屋), 2017. 2.
- 28) 佐藤満美¹⁾, 秋元直彦¹⁾, 野田啓人¹⁾, 大久保知美¹⁾, 西本崇良¹⁾, 新井泰央¹⁾, 大森 順¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 厚川正則^{1, 3)}, 米澤真興¹⁾, 松田明久²⁾, 松本智司²⁾, 宮下正夫²⁾, 藤森俊二¹⁾, 岩切勝彦³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, 3) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : S 状結腸切除後 10 カ月後に重症一過性虚血性腸炎を発症した 1 例. 日本消化管学会総会学術集会 (第 13 回) (名古屋), 2017. 2.
- 29) 野田啓人¹⁾, 大森 順¹⁾, 西本崇良¹⁾, 高木信介²⁾, 重松 秀²⁾, 佐藤 航²⁾, 小杉友紀²⁾, 馬來康太郎²⁾, 江原彰仁²⁾, 三井啓吾²⁾, 瀬尾継彦²⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, その他 3 名 (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院消化器・肝臓内科) : カプセル内視鏡にて診断し得た, 小腸ヘルニア術後の虚血性小腸炎による蛋白漏出性胃腸症の 1 例. カプセル内視鏡学会学術集会 (第 10 回) (名古屋), 2017. 2.
- 30) 桐田久美子¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 高木信介¹⁾, 重松 秀¹⁾, 西本崇良²⁾, 秋元直彦²⁾, 大森 順²⁾, 佐藤 航¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興²⁾, 田中 周¹⁾, 藤森俊二²⁾, その他 2 名 (1) 付属病院消化器・肝臓内科, 2) 千葉北総病院消化器内科) : 虫垂原発の Mixed Adenoneuroendocrine Carcinoma (MANEC) の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 341 回) (東京), 2016. 9.
- 31) 小泉英理子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 高木信介¹⁾, 重松 秀¹⁾, 西本崇良²⁾, 秋元直彦²⁾, 大森 順²⁾, 佐藤 航¹⁾, 小杉友紀¹⁾, 鈴木将大¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興²⁾, 田中 周¹⁾, 藤森俊二²⁾, その他 2 名 (1) 付属病院消化器・肝臓内科, 2) 千葉北総病院消化器内科) : 小腸憩室に対するダブルバルーン内視鏡の有用性について. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 341 回) (東京), 2016. 9.
- 32) 野田啓人¹⁾, 西本崇良¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 大久保知美¹⁾, 大森 順¹⁾, 新井泰央¹⁾, 秋元直彦¹⁾, 糸川典夫¹⁾, 厚川正則¹⁾, 米澤真興¹⁾, 小高康裕¹⁾, 岩切勝彦²⁾ (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院消化器・肝臓内科) : ポノプラザンを用いた H.Pylori 除菌治療の検討. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 340 回) (東京), 2016. 7.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Okubo T¹⁾, Atsukawa M¹⁾, Tsubota A²⁾, Shimada N³⁾, Abe H⁴⁾, Yoshizawa K⁵⁾, Arai T¹⁾, Nakagawa A¹⁾, Itokawa N¹⁾, Kondo C¹⁾, Aizawa Y⁴⁾, Iwakiri K⁶⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, 2) Core Research Facilities for Basic Science, Research Center for Medical Sciences, Jikei University School of Medicine, Tokyo, 3) Division of Gastroenterology and Hepatology, Otakanomori Hospital, Chiba, 4) Division of Gastroenterology and Hepatology, Jikei University School of Medicine Katsusika Medical Center, Tokyo, 5) Division of Gastroenterology, Machida Municipal Hospital, Tokyo, 6) Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Association between vitamin D deficiency and pre-existing resistance-associated hepatitis C virus NS5A variants. *Hepatology Research* 2017 ; 47 (7) : 641-649.

8. 内分泌糖尿病代謝内科学分野

[付属病院糖尿病・内分泌代謝内科]

研究概要

基礎研究：本年度も選抜交配により樹立した高脂肪食投与後の耐糖能が異なる2系統のマウス（SDG-P/R系）の解析を進め、摂食行動の規定因子の解析、遺伝的なインスリン分泌能の規定因子の解析、経口血糖降下薬の抗動脈硬化作用について発表した。現在もインスリン分泌不全の機序について海外の大学と共同研究を進めている。基礎医学教室と共同で母親ラットにニコチンを投与して、仔の耐糖能に与える影響の解析を進めている。臨床研究：原発性アルドステロン症のACTH負荷試験の有用性、急性冠症候群におけるアキレス腱肥厚の頻度調査、糖尿病患者の食事誘発性熱産生と体重変化の関係について国際学術誌に発表した。研究発表としてNICTH患者のコルチゾール、GH、IGF-Iの解析、糖尿病と合併症、自律神経障害との関係、DPP4阻害薬の脂質代謝および高齢者糖尿病治療への有用性、妊娠糖尿病の産後の耐糖能障害、脂質異常症と膵炎の関係、周術期の血糖管理、救急患者の病態と血糖コントロール、下垂体機能低下症における抗TPIT抗体の解析、GHRP-2試験による予後判定について発表し、多くの症例報告を行った。下垂体機能低下症について教育講演、高血糖と動脈硬化についてセミナー発表、糖尿病における脂質管理についてシンポジウムで発表した。心臓周囲脂肪組織面積と代謝パラメータの解析といった研究、甲状腺機能異常症での脂質合成・吸収マーカーの変化、ミグリトールの減量効果とその機序、超速効型インスリン3剤の比較検証、インスリン様成長因子（IGF-II）による低血糖の機序についての研究、GH分泌不全症における脂肪肝についての共同研究が継続されている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Moriya A¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Nagamine T¹⁾, Hattori-T N¹⁾, Nagao M¹⁾, Harada T¹⁾, Inagaki-T K¹⁾, Onozawa S²⁾, Murata S²⁾, Tamura H^{1, 3)}, Fukuda I¹⁾, Oikawa S^{1, 4)}, Sugihara H¹⁾ (1) Department of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Radiology/Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, 3) Tamura Medical Clinic, 4) Department of Diabetes and Lifestyle Disease Center, Fukujiji Hospital, Japan Anti-Tuberculosis Association (JATA) : ACTH stimulation test and computed tomography are useful for differentiating the subtype of primary aldosteronism. *Endocrine Journal* 2017 ; 64 (1) : 65-73.
- 2) Okajima F^{1, 2)}, Emoto N^{1, 2)}, Kato K³⁾, Sugihara H¹⁾ (1) Department of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Endocrinology, Department of Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 3) Department of Cardiology, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Effect of Glycemic Control on Chylomicron Metabolism and Correlation between Postprandial Metabolism of Plasma Glucose and Chylomicron in Patients with Type 2 Diabetes Treated with Basal-bolus Insulin Therapy with or without Vildagliptin. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis* 2017 ; 24 (2) : 157-168.
- 3) Emoto N^{1, 2)}, Okajima F^{1, 2)}, Sugihara H¹⁾, Goto R³⁾ (1) Department of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Endocrinology, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, 3) Graduate School of Business Administration, Keio University) : A socioeconomic and behavioral survey of patients with difficult-to-control type 2 diabetes mellitus reveals an association between diabetic retinopathy and educational attainment. *Journal of Patient Preference and Adherence* 2016 ; 10 : 2151-2162.
- 4) Onozawa S¹⁾, Murata S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Mine T²⁾, Yasui D¹⁾, Sugihara H, Tajima H¹⁾ (1) Department of Radiology/Centre for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, 2) Department of Radiology, Tokai University Hachioji Hospital, Tokai University School of Medicine) : Can an enhanced thin-slice computed tomography delineate the right adrenal vein and improve the success rate?. *Japanese Journal of Radiology* 2016 ; 34 (9) : 611-619.

(2) 総説：

- 1) 稲垣恭子：女性における治療上の留意点。 *Medical Practice* 2016 ; 33 (4) : 641-644.
- 2) 稲垣恭子：PCSK9阻害薬の薬理作用。 *Progress in Medicine* 2016 ; 36 (5) : 35 (625) -39 (629).

(3) 症例報告：

- 1) 真山大輔, 山口祐司, 長尾元嗣, 野上 茜¹⁾, 服部奈緒美, 稲垣恭子, 中島 泰, 及川眞一, 杉原 仁 (1) 日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野) : ミトコンドリア糖尿病3症例の検討。 *糖尿病* 2016 ; 59 (6) : 421-428.
- 2) Hirai H¹⁾, Ogata E¹⁾, Ohki S²⁾, Fukuda I, Tanaka M³⁾, Watanabe T¹⁾, Satoh H¹⁾ (1) Department of Nephrology, Hypertension,

Diabetology, Endocrinology, and Metabolism, Fukushima Medical University, Japan, ²⁾ Department of Organ Regulatory Surgery, Fukushima Medical University School of Medicine, Japan, ³⁾ Department of Basic Pathology, Fukushima Medical University School of Medicine, Japan) : Hypoglycemia Associated with a Gastrointestinal Stromal Tumor Producing High-molecular-weight Insulin Growth Factor II : A Case Report and Literature Review. INTERNAL MEDICINE 2016 ; 55 (10) : 1309-1314.

- 3) 挽地史織¹⁾, 本多敏朗¹⁾, 藤原 豊¹⁾, 福田直樹²⁾, 福田いずみ (¹⁾ KKR 札幌医療センター代謝・内分泌科, ²⁾ KKR 札幌医療センター消化器科) : ステロイド療法の効果を continuous glucose monitoring で確認した肝細胞癌由来の insulin-like growth factor-II 産生 non-islet cell tumor hypoglycemia の 1 例. KKR 札幌医療センター医学雑誌 2016 ; 13 (1) : 51-56.
- 1) Akiyama M¹⁾, Ueno T¹⁾, Kanzaki A¹⁾, Kuwana M²⁾, Nagao M, Saeki H¹⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Allergy and Rheumatology, Nippon Medical School) : Association of psoriasis with Hashimoto's thyroiditis, Sjögren's syndrome and dermatomyositis. The Journal of Dermatology 2016 ; 43 (6) : 711-712.

著 書

- 1) 杉原 仁 : [分担] 第 4 章 主要疾患編 F 多発性内分泌疾患と内分泌腫瘍 多発性内分泌腫瘍症 (MEN). 内分泌疾患診療ハンドブック (横手幸太郎・龍野一郎・橋本尚武・岩岡秀明), 2016 ; pp271-277, (株) 中外医学社.
- 2) 杉原 仁 : [分担] 第 2 章 臨床知識 D 下垂体前葉疾患各論 6 プロラクチノーマ. 下垂体疾患診療マニュアル (平田結喜緒・山田正三・成瀬光栄), 2016 ; pp149-152, (株) 診断と治療社.
- 3) 杉原 仁 : [分担] 12 内分泌疾患 無月経・乳汁漏出症候群. 今日の治療指針 2017 年版 私はこう治療している (福井次矢・高木誠・小室一成), 2017 ; pp754-754, (株) 医学書院.
- 4) 福田いずみ, 杉原 仁 : [分担] C 内分泌機能検査の注意. 内分泌臨床検査マニュアル (肥塚直美), 2017 ; pp16-21, (株) 日本医事新報社.
- 5) 福田いずみ, 杉原 仁 : [分担] E1 下垂体前葉機能低下症. 内分泌臨床検査マニュアル (肥塚直美), 2017 ; pp36-54, (株) 日本医事新報社.
- 6) 福田いずみ, 杉原 仁 : [分担] E26 低血糖症. 内分泌臨床検査マニュアル (肥塚直美), 2017 ; pp219-222, (株) 日本医事新報社.
- 7) 福田いずみ, 杉原 仁 : [分担] 7 成人 GH 分泌不全症. 内分泌代謝専門医ガイドブック (成瀬光栄, 平田結喜緒, 島津章), 2016 ; pp121-124, (株) 診断と治療社.
- 8) 福田いずみ, 杉原 仁 : [分担] 8 Turner 症候群. 内分泌代謝専門医ガイドブック (成瀬光栄, 平田結喜緒, 島津章), 2016 ; pp326-327, (株) 診断と治療社.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 福田いずみ, 杉原 仁 : 下垂体前葉機能の評価方法とホルモン補充療法. 日本内分泌学会 関東甲信越支部学術集会 (第 17 回) (東京), 2016. 9.

(2) シンポジウム :

- 1) 稲垣恭子 : 糖尿病における脂質管理 (合併症のリスク因子~その指標を考える~). 日本糖尿病合併症学会 (第 31 回) (仙台), 2016. 10.

(3) セミナー :

- 1) 長尾元嗣^{1,2)} (¹⁾ 日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, ²⁾ ルンド大学糖尿病センター) : 高血糖と動脈硬化 そのエビデンスを考える. 日本糖尿病合併症学会 (第 31 回) (仙台), 2016. 10.

(4) ワークショップ :

- 1) 大庭健史¹⁾, 稲垣恭子¹⁾, 岡本彬美¹⁾, 山口祐司¹⁾, 守屋綾子¹⁾, 長峯朋子^{1,2)}, 仲村優子¹⁾, 小林俊介^{1,3)}, 周東佑樹¹⁾, 長尾元嗣¹⁾, 原田太郎¹⁾, 福田いずみ¹⁾, 及川眞一^{1,2)}, 杉原 仁¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, ²⁾ 財団法人結核予防会 複十字病院 糖尿病・生活習慣病センター, ³⁾ 筑西市民病院 内科) : 糖尿病合併患者における術後合併症関連因子の検討 (血糖管理 1). 日本糖尿病合併症学会 (第 31 回) (仙台), 2016. 10.
- 2) 山田裕士¹⁾, 稲垣恭子^{1,2)}, 安田和弘²⁾, 長尾元嗣¹⁾, 仲村優子¹⁾, 周東佑樹¹⁾, 真山大輔¹⁾, 原田太郎¹⁾, 福田いずみ¹⁾, 及川眞一^{1,3)}, 杉原 仁¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, ²⁾ 医療法人晃山会 松江病院, ³⁾ 複十字病院 糖尿病・生活習慣病センター) : 救急搬送患者の病態と血糖コントロール指標との関連について : HbA1c と GA の比較 (血糖管理 1). 日本糖尿病合併症学会 (第 31 回) (仙台), 2016. 10.
- 3) 小林俊介¹⁾, 原田太郎¹⁾, 稲垣恭子¹⁾, 及川眞一^{1,2)}, 杉原 仁¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, ²⁾ 公益財団法人 結核予防会 複十字病院) : 2 型糖尿病患者のインスリン導入における心電図補正 QT 時間の変化 (心血管疾患 2). 日本糖尿病合併症学会 (第 31 回) (仙台), 2016. 10.

(5) 一般講演：

- 1) 守屋綾子¹⁾, 福田いずみ¹⁾, 岡本彬美¹⁾, 長峯朋子¹⁾, 原田太郎¹⁾, 稲垣恭子¹⁾, 田村秀樹^{1, 2)}, 杉原 仁¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, 2) 医療法人社団 田村医院)：原発性アルドステロン症の局在診断における迅速 ACTH 試験の有用性について。日本内分泌学会学術総会 (第 89 回) (京都), 2016. 4.
- 2) 小林俊介, 服部奈緒美, 松下洋子¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 福田いずみ, 杉原 仁 (1) 日本医科大学付属病院 消化器肝臓内科)：Everolimus, Sunitinib が無効であったが Streptozocin が有効であった悪性インスリノーマの 1 例。日本内分泌学会学術総会 (第 89 回) (京都), 2016. 4.
- 3) 長峯朋子, 小林俊介, 守屋綾子, 田原重志¹⁾, 原田太郎, 稲垣恭子, 福田いずみ, 杉原 仁 (1) 日本医科大学付属病院 脳神経外科)：GH 産生腫瘍における GHRP-2 試験とオクトレオチド, プロモクリプチンによる GH 抑制効果との関連について。日本内分泌学会学術総会 (第 89 回) (京都), 2016. 4.
- 4) 岡本彬美, 福田いずみ, 小林俊介, 田原重志¹⁾, 杉原 仁 (1) 日本医科大学付属病院 脳神経外科)：非機能性下垂体腺腫における GHRP-2 試験の手術前後の GH 頂値の推移。日本内分泌学会学術総会 (第 89 回) (京都), 2016. 4.
- 5) 浅井 明^{1, 2)}, 長尾元嗣^{1, 3)}, 川原百代¹⁾, 加藤俊治¹⁾, 宮澤陽夫²⁾, 杉原 仁¹⁾, 及川眞一¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科内分泌糖尿病代謝内科学分野, 2) 東北大学大学院農学研究科食の健康科学ユニット, 3) ルンド大学糖尿病センター)：高脂肪食投与後の糖尿病発症における過食, 体重増加とレプチンとの関係：新規選抜交配モデルマウスの解析から。日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回) (京都), 2016. 5.
- 6) 岡島史宜^{2, 3)}, 仲村優子^{2, 3)}, 長峯朋子^{1, 2)}, 服部奈緒美^{1, 2)}, 杉原 仁^{1, 2)}, 江本直也^{2, 3)} (1) 日本医科大学付属病院糖尿病内分泌代謝内科, 2) 日本医科大学内分泌糖尿病代謝内科, 3) 日本医科大学千葉北総病院内分泌内科)：強化インスリン療法患者における SGLT 2 阻害薬及び DPP-4 阻害薬併用の夜間低血糖に与える影響。日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回) (京都), 2016. 5.
- 7) 江本直也^{1, 2)}, 岡島史宜^{1, 2)}, 杉原 仁¹⁾, 後藤 励^{3, 4)} (1) 日本医科大学内分泌糖尿病代謝内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内分泌内科, 3) 京都大学白眉センター, 4) 京都大学経済学研究科)：糖尿病患者の行動経済学的分析 (第 5 報)：網膜症と学歴, 所得, 睡眠時間, 危険回避度の分析。日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回) (京都), 2016. 5.
- 8) 佐川純司¹⁾, 小川知子⁴⁾, 小早川真未¹⁾, 原田洋明²⁾, 山下芳典²⁾, 倉岡和矢³⁾, 福田いずみ, 亀井 望¹⁾ (1) 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター内分泌・糖尿病内科, 2) 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター呼吸器外科, 3) 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター病理診断科, 4) 広島市立安佐市民病院内分泌・糖尿病内科)：Solitary fibrous tumor により頻回の低血糖発作を生じた 2 症例。日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回) (京都), 2016. 5.
- 9) 及川眞一¹⁾, 原田太郎, 杉原 仁, 佐々木淳²⁾, 細川和広³⁾, 森谷茂樹⁴⁾, 都築秀至⁵⁾, 佐久間一郎⁶⁾, 浅野哲一⁷⁾, 稲垣恭子, 長尾元嗣, Stream 研究会⁸⁾ (1) (財) 結核予防会複十字病院糖尿病・生活習慣病センター, 2) 国際福祉大学創薬育薬医療分野, 3) 細川内科クリニック, 4) 森谷医院, 5) 中居町クリニック, 6) 北光記念クリニック, 7) 西村記念病院, 8) STREAM 研究会)：高齢者 2 型糖尿病患者におけるシタグリプチンの有効性と安全性の検討 (STREAM 研究)。日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回) (京都), 2016. 5.
- 10) 小林俊介, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁：2 型糖尿病患者の糖尿病教育入院における心電図補正 QT 時間の変化。日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回) (京都), 2016. 5.
- 11) 山口祐司, 小林俊介, 原田太郎, 稲垣恭子, 福田いずみ, 杉原 仁：当院における妊娠糖尿病患者の産後フォローアップ。日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回) (京都), 2016. 5.
- 12) 稲垣恭子¹⁾, 原田太郎¹⁾, 中島 泰¹⁾, 若栗稔子¹⁾, 及川眞一^{1, 2)}, 杉原 仁¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, 2) 複十字病院糖尿病・生活習慣病センター)：糖尿病神経障害の発症リスク因子の検討：カイロミクロン, 食後脂質と神経障害の関連について。日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回) (京都), 2016. 5.
- 13) 仲村優子¹⁾, 岡島史宜¹⁾, 長峯朋子, 武市奈緒美, 杉原 仁, 江本直也¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 内分泌内科)：GLP-1 受容体作動薬の強化インスリン療法離脱における有用性に関する検討。日本糖尿病学会年次学術集会 (第 59 回) (京都), 2016. 5.
- 14) 岡島史宜¹⁾, 江本直也¹⁾, 杉原 仁 (1) 日本医科大学千葉北総病院 内分泌内科)：2 型糖尿病患者における食後血糖及び食後カイロミクロン代謝の関連に関する検討。日本動脈硬化学会 総会・学術集会 (第 48 回) (東京), 2016. 7.
- 15) 稲垣恭子¹⁾, 中島 泰¹⁾, 小林俊介¹⁾, 長峯朋子¹⁾, 守屋綾子¹⁾, 山本友也¹⁾, 大庭健史¹⁾, 岡本彬美¹⁾, 原田太郎¹⁾, 高谷磨紀代¹⁾, 福田いずみ¹⁾, 及川眞一^{1, 2)}, 杉原 仁¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, 2) 複十字病院 糖尿病・生活習慣病センター)：急性膵炎の既往のある脂質異常症患者におけるヘパリン負荷テスト下 TG 代謝の検討。日本動脈硬化学会 総会・学術集会 (第 48 回) (東京), 2016. 7.
- 16) 岡崎幹子, 守屋綾子, 長峯朋子, 大庭健史, 岡本彬美, 稲垣恭子, 福田いずみ, 杉原 仁：両側アルドステロン産生腫瘍に対して左副腎腺腫核出術および右副腎摘出術を施行した 1 例。日本内分泌学会 関東甲信越支部学術集会 (第 17 回) (東京), 2016. 9.
- 17) 山田裕士, 周東佑樹, 原田太郎, 稲垣恭子, 福田いずみ, 坂谷貴司¹⁾, 近藤俊輔²⁾, 片上秀喜³⁾, 杉原 仁 (1) 日本医科大学付属病院 病理診断科, 2) 国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科, 3) 帝京大学ちば総合医療センター 内科・臨床研究部)：膵神経内分

- 泌瘤による異所性 ACTH 症候群の 1 例. 日本内分泌学会 関東甲信越支部学術集会 (第 17 回) (東京), 2016. 9.
- 18) 長峯朋子, 岡本彬美, 田原重志¹⁾, 福田いずみ, 梶村益久²⁾, 杉原 仁¹⁾ (日本医科大学付属病院 脳神経外科, ²⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学): リンパ球性漏斗下垂体後葉炎が疑われた中枢性尿崩症の 1 例. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 43 回) (浜松), 2016. 10.
- 19) 長峯朋子^{1, 2)}, 岡島史宜^{1, 2)}, 江本直也^{1, 2)}, 杉原 仁¹⁾, 吉村 弘³⁾ (日本医科大学 大学院医学研究科 内分泌糖尿病代謝内科学分野, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 内分泌内科, ³⁾ 伊藤病院): TSH が抑制された甲状腺中毒症を呈した甲状腺ホルモン不応症 (RTH) の 1 例. 日本甲状腺学会学術集会 (第 59 回) (東京), 2016. 11.
- 20) 山本晃之²⁾, 山口祐司^{1, 3)}, 岡島史宜^{1, 3)}, 江本直也^{1, 3)}, 杉原 仁¹⁾ (日本医科大学 大学院医学研究科 内分泌糖尿病代謝内科学分野, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 研修医, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 内分泌内科): 甲状腺クリーゼに重症疾患多発ニューロパチーを合併した 1 例. 日本甲状腺学会学術集会 (第 59 回) (東京), 2016. 11.
- 21) 岡本彬美, 田村秀樹¹⁾, 清水 渉²⁾, 林 洋史²⁾, 杉谷 巖³⁾, 五十嵐健人³⁾, 寺崎泰弘⁴⁾, 原田太郎, 福田いずみ, 杉原 仁¹⁾ (田村医院, ²⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科, ³⁾ 日本医科大学付属病院 内分泌外科, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院 病理診療科): 血圧と脈拍の周期性変動を来した褐色細胞腫クリーゼの 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 26 回) (さいたま市), 2016. 11.
- 22) 仲村優子¹⁾, 岡島史宜¹⁾, 江本直也¹⁾, 杉原 仁¹⁾ (日本医科大学 千葉北総病院): Lindau 病で無月経, 重症成人 GH 分泌不全症を合併した 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 26 回) (さいたま市), 2016. 11.
- 23) 大庭健史¹⁾, 稲垣恭子¹⁾, 岡崎幹子¹⁾, 山田裕士¹⁾, 岡本彬美¹⁾, 守屋綾子¹⁾, 長峯朋子^{1, 2)}, 仲村優子¹⁾, 周東佑樹¹⁾, 真山大輔¹⁾, 原田太郎¹⁾, 福田いずみ¹⁾, 及川真一^{1, 2)}, 杉原 仁¹⁾ (日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, ²⁾ 財団法人結核予防会 複十字病院 糖尿病・生活習慣病センター): 耐糖能悪化を契機に甲状腺中毒症の診断に苦慮した 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 26 回) (さいたま市), 2016. 11.
- 24) 柴山雅行, 岡崎幹子, 岡本彬美, 周東佑樹, 原田太郎, 杉原 仁: 産後の精神不調, 高 Ca 血症, 甲状腺中毒症, 副腎不全を呈した 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 26 回) (さいたま市), 2016. 11.
- 25) 大庭健史, 稲垣恭子, 福栄亮介¹⁾, 山口祐司, 小林俊介, 高谷磨紀代, 原田太郎, 福田いずみ, 桑名正隆¹⁾, 杉原 仁¹⁾ (日本医科大学付属病院 リウマチ・膠原病内科): CGM を用いて解析した IGF-1 製剤の治療効果を検証したインスリン受容体異常症 B 型の 1 例. 日本糖尿病学会 関東甲信越地方会 (第 54 回) (横浜), 2017. 1.
- 26) 長峯朋子^{1, 2)}, 真山大輔^{1, 2)}, 神田真理子³⁾, 長野 泉³⁾, 及川真一^{1, 2)} (日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, ²⁾ 複十字病院 糖尿病・生活習慣病センター, ³⁾ 複十字病院 看護部): デュラグルチド投与が有効であった自己管理困難な CKD 合併高齢糖尿病の 1 例. 日本糖尿病学会 関東甲信越地方会 (第 54 回) (横浜), 2017. 1.
- 27) 曾我彬美, 福田いずみ, 小林俊介, 稲垣恭子, 杉原 仁, 田原重志¹⁾, 石坂栄太郎²⁾, 榎本弘幸¹⁾, 長濱清隆²⁾, 大橋隆治²⁾, 和田龍一²⁾, 井下尚子³⁾ (日本医科大学付属病院 脳外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 病理診断科, ³⁾ 虎の門病院): 下垂体後葉の前方に腫瘍性病変を認め Xanthomatous hypophysitis が疑われた 1 例. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第 27 回) (東京), 2017. 2.
- 28) Soga A, Fukuda I, Kobayashi S, Tahara S¹⁾, Sugihara H¹⁾ (Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Pre-surgical peak GH levels during GH releasing peptide (GHRP) -2 test sensitively reflect the severity of hypopituitarism in non-functioning pituitary adenoma (NFPA). The International Pituitary Congress (15th) (Orland, U.S.A.), 2017. 3.
- 29) Nagamine T, Asai A, Fukuda I, Sugihara H: The investigation of anti-TPIT antibodies in adult-onset isolated ACTH deficiency. The International Pituitary Congress (15th) (Orland, U.S.A.), 2017. 3.
- 30) Fukuda I, Hizuka N¹⁾, Kawahara M, Asai A, Sugihara H¹⁾ (Tokyo Women's Medical University): The levels of insulin and glucose counterregulatory hormones in patients with non-islet cell tumor hypoglycemia. ENDO 2016 The annual meeting and Expo of the Endocrine Society (98th) (Boston, U.S.A.), 2016. 4.
- 31) 浅井 明^{1, 2)}, 長尾元嗣^{1, 3)}, 川原百代¹⁾, 宮澤陽夫²⁾, 杉原 仁¹⁾, 及川真一¹⁾ (日本医科大学大学院医学研究科 内分泌糖尿病代謝内科学分野, ²⁾ 東北大学大学院農学研究科 食の健康科学ユニット, ³⁾ ルンド大学 糖尿病センター): 選抜交配による高脂肪食誘発性糖尿病モデルマウスの開発. 日本栄養・食糧学会大会 (第 70 回) (神戸・西宮), 2016. 5.
- 32) 加藤俊治¹⁾, 伊藤隼哉¹⁾, 清水直紀¹⁾, 浅井 明²⁾, 長尾元嗣, 杉原 仁, 及川真一, 宮澤陽夫^{2, 3)}, 仲川清隆¹⁾ (東北大学大学院農学研究科 機能分子解析学, ²⁾ 東北大学大学院農学研究科 食の健康科学ユニット, ³⁾ 東北大学大 未来科学共同技術センター): LC-MS/MS を用いたヒトリポタンパク酸化機構の解明. 日本生化学会大会 (第 89 回) (仙台), 2016. 9.
- 33) Kato S^{1, 2)}, Nakagawa K²⁾, Ito J²⁾, Otoki Y²⁾, Asai A^{1, 2)}, Nagao M¹⁾, Sugihara H¹⁾, Oikawa S¹⁾, Miyazawa T^{2, 3)} (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, ³⁾ Food Biotechnology Innovation Project, NICHe, Tohoku University): LC-MS/MS Evaluation about How Lipoprotein Lipids Are Oxidized In Vivo. Experimental Biology 2016 (Sandiego, CA, U.S.A.), 2016. 4.
- 34) Otoki Y²⁾, Kato S¹⁾, Kimura F²⁾, Furukawa K³⁾, Arai H³⁾, Nakagawa K²⁾, Miyazawa T^{4, 5)} (Division of Endocrinology and

Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, ³⁾ Institute of Development, Aging and Cancer, Tohoku University, ⁴⁾ Food Biotechnology Innovation Project NiCHE, Tohoku University, ⁵⁾ Food and Health Science Research Unit, Tohoku University) : Accurate Quantification of Choline and Ethanolamine Plasmalogen Molecular Species by Liquid Chromatography Coupled with Tandem Mass Spectrometry. *Experimental Biology* 2016 (San Diego, CA, U.S.A.), 2016. 4.

- 35) Asai A^{1, 2)}, Shuto Y¹⁾, Nagao M¹⁾, Miyazawa T²⁾, Sugihara H¹⁾, Oikawa S¹⁾ (¹⁾ Department of Endocrinology-Diabetes and Metabolism-Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Food and Health Science Research Unit, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University) : Antiatherogenic effect of metformin in two mouse lines with different susceptibility to glucose intolerance. *European Atherosclerosis Society Congress (84th)* (Innsbruck, Austria), 2016. 5.
- 36) 浅井 明^{1, 2)}, 長尾元嗣^{1, 3)}, 宮澤陽夫²⁾, 杉原 仁¹⁾, 及川真一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 内分泌糖尿病代謝内科学分野, ²⁾ 東北大学大学院農学研究科 食の健康科学ユニット, ³⁾ ルンド大学 糖尿病センター) : 新規耐糖能異常モデルマウスにおける過食, 体重増加 : 若齢期におけるレプチン動態との関係. *日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 (第31回)* (横浜), 2017. 2.

[武蔵小杉病院動脈硬化・糖尿病・内分泌内科]

研究業績

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 石川真由美, 豊村順子¹⁾, 田口雄亮²⁾, 立花利公³⁾, 中田朋子²⁾, 豊島由香²⁾, 南 史朗²⁾ (¹⁾ 日本歯科大学 生命歯学部 NDU 生命科学講座, ²⁾ 日本医科大学先端医学研究所 生体機能制御学, ³⁾ 東京慈恵会医科大学基礎研究施設分子細胞生物学) : 成長ホルモンの腺島における小胞体ストレスの抑制作用の検討. *日本内分泌学会学術総会 (第89回)* (京都), 2016. 4.
- 2) Ishikawa M, Toyomura J¹⁾, Taguchi Y¹⁾, Tachibana T¹⁾, Nakata T¹⁾, Toyoshima Y¹⁾, Minami S²⁾ (¹⁾ Division of Molecular Cell Biology, Institute for Molecular Bioscience, University of Queensland, ²⁾ Department of Bioregulation, Institute for Advanced Medical Sciences, Nippon Medical School) : Role of growth hormone to maintain islet structure through aging by suppression of ER stress. *Endocrine Society's 98th Annual Meeting (Boston)*, 2016. 4.
- 3) 江川絵里香, 八木 孝, 大槻昌子, 石川真由美, 南 史朗¹⁾ (¹⁾ 先端医学) : 強皮症を背景とした Cibenzoline による薬剤性低血糖症の1例. *臨床内分泌台車 Update (第26回)* (大宮), 2016. 11.
- 4) 福永ヒトミ¹⁾, 金子佳世¹⁾, 望月瑠美¹⁾, 吉賀尚子¹⁾, 大槻昌子, 八木 孝, 石川真由美, 石原嗣郎²⁾, 米山剛一³⁾, 南 史朗⁴⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 武蔵小杉病院循環器内科, ³⁾ 診療科, ⁴⁾ 日本医科大学先端医学研究所生体機能制御学部門) : 妊娠糖尿病が依頼による療養指導が母体および出生児に与える効果の検討. *日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 (第32回)* (岡山), 2016. 11.
- 5) 小林和陽¹⁾, 八木 孝, 清水楓由香¹⁾, 小島聖来¹⁾, 輿水 学¹⁾, 月岡悦子²⁾, 森本千秋¹⁾, 石川真由美 (¹⁾ 武蔵小杉病院栄養科, ²⁾ 武蔵小杉) : 栄養管理・NST 実施施設申請をきっかけとした活動の見直し. *日本病態栄養学会年次学術集会 (第20回)* (京都), 2016. 11.
- 6) 月岡悦子¹⁾, 石川真由美, 八木 孝, 板倉潮人²⁾, 野沢大樹¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 武蔵小杉呼吸器内科) : 過去7年間のNST活動評価から見えた課題. *日本静脈慶長栄養学会学術集会 (第32回)* (岡山), 2017. 2.
- 7) 石川真由美, Brooks A¹⁾, Rojo M¹⁾, Chhabra Y¹⁾, 南 史朗²⁾, Parton R¹⁾, Waters M¹⁾ (¹⁾ Division of Molecular Cell Biology, Institute for Molecular Bioscience, University of Queensland, ²⁾ 日本医科大学) : 肝部分切除後の肝再生に必要な免疫反応における成長ホルモンの役割. *日本再生医療学会総会 (第16回)* (仙台), 2017. 3.

[千葉北総病院内分泌内科]

研究概要

平成28年度は一昨年度から引き続き科学研究費助成金の交付を受けている研究テーマである「神経経済学的適応障害としての2型糖尿病の行動経済学的病態分析」を行っている。この研究は、将来の健康を害することがわかっているにもかかわらず、食事療法や運動療法あるいは薬物療法を遵守できない2型糖尿病患者の心理メカニズムを、行動経済学的観点から解析することにより、画期的な行動介入療法を考案しようとするものである。2016年には、65歳未満の2型糖尿病の合併症の進行には学歴が大きく影響しており、この学歴の影響には現在の所得、経済状態、あるいは正規雇用かどうかは関係していないことが判明した。学歴と合併症の関係は1型糖尿病および65歳以上の2型糖尿病には認めなかった。このことは2型糖尿病という疾患の病態を理解する上で重要な発見である。この研究結果の一部は日本糖尿病学会年次学術集会(5月京都)医療経済学会研究大会(9月東京)で報告し、さらにPatient Prefer Adherenceに論文として掲

載された。2型糖尿病の強化インスリン療法における脂質代謝に対する影響について J Atheroscler Thromb に論文として掲載された。また、2型糖尿病の強化インスリン療法において、DPP4 阻害薬及び SGLT2 阻害薬の影響を調べると、SGLT2 阻害薬は血糖を改善するだけでなく、夜間低血糖を防ぐことが示された。このことは SGLT2 阻害薬の心血管イベント抑制効果の一因となっていると考えられる。この知見は日本糖尿病学会年次学術集会（5月京都）で報告し、J Diabetes Investig に論文として掲載された。その他、甲状腺ホルモン不応症の1例、甲状腺クリーゼの1例について日本甲状腺学会学術集会（11月東京）で、Lindau 病の1例について臨床内分泌代謝 update（11月大宮）で報告した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Harada T¹⁾, Inagaki K¹⁾, Nagao M¹⁾, Sato Y¹⁾, Sudo M¹⁾, Okajima F²⁾, Sugihara H¹⁾, Oikawa S¹⁾ (1) Division of Endocrinology, Diabetes, and Metabolism, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School., 2) Department of Endocrinology, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba ;) : Frequency of Achilles Tendon Xanthoma in Patients with Acute Coronary Syndrome. J Atheroscler Thromb 2017.
- 2) Emoto N^{1, 2)}, Okajima F^{1, 2)}, Sugihara H²⁾, Goto R³⁾ (1) Department of Endocrinology, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba ; , 2) Department of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Graduate School of Business Administration, Keio University) : A socioeconomic and behavioral survey of patients with difficult-to-control type 2 diabetes mellitus reveals an association between diabetic retinopathy and educational attainment. Patient Preference Adherence. 2016 ; 10 : 2151-2162.
- 3) Okajima F^{1, 2)}, Nagamine T^{1, 2)}, Nakamura Y^{1, 2)}, Hattori N^{1, 2)}, Sugihara H²⁾, Emoto N^{1, 2)} (1) Division of Endocrinology, Department of Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Preventive effect of ipragliflozin on nocturnal hypoglycemia in patients with type 2 diabetes treated with basal-bolus insulin therapy : An open-label, single-center, parallel, randomized control study. J Diabetes Investig. 2016.
- 4) Okajima F^{1, 3)}, Emoto N^{1, 3)}, Kato K²⁾, Sugihara H³⁾ (1) Division of Endocrinology, Department of Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Cardiology, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 3) Department of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Effect of Glycemic Control on Chylomicron Metabolism and Correlation between Postprandial Metabolism of Plasma Glucose and Chylomicron in Patients with Type 2 Diabetes Treated with Basal-bolus Insulin Therapy with or without Vildagliptin. J Atheroscler Thromb 2017 ; 24 (2) : 157-168.

著書

- 1) 江本直也：〔分担〕第4章主要疾患編 B. 甲状腺疾患 4. 薬剤と甲状腺. ここが知りたい内分泌疾患診療ハンドブック（監修：横手幸太郎 編著：龍野一郎 橋本尚武 岩岡秀明），2016；pp171-178, 中外医学社.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 仲村優子, 岡島史宜, 江本直也, 杉原 仁¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院糖尿病・内分泌代謝内科) : Lindau 病で無月経, 重症成人 GH 分泌不全症を合併した1例. 臨床内分泌代謝 Update (第26回) (大宮市), 2016. 11.
- 2) 長峯朋子^{1, 2)}, 岡島史宜^{1, 2)}, 江本直也^{1, 2)}, 杉原 仁¹⁾, 吉村 弘³⁾ (1) 日本医科大学 大学院医学研究科内分泌糖尿病代謝内科学分野, 2) 日本医科大学千葉北総病院内分泌内科, 3) 伊藤病院) : TSH が抑制された甲状腺中毒症を呈した甲状腺ホルモン不応症 (RTH) の1例. 日本甲状腺学会学術集会 (第59回) (東京都), 2016. 11.
- 3) 山口祐司, 小林俊介¹⁾, 原田太郎¹⁾, 稲垣恭子¹⁾, 福田いずみ¹⁾, 杉原 仁¹⁾ (1) 付属病院糖尿病内分泌代謝内科) : 当院における妊娠糖尿病患者の産後フォローアップ. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第59回) (京都市), 2016. 5.
- 4) 岡島史宜¹⁾, 仲村優子²⁾, 長峯朋子²⁾, 服部奈緒美²⁾, 杉原 仁²⁾ (1) 千葉北総病院内分泌内科, 2) 付属病院糖尿病内分泌代謝内科) : 強化インスリン療法患者における SGLT 2 阻害薬及び DPP-4 阻害薬併用の夜間低血糖に与える影響. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第59回) (京都市), 2016. 5.
- 5) 江本直也¹⁾, 岡島史宜¹⁾, 杉原 仁²⁾, 後藤 励^{3, 4)} (1) 日本医科大学千葉北総病院内分泌内科, 2) 日本医科大学内分泌糖尿病代謝内科学, 3) 京都大学白眉センター, 4) 京都大学経済学研究科) : 糖尿病患者の行動経済学的分析 (第5報) 網膜症と学歴, 所得, 睡眠時間, 危険回避度の分析. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第59回) (京都市), 2016. 5.

- 6) 山本晃之¹⁾, 山口祐司^{1, 2)}, 岡島史宜^{1, 2)}, 江本直也^{1, 2)}, 杉原 仁¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院内分泌内科, 2) 日本医科大学大学院医学研究科 内分泌糖尿病代謝内科学分野): 甲状腺クリーゼに重症疾患多発ニューロパチーを合併した1例. 日本甲状腺学会学術集会 (第59回) (東京都), 2016. 11.
- 7) 岡島史宜, 江本直也, 杉原 仁¹⁾ (1) 日本医科大学大学院内分泌糖尿病代謝学): 2型糖尿病患者における食後血糖及び食後カイロミクロン代謝の関連に関する検討. 日本動脈硬化学会総会・学術集会 (第48回) (東京都), 2016. 7.
- 8) 江本直也, 岡島史宜, 杉原 仁¹⁾ (1) 日本医科大学内分泌糖尿病代謝内科学): 網膜症を有する2型糖尿病患者の socioeconomic status. 医療経済学会研究大会 (第11回) (東京都), 2016. 9.

9. 呼吸器内科学分野

[付属病院呼吸器内科, 化学療法科]

研究概要

癌：肺癌個別化治療に向け、抗癌剤感受性と遺伝子発現に基づくレジメン開発、第III世代EGFR-TKI、免疫チェックポイントを標的とする国際共同の新薬開発を含む臨床試験等を行っている。EGFR 遺伝子変異に基づいた gefitinib の多施設臨床試験は国際的に評価され、研究を継続している。nab-Paclitaxel の至適用量を検討する医師主導多施設共同臨床試験を施行中である。IP 合併肺癌や薬剤性肺障害の研究では我国の中心的施設となっている。日常診療におけるがん患者のQOL 測定の意義を評価する研究も行っている。基礎研究は感受性、副作用予測研究を展開し、耐性予測、幹細胞、分化変化等に関する新治療開発を進めている。肺癌の発癌、増殖に関わる研究を遺伝子や蛋白レベルで行ない、発癌母地としてIIPs に注目し、特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指す。炎症：炎症性肺疾患、感染症を中心に研究を展開。厚労省研究班を軸に間質性肺炎の病態研究、IIPs の治療研究を行っている。特に国際共同治験に参加し、IPF 新規治療薬の開発・評価（ビルフェニドン、Nintedanib）に大きな役割を果たしている。また、稀少疾患であるびまん性肺疾患、サルコイドーシス、難治性気道病変の病態と治療研究、急性肺障害や薬剤性肺障害の国際比較、PMX 吸着療法の研究を推進（先進医療B 施行）。基礎研究では肺障害、線維化病態を中心に、骨髄由来線維細胞、EMT、HSP、サーファクタント、メカニカルストレス、マクロライドの作用機序と新規化合物 EM900 の評価、IP の呼気凝集液を用いた分子病態の検討を行っている。呼吸ケア：COPD の基礎研究は医薬基盤研究所の助成を受け、阪大、理化研との共同で創薬を進めてきた。フコースを付加する酵素 Fut8 について、ヒト血清中の活性が COPD の病態に与える影響と遺伝子との関係について研究を進め、血清蛋白の糖鎖修飾の COPD バイオマーカーとしての可能性についても検討している。COPD 増悪のバイオマーカー開発で2つの特許を取得、増悪感受性に関連する遺伝子（SIGLECs など）、増悪検出のためのバイオマーカーの候補（IL27）について論文報告した。COPD のフェノタイプ（肺気腫など）に関する SNPs の研究を進めている。厚労科研の助成により、在宅酸素療法患者の災害対策に対する公開講座を開催し、将来に備えた指針の作成を進めている。東京大学大学院工学系研究科と共同で医療システム関連の研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Miura Y, Saito Y, Atsumi K, Takeuchi S, Miyanaga A, Mizutani H, Minegishi Y, Noro R, Seike M, Kunugi S, Kubota K, Gemma A : Interstitial lung disease associated with amrubicin chemotherapy in patients with lung cancer : a single institutional study. *Jpn J Clin Oncol* 2016 ; 46 (7) : 674-680.
- 2) Saito Y, Azuma A, Matsuda K, Kamio K, Abe S, Gemma A : Pirfenidone exerts a suppressive effect on CCL18 expression in U937-derived macrophages partly by inhibiting STAT6 phosphorylation. *Immunopharmacol Immunotoxicol*. 2016 ; 38 (6) : 1-8.
- 3) 眞野容子¹⁾, 大谷彩恵¹⁾, 三上愛里¹⁾, 中村梯一¹⁾, 蛸井浩行, 藤田和恵, 齋藤好信, 弦間昭彦, 藤谷克己¹⁾, 古谷信彦¹⁾ (1) 文京学院大学 保険医療技術学部 臨床検査学科) : 微酸性電解水を用いた欧州標準試験法 EN1500 に基づく手指衛生に対する消毒効果の検討. *日本防菌防黴学会誌* 2016 ; 44 (12) : 637-642.
- 4) Azuma A : Safety management of treatment with nintedanib in clinical practice of IPF. *Respir Investig* 2017 ; 55 (1) : 1.
- 5) Azuma A, Taniguchi H, Inoue Y, Kondoh Y, Ogura T, Homma S, Fujimoto T, Sakamoto W, Sugiyama Y, Nukiwa T : Nintedanib in Japanese patients with idiopathic pulmonary fibrosis : A subgroup analysis of the INPULSIS[®] randomized trials. *Respirology* 2016 ; Epub ahead of print.
- 6) Enomoto N, Chida K, Suda T, Kaida Y, Taniguchi M, Azuma A, Hayashi H, Ogura T, Kitamura H, Yamaguchi O, Ando M, Sato A, Kudo S : An exploratory trial of intravenous immunoglobulin therapy for idiopathic pulmonary fibrosis : a preliminary multicenter report. *Clin Respir J* 2016 ; 10 (6) : 746-755.
- 7) Kuse N, Abe S, Hayashi H, Kamio K, Saito Y, Usuki J, Azuma A, Kudoh S, Gemma A : Long-term efficacy of macrolide treatment in idiopathic pulmonary fibrosis : a retrospective analysis. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis* 2016 ; 33 (3) : 242-246.
- 8) Iwata T, Yoshino I, Yoshida S, Ikeda N, Tsuboi M, Asato Y, Katakami N, Sakamoto K, Yamashita Y, Okami J, Mitsudomi T, Yamashita M, Yokouchi H, Okubo K, Azuma A, et al. : A phase II trial evaluating the efficacy and safety of perioperative pirfenidone for prevention of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis in lung cancer patients undergoing pulmonary resection : West Japan Oncology Group 6711 L (PEOPLE Study). *Respir Res* 2016 ; 17 (1) : 90.
- 9) Taniguchi H, Xu Z, Azuma A, Inoue Y, Li H, Fujimoto T, Bailes Z, Schlenker-Herceg R, Kim D : Subgroup analysis of Asian patients in the INPULSIS[®] trials of nintedanib in idiopathic pulmonary fibrosis. *Respirology* 2016 ; 21 (8) : 1425-1430.

- 10) Kubota K, Saito M, Aogi K, Sekine I, Yoshizawa H, Yanagita Y, Sakai H, Inoue K, Kitagawa C, Ogura T : Control of nausea with palonosetron versus granisetron, both combined with dexamethasone, in patients receiving cisplatin-or anthracycline plus cyclophosphamide-based regimens. *Support Care Cancer* 2016 ; 24 (9) : 4025-4033.
 - 11) Iwama E, Goto Y, Murakami H, Harada T, Tsumura S, Sakashita H, Mori Y, Nakagaki N, Fujita Y, Seike M¹⁾, Bessho A, Ono M, Sugio K, Okamoto I ¹⁾ Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Alectinib for patients with ALK rearrangement-positive non-small cell lung cancer and a poor performance status. *J Thorac Oncol* 2017 ; 23 (17) : 30123-30125.
 - 12) Miya T, Kobayashi K, Hino M, Ando M, Takeuchi S, Seike M, Kubota K, Gemma A¹⁾ ¹⁾ Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Efficacy of triple antiemetic therapy (palonosetron, dexamethasone, aprepitant) for chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving carboplatin-based moderately emetogenic chemotherapy. *Springerplus* 2016 ; 7 (5 (1)) : 2080-30125.
- (2) 総説 :
- 1) Fujimoto H, Kobayash T, Azuma A : Idiopathic Pulmonary Fibrosis : Treatment and Prognosis. *Clinical Medicine Insights : Circulatory, Respiratory and Pulmonary Medicine* 2016 ; 179-185.
 - 2) 服部久弥子^{1,2)} ¹⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック, ²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学分野) : 特集:呼吸リハビリテーション:サイエンスからみた将来展望 COPDの運動耐容能と心機能. *THE LUNG perspective* 2016 ; 24 (4) : 405-409.
 - 3) 服部久弥子¹⁾, 木田厚瑞¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 高齢 COPD 患者への対応. *日本臨牀* 2016 ; 74 (5) : 858-863.
- (3) 解説 :
- 1) 三浦由記子, 吾妻安良太 : Unmet needs オーファン医薬品開発. *呼吸器内科* 2016 ; 30 (5) : 420-428.
- (4) 症例報告 :
- 1) Kokuho N, Terasaki Y, Urushiyama H, Terasaki M, Kunugi S, Morimoto T, Azuma A, Usuda J, Gemma A, Eishi Y, Shimizu A : Pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma associated with pulmonary sarcoidosis : a case report and literature review. *Hum Pathol* 2016 ; 51 : 57-63.
- (5) 会議録 :
- 1) 澁川顕司, 清野精彦, 吾妻安良太, 高橋卓夫, 清水 渉 : 肺サルコイドーシス患者における致死性不整脈の予知. *日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌* 2016 ; 36 (1-2) : 93.
- (6) 解説/特集 :
- 1) 阿部信二, 吾妻安良太, 猪俣 稔 : 【間質性肺炎 Update】 臨床 特発性肺線維症急性増悪の診断と治療. *最新医学* 2016 ; 71 (7) : 1343-1349.
 - 2) 柏田 建, 吾妻安良太 : 【呼吸器疾患診療の最新情報】 特発性肺線維症の新規治療薬. *日本内科学会雑誌* 2016 ; 105 (6) : 970-976.
 - 3) 渥美健一郎, 吾妻安良太 : 【膠原病に伴う間質性肺炎】 膠原病と薬剤性肺障害. *リウマチ科* 2016 ; 55 (4) : 398-403.
- (7) 座談会/特集 :
- 1) 吾妻安良太, 小倉高志, 西岡安彦 : 【間質性肺炎 Update】 抗線維化薬時代の間質性肺炎診療を考える. *最新医学* 2016 ; 71 (7) : 1235-1248.

著 書

- 1) 齋藤好信 : [分担] 2 免疫チェックポイント療法の副作用管理 3. 肺障害. *がん免疫療法ガイドライン* (公益財団法人日本臨床腫瘍学会), 2016 ; pp29-32, 金原出版株式会社.
- 2) 齋藤好信, 弦間昭彦 : [分担] 第7章 チーム医療に必要な最新の知識 1. 薬物療法と間質性肺炎:治療と対策. *これからの乳癌診療 2016-2017* (園尾 博司), 2016 ; 金原出版株式会社.
- 3) 高橋明子, 久保田馨 : [共著] 認知症を有する高齢者肺がん患者の治療. *高齢者の肺がん治療の実際* (大江裕一郎), 2016 ; pp186-195, 医薬ジャーナル社.
- 4) 弦間明彦, 久保田馨, その他 45 名 : [共著] 一般臨床で役立つポケットマニュアル. *がん薬物療法 現場のルール* (弦間明彦), 2016 ; pp2-291, 南江堂.
- 5) 渥美健一郎, 吾妻安良太 : [分担] 膠原病と薬剤性肺障害. *リウマチ科* (編集 リウマチ科編集委員会), 2016 ; pp398-403, 科学評論社.
- 6) 渥美健一郎, 吾妻安良太 : [分担] IV-4 抗線維化薬 (ビルフェニドン, ニンテグニブ). *呼吸器疾患-最新の薬物療法-2* (編集 川名明彦, 江口研二), 2017 ; pp170-175, 克誠堂出版.
- 7) 蛸井浩行 ¹⁾ 日本医科大学付属病院 呼吸器内科) : [分担] 「肺結核の標準治療後,同時に存在していた気管支結核からの菌体成分に由来する器質性肺炎が出現した症例」「肺浸潤影・胸水貯留で発症し,播種性結核に播種性クリプトコッカス症の合併が明らかとなっ

- た高齢女性の症例」. 第一線呼吸器科医が困った症例から学んだ教訓 (吉澤靖之), 2017; pp119-128, 克誠堂出版.
- 8) Seike M : [分担] Mechanism of Resistance to Targeted Molecular Therapy. Molecular Targeted Therapy of Lung Cancer (Taki-guchi Y Springer), 2017; pp213-226, Springer.
 - 9) 清家正博 : [分担] EGFR 阻害剤. がん薬物療法現場のルール (弦間昭彦編集), 2016; pp186-188, 南江堂.
 - 10) 清家正博 : [分担] 血管新生阻害剤. がん薬物療法現場のルール (弦間昭彦編集), 2016; pp201-206, 南江堂.
 - 11) 清家正博 : [分担] MicroRNA 研究と癌診療. 呼吸器疾患の最新の治療 2016-2018 (杉山幸比古他編集), 2016; pp5-9, 南江堂.
 - 12) 清家正博 : [分担] 肺癌治療の次世代戦略. THE LUNG perspective, 2016; pp163-166, メディカルレビュー.
 - 13) 清家正博 : [分担] 免疫チェックポイント阻害剤とバイオマーカー. 呼吸器内科, 2016; pp53-56, 科学評論社.
 - 14) Fujimoto H, Kobayashi T, Azuma A : [共著] Idiopathic Pulmonary Fibrosis : Treatment and Prognosis. Clinical Medicine Insights : Circulatory, Respiratory and Pulmonary Medicine, 2015; pp179-185, Libertas Academica (Auckland, New Zealand).
 - 15) Kokuho N, Muro S, Azuma A : [自著] Chapter 17 : Combined Pulmonary Fibrosis and Emphysema (CPFE) : Which Symptom, Fibrosis or Emphysema, Should be Treated Preferentially? Or Should Both Be Treated Simultaneously?. Chronic Obstructive Pulmonary Disease, A Systemic Inflammatory Disease (Edit. Hiroyuki Nakamura, Kazutetsu Aoshiba), 2016; pp313-332, Springer Book.
 - 16) Azuma A, Schechter, Michael S : [編集] Treatment of Cystic Fibrosis and Other Rare Lung Diseases (Editors : Azuma Arata, Schechter, Michael S.), 2017; Springer Book.
 - 17) Handa T, Azuma A : [共著] Chapter 9 : (PartIII Management and Prognosis) Pharmacotherapy of IPF Using Antifibrotic Compounds. Idiopathic Pulmonary Fibrosis : Treatment and Prognosis. Advances in Diagnostic Tools and Disease Management (Editors : Hiroyuki Nakamura, Kazutetsu Aoshiba), 2016; Springer Book.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) Kubota K : Advances in systemic treatment of SCLC excluding immunotherapy. 6th European Lung Cancer Conference-ELCC 2016 (スイス ジュネーブ), 2016. 4.

(2) シンポジウム :

- 1) 高橋明子, 清家正博, 青山純一, 小林研一, 柏田 建, 渥美健一郎, 林 宏紀, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 藤田和恵, 齋藤好信, 久保田馨, 弦間昭彦 : Re-biopsy 当院における肺癌患者に対する再生検の実態調査. 日本呼吸器内視鏡学会学術集会 (第 39 回) (名古屋), 2016. 6.
- 2) 清家正博 : 血清プロテオーム解析を用いた肺扁平上皮癌のバイオマーカー探索. 日本電気泳動学会総会 (第 67 回) (釧路), 2016. 8.
- 3) 清家正博 : 肺癌における Precision Medicine の現状と展望. 次世代がん治療推進専門家養成プラン シンポジウム (東京), 2017. 3.
- 4) 清家正博 : 免疫 Check Point 阻害剤の有効性. 第 26 回 日本医科大学医学会 公開シンポジウム (東京), 2016. 6.

(3) 一般講演 :

- 1) 蛸井浩行, 大谷彩恵¹⁾, 藤田和恵, 五来美里¹⁾, 眞野容子¹⁾, 齋藤好信, 古谷信彦¹⁾, 弦間昭彦 (¹⁾ 文京学院大学 保険医療技術学部 臨床検査学科) : ポリプロピレンに対する病原細菌付着性の検討. 日本感染症学会総会・学術講演会 (第 90 回) (仙台), 2016. 4.
- 2) 佐藤陽三, 藤田和恵, 蛸井浩行, 柏田 建, 國保成暁, 渥美健一郎, 林 宏紀, 齋藤好信, 清家正博, 久保田馨, 弦間昭彦 : 無気肺を呈したマイコプラズマ肺炎の検討. 日本呼吸器内視鏡学会学術集会 (第 39 回) (名古屋), 2016. 6.
- 3) 柏田 建, 根井貴仁, 齋藤好信, 中山幸治, 渥美健一郎, 林 宏紀, 藤田和恵, 久保田馨, 吾妻安良太, 國保成暁, 功刀しのぶ, 寺崎泰弘, 弦間昭彦 : 当院における抗 ARS 抗体陽性間質性肺炎の臨床病理学的検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 56 回) (京都), 2016. 4.
- 4) 中山幸治, 林 宏紀, 柏田 建, 齋藤好信, 三山江穂, 渥美健一郎, 國保成暁, 藤田和恵, 吾妻安良太, 久保田馨, 弦間昭彦 : 初診時の抗 ARS 抗体陽性間質性肺炎における臨床的特徴について. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 56 回) (京都), 2016. 4.
- 5) 柏田 建, 阿部信二, 蛸井浩行, 渥美健一郎, 林 宏紀, 藤田和恵, 齋藤好信, 弦間昭彦, 久保田馨, 國保成暁, 寺崎泰弘¹⁾, 吾妻安良太¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学) : 金属加工業者に発症し, DLST, HLA-DPB1 アレルより診断した慢性ペリリウム肺の 1 例. 東京サルコイドーシス/肉芽種性疾患研究会 (第 183 回) (東京), 2016. 6.
- 6) 土屋未央, 林 宏紀, 矢嶋知佳, 蛸井浩行, 柏田 建, 阿部信二, 渥美健一郎, 藤田和恵, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 久保田馨, 國保成暁, 寺崎泰弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 解析人体病理学) : 亜急性に進行した IgG4 関連肺疾患の 1 例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第 222 回) (東京), 2016. 11.
- 7) 須賀実佑里, 峯岸裕司, 高橋彬彦, 高橋 聡, 渥美健一郎, 久保田馨, 弦間昭彦 : Pseudoprogression と判断された Nivolumab による肺障害の 1 例. 日本肺癌学会 関東支部学術集会 (第 177 回) (東京), 2016. 11.

- 8) 矢嶋知佳, 林 宏紀, 蛸井浩行, 柏田 建, 渥美健一郎, 藤田和恵, 齋藤好信, 阿部信二, 吾妻安良太, 久保田馨, 弦間昭彦: 活動性肺結核の治療中に急速に胸水貯留を来し局所麻酔下胸腔鏡を施行した1例. 日本呼吸器学会関東地方会(第221回)(山梨), 2016. 9.
 - 9) 内藤智之, 水谷英明, 高橋彬彦, 佐藤陽三, 高橋明子, 渥美健一郎, 武内 進, 宮永晃彦, 峯岸裕司, 清家正博, 久保田馨, 弦間昭彦: 75歳以上の進行期非小細胞肺癌に対する Afatinib 使用成績. 日本呼吸器学会学術講演会(第56回)(京都), 2016. 4.
 - 10) 青山純一, 林 宏紀, 矢嶋知佳, 蛸井浩行, 柏田 建, 渥美健一郎, 藤田和恵, 齋藤好信, 阿部信二, 吾妻安良太, 久保田馨, 弦間昭彦, 國保成暁, 功刀しのぶ¹⁾, 寺崎泰弘¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 解析人体病理学): 殺虫剤吸入後に発症した抗 MDA5 抗体陽性間質性肺炎の1例. 日本呼吸器学会関東地方会(第223回)(東京), 2017. 2.
 - 11) Otani S¹⁾, Takoi H²⁾, Fujita K²⁾ (1) Bunkyo Gakuin University, 2) Nippon Medical School): Contaminated gloves contribute to cross-transmission of healthcare-associated pathogens among healthcare workers. ASM Microbe 2016 (Boston), 2016. 6.
 - 12) Otani S¹⁾, Takoi H²⁾, Fujita K²⁾, Gorai M¹⁾, Okuda R¹⁾, Mano Y¹⁾, Matsuda K²⁾, Saito Y²⁾, Gemma A²⁾, Furuya N¹⁾ (1) Bunkyo Gakuin University, 2) Nippon Medical School): Contaminated gloves contribute to cross-transmission of healthcare-associated pathogens among healthcare workers. ASM Microbe 2016 (Boston), 2016. 6.
 - 13) Richeldi L, Kolb M, Azuma A, Stansen W, Quaresma M, Stowasser S, Crestani B: FVC decline over 1 year predicts mortality but not subsequent FVC decline in patients with IPF. ERS 2017 (Milano, Italy), 2016. 9.
 - 14) Richeldi L, Azuma A, Selman M, Tang W, Capapey J, Stowasser S, Cottin V: Twenty-four week decline in forced vital capacity (FVC) predicts mortality at week 52 in the INPULSIS[®] trials. ERS 2016 (London), 2016. 9.
 - 15) Taniguchi H, Ogura T, Inoue Y, Akimoto M, Azuma A: Long-term tolerability and safety of nintedanib on top of chronic background therapy with pirfenidone in Japanese patients with idiopathic pulmonary fibrosis (IPF): An open-label extension study of a phase 2 study. ERS 2016 (London), 2016. 9.
 - 16) 清家正博, 菅野哲平, 中道真仁, 高橋明子, 野呂林太郎, 久保田馨, 弦間昭彦: 肺癌における癌幹細胞/EMT 制御による分子標的薬耐性の克服. 日本肺癌学会学術集会(第57回)(福岡), 2016. 12.
 - 17) Otani S¹⁾, Hiroyuki T²⁾, Kazue F²⁾, Misato G¹⁾, Ryo O¹⁾, Yoko M¹⁾, Kuniko M¹⁾, Yoshinobu S²⁾, Akihiko G²⁾, Nobuhiko F¹⁾ (1) Bunkyo Gakuin University, 2) Nippon Medical School): Contaminated gloves contribute to cross-transmission of healthcare-associated pathogens among healthcare workers. ASM MICROBE 2016 (Boston, USA), 2016. 6.
 - 18) Gorai M¹⁾, Takeuchi N¹⁾, Fujita K²⁾, Mano Y¹⁾, Otani S¹⁾, Takoi H²⁾, Saito Y²⁾, Gemma A²⁾, Furuya N¹⁾ (1) Bunkyo Gakuin University, 2) Nippon Medical School): Epithelial cell injury might differ according to the bacterial species: cell viability in *P. aeruginosa* was reduced stronger than that in *E. coli* and *K. pneumoniae*. The 32nd World Congress of Biomedical Laboratory Science (IFBLS2016) (Kobe, Japan), 2016. 9.
- (4) Poster session :
- 1) Maher MT, Flaherty RK, Azuma A, et al. : Effect of nintedanib on decline in forced vital capacity (FVC) over time in the INPULSIS[®] trials in patients with idiopathic pulmonary fibrosis (IPF). ATS 2016 (San Francisco,U.S.A.), 2016. 5.
 - 2) Bando M, Sugiyama Y, Azuma A, Ebina M, Taniguchi H, Taguchi Y, Takahashi H, Homma S: Comparison of the GAP Index and Staging System with the Japanese Severity Classification System in Patients with Idiopathic Pulmonary Fibrosis. ATS 2016 (San Francisco,U.S.A.), 2016. 5.
 - 3) Kamio K, Azuma A, Usuki J, Matsuda K, Inomata M, Nishijima N, Itakura S, Kokuho N, Hayashi H, Yamaguchi T, Fujita K, Saito Y, Abe S, Kubota K, Gemma A: XPLN Negatively Regulates SPARC Expression by Targeting mTORC2 in Human Lung Fibroblasts. ATS 2016 (San Francisco,U.S.A.), 2016. 5.
 - 4) Kokuho N, Kunugi S, Onda N, Urushiyama H, Terasaki M, Azuma A, Mitunori H, Gemma A, Terasaki Y: Localized Pulmonary Crystal-Storing Histiocytosis Complicating Pulmonary Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma-Transbronchial Lung Biopsy Study was Key Step for Final Diagnosis. ATS 2016 (San Francisco,U.S.A.), 2016. 5.
 - 5) Kubota K, Miyanaga A, Hosomi Y, Okuma Y, Minato K, Fujimoto S, Takiguchi Y, Okamoto H, Hattori Y, Isobe H, Aono H: I516P-Phase II trial of S-1 plus cisplatin combined with bevacizumab for advanced non-squamous non-small cell lung cancer (TCOG LC-I202). European Society for Medical Oncology 2016 (ESMO 2016) (デンマーク コペンハーゲン), 2016. 10.
- (5) Thematic Poster entitled :
- 1) Inoue Y, Nakata K, Yamaguchi E, Arai T, Sugimoto C, Setoguchi Y, Ichiwata T, Ebina M, Cho K, Tazawa R, Ishii H, Kasai T, Akira M, Uchida K, Azuma A, et al. : Establishment of the consecutive registration system for pulmonary alveolar proteinosis in Japan: Updated incidence, prevalence and effective surveillance for intractable cases. ERS 2016 (London), 2016. 9.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Kubota Y, Asai K, Murai K, Tsukada Y, Hayashi H, Saito Y, Azuma A, Gemma A, Shimizu W : COPD advances in left ventricular diastolic dysfunction. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2016 ; 11 : 649-655.
- 2) 藤田和恵, 青木 渉, 三上愛里, 野澤洋祐, 眞野容子, 古谷信彦, 齋藤好信, 弦間昭彦, 吾妻安良太 : 難治性緑膿菌気道感染症における Clarithromycin 長期投与の緑膿菌への影響に関する検討. *The Japanese Journal of Antibiotics* 2016 ; 69 (Suppl.A) : 26-31.
- 3) Hattori K¹⁾, Ishii T¹⁾, Motegi T¹⁾, Kusunoki Y¹⁾, Gemma A¹⁾, Kida K¹⁾ (¹⁾ Department of Pulmonary Medicine and Oncology ; Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : Relationship between serum cardiac troponin T level and cardiopulmonary function in stable chronic obstructive pulmonary disease. *International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease* 2015 ; 10 (10) : 309-320.

追加分症例報告：

- 1) 高橋彬彦, 峯岸裕司, 小林研一, 渥美健一郎, 弦間昭彦, 吾妻安良太, 久保田馨 : タルクによる胸膜癒着術施行後に肺障害を起こした2症例. *肺癌* 2015 ; 55 (4) : 295.

追加分会議録：

- 1) 柏田 建, 根井貴仁, 齋藤好信, 中山幸治, 渥美健一郎, 林 宏紀, 藤田和恵, 久保田馨, 吾妻安良太, 國保成暁, 功刀しのぶ, 寺崎泰弘, 弦間昭彦 : 当院における抗 ARS 抗体陽性間質性肺炎の臨床病理学的検討. *日本呼吸器学会誌* 2016 ; 5 (増刊) : 202.
- 2) 中山幸治, 林 宏紀, 柏田 建, 齋藤好信, 三山江穂, 渥美健一郎, 國保成暁, 藤田和恵, 吾妻安良太, 久保田馨, 弦間昭彦 : 初診時の抗 ARS 抗体陽性間質性肺炎における臨床的特徴について. *日本呼吸器学会誌* 2016 ; 5 (増刊) : 201.
- 3) 吾妻安良太 : Unmet Needs オーハン医薬品探索の足跡. *日本呼吸器学会誌* 2016 ; 5 (増刊) : 7.
- 4) 淀川顕司, 清野精彦, 小原俊彦, 八島正明, 吾妻安良太, 清水 渉 : 肺サルコイドーシスにおける心室遅延電位の検出 高分解能ホルター心電図を用いた検討. *心電図* 2016 ; 36 (Suppl.1) : 1-60.

著書

追加分：

- 1) 久保田馨, その他 86 名 : [共著] 3 肺癌, 悪性胸膜中皮腫. *What's New Oncology 3rd Edition がん治療エッセンシャルガイド* (佐藤隆美), 2015 ; pp14-21, 南山堂.
- 2) 久保田馨 : [共著] 小細胞肺癌の標準化学療法. *小細胞肺癌の標準化学療法 : 肺癌化学療法レジメン 実践と工夫 第2版* (弦間明彦), 2015 ; pp14-21, 中外医学社.
- 3) 久保田馨, その他 145 名 : [自著] 最近, 小細胞肺癌治療の領域にエビデンスは加わっているか?. *EBM 呼吸器疾患の治療 (2016-2017)* (永井厚志), 2016 ; pp454-457, 中外医学社.
- 4) 渥美健一郎, 吾妻安良太 : [分担] 呼吸器疾患 6. 間質性肺炎 (特発性・膠原病性・薬剤性). *日常臨床に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE* (監修, 門脇 孝, 小室 一成, 宮地 良樹), 2016 ; pp105-112, メディカルレビュー社.
- 5) 渥美健一郎, 吾妻安良太 : [分担] II-5 抗炎症・免疫抑制薬 (マクロライドも含む). *呼吸器疾患最新の治療 2016-2018* (編集 杉山幸比古, 門田淳一, 弦間昭彦), 2016 ; pp82-87, 南江堂.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) Cottin V, Nther A, Albera C, Tomassetti S, Azuma A, Bartley K, Burgess T, Oduyungbo A, Kirchgässler K, Maher MT : Risk Factors Associated With Pirfenidone Discontinuation in Patients With Idiopathic Pulmonary Fibrosis in a Real-World Setting. *ATS 2017* (Washington D.C.), 2017. 5.

追加分 Poster session：

- 1) Koschel D, Cottin V, Maher T, Azuma A, et al. : Pirfenidone post-authorization safety registry (PASSPORT) update. *DGP 2016* (Leipzig, Germany), 2016. 3.

[武蔵小杉病院呼吸器内科]

研究業績

論文

(1) 総説：

1) 白杵二郎：【特発性間質性肺炎の最前線】気管支鏡検査の役割. 呼吸器内科 2016；30（2）：113-117.

(2) 症例報告：

1) 中村康一¹⁾, 板倉潮人, 高木 聡²⁾, 小林和陽³⁾, 齋藤浩子²⁾, 月岡悦子²⁾, 山口貴子²⁾, 野口周作⁴⁾, 加藤和久⁵⁾, 白杵二郎 (1) 武蔵小杉病院整形外科理学療法室, 2) 武蔵小杉病院看護部, 3) 武蔵小杉病院栄養科, 4) 武蔵小杉病院薬剤部, 5) 武蔵小杉病院臨床工学部)：サルコペニアが疑われる呼吸不全例に対し外来で運動療法を実施した1例. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2016；26（2）：045-348.

1) Kamio K, Azuma A, Usuki J, Matsuda K, Inomata M, Nishijima N, Itakura S, Hayashi H, Kashiwada T, Kokuho N, Atsumi K, Yamaguchi T, Fujita K, Saito Y, Abe S, et al. : XPLN is modulated by HDAC inhibitors and negatively regulates SPARC expression by targeting mTORC2 in human lung fibroblasts. Pulm Pharmacol Ther 2017；44：61-69.

学会発表

(1) 一般講演：

1) 小林和陽¹⁾, 板倉潮人, 高木 聡²⁾, 齋藤浩子²⁾, 中村康一³⁾, 森本千秋¹⁾, 白杵二郎 (1) 武蔵小杉病院栄養科, 2) 武蔵小杉病院看護部, 3) 武蔵小杉病院理学療法室)：当院の間接性肺炎入院患者における栄養療法の実践. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第26回）（横浜），2016. 10.

2) 高木 聡¹⁾, 板倉潮人, 小林和陽²⁾, 齋藤浩子¹⁾, 中村康一³⁾, 月岡悦子¹⁾, 山口貴子¹⁾, 野口周作⁴⁾, 白杵二郎 (1) 武蔵小杉病院看護部, 2) 武蔵小杉病院栄養科, 3) 武蔵小杉病院理学療法室, 4) 武蔵小杉病院薬剤部)：看護必要度「呼吸ケア」から見えるRSTリンクナース育成の必要性について. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（第26回）（横浜），2016. 10.

3) Kamio K, Azuma A, Usuki J, Matsuda K, Inomata M, Nishijima N, Itakura S, Kokuho N, Hayashi H, Yamaguchi T, Fujita K, Saito Y, Abe S, Kubota K, Gemma A : XPLN Negatively Regulates SPARC Expression by Targeting mTORC2 in Human Lung Fibroblasts. ATS American Thoracic Society（サンフランシスコ），2016. 5.

4) 小林典之¹⁾, 岡本淳一²⁾, 窪倉浩俊²⁾, 西島伸彦, 神尾孝一郎, 白杵二郎, 白田実男¹⁾ (1) 付属病院呼吸器外科医, 2) 武蔵小杉病院呼吸器外科)：肺腫瘍後に偽膜性腸炎が原因と考えられるIgA血管炎を発症した1例. 日本肺癌学会関東支部会（第176回）（東京），2016. 6.

5) 月岡悦子¹⁾, 石川真由美²⁾, 八木 孝²⁾, 板倉潮人, 野沢大樹¹⁾ (1) 武蔵小杉看護部, 2) 武蔵小杉病院内分泌・糖尿病・動脈硬化内科)：過去7年間のNST活動評価から見えた課題. 日本静脈経腸栄養学会学術集会（岡山），2017. 2.

[武蔵小杉病院腫瘍内科]

研究概要

2016年度の研究業績概要としては、学会発表21本、和文総説21本、著書4本を執筆した。

研究業績

論文

(1) 総説：

1) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科)：医療不信患者への対処術～強まる逆風に、医師はどう立ち向かうべきか：がん患者が不安の塊、共感するスキルを身につけたい. 日本医事新報 2017；(4844)：30-31.

2) 高橋佳容子¹⁾, 勝俣範之²⁾ (1) 利根中央病院 産婦人科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科)：固形がん治療-分子標的治療薬を選び、使いこなす技術：婦人科（卵巣がん）抗VEGF抗体薬を使う/使わないの判断は？. 臨床腫瘍プラクティス 2016；12（4）：334-337.

3) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科)：レジデントのためのオンコロジーカンファレンス（第4回）（最終回）：オンコロジーック・エマージェンシーに対処せよ！. Cancer Board Square 2016；2（3）：572-582.

4) 高橋佳容子¹⁾, 勝俣範之²⁾ (1) 獨協医科大学 産婦人科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科)：婦人科がん・泌尿器がんに対する新治療】卵巣がんに対するPARP阻害剤の開発. 腫瘍内科 2016；18（2）：116-119.

- 5) 古川佳容子¹⁾, 勝俣範之²⁾ (1) 獨協医科大学 産婦人科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 抗癌剤の副作用対策: 抗癌剤の主な副作用と頻度, 減量・休薬基準. 日本医事新報 2016; (4823): 28-35.
- 6) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): レジデントのためのオンコロジーカンファレンス (第3回): 発熱性好中球減少症 (FN) はこわくない. Cancer Board Square 2016; 2 (2): 334-348.
- 7) 横山雄章¹⁾, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 不明熱を切る: 専門医が不明熱を切る 腫瘍専門医が不明熱を切る. Modern Physician 2016; 36 (4): 331-334.
- 8) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 化学療法総論. 一步先行く 産科・婦人科領域のIVR 2016; 150-155.
- 9) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): レジデントのためのオンコロジーカンファレンス (第3回): 発熱性好中球減少症 (FN) はこわくない. Cancer Board Square 2016; 2 (2): 334-348.
- 10) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 婦人科癌・泌尿器科癌 化学療法における制吐療法. 癌化学療法と制吐薬使用マニュアル 2016; 6-12.
- 11) 松田正典¹⁾, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): がん薬物療法に使用する薬剤事典: 1. 抗がん剤の分類. がん薬物療法 現場のルール 2016; 180-182.

著書

- 1) 門倉玄武¹⁾, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): [共著] 疾患別がん薬物療法のルール: 14. 子宮がん 14-1 子宮頸がん. がん薬物療法 現場のルール, 2016; pp101-103.
- 2) 酒井 瞳¹⁾, 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): [共著] 疾患別がん薬物療法のルール: 14. 子宮がん 14-2 子宮体がん. がん薬物療法 現場のルール, 2016; pp104-107.
- 3) 菅野哲平¹⁾, 勝俣範之²⁾ (1) 国立がん研究センター研究所創薬臨床研究分野, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): [共著] 疾患別がん薬物療法のルール: 15. 卵巣がん. がん薬物療法 現場のルール, 2016; pp108-111.
- 4) 弦間昭彦¹⁾, 勝俣範之²⁾ (1) 日本医科大学附属病院, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): [共著] がん薬物療法 現場のルール 一般臨床で役立つポケットマニュアル (弦間昭彦), 2016; 南江堂.
- 5) 西條長宏¹⁾, 勝俣範之²⁾ (1) 公益社団法人 日本臨床腫瘍学会 特別顧問, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): [分担] 2. 卵巣がんに対する Dose-dense TC 療法. Dr.Saijo のがんレッスン がん薬物療法と臨床試験のエッセンス, 2016; pp96-126, 日経メディカル開発.
- 6) 勝俣範之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): [編集] 現場のトレンドを看護につなげよう! がん診療のコンセンサス&マイルールもちり集. プロフェッショナルがんナーシング, 2017; pp11-41, 株式会社メディカ出版.

学会発表

(1) パネルディスカッション:

- 1) 勝俣範之: サバイバーシップ: おひとりさま・子ども・パートナーの立場から考える. 日本乳癌学会学術集会 (第24回) (東京ビッグサイト), 2016. 6.
- 2) 勝俣範之: がん治療と緩和医療の統合のための相互教育: 腫瘍内科医の立場から. 日本緩和医療学会学術大会 (第21回) (国立京都国際会館), 2016. 6.

(2) セミナー:

- 1) 勝俣範之: インチキ療法に騙されないためには. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第14回) (神戸国際展示場), 2016. 7.
- 2) 勝俣範之: 卵巣癌. 日本臨床腫瘍学会 (第14回) (神戸国際展示場), 2016. 7.
- 3) 勝俣範之: これだけは知っておきたい外来化学療法の副作用対策. 日本がんサポーターティブケア学会学術集会 (第1回) (東京慈恵会医科大学), 2016. 9.
- 4) 勝俣範之: がん治療のインターネット情報の信頼度に関する調査研究. 日本癌治療学会学術集会 (第54回) (パシフィコ横浜), 2016. 10.

(3) 一般講演:

- 1) 勝俣範之: 患者の痛みの訴えを聞くには?: 腫瘍内科医の立場より. 日本緩和医療学会学術大会 (第21回) (国立京都国際会館), 2016. 6.
- 2) 勝俣範之: Current situation of early integration of palliative care in oncology practice in Japan. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第14回) (神戸国際会議場), 2016. 7.
- 3) 勝俣範之: New Treatment options in Gynecologic Malignancy. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第14回) (神戸国際会議場), 2016. 7.
- 4) 勝俣範之: Clinical Debate: TC +BEV vs or dose-dense TC? Dose-dense TC for ovarian cancer. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第

- 14 回) (神戸国際展示場), 2016. 7.
- 5) 勝俣範之: 質の高いサバイバーシップを担保する薬物療法. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (パシフィコ横浜), 2016. 10.
 - 6) 勝俣範之: 腫瘍内科医のプロフェッショナルリズム. 日本肉腫学会・日本臨床肉腫学会強盗年次総会 (第 1 回) (御所西京都平安ホテル), 2016. 12.
 - 7) 赤須東樹¹⁾, 大槻昌子²⁾, 石川真由美²⁾, 南 史朗²⁾, 許田 典男 典, 北山 康彦 康, 門倉 玄武 玄³⁾, 勝俣 範之 範³⁾, 杉谷 巖 巖⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 甲状腺未分化癌に対する手術および術後レンパチニブによる治療経験. 日本内分泌・甲状腺外科学会, 2016. 4.
 - 8) 佐藤洋子¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 湘南鎌倉総合病院 乳腺外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 急激に進行し治療に難渋した乳腺紡錘細胞癌の 1 例. 日本乳癌学会総会, 2016. 6.
 - 9) 渡辺昌則¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 食道がんに対する 3 週毎 5FU+CDDP+ 毎週パクリタキセル (weekly PCF) 療法の第 I 相試験. 日本食道学会学術集会 (第 70 回), 2016. 7.
 - 10) 渡辺昌則¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 進行食道癌に対する PTX+CDDP+5FU (weekly PCF) 療法の第 I 相試験. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回), 2016. 7.
 - 11) 西 智弘¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 川崎市立井田病院・かわさき総合ケアセンター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 腫瘍内科と緩和ケアを統合した研修プログラムの実践. Palliative Care Research, 2016. 6.
 - 12) 勝俣範之¹⁾, 門倉玄武¹⁾, 横山雄章¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 患者の痛みの訴えを聞く, 聴く, 訊く… 患者の痛みの訴えを聞くには? 腫瘍内科医の立場より. Palliative Care Research, 2016. 6.
 - 13) 勝俣範之¹⁾, 門倉玄武¹⁾, 横山雄章¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): がん治療と緩和医療の統合のための相互教育 がん治療と緩和医療の統合のための相互教育 腫瘍内科医の立場から. Palliative Care Research, 2016. 6.
 - 14) 西 智弘¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 川崎市立井田病院・かわさき総合ケアセンター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院): がん治療と緩和医療の統合のための相互教育 腫瘍内科と緩和ケアを統合した研修プログラムの課題. Palliative Care Research, 2016. 6.
 - 15) 勝俣範之¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): がん治療および緩和ケア選択における意思決定支援 腫瘍内科医の立場から. 死の臨床, 2016. 9.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 栗原香織¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 病気とくすり 2016 基礎と実践 Expert's Guide: 病原微生物・悪性新生物とくすり 悪性腫瘍 がん疼痛. 薬局 2016; 67 (4): 1926-1930.
- 2) 輪湖哲也¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院 薬剤部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 病気とくすり 2016 基礎と実践 Expert's Guide: 病原微生物・悪性新生物とくすり 悪性腫瘍 肉腫 (骨・軟部腫瘍). 薬局 2016; 67 (4): 1921-1925.
- 3) 小野寺恵子¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 病気とくすり 2016 基礎と実践 Expert's Guide: 病原微生物・悪性新生物とくすり 悪性腫瘍 乳癌. 薬局 2016; 67 (4): 1912-1920.
- 4) 此松晶子¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 病気とくすり 2016 基礎と実践 Expert's Guide: 病原微生物・悪性新生物とくすり 悪性腫瘍 卵巣癌. 薬局 2016; 67 (4): 1908-1911.
- 5) 宮田広樹¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 病気とくすり 2016 基礎と実践 Expert's Guide: 病原微生物・悪性新生物とくすり 悪性腫瘍 子宮癌. 薬局 2016; 67 (4): 1903-1907.
- 6) 高橋佳容子¹⁾, 勝俣範之²⁾ ⁽¹⁾ 獨協医科大学 産婦人科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): 産婦人科処方実践マニュアル: (第 2 章) 婦人科腫瘍分野 子宮体部腫瘍 進行子宮体癌に対するホルモン療法. 産科と婦人科 2016; 83: 141-143.
- 7) 勝俣範之¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): レジデントのためのオンコロジャーカンファレンス (第 2 回): 絶対に見逃してはいけないがんとは?. Cancer Board Square 2016; 2 (1): 154-165.

著書

追加分:

- 1) 勝俣範之¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科): [編集] 病気とくすり 2016 基礎と実践 Expert's Guide, 2016; 南江堂.

[千葉北総病院呼吸器内科]

研究概要

[千葉北総病院呼吸器内科] 研究概要内科学 (呼吸器, 感染, 腫瘍部門) を担当し大学付属病院として教育, 臨床研究を担う以外に地域

の中核病院として、以上の三分野について多くの臨床研究実績を持つ。(1) 呼吸器病学：特発性間質性肺炎や慢性閉塞性肺疾患にともなう肺高血症も含めた治療法の開発、睡眠時無呼吸症候群の肺循環の超音波評価、気管支拡張症に対する血清診断分類の開発、気管支喘息重責発作時の非侵襲的陽圧換気法の評価、呼吸困難感の評価、咳喘息の治療評価慢性閉塞性肺疾患の地域連携の方法論の確立、新しい呼吸抵抗の評価 (RINT, MOSTGRAPH を用いた) (2) 感染症学：病院感染対策、各種院内感染サーベイランス、院内肺炎の予防、特殊感染症診断制御、結核による院内感染制御、肺非定型抗酸菌症の治療、RST：呼吸サポートチームの運営と人工呼吸器肺炎の、肺炎に対する至適抗生剤化学療法、病院内耐性菌サーベイランス、マクロライドによる各種慢性肺疾患の急性増悪の制御、マクロライド抗菌薬の新作用開発 (3) 臨床腫瘍学：肺癌抗腫瘍剤化学療法と副作用対策、肺癌の分子生物学的治療標的に対する至適治療法の確立、肺癌末期患者に対する緩和治療 (感染制御も含む) の提案、肺癌の超音波気管支内視鏡 (EBUS) 診断、抗癌剤による副作用としての薬剤性肺臓炎の診断と治療以上につき臨床研究を継続中である。(4) 呼吸器疾患の地域連携システムの開発かねてより慢性閉塞性肺疾患患者に対する General practitioner との手帳を用いた地域連携を進めてきた。これに加えて吸入指導や服薬指導を地域で行うべく手帳による呼吸器疾患医薬連携システムを構築している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kokubo N^{1,2)}, Terasaki Y¹⁾, Kunugi S¹⁾, Onda N³⁾, Urushiyama H¹⁾, Terasaki M¹⁾, Hino M³⁾, Gemma A²⁾, Hatori T⁴⁾, Shimizu A¹⁾ (1) Department of Analytic Human Pathology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Respiratory Disease Center, 4) Department of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital) : Localized pulmonary crystal-storing histiocytosis complicating pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma presenting with multiple mass lesions. Hum Pathol 2017 ; 46 : pii : S0046-8177 (17) 30045-X.
- 2) Miya T¹⁾, Kobayashi K²⁾, Hino M³⁾, Ando M⁴⁾, Takeuchi S⁵⁾, Seike M⁵⁾, Kubota K⁵⁾, Gemma A⁵⁾ (1) Department of Pulmonary Medicine/Medical Oncology, Nippon Medical School, Tamanagayama Hospital, 2) Department of Pulmonary Medicine, Saitama Medical University International Medical Center, 3) Department of Pulmonary Medicine, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, 4) Department of Pulmonary Medicine, Jizankai Medical Foundation Tsuboi Cancer Center Hospital, 5) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Efficacy of triple antiemetic therapy (palonosetron, dexamethasone, aprepitant) for chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving carboplatin-based, moderately emetogenic chemotherapy. Springerplus 2016.
- 3) Naito T¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Hino M¹⁾, Gemma A²⁾ (1) Respiratory Disease Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : A case of anti-aminoacyl tRNA synthetase (ARS) antibody-positive polymyositis (PM)/dermatomyositis (DM) -associated interstitial pneumonia (IP) successfully controlled with bosentan therapy. Respiratory Medicine Case Reports 2017 ; 21 : 62-65.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Kato Y, Tanaka Y, Motohashi N, Kosaihiro S, Naito T : Investigation of utility of ebus-tbna in the diagnosis of sarcoidosis. 21st Congress of Asian Pacific Society of Respiriology (Bangkok Thailand), 2016. 11.
- 2) Naito T, Tanaka Y, Motohashi N, Kosaihiro S, Kato Y, Hino M : Evaluation of cardiomyopathy in patients with collagen vascular disease-associated interstitial pneumonia by thallium-201 myocardial scintigram and 123I-β-methyl-iodophenyl pentadecanoic acid scintigraphy. 21st Congress of Asian Pacific Society of Respiriology (Bangkok Thailand), 2016. 11.
- 3) Tanaka Y, Motohashi N, Kosaihiro S, Kato Y, Naito T, Hino M : Effect of tiotropium monotherapy versus tiotropium plus indacaterol in patients with chronic obstructive pulmonary disease-single-centre, randomised, prospective, real-world study. 21st Congress of Asian Pacific Society of Respiriology (Bangkok Thailand), 2016. 11.
- 4) 内藤智之, 水谷英明¹⁾, 高橋彬彦¹⁾, 佐藤陽三¹⁾, 高橋明子¹⁾, 渥美健一郎¹⁾, 竹内 進¹⁾, 宮永晃彦¹⁾, 峰岸裕司¹⁾, 清家正博¹⁾, 久保田馨¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (1) 日本医科大学 呼吸器内科) : 75才以上の進行期非小細胞肺癌に対する Afatinib 使用成績. 日本呼吸器学会学術集会 (第56回) (京都市), 2016. 4.
- 5) 本橋典久, 小齊平聖治, 内藤智之, 二島俊一, 加藤泰裕, 田中庸介, 日野光紀, 鳥羽 努¹⁾, 久保田馨²⁾, 弦間昭彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 病理診断部, 2) 日本医科大学付属病院 呼吸器内科) : アフェチニブ投与中に小細胞肺癌に形質転換した EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌の1例. 日本肺癌学会関東支部学術集会 (第178回) (東京都新宿区), 2017. 3.

10. 精神・行動医学分野

[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]

研究概要

精神疾患の病態を解明し、より科学的で適切な診断、治療法を開発することを目的に、診療場面で遭遇する症例を対象とする臨床研究を中心に行った。その際に、標準化された精神科診断学、症状評価法とともに各種の画像解析法を駆使し、精神障害の症状や病態を可能な限り科学的に捉えることに心がけた。今年度は以下の研究を行った。1. 分子イメージングを用いた精神疾患の病態研究：ポジトロンCT (PET) による分子イメージングの技術を用いて、アルツハイマー型認知症、軽度認知障害の病態に直接関わるアミロイドおよびタウ蛋白を定量評価し、アルツハイマー病の客観的診断法の開発を目指した。2. 分子イメージングを用いた精神科治療評価に関する研究：PETを用いて、抗精神病薬、抗うつ薬の作用、副作用と脳内特異的作用点の変化の関連を調べ、治療効果の客観的評価法の開発を目指した。またセロトニン1B受容体イメージングを用いて、電気けいれん療法の抗うつ作用の神経基盤を検討した。3. 脳機能イメージングを用いたドーピング研究：PET およびfMRI を用いて各種向心性薬の中樞作用を評価することによってのドーピング効果を客観的に評価、検討した。4. fMRIを用いた高次脳機能障害の研究：fMRIを用いて、人の高等感情や精神障害における高次脳機能障害を調べた。5. 老年期精神障害および認知症に関する臨床研究を行った。5. 高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例に対して後方視調査を行った。6. 児童思春期の精神障害に関する研究：子どものうつ病に関する後方視調査を行った。さらに、子どもの精神症状および問題行動について質問紙を用い横断的、縦断的な調査を行った。その他に、7. コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアに関する研究や調査を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Okumra Y, Hatta K, Wada K, Takeuchi T, Kishi Y : expert opinions on the first-line pharmacological treatment for delirium in Japan : a conjoint analysis. *Int Psychogeriatr* 2016 ; 28 (6) : 1041-1050.
- 2) Kishi Y, Hazama Y, Komagata Y, Ishizuka M, Karube M, Takahashi J, Nagasaki C, Thurber S, Kathol R : Validity of the INETEMED complexity assessment with older patients in a Japanese general hospital. *Asian Academic Research Journal of Multidisciplinary* 2016 ; 3 (1) : 224-234.
- 3) 山村英治, 松田 潔, 菊池広子, 石丸直樹, 遠藤広史, 黒川 顕, 岸 泰宏 : ヘリウムガス吸入による自殺完遂の1例. *中毒研究* 2016 ; 29 (4) : 355-359.
- 4) Yoshikawa E, Nishi D¹⁾, Matusoka Y (¹ Department of Mental Health Policy and Evaluation, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, ² Division of Health Care Research, Center for Public Health Sciences, National Cancer Center) : Association between frequency of fried food consumption and resilience to depression in Japanese company workers : a cross-sectional study. *Lipids in health and disease* 2016 ; 15 (156).
- 5) 吉川栄省, 西 大輔, 松岡 豊 (¹ Department of Mental Health Policy and Evaluation, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, ² Division of Health Care Research, Center for Public Health Sciences, National Cancer Center) : Association between regular physical exercise and depressive symptoms mediated through social support and resilience in Japanese company workers : a cross-sectional study. *BMC Public health* 2016 ; 16 (553).
- 6) 吉川栄省, 西 大輔¹⁾, 松岡 豊²⁾ (¹ Department of Mental Health Policy and Evaluation, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, ² Division of Health Care Research, Center for Public Health Sciences, National Cancer Center) : Association between frequency of fried food consumption and resilience to depression in Japanese company workers : a cross-sectional study. *lipids in health and disease* 2016 ; 15 (156).
- 7) Kurita T, Moriya T, Nishino S, Hirata E, Hirasawa N, Okubo Y, Sato T : Non-24-hour sleep-wake syndrome improved by low-dose valproic acid : a case report. *Neuropsychiatr Dis Treat*. 2016 ; 12 : 3199-3203.
- 8) Arakawa R, Tateno A, Kim W, Sakayori T, Ogawa K, Okubo Y : Time-course of serotonin transporter occupancy by single dose of three SSRIs in human brain : A positron emission tomography study with [(11) C] DASB. *Psychiatry Res.* 2016 ; 251 : 1-6.
- 9) Karashima Y, Nishi D, Noguchi H, Usuki M, Yamashita A, Koido Y, Okubo Y, Matsuoka Y : Post-Traumatic Stress Symptoms and Burnout Among Medical Rescue Workers 4 Years After the Great East Japan Earthquake : A Longitudinal Study. *Disaster Med Public Health Prep.* 2016 ; 10 (6) : 845-853.
- 10) 肥田道彦 : パーキンソン関連疾患に伴う精神症状. *臨床精神医学* 2016 ; 第45増刊号 : 475-479.

(2) 総説：

- 1) 成重竜一郎：3次救急医療施設における子どもの自殺の危機介入と支援（シンポジウム：子どもの自殺の危機介入と支援）. 児童青年精神医学とその近接領域 2016；57（4）：96-101.
- 2) 館野 周, 大久保善朗：アミロイドイメージングによる認知症の診断. 臨床精神医学 2016；45（4）：433-439.
- 3) 岸 泰宏：【せん妄の予防と対策】せん妄の医療経済におけるインパクト. 医学のあゆみ 2016；256（11）：1155-1158.
- 4) 岸 泰宏：【せん妄の予防と対策】アルコール離脱症候群への対応. 医学のあゆみ 2016；256（11）：1151-1154.
- 5) 岸 泰宏：【せん妄, こんなときどうする？病棟・ICUで困るシチュエーションから学ぶ】せん妄とは何か. 薬事 2016；58（16）：3423-3427.
- 6) 岸 泰宏：【精神科医療における安全管理 II】外来での患者の暴力対策. 精神科治療学 2016；31（11）：1403-1407.
- 7) 岸 泰宏：【せん妄の診療と予防の実際】せん妄の疫学と臨床を取り巻く課題. Progress in Medicine 2016；36（12）：1609-1613.
- 8) 岸 泰宏：【どうする？メンタルな問題-精神症状に対して内科医ができること】診察場面での行動や会話からメンタルな問題を考えた時せん妄のようにみえる. Medicina 2016；53（12）：1902-1905.
- 9) 岸 泰宏：在位日数短縮化におけるコンサルテーション・リエゾン精神科の意義. 医学のあゆみ 2016；259（3）：275-276.
- 10) 岸 泰宏：これからのリエゾン精神医学】集中治療室における精神科リエゾン. 臨床精神医学 2017；46（1）：37-41.
- 11) 大久保善朗：緊張病（カタトニア）. 臨床精神医学 2016；45（増刊）：120-122.
- 12) 大久保善朗：高齢者における幻覚妄想症状とドパミントランスポーターイメージング. 分子精神医学 2016；16（3）：203-204.
- 13) 大久保善朗：サリン事件被害者の追跡調査. 日本生物学的精神医学会誌 2016；27（2）：88-91.
- 14) Suhara T, Chaki S, Kimura H, Furusawa M, Matsumoto M, Ogura H, Negishi T, Saijo T, Higuchi M, Omura T, Watanabe R, Miyoshi S, Nakatani N, Yamamoto N, Okubo Y, et al. : Indications of success : Strategies for utilizing neuroimaging biomarkers in CNS drug discovery and development : CINP/JSNP working group report. Int J Neuropsychopharmacol. 2016.
- 15) 下田健吾, 木村真人：リハビリテーションに役立つ！睡眠障害・睡眠呼吸障害の知識】脳卒中と睡眠障害（解説/特集）. MEDICAL REHABILITATION 2016；(203)：22-2226.
- 16) 下田健吾, 木村真人：脳卒中後抑うつ. 臨床精神医学 2016；45（増刊）：169-171.
- 17) 伊藤滋朗⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院精神科）：アルコール離脱せん妄. PROGRESS IN MEDICINE 2016；36（12）：1647-1651.

(3) 解説：

- 1) 下田健吾：20歳うつ症状に適應のないパキシルを処方したためアクチベーションの症状が生じ自殺したとして損害賠償を求めた事例. 医療判例解説 2017；066：35-38.
- 2) 下田健吾：度々自殺企図をしていた精神科入院患者が首をつり失外套症候群になったのは医師や看護師らが監視義務を怠ったためとして損害賠償を求めたケース. 医療判例解説 2016；065：161-164.

(4) 巻頭言：

- 1) 下田健吾：特集 プライマリ・ケアにおける認知症診療：アルツハイマー病患者を地域医療で支える時代に求められるもの 特集にあたって. 認知症の最新医療 2016；6（62）：53-5353.

著 書

- 1) 館野 周：〔分担〕精神科面接, 診断と各種検査（脳画像検査）. 今日の精神疾患治療指針第2版（樋口輝彦, 市川宏伸, 神庭重信, 朝田隆, 中込和彦）, 2016；pp718-722, 医学書院.
- 2) 岸 泰宏：〔分担〕過換気症候群. ジェネラリストのための外来初療・処置ガイド（田島知郎）, 2016；pp40-40, 医学書院.
- 3) 大久保善朗：〔分担〕神経系検査の基礎および脳波検査. 生理機能検査学（東條尚子, 川良徳広）, 2017；pp77-133, 医歯薬出版株式会社.
- 4) 木村真人：〔分担〕抗うつ薬-II. 脳神経外科で頻用される薬剤の作用機序と使い方. 脳神経外科診療プラクティス 8 脳神経外科医が知っておきたい薬物治療の考え方と実際（監修 橋本信夫, 編集 清水宏明）, 2016；pp145-148, 文光堂.
- 5) 木村真人：〔分担〕意欲喪失患者のケア・27介護にかかわる問題. 今日の治療指針2017年版（総編集 福井次矢, 高木 誠, 小室一成）, 2017；pp1553-1554, 医学書院.

学会発表

(1) その他：

- 1) 肥田道彦：統合失調症の選択的音声感受領域の脳病態とFOXP2関連遺伝子の影響に関する検討. 日本生物学的精神医学会（第38回）若手研究者育成プログラム最優秀奨励賞選考（第5回）（福岡県福岡市）, 2016. 9.

(2) 特別講演：

- 1) 館野 周：うつ病と認知症：PET検査の可能性. 新潟県脳機能解析研究会（第13回）（新潟）, 2016. 8.

- 2) 館野 周：精神疾患領域における核医学検査の役割と可能性. 関東甲信越核医学画像処理研究会（第24回）（東京），2016. 9.
 - 3) 木村真人：脳卒中後のうつとアパシー：その病態と対応について. 精神・心理領域理学療法部門研究会（第2回）（東京都港区），2017. 3.
- (3) 招待講演：
- 1) 岸 泰宏：PICS (Post Intensive Care Syndrome). 第12回日本クリティカルケア看護学会（栃木），2016. 6.
 - 2) Koeda M, Kidoguchi M¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Hama T¹⁾, Kawara T¹⁾, Okubo Y (1) Bukyo Gakuin University) : Comparison of frontal function during verbal fluency task by near-infrared spectroscopy and functional MRI. International Conference on Brain Disorders and Therapeutics (The 2nd) (Chicago, USA), 2016. 10.
 - 3) Koeda M : Default mode network and Language-related resting state functional connectivity on handedness and family history. International Conference on Brain Disorders and Therapeutics (2nd) (Chicago, USA), 2016. 10.
- (4) 教育講演：
- 1) 岸 泰宏：Pseudoneurologic Syndromes. 日本神経救急医学会（第30回）（東京），2016. 6.
 - 2) 岸 泰宏：救命救急病棟での精神・行動の問題. 日本救急医学会総会（第44回）（東京），2016. 11.
- (5) シンポジウム：
- 1) 館野 周：アミロイドPET イメージングを用いた高齢者の精神疾患の評価（イメージングバイオマーカーを用いた高齢者の精神疾患の評価）. 日本精神神経学会（第112回）（千葉），2016. 6.
 - 2) 館野 周：うつ病と認知症の関連－神経画像所見から（老年期うつ病と認知症の関連）. 日本老年精神医学会（第31回）（石川），2016. 6.
 - 3) Kishi Y : Pharmacological delirium prevention. Academy of Psychosomatic Medicine, 63rd Annual meeting (Austin, Texas), 2016. 11.
 - 4) 肥田道彦, 秋山友美, 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗：NIRSによる気分障害の病態研究：うつ状態の病態比較とm-ECT前後の前頭側頭機能比較. 千葉総合病院精神科研究会（第21回）（千葉県千葉市），2016. 4.
- (6) セミナー：
- 1) 木村真人：身体疾患とうつ病：脳卒中後うつ病を中心に. 日本精神科医学会学術大会（第5回）（宮城県仙台市），2016. 11.
- (7) ワークショップ：
- 1) 岸 泰宏, 小川朝生, 竹内 崇, 八田耕太郎：せん妄の臨床. 日本精神神経学会学術総会（第112回）（千葉市），2016. 6.
 - 2) 三宅康史, 大塚耕太郎, 岸 泰宏, 三上克央, 橋本 聡, 日野耕介, 河嶋 譲, 金井貴夫, 植田慎司, 秋山恵子, 伊藤 翼, 守村洋, 成瀬 治, 小林いつか：身体科救急スタッフに向けた精神科救急患者の標準的な初期対応 PEEC 公開コース. 日本総合病院精神医学会（第29回）（東京），2016. 11.
 - 3) 和田 健, 岸 泰宏, 八田耕太郎：若手医師・多職種のためのせん妄予防と治療2016. 日本総合病院精神医学会（第29回）（東京），2016. 11.
- (8) 一般講演：
- 1) 大高靖史, 成重竜一郎, 石田留生, 藤本泰樹, 川島義高, 大久保善朗：重症自殺未遂者の自殺企図に影響した要因調査に関する報告. 国際自殺予防学会アジア・太平洋地域大会（第7回）（東京），2016. 4.
 - 2) 成重竜一郎, 石田早栄子, 柴崎 哲¹⁾, 大島 希¹⁾, 佐藤孝憲¹⁾ (1) 社会医療法人公徳会若宮病院)：CBCLに見る児童思春期のうつ病患者における症候の特徴. 日本児童青年精神医学会総会（第57回）（岡山），2016. 10.
 - 3) 佐藤孝憲¹⁾, 成重竜一郎 (1) 社会医療法人公徳会若宮病院)：若宮病院の児童思春期外来の動向：開設後6年での変化. 日本児童青年精神医学会総会（第57回）（岡山），2016. 10.
 - 4) 浅井恵子¹⁾, 鈴木砂由里¹⁾, 柴崎 哲¹⁾, 大島 希¹⁾, 佐藤孝憲¹⁾, 成重竜一郎 (1) 社会医療法人公徳会若宮病院)：摂食障害治療における管理栄養士の役割：若宮病院児童思春期ユニットにおける実践. 日本児童青年精神医学会総会（第57回）（岡山），2016. 10.
 - 5) 守屋洋紀, 坂寄 健, 金 禹瑣, 増岡孝浩, 新貝慈利, 館野 周, 大久保善朗：老年期うつ病のドパミントランスポーターイメージング. 日本精神神経学会総会（第112回）（千葉），2016. 6.
 - 6) 増岡孝浩, 坂寄 健, 館野 周, 大久保善朗：電気けいれん療法がドパミントランスポーターに及ぼす影響. 日本精神神経学会総会（第112回）（千葉），2016. 6.
 - 7) 山本 憲, 坂寄 健, 館野 周, 大久保善朗：[¹⁸F] florbetapir を用いたPET研究. 日本精神神経学会総会（第112回）（千葉），2016. 6.
 - 8) 小林まどか, 明野 薫, 肥田道彦, 上田 論, 館野 周, 大久保善朗：儀式的な強迫行為を伴い認知症との鑑別を要したうつ病の1例. 日本老年精神医学会（第31回）（石川），2016. 6.
 - 9) 山本正浩, 館野 周, 大久保善朗：[¹⁸F]florbetapir]にてMCI due to ADと診断され早期介入から就労継続が可能となった1例. 日本生物学的精神医学会（第38回）（福岡），2016. 9.

- 10) 金 禹瑱, 館野 周, 池田裕美子¹⁾, 坂寄 健, 荒川亮介, 鈴木秀典¹⁾, 大久保善朗 (¹⁾ 日本医科大学薬理学教室) : セルトラリンのドパミン神経伝達への作用に関する PET 研究. 日本生物学的精神医学会 (第 38 回) (福岡), 2016. 9.
- 11) 富澤大佑¹⁾, 嶋田昌彦¹⁾, 館野 周, 大久保善朗 (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔顔面痛制御学分野) : プロナンセリンが奏功したセネストパチーの 1 症例. 日本歯科麻酔学会地方会 (第 33 回) (東京), 2016. 6.
- 12) 館野 周, 坂寄 健, 金 禹瑱, 大久保善朗 : [¹¹C] - (+) -PHNO を用いた blonanserin によるドパミン D₃ 受容体占有率の評価. 日本臨床精神神経薬理学会 (第 26 回) (大分), 2016. 11.
- 13) Karibe H¹⁾, Koeda M, Tateno A, Kato Y¹⁾, Okubo Y (¹⁾ Department of Pediatric Dentistry, School of Life Dentistry, Nippon Dental University) : Neural correlates of dental fear and trait anxiety in the cerebral response to dental sounds. Neuroscience 2016 (San Diego, U.S.A.), 2016. 11.
- 14) 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸, 岸 泰宏, 川上康彦, 野崎俊樹, 森田明夫 : 神奈川県拠点施設における平成 27 年度てんかん相談事例の検証. 第 50 回日本てんかん学会学術集会 (静岡), 2016. 10.
- 15) 大高靖史, 成重竜一郎, 藤本泰樹, 石田留生, 川島義高, 大久保善朗 : 自殺未遂者の自殺行動に影響を与える要因について. 第 36 回日本社会精神医学会 (東京), 2017. 3.
- 16) 大高靖史 : 日本医科大学付属病院における自殺未遂者支援に関する取り組みの報告. 第 15 回日本精神保健福祉士学会学術集会 (山口), 2016. 6.
- 17) 吉川栄省, 西 大輔¹⁾, 松岡 豊²⁾ (¹⁾ 国立精神神経センター, ²⁾ 国立がんセンター) : レジリエンス, ソーシャルサポートを媒介した運動習慣と (企業従業員における) 抑うつとの関連について. 第 29 回日本総合病院精神医学会総会 (東京), 2016. 11.
- 18) 肥田道彦, 秋山友美, 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗 : PHQ-9 によるうつ病評価と NIRS による前頭側頭機能評価の関連. 日本精神神経学会総会学術総会 (第 112 回) (千葉県千葉市 (幕張メッセ)), 2016. 6.
- 19) 肥田道彦, 館野 周, 大久保善朗 : 軽度認知機能障害患者の顔認知時の脳機能に関する予備的検討. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (石川県金沢市), 2016. 6.
- 20) Koeda M, Hase T^{1,2)}, Hama T³⁾, Ikeda Y⁴⁾, Yahata N⁵⁾, Tateno A, Takahashi H⁶⁾, Matsuura M⁷⁾, Suzuki H⁴⁾, Okubo Y (¹⁾ The Systems Biology Institute, ²⁾ Laboratory of Disease Systems Modeling, Center for Integrative Medical Sciences, RIKEN, ³⁾ Bunkyo Gakuin University, ⁴⁾ Department of Pharmacology, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Psychiatry, Tokyo University, ⁶⁾ Department of Psychiatry, Kyoto University, ⁷⁾ Tokyo Medical and Dental University) : Effect of placebo and lorazepam on functional connectivity in fearful vocal processing : an fMRI study. The International College of Neuropsychopharmacology (CINP) World Congress (the 30th) (Seoul, Korea), 2016. 7.
- 21) 肥田道彦, 長谷武志^{1, 2)}, 濱 智子³⁾, 池田裕美子⁴⁾, 八幡憲明⁵⁾, 館野 周, 高橋英彦⁶⁾, 松浦雅人⁷⁾, 鈴木秀典⁴⁾, 大久保善朗 (¹⁾ システムバイオロジー研究所, ²⁾ 理化学研究所, ³⁾ 文京学院大学, ⁴⁾ 日本医科大学薬理学, ⁵⁾ 東京大学精神神経科, ⁶⁾ 京都大学精神神経科, ⁷⁾ 東京医科歯科大学) : 恐怖音声認知・脳処理時の機能的結合に対するプラセボ・ロラゼパムの効果 : 機能的 MRI 研究. 日本神経精神薬理学会年会 (第 46 回) (ソウル 韓国), 2016. 7.
- 22) 肥田道彦, 長谷武志^{1, 2)}, 濱 智子³⁾, 池田裕美子⁴⁾, 八幡憲明⁵⁾, 館野 周, 高橋英彦⁶⁾, 松浦雅人⁷⁾, 鈴木秀典⁴⁾, 大久保善朗 (¹⁾ システムバイオロジー研究所, ²⁾ 理化学研究所, ³⁾ 文京学院大学, ⁴⁾ 日本医科大学薬理学, ⁵⁾ 東京大学精神神経科, ⁶⁾ 京都大学精神神経科, ⁷⁾ 東京医科歯科大学) : プラセボ・ロラゼパム投与時の恐怖感情認知ネットワークと不安軽減度の関連 : 機能的 MRI 研究. 日本生物学的精神医学会 (第 38 回) (福岡県福岡市), 2016. 9.
- 23) Koeda M, Watanabe A¹⁾, Tsuda K²⁾, Matsumoto M²⁾, Ikeda Y³⁾, Kim W, Tateno A, Than Naing B¹⁾, Karibe H⁴⁾, Shimada T¹⁾, Suzuki H³⁾, Matsuura M²⁾, Okubo Y (¹⁾ Department of Molecular Genetics, Nippon Medical School, ²⁾ Tokyo Medical and Dental University, ³⁾ Department of Pharmacology, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Pediatric Dentistry, Nippon Dental University) : Effect of CNTNAP2 Polymorphisms on Cerebral Response to Human Voice Perception and Handedness : An fMRI Study. The British Neuropsychiatry Association Annual Meeting (the 30th) (London, United Kingdom), 2017. 2.
- 24) 肥田道彦, 渡辺 淳¹⁾, 荻部洋行²⁾, 館野 周, 松浦雅人³⁾, 大久保善朗 (¹⁾ 日本医科大学付属病院遺伝診療科, ²⁾ 日本歯科大学小児歯科学講座, ³⁾ 東京医科歯科大学) : 音声認知時の脳機能と BDNF Val66Met の交互作用に関する fMRI 研究. 日本ヒト脳機能マッピング学会 (第 19 回) (京都府京都市), 2017. 3.
- 25) 藤本泰樹, 野上 毅, 肥田道彦, 成重竜一郎, 館野 周, 大久保善朗 : 若年性統合失調症に対し, アリピプラゾール持続性注射剤が奏功した 1 例. 東京精神医学会学術集会 (第 109 回) (東京都), 2017. 3.
- 26) 濱 智子, 肥田道彦, 館野 周, 川良徳弘¹⁾, 大久保善朗 (¹⁾ 文京学院大学保健医療技術学部) : アルツハイマー病と高齢者うつ病患者における seed-based 解析を用いた安静時脳内ネットワークの比較に関する予備的検討. 日本ヒト脳機能マッピング学会 (第 19 回) (京都府京都市), 2017. 3.
- 27) 富澤大佑, 山崎陽子¹⁾, 嶋田昌彦^{1, 2)}, 肥田道彦, 館野 周, 大久保善朗 (¹⁾ 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 ペインクリニック, ²⁾ 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔顔面痛制御学分野) : 痛みの感情音聴取時の脳活動部位に関する fMRI 研

- 究. 日本慢性疼痛学会 (第 46 回) (京都府京都市), 2017. 2.
- 28) 太田杏奈, 秋山友美, 下田健吾, 木村真人: 双極性障害で長期にうつ状態が持続した患者の心理学的背景要因について. 北総精神科医会 (第 45 回) (千葉県), 2016. 10.
- 29) 下田健吾, 木村真人, 大久保喜朗: 血管性うつ病の経過に伴う脳形態学的変化: 非血管性うつ病と比較検討した予備的研究. 日本精神神経学会学術総会 (第 112 回) (千葉県幕張メッセ), 2016. 6.
- 30) 藤本泰樹, 鈴木雅之, 守屋洋紀, 石澤純平, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人: コタール症候群を呈した重症うつ病に対し, 電気けいれん療法が著効した 1 例. 千葉総合病院精神科研究会 (第 21 回) (千葉県千葉市), 2016. 4.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Takayoshi K, Kurita M, Nishino S, Teranishi M, Numata Y, Sato T, Okubo Y: Yokukansan improves behavioral and psychological symptoms of dementia by suppressing dopaminergic function. *Neuropsychiatr Dis Treat.* 2016; 12: 641-649.
- 2) Ueda S, Sakayori T, Omori A, Fukuta H, Kobayashi T, Ishizawa K, Saijo T, Okubo Y: Neuroleptic-induced deficit syndrome in bipolar disorder with psychosis. *Neuropsychiatr Dis Treat.* 2016; 12: 256-268.

追加分症例報告:

- 1) 下田健吾, 木村真人, 鈴木雅之: これでいいのかうつ病治療: どうしたらいいよくなる抑うつ症状 I] 小事例紹介: よくならない抑うつ症状をもつ人たち 血管性うつ病にアパシーが合併した老年期うつ病の症例 (原著論文/症例報告/特集). *精神科臨床サービス* 2016; 16 (1): 65-6568.
- 2) 鈴木雅之, 下田健吾, 木村真人: これでいいのかうつ病治療: どうしたらいいよくなる抑うつ症状 I] 小事例紹介: よくならない抑うつ症状をもつ人たち 抗うつ薬治療に抵抗性を示し ECT 後の増強療法にて改善した老年期うつ病の症例 (原著論文/症例報告/特集). *精神科臨床サービス* 2016; 16 (1): 58-61.
- 3) 鈴木雅之, 下田健吾, 木村真人: これでいいのかうつ病治療: どうしたらいいよくなる抑うつ症状 I] 小事例紹介: よくならない抑うつ症状をもつ人たち 抗うつ薬治療に抵抗性を示し ECT 後の増強療法にて改善した老年期うつ病の症例 (原著論文/症例報告/特集). *精神科臨床サービス* 2016; 16 (1): 62-64.

11. 小児・思春期医学分野

[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科，小児外科，新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 後藤芳充¹⁾，柳原 剛²⁾，本田雅敬³⁾，村上陸美⁴⁾ (¹⁾ 名古屋第二赤十字病院小児腎臓科， ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科， ³⁾ 都立総合医療センター腎臓科， ⁴⁾ 日本医科大学)：学校検尿に関する全国調査結果 第1報：システム編. 小児保険研究 2016；75 (5)：609-615.
- 2) Kanda S, Horita S, Yanagihara T, Shimizu A, Hattori M (¹⁾ Department of Pediatric Nephrology, School of Medicine, Tokyo Women's Medical University, ²⁾ Department of Pathology, Kidney Center, School of Medicine, Tokyo Women's Medical University, ³⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital, ⁴⁾ Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School)：M-type phospholipase A2 receptor (PLA2R) glomerular staining in pediatric idiopathic membranous nephropathy. *Pediatr Nephrol* 2016.
- 3) Udagawa T¹⁾，Jo T²⁾，Yanagihara T²⁾，Shimizu A³⁾，Mitsui J⁴⁾，Tsuji S⁴⁾，Morishita S⁵⁾，Onai R¹⁾，Miura K¹⁾，Kanda S¹⁾，Kajiho Y¹⁾，Tsurumi H¹⁾，Oka A¹⁾，Hattori M⁶⁾，Harita Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ²⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Neurology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, ⁵⁾ Department of Computational Biology and Medical Sciences, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo, ⁶⁾ Department of Pediatric Nephrology, Tokyo Women's Medical University)：Altered expression of Crb2 in podocytes expands a variation of CRB2 mutations in steroid-resistant nephrotic syndrome. *Pediatric Nephrology* 2016.
- 4) Asano T, Narazaki H, Fujita A：Genome-wide DNA methylation profiling of CpG islands in a morpholino anthracycline derivative-resistant leukemia cell line：p38 α as a novel candidate for resistance. *Pharmacology Research & Perspectives* 5(1), e00285 DOI：10.1002/prp2.285 2017.
- 5) 浅野 健：低身長を主訴に受診した患児・家族の受診のきっかけに関するアンケート調査. 小児保健研究 2016；75 (6)：828-832.
- 6) 海津聖彦，星野レイ，杉坂 敦，奥田直史，竹下 輝，高木啓倫：当院におけるスティーブンス・ジョンソン症候群の調査 解熱薬は原因か？. 日本小児科学会雑誌 (0001-6543) 2016；120 (2)：529.
- 7) Okuda H, Noguchi A, Kobayashi H, Kondo D, Harada K, Youssefian S, Shioi H, Domon Y, Kubota K, Kitano Y, Takayama Y, Hitomi T, Ohno K, Saito Y, Asano T, et al.：Infantile pain episodes associated with novel I Nav1.9 mutations in familial episodic pain syndrome in Japanese families. *PLoS ONE* 11 (5)：e0154827. doi：10.1371/journal.pone.0154827 2016.
- 8) Kato M, Ishimaru S, Seki M, Yoshida K, Shiraiishi Y, Chiba K, Kakiuchi N, Sato Y, Ueno H, Tanaka H, Inukai T, Tomizawa D, Hasegawa D, Osumi T, Arakawa Y：Long-term outcome of 6-month maintenance chemotherapy for acute lymphoblastic leukemia in children. *Leukemia* 2016.
- 9) Braido F, Scichilone N, Lavorini F, Usmani O, Dubuske L, Pawankar R (¹⁾ Allergy and Respiratory Diseases Department DIMI, University of Genoa, IRCCS AOU San Martino-IST, Genoa, Italy, ²⁾ Dipartimento Biomedico di Medicina Interna e Specialistica, University of Palermo, Palermo, Italy, ³⁾ Department of Experimental and Clinical Medicine, University of Florence, Florence, Italy, ⁴⁾ Airway Disease Section, National Heart and Lung Institute, Imperial College London, Royal Brompton Hospital, London, UK, ⁵⁾ Immunology Research Institute of New England, Harvard, USA)：Manifesto on small airway involvement and management in asthma and chronic obstructive pulmonary disease：an Interasma (Global Asthma Association-GAA) and World Allergy Organization (WAO) document endorsed by Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma (ARIA) and Global Allergy and Asthma European Network (GA (2) LEN). *Asthma Res Pract* 2016；28 (2)：12-12.
- 10) Braido F, Baiardini I, Puggioni F, Garuti S, Pawankar R (¹⁾ Respiratory and Allergy Diseases Clinic, Department of Internal Medicine, University of Genoa, Genoa, ²⁾ Respiratory and Allergy Diseases, Department IRCCS Humanitas Research and Clinical Center-Humanitas University, Rozzano, Milan, Italy)：Rhinitis：adherence to treatment and new technologies. *Curr Opin Allergy Clin Immunol* 2017；17 (1)：23-27.
- 11) Kowalski M, Ansotegui I, Aberer W, Al-Ahmad M, Pawankar R (¹⁾ Department of Immunology, Rheumatology & Allergy, Medical University of Lodz, Poland, ²⁾ Department of Allergy and Immunology, Hospital Quiron Bizkaia, Bilbao, Spain, ³⁾ Depart-

- ment of Dermatology, Medical University of Graz, Graz, Austria, ⁴ Microbiology Department, Faculty of Medicine, Kuwait University, Kuwait City, Kuwait) : Risk and safety requirements for diagnostic and therapeutic procedures in allergology : World Allergy Organization Statement. *World Allergy Organ J* 2016 ; 9 (1) : 33-33.
- 12) Yepes-Nunez J, Fiocchi A, Cuello-Garcia C, Pawankar R ¹ University of Antioquia, School of Medicine, Medellín, Colombia, ² Pediatric Hospital Bambino Gesù, Vatican City, Italy, ³ Tecnológico de Monterrey School of Medicine, Monterrey, Mexico) : World Allergy Organization-McMaster University Guidelines for Allergic Disease Prevention (GLAD-P) : Vitamin D. *World Allergy Organ J* 2016 ; 17 (9) : 17-17.
- 13) Bousquet J, Schunemann H, Hellings P, Arnavielhe S, Pawankar R ¹ University Hospital, Montpellier, France, ² Departments of Clinical Epidemiology and Biostatistics and Medicine, McMaster University, Hamilton, Ontario, Canada, ³ Laboratory of Clinical Immunology, Department of Microbiology and Immunology, KU Leuven, Leuven, Belgium, ⁴ Kyomed, Montpellier, France) : MACVIA clinical decision algorithm in adolescents and adults with allergic rhinitis. *J Allergy Clin Immunol* 2016 ; 138 (2) : 367-374.
- 14) D'amato G, Pawankar R, Vitale C, Lanza M, Molino A ¹ Division of Respiratory and Allergic Diseases, Department of Chest Diseases High Speciality, A. Cardarelli Hospital, Napoli, Italy, ³ University "Federico II", Medical School, Naples, Italy, ⁴ First Division of Pneumology, High Speciality Hospital "V. Monaldi" and University "Federico II" Medical School, Naples, Italy, ⁵ First Division of Pneumology, High Speciality Hospital "V. Monaldi" and University "Federico II" Medical School, Naples, Italy) : Climate Change and Air Pollution : Effects on Respiratory Allergy. *Allergy Asthma Immunol Res* 2016 ; 8 (5) : 391-395.
- 15) Ricci G, Cipriani F, Cuello-Garcia C, Fiocchi A, Pawankar R ¹ Pediatric Unit, Department of Medical and Surgical Sciences, University of Bologna, S. Orsola-Malpighi Hospital, ² Pediatric Unit, Department of Medical and Surgical Sciences, University of Bologna, S. Orsola-Malpighi Hospital, ³ Department of Clinical Epidemiology & Biostatistics, McMaster University, Hamilton, Ontario Canada, ⁴ Pediatric Hospital Bambino Gesù, Rome, Vatican City, Italy) : A clinical reading on "World Allergy Organization-McMaster University Guidelines for Allergic Disease Prevention (GLAD-P) : Probiotics". *World Allergy Organ J* 2016 ; 10 (9) : 9-9.
- 16) Tanno L, Calderon M, Papadopoulos N, Sanchez-Borges M, Pawankar R ¹ Hospital Sírío Libanês, São Paulo, Brazil, ² Royal Brompton Hospital, London, United Kingdom., ³ Centre for Paediatrics and Child Health, Institute of Human Development, University of Manchester, Manchester, United Kingdom, ⁴ Allergy and Clinical Immunology Department, Centro Medico Docente La Trinidad, Caracas, Venezuela) : Revisiting Desensitization and Allergen Immunotherapy Concepts for the International Classification of Diseases (ICD) -11. *J Allergy Clin Immunol Pract* 2016 ; 4 (4) : 643-649.
- 17) Tanno L, Darlenski R, Sanchez-Garcia S, Bonini M, Pawankar R ¹ Hospital Sírío Libanês and Post-graduation Program in Health Sciences of IAMSPE, São Paulo, SP Brazil, ² Department of Dermatology and Venereology, Tokuda Hospital Sofia, Sofia, Bulgaria, ³ Allergy Department, Hospital Infantil Universitario Niño Jesús, Madrid, Spain, ⁴ Department of Public Health and Infectious Diseases, "Sapienza" University of Rome, Rome, Italy) : International survey on skin patch test procedures, attitudes and interpretation. *World Allergy Organ J* 2016 ; 4 (9) : 8-8.
- 18) Metcalfe D, Pawankar R, Ackerman S ¹ Laboratory of Allergic Diseases, National Institute of Allergy and Infectious Diseases, MD 20892 USA, ³ Department of Biochemistry and Molecular Genetics, College of Medicine, University of Illinois, Chicago, IL USA) : Biomarkers of the involvement of mast cells, basophils and eosinophils in asthma and allergic diseases. *World Allergy Organ J* 2016 ; 11 (9) : 7-7.
- 19) Baba A¹, Kawakami Y, Saito K², Murashima Y³, Itoh Y ¹ Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ² Department of Pathology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ³ Graduate School of Human Health Science, Tokyo Metropolitan University) : Effects of Edaravone on Hippocampal Antioxidants in EL Mice. *Journal of Nippon Medical School* 2016 ; 83 (3) : 100-106.
- 20) 吉野美緒¹, 重村朋子², 高田治樹³, 市村美帆⁴, 稲本絵里⁶, 川尻泰樹⁵, 増野智彦³, 松井 豊², 横田裕行 ¹ 日本医科大学 小児科, ² 日本医科大学 高度救命救急センター, ³ 筑波大学, ⁴ 東洋大学, ⁵ 首都大学東京大学院人文科学研究科, ⁶ 日本医科大学 多摩永山病院) : 病院前救急診療活動に従事する医師の外傷性ストレスに関する研究. *トラウマティック・ストレス* 2016 ; 14 (1) : 63-72.
- (2) 総説 :
- 1) 柳原 剛¹ ¹ 日本に k 大学武蔵小杉病院小児科) : 3 歳児検尿と尿異常. *日本医科大学医学雑誌* 2016 ; 12 (3) : 86-91.
- 2) Bousquet J, Hellings P, Agache I, Bedbrook A, Bachert C, Pawankar R ¹ Montpellier University Hospital, Montpellier, France, ² Laboratory of Clinical Immunology, Department of Microbiology and Immunology, KU Leuven, Louvain, Belgium, ³ Transylvania University Brasov, Brasov, Romania, ⁴ MACVIA-France, Contre les MALadies Chroniques pour un Vieillessement Actif en

- France, ⁵⁾ Upper Airways Research Laboratory, ENT Department, Ghent University Hospital, Ghent, Belgium) : ARIA 2016 : Care pathways implementing emerging technologies for predictive medicine in rhinitis and asthma across the life cycle. *Clin Transl Allergy*. 2016 ; 30 (6) : 47-47.
- 3) Bousquet J, Farrell J, Crooks G, Hellings P, Pawankar R (¹⁾ CHRU, University Hospital, 371 Avenue du Doyen Gaston Giraud, 34295 Montpellier Cedex 5, France, ²⁾ grid.450701.7Department of Health, Social Services and Public Safety, Belfast, Northern Ireland, UK, ³⁾ European Innovation Partnership on Active and Healthy Ageing, Reference Site, Scottish Centre for Telehealth and Telecare, NHS 24, Glasgow, UK, ⁴⁾ Laboratory of Clinical Immunology, Department of Microbiology and Immunology, KU Leuven, Louvain, Belgium) : Scaling up strategies of the chronic respiratory disease programme of the European Innovation Partnership on Active and Healthy Ageing (Action Plan B3 : Area 5). *Clin Transl Allergy* 2016 ; 29 (6) : 29-29.
- 4) Jutel M, Agache I, Bonini S, Burks A, Pawankar R (¹⁾ Department of Clinical Immunology, Wroclaw Medical University, and "ALL-MED" Medical Research Institute, Wroclaw, Poland, ²⁾ Faculty of Medicine, Transylvania University, Brasov, Romania, ³⁾ Second University of Naples and IFT-CNR, Rome, and Expert-on-Secondment European Medicines Agency, London, United Kingdom, ⁴⁾ Department of Pediatrics, University of North Carolina, Chapel Hill, NC) : International Consensus on Allergen Immunotherapy II : Mechanisms, standardization, and pharmacoconomics. *J Allergy Clin Immunol* 2016 ; 137 (2) : 358-368.
- 5) 今井丈英 : 小児呼吸器感染症における副腎皮質ステロイド薬の使い方. *日本小児呼吸器学会雑誌* 2016 ; 27 (1) : 85-90.

著書

- 1) 伊藤保彦 : [分担] 小児の疼痛障害. 今日の治療指針 2017年版.

学会発表

(1) その他 :

- 1) 小泉慎也 : 日本医科大学小児科学教室のけいれん重積診療ガイドラインに基づくけいれん入院症例の検討. 北総てんかん懇話会 (第12回) (千葉), 2016. 7.
- 2) 小泉慎也 : 当院小児科におけるてんかん診療の現状. 北総てんかん診療ネットワーク (第5回) (千葉), 2016. 9.

(2) 特別講演 :

- 1) 伊藤保彦 : 小児シェーグレン症候群 最近の知見. 江戸川ライン SS 研究会 (第6回) (市川), 2016. 11.

(3) シンポジウム :

- 1) 柳原 剛 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 3歳児検尿の現状と課題. 日本小児科学会学術集会 (第119回) (札幌), 2016. 5.
- 2) Pawankar R : Biomarkers of asthma and allergic airways disease. The 31st Symposium of the Collegium Internationale Allergologicum (Charleston, USA), 2016. 4.
- 3) Pawankar R : Increased Expression of Filaggrin in Nasal Polyps as compared to Nasal mucosa of patients with allergic rhinitis. The 31st Symposium of the Collegium Internationale Allergologicum (Charleston, USA), 2016. 4.
- 4) Pawankar R : Triggers and aggravating factors of Allergic Rhinitis (indoor & outdoor). Allergy and Pollution Training Meeting (Singapore, Singapore), 2016. 5.
- 5) Pawankar R : Sublingual Immunotherapy In ENT Practise Lee Leong Meng Immunomodulators In Allergic Airways Disease. 18th Asian Research Symposium in Rhinology (ARSR) (Kuala Lumpur, Malaysia), 2016. 5.
- 6) Pawankar R : IgE And Microbiome In Airways Disease. 18th Asian Research Symposium in Rhinology (ARSR) (Kuala Lumpur, Malaysia), 2016. 5.
- 7) Pawankar R : Allergies in Asia Pacific : A growing health challenge. The European Academy of Allergy and Clinical Immunology Congress (EAACI) 2016 (Vienna, Austria), 2016. 6.
- 8) Pawankar R : Allergic responses of the nose. The European Academy of Allergy and Clinical Immunology Congress (EAACI) 2016 (Vienna, Austria), 2016. 6.
- 9) Pawankar R : Allergic rhinitis, rhinosinusitis and immunotherapy. The European Academy of Allergy and Clinical Immunology Congress (EAACI) 2016 (Vienna, Austria), 2016. 6.
- 10) Pawankar R : WAO-2 IgE and the microbiome in Airway diseases. 第65回日本アレルギー学会学術大会 (東京, 日本), 2016. 6.
- 11) Pawankar R : The Paradigm Of Cytokine Networks In Allergic Airway Inflammation. The 26th Congress of the European Rhinologic Society (Stockholm, Sweden), 2016. 7.
- 12) Pawankar R : Indications for using epinephrine in anaphylaxis. Indian Academy of Allergy Conference 2016 (IAACON 2016) (Kolkata, India), 2016. 7.
- 13) Pawankar R : Biodiversity, The Microbiome and Airway Disease. Indian Academy of Allergy Conference 2016 (IAACON 2016)

- (Kolkata, India), 2016. 7.
- 14) Pawankar R : The Microbiome is important in Allergic diseases and Asthma. Indian Academy of Allergy Conference 2016 (IAACON 2016) (Kolkata, India), 2016. 7.
 - 15) Pawankar R : Anaphylaxis Management and Prevention. Indian Academy of Allergy Conference 2016 (IAACON 2016) (Kolkata, India), 2016. 7.
 - 16) Pawankar R : Anti-IgE Rationale. Indian Academy of Allergy Conference 2016 (IAACON 2016) (Kolkata, India), 2016. 7.
 - 17) Pawankar R : Understanding the Rationale of IgE blockade in allergic diseases. International Congress of Immunology (ICI) 2016 (Melbourne, Australia), 2016. 8.
 - 18) Pawankar R : Microbiome in health and in disease. European Respiratory Society International Congress 2016 (London, UK), 2016. 9.
 - 19) Pawankar R : Rationale of blockade of IgE and targeting IgE in allergic airways disease. Joint Congress of Asia Pacific Association of Allergy, Asthma and Clinical Immunology (APAAACI) and Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology & Immunology (APAPARI) 2016 (Kuala Lumpur, Malaysia), 2016. 10.
 - 20) Pawankar R : Guidelines on the prevention of atopic disease-GLAD-P. Joint Congress of Asia Pacific Association of Allergy, Asthma and Clinical Immunology (APAAACI) and Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology & Immunology (APAPARI) 2016 (Kuala Lumpur, Malaysia), 2016. 10.
 - 21) Pawankar R : Mast Cells in Allergic Airway Inflammation. WAO International Scientific Conference (WISC) 2016 (Jerusalem, Israel), 2016. 12.
 - 22) 高瀬真人 : やってみたい小児肺機能検査. 日本小児科学会 (第 119 回) (北海道札幌市), 2016. 5.
 - 23) 今井丈英 : 今日からはじめる小児の OSAS (閉塞性睡眠時無呼吸症候群) 診療 小児の OSAS 診断法~簡易検査から PSG 検査まで. 日本小児呼吸器学会 (第 49 回) (富山県富山市), 2016. 10.
- (4) 一般講演 :
- 1) Itoh Y, Shigemori T, Yamanishi S, Narasaki H : PREVENTION OF SJÖGREN'S SYNDROME BY IMMUNOSUPPRESSANTS IN CHILDREN WITH POSITIVE ANTI-RO ANTIBODIES AND CHRONIC NONSPECIFIC COMPLAINTS. Paediatric Rheumatology European Society (23rd) (Genoa, Italy), 2016. 9.
 - 2) Itoh Y, Shigemori T, Ozaki Y, Takeshita H, Yamanishi S, Tanabe Y, Narasaki H, Igarashi T : Alteration of clinical course by Immunosuppressants in children with positive anti-Ro antibodies and with chronic nonspecific complaints. International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity (13th) (Kyoto, Japan), 2016. 10.
 - 3) 上田美希¹⁾, 赤尾見春¹⁾, 徐 東博¹⁾, 星野レイ¹⁾, 田嶋華子²⁾, 海津聖彦¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ²⁾ 日本医科大学附属病院小児科) : 高ラクトース血症を契機に診断された肝血管内皮種および門脈-肝静脈シャントの 1 例. 日本小児科学会学術集会 (第 119 回) (札幌), 2016. 5.
 - 4) 矢代健太郎¹⁾, 松村好克¹⁾, 松川昇平¹⁾, 横山愛子¹⁾, 右田 真^{1,2)}, 島 義雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科, ²⁾ 東京山手メディカルセンター小児科) : T-RFLP 法を用いた早産児の腸内細菌叢の多様性に対する検討. 日本周産期・新生児医学会学術集会 (第 52 回) (富山), 2016. 7.
 - 5) 松村好克¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 横山愛子¹⁾, 松川昇平¹⁾, 島 義雄¹⁾, 深見武彦²⁾, 松島 隆²⁾, 米山剛一²⁾, 竹下俊行³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ³⁾ 日本医科大学産婦人科) : 当院における未受診妊婦の検討. 日本周産期・新生児医学会学術集会 (第 52 回) (富山), 2016. 7.
 - 6) 赤尾見春, 勝部康弘, 上砂光裕, 橋本佳昭, 橋本康司, 渡邊 誠, 阿部正徳, 池上 英, 深澤隆治, 小川俊一 (¹⁾ 日本医科大学小児科) : ペントラキシン 3 と小林スコア併用による川崎病難治例予測. 日本小児循環器学会総会・学術集会 (第 52 回) (東京), 2016. 7.
 - 7) 勝部康弘¹⁾, 羽山恵美子²⁾, 古谷喜幸²⁾, 中西敏雄²⁾, 朴 仁三²⁾, 小川俊一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学小児科, ²⁾ 東京女子医科大学循環器小児科) : ヒト iPS 細胞由来心筋細胞の電気生理学解析. 日本小児循環器学会総会・学術集会 (第 52 回) (東京), 2016. 7.
 - 8) 徐 東博, 楊井瑛美, 竹下絵理, 上田美希, 星野レイ, 赤尾見春, 柳原 剛, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科) : 肺炎球菌性髄膜炎を伴った, 新規 CRB2 変異によるステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の 1 例. 川崎市小児科医会・症例検討会 (第 366 回) (川崎), 2016. 4.
 - 9) 横山愛子, 松川昇平, 松村好克, 矢代健太郎, 島 義雄 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター新生児内科) : NICU 増床後の実績. 川崎市小児科医会・症例検討会 (第 366 回) (川崎), 2016. 4.
 - 10) 高橋 翼 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児外科) : 小児外科 Annual Report 2015. 川崎市小児科医会・症例検討会 (第 366 回) (川崎), 2016. 4.
 - 11) 楊井瑛美¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 平山恒憲²⁾, 徐 東博¹⁾, 吉崎 薫¹⁾, 伊藤保彦³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ²⁾ 東京都東大和療

- 育センター小児科, ³⁾ 日本医科大学付属病院小児科) : ダウン症候群児に見られる先天性腎尿路奇形. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第 51 回) (名古屋), 2016. 7.
- 12) 徐 東博¹⁾, 楊井瑛美²⁾, 吉崎 薫¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 五十嵐徹²⁾, 伊藤保彦²⁾, 宇田川智宏³⁾, 張田 豊³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ²⁾ 日本医科大学付属病院小児科, ³⁾ 東京大学小児科) : 肺炎球菌性髄膜炎を伴った, 新規 CRB2 変異によるステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の 1 例. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第 51 回) (名古屋), 2016. 7.
- 13) 矢代健太郎¹⁾, 山西慎吾²⁾, 松村好克¹⁾, 右田 真³⁾, 島 義雄¹⁾, 伊藤保彦²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科, ²⁾ 日本医科大学付属病院小児科, ³⁾ 東京山手メデイカルセンター小児科) : T-RFLP 法を用いた早産児の腸内細菌叢の多様性に対する検討. 日本臨床腸内微生物学会総会・学術集会 (第 19 回) (東京), 2016. 8.
- 14) 松川昇平, 横山愛子, 松村好克, 矢代健太郎, 島 義雄 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター新生児内科) : 慢性肺疾患に肺高血圧症を合併した超早産児の 2 例. 川崎市小児科医会・症例検討会 (第 371 回) (川崎), 2016. 10.
- 15) 柳原 剛 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科) : 7 ヶ月で発症した尿路結石の 1 例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第 371 回) (川崎), 2016. 10.
- 16) 草野泰造, 竹下絵理, 徐 東博, 星野レイ, 赤尾見春, 柳原 剛, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科) : 嘔吐腹痛を主訴に来院した遅発性先天性横隔膜ヘルニアの 2 歳男児の 1 例. 川崎市小児科医会・症例検討会 (第 371 回) (川崎), 2016. 10.
- 17) 松川昇平, 横山愛子, 松村好克, 矢代健太郎, 島 義雄 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科) : 慢性肺疾患に肺高血圧症を合併した超早産児の 2 例. 神奈川小児肺高血圧研究会 (第 9 回) (横浜), 2016. 10.
- 18) 徐 東博, 柳原 剛, 楊井瑛美, 竹下絵理, 星野レイ, 赤尾見春, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 学校検尿で発見された ANCA 関連腎炎の治療経過. 日本小児科学会神奈川県地方会 (第 343 回) (横浜), 2016. 11.
- 19) 楊井瑛美 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 細動脈の壊死性動脈炎を伴った紫斑病性腎炎の 13 歳女児例. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第 40 回) (広島), 2016. 7.
- 20) 草野泰造^{1, 2)}, 橋本康司^{1, 2)}, 渡邊 誠^{1, 2)}, 阿部正徳²⁾ (¹⁾ 静岡医療センター小児科, ²⁾ 日本医科大学小児科) : 無症候性に硬膜下出血を続発した GBS 髄膜炎の 1 例. 日本小児感染症学会総会・学術集会 (第 48 回) (岡山), 2016. 11.
- 21) Asano T, Kaizu K, Hayakawa J, Ueda T, Maeda M, Itabashi T, Fujita A : Drug resistance against nelarabine in leukemia cell lines might be caused by reduced expression of deoxycytidine kinase through epigenetic mechanisms. 日本小児血液がん学会 (第 58 回) (東京), 2016. 12.
- 22) 山西未穂, 浅野 健, 植田高弘, 早川 潤, 内村僚一, 伊藤保彦 : 治療に苦慮している分類不能の組織球増殖症症例. 日本小児血液がん学会 (第 58 回) (東京), 2016. 12.
- 23) 浅野 健 : 新生児急速進行性のライソゾーム酸性リパーゼ欠損症におけるセベリパーゼアルファの投与 2 年の治療成績. 日本小児栄養消化器肝臓学会 (第 43 回) (茨城), 2016. 9.
- 24) 宮武千晴, 佐野透美, 西郡綾子, 小泉慎也, 海津聖彦, 藤田敦士, 上砂光裕, 浅野 健 : 7 価小児用肺炎球菌結合型ワクチン接種後に肺炎球菌性髄膜炎に罹患した 5 歳男児例. 日本小児科学会千葉地方会 (第 204 回), 2016. 6.
- 25) Asano T, Fujita A, Kaizu K, K, Narazaki H, Ueda T, Hayakawa J, Yamanishi M, Uchimura R, Maeda M : Three-dimensional (3D) cell culture system with bone marrow stromal cells is useful for primary culture for acute leukemia cells. 日本血液学会 (第 78 回) (横浜), 2016. 10.
- 26) 小泉慎也, 猪狩直之, 鈴木たまほ, 尾崎優介, 岡田 創, 田辺雄次郎, 山西慎吾 : 新生児期より著明な筋緊張低下を認めた SMA1 型の 2 例. 日本小児科学会学術集会 (第 119 回) (札幌), 2016. 5.
- 27) 海津聖彦, 星野レイ, 杉坂 淳, 奥田直史, 竹下 輝, 高木啓倫, 宮里佑未, 鈴木久晴, 勝部康弘, 伊藤保彦 : 当院におけるステイブンス・ジョンソン症候群の調査 解熱薬は原因か?. 日本小児科学会 (第 119 回) (札幌), 2016. 4.
- 28) 星野レイ, 海津聖彦, 竹下絵理, 徐 東博, 赤尾見春, 柳原 剛, 勝部康弘 : 静脈洞血栓症の 1 例. 第 119 回 日本小児科学会 (第 119 回) (札幌), 2016. 4.
- 29) 小泉慎也, 宮武千晴, 藤野 修 : 未頸定を主訴に来院した乳児例. 日本小児神経学会関東地方会 (第 66 回) (東京), 2017. 3.
- 30) 川上康彦, 小倉加恵子¹⁾, 島川修一²⁾, 多田弘子³⁾ (¹⁾ 森之宮病院小児神経科, ²⁾ 大阪医科大学附属病院小児科, ³⁾ 千葉県済生会習志野病院小児科) : 長期計画委員会ワークショップ 学術集会のあり方 : 10 年後の学会のかたちをボクたちワタシたちがキメル. 日本小児神経学会 (第 58 回) (東京都新宿区), 2016. 6.
- 31) Kawakami Y, Baba A¹⁾, Saito K²⁾, Marushima Y³⁾, Fujii S, Takumi I⁴⁾, Itou Y (¹⁾ Orthomedico Inc., ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ³⁾ Department of Health Promotion Science, Tokyo Metropolitan University Graduate School of Human Health Science, ⁴⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Effects of edaravone on hippocampal antioxidants in EL mice. 日本てんかん学会 (第 50 回) (静岡県静岡市), 2016. 10.
- 32) Imai T : foreign body aspiration in children : results of nationwide serial surveys in Japan. 15th International congress on Pediat-

ric Pulmonology (イタリア ナポリ), 2016. 6.

- 33) 今井丈英¹⁾, 足立雄一^{1, 2)}, 市丸智浩^{1, 3)}, 上田康久¹⁾, 王 康雅¹⁾, 樋口昌孝⁴⁾ (1) 日本小児呼吸器学会気道異物実態調査研究班, 2) 富山大学医学部小児科, 3) 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター, 4) 国立成育医療研究センター呼吸器科): 小児における気管・気管支異物に関する全国調査 第2回全国調査集計報告. 日本小児科学会 (第119回) (北海道札幌市), 2016. 5.
 - 34) 今井丈英, 足立雄一¹⁾, 市丸智浩²⁾, 上田康久³⁾, 王 康雅⁴⁾, 樋口昌孝⁵⁾ (1) 富山大学医学部小児科, 2) 佐賀整肢学園からつ福祉センター小児科, 3) うえだこどもクリニック, 4) 東海大学小児科, 5) 国立成育医療研究センター呼吸器科): 生後3か月・1歳半・3歳児の保護者を対象にした気道異物事故に関する知識の調査結果 (東京都内・市地域での調査報告): 希望異物 WG 継続事業として. 日本小児呼吸器学会 (第49回) (富山県富山市), 2016. 10.
 - 35) 市丸智浩¹⁾, 溝口達弘²⁾, 今井丈英, 足立雄一³⁾, 上田康久⁴⁾, 王 康雅⁵⁾, 樋口昌孝⁶⁾ (1) 佐賀整肢学園小児科, 2) NHO 嬉野医療センター小児科, 3) 富山大学医学部小児科, 4) うえだこどもクリニック, 5) 東海大学小児科, 6) 国立成育医療研究センター呼吸器科): 気道異物に対する, S県での保護者の意識調査. 日本小児呼吸器学会 (第49回) (富山県富山市), 2016. 10.
 - 36) 足立陽子¹⁾, 和田拓也¹⁾, 伊藤靖典¹⁾, 中林玄一¹⁾, 足立雄一¹⁾, 市丸智浩²⁾, 今井丈英, 上田康久³⁾, 王 康雅⁴⁾, 樋口昌孝⁵⁾ (1) 富山大学医学部小児科, 2) 佐賀整肢学園小児科, 3) うえだこどもクリニック, 4) 東海大学小児科, 5) 国立成育医療研究センター呼吸器科): 富山県における2歳未満児の保護者の気道異物の事故予防についての知識に関する調査: 2010年との比較. 日本小児呼吸器学会 (第49回) (富山県富山市), 2016. 10.
 - 37) 重盛朋子, 猪狩直之, 西田理子, 尾崎優介, 山西慎吾, 今井丈英, 竹田幸代, 高瀬真人, 伊藤保彦: 11歳で発症し, 15歳で再発した不全型川崎病の1例. 日本小児リウマチ学会 (第26回) (千葉県千葉市), 2016. 10.
 - 38) 西田理子, 今井丈英, 高瀬真人: 閉塞性睡眠時無呼吸に対して内科的治療によってアデノイド肥大の改善を図った2歳未満の小児2例の経過. 日本小児呼吸器学会 (第49回) (富山県富山市), 2016. 10.
 - 39) 吉野美緒¹⁾, 小華和さやか¹⁾, 渡辺 誠¹⁾, 深澤隆二¹⁾, 小川俊一¹⁾ (1) 日本医科大学 小児科): Bayley-3 発達検査を用いた CHD 児の精神神経発達の評価と支援. 第52回日本小児循環器学会 (東京都), 2016. 6.
- 1) Narazaki H, Terada Y, Kaizu K, Jitsukawa T, Ito Y, Asano T: Use of a therapeutic drug monitoring simulator of teicoplanin for MRSA sepsis in a primary immunodeficiency patient with peritoneal dialysis: a case report. J Nippon Med Sch, 2016.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Cuello-Garcia C, Fiocchi A, Pawankar R (1) McMaster University, Hamilton, ON Canada, 2) Pediatric Hospital Bambino Gesù, Vatican City, Italy): World Allergy Organization-McMaster University Guidelines for Allergic Disease Prevention (GLAD-P): Prebiotics. World Allergy Organ J 2016; 1 (9): 10-10.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) Itoh Y, Shigemori T, Yusuke O, Takeshita H, Narasaki H, Igarashi T: Development of dryness in children with positive anti-Ro with or without treatment by immunosuppressants. International Symposium on Sjögren's Syndrome (13th) (Bergen, Norway), 2015. 5.
- 2) 星野レイ, 海津聖彦, 竹下絵理, 徐 東博, 赤尾見春, 柳原 剛, 勝部康弘 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 静脈洞血栓症の1例. 日本小児科学会学術集会 (第119回) (札幌), 2016. 3.

追加分その他:

- 1) 小泉慎也: 未予定を主訴に来院した乳児例. 北総てんかん懇話会 (第13回) (千葉), 2016. 2.

追加分特別講演:

- 1) 伊藤保彦: 小児膠原病トピックス. 多摩小児医療研究会 (第3回) (調布市), 2015. 2.
- 2) 伊藤保彦: 疲労・疼痛と免疫の接点. 多摩小児科臨床懇話会 (第113回) (三鷹市), 2015. 6.

12. 臨床放射線医学分野

[付属病院放射線科, 放射線治療科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Suda M^{1,2)}, Onoguchi M²⁾, Tomiyama T¹⁾, Ishihara K³⁾, Takahashi N⁴⁾, Sakurai M³⁾, Matsumoto K⁵⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 放射線科, ²⁾ 金沢大学 量子診療技術学分野, ³⁾ 日本医科大学健診医療センター, ⁴⁾ 日本医科大学 循環器内科, ⁵⁾ 京都医療科学大学) : The reproducibility of time-of-flight PET and conventional PET for the quantification of myocardial blood flow and coronary flow reserve with ¹³N-ammonia. *Journal of Nuclear Cardiology* 2016 ; 3 (23) : 457-472.
- 2) Suda M¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 放射線科) : Benefits of Time-of-flight Positron Emission Tomography Computed Tomography with ¹³N-ammonia. *Annals of Nuclear Cardiology* 2016 ; 1 (2) : 188-191.
- 3) Sekine T, Barbosa F, Sah B : PET/MR Outperforms PET/CT in Suspected Occult Tumors. *Clin Nucl Med* 2017 ; 42 (2) : 88-95.
- 4) Meerwein C, Sekine T, Veit-Haibach P : Bredell MG, Huber GF, Huellner MW. Multi-slice SPECT/CT vs. lymphoscintigraphy and intraoperative gamma ray probe for sentinel node mapping in HNSCC. *Eur Arch Otorhinolaryngol* 2016 ; 1-10.
- 5) Sekine T, Ter Voert E, Warnock G : Clinical Evaluation of Zero-Echo-Time Attenuation Correction for Brain ¹⁸F-FDG PET/MRI : Comparison with Atlas Attenuation Correction. *J Nucl Med* 2016 ; 57 : 1927-1932.
- 6) Sekine T, Burgos N, Warnock G : Multi-Atlas-Based Attenuation Correction for Brain ¹⁸F-FDG PET Imaging Using a Time-of-Flight PET/MR Scanner : Comparison with Clinical Single-Atlas-and CT-Based Attenuation Correction. *J Nucl Med* 2016 ; 57 : 1258-1264.
- 7) Murakami R, Saito H, Miki I, Yasui D, Sugihara F, Ueda T, Murata S, Hayashi H, Kumita S : Contrast-induced nephropathy on patients with hepatocellular carcinoma undergoing transcatheter arterial chemoembolization. *Open J Radiol* 2016 ; 6 : 243-249.
- 8) Abe M¹⁾, Fukazawa R¹⁾, Ogawa S¹⁾, Watanabe M¹⁾, Fukushima Y, Kiriya T, Hayashi H, Itoh Y¹⁾ (¹⁾ Dept of Pediatrics) : Usefulness of single photon emission computed tomography/computed tomography fusion-Hybrid Imaging to evaluate coronary artery disorders in patients with a history of Kawasaki disease. *J Nippon Med Sch* 2016 ; 83 : 71-80.
- 9) Tsushima Y¹⁾, Ishiguchi T²⁾, Murakami T³⁾, Hayashi H, Hayakawa K⁴⁾, Fukuda K⁵⁾, Korogi Y⁶⁾, Sugimoto H⁷⁾, Takehara Y⁸⁾, Narumi Y⁹⁾, Arai Y¹⁰⁾, et al. (¹⁾ Department of Diagnostic Radiology and Nuclear Medicine, Gunma University Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Radiology, Aichi Medical University, ³⁾ Department of Radiology, Kinki University, Faculty of Medicine, ⁴⁾ Department of Radiology, Iwate Prefectural Kamaishi Hospital, ⁵⁾ Department of Radiology, The Jikei University School of Medicine, ⁶⁾ Department of Radiology, University of Occupational and Environmental Health, ⁷⁾ Department of Radiology, Jichi Medical University, Shimotsuke, ⁸⁾ Department of Radiology, Hamamatsu University School of Medicine, ⁹⁾ Department of Radiology, Osaka Medical College, ¹⁰⁾ and others) : Safe use of iodinated and gadolinium-based contrast media in current practice in Japan : a questionnaire survey. *Jpn J Radiol* 2016 ; 34 : 130-139.
- 10) 古木裕康¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 町田 幹, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 直腸診が診断に有用であった坐骨ヘルニアの1例. *日本腹部救急医学会雑誌* 2016 ; 36 (6) : 1145-1148.
- 11) Ueda T, Murata S, Miki I, Yasui D, Sugihara F, Tajima H, Morota T¹⁾, Kumita S (¹⁾ Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Endovascular Treatment Strategy Using Catheter-Directed Thrombolysis, Percutaneous Aspiration Thromboembolectomy, and Angioplasty for Acute Upper Limb Ischemia. *CardioVascular and Interventional Radiology* 2017.
- 12) Sugihara F, Murata S, Ueda T, Yasui D, Yamaguchi H, Miki I, Kawamoto C²⁾, Uchida E³⁾, Kumita S (¹⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Haemodynamic changes in hepatocellular carcinoma and liver parenchyma under balloon occlusion of the hepatic artery. *European Radiology* 2016.
- 13) Onozawa S, Murata S, Kimura T³⁾, Ueda T, Sugihara F, Yasui D, Tajima H (¹⁾ Division of Radiology, Department of Pathophysiological and Therapeutic Science, Faculty of Medicine, Tottori University) : Diaphragm height varies with arm position : comparison between angiography and CT. *Japanese Journal of Radiology* 2016 ; 34 (11) : 724-729.
- 14) Uchiyama N, Kikuchi M, Machida M, Arai Y, Murakami R, Otsuka K, Jerebko A, Kelm M, Mertelmeier T : Diagnostic Usefulness of Synthetic MMG (SMMG) with DBT (Digital Breast Tomosynthesis) for Clinical Setting in Breast Cancer Screening. *Breast Imaging 13th International Workshop IWDM 2016* 2016 ; 59-67.

- 15) Hashimoto H, Fukushima Y, Kumita S, Miyamoto M, Takagi G, Yamazaki J, Ikeda T : Prognostic value of lower limb perfusion single-photon emission computed tomography-computed tomography in patients with lower limb atherosclerotic peripheral artery disease. *Jpn J Radiol* 2016 ; 35 : 68-77.
- 16) Abe M, Fukazawa R, Ogawa S, Watanabe M, Fukushima Y, Kiriyama T, Hayashi H, Ito Y : Usefulness of Single Photon Emission Computed Tomography/Computed Tomography Fusion-Hybrid Imaging to Evaluate Coronary Artery Disorders in Patients with a History of Kawasaki Disease. *J Nippon Med Sch* 2016 ; 83 (2) : 71-80.
- 17) Fukushima Y, Kumita S, Tokita Y, Sato N : Prognostic Value of Myocardial Perfusion SPECT After Intravenous Bolus Administration of Nicorandil in Patients with Acute Ischemic Heart Failure. *J Nucl Med* 2016 ; 57 (3) : 385-391.
- 18) Takagi G, Miyamoto M, Fukushima Y, Yasutake M, Tara S, Takagi I, Seki N, Kumita S, Shimizu W : Imaging Angiogenesis Using 99mTc-Macroaggregated Albumin Scintigraphy in Patients with Peripheral Artery Disease. *J Nucl Med* 2016 ; 57 : 192-197.
- 19) 曾原康二, 水村 直¹⁾, 石井亘友²⁾, 近藤康介³⁾, 福島大輔³⁾, 周郷延雄³⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 東邦大学医療センター大森病院放射線科, ²⁾ 中央放射線部, ³⁾ 脳神経外科) : 脳血流 SPECT を用いた慢性脳動脈閉塞症例における側副血行の検討 : 側副血行による動態脳血流 SPECT の集積遅延への影響. *臨床放射線* 2016 ; 61 (5) : 675-686.
- (2) 総説 :
- 1) Ono S¹⁾, Hayashi H, Ohi H¹⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Imaging Studies for Preoperative Planning of Perforator Flaps : An Overview. *Clin Plastic Surg* 2016.
- 2) 林 宏光 : 造影 CT における造影剤腎症に関する最近の知見. *CLINICIAN* 2016 ; 651 : 96-100.
- 3) 早川克己¹⁾, 鳴海善文²⁾, 桑鶴良平³⁾, 林 宏光 (¹⁾ 岩手県立釜石病院 放射線科, ²⁾ 大阪医科大学 放射線医学教室, ³⁾ 順天堂大学放射線医学教室) : 造影剤の現状 : X 線造影剤を中心に. *日独医報* 2016 ; 61 : 93-118.
- 4) 上田達夫, 林 宏光 : 画像診断は何をどのように用いるべきか : CT. *Current Therapy* 2016 ; 34 : 49-55.
- 5) 上田達夫, 林 宏光, 安藤高浩, 斎藤英正, 武田美那子, 福島善光, 高木 亮, 村上隆介, 汲田伸一郎 : 脈管疾患における CT 検査の役割. *Angiology Frontier* 2016 ; 15 : 46-54.
- 6) 林 宏光 : 腎機能と造影検査 : 腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン 2012 を中心に. *成人病と生活習慣病* 2016 ; 46 : 316-320.
- 7) 対馬義人¹⁾, 林 宏光 (¹⁾ 群馬大学医学部放射線科) : 造影剤のリスクマネージメント. *臨床放射線* 2016 ; 61 : 403.
- 8) 林 宏光 : 腎機能障害とヨード造影検査 : 造影剤腎症に対するリスク・患者評価とその予防を中心に. *画像診断* 2016 ; 36 : 205-210.
- 9) 高木 亮 : 救急画像診断 外傷 : 頭部/顔面. *臨床画像* 2016 ; 32 (4) : 42-46.
- 10) 汲田伸一郎 : 18F-FDG を用いた心臓サルコイドーシス診断. *心臓* 2016 ; 48 : 938.
- 11) 村上隆介, 日高史貴, 町田 幹, 山根 彩, 汲田伸一郎 : 【腎と透析診療指針 2016】 (第 3 章) 生検, 画像診断 画像診断 超音波検査, CT, MRI, シンチグラフィなど. *腎と透析* 2016 ; 80 : 97-100.
- 12) 福島善光, 杉原康朗, 汲田伸一郎 : サルコイドーシスの核医学診断. *臨床画像* 2017 ; 33 : 83-93.
- 13) 宮本正章, 高木 元, 久保田芳明, 桐木園子, 手塚晶人, 太良修平, 清水 渉, 福島善光, 汲田伸一郎, 田畑泰彦 : 糖尿病合併症の病態・診断・治療 慢性合併症 閉塞性動脈硬化症 閉塞性動脈硬化症の治療 難治性末梢動脈疾患 (PAD) に対する血管再生治療. *日本臨床* 2016 ; 74 : 343-351.
- 14) 村田 智, 杉原史恵, 上田達夫, 山口英宣, 安井大祐, 三樹いずみ, 小野澤志郎, 坂本篤裕, 鈴木 健, 汲田伸一郎 : 【若い世代から増えている女性のがん】 子宮がん 子宮がんの血管内治療. *臨牀と研究* 2016 ; 93 (6) : 831-837.
- (3) 症例報告 :
- 1) Sugihara F, Murata S, Uchiyama F, Watari J, Tajima H, Kumita S : Successful Coil Embolization of an Aneurysm in the Arc of Böhler. *J Nippon Med Sch* 2016 ; 83 (5) : 196-198.
- 2) Ueda T, Tajima H²⁾, Murata S, Takagi R, Yokota H³⁾, Kumita S (¹⁾ Department of Center for Minimally Invasive Treatment, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital., ²⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Hospital) : Chopstick Injury : Successful Stent-Graft Therapy for Traumatic Left Subclavian Artery Aneurysm. *Journal of Nippon Medical School* 2017 ; 84 : 41-44.
- 3) Kimura T¹⁾, Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Sugihara F, Yasui D, Miki I, Kumita S, Ogawa T¹⁾ (¹⁾ Division of Radiology, Department of Pathophysiological and Therapeutic Science, School of Medicine, Tottori University Faculty of Medicine) : Combination Therapy of Interventional Radiology and Surgery for Infarction of the Small Intestine Caused by Portal Vein and Mesenteric Vein Thrombosis : A Patient Report. *Yonago Acta Medica* 2016 ; 59 (3) : 237-240.
- 1) 宮田哲郎¹⁾, 東 信良²⁾, 吉川公彦³⁾, 後藤信哉⁴⁾, 秋下雅弘⁵⁾, 赤澤宏平⁶⁾, 寺師浩人⁷⁾, 中村正人⁸⁾, 林 宏光, 佐藤 紀⁹⁾, 古森公浩¹⁰⁾, その他 7 名 (¹⁾ 山王病院・山王メディカルセンター 血管病センター, ²⁾ 旭川医科大学外科学講座 血管外科学分野, ³⁾ 奈良県

立医科大学放射線科・IVR センター, 4) 東海大学医学部内科学系 循環器内科学, 5) 東京大学医学部附属病院 老年病科, 6) 新潟大学 医歯学総合病院 医療情報部, 7) 神戸大学大学院医学研究科 形成外科, 8) 東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科, 9) 埼玉医科大学 総合医療センター 血管外科, 10) その他)：末梢閉塞性動脈疾患の治療ガイドライン (2015 年改訂版)。

著書

- 1) Hodler J, Kubik-Huch A, Von Schulthess K：〔分担〕 Hybrid Imaging：Local Staging of Head and Neck Cancer. Diseases of the Brain Head and Neck, Spine 2016-2019 (Huellner MW, Sekine T), 2016；pp261-279, Diagnostic Imaging.
- 2) 関根鉄朗：〔分担〕 脳実質外領域に FLAIR にて高信号を呈する疾患：2D/3D FLAIR のコントラストメカニズムを理解する。画像診断, 2016.
- 3) 林 宏光：〔分担〕 造影剤の安全性：造影剤腎症と NSF. 画像診断ガイドライン 2016 (日本医学放射線学会), 2016；pp37-41, 金原出版.
- 4) 林 宏光：〔分担〕 末梢動脈疾患の画像診断. 新心臓血管外科テキスト (安達秀雄, 小野 稔, 坂本喜三郎, 志水秀行, 宮田哲郎), 2016；pp623-628, 中外医学社.
- 5) 林 宏光：〔分担〕 ヨード造影剤の添付文書について. 知っておきたい造影剤の副作用ハンドブック (桑鶴良平), 2016；pp130-138, PILAR PRESS.
- 6) 林 宏光：〔分担〕 薬物アレルギー：造影剤. 日本医師会雑誌第 145 巻・特別号, 2016；pp264-265, 日本医師会.
- 7) 上田達夫, 林 宏光：〔分担〕 急性大動脈解離の診断. 2. CT. 大動脈解離：診断と治療の Standard, 2016；pp41-51, 中外医学社.
- 8) 上田達夫, 林 宏光：〔自著〕【Q&A で押さえる Vascular imaging 最重要ポイント】大動脈解離の ulcer-like projection (ULP) の血行動態からみた病態を教えてください. 臨床画像 (編集：松永尚文), 2017；メジカルビュー社.
- 9) 上田達夫, 林 宏光：〔自著〕【大動脈解離の診断と治療の最近の動向】画像診断は何をどのように用いるべきか CT. カレントテラピー (監修：高久史磨 猿田亨男, 編集：北村聖), 2016；pp873-879, ライフメディコム.
- 10) 上田達夫, 林 宏光, 安藤高浩, 齊藤英正, 武田美那子, 福嶋善光, 高木 亮, 村上隆介, 汲田伸一郎：〔自著〕【日常診療における脈管検査-目的とその意義】脈管疾患における CT 検査の役割. Angiology Frontier (監修：矢崎義雄), 2016；pp46-54, メディカルレビュー社.
- 11) 上田達夫, 齊藤英正, 村田 智：〔自著〕IV NBCA 各論 外傷性出血に対する TAE (腹部). 塞栓物質を使いこなす 適応と塞栓術の実際 (編集：荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016；pp126-127, メジカルビュー社.
- 12) 山口英宣, 上田達夫, 田島廣之：〔共著〕II ゼラチンスポンジ 各論 脾機能亢進症に対する TAE (PSE). 塞栓物質を使いこなす 適応と塞栓術の実際 (編集：荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016；pp48-49, メジカルビュー社.
- 13) 山口英宣, 上田達夫, 田島廣之：〔共著〕V コイル 各論 精索静脈瘤に対する塞栓術. 塞栓物質を使いこなす 適応と塞栓術の実際 (編集：荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016；pp180-181, メジカルビュー社.
- 14) 村田 智, 杉原史恵, 上田達夫, 山口英宣, 安井大祐, 三樹いずみ, 小野澤志郎, 坂本篤裕, 鈴木 健, 汲田伸一郎：〔共著〕【若い世代から増えている女性のがん】子宮がん 子宮がんの血管内治療. 臨牀と研究, 2016；pp831-837, 大道学館.
- 15) 栗林茂彦：〔分担〕 良性疾患 血管腫. 放射線治療計画ガイドライン 2016 年版 (公益社団法人 日本放射線腫瘍学会), 2016；pp382-384, 金原出版.
- 16) 前林勝也：〔共著〕中枢神経. 放射線治療計画ガイドライン 2016 年版 (公益社団法人 日本放射線腫瘍学会編), 2016；pp57-81, 金原出版株式会社.
- 17) 安井大祐, 村田 智, 田島廣之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 放射線科)：〔分担〕EO (ethanolamine oleate). 塞栓物質を使いこなす (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016；pp190-193, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 林 宏光：造影検査の副作用とその対策. 東北 conference on contrast media (仙台), 2016. 11.
- 2) 林 宏光：病病, 病診連携のための医療ネットワーク構築について. 平成 28 年度日本医科大学付属病院千駄木懇親会 (東京), 2016. 7.
- 3) 林 宏光：腎障害患者に対するヨード造影剤の使用について：より安全な造影検査のために. 第 44 回 Radiology Update Fukuoka 学術講演会 (福岡), 2016. 6.
- 4) 林 宏光：造影 CT 検査における死亡例の検討：判例を検証し, そこから学ぶ. 第 51 回西胆振画像診断検討会 (室蘭), 2016. 5.
- 5) 汲田伸一郎：心臓画像診断の近未来展望. 第 13 回 八幡 RI クラブ, 2016. 8.
- 6) 汲田伸一郎：心臓画像診断の現状と近未来展望；プラークイメージングを含めて. 第 29 回 HEART-NET, 2016. 11.
- 7) 村田 智：AMPLATZERTM Vascular Plug の適用とテクニック：AVP4 を中心に. 第 57 回日本脈管学会総会 (奈良), 2016. 10.

(2) 招待講演：

- 1) 関根鉄朗：PET/MR 一体機の過去・現在・未来. 日本医科大学放射線医学教室忘年研究会（東京），2016. 12.
- 2) 関根鉄朗：PET/MR 一体機の基礎と臨床応用. 日本医科大学医学会（東京），2016. 9.
- 3) 関根鉄朗：PET/MR の基礎と臨床応用. MR 研究会（東京），2016. 7.
- 4) 前林勝也：臨床試験におけるモニタリングと監査について. 第26回日本臨床精神神経薬理学会 臨床試験教育セミナー（大分），2016. 11.

(3) 教育講演：

- 1) 福嶋善光：心筋血流 SPECT の読影法. 第75回日本医学放射線学会総会（東京），2016. 4.
- 2) 林 宏光：造影 CT における造影剤腎症：最近の知見を中心に. AIMS Body Imaging 2016（東京），2016. 11.
- 3) 林 宏光：救急で遭遇する心血管疾患：心疾患を中心に. 第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会（東京），2016. 9.
- 4) 林 宏光：冠動脈 CT：その歴史と今後の展望 SCCT 白書より. 第10回 SCCT 研究会（東京），2016. 9.
- 5) 高木 亮：脳卒中の画像診断. 第6回救急放射線セミナープレミア（京都），2016. 5.
- 6) 高木 亮，関根鉄朗，村井保夫¹⁾，森田明夫¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 脳神経外科）：脳神経領域の4次元的な画像診断技術の臨床応用. 第25回日本脳ドック学会総会（長野），2016. 6.
- 7) 高木 亮：被ばくと造影剤. 第二回救急放射線セミナーベーシック（東京），2016. 9.
- 8) 高木 亮：術後合併症の画像診断と対処法 頭頸部. 日本放射線学会 関東地方会セミナー（東京），2017. 2.
- 9) 高木 亮：生涯教育セミナー：中枢神経脳卒中その病態と原因に迫る 救急放射線科医としての立場から. 第36回日本画像医学会（東京），2017. 2.
- 10) 上田達夫：大動脈瘤破裂・切迫破裂と急性大動脈解離に対する放射線診断の進歩：CT を中心として. 第44回日本集中治療医学会学術集会（北海道），2017. 3.
- 11) 前林勝也：医療の質：治療. 第52回日本医学放射線学会 秋季臨床大会（新宿），2016. 9.
- 12) Fukushima Y, Kumita S：Image interpretation method of myocardial perfusion SPECT. The 75th Annual Meeting of the Japan Radiology Society (Yokohama), 2016. 4.

(4) シンポジウム：

- 1) 汲田伸一郎：心筋虚血検出への新しい挑戦：心臓核医学の方向性. FRIENDS Live 2017, 2017. 3.
- 2) 前林勝也：有害事象：脳. 日本放射線腫瘍学会第29回学術大会（京都），2016. 11.
- 3) Saito H, Murata S, Yasui D, Miki I, Sugihara F, Ueda T, Yamaguchi H, Kumita S, Kawamoto C¹⁾, Taniai N²⁾（¹⁾ Department of gastroenterology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School）：Efficacy of transarterial chemoembolization (TACE) using microspheres for lipiodol-TACE refractory hepatocellular carcinoma. 第45回日本 IVR 学会総会（愛知），2016. 5.
- 4) 村田 智：骨盤腫瘍への NIPP を用いたアプローチ. 骨盤腫瘍セミナー（東京），2016. 5.

(5) パネルディスカッション：

- 1) Miki I, Murata S, Uchiyama F¹⁾, Yasui D, Ueda T, Sugihara F, Yamaguchi H²⁾, Kawamoto C³⁾, Uchida E⁴⁾, Kumita S（¹⁾ Department of Radiology, Ebina-Sogo Hospital, Kanagawa, Japan, ²⁾ Department of Radiology, Tamanagayama Hospital, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School）：Evaluating relationship between location of hepatocellular carcinoma and efficacy of transcatheter arterial chemoembolization. IASGO 2016（韓国），2016. 9.
- 2) 福嶋善光：認知症診療・ケアの疑問に答えます. 第7回千駄木認知症研究会学術講演会（東京），2017. 2.

(6) セミナー：

- 1) 林 宏光：Revolution CT：Basic and Clinical Update. 第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会（東京），2016. 9.
- 2) 汲田伸一郎：Physiological PCI における虚血評価の意義：近未来の心臓画像診断を考える. 第64回 日本心臓病学会，2016. 9.
- 3) 栗林茂彦：ベテラン治療医の技術を盗め！ ケロイド. 第30回 JCR ミッドウィンターセミナー（福岡県福岡市），2017. 1.
- 4) 前林勝也：専門医として知っておきたい神経膠腫の診断と治療 - 放射線治療. JCR ミッドサマーセミナー 2016（神戸），2016. 7.
- 5) 前林勝也：脳腫瘍の放射線治療. 日本放射線腫瘍学会 第18回放射線腫瘍学夏季セミナー（名古屋），2016. 8.

(7) 一般講演：

- 1) Sekine T, Barbosa F, Burger I, Delso G, Ter Voert E, Veit-Haibach P, Huellner M：Resectability assessment of head and neck cancer. -The comparison study using shuttle type PET/CT/MR. Resectability assessment of head and neck cancer：The comparison study using shuttle type PET/CT/MR. 2016th annual meeting of SNMMI (San Diego), 2016. 6.
- 2) Sekine T, Barbosa F, Sah B, Căcilia M, Burger I, Delso G, Ter Voert E, Veit-Haibach P, Huellner M：PET/MR outperforms

- PET/CT in suspected occult tumors. 2016th annual meeting of SNMMI (San Diego), 2016. 6.
- 3) Sekine T, Burgos N, Warnock G, Huellner M, W. Buck A, Ter Voert E, Hutton B, Ourselin S, Veit-Haibach P, Delso G : Multi atlas-based attenuation correction for brain FDG-PET imaging using a TOF-PET/MR. annual meeting of ISMRM (23th) (Singapore), 2016. 5.
 - 4) Sekine T, Barbosa F, Burger I, Kuhn F, Veit-Haibach P, Schulthess G, Huellner M, Martin H : PET/MR versus PET/CT in the Initial Staging of Head and Neck Cancer. annual meeting of ISMRM (23th) (Singapore), 2016. 5.
 - 5) Sekine T, Barbosa F, Burger I, Delso G, Ter Voert E, Veit-Haibach P, Huellner M : Resectability assessment of head and neck cancer. : The comparison study using shuttle type PET/CT/MR. annual meeting of ISMRM (23th) (Singapore), 2016. 5.
 - 6) Sekine T, Buck A, Gaspar D, Edwin V, Martin H, Patrick V, Warnock G : Evaluation of clinical single atlas-based attenuation correction for integrated PET/MR. annual meeting of JSNM (56th) (Nagoya), 2016. 11.
 - 7) Sekine T, Barbosa F, Sah B, Mader C, Delso G, Burger I, Stolzmann P, Ter Voert E, Von Schulthess G, Veit-Haibach P, Huellner M : PET/MR outperforms PET/CT in suspected occult tumors. annual meeting of JSNM (56th) (Nagoya), 2016. 11.
 - 8) Sekine T T, Felipe B B, Kuhn F F, Irene B B, Edwin V V, Patrick V V, Martin H H : PET+MR versus PET/CT in the Initial Staging of Head and Neck Cancer. annual meeting of JSNM (56th) (Nagoya), 2016. 11.
 - 9) Sekine T, Felipe B, Irene B, Gaspar D, Stolzmann P, Edwin V, Patrick V, Martin H : Local resectability assessment of head and neck cancer, PET/MR versus PET/CT. annual meeting of JSNM (56th) (Nagoya), 2016. 11.
 - 10) Sekine T, Burgos N, Edwin V, Warnock G, Buck A, Martin H, Ourselin S, Cardoso M, Patrick V, Gaspar D : Multi atlas-based attenuation correction for brain FDG-PET imaging. annual meeting of JSNM (56th) (Nagoya), 2016. 11.
 - 11) Sekine T, Delso G, Zeimpekis K, Barbosa F, Ter Voert E, Huellner M, Veit-Haibach P : Clinically realistic FDG-Dose reduction in TOF-PET/MR scanner. annual meeting of JSNM (56th) (Nagoya), 2016. 11.
 - 12) Sekine T, Ter Voert E, Warnock G, Buck A, Huellner M, Veit-Haibach P, Delso G : Clinical evaluation of ZTE attenuation correction for brain FDG-PET/MR imaging. annual meeting of JSNM (56th) (Nagoya), 2016. 11.
 - 13) Sekine T, Buck A, Gaspar D, Edwin V, Martin H, Patrick V, Warnock G : Evaluation of clinical single atlas-based attenuation correction for integrated PET/MR. annual meeting of JSMRM (44th) (USA), 2016. 9.
 - 14) Sekine T, Barbosa F, Sah B, Mader C, Delso G, Burger I, Stolzmann P, Ter Voert E, Von Schulthess G, Veit-Haibach P, Huellner M : PET/MR outperforms PET/CT in suspected occult tumors. annual meeting of JSMRM (44th) (USA), 2016. 9.
 - 15) Sekine T, Felipe B, Kuhn F, Irene B, Gaspar D, Edwin V, Patrick V, Martin H : PET/MR versus PET/CT in the Initial Staging of Head and Neck Cancer. annual meeting of JSMRM (44th) (USA), 2016. 9.
 - 16) Sekine T, Felipe B, Irene B, Gaspar D, Stolzmann P, Edwin V, Patrick V, Martin H : Local resectability assessment of head and neck cancer, PET/MR versus PET/CT. annual meeting of JSMRM (44th) (USA), 2016. 9.
 - 17) Sekine T, Burgos N, Edwin V, Warnock G, Buck A, Martin H, Ourselin S, Cardoso M, Patrick V, Gaspar D : Multi atlas-based attenuation correction for brain FDG-PET imaging. annual meeting of JSMRM (44th) (USA), 2016. 9.
 - 18) Sekine T, Ter Voert E, Warnock G, Buck A, Huellner M, Veit-Haibach P, Delso G : Clinical evaluation of ZTE attenuation correction for brain FDG-PET/MR imaging, comparison with atlas attenuation correction. annual meeting of JSMRM (44th) (USA), 2016. 9.
 - 19) Sekine T, Delso G, Zeimpekis K, Barbosa F, Ter Voert E, Huellner M, Veit-Haibach P : Clinically realistic FDG-Dose reduction in TOF-PET/MR scanner : Image quality evaluation of the PET data. PET サマーセミナー 2016 (熊本), 2016. 8.
 - 20) Sekine T, Buck A, Gaspar D, Edwin V, Martin H, Patrick V, Warnock G : Evaluation of clinical single atlas-based attenuation correction for integrated PET/MR in human brain. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
 - 21) Sekine T, Burgos N, Edwin V, Warnock G, Buck A, Martin H, Ourselin S, Cardoso M, Patrick V, Gaspar D : Multi atlas-based attenuation correction for brain FDG-PET imaging using a TOF-PET/MR scanner : comparison with clinical single atlas-based attenuation correction. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
 - 22) Sekine T, Felipe B, Irene B, Gaspar D, Stolzmann P, Edwin V, Patrick V, Martin H : Resectability assessment of head and neck cancer. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
 - 23) Sekine T, Felipe B, Kuhn F, Irene B, Gaspar D, Edwin V, Patrick V, Martin H : PET/MR versus PET/CT in the Initial Staging of Head and Neck Cancer. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
 - 24) Sekine T, Felipe B, Gaspar D, Edwin V, Patrick V, Martin H : PET/MR : where do we stand?. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
 - 25) Sekine T, Felipe B, Gaspar D, Edwin V, Patrick V, Martin H : Utility of PET/MR in head and neck cancer. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.

- 26) Kuribayashi S, Miyashita T, Sato Y, Ogawa R, Akaiishi S, Kumita S : Does the time interval between surgery and radiotherapy affect the outcomes in postoperative radiotherapy of keloid?. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
- 27) Nishikawa Y, Iwata K, Takeda M, Kiyuna H, Tachi M, Kuwako T, Machida T, Hayashi H, Kumita S : Characterization of virtual monochromatic spectral image compared to single energy CT image. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
- 28) Kiyuna H, Machida T, Iwata K : Assessment of Accuracy of Identification of Materials Using Basis Material Analysis : Phantom Study. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
- 29) Yamane A, Murakami R, Tani H, Kuwako T, Kumita S, Takei H, Yanagihara K, Uchiyama N, Yoshida T : Accuracy of tumor size assessment in the preoperative breast cancer : comparison of DBT, FFDM, US and MRI. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
- 30) Kuwako T, Murakami R, Yamane A, Tani H, Kumita S, Uchiyama N, Yoshida T, Takei H, Yanagihara K, Matsubara M : Diagnostic impact of digital breast tomosynthesis for breast cancer occult on conventional digital mammography. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
- 31) Hamana T, Fukushima Y, Kumita S, Hashimoto H, Sugihara Y : Prognostic Impact of Deep-Inspiratory Breath-Hold Pulmonary Perfusion SPECT-CT in Patients with Pulmonary Emphysema. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
- 32) Murakami R, Yamane A, Tani H, Kuwako T, Kumita S, Uchiyama N, Otsuka K, Tsuchiya K : A new approach for diagnosis of breast cancer on digital breast tomosynthesis : Value of reconstructed slab-MIP images. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
- 33) Fukushima Y, Kumita S, Hashimoto H, Sugihara Y : Prognostic impact of deep-inspiratory breath-hold pulmonary perfusion SPECT-CT in patients with chronic pulmonary thromboembolism. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
- 34) Saitou H, Ishihara K, Yamane A, Imai S, Orita E, Tomiyama T, Sugihara Y, Hakozaki K, Akiyama K, Kumita S : Diagnostic performance of time-of-flight system to detect neck small lymph node using ¹⁸F-FDG PET/CT. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
- 35) Tachi M, Amano Y, Yamada H, Inui K, Asai K, Kumita S : Clinical significance of the regional and global myocardial T1 value and extracellular volume fraction in hypertensive cardiomyopathy. annual meeting of JRS (75th) (東京), 2016. 4.
- 36) 岩田琴美, 上田達夫, 村田 智, 高木 亮, 田島廣之¹⁾, 横田裕行²⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院 救命救急科) : 腸骨動脈出血に対し covered stent 留置を行った2例. 日本救急放射線研究会 (第26回) (東京), 2016. 9.
- 37) Iwata K, Fukushima Y, Sugihara Y, Hashimoto H¹⁾, Hamana T, Kumita S (¹⁾ Department of Cardiology, Toho University Omori Medical Center, Tokyo) : Quantitative assessment of femoral head ischemia using two-phase bone SPECT/CT in patients with proximal femoral fracture. Annual Congress of European Association of Nuclear Medicine (29th) (Barcelona), 2016. 10.
- 38) 岩田琴美, 福嶋善光, 杉原康朗, 橋本英伸¹⁾, 濱名輝彦, 汲田伸一郎 (¹⁾ 東邦大学医療センター大森病院 循環器内科) : 骨 SPECT/CT を用いた大腿骨近位部骨折での骨頭虚血の定量評価. 日本核医学会学術総会 (第56回) (名古屋), 2016. 11.
- 39) 岩田琴美, 福嶋善光, 杉原康朗, 橋本英伸¹⁾, 濱名輝彦, 汲田伸一郎 (¹⁾ 東邦大学医療センター大森病院 循環器内科) : 骨 SPECT/CT を用いた大腿骨近位部骨折での骨頭虚血の定量評価. 日本核医学会関東甲信越地方会 (第86回) (東京), 2017. 1.
- 40) 杉原史恵, 村田 智, 上田達夫, 安井大祐, 三樹いずみ, 齋藤英正, 小野澤志郎, 坂本篤裕¹⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 麻酔科学) : 治療抵抗性および再発子宮頸癌における閉鎖循環下骨盤内灌流化学療法 (NIPP) の治療成績. IVR 学会総会 (第45回) (名古屋), 2016. 5.
- 41) Sugihara F, Murata S, Ueda T, Yasui D, Miki I, Uchiyama F, Kawamoto2 C¹⁾, Kumita S (¹⁾ Internal Medicine Nippon Medical School) : Hemodynamic changes in hepatocellular carcinoma and liver parenchyma under balloon occlusion of the hepatic artery. 26th IASGO (korea), 2016. 11.
- 42) 高木 亮 : Groove pancreatitis の1例. 救急放射線画像研究会 in 東京 (第42回) (東京), 2016. 5.
- 43) 高木 亮 : 頭部 AVF の画像診断. 救急放射線画像研究会 in 東京 (第43回) (東京), 2016. 7.
- 44) Takagi R, Sekine T, Murai Y¹⁾, Morita A¹⁾, Kumita S (¹⁾ Department of Radiology and Neurosurgery) : Dynamic subtraction CTA and whole brain CT perfusion in the evaluation after EC/IC bypass surgery. 11th symposium of the Japanese Scandinavian Radiological Society & 14th Nordic Japan PACS symposium (TOKYO), 2016. 9.
- 45) 三樹いずみ, 村田 智, 上田達夫, 杉原史恵, 安井大祐, 齋藤英正, 横田裕行²⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 高度救命救急センター) : 当院における重症急性膵炎に対する膵局所動注療法の治療効果と合併症. 日本腹部救急医学会総会 (第53回) (横浜), 2017. 3.
- 46) 上田達夫, 林 宏光, 齋藤英正 : 大動脈解離発症前の CT 画像における大動脈壁厚の検討 : 大動脈解離発症の予測因子と成り得るか. 大動脈解離シンポジウム (第5回) (横浜), 2017. 2.

- 47) 上田達夫, 村田 智, 林 宏光, 田島廣之³⁾, 齊藤英正, 三樹いずみ, 安井大祐, 杉原史恵, 村上隆介, 坪 宏一¹⁾, 師田哲郎²⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 循環器内科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター) : 急性上肢虚血に対する IVR 治療戦略に関する検討. 日本脈管学会総会 (第 57 回) (奈良), 2016. 10.
- 48) Ueda T, Murata S, Tajima H, Sugihara F, Yasui D, Miki I, Saitou H, Kumita S : Endovascular treatment strategy for acute upper limb ischemia : Comparison of catheter-directed thrombolysis (CDT) -based endovascular treatment and percutaneous aspiration thromboembolectomy (PAT) -based endovascular treatment. Progress in Radiology 2016 (東京), 2016. 9.
- 49) Ueda T, Murata S, Sugihara F, Yasui D, Miki I, Saitou H, Kumita S : Successful balloon-assisted n-butyl cyanoacrylate embolization of puncture site bleeding. CIRSE 2016 (バルセロナ), 2016. 9.
- 50) 上田達夫, 田島廣之¹⁾, 村田 智, 岩田琴美, 三樹いずみ, 安井大祐, 芝田匡史³⁾, 師田哲郎³⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Zenith stentgraft 2000 の破損・修復後に生じた大動脈瘤破裂に対して再修復を行った 1 例. 大動脈ステントグラフト研究会 (第 20 回) (東京), 2016. 7.
- 51) 上田達夫, 田島廣之²⁾, 村田 智, 杉原史恵, 安井大祐, 三樹いずみ, 齊藤英正, 岩田琴美, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター) : 外腸骨動脈出血に対して covered stent 留置術を行った 3 例. 末梢血管画像・血管内治療研究会 (第 23 回) (東京), 2016. 6.
- 52) 上田達夫, 村田 智, 杉原史恵, 安井大祐, 三樹いずみ, 齊藤英正, 汲田伸一郎 : 穿刺部出血に対してバルーン閉塞下 NBCA 塞栓術が有用であった 2 例. 日本 IVR 学会総会 (第 45 回) (名古屋), 2016. 5.
- 53) 上田達夫, 村田 智, 田島廣之, 齊藤英正, 三樹いずみ, 安井大祐, 杉原史恵, 芝田匡史¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 心臓血管外科学) : 放射線科によるステントグラフト治療 (EVAR および関連する IVR 手技を中心に). 循環器先端医療懇話会 (第 2 回) (東京), 2016. 4.
- 54) Murakami R, Tani H, Kumita S, Uchiyama N, Yoshida T : Initial clinical evaluation of observer performance using a tablet computer with a 4K high-resolution display for detection of breast cancer by digital mammography. European Congress of Radiology 2017 (Austria), 2017. 3.
- 55) Uchiyama N, Kikuchi M, Machida M, Murakami R, Arai Y : Clinical Usefulness of thick slab images with DBT (Digital Breast Tomosynthesis). European Congress of Radiology 2017 (Austria), 2017. 3.
- 56) Uchiyama N, Kikuchi M, Machida M, Arai Y, Murakami R, Otsuka K, Jerebko A, Kelm M, Mertelmeier T : Diagnostic Usefulness of Synthetic MMG (SMMG) with DBT (Digital Breast Tomosynthesis) for Clinical Setting in Breast Cancer Screening. 13th International Workshop on Breast Imaging (Sweden), 2016. 6.
- 57) 江澤賢治, 古崎治子, 大島有希, 小林宏之, 山根 彩, 谷 瞳, 村上隆介, 小山智美, 秋山 忍, 寺田正巳, 根岸 徹, 桑原孝夫, 村本綾子 : 画像再構成法が異なる乳房トモシンセシスにおける画質特性の比較. 日本乳癌検診学会学術総会 (第 26 回) (久留米), 2016. 10.
- 58) 古崎治子, 大島有希, 小林宏之, 山根 彩, 村上隆介, 小山智美, 秋山 忍, 寺田正巳, 根岸 徹 : デジタルマンモグラフィトモシンセシス (DBT : Digital Breast Tomosynthesis) の性能評価について. 日本乳癌検診学会学術総会 (第 26 回) (久留米), 2016. 10.
- 59) 大島有希, 古崎治子, 江澤賢治, 小林宏之, 山根 彩, 谷 瞳, 村上隆介, 根岸 徹 : Digital Breast Tomosynthesis の品質管理についての検討. 日本乳癌検診学会学術総会 (第 26 回) (久留米), 2016. 10.
- 60) 西川慈人, 岩田琴美, 喜友名一, 武田美那子, 城 正樹, 桑子智之, 町田 幹, 林 宏光, 汲田伸一郎 : 日常読影化のための仮想単色 X 線画像の最適化. 日本医学放射線学会総会 (第 75 回) (横浜), 2016. 4.
- 61) 栗林茂彦 : 局所進行声門癌に対する S-1 併用化学放射線治療. 日本放射線腫瘍学会学術大会 (第 29 回) (京都府京都市), 2016. 11.
- 62) 古崎治子, 大島有希, 小林宏之, 村上隆介, 秋山 忍, 小山智美, 寺田正巳, 根岸 徹 : デジタルマンモグラフィトモシンセシス (DBT : Digital Breast Tomosynthesis) の性能評価と運用課題について. 日本放射線技術学会東京支部春期学術大会 (第 70 回) (東京), 2016. 5.
- 63) 柳原恵子, 鈴木えりか, 中井麻木, 山下浩二, 山根 彩, 村上隆介, 和田隆一, 石井英昭, 大橋隆治, 坂谷貴司, 武井寛幸 : 転移性乳がんに対するエリブリンの有用性と安全性. 日本乳癌学会総会 (第 24 回) (東京), 2016. 6.
- 64) 村上隆介, 山根 彩, 谷 瞳, 桑子智之, 大島有希, 古崎治子, 小林宏之, 汲田伸一郎, 鈴木えりか, 中井麻木, 浅川英輝, 二宮 淳, 柳原恵子, 飯田信也, 山下浩二, その他 3 名 : 乳腺トモシンセシスにおける slab MIP の有用性 再構成スライス厚の違いによる乳癌描出能の検討. 日本乳癌学会総会 (第 24 回) (東京), 2016. 6.
- 65) Uchiyama N, Kikuchi M, Machida M, Kinoshita T, Tani H, Murakami R, Otsuka K, Kumita S, Arai Y : Clinical Usefulness of Synthetic MMG in Breast Cancer Diagnosis. annual meeting of JRS (75th) (横浜), 2016. 4.
- 66) 谷 瞳, 山根 彩, 桑子智之, 村上隆介, 江澤賢治, 大島有希, 古崎治子, 小林宏之, 汲田伸一郎, 柳原恵子¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 松原美幸²⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院乳腺外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院病理部) : 乳房デジタルトモシンセシスが診断に有用であった乳癌の検討. 日本乳癌検診学会学術総会 (第 26 回) (久留米), 2016. 11.

- 67) 安井大祐, 村田 智, 上田達夫, 山口英宣¹⁾, 杉原史恵, 三樹いずみ, 齋藤英正, 川本智章²⁾, 横田裕行³⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 多摩永山病院 放射線科, ²⁾ 日本医科大学 消化器肝臓内科, ³⁾ 日本医科大学 救命救急科) : 経皮経肝穿刺が困難な症例に対する経皮経脾静脈アプローチによる門脈系 IVR. 日本 IVR 学会総会 (名古屋), 2016. 5.
- 68) Yasui D, Murata S, Ueda T, Sugihara F, Miki I, Saitou H, Uchida E¹⁾, Kumita S (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Ischemic complication following isolation of the parent artery for postoperative bleeding after hepatopancreatobiliary surgery. IASGO 2016 (韓国), 2016. 9.
- 69) Yasui D, Murata S, Ueda T, Yamaguchi H, Sugihara F, Miki I, Saitou H, Kumita S : Trans-splenic approach for portal intervention in the presence of massive portal vein thrombosis and ascites. CIRSE 2016 (スペイン), 2016. 9.
- 70) Yasui D, Murata S, Onozawa S, Ueda T, Sugihara F, Miki I, Saitou H, Kumita S : Transsplenic approach as an alternative to transhepatic approach in portal venous intervention. Progress in Radiology 2016 : 11th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society & 14th Nordic Japan PACS Symposium (東京), 2016. 9.
- 71) 安井大祐, 村田 智, 上田達夫, 杉原史恵, 三樹いずみ, 齋藤英正, 竹下俊行¹⁾, 横田裕行²⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 女性診療科・産科) : 産科出血に対する経皮的動脈塞栓術の有用性に関する検討. 腹部救急医学会総会 (横浜), 2017. 3.
- 72) Fukushima Y, Kumita S, Hashimoto H, Sugihara Y, Iwata K, Hamana T : Diagnostic impact of CT attenuation correction on CZT myocardial perfusion SPECT in patients with coronary artery disease compared to cardiac SPECT/CT hybrid imaging. The 28th Annual EANM Congress (Spain), 2016. 10.
- 73) Hashimoto H, Fukushima Y, Kumita S, Yamazaki J, Ikeda T : Feasibility of myocardial flow reserve prediction without using dynamic data of myocardial perfusion PET. The 28th Annual EANM Congress (Spain), 2016. 10.
- 74) Fukushima Y, Kumita S, Hashimoto H, Sugihara Y, Iwata K, Hamana T : Diagnostic impact of CTAC on CZT SPECT in CAD as confirmed by cardiac SPECT/CT hybrid imaging. The 81st Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Kanazawa), 2017. 3.
- 75) 福嶋善光 : 循環器領域における炎症性疾患の画像診断. Cerebral and Cardiac Disease Seminar (第5回) (東京), 2017. 3.
- 76) Fukushima Y, Kumita S, Hashimoto H, Sugihara Y, Iwata K, Hamana T : Diagnostic impact of CTAC on CZT SPECT in CAD confirmed by cardiac SPECT/CT hybrid imaging. The 56th Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Nuclear Medicine (Nagoya), 2016. 11.
- 77) 濱名輝彦, 福嶋善光, 汲田伸一郎, 橋本英伸, 杉原康朗 : 肺気腫例における深吸気位呼吸停止下肺血流 SPECT/CT の予後予測能. 日本核医学会関東甲信越地方会 (第85回) (東京), 2016. 7.
- 78) 福嶋善光, 汲田伸一郎, 橋本英伸, 杉原康朗, 岩田琴美, 濱名輝彦 : CT 吸収補正を用いた半導体ガンマカメラ心筋血流 SPECT の冠動脈疾患診断精度. 心臓 SPECT/CTA 融合画像を用いて. 日本心臓核医学会総会 (第26回) (津), 2016. 6.
- 79) 橋本英伸, 福嶋善光, 汲田伸一郎, 富山 毅, 桐山智成, 今井祥吾, 小林靖宏, 杉原康朗, 橋本有希子 : 13N-ammonia 心筋血流 PET における static image を用いた心筋血流予備能予測の可能性. 日本心臓核医学会総会 (第26回) (津), 2016. 6.
- 80) Sohara K, Mizumura S, Kuwako T, Kiriya T, Fukushima Y, Sugo N, Kumita S (¹⁾ Dept of Radiology, Omori Medical Center, Toho University, Tokyo, Japan, ²⁾ Dept of Neurosurgery, Omori Medical Center, Toho University, Tokyo, Japan) : Assessment of collateral circulation in chronic cranial arterial occlusive disease using 123I-IMP CBF SPECT : delayed accumulation through collateral formation in dynamic phase. 29th Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine (Spain), 2016. 10.
- 81) 齋藤英正, 村田 智, 安井大祐, 三樹いずみ, 杉原史恵, 上田達夫, 山口英宣, 芝田匡史¹⁾, 森嶋素子¹⁾, 川瀬康裕¹⁾, 石井庸介¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 心臓血管外科) : 大腿動脈 - 大腿動脈バイパス感染に対するグラフト抜去術前に血管内治療による血行再建術を施行した1例. 日本血管内治療学会学術総会 (第22回) (東京), 2016. 7.
- 82) Saito H, Murata S, Yasui D, Miki I, Sugihara F, Ueda T, Yamaguchi H, Kumita S, Kawamoto C¹⁾, Tanihara N²⁾ (¹⁾ Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Efficacy of transarterial chemoembolization (TACE) using microspheres for lipiodol-TACE refractory hepatocellular carcinoma. 11th symposium of the Japanese Scandinavian Radiological Society & 14th Nordic Japan PACS symposium (東京), 2016. 9.
- 83) 齋藤英正, 上田達夫, 村田 智, 林 宏光, 三樹いずみ, 安井大祐, 杉原史恵, 村上隆介, 坪 宏一¹⁾, 師田哲郎²⁾, 田島廣之³⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学 循環器内科, ²⁾ 日本医科大学 心臓血管外科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター) : Zenith stentgraft 2000 の破損・修復後に生じた type III エンドリークによる大動脈瘤破裂に対して再修復を行った1例. 日本脈管学会総会 (第57回) (奈良), 2016. 10.
- (8) 座長 :
- 1) 林 宏光, 宮田哲郎¹⁾ (¹⁾ 山王病院・山王メディカルセンター 血管病センター) : 脈管専門医教育セッション. 日本脈管学会総会 (第57回) (奈良), 2016. 10.

- 2) 林 宏光：大動脈解離の画像診断. 日本脈管学会総会（第 57 回）（奈良），2016. 10.
- 3) 林 宏光：放射線関連医薬品の新発見. Advanced medical imaging 研究会 2016（東京），2016. 7.
- 4) 林 宏光：腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン 2012 を考える. 日本 IVR 学会総会（第 45 回）（名古屋），2016. 5.
- 5) 林 宏光：心血管 3. 日本医学放射線学会総会（第 75 回）（横浜），2016. 4.

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Sekine T, Barbosa F, Kuhn F : PET+ MR versus PET/CT in the initial staging of head and neck cancer, using a trimodality PET/CT+ MR system. Clin Imaging 2017 ; 42 : 232-239.
- 2) Delso G, Khalighi M, Ter Voert E, Barbosa F, Sekine T, Huellner M, Veit-Haibach P : Effect of Time-of-Flight Information on PET/MR Reconstruction Artifacts : Comparison of Free-breathing versus Breath-hold MR-based Attenuation Correction. Radiology 2017 ; 282 (1) : 229-235.
- 3) Sekine T, Takagi R, Amano Y : 4D flow MRI assessment of extracranial-intracranial bypass : qualitative and quantitative evaluation of the hemodynamics. Neuroradiology 2016 ; 58 (3) : 237-44.
- 4) Sekine T, Buck A, Delso G : Evaluation of atlas-based attenuation correction for integrated PET/MR in human brain : application of a head atlas and comparison to true CT-based attenuation correction. J Nucl Med 2016 ; 57 (2) : 215-20.
- 5) Onozawa S, Murata S, Mine T¹⁾, Sugihara F, Yasui D, Kumita S ⁽¹⁾ Department of Radiology, Tokai University Hachioji Hospital, Tokai University School of Medicine) : Amplatzer Vascular Plug Anchoring Technique to Stabilize the Delivery System for Microcoil Embolization. Cardiovascular and Interventional Radiology 2016 ; 39 (5) : 750-760.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) Sohara K, Mizumura S, Kuwako T, Sugou N, Shiraga N, Terahara A, Kumita S : Evaluation of collateral circulation in patients with ischaemic lesions using 123I-IMP dynamic and static SPECT images. 日本核医学会学術総会（第 55 回）（東京），2015. 11.
- 2) Gantumur D, 町田 幹, 西川慈人, 岩田琴美, 谷合信彦¹⁾, 汲田伸一郎 ⁽¹⁾ 日本医科大学 消化器外科) : 肝右葉前上区域 (Segment 8) の肝灌流静脈に基づく亜区域の多様性. 学校法人日本医科大学 外国人留学者研究会（第 26 回），2016. 2.
- 3) 岩田琴美, 福嶋善光, 杉原康朗, 橋本英伸, 濱名輝彦, 汲田伸一郎 : 骨 SPECT/CT を用いた大腿骨近位部骨折での骨頭虚血の定量評価. 日本核医学会関東甲信越地方会（第 86 回）（東京），2016. 1.

追加分座長：

- 1) 林 宏光：大動脈解離の診断. 大動脈解離シンポジウム（第 4 回）（横浜），2016. 3.

〔武蔵小杉病院放射線科〕

研究概要

放射線診断学：1) 呼吸器疾患に対して呼吸器内科・外科と協同し画像と診療の質向上を図っている。2) 消化器疾患に対して、新しい MRI を導入し有用性検討しており、また多検出器型 CT との対比の上で肝腫瘍の質的診断能向上に取り組んでいる。3) 地域の肺がん・胃がん検診に協力している。4) 乳がん検診に取り組んでおり、マンモトームを使って最終診断をつける様務めている。Interventional Radiology：血管内・低侵襲治療センターと協力し、肝細胞癌をはじめ各腫瘍性病変の治療、大動脈瘤など血管性病変の治療、外傷性疾患への緊急対応などを行っている。核医学：1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。2) 脳腫瘍 SPECT を用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 一色彩子, 田島廣之¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター) : 今月の Key findings [4] 胸部・心・大血管 ①. 臨床画像 2016 ; 32 (7) : 786-789.
- 2) 竹ノ下尚子¹⁾, 金城忠志¹⁾, 田島廣之¹⁾, 一色彩子, 神尾孝一郎²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター, ⁽²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器内科) : 今月の Key findings [6] 胸部・心・大血管③. 臨床画像 2016 ; 32 (9) : 1040-1041.

- 3) 一色彩子, 田島廣之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター) : 特集 サルコイドーシス : 疾患概念と最新の画像診断. サルコイドーシスの胸部画像診断. 臨床画像 2017 ; 33 (1) : 34-49.
- 4) 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 市川太郎, 一色彩子, 菊池有史²⁾, 佐藤直樹²⁾, 村田 智³⁾, 小野澤志郎³⁾, 三樹いずみ³⁾, 山本 剛⁴⁾, 中沢 賢⁵⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院心臓集中治療科, 5) 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科) : 特集 静脈血栓塞栓症 (VTE). 急性肺血栓塞栓症のIVR (画像下治療). 血管外科 (Metropolitan Vascular and Endovascular Surgery). 血管外科症例検討会雑誌 2016 ; 35 (1) : 24-30.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 一色彩子 : 急性腹症のCT画像診断. 医療連携フォーラム (第75回) (東京), 2016. 5.
- 2) 一色彩子 : 急性腹症のCT画像診断. 横須賀消化器病セミナー (第15回) (横須賀), 2016. 11.
- 3) 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 一色彩子, 市川太郎, 佐藤直樹²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科) : 肺血栓塞栓症の画像診断. 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.

(2) 教育講演 :

- 1) 一色彩子 : 急性腹症の画像診断. JJS Young Radiologist Seminar (第7回) (東京), 2016. 4.
- 2) 一色彩子 : 感染症の世界と空想画像診断 : 一生に一度の遭遇のために. 画像診断初期セミナー 2016 (京都), 2016. 6.
- 3) 一色彩子 : 急性腹症の画像診断について. 城南地区画像診断とIVRセミナー (第3回) (東京), 2016. 7.
- 4) 一色彩子 : 間膜・腹膜とその外についての画像診断. 断層映像研究会 (第45回) (岡山), 2016. 10.
- 5) 一色彩子 : 胸部単純写真の読影. 名古屋先端量子医学フォーラム 2016 (名古屋), 2016. 10.

(3) セミナー :

- 1) 一色彩子 : 胸部単純写真の読影. 日本医学放射線学会総会 (第75回) (横浜), 2016. 4.
- 2) 一色彩子 : 結核の画像診断 多彩な陰影を理解するために. 日本救急放射線研究会 (第26回) (東京), 2016. 9.

(4) 一般講演 :

- 1) 黒岩愛里, 市川太郎, 富山 毅, 橋和聡文, 一色彩子, 竹ノ下尚子¹⁾, 金城忠志¹⁾, 田島廣之¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター) : Cornelia de Lange 症候群 (CDLS) に伴う盲腸捻転症の1例. 平成28年度神奈川県放射線学会総会及び第57回例会 (横浜), 2016. 10.

追加分特別講演 :

- 1) 一色彩子 : 画像診断にまつわる非日常的なことどもについて. 吉祥寺セミナー”散乱線” (杏林大) 第3回 (東京), 2015. 10.
- 2) 一色彩子 : 腸回転異常のCT画像診断. 京滋ERセミナー (第33回) (京都), 2015. 3.

[武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター]

研究概要

臨床・基礎各科との協調・連携の下, 血管内・低侵襲治療に関する広範な領域の臨床研究を展開しており, 「救急疾患の血管内治療」と「全身血管性病変の血管内治療」をメインテーマとしている. 前者に関しては, 「静脈血栓塞栓症」と「外傷」を2本の研究の柱としており, 文部科学省の科学研究費を獲得し, 国際学会のシンポジウムに採択されるなど, 国内外で高い評価を得ている. 喀血・消化管出血・後腹膜出血などの「出血」に関する研究も進んでいる. 後者に関しては, 胸部・腹部・骨盤部大動脈瘤/解離のステントグラフト, 閉塞性動脈硬化症のステント, 膝下動脈狭窄・閉塞のバルーン PTA, 腎動脈狭窄のステントなど低侵襲血行再建や動静脈奇形の血管内治療などに関する研究を行っているが, その良好な治療成績が注目されている. 最近, 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術も開始した. 一方, 非血管低侵襲治療については, 肺癌のCTガイド下生検・ラジオ波焼灼治療, 術後トラブルに対するCTガイド下ドレナージ, 乳癌のステレオタクティク・マンモトーム生検などを中心とした臨床研究を行っている. 血管内・低侵襲治療をより安全に効果的に施行する目的で, 先端画像診断に関する解析や新規デバイスの開発も行っており, 「東京アンギオ・IVR会」の事務局も担当している. また, 国際交流に関しては, 北欧日本放射線医学協会の事務局も担当している. 2018年日本IVR学会 (国際) を主催することも決定した. なお, これらと平行して, 以前より肺癌・乳癌・胃癌などの癌検診や造影剤に関する研究も継続している.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Onozawa S¹⁾, Murata S¹⁾, Yamaguchi H²⁾, Mine T³⁾, Yasui D¹⁾, Sugihara H¹⁾, Tajima H (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Radiology, Tama nagayama Hospital, ³⁾ Department of Radiology, Tokai University Hachioji Hospital) : Can an enhanced thin-slice computed tomography delineate the right adrenal vein and improve the success rate ? . Jpn J Radiol 2016 ; 34 (9) : 611-9.
- 2) Onozawa S¹⁾, Murata S¹⁾, Kimura T¹⁾, Ueda T¹⁾, Sugihara F¹⁾, Tajima H (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Diaphragm height varies with arm position : comparison between angiography and CT. Jpn J Radiol 2016 ; 34 (9) : 724-729.
- 3) Ueda T¹⁾, Tajima H, Murata S¹⁾, Takagi R¹⁾, Yokota H²⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School Hp, ²⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Hp) : Chopstick Injury : Successful Stent-Graft Therapy for Traumatic Left Subclavian Artery Aneurysm. J Nippon Med Sch 2017 ; 84 (1) : 41-44.

(2) 総説：

- 1) 一色彩子¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科) : 今月の Key findings [4] 胸部・心・大血管①. 臨床画像 2016 ; 32 (7) : 786-789.
- 2) 田島廣之 : 院長新任のご挨拶 - これからも皆様に愛され信頼される病院を目指します - . 日本医科大学医学会雑誌 2016 ; 12 (3) : 75-75.
- 3) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子 : 今月の Key findings [5] 胸部・心・大血管②. 臨床画像 2016 ; 32 (8) : 895-896.
- 4) 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之 : 特集アドバンストコース. IVR 実践講座 : どう使う? プロに学ぶ超音波ガイド活用術. 臨床画像 2016 ; 32 (8) : 897-900.
- 5) 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之, 一色彩子¹⁾, 神尾孝一郎²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院呼吸器内科) : 今月の Key findings [6] 胸部・心・大血管③. 臨床画像 2016 ; 32 (9) : 1040-1041.
- 6) 田島廣之 : 病院執行部に対していかに放射線科の存在を認めさせるか. JRC ニュース (日本放射線科専門医会・医会誌) 2016 ; 213 (8) : 5-5.
- 7) 田島廣之, 高橋順子¹⁾, 長崎千恵子¹⁾, 軽部みなと¹⁾, 青山豊子¹⁾, 笹沼彦乃¹⁾, 高橋久美子¹⁾, 岸 泰宏¹⁾, 見目久美子²⁾, 中井川美保²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院患者支援センター, ²⁾ 富士通エフサス) : 「退院患者向け状態確認コール」システムの概要と臨床実用化への期待. 月刊新医療 2016 ; 43 (10) : 136-137.
- 8) 山本 剛¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 付属病院心臓血管集中治療科) : カテーテル治療の効果とテクニック. Heart View 2016 ; 20 (11) : 73-78.
- 9) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 市川太郎¹⁾, 一色彩子¹⁾, 菊池有史²⁾, 佐藤直樹²⁾, 村田 智³⁾, 小野澤志郎³⁾, 三樹いずみ³⁾, 山本 剛⁴⁾, 中沢 賢⁵⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院循環器内科, ³⁾ 付属病院放射線科, ⁴⁾ 付属病院心臓集中治療科, ⁵⁾ 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科) : 特集 静脈血栓塞栓症 (VTE). 急性肺血栓塞栓症の IVR (画像下治療). 血管外科 (Metropolitan Vascular and Endovascular Surgery) - 血管外科症例検討会雑誌 2016 ; 35 (1) : 24-30.
- 10) 一色彩子¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科) : 特集 サルコイドーシス : 疾患概念と最新の画像診断. サルコイドーシスの胸部画像診断. 臨床画像 2017 ; 33 (1) : 34-49.

著書

- 1) 金城忠志, 竹ノ下尚子, 田島廣之 : [分担] 骨盤領域の血管解剖. 産科・婦人科領域の IVR (中島康雄, 田島廣之, 鈴木直, 田中守), 2016 ; pp2-14, メジカルビュー社.
- 2) 小林由子¹⁾, 田島廣之, 中井章人²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 多摩永山病院女性診療科) : [分担] 良性疾患 (子宮筋腫・腺筋症) に対する IVR. IVR 術前画像診断の意義. 産科・婦人科領域の IVR (中島康雄, 田島廣之, 鈴木直, 田中 守), 2016 ; pp98-104, メジカルビュー社.
- 3) 小林由子¹⁾, 田島廣之, 中井章人²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 多摩永山病院女性診療科) : [分担] 悪性疾患に対する IVR. IVR 術前画像診断の意義. 産科・婦人科領域の IVR (中島康雄, 田島廣之, 鈴木直, 田中 守), 2016 ; pp156-165, メジカルビュー社.
- 4) 村田 智¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 付属病院放射線科) : [分担] NIPP (negative-balance isolated pelvic perfusion). 産科・婦人科領域の IVR (中島康雄, 田島廣之, 鈴木直, 田中 守), 2016 ; pp190-200, メジカルビュー社.
- 5) 田島廣之 : [分担] IVR (インターベンショナルラジオロジー). 新医用放射線科学講座 診療画像機器学 [第2版] (岡部哲夫, 小倉敏裕, 石田隆行), 2016 ; pp54-58, 医歯薬出版.
- 6) 村田 智¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 付属病院放射線科) : [分担] ゼラチンスポンジ. HCC に対する TACE (AP/AV シヤントを有する場合). 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016 ; pp24-25, メジカルビュー社.

- 7) 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之: [分担] ゼラチンスポンジ. 外傷性出血に対する TAE (胸部). 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp32-33, メジカルビュー社.
- 8) 川俣博志¹⁾, 村田恵美¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科): [分担] ゼラチンスポンジ. 外傷性出血に対する TAE (四肢). 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp42-43, メジカルビュー社.
- 9) 金城忠志, 竹ノ下尚子, 田島廣之: [分担] ゼラチンスポンジ. 咯血に対する TAE. 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp44-45, メジカルビュー社.
- 10) 山口英宣¹⁾, 上田達夫²⁾, 田島廣之 (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 付属病院放射線科): [分担] ゼラチンスポンジ. 脾機能亢進症に対する TAE (PSE). 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp48-49, メジカルビュー社.
- 11) 小野澤志郎¹⁾, 村田 智¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 付属病院放射線科): [分担] NBCA の動態 (シエーマ). 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp89-90, メジカルビュー社.
- 12) 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之: [分担] NBCA. 外傷性出血に対する TAE (胸部). 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp124-125, メジカルビュー社.
- 13) 小野澤志郎¹⁾, 金城忠志, 田島廣之 (¹⁾ 付属病院放射線科): [分担] ステントグラフト・エンドリークに対する塞栓術. 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp132-133, メジカルビュー社.
- 14) 嶺 貴彦¹⁾, 中澤 賢²⁾, 田島廣之 (¹⁾ 東海大学医学部附属八王子病院画像診断科, ²⁾ 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科): [分担] 頸横動脈瘤に対する TAE (プラグ). 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp152-153, メジカルビュー社.
- 15) 小野澤志郎¹⁾, 村田 智¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 付属病院放射線科): [分担] 血管損傷に対する TAE (コイル塞栓術). 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp170-171, メジカルビュー社.
- 16) 山口英宣¹⁾, 上田達夫²⁾, 田島廣之 (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 付属病院放射線科): [分担] コイル. 精索静脈瘤に対する塞栓術. 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp180-181, メジカルビュー社.
- 17) 安井大祐¹⁾, 村田 智¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 付属病院放射線科): [分担] EO (ethanolamine oleate). 塞栓物質を使いこなす. 適応と塞栓術の実際 (荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp190-191, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 小野澤志郎^{1,2)}, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中島康雄³⁾, 興梠征典³⁾ (¹⁾ 日本医科大学放射線医学, ²⁾ 大洗海岸病院放射線科, ³⁾ 日本 IVR 学会広報渉外委員会): 腹部救急疾患に対する緊急動脈塞栓術: 塞栓物質の全国調査 (セレスキュー). 日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (横浜), 2017. 3.
- 2) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 一色彩子¹⁾, 市川太郎¹⁾, 佐藤直樹²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院循環器内科): 肺血栓塞栓症と深部静脈血栓症「肺血栓塞栓症の画像診断」. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.

(2) 教育講演:

- 1) Tajima H: Diagnostic and Interventional Radiology of Venous Thromboembolism. The 75th Annual Meeting of the Japan Radiological Society (Yokohama), 2016. 4.
- 2) 小泉 淳¹⁾, 原 拓也¹⁾, 関口達也¹⁾, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 谷掛雅人²⁾, 須山陽介³⁾, 加地辰美³⁾, 加藤健一⁴⁾, 曾根美雪⁵⁾, 荒井保明⁵⁾, 穴井 洋⁶⁾, 吉川公彦⁷⁾, 秋 顕¹⁾ (¹⁾ 東海大学, ²⁾ 京都市立病院, ³⁾ 防衛医科大学病院, ⁴⁾ 岩手医科大学, ⁵⁾ 国立がん研究センター中央病院, ⁶⁾ 奈良医科大学, ⁷⁾ 三重大学): 多施設集計による下大静脈フィルター破損調査. 日本静脈学会総会 (第 36 回) (弘前), 2016. 6.
- 3) Onozawa S^{1,2)}, Murata S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Mine T³⁾, Tajima H (¹⁾ Dept. of Radiology, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Radiology, Oarai Kaigan Hospital, ³⁾ Tokai University Hachioji Hospital): Thin-slice enhanced computed tomography for delineating the right adrenal vein before adrenal venous sampling. 日本静脈学会総会 (第 36 回) (弘前), 2016. 6.
- 4) 田島廣之: 静脈血栓塞栓症に対する IVR (画像下治療) の実際. 飛鳥放射線医学セミナー (第 33 回) (奈良), 2016. 7.
- 5) 田島廣之: 緊急 IVR の実際. 産業医科大学大学院特別講義 (北九州), 2016. 7.
- 6) Tajima H: History of Scandinavian Japanese Radiological Society. Ceremony of the 30th Anniversary of Scandinavian Japanese Radiological Society. Progress in Radiology 2016 (Tokyo), 2016. 9.
- 7) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子: 外傷出血に対する塞栓術 (腹部実質臓器を中心に). 日本脈管学会総会 (第 57 回) (奈良), 2016. 10.

(3) シンポジウム:

- 1) Tajima H, Kaneshiro T, Takenoshita N: Interventional Radiology for the Treatment of Acute Massive Pulmonary Thromboem-

- bolism. APCCVIR (Suzhou), 2016. 4.
- 2) Tajima H, Kaneshiro T, Takenoshita N : Interventional Radiology for the Treatment of Deep Vein Thrombosis. APCCVIR (Suzhou), 2016. 4.
 - 3) Koizumi J¹⁾, Hara T¹⁾, Sekiguchi T¹⁾, Tajima H, Takenoshita N, Tanikake M²⁾, Suyama Y³⁾, Kaji T³⁾, Kato K⁴⁾, Sone M⁵⁾, Arai Y⁵⁾, Anai H⁶⁾, Kichikawa K⁶⁾, Yamada N⁷⁾, Imai Y¹⁾ (¹⁾ Tokai University, ²⁾ Kyoto City Hp, ³⁾ National Defense Medical College, ⁴⁾ Iwate Medical University, ⁵⁾ National Cancer Center Hp, ⁶⁾ Nara Medical University, ⁷⁾ Mie University) : Multicenter investigation for vena caval filter fractures. 日本IVR学会総会 (第45回) (名古屋), 2016. 5.
 - 4) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 三樹いずみ¹⁾, 上田達夫¹⁾, 村田 智¹⁾, 小野澤志郎²⁾, 山本 剛³⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 大洗海岸病院, ³⁾ 付属病院心臓血管集中治療室) : 重症急性肺血栓塞栓症に対するIVR (画像下治療) の治療成績とその評価. 日本静脈学会総会 (第36回) (弘前), 2016. 6.
 - 5) Ueda T¹⁾, Murata S¹⁾, Tajima H, Saitou H¹⁾, Miki I¹⁾, Yasui D¹⁾, Sugihara F¹⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Endovascular treatment strategy for acute upper limb ischemia. Progress in Radiology 2016 (Tokyo), 2016. 9.
 - 6) Onozawa S^{1,2)}, Murata S²⁾, Mine T³⁾, Ueda T²⁾, Tajima H (¹⁾ Department of Radiology, Oarai Kaigan Hospital, ²⁾ Department of Radiology/Center for advanced medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Radiology, Tokai University Hachioji Hospital) : Novel Amplatzer Vascular Plug anchoring technique for stabilizing the delivery system for micro coil embolization. Progress in Radiology 2016 (Tokyo), 2016. 9.
- (4) 一般講演 :
- 1) 上田達夫¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 安井大祐¹⁾, 三樹いずみ¹⁾, 齊藤英正¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科) : 外腸骨動脈出血に対して covered stent 留置術を行った3例. 末梢血管画像・血管内治療研究会 (第23回) (東京), 2016. 6.
 - 2) 金城忠志, 竹ノ下尚子, 田島廣之 : 心肺蘇生時胸骨圧迫による内胸動脈損傷に対する動脈塞栓術. 東京アンギオ・IVR会 (東京), 2016. 6.
 - 3) 吉尾敬秀¹⁾, 井村 肇¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 新田 隆²⁾, 金城忠志, 田島廣之 (¹⁾ 武蔵小杉病院心臓血管外科, ²⁾ 付属病院心臓血管外科) : 炎症性総腸骨動脈瘤に対しステント内挿術を施行後に脚の血栓閉塞をきたした1例. 日本血管内治療学会学術総会 (第22回) (東京), 2016. 7.
 - 4) 上田達夫¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 岩田琴美¹⁾, 三樹いずみ¹⁾, 安井大祐¹⁾, 柴田匡史²⁾, 師田哲郎²⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 付属病院心臓血管外科) : Zenith stentgraft 2000 の破損・修復後に生じた大動脈瘤破裂に対して再修復を行った1例. 大動脈ステントグラフト研究会 (第20回) (東京), 2016. 7.
 - 5) 岩田琴美¹⁾, 上田達夫¹⁾, 村田 智¹⁾, 高木 亮¹⁾, 田島廣之, 横田裕行²⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 付属病院救命救急科) : 腸骨動脈出血に対し covered stent 留置術を行った2例. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第52回) (東京), 2016. 9.
 - 6) 小野澤志郎^{1,2)}, 井上政則³⁾, 上田達夫²⁾, 安井大祐²⁾, 田島廣之, 村田 智²⁾ (¹⁾ 大洗海岸病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学放射線医学, ³⁾ 慶応大学放射線科) : Amplatzer Vascular Plug anchoring technique の有用性. 日本脈管学会総会 (第57回) (奈良), 2016. 10.
 - 7) 上田達夫¹⁾, 村田 智¹⁾, 林 宏光¹⁾, 齋藤英正¹⁾, 三樹いずみ¹⁾, 安井大祐¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 村上隆介¹⁾, 坪 宏一²⁾, 師田哲郎³⁾, 田島廣之, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 付属病院循環器内科, ³⁾ 付属病院心臓血管外科) : 急性上肢虚血に対するIVR治療戦略に関する検討. 日本脈管学会総会 (第57回) (奈良), 2016. 10.
 - 8) 齋藤英正¹⁾, 村田 智¹⁾, 上田達夫¹⁾, 林 宏光¹⁾, 三樹いずみ¹⁾, 安井大祐¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 村上隆介¹⁾, 坪 宏一²⁾, 師田哲郎³⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 付属病院循環器内科, ³⁾ 付属病院心臓血管外科) : Zenith stentgraft 2000 の破損・修復後に生じたtypeIII エンドリークによる大動脈瘤破裂に対して再修復を行った1例. 日本脈管学会総会 (第57回) (奈良), 2016. 10.
 - 9) 黒岩愛里¹⁾, 市川太郎¹⁾, 富山 毅¹⁾, 橘和聡文¹⁾, 一色彩子¹⁾, 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之 (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科) : Cornelia de Lange 症候群 (CDLS) に伴う盲腸捻転症の1例. 平成28年度神奈川県放射線医学会総会及び第57回例会 (横浜), 2016. 10.
 - 10) 石原優里¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 山村英治¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 菊池広子¹⁾, 望月 徹¹⁾, 松田 潔¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 武蔵小杉病院救命救急) : 非閉塞性腸間膜虚血症 (NOMI) に対して保存的治療にて回復した1例. 日本腹部救急医学会総会 (第53回) (横浜), 2017. 3.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Ueda T¹⁾, Murata S¹⁾, Miki I¹⁾, Yasui D¹⁾, Sugihara F¹⁾, Tajima H, Morota T²⁾, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School, ²⁾ Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Endovascular Treatment Strategy Using Catheter-Directed

[多摩永山病院放射線科]

研究概要

現在 CT では内臓動脈解離の検討をしております。核医学では認知症の脳血流とともに新規薬剤の有用性の検討を行っております。また、骨シンチについて新しい解析プログラムを使った検討を行っております。他、核医学と他のモダリティーとの統合画像を作成し、その臨床的な有用性を検討しております。IVR では悪性腫瘍の血管内治療の検討を続けております。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Sugihara F¹⁾, Murata S¹⁾, Ueda T¹⁾, Yamaguchi H, Miki I¹⁾, Kawamoto C²⁾, Uchida E³⁾ (1) Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of International Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Haemodynamic changes in hepatocellular carcinoma and liver parenchyma under balloon occlusion of the hepatic artery. *European Radiology* 2016 ; 27 (299) : 1-8.
- 2) Onozawa S¹⁾, Murata S¹⁾, Yamaguchi H, Mine T²⁾, Yasui D¹⁾, Sugihara H³⁾ (1) Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Radiology, Tokai University Hachioji Hospital, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan, 3) Division of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Can an enhanced thin-slice computed tomography delineate the right adrenal vein and improve the success rate?. *Japanese Journal of Radiology* 2016 ; 34 (9) : 611-619.

著書

- 1) 山口英宣, 上田達夫¹⁾, 田島廣之²⁾ (1) 日本医科大学付属病院, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院) : [共著] 脾機能亢進症に対する TAE (PSE). 塞栓物質を使いこなす 適応と塞栓術の実際 (荒井 保明, 中島 康雄, 田島 廣之), 2016 ; pp48-49, メジカルビュー社.
- 2) 山口英宣, 上田達夫¹⁾, 田島廣之²⁾ (1) 日本医科大学付属病院, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院) : [共著] 精索静脈瘤に対する塞栓術. 塞栓物質を使いこなす 適応と塞栓術の実際 (荒井 保明, 中島 康雄, 田島 廣之), 2016 ; pp180-181, メジカルビュー社.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 齊藤英正¹⁾, 村田 智¹⁾, 三樹いずみ¹⁾, 安井大祐¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 上田達夫¹⁾, 山口英宣, 川本智章²⁾, 谷合信彦³⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科, 2) 日本医科大学消化器肝臓内科, 3) 日本医科大学消化器外科) : Lipiodol-TACE 不応肝細胞癌に対する DEB-TACE の治療効果に関する検討. 日本 IVR 学会総会 (第 45 回) (名古屋), 2016. 5.

(2) 一般講演 :

- 1) 安井大祐¹⁾, 村田 智¹⁾, 上田達夫¹⁾, 山口英宣, 杉原史恵¹⁾, 三樹いずみ¹⁾, 齊藤英正¹⁾, 川本智章²⁾, 横田裕行³⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学, 2) 日本医科大学消化器肝臓内科, 3) 日本医科大学救命救急科) : 経皮経肝穿刺が困難な症例に対する経皮経脾静脈アプローチによる門脈系 IVR. 日本 IVR 学会総会 (第 45 回) (名古屋), 2016. 5.
- 2) Yamamoto A, Tamai J, Kobayashi Y, Yamaguchi H, Hiranuma C, Kumita S¹⁾ (1) Department of Radiation, Nippon Medical School) : Left ventricular wall motion synchrony indices (LVWS) are evaluated by count and volume based methods. Relationship among LVWS and relationships between LVWS and myocardial perfusion were investigated with cardioPEPO (RE), heart function view (HFV), and pFAST/cardioGRAF (PC) in rest gated SPECT. 日本医学放射線学会総会 (第 75 回) (横浜), 2016. 4.
- 3) Yamamoto A, Tamai J, Kobayashi Y, Yamaguchi H, Hiranuma C, Kumita S¹⁾ (1) Department of Radiation, Nippon Medical School) : Relationship among left ventricular motion synchrony indices (LVWS) were investigated with cardioPEPO (RE), heart function view (HFV), and pFAST/cardioGRAF (PC) in exercise stress gated SPECT. 日本医学放射線学会総会 (第 75 回) (横浜), 2016. 4.
- 4) Yamaguchi H, Murata S¹⁾, Saitou H¹⁾, Onozawa S¹⁾, Sugihara F¹⁾, Yasui D¹⁾, Miki I¹⁾ (1) Department of Radiation, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Coil embolisation with combination of micro-balloon assistance and double-catheter technique for a huge mesenteric artery pseudoaneurysm secondary to acute pancreatitis. Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe (第 30 回) (Barcelona), 2016. 9.

[多摩永山病院放射線治療科]

研究概要

3次元治療計画を全症例に適用している。研究、業績の両者に利用できるよう受付、医師、技師間のイントラネットデータベースを構築し運用している。体幹部定位照射を施行し、最適な照射方向の組み合わせを解析している。前立腺癌の照射時に超音波装置を使い、尿量を確認し、有害事象との関連を解析している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nose T, Otani Y¹⁾, Asahi S²⁾, Tsukiyama I³⁾, Dokiya T⁴⁾, et al. ⁽¹⁾ Department of Radiology, Kaizuka City Hospital, Kaizuka, Japan, ⁽²⁾ Department of Surgery, Aidu Chuo Hospital, Aiduwakamatsu, Japan, ⁽³⁾ Departments of Radiology, Aidu Chuo Hospital, Aiduwakamatsu, Japan, ⁽⁴⁾ Departments of Radiation Oncology, International Medical Center, Saitama Medical University, Hidaka, Japan) : A Japanese prospective multi-institutional feasibility study on accelerated partial breast irradiation using interstitial brachytherapy : clinical results with a median follow-up of 26 months. Breast Cancer 2016 ; 23 (6) : 861-868.
- 2) Nose T, Onoe T¹⁾, Otani Y¹⁾, Oguchi M¹⁾, Yamashita T¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Radiation Oncology, Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, Koto ward, Tokyo, Japan) : A simple technique to minimize needle displacement in gynecologic interstitial brachytherapy : Use of fully stretched elastic tapes. brachytherapy 2016 ; 15 (3) : 347-352.
- 3) Nose T, Chatani M¹⁾, Otani Y²⁾, Teshima T¹⁾, Kumita S³⁾ ⁽¹⁾ Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ⁽²⁾ Department of Radiation Oncology, Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, Koto ward, Tokyo, Japan, ⁽³⁾ Department of Radiation, Nippon Medical School) : Real-time verification of a high-dose-rate Ir-192 source position using a modified C-arm fluoroscope. International Journal of Radiation Oncology, Biology, Physics 2016 ; 97 (4) : 858-865.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Nose T : Brachytherapy techniques. The 4th congress of the Japan Oncoplastic breast surgery society international session 2 (第4回) (浦安), 2016. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 余田栄作¹⁾, 築山 巖²⁾, 能勢隆之, 鹿間直人³⁾, 佐伯俊昭³⁾, その他12名 ⁽¹⁾ 川崎医科大学放射線治療科, ⁽²⁾ 会津中央病院放射線科, ⁽³⁾ 埼玉医科大学国際医療センター) : 組織内照射による APBI 多施設共同試験 : 臨床結果の経時的変化 (中央55ヶ月, 最短42ヶ月). 日本放射線腫瘍学会小線源治療部会 (第18回研究会) (大阪), 2016. 5.
- 2) 松村泰成¹⁾, 築山 巖²⁾, 能勢隆之, 鹿間直人³⁾, 佐伯俊昭³⁾, et al. ⁽¹⁾ 国立病院機構九州医療センター放射線科, ⁽²⁾ 会津中央病院放射線科, ⁽³⁾ 埼玉医科大学国際医療センター) : 60-months-clinical results for a multiinstitutional prospective study on APBI by HDR interstitial brachytherapy. 日本放射線腫瘍学会学術大会 (第29回) (京都), 2016. 11.

(3) Poster (Snap Oral)：

- 1) Nose T, Otani Y¹⁾, Asahi S²⁾, Tsukiyama I³⁾, Fukuda I⁴⁾, et al. ⁽¹⁾ Department of Radiation Oncology, Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, Koto ward, Tokyo, Japan, ⁽²⁾ Department of Surgery, Aidu Chuo Hospital, Aiduwakamatsu, Japan, ⁽³⁾ Departments of Radiology, Aidu Chuo Hospital, Aiduwakamatsu, Japan, ⁽⁴⁾ Departments of Radiation Oncology, International Medical Center, Saitama Medical University, Hidaka, Japan) : A Japanese Multi-institutional Prospective Feasibility Study Of Accelerated Partial Breast Irradiation Using HDR Interstitial Brachytherapy (umin 000001677). Clinical Results At 55 Months. World Congress of Brachytherapy 2016 (San Francisco), 2016. 6.

(4) Poster (Snap Oral) (Co-author)：

- 1) Otani Y¹⁾, Nose T, Dokiya T²⁾, Saeki T³⁾, Kumazaki Y²⁾, et al. ⁽¹⁾ Department of Radiation Oncology, Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, Koto ward, Tokyo, Japan, ⁽²⁾ Departments of Radiation Oncology, International Medical Center, Saitama Medical University, Hidaka, Japan, ⁽³⁾ Departments of Breast Oncology, International Medical Center, Saitama Medical University, Hidaka, Japan) : Reproducibility of accelerated partial breast irradiation using interstitial brachytherapy : Japanese woman with closed cavity. World Congress of Brachytherapy 2016 (San Francisco), 2016. 6.

[千葉北総病院放射線科]

研究業績

著書

- 1) 川俣博志, 村田恵美, 田島廣之¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター) : [分担] 外傷性出血に対する TAE (四肢). 塞栓物質を使いこなす 適応と塞栓術の実際 (編集: 荒井保明, 中島康雄, 田島廣之), 2016; pp42-43, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) Horigome H¹⁾, Katori N¹⁾, Yatagawa H¹⁾, Suzuki M²⁾, Nakajo H, Narushima K³⁾ (1) Choshi Municipal Hospital, 2) National Cancer Center Hospital, 3) Graduate School of Medicine, Chiba University) : Possible efficacy of lubiprostone on CT colonography : Improvement in the examination accuracy for defecation and colon expansion. 102nd annual meeting of Radiological Society of North America (Chicago), 2016. 11.

(2) ポスター:

- 1) 川俣博志, 東出高至, 村田恵美, 中山文彦¹⁾, 久城正紀¹⁾, 松本 尚¹⁾ (1) 千葉北総病院救命救急センター) : 経皮的血管形成術にて再開通が得られた鈍的外傷に起因する上腕動脈完全閉塞の2例. 日本脈管学会総会 (第57回) (奈良), 2016. 10.
- 2) 東出高至, 清末一路¹⁾, 村田恵美, 雑賀厚至²⁾, 西山 晃²⁾, 堀越琢朗²⁾, 宇野 隆³⁾, 川俣博志 (1) 大分大学放射線部, 2) 千葉大学放射線科, 3) 千葉大学大学院画像診断・放射線腫瘍学) : 巨大な venous sac を伴った腓動静脈瘻に対する塞栓術. 日本脈管学会総会 (第57回) (奈良), 2016. 10.
- 3) 村田恵美, 川俣博志, 東出高至, 中山文彦¹⁾, 久城正紀¹⁾, 松本 尚¹⁾ (1) 千葉北総病院救命救急センター) : 遅発性に巨大な仮性動脈瘤を形成した大腿深動脈損傷に対してコイル塞栓術にて治療した1例. 日本脈管学会総会 (第57回) (奈良), 2016. 10.

(3) 一般講演:

- 1) 川俣博志, 東出高至, 村田恵美 : CO2-DSA と CO2-DSA を併用した IVR について. 千葉県放射線画像診断研究会 (第81回) (千葉), 2017. 3.
- 2) 川俣博志, 東出高至, 村田恵美, 小宮山英徳¹⁾, 仁科 大²⁾, 別所竜蔵²⁾ (1) 千葉北総病院循環器内科, 2) 千葉北総病院心臓血管外科) : 総腸骨・外腸骨動脈の慢性完全閉塞に対する primary stent 後に blue toe syndrome・コレステロール塞栓症を発生し, 塞栓源と考えられた腹部大動脈に EVAR を施行した1例. 東京アンギオ・IVR 会 (第486回) (東京), 2016. 12.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 川俣博志, 村田恵美, 古川一博, 中條秀信, 岡田 進, 田島廣之¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター) : 「PAD (末梢動脈疾患) フットケアを救肢・救命につなげるために必要な知識」 PAD の診断 TASCII の解説. 臨床透析 2015; 31 (7) : 829-838.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 川俣博志, 村田恵美, 中山文彦¹⁾, 岡田 進, 川瀬康裕²⁾, 仁科 大²⁾, 上田仁美²⁾, 川島万平²⁾, 藤井正大²⁾, 別所竜蔵²⁾ (1) 千葉北総病院救命救急センター, 2) 千葉北総病院心臓血管外科) : 開窓型ステントグラフトを用いて内腸骨動脈を温存し外腸骨動脈の reentry を閉鎖し得た腹部大動脈解離の1例. 日本血管内治療学会総会 (第21回) (名古屋), 2015. 7.
- 2) 川俣博志, 村田恵美, 古川一博, 岡田 進, 中山文彦¹⁾ (1) 千葉北総病院救命救急センター) : 外傷性上腕動脈閉塞に対する血管形成術後の仮性動脈瘤に対して経皮的トロンビン注入を施行し上肢動脈の広範な閉塞を合併した1例. 東京アンギオ・IVR 会 (第481回) (東京), 2016. 3.

13. 皮膚粘膜病態学分野

[付属病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
 - ・免疫担当細胞におよぼす CRH の作用メカニズム.
 - ・CRH がおよぼす毛周期への影響.
 - ・サブスタンス P, NGF, GDNF の皮膚における作用.
2. 自己免疫性水疱症の発症機序・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析.
3. 皮質抗原の認識機構の解析
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 薬疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構・尋常性白斑の治療法の開発.
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性の解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学・ケミカルピーリング, 活性型ビタミン C, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamictherapy の基礎的研究.
10. レーザー光を応用した治療・診断の開発.
 - ・skin optics, selective photothermolysis の理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする.
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発.
12. 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法.
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表遺伝子治療の開発.
14. 心療皮膚科・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移 transference や投影同一視, および医師側に生じる逆転移 conuference-transference などを利用して行う心身医学的治療戦略.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ansai S, Ogita A, Matsuda H, Saeki H, Tanaka M¹⁾ (1) Department of Dermatology, Tokyo Women's Medical University Medical Center East, Tokyo, Japan) : Collision of basal cell carcinoma and melanocytic nevus with unique dermoscopic findings. J Dermatol 2016 ; 43 (5) : 584-585.
- 2) Fukumoto H, Hishima T¹⁾, Hasegawa H²⁾, Saeki H, Kuroda M³⁾, Katano H⁴⁾ (1) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 2) Department of Pathology, National Institute of Infectious Diseases, 3) Pathogen Genomic Center, National Institute of Infectious Diseases, 4) Department of Pathology, National Institute of Infectious Diseases) : Evaluation of Vero cell-derived simian endogenous retrovirus infection in human by detection of viral genome in clinicopathological samples and commercialized vaccines and serology of Japanese general population. Vaccine 2016 ; 34 (24) : 2700-2706.
- 3) Akiyama M, Ueno T, Kanzaki A, Kuwana M¹⁾, Magao M²⁾, Saeki H (1) Department of Allergy and Rheumatology, Nippon Medical School, 2) Department of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Nippon Medical School) : Association of psoriasis with Hashimoto's thyroiditis, Sjögren syndrome and dermatomyositis. J Dermatol 2016 ; 43 (6) : 711-712.
- 4) Kikuchi S¹⁾, Umezawa Y¹⁾, Hayashi M¹⁾, Yanaba K¹⁾, Fukuchi O¹⁾, Ito T¹⁾, Asahina A¹⁾, Saeki H, Nakagawa H¹⁾ (1) Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine) : Interstitial pneumonia in two patients with psoriasis during ustekinumab treatment. J Dermatol 2016 ; 43 (6) : 712-713.
- 5) Ito M, Maejima Y¹⁾, Okazaki S, Isobe M¹⁾, Saeki H (1) Department of Cardiovascular Medicine, Tokyo Medical and Dental University) : A case of generalized pustular psoriasis associated with Turner syndrome and dilated cardiomyopathy. J Dermatol 2016 ; 43 (7) : 829-830.
- 6) Mikami E, Yanase M¹⁾, Ito M, Kanzaki A, Saeki H (1) Department of Gastroenterology and Hepatology, National Center for Global Health and Medicine) : Generalized granuloma annulare associated with hepatitis C virus infection successfully treated with narrowband ultraviolet B therapy. J Dermatol 2016 ; 43 (8) : 975-977.
- 7) Asahina A¹⁾, Etoh T²⁾, Igarashi A³⁾, Imafuku S⁴⁾, Saeki H, Shibasaki Y⁵⁾, Tomochika Y⁵⁾, Toyozumi S⁵⁾, Nakagawa M⁵⁾,

- Ohtsuki M⁶⁾ (1) Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, 2) Department of Dermatology, Tokyo Teishin Hospital, 3) Department of Dermatology, NTT Medical Center Tokyo, 4) Department of Dermatology, Fukuoka University Faculty of Medicine, 5) Pfizer Japan Inc., 6) Department of Dermatology, Jichi Medical University) : Oral tofacitinib efficacy, safety, and tolerability in Japanese patients with moderate to severe plaque psoriasis and psoriatic arthritis : a randomized, double-blind, Phase 3 study. *J Dermatol* 2016 ; 43 (8) : 869-880.
- 8) Kanzaki A, Funasaka Y, Nakamizo M, Shima A, Ryotokuji T, Dan K, Terasaki M, Sugisaki Y, Fukuda Y, Kawana S, Saeki H : xtranodal natural killer/T-cell lymphoma, nasal type, with primary manifestation as an upper eyelid swelling. *J Nippon Med Sch* 2016 ; 83 (4) : 177-179.
- 9) Hoashi T, Kikuchi K¹⁾, Sato S¹⁾, Saeki H (1) Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo) : A case of penile basal cell carcinoma reconstructed by scrotal myofasciocutaneous flap. *Dermatol Surg* 2016 ; 29 (5) : 349-352.
- 10) Saeki H, Nakahara T¹⁾, Tanaka A²⁾, Kabashima K³⁾, Sugaya M⁴⁾, Murota H⁵⁾, Ebihara T⁶⁾, Kataoka Y⁷⁾, Aihara M⁸⁾, Etoh T⁹⁾, Katoh N¹⁰⁾ (1) Division of Skin Surface Sensing, Department of Dermatology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, 2) Department of Dermatology, Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences, 3) Department of Dermatology, Kyoto University Graduate School of Medicine, 4) Department of Dermatology, University of Tokyo Graduate School of Medicine, 5) Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Osaka University, 6) Department of Dermatology, Keio University School of Medicine, 7) Department of Dermatology, Osaka Prefectural Medical Center for Respiratory and Allergic Diseases, 8) Department of Environmental Immuno-Dermatology, Yokohama City University Graduate School of Medicine, 9) Division of Dermatology, Tokyo Teishin Postal Services Agency Hospital, 10) and others) : Clinical practice guidelines for the management of atopic dermatitis 2016. *J Dermatol* 2016 ; 43 (10) : 1117-1145.
- 11) Ogita A, Ansai S, Misago N¹⁾, Anan T²⁾, Fukumoto T, Saeki H (1) Saga, 2) Sapporo Dermatopathology Institute) : Clinicopathological study of crateriform verruca : Crateriform epithelial lesions histopathologically distinct from keratoacanthoma. *J Dermatol* 2016 ; 43 (10) : 1154-1159.
- 12) Yamase A, Kono T, Ishii N¹⁾, Hashimoto T¹⁾, Saeki H (1) Department of Dermatology, Kurume University School of Medicine, and Kurume University Institute of Cutaneous Cell Biology) : An autoimmune bullous dermatosis with clinical, histological, and immunological features of bullous pemphigoid and epidermolysis bullosa acquisita in an adult. *Br J Dermatol* 2016 ; 175 (4) : 790-793.
- 13) Ogita A, Ansai S, Misago N¹⁾, Anan T²⁾, Fukumoto T²⁾, Saeki H (1) Saga, 2) Sapporo Dermatopathology Institute) : Histopathological diagnosis of epithelial crateriform tumors : keratoacanthoma and other epithelial crateriform tumors. *J Dermatol* 2016 ; 43 (11) : 1321-1331.
- 14) Hoashi T, Funasaka Y, Shirakawa N, Matano Y, Ansai S, Saeki H : Case of subungual malignant melanoma showing the subtle clinical features and unexpected typical histopathologic findings of melanoma in situ. *J Dermatol* 2016 ; 43 (11) : 1361-1362.
- 15) Kinoshita Y, Saeki H : A review of the pathogenesis of toxic epidermal necrolysis. *Nippon Med Sch* 2016 ; 83 (6) : 216-222.
- 16) Hoashi T, Matsumoto N, Serizawa N, Kataoka K, Nako T, Shirakawa N, Matano Y, Funasaka Y, Saeki H : A case of occipital neuralgia in a vemrafenib-treated melanoma patient. *Int J Dermatol* 2017 ; 56 (1) : e10-11.
- 17) Ozaki S, Funasaka Y, Shimizu A, Kawarasaki M, Kanzaki A, Futagami A, Yamaguchi H¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Saeki H (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Follicular lymphoma presenting follicular papules in the skin : a case report. *J Dermatol* 2017 ; 44 (1) : 111-113.
- 18) Kinoshita Y, Saeki H : A review of toxic epidermal necrolysis management in Japan. *Allergol Int* 2017 ; 66 (1) : 156-158.
- 19) Takayama R, Ueno T, Saeki H : Immunoglobulin G4-related disease and its skin manifestations. *J Dermatol* 2017 ; 44 (3) : 288-296.
- 20) 大塚洋平, 船坂陽子, 加藤篤衛, 伊藤路子, 山瀬 綾, 川名誠司, 佐伯秀久 : カルバマゼピンによる非典型薬剤性過敏症候群の1例. *皮膚臨床* 2016 ; 58 (11) : 1702-1706.
- 21) 清水 愛, 長田真一, 赤野蓉子, 船坂陽子, 佐伯秀久 : 急性無症候性脳梗塞を合併した皮膚型結節性多発動脈炎の1例. *皮膚臨床* 2016 ; 58 (4) : 509-512.
- 22) 清水 愛, 上野 孝, 鶴田恭子, 大森裕也, 新井桃子¹⁾, 久保田智樹, 川名誠司 (1) 付属病院腎臓内科) : 手指の壊疽を呈した Steal 症候群の1例. *皮膚臨床* 2016 ; 58 (4) : 546-549.
- 23) Hoashi T, Hirabayashi M¹⁾, Nakajoma R¹⁾, Takahashi N¹⁾, Saeki H (1) Sanraku Hospital) : Paradoxical antitumor effects of pazopanib in a cutaneous angiosarcoma patient. *J Dermatol* 2016 ; DOI : 10.1111/1346-8138.13636.

- 24) 新井悠江, 高山良子, 田中真百合, 長田真一, 上野 孝, 二神綾子, 安齋眞一, 船坂陽子, 佐伯秀久: 右大腿に生じた Glomus Tumor の1例. 皮膚臨床 2016; 58 (10): 1555-1558.
- 25) 奈古利恵, 船坂陽子, 神崎亜希子, 小川俊一¹⁾, 佐伯秀久 (1) 付属病院小児科): 大動脈炎症候群に伴った結節性紅斑の1例. 皮膚臨床 2016; 58 (10): 1687-1690.
- 26) 佐伯秀久: 免疫調整外用薬. レジデント 2016; 9 (5): 29-36.
- 27) 佐伯秀久: アトピー性皮膚炎患者の外用療法. J Environ Dermatol Cutan Allergol 2016; 10 (3): 183-189.
- 28) 新井悠江, 船坂陽子, 神崎亜希子, 菅野仁士¹⁾, 佐伯秀久 (1) 付属病院消化器外科): テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤 (TS-1[®]) による DLE 型薬疹. 皮膚臨床 2016; 58 (11): 1691-1695.
- 29) 林 玲華¹⁾, 林 光葉¹⁾, 佐伯秀久, 中川秀己¹⁾ (1) 東京慈恵会医大皮膚科学講座): 紅斑性天疱瘡. 皮膚病診療 2016; 38 (11): 1105-1108.
- 30) 尾見徳弥: 形成外科医が知っておきたい美容皮膚知識. 形成外科 2016; 59 (11): 1154-1159.
- 31) 尾見徳弥, 鈴木英紀: ダイオードレーザーを用いた脱毛における臨床的, 組織学的検討. 日本美容皮膚研究会雑誌 2017; 9 (1): 10-14.
- 32) Tanaka M, Hoashi T, Serizawa N, Okabe K, Ichiyama S, Shinohara R, Funasaka Y, Saeki H: Multiple unilaterally localized dermatofibromas in a patient with Down syndrome. J Dermatol 2016; DOI: 10.1111/1346-8138.13625.
- (2) 総説:
- 1) 帆足俊彦: シンポジウム5 血管肉腫の新たな薬物療法 血管肉腫. Skin Cancer 2016; 31: 97.
- 2) 藤本和久: 日常診療で見る皮膚感染症 2. 毛包炎・癬・癩. 小児科 2016; 57 (5): 429-432.
- 3) 藤本和久, 佐伯秀久: アニサキスによるアレルギー. 日本医師会雑誌 2016; 145 (特別号1): 251-252.
- 4) 佐伯秀久: 以前から使われている薬剤の新しい展開・問題点: シクロスポリン. 皮膚臨床 2016; 58 (6): 961-967.
- 5) 佐伯秀久: アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2016年版の概説. 皮膚と美容 2016; 48 (2): 59-65.
- 6) 佐伯秀久: アトピー性皮膚炎診療ガイドライン. 日本医師会雑誌 2016; 145 (S2): S74.
- 7) 佐伯秀久: 乾癬の最新治療: IL-17 阻害薬を中心に. 日臨皮会誌 2016; 33 (5): 604-608.
- 8) 佐伯秀久: アトピー性皮膚炎とステロイド外用薬. 小児科 2016; 57 (13): 1580-1581.
- 9) 佐伯秀久: アトピー性皮膚炎とタクロリムス外用薬. 小児科 2016; 57 (13): 1582-1583.
- 10) 佐伯秀久: アトピー性皮膚炎と保湿剤. 小児科 2016; 57 (13): 1584-1585.
- 11) 佐伯秀久: スギ花粉症の皮膚症状への対策. 医学予約額 2017; 74 (2): 119-122.
- 12) 須賀 康¹⁾, 秋田浩孝²⁾, 船坂陽子³⁾, 山本有紀 (1) 順天堂浦安病院皮膚科, 2) 藤田保健衛生大学病院皮膚科, 3) 和歌山医大病院皮膚科): 外来で相談できるシミ治療. Bella Pelle 2017; 2 (1): 6-14.
- 13) 船坂陽子: シミの診断とメカニズム. Bella Pelle 2017; 2 (1): 16-19.
- 14) 船坂陽子: 美白医薬品の効果と安全性. ドクターサロン 2016; 60: 263-266.
- 15) 船坂陽子: レーザー治療. 小児内科 2016; 48 (4): 624-628.
- 16) 船坂陽子: 日光角化症. クレデンシャル 2016; 93: 12-13.
- 17) 船坂陽子: 代謝型グルタミン酸受容体1型 (mGluR1) に注目した悪性黒色腫形成および増殖に関わるシグナル伝達の同定. 加齢皮膚医学セミナー 2016; 11: 51-55.
- 18) 船坂陽子: 紫外線による真皮の破壊のメカニズム. COSMETIC STATE 2016; 12: 38-43.
- (3) 症例報告:
- 1) Matsuda H, Ansai S, Ogita A, Saeki H: A case of syringomatous carcinoma with unique clinical presentation. J Dermatol 2016; 43 (4): 450-452.
- 2) Otsuka Y, Ueno T, Kaneko A, Ito M, Osada S, Kawana S, Funasaka Y, Teye K, Ishii N¹⁾, Hashimoto T¹⁾, Saeki H¹⁾ (1) Department of Dermatology, Kurume University School of Medicine and Kurume University Institute of Cutaneous Cell Biology): A case of paraneoplastic pemphigus with IgG and IgA antibodies to various antigens. J Dermatol 2016; 43 (8): 944-946.
- 3) Asahara M, Hoashi T, Shirakawa N, Matano Y, Funasaka Y, Saeki H: Case of nodular melanoma on the upper eyelid dermoscopically mimicking pigmented basal cell carcinoma. J Dermatol 2016; 44 (5): 543-545.
- 4) Asahara M, Hoashi T, Shirakawa N, Matano Y, Funasaka Y, Takayama R, Saeki H: Chronic tophaceous gout with multiple large tophi. J Dermatol 2016; DOI: 10.1111/1346-8138.13567.
- 5) 松岡保子, 安齋眞一, 萩田あづさ, 松田秀則, 篠原理恵, 大橋実奈, 亦野蓉子, 佐伯秀久: 結節性痒疹様皮疹が先行し汗疱様皮疹を伴った結節性類天疱瘡の2例. 皮膚臨床 2016; 58 (10): 1533-1536.
- 6) 水野真希, 帆足俊彦, 保利朝子, 白川典子, 亦野蓉子, 船坂陽子, 佐伯秀久: Double Extramammary Paget's Disease の1例. 皮膚臨床 2016; 58 (9): 1385-1388.

- 7) Namiki T¹⁾, Ichiyama S, Funasaka Y, Ito M, Kanzaki A, Miura K²⁾, Nojima K¹⁾, Saeki H, Yokozeki H¹⁾, Tanaka M³⁾ (1) Department of Dermatology, Tokyo Medical and Dental, (2) Department of Pathology, Tokyo Medical and Dental, (3) Department of Dermatology, Tokyo Women's Medical) : Dermoscopy of pigmented papillated Bowen disease : A report of two cases. J Dermatol 2017 ; 44 (3) : e23-e24.
- 8) 奈古利恵, 船坂陽子, 高山良子, 加藤浩司¹⁾, 根井貴仁²⁾, 佐伯秀久 (1) 付属病院循環器内科, (2) 付属病院感染制御部) : 薬疹と鑑別を要した高齢者の麻疹の1例. 皮膚臨床 2016 ; 58 (7) : 1184-1187.
- 9) 大山聡美, 清水 愛, 神崎亜希子, 佐伯秀久 : 若年女子の下顎部に生じた結節性筋膜炎の1例. 皮膚臨床 2016 ; 58 (13) : 1997-2000.
- 10) 田中真百合, 藤本和久, 船坂陽子, 川名誠司, 佐伯秀久, 石井浩統¹⁾, 根井貴仁²⁾, 野呂瀬嘉彦³⁾ (1) 付属病院救命救急科, (2) 同感染制御部, (3) 同微生物免疫学) : 皮疹部より市中感染型 MRSA が検出された中毒性表皮壊死症 (TEN) の1例. 皮膚臨床 2016 ; 58 (8) : 1270-1274.
- 11) 白川典子, 真弓暢子, 朝山祥子, 佐伯秀久 : 皮膚骨腫の1例. 皮膚臨床 2016 ; 58 (5) : 733-736.
- 12) 三神絵理奈, 上野 孝, 高山良子, 又吉武光, 田中真百合, 長田真一, 二神綾子, 船坂陽子, 佐伯秀久 : 腋窩に生じた基底細胞癌の3例. 皮膚臨床 2016 ; 58 (7) : 1167-1170.
- 13) 奈古利恵, 船坂陽子, 秋山美知子, 川名誠司, 福永景子¹⁾, 中山一隆¹⁾, 佐伯秀久 (1) 付属病院血液内科) : 結節腫瘍を呈し短期間に急性転化したくすぶり型成人 T 細胞白血病/リンパ腫の1例. 臨皮 2016 ; 70 (7) : 535-541.
- 14) 松田秀則, 荻田あづさ, 安齋眞一, 佐伯秀久, 福本隆也¹⁾ (1) 札幌皮膚病理診断科) : 肩に生じた Cellular Neurothekeoma の1例. 皮膚臨床 2016 ; 58 (9) : 1533-1536.
- 15) 江崎英子, 上野 孝, 高山良子, 二神綾子, 安齋眞一, 船坂陽子, 佐伯秀久 : 血管増生型らせん腺腫の1例. 皮膚臨床 2016 ; 56 (9) : 1466-1467.
- 16) 大橋実奈, 安齋眞一, 荻田あづさ, 松岡保子, 篠原理恵, 佐伯秀久 : 尋常性乾癬に伴った水疱性類天疱瘡を治療中にニューモシスチス肺炎を発症した1例. 皮膚臨床 2016 ; 58 (11) : 1714-1718.
- 17) 新井悠江, 篠原理恵, 松岡保子, 荻田あづさ, 安齋眞一, 佐伯秀久 : 乳頭腺腫 : Adenoma of the Nipple の1例. 皮膚臨床 2017 ; 59 (3) : 396-397.
- 18) 白川典子, 藤本和久, 市山 進, 小林征洋¹⁾, 佐伯秀久 (1) 東京海洋大海洋生物資源学部門) : ウナギ目を含む多種類の魚類にアナフィラキシー症状を呈した1例. J Environ Dermatol Cutan Allergol 2017 ; 11 (1) : 50-54.
- 19) 山瀬 綾, 幸野 健, 土屋 麗, 川崎裕史, 秋山美知子, 二宮里紗, 久保田智樹, 佐伯秀久 : 手掌・足底に発症し, 切除および液体窒素療法で一部寛解した Circumscribed Palmar or Plantar Hypokeratosis の1例. 皮膚臨床 2016 ; 58 (7) : 1083-1087.

著 書

- 1) 高山良子 : [分担] 正常皮膚および皮下脂肪組織の構造. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp16-21, 羊土社.
- 2) 高山良子 : [分担] 左腋窩の皮下結節. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp160-161, 羊土社.
- 3) 高山良子 : [分担] 右側腹部の褐色結節. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp162-163, 羊土社.
- 4) 高山良子 : [分担] 右頬部の鱗屑を付す紅斑. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp186-187, 羊土社.
- 5) 高山良子 : [分担] 背部の紅斑局面. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp188-189, 羊土社.
- 6) 伊藤路子 : [分担] 全身の鱗屑を付す類円形紅斑. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp50-51, 羊土社.
- 7) 伊藤路子 : [分担] 全身に多発するびらん・紅斑・色素沈着. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp70-71, 羊土社.
- 8) 神崎亜希子 : [分担] 四肢にできる扁平に隆起した紫斑色斑. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp64-65, 羊土社.
- 9) 神崎亜希子 : [分担] 上肢に帯状に集簇, 癒合する小丘疹. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp66-67, 羊土社.
- 10) 神崎亜希子 : [分担] 軀幹や四肢に多発する光沢帯びた小丘疹. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp68-69, 羊土社.
- 11) 福本 瞳 : [分担] 全身に多発するびらんを伴う紅斑. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp72-73, 羊土社.
- 12) 福本 瞳 : [分担] 足底の紅色皮膚結節. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp168-169, 羊土社.

- 13) 福本 瞳：〔分担〕指背の紅色ドーム状隆起性病変。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp206-207，羊土社。
- 14) 亦野蓉子：〔分担〕緊満性水泡とそう痒を伴う浮腫性紅斑。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp74-75，羊土社。
- 15) 亦野蓉子：〔分担〕頬部の隆起性角化性結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp108-109，羊土社。
- 16) 亦野蓉子：〔分担〕左側頭部の隆起性皮膚腫瘍。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp170-171，羊土社。
- 17) 亦野蓉子：〔分担〕右手掌の痛性皮下結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp248-249，羊土社。
- 18) 秋山美知子：〔分担〕両下腿の網状皮斑と圧痛を伴う皮下脂肪組織の小結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp78-79，羊土社。
- 19) 秋山美知子：〔分担〕足底の角化性小結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp110-111，羊土社。
- 20) 秋山美知子：〔分担〕下顎～頸部に多発する小丘疹。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp166-167，羊土社。
- 21) 秋山美知子：〔分担〕手指の鮮紅色腫瘍。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp250-251，羊土社。
- 22) 新井悠江：〔分担〕両下腿に生じた紫斑。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp80-81，羊土社。
- 23) 新井悠江：〔分担〕臀部から下肢に生じた紫斑。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp82-83，羊土社。
- 24) 新井悠江：〔分担〕下腿の疼痛を伴う潰瘍。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp84-85，羊土社。
- 25) 新井悠江：〔分担〕両足趾に生じた疼痛を伴う紫斑。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp86-87，羊土社。
- 26) 篠原理恵：〔分担〕手背の辺縁隆起した環状紅斑。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp98-99，羊土社。
- 27) 篠原理恵：〔分担〕鼻翼部の隆起性結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp200-201，羊土社。
- 28) 篠原理恵：〔分担〕前胸部の紅色結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp254-255，羊土社。
- 29) 篠原理恵：〔分担〕爪下の痛性結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp256-257，羊土社。
- 30) 篠原理恵：〔分担〕左外頰の痛性皮下腫瘍。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp258-259，羊土社。
- 31) 市山 進：〔分担〕上背部の黒点を有する皮膚結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp150-151，羊土社。
- 32) 市山 進：〔分担〕頭部の可動性良好な皮膚腫瘍。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp152-153，羊土社。
- 33) 市山 進：〔分担〕左手掌の皮膚結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp154-155，羊土社。
- 34) 三神絵理奈：〔分担〕頬の黄白色丘疹。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp174-175，羊土社。
- 35) 三神絵理奈：〔分担〕鼻の黒色結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp202-203，羊土社。
- 36) 三神絵理奈：〔分担〕鼻背部のびらん。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp204-205，羊土社。
- 37) 奈古利恵：〔分担〕左上眼瞼の黄紅色調の皮膚腫瘍。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp176-177，羊土社。
- 38) 奈古利恵：〔分担〕鼻とその周囲に集簇する小丘疹。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp180-181，羊土社。
- 39) 奈古利恵：〔分担〕左外眼角の隆起性皮膚腫瘍。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp196-197，羊土社。
- 40) 松岡保子：〔分担〕鼻部の隆起性皮膚腫瘍。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp178-179，羊土社。
- 41) 大橋実奈：〔分担〕左下腿内側の炎症を繰り返す隆起性腫瘍。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp182-183，羊土社。
- 42) 大橋実奈：〔分担〕鼻背部に存在する隆起性皮膚結節。臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ（安齋眞一），2016；pp214-215，羊土社。

- 43) 大橋実奈：〔分担〕左肩部の茶褐色の隆起性皮膚結節. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp216-217, 羊土社.
- 44) 大橋実奈：〔分担〕右足底部に存在する黒色の色素斑. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp218-219, 羊土社.
- 45) 帆足俊彦：〔分担〕左頬部の紅斑. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp190-191, 羊土社.
- 46) 帆足俊彦：〔分担〕右下眼瞼の紅色結節. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp192-193, 羊土社.
- 47) 帆足俊彦：〔分担〕足底の黒色斑. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp226-227, 羊土社.
- 48) 帆足俊彦：〔分担〕左頬の黒色斑. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016 ; pp228-229, 羊土社.
- 49) 帆足俊彦：〔分担〕炎症性粉瘤・外歯瘻・毛嚢洞. 皮膚科研修ノート (佐藤伸一, 藤本 学), 2016 ; pp485-487, 診断と治療社.
- 50) 藤本和久：〔分担〕皮膚アレルギー検査. 皮膚科研修ノート (佐藤伸一, 藤本 学), 2016 ; pp105-109, 診断と治療社.
- 51) 佐伯秀久：〔分担〕皮膚科治療の概要. 皮膚科研修ノート (佐藤伸一, 藤本 学), 2016 ; pp160-162, 診断と治療社.
- 52) 佐伯秀久：〔分担〕タクロリムス水和物軟膏とステロイド外用薬の臨床上の相違点について教えてください. マイスターから学ぶ皮膚科治療薬の服薬指導術 (大谷道輝, 宮地良樹), 2016 ; pp52-53, メディカルレビュー社.
- 53) 佐伯秀久：〔分担〕アトピー性皮膚炎. 皮膚疾患最新の治療 2017-2018 (渡辺晋一, 古川福実), 2017 ; pp37-39, 南江堂.
- 54) 尾見徳弥：〔分担〕シミ・しわ・頬のたるみ. 女性が見た目を気にする common disease. 女性医療のすべて (太田博明), 2016 ; pp216-217, メディカルレビュー社.
- 55) 船坂陽子：〔分担〕皮膚がん. がん薬物療法 現場のルール 一般臨床で役立つポケットマニュアル (弦間昭彦, 久保田馨, 宮 敏路, 勝俣範之), 2016 ; pp145-148, 南江堂.
- 56) 船坂陽子：〔分担〕太田母斑. 最新の治療 2017-2018 (渡辺晋一, 古川福実), 2017 ; pp236-236, 南江堂.
- 57) 尾見徳弥：〔分担〕シミや美白にはどのような治療法がありますか?. 患者さんから受けるよくある質問. マイスターから学ぶ皮膚科治療薬の服薬指導術 (大谷道輝・宮地良樹), 2016 ; pp234-237, メディカルレビュー社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 船坂陽子：低フルエンス Nd：YAG レーザー治療について. 田園調布皮膚科医学会学術講演 (東京), 2016. 7.
- 2) 船坂陽子：しみ, あざ, ざ瘡に関する最近の話題. 足立皮膚科勉強会 (第 8 回) (東京), 2017. 2.

(2) 招待講演：

- 1) 佐伯秀久：乾癬の最新治療. 日本臨床皮膚科医学会総会 (第 32 回) (岡山), 2016. 4.

(3) 教育講演：

- 1) 佐伯秀久：IL-17 阻害薬. 平成 28 年度日本皮膚科学会生涯教育シンポジウム (東京), 2016. 8.
- 2) 佐伯秀久：アトピー性皮膚炎のフェノタイプ. 日本アレルギー学会第 3 回総合アレルギー講習会 (横浜), 2016. 12.
- 3) 船坂陽子：ケミカルピーリングガイドライン. 日本美容皮膚科学会総会・学術大会 (第 34 回) (東京), 2016. 8.

(4) シンポジウム：

- 1) 高山良子：IgG4 関連疾患における皮膚病変. 日皮会西部支部学術大会 (第 68 回) (米子), 2016. 11.
- 2) Otsuka Y, Koike E¹⁾, Azuma H¹⁾, Mayumi N, Saeki H, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Effect of TNF- α on the process of Langerhans cell induction from human peripheral mononuclear cells. International Congress of Immunology 2016 (Melbourne, Austraria), 2016. 8.
- 3) 帆足俊彦：血管肉腫 (皮膚悪性腫瘍の新たな薬物療法). 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第 32 回) (鹿児島), 2016. 5.
- 4) 佐伯秀久：世界乾癬 day に考える最適な治療：経口薬を狙え. 日皮会東部支部学術大会 (第 80 回) (宇都宮), 2016. 10.

(5) セミナー：

- 1) 高山良子：接触皮膚炎の病理. 日皮会西部支部学術大会 (第 68 回) (米子), 2016. 11.
- 2) 佐伯秀久：アトピー性皮膚炎診療ガイドライン. 日皮会東京支部学術大会 (第 80 回) (横浜), 2017. 2.
- 3) 船坂陽子：光老化への対応 - 特にしみ, しわの治療について -. 日皮会東京支部学術大会 (第 80 回) (横浜), 2017. 2.
- 4) 佐伯秀久：乾癬の新しい病態と治療 - IL-17 阻害薬を中心に -. 日本乾癬学会学術大会 (第 31 回) (宇都宮), 2016. 9.
- 5) 佐伯秀久：アトピー性皮膚炎診療ガイドライン改定版の概説 (アトピー性皮膚炎の治療戦略を考える). 日皮会総会 (第 115 回) (京都), 2016. 6.
- 6) 佐伯秀久：アトピー性皮膚炎の治療最前線：重症アトピー性皮膚炎患者に対するシクロスポリン内服療法. 日本臨床眼科学会学術大会 (第 70 回) (京都), 2016. 11.
- 7) 佐伯秀久：乾癬の新しい病態と治療 - IL-17 阻害薬を中心に -. 日皮会鹿児島地方会 (第 176 回) (鹿児島), 2016. 12.
- 8) Saeki H : Evening Seminar : Clinical practice guidelines for the management of atopic dermatitis 2016 by the Japanese Dermato-

- logical Association. Eastern Asia Dermatology Congress (The 4th) (Tokyo), 2016. 11.
- 9) 佐伯秀久：乾癬の新しい病態と治療－IL-17 阻害薬を中心に－. 日皮会東海地方会（第 279 回）（津），2017. 3.
- (6) 一般講演：
- 1) 高山良子，東 直行，安齋眞一，佐伯秀久：Malignant melanoma in situ with seborrheic keratosis の 1 例. 日皮会総会（第 115 回）（京都），2016. 6.
 - 2) 船坂陽子，Mohamed A¹⁾，佐伯秀久，錦織千佳子¹⁾（¹⁾ department of Dermatology, Kobe University Graduate School Medicine）：Effect of riluzole, caffeine, forskoline, and rolipram on melanomagenesis in metabotropic glutamate receptor 1 transgenic mouse. JSID (41st)（仙台），2016. 12.
 - 3) 岡崎 静，船坂陽子，川名誠司，佐伯秀久：Enhancement of UVB-induced apoptosis and elimination of DNA damages by irradiation of IPL does not depend on the repair of DNA damages. JSID (41st)（仙台），2016. 12.
 - 4) 岡崎 静，船坂陽子，佐伯秀久：近赤外線 UVB によるシワ形成の抑制効果. 日本美容皮膚科学会総会・学術大会（第 34 回）（東京），2016. 8.
 - 5) 岡崎 静，藤本和久，岡部杏慈，加納慶子，市山 進，江崎英子，伊藤路子，真弓暢子，佐伯秀久，森山達也¹⁾（¹⁾ 近畿大農学部公用生命化学科）：特異的 I E とプリックテストが共に陰性であったリングによるアナフィラキシーの 1 例. 日本アレルギー学会学術大会（第 65 回）（東京），2016. 6.
 - 6) 伊澤有香，篠原理恵，松田秀則，百瀬葉子，荻田あづさ，安齋眞一，佐伯秀久，桑名正隆¹⁾（¹⁾ 付属病院膠原病内科）：食道癌，胃癌を伴った抗 TIF1 γ 抗体陽性の皮膚筋炎の 1 例. 日皮会東京支部学術大会（第 80 回）（横浜），2017. 2.
 - 7) 浅原麻里子，帆足俊彦，大橋実奈，白川典子，真弓暢子，船坂陽子，佐伯秀久：頭部に生じた dermatofibrosarcoma protuberans の 1 例. 日皮会東京支部学術大会（第 80 回）（横浜），2017. 2.
 - 8) 荻田あづさ，松田秀則，安齋眞一，細根 勝¹⁾，佐伯秀久（¹⁾ 多摩永山病院病理部）：CD8+ lymphomatoid papulosis の 1 例. 日皮会西部支部学術大会（第 68 回）（米子），2016. 11.
 - 9) 木下侑里，岡崎 静，帆足俊彦，片岡佳憧，奈古利恵，真弓暢子，幸野 健，船坂陽子，安齋眞一，佐伯秀久：放射線単独療法が奏効した診断に苦慮したメルケル細胞癌の 1 例. 日皮会西部支部学術大会（第 68 回）（米子），2016. 11.
 - 10) 藤本和久，真弓暢子，江崎英子，市山 進，三神絵理奈，新井悠江，佐伯秀久，森山達也¹⁾（¹⁾ 近畿大農学部応用生命化学科）：アレルギーによるアナフィラキシーの 1 例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会（第 46 回）（東京），2016. 10.
 - 11) 岡部杏慈，帆足俊彦，市山 進，三神絵理奈，田中真百合，篠原理恵，福本 瞳，辻 英貴¹⁾，船坂陽子，佐伯秀久（¹⁾ がん研究会有明病院眼科）：細胞性免疫不全患者へのポリコナゾール長期投与により露光部の多発有棘細胞癌が誘発されたと考えられる 1 例. 日皮会中部支部学術大会（第 67 回）（大阪），2016. 10.
 - 12) 伊藤路子，前嶋康浩¹⁾，岡崎 静，磯辺光章，佐伯秀久¹⁾（¹⁾ 東京医科歯科大付属病院循環器内科）：ターナー症候群と拡張型心筋症を伴った膿疱性乾癬の 1 例. 日本乾癬学会学術大会（第 31 回）（宇都宮），2016. 9.
 - 13) 福本 瞳，佐藤由子¹⁾，長谷川秀樹¹⁾，佐伯秀久，片野晴隆¹⁾（¹⁾ 国立感染症研究所感染病理部）：病理検体から細菌と真菌を網羅的に検出する real-time PCR 法の開発. 日皮会総会（第 115 回）（京都），2016. 6.
 - 14) 佐伯秀久，中川秀己¹⁾，中條 航²⁾，森崎洋二²⁾，石井泰子²⁾，青木健洋²⁾，Osuntokun O³⁾（¹⁾ 東京慈恵会医科大皮膚科学講座，²⁾ 日本イーライリリー株式会社，³⁾ Eli Lilly and Company）：イクセキズマブ第 3 相長期投与試験（UNCOVER-J）：局面型皮疹を有する乾癬患者の結果. 日皮会総会（第 115 回）（京都），2016. 6.
 - 15) 岡部杏慈，真弓暢子，山瀬 綾，秋山美知子，幸野 健，山田祥子¹⁾，池ノ内綾子¹⁾，肥後清一郎¹⁾，山田剛久¹⁾，佐伯秀久（¹⁾ 千葉北総病院内科）：手掌の血疱から診断に至った好酸球性多発血管性肉芽腫性腫症の 1 例. 日皮会総会（第 115 回）（京都），2016. 6.
 - 16) 加藤則人¹⁾，佐伯秀久，江藤隆史²⁾，片岡葉子³⁾，手良向聡⁴⁾，奥泉 薫⁵⁾，有馬和彦⁵⁾（¹⁾ 京都府立医科大大学院医学研究科皮膚科学，²⁾ 東京通信病院皮膚科，³⁾ 地方独立行政法人大阪府立病院寄稿大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター皮膚科，⁴⁾ 京都府立医科大大学院医学研究科生物統計学，⁵⁾ サノフィ株式会社）：中等度～重症アトピー性皮膚炎成人患者のプロファイル：前向きレジストリ研究のデザイン. 日皮会総会（第 115 回）（京都），2016. 6.
 - 17) 秋山美知子，松田陽子¹⁾，新井富生¹⁾，大山聡美，船坂陽子，佐伯秀久（¹⁾ 健康長寿医療センター病理診断科）：皮膚と消化管メラノーマにおける核分裂像と Ki67, Nestin1, BRAF の発現検討. 日皮会総会（第 115 回）（京都），2016. 6.
 - 18) 中川秀己¹⁾，佐伯秀久，中條 航²⁾，森崎洋二²⁾，石井泰子²⁾，青木健洋²⁾，Osuntokun O³⁾（¹⁾ 東京慈恵会医科大皮膚科学講座，²⁾ 日本イーライリリー株式会社，³⁾ Eli Lilly and Company）：イクセキズマブ第 3 相長期投与試験（UNCOVER-J）：乾癬性紅皮症・汎発性膿疱性乾癬患者. 日皮会総会（第 115 回）（京都），2016. 6.
 - 19) 山瀬 綾，幸野 健，市山 進，二宮里紗，石井文人¹⁾，橋本 隆²⁾，佐伯秀久（¹⁾ 久留米大医学部皮膚科，²⁾ 久留米大皮膚細胞生物学研究所）：水疱性類天疱瘡と後天性表皮水疱症を合併し，後天性表皮水疱症の再燃を血清学的に確認した 1 例. 日皮会総会（第 115 回）（京都），2016. 6.
 - 20) 三神絵理奈，帆足俊彦，芹澤直隆，船坂陽子，二神綾子，安齋眞一，丸毛淳史¹⁾，田村秀人¹⁾，猪口孝一¹⁾，佐伯秀久（¹⁾ 付属病院血

- 液内科) : IgG κ 型多発性骨髄腫の皮膚転移による続発性皮膚形質細胞腫の1例. 日皮会総会 (第115回) (京都), 2016. 6.
- 21) 清水 愛, 船坂陽子, 上野 孝, 佐伯秀久 : ステロイド局所注射が奏効した嚢腫形成が顕著な顔面播種状粟粒性狼瘡の1例. 日皮会総会 (第115回) (京都), 2016. 6.
 - 22) 奈古利恵, 帆足俊彦, 真弓暢子, 岡崎 静, 片岡佳憧, 伊藤路子, 三神絵理奈, 船坂陽子, 田中 勝¹⁾, 佐伯秀久 (1) 東京女子医大東医療センター皮膚科) : 悪性黒色腫と鑑別を要した手指のBowen病の1例. 日皮会東京地方会 (第867回) (東京), 2016. 7.
 - 23) 片岡佳憧, 帆足俊彦, 真弓暢子, 岡崎 静, 奈古利恵 (1) 東京女子医大東医療センター皮膚科) : ヒル吸血による蜂窩織炎の1例. 日皮会東京地方会 (第866回) (東京), 2016. 6.
 - 24) 芹澤直隆, 帆足俊彦, 三神絵理奈, 岨 慶子, 船坂陽子, 佐伯秀久, 安齋眞一 : 基底細胞癌の併存を疑う syringofibroadenoma の1例. 日本皮膚病理組織学会 (第32回) (東京), 2016. 6.
 - 25) 帆足俊彦, 松本典子¹⁾, 芹澤直隆, 片岡佳憧, 奈古利恵, 白川典子, 亦野蓉子, 船坂陽子, 佐伯秀久 (1) 付属病院高度救命救急センター) : A case of occipital neuralgia in a vemurafenib-treated melanoma patient. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第14回) (神戸), 2016. 7.
 - 26) 井坂有里, 百瀬葉子, 五十嵐由美, 伊澤有香, 松田秀則, 荻田あづさ, 安齋眞一, 佐伯秀久, 福本隆也¹⁾ (1) 札幌病理診断科) : 左第3指屈側に生じた硬化性神経周膜腫の1例. 日皮会東京地方会 (第868回) (東京), 2016. 9.
 - 27) 井坂有里, 五十嵐由美, 伊澤有香, 松田秀則, 百瀬葉子, 荻田あづさ, 安齋眞一, 佐伯秀久, 田中 勝¹⁾ (1) 東京女子医大東医療センター皮膚科) : 前胸部に発生した疣贅状異常角化症 : warty dyskeratoma の1例. 日皮会大阪地方会 (第460回) (大阪), 2017. 3.
 - 28) 芹澤直隆, 帆足俊彦, 菅 隼人¹⁾, 三神絵理奈, 奈古利恵, 神崎亜希子, 船坂陽子, 佐伯秀久 (1) 付属病院消化器外科) : 肛門部基底細胞癌の1例. 日本皮膚外科学会総会・学術集会 (第31回) (沼津市), 2016. 9.
 - 29) 芹澤直隆, 帆足俊彦, 市山 進, 船坂陽子, 佐伯秀久 : 後天性指趾被角線維腫との鑑別に難渋した爪下外骨腫の1例. 日皮会東京地方会 (第870回) (東京), 2016. 12.
 - 30) 市山 進, 船坂陽子, 伊藤路子, 神崎亜希子, 佐伯秀久, 田中 勝¹⁾ (1) 東京女子医大東医療センター皮膚科) : ダーモスコピーで脂漏性角化症が疑われたBowen病の1例. 皮膚かたち研究学会学術大会 (第43回) (東京), 2016. 6.
 - 31) 市山 進, 久保亮治¹⁾, 高山良子, 又吉武光, 川名誠司, 佐伯秀久, 船坂陽子 (1) 慶應義塾大皮膚科) : グリコール酸ピーリングにより皮膚症状が改善したFGFR3変異による全身性黒色表皮腫の母娘例および孤発例. 日本美容皮膚科学会総会・学術大会 (第34回) (東京), 2016. 8.
 - 32) Ichiyama S, Funasaka Y, Kanzaki A, Matsuoka Y, Hoashi T, Naito Z¹⁾, Fukunaga M²⁾, Nojima T³⁾, Saeki H (1) Department of Integrated Diagnostic Pathology, Nippon Medical, 2) Department of Clinical Pathology, Shin-Yurigaoka General, 3) Department of Pathology and Laboratory Medicine) : A case of atypical Spitz tumor that requires differentiation from clear cell sarcoma. Professor Mihm's Dermatopathology (The 8th) (Tokyo), 2016. 8.
 - 33) 新井悠江, 藤本和久, 伊藤路子, 真弓暢子, 佐伯秀久, 森山達哉¹⁾ (1) 近畿大農学部応用生命化学科) : カイワレ大根など多種の野菜・果物に対する口腔アレルギー症候群の1例. 日本アレルギー学会学術大会 (第65回) (東京), 2016. 6.
 - 34) 奈古利恵, 帆足俊彦, 真弓暢子, 岡崎 静, 片岡佳憧, 伊藤路子, 船坂陽子, 佐伯秀久 : 悪性黒色腫と鑑別を要した手指のBowen病の1例. 日皮会東京支部合同臨床地方会 (第867回) (東京), 2016. 7.
 - 35) 福本 瞳, 比島恒和¹⁾, 長谷川秀樹²⁾, 佐伯秀久, 黒田 誠³⁾, 片野晴隆²⁾ (1) 都立駒込病院病理科, 2) 国立感染症研究所感染病理部, 3) 国立感染症研究所病原体ゲノム解析センター) : ペロ細胞由来サル内因性レトロウイルスの血清疫学とヒト臨床病理検体における検討. 日本ワクチン学会学術集会 (第20回) (東京), 2016. 10.
 - 36) 藤本和久, 佐伯秀久, 森山達哉¹⁾ (1) 近畿大農学部応用生命化学科) : カレーによるアナフィラキシーの症例. 臨床アレルギー研究会 (第78回) (大阪), 2016. 11.
 - 37) Omi T : What's new in medical hair removal?. IMCAS ASIA (TAIPEI), 2016. 7.
 - 38) Omi T : Fractional therapy for acne scar. IMCAS ASIA (TAIPEI), 2016. 7.
 - 39) Omi T : Cellulite : practical treatment techniques. IMCAS ASIA (TAIPEI), 2016. 7.
 - 40) Omi T : Botulinum toxin for axilla hyperhidrosis in 2016. IMCAS ASIA (TAIPEI), 2016. 7.
 - 41) Omi T : How should we treat cellulite?. IMCAS ASIA (TAIPEI), 2016. 7.
 - 42) Omi T : Study of depilation by in-motion hair removal. IMCAS World Congress (PARIS), 2017. 1.
 - 43) Omi T : Future innovation for acne treatment. IMCAS World Congress (PARIS), 2017. 1.
 - 44) 尾見徳弥 : セルライトの話. エステティックダーマトロジー教育セミナー (第10回) (京都), 2016. 6.
 - 45) 尾見徳弥 : 小児におけるレーザー治療. 日本レーザー治療学会 (第28回) (横浜), 2016. 6.
 - 46) 尾見徳弥 : 美容脱毛を考える : 安全な脱毛を行うために. 美容脱毛を考える会 (第1回) (東京), 2016. 7.
 - 47) 尾見徳弥 : 低フルエンスマルチパス方式のダイオードレーザー (SopranoTMICE レーザー, Alma 社) を用いた脱毛効果に関する考

- 察. 日本美容皮膚科学会総会 (第 34 回) (東京), 2016. 8.
- 48) 尾見徳弥: 国内, 海外の美容皮膚科の現状. 日本美容皮膚科学会総会 (第 34 回) (東京), 2016. 8.
- 49) 尾見徳弥: アレルギー性皮膚疾患について. エステティックダーマトロジー教育セミナー (第 11 回) (東京), 2016. 12.
- 50) Omi T: Future innovation for acne treatment. IMCAS World Congress (PARIS), 2017. 1.
- 51) 船坂陽子, 岡崎 静, 川名誠司, 佐伯秀久⁽¹⁾ (department of Dermatology, Kobe University Graduate School Medicine): Effect of infrared A on photoaging. Annual meeting of Society for photoaging research (17th) (神戸), 2016. 8.
- 52) 船坂陽子, 土江久美子¹⁾, 武智貴之¹⁾, 田中 洋¹⁾, 小山撰司¹⁾, 峰松尚子, 小田文乃⁽¹⁾ (ちふれ化粧品): UVB 照射ケラチノサイトを介したレスベラトロール美白メカニズムの解明. 日本抗加齢医学会総会 (第 18 回) (横浜), 2016. 6.
- 53) 船坂陽子, 春名英典¹⁾, 田久保憲行¹⁾, 清水俊明¹⁾, 佐伯秀久⁽¹⁾ (順天堂大医学部小児科): McCune-Albright 症候群に生じたカフェオレ斑に対するルビーレーザー治療. 日本レーザー医学会総会 (旭川), 2016. 10.
- 54) 高瀬友理亜, 船坂陽子, 真弓暢子, 岡崎 静, 朝山祥子, 佐伯秀久: 顔面の老人性色素斑患者における画像解析装置を用いたシミ, シワの解析. 日皮会総会 (第 115 回) (京都), 2016. 6.
- 55) 田中真百合, 真弓暢子, 山西慎吾¹⁾, 山下 基²⁾, 加藤 環³⁾, 今井耕輔²⁾, 又吉武光, 森尾友宏²⁾, 伊藤保彦¹⁾, 佐伯秀久⁽¹⁾ (付属病院小児科, ²⁾ 東京医科歯科大発生発達病態学分野, ³⁾ 防衛医大小児科): γ C 遺伝子異常による X 連鎖性原発性免疫不全症が判明した手足の難治性多発性尋常性 疣贅の治療経験. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第 40 回) (広島), 2016. 7.
- 56) 田中真百合, 帆足俊彦, 船坂陽子, 佐伯秀久: ダウン症候群に合併した多発性片側性皮膚線維腫の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 869 回) (東京), 2016. 11.
- 57) 尾見徳弥: In motion 脱毛における臨臨床的, 組織学的検討. 日本医学脱毛学会学術集会 (第 43 回) (大阪), 2017. 2.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Nishioka M¹⁾, Kunisada M¹⁾, Fujiwara N¹⁾, Oka M¹⁾, Funasaka Y, Nishigori C¹⁾ (1) Division of Dermatology, Department of Internal Related, Kobe University Graduate School of Medicine): Multiple apocrine poromas: a new case report. J Cutan Pathol 2015; 42 (11): 894-896.

[武蔵小杉病院皮膚科]

研究概要

皮膚病理腫瘍の病理診断 皮膚付属器腫瘍 (とくに汗腺及び脂腺腫瘍) について免疫組織化学的検討によってその診断精度を上げるために必要な方法を見出すさらにはケラトアcantoma Keratoacanthoma についてその病理診断基準を確立し類似の悪性腫瘍との鑑別について検討する

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ogita A, Ansai S, Misago N¹⁾, Anan T²⁾, Fukumoto T²⁾, Saeki H³⁾ (1) Nakao clinic, Division of Dermatology, 2) Sapporo Dermatopathology Institute, 3) Department of Dermatology, Nippon Medical School): Clinicopathological study of crateriform verruca: Crateriform epithelial lesions histopathologically distinct from keratoacanthoma. Journal of Dermatology 2016; 43 (10): 1154-1159.
- 2) Ogita A, Annsai S, Misago N¹⁾, Anan T²⁾, Fukumoto T²⁾, Saeki H³⁾ (1) Nakao Clinic, Division of Dermatology, 2) Sapporo Dermatopathology Institute, 3) Department of Dermatology, Nippon Medical School): Histopathological diagnosis of epithelial crateriform tumors: keratoacanthoma and other epithelial crateriform tumors. Journal of Dermatology 2016; 43 (11): 1321-1331.
- 3) Ito K¹⁾, Ansai S, Fukumoto T²⁾, Anan T²⁾, Kimura T²⁾ (1) 東京慈恵医科大学皮膚科, 2) 札幌皮膚病理診断科): A Clinicopathological Analysis of 384 Cases of Poroid Neoplasms including 98 cases of Apocrine Type Cases. Journal of Dermatology 2017; 44 (3): 327-334.

(2) 総説:

- 1) Ansai S: Topics in histopathology of Sweat Gland and Sebaceous Neoplasms. Journal of Dermatology 2017; 44 (3): 315-326.
- 2) 安齋真一: 顔面の黒色あるいは褐色腫瘍をみたら, どう鑑別する. 老年医学 2016; 54 (10): 979-982.
- 3) 安齋真一: そうだったのか! この皮膚病変 意外な原因, 病理, 合併症. 日本臨床皮膚科医会雑誌 2016; 33 (5): 627-929.

- 4) 安齋眞一：皮膚腫瘍における病理組織の基礎知識. PEPARS 2017 ; (122) : 59-69.
 - 5) 安齋眞一：CPC 3例のクレーター状腫瘍. Visual Dermatology 2017 ; 16 (2) : 190-195.
- (3) 症例報告：
- 1) 荻田あづさ：この患者，あなたならどうする？生毛部の悪性黒色腫，色素性ボーエン病のダーモスコピー，病理組織学的検討. 日本臨床皮膚科学会誌 2016 ; 33 (6) : 745-748.
 - 2) Ansai S, Ogita A, Matsuda H, Saeki H¹⁾, Tanaka M²⁾ (1) 附属病院皮膚科, 2) 東京女子医科大学東医療センター皮膚科) : Collision of basal cell carcinoma and melanocytic nevus with unique dermoscopic findings. Journal of Dermatology 2016 ; 43 (5) : 584-585.
 - 3) Yokose C¹⁾, Asai J¹⁾, Kan S¹⁾, Nomiyama T¹⁾, Takenaka H¹⁾, Konishi E¹⁾, Goto K²⁾, Ansai S, Katoh N¹⁾ (1) 京都府立医科大学皮膚科, 2) 海南病院病理部) : Myoepithelial carcinoma on the right shoulder : Case report with literature review. Journal of Dermatology 2016 ; 43 (9) : 1083-1087.
 - 4) Adachi A¹⁾, Komine M¹⁾, Murata S¹⁾, Maekawa T¹⁾, Ansai S, Ohtsuki M¹⁾ (1) 自治医科大学皮膚科) : A Case of Mixed Form Primary Cutaneous Mucinous Carcinoma with the Initial Lesion Exhibiting Similar Histopathological Features to Those of Syringomatous Carcinoma. Journal of Dermatology 2016 ; 43 (11) : 1364-1366.
 - 5) Hoashi T¹⁾, Funasaka Y¹⁾, Shirakawa N¹⁾, Matano Y¹⁾, Ansai S, Saeki H¹⁾ (1) 附属病院皮膚科) : Case of subungual malignant melanoma showing the subtle clinical features and unexpected typical histopathologic findings of melanoma in situ. Journal of Dermatology 2016 ; 43 (11) : 1361-1362.
 - 6) Watanabe M¹⁾, Ansai S, Iwakiri I¹⁾, Fukumoto T²⁾, Murakami M¹⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 札幌皮膚病理診断科) : Case of pleomorphic rhabdomyosarcoma arising from subcutaneous tissue in an adult patient : review of the literature on 13 cutaneous or subcutaneous cases. Journal of Dermatology 2017 ; 44 (1) : 59-63.
 - 7) 江崎英子¹⁾, 上野 孝¹⁾, 高山良子¹⁾, 二神綾子¹⁾, 安齋眞一, 船坂陽子¹⁾, 佐伯秀久¹⁾ (1) 附属病院皮膚科) : 血管増生型らせん腺腫の1例. 皮膚科の臨床 2016 ; 58 (9) : 1466-1467.
 - 8) 松岡保子, 安齋眞一, 荻田あづさ, 松田秀則, 篠原理恵, 大橋実奈, 亦野蓉子¹⁾, 佐伯秀久¹⁾ (1) 附属病院皮膚科) : 結節性痒疹様皮膚疹が先行し汗疱様皮膚疹をともなった結節性類天疱瘡の2例. 皮膚科の臨床 2016 ; 58 (10) : 1533-1536.
 - 9) 新井悠江¹⁾, 高山良子¹⁾, 田中真百合¹⁾, 長田真一¹⁾, 上野 孝¹⁾, 二神綾子¹⁾, 安齋眞一, 船坂陽子¹⁾, 佐伯秀久¹⁾ (1) 附属病院皮膚科) : 右大腿に生じた Glomus tumor の1例. 皮膚科の臨床 2016 ; 58 (10) : 1555-1558.
 - 10) 大橋実奈, 安齋眞一, 荻田あづさ, 松岡保子, 篠原理恵, 佐伯秀久¹⁾ (1) 附属病院皮膚科) : 尋常性乾癬にともなった水泡性類天疱瘡を治療中にニューモシスチス肺炎を発症した1例. 皮膚科の臨床 2016 ; 58 (11) : 1714-1718.
 - 11) 大橋洋之¹⁾, 木村聡子¹⁾, 門野岳史¹⁾, 川上民裕¹⁾, 相馬良直¹⁾, 安齋眞一 (1) 聖マリアンナ医科大学皮膚科) : 鼻部に生じた Folliculosebaceous cystic hamartoma. 皮膚病診療 2016 ; 38 (12) : 1197-1200.
 - 12) 長井拓哉¹⁾, 山川岳洋¹⁾, 長田真一¹⁾, 真鍋 求¹⁾, 梅林芳弘²⁾, 安齋眞一 (1) 秋田大学医学部皮膚科・形成外科, 2) 東京医科大学皮膚科) : Trichodiscoma の1例. 皮膚科の臨床 2016 ; 58 (13) : 2034-2035.
 - 13) 佐藤さゆり¹⁾, 安齋眞一, 山下利春¹⁾ (1) 札幌医科大学皮膚科) : 上腕に生じた模様脂肪壊死の1例. 西日本皮膚科 2016 ; 78 (6) : 600-602.
 - 14) 琴 基天¹⁾, 高山良子¹⁾, 李 民¹⁾, 安齋眞一, 小澤雅邦, 東 直行¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科) : 手掌に生じた基底細胞癌. 皮膚病診療 2017 ; 39 (1) : 73-76.

著書

- 1) 荻田あづさ：〔共著〕紅斑丘疹型境界部皮膚炎，炎症後色素沈着，癬痕，ケラトアカントーマ，皮膚転移性乳癌. 皮膚病理の見かたのコツ (安齋 眞一), 2016 ; 羊土社.
- 2) 安齋眞一：〔分担〕病理所見の診かた. 皮膚科研修ノート (佐藤伸一・藤本学), 2016 ; pp126-133. 診断と治療社.
- 3) 安齋眞一：〔共著〕基底細胞癌：臨床像と病理組織像のポイント. 皮膚がんバリエーションアトラス (田中勝・安齋眞一), 2016 ; pp2-5, 医学書院.
- 4) 安齋眞一：〔共著〕有棘細胞癌およびその類症：臨床像と病理組織像のポイント. 皮膚がんバリエーションアトラス (田中勝, 安齋眞一), 2016 ; pp98-107, 医学書院.
- 5) 安齋眞一：〔共著〕悪性黒色腫：臨床像と病理組織像のポイント. 皮膚がんバリエーションアトラス (田中勝, 安齋眞一), 2016 ; pp170-175, 医学書院.
- 6) 安齋眞一：〔共著〕色素細胞母斑：臨床像と病理組織像のポイント. 皮膚がんバリエーションアトラス (田中勝, 安齋眞一), 2016 ; pp266-272, 医学書院.
- 7) 安齋眞一：〔共著〕脂漏性角化症：臨床像と病理組織像のポイント. 皮膚がんバリエーションアトラス (田中勝, 安齋眞一), 2016 ; pp273-277, 医学書院.

- 8) 安齋眞一：〔分担〕尋常性乾癬. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見方のコツ (安齋眞一), 2016 ; pp58-59, 羊土社.
- 9) 安齋眞一：〔分担〕腫瘍性疾患における病理診断の考え方. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見方のコツ (安齋眞一), 2016 ; pp140-147, 羊土社.
- 10) 安齋眞一：〔分担〕皮膚混合腫瘍. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見方のコツ (安齋眞一), 2016 ; pp172-173, 羊土社.
- 11) 安齋眞一：〔分担〕Langerhans 細胞組織球症. 皮膚疾患最新の治療 2017-2018 (渡辺晋一, 古川福美), 2017 ; p229, 南江堂.
- 12) 安齋眞一：〔分担〕壊疽性膿皮症. 逃げない! 攻める! 皮膚科救急テキスト (出光俊郎), 2017 ; pp290-294, 文光堂.
- 13) 松田秀則：〔分担〕生来, 側頭部にある黄色調脱毛斑. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見方のコツ (安齋眞一), 2016 ; pp148-149, 羊土社.
- 14) 松田秀則：〔分担〕左下腿の潰瘍を伴う隆起性皮膚腫瘍. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見方のコツ (安齋眞一), 2016 ; pp194-195, 羊土社.
- 15) 松田秀則：〔分担〕大腿部の辺縁不正な黒色斑. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見方のコツ (安齋眞一), 2016 ; pp230-231, 羊土社.
- 16) 松田秀則：〔分担〕背部にある弾性軟, 淡褐色調の皮膚潰瘍. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見方のコツ (安齋眞一), 2016 ; pp260-261, 羊土社.
- 17) 松田秀則：〔分担〕左胸部のやや圧痛のある可動性皮下結節. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見方のコツ (安齋眞一), 2016 ; pp262-263, 羊土社.
- 18) 松田秀則：〔分担〕腰部の弾性硬, 紅褐色調皮膚結節. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見方のコツ (安齋眞一), 2016 ; pp268-269, 羊土社.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 安齋眞一：そだったのか!! この皮膚病変：意外な病理. 日本臨床皮膚科医会総会 (第 32 回), 2016. 4.

(2) 一般講演 :

- 1) 百瀬葉子, 五十嵐由美, 井坂有里, 伊澤有香, 松田秀則, 荻田あづさ, 安齋眞一, 岩崎 隆¹⁾ (1) 川崎市): 病理組織学的にサルコイドーシスと鑑別を要した脂肪類壊死症. 日本皮膚科学会西部支部学術大会 (第 68 回), 2016. 11.
- 2) 荻田あづさ, 松田秀則, 安齋眞一, 細根 勝¹⁾, 佐伯秀久²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 附属病院皮膚科): CD8+Lymphomatoid papulosis の 1 例. 日本皮膚科学会 西部支部学術大会 (第 68 回), 2016. 11.
- 3) 安齋眞一：クレーター状を呈する上皮性皮膚腫瘍の病理. 日本皮膚科学会総会・学術大会 (第 115 回), 2016. 6.
- 4) 井坂有里, 百瀬葉子, 五十嵐由美, 伊澤有香, 松田秀則, 荻田あづさ, 安齋眞一, 佐伯秀久¹⁾, 福本隆也²⁾ (1) 付属病院皮膚科, 2) 札幌皮膚病理診断科): 左第 3 指屈側に生じた硬化性神経周膜腫の 1 例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第 868 回), 2016. 11.
- 5) 井坂有里, 五十嵐由美, 伊澤有香, 松田秀則, 百瀬葉子, 荻田あづさ, 安齋眞一, 佐伯秀久¹⁾, 田中 勝²⁾ (1) 付属病院皮膚科, 2) 東京女子医科大学東医療センター): 前胸部に発生した疣贅状異常角化症: warty dyskeratoma の 1 例. 日本皮膚科学会大阪地方会 (第 460 回), 2017. 3.
- 6) 五十嵐由美, 伊澤有香, 井坂有里, 松田秀則, 百瀬葉子, 荻田あづさ, 安齋眞一, 佐伯秀久¹⁾ (1) 附属病院皮膚科): 乳癌化学療法後に生じた多発性汗孔腫の 1 例. 日本皮膚科学会東京地方会神奈川分会 (第 868 回), 2016. 9.
- 7) 五十嵐由美, 荻田あづさ, 松田秀則, 安齋眞一, 福本 瞳, 佐伯秀久¹⁾, 片野晴隆²⁾ (1) 付属病院皮膚科, 2) 国立感染症研究所感染病理部): ヒト乳頭腫ウイルス 73 型が陽性であった爪部色素性 Bowen 病の 1 例. 日本皮膚科学会東京地方会神奈川分会 (第 871 回), 2017. 1.
- 8) 伊澤有香, 篠原理恵, 松田秀則, 百瀬葉子, 荻田あづさ, 安齋眞一, 桑名正隆¹⁾, 佐伯秀久²⁾ (1) 附属病院膠原病内科, 2) 附属病院皮膚科): 食道癌, 胃癌を伴った抗 TIFI α 抗体陽性の皮膚筋炎の 1 例. 日本皮膚科学会東京支部合同学術大会, 2017. 2.

[多摩永山病院皮膚科]

研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析と治療戦略 2. アトピー性皮膚炎の病態における抗核抗体, 抗 DFS70 抗体の発現解析 3. 乳児期湿疹の統計的観察 4. アナフィラクトイド紫斑, 掌蹠膿疱症, 自己免疫水疱症の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析 5. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー, 全身性金属アレルギー: 皮膚テストによる原因物質の確認, 血清中抗原の解析, DLST 検査 6. 皮膚腫瘍, 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断と研究 7. アミノ酸の経皮吸収, HLB 数

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 東 直行¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：特集 マイナー救急を極める：Do or Don't 皮膚科領域のマイナー救急. 救急医学 2016；40 (6)：663-675.
- 2) 東 直行¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：アトピー性皮膚炎におけるサイトカインネットワーク. 日医大医学会誌 2017；13 (1)：8-21.

(2) 症例報告：

- 1) Tatsumi S¹⁾, Ri M¹⁾, Higashi N¹⁾, Wakayama N²⁾, Matsune S²⁾, Tosa M³⁾ (1) Dept. of Dermatology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 2) Dept. of Otolaryngology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 3) Dept. of Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital)：Pott's Puffy tumor in an adult：A case report and review of literature. J Nippon Med Sch 2016；83 (5)：211-214.
- 2) 李 民¹⁾, 東 直行¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：胸腺腫に関連した graft-versus-host like disease の1例. 皮膚の科学 2016；15 (4)：259-264.
- 3) 琴 基天¹⁾, 高山良子¹⁾, 李 民¹⁾, 安齋眞一²⁾, 小澤雅邦³⁾, 東 直行¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 武蔵小杉病院皮膚科, 3) 多摩市)：手掌に生じた基底細胞癌. 皮膚病診療 2017；39 (1)：73-76.
- 4) 新井悠江^{1, 2)}, 高山良子²⁾, 田中真百合²⁾, 長田真一²⁾, 上野 孝²⁾, 二神綾子²⁾, 安齋眞一³⁾, 船坂陽子²⁾, 佐伯秀久²⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 付属病院皮膚科, 3) 武蔵小杉病院皮膚科)：右大腿に生じた Glomus Tumor の1例. 皮膚臨床 2016；58 (10)：1555-1558.
- 5) 新井悠江^{1, 2)}, 船坂陽子²⁾, 神崎亜希子²⁾, 菅野仁士³⁾, 佐伯秀久²⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 付属病院皮膚科, 3) 付属病院外科)：テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤 (TS-1) による DLE 型薬疹. 皮膚臨床 2016；58 (11)：1691-1695.
- 6) 新井悠江^{1, 2)}, 篠原理恵²⁾, 松岡保子²⁾, 萩田あづさ²⁾, 安齋眞一²⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 武蔵小杉病院皮膚科)：乳頭腺腫：adenoma of the nipple の1例. 皮膚臨床 2017；59 (3)：396-397.

著書

- 1) 東 直行¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：[分担] I 基底細胞癌, II 有棘細胞癌およびその類症, III 悪性黒色腫, V 皮膚がんを鑑別を要する良性疾患. 皮膚がん パリエーションアトラス (田中 勝, 安齋眞一), 2016；医学書院 (東京).
- 2) 東 直行¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：[分担] Part2 炎症性疾患 第1章 湿疹皮膚炎群 1 下肢の鱗屑を伴う紅斑局面 (貨幣状皮膚炎). Part4 腫瘍性疾患 第4章血液リンパ球系腫瘍 B 悪性病変 1 はば全身に鱗屑を伴う紅斑局面 (菌状息肉症). 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016；羊土社 (東京).
- 3) 李 民¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：[分担] Part2 炎症性疾患 第1章 湿疹皮膚炎群 2 そう痒を伴う四肢の苔癬化局面, 紅斑, 丘疹 (慢性単純性苔癬). 3 顔面に鱗屑を伴う紅斑 (脂漏性皮膚炎). 第2章 痒疹・蕁麻疹・紅斑症 1 全身の強いそう痒を伴う紅色丘疹 (結節性痒疹). 2 体幹四肢の激しいそう痒を伴う丘疹 (多形慢性痒疹).. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016；羊土社 (東京).
- 4) 立見聡美¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：[分担] Part2 炎症性疾患 第2章 痒疹・蕁麻疹・紅斑症 7 下腿に生じた有痛性紅斑 (結節性紅斑). 第4章 炎症性角化症 3 軀幹・四肢の紅褐色丘疹 (慢性苔癬状靴糠疹). Part4 腫瘍性病変 第1章 上皮性腫瘍・囊腫 A 良性病変 5 耳介後面に生じた柔らかい腫瘍 (皮膚皮様囊腫). 6 左頬部の青灰色皮膚小結節 (アポクリン腺囊腫).. 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016；羊土社 (東京).
- 5) 高山良子¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：[分担] Part1 正常構造 0 正常皮膚および皮下脂肪組織の構造. Part4 腫瘍性疾患 第1章 上皮性腫瘍・囊腫 A 良性病変 7 左腋窩の皮下結節 (脂腺囊腫). 8 右側腹部の褐色結節 (脂漏性角化症 (老人性疣贅)). 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016；羊土社 (東京).
- 6) 田久保匡哉¹⁾, 高山良子¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：[分担] Part4 腫瘍性病変 第1章 上皮性腫瘍・囊腫 B 悪性病変 1 右頬部の鱗屑を付す紅斑 (日光角化症). 2 背部の紅斑局面 (Bowen 病). 第3章 軟部腫瘍 A 良性病変 1 胸部の紅色結節 (ケロイド). 2 左大腿の褐色結節 (皮膚線維腫). 臨床医が知っておきたい皮膚病理の見かたのコツ (安齋眞一), 2016；羊土社 (東京).

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 高山良子¹⁾, 東 直行¹⁾, 安齋眞一²⁾, 佐伯秀久³⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 武蔵小杉病院皮膚科, 3) 付属病院皮膚科)：malignant melanoma in situ with seborrheic keratosis. 日本皮膚科学会総会 (第115回) (京都), 2016. 6.
- 2) 渡邊幸夫¹⁾, 東 直行²⁾, 塩谷和音¹⁾, 松本 恵¹⁾, 水越 駿³⁾, 秋本眞喜雄³⁾, 前田憲寿³⁾, 上田豊甫¹⁾, 鈴木晴恵⁴⁾ (1) 明星大理工生命科学, 2) 多摩永山病院皮膚科, 3) 東京工科大, 4) 京都市)：導入物質の経皮吸収とHLB数依存性に関する検討. 日本皮膚科学会総

会（第115回）（京都），2016. 6.

- 3) 渡邊幸夫¹⁾，東 直行²⁾，塩谷和音¹⁾，松本 恵¹⁾，上田豊甫¹⁾，鈴木晴恵³⁾（¹⁾ 明星大理工生命科学，²⁾ 多摩永山病院皮膚科，³⁾ 京都市）：美容成分の経皮吸収効果の検証. 日本美容皮膚科学会（第34回）（東京），2016. 8.

(2) 一般講演：

- 1) 橋本知幸¹⁾，琴 基天²⁾，東 直行²⁾（¹⁾ 日本環境衛生センター，²⁾ 多摩永山病院皮膚科）：お好み焼き粉から見つかった本邦初記録の *Dermatophagoides siboney*. 日本衛生動物学会大会（第68回）（宇都宮），2016. 4.
- 2) 琴 基天¹⁾，李 民¹⁾，東 直行¹⁾，宇谷厚志²⁾（¹⁾ 多摩永山病院皮膚科，²⁾ 長崎大学皮膚科）：弾性線維性仮性黄色腫の1例. 日皮会東京地方会（第866回）（東京），2016. 6.
- 3) 琴 基天¹⁾，東 直行¹⁾，橋本知幸²⁾（¹⁾ 多摩永山病院皮膚科，²⁾ 日本環境衛生センター）：お好み焼き摂食によるパンケーキ症候群の1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会（第46回）（東京），2016. 11.
- 4) 新井悠江¹⁾，琴 基天¹⁾，東 直行¹⁾，安齋眞一²⁾，渋谷博文³⁾（¹⁾ 多摩永山病院皮膚科，²⁾ 武蔵小杉病院皮膚科，³⁾ 多摩市）：右第3指に生じた硬化性神経周膜腫の1例. 日皮会東京地方会（第869回）（東京），2016. 11.
- 5) 芹澤直隆^{1, 2)}，帆足俊彦²⁾，三神絵里奈²⁾，岨 慶子²⁾，船坂陽子²⁾，佐伯秀久²⁾，安齋眞一³⁾（¹⁾ 多摩永山病院皮膚科，²⁾ 付属病院皮膚科，³⁾ 武蔵小杉病院皮膚科）：基底細胞癌の併存を疑う syringofibroadenoma の1例. 日本皮膚病理組織学会（第32回）（東京），2016. 6.
- 6) 芹澤直隆^{1, 2)}，帆足俊彦²⁾，菅 隼人³⁾，三神絵理奈²⁾，奈古利恵²⁾，神崎亜希子²⁾，船坂陽子²⁾，佐伯秀久²⁾（¹⁾ 多摩永山病院皮膚科，²⁾ 付属病院外科，³⁾ 付属病院皮膚科）：肛門部基底細胞癌の1例. 日本皮膚外科学会（第31回）（沼津），2016. 9.
- 7) 芹澤直隆^{1, 2)}，帆足俊彦²⁾，市山 進²⁾，船坂陽子²⁾，佐伯秀久²⁾（¹⁾ 多摩永山病院皮膚科，²⁾ 付属病院皮膚科）：後天性指趾被角線維腫との鑑別に難渋した爪下外骨腫の1例. 日皮会東京地方会（第870回）（東京），2016. 12.

14. 消化器外科学分野

[付属病院消化器外科・一般外科・移植外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yoshida H¹⁾, Makino H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Hirakata A¹⁾, Ueda J¹⁾, Mamada Y²⁾, Taniai N²⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, (2) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Preoperative liver functional volumetry performed by 3D-99mTc-GSA scintigraphy/vascular fusion imaging using SYNAPSE VINCENT : a preliminary study. *Hepatoma Research* 2016 ; 2 : 187-192.
- 2) Yoshida H¹⁾, Makino H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Hirakata A¹⁾, Ueda J¹⁾, Miyasaka T¹⁾, Mamada Y²⁾, Taniai N²⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, (2) Department of Gastrointestinal Surgery, Nippon Medical School) : Repeated Minocycline Hydrochloride Injections for Symptomatic Polycystic Liver Disease. *Journal of Gastroenterology and Hepatology Research* 2016 ; 5 (3) : 2063-2069.
- 3) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 川野陽一³⁾, 坂東功一⁴⁾, 塩田吉宣⁵⁾, 内田英二⁶⁾ (1) 日本医科大学消化器外科准教授, (2) 日本医科大学多摩永山病院教授, (3) 日本医科大学千葉北総病院助教, (4) 康正会病院外科部長, (5) 塩田病院院長, (6) 日本医科大学消化器外科教授) : 特集 : 消化器疾患と経腸栄養 (経口的栄養補助を含む) 肝疾患に対する経腸栄養 - 臨床現場ではこう行われている. *消化器の臨床* 2016 ; 19 (4) : 297-301.
- 4) Iwashita Y, Ohyama T, Honda G, Hibi T, Yoshida M, Miura F, Takada T, Han H, Nakamura Y¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Higuchi R, Toyota N, Takeda Y, Ito M, Norimizu S, et al. (1) Department of Gastrointestinal Surgery, Nippon Medical School) : What are the appropriate indicators of surgical difficulty during laparoscopic cholecystectomy ? Results from a Japan-Korea-Taiwan multinational survey. *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences* 2016 ; 23 (9) : 533-547.
- 5) 岩井拓磨¹⁾, 山田岳史¹⁾, 吉田 寛²⁾, 菅 隼人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, (2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 大腸癌術後補助化学療法 FOLFOX による脾臓容積の変化の検討. *日本門脈圧亢進症学会雑誌* 2016 ; 22 (2) : 146-151.
- 6) 小泉岐博¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 塩田吉宣²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, (2) 塩田病院外科) : 手術手技 腹腔鏡下横行結腸癌手術における頭側アプローチを用いた中結腸動脈根部郭清. *手術* 2016 ; 70 (10) : 1333-1338.
- 7) Sugihara F¹⁾, Murata S¹⁾, Ueda T¹⁾, Yasui D¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Miki I¹⁾, Kawamoto C²⁾, Uchida E³⁾, Kumita S¹⁾ (1) Department of Radiology, Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, (2) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, (3) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Haemodynamic changes in hepatocellular carcinoma and liver parenchyma under balloon occlusion of the hepatic artery. *Springer* 2016.
- 8) 松谷 毅¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 高齢者胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除術の臨床的リスク評価 : POSSUM と E-PASS スコアでの検討. *日本外科系連合学会誌* 2016 ; 41 (4) : 559-566.
- 9) 谷合信彦¹⁾, 古川清憲²⁾, 吉田 寛³⁾, 塩田吉宣⁴⁾, 坂東功一⁵⁾, 沖野哲也⁶⁾, 川野陽一⁷⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, (2) 赤羽病院, (3) 日本医科大学多摩永山病院外科, (4) 塩田病院, (5) 康正会病院外科, (6) 博慈会記念総合病院外科, (7) 日本医科大学千葉北総病院外科消化器外科) : 特集 周術期感染管理 up-to-date 創閉鎖法. *消化器外科* 2016 ; 39 (13) : 1737-1744.
- 10) Takata H¹⁾, Matsutani T¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Ueda J¹⁾, Arai H¹⁾, Yokoyama Y¹⁾, Nomura T¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Assessment of the incidence of chronic pain and discomfort after primary inguinal hernia repair. *JOURNAL OF SURGICAL RESEARCH* 2016 ; 206 : 391-397.
- 11) Matsuno K^{1,2)}, Mae S¹⁾, Okada C¹⁾, Nakamura M¹⁾, Watanabe A¹⁾, Toyoda T¹⁾, Uchida E²⁾, Osafune K¹⁾ (1) Center for iPS Cell Research and Application (CiRA), Kyoto University, (2) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Redefining definitive endoderm subtypes by robust induction of human induced pluripotent stem cells. *Differentiation* 2016 ; 92 : 281-290.
- 12) 的場秀亮¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 鈴木 剛²⁾, 瀬田真祐³⁾, 高田英志¹⁾, 上田純志¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 内田英二⁴⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, (2) 東都医療大学研究センター, (3) 大坪会東和病院消化器科, (4) 日本医科大学消化器外科) : H.pylori 除菌療法におけるポロプラザンとエソメプラゾールの比較検討. *日本医科大学医学会雑誌* 2017 ; 13 (1) : 38-47.
- 13) Shinji S¹⁾, Kan H¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Yamagishi A¹⁾, Yokoyama Y¹⁾, Takahashi G¹⁾, Iwai T¹⁾, Hara K¹⁾, Takeda K¹⁾, Ohta K¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) :

- Modified Marionette Technique for Laparoscopic Colorectal Surgery. *Journal of Nippon Medical School* 2017 ; 84 (1) : 49-53.
- 14) Nomura T¹⁾, Iwakiri K²⁾, Matsutani T¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Fujita I¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Makino H³⁾, Kawami N²⁾, Miyashita M⁴⁾, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery,Nippon Medical School, ²⁾ Department of Gastroenterology,Department of Internal Medicine,Nippon Medical School, ³⁾ Department of Surgery,Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ⁴⁾ Department of Surgery,Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Characteristics and Outcomes of Laparoscopic Surgery in Patients with Gastroesophageal Reflux and Related Disease : A Single Center Experience. *Journal of Nippon Medical School* 2017 ; 84 (1) : 25-31.
- 15) Mizutani S¹⁾, Suzuki H¹⁾, Aimoto T¹⁾, Yamagishi S¹⁾, Mishima K¹⁾, Watanabe M¹⁾, Kitayama Y²⁾, Motoda N²⁾, Isshiki S³⁾, Uchida E⁴⁾ (¹⁾ Institute of Gastroenterology,Nippon Medical School Musashi kosugi Hospital, ²⁾ Department of Pathology,Nippon Medical School Musashi kosugi Hospital, ³⁾ Department of Radiology,Nippon Medical School Musashi kosugi Hospital, ⁴⁾ Department of Surgery,Nippon Medical School) : Usefulness of Color Coding Resected Samples from a Pancreaticoduodenectomy with Tissue Marking Dyes for a Detailed Examination of Surgical Margin Surrounding the Uncinate Process of the Pancreas. *Journal of Nippon Medical School* 2017 ; 84 (1) : 32-40.
- 16) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 松本智司¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松谷 毅²⁾, 山田岳史²⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科) : 「外科侵襲・術後管理と新しい免疫の概念」外科侵襲とアディポサイトカイン : ビスファテンに注目して. *外科と代謝・栄養* 2017 ; 51 (1) : 33-39.
- 17) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科) : 内視鏡手術における mesopancreas の切除 : 腹腔鏡下に膵頭神経叢を適切に把握するための術野展開法について. *胆と膵* 2017 ; 38 (1) : 99-102.
- 18) Matsutani T¹⁾, Nomura T¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Fujita I¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Kanno H¹⁾, Matsuda A¹⁾, Ohta K¹⁾, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery,Nippon Medical School) : Comparison of Post-operative Pain Following Laparoscopic Versus Open Gastrostomy/Jejunostomy in Patients with Complete Obstruction Caused by Advanced Esophageal Cancer. *Journal of Nippon Medical School* 2016 ; 83 (6) : 228-234.
- 19) Hibi T, Iwashita Y, Ohyama T, Honda G, Yoshida M, Takada T, Shinya S, Suzuki K, Watanabe M, Abe Y, Misawa T, Nagakawa Y, Nakamura Y¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Yamakawa T, et al. (¹⁾ Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery,Nippon Medical School) : The “right” way is not always popular : comparison of surgeons’perceptions duaring laparoscopic cholecystectomy for acute cholecystitis among experts from Japan,Korea and Taiwan. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2017 ; 24 : 24-32.
- 20) Tokumura H¹⁾, Iida A²⁾, Sasaki A³⁾, Nakamura Y⁴⁾, Yasuda I⁵⁾ (¹⁾ Department of Surgery,Tohoku Rosai Hospital, ²⁾ First Department of Surgery,University of Fukui, ³⁾Department of Surgery,Iwate Medical University School of Medicine, ⁴⁾Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery,Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Gastroenterology,Teikyo University Mizonokuchi Hosipital) : Gastroenterological surgery : The gallbladder and common bile duct. *Asian J endosc Surg* 2016 ; 9 : 237-249.
- 21) Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Katsuno A¹⁾, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery,Nippon Medical School) : Study on laparoscopic spleen preserving distal pancreatectomy procedures comparing splenic vessel preservation and nonpreservation. *Transl Gastroenterol Hepatol* 2016 ; 27 : 36-41.
- 22) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科) : 超高齢者 (80 歳以上) 肝細胞癌患者における肝細胞癌切除術の意義. *日本高齢消化器病学会誌* 2017 ; 19 (2) : 20-26.
- 23) Beppu T, Imai K, Okuda K, Eguchi S, Kitahara K, Taniai N¹⁾, Ueno S, Shirabe K, Ohta M, Kondo K, Nanashima A, Noritomi T, Shiraishi M, Takami Y, Okamoto K, et al. (¹⁾ Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery,Nippon Medical School) : Anterior approach for right hepatectomy with hanging maneuver for hepatocellular carcinoma : a multi-institutional propensity score-matching study. *J Hepatobiliary Pancreat* 2017 ; 24 (3) : 127-136.
- (2) 総説 :
- 1) 谷合信彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科) : 誰にでもできる医学雑誌絵の論文投稿 (VOL.4). *日本手術医学会誌* 2016 ; 37 (2) : 75-77.
- 2) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 水口義昭¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科) : 特集エキスパートに聞く ! 高難度内視鏡外科手術のコツ 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術. *消化器外科* 2016 ; 39 (11) : 1555-1563.
- (3) 症例報告 :
- 1) 日下部誠¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科) : 中心循環系血管内塞栓促進用補綴剤による肝動脈化学塞栓術後に発症した壊疽性胆嚢炎の 1 例. *胆道* 2016 ; 30 (4) : 782-786.

- 2) 古木裕康¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 町田 幹²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学放射線科) : 直腸診が診断に有用であった坐骨ヘルニアの1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2016 ; 36 (6) : 1145-1148.
 - 3) 大草幹大¹⁾, 進士誠一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 右外腸骨リンパ節再発した上行結腸癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2016 ; 77 (5) : 1155-1159.
 - 4) 村木 輝¹⁾, 有田 淳²⁾, 小松茂治²⁾, 高橋和裕²⁾, 大山莉奈¹⁾, 三島圭介¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 東戸塚記念病院外科, 3) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下に修復した子宮広間膜裂孔ヘルニアによるイレウスの1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2016 ; 36 (5) : 911-914.
 - 5) 篠塚恵理子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 新井洋紀^{1,2)}, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学病理学(統御機構, 腫瘍学)) : 短期間に3度小腸穿孔をきたしたコレステロール塞栓症の1例. 日本消化器病学会雑誌 2016 ; 113 (5) : 804-812.
 - 6) Irie T¹⁾, Shinji S¹⁾, Arai H¹⁾, Kan H¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Yokoyama Y¹⁾, Takahashi G¹⁾, Iwai T¹⁾, Okusa M¹⁾, Ohta K¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Intestinal hemorrhage caused by Meckel's diverticulum with ectopic gastric mucosa on polypoid lesion : a case report. Springer Open 2016 ; 2 (124).
- (4) 手術手技 :
- 1) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科消化器外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下大腸手術におけるフック型電気メスを多用した左結腸動脈温存No.253リンパ節郭清手技. 手術 2016 ; 70 (11) : 1513-1518.
- (5) 臨床報告 :
- 1) 杉田久記¹⁾, 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 完全内蔵逆位および Adachi IV 型腹部血管破格を伴う胃癌切除症例の1例. 臨床外科 2017 ; 72 (1) : 117-121.

著 書

- 1) 勝野 暁¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : [自著] 疾患別がん薬物療法のルール 膵神経内分泌腫瘍. がん薬物療法 : 現場のルール (弦間 昭彦), 2016 ; pp74-78, 南江堂.
- 2) 勝野 暁¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : [自著] 疾患別がん薬物療法のルール 膵がん. がん薬物療法 : 現場のルール (弦間 昭彦), 2016 ; pp64-68, 南江堂.

学会発表

- (1) 特別講演 :
- 1) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下膵切除の標準化に向けた取り組み. 北海道肝胆膵内視鏡外科セミナー (第3回) (北海道), 2016. 4.
 - 2) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下胆道・膵臓手術の標準化について ; 教育を通じてチーム力をアップする ! . 神戸内視鏡外科手術手技研究会 (第18回) (兵庫県), 2016. 12.
- (2) 教育講演 :
- 1) 谷合信彦¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔静脈シャント挿入術の実績とその成績. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第52回) (東京都), 2016. 9.
- (3) シンポジウム :
- 1) 小泉岐博¹⁾, 山田岳史¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 原 敬介¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 直腸癌術前化学療法による組織学的効果判定と circulating cell free DNA. 日本外科病理学会学術集会 (第21回) (埼玉県), 2016. 9.
 - 2) 山田岳史¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 松田明久²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 抗 EGFR 抗体は BRAF 変異を誘導する. 日本消化器癌発生学会総会 (第27回) (鹿児島県), 2016. 9.
 - 3) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 神田知洋¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 高難度膵臓・胆道腹腔鏡手術の後進への教育について ; Swine 腹腔鏡下膵切除・胆管吻合モデルの構築. 日本外科学会定期学術集会 (第116回) (大阪府), 2016. 4.
 - 4) 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷合信彦²⁾, 吉岡正人²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 水口義昭²⁾, 松田明久¹⁾, 清水哲也²⁾, 山初和也¹⁾, 高田英志²⁾, 近藤亮太²⁾, 横室茂樹¹⁾, 吉田 寛²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 腹腔鏡下肝切除における当科オリジナルなこだわりの手技. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪府), 2016. 6.

- 5) 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 当科における腹腔鏡下胆道消化管吻合術と習得のための Learning strategy. 日本外科系連合学会学術集会 (第 41 回) (大阪府), 2016. 6.
- 6) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 清水哲也¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術の教育について考える. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪府), 2016. 6.
- 7) 谷合信彦¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 高齢者肝細胞癌に対する肝切除術の適応と有効性. 日本高齢消化器病学会総会 (第 19 回) (東京都), 2016. 7.
- 8) Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Katsuno A¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Kusakabe M¹⁾, Takano R¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School): An educational system based on porcine laparoscopic advanced pancreatectomies for transfer to humans. 日本膵臓学会大会 (第 47 回) (宮城県), 2016. 8.
- 9) 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 水口義昭¹⁾, 進士誠一¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 膵癌における STAT5b のゲムシタピン抵抗性, 浸潤能, 接着能への関与. 日本消化器癌発生学会総会 (第 27 回) (鹿児島県), 2016. 9.
- 10) 近藤亮太¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 清水哲也¹⁾, 進士誠一¹⁾, 神田知洋¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 青木悠人¹⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科学, 2) 日本医科大学統御機構診断病理学): 大腸癌同時性肝転移に対する治療戦略と化学療法著効例の病理所見. 日本外科病理学会学術集会 (第 21 回) (埼玉県), 2016. 9.
- 11) 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 高野竜太郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): How to perform a reliable Laparoscopic pancreatectomy. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 12) 山田岳史¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 松田明久²⁾, 松本智司²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): Circulating cell free DNA を用いた real-time な分子情報に基づく大腸癌化学療法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 71 回) (三重県), 2016. 11.
- 13) 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科): 境界型 T4 (いわゆる Borderline resectable cancer) 食道癌に対するネオアジュバント治療と手術. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 14) 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 身体活動と栄養摂取の早期自立により周術期感染症を減少させる. 日本外科感染症学会総会 (第 29 回) (東京都), 2016. 11.
- 15) 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 青木悠人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 神田知洋¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 安全確実な腹腔鏡下肝外側区域切除を行うための手技・工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 16) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 古木裕康¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 青木悠人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術に必要な知識と技術: 尾側膵切除: 膵臓合併切除. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 17) 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一²⁾, 清水哲也¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 青木悠人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科): 当科における腹腔鏡下再肝切除術の手技の工夫と成績. 肝臓内視鏡外科研究会 (第 10 回) (東京都), 2016. 11.
- 18) 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷合信彦²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 吉岡正人²⁾, 横室茂樹¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下肝切除適応拡大に伴う個別手技の標準化. 肝臓内視鏡外科研究会 (第 10 回) (東京都), 2016. 11.
- 19) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 古木裕康¹⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術の安全な導入のための術野展開法について (SMA 周囲を中心として). 膵臓内視鏡外科研究会 (第 8 回) (東京都), 2016. 11.
- 20) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 古木裕康¹⁾, 横山 正¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 適切な導入方法についての考察. 膵臓内視鏡外科研究会 (第 8 回) (東京都), 2016. 11.
- 21) 古木裕康¹⁾, 神田知洋¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院): 急性胆嚢炎 (Grade II) の手術治療に関する検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (神奈川県), 2017. 3.
- 22) 山田岳史¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 客観的評価に基づく大腸癌 ERAS. 日本静脈経腸栄養学会学術

集会（第32回）（岡山県），2017. 2.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 山田岳史¹⁾，高橋吾郎¹⁾，岩井拓磨¹⁾，菅 隼人¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，松本智司²⁾，松田明久²⁾，横山康行¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科)：末梢血を用いたMulti liquid biopsyによる大腸癌 Real time personalized therapy. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
- 2) 吉岡将史¹⁾，吉田 寛¹⁾，牧野浩司¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，平方敦史¹⁾，上田純志¹⁾，高田英志¹⁾，谷合信彦²⁾，真々田裕宏²⁾，内田英二²⁾，入澤篤志³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科，³⁾ 福島県立医科大学会津医療センター消化器内科)：門脈-大循環シャントによる肝性昏睡を繰り返す高度肝障害症例に対しPSE先行後に部分的BRTOを施行した1例. 日本門脈圧亢進症学会総会（第23回）（兵庫県），2016. 9.
- 3) 丸山 弘¹⁾，吉田 寛¹⁾，牧野浩司¹⁾，横山 正¹⁾，平方敦史¹⁾，上田純志¹⁾，菊池友太¹⁾，上田康二¹⁾，吉岡将史¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医大多摩永山病院外科，²⁾ 日本医大附属病院消化器外科)：大腸手術における手術時手袋表面の汚染度調査. 日本手術医学会総会（第38回）（沖縄県），2016. 11.
- 4) 山田岳史¹⁾，進士誠一¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科)：Circulating tumor cell free DNAを用いた大腸癌に対する抗EGFR抗体の効果および耐性予測. 日本消化器病学会大会（第58回）（兵庫県），2016. 11.
- 5) 松下 晃¹⁾，中村慶春¹⁾，勝野 暁¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：瘻切除術式と術後瘻機能. 日本内視鏡外科学会総会（第29回）（神奈川県），2016. 12.
- 6) 横山康行¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，高橋吾郎¹⁾，堀田正啓¹⁾，岩井拓磨¹⁾，原 敬介¹⁾，武田幸樹¹⁾，太田恵一朗¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：複雑性虫垂炎に対する待機的虫垂切除（IA）の治療成績とfailure症例の検討. 日本腹部救急医学会総会（第53回）（神奈川県），2017. 3.

(5) ポスターセッション：

- 1) 小泉岐博¹⁾，菅 隼人¹⁾，山田岳史¹⁾，進士誠一¹⁾，横山康行¹⁾，高橋吾郎¹⁾，岩井拓磨¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：直腸癌に対する術前化学療法によるcircumferential resection marginの変化. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
- 2) 大草幹大¹⁾，進士誠一¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司²⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，横山康行¹⁾，高橋吾郎¹⁾，岩井拓磨¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科)：高齢者における腹腔鏡下大腸癌手術での皮下気腫重症化のリスク因子の検討. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
- 3) 菅野仁士¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，柿沼大輔¹⁾，新井洋紀¹⁾，下田朋宏¹⁾，菊池友太¹⁾，萩原信敏¹⁾，松谷 毅¹⁾，野村 務¹⁾，櫻澤信行²⁾，牧野浩司³⁾，山下直行⁴⁾，木山輝郎⁵⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科，⁴⁾ 坪井病院外科，⁵⁾ 朝霞台中央病院外科)：胃癌患者における術前サルコペニアと予後への影響. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
- 4) 古木裕康¹⁾，水口義昭¹⁾，神田知洋¹⁾，清水哲也¹⁾，真々田裕宏¹⁾，谷合信彦¹⁾，中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，吉岡正人¹⁾，勝野 暁¹⁾，住吉宏樹¹⁾，高田英志¹⁾，近藤亮太¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：抗血小板薬内服下での高齢者に対する待機的腹腔鏡下胆嚢摘出術における安全性の検討. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
- 5) 高野竜太郎¹⁾，中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，勝野 暁¹⁾，山初和也¹⁾，住吉宏樹¹⁾，水口義昭¹⁾，神田知洋¹⁾，古木裕康¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除術の長期成績を含めた検討. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
- 6) 山初和也¹⁾，中村慶春²⁾，松本智司¹⁾，松下 晃²⁾，勝野 暁²⁾，住吉宏樹²⁾，横山 正³⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科)：当科における膵インスリノーマにおける遺残なき腫瘍切除のための取り組み. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
- 7) 住吉宏樹¹⁾，松下 晃¹⁾，中村慶春¹⁾，勝野 暁¹⁾，山初和也¹⁾，松谷 毅¹⁾，萩原信敏¹⁾，水口義昭¹⁾，谷合信彦¹⁾，内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：膵癌におけるSTAT5a/5bの発現および増殖，抗癌剤感受性，細胞接着，浸潤への関与. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
- 8) 櫻澤信行¹⁾，宮下正夫¹⁾，横山茂樹¹⁾，松本智司¹⁾，川野陽一¹⁾，松田明久¹⁾，山初和也¹⁾，原田潤一郎¹⁾，保田智彦¹⁾，関口久美子¹⁾，栗山 翔¹⁾，赤間悠一¹⁾，増田寛喜¹⁾，眞鍋恵理子¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科)：当科における胃癌術後の膵液漏の検討. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
- 9) 鈴木英之¹⁾，吉野雅則¹⁾，三浦克洋¹⁾，豊田哲鎬¹⁾，渡辺昌則¹⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 日本医科大学消化器外科)：進行再発大腸癌後期化学療法におけるRegorafenib，TAS-102の検討. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
- 10) 吉田 寛¹⁾，平方敦史¹⁾，牧野浩司¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，上田純志¹⁾，谷合信彦²⁾，真々田裕宏²⁾，内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科)：3D-Tc-99mGSA scintigraphy/vascular fusion imageによる切除術前肝Functional

volumetry の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.

- 11) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦²⁾, 吉田 寛³⁾, 中村慶春²⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人²⁾, 松下 晃²⁾, 水口義昭²⁾, 清水哲也²⁾, 松田明久¹⁾, 神田知洋²⁾, 高田英志²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾, その他 1 名 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科): 当科で考案した腹腔鏡下でのシート状器材挿入・貼付法 (コークスクリュー挿入法). 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 12) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): 経裂孔のアプローチによる食道胃接合部癌に対する手術の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 13) 高橋 翼¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 新生児期に見逃された鎖肛症例の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 14) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 病理学的検討からみた閉塞性大腸癌治療に対する大腸ステントの功罪. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 15) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 山初和也¹⁾, 清水哲也¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): 膵神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下膵尾部切除術の手術成績. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 16) 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): 当科における腹腔鏡下再肝切除術の成績. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 17) 清水哲也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下肝外側区域切除術における工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 18) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 川野陽一¹⁾, 上田純志²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科): 肝内胆管癌に対するリンパ節廓清の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 19) 上田純志¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 平方敦史¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 上田康二¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 宮坂俊光¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 内田英二²⁾, その他 1 名 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 総胆管結石症に対する総胆管切開採石術と胆管十二指腸吻合術の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 20) 松谷 毅¹⁾, 松田明久¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): マウス盲腸穿孔結紮術における脂肪組織内マクロファージの分布動向に及ぼすピオグリタゾンの効果. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 21) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 萩原信敏²⁾, 松谷 毅²⁾, 野村 務²⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 胸腔鏡下操作による安全で低侵襲な食道胃接合部癌の下縦隔リンパ節廓清と吻合. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 22) 坊 英樹¹⁾, 前島颯太郎¹⁾, 三島圭介¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 消化器癌手術における SSI 防止をめざした閉創. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 23) 野村 務¹⁾, 藤倉輝道²⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 牧野浩司³⁾, 真々田裕宏¹⁾, 宮下正夫⁴⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科, ²⁾ 日本医科大学医学教育センター, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科): 医学生に対する内視鏡外科シミュレータートレーニングについて: 本学における 9 年間の知見. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 24) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 萩原信敏²⁾, 櫻澤信行²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 柿沼大輔²⁾, 菅野仁士²⁾, 新井洋紀²⁾, 宮下正夫²⁾, 牧野浩司²⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 坪井病院外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 上部限局胃癌に対する噴門側胃切除の適応拡大. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
 - 25) 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田陽子³⁾, 石渡俊行³⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医大消化器外科, ²⁾ 日本医大病理, ³⁾ 東京都健康長寿医療センター病理): ヒト膵癌細胞における STAT5b のゲムシタピン抵抗性, 接着性, 浸潤能への関与. 日本癌学会学術集会 (第 75 回) (神奈川県), 2016. 10.
- (6) ワークショップ:
- 1) 武田幸樹¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): 結腸癌 ERAS: 何が重要か?. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.

- 2) 山田岳史¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 循環 DNA を用いた大腸癌新規バイオマーカーの開発. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 3) 柿沼大輔¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 菊池友太¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司²⁾, 櫻澤信行³⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院, 3) 日本医科大学千葉北総病院) : 胃癌リンパ節郭清における至適エネルギーデバイスの選択. 日本外科系連合学会学術集会 (第 41 回) (大阪府), 2016. 6.
- 4) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦²⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 水口義昭²⁾, 松田明久¹⁾, 清水哲也²⁾, 山初和也¹⁾, 高田英志²⁾, 近藤亮太²⁾, 横室茂樹¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 腹腔鏡下肝切除術の標準化に向けた当科オリジナルの手技. 日本肝癌研究会 (第 52 回) (東京都), 2016. 7.
- 5) 野村 務¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 牧野浩司³⁾, 金沢義一¹⁾, 川見典之²⁾, 宮下正夫⁴⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学消化器内科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院外科) : GERD に対する外科治療 : 病態による臨床像と治療成績の比較. 日本食道学会学術集会 (第 70 回) (東京都), 2016. 7.
- 6) 星野慎太郎¹⁾, 川見典之¹⁾, 星川吉正¹⁾, 花田優理子¹⁾, 竹之内菜菜¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 星原芳雄¹⁾, 野村 務²⁾, 岩切勝彦¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科学, 2) 日本医科大学消化器外科) : PPI 抵抗性逆流性食道炎に対するポノプラザンの治療効果. 日本食道学会学術集会 (第 70 回) (東京都), 2016. 7.
- 7) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 川見典之²⁾, 山下直行³⁾, 太田恵一朗¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学消化器内科, 3) 坪井病院外科) : 上部消化管内視鏡検査の食道粘膜下腫瘍の発見頻度および食道非上皮性腫瘍に対する治療. 日本食道学会学術集会 (第 70 回) (東京都), 2016. 7.
- 8) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 術中 ICG 蛍光法による胃管血流評価および術後上部内視鏡を用いた胃管内腔粘膜血流評価. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 9) 近藤亮太¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 中村慶春¹⁾, 川野陽一²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 腹腔鏡下肝切除術における胆汁瘻と出血のトラブルシューティング. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 10) 岩井拓磨¹⁾, 山田岳史¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 横山康行¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : Liquid Biopsy による大腸癌肝転移肝切除後再発高リスク症例の選別. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 71 回) (三重県), 2016. 11.
- 11) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 萩原信敏²⁾, 櫻澤信行²⁾, 宮下正夫²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 菅野仁士²⁾, 柿沼大輔²⁾, 新井洋紀²⁾, 牧野浩司²⁾, 内田英二²⁾ (1) 財団法人慈山会医学研究所付属坪井病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 閉塞症状を有する胃癌患者の対処法による化学療法継続性, 在宅機関, 予後の検討. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (神奈川県), 2016. 10.
- 12) 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松田明久²⁾, 松本智司²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 歩行数から見た大腸癌術後身体機能の回復. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (神奈川県), 2016. 10.
- 13) 進士誠一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 松本智司²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : StageII・III 大腸癌における性別, BMI が組織学的リンパ節検索個数に与える影響. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (神奈川県), 2016. 10.
- 14) 瀬谷知子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 飯田信也¹⁾, 堀場光二¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 関口久美子¹⁾, 保田智彦¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学外科) : 当科における胃癌術後化学療法の現状. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (神奈川県), 2016. 10.
- 15) 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科) : 3D-CT に普及による肝右葉前上区域 (S8) の新亜区域分類. 日本肝臓学会大会 (第 20 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 16) 勝野 暁¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 山初和也²⁾, 横山 正³⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 当科における奥行を重視した腹腔鏡下膵切除術の術野展開法. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 17) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 菊池友太¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 的場秀亮¹⁾, 上田康二¹⁾, 萩原信敏²⁾, 松谷 毅²⁾, 野村 務²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 離断後の食道をストリップングして術野展開後, 106recL 郭清することによって左反回神経麻痺を減らす工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 18) 山田岳史¹⁾, 吉澤一巳²⁾, 田代真弓²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 柿沼

- 大輔¹、金沢義一¹、藤田逸郎¹、太田恵一朗¹、内田英二¹、その他1名¹ (1) 日本医科大学消化器外科、² 東京理科大学薬学部疾患薬理学研究室) : EPA と BCAA の抗がん剤誘発食欲低下および骨格筋量減少の予防効果. 日本外科代謝栄養学会学術集会 (第53回) (東京都), 2016. 7.
- 19) 松田明久¹、山田真吏奈¹、松本智司¹、櫻澤信行¹、川野陽一¹、関口久美子¹、山田岳史²、高橋吾郎²、宮下正夫¹、内田英二² (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科、² 日本医科大学消化器外科) : 脂質関連メディエーターに着目した消化器外科術後合併症の早期診断. 日本外科代謝栄養学会学術集会 (第53回) (東京都), 2016. 7.
- 20) 丸山 弘¹、吉田 寛¹、牧野浩司¹、横山 正¹、平方敦史¹、内田英二² (1) 日本医科大学多摩永山病院外科、² 日本医科大学付属病院消化器外科) : 当院における敗血症・院内感染対策. 日本腹部救急医学会総会 (第53回) (神奈川県), 2017. 3.
- 21) 山田岳史¹、青木悠人¹、岩井拓磨¹、高橋吾郎¹、武田幸樹¹、横山康行¹、小泉岐博¹、松田明久²、堀田正啓¹、松本智司²、太田恵一朗¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科、² 日本医科大学千葉北総病院外科) : 造影 CT による非壊死性絞扼性腸閉塞の診断. 日本腹部救急医学会総会 (第53回) (神奈川県), 2017. 3.
- 22) Kogo H^{1, 2}、Shimizu M¹、Negishi Y¹、Tomita Y¹、Uchida E²、Takahashi H¹ (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School、² Department of Surgery for Organ and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Sequential Administration of agalactosylceramide induced Suppression of a Murine Tumor Growing in vivo through CD8+ CTLs via Activated DEC-205+ Dendritic Cells in Vivo. 日本免疫学会総会学術集会 (第45回) (沖縄県), 2016. 12.
- (7) ポスター :
- 1) 横山康行¹、和田龍一¹、下田朋宏¹、近藤亮太¹、内藤善哉¹ (1) 日本医科大・医・病理) : 潰瘍性大腸炎に発症した S 状結腸および直腸の多発性扁平上皮癌の1例. 日本病理学会総会 (第105回) (宮城県), 2016. 5.
- 2) 高橋吾郎¹、山田岳史¹、松本智司²、金沢義一¹、小泉岐博¹、進士誠一¹、松田明久²、横山康行¹、岩井拓磨¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科、² 日本医科大学千葉北総病院外科) : 末梢血循環 DNA を用いた real-time personalized therapy : 効果と耐性を予測する分子標的治療. 日本癌病態治療研究会 (第25回) (千葉県), 2016. 6.
- 3) 岩井拓磨¹、山田岳史¹、菅 隼人¹、小泉岐博¹、進士誠一¹、横山康行¹、高橋吾郎¹、太田恵一朗¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科) : 脾容積変化を用いた大腸癌術後補助化学療法による類洞障害の評価. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪府), 2016. 6.
- 4) 新井洋紀¹、和田龍一¹、石野孔祐¹、工藤光洋¹、内藤善哉¹ (1) 日本医科大学大学院医学研究科統御機構診断病理学) : 胃癌の網羅的蛋白質発現解析 - 接合部胃癌の病態関連分子の同定の試み. 日本病理学会総会 (第105回) (宮城県), 2016. 5.
- 5) 菅野仁士¹、藤田逸郎¹、金沢義一¹、柿沼大輔¹、新井洋紀¹、下田朋宏¹、萩原信敏¹、松谷 毅¹、野村 務¹、櫻澤信行²、牧野浩司³、山下直行⁴、木山輝郎⁵、太田恵一朗¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科、² 日本医科大学千葉北総病院外科、³ 日本医科大学多摩永山病院外科、⁴ 坪井病院外科、⁵ 朝霞台中央総合病院外科) : 腹部救急疾患における周術期栄養管理の検討. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪府), 2016. 6.
- 6) 萩原信敏¹、松谷 毅¹、野村 務¹、藤田逸郎¹、金沢義一¹、柿沼大輔¹、菅野仁士¹、新井洋紀¹、牧野浩司²、内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科、² 日本医科大学多摩永山病院外科) : 食道癌術後再建胃管内に発生した消化管間質腫瘍の1例. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪府), 2016. 6.
- 7) 水口義昭¹、真々田裕宏¹、神田知洋¹、古木裕康¹、清水哲也¹、谷合信彦¹、中村慶春¹、吉岡正人¹、松下 晃¹、勝野 暁¹、住吉宏樹¹、高田英志¹、金谷洋平¹、近藤亮太¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科) : 胆管癌 EMT における TGF-beta1 と miR-200 の直接交絡の関与とターゲット蛋白の同定. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.
- 8) 青木悠人¹、谷合信彦¹、吉岡正人¹、川野陽一²、清水哲也¹、高田英志¹、近藤亮太¹ (1) 日本医科大学消化器外科、² 日本医科大学千葉北総病院外科) : 炎症マーカーによる肝切除術後のドレーン感染の予測. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.
- 9) 勝野 暁¹、中村慶春¹、松下 晃¹、住吉宏樹¹、山初和也¹、横山 正¹、神田知洋¹、清水哲也¹、水口義昭¹、川野陽一¹、吉岡正人¹、谷合信彦¹、真々田裕宏¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学消化器外科) : チーム内で統一された腹腔鏡下尾側膵切除術 (Lap-DP) におけるドレーン管理法. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.
- 10) 住吉宏樹¹、中村慶春¹、松下 晃¹、勝野 暁¹、山初和也¹、高田英志¹、神田知洋¹、清水哲也¹、水口義昭¹、吉岡正人¹、横山正¹、谷合信彦¹、内田英二¹ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 膵インスリノーマに対する腹腔鏡下機能温存膵切除術 : 術中 IRI モニタリングの有用性. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.
- 11) 上田純志¹、吉田 寛¹、牧野浩司¹、横山 正¹、真々田裕宏²、谷合信彦²、吉岡正人²、青木悠人²、川野陽一¹、水口義昭²、清水哲也²、神田知洋²、高田英志²、近藤亮太²、内田英二² (1) 日本医科大学多摩永山病院外科、² 日本医科大学付属病院) : 肝切除時の Pringle 法における肝十二指腸間膜用手マッサージ法の有用性の検討. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.

- 12) 山岸征嗣¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 谷合信彦²⁾, 村木 輝¹⁾, 三島圭介¹⁾, 針金幸平¹⁾, 助川 誠¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学付属病院外科): 当院での肝切除術における術後経過の検討. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪府), 2016. 6.
- 13) 清水哲也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): Reduced port surgery を考慮したエネルギーデバイスセッティングの工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪府), 2016. 6.
- 14) Takano R¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School): Clinical outcomes of 15 consecutive patients who underwent laparoscopic insulinoma resection: The usefulness of monitoring intraoperative blood insulin during laparoscopic pancreatectomy. 日本膵臓学会大会 (第 47 回) (宮城県), 2016. 8.
- 15) Yamahatsu K¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Kawano Y¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School): Surgical resection for malignant solid-pseudopapillary tumor: a case report. 日本膵臓学会大会 (第 47 回) (宮城県), 2016. 8.
- 16) 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 横山康行¹⁾, 相原恵美²⁾, 山口文子²⁾, 菊永恭子²⁾, 林 太祐³⁾, 星川美夕紀³⁾, 中村博子³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学看護部, 3) 日本医科大学薬剤部): 術式別パスによる大腸癌周術期管理. 日本クリニカルパス学会学術集会 (第 17 回) (石川県), 2016. 11.
- 17) Shimizu T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Mamada Y¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School): Choledochal cyst diagnosed during pregnancy and treated by postpartum laparoscopic choledochal cyst excision: report of a case. 国際外科学会世界総会 (第 40 回) (京都府), 2016. 10.
- 18) 横山 正¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 武井寛幸²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, 2) 日本医科大学乳腺科, 3) 日本医科大学消化器外科): 抗 HER-2 療法としてのトラスツズマブーエムタンシン (T-DM1) の当院における使用状況. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 19) 関 奈紀¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木えりか²⁾, 中井麻木²⁾, 柳原恵子²⁾, 吉田 寛¹⁾, 蒔田益次郎⁵⁾, 飯田信也⁴⁾, 内田英二³⁾, 武井寛幸²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, 2) 日本医科大学附属病院乳腺科, 3) 日本医科大学付属病院消化器外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院乳腺科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科): 広範囲皮膚浸潤を伴う局所進行乳癌における当院の治療方針について. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- (8) 一般講演:
- 1) 高橋吾郎¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 山岸杏彌¹⁾, 横山康行¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 閉塞性大腸癌に対する大腸ステント挿入は Circulating cell free DNA 量を増加させる. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
- 2) 進士誠一¹⁾, 松田陽子²⁾, 横山康行¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 新井富夫²⁾, 内藤善哉³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 東京都健康長寿医療センター病理診断科, 3) 日本医科大学病理 (統御機構・腫瘍学)): 低分化成分を有する大腸癌における hMLH1 発現と serrated pathway. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
- 3) 岩井拓磨¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 松田明久²⁾, 横山康行¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 末梢血 ccfDNA を用いた大腸癌肝転移術後の早期再発予測. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
- 4) 菅 隼人¹⁾, 高橋慶一²⁾, 安野正道²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 東京大腸セミナー学術集会): アンケート結果による若手外科医に対する大腸癌手術初期教育の現状の報告. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
- 5) 増田有香¹⁾, 清水哲也¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 川島万平¹⁾, 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 家族性高コレステロール血症を併存し診断に苦慮した小腸虚血の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 339 回) (東京都), 2016. 5.
- 6) 小泉岐博¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 直腸癌に対する術前化学療法 (mFOLFOX6 の療法) の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 7) 岩井拓磨¹⁾, 山田岳史¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 末梢血循環 DNA を用いた大腸癌肝転移に治療切除後再発高リスク症例の選別. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 8) 横山康行¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 当科における直腸手術後縫合不全の治療に関する検討. 日

- 本消化器外科学会総会（第71回）（徳島県），2016. 7.
- 9) 進士誠一¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司²⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，横山康行¹⁾，高橋吾郎¹⁾，岩井拓磨¹⁾，太田恵一朗¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：内視鏡外科技術認定（大腸）取得のコツと対策. 日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島県），2016. 7.
 - 10) 高橋吾郎¹⁾，山田岳史¹⁾，菅 隼人¹⁾，小泉岐博¹⁾，松田明久²⁾，進士誠一¹⁾，横山康行¹⁾，岩井拓磨¹⁾，太田恵一朗¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学大学院臓器病態制御外科学，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：5-FU 関連代謝酵素発現に注目した結腸癌 Stage IIIA 症例に対する術後補助化学療法. 日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島県），2016. 7.
 - 11) 大草幹大¹⁾，進士誠一¹⁾，菅 隼人¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，横山康行¹⁾，高橋吾郎¹⁾，岩井拓磨¹⁾，太田恵一朗¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科）：高齢者大腸癌腹腔鏡手術における皮下気腫発症の予測因子の検討. 日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島県），2016. 7.
 - 12) 松田明久¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，川野陽一¹⁾，山田岳史²⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科）：閉塞性大腸癌における大腸ステントによる BTS (bridge to surgery) の功罪. 日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島県），2016. 7.
 - 13) 原 敬介^{1,2)}，高 和英^{1,2)}，坂本 渉¹⁾，旭 修司¹⁾，島貫公義¹⁾，田中瑞子³⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 会津中央病院外科，²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科，³⁾ 福島県立医科大学附属病院）：肉腫様変化を伴う肝細胞癌に対して手術施行した1例. 日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島県），2016. 7.
 - 14) 川島万平¹⁾，山田岳史¹⁾，菅 隼人¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，横山康行¹⁾，高橋吾郎¹⁾，岩井拓磨¹⁾，太田恵一朗¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科）：polyethylene glycol は腹腔鏡補助下結腸癌手術の術後消化管蠕動の回復を遅延させる. 日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島県），2016. 7.
 - 15) 水谷 聡¹⁾，鈴木英之¹⁾，相本隆幸²⁾，山岸征嗣¹⁾，三島圭介¹⁾，村木 輝¹⁾，大山莉奈¹⁾，清水貴夫¹⁾，前島顕太郎¹⁾，吉野雅則¹⁾，渡辺昌則¹⁾，北山康彦³⁾，内田英二⁴⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 正風会小林病院外科，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部，⁴⁾ 日本医科大学消化器外科）：SMA 神経叢全周温存脾頭十二指腸切除に対する Tissue Marking Dye による DPM 細分類と DPM 陽性の部位別検討. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
 - 16) 青木悠人¹⁾，山田岳史¹⁾，安藤文彦¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司²⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，松田明久²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：絞扼性腸閉塞の早期診断：造影 CT での解剖学的異常と灌流障害の検出. 日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪府），2016. 4.
 - 17) 犬飼 惇¹⁾，吉岡正人¹⁾，清水哲也¹⁾，高田英志¹⁾，近藤亮太¹⁾，金谷洋平¹⁾，青木悠人¹⁾，水口義昭¹⁾，神田知洋¹⁾，松下 晃¹⁾，勝野 暁¹⁾，中村慶春¹⁾，真々田裕宏¹⁾，谷合信彦¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科）：肝細胞癌と診断され腹腔鏡下肝切除術を施行した肝血管筋脂肪腫の1切除例. 外科集談会（第841回）（埼玉県），2016. 6.
 - 18) 青木悠人¹⁾，谷合信彦¹⁾，吉岡正人¹⁾，川野陽一²⁾，清水哲也¹⁾，近藤亮太¹⁾，金谷洋平¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：3D 画像を用いたシミュレーション - 肝内の位置関係，肝外との位置関係の把握. 肝癌治療シミュレーション研究会（第11回）（大阪府），2016. 9.
 - 19) 渡辺昌則¹⁾，勝俣範之²⁾，塙 秀暁¹⁾，門倉玄武²⁾，三島圭介¹⁾，黒田誠司¹⁾，野村 聡¹⁾，鈴木英之¹⁾，内田英二³⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科，³⁾ 日本医科大学消化器外科）：食道がんに対する3週毎5FU+CDDP+ 毎週パクリタキセル (weekly PCF) 療法の第I相試験. 日本食道学会学術集会（第70回）（東京都），2016. 7.
 - 20) 梅田隆満¹⁾，河越哲郎¹⁾，梅澤まり子¹⁾，川見典之¹⁾，萩原信敏²⁾，松谷 毅²⁾，野村 務²⁾，大川敬一⁴⁾，宮下正夫³⁾，岩切勝彦¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科，²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科，³⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科，⁴⁾ 元郷医院）：集学的治療により長期生存が得られた根治術後再発食道癌の1例. 日本食道学会学術集会（第70回）（東京都），2016. 7.
 - 21) 松谷 毅¹⁾，野村 務¹⁾，萩原信敏¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，柿沼大輔¹⁾，菅野仁士¹⁾，新井洋紀¹⁾，太田恵一朗¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科）：頸胸境界部食道悪性腫瘍切除後の再建法の工夫と成績. 日本食道学会学術集会（第70回）（東京都），2016. 7.
 - 22) 三島圭介¹⁾，渡辺昌則¹⁾，塙 秀暁¹⁾，黒田誠司¹⁾，野村 聡¹⁾，前島顕太郎¹⁾，千原直人¹⁾，坊 英樹¹⁾，鈴木英之¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：2箇所穿孔部位を認めた Boerhaave 症候群の1例. 日本食道学会学術集会（第70回）（東京都），2016. 7.
 - 23) 牧野浩司¹⁾，吉田 寛¹⁾，丸山 弘¹⁾，横山 正¹⁾，平方敦史¹⁾，宮下正夫³⁾，萩原信敏²⁾，松谷 毅²⁾，野村 務²⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科，³⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：食道胃接合部癌に対する右側胸腔鏡下部食道切除・郭清と胸腔鏡下吻合. 日本食道学会学術集会（第70回）（東京都），2016. 7.
 - 24) 塙 秀暁¹⁾，渡辺昌則¹⁾，黒田誠司¹⁾，三島圭介¹⁾，野村 聡²⁾，鈴木英之¹⁾，内田英二³⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ さいたま市民医療センター外科，³⁾ 日本医科大学消化器外科）：噴霧式ニトログリセリン製剤を用いた術前気管支動脈造影

- 3DCT の有用性. 日本食道学会学術集会 (第 70 回) (東京都), 2016. 7.
- 25) 川見典之¹⁾, 梅澤まり子¹⁾, 竹之内菜葉¹⁾, 星野慎太郎²⁾, 花田優理子¹⁾, 星川吉正¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 野村 務³⁾, 星原芳雄¹⁾, 岩切勝彦¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科学, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 3) 日本医科大学消化器外科): 2012 年と 2015 年のシカゴ分類 (食道運動障害分類) の比較検討. 日本食道学会学術集会 (第 70 回) (東京都), 2016. 7.
- 26) 栗山 翔¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 山初和也¹⁾, 眞鍋恵理子¹⁾, 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 大型義歯誤飲によって食道裂孔をきたした 2 例. 日本食道学会学術集会 (第 70 回) (東京都), 2016. 7.
- 27) 篠塚恵理子¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 当科における高齢者 GERD・食道裂孔ヘルニア症例に対する治療方針. 日本食道学会学術集会 (第 70 回) (東京都), 2016. 7.
- 28) 高橋宏一¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 古木裕康¹⁾, 青木悠人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 長期生存が得られた胆嚢扁平上皮癌の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 341 回) (東京都), 2016. 9.
- 29) 吉森大悟¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 宮坂俊光¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 慢性膵炎を合併した膵神経内分泌腫瘍 PNET の 1 例. 外科集談会 (第 842 回) (東京都), 2016. 9.
- 30) 吉岡将史¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 菊池友太¹⁾, 的場秀亮¹⁾, 上田康二¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 浅見敬一¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 虫垂炎穿孔にて発症した虫垂原発腹膜偽粘液種の 1 例. 外科集談会 (第 842 回) (東京都), 2016. 9.
- 31) 古木裕康¹⁾, 中村慶春¹⁾, 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 神田知洋¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 青木悠人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 先天性胆道拡張症術後の遺残膵内胆管癌の文献的調査. 日本外科病理学会学術集会 (第 21 回) (埼玉県), 2016. 9.
- 32) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 野村 務²⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 内田英二²⁾, 篠塚恵理子¹⁾ (1) 日本消化器外科多摩永山病院消化器外科・乳腺外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 当科における食道裂孔ヘルニアに対する治療方針と腹腔鏡下手術症例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 33) 菅野仁士¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 木山輝郎²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 朝霞中央総合病院外科): 術前サルコペニアが胃癌患者に及ぼす予後への影響. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 34) 高田英志^{1,2)}, 和田龍一²⁾, 工藤光洋²⁾, 石野孔祐²⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志^{1,2)}, 内田英二¹⁾, 内藤善哉¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院統御機構診断病理学): 肝細胞癌における protein disulfide-isomerase A3 の発現と臨床病理学的検討. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 35) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 青木悠人¹⁾, 上田純志²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科): 肝右葉前上区域腹側, 背側切除術において anterior fissure vein は landmark となりうるのか?. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 36) 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 胆道・膵臓内視鏡外科手術におけるチーム内で統一された出血時の strategy. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 37) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 古木裕康¹⁾, 水口義昭¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下膵尾部側膵切除術における技術認定医取得のコツと高難度膵臓・胆道内視鏡外科手術の教育について. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 38) 針金幸平¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 三島圭介¹⁾, 村木 輝¹⁾, 助川 誠¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 開腹総胆管結石手術における SSI の現状と問題点. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 39) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 三島圭介¹⁾, 村木 輝¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 一色彩子²⁾, 北山康彦³⁾, 内田英二⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 4) 日本医科大学付属病院消化器外科): SMA 神経叢全周温存膵頭十二指腸切除における Tissue Marking Dye を用いた DPM 細胞分類と DPM 陽性の部位別検討. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 40) 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 豚モデルによる胆膵腹腔鏡手術トレーニング. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 41) 埜 秀暁¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修³⁾, 野村 聡¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 三島圭介¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) さいたま市民医療センター外科): 胸腔鏡下食道切除術における術中偶

- 発症の経験. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 42) 木山輝郎¹⁾, 菅野仁士²⁾, 塩澤邦久¹⁾, 多田祐輔¹⁾, 玉木雅子¹⁾, 金島研大¹⁾, 澤 宗寛¹⁾, 藤田竜一¹⁾, 内田英二²⁾, 村田 順¹⁾ (1) 朝霞中央病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下胃全摘における完全器械縫合による順蠕動側々吻合; 端側吻合との比較検討. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 43) 清水哲也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 肝静脈の分岐形態から見た腹腔鏡下肝外側区域切除の strategy. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 44) 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷合信彦²⁾, 中村慶春²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 吉岡正人²⁾, 松田明久¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下肝切除術でのイチョウ型開腹用エコープローブの挿入法と有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 45) 高野竜太郎¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 脾インスリノーマに対する腹腔鏡下脾切除術の手術成績および術中インスリン値モニタリングの有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 46) 日下部誠¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除術の長期成績を含めた検討. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 47) 勝野 暁¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 古木裕康¹⁾, 日下部誠¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): チーム内で統一された腹腔鏡下尾側脾切除術 (Lap-DP) におけるドレーン管理法. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 48) 山岸杏彌¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 山下直行¹⁾, 安藤文彦¹⁾ (1) 坪井病院外科): 消化器外科が介入した卵巣癌症例の検討: 特に secondary cytoreductive surgery (SCS) における外科医の役割. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 49) 渡辺昌則¹⁾, 勝俣範之³⁾, 野村 聡¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 三島圭介¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 門倉玄武³⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学医学部消化器外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科): 進行食道癌に対する PTX+CDDP+5FU (weekly PCF) 療法の第 I 相試験. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 50) 安藤文彦¹⁾, 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学医学部消化器外科): 噴門側胃切除後の残胃癌: その特徴と有効な対処方法. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 51) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 当科における残胃癌手術症例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 52) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 櫻澤信行²⁾, 萩原信敏²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 菅野仁士²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 進行残胃癌に対する治療戦略: 疾患構造や初回手術法の変遷に対応して. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 53) 原田潤一郎¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 菊池友太³⁾, 栗山 翔¹⁾, 奥山奈美子²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院血液内科, 3) 日本医科大学付属病院消化器外科): 術前に診断し得た後天性血友病を合併した穿孔性胃癌の一切切除. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 54) 山岸征嗣¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 助川 誠¹⁾, 針金幸平¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 十二指腸 Brunner 腺癌の 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 55) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 進行再発大腸癌後期化学療法における経口化学療法の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- 56) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下脾切除術の標準化に向けた取り組みについて. いわて肝胆膵内視鏡手術セミナー (岩手県), 2016. 10.
- 57) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下脾切除術の導入・定着に向けた strategy. 静岡ビデオ手術手技セミナー (第 29 回) (静岡県), 2016. 10.
- 58) 中川まどか¹⁾, 倉藤晶子¹⁾, 谷合信彦²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学附属病院中央手術室, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 高反発傾斜付きクッションを用いた腹腔鏡下大腸切除術による褥瘡発症率の軽減. 日本手術医学会総会 (第 38 回) (沖縄県), 2016. 11.
- 59) 宇佐美伊織¹⁾, 大井真貴子¹⁾, 中川まどか¹⁾, 倉藤晶子¹⁾, 谷合信彦²⁾ (1) 日本医科大学附属病院中央手術室, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下肝切除術における苦手意識改善に対する取り組み. 日本手術医学会総会 (第 38 回) (沖縄県), 2016. 11.
- 60) 河原香織¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 倉藤晶子²⁾, 上村明子²⁾, 谷合信彦³⁾, 坂本篤裕⁴⁾ (1) 日本医科大学附属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病

- 院看護部, ³⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院麻酔科): 臨床工学技士による医療機器教育への取り組み. 日本手術医学会総会 (第 38 回) (沖縄県), 2016. 11.
- 61) 吉田康平¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 倉藤晶子²⁾, 上村明子²⁾, 谷谷信彦³⁾, 坂本篤裕⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院 ME 部, ²⁾ 日本医科大学付属病院看護部, ³⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院麻酔科): 自己血回収装置の回収量誤差についての検証. 日本手術医学会総会 (第 38 回) (沖縄県), 2016. 11.
- 62) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 櫻澤信行²⁾, 萩原信敏²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 柿沼大輔²⁾, 菅野仁士²⁾, 宮下正夫²⁾, 牧野浩司²⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 坪井病院, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下胃切除後の食事摂取, 体重変化. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 63) 進士誠一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科): 腹腔鏡下左側横行結腸/下行結腸 (脾彎曲部) 進行癌の定型化への取り組み. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 64) 柿沼大輔¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 櫻澤信行²⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司³⁾, 内田英二¹⁾, 菊池友太³⁾, 山下直行⁴⁾, 宮下正夫²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科, ⁴⁾ 坪井病院外科): 腹腔鏡下胃切除における神経外層剥離による内側アプローチを応用した幽門下領域の郭清. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 65) 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 保田智彦¹⁾, 関口久美子¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 増田寛喜¹⁾, 川島万平¹⁾, 日下部誠¹⁾, 香伸伸太郎¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医大千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医大付属病院消化器外科): 6 番リンパ節の新しい郭清法 GEAR DOWN 郭清. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 66) 横山康行¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科): 腹腔鏡下直腸手術におけるドレーン位置が縫合不全の治療経過に与える影響. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 67) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): 当科における腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア修復術の定型化に向けた取り組み. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 68) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術におけるエネルギーデバイスの選択. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 69) 菊池友太¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 的場秀亮¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 上田康二¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 浅見敬一¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 野村 務²⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 当科における腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術と超高齢者や嚥下障害症例に対する治療方針の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 70) 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 古木裕康¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): 当院における単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の成績と工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 71) 清水哲也¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 青木悠人¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科): 安全な腹腔鏡下外側区域切除を目指した工夫 - hanging maneuver の使用と UFV の同定の重要性 -. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 72) 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷谷信彦²⁾, 中村慶春²⁾, 吉岡正人²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松下 晃²⁾, 水口義昭²⁾, 松田明久¹⁾, 清水哲也²⁾, 山初和也¹⁾, 吉田 寛²⁾, 横室茂樹¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下肝切除術の標準化に向けた当科オリジナルのデバイスの工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 73) 山初和也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下肝切除における術中超音波の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 74) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 関口久美子¹⁾, 保田智彦¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下大腸切除後の感染性合併症予測におけるリンパ球-単球比の有用性. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 75) 小峯 修¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 山際 亮¹⁾, 福島慶久¹⁾, 澁谷 肇¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾ (¹⁾ さいたま市民医療センター外科): 腹腔鏡手術における標本摘出後のグローブ法を応用した簡便なプラットフォーム作成の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.
- 76) Matsusaki K¹⁾, Yoshizawa A¹⁾, Ohta K²⁾ (¹⁾ Japanese CART Study Group, Kanamecho Hospital, ²⁾ Japanese CART Study

Group, Nippon Medical School): Active palliation for massive malignant ascites using KM-CART (japanese original ascites therapy system). ESMO (DENMARK), 2016. 10.

77) 松下 晃¹⁾ (1) 日本医科大学): 腹腔鏡下膵体尾部切除術一内視鏡外科技術認定審査基準からみた手術のコツ. 肝胆膵内視鏡下手術勉強会 (第 15 回) (静岡県), 2017. 2.

78) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学): 【要点とコツ】 Swine 鏡視下膵切. 肝胆膵内視鏡下手術勉強会 (第 15 回) (静岡県), 2017. 2.

(9) イブニングセミナー:

1) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 膵胆疾患における advanced laparoscopic surgery と肝管空腸吻合: 成人から学ぶ. 日本小児外科学会秋季シンポジウム (第 32 回) (埼玉県), 2016. 10.

(10) スポンサーワークショップ:

1) 清水哲也¹⁾, 谷谷信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 術前シュミレーションから考慮した腹腔鏡下外側区域切除術の治療戦略. 日本外科系連合学会学術集会 (第 41 回) (大阪府), 2016. 6.

(11) セッション:

1) 菅野仁士¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): PTEG 造設後に完全経口摂取可能となった 1 例. 日本 PTEG 研究会学術集会 (第 15 回) (兵庫県), 2016. 5.

2) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科消化器外科): 後進への手技伝達 - 腹腔鏡下胆管 (肝管) 空腸吻合 -. 平成次世代外科医療研究会 (第 2 回) (北海道), 2016. 10.

3) 中村慶春¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院): 腹腔鏡下膵体尾部切除術 (Lap-DP) を施行する際に必要な知識と技術について. Winter Seminar (北海道), 2017. 3.

4) 山田岳史¹⁾, 青木悠人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 消化管血流の可視化と絞扼性腸閉塞の診断. パイオメディカルインタフェース・ワークショップ (第 8 回) (沖縄県), 2017. 3.

(12) デジタルポスター:

1) 入江利幸¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): サルコイドーシス合併胸部食道癌に対して胸腔鏡下食道切除を施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.

2) 的場秀亮¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 菊池友太¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 上田康二¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 浅見敬一¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下に胃部分切除した, 膿瘍と鑑別困難であった管外発育型胃 GIST の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.

3) 川島万平¹⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 野村 務²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 柿沼大輔²⁾, 菅野仁士²⁾, 新井洋紀²⁾, 太田恵一朗²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 右鎖骨下動脈起始異常を伴う頸胸境界部食道癌に対して胸腔鏡下食道切除を施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.

4) 山岸杏彌¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 山下直行¹⁾, 栗山 翔¹⁾ (1) 坪井病院外科): 術前 CRT にて腫瘍縮小を得, DST 吻合にて再建を行った直腸癌の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.

(13) デジタルポスターセッション:

1) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 牧野浩司²⁾, 山下直行³⁾, 寺崎浩司⁴⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科, 2) 日本医大多摩永山病院外科, 3) 坪井病院外科, 4) (株) LSI メディエンス): 消化管間質腫瘍の特定遺伝子変異を標的とした高感度検出法の開発. 日本消化器病学会大会 (第 58 回) (兵庫県), 2016. 11.

2) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大付属病院消化器外科): 進行・再発胃癌に対する nab-Paclitaxel の tri-weekly 投与の有効性. 日本消化器病学会大会 (第 58 回) (兵庫県), 2016. 11.

3) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 上田康二¹⁾, 宮坂俊光¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 浅見敬一¹⁾, 萩原信敏²⁾, 松谷 毅²⁾, 野村 務²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, 2) 日本医大消化器外科): 食道癌に対する術前化学 (放射線) 療法後の胸腔鏡下食道切除術のコツと注意点. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.

4) 岩井拓磨¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 原 敬介¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大外科): 絞扼性腸閉塞の診断における Circulating cell-free DNA の有用性. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.

5) 川野陽一¹⁾, 谷谷信彦²⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 水口義昭²⁾, 松田明久¹⁾, 清水哲也²⁾, 山初和也¹⁾, 高田英志²⁾, 近藤亮太²⁾, 青木悠人²⁾, 宮下正夫¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二²⁾, その他 1 名 (1) 日本医大千葉北総病院外科, 2) 日本医大付属病院消化器

- 外科)：腹腔鏡下肝切除術における様々な当科オリジナルの手技. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 6) 青木悠人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一²⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大付属病院消化器外科, 2) 日本医大千葉北総病院外科)：肝切除後合併症予測へのプロカルシトニンの有用性：プロカルシトニンはCRPに代わるか？. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 7) 前島顕太郎¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 村木 輝¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医大付属病院消化器外科)：切除不能進行再発胃癌に対する SP 療法の有害事象対策と外来化学療法. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 8) 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 古木裕康¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科)：上消化管手術の既往例に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の工夫-特に Optical 法の有用性について. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 9) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 山初和也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科)：腹腔鏡下膵切除術において SMA 周囲の間膜・神経叢の解剖を視覚認知するための術野展開法. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 10) 進士誠一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 大草幹大¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科, 2) 日本医大千葉北総病院外科)：腹腔鏡下直腸前方切除術における縫合不全の危険因子の検討. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 11) 小泉岐博¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大付属病院消化器外科, 2) 日本医大千葉北総病院外科)：頭側アプローチ先行法による腹腔鏡下横行結腸癌手術. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 12) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大千葉北総病院外科, 2) 日本医大付属病院消化器外科)：大腸ステントによる機械的刺激が腫瘍増殖能に与える影響. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 13) 関口久美子¹⁾, 松田明久¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大千葉北総病院外科, 2) 日本医大付属病院消化器外科)：消化器外科術後における血中 galectin-3 測定の有用性. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 14) 山田岳史¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 原 敬介¹⁾, 松本智司²⁾, 松田明久²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科, 2) 日本医大千葉北総病院外科)：循環 DNA を用いた大腸癌治療のモニタリング. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 15) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 村木 輝¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医大消化器外科)：胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の有用性. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 16) 菅野仁士¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 櫻澤信行²⁾, 牧野浩司³⁾, 山下直行⁴⁾, 木山輝郎⁵⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科, 2) 日本医大千葉北総病院外科, 3) 日本医大多摩永山病院外科, 4) 坪井病院外科, 5) 朝霞台中央総合病院外科)：胃癌術後補助化学療法による骨格筋減少の検討. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 17) 上田純志¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 平方敦史¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 上田康二¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 宮坂俊光¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 内田英二²⁾, その他 1 名 (1) 日本医大多摩永山病院外科, 2) 日本医大消化器外科)：膵頭十二指腸切除術におけるドレーン培養の検討. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 18) 住吉宏樹¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 水口義昭¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科)：膵癌における STAT5b の発現とゲムシタビン感受性, 接着, 浸潤能への関与. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 19) 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 清水哲也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 高田英志¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科)：サイトカイン TGF-beta1 と microRNA200 の直接クロストークによる上皮間葉移行. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 20) 眞鍋恵理子¹⁾, 山初和也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 川野陽一¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 松田明久¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大千葉北総病院外科, 2) 日本医大付属病院消化器外科)：胆嚢原発混合型腺神経内分泌癌の 1 例. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 21) 古木裕康¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 青木悠人¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大付属病院消化器外科)：術後創部感染予防対策としての臍部細菌培養の結果と検討. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (兵庫県), 2016. 11.
- 22) 柿沼大輔¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 菊池友太¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科)：感染を合併した後腹膜嚢胞に対し, 腹腔鏡下嚢胞摘出術を

施行した1例. 日本消化器外科学会大会 (第14回) (兵庫県), 2016. 11.

- 23) 村木 輝¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 三島圭介¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 佐藤悦基²⁾, 福田直人²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医大武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 川崎協同病院, 3) 日本医大消化器外科: HER2 陽性切除不能・再発胃癌における S-1+CDDP+Trastuzumab 療法の検討. 日本消化器外科学会大会 (第14回) (兵庫県), 2016. 11.

(14) ビデオ:

- 1) 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 青木悠人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科: 腹腔鏡下肝切除術の Reduced port surgery 導入と工夫. 日本消化器外科学会総会 (第71回) (徳島県), 2016. 7.

(15) ビデオシンポジウム:

- 1) 進士誠一¹⁾, 中尾淳一²⁾, 青木悠人¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 大草幹大¹⁾, 藪野雄大²⁾, 梅澤裕己²⁾, 小川 令²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学形成外科: 当院における皮弁再建を要する大腸癌治療. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪府), 2016. 6.

(16) ビデオセッション:

- 1) 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷合信彦²⁾, 中村慶春²⁾, 吉岡正人²⁾, 高田英志²⁾, 近藤亮太²⁾, 青木悠人²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 吉田寛²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科: 腹腔鏡下肝切除術でのイチョウ型開腹用 US probe の挿入法と有用性. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.
- 2) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 青木悠人¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学: 肝右葉前上区域腹側, 背側切除における Intersubsegmental hepatic vein. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.
- 3) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科: 安全な腹腔鏡下肝切除術の普及を目指した当科の取り組み. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.
- 4) 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 青木悠人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科: 当科における腹腔鏡下肝切除術の適応と手技の工夫: Reduced port surgery を含めて. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.
- 5) 横山 正¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科, 2) 日本医科大学消化器外科: 膵頭十二指腸切除術における我々の膵再建時の工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.
- 6) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 三島圭介¹⁾, 村木 輝¹⁾, 針金幸平¹⁾, 助川 誠¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科: 腹部動脈合併尾側膵切除 (CP-CAR) における Kocker 授動を起点とした腹腔動脈へのアプローチ. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.
- 7) 平方敦史¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横山 正¹⁾, 上田純志¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 清水恵理子¹⁾, 上田康二¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 宮坂俊光¹⁾, 浅見敬一¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科: 肝切除における適切な VIO system の使用法. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第28回) (大阪府), 2016. 6.

(17) ビデオワークショップ:

- 1) 川島万平¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器外科: 卒後3, 4年目専修医による待機的単孔式腹腔鏡下虫垂切除術. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪府), 2016. 6.
- 2) 上田康二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 平方敦史¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 上田純志¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 宮坂俊光¹⁾, 浅見敬一¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科: 消化管出血を来した粘膜下腫瘍に対して血管内治療後待機的に手術を施行した1例. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪府), 2016. 6.
- 3) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 萩原信敏²⁾, 松谷 毅²⁾, 野村 務²⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 上田純志¹⁾, 菊池友太¹⁾, 櫻澤信行³⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科: 食道癌 VATS-E での工夫: 106recL 郭清 (stripping 法), 頸部吻合と腸瘻造設. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪府), 2016. 6.
- 4) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 菊池友太¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科: 腹腔鏡下胃切除 (LAG) から学ぶ, 背側境界も意識したリンパ節 #11 郭清のこだわり. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪府), 2016. 6.
- 5) 浅見敬一¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 平方敦史¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 上田純志¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 上田康二¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科: TAPP

の手術手技とその合併症. 日本外科系連合学会学術集会 (第 41 回) (大阪府), 2016. 6.

- 6) 清水哲也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 上田純志²⁾, 高田英志²⁾, 吉岡正人¹⁾, 平方敦史²⁾, 川野陽一³⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院, 3) 日本医科大学千葉北総病院): 当科における腹腔静脈シャント挿入術の手術方法とその成績. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 23 回) (兵庫県), 2016. 9.
- 7) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 清水哲也¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 増田有香¹⁾, 高橋宏一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹部救急外科領域における赤外線観察カメラシステムを用いた術中 ICG 蛍光法の活用. 日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (神奈川県), 2017. 3.
- (18) フォーラム:
 - 1) Matsushita A¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Katsuno A¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School): The surgical techniques of laparoscopic pancreaticoduodenectomy aiming at safety. 日本膵臓学会大会 (第 47 回) (宮城県), 2016. 8.
 - 2) Kusakabe M¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Katsuno A¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School): Clinical outcomes for 14 consecutive patients with solid pseudopapillary neoplasms who underwent laparoscopic distal pancreatectomy. 日本膵臓学会大会 (第 47 回) (宮城県), 2016. 8.
- (19) ミニシンポジウム:
 - 1) 藤井正一¹⁾, 石黒めぐみ²⁾, 手良向聡³⁾, 松田 宙⁴⁾, 上野秀樹⁵⁾, 安政啓吾⁶⁾, 尾嶋 仁⁷⁾, 江川智久⁸⁾, 進士誠一⁹⁾, 井川 理¹⁰⁾, 村田幸平¹⁰⁾, 山上英樹¹⁰⁾, 横山 登¹⁰⁾, 山口高史¹⁰⁾, 杉原健一¹⁰⁾ (1) 横浜市立大学付属市民総合医療センター消化器病センター外科, 2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科応用腫瘍学講座, 3) 京都府立医科大学生物統計学, 4) 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期総合医療センター消化器外科, 5) 防衛医科大学校外科, 6) 独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院外科, 7) 群馬県立がんセンター消化器外科, 8) 社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院外科, 9) 日本医科大学千葉北総病院外科, 10) その他): Stage II 大腸癌における術後補助化学療法の有用性; SACURA trial. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (神奈川県), 2016. 10.
- (20) 医学生・初期臨床研修医:
 - 1) 岡本浩和¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 不完全内臓逆位に伴う胆石症に対し, 腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
 - 2) 吉田圭志¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 高度脊柱後彎症の高齢総胆管結石患者に対して腹腔鏡下総胆管切開切石術を施行した 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- (21) 医学生・初期臨床研修医セッション:
 - 1) 月崎 裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): Hybrid 単孔式 Interval appendectomy の安全性. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- (22) 医学生・初期臨床研修医ポスター:
 - 1) 銭 真臣¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 閉鎖循環下抗癌剤灌流療法後に腹会陰式直腸切断術を施行した直腸癌の 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
- (23) 一般演題:
 - 1) 清水哲也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 青木悠人¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 安全な腹腔鏡下外側区域切除を施行するための umbilical fissure vein の同定の重要性. 肝臓内視鏡外科研究会 (第 10 回) (東京都), 2016. 11.
 - 2) 菅野仁士¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 櫻澤信行²⁾, 牧野浩司³⁾, 山下直行⁴⁾, 木山輝郎⁵⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科, 4) 坪井病院外科, 5) 朝霞台中央総合病院外科): 幽門側胃切除術後における骨格筋減少の推移とその意義. 日本外科代謝栄養学会学術集会 (第 53 回) (東京都), 2016. 7.
 - 3) 赤間悠一^{1,2)}, 島貫公義¹⁾, 渡辺洋平¹⁾, 高 和英^{1,2)}, 高野竜太郎^{1,2)}, 光井 卓¹⁾, 菊池 慈¹⁾ (1) 会津中央病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 小腸に穿破し, 診断に難渋した小腸原発 gangliocytic paraganglioma の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (神奈川県), 2017. 3.
 - 4) 関口久美子¹⁾, 松田明久¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 保田智彦¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 増田寛喜¹⁾, 川島万平¹⁾, 香中伸太郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 当科で経験した腸管気腫症の 5 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (神奈川県), 2017. 3.
 - 5) 安藤文彦¹⁾, 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 下部直腸癌術前治療中の癒痕性閉塞に対して大腸ステントを挿入し手

- 術施行した2例。日本腹部救急医学会総会（第53回）（神奈川県），2017. 3.
- 6) 大野 崇¹⁾，野村 務¹⁾，松谷 毅¹⁾，萩原信敏¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，柿沼大輔¹⁾，菅野仁士¹⁾，新井洋紀¹⁾，下田朋宏¹⁾，太田恵一朗¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学消化器外科）：Schloffer 腫瘍を疑って手術施行し明細胞癌の腹壁転移であった1例。日本腹部救急医学会総会（第53回）（神奈川県），2017. 3.
 - 7) 浅見敬一¹⁾，牧野浩司¹⁾，吉田 寛¹⁾，丸山 弘¹⁾，横山 正¹⁾，平方敦史¹⁾，上田純志¹⁾，高田英志¹⁾，関 奈紀¹⁾，菊池友太¹⁾，篠塚恵理子¹⁾，上田康二¹⁾，宮下哲平¹⁾，吉岡将史¹⁾，内田英二²⁾，その他1名（¹⁾日本医科大学多摩永山病院外科，²⁾日本医科大学附属病院）：右胃大網動脈を用いた冠動脈バイパス術後の胃癌に対し，幽門側胃切除術を施行した1例。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 8) 松崎圭祐¹⁾，太田恵一朗²⁾（¹⁾要町病院腹水治療センター，²⁾日本医科大学外科）：KM-CARTによる大量胃癌腹水に対する積極的症状緩和とテーラーメイド癌治療。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 9) 藤田逸郎¹⁾，柿沼大輔¹⁾，松野邦彦¹⁾，新井洋紀¹⁾，下田朋宏¹⁾，櫻澤信行²⁾，金沢義一¹⁾，萩原信敏¹⁾，山下直行⁴⁾，松谷 毅¹⁾，牧野浩司³⁾，野村 務¹⁾，加藤俊二¹⁾，宮下正夫²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学附属病院消化器外科，²⁾日本医科大学千葉北総病院消化器外科，³⁾日本医科大学多摩永山病院消化器外科，⁴⁾坪井病院外科）：節外転移陽性進行胃癌の1例。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 10) 松谷 毅¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，萩原信敏¹⁾，柿沼大輔¹⁾，菅野仁士¹⁾，新井洋紀¹⁾，野村 務¹⁾，太田恵一朗¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学消化器外科）：胃癌脳転移：本邦論文報告59例の検討。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 11) 菊池友太¹⁾，牧野浩司¹⁾，丸山 弘¹⁾，横山 正¹⁾，平方敦史¹⁾，上田純志¹⁾，高田英志¹⁾，関 奈紀¹⁾，篠塚恵理子¹⁾，上田康二¹⁾，宮下哲平¹⁾，吉岡将史¹⁾，浅見敬一¹⁾，吉田 寛¹⁾，内田英二²⁾，その他1名（¹⁾日本医科大学多摩永山病院外科，²⁾日本医科大学消化器外科）：胃癌髄膜癌腫症の3例。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 12) 松野邦彦¹⁾，金沢義一¹⁾，藤田逸郎¹⁾，柿沼大輔¹⁾，菅野仁士¹⁾，新井洋紀¹⁾，下田朋宏¹⁾，野村 務¹⁾，松谷 毅¹⁾，萩原信敏¹⁾，牧野浩司²⁾，加藤俊二¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学消化器外科，²⁾日本医科大学多摩永山病院外科）：当院における残胃癌術後85例の検討。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 13) 前島頭太郎¹⁾，坊 英樹¹⁾，鈴木英之¹⁾，渡辺昌則¹⁾，水谷 聡¹⁾，吉野雅則¹⁾，千原直人¹⁾，三島圭介¹⁾，村木 輝¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾日本医科大学附属病院消化器外科）：腹腔鏡下幽門側胃切除術における肥満が及ぼす術中・術後の合併症。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 14) 栗山 翔¹⁾，山下直行¹⁾，山岸杏彌¹⁾，湖山信篤¹⁾（¹⁾坪井病院外科）：胃癌術後肝転移再発を繰り返すも集学的治療により長期生存を得ている1例。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 15) 水谷 聡¹⁾，鈴木英之¹⁾，埴 秀暁¹⁾，山岸征嗣¹⁾，大山莉奈¹⁾，相本隆幸¹⁾，小山裕司¹⁾，前島頭太郎¹⁾，吉野雅則¹⁾，坊 英樹¹⁾，渡辺昌則¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾日本医科大学外科）：切除不能胃癌に対して化学療法後，臍頭十二指腸切除術を施行し組織学的CRが得られた1例。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 16) 三島圭介¹⁾，坊 英樹¹⁾，鈴木英之¹⁾，渡辺昌則¹⁾，吉野雅則¹⁾，水谷 聡¹⁾，千原直人¹⁾，前島頭太郎¹⁾，村木 輝¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾日本医科大学附属病院消化器外科）：高齢者（80歳以上）胃癌手術における術後合併症と縮小手術の予後に与える影響。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 17) 保田智彦¹⁾，櫻澤信行¹⁾，金沢義一²⁾，藤田逸郎²⁾，宮下正夫¹⁾，太田恵一朗²⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科，²⁾日本医科大学附属病院）：当院における胃GISTに対する腹腔鏡手術の導入。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 18) 牧野浩司¹⁾，吉田 寛¹⁾，丸山 弘¹⁾，横山 正¹⁾，平方敦史¹⁾，上田純志¹⁾，高田英志¹⁾，菊池友太¹⁾，的場秀亮¹⁾，上田康二¹⁾，柿沼大輔²⁾，櫻澤信行³⁾，金沢義一²⁾，藤田逸郎²⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学多摩永山病院外科，²⁾日本医科大学消化器外科，³⁾日本医科大学千葉北総病院外科）：食道胃接合部癌に対する胸腔鏡下縦隔リンパ節郭清と吻合およびPD後症例の胃管作成の工夫。日本胃癌学会総会（第89回）（広島県），2017. 3.
 - 19) 香中伸太郎¹⁾，川野陽一¹⁾，横室茂樹¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，松田明久¹⁾，山初和也¹⁾，保田智彦¹⁾，安藤文彦¹⁾，川島万平¹⁾，内藤善哉⁴⁾，羽鳥 務³⁾，平野孝幸³⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科，²⁾日本医科大学消化器外科，³⁾日本医科大学千葉北総病院病理部，⁴⁾日本医科大学統御機構診断病理学）：成人に発症した肝芽腫の1例。外科集談会（第844回）（東京都），2017. 3.
 - 20) 神田知洋¹⁾，中村慶春¹⁾，真々田裕宏¹⁾，谷合信彦¹⁾，松下 晃¹⁾，吉岡正人¹⁾，川野陽一²⁾，清水哲也¹⁾，古木裕康¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾日本医科大学附属病院消化器外科，²⁾日本医科大学千葉北総病院消化器外科）：当科における上腹部消化管手術既往のある腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討。腹腔鏡下胆道手術研究会（第6回）（宮城県），2017. 2.
 - 21) 酒井寛泰¹⁾，甲斐友規¹⁾，里 史明¹⁾，湯本哲郎¹⁾，山田岳史²⁾（¹⁾星薬科大学疾患病解析学，²⁾日本医科大学消化器外科）：シスプラチン誘発ユビキチン-プロテアソーム系を介する筋委縮亢進機序。日本静脈経腸栄養学会学術集会（第32回）（岡山県），2017. 2.
 - 22) 手塚 栞¹⁾，田代真弓¹⁾，山根碧衣¹⁾，星野結衣¹⁾，山田岳史²⁾，高橋吾郎²⁾，内田英二²⁾，吉澤一巳¹⁾（¹⁾東京理科大学薬学部薬理学

研究室, 2) 日本医科大学消化器外科): シスプラチン誘発食欲不振モデルマウスに対する必須脂肪酸の有用性に関する検討. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (第 32 回) (岡山県), 2017. 2.

- 23) 柿沼大輔¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院消化器外科): “内側アプローチ”を利用した幽門下領域郭清. 日本胃癌学会総会 (第 89 回) (広島県), 2017. 3.

(24) 一般演題 (ポスター):

- 1) 松田明久¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 関口久美子¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科消化器外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 大腸癌周術期における血中 PCSK9 (Proprotein convertase subtilisin/kexin type 9) 測定の意義. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 71 回) (三重県), 2016. 11.

(25) 一般演題 (口演):

- 1) 高橋吾郎¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 横山康行¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 原敬介¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 大腸がん診療における circulating cell free DNA の有用性. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 71 回) (三重県), 2016. 11.

(26) 一般演題ビデオ:

- 1) 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 保田智彦¹⁾, 太田恵一朗²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大千葉北総病院外科, 2) 日本医大附属病院消化器外科): 新しい 6 番リンパ節郭清 重力方向郭清. 日本胃癌学会総会 (第 89 回) (広島県), 2017. 3.

(27) 一般口演:

- 1) 進士誠一¹⁾, 松田陽子²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行^{1, 4)}, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 石渡俊行³⁾, 新井富生²⁾, 内藤善哉⁴⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大消化器外科, 2) 東京都健康長寿医療センター病理, 3) 東京都健康長寿医療センター高齢者がん, 4) 日本医大統御機構診断病理学): 低分化成分を有する右側結腸癌と左側結腸癌の臨床病理学的比較. 日本癌学会学術総会 (第 75 回) (神奈川県), 2016. 10.
- 2) 赤間悠一^{1, 2)}, 島貫公義¹⁾, 渡辺洋平¹⁾, 旭 修司¹⁾, 高 和英^{1, 2)}, 中村将弥¹⁾, 光井 卓¹⁾, 薬師寺直哉¹⁾, 天野徳高¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 会津中央病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下ヘルニア修復術で偶然発見された Splenogonadal fusion の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 3) 菊池友太¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 的場秀亮¹⁾, 上田康二¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 浅見敬一²⁾, 吉田 寛¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 胃癌腫瘍膜腫瘍の 2 例. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 4) 金谷洋平¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 川野陽一²⁾, 上田純志³⁾, 高田英志³⁾, 神田知洋¹⁾, 青木悠人¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院, 3) 日本医科大学多摩永山病院): 85 歳以上の超高齢者に対する肝切除 6 例の検討. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 5) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): レゴラフェニブによる後期化学療法で長期 SD が得られている再発大腸癌の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 6) 入江利幸¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 術中 ICG 蛍光法による血流評価により腸管切除を回避できた非閉塞性腸管膜虚血症の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 7) 菅野仁士¹⁾, 根井貴仁²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学医療安全管理室感染制御部): Bacillus cereus を原因菌とするカテーテル関連血流感染のリスク因子の検討. 日本外科感染症学会総会 (第 29 回) (東京都), 2016. 11.
- 8) 吉岡将史¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 菊池友太¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 的場秀亮¹⁾, 上田康二¹⁾, 浅見敬一¹⁾, 内田英二^{1, 2)} (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡補助下大腸切除術における SSI の検討. 日本外科感染症学会総会 (第 29 回) (東京都), 2016. 11.
- 9) 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 菊池友太¹⁾, 上田康二¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 手術室における大腸手術時の術野汚染対策. 日本外科感染症学会総会 (第 29 回) (東京都), 2016. 11.
- 10) 上田純志¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 高田英志¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 菊池友太¹⁾, 的場秀亮¹⁾, 上田康二¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 浅見敬一¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 胆道再建を伴う肝切除における SSI の検討. 日本外科感染症学会総会 (第 29 回) (東京都), 2016. 11.
- 11) 上田康二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 菊池友太¹⁾, 的場秀亮¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 当科における急性虫垂炎の検討. 日本外科感染症学会総会 (第 29 回) (東京都), 2016. 11.

- 12) 渡辺昌則¹⁾, 三島圭介¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学外科): 待機的大腸手術の予防抗菌薬順守に関する retrospective study. 日本外科学会総会 (第 29 回) (東京都), 2016. 11.
- (28) 一般示説:
- 1) 的場秀亮¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 菊池友太¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 上田康二¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 浅見敬一¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, (2) 日本医科大学消化器外科): 腹腔内膿瘍と鑑別が困難であった胃 GIST の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
 - 2) 関 奈紀¹⁾, 横山 正¹⁾, 高田英志¹⁾, 上田純志¹⁾, 平方敦史¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 鈴木えりか²⁾, 中井麻木²⁾, 柳原恵子²⁾, 蒔田益次郎⁴⁾, 飯田信也³⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二⁵⁾, 武井寛幸²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器乳癌一般外科, (2) 日本医科大学付属病院乳癌科, (3) 日本医科大学千葉北総病院乳癌科, (4) 日本医科大学武蔵小杉病院乳癌科, (5) 日本医科大学付属病院消化器外科): 自壊し出血・排膿を伴う局所進行性巨大乳癌に対して感染制御を図りつつ二期的に手術施行し良好な経過を得られた 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- (29) 教育セミナー:
- 1) 吉田 寛¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院院長): 外科手術. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 23 回) (兵庫県), 2016. 9.
 - 2) 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 瘻手術のために膜 (筋膜) を知る: 瘻頸部・瘻体尾部. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島県), 2016. 7.
 - 3) 谷合信彦¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 医学雑誌への論文投稿のポイント. 日本手術医学会総会 (第 38 回) (沖縄県), 2016. 11.
- (30) 研修医:
- 1) 納富嗣人¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 的場秀亮¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 上田康二¹⁾, 吉岡将史¹⁾, 菊池友太¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 宮下哲平¹⁾, 浅見敬一¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 平方敦史¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 内田英二²⁾, その他 2 名 (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳癌外科・一般外科, (2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 診断に難渋した移動盲腸を伴う虫垂炎の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 342 回) (東京都), 2016. 12.
- (31) 研修医演題:
- 1) 春名孝洋¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 増田有香¹⁾, 太田恵一郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 孤立性側方リンパ節転移を認めた pT1b 直腸癌に 1 例. 外科集談会 (第 843 回) (東京都), 2016. 12.
- (32) 口演:
- 1) 清水哲也¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 松下 晃¹⁾, 神田知洋¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 古木裕康¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 中村慶春¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): ERCP に関連した後腹膜穿孔 11 例の検討. 日本胆道学会学術集会 (第 52 回) (神奈川県), 2016. 9.
 - 2) 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 古木裕康¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 当院における単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の工夫 特に Calot3 角の展開について. 日本胆道学会学術集会 (第 52 回) (神奈川県), 2016. 9.
 - 3) 古木裕康¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 当院における後期高齢者に対する早期・緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術の周術期成績. 日本胆道学会学術集会 (第 52 回) (神奈川県), 2016. 9.
 - 4) 佐川愛子¹⁾, 伊藤奈津子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 井上加奈子¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院): 緊急手術で不良位置に造設された小腸ストーマに対し伸展性凸面装具の使用により便漏れが解消された 1 例. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 (第 34 回) (愛知県), 2017. 2.
- (33) 示説:
- 1) 進士誠一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 太田恵一郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 開腹移行症例からみた腹腔鏡下大腸癌手術の適応. 大腸癌研究会 (第 85 回) (大阪府), 2016. 7.
 - 2) 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科): 切除不能進行胃癌に対する化学療法による Conversion 症例の検討. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (神奈川県), 2016. 10.
 - 3) 菅野仁士¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 櫻澤信行²⁾, 牧野浩司³⁾, 山下直行⁴⁾, 木山輝郎⁵⁾, 太田恵一郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院外科, (3) 日本医科大学多摩永山病院外科, (4) 財団法人慈山会医学研究所付属坪井病院外科, (5) 医療法人社団武蔵野会朝霞台中央総合病院外科): 胃癌術後補助化学療法による骨格筋減少の推移とその意義. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (神奈川県), 2016. 10.

(34) 主題：

- 1) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：早期十二指腸乳頭部痛に対する経十二指腸的乳頭切除術の治療成績。日本癌局所療法研究会 (第 38 回) (東京都), 2016. 6.
- 2) 勝野 暁¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科)：腹腔鏡下胆管 (肝管) 空腸吻合術を施設内に導入するために；Swine ウェットラボ胆道再建実習モデルによる運針手技習熟の有用性。腹腔鏡下胆道手術研究会 (第 6 回) (宮城県), 2017. 2.

(35) 主題関連演題：

- 1) 進士誠一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 松本智司²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：Stage II 直腸癌における再発危険因子の検討。日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 2) 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：境界型 T4 (いわゆる Borderline resectable cancer) 食道癌に対する Conversion Therapy。日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 3) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 関口久美子¹⁾, 保田智彦¹⁾, 松谷 毅²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科消化器外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：嵌頓ヘルニアに対する TAPP における嵌頓腸管還納の工夫。日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 4) 武田幸樹¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 原 敬介¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：Complicated appendicitis に対する Emergency appendectomy と Interval appendectomy の検討。日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 5) 清水哲也¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 青木悠人¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：安全、確実な腹腔鏡下肝外側区域切除術を目指した肝離断の工夫：三角間膜を利用した hanging maneuver と Umbilical fissure vein 同定の重要性。日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 6) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：高難度隣臓・胆道内視鏡外科手術のトレーニング：Swine 腹腔鏡下膵切除・胆管吻合モデルの構築と腹腔鏡下膵尾側膵切除術 (Lap-DP) の継承について。日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 7) 牧野浩司¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 平方敦史¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 菊池友太¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 萩原信敏²⁾, 松谷 毅²⁾, 野村 務²⁾, 金沢義一²⁾, 藤田逸郎²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：食道胃接合部癌に対する右側からの胸腔鏡下部食道切除・郭清と胸腔鏡下吻合。日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 8) 佐藤貴弘^{1,2)}, 茂内康友¹⁾, 牧野浩司²⁾, 吉田 寛²⁾ (1) 府中恵仁会病院 消化器センター外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科)：超高齢者胃癌に対する手術方法・術後管理の工夫。日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.

(36) 生涯忘れられないこの 1 例：

- 1) 保田智彦¹⁾, 松本智司¹⁾, 横山茂樹¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 関口久美子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院, 2) 日本医科大学付属病院)：経肛門の小腸脱出を伴った直腸穿孔の 1 例。日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (神奈川県), 2017. 3.

(37) 専修医：

- 1) 大野 崇¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 古木裕康¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：直腸診が診断に有用であった坐骨ヘルニアの 1 例。日本消化器病学会関東支部例会 (第 342 回) (東京都), 2016. 12.

(38) 専修医セッション：

- 1) 春名孝洋¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学医学部消化器外科)：術前のダブルバルーン小腸内視鏡検査が有用であった成人の小腸重複腸管の 1 例。日本消化器内視鏡学会関東支部例会 (第 103 回) (東京都), 2016. 12.
- 2) 三浦克洋¹⁾, 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：大腸 Cold polypectomy の現状と問題点。日本消化器内視鏡学会関東支部例会 (第 103 回) (東京都), 2016. 12.

(39) 特別演題：

- 1) 野村 務¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 中村慶春¹⁾, 牧野浩司²⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 宮下正夫³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科)：食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の適応と治療成績：とくに混合型食道裂孔ヘルニアに関する検討。日本臨床外科学会総会 (第 78

回) (東京都), 2016. 11.

- 2) 小泉岐博¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 原 敬介¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科) : Circulating cell free DNA は直腸癌術前化学療法の効果を反映する. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 3) 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷合信彦²⁾, 中村慶春²⁾, 櫻澤信行²⁾, 吉岡正人²⁾, 松下 晃²⁾, 水口義昭¹⁾, 松田明久¹⁾, 清水哲也²⁾, 山初和也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 吉田 寛²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 当科オリジナルのデバイスを駆使した腹腔鏡下肝切除における止血法. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 4) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 安藤文彦²⁾, 岩井拓磨¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 原 敬介¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : Dynamic CT は絞扼性腸閉塞診断を容易化できるのか?. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 5) 山田岳史¹⁾, 青木悠人¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 安藤文彦²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 松本智司²⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 急性腹症ガイドラインの検証 : 腸閉塞診断における造影 CT の役割を考える. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 6) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 青木悠人¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 肝右葉前上区域 (S8) 腹側, 背側切除術における landmark とすべき Intersubsegmental hepatic vein. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.

(40) 特別企画 :

- 1) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 横山 正¹⁾, 古木裕康¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 清水哲也¹⁾, 松本智司¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学医学部消化器外科) : 腹腔鏡下膝切除術の魅力を見出し, その導入・定着に向けた戦略を考察する. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (神奈川県), 2016. 12.

(41) 要望演題 :

- 1) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 山初和也¹⁾, 古木裕康¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 横山 正²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 腹腔鏡下膝頭十二指腸切除術 (Lap-PD) の安全な導入方法について. 日本膝切研究会 (第 43 回) (東京都), 2016. 8.
- 2) 勝野 暁¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 山初和也²⁾, 横山 正³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科) : チーム内で統一された尾側膝切除術 (DP) におけるドレーン管理法. 日本膝切研究会 (第 43 回) (東京都), 2016. 8.
- 3) 菅野仁士^{1, 2)}, 太田恵一朗^{1, 2)}, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学栄養サポートチーム) : 当院の NST 活動の現状と今後の課題. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 4) 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 牧野浩司²⁾, 山下直行³⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学付属多摩永山病院外科, 3) 坪井病院外科) : 食道癌術後の上部内視鏡検査による観察のポイントおよび内視鏡的処置. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 5) 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 保田智彦¹⁾, 関口久美子¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 増田寛喜¹⁾, 川島万平¹⁾, 日下部誠¹⁾, 香中伸太郎¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 当科におけるこだわりの 6 番リンパ節郭清手技 GEAR DOWN 郭清. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 6) 進士誠一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 原 敬介¹⁾, 大草幹人¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 腹腔鏡下直腸前方切除術における縫合不全 (CD 分類 II 以上) の危険因子の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 71 回) (三重県), 2016. 11.
- 7) 原 敬介¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : Castleman 病に合併した肛門扁平上皮癌の 1 例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 71 回) (三重県), 2016. 11.
- 8) 菅野仁士¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 胃癌術後補助化学療法による大腰筋減少の検討. 胃外科・術後障害研究会 (第 46 回) (鳥取県), 2016. 10.
- 9) 菅野仁士¹⁾, 太田恵一朗¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 山下直行²⁾, 木山輝郎³⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 坪井病院外科, 3) 朝霞台中央病院外科) : 胃癌術後補助化学療法による術後 1 年の骨格筋減少の検討. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (第 32 回) (岡山県), 2017. 2.

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 特集 : イラストでみる最新の胆・膵消化管吻合術 腹腔鏡下膵切除術における胆道消化管吻合, 膵消化管吻合. 胆と膵 2016 ; 37 (3) : 291-295.

追加分原著：

- 1) Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Katsuno A¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Study on laparoscopic spleen preserving distal pancreatectomy procedures comparing splenic vessel preservation and nonpreservation. Transl Gastroenterol Hepatol 2016.

追加分症例報告：

- 1) Yamada T¹⁾, Kan H¹⁾, Mztsumoto S²⁾, Koizumi M¹⁾, Shinji S¹⁾, Matsuda A²⁾, Yamagishi A¹⁾, Yokoyama Y¹⁾, Takahashi G¹⁾, Iwai T¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokuso Hospital) : Rechallenge with 5-fluorouracil in a patient who developed encephalopathy caused by 5-fluorouracil for colon cancer. Springer 2016 ; 5 : 131-135.

著書

追加分：

- 1) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科) : [自著] 特集膵臓がん 診断と治療 標準治療 腹腔鏡下膵体尾部切除術チーム力の向上でより安全で低侵襲の手術が施行可能に. ライフライン21 癌の先進医療 (基 佐江里), 2016 ; pp26-29, 株式会社露書房.

〔多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科〕

研究概要

「研究体制とその現状」研究目的臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ、治療成績の向上を目指す。研究体制消化器系臓器別に上部消化管、下部消化管、肝胆膵の3領域における病態生理、臨床病理的研究を行う体制をとっている。研究課題は癌に関連するものが多い。手術手技、腹腔鏡下手術など外科特有のものもある。研究者は自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。研究材料、方法診療業務から得た臨床データ、血液、組織、臓器等を材料としている。病理組織学的方法を用いる場合には、当院病理部との共同研究となる。分子生物学的手法を用いる場合は、武蔵小杉病院老人病研究所と協力している。文部科学省、厚生労働省の科学研究補助金による研究、多施設共同研究、日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。研究結果の公表各医学会、多摩地域の研究会等で発表する。さらに原著、症例報告、著書等に論文として公表する。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ueda J, Yoshida H, Makino H, Maruyama H, Yokoyama T, Hirakata A, Akagi I, Watanabe M, Uchida E, Uchida E : Right Inguinal Hernia Encompassing the Uterus, Right Ovary and Fallopian Tube in an Elderly Female : Case Report. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (2) : 93-96.
- 2) Yoshida H, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Hirakata A, Ueda J, Miyasaka T, Mamada Y, Taniai N, Uchida E : Repeated Minocycline Hydrochloride Injections for Symptomatic Polycystic Liver Disease. Gastroenterology and Hepatology Research 2016 ; 5 (3) : 2063-2069.
- 3) Yoshida H, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Hirakata A, Ueda J, Mamada Y, Taniai N, Uchida E : Preoperative liver functional volumetry performed by 3D-99mTc-GSA scintigraphy/vascular fusion imaging using SYNAPSE VINCENT : a preliminary study. Hepatoma Research 2016 ; 2 : 187-192.
- 4) 谷合信彦, 吉田 寛, 川野陽一, 坂東功一, 塩田吉宣, 内田英二 : 肝疾患に対する経腸栄養 - 臨床現場ではこう行われている. 消化器の臨床 2016 ; 19 (4) : 297-301.
- 5) Takata H, Kudo M, Yamamoto T, Ueda J, Ishino K, Peng W, Wada R, Taniai N, Yoshida H, Uchida E, Naito Z : Increased expression of PDIA3 and its association with cancer cell proliferation and poor prognosis in hepatocellular carcinoma. Oncology Letters 2016 ; 12 (6) : 4896-4904.
- 6) Kawano Y, Murata S, Taniai N, Yoshioka M, Hirakata A, Mizuguchi Y, Shimizu T, Kanda T, Ueda J, Takada H, Yoshida

- H, Akimaru K, Onozawa S, Kumita S, Uchida E : Interventional treatment of severe portal vein thrombosis after living-donor liver transplantation. *Journal of Nippon Medical School* 2016 ; 83 (5) : 206-210.
- 7) Nomura T, Matsutani T, Hagiwara N, Fujita I, Nakamura Y, Makino H, Miyashita M, Uchida E : Mediastinoscopy-assisted Transhiatal Esophagectomy for Esophageal Cancer : A Single-Institutional Cohort Study. *Surgical Laparoscopy, Endoscopy and Percutaneous Techniques* 2016.
 - 8) Takata H, Matsutani T, Hagiwara N, Ueda J, Arai H, Yokoyama Y, Nomura T, Uchida E : Assessment of the incidence of chronic pain and discomfort after primary inguinal hernia repair. *Journal of Surgical Research* 2016 ; 206 (2) : 391-397.
 - 9) Shinozuka E, Yamada T, Kan H, Matsumoto S, Koizumi M, Shinji S, Arai H, Naito Z, Uchida E : A case of repeated small bowel perforations in a short period in a patient with cholesterol crystal embolism. *Nihon Shokakibyō Gakkai zasshi = The Japanese journal of gastro-enterology* 2016 ; 113 (5) : 804-812.
 - 10) Kawano Y, Tani ai N, Nakamura Y, Matsumoto S, Yoshioka M, Matsushita A, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takata H, Yoshida H, Uchida E : Invention of two instruments fitted with SECUREA™useful for laparoscopic liver resection. *Journal of Nippon Medical School* 2016 ; 83 (3) : 107-112.
 - 11) Hagiwara N, Matsutani T, Nomura T, Fujita I, Kanazawa Y, Ueda J, Arai H, Kakinuma D, Kanno H, Naito Z, Uchida E : Pancreatic metastasis from gastrointestinal stromal tumor of the stomach : A case report. *Journal of Nippon Medical School* 2016 ; 83 (3) : 133-138.
 - 12) Tagui N, Suzuki Y, Kondo M, Nagano M, Yoshida M, Sugaya K, Maruyama H, Nakaminami H, Noguchi N, Murata K : Efficacy of vancomycin for methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* strains with minimum inhibitory concentration of 1 and 2 $\mu\text{g/mL}$ in the Prompt method using a MicroScan®Pos Combo 3.1J panel. *Japanese Journal of Chemotherapy* 2016 ; 64 (3) : 530-538.
 - 13) Kawano Y, Mizuta K, Sanada Y, Urahashi T, Ihara Y, Okada N, Yamada N, Sasanuma H, Sakuma Y, Tani ai N, Yoshida H, Kawarasaki H, Yasuda Y, Uchida E : Complementary Indicators for Diagnosis of Hepatic Vein Stenosis after Pediatric Living-donor Liver Transplantation. *Transplantation Proceedings* 2016 ; 48 (4) : 1156-1161.
 - 14) Shinozuka E, Yamada T, Kan H, Matsumoto S, Koizumi M, Shinji S, Arm H, Naito Z, Uchida E : A case of repeated small bowel perforations in a short period in a patient with cholesterol crystal embolism. *Journal of Japanese Society of Gastroenterology* 2016 ; 113 (5) : 804-812.
 - 15) Ueda J, Yoshida H, Makino H, Maruyama H, Yokoyama T, Hirakata A, Akagi I, Watanabe M, Uchida E, Uchida E : Right inguinal hernia encompassing the uterus, right ovary and fallopian tube in an elderly female : Case report. *Journal of Nippon Medical School* 2016 ; 83 (2) : 93-96.
 - 16) Mizuguchi Y, Takizawa T, Yoshida H, Uchida E : Dysregulated miRNA in progression of hepatocellular carcinoma : A systematic review. *Hepatology Research* 2016 ; 46 (5) : 391-406.
 - 17) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 新井洋紀, 下田朋宏, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 櫻澤信行, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 太田恵一朗, 内田英二 : 幽門側胃切除術後における骨格筋減少の推移とその意義. *外科と代謝・栄養* 2016 ; 50 (3) : 179.
 - 18) 野村 務, 岩切勝彦, 松谷 毅, 萩原信敏, 藤田逸郎, 牧野浩司, 金沢義一, 川見典之, 宮下正夫, 内田英二 : GERD への新たな取り組み GERD に対する外科治療 病態による臨床像と治療成績の比較. *日本食道学会学術集会プログラム・抄録集* 2016 ; 70 回 : 36-36.
 - 19) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 宮下正夫, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 内田英二 : 食道胃接合部癌に対する右側胸腔鏡下下部食道切除・郭清と胸腔鏡下吻合. *日本食道学会学術集会プログラム・抄録集* 2016 ; 70 回 : 134-134.
 - 20) 篠塚恵理子, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二 : 当科における高齢者 GERD・食道裂孔ヘルニア症例に対する治療方針. *日本食道学会学術集会プログラム・抄録集* 2016 ; 70 回 : 171-171.
 - 21) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 新井洋紀, 下田朋宏, 菊池友太, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 櫻澤信行, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 内田英二 : 胃癌患者における術前サルコペニアと予後への影響. *日本外科学会定期学術集会抄録集* 2016 ; 116 回 : PS-043-3-PS-043-3.
 - 22) 山初和也, 中村慶春, 松本智司, 松下 晃, 勝野 暁, 住吉宏樹, 横山 正, 宮下正夫, 内田英二 : 当科における膵インスリノーマにおける遺残なき腫瘍切除のための取り組み. *日本外科学会定期学術集会抄録集* 2016 ; 116 回 : PS-006-5-PS-006-5.
 - 23) 古木裕康, 水口義昭, 神田知洋, 清水哲也, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 松下 晃, 吉岡正人, 勝野 暁, 住吉宏樹, 高田英志, 近藤亮太, 内田英二 : 抗血小板薬内服下での高齢者に対する待機的腹腔鏡下胆嚢摘出術における安全性の検討. *日本外科学会定期学術集会抄録集* 2016 ; 116 回 : PS-026-8-PS-026-8.
 - 24) 川野陽一, 谷合信彦, 吉田 寛, 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 松田明久, 神田知洋, 高田英

- 志, 桜澤信行, 横室茂樹, 宮下正夫, その他1名: 当科で考案した腹腔鏡下でのシート状器材挿入・貼付法 コークスクリュー挿入法. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2016; 116回: PS-100-7-PS-100-7.
- 25) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 内田英二: 経裂孔的アプローチによる食道胃接合部癌に対する手術の工夫. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2016; 116回: PS-112-3-PS-112-3.
- 26) 吉田 寛, 平方敦史, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 上田純志, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: 3D-Tc-99mGSA scintigraphy/vascular fusion imageによる切除術前肝 Functional volumetry の検討. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2016; 116回: PS-098-1-PS-098-1.
- 27) 上田純志, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, その他1名: 総胆管結石症に対する総胆管切開採石術と胆管十二指腸吻合術の検討. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2016; 116回: PS-184-6-PS-184-6.
- 28) 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 川野陽一, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: 肝内胆管癌に対するリンパ節廓清の意義. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2016; 116回: PS-179-5-PS-179-5.
- 29) 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 神田知博, 水口義昭, 松下 晃, 中村慶春, 内田英二: 当科における腹腔鏡下再肝切除術の成績. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2016; 116回: PS-176-7-PS-176-7.
- 30) 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 松下 晃, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: 腹腔鏡下肝外側区域切除術における工夫. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2016; 116回: PS-177-6-PS-177-6.
- 31) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 若林秀幸, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 内田英二: 胸腔鏡下操作による安全で低侵襲な食道胃接合部癌の下縦隔リンパ節郭清と吻合. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2016; 116回: PS-192-8-PS-192-8.
- 32) 野村 務, 藤倉輝道, 松谷 毅, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 牧野浩司, 真々田裕宏, 宮下正夫, 内田英二: 医学生に対する内視鏡外科シミュレータートレーニングについて 本学における9年間の知見. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2016; 116回: PS-210-4-PS-210-4.
- 33) 岩井拓磨, 山田岳史, 吉田 寛, 菅 隼人, 進士誠一, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: 大腸癌術後補助化学療法 FOLFOX による脾臓容積の変化の検討. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2016; 22 (2): 146-151.
- 34) 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 高田英志, 近藤亮太, 神田知洋, 水口義昭, 住吉宏樹, 勝野 暁, 松下 晃, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: Reduced port surgery を考慮したエネルギーデバイスセッティングの工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 2016; 28回: 672-672.
- 35) 上田純志, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, その他1名: 肝切除時の Pringle 法における肝十二指腸間膜用手マッサージ法の有用性の検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 2016; 28回: 572-572.
- 36) 住吉宏樹, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 山初和也, 高田英志, 神田知洋, 清水哲也, 水口義昭, 吉岡正人, 横山 正, 谷合信彦, 内田英二: 膈インスリノーマに対する腹腔鏡下機能温存膈切除術 術中 IRI モニタリングの有用性. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 2016; 28回: 498-498.
- 37) 勝野 暁, 中村慶春, 松下 晃, 住吉宏樹, 山初和也, 横山 正, 神田知洋, 清水哲也, 水口義昭, 川野陽一, 吉岡正人, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: チーム内で統一された腹腔鏡下尾側膈切除術 (Lap-DP) におけるドレーン管理法. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 2016; 28回: 496-496.
- 38) 青木悠人, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太: 炎症マーカーによる肝切除術後のドレーン感染の予測. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 2016; 28回: 493-493.
- 39) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 上田純志, 牧野浩司, 丸山 弘, 赤城一郎, 若林秀幸, 清水恵理子, 上田康二, 吉岡将史, 宮下哲平, 宮坂俊光, 浅見敬一, 内田英二: 肝切除における適切な VIO system の使用法. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 2016; 28回: 443-443.
- 40) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 上田純志, 牧野浩司, 内田英二: 膈頭十二指腸切除術における我々の膈再建時の工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 2016; 28回: 422-422.
- 41) 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知博, 青木悠斗, 松下 晃, 勝野 暁, 住吉宏樹, 中村慶春, 内田英二: 当科における腹腔鏡下肝切除術の適応と手技の工夫 Reduced port surgery を含めて. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 2016; 28回: 417-417.
- 42) 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 川野陽一, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 水口義昭, 神田知洋, 松下 晃, 中村慶春, 内田英二: 肝右葉前上区域腹側, 背側切除術における Intersubsegmental hepatic vein. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 2016; 28回: 403-403.
- 43) 川野陽一, 松本智司, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 松田明久, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 近藤亮

- 太, 青木悠人, 櫻澤信行, 横室茂樹, その他3名: 腹腔鏡下肝切除術でのイチョウ型開腹用 US probe の挿入法と有用性. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集 2016; 28回: 399-399.
- 44) 武井寛幸, 山下浩二, 柳原恵子, 中井麻木, 鈴木えりか, 飯田信也, 蒔田益次郎, 横山 正, 関 奈紀, 坂谷貴司: 乳がんに対する薬物療法の効果判定 術前内分泌療法における超音波検査画像所見の特徴. 乳腺甲状腺超音波医学 2016; 5 (2): 233-233.
- 45) 谷合信彦, 吉田 寛, 川野陽一, 坂東功一, 塩田吉宣, 内田英二: 【消化器疾患と経腸栄養 (経口的栄養補助を含む)】肝疾患に対する経腸栄養 臨床現場ではこう行われている. 消化器の臨床 2016; 19 (4): 297-301.
- 46) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 内田英二: 食道癌術後再建胃管内に発生した消化管間質腫瘍の1例. 日本外科系連合学会誌 2016; 41 (3): 522-522.
- 47) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 新井洋紀, 下田朋宏, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 櫻澤信行, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 太田恵一郎, 内田英二: 腹部救急疾患における周術期栄養管理の検討. 日本外科系連合学会誌 2016; 41 (3): 516-516.
- 48) 浅見敬一, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 吉岡将史, 内田英二: 卒後5年目以下の外科医による手術手技 TAPPの手術手技とその合併症. 日本外科系連合学会誌 2016; 41 (3): 440-440.
- 49) 金沢義一, 藤田逸郎, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 菊池友太, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二: ここを見て欲しい こだわりの手技 腹腔鏡下胃切除 (LAG) から学ぶ, 背側境界を意識したリンパ節 #11 郭清のこだわり. 日本外科系連合学会誌 2016; 41 (3): 431-431.
- 50) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 篠塚恵理子, 上田純志, 菊池友太, 櫻澤信行, 宮下正夫, 内田英二: ここを見て欲しい こだわりの手技 食道癌 VATS-E での工夫 106recL 郭清 (stripping 法), 頸部吻合と腸瘻造設. 日本外科系連合学会誌 2016; 41 (3): 431-431.
- 51) 上田康二, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 吉岡将史, 宮坂俊光, 浅見敬一, 内田英二: 各科トラブルシューティングとその対策 (IVR 含む) 消化管出血を来した粘膜下腫瘍に対して血管内治療後待機的に手術を施行した1例. 日本外科系連合学会誌 2016; 41 (3): 423-423.
- 52) 柿沼大輔, 藤田逸郎, 金沢義一, 菅野仁士, 菊池友太, 下田朋宏, 松谷 毅, 萩原信敏, 野村 務, 牧野浩司, 櫻澤信行, 太田恵一郎, 内田英二: 各科手術におけるエネルギーデバイス使用の現状 胃癌リンパ節郭清における至適エネルギーデバイスの選択. 日本外科系連合学会誌 2016; 41 (3): 400-400.
- 53) 進士誠一, 中尾淳一, 青木悠人, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 横山康行, 高橋吾郎, 岩井拓磨, 大草幹大, 藪野雄大, 梅澤裕己, 小川 令, 太田恵一郎, 内田英二: 他科とのコラボレーション手術 当院における皮弁再建を要する大腸癌治療. 日本外科系連合学会誌 2016; 41 (3): 369-369.
- 54) 川野陽一, 松本智司, 谷合信彦, 吉岡正人, 櫻澤信行, 水口義昭, 松田明久, 清水哲也, 山初和也, 高田英志, 近藤亮太, 横室茂樹, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二: 各科エキスパートから学ぶこだわりの技術 腹腔鏡下肝切除術における当科オリジナルなこだわりの手技. 日本外科系連合学会誌 2016; 41 (3): 356-356.
- 55) 奈良慎平, 藪野雄大, 本田 梓, 柘植琢哉, 小川 令: 濃硫酸による化学損傷後, 敗血症性ショック・DIC となり救命治療を行った1例. 熱傷 2016; 42 (2): 106-106.
- 56) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 山下直行, 内田英二: 上部内視鏡を用いた非透視下での幽門後 ED チューブ挿入法. Gastroenterological Endoscopy 2016; 58 (1): 764-764.
- 57) 牧野浩司, 吉田 寛, 内田英二, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 関 奈紀, 浅見敬一: 経鼻内視鏡の外科領域における上部消化管の術前術中術後使用の有効性. Gastroenterological Endoscopy 2016; 58 (1): 648-648.
- 58) 吉田 寛: 胆管・膵管の再建外科. 日本獣医麻酔外科学雑誌 2016; 47 (1): 65-66.
- 59) 横山 正, 関 奈紀, 吉田 寛, 武井寛幸, 内田英二: 抗 HER-2 療法としてのトラスツズマブ-エムタンシン (T-DM1) の当院における使用状況. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2016; 24回: 527-527.
- 60) 関 奈紀, 横山 正, 鈴木えりか, 中井麻木, 柳原恵子, 吉田 寛, 蒔田益次郎, 飯田信也, 内田英二, 武井寛幸: 広範囲皮膚浸潤を伴う局所進行乳癌における当院の治療方針について. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集 2016; 24回: 433-433.
- 61) 篠塚恵理子, 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 進士誠一, 新井洋紀, 内藤善也, 吉田英二: 短期間に3度小腸穿孔をきたしたコレステロール塞栓症の1例. 日本消化器病学会雑誌 2016; 113 (5): 804-812.
- 62) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 磐井佑輔, 上原隆志, 田杭直哉, 鈴木美子, 田中 愛, 山本 愛, 内田英二: 消化器外科における Candida 属の検出状況と薬剤感受性. 日本化学療法学会雑誌 2016; 64 (3): 601-601.
- 63) 田杭直哉, 近藤匡慶, 菅谷量俊, 村田和也, 上原隆志, 丸山 弘: プロンプト法における MIC=1 μ g/mL および 2 μ g/mL の MRSA 株に対する VCM の有効性. 日本化学療法学会雑誌 2016; 64 (3): 591-591.

- 64) 田杭直哉, 鈴木美子, 近藤匡慶, 長野慎彦, 吉田真人, 菅谷量俊, 丸山 弘, 中南秀将, 野口雅久, 村田和也: マイクロスキャン Pos Combo 3.1J パネルを用いたプロンプト法で MIC $1\mu\text{g}/\text{mL}$ および $2\mu\text{g}/\text{mL}$ を示す methicillin-resistant Staphylococcus aureus 株に対する vancomycin の有効性. 日本化学療法学会雑誌 2016; 64 (3): 530-538.
- 65) 長野慎彦, 菅谷量俊, 近藤匡慶, 久野将宗, 工藤小織, 田上 隆, 諸江雄太, 畝本恭子, 丸山 弘, 村田和也: 救命救急センターにおける MRSA アクティブサーベイランスと入院時リスク因子の検討. 日本臨床救急医学会雑誌 2016; 19 (2): 316-316.
- 66) 鈴木美子, 田杭直哉, 田中 愛, 山本 愛, 磐井佑輔, 上原隆志, 丸山 弘: 当院における過去 4 年間のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) の検出状況. 日本化学療法学会雑誌 2016; 64 (A): 220-220.
- 67) 新井洋紀, 藤田逸郎, 金沢義一, 松谷 毅, 萩原信敏, 柿沼大輔, 菅野仁士, 下田朋宏, 菊池友太, 野村 務, 内田英二: 上部消化管穿孔の治療戦略 当科における胃十二指腸潰瘍穿孔の検討. 日本腹部救急医学会雑誌 2016; 36 (2): 345-345.
- 68) 菊池友太, 兵働英也, 古木裕康, 安武正弘, 内田英二: 腹部疾患に対する初期診断と初期治療 総合診療医の役割 急性腹症における, 大学病院総合診療科の役割. 日本腹部救急医学会雑誌 2016; 36 (2): 339-339.
- 69) 水口義昭, 真々田裕宏, 清水哲也, 神田知洋, 中村慶春, 谷合信彦, 吉岡正人, 松下 晃, 川野陽一, 勝野 暁, 高田英志, 住吉宏樹, 近藤亮太, 古木裕康, 内田英二: 腹腔鏡胆嚢摘出術 (LC) 難易度評価と周術期治療成績の検討. 日本腹部救急医学会雑誌 2016; 36 (2): 326-326.
- 70) 山本 愛, 丸山 弘, 磐井佑輔, 田中 愛, 鈴木美子, 田杭直哉, 上原隆志: N95 マスク装着指導と漏れ率の定量的評価から当院の空気感染対策を考える. 日本環境感染学会誌 2016; 31: 426-426.
- 71) 磐井佑輔, 山本 愛, 田中 愛, 鈴木美子, 田杭直哉, 上原隆志, 丸山 弘: 当院救命救急センターにおける中心ライン関連血流感染サーベイランスの結果. 日本環境感染学会誌 2016; 31: 351-351.
- 72) 田杭直哉, 鈴木美子, 菅谷量俊, 村田和也, 丸山 弘: 当院における MIC= $2\mu\text{g}/\text{mL}$ の MRSA 株検出割合および VCM の細菌学的有効性について. 日本環境感染学会誌 2016; 31: 269-269.
- 73) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 新井洋紀, 下田朋宏, 菊池友太, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 櫻澤信行, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 内田英二: 胃癌患者における術前サルコペニアと予後との関連. 日本静脈経腸栄養学会雑誌 2016; 31 (1): 321-321.
- 74) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 新井洋紀, 下田朋宏, 菊池友太, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 櫻澤信行, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 内田英二: 胃癌患者における術前サルコペニアと予後との関連. 日本静脈経腸栄養学会雑誌 2016; 31 (1): 180-180.
- 75) 吉田 寛: 第 IV 章 肝胆道の手述療法. 胆道再建法. 肝臓専門医テキスト 2016; 改訂第 2 版: 93-94.
- 76) 川野陽一, 吉田 寛: 第 VII 章 画像診断 4. 胆道鏡検査. 肝臓専門医テキスト 2016; 改訂第 2 版: 168-170.
- 77) 吉田 寛: 第 X 章 胆道疾患 4. 胆嚢胆道腫瘍. 肝臓専門医テキスト 2016; 改訂第 2 版: 360-361.
- 78) 川野陽一, 吉田 寛: 第 X 章 胆道疾患 5. 膵・胆管合流異常. 肝臓専門医テキスト 2016; 改訂第 2 版: 362-364.
- 79) 吉田 寛: 第 XV 章 門脈圧亢進症の治療 8. 部分的脾動脈塞栓術・脾摘. 肝臓専門医テキスト 2016; 改訂第 2 版: 463-464.
- 80) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 菊池友太, 篠塚恵理子, 野村 務, 松谷 毅, 内田英二: I. 食道 1. 胃管再建 5) 頸部器械吻合: サーキュラーステップラー. 臨床雑誌「外科」2016; 78 (12): 1273-1278.
- 81) 谷合信彦, 古川清憲, 吉田 寛, 塩田吉宣, 坂東功一, 沖野哲也, 川野陽一, 内田英二: 創閉鎖法. 消化器外科 2016; 39 (13): 1737-1744.
- 82) 日下部誠, 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 真々田裕宏, 水口義昭, 神田知洋, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 内田英二: 胆管内腫瘍栓による閉塞性黄疸で発症した再発肝癌の 1 切除例. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (11): 2858-2858.
- 83) 日下部誠, 柿沼大輔, 金沢義一, 藤田逸郎, 菅野仁士, 新井洋紀, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二: 術前に小腸内視鏡にて小腸憩室出血と診断し, 腹腔鏡下に切除しえた消化管重複症の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (11): 2843-2843.
- 84) 原田潤一郎, 櫻澤信行, 松田明久, 菊池友太, 栗山 翔, 奥山奈美子, 宮下正夫, 内田英二: 術前に診断し得た後天性血友病を合併した穿孔性胃癌の 1 切除例. 日本消化器外科学会総会 2016; 71 回: P3-20-1-P3-20-1.
- 85) 近藤亮太, 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 高田英志, 水口義昭, 神田知洋, 中村慶春, 川野陽一, 内田英二: 内視鏡手術のトラブルシューティング 腹腔鏡下肝切除術における胆汁瘻と出血のトラブルシューティング. 日本消化器外科学会総会 2016; 71 回: WS27-11-WS27-11.
- 86) 勝野 暁, 中村慶春, 松下 晃, 山初和也, 住吉宏樹, 神田知洋, 水口義昭, 古木裕康, 日下部誠, 内田英二: チーム内で統一された腹腔鏡下尾側膵切除術 (Lap-DP) におけるドレーン管理法. 日本消化器外科学会総会 2016; 71 回: P2-71-6-P2-71-6.
- 87) 日下部誠, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 山初和也, 住吉宏樹, 水口義昭, 神田知洋, 古木裕康, 内田英二: 腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除術の長期成績を含めた検討. 日本消化器外科学会総会 2016; 71 回: P2-63-7-P2-63-7.
- 88) 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 高田英志, 近藤亮太, 神田知洋, 水口義昭, 松下 晃, 中村慶春, 内田英二: 肝静脈の分岐形態か

- ら見た腹腔鏡下肝外側区域切除の strategy. 日本消化器外科学会総会 2016 ; 71 回 : P2-56-3-P2-56-3.
- 89) 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二 : 腹腔鏡下肝切除術の Reduced port surgery 導入と工夫. 日本消化器外科学会総会 2016 ; 71 回 : VD6-7-VD6-7.
- 90) 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二 : 肝右葉前上区域腹側, 背側切除術において anterior fissure vein は landmark となりうるのか?. 日本消化器外科学会総会 2016 ; 71 回 : P1-54-5-P1-54-5.
- 91) 高田英志, 和田龍一, 工藤光洋, 石野孔祐, 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 上田純志, 内田英二, 内藤善哉 : 肝細胞癌における protein disulfide-isomerase A3 の発現と臨床病理学的検討. 日本消化器外科学会総会 2016 ; 71 回 : P1-53-10-P1-53-10.
- 92) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二, 篠塚恵理子 : 当科における食道裂孔ヘルニアに対する治療方針と腹腔鏡下手術症例の検討. 日本消化器外科学会総会 2016 ; 71 回 : P1-8-2-P1-8-2.
- 93) 平方敦史, 吉田 寛, 牧野浩司, 上田純志, 高田英志, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二 : 難治性腹水に対する治療法の選択 : 腹水濾過濃縮再静注法, 経静脈的肝内門脈短絡路, 腹腔静脈シャントの長所, 短所と適応について. 「肝臓」2017 ; 58 (2) : 91-96.
- 94) Makino H, Yoshida H, Maruyama H, Tadashi Y, Hirakata A, Ueda J, Takada H, Matsutani T, Nomura T, Hagiwara N, Uchida E : An original technique for lymph node dissection along the left recurrent laryngeal nerve after stripping the residual esophagus during video-assisted thoroscopic surgery of esophagus. Original Article on Esophageal Surgery 2016.
- 95) Makino H, Yoshida H, Maruyama H, Yokoyama T, Hirakata A, Ueda J, Takada H, Kikuchi Y, Shinozuka E, Miyashita M, Matsutani T, Nomura T, Uchida E : The assessing the left bronchial invasion of esophageal cancer in computed tomography. Gastroenterology, Hepatology and Endoscopy 2016 ; 1 (4) : 80-83.
- 96) 的場秀亮, 吉田 寛, 鈴木 剛, 瀬田真祐, 高田英志, 上田純志, 丸山 弘, 横山 正, 牧野浩司, 内田英二 : H.pylori 除菌療法におけるボノプラザンとエソメプラゾールの比較検討. 日本医科大学医学会雑誌 2017 ; 13 (1) : 38-41.
- 97) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二 : 超高齢者 (80 歳以上) 肝細胞癌患者における肝細胞癌切除術の意義. 日本高齢消化器病学会誌 2017 ; 19 (2) : 20-26.
- 98) Makino H, Yoshida H, Maruyama H, Yokoyama T, Hirakata A, Ueda J, Takada H, Matsutani T, Nomura T, Hagiwara N, Uchida E : An original technique for lymph node dissection along the left recurrent laryngeal nerve after stripping the residual esophagus during video-assisted thoroscopic surgery of esophagus. Journal of Visualized Surgery 2016 ; (2) : 1-6.
- (2) 症例報告 :
- 1) 篠塚恵理子, 山田岳史, 管 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 進士誠一, 新井洋紀, 内藤善哉, 内田英二 : 短期間に3度小腸穿孔をきたしたコレステロール塞栓症の1例. 日本消化器病学会雑誌 2016 ; 113 (5) : 804-812.
- 2) 岩井拓磨, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 篠塚恵理子, 宮坂俊光, 内田英二 : 腹腔鏡下手術時に灸治療による著明な腹腔内癒着を認めた1例. 日本外科系連合学会誌 2016 ; 41 (4) : 719-723.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 吉田 寛 : 他の肝臓外科医があまり行わない肝疾患に対する治療法. アミティーザ消化器セミナー (神奈川), 2017. 3.

(2) 教育講演 :

- 1) 吉田 寛 : 「門脈圧亢進症の病態と診断, 治療」. 日本消化器病学会甲信越支部教育講演会 (第35回) (甲府), 2016. 6.
- 2) 吉田 寛 : 肝臓 IVR と放射線治療. 日本肝臓学会後期教育講演会 (東京), 2016. 12.

(3) シンポジウム :

- 1) 川野陽一, 松本智司, 谷合信彦, 吉岡正人, 櫻澤信行, 水口義昭, 松田明久, 清水哲也, 山初和也, 高田英志, 近藤亮太, 横室茂樹, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二 : 腹腔鏡下肝切除術における当科オリジナルなこだわりの手技. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪), 2016. 6.

(4) ワークショップ :

- 1) 上田康二, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 吉岡将史, 宮坂俊光, 浅見敬一, 内田英二 : 消化管出血を来した粘膜下腫瘍に対して血管内治療後待機的に手術を施行した1例. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪), 2016. 6.
- 2) 柿沼大輔 : 胃癌リンパ節郭清における至適エネルギーデバイスの選択. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪), 2016. 6.
- 3) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 篠塚恵理子, 上田純志, 菊池友太, 櫻澤信行, 宮下正夫, 内田英二 : 食道癌 VATS-E での工夫 : 106recL 郭清 (Stripping 法), 頸部吻合と腸瘻造設. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪), 2016. 6.
- 4) 金沢義一, 藤田逸郎, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋樹, 菊池友太, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二 : 腹腔鏡下胃切除 (LAG) から学ぶ, 背側境界を意識したリンパ節 #11 郭清のこだわり. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪),

2016. 6.
- 5) 浅見敬一, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 吉岡将史, 内田英二: TAPP の手術手技とその合併症. 日本外科学会連合学会学術集会 (第 41 回) (大阪), 2016. 6.
 - 6) 川野陽一, 谷合信彦, 松本智司, 吉岡正人, 櫻澤信行, 水口義昭, 松田明久, 清水哲也, 山初和也, 高田英志, 近藤亮太, 横室茂樹, 吉田 寛, 宮下哲平, 内田英二: 腹腔鏡下肝切除術の標準化に向けた当科オリジナルの手技. 日本肝癌研究会 (第 52 回) (東京), 2016. 7.
 - 7) 近藤亮太, 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 高田英志, 水口義昭, 神田知洋, 中村慶春, 川野陽一, 内田英二: 腹腔鏡下肝切除術における胆汁瘻と出血のトラブルシューティング. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
 - 8) 山下直行, 湖山信篤, 山岸杏彌, 栗山 翔, 萩原信敏, 櫻澤信行, 宮下正夫, 藤田逸郎, 金沢義一, 菅野仁士, 柿沼大輔, 新井洋紀, 牧野浩司, 内田英二: 閉塞症状を有する胃癌患者の対処法による化学療法継続性, 在宅機関, 予後の検討. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (横浜), 2016. 10.
 - 9) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 菊池友太, 篠塚恵理子, 的場秀亮, 上田康二, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 内田英二: 離断後の食道をストリッピングして術野展開後, 106reCL 郭清することによって左反回神経麻痺を減らす工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (横浜), 2016. 12.
 - 10) 勝野 暁, 中村慶春, 松下 晃, 住吉宏樹, 山初和也, 横山 正, 神田知洋, 清水哲也, 水口義昭, 吉岡正人, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: 当科における奥行きを重視した腹腔鏡下膵切除術の術野展開法. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (横浜), 2016. 12.
- (5) 一般講演:
- 1) 上田純志: 『若手外科医の肝切除～肝胆膵高度技能医をめざして～』, 橘桜消化器外科研究会 (第 8 回) (東京都), 2016. 4.
 - 2) 古木裕康, 水口義昭, 神田知洋, 清水哲也, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 松下 晃, 吉岡正人, 勝野 暁, 住吉宏樹, 高田英志, 近藤亮太, 内田英二: 抗血小板薬内服下での高齢者に対する待機的腹腔鏡下胆嚢摘出術における安全性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 3) 佐藤貴弘, 長田俊一, 茂内康友, 原田佳明, 原田雅義, 吉田 寛: 外科手術領域における外国籍看護師の積極的登用の重要性. 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 4) 山下直行, 湖山信篤, 山岸杏彌, 安藤文彦, 萩原信敏, 櫻澤信行, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 宮下正夫, 牧野浩司, 内田英二: 上部限局胃癌に対する噴門側胃切除術の適応拡大. 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 5) 山初和也, 中村慶春, 松本智司, 松谷 毅, 松下 晃, 勝野 暁, 住吉宏樹, 横山 正, 宮下正夫, 内田英二: 当科における膵インスリンノーマにおける遺残なき腫瘍切除のための取り組み. 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 6) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 新井洋紀, 下田朋宏, 菊池友太, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 櫻澤信行, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 内田英二: 胃癌患者における術前サルコペニアと予後への影響. 日本外科学会定期学術集会第 16 回 (大阪), 2016. 4.
 - 7) 吉田 寛, 平方敦史, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 上田純志, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: 3D-Tc-99mGSA scintigraphy/vascular fusion image による肝切除前肝 Functional volumetry の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 8) 川野陽一, 谷合信彦, 吉田 寛, 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 松田明久, 神田知洋, 高田英志, 櫻澤信行, 横室茂樹, 宮下正夫, その他 1 名: 当科で考案した腹腔鏡下でのシート状器材挿入・貼付法 (コークスクリュー挿入法). 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 9) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 内田英二: 経裂孔的アプローチによる食道胃接合部癌に対する手術の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 10) 上田純志, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, その他 1 名: 総胆管結石症に対する総胆管切開採石術と胆管十二指腸吻合術の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 11) 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 川野陽一, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: 肝内胆管癌に対するリンパ節廓清の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 12) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 若林秀幸, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 内田英二: 胸腔鏡下操作による安全で低侵襲な食道胃接合部癌の下縦隔リンパ節郭清と吻合. 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 13) 野村 務, 藤倉輝道, 松谷 毅, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 牧野浩司, 真々田裕宏, 宮下正夫, 内田英二: 医学生に対する内視鏡外科シミュレータートレーニングについて: 本学における 9 年間の知見. 日本外科学会定期学術集会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
 - 14) 吉田 寛: 食道静脈瘤. 日本消化器病学会総会 (第 102 回) (東京), 2016. 4.

- 15) 牧野浩司, 吉田 寛, 内田英二, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 関 奈紀, 浅見敬一: 経鼻内視鏡の外科領域における上部消化管の術前術中術後使用の有用性. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 91 回) (東京), 2016. 5.
- 16) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 山下直行, 内田英二: 上部内視鏡を用いた非透視化での幽門後 ED チューブ挿入法. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 91 回) (東京), 2016. 5.
- 17) 佐藤貴弘, 茂内友康, 長田俊一, 大平和彦, 菅野 朝, 吉田 寛, 加藤 寛: 深部静脈血栓溶解療法中 (IVC filter, NOAC) に発見された高度進行残胃癌の 1 切除例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 91 回) (東京), 2016. 5.
- 18) 吉田 寛: セッション 門脈圧亢進症. 日本肝臓学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 5.
- 19) 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知博, 青木悠斗, 松下 晃, 勝野 明, 住吉宏樹, 中村慶春, 内田英二: 当科における腹腔鏡下肝切除術の適応と手技の工夫: Reduced port surgery を含めて. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2016. 6.
- 20) 上田純志, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, その他 1 名: 肝切除時の Pringle 法における肝十二指腸間膜用手マッサージ法の有用性の検討. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2016. 6.
- 21) 水口義昭, 真々田裕宏, 神田知洋, 古木裕康, 清水哲也, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 勝野 暁, 住吉宏樹, 高田英志, 金谷洋平, 近藤亮太, 内田英二: 胆管癌 EMT における TGF- β 1 と miR-200 の直接交絡の関与とターゲット蛋白の同定. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2016. 6.
- 22) 川野陽一, 松本智司, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 松田明久, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 桜澤信行, 横室茂樹, その他 3 名: 腹腔鏡下肝切除術でのイチョウ型開腹用 US probe の挿入法と有用性. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2016. 6.
- 23) 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 川野陽一, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 水口義昭, 神田知洋, 松下 晃, 中村慶春, 内田英二: 肝右葉前上区域腹側, 背側切除術における Intersubsegmental hepatic vein. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (大阪), 2016. 6.
- 24) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 上田純志, 牧野浩司, 内田英二: 膵頭十二指腸切除術における我々の膵再建時の工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2016. 6.
- 25) 住吉宏樹, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 山初和也, 高田英志, 神田知洋, 清水哲也, 水口義昭, 吉岡正人, 横山 正, 谷合信彦, 内田英二: 膵インスリノーマに対する腹腔鏡下機能温存膵切除術; 術中 IRI モニタリングの有用性. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2016. 6.
- 26) 勝野 暁, 中村慶春, 松下 晃, 住吉宏樹, 山初和也, 横山 正, 神田知洋, 清水哲也, 水口義昭, 川野陽一, 吉岡正人, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: チーム内で統一された腹腔鏡下尾側膵切除術 (Lap-DP) におけるドレーン管理法. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2016. 6.
- 27) 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 高田英志, 近藤亮太, 神田知洋, 水口義昭, 住吉宏樹, 勝野 暁, 松下 晃, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: Reduced port surgery を考慮したエネルギーデバイスセッティングの工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2016. 6.
- 28) 青木悠人, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太: 炎症マーカーによる肝切除術後のドレーン感染の予測. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2016. 6.
- 29) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 上田純志, 牧野浩司, 丸山 弘, 赤城一郎, 若林秀幸, 清水恵理子, 上田康二, 吉岡将史, 宮下哲平, 宮坂俊光, 浅見敬一, 内田英二: 肝切除における適切な VIO system の使用法. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2016. 6.
- 30) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 新井洋紀, 下田朋宏, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 桜澤信行, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 太田恵一郎, 内田英二: 腹部救急疾患における周術期栄養管理の検討. 日本外科系連合学会学術集会 (第 41 回) (大阪), 2016. 6.
- 31) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋樹, 牧野浩司, 内田英二: 食道癌術後再建胃管内に発生した消化管間質腫瘍の 1 例. 日本外科系連合学会学術集会 (第 41 回) (大阪), 2016. 6.
- 32) 鈴木美子, 田杭直哉, 田中 愛, 山本 愛, 岩井佑輔, 上原隆志, 丸山 弘: 当院における過去 4 年間のカルバベネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) の検出状況. 日本化学療法学会総会 (第 64 回) (神戸), 2016. 6.
- 33) 吉田 寛: 「胆管・膵管の再建外科」. 日本獣医麻酔外科学会 (第 92 回) (大宮), 2016. 6.
- 34) 上田康二: IMA・IMV 血管処理～内側・外側アプローチ. 多摩若コロ会 (第 3 回) (立川), 2016. 6.
- 35) 的場秀亮, 瀬田真祐, 鈴木 剛: 当院におけるパノプラザンを用いた H.pylori 除菌療法の検討. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第 22 回) (別府), 2016. 6.
- 36) 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 近藤亮太, 金谷洋平, 内田英二: 肝静脈ドレナージによる肝右葉

- 前上区域 (S8) の亜区域分類. 日本肝癌研究会 (第 52 回) (東京), 2016. 7.
- 37) 吉田 寛: 一般演題 (ポスター) 肝臓: 転移. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 38) 牧野浩司: 一般演題 (ポスター) 胃: 周術期管理 2. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 39) 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 上田純志, 吉田 寛, 内田英二: 肝右葉前上区域腹側, 背側切除術において anterior fissure vein は landmark となりうるのか?. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 40) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二, 篠塚恵理子: 当科における食道裂孔ヘルニアに対する治療方針と腹腔鏡下手術症例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 41) 高田英志, 和田龍一, 工藤光洋, 石野孔祐, 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 上田純志, 内田英二, 内田善哉: 肝細胞癌における protein disulfide-isomerase A3 の発現と臨床病理学的検討. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 42) 篠塚恵理子: 一般演題 (ポスター) ヘルニア: 腹壁癒着. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 43) 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: 腹腔鏡下肝切除術の Reduced port surgery 導入と工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 44) 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 高田英志, 近藤亮太, 神田知洋, 水口義昭, 松下 晃, 中村慶春, 内田英二: 肝静脈の分岐形態から見た腹腔鏡下肝外側区域切除術の strategy. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 45) 佐藤貴弘, 茂内康友, 長田俊一, 吉田 寛: 消化管癌腹膜播種に対する Peritonectomy. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 46) 上田純志: 一般演題 (ポスター) 大腸: 肝転移. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 47) 原田潤一郎, 櫻澤信行, 松田明久, 菊池友太, 栗山 翔, 奥山奈美子, 宮下正夫, 内田英二: 術前に診断し得た後天性血友病を合併した穿孔性胃癌の一切除例. 日本消化器外科学会総会 (第 71 回) (徳島), 2016. 7.
- 48) 重松 秀, 高木信介, 佐藤 航, 丸木雄太, 馬来康太郎, 名見耶浩幸, 津久井拓, 岩切勝彦, 横山 正, 牧野浩司, 吉田 寛, 上田達男, 山本 彰, 中込明裕, 草間芳樹: 脾動脈塞栓術後に急性脾炎が合併した 1 例. 日本消化器病学会関東支部第 340 回例会 (第 340 回) (東京), 2016. 7.
- 49) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 新井洋紀, 下田朋宏, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 櫻澤信行, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 太田恵一朗, 内田英二: 胃癌術後補助化学療法による骨格筋減少の推移とその意義. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (横浜), 2016. 10.
- 50) 根井貴仁, 丸山 弘: Edwardsiella tarda 菌血症: 自施設 11 例の検討. 日本感染症学会東日本地方会学術集会 (第 65 回)・日本化学療法学会東日本支部総会 (第 63 回) 合同学会 (新潟), 2016. 10.
- 51) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 菊池友太, 上田康二, 吉岡将史, 内田英二: 大腸手術における手術時手袋表面の汚染度調査. 日本手術医学会総会 (第 38 回) (沖縄), 2016. 11.
- 52) 中村慶春, 松下 晃, 水口義昭, 勝野 暁, 山初和也, 神田知洋, 住吉宏樹, 古木裕康, 横山 正, 田尻 孝, 内田英二: 適切な導入方法についての考察. 膵臓 内視鏡外科研究会 (第 8 回) (東京), 2016. 11.
- 53) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 菊池友太, 上田康二, 吉岡将史, 内田英二: 手術室における大腸手術時の術野汚染対策. 日本外科感染症学会総会 (第 29 回) (東京), 2016. 11.
- 54) 吉岡将史, 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 関 奈紀, 菊池友太, 篠塚恵理子, 的場秀亮, 上田康二, 浅見敬一, 内田英二: 腹腔鏡補助下大腸切除術における SSI の検討. 日本外科感染症学会総会 (第 29 回) (東京), 2016. 11.
- 55) 上田純志, 吉田 寛, 丸山 弘, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 高田英志, 関 奈紀, 菊池友太, 的場秀亮, 上田康二, 吉岡将史, 宮下哲平, 浅見敬一, 内田英二: 胆道再建を伴う肝切除における SSI の検討. 日本外科感染症学会総会 (第 29 回) (東京), 2016. 11.
- 56) 上田康二, 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 関 奈紀, 菊池友太, 的場秀亮, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 吉岡将史, 内田英二: 当科における急性虫垂炎の検討. 日本外科感染症学会総会 (第 29 回) (東京), 2016. 11.
- 57) 田杭直哉, 近藤匡慶, 黒田香織, 菅谷量俊, 高瀬久光, 鈴木美子, 上原隆志, 丸山 弘: VCM 投与時における初回トラフ値ごとの有効性及び安全性の検討. 日本化学療法学会西日本支部総会 (第 64 回) (沖縄), 2016. 11.
- 58) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 中村慶春, 牧野浩司, 柿沼大輔, 菅野仁士, 太田恵一朗, 宮下正夫, 内田英二: 食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の適応と治療成績: とくに混合型食道裂孔ヘルニアに関する検討. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京), 2016. 11.
- 59) 川野陽一, 松本智司, 谷合信彦, 中村慶春, 櫻澤信行, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 松田明久, 清水哲也, 山初和也, 横室茂樹, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二: 当科オリジナルのデバイスを駆使した腹腔鏡下肝切除における止血法. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京), 2016. 11.

- 60) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 山下直行, 太田恵一朗, 内田英二: 食道癌術後の上部内視鏡検査による観察のポイントおよび内視鏡的処置. 日本臨床外科学会総会 (第78回) (東京), 2016. 11.
- 61) 櫻澤信行, 宮下正夫, 横室茂樹, 松本智司, 川野陽一, 松田明久, 山初和也, 保田智彦, 関口久美子, 安藤文彦, 増田寛喜, 川島万平, 日下部誠, 香中伸太郎, 内田英二: 当科におけるこだわりの6番リンパ節郭清手技 GEAR DOWN 郭清. 日本臨床外科学会総会 (第78回) (東京), 2016. 11.
- 62) 的場秀亮, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 菊池友太, 篠塚恵理子, 上田康二, 吉岡将史, 浅見敬一, 宮下哲平, 吉田 寛, 内田英二: 腹腔内腫瘍と鑑別が困難であった胃 GIST の1例. 日本臨床外科学会総会 (第78回) (東京), 2016. 11.
- 63) 関 奈紀, 横山 正, 高田英志, 上田純志, 平方敦史, 丸山 弘, 牧野浩司, 鈴木えりか, 中井麻木, 柳原恵子, 蒔田益次郎, 飯田信也, 吉田 寛, 内田英二, 武井寛幸: 自壊し出血・排膿を伴う局所進行性巨大乳癌に対して感染制御を図りつつ二期的に手術施行し良好な経過を得られた1例. 日本臨床外科学会総会 (第78回) (東京), 2016. 11.
- 64) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 菊池友太, 篠塚恵理子, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村務, 金沢義一, 藤田逸郎, 内田英二: 食道胃接合部癌に対する右側からの胸腔鏡下部食道切除・郭清と胸腔鏡下吻合. 日本臨床外科学会総会 (第78回) (東京), 2016. 11.
- 65) 佐藤貴弘, 茂内康友, 牧野浩司, 吉田 寛: 超高齢者胃癌に対する手術方法・周術期管理の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第78回) (東京), 2016. 11.
- 66) 菊池友太, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 的場秀亮, 上田康二, 吉岡将史, 宮下哲平, 浅見敬一, 吉田 寛, 藤田逸郎, 内田英二: 胃癌腫瘍腫症の2例. 日本臨床外科学会総会 (第78回) (東京), 2016. 11.
- 67) 金谷洋平, 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 川野陽一, 上田純志, 高田英志, 神田知洋, 青木悠人, 近藤亮太, 水口義昭, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: 85歳以上の超高齢者に対する肝切除6例の検討. 日本臨床外科学会総会 (第78回) (東京), 2016. 11.
- 68) 菊池友太, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 的場秀亮, 篠塚恵理子, 上田康二, 吉岡将史, 浅見敬一, 吉田 寛, 野村 務, 内田英二: 当科における腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術と超高齢者や嚥下障害症例に対する治療方針の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第29回) (横浜), 2016. 12.
- 69) 的場秀亮, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 菊池友太, 篠塚恵理子, 上田康二, 吉岡将史, 浅見敬一, 宮下哲平, 吉田 寛, 内田英二: 腹腔鏡下に胃部分切除した, 膿瘍と鑑別困難であった管外発育型胃 GIST の1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第29回) (横浜), 2016. 12.
- 70) 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 水口義昭, 神田知洋, 山初和也, 住吉宏樹, 横山 正, 古木裕康, 吉岡正人, 谷合信彦, 清水哲也, 松本智司, 田尻 孝, 内田英二: 腹腔鏡下膵切除術の魅力を見出し, その導入・定着に向けた戦略を考察する. 日本内視鏡外科学会総会 (第29回) (横浜), 2016. 12.
- 71) 山下直行, 湖山信篤, 山岸杏彌, 栗山 翔, 櫻澤信行, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 宮下正夫, 牧野浩司, 内田英二: 腹腔鏡下胃切除後の食事摂取, 体重変化. 日本内視鏡外科学会総会 (第29回) (横浜), 2016. 12.
- 72) 柿沼大輔, 藤田逸郎, 金沢義一, 新井洋紀, 下田朋宏, 松野邦彦, 萩原信敏, 桜澤信行, 松谷 毅, 野村 務, 牧野浩司, 内田英二, 菊池友太, 山下直行, 宮下正夫: 腹腔鏡下胃切除における神経外層剥離による内側アプローチを応用した幽門下領域の郭清. 日本内視鏡外科学会総会 (第29回) (横浜), 2016. 12.
- 73) 川野陽一, 松本智司, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 桜澤信行, 松下 晃, 水口義昭, 松田明久, 清水哲也, 山初和也, 吉田 寛, 横室茂樹, 宮下正夫, 内田英二: 腹腔鏡下肝切除術の標準化に向けた当科オリジナルのデバイスの工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第29回) (横浜), 2016. 12.
- 74) 丸山 弘: 大腸癌化学療法とメディカルスタッフの関わり. 南多摩がんチーム医療講演会 (第3回)~消化器がんを中心に~(神奈川県), 2016. 10.
- 75) 吉田 寛: 地域医療構想におけるチーム医療の重要性. 南多摩がんチーム医療講演会 (第3回)~消化器がんを中心に~(神奈川県), 2016. 10.
- 76) 高田英志, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 上田純志, 関 奈紀, 菊池友太, 的場秀亮, 上田康二, 吉岡将史, 日下部誠, 浅見敬一, 吉田 寛: 右胃大網動脈を用いた冠動脈バイパス術後の膵内分泌腫瘍に対し亜全胃温存膵頭十二指腸切除術を施行した1例. 多摩消化器シンポジウム (第36回) (東京), 2017. 1.
- 77) 上田康二: 腹腔鏡補助下右半結腸切除におけるアプローチ法の工夫 (頭側先行アプローチ). 多摩消化器手術手技研究会 (第17回) (東京), 2017. 3.
- 78) 浅見敬一, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 関 奈紀, 菊池友太, 篠塚恵理子, 的場秀亮, 上田康二, 宮下哲平, 吉岡将史, その他1名: 右胃大網動脈を用いた冠動脈バイパス術後の胃癌に対し, 幽門側胃切除術を施行した1例. 日本胃癌学会総会 (第89回) (広島), 2017. 3.
- 79) 菊池友太, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 関 奈紀, 篠塚恵理子, 的場秀亮, 上田康二, 宮下哲

- 平, 吉岡将史, 浅見敬一, 吉田 寛, その他1名: 胃癌髄膜癌腫症の3例. 日本胃癌学会総会 (第89回) (広島), 2017. 3.
- 80) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 菊池友太, 的場秀亮, 上田康二, 柿沼大輔, 櫻澤信行, 金沢義一, 藤田逸郎, 内田英二: 食道胃接合部癌に対する胸腔鏡下縦隔リンパ節郭清と吻合およびPD後症例の胃管作成の工夫. 日本胃癌学会総会 (第89回) (広島), 2017. 3.
- 81) 牧野浩司: 新しい便秘症治療薬アミティーザと胃切除患者への有効性. アミティーザ消化器セミナー (神奈川), 2017. 3.
- 82) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 内田英二: 食道癌に対する術前化学(放射線)療法後の胸腔鏡下食道切除術のコツと注意点. JDDW2016 日本消化器外科学会大会 (第14回) (神戸), 2016. 11.
- 83) 上田純志, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, その他1名: 睪頭十二指腸切除術におけるドレーン培養の検討. JDDW2016 日本消化器外科学会大会 (第14回) (神戸), 2016. 11.
- 84) 川野陽一, 谷合信彦, 松本智司, 吉岡正人, 櫻澤信行, 水口義昭, 松田明久, 清水哲也, 山初和也, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 横室茂樹, 吉田 寛, 宮下正夫, その他1名: 腹腔鏡下肝切除術における様々な当科オリジナルの手技. JDDW2016 日本消化器外科学会大会 (第14回) (神戸), 2016. 11.
- 85) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 新井洋紀, 下田朋宏, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 櫻澤信行, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 太田恵一朗, 内田英二: 胃癌術後補助化学療法による骨格筋減少の検討. JDDW2016 日本消化器外科学会大会 (第14回) (神戸), 2016. 11.
- 86) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 山下直行, 寺崎浩司, 太田恵一朗, 内田英二: 消化管間質腫瘍の特定遺伝子変異を標的とした高感度検出法の開発. JDDW2016 日本消化器病学会大会 (第58回) (神戸), 2016. 11.
- 87) 柿沼大輔, 藤田逸郎, 金沢義一, 菅野仁士, 新井洋紀, 菊池友太, 下田朋宏, 松谷 毅, 萩原信敏, 野村 務, 牧野浩司, 櫻澤信行, 太田恵一朗, 内田英二: 感染を合併した後腹膜嚢胞に対し, 腹腔鏡下嚢胞摘出術を施行した1例. JDDW2016 日本消化器外科学会大会 (第14回) (神戸), 2016. 11.
- 88) 青木悠人, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 内田英二: 肝切除後合併症予測へのプロカルシトニンの有用性: プロカルシトニンはCRPに代わるか?. JDDW2016 日本消化器外科学会大会 (第14回) (神戸), 2016. 11.
- 89) 水口義昭, 真々田裕宏, 清水哲也, 神田知洋, 古木裕康, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 勝野 暁, 高田英志, 住吉宏樹, 近藤亮太, 内田英二: サイトカインTGF-beta1とmicroRNA200の直接クロストークによる上皮間葉移行. JDDW2016 日本消化器外科学会大会 (第14回) (神戸), 2016. 11.
- 90) 古木裕康, 水口義昭, 神田知洋, 清水哲也, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 松下 晃, 吉岡正人, 勝野 暁, 住吉宏樹, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 内田英二: 術後創部感染予防対策としての臍部細菌培養の結果と検討. JDDW2016 日本消化器外科学会大会 (第14回) (神戸), 2016. 11.
- 91) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 内田英二: 当院における敗血症・院内感染対策. 日本腹部救急医学会総会 (第53回) (横浜), 2017. 3.
- 92) 吉岡将史, 牧野浩司, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 関 奈紀, 菊池友太, 的場秀亮, 上田康二, 宮下哲平, 日下部誠, 浅見敬一: 粘膜下異所性胃腺より発生したと考えられる粘膜下腫瘍様早期胃癌の1例. 城西外科研究会 (第94回) (東京), 2017. 3.
- 93) Hiroshi M, Hiroshi Y, Hiroshi M, Tadashi Y, Atsushi H, Junji U, Hideyuki T, Takeshi M, Tsutomu N, Nobuyuki S, Masao M, Eiji U: LYMPH-NODE DISSECTION (L.N.) ALONG THE LEFT RECURRENT LARYNGEAL NERVE AFTER ESOPHAGEAL STRIPPING AND SAFE ANASTOMOSIS IN VATS-E. 米国消化器内視鏡外科学会 2017 (SAGES) (アメリカ合衆国ヒューストン), 2017. 3.
- 94) Hiroshi M: MIS for Esophageal cancer in Japan: Technique for training and pitfall from early to advance stage. 低侵襲手術の最先端 食道から胃まで, 良性疾患から進行癌まで New Frontier for MIS (Minimal Invasive Surgery) From the Oesophagus to Stomach, From Benign to Advance Cancer Surgery (タイ王国 チェンマイ), 2017. 2.
- 95) Hiroshi M: Lymph-node dissection along the left recurrent laryngeal nerve after esophageal stripping and safe anastomosis in VATS-E. 国際食道疾患会議 (第15回) 15th WORLD CONGRESS International Society for Diseases of the Esophagus (シンガポール), 2016. 9.
- 96) 吉岡将史, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二, 入澤篤志: 門脈-大循環シャントによる肝性昏睡を繰り返す高度肝障害症例に対しPSE先行後に部分的BRTOを施行した1例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第23回) (神戸), 2016. 9.
- 97) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 宮下正夫, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 内田英二: 食道胃接合部癌に対

- する右側胸腔鏡下部食道切除・郭清と胸腔鏡下吻合. 日本食道学会学術集会 (第70回) (東京), 2016. 7.
- 98) 篠塚恵理子, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二: 当科における高齢者 GERD・食道裂孔ヘルニア症例に対する治療方針. 日本食道学会学術集会 (第70回) (東京), 2016. 7.
- 99) 吉岡将史: 腹腔鏡下直腸切除. 多摩若コロ会 (第4回) (東京), 2016. 10.
- 100) 吉岡将史, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 関 奈紀, 菊池友太, 的場秀亮, 上田康二, 宮下哲平, 浅見敬一, 内田英二: 虫垂穿孔にて発症した虫垂原発腹膜偽粘液種の1例. 外科集談会 (第842回) (東京), 2016. 9.
- 101) 柿沼大輔, 藤田逸郎, 金沢義一, 松野邦彦, 新井洋紀, 下田朋宏, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 牧野浩司, 櫻澤信行, 内田英二: “内側アプローチ” を利用した幽門下領域郭清. 日本胃癌学会総会 (第89回) (広島), 2017. 3.
- 102) 藤田逸郎, 柿沼大輔, 松野邦彦, 新井洋紀, 下田朋宏, 櫻澤信行, 金澤義一, 萩原信敏, 山下直行, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 宮下正夫, 内田英二: 節外転移陽性進行胃癌の1例. 日本胃癌学会総会 (第89回) (広島), 2017. 3.
- 103) 松野邦彦, 金澤義一, 藤田逸郎, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 下田朋宏, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 加藤俊二, 内田英二: 当院における残胃癌術後85例の検討. 日本胃癌学会総会 (第89回) (広島), 2017. 3.
- (6) 座長:
- 1) 上田純志: 多摩市消化器疾患懇話会 (第24回) (東京), 2017. 1.
 - 2) 吉田 寛: 肝門部胆管癌の外科治療. 小石川消化器病フォーラム (第54回) (東京), 2016. 11.
 - 3) 丸山 弘: 敗血症診療における早期治療介入の意義. 多摩 DIC 講演会 (東京), 2017. 2.
 - 4) 吉田 寛: 肝胆膵外科医からみた敗血症性 DIC の治療戦略. 多摩 DIC 講演会 (東京), 2017. 2.
 - 5) 牧野浩司: がん食事療法最新の話: 糖質制限がなぜがんにも効くのか. Next Lecture Meeting in Tama (東京), 2017. 3.
 - 6) 高田英志: 一般演題3 下部消化器1. 外科集談会 (第842回) (東京), 2016. 9.
- 1) Makino H: International Society for Diseases of the Esophagus (15th), 2016. 9.
- 2) Makino H: LYMPH-NODE DISSECTION (L. N.) ALONG THE LEFT RECURRENT LARYNGEAL NERVE AFTER ESOPHAGEAL STRIPPING AND SAFE ANASTOMOSIS IN VATS-E. SAGES 2017, 2017. 3.
- (7) 開会の挨拶:
- 1) 牧野浩司: 南多摩内視鏡外科研究会 (第4回) (東京), 2017. 2.
- (8) 司会:
- 1) 吉田 寛: Biliary Tract “Cholestasis and Gallstones”. APDW2016 (神戸), 2016. 11.
 - 2) 吉田 寛: 門脈圧亢進症 (脾臓を視野に入れて). 日本画像医学会 (第36回) (東京), 2017. 2.
 - 3) 吉田 寛: APDW 2016 (神戸), 2016. 11.
 - 4) 吉田 寛: 門脈圧亢進症の現状と未来予測. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第23回) (神戸), 2016. 9.
- (9) 総合司会:
- 1) 牧野浩司: 多摩 DIC 講演会 (東京), 2017. 2.
- (10) 閉会の辞:
- 1) 吉田 寛: 南多摩がんチーム医療講演会 (第3回)~消化器がんを中心に~(神奈川), 2016. 10.
 - 2) 吉田 寛: 川崎・多摩肝癌フォーラム (神奈川), 2016. 11.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) 岩井拓磨, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 篠塚恵理子, 宮坂俊光, 内田英二: 腹腔鏡下手術時に灸治療による著明な腹腔内癒着を認めた1例. 日本外科系連合学会誌 2016; 41 (4): 719-723.
- 2) 吉田 寛: 外科手術. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2016; 22 (3): 56-56.
- 3) 吉岡将史, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二, 入澤篤志: シェント性肝性脳症 門脈-大循環シェントによる肝性昏睡を繰り返す高度肝障害症例に対し PSE 先行後に部分的 BRTO を施行した1例. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2016; 22 (3): 86-86.
- 4) 清水哲也, 谷合信彦, 上田純志, 高田英志, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: 静脈瘤の内視鏡治療, 手術療法の工夫 当科における腹腔静脈シェント挿入術の手術方法とその成績. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2016; 22 (3): 112-112.
- 5) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 山下直行, 寺崎浩司, 太田恵一朗, 内田英二: 消化管間質腫瘍の特定遺伝子変異を標的とした高感度検出法の開発. 日本消化器病学会雑誌 2016; 113 (臨増大会):

A665-A665.

- 6) 吉岡将史, 水口義昭, 真々田裕宏, 清水哲也, 神田知洋, 中村慶春, 谷合信彦, 吉岡正人, 松下 晃, 勝野 暁, 高田英志, 住吉宏樹, 近藤亮太, 内田英二: 結節性多発動脈炎経過中に発症した胆嚢穿孔・出血に対し鏡視下胆摘術を施行した1例. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (9): 2374-2375.
- 7) 眞鍋恵理子, 柿沼大輔, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 菅野仁士, 新井洋紀, 吉岡将史, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二: Press Through Package 誤嚥による十二指腸穿孔の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (9): 2394-2394.
- 8) 神田知洋, 水口義昭, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 川野陽一, 清水哲也, 勝野 暁, 高田英志, 住吉宏樹, 近藤亮太, 内田英二: 肝胆膵 当院における単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の工夫. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: OP-265-4-OP-265-4.
- 9) 山初和也, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 住吉宏樹, 横山 正, 松本智司, 宮下正夫, 内田英二: 肝胆膵 遺残なく膵インスリノーマを切除するための当科の取り組みについて. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: OP-271-1-OP-271-1.
- 10) 吉岡将史, 中村慶春, 勝野 暁, 住吉宏樹, 松下 晃, 山初和也, 吉岡正人, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 谷合信彦, 内田英二: 肝胆膵 遺残なくインスリノーマ手術を終える為に 術中の経時的 IRI モニタリングが腫瘍の完全摘除に有用であった1例. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: RS-19-11-RS-19-11.
- 11) 松下 晃, 中村慶春, 住吉宏樹, 山初和也, 勝野 暁, 神田知洋, 清水哲也, 水口義昭, 吉岡正人, 横山 正, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: 肝胆膵 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術における endoscopic linear stapler (ELS) を用いた膵切離と膵消化管吻合の工夫. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: OP-270-7-OP-270-7.
- 12) 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 松下 晃, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: 肝胆膵 腹腔鏡下肝外側区域切除術の定型化を目標に 安全に行うための当科の工夫. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: OP-274-1-OP-274-1.
- 13) 吉岡正人, 谷合信彦, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 松下 晃, 勝野 暁, 真々田裕宏, 内田英二: 肝胆膵 当科の腹腔鏡下肝切除術の手技と工夫. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: OP-171-6-OP-171-6.
- 14) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 牧野浩司, 藤田逸郎, 金沢義一, 中村慶春, 柿沼大輔, 菅野仁士, 宮下正夫, 内田英二: 食道良性疾患の外科治療 上部消化管 当施設における腹腔鏡下逆流防止術の治療成績および今後の展望 とくに通常の GERD とは異なる特殊な症例に関して. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: SY-18-4-SY-18-4.
- 15) 武井寛幸, 柳原恵子, 栗田智子, 岩本美樹, 関 奈紀, 保科淑子, 二宮 淳, 浅川英輝, 横山 正, 山下浩二, 飯田信也: ACOSOG-Z0011 試験適格例に対する腋窩郭清 省略 vs 実施 乳腺・内分泌 省略. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: DB-14-1-DB-14-1.
- 16) 勝野 暁, 中村慶春, 松下 晃, 住吉宏樹, 山初和也, 横山 正, 神田知洋, 清水哲也, 水口義昭, 吉岡正人, 谷合信彦, 内田英二: 救急・外傷 腹腔鏡下尾側膵切除術 (Lap-DP) における手術部位感染と膵液瘻との関連について. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: OP-106-8-OP-106-8.
- 17) 赤城一郎, 松谷 毅, 石橋 宰, 牧野浩司, 吉田 寛, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 篠塚恵理子, 宮下正夫, 内田英二: 上部消化管 食道扁平上皮癌における PI3K-Akt-mTOR 経路の網羅的解析. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: OP-029-1-OP-029-1.
- 18) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 柿沼大輔, 新井洋紀, 萩原信敏, 櫻澤信行, 野村 務, 松谷 毅, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 内田英二: 上部消化管 胃癌手術における予後予測因子としての術前 modified Glasgow Prognostic Score (mGPS) の意義. 日本外科学会定期学術集会抄録集 2015; 115回: OP-039-2-OP-039-2.
- 19) 赤城一郎, 松谷 毅, 石橋 宰, 小川陽大, 牧野浩司, 吉田 寛, 野村 務, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二: 食道扁平上皮癌における PI3K-Akt-mTOR 経路の網羅的解析. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: P-167-1-P-167-1.
- 20) 住吉宏樹, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 山初和也, 水口義昭, 谷合信彦, 真々田裕宏, 横山 正, 内田英二: 膵神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下膵切除術の手術成績. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: RS-76-6-RS-76-6.
- 21) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 宮下正夫, 内田英二: ストリッピングによる 106recL 郭清とアンビル先行装着後, 残食道を縫合する頸部吻合で合併症を減らす工夫. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: O-60-6-O-60-6.
- 22) 吉岡正人, 谷合信彦, 清水哲也, 高田英志, 松下 晃, 水口義昭, 勝野 暁, 神田知洋, 中村慶春, 内田英二: 肝切除術における手技・デバイスの工夫 当科における腹腔鏡下肝切除術の定型化と Reduced port surgery. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: RS-69-4-RS-69-4.
- 23) 山初和也, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 住吉宏樹, 横山 正, 松本智司, 宮下正夫, 内田英二: 膵嚢胞性疾患に対する手術適応と術式選択 膵嚢胞性疾患に対する腹腔鏡下膵切除術の有用性. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: RS-62-3-RS-62-3.
- 24) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 上田純志, 赤城一郎, 若林秀幸, 近藤亮太, 内田英二: バイポーラ鑷子を利

- 用した肝切除術のポイント. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: P-118-1-P-118-1.
- 25) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 吉田 寛, 内田英二: 肝切除術における手技・デバイスの工夫 当科における鏡視下肝切除術の安全性と確実性の向上を目的とした様々な工夫. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: RS-52-1-RS-52-1.
 - 26) 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 近藤亮太, 吉田 寛, 内田英二: 肝細胞癌切除例に対するBCAA製剤の及ぼす影響に関するRCT. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: O-38-2-O-38-2.
 - 27) 上田康二, 赤城一郎, 吉田 寛, 平方敦史, 若林秀幸, 近藤亮太, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二: 当科における急性虫垂炎の検討. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: P-69-1-P-69-1.
 - 28) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 平方敦史, 水口義昭, 神田知洋, 高田英志, 内田英二: 肝細胞癌におけるAFP-L3分画と臨床病理学的因子および予後との関連. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: P-79-8-P-79-8.
 - 29) 高田英志, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 真々田裕宏, 内田英二: 再発肝癌症例に対する腹腔鏡下再肝切除術の有用性. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: P-57-2-P-57-2.
 - 30) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 牧野浩司, 丸山 弘, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 近藤亮太, 内田英二: 臍頭十二指腸切除術における我々の臍消化管吻合の工夫 臍管後壁先行運針による確実な臍腸吻合. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: RS-18-3-RS-18-3.
 - 31) 高橋吾郎, 山田岳史, 菅 隼人, 小泉岐博, 水口義昭, 進士誠一, 高田英志, 新井洋紀, 岩井拓磨, 内田英二: 保存的治療奏功後の虫垂切除の必要性 Interval appendectomy 症例の病理所見の検討. 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: P-12-3-P-12-3.
 - 32) 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 山初和也, 住吉宏樹, 横山 正, 田尻 孝, 内田英二: 臍臓と胆道 腹腔鏡下臍切除術 本術法はどれだけ標準化されたか? (Pancreas and biliary tract Laparoscopic pancreatectomy; How far it has been standardized?) (英語). 日本消化器外科学会総会 2015; 70回: ISY-5-5-ISY-5-5.
 - 33) 櫻澤信行, 宮下正夫, 保田智彦, 原田潤一郎, 藤田逸郎, 金沢義一, 山下直行, 牧野浩司, 内田英二: ガーゼ付2枚羽臓器圧排鉤(ピース型圧排鉤)の腹腔鏡補助下胃切除での有用性. 日本胃癌学会総会記事 2016; 88回: 479-479.
 - 34) 柿沼大輔, 藤田逸郎, 金沢義一, 菅野仁士, 新井洋紀, 菊池友太, 櫻澤信行, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 内田英二: 腹腔鏡下胃切除における臍上縁リンパ節郭清の手技と工夫 11p 郭清を中心に. 日本胃癌学会総会記事 2016; 88回: 463-463.
 - 35) 藤田逸郎, 柿沼大輔, 新井洋紀, 菊池友太, 早川朋宏, 金沢義一, 萩原信敏, 櫻澤信行, 松谷 毅, 山下直行, 野村 務, 牧野浩司, 木山輝郎, 内田英二: 内側アプローチの概念を用いた臍前面先行アプローチによる6番郭清. 日本胃癌学会総会記事 2016; 88回: 454-454.
 - 36) 若林秀幸, 牧野浩司, 吉田 寛, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮坂俊光, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 内田英二: 前庭部に多発したEBV関連胃癌の1例. 日本胃癌学会総会記事 2016; 88回: 405-405.
 - 37) 金沢義一, 藤田逸郎, 菅野仁士, 柿沼大輔, 新井洋紀, 萩原信敏, 松谷 毅, 山田岳史, 野村 務, 木山輝郎, 牧野浩司, 山下直行, 加藤俊二, 内田英二: 切除不能進行胃癌に対する化学療法後, 臨床的根治切除例の検討. 日本胃癌学会総会記事 2016; 88回: 327-327.
 - 38) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 上田純志, 新井洋紀, 柿沼大輔, 菅野仁士, 内藤善也, 内田英二: 臍転移を認めた胃消化管間質腫瘍の1例(第2報) (A case of gastrointestinal stromal tumor of the stomach metastasizing to the pancreas: 2nd report) (英語). 日本胃癌学会総会記事 2016; 88回: 227-227.
 - 39) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 赤城一郎, 若林秀幸, 山下直行, 櫻澤信行, 菅野仁士, 柿沼大輔, 金沢義一, 藤田逸郎, 内田英二: 右側胸腔鏡下操作による安全で低侵襲な食道胃接合部腺癌の下縦隔リンパ節郭清と吻合 (Lower mediastinal lymph node dissection and anastomosis for esophago-gastric junctional cancer) (英語). 日本胃癌学会総会記事 2016; 88回: 187-187.
 - 40) 清水哲也, 水口義昭, 吉岡正人, 松下 晃, 金子恵子, 川野陽一, 勝野 暁, 神田知洋, 高田英志, 中村慶春, 谷合信彦, 真々田裕宏, 横室茂樹, 内田英二: 【ERCPのトラブルシューティング】ERCPに起因した後腹膜穿孔の原因と対応. 日本腹部救急医学会雑誌 2016; 36(1): 79-85.
 - 41) 吉岡将史, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 関 奈紀, 浅見敬一, その他1名: 肥満患者の成人臍ヘルニア嵌頓の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2016; 36(2): 504-504.
 - 42) 篠塚恵理子, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 若林秀幸, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, その他1名: 出血性肝嚢胞に感染を生じ敗血症・DICをきたした1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2016; 36(2): 485-485.
 - 43) 柿沼大輔, 藤田逸郎, 金沢義一, 菅野仁士, 新井洋紀, 菊池友太, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 内田英二: 消化管出血をきたした胃GISTに対し内視鏡的止血術施行後切除しえた1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2016; 36(2): 447-447.
 - 44) 赤城一郎, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英

- 二：保存的に治療しえた胸腔内穿破型の特発性食道破裂の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2016；36（2）：441-441.
- 45) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 吉田 寛, 内田英二：右下横隔動脈温左三区区域切除後出血に対し固有肝動脈塞栓術が可能であった1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2016；36（2）：431-431.
- 46) 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二：当科における肝細胞癌破裂に対するマネージメント. 日本腹部救急医学会雑誌 2016；36（2）：405-405.
- 47) 神田知洋, 水口義昭, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 松下 晃, 吉岡正人, 清水哲也, 高田英志, 住吉宏樹, 近藤亮太, 内田英二：腹部救急疾患に対する内視鏡下手術 肝胆膵 胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢全摘術の有用性. 日本腹部救急医学会雑誌 2016；36（2）：365-365.
- 48) 上田純志, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, その他1名：腹部救急疾患に対する内視鏡下手術 肝胆膵 総胆管結石症に対する腹腔鏡手術の検討. 日本腹部救急医学会雑誌 2016；36（2）：365-365.
- 49) 清水哲也, 水口義昭, 吉岡正人, 松下 晃, 神田知洋, 高田英志, 勝野 暁, 住吉宏樹, 近藤亮太, 中村慶春, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二：肝胆膵救急領域における内視鏡治療の進歩 ERCPに関連した後腹膜穿孔の原因, 診断とその対応. 日本腹部救急医学会雑誌 2016；36（2）：359-359.
- 50) 上田康二, 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 吉岡将史, 宮坂俊光, 内田英二：腹部救急疾患に対する術後感染症対策 当科における急性虫垂炎手術における術後合併症の検討. 日本腹部救急医学会雑誌 2016；36（2）：356-356.
- 51) 高田英志, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二：腹腔鏡下再肝切除術の有用性. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：OS250-1-OS250-1.
- 52) 藤田逸郎, 柿沼大輔, 新井洋紀, 菊池友太, 櫻澤信行, 金沢義一, 山下直行, 菅野仁士, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 木山輝郎, 内田英二：膵頭前面先行剥離による鏡視下6番郭清. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：OS155-3-OS155-3.
- 53) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 勝野 暁, 高田英志, 住吉宏樹, 近藤亮太, 青木悠人, 吉田 寛, 内田英二：当科 Original の Device を駆使した腹腔鏡下肝切除における止血法の工夫. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：OS138-1-OS138-1.
- 54) 日下部誠, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 古木裕康, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 内田英二：左上大静脈遺残と右上大静脈欠損を伴った食道癌に対し胸腔鏡下食道切除術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：OS95-6-OS95-6.
- 55) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 牧野浩司, 内田英二：鏡視下補助にて食道切除・有茎空腸再建を行った肺感染症治療後の食道癌の1例. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：OS95-4-OS95-4.
- 56) 近藤亮太, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二：当院における巨大肝嚢胞に対する腹腔鏡下肝嚢胞開窓術の治療成績. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：OS36-1-OS36-1.
- 57) 関 奈紀, 横山 正, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 武井寛幸, 内田英二：女性化乳房症に対して傍乳輪切開アプローチによる内視鏡補助下乳腺切除術が有用であった1例. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：OS32-5-OS32-5.
- 58) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 櫻澤信行, 宮下正夫, 内田英二：食道再建 腹腔鏡下胃管作成の工夫 腹腔鏡下胃切除後, 胃内の鏡視下にステープルライン内翻する胃管作成の工夫. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：PD19-11-PD19-11.
- 59) 水口義昭, 真々田裕宏, 清水哲也, 神田知洋, 中村慶春, 谷合信彦, 吉岡正人, 松下 晃, 川野陽一, 勝野 暁, 高田英志, 住吉宏樹, 近藤亮太, 古木裕康, 内田英二：急性胆嚢炎の腹腔鏡下胆嚢摘出術 急性胆嚢炎に対する早期・緊急 Lap-C 術前全身状態 (ASA-PS) からみた周術期手術成績の検討. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：PD4-3-PD4-3.
- 60) 勝野 暁, 中村慶春, 松下 晃, 住吉宏樹, 山初和也, 横山 正, 神田知洋, 清水哲也, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二：腹腔鏡手術における安全確実な膵消化管吻合術, 完全腹腔鏡から小開腹まで 腹腔鏡下膵切除術の安全な普及をめざした膵切離・膵消化管吻合の工夫. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：WS36-6-WS36-6.
- 61) 住吉宏樹, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 山初和也, 神田知洋, 清水哲也, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 横山 正, 谷合信彦, 内田英二：誰も教えてくれない手術機器のうまい使い方 ソフト凝固 腹腔鏡下膵切除術における術中出血における止血手技の工夫. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：WS31-4-WS31-4.
- 62) 野村 務, 谷合 毅, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 中村慶春, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二：食道良性疾患に対する内視鏡外科手術の手技と治療成績 III型食道裂孔ヘルニアに対する内視鏡外科手術のポイントと治療成績. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015；20（7）：WS29-4-WS29-4.
- 63) 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 山初和也, 住吉宏樹, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 谷合信彦, 神田知洋, 横山 正, 田尻 孝,

- 水口義昭, 内田英二: 腹腔鏡下膵切除術のピットフォールとその対策 腹腔鏡下膵切除術の標準化に向けた取り組み pitfall とその対策について. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015; 20 (7): WS26-7-WS26-7.
- 64) 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 松下 晃, 勝野 暁, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: 腹腔鏡下肝切除手術のピットフォールとその対策 腹腔鏡下肝部分切除と外側区域切除のピットフォールおよび我々の工夫. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015; 20 (7): WS18-5-WS18-5.
- 65) 松下 晃, 中村慶春, 住吉宏樹, 勝野 暁, 山初和也, 神田知洋, 清水哲也, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 横山 正, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: 腹腔鏡下膵切除術 安全な術式の定型化を目指して 安全な腹腔鏡下膵体尾部切除術の定型化とその継承について. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015; 20 (7): SY27-9-SY27-9.
- 66) 新井洋紀, 松谷 毅, 萩原信敏, 高田英志, 向後英樹, 住吉宏樹, 横山康行, 高橋吾郎, 下田朋宏, 岩井拓磨, 近藤亮太, 菊池友太, 野村 務, 内田英二: 腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の標準化を目指して 腹腔鏡下ヘルニア修復術 (TAPP) 後の再発症例から学ぶ手技の再定型化. 日本内視鏡外科学会雑誌 2015; 20 (7): SY5-7-SY5-7.
- 67) 陣内 鑑, 萩原 純, 萩原令彦, 岡本浩和, 吉野雄大, 山口昌紘, 藪野雄大, 横堀將司, 小原良規, 増野智彦, 金 史英, 横田裕行: 呼吸不全を伴った特発性食道破裂に対し ECMO を導入して緊急手術を行った 1 例. 日本医科大学医学部雑誌 2015; 11 (4): 239-239.
- 68) 眞鍋恵理子, 進士誠一, 小泉岐博, 菅 隼人, 山田岳史, 高田英志, 松田陽子, 内藤善哉, 内田英二: 憩室炎との鑑別が困難であった 4 型大腸癌 (inflammatory type) の 1 例. 日本消化器外科学会雑誌 2015; 48 (9): 789-797.
- 69) 保田智彦, 松本智司, 横室茂樹, 櫻澤信行, 松田明久, 勝田美和子, 菊池友太, 金谷洋平, 原絵津子, 原田潤一郎, 栗山 翔, 宮下正夫: 鏡視下直腸癌手術後に下腿コンパートメント症候群を発症した 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (12): 3085-3085.
- 70) 新井桃子, 金子朋広, 三井亜希子, 高田英志, 清水哲也, 水口義昭, 松井浩輔, 舟木威徳, 窪田 実, 鶴岡秀一: 腹膜透析カテーテルの卵管采巻絡再発に対しカテーテル固定術が有効であった 1 例. 腎と透析 2015; 79 (別冊 腹膜透析 2015): 179-180.
- 71) 吉岡将史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二: エベロリムスが長期奏功を示している膵神経内分泌癌切除の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 1079-1079.
- 72) 若林秀幸, 横山 正, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 上田純志, 赤城一郎, 関 奈紀, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 磐井佑輔, 内田英二: 重症急性膵炎後の難治性膵仮性嚢胞十二指腸瘻に対して膵嚢胞胃吻合術が有効であった 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 1074-1074.
- 73) 近藤亮太, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 真々田裕宏, 内田英二: 切除肝細胞癌におけるリンパ節転移の検討. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 1072-1072.
- 74) 川島万平, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 松下 晃, 勝野 暁, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: 胆管腫瘍栓を伴った肝原発性癌肉腫の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 1070-1070.
- 75) 下田朋宏, 水口義昭, 神田知洋, 増田有香, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 川野陽一, 清水哲也, 勝野 暁, 高田英志, 住吉宏樹, 内田英二: 胆嚢穿孔を伴う出血性胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した症例. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 890-890.
- 76) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, 内田英二: 子宮体癌術後局所再発術後に発症した転移性大腸癌の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 846-846.
- 77) 日下部誠, 松谷 毅, 萩原信敏, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 内田英二: 食道小細胞型内分泌細胞癌の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 841-841.
- 78) 神田知洋, 水口義昭, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 清水哲也, 勝野 暁, 高田英志, 住吉宏樹, 内田英二: 胃癌術後の左側胆嚢胆石症に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 813-813.
- 79) 菅野仁士, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 新井洋紀, 萩原信敏, 櫻澤信行, 野村 務, 松谷 毅, 牧野浩司, 山下直行, 木山輝郎, 内田英二: 胃癌患者における術前サルコペニア評価. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 777-777.
- 80) 新井洋紀, 松谷 毅, 萩原信敏, 高田英志, 横山康行, 高橋吾郎, 下田朋宏, 岩井拓磨, 菊池友太, 近藤亮太, 野村 務, 内田英二: 成人鼠径ヘルニアに対する手術手技の変遷と術後疼痛・違和感. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 749-749.
- 81) 磐井佑輔, 諸江雄太, 福田令雄, 田上 隆, 富永直樹, 谷 将星, 金子純也, 北橋章子, 小柳正雄, 石之神小織, 久野将宗, 畝本恭子, 横山 正, 吉田 寛: 主膵管損傷を伴う膵損傷に対する治療方針についての自験例の検討. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 743-743.
- 82) 高田英志, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: 混合型肝癌切除例の検討. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 720-720.
- 83) 住吉宏樹, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 山初和也, 神田知洋, 清水哲也, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 横山 正, 谷合信

- 彦, 内田英二: 腹腔鏡下膵切除術における術中出血における止血手技の工夫. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 681-681.
- 84) 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 高田英志, 近藤亮太, 神田知洋, 水口義昭, 住吉宏樹, 勝野 暁, 松下 晃, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: 安全な腹腔鏡下外側区域切除を定型化するために. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 680-680.
- 85) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 山下直行, 牧野浩司, 内田英二: 鏡視下食道癌手術における後縦隔経路胃管挙上の偶発症低減のための工夫. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 668-668.
- 86) 上田康二, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, 内田英二: 腹腔鏡ポート孔で, スマートアンカーを用いた簡単な腸瘦造設法. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 663-663.
- 87) 松下 晃, 中村慶春, 住吉宏樹, 勝野 暁, 山初和也, 神田知洋, 清水哲也, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 横山 正, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: 高難度膵臓・胆道内視鏡外科手術の教育 Swine 腹腔鏡下膵切除・胆管吻合モデルの構築と定型化した腹腔鏡下膵尾側膵切除術の継承について. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 599-599.
- 88) 上田純志, 横山 正, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, 内田英二: 教育機関としての亜全胃温存膵頭十二指腸切除術の工夫と成績. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 559-559.
- 89) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 中村慶春, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二: 高齢者の食道裂孔ヘルニアに対する外科治療. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 521-521.
- 90) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 上田純志, 牧野浩司, 丸山 弘, 赤城一郎, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, 内田英二: 膵頭十二指腸切除術における膵消化管吻合の工夫 膵管先行運針による確実な膵腸吻合. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 514-514.
- 91) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 内田英二: 当科で行っている頸胸境界部食道悪性腫瘍切除・再建術の工夫と成績. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 504-504.
- 92) 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 松下 晃, 水口義昭, 勝野 暁, 神田知洋, 住吉宏樹, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二: Reduced port surgery の展開 (肝, 胆, 膵, 脾, その他) 当科における腹腔鏡下肝切除術の Reduced port surgery 導入と工夫. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 491-491.
- 93) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村務, 櫻澤信行, 宮下正夫, 内田英二: 食道疾患手術後の吻合・修復部における縫合不全対策 食道癌術後の縫合不全, 食道穿孔後の瘻孔に対する低侵襲的治療. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 489-489.
- 94) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 住吉宏樹, 青木悠人, 吉田 寛, 内田英二: 内視鏡外科手技と器具の工夫 (肝, 胆, 膵, 脾) 当科 Original な手術器具を使用した腹腔鏡下肝切除術の安全な手術手技. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 486-486.
- 95) 平方敦史, 吉田 寛, 上田純志, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 赤城一郎, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, 内田英二: 各種エネルギーデバイスのピットフォールと適切な使用方法 Vessel sealing system, パイポーラ鑷子を用いた肝切除術. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 485-485.
- 96) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 中村慶春, 高田英志, 新井洋紀, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 内田英二: 内視鏡外科のトラブルシューティング (肝胆膵, 腹壁癒痕ヘルニア, イレウス, その他) 腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術における術中偶発症回避のための要点と工夫. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 478-478.
- 97) 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 中村慶春, 松下 晃, 吉田 寛, 内田英二: 超高齢者 (80 歳以上) に対する外科治療 超高齢者 (80 歳以上) 肝細胞癌患者における肝細胞癌切除術の意義. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 436-436.
- 98) 勝野 暁, 中村慶春, 松下 晃, 住吉宏樹, 山初和也, 横山 正, 神田知洋, 清水哲也, 川野陽一, 水口義昭, 吉岡正人, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: 内視鏡外科手術の現状と将来 (肝, 胆, 膵) 腹腔鏡下膵切除術の標準化に向けた取り組み. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 417-417.
- 99) 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 住吉宏樹, 山初和也, 水口義昭, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 谷合信彦, 横山 正, 内田英二: 胆道・膵臓疾患に対する内視鏡外科手術手技 胆膵内視鏡外科手術の標準化に向けた取り組み 安全性に対する再考察. 日本臨床外科学会雑誌 2015; 76 (増刊): 386-386.
- 100) 日下部誠, 水口義昭, 神田知洋, 古木裕康, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 松下 晃, 吉岡正人, 清水哲也, 横室茂樹, 内田英二: 中心循環系血管内塞栓促進用補綴剤による肝動脈化学塞栓術後に発症した壊疽性胆嚢炎の 1 例. 胆道 2016; 30 (4): 782-786.
- 101) 上田康二, 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 関 奈紀, 菊池友太, 的場秀亮, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 吉岡将史, 内田英二: 当科における急性虫垂炎の検討. 日本外科感染症学会雑誌 2016; 13 (5): 572-572.
- 102) 上田純志, 吉田 寛, 丸山 弘, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 高田英志, 関 奈紀, 菊池友太, 的場秀亮, 上田康二, 吉岡将

- 史, 宮下哲平, 浅見敬一, 内田英二:胆道再建を伴う肝切除における SSI の検討. 日本外科感染症学会雑誌 2016; 13 (5): 561-561.
- 103) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 菊池友太, 上田康二, 吉岡将史, 内田英二:手術室における大腸手術時の術野汚染対策. 日本外科感染症学会雑誌 2016; 13 (5): 549-549.
- 104) 吉岡将史, 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 関 奈紀, 菊池友太, 篠塚恵理子, 的場秀亮, 上田康二, 浅見敬一, 内田英二:腹腔鏡補助下大腸切除術における SSI の検討. 日本外科感染症学会雑誌 2016; 13 (5): 536-536.
- 105) 大野 崇, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 若林秀幸, 近藤亮太, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 内田英一:ヘルニア内容に子宮を認めた成人鼠径ヘルニアの1例. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (10): 2616-2616.
- 106) 関 奈紀, 横山 正, 高田英志, 上田純志, 平方敦史, 丸山 弘, 牧野浩司, 鈴木えりか, 中井麻木, 柳原恵子, 蒔田益次郎, 飯田信也, 吉田 寛, 内田英二, 武井寛幸:自壊し出血・排膿を伴う局所進行性巨大乳癌に対して感染制御を図りつつ二期的に手術施行し良好な経過を得られた1例. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (増刊): 967-967.
- 107) 的場秀亮, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 菊池友太, 篠塚恵理子, 上田康二, 吉岡将史, 浅見敬一, 宮下哲平, 吉田 寛, 内田英二:腹腔内膿瘍と鑑別が困難であった胃 GIST の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (増刊): 934-934.
- 108) 金谷洋平, 谷合信彦, 吉岡正人, 清水哲也, 川野陽一, 上田純志, 高田英志, 神田知洋, 青木悠人, 近藤亮太, 水口義昭, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二:85歳以上の超高齢者に対する肝切除6例の検討. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (増刊): 677-677.
- 109) 菊池友太, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 的場秀亮, 上田康二, 吉岡将史, 宮下哲平, 浅見敬一, 吉田 寛, 藤田逸郎, 内田英二:胃癌腫瘍膜腫症の2例. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (増刊): 650-650.
- 110) 櫻澤信行, 宮下正夫, 横室茂樹, 松本智司, 川野陽一, 松田明久, 山初和也, 保田智彦, 関口久美子, 安藤文彦, 増田寛喜, 川島万平, 日下部誠, 香中伸太郎, 内田英二:当科におけるこだわりの6番リンパ節郭清手技 GEAR DOWN 郭清. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (増刊): 618-618.
- 111) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 菅野仁士, 新井洋紀, 牧野浩司, 山下直行, 太田恵一郎, 内田英二:食道癌術後の上部内視鏡検査による観察のポイントおよび内視鏡的処置. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (増刊): 553-553.
- 112) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 高田英志, 菊池友太, 篠塚恵理子, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村務, 金沢義一, 藤田逸郎, 内田英二:食道胃接合部癌に対する右側からの胸腔鏡下部食道切除・郭清と胸腔鏡下吻合. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (増刊): 529-529.
- 113) 川野陽一, 松本智司, 谷合信彦, 中村慶春, 桜澤信行, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 松田明久, 清水哲也, 山初和也, 横室茂樹, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二:内視鏡下手術でのトラブル 次の一手!(肝・胆・脾) 当科オリジナルのデバイスを駆使した腹腔鏡下肝切除における止血法. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (増刊): 370-370.
- 114) 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 中村慶春, 牧野浩司, 柿沼大輔, 菅野仁士, 太田恵一郎, 宮下正夫, 内田英二:腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア・逆流性食道炎手術の適応と術式 食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の適応と治療成績 とくに混合型食道裂孔ヘルニアに関する検討. 日本臨床外科学会雑誌 2016; 77 (増刊): 349-349.
- 115) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 菊池友太, 上田康二, 吉岡将史, 内田英二:手術部における感染対策 大腸手術における手術時手袋表面の汚染度調査. 日本手術医学会誌 2016; 37 (Suppl): 71-71.
- 116) 長野楨彦, 鈴木美子, 丸山 弘, 高瀬久光:日本医科大学多摩永山病院救命救急センターにおける MRSA アクティブサーベイランスによる感染制御と入院時リスク因子の検証. 日本医科大学医学会雑誌 2016; 12 (4): 162-163.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 丸山 弘:「消化器外科手術における Candida 属の薬剤感受性」. 南多摩外科感染症研究会 (第2回) (東京), 2016. 1.
- 2) 吉田 寛: Opening remarks. 多摩消化器外科セミナー (第4回) (東京), 2016. 1.
- 3) 浅見敬一, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, その他1名:メッケル憩室穿孔に対して腹腔鏡補助下小腸部分切除術を施行した1例. 日本消化器病学会関東支部第338回例会 (第338回) (東京), 2016. 2.
- 4) 磐井佑輔, 山本 愛, 田中 愛, 鈴木美子, 田杭直哉, 上原隆志, 丸山 弘:当院救命救急センターにおける中心ライン関連血流感染サーベイランスの結果. 日本環境感染学会総会学術集会 (第31回) (京都), 2016. 2.
- 5) 田杭直哉, 鈴木美子, 菅谷量俊, 村田和也, 丸山 弘:当院における MIC=2 μ g/mL の MRSA 株検出割合および VCM の細菌学的有効性について. 日本環境感染学会総会学術集会 (第31回) (京都), 2016. 2.
- 6) 山本 愛, 丸山 弘, 磐井佑輔, 田中 愛, 鈴木美子, 田杭直哉, 上原隆志:N95 マスク装着指導と漏れ率の定量的評価から当院の

空気感染対策を考える. 日本環境感染学会総会学術集会 (第 31 回) (京都), 2016. 2.

- 7) Yoshida H, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Hirakata A, Ueda J, Mamada Y, Tani N, Uchida E: Preoperative liver functional volumetry performed by 3D-99 mTc-GSA scintigraphy/vascular fused images. 25th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (第 25 回) (東京), 2016. 2.
- 8) Kawano Y, Tani N, Matsumoto S, Yoshioka M, Sakurazawa N, Shimizu T, Matsuda A, Yoshida H, Miyashita M, Uchida E: Our novel way to insert sheet type materials at laparoscopic hepatectomy: Corkscrew insertion method. 25th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (第 25 回) (東京), 2016. 2.
- 9) 吉田 寛: シンボジウム 最近の食道胃静脈瘤緊急例に対する治療戦略. 日本腹部救急医学学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 3.
- 10) 赤城一郎, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二: 保存的に治療しえた胸腔鏡内穿破型の特発性食道破裂の 1 例. 日本腹部救急医学学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 3.
- 11) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 高田英志, 近藤亮太, 青木悠人, 吉田 寛, 内田英二: 右下横隔動脈温存左三区域切除後出血に対し固有肝動脈塞栓術が可能であった 1 例. 日本腹部救急医学学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 3.
- 12) 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二: 当科における肝細胞癌破裂に対するマネージメント. 日本腹部救急医学学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 3.
- 13) 篠塚恵理子, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 若林秀幸, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, その他 1 名: 出血性肝嚢胞に感染を生じた敗血症・DIC をきたした 1 例. 日本腹部救急医学学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 3.
- 14) 吉岡将史, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 関 奈紀, 浅見敬一, その他 1 名: 肥満患者の成人臍ヘルニア嵌頓の 1 例. 日本腹部救急医学学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 3.
- 15) 牧野浩司: 「食道がん手術 (VATS-E) での私の工夫 (1. ストリッピング法による左上縦隔術野展開後の 106recL 郭清, 2.circular stapler での頸部吻合の工夫, 3. スマートアンカーを用いた腸瘻造設)」。多摩消化器手術手技研究会 (第 16 回) (東京), 2016. 3.
- 16) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 赤城一郎, 若林秀幸, 山下直行, 桜澤信行, 菅野仁士, 柿沼大輔, 金沢義一, 藤田逸郎, 内田英二: 右側胸腔鏡下操作による安全で低侵襲な食道胃接合部腺癌の下縦隔リンパ節郭清と吻合. 日本胃癌学会総会 (第 88 回) (大分), 2016. 3.
- 17) 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 藤田逸郎, 金沢義一, 上田純志, 新井洋紀, 柿沼大輔, 菅野仁士, 内藤善也, 内田英二: 脛転移を認めた胃消化管間質腫瘍の 1 例: 第 2 報. 日本胃癌学会総会 (第 88 回) (大分), 2016. 3.
- 18) 金沢義一, 藤田逸郎, 菅野仁士, 柿沼大輔, 新井洋紀, 萩原信敏, 松谷 毅, 山田岳史, 野村 務, 木山輝郎, 牧野浩司, 山下直行, 加藤俊二, 内田英二: 切除不能進行胃癌に対する化学療法後, 臨床的根治切除例の検討. 日本胃癌学会総会 (第 88 回) (大分), 2016. 3.
- 19) 山下直行, 湖山信篤, 山岸杏彌, 安藤文彦, 藤田逸郎, 金沢義一, 菅野仁士, 柿沼大輔, 新井洋紀, 萩原信敏, 櫻澤信行, 宮下正夫, 牧野浩司, 内田英二: 上部限局胃癌に対する切除術式を長期予後と栄養評価から再考する. 日本胃癌学会総会 (第 88 回) (大分), 2016. 3.
- 20) 若林秀幸, 牧野浩司, 吉田 寛, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮坂俊光, 藤田逸郎, 金沢義一, 柿沼大輔, 内田英二: 前庭部に多発した EBV 関連胃癌の 1 例. 日本胃癌学会総会 (第 88 回) (大分), 2016. 3.
- 21) 藤田逸郎, 柿沼大輔, 新井洋紀, 菊池友太, 早川朋宏, 金沢義一, 萩原信敏, 櫻澤信行, 松谷 毅, 山下直行, 木山輝郎, 内田英二: 内側アプローチの概念を用いた脛前面先行アプローチによる 6 番郭清. 日本胃癌学会総会 (第 88 回) (大分), 2016. 3.
- 22) 柿沼大輔, 藤田逸郎, 金沢義一, 菅野仁士, 新井洋紀, 菊池友太, 櫻澤信行, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 内田英二: 腹腔鏡下胃切除における脛上緑リンパ節郭清の手技と工夫-11p 郭清を中心に. 日本胃癌学会総会 (第 88 回) (大分), 2016. 3.
- 23) 櫻澤信行, 宮下正夫, 安田智彦, 原田潤一郎, 藤田逸郎, 金沢義一, 山下直行, 牧野浩司, 内田英二: ガーゼ付 2 枚羽臓器圧排鉤 (ピース型圧排鉤) の腹腔鏡補助下胃切除での有用性. 日本胃癌学会総会 (第 88 回) (大分), 2016. 3.
- 24) 吉田 寛: 門脈圧亢進症の病態と診断, 治療. 愛媛消化器超音波カンファレンス (第 15 回) (愛媛), 2016. 1.

追加分その他:

- 1) 丸山 弘: 薬剤感受性試験/アンチバイオグラム. 日本環境感染学会総会学術集会 (第 31 回) (京都), 2016. 2.

追加分ビデオワークショップ:

- 1) 上田純志, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 関 奈紀, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 吉岡将史, 浅見敬一, その他 1 名: 総胆管結石症に対する腹腔鏡手術の検討. 日本腹部救急医学学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 3.

追加分ワークショップ：

- 1) 上田康二, 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 吉岡将史, 宮坂俊光, 内田英二：当科における急性虫垂炎手術における術後合併症の検討. 日本腹部救急医学学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 3.

[千葉北総病院外科・消化器外科]

研究概要

消化器外科, 一般外科領域における基礎的, 臨床的研究を行い, その成果を学会や学会誌等で報告している. 活動内容は以下の通り.

- 1) 消化器疾患に対する内視鏡治療, 特に早期食道癌, 胃癌に対する ESD, 胆道疾患に対する内視鏡治療, 閉塞性黄疸やさらには, 閉塞性大腸癌に対する内視鏡的ステント挿入等を行い臨床成績を集計している. 2) 腹腔鏡手術は胆石症, 食道癌, 胃癌, 大腸癌, 肝臓癌の他, ヘルニア, 虫垂切除, 食道胃逆流症などで行い成績を評価している. 3) 各種の癌に対して癌化学 (放射線) 療法の効果と予後に対する治療成績を検討している. 4) 基礎研究としては, 各種がんバイオマーカー, がんの悪性度にかかわる研究ならびに手術後合併症予防に関する侵襲と生体反応などの研究を行っている.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科)：腹腔鏡下大腸手術におけるフック型電気マスを多用した左結腸動脈温存 No.253 リンパ節郭清手術. 手術 2016 ; 70 (11) : 1513-1518.
- 2) 谷谷信彦¹⁾, 古川清憲²⁾, 吉田 寛³⁾, 塩田吉宣⁴⁾, 坂東功一⁵⁾, 沖野哲也⁶⁾, 川野陽一⁷⁾, 内田英二⁸⁾ (1) 日本医科大学消化器外科准教授, 2) 医療法人社団埴原会赤羽病院院長, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科, 4) 医療法人 SHIODA 塩田病院院長, 5) 医療法人康正会病院外科部長, 6) 博慈会記念総合病院外科部長, 7) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, 8) 日本医科大学消化器外科教授)：創閉鎖法. 消化器外科 2016 ; 39 (13) : 1737-1744.
- 3) Nomura T¹⁾, Iwakiri K²⁾, Matsutani T¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Fujita I¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Makino H³⁾, Kawami N²⁾, Miyashita M⁴⁾, Uchida E¹⁾ (1) Deptment of Gastrointestinal and ahepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Tokyo, Japan, 4) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan)：Characteristics and Outcomes of Laparoscopic Surgery in Patients with Gastroesophageal Reflux and Related Disease : A Single Center Experience. J Nippon Med Sch 2017 ; 84 (1) : 25-31.
- 4) Matsuda A¹⁾, Miyashita M¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Matsutani T²⁾, Sakurazawa N¹⁾, Takahashi G¹⁾, Kishi T³⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 2) Department of Gastroenterological Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine, Aichi, Japan)：Comparison of Long-Term Outcomes of Colonic Stent as "Bridge to Surgery" and Emergency Surgery for Malignant Large-Bowel Obstruction : A Meta-Analysis. SURGICAL ONCOLOGY 2015 ; 22 : 497-504.
- 5) Matsuda A¹⁾, Miyashita M¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Takahashi G¹⁾, Matsutani T²⁾, Yamada M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, Chiba, Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan)：Comparison between metallic stent and transanal decompression tube for malignant large-bowel obstruction. JOURNAL OF SURGICAL RESEARCH 2016 ; 205 : 474-481.
- 6) Nomura T¹⁾, Matsutani T¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Fujita I¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Makino H²⁾, Miyashita M³⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital Nippon Medical School, 3) Department of Surgery, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School)：Mediastinoscopy-assisted Transhiatal Esophagectomy for Esophageal Cancer : A Single-Institutional Cohort Study. Surgical Laparoscopy, Endoscopy & Percutaneous Techniques 2016 ; 26 (6) : 153-156.
- 7) Makino H¹⁾, Yoshida H¹⁾, Maruyama H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Hirakata A¹⁾, Ueda J¹⁾, Takada H¹⁾, Kikuchi Y¹⁾, Shinozuka E¹⁾, Miyashita M³⁾, Matsutani T¹⁾, Nomura T²⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, Tokyo, Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba-Hokusoh Hospital, Chiba, Japan)：The assessing the left bronchial invasion of esophageal cancer in computed tomography. Gastroenterology, Hepatology and Endoscopy 2016 ; 1 (4) : 80-83.

(2) 総説：

- 1) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉寛喜¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：腹腔鏡下膵切除術における胆道消化管吻合, 膵消化管吻合. 胆と膵 2016；37 (3)：291-295.
- 2) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛²⁾, 川野陽一³⁾, 坂東功一⁴⁾, 塩田吉宣⁵⁾, 内田英二⁶⁾ (1) 日本医科大学消化器外科准教授, 2) 日本医科大学多摩永山病院教授, 3) 日本医科大学千葉北総病院助教, 4) 康正会病院外科部長, 5) 塩田病院院長, 6) 日本医科大学消化器外科)：肝疾患に対する経腸栄養：臨床現場ではこう行われている. 消化器の臨床 2016；19 (4)：297-301.
- 3) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 松本智司¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松谷 毅²⁾, 山田岳史²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：外科侵襲とアディポサイトカイン：ビスファチンに注目して. 外科と代謝 2017；51 (1)：33-39.
- 4) 中村慶春¹⁾, 松下 晃²⁾, 勝野 暁³⁾, 水口義昭³⁾, 山初和也³⁾, 住吉宏樹³⁾, 内田英二⁴⁾ (1) 日本医科大学消化器外科准教授, 2) 日本医科大学消化器外科講師, 3) 日本医科大学消化器外科教室, 4) 日本医科大学消化器外科教授)：腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術. 消化器外科 2016；39 (11)：1555-1563.

(3) 症例報告：

- 1) 安藤文彦¹⁾, 金沢義一¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 塩田吉宣²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 塩田病院)：右胃大網動脈を用いた冠動脈バイパス術後の胃癌に対し胃切除術を施行した3例. 日本医科大学医学会雑誌 2017；13 (1)：42-47.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 神田知洋¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科)：高難度膵臓・胆道腹腔鏡手術の後進への教育について；Swine 腹腔鏡下膵切除・胆管吻合モデルの構築. 日本外科学会定期学術集会 (第116回) (大阪), 2016. 4.
- 2) 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 高野竜太郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科)：How to perform a reliable Laparoscopic pancreatectomy. 日本消化器外科学会総会 (第71回) (徳島), 2016. 7.
- 3) 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷合信彦²⁾, 吉岡正人²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 水口義昭²⁾, 松田明久¹⁾, 清水哲也²⁾, 山初和也¹⁾, 高田英志²⁾, 近藤亮太²⁾, 横室茂樹¹⁾, 吉田 寛²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科)：腹腔鏡下肝切除術における当科オリジナルなこだわりの手技. 日本外科系連合学会学術集会 (第41回) (大阪), 2016. 6.
- 4) 山田岳史¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 横山康行¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 松田明久²⁾, 松本智司²⁾, 太田恵一郎²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：Circulating cell free DNA を用いた real-time な分子情報に基づく大腸癌化学療法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第71回) (三重), 2016. 11.
- 5) 山田真吏奈³⁾, 松田明久²⁾, 相磯貞和³⁾, 増野智彦⁴⁾, 松本 尚¹⁾, 宮下正夫²⁾, 横田裕行⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 慶應義塾大学医学部解剖学教室, 4) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野 (同高度救命救急センター))：全身炎症が脳機能に与える影響の検討から得られた治療シーズ-基礎研究. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 山田岳史¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松本智司²⁾, 松田明久²⁾, 横山康行¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：末梢血を用いた Multi liquid biopsy による大腸癌 Real time personalized therapy. 日本外科学会定期学術集会 (第116回) (大阪), 2016. 4.
- 2) 山田真吏奈¹⁾, 松田明久²⁾, 増野智彦³⁾, 松本 尚¹⁾, 宮下正夫²⁾, 横田裕行³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野 (同高度救命救急センター))：救急医学研究を発展させるためにできること：基礎研究者の立場から. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
- 3) 松田明久¹⁾, 保田智彦¹⁾, 関口久美子¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 増田寛喜¹⁾, 川島万平¹⁾, 香中伸太郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科)：腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP) の怖さを痛感した1例. 千葉ヘルニア研究会 (第12回) (千葉), 2017. 1.

(3) ワークショップ：

- 1) 近藤亮太¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 中村慶春¹⁾, 川野陽一²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院)：腹腔鏡下肝切除術における胆汁瘻と出血のトラブルシューティング. 日本消化器外科学会総会 (第71回) (徳島), 2016. 7.
- 2) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦²⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 水口義昭²⁾, 松田明久¹⁾, 清水哲也²⁾, 山初和也¹⁾, 高田英志²⁾, 近藤

亮太²⁾, 横室茂樹¹⁾, 吉田 寛²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 腹腔鏡下肝切除術の標準化に向けた当科オリジナルの手技 Our original novel ideas for standardization of laparoscopic hepatectomy. 日本肝癌研究会 (第 52 回) (東京), 2016. 7.

3) 松田明久¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 関口久美子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 高橋吾郎²⁾, 宮下正夫¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 脂質関連メディエーターに着目した消化器外科術後合併症の早期診断. 日本外科代謝栄養学会学術集会 (第 53 回) (東京), 2016. 7.

(4) 一般講演:

1) 大草幹大¹⁾, 進士誠一¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 高齢者における腹腔鏡下大腸癌手術での皮下気腫重症化のリスク因子の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪), 2016. 4.

2) 野村 務¹⁾, 藤倉輝道²⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢義一¹⁾, 牧野浩司³⁾, 真々田裕宏¹⁾, 宮下正夫⁴⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学医学教育センター, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院外科): 医学生に対する内視鏡外科シミュレータートレーニングについて: 本学における 9 年間の知見. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪), 2016. 4.

3) 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 原田潤一郎¹⁾, 保田智彦¹⁾, 関口久美子¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 赤間悠一¹⁾, 増田寛喜¹⁾, 眞鍋恵理子¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 当科における胃癌術後の瘝液漏の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 116) (大阪), 2016. 4.

4) 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 神田知博¹⁾, 水口義昭¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 当科における腹腔鏡下再肝切除術の成績. 日本外科学会定期学術集会 (第 116) (大阪), 2016. 4.

5) 岩井拓磨¹⁾, 山田岳史¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 松田明久²⁾, 横山康行¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 末梢血 ccfDNA を用いた大腸癌肝転移術後の早期再発予測. 日本外科学会定期学術集会 (第 116) (大阪), 2016. 4.

6) 松谷 毅¹⁾, 松田明久¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 野村 務¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 金沢儀一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 松下 晃¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学消化器外科): マウス盲腸穿刺結索術における脂肪組織内マクロファージの分布動向に及ぼすピオグリタゾンの効果. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪), 2016. 4.

7) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 川野陽一¹⁾, 上田純志²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 肝内胆管癌に対するリンパ節廓清の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪), 2016. 4.

8) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 山初和也¹⁾, 清水哲也¹⁾, 水口義昭¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 膵神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術の手術成績. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪), 2016. 4.

9) 青木悠人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 絞扼性腸閉塞の早期診断: 造影 CT での解剖学的異常と灌流障害の検出. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪), 2016. 4.

10) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦²⁾, 吉田 寛³⁾, 中村慶春²⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人²⁾, 松下 晃²⁾, 水口義昭²⁾, 清水哲也²⁾, 松田明久¹⁾, 神田知洋²⁾, 高田英志²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 宮下正夫¹⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科): 当科で考案した腹腔鏡下でのシート状器材挿入・貼付法 (コークスクリュー挿入法). 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪), 2016. 4.

11) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 病理学的検討からみた閉塞性大腸癌治療に対する大腸癌治療に対する大腸ステントの功罪. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪), 2016. 4.

12) 山下直行¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 山岸杏彌¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 萩原信敏²⁾, 櫻澤信行²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 柿沼大輔²⁾, 菅野仁士¹⁾, 新井洋紀²⁾, 宮下正夫²⁾, 牧野浩司²⁾, 内田英二²⁾ (1) 坪井病院 外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 上部限局胃癌に対する噴門側胃切除の適応拡大. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪), 2016. 4.

13) 高野竜太郎¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 水口義昭¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下脾温存膵体尾部切除術の長期成績を含めた検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪), 2016. 4.

14) 住吉宏樹¹⁾, 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 水口義昭¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科): 膵癌における STAT5a/5b の発現および増殖, 抗癌剤感受性, 細胞接着, 浸潤への関与. 日本外科学会定期

- 学術集会（第116回）（大阪），2016. 4.
- 15) 高橋吾郎¹⁾，山田岳史¹⁾，菅 隼人¹⁾，松本智司²⁾，金沢義一¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，松田明久²⁾，山岸杏彌¹⁾，横山康行¹⁾，岩井拓磨¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科）：閉塞性大腸癌に対する大腸ステント挿入は Circulating cell free DNA 量を増加させる。日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪），2016. 4.
 - 16) 菅野仁士¹⁾，藤田逸郎¹⁾，金沢義一¹⁾，柿沼大輔¹⁾，新井洋紀¹⁾，下田朋宏¹⁾，菊池友太¹⁾，萩原信敏¹⁾，松谷 毅¹⁾，野村 務¹⁾，櫻澤信行²⁾，牧野浩司³⁾，山下直行⁴⁾，木山輝郎⁵⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学消化器外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科，⁴⁾ 坪井病院外科，⁵⁾ 朝霞中央総合病院外科）：胃癌患者における術前サルコペアと予後への影響。日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪），2016. 4.
 - 17) 川野陽一¹⁾，谷谷信敏²⁾，吉田 寛²⁾，中村慶春²⁾，松本智司¹⁾，吉岡正人²⁾，松下 晃²⁾，水口義昭²⁾，清水哲也²⁾，松田明久¹⁾，神田知洋²⁾，高田英志²⁾，櫻澤信行¹⁾，横室茂樹¹⁾，宮下正夫¹⁾，その他1名（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科）：当科で考案した腹腔鏡下でのシート状器材挿入・貼付法（コークスクリュー挿入法）。日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪），2016. 4.
 - 18) 山初和也¹⁾，中村慶春²⁾，松本智司¹⁾，松下 晃²⁾，勝野 暁²⁾，住吉宏樹²⁾，横山 正³⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科）：当科における膵インスリノーマにおける遺残なき腫瘍切除のための取り組み。日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪），2016. 4.
 - 19) 櫻澤信行¹⁾，宮下正夫¹⁾，横室茂樹¹⁾，松本智司¹⁾，川野陽一¹⁾，松田明久¹⁾，山初和也¹⁾，原田潤一郎¹⁾，保田智彦¹⁾，関口久美子¹⁾，栗山 翔¹⁾，赤間悠一¹⁾，増田寛喜¹⁾，眞鍋恵理子¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科，²⁾ 日本医科大学消化器外科）：当科における胃癌術後の膵液漏の検討。日本外科学会定期学術集会（第116回）（大阪），2016. 4.
 - 20) 保田智彦¹⁾，松田明久¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，川野陽一¹⁾，増田寛喜¹⁾，眞鍋恵理子¹⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科，²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科）：内視鏡的整復が可能であった腸管出血性大腸菌（O-157）感染による成人腸重積症の1例。日本消化器病学会総会（第102回）（東京），2016. 4.
 - 21) 川島万平¹⁾，山田岳史¹⁾，菅 隼人¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，横山康之¹⁾，高橋吾郎¹⁾，岩井拓磨¹⁾，太田恵一郎¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科）：polyethylene glycol は腹腔鏡補助下結腸癌手術の術後消化管蠕動の回復を遅延させる。日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島），2016. 7.
 - 22) 安藤文彦¹⁾，山下直行¹⁾，湖山信篤¹⁾，山岸杏彌¹⁾，藤田逸郎²⁾，金沢義一²⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 坪井病院 外科，²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科）：噴門側胃切除後の残胃癌-その特徴と有効な対処方法。日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島），2016. 7.
 - 23) 松田明久¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，川野陽一¹⁾，山田岳史²⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科，²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科）：閉塞性大腸癌における大腸ステントによる BTS (bridge to surgery) の功罪。日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島），2016. 7.
 - 24) 川野陽一¹⁾，松本智司¹⁾，谷谷信彦²⁾，中村慶春²⁾，櫻澤信行¹⁾，吉岡正人²⁾，松田明久¹⁾，横室茂樹¹⁾，宮下正夫¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科，²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科）：腹腔鏡下肝切除術でのイチョウ型開腹用エコープローブの挿入法と有用性。日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島），2016. 7.
 - 25) 瀬谷知子¹⁾，宮下正夫¹⁾，横室茂樹¹⁾，飯田信也¹⁾，堀場光二¹⁾，松本智司¹⁾，櫻澤信行¹⁾，川野陽一¹⁾，松田明久¹⁾，山初和也¹⁾，関口久美子¹⁾，保田智彦¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科，²⁾ 日本医科大学付属病院 外科）：当科における胃癌術後化学療法の実況。日本癌治療学会学術集会（第54回）（横浜），2016. 10.
 - 26) 日下部誠¹⁾，中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，勝野 暁¹⁾，山初和也¹⁾，住吉宏樹¹⁾，水口義昭¹⁾，神田知洋¹⁾，古木裕康¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科）：腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除術の長期成績を含めた検討。日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島），2016. 7.
 - 27) 山下直行¹⁾，湖山信篤¹⁾，安藤文彦¹⁾，山岸杏彌¹⁾，櫻澤信行²⁾，萩原信敏²⁾，藤田逸郎²⁾，金沢義一²⁾，菅野仁士²⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 坪井病院，²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科）：進行残胃癌に対する治療戦略：疾患構造や初回手術法の変遷に対して。日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島），2016. 7.
 - 28) 勝野 暁¹⁾，中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，山初和也¹⁾，住吉宏樹¹⁾，神田知洋¹⁾，水口義昭¹⁾，古木裕康¹⁾，日下部誠¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科）：チーム内で統一された腹腔鏡下尾側膵切除術（Lap-DP）におけるドレーン管理法。日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島），2016. 7.
 - 29) 高野竜太郎¹⁾，中村慶春¹⁾，松下 晃¹⁾，勝野 暁¹⁾，山初和也¹⁾，住吉宏樹¹⁾，水口義昭¹⁾，神田知洋¹⁾，古木裕康¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科）：膵インスリノーマに対する腹腔鏡下膵切除術の手術成績および術中インスリン値モニタリングの有用性。日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島），2016. 7.
 - 30) 高橋吾郎¹⁾，山田岳史¹⁾，菅 隼人¹⁾，小泉岐博¹⁾，松田明久²⁾，進士誠一¹⁾，岩井拓磨¹⁾，太田恵一郎¹⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学大学院 臓器病態制御外科学，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科）：5-FU 関連代謝酵素発現に注目した結腸癌 Stage IIIA 症例に対する術後補助化学療法。日本消化器外科学会総会（第71回）（徳島），2016. 7.

- 31) 進士誠¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 太田恵一郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科: 内視鏡外科技術認定(大腸)取得のコツと対策. 日本消化器外科学会総会(第71回)(徳島), 2016. 7.
- 32) 横山康行¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 太田恵一郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科: 当科における直腸手術後縫合不全の治療に関する検討. 日本消化器外科学会総会(第71回)(徳島), 2016. 7.
- 33) 吉岡正人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 青木悠人¹⁾, 中村慶春¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科: 腹腔鏡下肝切除術の Reduced port surgery 導入と工夫. 日本消化器外科学会総会(第71回)(徳島), 2016. 7.
- 34) 松下 晃¹⁾, 中村慶春¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 清水哲也¹⁾, 古木裕康¹⁾, 水口義昭¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科: 腹腔鏡下腓膵側膵切除術における技術認定医取得のコツと高難度膵臓・胆道内視鏡外科手術の教育について. 日本消化器外科学会総会(第71回)(徳島), 2016. 7.
- 35) 住吉宏樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 水口義昭¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 山初和也¹⁾, 神田知洋¹⁾, 古木裕康¹⁾, 松本智司¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科: 胆道・膵臓内視鏡外科手術におけるチーム内で統一された出血時の strategy. 日本消化器外科学会総会(第71回)(徳島), 2016. 7.
- 36) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 青木悠人¹⁾, 上田純志²⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 消化器外科・乳腺外科・一般外科: 肝右葉前上区域腹側, 背側切除術において anterior fissure vein は landmark となりうるのか?. 日本消化器外科学会総会(第71回)(徳島), 2016. 7.
- 37) 原田潤一郎¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 菊池友太³⁾, 栗山 翔¹⁾, 奥山奈美子²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 血液内科, 3) 日本医科大学付属病院 消化器外科: 術前に診断し得た後天性血友病を合併した穿孔性胃癌の一切除例. 日本消化器外科学会総会(第71回)(徳島), 2016. 7.
- 38) Yamahatsu K¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Kawano Y¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School: Surgical resection for malignant solid-pseudopapillary tumor: a case report. 日本膵臓学会大会(第47回)(仙台), 2016. 8.
- 39) Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Katsuno A¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Kusakabe M¹⁾, Takano R¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School: An educational system based on porcine laparoscopic advanced pancreatectomies for transfer to humans. 日本膵臓学会大会(第47回)(仙台), 2016. 8.
- 40) Kusakabe M¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Katsuno A¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School: Clinical outcomes for 14 consecutive patients with solid pseudopapillary neoplasms who underwent laparoscopic distal pancreatectomy. 日本膵臓学会大会(第47回)(仙台), 2016. 8.
- 41) Matsushita A¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Katsuno A¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School: The surgical techniques of laparoscopic pancreaticoduodenectomy aiming at safety. 日本膵臓学会大会(第47回)(仙台), 2016. 8.
- 42) Takano R¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Sumiyoshi H¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School: Clinical outcomes of 15 consecutive patients who underwent laparoscopic insulinoma resection: The usefulness of monitoring intraoperative blood insulin during laparoscopic pancreatectomy. 日本膵臓学会大会(第47回)(仙台), 2016. 8.
- 43) Kawano Y¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Tani ai N²⁾, Sakurazawa N¹⁾, Matsuda A¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Nakamura Y²⁾, Yoshioka M²⁾, Yokomuro S¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo Japan: Our Various Ideas for Safer and Reliable Laparoscopic Hepatectomy. World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Seoul), 2016. 9.
- 44) 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一¹⁾, 清水哲也¹⁾, 上田純志¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科: 肝静脈ドレナージによる肝右葉全上区域(S8)の亜区域分類 Variations in subsegmentation of right anterior superior area (Segment 8) of the liver associated with hepatic venous drainage. 日本肝臓研究会(第52回)(東京), 2016. 7.
- 45) 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷合信彦²⁾, 中村慶春²⁾, 吉岡正人²⁾, 松下 晃²⁾, 清水哲也²⁾, 松田明久¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 山初和也¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英志²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科: 大学分院での腹腔鏡下肝切除術における様々な手技の工夫. The SUMMER SEMINAR in OKINAWA (5th)(沖縄), 2016. 6.
- 46) 川島万平¹⁾, 山田岳史²⁾, 松本智司¹⁾, 小泉岐博²⁾, 進士誠¹⁾, 松田明久¹⁾, 横山康行²⁾, 高橋吾郎²⁾, 岩井拓磨²⁾, 武田幸樹²⁾, 太田

- 恵一郎²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 卒後 3.4 年目専修医による待機の単孔式腹腔鏡下虫垂切除術. 日本外科系連合学会学術集会 (第 41 回) (大阪), 2016. 6.
- 47) 高橋吾郎¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 横山康行¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科): 末梢血循環 DNA を用いた real-time personalized therapy: 効果と耐性を予測する分子標的治療. 日本癌病態治療研究会 (第 25 回) (千葉), 2016. 6.
- 48) 小泉はるか¹⁾, 下川陽子¹⁾, 松本智司¹⁾, 太田杏奈¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 伏屋洋志¹⁾, 平野知子¹⁾, 古山めぐみ¹⁾, 池森紀夫¹⁾, 井上大輔¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 緩和ケアチーム): がん患者に対する STAS-J 症状版を用いた苦痛のスクリーニングの現状と課題. 日本緩和医療学会学術大会 (第 21 回) (京都), 2016. 6.
- 49) 下川陽子^{1,2)}, 松本智司¹⁾, 太田杏奈¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 伏屋洋志¹⁾, 平野知子¹⁾, 小泉はるか¹⁾, 古山めぐみ¹⁾, 池森紀夫¹⁾, 福田恵子²⁾, 井上大輔¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 緩和ケアチーム, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部): 当院におけるフェンタニルパッカル錠の使用状況と課題. 日本緩和医療学会学術大会 (第 21 回) (京都), 2016. 6.
- 50) 飯田信也¹⁾, 宮下正夫²⁾, 山下直行³⁾, 羽鳥 努⁴⁾, 武井寛幸⁵⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 乳腺科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ³⁾ 坪井病院, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部, ⁵⁾ 日本医科大学付属病院 乳腺科): 乳癌探知犬による乳癌の診断 (続報). 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京), 2016. 6.
- 51) 関 奈紀¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木えりか²⁾, 中井麻木²⁾, 柳原恵子²⁾, 吉田 寛¹⁾, 蒔田益次郎⁵⁾, 飯田信也⁴⁾, 内田英二³⁾, 武井寛幸²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 消化器・一般・乳腺外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 乳腺科, ³⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院 乳腺科, ⁵⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 乳腺外科): 広範囲皮膚浸潤を伴う局所進行乳癌における当院の治療方針について. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京), 2016. 6.
- 52) 村上隆介¹⁾, 山根 彩¹⁾, 谷 瞳¹⁾, 桑子智之¹⁾, 大島有希¹⁾, 古崎治子¹⁾, 小林宏之¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 鈴木えりか²⁾, 中井麻木²⁾, 浅川英輝²⁾, 二宮 淳²⁾, 柳原恵子²⁾, 飯田信也²⁾, 山下浩二²⁾, その他 3 名 (1) 日本医科大学付属病院 放射線科, ²⁾ 日本医科大学付属病院乳腺科, ³⁾ 国立がん研究センター中央病院 放射線診断科, ⁴⁾ 亀田京橋クリニック 放射線科): 乳腺トモシンセシスにおける slab MIP の有用性: 再構成スライス厚の違いによる乳癌描出能の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京), 2016. 6.
- 53) 松田明久¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 関口久美子¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 脂質関連メディエーターに着目した術後合併症の早期診断. 千葉重症感染症研究会 (第 12 回) (千葉), 2016. 6.
- 54) Kawano Y¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Matsuda A¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Nakamura Y²⁾, Tani ai N²⁾, Yokomuro S¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, Kamagari, Chiba, Japan, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Sendagi, Tokyo, Japan): Our Various Devices for Laparoscopic Liver Resection in Middle Tier Hospital. World Congress of the International College of Surgeons (40th) (Kyoto), 2016. 10.
- 55) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦²⁾, 松本智司¹⁾, 吉岡正人²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 水口義昭²⁾, 松田明久¹⁾, 清水哲也²⁾, 山初和也¹⁾, 高田英志²⁾, 近藤亮太²⁾, 青木悠人²⁾, 横室茂樹¹⁾, 吉田 寛²⁾, 宮下正夫¹⁾, その他 1 名 (1) 日本医大千葉北総病院・外科, ²⁾ 日本医大付属病院・消化器外科): 腹腔鏡下肝切除術における様々な当科オリジナルの手法. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (神戸), 2016. 11.
- 56) 眞鍋恵理子¹⁾, 山初和也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 川野陽一¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 松田明久¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大千葉北総病院・外科, ²⁾ 日本医大付属病院・消化器外科): 胆嚢原発混合型腺神経内分泌癌の 1 例. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (神戸), 2016. 11.
- 57) 関口久美子¹⁾, 松田明久¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大千葉北総病院・外科, ²⁾ 日本医大付属病院・消化器外科): 消化器外科周術期における血中 galectin-3 測定の有用性. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (神戸), 2016. 11.
- 58) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大千葉北総病院・外科, ²⁾ 日本医大付属病院. 消化器外科): 大腸ステントによる機械的刺激が腫瘍増殖能に与える影響. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (神戸), 2016. 11.
- 59) 青木悠人¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 川野陽一²⁾, 清水哲也¹⁾, 高田英志¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医大付属病院・消化器外科, ²⁾ 日本医大千葉北総病院・外科): 肝切除後合併症予測へのプロカルシトニンの有用性肝切除後合併症予測へのプロカルシトニンの有用性: プロカルシトニンは CRP にかわれるか?. 日本消化器外科学会大会 (第 14 回) (神戸), 2016. 11.
- 60) 進士誠一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 横山康行¹⁾, 高橋吾郎¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 原 敬介¹⁾, 大草幹大¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科): 腹腔鏡下直腸前方切除術における縫合不全 (CD 分類 II 以上) の危険因子の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 71 回) (三重), 2016. 11.
- 61) 高橋吾郎¹⁾, 山田岳史¹⁾, 松本智司²⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 横山康行¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 武田幸樹¹⁾, 原敬介¹⁾, 太田恵一郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科): 大腸がん診療における circulating cell free DNA の有用性. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 71 回) (三重), 2016. 11.
- 62) 松田明久¹⁾, 山田真吏奈¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 関口久美子¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大

- 学千葉北総病院外科・消化器外科,²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): 大腸癌周術期における血中 PCSK9 測定の意義. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 71 回) (三重), 2016. 11.
- 63) 山田真吏奈¹⁾, 増野智彦¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野 (同高度救命救急センター): 早期の感染コントロールは, 敗血症マウスモデルにおける PICS 脳機能障害を抑制させる. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 64) 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 保田智彦¹⁾, 関口久美子¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 増田寛喜¹⁾, 川島万平¹⁾, 日下部誠¹⁾, 香中伸太郎¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): 当科におけるこだわりの 6 番リンパ節郭清手技 GEAR DOWN 郭清. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京), 2016. 11.
- 65) 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷合信彦²⁾, 中村慶春²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 吉岡正人²⁾, 松下 晃²⁾, 水口義昭²⁾, 松田明久¹⁾, 清水哲也¹⁾, 山初和也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 吉田 寛²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): 当科オリジナルのデバイスを駆使した腹腔鏡下肝切除における止血法. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京), 2016. 11.
- 66) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 関口久美子¹⁾, 保田智彦¹⁾, 松谷 毅²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): 嵌頓ヘルニアに対する TAPP における嵌頓腸管還納の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京), 2016. 11.
- 67) 関口久美子¹⁾, 飯田信也²⁾, 柳原恵子³⁾, 栗田智子³⁾, 中井麻木³⁾, 鈴木えりか³⁾, 宮下正夫¹⁾, 武井寛幸³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 乳腺科, ³⁾ 日本医科大学付属病院 乳腺科): 腎細胞癌治療後に乳腺転移を認めた 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京), 2016. 11.
- 68) 関口久美子¹⁾, 飯田信也²⁾, 柳原恵子³⁾, 栗田智子³⁾, 中井麻木³⁾, 鈴木えりか³⁾, 宮下正夫¹⁾, 武井寛幸³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 乳腺科, ³⁾ 日本医科大学付属病院 乳腺科): 内臓転移を伴う乳癌と肝転移を伴う直腸癌の重複癌に対し集学的治療を行い長期生存を得ている 1 例. 日本乳癌学会関東地方会 (第 13 回) (埼玉), 2016. 12.
- 69) Kawano Y¹⁾, Nigel H¹⁾ (1) Institute of Liver Studies, King's College Hospital, London, United Kingdom): Single Center Experience of Liver Transplantation for Neonatal Hemochromatosis. Annual International Congress (22nd) (Seoul), 2016. 5.
- 70) Sakurazawa N¹⁾, Yasuda T¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Surgery Nippon Medical School): A Novel No.6 Lymph Node Dissection Technique in Our Department GEAR DOWN. Korea International Gastric Cancer (Busan), 2017. 3.
- 71) 松田明久¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 鼠径部ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡下ヘルニア修復術 (TAPP) の有用性. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 (第 8 回) (大阪), 2016. 9.
- 72) 山田真吏奈^{3,4)}, 千葉知宏²⁾, 松田明久³⁾, 相磯貞和⁴⁾, 増野智彦¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行¹⁾, 宮下正夫³⁾ (1) 日本医科大学救急医学, ²⁾ 杏林大学医学部病理学, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科, ⁴⁾ 慶応義塾大学医学部解剖室): PICS 病態におけるアストロサイトの役割. 外科侵襲とサイトカイン研究会 (第 23 回) (東京), 2016. 7.
- 73) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 関口久美子¹⁾, 保田智彦¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下大腸切除術後の感染症合併予測におけるリンパ球: 単球比の有用性. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (横浜), 2016. 12.
- 74) 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 保田智彦¹⁾, 関口久美子¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 増田寛喜¹⁾, 川島万平¹⁾, 日下部誠¹⁾, 香中伸太郎¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医大千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医大付属病院 消化器外科): 6 番リンパ節の新しい郭清法 GEAR DOWN 郭清. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (横浜), 2016. 12.
- 75) 川野陽一¹⁾, 松本智司¹⁾, 谷合信彦²⁾, 中村慶春²⁾, 吉岡正人²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松下 晃²⁾, 水口義昭²⁾, 松田明久¹⁾, 清水哲也²⁾, 山初和也¹⁾, 吉田 寛²⁾, 横室茂樹¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 腹腔鏡下肝切除術の標準化に向けた当科オリジナルのデバイスの工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (横浜), 2016. 12.
- 76) 川島万平¹⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 野村 務²⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 柿沼大輔²⁾, 菅野仁士²⁾, 新井洋紀²⁾, 太田恵一郎²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 日本医大付属病院 消化器外科): 右鎖骨下動脈起始異常を伴う頸胸境界部食道癌に対して胸腔鏡下食道切除を施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (横浜), 2016. 12.
- 77) 関口久美子¹⁾, 松田明久¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 保田智彦¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 増田寛喜¹⁾, 川島万平¹⁾, 香中伸太郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科): 当科における閉鎖孔ヘルニア症例の検討. 千葉ヘルニア研究会 (第 12 回) (千葉), 2017. 1.
- 78) 保田智彦¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 金沢義一²⁾, 藤田逸郎²⁾, 宮下正夫¹⁾, 太田恵一郎²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 消化器外科): 当院における胃 GIST に対する腹腔鏡手術の導入. 日本胃癌学会総会 (第 89 回) (広島), 2017. 3.

- 79) 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 藤田逸郎²⁾, 金沢義一²⁾, 保田智彦¹⁾, 太田恵一郎²⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 新しい6番リンパ節郭清 重力方向郭清. 日本胃癌学会総会 (第89回) (広島), 2017. 3.
- 80) 藤田逸郎¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 下田朋宏¹⁾, 櫻澤信行²⁾, 金沢義一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 山下直行⁴⁾, 松谷 毅¹⁾, 牧野浩司³⁾, 野村 務¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院 消化器外科, 4) 坪井病院 外科): 節外転移陽性進行胃癌の1例. 日本胃癌学会総会 (第89回) (広島), 2017. 3.
- 81) 櫻澤信行¹⁾, 保田智彦¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 関口久美子¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 増田寛喜¹⁾, 川島万平¹⁾, 香中伸太郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (1) 日本医大千葉北総病院 外科・消化器外科): 当科における腹腔鏡下幽門側胃切除の定型化と若手教育. 千葉内視鏡外科研究会 (第22回) (千葉), 2017. 2.
- 82) 香中伸太郎¹⁾, 川野陽一¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 飯田信也¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 保田智彦¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 川島万平¹⁾, 内藤善哉⁴⁾, 羽鳥 務³⁾, 平野孝幸³⁾, 宮下正夫¹⁾, その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 病理部, 4) 日本医科大学 統御機構診断病理学): 成人に発症した肝芽腫の1例. 外科集談会 (第844回) (東京), 2017. 3.
- 83) Matsuda A¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Kawano Y¹⁾, Sekiguchi K¹⁾, Ando F¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo Japan): The lymphocyte-to-monocyte ratio predicts postoperative infectious complications after laparoscopic colorectal cancer surgery. Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons (Houston), 2017. 3.
- 84) 松田明久¹⁾, 関口久美子¹⁾, 川島万平¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科): 敗血症性ショック管理にEGDTは有用か?: Proの立場から. 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 85) 保田智彦¹⁾, 松本智司¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 松田明久¹⁾, 山初和也¹⁾, 関口久美子¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 経肛門の小腸脱出を伴った直腸穿孔の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第53回) (横浜), 2017. 3.
- 86) 関口久美子¹⁾, 松田明久¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 篠塚恵理子¹⁾, 保田智彦¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 増田寛喜¹⁾, 川島万平¹⁾, 香中伸太郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 当科で経験した腸管気腫症の5例. 日本腹部救急医学会総会 (第53回) (横浜), 2017. 3.
- 87) 安藤文彦¹⁾, 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 下部直腸癌術前治療中の癒着性閉塞に対して大腸ステントを挿入手術施行した2例. 日本腹部救急医学会総会 (第53回) (横浜), 2017. 3.
- 88) Kawano Y¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Tani ai N²⁾, Nakamura Y²⁾, Yoshioka M²⁾, Matsushita A²⁾, Mizuguchi Y²⁾, Matsuda A¹⁾, Shimizu T²⁾, Kanda T²⁾, Takada H²⁾, Kondo R²⁾, Miyashita M¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Yokomuro S¹⁾, et al. (1) Deptment of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 2) Deptment of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Adaptation of US prove for open liver resection to laparoscopic liver resection. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第28回) (大阪), 2016. 6.
- 89) Sekiguchi K¹⁾, Matsuda A¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Kawano Y¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Yasuda T¹⁾, Andou F¹⁾, Masuda H¹⁾, Kawashima M¹⁾, Takano R¹⁾, Kanaka S¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Chiba Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo Japan): Clinical evaluation of our cases of obturator hernia. 日本ヘルニア学会学術集会 (第14回) (東京), 2016. 10.
- 90) Ando F¹⁾, Matsuda A¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Yamada M¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Deptment of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 2) Deptment of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo Japan): THE PREDICTIVE VALUE OF THE LYMPHOCYTE-TO-MONOCYTE RATIO ON INFECTIOUS COMPLICATIONS AFTER LAPAROSCOPIC COLORECTAL CANCER SURGERY. Congress of the International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo), 2016. 10.
- 91) Masuda H¹⁾, Matsuda A¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Yamada M¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo Japan): NON-OCCLUSIVE MESENTERIC ISCHEMIA: PATHOGENESIS, DIAGNOSTIC AND THERAPEUTIC MODALITIES FROM OUR EXPERIENCE. Congress of the International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo), 2016. 10.
- 92) Sekiguchi K¹⁾, Yamada M²⁾, Chiba T³⁾, Matsuda A¹⁾, Aiso S⁴⁾, Masuno T²⁾, Matsumoto H²⁾, Yokota H²⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E⁵⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba Japan, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Tokyo Japan, 3) Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, Tokyo Japan, 4) Department of Anatomy, Keio University School of Medicine, Tokyo Japan, 5) Department of Surgery,

- Nippon Medical School, Tokyo Japan) : S14G-HUMANIN IMPROVES THE SURVIVAL FROM SEVERE SEPSIS. Congress of the International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo), 2016. 10.
- 93) Yamada M¹⁾, Chiba T³⁾, Matsuda A²⁾, Aiso S⁴⁾, Masuno T¹⁾, Matsumoto H¹⁾, Yokota H¹⁾, Miyashita M²⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, 4) Department of Anatomy, Keio University School of Medicine) : THE ROLE OF ASTROCYTES IN THE NERVOUS SYSTEM DYSFUNCTION, SEPSIS INDUCED MEMORY IMPAIRMENT. Congress of the International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo), 2016. 10.
- 94) Matsuda A¹⁾, Yamada M¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo Japan) : The Predictive Role of Lipid Mediators for Postoperative Complications after Gastrointestinal Surgery. Congress of the International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo), 2016. 10.
- 95) Matsuda A¹⁾, Miyashita M¹⁾, Yamada M¹⁾, Sekiguchi K¹⁾, Kuriyama S¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : ASSOCIATION OF GALECTIN-3 BLOOD LEVELS AND POSTOPERATIVE COMPLICATIONS AFTER COLORECTAL CANCER SURGERY. ANNUAL CONFERENCE ON SHOCK (39th) (Austin), 2016. 6.
- 96) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 川野陽一¹⁾, 山初和也¹⁾, 関口久美子¹⁾, 保田智彦¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 松谷 毅²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 嵌頓症例に対する腹腔鏡下鼠径部ヘルニア修復術の有用性. 日本ヘルニア学会学術集会 (第14回) (東京), 2016. 10.
- 97) Sakurazawa N¹⁾, Miyashita M¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Kawano Y¹⁾, Matsuda A¹⁾, Yamahatsu K¹⁾, Yasuda T¹⁾, Sekiguti K¹⁾, Ando F¹⁾, Kawashima M¹⁾, Kanaka S¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital Surgery, 2) Nippon Medical School Main Hospital Digestive Surgery) : Study of the usefulness of a novel U-shaped liver retractor covered with gauze in laparoscopic surgery. Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons (Houston), 2017. 3.
- 98) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 関口久美子¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科) : 大腸ステント挿入前後の腫瘍増殖因子の変化に関する検討. 大腸ステント安全手技研究会 (第5回) (神戸), 2016. 11.
- 99) 松田明久¹⁾, 松本智司¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 関口久美子¹⁾, 安藤文彦¹⁾, 山田岳史²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科) : 術後合併症の観点からみた BTS おける手術までの至適待機期間の検討. 大腸ステント安全手技研究会 (第5回) (神戸), 2016. 10.
- 100) 松田明久¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科・消化器外科) : 進行大腸がんに対する合併症軽減の為の戦略. 日本癌病態治療研究会 (第25回) (千葉), 2016. 6.
- 101) 松田明久¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科) : 敗血症の循環管理—テーマ: EGDT. 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.

論文

〔追加分〕

追加分総説 :

- 1) 飯田信也¹⁾, 武井寛幸²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院乳腺科, 2) 日本医科大学乳腺外科) : 癌化学療法における皮下埋込型中心静脈ポート (CV ポート) と真菌感染症. 日本外科感染症学会誌 2016 ; 13 (1) : 47-52.

追加分原著 :

- 1) 高橋吾郎^{1,2)}, 松田明久¹⁾, 山田岳史²⁾, 櫻澤信行¹⁾, 菅 隼人²⁾, 松谷 毅²⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 閉塞性大腸癌における術前減圧処置の長期予後に与える影響. 日本腹部救急医学会雑誌 2015 ; 35 (6) : 729-735.
- 2) Kawano Y¹⁾, Mizuta K²⁾, Sanada Y²⁾, Urahashi T²⁾, Ihara Y²⁾, Okada N²⁾, Yamada N²⁾, Sasanuma H³⁾, Sakuma Y³⁾, Tani ai N¹⁾, Yoshida H¹⁾, Kawarasaki H²⁾, Yasuda Y³⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Transplant Surgery, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, 3) Department of Surgery, Jichi Medical University, Tochigi, Japan) : Risk Factors of Cytomegalovirus Infection After Pediatric Liver Transplantation. Transplantation Proceedings 2014 ; 3543-3547.
- 3) Kawano Y^{1,2)}, Ishikawa N²⁾, Aida J²⁾, Sanada Y³⁾, Izumi yama-Shimomura N²⁾, Nakamura K²⁾, S.s.poon S⁴⁾, Matsumoto K⁵⁾, Mizuta K³⁾, Uchida E¹⁾, Tajiri T¹⁾, Kawarasaki H³⁾, Takubo K²⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Research Team for Geriatric Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Tokyo, Japan, 3) Department of

Transplant Surgery, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, ⁴ Terry Fox Laboratory, British Columbia Cancer Reserch Center, Vancouver, British Columbia, Canada, ⁵ Deptment of Clinical Pathology, Ebina General Hospital, Kanagawa, Japan) : Q-FISH Measurement of Hepatocyte Telomere Lengths in Donor Liver and Graft after Pediatric Living-Donor Liver Transplantation : Donor Age Affects Telomere Length Sustainability. PLOS ONE 2014 ; 9 (4).

- 4) Mine T¹, Murata S¹, Ueda T¹, Takeda M¹, Onozawa S¹, Yamaguchi H¹, Kawano Y², Kumita S¹ (¹ Deptment of Radiology, Center for Advanced Medical Technology, ² Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Tokyo Japan) : Contribution of extrahepatic collaterals to liver parenchymal circulation after proper hepatic artery embolization. Journal of Gastroenterology and Hepatology 2014 ; 29 : 1515-1521.

追加分症例報告 :

- 1) Kawano Y^{1,2}, Yoshida H³, Mamada Y^{1,2}, Taniai N^{1,2}, Mineta S^{1,2}, Yoshioka M^{1,2}, Mizuguchi Y^{1,2}, Katsuta Y⁴, Kawamoto C⁴, Uchida E^{1,2} (¹ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ² Department of Surgery, Nippon Medical School, ³ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ⁴ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Intracystic Hemorrhage Required No Treatment from One of Multiple Hepatic Cysts. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (5) : 312-316.
- 2) Kawano Y¹, Taniai N¹, Nakamura Y¹, Yoshioka M¹, Matsushita A¹, Mizuguchi Y¹, Shimizu T¹, Takane Y¹, Yoshida H², Uchida E¹ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical School, ² Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Endo Mini-Retract™ Laparoscopic Retractor with a Novel Short-cut Nelaton Catheter for Diving the Vasculature in Laparoscopic Liver Resection. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (6) : 446-450.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) 眞鍋恵理子^{1,2}, 飯田信也^{1,5}, 柳原恵子^{1,5}, 中井麻木^{1,5}, 岩崎美樹^{1,5}, 鈴木えりか^{1,5}, 金谷洋平^{1,5}, 関口久美子^{1,2}, 宮下正夫², 羽鳥 努³, 馬場俊吉⁴, 武井寛幸⁵ (¹ 日本医科大学千葉北総病院 乳腺科, ² 日本医科大学千葉北総病院 外科, ³ 日本医科大学千葉北総病院 病理部, ⁴ 日本医科大学千葉北総病院 耳鼻咽喉科, ⁵ 日本医科大学 乳腺外科) : ベバシヅマブによる鼻出血に対する鼻粘膜焼灼術後も治療継続にて長期部分奏効を得ている局所進行乳癌の1例. 日本乳癌学会関東地方会 (第12回) (大宮), 2015. 12.
- 2) 関口久美子^{1,2}, 飯田信也^{1,4}, 柳原恵子^{1,4}, 中井麻木^{1,4}, 岩崎美樹^{1,4}, 鈴木えりか^{1,4}, 金谷洋平^{1,4}, 眞鍋恵理子^{1,2}, 宮下正夫², 羽鳥 努³, 武井寛幸⁴ (¹ 日本医科大学千葉北総病院 乳腺科, ² 日本医科大学千葉北総病院 外科, ³ 日本医科大学千葉北総病院 病理部, ⁴ 日本医科大学 乳腺外科) : 意識障害を伴う高カルシウム血症で発症するもデノスマブ及び内分泌療法にて社会復帰し得た乳癌骨転移の1例. 日本乳癌学会関東地方会 (第12回) (大宮), 2015. 12.

15. 乳腺外科学分野

[付属病院乳腺科]

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科)：【非浸潤性乳管癌 (DCIS) の診断と治療】 DCIS の治療 再発, 転移をきたした DCIS の検討. 外科 2016 ; 78 (7) : 720-724.

(2) フォトグラビア：

- 1) 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科)：5年間の術前エキセメスタン治療が奏効した閉経後乳癌のマンモグラフィ画像. 日本医科大学医学雑誌 2016 ; 12 (4) : 116-117.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Yamashita K : Endoscopic Breast Surgery. The Medical City : Continuing Professional Education (Manila, Philippine), 2016. 10.

(2) シンポジウム：

- 1) 穂積康夫¹⁾, 渡邊知映²⁾, 武井寛幸³⁾, 向井博文⁴⁾, 中村清吾⁵⁾ (1) 茨城県立中央病院筑波大学茨城県地域臨床教育センター, 2) 上智大学看護学科, 3) 日本医科大学乳腺外科, 4) 国立がん研究センター東病院乳腺・腫瘍内科, 5) 昭和大学医学部乳腺外科)：ガイドラインを活かした真の個別化医療の実践 Quality Indicator を用いた乳癌診療の評価. 日本乳癌学会学術総会 (第24回) (東京都), 2016. 6.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科)：乳腺内視鏡手術の新しい試み. 日本内視鏡外科学会総会 (第29回) (神奈川県), 2016. 12.

(4) ポスターセッション：

- 1) 中井麻木¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 岩崎美樹¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺科)：当院における術前化学療法後の手術術式の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第116回) (大阪府), 2016. 4.

(5) ワークショップ：

- 1) 中島一毅¹⁾, 角田博子²⁾, 北條 隆³⁾, 小島康幸⁴⁾, 明石定子⁵⁾, 河内伸江²⁾, 松本広志⁶⁾, 吉田 崇⁷⁾, 渡辺隆紀⁸⁾, 武井寛幸⁹⁾ (1) 川崎医科大学 総合外科, 2) 聖路加国際病院放射線科, 3) 国立がん研究センター東病院乳腺外科, 4) 聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科, 5) 昭和大学医学部乳腺外科, 6) 埼玉県立がんセンター乳腺外科, 7) 太田記念病院乳腺外科, 8) 国立病院機構仙台医療センター乳腺外科, 9) 日本医科大学付属病院乳腺科)：超音波検査による乳がん術前化学療法早期判定基準の有効性に関する研究. 日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会 (第36回) (京都), 2016. 4.

- 2) 武井寛幸¹⁾, 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 中井麻木¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 飯田信也²⁾, 蒔田益次郎³⁾, 横山 正⁴⁾, 関 奈紀⁴⁾, 坂谷貴司⁵⁾ (1) 日本医科大学付属病院乳腺科, 2) 日本医科大学千葉北総病院, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科, 4) 日本医科大学多摩永山病院, 5) 日本医科大学付属病院病理診断科)：術前内分泌療法における超音波検査画像所見の特徴. 日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会 (第36回) (京都), 2016. 4.

- 3) 中島一毅¹⁾, 角田博子²⁾, 北條 隆³⁾, 小島康幸⁴⁾, 明石定子⁵⁾, 河内伸江²⁾, 松本広志⁶⁾, 吉田 崇⁷⁾, 渡辺隆紀⁸⁾, 武井寛幸⁹⁾ (1) 川崎医科大学 総合外科, 2) 聖路加国際病院放射線科, 3) 国立がん研究センター東病院乳腺外科, 4) 聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科, 5) 昭和大学医学部乳腺外科, 6) 埼玉県立がんセンター乳腺外科, 7) 太田記念病院乳腺外科, 8) 国立病院機構仙台医療センター乳腺外科, 9) 日本医科大学乳腺科)：乳がんに対する薬物療法の効果判定 超音波検査による乳がん術前化学療法早期判定基準の有効性に関する研究. 日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会 (第36回) (京都), 2016. 5.

(6) ポスター：

- 1) 横山 正¹⁾, 関 奈紀¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 武井寛幸²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, 2) 日本医科大学乳腺科, 3) 日本医科大学消化器外科)：抗HER-2療法としてのトラスツブマブ+エムタンシン (T-DM1) の当院における使用状況. 日本乳癌学会学術総会 (第24回) (東京都), 2016. 6.

- 2) 桑子智之¹⁾, 村上隆介¹⁾, 谷 瞳¹⁾, 山根 彩¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 鈴木えりか²⁾, 中井麻木²⁾, 柳原恵子²⁾, 山下浩二²⁾, 浅川英輝²⁾, 二宮 淳²⁾, 武井寛幸²⁾, 松原美幸³⁾, 吉田民子⁴⁾, 内山奈智子⁵⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線医学, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科, 3) 日本医科大学付属病院病理部, 4) 亀田京橋クリニック放射線科, 5) 国立がん研究センター中央病院放射線診断科)：マンモ

- グラフィで診断できなかった乳癌症例における Tomosynthesis についての検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 3) 山根 彩¹⁾, 村上隆介¹⁾, 谷 瞳¹⁾, 桑子智之¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 鈴木えりか²⁾, 中井麻木²⁾, 柳原恵子²⁾, 山下浩二²⁾, 浅川英輝²⁾, 二宮 淳²⁾, 武井寛幸²⁾, 松原美幸³⁾, 吉田民子⁴⁾, 内山奈智子⁵⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科, 3) 日本医科大学付属病院病理部, 4) 亀田京橋クリニック放射線科, 5) 国立がん研究センター中央病院放射線診断科): 乳癌の広がり診断における Tomosynthesis の有用性: FFDMS, MRI との比較. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 4) 上田宏生¹⁾, 松本広志²⁾, 戸塚勝理²⁾, 林 祐二²⁾, 久保和之²⁾, 黒住 献²⁾, 秦 怜志³⁾, 君塚 圭⁴⁾, 山崎泰男⁵⁾, 中野聡子⁶⁾, 井上賢一⁷⁾, 有澤文夫¹⁾, 齊藤 毅¹⁾, 黒住昌史^{1,8)}, 武井寛幸⁹⁾ (1) さいたま赤十字病院乳腺外科, 2) 埼玉県立がんセンター乳腺外科, 3) 川越三井病院乳腺センター, 4) 春日部市立病院外科, 5) 伊奈病院, 6) 川口市立医療センター外科, 7) 埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科, 8) 埼玉県立がんセンター病理診断科, 9) 日本医科大学付属病院乳腺科): 内分泌感受性閉経前乳がん患者のゴセレリン+タモキシフェン併用療法の HR-QOL に及ぼす影響. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 5) 浅川英輝^{1,2)}, 太田絵美¹⁾, 林 剛¹⁾ (1) 新東京病院外科, 2) 日本医科大学乳腺科): マンモグラフィ陰性乳癌の臨床病理学的特徴. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 6) 村上隆介¹⁾, 山根 彩¹⁾, 谷 瞳¹⁾, 桑子智之¹⁾, 大島有希¹⁾, 古崎治子¹⁾, 武井寛幸²⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 鈴木えりか²⁾, 中井麻木²⁾, 浅川英輝²⁾, 二宮 淳²⁾, 柳原恵子²⁾, 山下浩二²⁾, 飯田信也²⁾, その他 3 名 (1) 日本医科大学付属病院放射線科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科, 3) 国立がん研究センター中央病院放射線診断科, 4) 亀田京橋クリニック放射線科): 乳腺トモシンセシスにおける slab MIP の有用性: 最構成スライス厚の違いによる乳癌描出能の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 7) 中井麻木¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 坂谷貴司²⁾, 渡辺 淳³⁾ (1) 日本医科大学付属病院乳腺科, 2) 日本医科大学付属病院病理診断科, 3) 日本医科大学付属病院遺伝診療科): 当院でのトリプルネガティブ乳癌に対する治療方針の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 8) 飯田信也¹⁾, 宮下正夫²⁾, 山下直行³⁾, 羽鳥 務⁴⁾, 武井寛幸⁵⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院乳腺科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 坪井病院外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院病理部, 5) 日本医科大学乳腺科): 乳癌探知犬による乳癌の診断 (続報). 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 9) 中井尚子^{1,2)}, 蒔田益次郎³⁾, 佐治重衡⁴⁾, 三上哲夫¹⁾, 堀井理絵²⁾, 秋山 太²⁾, 岩瀬拓士⁵⁾, 大野真司⁵⁾ (1) 東邦大学医学部病理学講座, 2) がん研病理部, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科, 4) 福島県立医科大学腫瘍内科学講座, 5) がん研有明病院乳腺センター): 内分泌療法副作用の薬剤種・年齢による特徴の比較. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 10) 矢野正雄¹⁾, 後藤哲宏¹⁾, 荒井保典²⁾, 武井寛幸³⁾ (1) 南町田病院外科, 2) 聖マリアンナ医科大学放射線科, 3) 日本医科大学): 緩和医療目的に IVR を用いた局所進行乳癌 14 症例に対する考察. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 11) 柳原恵子¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 中井麻木¹⁾, 山下浩二¹⁾, 山根 彩²⁾, 村上隆介²⁾, 和田隆一³⁾, 石井英昭³⁾, 大橋隆治³⁾, 坂谷貴司³⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医大付属病院乳腺外科, 2) 日本医大付属病院放射線科, 3) 日本医大付属病院病理部): 転移性乳がんに対するエリプリンの有用性と安全性. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 12) 鈴木えりか¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 中井麻木¹⁾, 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院乳腺外科): 当院におけるペルツスマブ使用症例の臨床的効果の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 13) 鈴木真彦¹⁾, 南條 博²⁾, 武井寛幸³⁾ (1) 北村山公立病院乳腺外科, 2) 秋田大学付属病院病理部, 3) 日本医科大学乳腺科): Endosalpingiosis による OSNA 法センチネルリンパ節偽陽性の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 14) 関 奈紀¹⁾, 横山 正¹⁾, 高田英志¹⁾, 上田純志¹⁾, 平方敦史¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 鈴木えりか²⁾, 中井麻木²⁾, 柳原恵子²⁾, 蒔田益次郎³⁾, 飯田信也⁴⁾, 吉田 寛¹⁾, 内田英二⁵⁾, 武井寛幸²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器・乳腺・一般外科, 2) 日本医科大学乳腺外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院乳腺科, 5) 日本医科大学消化器外科): 自壊し出血・排膿を伴う局所進行性巨大乳癌に対して感染制御を図りつつ二期的に手術施行し良好な経過を得られた 1 例. 日本臨床外科学会学術集会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- (7) 一般講演:
- 1) 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺科): 3D-CT 乳腺リンパ管造影の腋窩マッピングでの第 2 センチネルリンパ節生検による腋窩非郭清. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
- 2) Yamashita K: Breast Conserving Therapy by Endoscopic Breast Surgery. 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 (第 4 回) (浦安), 2016. 10.
- 3) Yamashita K: Axillary dissection can be avoided by the second sentinel node biopsy on the axillary mapping of 3D-CT mammary lymphography. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (横浜), 2016. 10.
- 4) 鈴木真彦¹⁾, 武井寛幸 (1) 北村山公立病院 乳腺外科): 乳癌化学療法で薬剤血管外漏出に対してデクスラゾキサンを投与した 1 例. 日本癌治療学会学術集会, 2016. 10.
- 5) 林 直輝¹⁾, 中村清吾²⁾, 角田博子¹⁾, 岩瀬拓士³⁾, 秋山 太⁴⁾, 津川浩一郎⁵⁾, 武井寛幸⁶⁾, 大出幸子¹⁾ (1) 聖路加国際病院乳腺科, 2)

昭和大学医学部乳腺外科, 3) がん研有明病院乳腺外科, 4) がん研究会がん研究所病理部, 5) 聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科, 6) 日本医科大学乳腺外科): マンモトーム生検導入による原発乳癌の術前化学療法後完全消失判定精度の向上. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (横浜), 2016. 11.

- 6) 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院乳腺科): 3D-CT 乳腺リンパ管造影の腋窩マッピングでの第 2 センチネルリンパ節生検による腋窩非郭清. 日本外科学会定期学術集会 (第 115 回), 2016. 4.
- 7) 戸塚勝理¹⁾, 松本広志¹⁾, 林 祐二¹⁾, 黒住 献¹⁾, 小松 恵¹⁾, 大庭華子²⁾, 永井成勲³⁾, 井上賢一³⁾, 武井寛幸⁴⁾, 黒住昌史²⁾, 堀口淳⁵⁾, 竹吉 泉⁵⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 乳腺外科, 2) 埼玉県立がんセンター病理診断科, 3) 埼玉県立がんセンター乳腺腫瘍内科, 4) 日本医科大学付属病院乳腺科, 5) 群馬大学臓器病態外科学): 乳腺・内分泌 腋窩リンパ節転移陽性乳癌における術前化学療法後のセンチネルリンパ生検についての検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 115 回), 2016. 4.
- 8) 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺科外科): 乳腺・内分泌 早期乳癌に関するビデオ支援乳癌手術後の 10 年以上の長期成績 (Long-term results over 10 years after video-assisted breast surgery are evaluated for early breast cancer). 日本外科学会定期学術集会 (第 115 回), 2016. 4.

(8) ビデオセッション:

- 1) 山下浩二¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科): 究極の縮小手術を目指して乳腺内視鏡手術簿新展開: 仮想内視鏡モード 3D-CT によるナビゲーション. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.

(9) 一般示説:

- 1) 関口久美子¹⁾, 飯田信也²⁾, 柳原恵子³⁾, 栗田智子³⁾, 中井麻木³⁾, 鈴木えりか³⁾, 宮下正夫¹⁾, 武井寛幸³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院乳腺科, 3) 日本医科大学付属病院乳腺科): 腎細胞癌治療後に乳腺転移を認めた 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 2) 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学乳腺外科): 乳腺領域における術式の工夫 より安全な乳癌手術を目指した乳腺内視鏡手術の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 3) 関 奈紀¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木えりか²⁾, 中井麻木²⁾, 柳原恵子²⁾, 吉田 寛¹⁾, 蒔田益次郎⁵⁾, 飯田信也⁴⁾, 内田英二³⁾, 武井寛幸²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科, 3) 日本医科大学付属病院消化器外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院乳腺科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院乳腺科): 広範囲皮膚浸潤を伴う局所進行乳癌における当院の治療方針について. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.
- 4) 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 権 知華¹⁾, 小川 令¹⁾, 柳原恵子²⁾, 武井寛幸²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院 乳腺科): 当院における人工物を用いた乳房再建の成績. 日本医科大学医学会学術集会 (第 84 回), 2016. 8.
- 5) 中井麻木¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 金谷洋平¹⁾, 岩崎美樹¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 山下浩二¹⁾, 武井寛幸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院乳腺科): 当院における術前化学療法後の手術術式の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回), 2016. 4.
- 6) 谷 瞳, 桑子智之, 村上隆介, 江澤賢治, 大島有希, 古崎治子, 小林宏之, 汲田伸一郎, 柳原恵子, 武井寛幸, 松原美幸 (1) 日本医科大学付属病院 放射線科, 2) 日本医科大学付属病院 乳腺科, 3) 日本医科大学付属病院病理診断科): 乳房デジタルトモシンセシスが診断に有用であった乳癌の検討. 日本乳癌検診学会学術総会 (第 26 回) (久留米), 2016. 11.

(10) 研究部会企画:

- 1) 中島一毅¹⁾, 角田博子²⁾, 北條 隆³⁾, 小島康幸⁴⁾, 明石定子⁵⁾, 河内伸江²⁾, 松本広志⁶⁾, 吉田 崇⁶⁾, 武藤吉輝⁷⁾, 渡辺隆紀⁸⁾, 木下貴之⁹⁾, 武井寛幸¹⁰⁾ (1) 川崎医科大学 総合外科, 2) 聖路加国際病院放射線科, 3) 国立がん研究センター東病院乳腺外科, 4) 聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科, 5) 昭和大学医学部乳腺外科, 6) 埼玉県立がんセンター乳腺外科, 7) 埼玉県立循環器・呼吸器病センター, 8) 国立病院機構仙台医療センター乳腺外科, 9) 国立がん研究センター中央病院乳腺外科, 10) その他): Prospective Multicenter Study JABTS BC-03. 日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会 (第 36 回) (京都), 2016. 4.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 飯田信也¹⁾, 武井寛幸²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院乳腺科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科): 癌化学療法における皮下埋込型中心静脈ポート (CV ポート) と真菌感染症. 日本外科感染症学会雑誌 2016; 13 (1): 47-52.

学会発表

追加分特別講演:

- 1) 蒔田益次郎¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 軸蘭智雄³⁾, 市川太郎⁴⁾, 五味直哉⁵⁾, 菊池真理⁶⁾, 許田典男⁷⁾, 北山康彦⁷⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院内分泌外科, 3) 日本医科大学内分泌外科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, 5) がん

研有明病院画像診断部, ⁶⁾ 国立がん研究センター中央病院放射線診断科, ⁷⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理診断科) : 造影超音波による広がり診断の乳腺部分切除への展開. 日本乳癌学会学術総会 (第 24 回) (東京都), 2016. 6.

[武蔵小杉病院乳腺外科]

研究概要

乳癌の発生は乳管の上皮であることから以下の研究を中心に行う. 乳管の中を観察する研究. 乳管内進展を正確に描出する研究. 描出された乳管内進展を正確に切除する研究. 乳管内進展をする癌細胞と乳管外浸潤を起こす癌細胞の違いをみる研究. 理に適った乳癌診療を目指すとともに診療そのものが研究になる. ①乳癌の診断: 乳癌は乳管内に発生し進展, 浸潤する. 早期に確実な診断をすることは重要. 乳管内視鏡は異常乳頭分泌の診断に威力を発揮する. ②乳癌の外科治療: 乳癌の乳管内成分は切除により治癒する. 乳房部分切除には乳管内進展の評価が重要. MRI, 造影超音波を駆使して適切な切除を行う. 病理診断に立ち返って技を磨く. ③外科治療の芸術性: 癌の完全除去の上に成り立つ新たな乳房のかたち. 形成外科と連携した乳房再建. 患者さんと一緒に計画する手術. ④腋窩リンパ節転移: 転移は全身病の表れである. 集学的治療で柔軟に対応する. ⑤再発をさせないための外科以外の治療: 専門家 (腫瘍内科) による補助化学療法. 乳癌の性格に見合った全身治療の選択. ホルモン感受性腫瘍に対する内分泌療法. 診療方針に沿った研究, 治療法の開発を実行する. 確立した最適な治療を医局員全員が共有し, 継承していく.

研究業績

学会発表

(1) ワークショップ:

- 1) 蒔田益次郎, 鈴木えりか, 赤須東樹¹⁾, 田辺真彦²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 内分泌外科, ²⁾ 杏雲堂病院 乳腺外科) : 乳管内視鏡の経験に基づいた乳頭温存に関する理論的・実践的な戦略. 日本乳癌画像研究会 (第 26 回) (横浜), 2017. 2.

(2) ポスター:

- 1) 蒔田益次郎, 赤須東樹¹⁾, 軸菌智雄²⁾, 市川太郎³⁾, 五味直哉⁴⁾, 菊池真理⁵⁾, 許田典男⁶⁾, 北山康彦⁶⁾ (¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 内分泌外科, ²⁾ 日本医科大学 附属病院 内分泌外科, ³⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 放射線科, ⁴⁾ がん研有明病院 画像診断部, ⁵⁾ 国立がん研究センター中央病院 放射線診断科, ⁶⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 病理診断科) : 造影超音波による広がり診断の乳腺部分切除への展開. 日本乳癌学会総会 (第 24 回) (東京), 2016. 6.
- 2) 蒔田益次郎, 田辺真彦¹⁾, 赤須東樹²⁾, 金子蘭子³⁾, 村上正洋³⁾ (¹⁾ 杏雲堂病院 乳腺外科, ²⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 内分泌外科, ³⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 形成外科) : 根治性を維持した乳頭温存乳房切除術. 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 (第 4 回) (千葉), 2016. 10.

(3) 口演:

- 1) 蒔田益次郎, 赤須東樹¹⁾, 軸菌智雄²⁾, 市川太郎³⁾, 五味直哉⁴⁾, 菊池真理⁵⁾, 許田典男⁶⁾, 北山康彦⁶⁾ (¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 内分泌外科, ²⁾ 金地病院 外科・日本医科大学 附属病院 内分泌外科, ³⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 放射線科, ⁴⁾ がん研有明病院 画像診断部, ⁵⁾ 国立がん研究センター中央病院 放射線診断科, ⁶⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 病理診断科) : 造影超音波による乳癌の広がり診断に関する研究. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (横浜), 2016. 10.

16. 内分泌科学分野

[付属病院内分泌外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ebina A¹⁾, Sugitani I, Orita Y²⁾, Takao S³⁾, Tsukahara K⁴⁾, Yamada K⁵⁾, Kawabata K¹⁾ (1) Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, 2) Department of Otolaryngology Head and Neck Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, 3) Department of Epidemiology, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, 4) Department of Otolaryngology Head and Neck Surgery, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, Tokyo, 5) Division of Ultrasonography, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo) : Indication and validity of ultrasonographic evaluation for assessment of vocal fold mobility before and after thyroid surgery. *Int J Diagnostic Imaging* 2016 ; 3 (1) : 26-33.
- 2) Hirokawa M¹⁾, Sugitani I, Kakudo K²⁾, Sakamoto A³⁾, Higashiyama T⁴⁾, Sugino K⁵⁾, Toda K⁶⁾, Ogasawara S⁷⁾, Yoshimoto S⁸⁾, Hasegawa Y⁹⁾, Imai T¹⁰⁾, Onoda N, Orita Y, Kammori M (1) Department of Diagnostic Pathology, Kuma Hospital, Kobe, Japan, 2) Department of Pathology and Laboratory Medicine, Nara Hospital Kindai University Faculty of Medicine, Ikoma, Japan, 3) Department of Pathology and Laboratory Medicine, Omori Red Cross Hospital, Tokyo, Japan, 4) Department of Surgery, Kuma Hospital, Kobe, Japan, 5) Department of Surgery, Ito Hospital, Tokyo, Japan, 6) Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan, 7) Surgical Unit, Kojin Hospital, Morioka, Japan, 8) Department of Head and Neck Oncology, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan, 9) Department of Head and Neck Surgery, Aichi Cancer Center Hospital, Nagoya, Japan, 10) and others) : Histopathological analysis of anaplastic thyroid carcinoma cases with long-term survival : A report from the Anaplastic Thyroid Carcinoma Research Consortium of Japan. *Endocr J* 2016 ; 63 (5) : 441-447.
- 3) Kwon J¹⁾, Kim B²⁾, Jung H³⁾, Besic N⁴⁾, Sugitani I, Wu H⁵⁾ (1) Department of Radiation Oncology, Chungnam National University School of Medicine, Daejeon, Republic of Korea, 2) Division of Biological Warfare Preparedness and Response, Armed Forces Medical Research Institute, Daejeon, Republic of Korea, 3) Geriatric Center, Seoul National University Bundang Hospital, Seongnam, Gyeonggi-Do, Republic of Korea, 4) Department of Surgical Oncology, Institute of Oncology, Ljubljana, Slovenia, 5) Department of Radiation Oncology, Seoul National University College of Medicine, Seoul, Republic of Korea) : The prognostic impacts of post-operative radiotherapy in the patients with resected anaplastic thyroid carcinoma : A systematic review and meta-analysis. *Eur J Cancer* 2016 ; 59 : 34-45.
- 4) Onoda N¹⁾, Sugino K²⁾, Higashiyama T³⁾, Kammori M⁴⁾, Toda K⁵⁾, Ito K⁶⁾, Yoshida A⁷⁾, Suganuma N⁸⁾, Nakashima N⁹⁾, Suzuki S¹⁰⁾, Tsukahara K, Noguchi H, Koizumi M, Nemoto T, Sugitani I (1) Department of Surgical Oncology, Osaka City University Graduate School of Medicine, 2) Department of Surgery, Ito Hospital, 3) Department of Surgery, Kuma Hospital, 4) Department of Surgery, Kanaji Thyroid Hospital, 5) Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital, 6) Department of Surgery II, Shinshu University, 7) Department of Breast and Endocrine Surgery, Kanagawa Cancer Center, 8) Department of Surgery, Yokohama City University, 9) Department of Breast and Endocrine Surgery, Tohoku University, 10) and others) : The safety and efficacy of weekly paclitaxel administration for anaplastic thyroid cancer patients : A nationwide prospective study. *Thyroid* 2016 ; 26 (9) : 1293-1299.

(2) 総説：

- 1) Ito Y¹⁾, Suzuki S¹⁾, Ito K¹⁾, Imai T¹⁾, Okamoto T¹⁾, Kitano H¹⁾, Sugitani I, Sugino K¹⁾, Tsutsui H¹⁾, Hara H¹⁾, Yoshida A¹⁾, Shimizu K¹⁾ (1) Committee of Pharmacological Therapy for Thyroid Cancer of Japan Association of Endocrine Surgery (JAES) and Japanese Society of Thyroid Surgery (JSTS) : Tyrosine-kinase inhibitors to treat radioiodine-refracted, metastatic, or recurred and progressive differentiated thyroid carcinoma. *Endocr J* 2016 ; 63 (7) : 597-602.
- 2) 五十嵐健人：多発性内分泌腫瘍症2 (Multiple endocrine neoplasia type 2 : MEN2) 医療の進歩. *日医大医学会誌* 2015 ; 11 (1) : 6-11.
- 3) 杉谷 巖：高細胞型乳頭癌の術後治療と経過観察. *日本医事新報* 2016 ; 4796 (3) : 52-53.
- 4) 杉谷 巖：甲状腺髄様癌治療薬「バンデタニブ」のインパクト. *PHARMSTAGE* 2016 ; 16 (4) : 54-58.
- 5) 五十嵐健人, 清水一雄, 岡村律子, 赤須東樹, 長岡竜太, 眞田麻梨恵, 杉谷 巖：内視鏡下甲状腺手術 ワーキンググループの成績と今後の課題. *内分泌甲状腺外会誌* 2016 ; 33 (4) : 200-204.
- 6) 長岡竜太¹⁾, 杉谷 巖¹⁾ (1) 日本医科大学 内分泌外科)：微小乳頭癌のリスクに応じた取扱い. *医学のあゆみ* 2017 ; 260 (9) : 791-

796.

(3) 症例報告：

- 1) Ebina A¹⁾, Sugitani I, Motoi N²⁾ (¹⁾ Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, ²⁾ Department of Pathology, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research) : Intrathyroidal Epithelial Thymoma : Carcinoma Showing Thymus-like Differentiation Mimicking Squamous Cell Carcinoma of the Thyroid. J Nippon Ned Sch 2015 ; 82 (1) : 2-3.
- 2) Obata K¹⁾, Sugitani I, Ebina A¹⁾, Sugiura Y²⁾, Toda K¹⁾, Takahashi S³⁾, Kawabata K¹⁾ (¹⁾ Division of Head and Neck Cancer Institute Hospital Tokyo Japan, ²⁾ Department of Pathology Cancer Institute Hospital Tokyo Japan, ³⁾ Division of Medical Oncology-Cancer Institute Hospital Tokyo Japan) : Common carotid artery rupture during treatment with lenvatinib for anaplastic thyroid cancer. Int Canc Conf J 2016 ; 5 (4) : 197-201.

著 書

- 1) 杉谷 巖 : [分担] 甲状腺の臨床 甲状腺腫瘍および腫瘍性病変 甲状腺悪性腫瘍. 甲状腺専門医ガイドブック (日本甲状腺学会編集), 2016 ; pp203-208, 診断と治療社.
- 2) 杉谷 巖 : [分担] 疾患別がん薬物療法のルール 内分泌がん (甲状腺がん, 副腎皮質がん). がん薬物療法現場のルール 一般臨床で役立つポケットマニュアル (弦間昭彦総編集, 久保田馨 宮敏路 勝俣範之編集), 2016 ; pp154-158, 南江堂.
- 3) 杉谷 巖 : [共著] 悪性腫瘍. 甲状腺疾患診療実践マニュアル 第4版 (百溪尚子 杉谷 巖 編集), 2016 ; pp152-163, 文光堂.
- 4) 岡村律子¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 内分泌外科) : [分担] パセドウ病外科的治療. 甲状腺疾患診療実践マニュアル (百溪尚子, 杉谷巖編集), 2016 ; pp32-38, 文光堂.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 杉谷 巖 : 甲状腺微小乳頭癌における Risk-adapted management : Active surveillance の適応選択. 日本乳癌学会学術総会 (第24回) (東京都), 2016. 6.
- 2) 杉谷 巖 : 甲状腺無症候性微小乳頭癌に対する Active Surveillance は標準治療となりうるか. 宮城甲状腺講演会 (第17回) (仙台市), 2016. 7.
- 3) 杉谷 巖 : 甲状腺微小乳頭癌における Risk-adapted management : Active surveillance は標準治療となりうるか. 日本甲状腺学会学術集会 (第59回) (東京都), 2016. 11.
- 4) 清水一雄 : 原発事故災害と小児甲状腺癌 : チェルノブイリ事故の経験から考える福島県における甲状腺癌発症の現況と将来展望. 日本臨床外科学会総会 (第78回) (東京都), 2016. 11.

(2) 招待講演：

- 1) 杉谷 巖 : 甲状腺疾患の臨床 : がんを中心に. 東京都医学検査学会 (第12回) (東京都), 2016. 10.

(3) 教育講演：

- 1) Sugitani I : Intraoperative Neuromonitoring in Japan. Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (15th) (Seoul, Korea), 2016. 4.

(4) シンポジウム：

- 1) Sugitani I : Super-Radical Surgery for Anaplastic Thyroid Carcinoma : Its Validity Evaluated by the Anaplastic Thyroid Carcinoma Research Consortium of Japan Database. Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (Seoul, Korea), 2016. 4.
- 2) 杉谷 巖 : 甲状腺未分化癌研究コンソーシアムの成果と今後の展望. 日本内分泌学会学術総会 (第89回) (京都), 2016. 4.
- 3) 五十嵐健人 : 甲状腺内視鏡手術ワーキンググループの課題と展望. 日本内分泌外科学会総会 (第28回) (横浜市), 2016. 5.
- 4) 岡村律子 : シンポジウム 1 : 甲状腺癌のリスクアダプテッドマネジメントにおけるリスク分類乳頭癌の切除範囲と補助療法の必要性. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第49回) (山梨県甲府市), 2016. 10.
- 5) Igarashi T : SYMPOSIUM 3/Robot/Endoscopy Assisted Thyroid Surgery in Asia and Oceanian Region Japan Situation. Asia and Oceania Thyroid Association Congress (The 12th) (Seoul, Korea), 2017. 3.
- 6) Sugitani I : SYMPOSIUM 9/Implementing Guidelines in Diagnosis and Treatment of Thyroid Cancer Anaplastic thyroid carcinoma research consortium of Japan : Challenge to upgrade evidence in management of an orphan disease through the multi-institutional collaborate system. Asia and Oceania Thyroid Association Congress (The 12th) (Seoul, Korea), 2017. 3.
- 7) 杉谷 巖, 吉田 明¹⁾, 鈴木真²⁾, 小野田尚佳³⁾, 伊藤研⁴⁾, 神森 真⁵⁾, 宮内 昭⁶⁾, 杉野公則⁷⁾ (¹⁾ 神奈川県予防医学協会, ²⁾ 福島県立医大 乳腺内分泌甲状腺外科, ³⁾ 大阪市立大学 腫瘍外科, ⁴⁾ 信州大学医学部 乳腺内分泌外科, ⁵⁾ 化学療法研究所附属病院 乳腺・甲状腺外科, ⁶⁾ 隈病院, ⁷⁾ 伊藤病院) : 甲状腺未分化癌研究コンソーシアムの成果と今後の展望. 日本内分泌学会学術総

- 会（第 89 回）（京都府），2016. 4.
- 8) 吉田 明¹⁾，杉野公則²⁾，杉谷 巖，宮内 昭³⁾（¹⁾ 神奈川県予防医学協会，²⁾ 伊藤病院，³⁾ 隈病院）：偶発型未分化癌について，日本内分泌学会学術総会（第 89 回）（京都府），2016. 4.
- 9) 小野田尚佳¹⁾，杉野公則²⁾，東山卓也³⁾，神森 真⁴⁾，戸田和寿⁵⁾，伊藤研一⁶⁾，吉田 明⁷⁾，菅沼伸康⁸⁾，中島範昭⁹⁾，鈴木真一¹⁰⁾，塚原清彰，野口仁志，小泉雅典，根本俊光，杉谷 巖，その他 2 名（¹⁾ 大阪市立大学 腫瘍外科，²⁾ 伊藤病院，³⁾ 隈病院，⁴⁾ 化学療法研究所病院 乳腺甲状腺外科，⁵⁾ がん研有明病院 頭頸科，⁶⁾ 信州大学 乳腺内分泌外科，⁷⁾ 神奈川県予防医学協会，⁸⁾ 神奈川県立がんセンター 乳腺内分泌外科，⁹⁾ 東北大学 腫瘍外科，¹⁰⁾ その他）：甲状腺未分化癌に対する化学療法の認容性，安全性に関する前向き研究，日本内分泌学会学術総会（第 89 回）（京都府），2016. 4.
- 10) 原 尚人¹⁾，杉谷 巖，伊藤研一²⁾，伊藤康弘³⁾，今井常夫⁴⁾，北野博也⁵⁾，杉野公則⁶⁾，筒井英光⁷⁾，清水一雄，吉田 明⁸⁾，鈴木真一⁹⁾（¹⁾ 筑波大学 乳腺甲状腺内分泌外科，²⁾ 信州大学 乳腺内分泌外科，³⁾ 隈病院，⁴⁾ 国立病院機構東名古屋病院，⁵⁾ 鳥取大学，⁶⁾ 伊藤病院，⁷⁾ 東京医科大学 甲状腺外科，⁸⁾ 神奈川県予防医学協会，⁹⁾ 福島県立医科大学 乳腺内分泌甲状腺外科）：他に代替治療のない放射性ヨウ素治療（RAI）不適応の分化型甲状腺癌患者を対象としたソラフェニブの有効性・安全性に関する研究（RAI-skip study），日本内分泌外科学会総会（第 28 回）（横浜市），2016. 5.
- 11) 岡村律子，杉谷 巖：乳頭癌の切除範囲と補助療法の必要性，日本甲状腺外科学会学術集会（第 49 回）（甲府市），2016. 10.
- (5) セミナー：
- 1) 杉谷 巖：ソラフェニブの適応と課題 - 分化型甲状腺癌を超えて，日本内分泌外科学会総会（第 28 回）（横浜市），2016. 5.
- 2) 杉谷 巖：分子標的薬の登場による甲状腺癌治療の新時代に考えるべきこと，日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会（第 27 回）（東京都），2017. 2.
- 3) 杉谷 巖：ソラフェニブの適応と課題 - 分化型甲状腺癌を超えて，日本内分泌外科学会総会（第 28 回）（横浜市），2016. 5.
- 4) 杉谷 巖：甲状腺未分化癌（ATC）の病態と治療，日本甲状腺外科学会学術集会（第 49 回）（甲府市），2016. 10.
- 5) 杉谷 巖：分子標的薬の登場による甲状腺癌治療の新時代に考えるべきこと，日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会（第 27 回）（東京都），2017. 2.
- (6) ポスターセッション：
- 1) 軸菌智雄，赤須東樹，杉谷 巖：ゲノム情報をもたらした多発性内分泌腫瘍症の診療と問題点，日本外科学会定期学術集会（第 116 回）（大阪府），2016. 4.
- (7) ワークショップ：
- 1) 岡村律子，眞田麻梨恵，長岡竜太，軸菌智雄，五十嵐健人，赤須東樹¹⁾，清水一雄，杉谷 巖（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科）：日本医大内分泌外科における甲状腺分化癌に対する Best Practice，日本臨床外科学会総会（第 78 回）（東京都），2016. 11.
- (8) ポスター：
- 1) 赤須東樹¹⁾，大槻昌子²⁾，石川真由美²⁾，南 史朗²⁾，許田典男²⁾，北山康彦²⁾，門倉玄武²⁾，勝俣範之³⁾，杉谷 巖（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌内科，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科）：甲状腺未分化癌に対する手術および術後レンパチニブによる治療経験，日本内分泌外科学会総会（第 28 回）（東京都），2016. 5.
- 2) Brose M¹⁾，Fagin-A J²⁾，Wirth-J L³⁾，Elisei R⁴⁾，Sugitani I，Wu Y⁵⁾，Wang Z⁵⁾，Leboulleux S⁶⁾，Bastholt L⁷⁾，Führer D⁸⁾，Weiss R⁹⁾，Magner J⁹⁾，Bernard J⁹⁾，Laird G⁹⁾，Rana N⁹⁾，et al.（¹⁾ University of Pennsylvania，²⁾ Memorial Sloan-Kettering Cancer Center，³⁾ Massachusetts General Hospital，⁴⁾ University of Pisa，⁵⁾ Fudan University，⁶⁾ Gustave Roussy，⁷⁾ Odense University，⁸⁾ University Hospital Essen，⁹⁾ Sanofi Genzyme）：Impact of TSH Levels on Response to Vandetanib in Patients with Locally Advanced or Metastatic Differentiated Thyroid Cancer (DTC) Who Are Refractory or Unsuitable for Radioiodine (RAI) Therapy : a phase III study (VERIFY). Annual Meeting of the American Thyroid Association (86th) (Denver, USA), 2016. 9.
- 3) Smit J¹⁾，Brose M²⁾，Lin C³⁾，Fellous M⁴⁾，Pitoia F⁵⁾，Sugitani I，Schlumberger M⁶⁾（¹⁾ Radboud University，²⁾ University of Pennsylvania，³⁾ National Taiwan University，⁴⁾ Bayer Healthcare Pharmaceuticals Inc，⁵⁾ Universidad de Buenos Aires，⁶⁾ Gustave Roussy）：Baseline patient characteristics from RIFTOS : A global noninterventional study evaluating the use of multikinase inhibitors for treatment of asymptomatic differentiated thyroid cancer refractory to radioactive iodine (RIFTOS MKI). Annual Meeting of the European Thyroid Association (39th) (Copenhagen, Denmark), 2016. 9.
- 4) 岩崎雅江¹⁾，安齋めぐみ¹⁾，松尾いづみ¹⁾，保利陽子¹⁾，長岡竜太，杉谷 巖，坂本篤裕¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 麻酔科）：甲状腺悪性腫瘍手術における術中神経モニタリング結果に影響する因子の考察，日本臨床麻酔学会第 36 回大会（高知市），2016. 11.
- 5) 赤須東樹¹⁾，八木 孝²⁾，石川真由美²⁾，南 史朗²⁾，許田典男²⁾，北山康彦²⁾，杉谷 巖（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌内科）：高カルシウム血症に伴う激しい症状が先行した原発性副甲状腺機能亢進症：2 例の手術症例経験，日本甲状腺外科学会学術集会（第 49 回）（甲府市），2016. 10.

(9) 一般講演：

- 1) Sanada M, Nagaoka R, Okamura R, Jikuzono T, Igarashi T, Sugitani I, Ryuichi W¹⁾, Shimizu A¹⁾ (1) Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital) : Unusual Case of Ectopic Parathyroid Adenoma. Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (28th) (Bali, Indonesia), 2017. 2.
- 2) 五十嵐健人, 岡村律子, 長岡竜太, 眞田麻梨恵, 杉谷 巖 : ゲノム情報もたらした多発性内分泌腫瘍症の診療と問題点. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府), 2016. 4.
- 3) Nagaoka R, Sanada M, Jikuzono T, Okamura R, Igarashi T, Akasu H, Shimizu K, Sugitani I : Downhill Varices in the Hypopharynx Due to Huge Thyroid Tumor : A Case Report. Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (15th) (Seoul, Korea), 2016. 4.
- 4) 長岡竜太, 杉谷 巖, 眞田麻梨恵, 岡村律子, 赤須東樹, 五十嵐健人, 清水一雄 : 特異な臨床経過を辿った褐色細胞腫 2 例の術式選択. 日本内分泌外科学会総会 (第 28 回) (横浜市), 2016. 5.
- 5) 眞田麻梨恵, 長岡竜太, 岡村律子, 赤須東樹, 五十嵐健人, 清水一雄, 杉谷 巖 : 高齢者未分化癌に対するレンバチニブの使用経験. 日本内分泌外科学会総会 (第 28 回) (横浜市), 2016. 5.
- 6) 杉谷 巖 : 甲状腺微小乳頭癌における Risk-adapted management : Active surveillance は標準治療となりうるか? . 日本甲状腺学会学術集会 (第 59 回) (東京都), 2016. 11.
- 7) 長岡竜太, 眞田麻梨恵, 岡村律子, 赤須東樹, 五十嵐健人, 清水一雄, 杉谷 巖 : 当院で経験した MEN2B の 3 家系 4 症例の検討. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第 49 回) (山梨県甲府市), 2016. 10.
- 8) Nagaoka R, Sanada M, Jikuzono T, Okamura R, Igarashi T, Akasu H, Sugitani I, Shimizu K : A case of MEN2B in 13-year-old boy. Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (28th) (Bali, Indonesia), 2017. 2.
- 9) Igarashi T, Shimizu K, Okamura R, Nagaoka R, Sanada M, Akasu H, Sugitani I : Long-term outcome in patients following endoscopic thyroidectomy for papillary thyroid carcinoma. Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (15th) (Seoul, Korea), 2016. 4.
- 10) 長岡竜太, 眞田麻梨恵, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 杉谷 巖, 清水一雄 : 術後に降下性壊死性縦隔炎を来した甲状腺乳頭癌の 1 例. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第 11 回) (東京都), 2016. 5.
- 11) 眞田麻梨恵, 長岡竜太, 岡村律子, 軸菌智雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 清水一雄, 大橋隆治¹⁾, 坂谷貴司¹⁾, 石井英昭¹⁾, 杉谷 巖 (1) 日本医科大学付属病院 病理部) : 甲状腺乳頭癌の気管浸潤部の処理に難渋し気管縫合不全を繰り返した 1 例. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第 11 回) (東京都), 2016. 5.
- 12) 坂井利彦¹⁾, 蛭名 彩¹⁾, 杉谷 巖, 高橋俊二²⁾, 戸田和寿¹⁾, 新橋 渉¹⁾, 佐々木徹¹⁾, 福島啓文¹⁾, 米川博之¹⁾, 三谷浩樹¹⁾, 川端一嘉¹⁾ (1) がん研有明病院 頭頸科, 2) がん研有明病院 腫瘍内科) : Lenvatinib を導入した甲状腺未分化癌症例の検討. 日本頭頸部腫瘍学会 (第 40 回) (埼玉県さいたま市), 2016. 6.
- 13) 杉谷 巖 : 甲状腺がん. Japan Cancer Forum 2016 (東京都), 2016. 8.
- 14) Tahara M¹⁾, Sugitani I, Ito Y²⁾, Okayama Y³⁾, Sunaya T³⁾, Sakaguchi T³⁾, Minami H⁴⁾, Imai T⁵⁾ (1) Department of Head and Neck Medicine, National Cancer Center Hospital East 国立がん研究センター東病院 頭頸部内科, 2) Kuma Hospital 隈病院, 3) Bayer Healthcare Pharmaceuticals Inc バイエル, 4) medical oncology, Kobe University 神戸大学 腫瘍内科, 5) National Hospital Organization 国立病院機構東名古屋病院) : Post-marketing surveillance of all patients treated with sorafenib for unresectable DTC in Japan : Interim report. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第 14 回) (神戸市), 2016. 7.
- 15) Brose-S. M¹⁾, Smit J²⁾, Lin C³⁾, Fellous M⁴⁾, Sugitani I, Schlumberger M⁵⁾, Pitoia F⁶⁾ (1) University of Pennsylvania, 2) Radboud University, 3) National Taiwan University, 4) Bayer Healthcare Pharmaceuticals Inc, 5) Gustave Roussy, 6) Universidad de Buenos Aires) : Baseline Characteristics of Patients From the United States and Overall Population Enrolled in RIFTOS : A Global, Noninterventional Study of Multikinase Inhibitor (MKI) Use in Differentiated Thyroid Cancer (DTC) Refractory to Radioactive Iodine (RAI). Annual Meeting of the American Thyroid Association (86th) (Denver, USA), 2016. 9.
- 16) Sugitani I : Management of papillary thyroid carcinoma in Japan. International Expert Symposium in Fukushima on Radiation and Health (The 5th) (福島), 2016. 9.
- 17) 岩崎雅江¹⁾, 長岡竜太, 岡村律子, 五十嵐健人, 源田雄紀¹⁾, 坂本篤裕¹⁾, 杉谷 巖 (1) 日本医科大学付属病院 麻酔科) : 甲状腺悪性腫瘍手術患者における術中神経モニタリング結果への影響因子についての考察. 甲状腺副甲状腺術中神経モニタリング研究会 (第 3 回) (甲府市), 2016. 10.
- 18) 軸菌智雄, 石橋 宰, 堀川 彩, 廣川満良, 乾 隆, 杉谷 巖 : 固定保存液を用いた甲状腺乳頭癌細胞診からの RNA 解析について. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第 49 回) (甲府市), 2016. 10.
- 19) 長岡竜太¹⁾, 眞田麻梨恵¹⁾, 長濱清隆²⁾, 岡村律子¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 横島一彦³⁾, 大橋隆治²⁾, 杉谷 巖¹⁾ (1) 日本医科大学 内分泌外科, 2) 日本医科大学 病理診断科, 3) 日本医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科) : Downhill Varices in the Hypopharynx

Due to Huge Thyroid Tumor : A Case Report. アジア内分泌外科学会 : Congress of Asian Association of Endocrine Surgeons (第15回) (ソウル), 2016. 4.

- 20) 長岡竜太¹⁾, 眞田麻梨恵¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, 岡村律子¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 杉谷 巖¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学 内分泌外科 : A case of MEN2B in 13-year-old boy. アジア太平洋内分泌会議 : Asia-Pacific Endocrine Conference (第28回) (パリ), 2017. 2.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Ohashi R¹⁾, Kawahara K²⁾, Namimatsu S¹⁾, Igarashi T, Sakatani T^{1, 2)}, Sugitani I, Naito Z^{1, 2)} (1) Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Integrated Diagnostic Pathology, Nippon Medical School) : Clinicopathological significance of a solid component in papillary thyroid carcinoma. *Histopathology* 2017 ; 70 (5) : 775-781.
- 2) Ohashi R¹⁾, Murase Y¹⁾, Matsubara M¹⁾, Watarai Y¹⁾, Igarashi T, Sugitani I, Naito Z^{1, 2)} (1) Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Integrated Diagnostic Pathology, Nippon Medical School) : Fine needle aspiration cytology of the papillary thyroid carcinoma with a solid component : a cytological and clinical correlation. *Diagnostic Cytopathology* 2017 ; 45 (5) : 391-398.
- 3) Fukuoka O¹⁾, Sugitani I, Ebina A¹⁾, Toda K, Kawabata K, Yamada K²⁾ (1) Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital of JFCR, 2) Department of Ultrasonography, Cancer Institute Hospital of JFCR) : Natural history of asymptomatic papillary thyroid microcarcinoma : Time-dependent changes in calcification and vascularity during active surveillance. *World J Surg* 2016 ; 40 (3) : 529-537.

追加分綜説 :

- 1) 赤水尚史¹⁾, 岡本高宏²⁾, 伊藤康弘³⁾, 杉谷 巖, 田原 信⁴⁾ (1) 和歌山県立医科大学 内科学第一講座 内分泌代謝糖尿病学, 2) 東京女子医科大学 内分泌外科, 3) 隈病院, 4) 国立がん研究センター東病院 頭頸部内科) : 座談会 : 分化型甲状腺癌における分子標的治療の役割. *Thyroid Cancer Explore* 2015 ; 1 (1) : 15-24.
- 2) 長岡竜太 : 内分泌外科の手術ナビ. *Ope Nursing* 2016 ; 31 (2) : 特別企画.
- 3) 蛭名 彩¹⁾, 杉谷 巖 (1) がん研有明病院 頭頸科) : 甲状腺癌の最新の治療. *日本薬剤師雑誌* 2016 ; 68 (2) : 219-224.
- 4) 杉谷 巖 : 甲状腺分化癌取扱いガイドラインの最新情報 : 甲状腺乳頭癌に対する risk-adapted management. *ホルモンと臨床* 2014 ; 62 (12) : 975-983.

著書

追加分 :

- 1) 杉谷 巖 : [分担] 甲状腺腫瘍. 今日の治療指針 2016 私はこう治療している (山口徹 北原光夫 監修, 福井次矢 高木誠 小室一成 総編集), 2016 ; pp793-794, 医学書院.

[武蔵小杉病院内分泌外科]

研究業績

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 赤須東樹^{1, 5)}, 大槻昌子²⁾, 石川真由美²⁾, 南 史朗²⁾, 許田典男³⁾, 北山康彦³⁾, 門倉玄武⁴⁾, 勝俣範之⁴⁾, 杉谷 巖⁵⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 病理診断部, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科, 5) 日本医科大学 内分泌外科) : 甲状腺未分化癌に対する手術および術後レンパチニブによる治療経験. 第28回日本内分泌外科学会総会 (横浜), 2016. 5.
- 2) 赤須東樹^{1, 4)}, 八木 孝²⁾, 石川真由美²⁾, 南 史朗²⁾, 許田典男³⁾, 北山康彦³⁾, 杉谷 巖⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉 内分泌外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, 3) 日本医科大学武蔵小杉 病理診断部, 4) 日本医科大学 内分泌外科) : 高カルシウム血症に伴う激しい症状が先行した原発性副甲状腺機能亢進症 : 2例の手術症例経験. 第49回日本甲状腺外科学会学術集塊 (甲府), 2016. 10.

17. 心臓血管外科学分野

[付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sasaki T¹⁾, Takeda Y²⁾, Ohnakatomi Y²⁾, Asou T²⁾ (1) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Cardiovascular Surgery, Kanagawa Children's Medical Center) : Surgical approach for systemic-pulmonary shunt in neon area with functionally univentricular heart : comparison between sternotomy and thoracotomy. Gen Thorac Cardiovasc Surg 2016 ; 64 (9) : 529-536.
- 2) Nitta T, Ishii Y, Fujii M, Miyagi Y, Sakamoto S, Hiromoto A, Imura H : Restoration of Sinus Rhythm and Atrial Transport Function after the Maze Procedure : Box-lesion versus U-lesion Set. J Thorac Cardiovasc Surg 2016 ; 151 (4) : 1062-1069.
- 3) Morota- (Allotted Partly As A Collaborator) T : Guidelines for perioperative cardiovascular evaluation and management for non-cardiac surgery. Circ J (JCS 2014) -digest version- ; Pulmonary artery disease 2017 ; 81 : 245-267.

(2) 総説：

- 1) 師田哲郎 : 「大動脈解離」を知っていますか？. NHK テキスト きょうの健康 2016 ; 340 : 106-109.

(3) 症例報告：

- 1) 仁科 大, 藤井正大, 別所竜蔵 : 意識消失発作を契機に発見された左室流出路乾酪様石灰化病変の1例. 日本心臓血管外科学会雑誌 2016 ; 45 : 272-276.
- 2) 川瀬康裕, 石井庸介, 廣本敦之¹⁾, 仁科 大¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 新田 隆 (1) 日本医科大学千葉北総病院心臓血管外科) : 総大腿動脈高度石灰化に対する超音波吸引装置 (CUSA) を用いた動脈内膜摘除・除石灰術の1症例. 日本心臓血管外科学会雑誌 2017 ; 46 (2) : 97-100.
- 3) Shirakawa M¹⁾, Ishii Y¹⁾, Kawase Y¹⁾, Sakamoto S¹⁾, Miyagi Y¹⁾, Morota T¹⁾, Nitta T¹⁾ (1) 日本医科大学) : Coronary Artery Revascularization with V-composite Saphenous Veins Graft in a Bad Ascending Aorta ; Report of a Case. Kyobu Geka 2016 ; 69 (13) : 1110-1113.

著書

- 1) 青山純也¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : [分担] 心不全合併心房細動の治療に外科治療が奏功する例とは？ : 最新の知見を踏まえて. 心不全 X 不整脈 : クロスさせて考えたら診断・治療のヒントがみえてくる (佐藤幸人, 山下武志), 2016 ; pp122-129, メディカ出版.
- 2) 石井庸介¹⁾ (1) 日本医科大学) : [分担] 心房細動に対する Maze 手術. ハートチームのための心臓血管外科手術周術期管理のすべて (國原 孝), 2017 ; pp538-547, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 師田哲郎 : スtentグラフトは本当に低侵襲か？. 十勝循環器疾患研究会 (第59回) (北海道帯広市), 2016. 9.
- 2) 新田 隆 : 心房細動手術における新規凍結凝固装置への期待. 日本心臓弁膜症学会 (第7回) (札幌市), 2016. 10.
- 3) 新田 隆 : 心臓血管外科手術におけるβ遮断薬の役割 : 薬理から実臨床まで. まほろば心臓血管外科セミナー (檀原), 2017. 2.
- 4) 師田哲郎 : Bizarre aortic arch aneurysms-personal experience in the latest decade. 十勝生活習慣病心疾患講演会 (第2回) (北海道帯広市), 2016.

(2) 教育講演：

- 1) Nitta T : Role of surgery for ventricular arrhythmias. APHRS Summit 2016 (Singapore), 2016. 4.
- 2) 新田 隆, 坂本俊一郎, 佐々木孝, 石井庸介, 林 洋史, 村田広茂¹⁾, 清水 渉¹⁾, 森田紀代造²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 循環器内科, 2) 東京慈恵会医科大学附属病院 心臓外科) : 小児難治性心室性頻拍の外科治療. 日本小児循環器学会総会 (第52回) (東京都), 2016. 7.
- 3) 新田 隆 : SICD 植え込みに必要な外科的知識. SICD Web Live Seminar, 2016. 12.
- 4) 新田 隆 : 心房細動の外科治療 心臓血管外科手術の取り組み : 脳梗塞の予防と心機能の改善. 日本循環器学会 プレスセミナー (第28回), 2017. 2.

(3) シンポジウム：

- 1) 石井庸介, 白川 真, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 川瀬康裕, 栗田二郎, 森嶋素子, 芝田匡史, 青山純也, 佐々木孝, 師田哲郎, 新田隆：左回旋枝動脈に対するグラフト選択はどうか？. 日本冠疾患学会学術集会（第30回）（東京都），2016. 12.
- 2) Nitta T：Mechanism and Prevention of Atrial Tachycardia after the Maze Procedure. APHRS (9th) (Seoul, South Korea), 2016. 10.
- 3) 佐々木孝¹⁾, 吉野美緒²⁾, 白川 真¹⁾, 川瀬康裕¹⁾, 渡邊 誠²⁾, 阿部正徳²⁾, 橋本佳亮²⁾, 岡田 創²⁾, 深澤隆治²⁾, 小川俊一²⁾, 新田隆¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 小児科）：Neurodevelopmental Follow-up Program after Pediatric Cardiac Surgery. 日本小児循環器学会総会・学術集会（第52回）（東京），2016. 7.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 新田 隆：心室頻拍の外科治療. 植込みデバイス関連冬季大会（第9回）（大阪府），2017. 2.

(5) 一般講演：

- 1) 宮城泰雄, 川瀬康裕, 坂本俊一郎, 井関陽平, 前田基博, 村田智洋, 青山純也, 芝田匡史, 森嶋素子, 栗田二郎, 佐々木孝, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆：多発性疣贅付着リードを有するデバイス感染に対して、レーザーシースを用いた経静脈的リード抜去を施行した1例. リード・マネージメント研究会（第2回）（東京），2016. 11.
- 2) 前田基博, 石井庸介, 井関陽平, 村田智洋, 青山純也, 芝田匡史, 森嶋素子, 栗田二郎, 川瀬康裕, 佐々木孝, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 師田哲郎, 市場晋吾¹⁾, 新田 隆（¹⁾ 日本医科大学付属病院 外科系集中治療科）：重症呼吸不全に対するECMO導入の上、緊急搬送後に僧帽弁置換術を施行した1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会（第172回）（東京），2016. 11.
- 3) 前田基博, 石井庸介, 井関陽平, 村田智洋, 森嶋素子, 川瀬康裕, 宮城泰雄, 師田哲郎, 新田 隆, 三軒豪仁（¹⁾ 日本医科大学付属病院 循環器内科）：両側内頸動脈高度狭窄を併発した急性心筋梗塞に対し頸動脈ステント留置術と冠動脈バイパス術を施行した症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会（第240回）（東京），2016. 9.
- 4) 青山純也, 石井庸介, 宮城泰雄, 坂本俊一郎, 川瀬康裕, 白川 真, 森嶋素子, 鈴木大悟, 新田 隆, 田原重志¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科）：リンパ球性下垂体炎を合併した連合弁膜症手術に対する周術期管理の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会（第171回）（東京），2016. 6.
- 5) 井関陽平, 芝田匡史, 青山純也, 鈴木大悟, 森嶋素子, 白川 真, 川瀬康裕, 佐々木孝, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆：心タンポナーデを伴う亜急性期A型大動脈解離に対して心嚢ドレナージを施行して保存的に加療し得た1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会（第240回）（東京），2016. 6.
- 6) 芝田匡史, 井関陽平, 前田基博, 村田智洋, 森嶋素子, 栗田二郎, 川瀬康裕, 佐々木孝, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 藤井正大¹⁾, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 心臓血管外科）：急性A型大動脈解離に対する術式の変遷と成績. 日本血管外科学会学術総会（第44回）（東京都港区），2016. 5.
- 7) 村田智洋, 川瀬康裕, 國原 孝¹⁾, 新田 隆（¹⁾ 公益財団法人心臓血管研究所付属病院）：二尖弁ARに対しRemodeling法による自己弁温存基部置換術を施行した1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会（第171回）（東京都千代田区），2016. 6.
- 8) 石井庸介, 白川 真, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 川瀬康裕, 森嶋素子, 高野仁司¹⁾, 清水 渉¹⁾, 新田 隆（¹⁾ 日本医科大学 循環器内科）：低心機能の冠動脈病変に対する治療戦略：CABG vs. PCI. 日本胸部外科学会定期学術集会（第69回）（岡山県），2016. 9.
- 9) 森嶋素子, 師田哲郎, 川瀬康裕, 新田 隆：急性A型解離に対する上行弓部置換術後遠隔期の大動脈基部拡大に対して基部置換術を施行した1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会（第172回）（東京都千代田区），2016. 11.
- 10) 芝田匡史, 師田哲郎, 上田達夫¹⁾, 坪 宏一²⁾, 村田 智¹⁾, 新田 隆（¹⁾ 日本医科大学付属病院 放射線科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 循環器内科）：急性B型大動脈解離による腹部大動脈真腔閉塞に対し、真腔内ステント留置により急性期手術を回避し得た1例. 日本血管外科学会関東甲信越地方会（第24回）（東京都），2016. 10.
- 11) Nitta T, Sakamoto S, Miyagi Y, Kawase Y, Morishima M, Aoyama J, Shibata M, Ishii Y, Takahashi K¹⁾, Hayashi H¹⁾, Murata H¹⁾, Shimizu W¹⁾（¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan）：Surgery for LV Summit VT. American Heart Association 2016 (89th) (New Orleans, Louisiana), 2016. 11.
- 12) Shibata M, Myamoto M, Kurita J, Miyagi Y, Tara S, Takagi G, Sakatani T, Naito Z, Tabata Y¹⁾, Nitta T（¹⁾ Kyoto University, Kyoto, Japan）：Enhanced Sternal Healing via Effect of Controlled Release and Spatial Retention of Platelet-Rich Plasma Impregnated in Biodegradable Gelatin Hydrogel. American Heart Association Scientific Session 2016 (New Orleans, Louisiana), 2016. 11.
- 13) Shibata M, Morita T, Kurita J, Akutsu K¹⁾, Fujii M, Ochi M, Shimizu W¹⁾, Nitta T（¹⁾ Department of Division of Cardiovascular Intensive Care, Nippon Medical School Hospital）：Changes in and Outcomes from Surgical Procedures for Acute Type A Aortic Dissection. ASIAN SOCIETY FOR VASCULAR SURGERY 2016 (Singapore), 2016. 10.
- 14) 芝田匡史, 坪 宏一²⁾, 師田哲郎, 上田達夫¹⁾, 田村 智¹⁾, 青山純也, 森嶋素子, 栗田二郎, 川瀬康裕, 佐々木孝, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 石井庸介, 新田 隆（¹⁾ 日本医科大学 放射線医学, ²⁾ 日本医科大学付属病院 心臓集中治療科）：急性B型大動脈解離に

- よる腹部大動脈真腔閉塞に対し、大動脈解離シンポジウム（第5回）（神奈川県横浜市），2017. 2.
- 15) 芝田匡史，師田哲郎，栗田二郎，廣本敦之，山田直輝，新田 隆：人工血管感染に対し保存的な加療をし得た2症例. 心臓血管外科ウィンターセミナー（第31回）（長野県），2017. 1.
 - 16) 川瀬康裕，宮城泰雄，井関陽平，前田基博，村田智洋，青山純也，芝田匡史，森嶋素子，栗田二郎，佐々木孝，坂本俊一郎，石井庸介，師田哲郎，新田 隆：術前に疣腫が認められた症例のリード抜去についての検討. 植込みデバイス関連冬季大会（第9回）（大阪府），2017. 2.
 - 17) 宮城泰雄，川瀬康裕，坂本俊一郎，芝田匡史，青山純也，森嶋素子，栗田二郎，佐々木孝，石井庸介，師田哲郎，新田 隆，功刀しのぶ¹⁾（¹⁾日本医科大学病理学）：CIED関連疣腫の病理学的検討：感染/非感染症例の疣腫組成に基づく新たな治療戦略への提言. 植込みデバイス関連冬季大会（第9回）（大阪府），2017. 2.
 - 18) 井関陽平，前田基博，村田智洋，青山純也，芝田匡史，森嶋素子，栗田二郎，川瀬康裕，佐々木孝，坂本俊一郎，宮城泰雄，石井庸介，師田哲郎，新田 隆：多発性疣腫を有するデバイス感染症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会（第243回）（東京都），2017. 2.
 - 19) 久保田芳明¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，齊藤 研¹⁾，轟 崇弘¹⁾，菅原一樹¹⁾，藤本雄飛¹⁾，萩原かな子¹⁾，泉 佑樹¹⁾，淀川顕司¹⁾，浅井邦也¹⁾，清水 渉¹⁾，川瀬康裕，坂本俊一郎，石井庸介，新田 隆（¹⁾日本医科大学付属病院 循環器内科）：巨大左心耳内に頻脈性心房細動を伴う心不全発症により血栓を生じた滲出性収縮性心膜炎の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会（第243回）（東京都），2017. 2.
 - 20) 師田哲郎，宮城泰雄，芝田匡史，山内治雄¹⁾（¹⁾東京大学心臓外科）：ステントグラフト大動脈外脱出の2例. 大動脈シンポジウム（第23回），2016. 5.
 - 21) 藤井正大，太田恵介，吉尾敬秀，仁科 大，別所竜蔵：術前肺機能評価からみた人工心肺使用開心術の手術成績の検討. 日本胸部外科学会学術総会（第69回）（岡山），2016. 9.
 - 22) 藤井正大，太田恵介，吉尾敬秀，仁科 大，別所竜蔵：非植込型補助人工心臓実施設における急性心不全に対するVAD治療の試み. 日本臨床補助人工心臓研究会学術集会（第22回）（米子），2016. 11.
 - 23) 藤井正大，太田恵介，吉尾敬秀，仁科 大，別所竜蔵：慢性呼吸器障害が開心術後成績に与える影響. 日本心臓血管外科学会学術総会（第47回）（東京），2017. 2.
 - 24) 岡本浩和，佐々木孝，石井庸介，新田 隆：冠動脈瘤を合併した川崎病に対して冠動脈瘤縫縮術を施行した1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会（第173回）（東京都），2017. 3.
 - 25) 前田基博¹⁾，佐々木孝¹⁾，川瀬康裕¹⁾，井関陽平¹⁾，村田智洋¹⁾，青山純也¹⁾，芝田匡史¹⁾，森嶋素子¹⁾，栗田二郎¹⁾，坂本俊一郎¹⁾，宮城泰雄¹⁾，石井庸介¹⁾，師田哲郎¹⁾，新田 隆¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 心臓血管外科）：当院で経験した乳幼児僧帽弁形成術4例の検討. 関東小児心臓外科医の会（第21回）（東京），2016. 6.
 - 26) 佐々木孝¹⁾，川瀬康裕¹⁾，青山純也¹⁾，芝田匡史¹⁾，森嶋素子¹⁾，栗田二郎¹⁾，坂本俊一郎¹⁾，宮城泰雄¹⁾，石井庸介¹⁾，師田哲郎¹⁾，新田 隆¹⁾，橋本佳亮²⁾，深澤隆治²⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 心臓血管外科，²⁾日本医科大学付属病院 小児科）：根治願望の強い極型ファロー四徴症の成人例. 関東小児心臓外科医の会（第22回）（東京），2016. 11.
 - 27) 佐々木孝¹⁾，白川 真¹⁾，川瀬康裕¹⁾，井関陽平¹⁾，前田基博¹⁾，村田智洋¹⁾，上田仁美¹⁾，芝田匡史¹⁾，青山純也¹⁾，森嶋素子¹⁾，坂本俊一郎¹⁾，宮城泰雄¹⁾，石井庸介¹⁾，師田哲郎¹⁾，新田 隆¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 心臓血管外科）：無侵襲混合静脈血酸素飽和度監視システムを用いた乳児心臓手術時の脳・体外循環評価・局所組織酸素飽和度の変化は術後合併症を予測しうるか？. 日本胸部外科学会定期学術集会（第69回）（岡山），2016. 9.
 - 28) 森嶋素子，師田哲郎，川瀬康裕，新田 隆：急性A型解離に対する上行弓部置換術後遠隔期の動脈基部拡大に対して基部置換術を施行した1例. 日本胸部外科学会 関東甲信越地方会（第172回）（ステーションコンファレンス東京），2016. 11.
 - 29) 青山純也¹⁾，石井庸介¹⁾，宮城泰雄¹⁾，坂本俊一郎¹⁾，川瀬康裕¹⁾，白川 真¹⁾，森嶋素子¹⁾，鈴木大悟¹⁾，師田哲郎¹⁾，新田 隆¹⁾，田原重志²⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 心臓血管外科，²⁾日本医科大学付属病院 脳神経外科）：リンパ球性下垂体炎を合併した連合弁膜症手術に対する周術期管理の1例. 第171回日本胸部外科学会 関東甲信越地方会（東京），2016. 6.
 - 30) 石井庸介¹⁾，坂本俊一郎¹⁾，宮城泰雄¹⁾，川瀬康裕¹⁾，栗田二郎¹⁾，森嶋素子¹⁾，芝田匡史¹⁾，青山純也¹⁾，井関陽平¹⁾，前田基博¹⁾，村田智洋¹⁾，佐々木孝¹⁾，師田哲郎¹⁾，新田 隆¹⁾（¹⁾日本医科大学）：僧帽弁疾患を合併した心房細動手術における術前左房径の検討. 第47回日本心臓血管外科学会総会（Daiba），2017. 3.
 - 1) 新田 隆：心房細動の外科治療. 聖隷浜松病院循環器センター地域連携研究会（浜松市），2016. 10.
- (6) アフタヌーンセミナー 講師：
 - 1) 新田 隆：心房細動手術における新規凍結凝固装置への期待. 日本心臓弁膜症学会（第7回）（北海道札幌市），2016. 10.
- (7) 教育セッション：
 - 1) 新田 隆：非虚血性心室頻拍の外科治療. 日本循環器学会関東甲信越地方会（第243回）（東京都），2017. 2.

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 坂本俊一郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院心臓血管外科)：冠動脈手術における心房細動治療：治療の意義と術式の選択. 日本冠疾患学会雑誌 2015；21 (3)：246-252.

追加分原著：

- 1) Soejima K¹⁾, Nogami A²⁾, Sekiguchi Y²⁾, Harada T³⁾, Satomi K⁴⁾, Hirose T⁵⁾, Ueda A¹⁾, Miwa Y¹⁾, Sato T¹⁾, Nishio S³⁾, Shirai Y⁶⁾, Kowase S⁷⁾, Murakoshi N²⁾, Kunugi S, Nitta T, et al. (1) Department of Cardiology, Kyorin University Hospital, Tokyo, Japan, 2) Cardiovascular Division, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan, 3) Department of Cardiology, St. Marianna University School of Medicine Hospital, Kanagawa, Japan, 4) Department of Cardiology, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, Hachioji, Japan, 5) Department of Cardiology, Gifu Prefectural General Medical Center, Gifu, Japan, 6) Tokyo Medical and Dental University Hospital, Tokyo, Japan, 7) Department of Cardiovascular Medicine, Yokohama Rosai Hospital, Yokohama, Japan, 8) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan)：Epicardial catheter ablation of ventricular tachycardia in no entry left ventricle：mechanical aortic and mitral valves. Circ Arrhythm Electrophysiol 2015；8 (2)：381-389.
- 2) Ando M¹⁾, Yamauchi H¹⁾, Morota T, Taketani T²⁾, Shimada S¹⁾, Nawata K¹⁾, Umeki A¹⁾, Ono M¹⁾ (1) The University of Tokyo, Department of Cardiac Surgery, 2) Mitsui Memorial Hospital, Department of Cardiovascular Surgery)：Long-term outcome after the original and simple modified technique of valve-sparing aortic root reimplantation in Marfan-based population, David V University of Tokyo modification. J Cardiol 2016；67：86-91.

追加分その他：

- 1) 新田 隆：Open Heart：英語セッションに思う. 心臓 2015；47 (8)：941-941.

著書

追加分著書：

- 1) 坂本俊一郎¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院心臓血管外科)：〔共著〕不整脈の外科治療. 循環器疾患最新の治療 2016-2017, 2016；pp383-387, 南江堂.
- 2) 川瀬康裕¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 石井庸介¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院心臓血管外科)：〔共著〕心房細動手術の変遷と最近の進歩. Heart View 2015年10月号 (國原 孝), 2015；pp56-61, メジカルビュー社.
- 3) 石井庸介：〔共著〕心房細動手術は、手術リスクを増加させるのか？. Evidence-based Cardiology (小室 一成), 2015；pp349-352, 中外医学社.
- 4) 石井庸介：〔共著〕メイズ手術. ハートナーシング, 2016；pp38-42, メディカ出版.
- 5) 石井庸介：〔共著〕メイズ手術. Intensivist, 2015；pp755-764, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 6) 新田 隆：〔分担〕心臓外科医の視点から見た心房細動. 心房細動異文化交流～多面的アプローチのための対談集～(山下武志), 2015；pp139-156, 医薬ジャーナル社.
- 7) Nitta T, Sakamoto S：〔分担〕Intraoperative Mapping During Surgical Ablation Procedures. Interventional Cardiac Electrophysiology-A Multidisciplinary Approach (Sanjeev Saksena, Francis E. Marchlinsk, Ralph J. Damiano, Jr., N. A. Mark Estes), 2015；pp417-430, Cardiotext Publishing.

学会発表

追加分教育講演：

- 1) 新田 隆：PGC Advanced Course：心室頻拍. 日本胸部外科学会総会 (第68回) (神戸市), 2015. 10.
- 2) 大森裕也, 宮城泰雄, 坂本俊一郎, 新田 隆：開胸/開心リード抜去手術. リード・マネージメント研究会 (第1回), 2016. 1.

追加分一般講演：

- 1) 坂本俊一郎¹⁾, 川瀬康裕¹⁾, 青山純也¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 森嶋素子¹⁾, 白川 真¹⁾, 佐々木孝¹⁾, 大森裕也¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 石井庸介¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院心臓血管外科)：心房細動手術におけるGPアブレーション効果の検討. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第68回) (神戸), 2015. 10.
- 2) 青山純也¹⁾, 石井庸介¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 川瀬康裕¹⁾, 白川 真¹⁾, 森嶋素子¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾, 田原重志²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, 2) 日本医科大学付属病院 脳神経外科)：多発性心室期外収縮に対する胸腔鏡心拍動下心外膜焼灼の1例. 日本循環器学会 関東甲信越地方会 (第239回) (東京), 2016. 2.
- 3) 佐々木孝, 武田裕子¹⁾, 大中臣康子¹⁾, 出淵 亮¹⁾, 麻生俊英¹⁾ (1) 神奈川県立こども医療センター 心臓血管外科)：機能的単心室に

- 対する新生児体肺シャントへのアプローチ：胸骨正中切開と側開胸の比較. 日本胸部外科学会定期学術集会（第 68 回）（兵庫県神戸市），2015. 10.
- 4) 鈴木大悟, 本田二郎¹⁾ (1) 中頭病院 心臓血管外科)：心臓・大血管手術における術前口腔ケアの効果についての検討. 日本胸部外科学会定期学術集会（第 68 回）（兵庫県神戸市），2015. 10.
 - 5) 坂本俊一郎, 川瀬康裕, 青山純也, 芝田匡史, 鈴木大悟, 田上素子, 白川 真, 佐々木孝, 大森裕也, 宮城泰雄, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆：心房細動手術における GP アブレーション効果の検討. 日本胸部外科学会定期学術集会（第 68 回）（兵庫県神戸市），2015. 10.
 - 6) 佐々木孝：最重症先天性心疾患に対するハイブリッド治療の成績. 日本心臓血管外科学会学術総会（第 46 回）（愛知県名古屋市），2016. 2.
 - 7) 芝田匡史, 師田哲郎, 青山純也, 高橋賢一朗, 田上素子, 廣本敦之, 佐々木孝, 大森裕也, 宮城泰雄, 坂本俊一郎, 石井庸介, 小野澤志郎¹⁾, 村田 智¹⁾, 塚 宏一²⁾, 新田 隆 (1) 日本医科大学 放射線医学, 2) 日本医科大学 循環器内科)：咯血を伴った胸部大動脈瘤破裂症例に対する TEVAR は安全か. 日本血管外科学会学術総会（第 43 回）（横浜市），2015. 6.
 - 8) 石井庸介, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 大森裕也, 白川 真, 廣本敦之, 田上素子, 師田哲郎, 新田 隆：冠動脈バイパス術に併施する心房細動手術は Full-Maze か肺静脈隔離か？. 日本冠動脈外科学会学術大会（第 20 回）（京都），2015. 7.
 - 9) 芝田匡史, 小野澤志郎¹⁾, 師田哲郎, 塚 宏一²⁾, 上田達夫¹⁾, 村田 智¹⁾, 宮城泰雄, 新田 隆 (1) 日本医科大学付属病院 放射線医学, 2) 日本医科大学付属病院 循環器内科)：遅発性 type Ia endoleak に対して瘤内塞栓術を併用した scalloped body extension を施行した 1 例. 大動脈ステントグラフト研究会（第 19 回）（愛知県名古屋市），2015. 7.
 - 10) 石井庸介, 坂本俊一郎, 川瀬康裕, 宮城泰雄, 大森裕也, 佐々木孝, 白川 真, 田上素子, 芝田匡史, 青山純也, 師田哲郎, 新田 隆：僧帽弁疾患における心房細動手術の治療戦略. 日本胸部外科学会定期学術集会（第 68 回）（神戸市），2015. 10.
 - 11) 高橋賢一朗, 杉田慎二¹⁾, 小林克也¹⁾, 田上素子, 廣本敦之, 白川 真, 佐々木孝, 坂本俊一郎, 大森裕也, 宮城泰雄, 石井庸介, 師田哲郎, 竹田晋浩¹⁾, 新田 隆 (1) 日本医科大学 外科系集中治療科)：心臓・大血管手術後急性期における ROTAFLOW 遠心ポンプを用いた ECMO システムの有用性. 日本胸部外科学会定期学術集会（第 68 回）（神戸市），2015. 10.
 - 12) 前田基博, 田上素子, 白川 真, 川瀬康裕, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆：CABG, 右下葉切除術後のためアプローチ法を工夫した左房粘液腫の 1 例. 日本胸部外科学会 関東甲信越地方会（第 169 回）（東京都），2015. 11.
 - 13) Sasaki T：Transmitral myectomy and mitral valve replacement in a pediatric patient with hypertrophic obstructive cardiomyopathy and degenerative mitral valve. World Society for Pediatric and Congenital Heart Surgery Regional Meeting KYOTO SYMPOSIUM（京都），2015. 11.
 - 14) Ishii Y：AF after Maze Procedure：Track or Treat：Track (observe). 8th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Sessions (8th) (Melbourne, Australia), 2015. 11.
 - 15) 芝田匡史, 師田哲郎, 石井庸介, 宮城泰雄, 大森裕也, 坂本俊一郎, 佐々木孝, 川瀬康裕, 白川 真, 森嶋素子, 鈴木大悟, 青山純也, 新田 隆：当院における腹部分枝 debranching TEVAR の治療成績. 日本脈管学会総会（第 56 回）（東京都），2015. 10.
 - 16) Nitta T：Restoration of sinus rhythm atrial transport function：Box-lesion vs. U-lesion set. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Sessions (8th) (Melbourne, Australia), 2015. 11.
 - 17) Ishii Y, Sakamoto S, Miyagi Y, Kawase Y, Ohmori H, Shirakawa M, Tanoue M, Suzuki D, Morota T, Nitta T：Optimal Preoperative Left Atrial Diameter for Atrial Fibrillation Surgery in Patients With Mitral Valve Disease and Atrial Fibrillation. The Society of Thoracic Surgeons Annual Meeting (52nd) (Phoenix, Arizona), 2016. 1.
 - 18) Shibata M：Successful treatment for late-onset juxtarenal type Ia endoleak using scalloped body extension and N-butyl cyanoacrylate embolization. LEIPZIG INTERVENTIONAL COURSE 2016 (Leipzig, Germany), 2016. 1.
 - 19) 芝田匡史, 石井庸介, 宮城泰雄, 大森裕也, 坂本俊一郎, 川瀬康裕, 白川 真, 森嶋素子, 鈴木大悟, 青山純也, 師田哲郎, 新田 隆：CRT 依存の低左心機能症例に対し感染リード除去後に開胸下心外膜リード縫着を施行した 1 例. リード・マネージメント研究会（第 1 回）（東京都），2016. 1.
 - 20) 佐々木孝¹⁾, 麻生俊英²⁾, 白川 真¹⁾, 高橋賢一朗¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, 2) 神奈川県立こども医療センター 心臓血管外科)：Transmitral myectomy and mitral valve replacement in a pediatric patient with hypertrophic obstructive cardiomyopathy and degenerative mitral valve. World Society for Pediatric and Congenital Heart Surgery Regional Meeting-KYOTO SYMPOSIUM (Kyoto), 2015. 11.
 - 21) Nitta T, Ishii Y, Fujii M, Miyagi Y, Sakamoto S：Restoration of Sinus Rhythm and Atrial Transport Function after the Maze Procedure：Box-lesion versus U-lesion Set. American Association for Thoracic Surgery (95th) (Seattle, WA, USA), 2015. 4.
 - 22) 新田 隆：Keynote lecture：不整脈. 日本胸部外科学会総会（第 68 回）（神戸市），2015. 10.
 - 23) Kurita T¹⁾, Nitta T, Furushima H²⁾, Matsumoto N³⁾, Toyoshima T⁴⁾, Shimizu A⁵⁾, Mitamura H⁶⁾, Ohe T⁷⁾, Aizawa Y⁸⁾ (1) Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kinki University, Sayama, 2) The First Department of Internal Medicine, Niigata

University School of Medicine, Niigata, ³⁾ Department of Pharmacology, St. Marianna University School of Medicine, Kawasaki, ⁴⁾ Faculty of Health and Medical Care, Saitama Medical University, Saitama, ⁵⁾ Faculty of Health Sciences, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, Ube, ⁶⁾ Tachikawa Hospital, Tachikawa, ⁷⁾ The Sakakibara Heart Institute of Okayama, Okayama, ⁸⁾ Department of Research and Development, Tachikawa Medical Center, Nagaoka) : Malignant Type of Electrical Storm in Patients With an Implantable Cardiac Shock Device : Results From the Nippon Storm Study. American Heart Association (Orlando, FL), 2015. 11.

- 24) 笹本 希, 坂本俊一郎, 川瀬康裕, 佐々木孝, 新田 隆 : VSD 術後遠隔期に VT を発症し, マッピングガイド下 VT 手術にて根治し得た 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 169 回) (東京都), 2015. 11.
- 25) 古瀬領人¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 鈴木啓士¹⁾, 黄 俊憲¹⁾, 三軒豪仁¹⁾, 林 洋史¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 青山里恵¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 高野仁司¹⁾, 清水 渉¹⁾, 川瀬康裕, 石井庸介, 新田 隆 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 循環器内科) : 初療の経胸壁心エコーにて早期診断し得た, 前乳頭筋固れるを合併した後壁梗塞に伴う心原性ショックの 1 例. 日本冠疾患学会学術集会 (第 29 回) (札幌市), 2015. 11.
- 26) 鈴木敬士, 坪 宏一, 山本 剛, 古瀬領人, 黄 俊憲, 三軒豪仁, 林 洋史, 細川雄亮, 清水 渉, 宮城泰雄, 石井, 庸介, 新田 隆 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 循環器内科) : 外科的治療に先行する心嚢穿刺の適応判断に苦慮した心タンポナーデの 3 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 238 回) (東京都), 2015. 12.
- 27) 鈴木大悟, 石井庸介, 宮城泰雄, 新田 隆 : 膝窩動脈高度石灰化病変に対し内膜摘除後, 大伏在静脈パッチ形成術を施行し下肢虚血を改善し得た 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 238 回) (東京都), 2015. 12.
- 28) Akutsu K¹⁾, Ko T¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Miyachi H¹⁾, Murata H¹⁾, Hayashi H¹⁾, Sangen H¹⁾, Suzuki K¹⁾, Furuse E¹⁾, Morota T, Nitta T, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiovascular Intensive Care, Nippon Medical School Hospital, Tokyo) : Outcome of Initial Medical Management for Non-communicating Acute Type A Aortic Dissection : Is All Necessary for Surgical Repair?. 日本循環器学会学術集会 (第 80 回) (仙台), 2016. 3.

追加分シンポジウム :

- 1) Ishii Y, Sakamoto S, Kawase Y, Hiromoto A, Miyagi Y, Ohmori H, Sasaki T, Shirakawa M, Tanoue M, Shibata M, Aoyama J, Nitta T : Prevention of stroke during 2 decades after AF surgery. 日本不整脈学会学術集会 (第 30 回) 日本心電学会学術集会 (第 32 回) (京都市), 2015. 7.
- 2) 新田 隆 : 成人心房中隔欠損症に合併する心房細動. 日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 (第 18 回) (大阪府大阪市), 2016. 1.
- 3) Nitta T : JHRS Joint Session : New Insight in Mapping and Ablation of AF : Surgical Mapping and Ablation of AF. Heart Rhythm Society (36th) (Boston, MA), 2015. 5.
- 4) 新田 隆, 石井庸介, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 藤井正大 : 術後心調律と左房機能の回復 : Box-lesion vs. U-lesion set. 関西胸部外科学会学術集会 (第 58 回) (岡山県), 2015. 6.
- 5) Nitta T : Surgical VT Ablation in Non-ischemic Cardiomyopathy : Why, When and How. APHRS (8th) (Melbourne, Australia), 2015. 11.
- 6) Nitta T : Restoration of SR and LA Transport Function : Box-lesion vs. U-lesion set. APHRS (8th) (Melbourne, AU), 2015. 11.
- 7) 新田 隆, 坂本俊一郎, 宮城泰雄, 藤井正大, 石井庸介 : 成人心房中隔欠損症に合併する心房細動 : 術中マッピング所見からみた術式の検討. 日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会 (第 18 回) (大阪), 2016. 1.

追加分セミナー :

- 1) 石井庸介 : 弁膜症/非弁膜症性心房細動における新しい経口抗凝固剤 (NOAC) の使用方法. 日本血管外科学会関東甲信越地方会 (第 23 回) (東京都), 2015. 10.

追加分その他 :

- 1) 佐々木孝 : Debate (先天性 4) 体肺 shunt へのアプローチ, median or thoractomy. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 68 回) (兵庫県神戸市), 2015. 10.
- 2) 新田 隆 : みんなでとろうインパクトファクター. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 170 回) (横浜市), 2016. 3.

追加分ミーティングエキスパート :

- 1) Noda T¹⁾, Kurita T²⁾, Nitta T, Matsumoto N³⁾, Toyoshima T⁴⁾, Shimizu A⁵⁾, Mitamura H⁶⁾, Ohe T⁷⁾, Aizawa Y⁸⁾ (¹⁾ Department Cardiology, National Cerebral and Cardiovascular Center Hospital, ²⁾ Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kinki University, Sayama, ³⁾ Department of Pharmacology, St. Marianna University School of Medicine, Kawasaki, ⁴⁾ Faculty of Health and Medical Care, Saitama Medical University, Saitama, ⁵⁾ Faculty of Health Sciences, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, Ube, ⁶⁾ Tachikawa Hospital, Tachikawa, ⁷⁾ The Sakakibara Heart Institute of Okayama, Okayama, ⁸⁾ Department of Research and Development, Tachikawa Medical Center, Nagaoka) : Electrical Storm in Patients with an Implantable Cardiac

Shock Device. 日本循環器学会学術集会（第80回）（仙台市），2016. 3.

追加分ラウンドテーブル：

- 1) Kurita T¹⁾, Nitta T, Furushima H²⁾, Matsumoto N³⁾, Toyoshima T⁴⁾, Shimizu A⁵⁾, Mitamura H⁶⁾, Ohe T⁷⁾, Aizawa Y⁸⁾ (1) Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kinki University, Sayama, 2) The First Department of Internal Medicine, Niigata University School of Medicine, Niigata, 3) Department of Pharmacology, St. Marianna University School of Medicine, Kawasaki, 4) Faculty of Health and Medical Care, Saitama Medical University, Saitama, 5) Faculty of Health Sciences, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, Ube, 6) Tachikawa Hospital, Tachikawa, 7) The Sakakibara Heart Institute of Okayama, Okayama, 8) Department of Research and Development, Tachikawa Medical Center, Nagaoka) : Current Status and Unsolved Matters of an Implantable Cardiac Shock Device for Primary Prevention : Insights from the Nippon Storm Study. 日本循環器学会学術集会（第80回）（仙台市），2016. 3.
- 2) Mitsuhashi T¹⁾, Shimizu A²⁾, Sekiguchi Y³⁾, Nishii N⁴⁾, Furushima H⁵⁾, Manaka T⁶⁾, Yokoshiki H⁷⁾, Kamiyama T²⁾, Nitta T, Okumura K⁸⁾ (1) Saitama Medical Center, Jichi Medical University, 2) Yamaguchi University, Ube, 3) Tsukuba University, Tsukuba, 4) Okayama University, Okayama, 5) Niigata University, Niigata, 6) Tokyo Women's Medical University, Shinjuku, 7) Hokkaido University, Sapporo, 8) Hirosaki University, Hirosaki) : From JCDTR Data to JID-CAD Study. 日本循環器学会学術集会（第80回）（仙台市），2016. 3.

追加分招待講演：

- 1) Nitta T : AF surgery, who should you sent to the OR. APHRS Summit 2015 (Bankok, Thailand), 2015. 4.

追加分特別講演：

- 1) 石井庸介 : Maze 手術について. 千葉心臓外科手術手技検討会（第21回）（千葉），2015. 8.
- 2) 新田 隆 : 心房細動への多角的アプローチ. 十勝生活習慣病心疾患講演会（帯広），2015. 5.
- 3) 新田 隆 : 心房細動の外科治療. 埼玉ハートリズムカンファランス（第2回）（埼玉県），2015. 5.
- 4) 新田 隆 : Maze 手術の基本と最近の知見. Meet the Expert in Kagoshima 2015（鹿児島県），2015. 5.
- 5) 新田 隆 : 心臓血管手術における 遮断薬の役割 : 薬理と電気生理から実臨床まで. 茨城県周術期循環管理セミナー（第7回）（つくば市），2015. 7.
- 6) 新田 隆 : 心房細動の最近の話題 : 抗凝固療法と外科治療について. 不整脈治療勉強会（伊豆の国市長岡），2015. 7.
- 7) 新田 隆 : 心臓血管手術における 遮断薬の役割 : 薬理と電気生理から実臨床まで. 周術期循環管理セミナー in 七隈（福岡県），2015. 8.
- 8) 新田 隆 : 「心房細動治療の目的を考える」心房細動回避率と遠隔期脳梗塞発生の回避. 福島不整脈研究会（福島県郡山市），2015. 11.
- 9) 新田 隆 : 心房細動の外科治療 : Box-lesion vs. U-lesion set. 日本心臓弁膜症学会（第6回）（東京都），2015. 12.
- 10) 新田 隆 : 不整脈の外科治療とデバイス治療の最近の動向. Seminar : Cardiology 2015 (25th), 2015. 12.

[武蔵小杉病院心臓血管外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 白川 真¹⁾, 井村 肇²⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院心臓血管外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管外科) : Propofol Protects the Immature Rabbit Heart against Ischemia and Reperfusion Injury : Impact on Functional Recovery and Histopathological Changes. BioMed Research International 2014 : 2014.

(2) 症例報告：

- 1) 白川 真¹⁾, 石井庸介¹⁾, 川瀬康裕¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院心臓血管外科) : 性状不良な上行大動脈に大伏在静脈による V-コンボジットグラフトを用いて冠血行再建した1例. 胸部外科 2016 ; 69 (13) : 1110-1113.
- 2) 白川 真¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 石井庸介¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院心臓血管外科) : Efficacy of Computed tomography-Guided Catheter Drainage as the Initial Intervention and of Omentopexy as the Staged Surgery for a Prosthetic Graft Infection of Very Late Onset. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (5) : 203-205.

著 書

- 1) Maruyama Y¹⁾, Ochi M¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : [分担] Long-term outcome of pediatric coronary artery bypass grafting and down-sizing operation for giant coronary aneurysms. Kawasaki Disease (In : Saji BT, Newburger JW, Burns JC, Takahashi M. editors.), 2017 ; pp389-406, Springer Japan.

学会発表

(1) パネルディスカッション :

- 1) 井村 肇¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 高橋賢一郎¹⁾, 上田仁美¹⁾, 森嶋素子²⁾, 吉尾敬秀²⁾, 白川 真²⁾, 新田 隆²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院, 心臓血管外科, 2) 日本医科大学付属病院, 心臓血管外科) : Coronary artery bypass surgery for patients with regional hypoperfusion in the brain : can it be done at an acceptable risk of stroke without cerebrovascular reconstruction?. 日本冠動脈外科学会総会 (福岡), 2016. 7.

(2) 一般講演 :

- 1) 丸山雄二, 井村 肇, 高橋賢一郎, 上田仁美, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : GEA の新しい使用法 : Proximal vein interposition を併用した GEA フリーグラフト. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第 21 回) (福岡), 2016. 7.
- 2) 丸山雄二, 井村 肇, 廣本敦之, 網谷亮輔, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Volume rendering 法を用いた単純 3DCT による大伏在静脈の CABG 術前評価 : 102 例の経験. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 69 回) (岡山), 2016. 9.
- 3) 網谷亮輔, 廣本敦之, 丸山雄二, 井村 肇 : 下行大動脈瘤を伴った大動脈縮窄症に対して左開胸で下行大動脈置換術を施行した一成人例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 173 回) (東京), 2017. 3.
- 4) 白川 真¹⁾, 石井庸介¹⁾, 川瀬康裕¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院心臓血管外科) : 上行大動脈に高度動脈硬化性病変を有する症例に対する V-composite SVs graft での冠血行再建の検証. 日本心臓血管外科学会学術集会 (第 47 回) (東京), 2017. 2.
- 5) 太田恵介, 仁科 大, 前田基博, 藤井正大, 別所竜蔵 : ステロイド治療が著効した開心術後収縮性心膜炎の 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 173 回) (東京), 2017. 3.
- 6) 太田恵介, 前田基博, 仁科 大, 藤井正大, 別所竜蔵 : 術中 INVOS による脳血流評価が有用であった大動脈弁置換術の 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 172 回) (東京), 2016. 11.

論 文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 丸山雄二¹⁾, Chambers JD²⁾, 別所竜蔵¹⁾, 藤井正大¹⁾, 二科 大¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科, 2) Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute (King's College London) St Thomas Hospital) : 細胞レベルから見た外科的心筋保護法の現況と次世代への展望. 日本心臓血管外科学会雑誌 2014 ; 43 (5) : 239-253.

追加分原著 :

- 1) Maruyama Y¹⁾, Chambers JD¹⁾ (1) Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute (King's College London), Guy's and St Thomas Hospital) : Myocardial protection : efficacy of a novel magnesium-based cardioplegia (RS-C) compared to St Thomas Hospital cardioplegia solution. Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 2008 ; 7 (5) : 745-749.

追加分症例報告 :

- 1) 白川 真¹⁾, 井村 肇¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 鈴木大悟¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管外科) : 超音波補助下左室切開アプローチによる心尖部腫瘍摘出術. 胸部外科 2013 ; 66 (6) : 473-475.

著 書

追加分著書 :

- 1) 丸山雄二¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科) : [分担] 6 章 心臓血管後遺症 急性期 巨大冠動脈瘤 : 外科的療法. 川崎病のすべて (五十嵐隆, 石井正浩), 2015 ; pp156-159, 中山書店.
- 2) 丸山雄二¹⁾, 落 雅美¹⁾ (1) 日本医科大学 心臓血管外科) : [分担] 6 章 心臓血管後遺症 遠隔期 冠動脈バイパス術. 川崎病のすべて (五十嵐隆, 石井正浩), 2015 ; pp182-185, 中山書店.
- 3) Maruyama Y¹⁾, Ochi M¹⁾ (1) Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : [分担] Redo operation. Off-pump coronary artery bypass. (In : Asai T, Ochi M, Yokoyama H. editors.), 2016 ; pp163-174, Springer Japan.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) 高橋賢一朗, 上田仁美, 丸山雄二, 岡本淳一¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 井村 肇¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器外科)：冠動脈 3 枝病変・腹部大動脈瘤・進行性肺癌を併発し治療方針に苦慮した 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 170 回) (横浜市), 2016. 3.
- 2) 上田仁美, 丸山雄二, 高橋賢一朗, 井村 肇：好酸球増多症を伴う血栓弁による人工弁機能不全を繰り返した 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 170 回) (横浜市), 2016. 3.
- 3) Hiromoto A, Sakamoto S, Ishii Y, Morota T, Nitta T : Optimal lesion set for atrial fibrillation with aortic valve disease. Annual meeting of American Associates for Thoracic Surgery (Seattle, USA), 2015. 4.
- 4) 廣本敦之, 坂本俊一郎, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆：Optimal lesion set for atrial fibrillation with aortic valve disease. annual meeting of American Associates for Thoracic Surgery (98th) (Seattle, USA), 2015. 4.
- 5) 丸山雄二¹⁾, 青山純也¹⁾, 芝田匡史¹⁾, 網谷亮輔¹⁾, 鈴木大悟¹⁾, 田上素子¹⁾, 白川 真¹⁾, 佐々木孝¹⁾, 大森裕也¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 石井庸介¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾ (日本医科大学心臓血管外科)：川崎病冠動脈疾患に対する冠動脈バイパス術の遠隔成績. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第 20 回) (京都), 2015. 7.
- 6) 丸山雄二¹⁾, 落 雅美¹⁾, 白川 真¹⁾, 佐々木孝¹⁾, 大森裕也¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 石井庸介¹⁾, 師田哲郎¹⁾, 新田 隆¹⁾ (日本医科大学心臓血管外科)：川崎病成人例に対する冠動脈バイパス術. 日本小児循環器学会総会・学術集会 (第 51 回) (東京), 2015. 7.
- 7) Maruyama Y¹⁾, Chambers JD¹⁾ (Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute (King's College London), Guy's and St Thomas' Hospital) : Does ischemic postconditioning improve myocardial protection after conventional cardioplegia?. European Section of the International Society for Heart Research (The 28th Annual Meeting) (Athens, Greece), 2008. 5.
- 8) Maruyama Y¹⁾, Chambers JD¹⁾ (Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute (King's College London), Guy's and St Thomas' Hospital) : Myocardial protection : Efficacy of RS-C (Aqix), a novel magnesium-cardioplegia, compared to St Thomas' Hospital solution. European Section of the International Society for Heart Research (The 28th Annual Meeting) (Athens, Greece), 2008. 5.
- 9) 白川 真¹⁾, 落 雅美¹⁾, 新田 隆¹⁾, 井村 肇¹⁾, 大森裕也¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 田上素子¹⁾, 清水一雄²⁾ (日本医科大学附属病院心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学附属病院外科)：抗生剤治療で炎症所見が改善したにも関わらず経過中に弁破壊が進行した大動脈弁位感染性心内膜炎の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 209 回) (東京), 2008. 9.
- 10) 白川 真¹⁾, 落 雅美¹⁾, 新田 隆¹⁾, 井村 肇¹⁾, 藤井正大¹⁾, 大森裕也¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 廣本敦之¹⁾, 清水一雄²⁾ (日本医科大学附属病院心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学附属病院外科)：rGEA の使用法：in-situ graft 或いは RITA との composite graft. 日本冠疾患学会学術集会 (第 21 回) (京都), 2007. 12.
- 11) 白川 真¹⁾, 落 雅美¹⁾, 新田 隆¹⁾, 井村 肇¹⁾, 大森裕也¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 田上素子¹⁾, 清水一雄²⁾ (日本医科大学附属病院心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学附属病院外科)：多枝血行再建を必要とする CABG における rGEA の使用法. 日本冠疾患学会学術総会 (第 22 回) (東京), 2008. 12.
- 12) 白川 真¹⁾, 落 雅美¹⁾, 新田 隆¹⁾, 井村 肇¹⁾, 大森裕也¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 渡辺嘉之¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 廣本敦之¹⁾, 吉尾敬秀¹⁾ (日本医科大学附属病院心臓血管外科)：CABG における rGEA graft の新しいデザイン (I-composite ITA-rGEA graft). 日本胸部外科学会学術集会 (第 63 回) (大阪), 2010. 10.
- 13) 白川 真¹⁾, 井村 肇²⁾, 新田 隆¹⁾ (日本医科大学附属病院心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管外科)：未熟心筋の虚血再灌流傷害に対する MPTP-inhibitor の効果. 日本胸部外科学会学術集会 (第 67 回) (福岡), 2014. 10.
- 14) 白川 真¹⁾ (日本医科大学附属病院心臓血管外科)：腹部大動脈瘤人工血管置換術後約 6 年で発症した感染経路不明の人工血管感染の 1 例. 日本外科系連合学会学術集会 (第 40 回) (東京), 2015. 6.

18. 呼吸器外科学分野

[付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ibi T, Usuda J, Inoue T, Sato A, Takegahara K : Klotho expression is correlated to molecules associated with epithelial-mesenchymal transition in lung squamous cell carcinoma. *Oncology Letters*.

(2) 総説：

- 1) Kyoshiro T, Usuda J, Inoue T, Ibi T, Sato A : Preoperative management using inhalation therapy for pulmonary complications in lung cancer patients with chronic obstructive pulmonary disease. *General Thoracic and Cardiovascular Surgery* 2017.
- 2) Nakamura K, Ukawa S, Okada E, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Ninomiya T, Muto K, Kiyohara Y, Matsuda K, Kamatani Y, Kubo M, Nakamura Y, Biobank Japan Cooperative Hospital Group, Tamakoshi A : Characteristics and prognosis of Japanese male and female lung cancer patients : The BioBank Japan Project. *J Epidemiol.* 2017 ; 27 (3S) : S49-S57.
- 3) Kokuho N, Terasaki Y, Urushiyama H, Terasaki M, Kunugi S, Morimoto T, Azuma A, Usuda J, Gemma A, Eishi Y, Shimizu A : Pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma associated with pulmonary sarcoidosis : a case report and literature review. *Hum Pathol.* 2016 ; 51 : 57-63.

(3) Short Communication :

- 1) Hirai K¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Usuda J²⁾ (1) Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Division of Thoracic Surgery, 2) Nippon Medical School, Division of Thoracic Surgery) : Surgical Strategy and Treatment for the Prevalence of the Post-Thoractomy Pain Syndrome. *Biochemistry & Analytical Biochemistry* 2016 ; 5 (1).

著書

- 1) 白田実男：〔共著〕IV 腫瘍 A. 診断 小さなすりガラス陰影が見つかった場合，診断と治療をどうするか？. EBM 呼吸器疾患の治療（監修）永井厚志（編集）一ノ瀬正和，井上義一，館田一博，弦間昭彦，2016；pp354-358，中外医学社.
- 2) 井上達哉，白田実男：〔分担〕III 呼吸器疾患の治療手技7. 気道狭窄治療：レーザー治療とステント治療. 呼吸器疾患最新の治療2016-2018（杉山幸比古・角田淳一・弦間昭彦），2016；pp129-131，南江堂.
- 3) 白田実男：〔分担〕III 代表的なレーザー治療の原理と注意事項⑥光線力学治療. レーザー医療の基礎と安全（日本レーザー医学会安全教育委員会），2016；pp67-71，アトムス.
- 4) 岡 潔¹⁾，関 健史²⁾，白田実男，重富洋志³⁾，小林 浩³⁾ (1) (国研) 量子科学技術研究開発機構，2) 秋田大学，3) 奈良県立医科大学)：〔共著〕複合型光ファイバーの医療応用“1本の光ファイバーで映像とレーザー光を同時に伝送できる”という特徴を持つ光ファイバーを用いた医療機器の開発. 「光アライアンス」第27巻第10号，2016；pp40-44，日本工業出版.
- 5) Furukawa K¹⁾，Kato Y¹⁾，Usuda J，Kato H²⁾ (1) Tokyo Medical University, 2) Niizashiki General Hospital)：〔共著〕Present Status of Photodynamic Therapy for Lung Cancer in Japan. *Photodynamic Medicine From Bench to Clinic* (Herwig Kostron and Tayyaba Hasan)；pp407-420, ROYAL SOCIETY OF CHEMISTRY.
- 6) 白田実男：〔分担〕胸骨正中切開下での気管分岐部露出のコツ. *胸部外科*，2017；pp15-15，南江堂.
- 7) 竹ヶ原京志郎，佐藤 明，揖斐孝之，井上達哉，白田実男：〔共著〕硬性気管支鏡下に切除した肝癌気管腔内転移の1例. *気管支学*，2017；pp146-149，日本呼吸器内視鏡学会.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 白田実男，井上達哉，揖斐孝之，蓮実健太：肺がんにおける Photodynamic therapy の進歩. 日本臨床プロテオーム研究会（第12回）（東京都文京区），2016. 5.
- 2) 白田実男，井上達哉，揖斐孝之，蓮実健太：臨床病期 IIIA 期（N2）非小細胞肺癌に対する外科治療戦略. 日本臨床外科学会総会（第78回）（東京都），2016. 11.
- 3) Jitsuo U, Tatsuya I, Takayuki I, Kenta H : Photodynamic therapy for peripheral lung cancer using composite-type optical fiberscope of 1.0 mm in diameter. *IASLC WORLD CONFERENCE ON LUNG CANCER (17th)* (Vienna,Austria), 2016. 12.
- 4) Hirai K¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Usuda J²⁾ (1) Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Division of Thoracic Surgery, 2) Nippon

Medical School, Division of Thoracic Surgery) : Short-term results of single-port VATS (SPVATS) for early lung cancer : Initial experience in Japan. 第 116 回日本外科学会定期学術集会 (大阪), 2016. 4.

(2) 招待講演 :

- 1) Hirai IK, Takeuchi IS, Usuda J¹⁾ (Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Division of Thoracic Surgery, ²⁾ Nippon Medical School, Division of Thoracic Surgery) : Single-Port VATS for Stage I Lung Cancer : the initial experience in Japan. 4th Asian Single Port VATS (ASPVS) (Taiwan (Taipei)), 2016. 4.
- 2) Hirai K¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Usuda J²⁾ (Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Division of Thoracic Surgery, ²⁾ Nippon Medical School, Division of Thoracic Surgery) : Establishing Uniportal VATS in Japan. 5th Asian single-port VATS symposium (ASPVS) (Shanghai), 2017. 3.
- 3) 平井恭二 (Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital 呼吸器外科) : 医療訴訟鑑定書作成を経験して. 平成 28 年度千葉地裁医療訴訟ガイダンス (千葉), 2017. 3.
- 4) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 白田実男²⁾ (Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital 呼吸器外科, ²⁾ Nippon Medical School 附属病院 呼吸器外科) : 呼吸器疾患に対する単孔式胸腔鏡手術の実際 : 特に早期肺癌の治療成績について. 第 4 回鹿児島呼吸器外科・気胸セミナー (鹿児島), 2017. 1.

(3) 教育講演 :

- 1) 白田実男, 井上達哉, 揖斐孝之, 蓮実健太 : 肺癌治療におけるレーザー治療の現況. 日本呼吸器内視鏡学会学術集会 (第 39 回) (愛知県名古屋市), 2016. 6.

(4) シンポジウム :

- 1) 白田実男, 井上達哉, 揖斐孝之, 蓮実健太 : アンチエイジング遺伝子 Klotho 発現によるがん個別化療法への道. 日本癌病態治療研究会 (第 25 回) (千葉県千葉市), 2016. 6.
- 2) 井上達哉, 揖斐孝之, 蓮実健太, 佐藤 明, 白田実男 : 末梢肺癌に対する光線力学治療に関する臨床研究・・・当院での経験. 日本レーザー医学会総会 (第 37 回) (北海道旭川), 2016. 10.

(5) ワークショップ :

- 1) 平井恭二, 竹内真吾, 白田実男 : 呼吸器外科領域における Single port video-assisted thoracic surgery (SPVATS) の有用性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府大阪市), 2016. 4.
- 2) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 白田実男²⁾ (Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital 呼吸器外科, ²⁾ Nippon Medical School 附属病院 呼吸器外科) : 当科での縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下手術の工夫. 第 78 回日本臨床外科学会総会 (東京), 2016. 11.
- 3) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 白田実男²⁾ (Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital 呼吸器外科, ²⁾ Nippon Medical School 附属病院 呼吸器外科) : 当科での肺癌に対する単孔式胸腔鏡下解剖学的肺切除の経験とコツ. 第 29 回 日本内視鏡外科学会総会 (横浜), 2016. 12.

(6) ポスター :

- 1) 揖斐孝之, 佐藤 明, 竹ヶ原京志郎, 井上達哉, 石角太郎, 白田実男 : 冠動脈ステント留置患者の肺癌周術期における心イベント発症に関する検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府大阪市), 2016. 4.
- 2) 竹内真吾, 平井恭二, 白田実男 : 気胸患者に対する電動式低圧吸引器 (Thopaz) の初期使用経験と有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府大阪市), 2016. 4.
- 3) 平田知巳¹⁾, 吉野直之¹⁾, 竹内千枝¹⁾, 白田実男 (Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital 呼吸器外科) : EGFR 遺伝子変異の術後再発リスク因子か?. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府大阪市), 2016. 4.
- 4) 揖斐孝之, 佐藤 明, 竹ヶ原京志郎, 井上達哉, 石角太郎, 白田実男 : Modified Glasgow Prognostic Score は肺癌手術症例において術後合併症の予測因子となるのか?. 日本呼吸器外科学会 (第 33 回) (京都府京都市), 2016. 5.
- 5) Usuda J, Inoue T, Ibi T, Hasumi K : Photodynamic therapy (PDT) for lung cancers at peripheral parenchyma of the lung. 19th WCBIP/WCBE World Congress (Florence (Italy)), 2016. 5.
- 6) 竹ヶ原京志郎¹⁾, 佐藤 明¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 井上達哉¹⁾, 石角太郎¹⁾, 寺崎泰弘²⁾, 清水 章²⁾, 平田知巳³⁾, 白田実男¹⁾ (Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital 呼吸器外科, ²⁾ Nippon Medical School 大学院解析人体病理学, ³⁾ Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital 呼吸器外科) : 硬性鏡下腫瘍摘出後に二期的に手術を施行した, DIPNECH を伴う atypical carcinoid の 1 例. 日本呼吸器内視鏡学会学術集会 (第 39 回) (愛知県名古屋市), 2016. 6.
- 7) Inouue T : A new strategy for preoperative management of lung cancer patients with COPD. 19th WCBIP/WCBE World Congress (Florence (Italy)), 2016. 5.

(7) 一般講演 :

- 1) 竹内真吾¹⁾, 平井恭二¹⁾, 白田実男²⁾ (Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital 呼吸器外科, ²⁾ Nippon Medical School 附属病院 呼吸器外科) : ステロイド投与により寛解が得られた再発性重症筋無力症合併胸腺腫の 1 例. 日本呼吸器外科学会 (第 33 回) (京都府京都市), 2016. 5.

- 2) 揖斐孝之, 蓮実健太, 井上達哉, 白田実男: 肺癌周術期成績に対する肺拡散能の検討. 日本肺癌学会学術集会 (第 57 回) (福岡県), 2016. 12.
- 3) 竹ヶ原京志郎, 吉野直之, 白田実男: 術後再発に対し, 化学放射線療法が奏効した肺多形癌の 1 例. 日本肺癌学会学術集会 (第 57 回) (福岡県), 2016. 12.
- 4) Kyoshiro T, Naoyuki Y, Jitsuo U: Preoperative Managements for Pulmonary Complications Using Inhalations in Lung Cancer Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease. IASLC WORLD CONFERENCE ON LUNG CANCER (17th) (Vienna,Austria), 2016. 12.
- 5) Takayuki I, Jitsuo U, Tatsuya I, Kenta H: Klotho Regulates Epithelial-Mesenchymal Transition in Lung Squamous Cell Carcinoma. IASLC WORLD CONFERENCE ON LUNG CANCER (17th) (Vienna,Austria), 2016. 12.
- 6) 竹ヶ原京志郎, 吉野直之, 白田実男: 周術期呼吸器合併症予防に関する検討. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 69 回) (岡山県岡山市), 2016. 9.
- 7) 竹ヶ原京志郎, 吉野直之, 白田実男: Birt-Hogg-Dube 症候群に伴う反復性気胸に対し, 両側手術を施工した 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 173 回) (東京都千代田区), 2017. 3.
- 8) 大野弘貴¹⁾, 岡本淳一¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 白田実男 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器外科): 術直前に経皮的異常血管塞栓術を行い, 下葉切除術を施工した肺葉内肺分画症の 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 173 回) (東京都千代田区), 2017. 3.
- 9) 井上達哉, 蓮実健太, 揖斐孝之, 白田実男: 胸郭頂部の腫瘍に対する手術アプローチの工夫. 日本呼吸器外科医会冬季学術集会 (第 26 回) (長野県茅野市), 2017. 2.
- 10) 大野弘貴¹⁾, 岡本淳一¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 白田実男 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器外科): 術直前に経皮的異常血管塞栓術を行い, 下葉切除術を施工した肺葉内肺分画症の 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 173 回) (東京都千代田区), 2017. 3.
- 11) 中村佑介¹⁾, 蓮実健太, 揖斐孝之, 井上達哉, 白田実男 (¹⁾ 日本医科大学 医学部 医学科 第 5 年生): 大動脈浸潤肺癌に対して左上葉切除/大動脈合併切除を施行した 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 173 回) (東京都千代田区), 2017. 3.
- 12) 揖斐孝之, 白田実男, 井上達哉, 佐藤 明: 右中下葉切除後に気管支断端瘻を発症した 1 手術例. 文京区呼吸器外科研究会 (第 30 回), 2017. 2.
- 13) Hirai K¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Usuda J²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Divison of Thoracic Surgery, ²⁾ Nippon Medical School, Division of Thoracic Surgery): A propensity-matched study of multi-port vs single-port video-assisted thoracoscopic surgery for early lung cancer. 17th IASLC World CONFERENCE (Wienn), 2016. 12.
- 14) Hirai K¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Usuda J²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Divison of thoracic surgery, ²⁾ Nippon Medical School, Division of thoracic surgery): Treatment outcomes of anatomical lung resection in single-port VATS (SPVATS) for stage I lung cancer. 16th International Society of Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery (Canada (Montreal)), 2016. 6.
- 15) Hirai K¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Usuda J²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Divison of Thoracic Surgery, ²⁾ Nippon Medical School, Division of Thoracic Surgery): 4-Year Experience on 185 cases Undergoing Single-Port Video-Assisted Thoracoscopic Surgery (SPVATS): Japanese experience. International Society of Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery Winter Workshop (Kyoto), 2016. 10.
- 16) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 白田実男²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科): 臨床病期 I 肺癌に対する単孔式胸腔鏡手術 (Single-Port VATS: SPVATS) の妥当性について. 第 69 回日本胸部外科学会定期学術集会 (岡山), 2016. 9.
- 17) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 白田実男²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科): 胸腺疾患に対する胸腔鏡下手術 (VATS) の有効性の検討. 第 69 回日本胸部外科学会定期学術集会 (岡山), 2016. 9.
- 18) 金本泳秀¹⁾, 井上達哉²⁾, 蓮実健太²⁾, 揖斐孝之²⁾, 白田実男²⁾ (¹⁾ 日本医科大学, ²⁾ 日本医科大学附属病院 呼吸器外科): 化学放射線療法後に Transmanubrial approach (TMA) を加えて切除した右肺尖部浸潤肺癌の一切除例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 172 回) (東京), 2016. 11.
- 19) 蓮実健太, 揖斐孝之, 井上達哉, 白田実男: 大動脈浸潤肺癌に対して左上葉切除/大動脈合併切除を施行した 1 例. 文京区呼吸器外科研究会 (第 29 回) (東京都文京区), 2016. 10.
- 20) 井上達哉, 蓮実健太, 揖斐孝之, 佐藤 明, 白田実男: 術前化学放射線療法施工後, 前方アプローチにより摘出した肺尖部浸潤肺癌の検討. 文京区呼吸器外科研究会 (第 29 回) (東京都文京区), 2016. 10.
- 21) Hirai K¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Usuda J²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Divison of thoracic surgery, ²⁾ Nippon Medical School, Division of thoracic surgery): The knack of single-port VATS lobectomy. 第 3 回単孔式胸腔鏡ワークショップ (横浜), 2016. 12.
- 22) Inoue T, Usuda J, Ibi T, Hasumi K: A new strategy for preoperative management of lung cancer patients with COPD. WCBIP

- (19th) (Florence,Italy), 2016. 5.
- 23) Ibi T, Usuda J, Inoue T, Hasumi K : Klotho Regulates Epithelial-Mesenchymal Transition in Lung Squamous Cell Carcinoma. IASLC (17th) (Vienna,Austria), 2016. 12.
- 24) Takegahara K¹⁾, Yoshino N¹⁾, Usuda J (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院) : Preoperative Managements for Pulmonary Complications Using Inhalations in Lung Cancer Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease. IASLC (17th) (Vienna,Austria), 2016. 12.
- 25) Usuda J, Inoue T, Ibi T, Sato A, Hasumi K : Photodynamic therapy for peripheral lung cancer using composite-type optical fiberscope of 1.0mm in diameter. IASLC (17th) (Vienna, Austria), 2016. 12.
- 26) 竹ヶ原京志郎¹⁾, 吉野直之¹⁾, 白田実男 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院) : COPD 合併肺癌手術症例における周術期呼吸器合併症予防に関する検討. 日本胸部外科学会 (第 69 回) (岡山県岡山市), 2016. 9.
- (8) ビデオセッション :
- 1) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 白田実男²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科) : 早期肺癌への単孔式胸腔鏡下肺葉切除に伴うリンパ節郭清について. 第 57 回日本肺癌学会総会 (福岡), 2016. 12.
- (9) 一般ビデオ :
- 1) Hirai K, Takeuchi S, Usuda J : Treatment outcomes of anatomical lung resection in single-port VATS (SPVATS) for stage I lung cancer. 日本呼吸器外科学会 (第 33 回) (京都府京都市), 2016. 5.
- (10) 一般口演 :
- 1) 平井恭二, 竹内真吾, 白田実男 : 当科でのでのプタ摘出心肺標本を利用した呼吸器外科トレーニングの実際. 日本呼吸器外科学会 (第 33 回) (京都府京都市), 2016. 5.
- (11) 一般示説 :
- 1) 平田知巳, 吉野直之, 竹内千枝, 白田実男 : 女性の原発性肺癌手術症例の検討. 日本呼吸器外科学会 (第 33 回) (京都府京都市), 2016. 5.
- 2) 吉野直之 : 遺伝子変異陽性患者の術後再発についての検討. 日本呼吸器外科学会 (第 33 回) (京都府京都市), 2016. 5.
- 3) 岡本淳一¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 白田実男 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器外科) : 肺癌術後間質性肺炎急性増悪を来した症例の転帰に関する検討. 日本呼吸器外科学会 (第 33 回) (京都府京都市), 2016. 5.
- 4) 竹内千枝¹⁾, 平田知巳¹⁾, 吉野直之¹⁾, 細根 勝²⁾, 新井 悟²⁾, 白田実男 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 病理部) : 縦隔内に発生した多房性の coelomic cyst の一手術例. 日本呼吸器外科学会 (第 33 回) (京都府京都市), 2016. 5.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Hirai K¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Usuda J²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Division of Thoracic Surgery, ²⁾ Nippon Medical School, Division of Thoracic Surgery) : Single-port video-assisted thoracic surgery for early lung cancer : initial experience in Japan. *Journal of Thoracic Disease* 2016.

追加分 Short Communication :

- 1) Hirai K¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Usuda J²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Division of Thoracic Surgery, ²⁾ Nippon Medical School, Division of Thoracic Surgery) : Prevention and Management of Postoperative Wound Pain after Thoracic Surgery. *J Pain Relief* 2016 ; 5 (2).

[武蔵小杉病院呼吸器外科]

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Okamoto J^{1, 2)}, Kubokura H^{1, 2)}, Usuda J²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学呼吸器外科) : Factors Determining the Choice of Surgical Procedure in Elderly Patients with Non-Small Cell Lung Cancer. *Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 2016 ; 22 (3) : 131-138.

(2) 症例報告：

- 1) 岡本淳^{1, 2)}, 北山康彦³⁾, 竹内千枝²⁾, 許田典男³⁾, 窪倉浩俊^{1, 2)}, 白田実男²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学呼吸器外科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理診断科) : 自然気胸術後病理組織検査で偶然発見された pTis 肺癌の 2 症例. 日本医科大学医学会雑誌 2015 ; 11 (3) : 161-166.

著 書

- 1) 窪倉浩俊¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器外科) : [分担] 膿胸との鑑別を要した胸膜発生肉腫の 1 例. Cancer Board Square, 2016 ; pp1-11, 医学書院.

19. 脳神経外科学分野

[付属病院脳神経外科]

研究概要

当教室の基礎臨床研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、脊椎脊髄、機能外科の5つに分かれている。また、治療を主体とした横断的なグループとしては、頭蓋底外科治療、血管内治療、神経内視鏡、集学的脳腫瘍治療、脳血管外科・バイパス手術のグループが活動している。また視機能再建をめざす機能再建の基礎動物研究をシステム生理学金田教授グループと開始している。多くの多施設共同研究にも参画している。また脳腫瘍分野では基礎研究も行っており、海外からの研究者の学位論文も出すことができた。脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも、教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助教以上には科研費応募を義務としている。海外への論文投稿、学会報告を奨励し、多くの欧米誌への掲載がなされた。当科はすでに国内では脳腫瘍や血管障害、脊髄の領域における全国的にも有名な医師が在籍しているが、さらに臨床・研究活動を広げ、一人でも多くの科学的思考力を有する臨床力をもった脳神経外科医を教室一丸となって輩出し、日本の脳神経外科学の土台を担える教室として発展したい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ju D^{1,2)}, Yamaguchi F²⁾, Zhan G²⁾, Higuchi T²⁾, Asakura T²⁾, Morita A²⁾, Orimo H³⁾, Hu S¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, The Second Affiliated Hospital of Harbin Medical University, Harbin, 150086, China., 2) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8603, Japan., 3) Division of Metabolism and Nutrition, Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-86) : Hyperthermotherapy enhances antitumor effect of 5-aminolevulinic acid-mediated sonodynamic therapy with activation of caspase-dependent apoptotic pathway in human glioma. *Tumour Biol.* 2016 ; 37 (8) : 10415-10426.
- 2) 山口文雄¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科) : 悪性グリオーマに対する5-ALA音響力学療法. *癌と化学療法* 2016 ; 43 (6) : 702-705.
- 3) Hattori Y, Ishii H, Munetomo A, Watanabe H, Morita A, Sakuma Y, Ozawa H : Human C-terminally truncated ER α variants resulting from the use of alternative exons in the ligand-binding domain. *Mol Cell Endocrinol.* 2016 ; 15 (425) : 111-122.
- 4) Matano F, Murai Y, Tanikawa R, Kamiyama H, Tateyama K, Tamaki T, Mizunari T, Mizumura S, Kobayashi S, Teramoto A, Morita A : Intraoperative middle cerebral artery pressure measurements during superficial temporal artery to middle cerebral artery bypass procedures in patients with cerebral atherosclerotic disease. *J Neurosurg.* 2016 ; 125 (6) : 1367-1373.
- 5) Matano F, Murai Y, Tateyama K, Tamaki T, Mizunari T, Matsukawa H, Teramoto A, Morita A : Long-term patency of superficial temporal artery to middle cerebral artery bypass for cerebral atherosclerotic disease : factors determining the bypass patent. *Neurosurg Rev.* 2016 ; 39 (4) : 655-661.
- 6) Kokubo R, Kim K, Isu T, Morimoto D, Iwamoto N, Kobayashi S, Morita A : The Impact of Tarsal Tunnel Syndrome on Cold Sensation in the Pedal Extremities. *World Neurosurg.* 2016 ; 92 : 249-254.
- 7) Kokubo R, Kim K, Isu T, Morimoto D, Iwamoto N, Kobayashi S, Morita A : Superior cluneal nerve entrapment neuropathy and gluteus medius muscle pain : Their effect on very old patients with low back pain. *World Neurosurg.* 2017 ; 98 : 132-139.
- 8) Murai Y, Nakagawa S, Matano F, Shirokane K, Teramoto A, Morita A : The feasibility of detecting cerebral blood flow direction using the Indocyanine green video angiography. *Neurosurg Rev.* 2016 ; 39 (4) : 685-690.
- 9) Matano F, Murai Y, Mizunari T, Tamaki T, Tateyama K, Koketsu K, Tanikawa R, Kamiyama H, Kobayashi S, Morita A : Recovery of visual and ophthalmologic symptoms after treating large or giant internal carotid artery aneurysm by high-flow bypass with cervical ligation. *World Neurosurg.* 2016 ; 24.
- 10) 田原重志, 森田明夫 : 脳下垂体腺腫の診断と治療 : 特集 脳腫瘍. *診断と治療 ライフライン 21 がんの先進医療* 2016 ; 20 : 22-25.
- 11) Kim K, Isu T, Emoto N, Kokubo R, Morimoto D, Iwamoto N, Kobayashi S, Morita A : Prospective Study of the Causes of Limb Numbness in Patients with Diabetes. *No Shinkei Geka.* 2016 ; 44 (4) : 297-303.
- 12) Kim K, Isu T, Chiba Y, Iwamoto N, Morimoto D : Decompression of the gluteus medius muscle as a new treatment for buttock pain : technical note. *Eur Spine J* 2016 ; 25 (4) : 1282-1288.
- 13) Shibahashi K, Doi T, Tanaka S, Hoda H, Chikuda H, Sawada Y, Takasu Y, Chiba K, Nozaki T, Hamabe Y, Ogata T : The Serum Phosphorylated Neurofilament Heavy Subunit as a Predictive Marker for Outcome in Adult Patients after Traumatic Brain

- Injury. Journal of Neurotrauma 2016 ; 33 (20) : 1826-1833.
- 14) 喜多村孝幸：特発性正常圧水頭症. 認知症 MOOK 2016 2016 ; 2017777.
 - 15) 喜多村孝幸：脳腫瘍による頭痛. 小児内科 2016 ; 48 (8) : 1188-1190.
 - 16) 喜多村孝幸：閃輝暗点. 安心 2016 ; 34 (12) : 156-160.
 - 17) 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫, 高橋 弘：1H-MRS で大きな lipid ピークを認めた van der Knaap 病. 小児の脳神経 2016 ; 40 (2) : 189-190.
 - 18) 山口文雄：V. 悪性グリオーマに対する 5-ALA 音響力学療法 Current Organ Topics : 脳腫瘍：グリオーマ 癌と化学療法. Jpn J Cancer Chemother 2016 ; 43 : 702-705.
 - 19) 木暮一成, 玉置智規, 太組一朗, 山崎道生, 野手洋治, 森田明夫：1 椎間頸椎前方固定術における習慣的ドレーン留置の不要性. 日医大医会誌 2016 ; 12 (1) : 34.
 - 20) 村井保夫, 森田明夫：未破裂脳動脈瘤への対処 Clipping か Coiling か, 経過観察か?. 動脈硬化予防 2016 ; 15 (1) : 67-71.
 - 21) 金 景成, 井須豊彦, 江本直也, 國保倫子, 森本大二郎, 岩本直高, 小林士郎, 森田明夫：糖尿病患者にみられたしびれの原因に関する前向き検討. 脳神経外科 2016 ; 44 (4) : 297-303.
 - 22) 岩本直高, 井須豊彦, 金 景成, 山内朋裕, 森本大二郎, 千葉泰弘, 磯部正則：絞扼性総腓骨神経障害に対する局所麻酔下神経剥離術. 脳神経外科速報 2016 ; 26 (10) : 1109-1115.
- (2) 総説：
- 1) Morita A, Sora S, Nakatomi H, Harada K, Sugita N, Saito N, Mitsuishi M : Medical Engineering and Microneurosurgery : Application and Future. Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 ; 56 (10) : 641-652.
 - 2) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤をどうすべきか?. ASAHI Medical 2016 ; 45 (10) : 29-31.
 - 3) 太組一朗：てんかん発作中に意識が「飛んでしまう」発作の外科治療：手術で発作が治る側頭葉てんかんと複雑部分発作. 日本脳神経財団ニュースぶれいん 2016 ; 124 : 12-13.
 - 4) 田原重志, 森田明夫：脳下垂体腺腫の診断と治療：特集 脳腫瘍 診断と治療. ライフライン 21 がんの先進医療 2016 ; 20 : 22-25.
 - 5) 田原重志：下垂体腫瘍の内視鏡下手術. 日本医師会雑誌 2016 ; 144 (10) : 2102-2103.
 - 6) 村井保夫, 森田明夫：脳動脈瘤とバイパス術 (high flow bypass). 日本医事新報 No.4809 2016.
 - 7) 金 景成, 佐々木学, 川本俊樹, 小柳 泉：日本脊髄外科学会学術委員会 (ガイドライン作成委員会) 脊椎脊髄疾患の神経症状の評価方法に関する検討 臨床研究に用いられるスコアリングシステム. 脊髄外科 2016 ; 30 (1) : 41-52.
 - 8) 金 景成, 井須豊彦：上殿皮神経障害のレビュー. 脊髄外科 2016 ; 30 (2) : 141-145.
 - 9) 金 景成：若い世代も気をつけたい頸椎椎間板ヘルニア. 産経新聞情報誌<くらしの百科> 2016.
 - 10) 森本大二郎, 森田明夫：腰痛と末梢神経障害 (差分解説). 日本医事新報 2016 ; 4805.
- (3) 症例報告：
- 1) Murai Y, Ikeda Y, Morita A : A Letter by Murai et al Regarding Article, "Spot Sign in Acute Intracerebral Hemorrhage in Dynamic T1-Weighted Magnetic Resonance Imaging". Stroke. 2016 ; 47 (5) : e84.
 - 2) Murai Y, Matano F, Toda S, Kobayashi S, Morita A : An Irrigation Suction System Using a Pressurized Fluid High-Flow Pump System in Comparison with a Standard Cuff Pressure System : Technical Note. J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2016 ; 77 (3) : 264-268.
 - 3) Morimoto D, Isu T, Kim K, Isobe M, Takahashi T, Ishida Y, Takei H, Morita A : Surgical treatment for posttraumatic hemorrhage inside a filum terminale myxopapillary ependymoma : a case report and literature review. Eur Spine J. 2016 ; Suppl 1 : 239-244.
 - 4) Matano F, Mizunari T, Koketsu K, Fujiki Y, Kubota A, Kobayashi S, Murai Y, Morita A : Protection Device Made of a Modified Syringe for Muscle Protection During Cranial Perforation : Technical Note. World Neurosurg. 2016 ; 89 : 33-36.
 - 5) Kitamura T, Morimoto D, Kim K, Morita A : Peroneal nerve entrapment neuropathy induced by playing the drum. Acta Neurochir (Wien). 2016 ; 158 (5) : 967-968.
 - 6) Kitamura T, Murai Y, Shirokane K, Matano F, Kitamura T, Morita A : An Unruptured Aneurysm Coexisting with an Infundibular Dilatation : A Case Report. J Nippon Med Sch. 2016 ; 83 (6) : 268-271.
 - 7) 森本大二郎, 井須豊彦, 金 景成, 山崎和義, 岩本直高, 磯部正則, 森田明夫：非特異的腰痛に対して上臀皮神経の神経剥離術が有効であった1症例. Neurological Surgery 2016 ; 44 (2) : 155-160.
 - 8) 石坂栄太郎, 村井保夫, 喜多村孝幸, 中川俊祐, 白銀一貴, 増野 聡, 青木秀治, 森田明夫：前頭側頭開頭術後に鼓室内血腫による伝音性難聴を合併した症例. 脳卒中の外科 2016 ; 44 (3) : 229-234.

著書

- 1) 志村俊郎：〔分担〕明治期の私立医学校と『慶應義塾出身名流列傳』に見られた済生学舎長谷川泰。『学問のすゝめ』に学ぶ医学教育（平形道人・慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター），2016；pp91-108，慶應義塾大学出版会株式会社。
- 2) 森田明夫：〔編集〕脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；（株）メジカルビュー社。
- 3) 森田明夫¹⁾，伊達 勲²⁾，菊田健一郎³⁾（¹⁾日本医科大学大学院 脳神経外科学大学院教授，²⁾岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経外科学教授，³⁾福井大学医学部 脳脊髄神経外科教授）：〔編集〕新NS NOW No.6 痛みの手術 PAIN FREEへの扉（編集委員：森田明夫・伊達勲・菊田健一郎），2016；（株）メジカルビュー社。
- 4) 金 景成¹⁾，井須豊彦²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター，²⁾釧路ろうさい病院脳神経外科）：〔分担〕末梢神経 絞扼性神経障害に対する手術。新NS NOW No.6（森田明夫・伊達勲・菊田健一郎），2016；pp130-140，（株）メジカルビュー社。
- 5) 井須豊彦¹⁾，金 景成²⁾（¹⁾釧路ろうさい病院脳神経外科，²⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター）：〔分担〕シリーズわたしの手術記載①末梢神経の手術：上殿皮神経障害。新NS NOW No.6（森田明夫・伊達勲・菊田健一郎），2016；pp142-143，（株）メジカルビュー社。
- 6) 山口文雄¹⁾（¹⁾日本医科大学 脳神経外科）：〔分担〕転移性脳腫瘍：乳がんからの転移・特集：脳腫瘍—診断と治療 パート2。ライフライン 21 がんの先進医療 Vol.21（（株）露書房），2016；pp27-30，星雲社。
- 7) 山口文雄¹⁾，森田明夫¹⁾（¹⁾日本医科大学 脳神経外科）：〔分担〕テロメラーゼ逆転写酵素（TERT）プロモーター変異と神経膠腫発生機序・臨床各科 差分解説 脳神経外科。日本医事新報 N04815，2016；p47，日本医事新報社。
- 8) 山口文雄¹⁾，森田明夫¹⁾（¹⁾日本医科大学 脳神経外科）：〔分担〕グリオーマと脳梗塞・グリオーマの手術 IV 脳腫瘍の手術における合併症と対策。脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp264-268，（株）メジカルビュー社。
- 9) 石坂栄太郎¹⁾，樋口直司¹⁾，山口文雄¹⁾，森田明夫¹⁾（¹⁾日本医科大学 脳神経外科）：〔分担〕コンパクトモニタリング指標。新NS NOW Neurosurgery No.8 脳神経外科手術のコンパス—術中機能・画像情報モニタリングマニュアル（編集・森田明夫），2016；pp188-202，（株）メジカルビュー社。
- 10) 森田明夫：〔監修〕見てわかる！流れでわかる！脳神経外科レクチャー 適応疾患の理解から術中看護のポイントまで（監修 森田明夫 発行人 景山博之），2016；（株）学研メディカル秀潤社。
- 11) 森田明夫，石坂栄太郎，田原重志：〔分担〕第9章経鼻・経蝶形骨洞下垂体腫瘍摘出術 適応疾患：下垂体腫瘍。見てわかる！流れでわかる！脳神経外科レクチャー 適応疾患の理解から術中看護のポイントまで（監修 森田明夫 発行人 景山博之），2016；pp102-109，（株）学研メディカル秀潤社。
- 12) 森田明夫：〔編集〕新NS NOW No.8 脳神経外科手術のコンパス - 術中機能・画像情報モニタリングマニュアル（担当編集委員 森田明夫 編集委員 森田明夫，伊達 勲，菊田健一郎），2016；（株）メジカルビュー社。
- 13) 森田明夫：〔分担〕【1章 前大脳動脈瘤概論】<4>前大脳動脈瘤の疫学と特徴。前大脳動脈瘤・椎骨脳底動脈瘤（ACA・zVBA Aneurysm）のすべて（宝金清博（監修）井川房夫，宮地 茂（編）），2016；pp15-18，メディカ出版。
- 14) 森田明夫：〔分担〕M&Mカンファランスの勧め。脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp14-25，（株）メジカルビュー社。
- 15) 森田明夫：〔分担〕開頭，硬膜下出血，水頭症手術におけるM&Mの総括。脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp45-50，（株）メジカルビュー社。
- 16) 森田明夫：〔分担〕脳動脈瘤手術M&Mの総括。脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp204-208，（株）メジカルビュー社。
- 17) 森田明夫：〔分担〕虚血性脳血管障害の手術におけるM&Mと対策，総括。脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp254-257，（株）メジカルビュー社。
- 18) 森田明夫：〔分担〕脳腫瘍の手術におけるM&M。脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp362-365，（株）メジカルビュー社。
- 19) 森田明夫：〔分担〕内視鏡手術の合併症と対策，総括。脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp397-398，（株）メジカルビュー社。
- 20) 森田明夫：〔分担〕合併症対応の社会的側面。脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp492-499，（株）メジカルビュー社。
- 21) 森田明夫，森本大二郎，村井保夫：〔共著〕脳神経外科手術の合併症の集計と対策。脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp500-503，（株）メジカルビュー社。
- 22) 森田明夫：〔分担〕総括 医療安全のためのM&Mと失敗学。脳神経外科 M&Mカンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp504-505，（株）メジカルビュー社。
- 23) Yoshida D, Teramoto A, Morita A：〔分担〕Gender difference in prolactinomas : A comparative clinicopathological study. Pituit-

- ary adenoma, pathophysiology, diagnosis and treatment options. NOVA Bioedical Science (DN kanakis ed) ; pp123-133.
- 24) 田原重志：〔分担〕I 脳神経外科・頭頸部外科領域 内視鏡併用下垂体切除術：外科医からの要望。最先端手術の麻酔管理，2016；克誠堂出版。
 - 25) 田原重志，森田明夫：〔共著〕内視鏡下手術の合併症と対策 経鼻の手術後のくも膜下出血。脳神経外科 M&M カンファランス（監修 寶金清博，編集 森田明夫），2016；pp383-390，（株）メジカルビュー社。
 - 26) 村井保夫：〔分担〕抗血小板薬。脳神経外科診療プラクティス 8 脳神経外科医が知っておきたい薬物治療の考え方と実際（編集 清水宏明），2016；pp244-246，文光堂。
 - 27) 金 景成：〔分担〕末梢神経障害の疫学・診断・治療・手術。超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術，2016；pp2-8，メディカ出版。
 - 28) 金 景成，山内朋裕：〔分担〕肩甲上神経障害。超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術，2016；pp63-65，メディカ出版。
 - 29) 金 景成：〔分担〕上殿皮神経障害の診断のポイント。超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術，2016；pp68-70，メディカ出版。
 - 30) 金 景成：〔分担〕中殿筋障害の診断のポイント。超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術，2016；pp86-88，メディカ出版。
 - 31) 金 景成：〔分担〕足根管症候群の診断のポイント。超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術，2016；pp123-125，メディカ出版。
 - 32) 金 景成：〔分担〕足根管症候群の手術法。超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術，2016；pp126-133，メディカ出版。
 - 33) 村井保夫：〔分担〕脳神経外科 M&M カンファランス（監修：寶金清博，編集：森田明夫），2016；（株）メジカルビュー社。
 - 34) 梅岡克哉：〔分担〕脳神経外科 M&M カンファランス（監修：寶金清博，編集：森田明夫），2016；（株）メジカルビュー社。
 - 35) 佐藤 俊：〔分担〕頸動脈ステント留置術（CAS）の多様化。日本医事新報 No 4802，2016；p56，日本医事新報社。
 - 36) 佐藤 俊：〔自著〕起立性頭痛の有無に着目：SIH 合併の SDH。Medical Tribune 49（43），2016；p6，株式会社メディカルトリビューン。
 - 37) 佐藤 俊：〔自著〕「患者を生きる」脳脊髄液減少症 1,2,3,4。朝日新聞，2016。
 - 38) 森本大二郎：〔分担〕脊髄手術の合併症と対策：頸椎術後 C5 麻痺の 1 例。脳神経外科 M&M カンファランス（監修：寶金清博，編集：森田明夫），2016；pp405-409，（株）メジカルビュー社。
 - 39) 森本大二郎，金 景成，井須豊彦：〔分担〕末梢神経のモニタリング：脳神経外科手術のコンパス。新 NS NOW 8，2016；pp178-186，メジカルビュー社。
 - 40) 森本大二郎：〔分担〕豆知識 1；上部絞扼性正中神経障害。超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術（監修：寶金清博，編集：森田明夫），2016；pp32-33，メディカ出版。
 - 41) 森本大二郎：〔分担〕上肢末梢神経障害の診断・手術 2 肘部尺骨神経障害。超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術，2016；pp34-36，メディカ出版。
 - 42) 國保倫子，金 景成，井須豊彦：〔分担〕突然の片麻痺にて発症した頸椎硬膜外血腫。脳卒中症候学 症例編 診療の深みを理解する，2016；pp671-673，西村書店。
 - 43) 國保倫子：〔分担〕2 上肢末梢神経障害の診断・手術 1 手根管症候群 A 診断のポイント。脳神経外科医，整形外科医，ペインクリニック医のための超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術，2016；pp16-18，メディカ出版。
 - 44) 國保倫子：〔分担〕2 上肢末梢神経障害の診断・手術 1 手根管症候群 C 局所麻酔下での手根管開放術：われわれの手術法。脳神経外科医，整形外科医，ペインクリニック医のための超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術，2016；pp25-31，メディカ出版。
 - 45) 亦野文宏：〔分担〕脳神経外科 M&M カンファランス（監修：寶金清博，編集：森田明夫），2016；（株）メジカルビュー社。
 - 46) 白銀一貴：〔分担〕III 脳血管障害の手術における合併症と対策 出血部位の判断，くも膜下出血での出血部位判断の合併症と対策。脳神経外科 M&M カンファランス（監修：寶金清博，編集：森田明夫），2016；（株）メジカルビュー社。
 - 47) 石坂栄太郎，野山明子，田原重志，森田明夫：〔共著〕経鼻・経蝶形骨洞下垂体腫瘍摘出術 適応疾患：下垂体腫瘍。見てわかる！流れでわかる！脳神経外科手術レクチャー，2016；pp102-109，学研メディカル秀潤社。
 - 48) 井須豊彦，金 景成：〔編著〕超入門 手術で治すしびれと痛み 絞扼性末梢神経障害の診断・手術，2016；メディカ出版。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Morita A, Brown R, Bijlenga P : Unruptured Cerebral Aneurysm and SAH CDE Project. Fourth Neurocritical Care Research

- Conference (Houston, TX, USA), 2016. 5.
- 2) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤の課題：UCAS とその後. 久留米大学脳神経外科学講座開講記念講演会（第46回）（久留米），2016. 11.
 - 3) 森田明夫：調理と脳神経外科. 南十字星脳神経外科手術研究会（第9回）（宮古島），2016. 7.
 - 4) Morita A, Brown R, Bijlenga P : Subject Characteristics on Subarachnoid hemorrhage. Clinical Data Elements. 4th Neurocritical Care Research Conference Subarachnoid Hemorrhage (Houston, TX, USA), 2016. 5.
 - 5) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤の対応と課題. 兵庫県脳神経外科医懇話会（第46回），2016. 7.
 - 6) 小林士郎：脳卒中を予防しよう：脳卒中を知り，生活習慣を見直すために. 栄町まちづくり大学公開講座 いつまでも元気に暮らすために～専門医から学ぶ，2016. 8.
- (2) 招待講演：
- 1) Yamaguchi F¹⁾ (1)Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, JAPAN) : Therapeutic Strategy for Glioma – pearls and pitfalls –. The 3rd International Neurosurgery Summit Forum (INSF2016) (Tokyo, Japan), 2016. 9.
- (3) 教育講演：
- 1) Yamaguchi F¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, JAPAN) : “Pile driving” technique for the identification of eloquent brain regions. HONG KONG SURGICAL FORUM-SPRING 2016 (Cheung Kung Hai Conference Centre, LKS Faculty of Medicine, HKU, Hong Kong), 2016. 4.
 - 2) Yamaguchi F¹⁾ (1)Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, JAPAN) : Photodynamic diagnosis in brain tumour surgery. HONG KONG SURGICAL FORUM-SPRING 2016 (Cheung Kung Hai Conference Centre, LKS Faculty of Medicine, HKU, Hong Kong), 2016. 4.
 - 3) Yamaguchi F¹⁾ (1)Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, JAPAN) : Photodynamic diagnosis in brain tumour surgery. SHENZHEN SURGICAL FORUM-SPRING 2016 (Lecture Theatre, HKU-SZ Hospital, No1 Hai Yuan Yi Lu, Futian District, Shenzhen, China), 2016. 4.
 - 4) Morita A : IC-cavernous aneurysm failed coil embolization : High flow bypass surgery NMS style. 2016 AASNS CME Course-3D Lecture of Surgical Approaches (Seoul,Korea), 2016. 8.
 - 5) Morita A : Giant MCA aneurysm : Low flow bypass and aneurysm surgery. 2016 AASNS CME Course-3D Lecture of Surgical Approaches (Seoul,Korea), 2016. 8.
 - 6) Morita A : Clivus meningioma : Endonasal surgery. 2016 AASNS CME Course-3D Lecture of Surgical Approaches (Seoul,Korea), 2016. 8.
 - 7) 森田明夫, 村井保夫, 富成伸次郎, 中山健夫：日本における未破裂脳動脈瘤の治療ガイドライン. 日本脳卒中学会総会（第41回）（札幌），2016. 4.
 - 8) Yamaguchi F : Pile driving” technique for the identification of eloquent brain regions. HONG KONG SURGICAL FORUM-SPRING 2016 (HONG KONG), 2016. 4.
 - 9) Yamaguchi F : Photodynamic diagnosis in brain tumour surgery. HONG KONG SURGICAL FORUM-SPRING 2016 (HONG KONG), 2016. 4.
 - 10) Yamaguchi F : Photodynamic diagnosis in brain tumour surgery. SHENZHEN SURGICAL FORUM-SPRING 2016 (SHENZHEN), 2016. 4.
 - 11) 田原重志：内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術の基本. 日本脳神経外科コンgres総会（第36回），2016. 5.
 - 12) 田原重志：院内での隠れた症例を発見するために. 文京間脳下垂体疾患カンファレンス（第2回），2016. 6.
 - 13) 田原重志：Acromegaly に対する治療：一般症例から難治症例まで. 文京間脳下垂体疾患カンファレンス（第2回），2016. 6.
 - 14) 金 景成：末梢神経. 脊髄外科教育セミナー（第14回），2016. 6.
 - 15) 金 景成：脊髄・脊椎疾患. 日本脳神経財団主催 第33回脳神経外科生涯教育研修会，2016. 6.
 - 16) 金 景成：末梢神経 講義及び実技指導. 愛知頭蓋底脊椎手術手技ワークショップ（第21回），2016. 7.
 - 17) 水成隆之, 亦野文宏, 久保田麻紗美, 玉置智規, 村井保夫, 立山幸次郎, 瀬瀬健太, 山田敏雅, 小林士郎, 森田明夫：Trainer の立場から②：今の時代だからこそ強調したい開頭による前方循環脳動脈瘤手術の注意点. The Mt. Fuji Workshop on CVD（第35回），2016. 8.
 - 18) 森田明夫：脳腫瘍手術における血管障害とその対応. 日本脳腫瘍の外科学会（第21回），2016. 9.
 - 19) 田原重志：先端巨大症に対する集学的治療. 日本神経内視鏡学会（第23回），2016. 11.
- (4) シンポジウム：
- 1) 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科学)：日本人における未破裂脳動脈瘤の破裂リスク予測モデルの構築. STROKE2016 (北海道)，2016. 4.
 - 2) 立山幸次郎 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科)：Transcondylar approach による椎骨動脈瘤手術，OA-PICA 吻合術の基

本術式とピットフォール. STROKE2016 (北海道), 2016. 4.

- 3) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 岩本直高²⁾, 山内朋裕²⁾, 森本大二郎³⁾, 國保倫子¹⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫³⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院 脳神経センター, 2) 釧路労災病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学 脳神経外科): 難治性腰痛に対する新たな外科治療の試み. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
 - 4) 木暮一成¹⁾, 玉置智規¹⁾, 山崎道生¹⁾, 野手洋治¹⁾, 井須豊彦³⁾, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 釧路労災病院 脳神経外科): 最新の Basket plate を用いた縦割式椎弓形成術手技の基本と工夫. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
 - 5) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成³⁾, 岩本直高²⁾, 山崎和義²⁾, 山内朋裕²⁾, 磯部正則²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 上殿皮神経障害の外科的治療成績. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
 - 6) 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 脳神経外科学): 未破裂脳動脈瘤をどうすべきか?: 自然歴に基づく治療適応と今後の展望. 日本脳ドック学会総会 (第 25 回) (長野), 2016. 6.
 - 7) 山口文雄¹⁾, 樋口直司¹⁾, 佐藤 俊¹⁾, 足立好司²⁾, 永積 渉³⁾, 宗方祐美子⁴⁾, 佐藤淳子⁴⁾, 大村朋子⁵⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 4) 日本医科大学付属病院生理機能センター, 5) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 術中早期神経路同定による腫瘍摘出安全限界の決定. 日本脳腫瘍の外科学会 (第 21 回) (東京), 2016. 9.
 - 8) Morita A: Research Priorities in SAH: a Global perspectives, Japan. Fourth Neurocritical Care Research Conference (Houston, TX, USA), 2016. 5.
 - 9) 森田明夫: 救急医が知るべき脳卒中外科の up to date. 日本救急医学会学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
 - 10) 森田明夫: 未破裂脳動脈瘤の破裂リスク解析. 日本脳卒中の外科学会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
 - 11) 田原重志: 下垂体領域の最近の知見. 日本分子脳神経外科学会 (第 17 回), 2016. 8.
 - 12) 田原重志, 服部裕次郎, 石坂栄太郎, 大山健一, 石井雄道, 寺本 明, 森田明夫: 内視鏡下経鼻的手術における新たな ICG 蛍光内視鏡 (KARL STORZ NIR/ICG-System) の有用性. 日本脳腫瘍の外科学会 (第 21 回), 2016. 9.
 - 13) 木暮一成, 森田明夫, 井須豊彦: 頸椎椎弓形成術にチタン製スペーサーを用いる意義. 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (第 23 回), 2016. 9.
 - 14) 木暮一成, 森田明夫, 井須豊彦: 報告の絶えない頸椎前方固定術合併症の克服: 特に嘔声を中心に. 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (第 23 回), 2016. 9.
 - 15) 喜多村孝幸, 立山幸次郎, 廣中浩平, 太組一朗, 足立好司, 佐藤 俊, 森田明夫: 低髄液圧症候群/脳脊髄液減少症/脳脊髄液漏出症の診断・治療の現状とガイドライン作成に向けて. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 10.
 - 16) 小南修史, 鈴木雅規, 渡辺 玲, 竹村 篤, 内藤 功, 小林士郎, 森田明夫: 脊髄動脈奇形および脊髄硬膜動脈瘻に対する NBCA を用いた血管内治療. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 10.
 - 17) 大山健一, 石井雄道, 田原重志, 廣畑倫生, 渡邊文博, 勝野 亮, 喜多村孝幸, 寺本 明, 森田明夫, 松野 彰: 手術解剖に基づいた内視鏡下経鼻頭蓋底手術における到達限界の考察. 日本神経内視鏡学会 (第 23 回), 2016. 11.
 - 18) 大山健一, 石井雄道, 田原重志, 廣畑倫生, 渡邊文博, 勝野 亮, 喜多村孝幸, 寺本 明, 森田明夫, 松野 彰: 第 3 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の現状と展望. 日本神経内視鏡学会 (第 23 回), 2016. 11.
 - 19) 石井雄道, 大山健一, 田原重志, 森田明夫, 寺本 明, 松野 彰: 内視鏡下経鼻手術における頭蓋底再建の方法と治療成績. 日本神経内視鏡学会 (第 23 回), 2016. 11.
 - 20) 森田明夫: 救急医が知るべき脳卒中外科の up to date. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回), 2016. 11.
- (5) パネルディスカッション:
- 1) Morita A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Application of medical engineering to micro-neurosurgery. International Congress of the World Federation of Skull Base Societies (7th) (Osaka), 2016. 6.
- (6) セミナー:
- 1) 田原重志¹⁾ (1) 日本医科大学): 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術の基本. 日本脳神経外科コンgres総会 (第 36 回) (大阪), 2016. 5.
 - 2) Morita A (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Management strategy and treatment outcomes of unruptured intracranial aneurysms-implications from the UCAS japan cohort. International Congress of the World Federation of Skull Base Societies (7th) (Osaka), 2016. 6.
 - 3) 森田明夫: すきこそもの上手なれ. 札幌脳神経外科セミナー 2016 (札幌), 2016. 11.
 - 4) 森田明夫: 脳動脈瘤治療の問題点: UCAS JAPAN その後. 静岡県脳神経外科懇話会 (第 131 回) (静岡), 2016. 9.
 - 5) 森田明夫: 未破裂脳動脈瘤治療の対応と課題. 十勝脳神経懇話会 (第 95 回) (帯広), 2016. 8.

- 6) 喜多村孝雄：ドラム演奏が誘因であった腓骨神経の絞扼性神経障害について。釧路学術講演会（釧路），2016. 7.
 - 7) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤治療の対応と課題。兵庫県脳神経外科医懇話会（第46回）（兵庫），2016. 7.
 - 8) 森田明夫：クモ膜下出血の予防と治療 Update：糖尿病のリスクを含めて。飯塚脳卒中座談会（第20回）（福岡），2016. 7.
 - 9) 樋口直司：治療に難渋した小脳脚病変の症例。文京脳腫瘍研究会（第25回）（東京），2016. 7.
 - 10) 田原重志：下垂体腫瘍に対する外科的治療。文京間脳下垂体疾患カンファレンス（第2回）（東京），2016. 6.
 - 11) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤に残された課題：UCAS Japan その後。学術講演会（香川），2016. 12.
 - 12) 小林士郎：脳卒中入門：脳卒中にならないために。陸上自衛隊高射学校・下志津駐屯地「部外講和」，2016. 10.
 - 13) 金 景成，井須豊彦，岩本直高，森本大二郎，國保倫子，山内朋裕，松本順太郎，磯部正則，小林士郎，森田明夫：腰下肢痛患者に対する上殿皮神経障害の治療。日本脊椎・脊髄神経手術手技学会（第23回），2016. 9.
- (7) プレナリーセッション：
- 1) 森田明夫¹⁾（¹⁾日本医科大学）：未破裂脳動脈瘤自然歴に基づく治療適応と今後の展望。日本脳神経外科コンgres総会（第36回）（大阪），2016. 5.
- (8) 一般講演：
- 1) 亦野文宏¹⁾，水成隆之，藤木 悠，久保田麻紗美，村井保夫，小林士郎，森田明夫（¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経外科）：内頸動脈病変に対するRAグラフト術。STROKE2016（北海道），2016. 4.
 - 2) 藤木 悠¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経外科）：急性期血栓回収療法施行例における治療時間の検討。STROKE2016（北海道），2016. 4.
 - 3) 玉置智規¹⁾（¹⁾日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科）：CEA後嗄声の考察。STROKE2016（北海道），2016. 4.
 - 4) 水成隆之¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター脳神経外科）：内頸動脈瘤に対するRAグラフト術の適応。STROKE2016（北海道），2016. 4.
 - 5) 石坂栄太郎¹⁾，村井保夫，田原重志，築山 敦，中川俊祐，宗方祐美子，青木 亘，森田明夫（¹⁾日本医科大学脳神経外科）：当院における嗅覚モニタリングの経験。STROKE2016（北海道），2016. 4.
 - 6) 喜多村孝雄¹⁾，土屋雅人，展 広智，森田明夫（¹⁾日本医科大学脳神経外科）：繰り返すTIAを契機とし，診断に難渋した左房粘液種に伴う心原性脳塞栓症の1症例。STROKE2016（北海道），2016. 4.
 - 7) 瀨藤健太¹⁾（¹⁾日本医科大学医学部 脳神経外科）：バイパス術を併用した後大脳動脈瘤の治療。STROKE2016（新潟），2016. 4.
 - 8) 山田敏雅¹⁾（¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科）：「両側」後頭下開頭でトラッピングを行った椎骨動脈巨大血栓化動脈瘤の1例。STROKE2016（新潟），2016. 4.
 - 9) 亦野文宏¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経外科）：動脈硬化性病変に対するSTA-MCA bypass術中大脳動脈圧測定の有用性と手術手技の実際。STROKE2016（新潟），2016. 4.
 - 10) 中川俊祐¹⁾，村井保夫，亦野文宏，石坂栄太郎，白銀一貴，森田明夫（¹⁾日本医科大学 脳神経外科）：FLOW800でのカラーコードマップを用いた血管吻合の評価。STROKE2016（北海道），2016. 4.
 - 11) 梅岡克哉¹⁾，久保田麻紗美，藤木 悠，亦野文宏，大村朋子，鈴木雅規，小南修史，水成隆之，小林士郎，森田明夫（¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経外科）：抗凝固薬内服患者の脳出血に関する検討。STROKE2016（北海道），2016. 4.
 - 12) 築山 敦¹⁾（¹⁾日本医科大学脳神経外科）：蛍光輝度解析による術中血流評価における高輝度組織の周辺組織輝度への影響：FLOW800を用いた検討。STROKE2016（北海道），2016. 4.
 - 13) 大山健一¹⁾（¹⁾日本医科大学 脳神経外科）：80才以上の下垂体部腫瘍に対する一側鼻孔経路法による内視鏡下経鼻手術。日本老年脳神経外科学会（第29回）（奈良），2016. 4.
 - 14) 國保倫子¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター）：超高齢者の難治性腰痛に対する集約的治療の経験。日本老年脳神経外科学会（第29回）（奈良），2016. 4.
 - 15) 田原重志^{1,2)}，浜野久美子²⁾，亀田 亘²⁾，西澤 茂²⁾，清水 力²⁾，田中祐司²⁾，金子朋美³⁾，村上真美³⁾，島津 章³⁾（¹⁾日本医科大学付属病院脳神経外科，²⁾SOM230C1202 study group，³⁾ノバルティスファーマ株式会社）：Results From a Randomized, Multicenter, Phase II Trial of Pasireotide LAR in Japanese Patients With Acromegaly and Pituitary Gigantism. 日本内分泌学会学術総会（第89回）（京都），2016. 4.
 - 16) 大山健一^{1,2)}，田原重志²⁾，石井雄道^{1,2)}，松野 彰¹⁾，森田明夫²⁾，寺本 明³⁾（¹⁾帝京大学医学部 脳神経外科 下垂体・内視鏡手術センター，²⁾日本医科大学 脳神経外科，³⁾独立行政法人労働者健康福祉機構 東京労災病院）：高齢者非機能性下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻手術。日本内分泌学会学術総会（第89回）（京都），2016. 4.
 - 17) 長峯朋子¹⁾，小林俊介¹⁾，守屋綾子¹⁾，田原重志²⁾，原田太郎¹⁾，稲垣恭子¹⁾，福田いずみ¹⁾，杉原 仁¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 糖尿病内分泌代謝内科，²⁾日本医科大学付属病院 脳神経外科）：GH産生腫瘍におけるGHRP-2試験とオクトレオチド，プロモクリプテンによるGH抑制効果との関連について。日本内分泌学会学術総会（第89回）（京都），2016. 4.
 - 18) 岡本彬美¹⁾，福田いずみ¹⁾，小林俊介¹⁾，田原重志²⁾，杉原 仁¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院，²⁾日本医科大学付属病院 脳神経外科）：

- 非機能性下垂体腺腫における GHRP-2 試験の手術前後の GH 頂値の推移. 日本内分泌学会学術総会 (第 89 回) (京都), 2016. 4.
- 19) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦³⁾, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 釧路労災病院 脳神経外科): 頸椎椎間板障害, 特に根症状に対する手術: 前方と後方の比較. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
- 20) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成³⁾, 岩本直高²⁾, 國保倫子³⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 末梢神経障害の術中モニタリングの有用性. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
- 21) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 岩本直高²⁾, 森本大二郎³⁾, 山内朋裕²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫³⁾ (1) 日本医科大学 千葉北総病院脳神経センター, 2) 釧路労災病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 超高齢者の難治性腰痛に対する治療経験. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
- 22) 山内朋裕¹⁾, 金 景成²⁾, 井須豊彦¹⁾, 岩本直高¹⁾, 山崎和義¹⁾, 齋藤拓実¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 腰痛に対する上殿皮神経ブロックが及ぼす脊柱矢状面バランスへの影響. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
- 23) 岩本直高¹⁾, 金 景成²⁾, 井須豊彦¹⁾, 森本大二郎³⁾, 山内朋裕¹⁾, 千葉泰弘¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 3) 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 絞扼性総腓骨神経障害に対する誘発試験の検討. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
- 24) 鈴木雅規¹⁾, 藤木 悠, 赤野文宏, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 森田明夫 (1) 日本医科大学千葉北総病院 脳神経外科): 無症候性内頸動脈中等度狭窄患者の狭窄度の経時的変化に関する検討. 日本脳ドック学会総会 (第 25 回) (長野), 2016. 6.
- 25) 玉置智規¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科): 脳血栓患者の頸動脈狭窄と血流依存性血管拡張反応. 日本脳ドック学会総会 (第 25 回) (長野), 2016. 6.
- 26) 山田敏雅¹⁾, 立山幸次郎, 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科): MRA-BeamSat 法による頸部内頸動脈狭窄症例の検討術前にシヤント必要例を診断できるか?. 日本脳ドック学会総会 (第 25 回) (長野), 2016. 6.
- 27) 山口文雄¹⁾, 樋口直司¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 喜多村孝幸²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院): 405nm レーザーによるグリオーマ細胞の奇異反応. 日本脳神経外科光線力学学会 (第 12 回) (神奈川), 2016. 6.
- 28) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 大村朋子²⁾, 足立好司³⁾, 喜多村孝幸³⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科): 悪性グリオーマ細胞に対する 5-ALA を用いた音響化学療法の新たな展望. 日本脳神経外科光線力学学会 (第 12 回) (神奈川), 2016. 6.
- 29) 山口文雄¹⁾, 樋口直司¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 大村朋子²⁾, 展 広智³⁾, 山田昌興⁴⁾, 喜多村孝幸⁵⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター, 3) 帝京平成大学ヒューマンケア学部柔道整復学科, 4) 帝京大学医学部附属溝口病院脳神経外科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科): グリオーマにおける FGF とその受容体の挙動: 5-ALA 蛍光診断による発現様式の変化. 日本分子脳神経外科学会 (第 17 回) (東京), 2016. 8.
- 30) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 治療に難渋した小脳脚病変の症例. 文京脳腫瘍研究会 (第 25 回) (東京), 2016. 7.
- 31) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 悪性グリオーマ細胞に対する 5-ALA を用いた音響化学療法. 東京脳腫瘍治療懇話会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
- 32) 山口文雄¹⁾, 樋口直司¹⁾, 佐藤 俊¹⁾, 展 広智²⁾, 足立好司³⁾, 大村朋子⁴⁾, 永積 渉⁵⁾, 宗方祐美子⁶⁾, 佐藤淳子⁶⁾, 喜多村孝幸³⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 帝京平成大学ヒューマンケア学部柔道整復学科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 5) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 6) 日本医科大学付属病院生理機能センター): 早期神経路同定による脳腫瘍患者の運動・言語機能温存. 一般社団法人・日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 10.
- 33) Yamaguchi F¹⁾, Higuchi T¹⁾, Sato S¹⁾, Ten H²⁾, Omura T³⁾, Adachi K⁴⁾, Kitakura T⁴⁾, Kobayashi S³⁾, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, JAPAN, 2) Department of Judo Physical Therapy (Alternative Medicine), Faculty of Health Care, Teikyo Heisei University, Tokyo, JAPAN, 3) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, JAPAN, 4) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School Musahiko-sugi Hospital, Kanagawa, JAPAN): Early and precise identification of neural tracts defines safety limit of resection in white matter in intrinsic tumor patients. 2016 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting, (San Diego, California, USA), 2016. 9.
- 34) Morita A: Management of the Unruptured Cerebral Aneurysms: From Japanese Standards to the World's Standards. 30th Annual Meeting of the Turkish Neurosurgical Society (TNS) (Antalya, Turkey), 2016. 4.
- 35) 森田明夫: ドックで発見された脳動脈瘤の対応. 人間ドック健診認定医・専門医研修会 (第 45 回) (東京), 2017. 3.
- 36) 森田明夫: 脳神経外科用 Robotic smart arm の開発と展望. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016.

- 10.
- 37) 藤木 悠, 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫: 板間静脈へ流出する硬膜動静脈瘻に対して経動脈的塞栓術を行った1例. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会 (第13回) (東京), 2016. 7.
- 38) 石井雄道, 大山健一, 田原重志, 森田明夫, 寺本 明, 松野 彰: 内視鏡下経鼻手術における画像診断に基づいた内視鏡の使い分けと摘出戦略. 日本術中画像情報学会 (第16回) (松山), 2016. 7.
- 39) 大山健一, 石井雄道, 田原重志, 渡邊文博, 廣畑倫生, 勝野 亮, 喜多村孝幸, 森田明夫, 松野 彰: 3D内視鏡システムを用いた経鼻頭蓋底手術. 日本術中画像情報学会 (第16回) (松山), 2016. 7.
- 40) 築山 敦, 村井保夫, 石坂栄太郎, 森田明夫: High flow bypass 頸部接合部からの術後出血の1例. 南十字星脳神経外科手術研究会 (第9回) (宮古島), 2016. 7.
- 41) 石坂栄太郎: 当院でのCNAP・DNAPの使用経験. 南十字星脳神経外科手術研究会 (第9回) (宮古島), 2016. 7.
- 42) 服部裕次郎, 田原重志, 石坂栄太郎, 喜多村孝幸, 森田明夫: 視機能障害を呈したempty sella syndromeに対して自家腸骨用いたchiasmpexyを行った1例. 日本神経内視鏡学会 (第23回) (東京), 2016. 11.
- 43) 服部裕次郎, 田原重志, 石坂栄太郎, 森田明夫: 視機能障害を呈したempty sella syndromeに対して自家腸骨用いたchiasmpexyを行った1例. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第27回) (東京), 2017. 2.
- 44) 佐藤 俊¹⁾, 山田 理¹⁾, 村井保夫¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科: 大動脈弓のバリエーション 脳血管内治療のためのBovine archAnatomical variants of the aortic arch Bovine arch for Neuroendovascular. 日本脳神経外科学会関東地方会 (東京), 2016. 6.
- 45) 佐藤 俊¹⁾, 喜多村孝幸²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院: 脳脊髄液減少症に合併する硬膜下血腫の治療法: ガイドライン作成へ向けた明確な指標. 日本頭痛学会総会 (第44回) (京都), 2016. 10.
- 46) 佐藤 俊¹⁾, 喜多村孝幸²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院: 脳脊髄液減少症に合併する硬膜下血腫の治療法: ガイドライン作成へ向けた明確な指標. 一般社団法人日本脳神経外科学会総会 (第75回) (福岡), 2016. 10.
- 47) 佐藤 俊¹⁾, 山田 理¹⁾, 村井保夫¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科: 大動脈弓のバリエーション 脳血管内治療のためのBovine arch. 日本脳血管内治療学会総会 (第32回) (神戸), 2016. 11.
- 48) Morita A, Tominari S: Size ratio can be a strong predictor for future rupture of the unruptured cerebral aneurysms. AANS (Chicago), 2016. 5.
- 49) Kim K, Isu K, Kokubo R, Morimoto D, Iwamoto N, Matsumoto J, Kobayashi S, Morita A: One option for the treatment of failed back surgery syndrome. ASIA SPINE (Seoul,Korea), 2016. 9.
- 50) Kokubo R, Kim K, Isu T, Morimoto D, Iwamoto N, Kobayashi S, Morita A: Lumbar peripheral disease treatment for the intractable low back pain of the very elderly patients: 2 case reports. ASIA SPINE (Seoul,Korea), 2016. 9.
- 51) Matano F, Mizunari T, Murai Y, Tamaki T, Tateyama K, Koketsu K, Tanikawa R, Kamiyama H, Kobayashi S, Morita A: Outcom for neurological deficits due to ICA aneurysms using RA graft with ICO. International Congress of the World Federation of Skull Base Societies (7th) (Osaka,Japan), 2016. 6.
- 52) Higuchi T, Yamaguchi F, Asakura T, Ju D, Adachi K, Kitamura T, Morita A: Effect of Sonodynamic Therapy With 5-aminolevulinic Acid on Malignant Gliomas. 84th AANS annual scientific meeting (Chicago,USA), 2016. 4.
- 53) Higuchi T, Yamaguchi F, Asakura T, Ju D, Adachi K, Kitamura T, Morita A: Effect of Sonodynamic Therapy With 5-aminolevulinic Acid on Malignant Gliomas. Congress of Neurological Surgeons 2016 Annual Meeting (San Diego,California), 2016. 9.
- 54) Matsumoto J, Isu T, Kim K, Iwamoto N, Chiba Y, Yamauchi T, Yamazaki K, Isobe M: Outcome that focuses on lumbar peripheral disease for the failed back surgery syndrome. ASIA SPINE (Seoul,Korea), 2016. 9.
- 55) 森田明夫: 脳動脈瘤治療の問題点: UCAS JAPAN その後. 静岡県脳神経外科懇話会 (第131回), 2016. 9.
- 56) 野崎俊樹, 森本大二郎, 金 景成, 國保倫子, 井須豊彦, 山口文雄, 森田明夫: 大腿外側皮神経障害の1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第129回), 2016. 4.
- 57) 玉置智規, 野手洋治, 梅岡克哉, 水成隆之, 森田明夫: CEA中にみられる迷走神経のバリエーションとその対応について. STROKE2016 (北海道), 2016. 4.
- 58) 玉置智規, 野手洋治, 梅岡克哉, 水成隆之, 森田明夫: CEA中の迷走神経モニタリング, 連続100例の経験から. STROKE2016 (北海道), 2016. 4.
- 59) 村井保夫, 森田明夫, 水成隆之, 立山幸次郎, 亦野文宏, 白銀一貴, 石坂栄太郎, 井手口稔, 築山 敦: Flow Alterlationを用いた脳動脈瘤治療の問題点. STROKE2016 (北海道), 2016. 4.
- 60) 亦野文宏¹⁾, 水成隆之, 村井保夫, 谷川緑野, 上山博康, 小林士郎, 森田明夫: 頭蓋内還流圧測定を用いた術後過還流症候群の予測と予防の新たな試み. STROKE2016 (北海道), 2016. 4.

- 61) 樋口直司, 山口文雄, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫: 錐体路近傍腫瘍に対する当院での治療経験: QOL 向上を目指して. 千駄木脳腫瘍研究会 (第 6 回), 2016. 4.
- 62) 玉置智規, 野手洋治, 森田明夫: CEA と癌. 多摩脳神経研究会 (第 5 回), 2016. 5.
- 63) 亦野文宏: 脳卒中の予防と外科治療. 千葉県八千代市安宅道順庵医療講演会, 2016. 5.
- 64) 梅岡克哉, 久保田麻紗美, 藤木 悠, 野崎俊樹, 亦野文宏, 國保倫子, 大村朋子, 鈴木雅規, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 森田明夫: 顔面痙攣で発症した小脳橋角部神経鞘腫の 1 例. 日本聴神経腫瘍研究会 (第 25 回), 2016. 6.
- 65) 玉置智規¹⁾, 野手洋治, 森田明夫 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科): 頸動脈狭窄症と反応性内膜拡張反応. 日本脳ドック学会総会 (第 25 回) (長野), 2016. 6.
- 66) 野崎俊樹, 森田明夫, 村井保夫, 水成隆之, 玉置智規, 立山幸次郎: 未破裂脳動脈瘤保有患者の情報提供の規格化によるリスクコミュニケーション改善への試み. 日本脳ドック学会総会 (第 25 回) (長野), 2016. 6.
- 67) 岩本直高¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成¹⁾, 山内朋裕³⁾, 千葉泰弘¹⁾, 森本泰弘¹⁾, 磯部正則¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, ³⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 腸骨稜近傍の圧痛に着目した腰下肢痛の治療戦略. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京都), 2016. 6.
- 68) 松本順太郎¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 岩本直高²⁾, 金 景成²⁾, 山内朋裕³⁾, 磯部正則²⁾ ¹⁾<style:w04-atobeta-pair>>³⁾ (¹⁾ 日本医科大学 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 釧路労災病院 脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 浅腓骨神経障害に対して神経剥離術が著効した 1 症例. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京都), 2016. 6.
- 69) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦, 森本大二郎, 野崎俊樹, 小林士郎, 森田明夫: 外側大腿皮神経障害の治療経験. 痛みしびれ研究会 (第 5 回), 2016. 6.
- 70) 喜多村孝雄, 森本大二郎, 金 景成, 井須豊彦, 山口文雄, 森田明夫: ドラム演奏が誘因であった腓骨神経の絞扼性神経障害の 1 例. 痛みしびれ研究会 (第 5 回), 2016. 6.
- 71) 白銀一貴, 立山幸次郎, 村井保夫, 玉置智規, 森田明夫: 急激な経過をたどり治療に難渋した髄膜腫 2 症例. 南十字星脳神経外科手術研究会 (第 9 回) (宮古島), 2016. 7.
- 72) 金 景成, 井須豊彦, 國保倫子, 森本大二郎, 岩本直高, 小林士郎, 森田明夫: 腰臀部痛に対する低侵襲治療としての 1 つの治療選択. 低侵襲・内視鏡脊髄神経外科研究会 (第 6 回), 2016. 7.
- 73) 井手口稔, 田中美千裕: Varix を伴った developmental venous anomaly の 1 例. Clinical Vascular Anatomy Workshop (第 1 回), 2016. 7.
- 74) 樋口直司, 山口文雄, 大村朋子, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫: 認知症を契機に指摘された脳悪性リンパ腫の 1 症例. ニューロオンコロジーの会 (第 51 回), 2016. 8.
- 75) 緜纈健太, 吉田大蔵, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明, 森田明夫: BMP の Antagonist である Gremlin が下垂体腺腫における血管新生にかかわっている可能性について. 日本分子脳神経外科学会 (第 17 回) (東京), 2016. 8.
- 76) 展 広智, 大山健一, 田原重志, 石井雄道, 松野 彰, 寺本 明, 森田明夫: LH-RH アゴニストによる下垂体卒中の 1 例. 日本分子脳神経外科学会 (第 17 回) (東京), 2016. 8.
- 77) 亦野文宏, 水成隆之, 小南修史, 鈴木雅規, 藤木 悠, 久保田麻紗美, 小林士郎, 森田明夫: Retrograde suction decompression using balloon catheter combined with STA-MCA bypass. The Mt.Fuji Workshop on CVD (第 35 回), 2016. 8.
- 78) 岩本直高, 井須豊彦, 金 景成, 松本順太郎, 山内朋裕, 千葉泰弘, 森本大二郎, 松野 彰, 磯部正則: 上殿皮神経障害と絞扼性総腓骨神経障害の治療が奏功した腰下肢痛の 1 例. 日本末梢神経学会学術集会 (第 27 回), 2016. 8.
- 79) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦, 岩本直高, 森本大二郎, 山内朋裕, 小林士郎, 森田明夫: 末梢神経障害治療に主眼をおいた超高齢者の難治性腰下肢痛の治療. 日本末梢神経学会学術集会 (第 27 回), 2016. 8.
- 80) 木暮一成: 後頸部痛で発症した後頸部 intramuscular lipoma の 1 例. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2016, 2016. 8.
- 81) 岩本直高, 井須豊彦, 金 景成, 松本順太郎, 山内朋裕, 千葉泰弘, 森本大二郎, 松野 彰, 磯部正則: 当院での腸骨稜近傍の圧痛に着目した腰痛・腰下肢痛診療. 日本腰痛学会 (第 24 回), 2016. 9.
- 82) 松本順太郎, 井須豊彦, 金 景成, 岩本直高, 山内朋裕, 山崎和義, 磯部正則: 腰椎術後の腰下肢痛に対する腰椎周辺疾患に主眼をおいた治療成績. 日本腰痛学会 (第 24 回), 2016. 9.
- 83) 田原重志: 内視鏡下経鼻の手術における新たな ICG 蛍光内視鏡 (KARL STORZ NIR/ICG-System) の有用性. 日本脳腫瘍の外科学会 (第 21 回), 2016. 9.
- 84) 村井保夫, 森田明夫, 梅沢祐己, 石坂栄太郎, 小川 令, 築山 敦: 遊離筋皮弁を用いた頭蓋底再建手術後の頭蓋底再建再手術の経験. 日本脳腫瘍の外科学会 (第 21 回), 2016. 9.
- 85) 展 広智, 大山健一, 田原重志, 石井雄道, 松野 彰, 寺本 明, 森田明夫: LH-RH アゴニストによる下垂体卒中の 1 例. 日本内分泌病理学会学術総会 (第 20 回), 2016. 9.
- 86) 佐藤 俊, 山田 理, 五十嵐豊, 村井保夫, 森田明夫: 大動脈弓のバリエーション 脳血管内治療のための Bovine arch. 日本脳神経

- 外科学会関東支部学術集会（第130回），2016. 9.
- 87) 亦野文宏，水成隆之，村井保夫，小林士郎，谷川緑野，上山博康，森田明夫：動脈硬化性病変に対する STA-MCA bypass 術後過還流症候群の危険因子の解析 - 術中中大脳動脈圧モニタリングの有用性. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会（第130回），2016. 9.
- 88) 水成隆之：内頸動脈解離（IC terminal dissecting/blister like aneurysm）に対する治療. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 10.
- 89) 足立好司，崎村耕二，Deshpande G，藤倉輝道，安武正弘，森田明夫：医学生に対する OSCE 英語医療面接のアンケート調査 - 外国人教員が加わることによる学習効果への影響. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 10.
- 90) 小南修史，鈴木雅規，渡辺 玲，竹村篤人，内藤 功，小林士郎，森田明夫：脊髄動静脈奇形および脊髄硬膜動静脈瘻に対する NBCA を用いた血管内治療. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 91) 玉置智規，野手洋治，梅岡克哉，水成隆之，森田明夫：CEA 術後創部出血の検討. 一般社団法人・日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 92) 木暮一成，山崎道生，野手洋治，玉置智規，井須豊彦，森田明夫：高齢者変形性頸椎症に対する手術. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 93) 田原重志，野村竜太郎，服部裕次郎，石坂栄太郎，大山健一，石井雄道，安達 忍，鈴木一郎，喜多村孝幸，寺本 明，森田明夫：内視鏡下経鼻的腫瘍摘出術における頭蓋内血管合併症とその対策. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回），2016. 9.
- 94) 村井保夫，森田明夫，亦野文宏，立山幸次郎，桑本健太郎，横堀将司，横田裕行，水成隆之，白銀一貴，石坂栄太郎，中川俊祐：椎骨動脈後下小脳動脈分岐部周辺解離性病変の外科的治療戦略：その standard と option. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 95) 金 景成，井須豊彦，國保倫子，森本大二郎，岩本直高，中嶋隆夫，小林士郎，森田明夫：吸収性スクリューを用いた頸椎後方固定術に関する生体力学的検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 96) 梅岡克哉，田草川豊，小林士郎，森田明夫：責任血管の違いによる三叉神経痛手術の工夫. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 97) 立山幸次郎，廣中浩平，村井保夫，太組一朗，足立好司，水成隆之，喜多村孝幸，森田明夫：Transcondylar approach による椎骨動脈瘤手術，OA-PICA 吻合術の基本術式とピットフォール. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 98) 森本大二郎，井須豊彦，金 景成，千葉泰弘，岩本直高，山崎和義，磯部正則，森田明夫：上殿皮神経障害の外科的治療成績. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 10.
- 99) 鈴木雅規，藤木 悠，亦野文宏，小南修史，水成隆之，小林士郎，森田明夫：無症候性内頸動脈中等度狭窄患者の狭窄度の経時的変化に関する検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 10.
- 100) 大村朋子，小林士郎，山口文雄，足立好司，森田明夫：中枢神経系原発悪性リンパ腫の放射線治療後再発に対する RCHOP 療法の有効性. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 101) 岩本直高，井須豊彦，金 景成，松本順太郎，山内朋裕，千葉泰弘，森本大二郎，松野 彰，磯部正則：絞扼性総腓骨神経障害への上殿皮神経障害合併に関する調査. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 102) 廣中浩平，山崎吉之，平井幸彦，山本基子，三宅紀子，三宅弘一，島田 隆，岡田尚巳，喜多村孝幸，森田明夫：アデノ随伴ウイルスベクターの脳室内注入による異染色性白質ジストロフィーモデルマウスの脳脊髄液中への酵素補充療法. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 10.
- 103) 國保倫子，金 景成，井須豊彦，岩本直高，森本大二郎，小林士郎，森田明夫：超高齢者の難治性腰下肢通に対する低侵襲治療. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 104) 亦野文宏，水成隆之，村井保夫，玉置智規，立山幸次郎，瀬藤健太，藤木 悠，久保田麻紗美，谷川緑野，上山博康，小林士郎，森田明夫：眼症状を有する大型巨大内頸動脈瘤の Flow Alteration を用いた治療戦略と機能予後の解析. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 105) 樋口直司，山口文雄，喜多村孝雄，小田一徳，中川俊祐，大村朋子，佐藤 俊，足立好司，喜多村孝幸，森田明夫：脳実質内腫瘍摘出における虚血合併症の評価：術後予測，術中の注意点はるか. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 10.
- 106) 井手口稔，稲葉眞貴，門岡慶介，島田健司，坂田義則，田中美千裕，波出石弘：当院における治療成績をもとにした前脈絡叢動脈分岐部動脈瘤の治療方針. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 107) 石坂栄太郎，村井保夫，田原重志，築山 敦，中川俊祐，青木 亘，宗方祐美子，森田明夫：術中嗅覚モニタリングの経験. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 108) 中川俊祐，村井保夫，亦野文宏，石坂栄太郎，白銀一貴，森田明夫：血管吻合の評価：FLOW80 マップを用いて. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 10.

- 109) 藤木 悠, 久保田麻紗美, 亦野文宏, 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 横田裕行, 小林士郎, 森田明夫: くも膜下出血予後予測因子としての Stress Index (BS/K ratio) の有用性. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 9.
- 110) 喜多村孝雄, 森本大二郎, 五十嵐豊, 築山 敦, 國保倫子, 金 景成, 森田明夫: 術中 peroneus tunnel 内圧測定による腓骨神経の絞扼性末梢神経障害の病態の考察. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 10.
- 111) 山田 理, 村井保夫, 立山幸次郎, 五十嵐豊, 中川俊祐, 石坂栄太郎, 井手口稔, 佐藤 俊, 喜多村孝幸, 森田明夫: 発症時に脳血管の画像診断を行われたのにもかかわらず経過観察となった脳動脈瘤の検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 9.
- 112) 榎本弘幸, 村井保夫, 中川俊祐, 亦野文宏, 石坂栄太郎, 白銀一貴, 築山 敦, 森田明夫: ICG videoangiography による脳血流方向検出能に関する検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 9.
- 113) 小田一徳, 山口文雄, 中川俊祐, 樋口直司, 森田明夫: 脳腫瘍患者の補足運動野症候群からの回復メカニズム: トラクトグラフィーによる機能回復術前予測の試み. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 9.
- 114) 矢吹里香子, 白銀一貴, 立山幸次郎, 村井保夫, 玉置智規, 森田明夫: 急激な経過をたどり治療に難渋した髄膜腫. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 9.
- 115) 坪井俊之, 谷川緑野, 美山真崇, 松本 崇, 宮崎貴則, 木下由宇, 柳澤 毅, 榊原史啓, 額綱健太, 鈴木 剛, 宮田至朗, 松川東俊, 太田仲郎, 野田公寿茂, 上山博康, その他 1 名: 内頸動脈 C1-2 部大型・巨大動脈瘤の治療戦略とその問題点 - 穿通枝の温存について -. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 9.
- 116) 松本順太郎, 井須豊彦, 金 景成, 岩本直高, 山内朋裕, 山崎和義, 磯部正則: 腰椎術後の腰下肢痛に対して絞扼性末梢神経障害に注目した治療成績. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 9.
- 117) 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸, 岸 泰宏, 川上康彦, 野崎俊樹, 森田明夫: JME の診断動機. 日本てんかん学会学術集会 (第 50 回), 2016. 10.
- 118) 石井寛高, 服部裕次郎, 渡辺 寛, 小澤一史: C 末端欠損型エストロゲン受容体 α 変異体の恒常的活性化にはリガンド結合領域内のヘリックス 5 の欠損が必須である. 日本神経内分泌学会 (第 43 回)・日本行動神経内分泌研究会・合同学術集会 (第 23 回), 2016. 10.
- 119) 佐藤 俊, 喜多村孝幸, 森田明夫: ガイドライン作成へ向けた明確な指標: 脳脊髄液減少症に合併する硬膜下血腫の治療法. 日本頭痛学会総会 (第 44 回), 2016. 10.
- 120) 小林士郎: 脳梗塞治療薬への今後の期待. 千葉北総神経放射線研究会 (第 87 回), 2016. 11.
- 121) 木暮一成, 井須豊彦: 後頸部後頭部痛のみを主訴とする症例. 日本脊椎障害医学会 (第 51 回), 2016. 11.
- 122) 金 景成, 井須豊彦, 國保倫子, 森本大二郎, 岩本直高, 中嶋隆夫, 小林士郎: 吸収性スクリューによる頸椎後方固定術の生体力学的研究. 日本脊髄障害医学会 (第 51 回), 2016. 11.
- 123) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦, 岩本直高, 森本大二郎, 小林士郎, 森田明夫: 硬膜外麻酔が一因と思われた脊髄硬膜外血腫の 1 例. 日本脊髄障害医学会 (第 51 回), 2016. 11.
- 124) 服部裕次郎, 田原重志, 石坂栄太郎, 喜多村孝幸, 森田明夫: 視機能障害を呈した empty sella syndrome に対して自家腸骨を用いた chiasmopexy を行った 1 例. 日本神経内視鏡学会 (第 23 回), 2016. 11.
- 125) 藤木 悠, 石井雄道, 久保田麻紗美, 森田明夫, 小林士郎: 大型下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻手術の治療経験. 日本神経内視鏡学会 (第 23 回), 2016. 11.
- 126) 藤木 悠, 亦野文宏, 久保田麻紗美, 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 横田裕行, 森田明夫: くも膜下出血予後予測因子としての Stress Index (BS/K ratio) の有用性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回), 2016. 11.
- 127) 小南修史, 鈴木雅規, 小林士郎, 森田明夫: DSA 装置の遅延. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回), 2016. 11.
- 128) 佐藤 俊, 山田 理, 村井保夫, 森田明夫: 大動脈弓のバリエーション 脳血管内治療のための Bovine arch. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回), 2016. 11.
- 129) 鈴木雅規, 小南修史, 藤木 悠, 小林士郎, 森田明夫: 頭蓋内硬膜動静脈瘻に対する経動脈的塞栓術における n-butyl cyanoacrylate の注入時形態及び注入時間の検討. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回), 2016. 11.
- 130) 白銀一貴, 野村素弘, 馬場栄一, 服部裕次郎, 杉山 誠, 立澤孝幸: 当院における急性期脳主幹動脈閉塞症に対する血管内治療成績. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回), 2016. 11.
- 131) 井手口稔, 田中美千裕, 門岡慶介, 波出石弘, 坂田義則, 稲葉眞貴: Varix を伴った developmental venous anomaly の 1 例. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回), 2016. 11.
- 132) 井手口稔, 田中美千裕, 門岡慶介, 波出石弘, 坂田義則, 稲葉眞貴: 脳動静脈奇形における perinidal angiogenesis の検討. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 32 回), 2016. 11.
- 133) 金 景成: 目の前の壁.. ふえむってみる?. 脊髄疾患動画技術研究会 (第 27 回), 2016. 11.
- 134) 金 景成, 井須豊彦, 國保倫子, 森本大二郎, 岩本直高, 小林士郎, 森田明夫: Failed back surgery の原因として腓骨神経障害の診

- 断に苦慮した1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第131回), 2016. 12.
- 135) 岩本直高, 井須豊彦, 金 景成, 松本順太郎, 山内朋裕, 千葉泰弘, 森本大二郎, 松野 彰, 磯部正則: 間欠性跛行を呈する絞扼性腓骨神経障害に対する誘発テストの検討. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第131回), 2016. 12.
- 136) 樋口直司, 山口文雄, 大村朋子, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫: 認知症を契機に指摘された脳悪性リンパ腫の1症例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第131回), 2016. 12.
- 137) 足立好司, 喜多村孝幸, 山口文雄, 森田明夫, 高橋 弘: グリオーマ細胞株に対する7種の proinflammatory cytokine による抗腫瘍効果の解析. 日本脳腫瘍学会 (第34回), 2016. 12.
- 138) 金 景成, 森本大二郎, 中嶋隆夫, 森田明夫: 有限要素法を用いた吸収性スクリューによる頸椎後方固定術に関する生体力学的検討. 日本医科大学・東京理科大学合同シンポジウム (第3回), 2016. 12.
- (9) Special Report :
- 1) 山王直子¹⁾ (山王クリニック): 東日本震災の支援活動. メイヨーニューロサイエンスフォーラム (第23回) (兵庫), 2016. 5.
- (10) アフターヌーンセミナー :
- 1) 森田明夫: 脳腫瘍手術における血管障害とその対応. 日本脳腫瘍の外科学会 (第21回) (東京), 2016. 9.
- (11) セッション :
- 1) Morita A¹⁾ (Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Hearing reconstruction in cases with neurofibromatosis type2. International Congress of the World Federation of Skull Base Societies (7th) (Osaka), 2016. 6.
- 2) 田原重志¹⁾ (日本医科大学 脳神経外科): Acromegaly に対する治療: 一般症例から難治症例まで. 文京間脳下垂体疾患カンファレンス (第2回) (東京), 2016. 6.
- (12) 学会支援研究2 :
- 1) 野崎俊樹¹⁾ (日本医科大学 脳神経外科): 未破裂脳動脈瘤保有患者の情報提供の規格化によるリスクコミュニケーション改善への試み. 日本脳ドック学会総会 (第25回) (長野), 2016. 6.
- (13) 合同講習会 :
- 1) 森田明夫¹⁾ (日本医科大学脳神経外科): 未破裂脳動脈瘤破裂および治療合併症リスク予測モデルの構築. STROKE2016 (北海道), 2016. 4.
- (14) 指定講演 :
- 1) 田原重志: パシレオチドの国内臨床試験. アクロメガリーフォーラム (第12回), 2016. 10.
- (15) 特別企画 :
- 1) 森田明夫: 内視鏡支持装置一体型 Hybrid 神経内視鏡 EndoArm[®] の開発. 日本神経内視鏡学会 (第23回) (東京), 2016. 11.

論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 森田明夫¹⁾ (日本医科大学脳神経外科): 脳ドックと未破裂脳動脈瘤脳ドックにおける脳動脈瘤の検知, 予後, 受診者への説明. 日本脳ドック学会報 2016 ; (2) : 13-18.
- 2) 金 景成, 井須豊彦: 若手脳神経外科医が知っておきたい下肢のしびれ, 痛み診断の最新知見 末梢神経障害に主眼を置いて. 脳神経外科速報 2016 ; 26 (3) : 266-272.
- 3) 森本大二郎: 専門医に求められる最新の知識 脊椎脊髄 腰痛診療の最新知見. 脳神経外科速報 2016 ; 26 (3) : 256-263.

追加分原著 :

- 1) Yujiro H^{1,2)}, Hirotaka I¹⁾, Arisa M³⁾, Hiroshi W^{1,4)}, Akio M²⁾, Yasuo S⁵⁾, Hitoshi O¹⁾ (1) Department of Anatomy and Neurobiology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Laboratory of Behavior Neuroscience, Faculty of Science, Japan Women's University, 4) Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 5) University of Tokyo Health Sciences) : Human C-terminally truncated ER α variants resulting from the use of alternative exons in the ligand-binding domain. Molecular and Cellular Endocrinology 2016 ; (425) : 111-122.
- 2) Tsuchiya M, Morita A, Hara Y : Effect of Dual Therapy with Botulinum Toxin A Injection and Electromyography-controlled Functional Electrical Stimulation on Active Function in the Spastic Paretic Hand. J Nippon Med Sch. 2016 ; 83 (1) : 15-23.
- 3) Takumi I, Akimoto M, Morita A : Use of an Inverted and Segmented Galea-Calvarial Flap for the Simultaneous Reconstruction of the Frontal Sinus and Forehead : A New Supplementary Method of Reconstructive Cranial Surgery. J Nippon Med Sch. 2016 ; 83 (3) : 125-129.
- 4) Matano F, Tanikawa R, Kamiyama H, Ota N, Tsuboi T, Noda K, Miyata S, Matsukawa H, Murai Y, Morita A : Surgical

treatment of 127 paraclinoid aneurysms with multifarious strategy : Factors related with outcome. *World Neurosurg.* 2016 ; 85 : 169-176.

- 5) Morimoto D, Isu T, Kim K, Sugawara A, Yamazaki K, Chiba Y, Iwamoto N, Isobe M, Morita A : Microsurgical Decompression for Peroneal Nerve Entrapment Neuropathy. *Neurol Med Chir (Tokyo).* 2015 ; 55 (8) : 669-673.
- 6) Morimoto D, Isu T, Kim K, Yamazaki K, Iwamoto N, Isobe M, Morita A : Non-Specific Back Pain due to Superior Cluneal Nerve Entrapment Neuropathy Treated with Neurolysis : A Case Report. *No Shinkei Geka.* 2016 ; 44 (2) : 155-160.
- 7) Umeoka K, Takusakawa Y, Kominami S, Kobayashi S, Morita A : The meningeal branches of the superior cerebellar artery : a surgical observation study. *J Neurosurg* 2016 ; 124 (1) : 244-247.
- 8) Iwamoto N, Isu T, Kim K, Chiba Y, Kokubo R, Morimoto D, Shirai S, Yamazaki K, Isobe M : Low Back Pain Caused by Superior Cluneal Nerve Entrapment Neuropathy in Patients with Parkinson Disease. *World Neurosurg* 2016 ; 87 : 250-254.
- 9) Iwamoto N, Kim K, Isu T, Chiba Y, Morimoto D, Isobe M : Repetitive Planter Flexion Test as an Adjunct Tool for the Diagnosis of Common Peroneal Nerve Entrapment Neuropathy. *World Neurosurg* 2016 ; 86 : 484-489.
- 10) Sekine T, Takagi R, Amano Y, Murai Y, Orita E, Matsumura Y, Kumita S : 4D flow MRI assessment of extracranial-intracranial bypass : qualitative and quantitative evaluation of the hemodynamics. *Neuroradiology* 2016 ; 58 (3) : 237-244.
- 11) 石井雄道, 寺本 明, 田原重志, 森田明夫, 松野 彰 : 画像診断に沿った下垂体腺腫の摘出戦略. *CI研究* 2015 ; 37 (1) : 9-13.
- 12) Shun S¹⁾, Chengzhu Y¹⁾, Akira T¹⁾, Yasuo S¹⁾, Masakatsu K¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School) : Sexually dimorphic modulation of GABAA receptor currents by melatonin in rat gonadotropin-releasing hormone. *Journal of physiology* 2008 ; 58 : 317-322.

追加症例報告 :

- 1) Etminan N, Morita A, Juvela S : Author Response. *Neurology.* 2016 ; 86 (8) : 793.
- 2) Matano F, Murai Y, Mizunari M, Tateyama K, Kobayashi S, Adachi K, Kamiyama H, Morita A, Teramoto A : Olfactory preservation during anterior interhemispheric approach for anterior skull base lesions : technical note. *Neurosurg Rev.* 2016 ; 39 (1) : 63-69.

追加解説 :

- 1) 田原重志¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 下垂体腫瘍の内視鏡下手術. *日本医師会雑誌* 2016 ; 144 (10) : 2102-2103.

著 書

追加分 :

- 1) 山口文雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 脳神経外科) : [分担] 転移性脳腫瘍 : 肺がんからの転移・特集 : 脳腫瘍—診断と治療. *ライフライン 21 がんの先進医療 Vol.20* ((株) 葎書房), 2016 ; pp34-37, 星雲社.
- 2) 森田明夫, 楚良繁雄, 光石 衛 : [追加分] ロボットとバイパス術 ロボットの microsurgery への応用と科学的手術手技評価. *新NS NOW No.1 バイパス術のすべて 次世代への技術の継承* (担当編集委員 : 森田明夫 編集委員 : 森田明夫・伊達 勲・菊田健一郎), 2015 ; pp134-143, (株) メジカルビュー社.
- 3) 田原重志¹⁾, 森田明夫 (¹⁾ 日本医科大学 脳神経外科) : [共著] 特集 脳腫瘍 : 標準治療と先進医療 (パート1) (3) 脳下垂体腺腫の診断と治療. *ライフライン 21 がんの先進医療 Vol.20* ((株) 葎書房), 2016 ; pp22-25, 星雲社.

学会発表

追加分教育講演 :

- 1) 太組一朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 武蔵小杉病院 脳神経外科) : 脳神経外科医が遭遇するてんかん診療の実際. *日本てんかん外科学会* (第39回) : てんかん外科の visualization (宮城), 2016. 1.
- 2) 森田明夫 : MVDの基本と合併症の回避 : 福島先生から学んだこととその後の展開. *日本神経血管減圧術学会* (第18回), 2016. 1.
- 3) 喜多村孝幸 : 神経内視鏡手術の歩みと将来. *神奈川脳神経外科手術手技研究会* (第24回), 2016. 1.
- 4) 金 景成 : 頸椎手術の留意点, 合併症 (金属固定を含む). *AOSpine Operating Room Personnel Course*, 2016. 3.
- 5) 金 景成 : 腰椎後方固定術. 実技指導. *AOSpine Operating Room Personnel Course*, 2016. 3.

追加分一般講演 :

- 1) 井手口稔 : 外科的処置により改善可能な認知症. *Cerebral and Cardiac Disease Seminar* (第3回) (東京), 2016. 3.
- 2) 石坂栄太郎 : 幼児の頭蓋内穿通外傷の検討. *救急学術講演会* (東京), 2016. 3.
- 3) 服部裕次郎^{1,2)}, 石井寛高¹⁾, 渡部 寛^{1,3)}, 森田明夫²⁾, 小澤一史¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 解剖学・神経生物学, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学整形外科) : C末端欠損型エストロゲン受容体 α 変異体の恒常的活性化機構の解析. *日本解剖学会 総会・全国学術集会* (第121回) (福島), 2016. 3.
- 4) 喜多村孝雄 : 術前の画像所見で特徴的な所見を呈した pituitaryoma の3症例. *日本間脳下垂体腫瘍学会* (第26回) (福島), 2016. 2.

- 5) Morita A¹⁾, Tominari S²⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, ²⁾ Kyoto University) : Size Ratio Can Be A Strong Predictor For Future Rupture Of The Unruptured Cerebral Aneurysms. International Stroke Conference 2016 (Los Angeles, USA), 2016. 2.
 - 6) 石坂栄太郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 術前診断に苦慮したメッケル腔腫瘍. 第24回文京脳腫瘍研究会 (東京), 2016. 2.
 - 7) 野崎俊樹¹⁾, 太組一朗²⁾, 饒波正博³⁾, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科, ³⁾ 沖縄赤十字病院 脳神経外科) : 当院における迷走神経刺激装置植え込み術の工夫. 日本てんかん外科学会 - てんかん外科のvisualization- (第39回) (宮城), 2016. 1.
 - 8) 亦野文宏¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院) : Concomitant vein を用いた Radial artery 再建術の工夫. 手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファランス (第3回) (東京), 2016. 1.
 - 9) 大山健一^{1, 2)}, 田原重志²⁾, 石井雄道^{1, 2)}, 渡邊丈博¹⁾, 廣畑倫生¹⁾, 勝野 亮¹⁾, 喜多村孝幸²⁾, 松野 彰¹⁾, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 帝京大学医学部脳神経外科/下垂体・内視鏡手術センター, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 3D内視鏡システムを用いた経鼻頭蓋底手術. 脳神経外科手術と機器学会 (CNTT) (第25回) (新潟), 2016. 3.
 - 10) 木暮一成¹⁾, 山崎道生¹⁾, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 井須豊彦³⁾, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科, ³⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 頸椎症に対する手術手技の基本: 最新の Basket plate を用いた縦割式椎弓形成術を中心に. 脳神経外科手術と機器学会 (CNTT) (第25回) (新潟), 2016. 3.
 - 11) 梅岡克哉¹⁾, 田草川豊²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫³⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 厚生中央病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 蛇行した椎骨・脳底動脈による三叉神経痛の手術工夫. 脳神経外科手術と機器学会 (CNTT) (第25回) (新潟), 2016. 3.
 - 12) 亦野文宏¹⁾, 水成隆之¹⁾, 村井保夫²⁾, 谷川緑野³⁾, 上山博康³⁾, 玉置智規²⁾, 立山幸次郎²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明²⁾, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科, ³⁾ 禎心会病院脳神経外科) : 動脈硬化性病変に対する STA-MCA bypass 術後過還流症候群の危険因子術中大脳動脈圧モニタリングの有用性. 脳神経外科手術と機器学会 (CNTT) (第25回) (新潟), 2016. 3.
 - 13) 久保田麻紗美¹⁾, 水成隆之¹⁾, 亦野文宏¹⁾, 藤木 悠¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科) : Orbito-cranial approach の有用性とその適応. 脳神経外科手術と機器学会 (CNTT) (第25回) (新潟), 2016. 3.
 - 14) 山口文雄¹⁾, 展 広智¹⁾, 樋口直司¹⁾, 大村朋子²⁾, 足立好司³⁾, 喜多村孝幸³⁾, 小林士郎²⁾, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科) : 覚醒下脳腫瘍摘出術における腫瘍摘出前言語関連線維同定の試み. ニューロ・オンコロジーの会 (第50回) (東京), 2016. 3.
 - 15) 阿部雅志, 池亀 敏, 加藤丈司, 國保倫子, 金 景成, 小林士郎, 森田明夫 : 拡散テンソルを用いた腓骨神経描出の試み. 日本脳神経 CI 学会 (第39回), 2016. 1.
 - 16) 大村朋子, 小林士郎 : 急性期病院における小児脳腫瘍の実際. 千葉小児脳腫瘍研究会 (第1回), 2016. 2.
 - 17) 山田敏雅, 足立好司, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸 : 頭部外傷を契機に出血発症した頭蓋内胚細胞性腫瘍の1例. 神奈川脳腫瘍フォーラム (第31回), 2016. 3.
 - 18) 村井保夫 : ハイフローバイパスと Blister IC 動脈瘤への応用. Hybrid Neurosurgery 研究会 (第3回), 2016. 3.
 - 19) 水成隆之, 亦野文宏, 久保田麻紗美, 玉置智規, 村井保夫, 立山幸次郎, 瀬瀬健太, 山田敏雅, 小林士郎, 森田明夫 : RA グラフト術を安全確実に行うための種々のチェックポイント. 脳神経外科手術と機器学会 (CNTT) (第25回), 2016. 3.
 - 20) 村井保夫, 森田明夫, 水成隆之 : 血管縫合以外で脳血行再建で注意すること: 虚血性合併症を回避するために. 脳神経外科手術と機器学会 (CNTT) (第25回), 2016. 3.
 - 21) 亦野文宏, 水成隆之, 村井保夫, 谷川緑野, 上山博康, 小林士郎, 森田明夫 : 動脈硬化性病変に対する術中大脳動脈圧測定. 脳神経外科手術と機器学会 (CNTT) (第25回), 2016. 3.
 - 22) 田原重志 : 内視鏡下経鼻の手術時に内頸動脈損傷をきたした1例. 関東経鼻内視鏡手術セミナー (第1回), 2016. 3.
- 追加分シンポジウム :
- 1) 田原重志 : 下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻の手術後の低ナトリウム血症についての検討. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第26回) (福島), 2016. 2.
 - 2) 太組一朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科) : 経シルビウス裂選択的扁桃体海馬摘出術を安全に始めるために. 日本てんかん外科学会 (第39回) (宮城), 2016. 1.
 - 3) 村井保夫¹⁾, 森田明夫¹⁾, 水成隆之¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科) : 血管縫合以外で脳血行再建で注意すること: 虚血性合併症を回避するために. 脳神経外科手術と機器学会 (CNTT) (第25回) (新潟), 2016. 3.
 - 4) 水成隆之¹⁾, 亦野文宏¹⁾, 久保田麻紗美¹⁾, 玉置智規²⁾, 村井保夫²⁾, 立山幸次郎²⁾, 瀬瀬健太²⁾, 山田敏雅²⁾, 小林士郎¹⁾, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科) : RA グラフト術を安全確実に行うための種々のチェックポイント. 脳神経外科手術と機器学会 (CNTT) (第25回) (新潟), 2016. 3.

追加分セミナー：

- 1) 田原重志：内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術：腫瘍摘出のコツと合併症回避の工夫。日本間脳下垂体腫瘍学会（第26回）（福島），2016. 2.
- 2) 村井保夫¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科）：ハイフローバイパスとBlister IC動脈瘤への応用。Hybrid Neurosurgery研究会（第3回）（東京），2016. 3.

追加分招待講演：

- 1) Yamaguchi F¹⁾, Ten H¹⁾, Higuchi T¹⁾, Omura T¹⁾, Adachi K¹⁾, Morita A¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, JAPAN）：Early and precise identification of neural tracts defines safety limit of resection in eloquent area tumor. 2016 Harbin international neurosurgery summit forum (The second affiliated hospital of Harbin medical university, Harbin, China.), 2016. 1.

追加分討論：

- 1) 村井保夫¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科）：Paracaloid ICA aneurysm 開頭術か血管内治療か 3. 大型動脈瘤。Hybrid Neurosurgery研究会（第3回）（東京），2016. 3.

追加分特別講演：

- 1) 金 景成，國保倫子：脳神経外科からみた腰下肢痛。Chronic pain seminar, 2016. 2.
- 2) 金 景成，國保倫子：手足のしびれと腰痛：プライマリケアにおける対応のポイント。かかりつけ医のための神経障害性疼痛セミナー，2016. 3.

[武蔵小杉病院脳神経外科]

研究概要

武蔵小杉病院脳神経外科は、脳神経外科各分野における国内有数のエキスパートからなるスタッフで構成されており、川崎市および神奈川県東部の中核的の大学付属病院としての地域からの信頼を得て診療を行ってきた。各スタッフの専門領域は、神経内視鏡手術（脳腫瘍（脳室内腫瘍）、水頭症、嚢胞性疾患、脳内出血）、特発性正常圧水頭症・脳脊髄液減少症の病態解析と診断・治療法の確立、難治性頭痛および中枢性疼痛の病態解析と診断・治療（喜多村孝幸病院教授、部長）、「悪性脳腫瘍の集学的治療、小児神経外科、音楽療法（足立好司准教授）」、「機能的脳神経外科（てんかん・パーキンソン病の外科治療）（太組一朗講師、医長）」、「治療困難な脳血管障害（未破裂/破裂脳動脈瘤、閉塞性脳血管障害）・頭蓋底良性腫瘍（聴神経腫瘍、髄膜腫等）の外科治療（立山幸次郎病院講師、医局長）」であり、各々の分野で臨床研究の中核施設となっている。現在の研究課題として、1) 内視鏡下脳内血腫除去の有用性の確立、2) 脳脊髄液減少症の診断と治療法の確立（厚生労働省研究班分担研究者）、3) 分子生物学的手法を用いた脳腫瘍のサイトカインによる治療機構の解析、4) 神経疾患に対する免疫療法の臨床応用、5) ビデオ脳波モニタリングを用いたてんかん発症様式の解析、6) 新規抗てんかん薬の治療効果解析、7) 片頭痛治療の新薬開発を進めている。なお、喜多村孝幸病院教授は、平成28年11月17、18日に、第23回日本神経内視鏡学会（会員数2300名、参加者数1000名）を主催し、成功裡に終了した。また今年度、神奈川県脳神経外科研究会会長（参加者100名）、川崎市脳神経外科研究会会長（参加者50名）、京浜脳神経外科懇話会（参加者40名）も務め、地域の脳神経外科医療の発展に貢献した。

研究業績

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 喜多村孝幸，立山幸次郎，廣中浩平，太組一朗，足立好司，佐藤 俊¹⁾，森田明夫¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科）：低髄液圧症候群/脳脊髄液減少症/脳脊髄液漏出症の診断・治療の現状とガイドライン作成に向けて。日本脳神経外科学会学術総会（75）（福岡），2016. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 廣中浩平，山崎吉之¹⁾，平井幸彦¹⁾，山本基子¹⁾，三宅紀子¹⁾，三宅弘一¹⁾，島田 隆¹⁾，岡田尚巳¹⁾，喜多村孝幸，森田明夫²⁾ ⁽¹⁾ 生化学・分子生物学（分子遺伝学）講座，²⁾ 付属病院脳神経外科）：アデノ随伴ウイルスベクターの脳室内注入による異染性白質ジストロフィーモデルマウスの脳脊髄液中への酵素補充療法。日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 10.
- 2) 廣中浩平，太組一朗，大橋 豊¹⁾，喜多村孝幸，森田明夫²⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院理学療法室，²⁾ 付属病院脳神経外科）：当院における定位機能手術の工夫：術者として手術を開始した6例の経験から。新三水会（第10回）（東京），2016. 10.
- 3) 廣中浩平，太組一朗，大橋 豊¹⁾，喜多村孝幸，森田明夫²⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院理学療法室，²⁾ 付属病院脳神経外科）：当院における定位機能手術の工夫：術者として手術を開始した6例の経験から。日本定位・機能神経外科学会（第56回）（大阪），2017. 1.
- 4) Higuchi T¹⁾，Yamaguchi F¹⁾，Asakura T¹⁾，Ju D¹⁾，Adachi K，Kitamura T，Morita A¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School）：Effect of sonodynamic therapy with 5-aminolevulinic acid on malignant gliomas. AANS annual scientific

- meeting (84) (Chicago, Illinois, USA), 2016. 4.
- 5) Higuchi T¹⁾, Yamaguchi F¹⁾, Asakura T¹⁾, Ju D¹⁾, Adachi K, Kitamura T, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School) : Effect of sonodynamic therapy with 5-aminolevulinic acid on malignant gliomas. Congress of neurological surgeons 2016 annual meeting (San Diego, California, USA), 2016. 4.
 - 6) 立山幸次郎, 山田敏雅, 村井保夫¹⁾, 太組一朗, 足立好司, 水成隆之²⁾, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : Transcondylar approach による椎骨動脈瘤手術, OA-PICA 吻合術の基本術式とピットフォール. 日本脳卒中学会 (41) (札幌), 2016. 4.
 - 7) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科) : 錐体路近傍腫瘍に対する当院での治療経験: QOL 向上を目指して. 千駄木脳腫瘍研究会 (6) (川崎), 2016. 4.
 - 8) 山田敏雅, 立山幸次郎, 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科) : MRA-BeamSat 法による頸部内頸動脈狭窄症例の検討: 術前にシャント必要例を診断できるか. 日本脳ドック学会 (25) (軽井沢), 2016. 6.
 - 9) 大村朋子¹⁾, 山口文雄²⁾, 足立好司, 小林士郎¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科) : 抗腫瘍薬が有効であった PNET の 1 例. 東京脳腫瘍治療懇話会 (31) (東京), 2016. 6.
 - 10) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 鞠 東輝¹⁾, 展 広智¹⁾, 大村朋子²⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : 悪性グリオーマ細胞に対する 5-ALA を用いた音響化学療法. 東京脳腫瘍懇話会 (31) (東京), 2016. 6.
 - 11) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 大村朋子²⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : 悪性グリオーマ細胞に対する 5-ALA を用いた音響化学療法の新たな展望. 日本脳神経外科光線力学学会 (12) (東京), 2016. 6.
 - 12) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 大村朋子²⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : 治療に難渋した小脳脚病変の症例. 文京脳腫瘍研究会 (25) (東京), 2016. 7.
 - 13) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 大村朋子²⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : 認知症を契機に指摘された脳悪性リンパ腫の 1 症例. ニューロ・オンコロジーの会 (51) (東京), 2016. 8.
 - 14) 大村朋子¹⁾, 小林士郎¹⁾, 足立好司, 山口文雄²⁾, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : 中枢神経系原発悪性リンパ腫 (primary CNS lymphoma; PCNSL) の放射線治療後再発に対する RCHOP 療法の有効性. 日本脳神経外科学会学術総会 (75) (福岡), 2016. 9.
 - 15) 山口文雄¹⁾, 樋口直司¹⁾, 佐藤 俊¹⁾, 展 広智¹⁾, 足立好司, 大村朋子²⁾, 永積 渉³⁾, 宗方祐美子⁴⁾, 佐藤淳子⁴⁾, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, 3) 日本医科大学耳鼻咽喉科, 4) 日本医科大学検査科生理機能検査室) : 早期神経路同定による脳腫瘍患者の運動・言語機能温存. 日本脳神経外科学会学術総会 (75) (福岡), 2016. 9.
 - 16) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 小田一徳¹⁾, 中川俊介¹⁾, 大村朋子²⁾, 佐藤 俊¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : 脳実質内腫瘍摘出における虚血合併症の評価: 術後予測, 術中の注意点はるか. 日本脳神経外科学会学術総会 (75) (福岡), 2016. 9.
 - 17) 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸, 饒波正博¹⁾, 野崎俊樹²⁾, 森田明夫²⁾ (1) 沖縄日本赤十字病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科) : てんかん診療拠点事業 神奈川県モデルグラウンドデザイン. 日本脳神経外科学会学術総会 (75) (福岡), 2016. 9.
 - 18) 足立好司, 崎村耕二¹⁾, Deshpande G²⁾, 藤倉輝道³⁾, 安武正弘²⁾, 森田明夫⁴⁾ (1) 日本医科大学外国語学, 2) 日本医科大学総合診療科, 3) 日本医科大学医学教育センター, 4) 日本医科大学脳神経外科) : 医学生に対する OSCE 英語面接のアンケート調査: 外国人教員が加わることによる学習効果への影響. 日本脳神経外科学会学術総会 (75) (福岡), 2016. 9.
 - 19) 足立好司, 安齋眞一¹⁾, 廣中浩平, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院皮膚科) : PE 療法後の頭蓋内胚細胞腫に発生した 2 例の無汗症について. 神奈川脳腫瘍フォーラム (32) (横浜), 2016. 10.
 - 20) 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸, 岸 泰宏¹⁾, 川上康彦²⁾, 野崎俊樹¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院精神科, 2) 日本医科大学多摩永山病院小児科) : JME の診断動機. 日本てんかん学会 (50) (静岡), 2016. 10.
 - 21) 廣中浩平, 足立好司, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸: 松果体腫瘍の 1 例. キャンサーボード研究会 (45) (川崎), 2016. 10.
 - 22) 足立好司, 廣中浩平, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科) : 脳腫瘍とうつ状態について. 京浜脳神経外科懇話会 (24) (川崎), 2016. 11.
 - 23) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 大村朋子²⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : 認知症を契機に発見された脳悪性リンパ腫の 1 症例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (131) (甲府), 2016. 12.
 - 24) 足立好司, 喜多村孝幸, 山口文雄¹⁾, 森田明夫¹⁾, 高橋 弘²⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院脳神経外科) : グリオーマ細胞株に対する 7 種の proinflammatory cytokine による抗腫瘍効果の解析. 日本脳腫瘍学会 (34) (甲府),

2016. 12.

- 25) 立山幸次郎, 廣中浩平, 村井保夫¹⁾, 太組一朗, 足立好司, 水成隆之²⁾, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): Transcondylar approach による椎骨動脈瘤手術, OA-PICA 吻合術の基本術式とピットフォール. 日本脳神経外科学会学術総会 (75) (福岡), 2016. 9.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Matano F¹⁾, Adachi K, Kamiyama H²⁾, Morita A¹⁾, Teramoto A³⁾ (¹⁾ Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurosurgery, Sapporo Teishinkai Hospital, ³⁾ Department of Neurosurgery, Tokyo Rosai Hospital): Olfactory preservation during anterior interhemispheric approach for anterior skull base lesion: technical note. Neurosurg 2015; 39 (1): 63-68.
- 2) 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾, 高橋 弘²⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院脳神経外科): 1H-MRS で大きな lipid ピークを認めた van der Knaap 病. 小児の脳神経 2015; 40 (2): 189-190.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) Adachi K, Tahara S¹⁾, Higuchi T¹⁾, Yamaguchi F¹⁾, Teramoto A²⁾, Morita A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurosurgery, Tokyo Rosai Hospital): Hormonal environment and MR imaging in neurohypophyseal germinomas. International CNS germ cell tumor symposium (4) (Tokyo, Japan), 2015. 4.
- 2) Yamaguchi F¹⁾, Ten H¹⁾, Higuchi T¹⁾, Omura T²⁾, Adachi K, Kitamura T, Morita A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Chiba-Hokuso Hospital): Recognition of neural tracts in brain tumor surgery for patients' quality of life and medical safety. International Neurosurgery Summit Forum (2) (Taipei, Taiwan), 2015. 3.
- 3) Higuchi T¹⁾, Yamaguchi F¹⁾, Asakura T¹⁾, Ju D¹⁾, Adachi K, Kitamura T, Morita A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School): Effect of sonodynamic therapy with 5-aminolevulinic acid on malignant gliomas. Annual scientific meeting and education day of the society for neuro-oncology (20) (San Antonio, Texas, USA), 2015. 11.
- 4) Takumi I, Nozaki T¹⁾, Adachi K, Kitamura T, Morita A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School): Diagnostic motivations in JME. Annual meeting of the American epilepsy society meeting (69) (Philadelphia, Pennsylvania, USA), 2015. 12.
- 5) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 展 広智¹⁾, 大村朋子²⁾, 森本大二郎¹⁾, 足立好司, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): 錐体路近傍悪性腫瘍に対する治療方針. 東京脳腫瘍治療懇話会 (28) (東京), 2015. 1.
- 6) 太組一朗, 野崎俊樹¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾, 渡辺英寿¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科): 経シルヴィウス裂到達法による選択的海馬扁桃体摘出術におけるナビゲーションを用いた下角進入法の検討. 日本てんかん外科学会 (28) (東京), 2016. 1.
- 7) 野崎俊樹, 太組一朗, 立山幸次郎, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科): 地域医療におけるてんかん外科医療の位置づけ: 意思を対象とした川崎市における調査. 日本てんかん外科学会 (38) (東京), 2015. 1.
- 8) 足立好司, 太組一朗, 日高可奈子, 馬場栄一, 立山幸次郎, 喜多村孝幸: 海馬神経膠腫の手術症例. 神奈川脳腫瘍フォーラム (29) (横浜), 2015. 3.
- 9) 立山幸次郎, 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科): 当科での CEA の基本術式とトラブル事例から学ぶ考察. 日本脳卒中学会 (40) (広島), 2015. 3.
- 10) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 展 広智¹⁾, 大村朋子²⁾, 森本大二郎¹⁾, 足立好司, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): 膠芽腫患者の機能温存を重視したベバシズマブ使用 2 自験例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (126) (東京), 2015. 4.
- 11) 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾, 高橋 弘²⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院脳神経外科): 1H-MRS で lipid peak を認めた van der Knaap 病. 日本小児神経外科学会 (43) (下関), 2015. 6.
- 12) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 展 広智¹⁾, 大村朋子²⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): グリオーマと超音波治療. 千駄木脳腫瘍研究会 (5) (川崎), 2015. 6.
- 13) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 鞠 東輝¹⁾, 展 広智¹⁾, 大村朋子²⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): 悪性グリオーマ細胞に対する 5-ALA を用いた音響化学療法の可能性. 日本脳神経光線力学学会 (11) (東京), 2015. 7.

- 14) 馬場栄一, 足立好司, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): TMZ 治療終了後に腫瘍再増大をきたした症例の検討. ニューロ・オンコロジーの会 (49) (東京), 2015. 8.
- 15) 立山幸次郎, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 硬膜転移をきたした子宮筋肉腫の1例. 脳腫瘍の外科学会 (20) (名古屋), 2015. 9.
- 16) 足立好司, 崎村耕二¹⁾, Despande G²⁾, 藤倉輝道³⁾, 安武正弘²⁾, 伊藤保彦⁴⁾, 森田明夫⁵⁾ (1) 日本医科大学外国語学, 2) 日本医科大学総合診療科, 3) 日本医科大学医学教育センター, 4) 日本医科大学小児科, 5) 日本医科大学脳神経外科): 医学生に対する英語による OSCE 医療面接のアンケート調査: 邦人教員と外国人 SP による試み. 日本脳神経外科学会学術総会 (74) (札幌), 2015. 10.
- 17) 山口文雄¹⁾, 樋口直司¹⁾, 展 広智¹⁾, 野崎俊樹¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 大村朋子²⁾, 玉置智規³⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 野手洋治³⁾, 小林士郎²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科): 安全な脳腫瘍手術を目指した白質機能局在把握. 日本脳神経外科学会学術総会 (74) (札幌), 2015. 10.
- 18) 太組一朗, 饒波正博¹⁾, 野崎俊樹, 足立好司, 喜多村孝幸, 渡辺英寿²⁾, 森田明夫²⁾ (1) 沖縄日本赤十字病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 経シルヴィウス裂到達法による選択的海馬扁桃摘出術を安全確実にを行うための我々の工夫. 日本脳神経外科学会学術総会 (74) (札幌), 2015. 10.
- 19) 馬場栄一, 立山幸次郎, 足立好司, 太組一朗, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): MRA-BeamSat 法による頸部内頸動脈狭窄症の検討: 術前にシャント必要例を診断できるか. 日本脳神経外科学会学術総会 (74) (札幌), 2015. 10.
- 20) 立山幸次郎, 馬場栄一, 太組一朗, 足立好司, 村井保夫¹⁾, 水成隆之²⁾, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): Transcondylar approach による椎骨動脈瘤手術: OA-PICA 吻合術の基本術式とピットフォール. 日本脳神経外科学会学術総会 (74) (札幌), 2015. 10.
- 21) 馬場栄一, 足立好司, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 退形成性星細胞腫の摘出範囲に比して重篤な症状を呈した BCNU wafer 留置症例. 神奈川脳腫瘍フォーラム (30) (横浜), 2015. 10.
- 22) 太組一朗, 野崎俊樹, 岸 泰広¹⁾, 川上康彦²⁾, 饒波正博³⁾, 嘉手川淳³⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院精神科, 2) 日本医科大学多摩永山病院小児科, 3) 沖縄日本赤十字病院脳神経外科, 4) 日本医科大学脳神経外科): JME の診断動機. 日本てんかん学会 (49) (長崎), 2015. 10.
- 23) 野崎俊樹, 太組一朗, 立山幸次郎, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 地域医療におけるてんかん外科医療の現状. 日本てんかん学会 (49) (長崎), 2015. 10.
- 24) 足立好司, 山口文雄¹⁾, 樋口直司¹⁾, 喜多村孝幸, 高橋 弘²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): グリオーマ細胞株に対する 7 種の proinflammatory cytokine による抗腫瘍効果の解析. 日本脳腫瘍学会 (49) (京都), 2015. 12.
- 25) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 鞠 東輝¹⁾, 展 広智¹⁾, 大村朋子²⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 悪性グリオーマ細胞に対する 5-ALA を用いた音響化学療法の効果についての検討. 日本脳腫瘍学会 (49) (京都), 2015. 12.
- 26) 山田敏雅, 足立好司, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸: 頭部外傷を契機に出血発症した頭蓋内胚細胞性腫瘍の1例. 神奈川脳腫瘍フォーラム (31) (横浜), 2016. 3.
- 27) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 大村朋子²⁾, 森本大二郎¹⁾, 佐藤 俊¹⁾, 足立好司, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): 摘出不能の神経膠芽腫に対し集学的治療が奏功した2症例. 東京脳腫瘍治療懇話会 (30) (東京), 2016. 2.
- 28) 日高可奈子¹⁾, 足立好司, 高山幸芳¹⁾, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院言語療法室): 海馬を中心とした脳腫瘍患者における高次脳機能の長期経過. ニューロ・オンコロジーの会 (50) (東京), 2016. 3.

追加分特別講演:

- 1) Yamaguchi F¹⁾, Ten H¹⁾, Higuchi T¹⁾, Omura T²⁾, Adachi K, Kitamura T, Kobayashi S²⁾, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Chiba-Hokuso Hospital): Intraoperative identification of motor and language function by a simple method “pile driving technique”: for saving time, money and patients’life. Annual Congress of the Taiwan Neurosurgical Society (Tamsui, Taiwan), 2015. 12.
- 2) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 脳腫瘍の集学的治療. I-BT 研究会 (3) (川崎), 2015. 6.
- 3) Yamaguchi F¹⁾, Hiroto T¹⁾, Higuchi T¹⁾, Omura T²⁾, Adachi K, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Neurological Surgery, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School): Early and precise identification of neural tracts defines safety limit of resection in eloquent area tumor. International Neurosurgery Summit Forum (Harbin, China), 2016. 1.

[多摩永山病院脳神経外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 木暮一成¹⁾, 玉置智規¹⁾, 太組一朗²⁾, 山崎道生¹⁾, 野手洋治¹⁾, 森田明夫³⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 武蔵小杉病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学 脳神経外科) : 1 椎間頸椎前方固定術における習慣的ドレーン留置の不要性. 日医大医学会誌 2016 ; 12 (1) : 34.
- 2) Tamaki T¹⁾, Kubota M²⁾, Node Y¹⁾, Morita A³⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 2) Central clinical laboratory, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Continuous Vagus Nerve Monitoring during Carotid Endarterectomy. Open Journal of Modern Neurosurgery 2016 ; 7 (1) : 1-9.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 木暮一成¹⁾, 玉置智規¹⁾, 山崎道生¹⁾, 野手洋治¹⁾, 井須豊彦³⁾, 森田明夫²⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 釧路ろうさい病院 脳神経外科) : 最新の Basket plate を用いた縦割式椎弓形成術手技の基本と工夫 (頸椎手術の基本). 日本脊椎外科学会 (第 31 回) (東京都港区), 2016. 6.
- 2) 木暮一成¹⁾, 森田明夫²⁾, 井須豊彦³⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 釧路ろうさい病院 脳神経外科) : 頸椎椎弓形成術にチタン製スパーサーを用いる意義 (脊椎変性疾患手術の工夫と革新①). 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (第 23 回) (北海道札幌市), 2016. 9.
- 3) 木暮一成¹⁾, 森田明夫²⁾, 井須豊彦³⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 釧路ろうさい病院 脳神経外科) : 報告の絶えない頸椎前方固定術合併症の克服 : 特に嘔声を中心に (合併症・続発症を克服する②). 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (第 23 回) (北海道札幌市), 2016. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦³⁾, 森田明夫²⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 釧路ろうさい病院 脳神経外科) : 頸椎椎間板障害, 特に根症状に対する手術 : 前方と後方の比較. 日本脊椎外科学会 (第 31 回) (東京都港区), 2016. 6.
- 2) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦³⁾, 森田明夫²⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 釧路ろうさい病院 脳神経外科) : 後頸部痛で発症した後頸部 intramuscular lipoma の 1 例. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2016 (大阪府大阪市), 2016. 7.
- 3) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦³⁾, 森田明夫²⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 釧路ろうさい病院 脳神経外科) : 高齢者変形性頸椎症に対する手術 (頸椎疾患 : 工夫・管理). 日本脳神経外科学会 (第 75 回) (福岡県福岡市), 2016. 9.
- 4) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦²⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 釧路ろうさい病院 脳神経外科) : 後頸部後頭部痛のみを主訴とする症例. 日本脊髄障害医学会 (第 51 回) (千葉県千葉市), 2016. 11.
- 5) 山崎道生¹⁾, 玉置智規¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科) : 髄膜腫内に転移した乳癌の 1 例. 日本脳神経 CI 学会総会 (第 40 回) (鹿児島県鹿児島市), 2017. 3.
- 6) 玉置智規¹⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科) : 脳卒中の予防と治療. ベネッセスタイルケア市民講座 (2016 年度) (東京都多摩市), 2017. 1.
- 7) 玉置智規¹⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科) : 脳梗塞の外科治療. 2016 年度南多摩地域脳卒中連携協議会 (第 8 回) (東京都多摩市), 2016. 10.
- 8) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 水成隆之²⁾, 森田明夫³⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 千葉北総病院 脳神経センター, 3) 日本医科大学 脳神経外科) : CEA 後嘔声の考察. 日本脳卒中学会総会 (第 41 回) (北海道札幌市), 2016. 4.
- 9) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 斎藤寛浩²⁾, 山崎道生¹⁾, 鈴木雅規³⁾, 梅岡克哉³⁾, 水成隆之³⁾, 森田明夫⁴⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 札幌禎心会病院 脳神経外科, 3) 千葉北総病院 脳神経センター, 4) 日本医科大学 脳神経外科) : CEA 術後創部出血の検討. 日本脳神経外科学会 (75 回学術総会) (福岡県福岡市), 2016. 9.
- 10) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科) : 脳血栓患者の頸動脈狭窄症と血流依存性血管拡張反応. 日本脳ドック学会総会 (第 25 回) (長野県北佐久郡軽井沢町), 2016. 6.
- 11) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科) : CEA と癌. 多摩脳神経研究会

- (第5回)(東京都多摩市), 2016. 5.
- 12) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 水成隆之²⁾, 森田明夫³⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 千葉北総病院 脳神経センター, 3) 日本医科大学 脳神経外科): 19年間におけるCEAの変遷. 日本脳卒中学会総会(第42回)(大阪府大阪市), 2017. 3.
- 13) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 水成隆之²⁾, 森田明夫³⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 千葉北総病院 脳神経センター, 3) 日本医科大学 脳神経外科): CEA術後創部出血の検討. 日本脳卒中学会総会(第42回)(大阪府大阪市), 2017. 3.
- 14) 玉置智規¹⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科): 脳卒中についての最近の知見. ストップ! NO脳卒中講演会(東京都多摩市), 2016. 9.
- 15) 白銀一貴^{1,3)}, 野村素弘¹⁾, 馬場栄一^{1,3)}, 服部裕次郎³⁾, 杉山 誠¹⁾, 立澤孝幸¹⁾ (1) 関東労災病院 脳神経外科, 2) 関東労災病院 神経内科, 3) 日本医科大学 付属病院): 当院における急性期脳主幹動脈閉塞症に対する血管内治療成績. NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会(第32回)(兵庫県神戸市), 2016. 11.
- 16) 白銀一貴¹⁾, 立山幸次郎²⁾, 村井保夫³⁾, 玉置智規⁴⁾, 森田明夫³⁾ (1) 関東労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 4) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科): 急激な経過をたどり治療に難渋した髄膜腫2症例. 南十字星脳神経外科手術研究会(第7回)(沖縄県宮古島市), 2016. 7.
- 17) 白銀一貴¹⁾, 鈴木雅規²⁾, 森田明夫³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, 2) 千葉北総病院 脳神経センター, 3) 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 術中塞栓を起こした高齢者多発脳動脈瘤の1例. 近畿脳神経外科ワークショップ, 2017. 1.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) 玉置智規¹⁾, 山崎道生¹⁾, 野手洋治¹⁾, 齋藤寛浩²⁾, 梅岡克哉³⁾, 鈴木雅規³⁾, 水成隆之³⁾, 森田明夫³⁾ (1) 多摩永山病院 脳神経外科, 2) 禎心会病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学 脳神経外科): 頸動脈内膜摘出術を必要とした頸動脈狭窄症とがんの関連性. 脳卒中の外科 2015; 43 (3): 188-192.

[千葉北総病院脳神経外科]

研究概要

開院23年目を迎えた千葉北総病院脳神経外科は、付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、ガンマナイフ、脳血管内手術、脊髄脊椎外科、機能的脳神経外科を中心とした臨床および基礎的研究を行った。①脳血管障害: RA graft手術における注意点、脳動脈瘤クリッピング術における工夫の報告を行った。②頭部外傷: 外傷性脳動脈瘤と外傷性内頸動脈海綿静脈洞瘻について報告した。③脳腫瘍: 当院における小児脳腫瘍の現状を報告、放射線治療後に再発した悪性リンパ腫に対する化学療法について報告を行った。④ガンマナイフ: 脳動静脈奇形に対して、血管内治療と組み合わせた治療を行った。⑤脳血管内治療: 脊髄動静脈奇形や動静脈瘻に対する血管内治療方法の報告、DSA装置の問題点について報告した。⑥脊髄・脊椎外科: 難治性腰痛・下肢痛に対する手術方法を報告、末梢神経障害のモニタリングについての研究を行った。⑦機能的脳神経外科: 難治性三叉神経痛の手術戦略について報告、てんかんの基礎的研究を行った。⑧日本脳卒中協会千葉県支部: 脳卒中急性期のstroke bypassを構築する目的で、脳卒中急性期病院、行政、救急隊員に呼びかけて設立した千葉県脳卒中急性期医療協議会を継続して運営した。一般病院にてrt-PAの静注を行いながら、当院へ患者を搬送する「drip and ship」事業を継続し、「Chiba drip and heli system」構築の準備を開始した。千葉県各地で脳卒中市民公開講座を開講した。「脳卒中対策基本法」の名称を「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法案(仮称)」(脳卒中・心臓病他循環器病対策基本法案)と変更し、現在国会にて再発議準備中である。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kim K, Isu T¹⁾, Iwamoto N¹⁾, Morimoto D²⁾, Isobe M¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Decompression of the gluteus medius muscle as a new treatment for buttock pain. technical note. Eur Spine J 2016; 25: 1282-1288.
- 2) Matano F, Mizunari T, Koketsu K, Fujiki Y, Kubota A, Kobayashi S, Murai Y¹⁾, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School): Protection device made of a modified syringe for muscle protection during cranial perforation: Technical note. World Neurosurg 2016; 89: 33-36.
- 3) Kokubo R, Kim K, Isu T¹⁾, Morimoto D²⁾, Iwamoto N¹⁾, Kobayashi K, Morita A²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): The impact of tarsal tunnel syndrome to cold sensation

in the pedal extremities. *World Neurosurg* 2016 ; 92 : 249-254.

- 4) Kokubo R, Kim K, Isu T¹⁾, Morimoto D²⁾, Iwamoto N³⁾, Kobayashi K, Morita A²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, 3) Department of Neurosurgery, Teikyo University School of Medicine) : Superior cluneal nerve entrapment neuropathy and gluteus medius muscle pain : Their effect on very old patients with low back pain. *World Neurosurg* 2016 ; 98 : 132-139.
- 5) Matano F, Murai Y¹⁾, Mizunari T, Tateyama K¹⁾, Koketsu K¹⁾, Tankikawa R²⁾, Kamiyama H³⁾, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Teishinkai Hospital) : Recovery of visual and ophthalmologic symptoms after treating large or giant internal carotid artery aneurysm by high-flow bypass with cervical ligation. *World Neurosurg* 2016 ; 98 : 182-188.
- 6) Matano F, Murai Y¹⁾, Tateyama K²⁾, Tamaki T²⁾, Mizunari T, Matsukawa H³⁾, Teramoto A¹⁾, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospita, 3) Department of Neurological Surgery, Teishinkai Hospital) : Long-term patency of superficial temporal artery to middle cerebral artery bypass for cerebral atherosclerotic disease : factors determining the bypass patent. *Neurosurg Rev* 2016 ; 39 (4) : 655-661.
- 7) Matano F, Mizunari T, Kominami S, Suzuki M, Fujiki Y, Kubota A, Kobayashi S, Murai Y¹⁾, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School) : Retrograde suction decompression of a large internal carotid aneurysm using a balloon guide catheter combined with a blood returning circuit and STA-MCA bypass : a technical note. *Neurosurg Rev* 2016 ; 40 (2) : 351-355.
- 8) Matano F, Murai Y¹⁾, Tanikawa R³⁾, Kamiyama H³⁾, Tateyama K¹⁾, Tamaki T¹⁾, Mizunari T, Mizumura S²⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A¹⁾, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Radiology, Toho University Omori Medical Center, 3) Department of Neurosurgery, Teishinkai Hospital) : Intraoperative middle cerebral artery pressure measurements during superficial temporal artery to middle cerebral artery bypass procedure in patients with cerebral atherosclerotic disease. *Journal of Neurosurgery* 2016 ; 125 (6) : 1367-1373.
- 9) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 江本直也²⁾, 國保倫子, 森本大二郎³⁾, 岩本直高¹⁾, 小林士郎, 森田明夫³⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内分泌内科, 3) 日本医科大学脳神経外科) : 糖尿病患者にみられたしびれの原因に関する前向き検討. *脳神経外科別刷* 2016 ; 44 (4) : 297-303.
- 10) 岩本直高¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 山内朋裕¹⁾, 森本大二郎²⁾, 千葉泰弘¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院脳神経外科) : 絞扼性総腓骨神経障害に対する局所麻酔下神経剥離術. *脳神経外科速報* 2016 ; 26 (10) : 1109-1115.
- 11) Iwamoto N, Isu T, Kim K, Chiba Y, Kokubo R, Morimoto D, Shirai S, Yamazaki K, Isobe M : Low back pain caused by superior cluneal nerve entrapment neuropathy in patients with Parkinson's disease. *World Neurosurg* 2016 ; 87 (3) : 250-254.
- 12) Iwamoto N, Kim K, Isu T, Chiba Y, Morimoto D, Isobe M : Repetitive plantar flexion test as an adjunct tool for the diagnosis of common peroneal nerve entrapment neuropathy. *World Neurosurg* 2016 ; 86 (2) : 484-489.

(2) 総説 :

- 1) 金 景成, 佐々木学¹⁾, 川本俊樹²⁾, 小柳 泉³⁾ (1) 医誠会病院脳神経外科・脊椎脊髄センター, 2) 東京通信病院脳神経外科, 3) 学術委員会委員長, 北海道脳神経外科記念病院) : 日本脊髄外科学会学術委員会 (ガイドライン作成委員会) 脊椎脊髄疾患の神経症状の評価方法に関する検討. *臨床研究に用いられるスコアリングシステム. 脊髄外科* 2016 ; 30 (1) : 41-52.
- 2) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科) : 認定医—指導医のためのレビュー・オピニオン 上殿皮神経障害のレビュー. *日本脊髄外科学会機関誌「脊髄外科 SPINAL SURGERY」* 2016 ; 30 (2) : 141-145.
- 3) Roccatagliata L^{1,2)}, Kominami S, Krajina A³⁾, Sellar R⁴⁾, Soderman M⁵⁾, Van Den Berg R⁶⁾, Desal H⁷⁾, Condetta-Auliac S¹⁾, Rodesch G⁸⁾ (1) Service de Neuroradiologie Diagnostique et Thérapeutique, Hôpital Foch, 2) Department of Health Sciences (DIS-SAL), University of Genoa, 3) Department of Radiology, Faculty Hospital, 4) Center for Clinical Brain Sciences, University of Edinburgh, 5) Department of Neuroradiology, Karolinska University Hospital, 6) Department of Radiology AMC, 7) Department of Neuroradiology, University of Nantes Medical Center, 8) Service de Neuroradiologie Diagnostique et Thérapeutique, Hôpital Foch) : Spinal cord arteriovenous shunts of the ventral (anterior) sulcus : anatomical, clinical, and therapeutic considerations. *Neuroradiology* 2017 ; 59 (3) : 289-296.

(3) 症例報告 :

- 1) Kitamura T¹⁾, Morimoto D¹⁾, Kim K, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Peroneal nerve entrapment neuropathy induced by playing the drum. *Acta Neurochir* 2016 ; 158 : 967-968.
- 2) Morimoto D^{1,2)}, Isu T¹⁾, Kim K, Isobe M¹⁾, Takahashi T³⁾, Ishida Y³⁾, Takei H⁴⁾, Morita A²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, 3) Department of Pathology, Kushiro

Rosai Hospital, ⁴⁾ Department of Diagnostic Pathology, Asahikawa Medical University) : Surgical treatment for posttraumatic hemorrhage inside a filum terminale myxopapillary ependymoma : a case report and literature review. Eur Spine J 2016 ; 25 : 239-244.

著書

- 1) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科) : [分担] 突然の片麻痺にて発症した頸椎硬膜外血腫. 脳卒中症候学症例編 診療の深みを理解する, 2016 ; pp671-673, 西村書店.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 金 景成 : 脳神経外科が診る骨粗鬆症治療. 脳神経外科フォーラム (千葉), 2016. 4.
- 2) 亦野文宏 : 脳卒中の予防と外科治療. 千葉県八千代市安宅道順庵 医療講演会 (千葉), 2016. 5.
- 3) 金 景成 : 背骨の仕組み. 日本脊椎外科学会 市民公開講座 (第31回) (東京), 2016. 6.
- 4) 國保倫子, 金 景成 : 脳神経外科医も診る足底のしびれの話 : 足根管症候群の最新治療について. 印西地区医師会常会 (印西), 2016. 6.
- 5) 鈴木雅規 : 施設における ESUS の頻度, 内容. 北総循環器フォーラム (第9回) (千葉), 2016. 7.
- 6) 小林士郎 : 「脳卒中を予防しよう」 : 脳卒中を知り, 生活習慣を見直すために. 栄町まちづくり大学公開講座 いつまでも元気に暮らせるために~専門医から学ぶ (千葉), 2016. 8.
- 7) 小林士郎 : 脳卒中入門 : 脳卒中にならないために. 陸上自衛隊高射学校・下志津駐屯地「部外講和」(千葉), 2016. 10.
- 8) 亦野文宏 : 身近に潜む脳の病気とけがのお話. 千葉県八千代市安宅道順庵 医療講演会 (千葉), 2016. 5.
- 9) 金 景成 : 腰の痛み, 実は... アクア・ユウカリ友の会主催お気軽健康セミナー (千葉), 2016. 11.
- 10) 小林士郎 : 認知症について. 印西市高齢者クラブ連合会 平成28年度支え合い研修 (千葉), 2016. 12.
- 11) 小林士郎 : 脳卒中にならないために : ACT FAST が大切. 印西市立印西中学校 特色ある教育活動推進事業 健康教育講演会 (千葉), 2017. 1.
- 12) 小林士郎 : 脳卒中にならないために : ACT FAST が大切. 印西市立船穂中学校 特色ある教育活動推進事業 健康教育講演会 (千葉), 2017. 1.
- 13) 小林士郎 : 脳卒中にならないために : ACT FAST が大切. 印西市立木刈中学校 特色ある教育活動推進事業 健康教育講演会 (千葉), 2017. 2.

(2) 教育講演 :

- 1) 金 景成 : 末梢神経. 脊椎外科教育セミナー (第14回) (東京), 2016. 6.
- 2) 金 景成 : 脊髄・脊椎疾患. 日本脳神経財団主催第33回脳神経外科生涯教育研修会 (東京), 2016. 6.
- 3) 金 景成 : 頸椎手術の留意点, 合併症 (金属固定を含む). AOSpine Operating Room Personnel Course 横浜教育講演 (横浜), 2016. 9.
- 4) 金 景成 : 腰椎後方固定術 実技指導. AOSpine Operating Room Personnel Course 横浜教育講演 (横浜), 2016. 9.
- 5) 金 景成 : 末梢神経 講義及び実技指導. 愛知頭蓋底脊椎手術手技ワークショップ (第21回) (愛知), 2016. 7.
- 6) 金 景成 : 頸椎手術の留意点, 合併症 (金属固定を含む) 腰椎後方固定術, 実技指導. AOSpine Operating Room Personnel Course 横浜教育講演 (横浜), 2017. 2.

(3) シンポジウム :

- 1) 立山幸次郎¹⁾, 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 喜多村孝幸^{1,2)}, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科) : Transcondylar approach による椎骨動脈瘤手術, OA-PICA 吻合術の基本術式とピットフォール. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第45回) (札幌), 2016. 4.
- 2) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 岩本直高¹⁾, 山内朋裕, 森本大二郎²⁾, 國保倫子¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科) : 難治性腰痛に対する新たな外科治療の試み. 日本脊椎外科学会 (第31回) (東京), 2016. 6.
- 3) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成, 岩本直高¹⁾, 山崎和義²⁾, 山内朋裕²⁾, 磯部正則²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院 脳神経外科) : 上臂皮神経障害の外科的治療成績. 日本脊椎外科学会 (第31回) (東京), 2016. 6.
- 4) 小南修史, 鈴木雅規, 渡辺 玲¹⁾, 竹村 篤²⁾, 内藤 功³⁾, 小林士郎, 森田明夫⁴⁾ (1) 東京共済病院 脳神経外科, ²⁾ 青森市民病院 脳神経外科, ³⁾ 老年病研究所附属病院 脳神経外科, ⁴⁾ 日本医科大学 脳神経外科) : 脊髄動静脈奇形および脊髄硬膜動静脈瘻に対するNBCAを用いた血管内治療. 一般社団法人日本脳神経外科学会第75回学術総会 (福岡), 2016. 9.

(4) 一般講演：

- 1) 亦野文宏, 水成隆之, 久保田麻紗美, 藤木 悠¹⁾, 小林士郎¹⁾, 玉置智規¹⁾, 村井保夫¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 額綱健太¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：内頸動脈瘤に対する RA グラフト術. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
- 2) 梅岡克哉, 久保田麻紗美, 藤木 悠, 亦野文宏, 大村朋子, 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：抗凝固薬内服患者の脳出血に関する検討. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
- 3) 亦野文宏, 水成隆之, 村井保夫¹⁾, 谷川緑野²⁾, 上山博康²⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：頭蓋内還流圧測定を用いた術後過還流症候群の予測と予防の新たな試み. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
- 4) 藤木 悠, 鈴木雅規, 久保田麻紗美, 亦野文宏, 小南修史, 水成隆之, 横田裕行¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学 救急医学教室, ²⁾ 日本医科大学 脳神経外科)：急性期血栓回収療法施行例における治療時間の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 41 回) (札幌), 2016. 4.
- 5) 久保田麻紗美, 水成隆之, 亦野文宏, 藤木 悠, 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：中大脳動脈瘤に対する我々のクリップワークの特徴について. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
- 6) 久保田麻紗美, 水成隆之, 亦野文宏, 藤木 悠, 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：術中 ICG と Fluorescein の輝度定量化による比較と有用性の検討. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
- 7) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 立山幸次郎¹⁾, 亦野文宏, 白銀一貴¹⁾, 石坂栄太郎¹⁾, 井手口稔¹⁾, 築山 敦¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：Flow Alteration を用いた脳動脈瘤治療の問題点. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
- 8) 古口徳雄¹⁾, 近藤国嗣²⁾, 吉永勝訓³⁾, 小林士郎 (1) 千葉県救急医療センター 神経内科, ²⁾ 東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション科, ³⁾ 千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション科)：千葉県における急性期脳卒中患者退院先の変化. 日本脳卒中学会総会 (第 41 回) (札幌), 2016. 4.
- 9) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 梅岡克哉²⁾, 水成隆之²⁾, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学 脳神経外科)：CEA 後嗄声の考察. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
- 10) 中川俊祐¹⁾, 村井保夫¹⁾, 石坂栄太郎¹⁾, 白銀一貴²⁾, 亦野文宏, 築山 敦¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, ²⁾ 関東労災病院 脳神経外科)：FLOW800 でのカラーコードマップを用いた血管吻合の評価. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
- 11) 築山 敦¹⁾, 村井保夫¹⁾, 中川俊祐¹⁾, 石坂栄太郎¹⁾, 亦野文宏, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：蛍光輝度解析による術中血流評価における高輝度組織の周辺組織輝度への影響：FLOW800 を用いた検討. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
- 12) 山田敏雅¹⁾, 村井保夫²⁾, 石坂栄太郎²⁾, 中川俊祐²⁾, 佐藤 俊³⁾, 亦野文宏, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学 脳神経外科, ³⁾ 博慈会記念総合病院 脳神経外科)：「両側」後頭下開頭でトラッピングを行った椎骨動脈巨大血栓化動脈瘤の 1 例. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第 45 回) (札幌), 2016. 4.
- 13) 藤木 悠, 久保田麻紗美, 野崎俊樹, 亦野文宏, 國保倫子, 大村朋子, 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：Acute ischemic tandem lesion に対する Penumbra 5MAX ACE を用いた急性期血行再建. 一般社団法人日本脳神経外科学会 関東支部学術集会 (第 129 回) (東京), 2016. 4.
- 14) 梅岡克哉, 久保田麻紗美, 藤木 悠, 野崎俊樹, 亦野文宏, 國保倫子, 大村朋子, 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：顔面痙攣で発症した小脳橋角部神経鞘腫の 1 例. 日本聴神経腫瘍研究会 (第 25 回) (東京), 2016. 6.
- 15) 亦野文宏, 水成隆之, 村井保夫¹⁾, 上山博康²⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, ²⁾ 禎心会病院)：前頭蓋底部腫瘍に対する inter-hemispheric approach の嗅覚温存 Fibrin-gelatin fixation method と嗅覚障害の危険因子の解析. 関東脳神経外科懇話会 (第 72 回) (東京), 2016. 6.
- 16) 鈴木雅規, 久保田麻紗美, 藤木 悠, 野崎俊樹, 亦野文宏, 國保倫子, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：無症候性内頸動脈中等度狭窄患者の狭窄度の経時的変化に関する検討. 日本脳ドック学会総会 (第 25 回) (軽井沢), 2016. 6.
- 17) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成, 岩本直高²⁾, 國保倫子, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院 脳神経外科)：末梢神経障害の術中モニタリングの有用性. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
- 18) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦²⁾, 岩本直高²⁾, 森本大二郎¹⁾, 山内朋裕²⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院 脳神経外科)：超高齢者の難治性腰痛に対する治療経験. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
- 19) 山内朋裕¹⁾, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 岩本直高¹⁾, 山崎和義¹⁾, 齋藤拓実¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科)：腰痛に対する上殿皮神経ブロックが及ぼす脊柱矢状面バランスへの影響. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.
- 20) 岩本直高¹⁾, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 森本大二郎²⁾, 山内朋裕¹⁾, 千葉泰弘¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科)：絞扼性総腓骨神経障害に対する誘発試験の検討. 日本脊髄外科学会 (第 31 回) (東京), 2016. 6.

- 21) 松本順太郎¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 岩本直高¹⁾, 金 景成, 森本大二郎²⁾, 山内朋裕¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 浅腓骨神経障害に対して神経剥離術が著効した1症例. 日本脊椎外科学会 (第31回) (東京), 2016. 6.
- 22) 藤木 悠, 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科): 板間静脈へ流出する硬膜動静脈瘻に対して経動脈的塞栓術を行った1例. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会 (第13回) (東京), 2016. 7.
- 23) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦²⁾, 岩本直高²⁾, 森本大二郎¹⁾, 山内朋裕²⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科): 末梢神経障害治療に主眼をおいた超高齢者の難治性腰下肢痛の治療. 日本末梢神経学会学術集会 (第27回) (大阪), 2016. 8.
- 24) 岩本直高¹⁾, 井須景成, 金 豊彦¹⁾, 松本順太郎¹⁾, 森本大二郎²⁾, 山内朋裕¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科): 上殿皮神経障害と絞扼性総腓骨神経障害の治療が奏功した腰下肢痛の1例. 日本末梢神経学会学術集会 (第27回) (大阪), 2016. 8.
- 25) 坂内裕哉¹⁾, 久保木生¹⁾, 玉井勇一¹⁾, 鈴木秋菜¹⁾, 根本かおり¹⁾, 岩川愛依¹⁾, 廣田千瑛¹⁾, 佐々木優子¹⁾, 水成隆之 (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 脳神経センターにおける行動制限とせん妄発症率減少を目指したフローチャート導入. 日本意識障害学会 (第25回) (高松), 2016. 7.
- 26) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 岩本直高²⁾, 森本大二郎²⁾, 國保倫子, 松本順太郎¹⁾, 山内朋裕¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 上殿皮神経障害と絞扼性総腓骨神経障害の治療が奏功した腰下肢痛の1例. 日本末梢神経学会学術集会 (第27回) (大阪), 2016. 8.
- 27) 水成隆之, 亦野文宏, 久保田麻紗美, 玉置智規¹⁾, 村井保夫¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 額頰健太¹⁾, 山田敏雅, 小林士郎, 森田明夫 (1) 日本医科大学 脳神経外科): 内頸動脈解離 (IC terminal dissecting/blister like aneurysm) に対する治療. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 28) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 岩本直高³⁾, 中嶋隆夫⁴⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 帝京大学 脳神経外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院 整形外科): 吸収性スクリューを用いた頸椎後方固定術に関する生体力学的検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 29) 大村朋子, 小林士郎, 山口文雄¹⁾, 足立好司²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科): 中枢神経系原発悪性リンパ腫の放射線治療後再発に対するRCHOP療法. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 30) 鈴木雅規, 藤木 悠, 亦野文宏, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科): 無症候性内頸動脈中等度狭窄患者の狭窄度の経時的変化に関する検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 31) 立山幸次郎¹⁾, 村井保夫²⁾, 水成隆之, 廣中浩平¹⁾, 太組一朗¹⁾, 足立好司¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院 脳神経外科): Transcondylar approachによる椎骨動脈瘤手術, OA-PICA吻合術の基本術式とピットフォール. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 32) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 岩本直高¹⁾, 森本大二郎²⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 超高齢者の難治性腰下肢痛に対する低侵襲治療. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 33) 亦野文宏, 水成隆之, 村井保夫¹⁾, 玉置智規¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 額頰健太¹⁾, 藤木 悠, 久保田麻紗美, 谷川緑野²⁾, 上山博康²⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 禎心会病院 脳神経外科): 眼症状を有する大型巨大内頸動脈瘤のFlow Alterationを用いた治療戦略と機能予後の解析. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 34) 藤木 悠, 亦野文宏, 久保田麻紗美, 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 横田裕行¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学 救急医学教室, 2) 日本医科大学 脳神経外科): くも膜下出血予後予測因子としてのStress Index (BS/K ratio) の有用性. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 35) 久保田麻紗美, 水成隆之, 亦野文宏, 藤木 悠, 國保倫子, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎, 村井保夫¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科): 内頸動脈瘤手術時の内頸動脈 proximal control法の選択およびRAグラフトの適応. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 36) 村井保夫¹⁾, 森田明夫¹⁾, 亦野文宏, 立山幸次郎³⁾, 桑本健太郎¹⁾, 横堀将司²⁾, 横田裕行²⁾, 水成隆之, 白銀一貴¹⁾, 石坂栄太郎¹⁾, 中川俊祐¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 日本医科大学救急医学科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科): 椎骨動脈後下小脳動脈分岐部周辺解離性病変の外科的治療戦略: そのstandardとoption. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 37) 山口文雄¹⁾, 樋口直司¹⁾, 佐藤 俊¹⁾, 展 広智²⁾, 足立好司³⁾, 大村朋子, 永積 歩⁴⁾, 宗方祐美⁵⁾, 佐藤淳子⁵⁾, 喜多村孝幸³⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 帝京平成大学ヒューマンケア学部 柔道整復学科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科, 4) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 5) 日本医科大学付属病院 生理機能センター): 早期神経路同定による

- 脳腫瘍患者の運動・言語機能温存. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 38) 梅岡克哉, 田草川豊¹⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 東京医科大学 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科) : 責任血管の違いによる三叉神経痛手術の工夫. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 39) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成, 千葉泰弘³⁾, 岩本直高²⁾, 磯部正則²⁾, 山崎和義²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科, 3) 北海道脳神経外科記念病院 脳神経外科) : 上殿皮神経障害の外科的治療成績. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 40) 山内朋裕¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 岩本直高¹⁾, 千葉泰弘²⁾, 山崎和義¹⁾, 斎藤拓実¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 北海道脳神経外科記念病院 脳神経外科) : 腰椎椎間板ヘルニア術後の腰下肢痛に対する治療選択. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 41) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 喜多村孝雄¹⁾, 小田一徳¹⁾, 中川俊祐¹⁾, 大村朋子, 佐藤 俊¹⁾, 足立好司²⁾, 喜多村孝幸²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科) : 脳実質内腫瘍摘出における虚血合併症の評価: 術前予測, 術中の注意点はるか. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 42) 岩本直高¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成, 山内朋裕²⁾, 松本順太郎²⁾, 森本大二郎³⁾, 磯部正則²⁾ (1) 帝京大学医学脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学 脳神経外科) : 絞扼性総腓骨神経障害への上殿皮神経障害合併に関する調査. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 43) 中川俊祐¹⁾, 村井保夫¹⁾, 石坂栄太郎¹⁾, 白銀一貴²⁾, 亦野文宏, 築山 敦¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 関東労災病院 脳神経外科) : 血管吻合の評価: FLOW800 マップを用いて. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 44) 亦野文宏, 水成隆之, 村井保夫¹⁾, 谷川緑野²⁾, 上山博康²⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 禎心会病院 脳神経外科) : 動脈硬化性病変に対する STA-MCA bypass 術後過環流症候群の危険因子 術中中大脳動脈圧モニタリングの有用性. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会（第130回）（福岡），2016. 9.
- 45) 岩本直高¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成, 松本順太郎²⁾, 山内朋裕²⁾, 千葉泰弘²⁾, 森本大二郎¹⁾, 松野 彰²⁾, 磯部正則²⁾ (1) 帝京大学医学脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科) : 当院での腸骨稜近傍の圧痛に着目した腰痛・腰下肢痛診療. 日本腰痛学会（第24回）（山梨），2016. 9.
- 46) 松本順太郎¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 岩本直高¹⁾, 山内朋裕¹⁾, 山崎和義¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科) : 腰椎術後の腰下肢痛に対する腰椎周辺疾患に主眼をおいた治療成績. 日本腰痛学会（第24回）（山梨），2016. 9.
- 47) 喜多村孝雄¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 五十嵐豊¹⁾, 築山 敦¹⁾, 國保倫子, 金 景成, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科) : 術中 peroneus tunnel 内圧測定による腓骨神経の絞扼性末梢神経障害の病態の考察. 一般社団法人日本脳神経外科学会第75回学術総会（福岡），2016. 9.
- 48) 榎本弘幸¹⁾, 村井保夫¹⁾, 中川俊祐¹⁾, 亦野文宏, 石坂栄太郎¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 築山 敦¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科) : ICG videoangiography による脳血流方向検出能に関する検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 49) 松本順太郎¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 岩本直高¹⁾, 山内朋裕¹⁾, 山崎和義¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科) : 腰椎術後の腰下肢痛に対して絞扼性末梢神経障害に注目した治療成績. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第75回）（福岡），2016. 9.
- 50) 亦野文宏, 水成隆之, 久保田麻紗美, 山田敏雅, 藤木 悠, 國保倫子, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎 : 責任動脈瘤の診断を誤ったくも膜下出血の1例. 東葛脳神経外科手術手技研究会（第14回）（千葉），2016. 10.
- 51) 金 景成 : 目の前の壁.. ふえむってみる?. 脊髄疾患動画技術研究会（第27回）（滋賀），2016. 11.
- 52) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 森本大二郎²⁾, 岩本直高¹⁾, 小林士郎 (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科) : 硬膜外麻酔が一因と思われた脊髄硬膜外血腫の1例. 日本脊髄障害医学会（第51回）（幕張），2016. 11.
- 53) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 岩本直高¹⁾, 森本大二郎²⁾, 小林士郎 (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科) : 硬膜外麻酔が一因と思われた脊髄硬膜外血腫の1例. 湘南脊髄倶楽部（第11回）（神奈川），2016. 11.
- 54) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 岩本直高¹⁾, 小林士郎 (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科) : 吸収性スクリューによる頸椎後方固定術の生体力学的研究. 日本脊髄障害医学会（第51回）（幕張），2016. 11.
- 55) 小林士郎 : 脳梗塞治療薬への今後の期待. 千葉北総神経放射線研究会（第87回）（印西），2016. 11.
- 56) 鈴木雅規, 小南修史, 藤木 悠, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科) : 頭蓋内硬膜動静脈瘻に対する経動脈的塞栓術における n-butyl cyanoacrylate の注入時形態の検討. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（第32回）（神戸），2016. 11.
- 57) 小南修史, 鈴木雅規, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科) : DSA 装置の遅延. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（第32回）（神戸），2016. 11.

- 58) 小南修史：dural AVF に対する NBCA を用いた TAE. Dural Shunt & Anatomu 道場 Japa (第2回) (東京), 2016. 12.
- 59) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 中嶋隆夫³⁾, 小林士郎 (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 整形外科)：有限要素法を用いた吸収性スクリューによる頸椎後方固定術に関する生体力学的検討. 日本医科大学・東京理科大学 第3回合同シンポジウム (東京), 2016. 12.
- 60) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 岩本直高³⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 帝京大学脳神経外科)：Failed back surgery の原因として腓骨神経障害の診断に苦慮した1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第131回) (東京), 2016. 12.
- 61) 岩本直高¹⁾, 金 景成, 井須豊彦²⁾, 千葉泰弘³⁾, 松本順太郎²⁾, 山内朋裕²⁾, 森本大二郎⁴⁾, 磯部正則²⁾, 松野 彰¹⁾ (1) 帝京大学医学部脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科, 3) 北海道脳神経外科記念病院, 4) 日本医科大学 脳神経外科)：間欠性跛行を呈する絞扼性腓骨神経障害に対する誘発テストの検討. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第131回) (東京), 2016. 12.
- 62) 樋口直司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 小田一徳¹⁾, 中川俊祐¹⁾, 大村朋子, 足立好司²⁾, 喜多村孝幸²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科)：認知症を契機に指摘された中枢神経原発リンパ腫の1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第131回) (東京), 2016. 12.
- 63) 水成隆之, 久保田麻紗美, 亦野文宏, 玉置智規¹⁾, 村井保夫¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 瀬藤健太¹⁾, 山田敏雅¹⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：内頸動脈瘤に対する RA グラフト術の適応. 日本脳卒中の外科学会学術集会 (第45回) (札幌), 2016. 4.
- 64) 野崎俊樹¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 金 景成, 國保倫子, 井須豊彦²⁾, 山口文雄¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科)：大腿外側皮神経障害の1例. 一般社団法人日本脳神経外科学会 関東支部学術集会 (第129回) (東京), 2016. 4.
- 65) 國保倫子, 金 景成, 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 岩本直高²⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科)：超高齢者の難治性腰痛に対する集約的治療. 老年脳神経外科学会 (第29回) (奈良), 2016. 4.
- 66) 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 國保倫子, 金 景成, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 放射線センター, 2) 日本医科大学 脳神経外科)：拡散テンソルを用いた腓骨神経描出の試み. 日本 CI 学会 (第39回) (東京), 2017. 1.
- 67) 水成隆之：今の時代だからこそ強調したい開頭による前方循環動脈瘤手術の注意点. The Mt.Fuji Workshop on CVD (第35回) (東京), 2016. 8.
- 68) Matano F¹⁾, Mizunari T, Murai Y¹⁾, Tateyama K¹⁾, Koketsu K¹⁾, Tanikawa R²⁾, Kamiyama H²⁾, Kobayashi S, Morita A¹⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical Surgery, 2) Department of Neurological Surgery, Teishinkai Hospital)：Outcom for neurological deficits due to ICA aneurysms using RA graft with ICO. World Skull Base 2016 (Osaka), 2016. 6.
- 69) Kim K, Isu T¹⁾, Kokubo R, Morimoto D²⁾, Iwamoto N¹⁾, Matsumoto J¹⁾, Kobayashi S, Morita A²⁾ (1) Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Neurosurgery, Nippon Medical School)：One option for the treatment of failed back surgery syndrome. ASIA SPINE. Oral presentation (Korea), 2016. 9.
- 70) Kokubo R, Kim K, Isu T¹⁾, Morimoto D²⁾, Chiba Y¹⁾, Kobayashi S, Morita A²⁾ (1) Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Neurosurgery, Nippon Medical School)：Lumbar peripheral disease treatment for the intractable low back pain of the very elderly patients：2 case reports. ASIA SPINE. Oral presentation (Korea), 2016. 9.
- 71) Matsumoto J¹⁾, Isu T¹⁾, Kim K, Iwamoto N¹⁾, Chiba Y¹⁾, Yamauchi T¹⁾, Yamazaki K¹⁾, Morita A²⁾ (1) Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Neurosurgery, Nippon Medical School)：Outcome that focuses on lumbar peripheral disease for the failed back surgery syndrome. ASIA SPINE. Oral presentation (Korea), 2016. 9.
- 72) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦²⁾, 森本大二郎¹⁾, 山内朋裕²⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科)：外側大腿皮神経障害の治療経験. 痛みしびれ研究会 (第5回) (東京), 2016. 6.
- 73) 亦野文宏, 水成隆之, 藤木 悠, 久保田麻紗美, 村井保夫¹⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：Retrograde Suction Decompression for Large Internal Carotid Aneurysm using balloon-containing guide catheter combined with blood returning circuit and STA-MCA bypass. The Mt.Fuji Workshop on CVD (第35回) (東京), 2016. 8.
- 74) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 岩本直高³⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 帝京大学 脳神経外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院 整形外科)：腰臀部痛に対する低侵襲治療としての1つの治療選択. 低侵襲・内視鏡脊髄神経外科研究会 (第6回) (福岡), 2016. 7.
- 75) 藤木 悠, 亦野文宏, 久保田麻紗美, 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 横田裕行¹⁾, 森田明夫²⁾ (1) 日本医科大学 救急医学教室, 2) 日本医科大学 脳神経外科)：くも膜下出血予後予測因子としての Stress Index (BS/K ratio) の有用性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
- 76) 久保田麻紗美, 水成隆之, 亦野文宏, 藤木 悠, 國保倫子, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎, 村井保夫¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科)：脳神経外科手術における ICG-VAG と FL-VAG の輝度定量解析による比較. 日本脳神経 CI 学会総会 (第40回) (鹿児島), 2017. 3.
- 77) 山田敏雅 (1) 日本医科大学 脳神経外科)：STA-MCA bypass を併用した大型内頸動脈瘤 に対するバルーン閉塞 suction decompress-

- sion. 日本脳卒中学会学術集会（第42回）（大阪），2017. 3.
- 78) 藤木 悠, 亦野文宏, 水成隆之, 村井保夫¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 瀬瀬健太¹⁾, 久保田麻紗美, 小林士郎, 横田裕行²⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 日本医科大学 救急医学教室) : くも膜下出血の予後予測因子としての血清 Glucose/K ratio の有用性. 日本脳卒中学会学術集会（第42回）（大阪），2017. 3.
- 79) 久保田麻紗美, 水成隆之, 亦野文宏, 藤木 悠, 小林士郎, 森田保夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科) : 術中蛍光脳血管撮影の定量解析を用いた比. 日本脳卒中の外科学会学術集会（第46回）（大阪），2017. 3.
- 80) 亦野文宏, 水成隆之, 藤木 悠, 久保田麻紗美, 鈴木雅規, 小南修史, 村井保夫¹⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科) : 破裂脳動脈瘤に対する多角的アプローチと当施設における急性期治療の現状と展望. 日本脳卒中の外科学会学術集会（第46回）（大阪），2017. 3.
- 81) 亦野文宏, 水成隆之, 村井保夫¹⁾, 玉置智則¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 谷川緑野²⁾, 上山博康²⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 禎心会病院 脳神経外科) : 頭蓋内還流圧測定を用いた術後過還流症候群の予測と予防の新たな試み. 日本脳卒中の外科学会学術集会（第46回）（大阪），2017. 3.
- 82) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 岩本直高³⁾, 中嶋隆夫⁴⁾, 小林士郎, 森田明夫²⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学 脳神経外科, 3) 帝京大学 脳神経外科, 4) 日本医科大学千葉北総病院 整形外科) : 吸収性スクリューによる頸椎後方固定術の有限要素法を用いた生体力学的検討. 日本脳神経 CI 学会総会（第40回）（鹿児島），2017. 3.
- 83) 國保倫子, 金 景成, 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 岩本直高²⁾, 小林士郎, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科) : MRI による脊髄硬膜外血腫の出血点診断の試み. 日本脳神経 CI 学会総会（第40回）（鹿児島），2017. 3.
- 84) 山田敏雅, 亦野文宏, 水成隆之, 小南修史, 鈴木雅規, 藤木 悠, 久保田麻紗美, 小林士郎, 村井保夫¹⁾, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学 脳神経外科) : STA-MCA bypass を併用した大型内頸動脈瘤に対するバルーン閉塞 suction decompression. 日本脳卒中学会学術集会（第42回）（大阪），2017. 3.
- 85) 小南修史 : 治療に難渋しそうな頸椎の epidural AVF の 1 例. The 25th Itravascular Neurosurgery Winter Seminar (新潟), 2017. 3.
- (5) ビデオセッション :
- 1) 水成隆之, 亦野文宏, 久保田麻紗美, 玉置智規¹⁾, 村井保夫¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 瀬瀬健太¹⁾, 山田敏雅, 小林士郎, 森田明夫 (1) 日本医科大学 脳神経外科) : 内頸動脈病変に対する RA グラフト術におけるチェックポイント. 日本脳卒中の外科学会学術集会（第46回）（大阪），2017. 3.

論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) Kim K, Isu T¹⁾, Morimoto D¹⁾, Iwamoto N¹⁾, Kokubo R, Matsumoto J¹⁾, Kitamura T²⁾, Sugawara A¹⁾, Morita A²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Common diseases mimicking the symptoms of lumbar disc herniation and their treatment. Mini-invasive surgery 2017.
- 2) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科) : 若手脳神経外科医が知っておきたい下肢のしびれ, 痛み診断の最新知見. 末梢神経障害に主眼を置いて. 脳神経外科速報 2016 ; 26 (3) : 266-272.

追加分原著 :

- 1) Morimoto D²⁾, Isu T, Kim K¹⁾, Chiba Y¹⁾, Iwamoto N¹⁾, Isobe M¹⁾, Morita A²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Long-term outcome of surgical treatment for superior cluneal nerve entrapment neuropathy. Spine (Phila Pa 1976) 2017 ; 42 (10) : 783-788.

20. 整形外科学分野

[付属病院整形外科・リウマチ外科, 武蔵小杉病院整形外科, 多摩永山病院整形外科, 千葉北総病院整形外科]

研究概要

整形外科教室の平成28年度の研究は、臨床研究において脊椎部、肩、肘、股、膝関節部、手の外科、足の外科、骨軟部腫瘍などを対象にした疾患ならびに外傷に対する手術数が劇的に増加したことを背景に、臨床研究報告や講演を行った。部位別にみると、脊椎疾患の診断、治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経、腱の障害に対する治療法および手術法の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。人工膝関節に関しては日常生活機能向上を目指した新しい手術手技を報告した。基礎研究においては自己免疫性関節炎に対する治療薬の開発に関する基礎研究成果および、軟骨変性に関する基礎研究成果を報告した。学会発表は量、質ともに向上し、国際学会の発表も増え、教育研修講演、シンポジウム、招待講演、一般講演などが積極的に行われた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nagatomi N¹⁾, Mae T²⁾, Nagafuchi T¹⁾, Yamada S³⁾, Nagai K⁴⁾, Yoneda M (¹⁾ JCHO Osaka Hospital, ²⁾ Osaka University Orthopaedic Surgery, ³⁾ JCHO Hoshigaoka Medical Center, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Kyoto University Hospital) : Shoulder manual muscle resistance test cannot fully detect muscle weakness. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc* 2016 ; 25 (7) : 2081-2088.
- 2) 飯澤典茂, 高井信朗: 人工膝関節の現状と展望. *日本再生医療学会雑誌* 2016 ; 15 (4) : 345-355.
- 3) 萩原祐介, 南野光彦, 吉田 竜¹⁾, 橋口 宏, 高井信朗 (¹⁾ コネチカット大学ヘルスセンター) : レイノー病における動脈周囲交感神経切除術での血流変化を術中評価した1例. *日本マイクロサージャリー学会誌* 2016 ; 29 (3) : 205-210.
- 4) 萩原祐介, 南野光彦, 吉田 竜¹⁾, 橋口 宏, 高井信朗 (¹⁾ コネチカット大学ヘルスセンター) : 注射針を追加して用いた石黒変法による骨性 mallet finger の治療成績. *日本手外科学会雑誌* 2017 ; 33 (6) : 904-907.
- 5) 片岡達紀, 飯澤典茂, 大島康史, 阿部一雅, 高井信朗: 脛骨後傾角と関節包後傾角の検討. *日本関節病学会誌* 2016 ; 35 (2) : 109-113.
- 6) Oshima Y, Fetto-Joseph F¹⁾ (¹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, New York University Hospital for Joint Diseases) : Permanent motor function loss by delayed treatment of peroneal intraneural ganglion. *Bull Hosp Jt Dis.* 2016 ; 74 (4) : 306-308.
- 7) 大久保敦, 橋口 宏, 岩下 哲, 高井信朗: 高齢者 (70歳以上) における腱板断裂例の特徴. *JOSKAS* 2016 ; 41 (3) : 639-643.
- 8) 大久保敦, 橋口 宏, 岩下 哲, 高井信朗: リバース型人工肩関節置換術を施行した肩関節脱臼骨折の3例. *肩関節* 2016 ; 40 (2) : 779-782.
- 9) 植松卓哉, 河路秀巳, 大場良輔, 佐竹美彦, 星川直哉, 岡崎愛未, 渡部 寛, 阿部一雅, 高井信朗: 大腿骨近位部骨折術後および人口股関節全置換術の大腿骨インプラント周囲骨折に対して大腿骨用 NCB 人口関節周囲プレートシステムを使用した治療経験. *Hip joint* 2016 ; 42 (1) : 349-353.
- 10) 植松卓哉, 河路秀巳, 小林俊之, 大場良輔, 佐竹美彦, 渡部 寛, 星川直哉, 岡崎愛未, 阿部一雅, 高井信朗: 大腿骨転子部骨折術後のカットアウトに対して GTR プレートシステムを併用して人工股関節置換術を施行した3例. *日本人工関節学会誌*.
- 11) 川口宏志, 青木孝文¹⁾, 高井信朗 (¹⁾ 山王病院整形外科) : 保存療法に抵抗し神経切除を行った Morton 病の1例. *関東整形災害外科学会雑誌* 2016 ; 47 (4) : 225-227.
- 12) Tomori Y, Sawaizumi T, Nanno M, Takai S : A case report : Distal humeral diaphyseal fracture in a child. *Medicine (Baltimore)* 2017 ; 96 (2) : e5812.
- 13) Tomori Y, Ohashi R¹⁾, Naito Z¹⁾, Nanno M, Takai S : Florid reactive periostitis in the fifth phalange of a professional boxer. *Medicine (Baltimore)* 2016 ; 95 (51) : e5697.
- 14) Tomori Y, Takumi K¹⁾, Iijima N¹⁾, Takai S, Ozawa H¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科解剖学神経生物学) : Kisspeptin expression is decreased in the arcuate nucleus of hypothyroid female rats with irregular estrus cycles. *Neurosci Res.* 2016.
- 15) Tomori Y, Sudo Y, Iizawa N, Nanno M, Takai S : Intercondylar fracture of the distal humerus in a 7-year-old child. *Medicine (Baltimore)* 2017 ; 96 (6) : e6085.
- 16) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 高井信朗: Preiser 病に対する橈骨楔状骨切り術の治療経験. *日本手外科学会雑誌* 2016 ; 33 (2) : 135-143.

- 17) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 高井信朗: DVR 掌側ロッキングプレートを用いた橈骨遠位端骨折の治療成績 AO-A 型 vs C 型骨折. 日本手外科学会雑誌 2016; 32 (6) : 1056-1059.
 - 18) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 高井信朗: イリザロフ・ミニ創外固定器を用いた母指中手骨基部骨折の治療成績. 日本手外科学会雑誌 2016; 32 (6) : 995-999.
 - 19) Kawaji H, Uematsu T, Oba R, Hoshikawa N, Watanabe H, Takai S : Influence of Femoral Implant Alignment in Uncemented Total Hip Replacement Arthroplasty : Varus Insertion and Stress Shielding. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (6) : 223-227.
 - 20) Kawaji H, Uematsu T, Hoshikawa N, Watanabe H, Takai S : Mid-Term Clinical Results of VerSys Hip System (Zimmer) Uncemented Total Hip Replacement Arthroplasty. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (5) : 184-187.
 - 21) Kawaji H, Uematsu T, Oba R, Satake Y, Hoshikawa N, Takai S : Treatment for Trochanteric Fracture of the Femur with Short Femoral Nail : A Comparison between the Asian Intramedullary Hip Screw (IMHS) and the Conventional IMHS. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (3) : 113-117.
 - 22) Takai S : Combination view : A new roentgenographic technique to assess the rotation of the femoral component. Bone Joint J 2017 ; 99-B (SUPP6) : 38.
 - 23) Takai S : Biomechanical considerations on soft-tissue balancing in TKA. Bone Joint J 2017 ; 99-B (SUPP6) : 37.
 - 24) Oshima Y, Iizawa N, Kataoka T, Takai S : Pre-operative computed tomography scan-based superimposable template of the surgical epicondylar axis for the adequate rotational alignment of femoral component in total knee arthroplasty. Bone Joint J 2017 ; 99-B ((SUPP5)) : 70.
 - 25) Iizawa N, Oshima Y, Kataoka T, Matsui S, Takai S : The influence of medial osteophyte removal on correction of varus deformity in total knee arthroplasty. Bone Joint J 2017 ; 99-B ((SUPP4)) : 24.
 - 26) Majima T, Matsui S, Nishiike O¹⁾, Takahashi K, Oshima Y, Iizawa N, Takai S (¹⁾ Kushiro-sanjikai Hospital) : Mechanical properties of soft-tissue structure of knee sleeve in flexion and extension during TKA. Bone Joint J 2017 ; 99B ((SUPP6)) : 38.
 - 27) Murase K, Tsutsumi S, Takai S : Stress propagations during varus and valus knee joint using impact FEA. Bone Joint J 2016 ; 98-B ((SUPP9)) : 105.
 - 28) Oshima Y, Takai S, Fetto J : A surgical technique to facilitate cr tka and preserve pcl function. Bone Joint J 2016 ; 98-B ((SUPP9)) : 105.
 - 29) Majima T, Matsui S, Nishiike O, Takabayashi K, Oshima Y, Iizawa N, Takai S : Mechanical properties of soft-tissue structure of knee sleeve in flexion and extension during TKA. Bone Joint J 2017 ; 99-B ((SUPP4)) : 134.
 - 30) Murase K, Tsutsumi S, Takai S : Stress propagations during varus and valus knee joint using impact FEA. Bone Joint J 2016 ; 98-B ((SUPP9)) : 66.
 - 31) Nakamura H, Takabayashi K, Sato A, Takai S : Long-term results of y/sii total knee arthroplasty in patients with rheumatoid arthritis. Bone Joint J 2016 ; 98-B ((SUPP3)) : 76.
 - 32) Matsui S, Majima T, Mominoki K, Koizumi R, Kawaji H, Takabayashi K, Takai S : Effect of ceramic head of endprosthesis on acetabular cartilage metabolism : animal study using crossbred pig. Bone Joint J 2016 ; 98-B ((SUPP9)) : 23.
 - 33) Kataoka T, Iizawa N, Mori A, Oshima Y, Matsui S, Takai S : Influence of the individual components in the main medial knee structures on valgus and rotational stability in total knee arthroplasty. Bone Joint J 2016 ; 98-B ((SUPP8)) : 87.
 - 34) Iizawa N, Mori A, Oshima Y, Matusi S, Kataoka T, Takai S : Influence of the individual components of the main medial knee structures on medial pivot in total knee arthroplasty. Bone Joint J 2016 ; 98-B ((SUPP8)) : 47.
 - 35) Iizawa N, Mori A, Majima T, Kawaji H, Matsui S, Takai S : Influence of the medial knee structures on valgus and rotatory stability in total knee arthroplasty. Bone Joint J 2016 ; 98-B ((SUPP8)) : 48.
 - 36) Sato A, Nakamura H, Takahashi K, Takenouchi K, Kawaji H, Takai S : Clinical outcome of revision total elbow arthroplasty for RA elbows. Bone Joint J 2016 ; 98-B ((SUPP3)) : 147.
 - 37) Murase K, Tamamura S, Takai S, Tsutsumi S, Tanaka E : Impact stress propagations through tkr knee joint according to contact situation. Bone Joint 2016 ; 98-B ((SUPP4)) : 60.
- (2) 総説 :
- 1) 南野光彦 : 上腕骨遠位端骨折の治療 判断に迷う症例にどう立ち向かうか : 応用編 アナトミカルロッキングプレートの仕様比較および特徴. 整形外科 Surgical technique 2016 ; 6 (2) : 184-186.
 - 2) 橋口 宏 : 変形性肩関節症の画像診断 - 特集 : 肩関節画像診断 - 読影のポイント. Monthly Book Orthopaedics 2017 ; 30 (1) : 70-77.
 - 3) 橋口 宏 : Trabecular Metal Reverse Shoulder System : リバース型人工肩関節手術でわかったこと. 臨床整形外科 2017 ; 52 (2) : 141-146.

- 4) 宮本雅史, 中嶋隆夫: 診療ガイドライン at a glance: 腰椎椎間板ヘルニア診療ガイドライン改訂第2版. 日本内科学会雑誌 2016; 105 (11): 2210-2214.
 - 5) 宮本雅史, 中嶋隆夫: 脊椎診療ガイドライン: 特徴と導入効果 腰椎椎間板ヘルニア診療ガイドライン. 臨床整形外科 2016; 51 (8): 697-701.
 - 6) 宮本雅史, 福嶋 宏¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院看護部): 脊椎手術の機械出し 後方インストルメンテーション手術. 手術ナーシング 2017; 4 (2): 39-47.
- (3) 症例報告:
- 1) 丸山 剛, 南野光彦, 宮本雅史: 母指 MP 関節両側側副韌帯断裂の1例. 関東整形災害外科科学会雑誌 2016; 47 (2): 55-58.
 - 2) 丸山 剛, 角田 隆, 北川泰之, 南野光彦, 宮本雅史, 高井信朗: 両手指に発生した限局型腱膜巨細胞腫の1例. 関東整形災害外科科学会雑誌 2016; 47 (2): 87-91.
 - 3) Watanabe H, Majima T¹⁾, Takahashi K, Kawaji H, Takai S (1) International University of Health and Welfare Hospital): Split Fracture of the Posteromedial Tubercle of the Talus. J Foot Ankle Surg 2017; 56 (1): 187-190.

著書

- 1) 飯澤典茂, 高井信朗: [分担] 低侵襲への工夫: MIS-TKA など. 人口膝関節全置換術 [TKA] のすべて, 2017; pp298-303, メジカルビュー.
- 2) 萩原祐介: [分担] 局所麻酔下での手根管開放術: 整形外科の現場から. 「超」入門 手術で治すしびれと痛み, 2016; pp19-24, メディカ出版.
- 3) 橋口 宏: [分担] Reverse total shoulder arthroplasty. 今日の整形外科治療指針 (土屋弘行, 紺野慎一, 田中康仁, 田中栄, 松田秀一), 2016; pp394-394, 医学書院.
- 4) Hashiguchi H, Iwashita S, Okubo A, Takai S: [自著] Arthroscopic removal and tendon repair for refractory rotator cuff calcific tendinitis. J Nippon Med Sch, 2017; pp19-24, J Nippon Med Sch.
- 5) 澤泉卓哉, 佐竹美彦: [分担] 指尖損傷. 今日の整形外科治療指針 第7版 (土屋弘行, 紺野慎一, 田中康仁, 田中栄, 松田秀一), 2016; p503, 医学書院.
- 6) 萩原祐介: [分担] 皮下前方移行術を中心に: 整形外科の現場から. 「超」入門 手術で治すしびれと痛み, 2016; pp37-44, メディカ出版.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Yoneda M: My Therapeutic Strategy for Refractory painful & Stiff Shoulder: Frozen Shoulder. Annual Congress of Korean Shoulder & Elbow Society (24th) (Seoul), 2016. 7.

(2) 教育講演:

- 1) 米田 稔: ドンキホーテよ, 何処へ行く「私と肩関節鏡」. 東邦大学整形外科卒後教育研修研修会 (第17回) (東京), 2016. 9.
- 2) 米田 稔: 難治性肩関節周囲炎に対する保存的療法と外科治療. 整形外科アップデートセミナー (第20回) (東京), 2016. 4.
- 3) 米田 稔: 私と肩関節鏡. 山形整形外科研究会 (第80回) (山形), 2016. 6.
- 4) 米田 稔: 難治性肩関節周囲炎に対する私のアプローチ. 北総整形外科カンファレンス (第23回) (千葉), 2016. 7.
- 5) 高井信朗: 人工膝関節の素心深考. 大分膝関節疾患研究会 (第6回) (大分県), 2016. 6.
- 6) 高井信朗: 膝関節: 前・外側痛の診断と治療. さがみ運動器疾患研究会 (神奈川県), 2016. 9.
- 7) 高井信朗: 人工膝関節, 素心深考. 神戸 TKA カンファレンス (第2回) (兵庫県), 2016. 11.
- 8) 高井信朗: 人工膝関節の進歩と将来. 高知整形外科集談会 (第101回) (高知県), 2016. 12.
- 9) 高井信朗: 疼痛部位からみた膝関節疾患. 埼玉東部エリア整形外科フォーラム (第2回) (埼玉県), 2017. 3.
- 10) 橋口 宏: 腱板断裂に対する治療: 保存から手術まで. 北九州骨関節セミナー (第42回) (北九州), 2016. 4.
- 11) 橋口 宏: 全人工肩関節置換術の現状と展望: リバース型人工肩関節. 日本肩関節学会 (第43回) (広島), 2016. 10.
- 12) 高井信朗: 変形性膝関節症の病態と治療. Arthritis pain management Symposium (東京), 2017. 3.

(3) シンポジウム:

- 1) 山田真一¹⁾, 米田 稔, 佐原 亘²⁾, 五藤和樹³⁾ (1) 地域医療機能推進機構ヶ丘医療センター, 2) 大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学, 3) 大阪厚生年金病院): 反復性肩関節前方不安定症に対する鏡視下 Bankart 法の現状と課題 鏡視下バンカート修復術の成績と対策 関節窩骨欠損に対する人工骨移植の有用性. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (第8回) (福岡), 2016. 7.
- 2) Yoneda M, Nakagawa S, Mizuno N (1) Yukioka Hospital, 2) Tyonaka Municipal Hospital): Influence of Posterior Capsular Tightness on Throwing Shoulder Injury. Asia-Pacific Knee, Arthroscopy & Sports Medicine Society (10th) (Hong Kong), 2016. 6.

- 3) Yoneda M, Nakagawa S¹⁾, Mizuno N²⁾ (¹⁾ Yukioka Hospital, ²⁾ Tyonaka Municipal Hospital) : Surgical Treatment of the Painful Bennett lesion of Shoulder in Throwing Sports Athletes. Asia-Pacific Knee, Arthroscopy & Sports Medicine Society (10th) (Hong Kong), 2016. 6.
 - 4) Yoneda M, Yamada S¹⁾, Sahara W²⁾ (¹⁾ Hoshigaoka Medical Center, ²⁾ Osaka University Medical School) : Significance of Footprint Preparation with Bone Marrow Vent in ARCR. Annual Congress of Korean Shoulder & Elbow Society (24th) (Seoul), 2016. 7.
 - 5) 飯澤典茂 : TKA の回旋不安定性と軟部組織バランス. 東日本整形災害外科学会 (第 65 回) (箱根), 2016. 9.
 - 6) 橋口 宏, 大久保敦, 岩下 哲, 米田 稔, 高井信朗 : 肩鎖関節脱臼に対する鏡視下手術. 日本整形外科学会学術総会 (第 89 回) (横浜), 2016. 5.
- (4) パネルディスカッション :
- 1) 南野光彦, 小寺訓江, 友利裕二, 萩原祐介, 園木謙太郎, 高井信朗 : 橈骨掌側月状骨窩骨片を有する橈骨遠位端関節内骨折の治療成績. 関東整形災害外科学会 (第 56 回) (東京), 2017. 3.
- (5) ポスター :
- 1) 萩原祐介, 南野光彦, 原田和弘, 橋口 宏, 高井信朗 : 注射針を追加して用いた石黒変法による骨性槌指の治療成績. 日本手外科学会学術集会 (第 59 回) (広島), 2016. 4.
 - 2) Hagiwara Y, Nanno M, Yoshida R¹⁾, Satake Y, Takai S (¹⁾ University of Connecticut Health Center) : Small Syringe Needle Technique : A Modification to Extension Block Pinning for Surgical Treatment of Mallet Fractures. ANNUAL MEETING OF THE ASSH (71st) (USA), 2016. 9.
 - 3) 岡崎愛未, 河路秀巳, 植松卓哉, 大場良輔, 星川直哉, 渡部 寛, 阿部一雅, 小林俊之, 高井信朗 : 大腿骨転子部骨折術後にカットアウトを生じた 3 症例の骨折型に関する検討. 日本股関節学会 (第 43 回) (大阪), 2016. 11.
- (6) 一般講演 :
- 1) 南野光彦, 小寺訓江, 友利裕二, 萩原祐介, 園木謙太郎, 高井信朗 : 尺骨鉤状突起骨折に対する鉤状突起プレートの使用経験. 日本肘関節学会 (第 29 回) (東京), 2017. 2.
 - 2) 南野光彦, 小寺訓江, 友利裕二, 萩原祐介, 園木謙太郎, 高井信朗 : 重度手根管症候群に対する小皮切 Camitz 変法による母指対立再建術の治療成績. 日本最小侵襲整形外科学会 (第 22 回) (名古屋), 2016. 11.
 - 3) 高井信朗 : 転移性腫瘍と緩和ケア. そうしん谷根千カンファレンス (第 7 回) (東京都), 2016. 4.
 - 4) 高井信朗 : 人工膝関節の現状と展望. 日本医科大学同窓会山形県支部総会 (山形県), 2016. 7.
 - 5) 高井信朗 : 人工膝関節 : 素心深考. 信州運動器診療フォーラム (第 7 回) (長野県), 2016. 11.
 - 6) 高井信朗 : バイオメカニクスから考える TKA. 日本関節病学会 (第 44 回) (大分県), 2016. 11.
 - 7) 丸山 剛, 橋口 宏, 大久保敦, 岩下 哲, 森 淳, 米田 稔, 高井信朗 : バレーボールで発症した肩関節内遊離体の 1 例. よこはまスポーツ整形外科フォーラム (第 24 回) (神奈川県), 2016. 5.
 - 8) 丸山 剛, 橋口 宏, 岩下 哲, 大久保敦, 米田 稔, 高井信朗 : CTA に対するリバー型人口肩関節後の肩甲下筋腱修復状態. 日本肩関節学会 (第 43 回) (広島), 2016. 10.
 - 9) 山田真一¹⁾, 米田 稔, 佐原 亘²⁾ (¹⁾ 地域医療機能推進機構星ヶ丘医療センター, ²⁾ 大阪大学大学院医学系研究科器管制御外科学) : 関節窩骨欠損を有する肩前方不安定症に対する人工骨移植併用関節鏡下安定化手術の術後成績. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (第 8 回) (福岡), 2016. 7.
 - 10) Yoneda M, Egawa Y, Mae T¹⁾ : Reliability of Shoulder Manual Muscle Resistance Test as Assessment of Rotator Cuff Function. ESSKA Congress (17th) (Barcelona), 2016. 5.
 - 11) 岩下 哲, 橋口 宏, 大久保敦, 米田 稔, 高井信朗 : リバー型人工肩関節置換術例における肩甲上腕リズムの検討. 日本整形外科学会学術総会 (第 89 回) (横浜), 2016. 5.
 - 12) Iwashita S, Hashiguchi H, Okubo A, Yoneda M, Takai S : Clinical features of the patients with fatty degeneration in full-thickness rotator cuff tears. International Congress of Shoulder & Elbow Surgery (13th) (Korea), 2016. 5.
 - 13) 岩下 哲, 橋口 宏, 米田 稔, 大久保敦, 高井信朗 : 鏡視下腱板修復術を施行した滑液包面断裂と関節包面断裂の臨床的特徴の比較検討. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (第 8 回) (福岡), 2016. 7.
 - 14) 岩下 哲, 橋口 宏, 大久保敦, 米田 稔, 高井信朗 : 拘縮を合併した腱板断裂例の臨床的特徴に関する検討. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (第 8 回) (福岡), 2016. 7.
 - 15) 林 英俊¹⁾, 植田瑞穂¹⁾, 工藤慎太郎²⁾, 小西裕之¹⁾, 青山倫久³⁾, 竹内大樹⁴⁾, 平田正純⁵⁾, 米田 稔 (¹⁾ アレックス, ²⁾ 森ノ宮医療大学保健医療学部理学療法学科, ³⁾ アレックスメディカルリサーチセンター, ⁴⁾ AR-Ex 尾山台整形外科東京関節鏡センターリハビリテーション室, ⁵⁾ AR-Ex 尾山台整形外科東京関節鏡センター) : 投球障害肩における MRI 画像と症状の関係について. 日本整形外科学会 (札幌), 2016. 9.

- 16) Iwashita S, Hashiguchi H, Okubo A, Yoneda M, Takai S : Characteristics and clinical outcomes of the patients with articular side and bursal side rotator cuff tears. Asia-Pacific Knee, Arthroscopy & Sports Medicine Society (10th) (Hong Kong), 2016. 6.
- 17) 家田俊也 : 変形性足関節症に DTOO を行い術後感染を感染を起こした 1 例. 関東足の外科研究会 (第 17 回) (東京), 2016. 9.
- 18) 家田俊也 : イリザロフ創外固定器を用いた足関節部骨折の治療経験. 東日本整形災害外科学会 (第 65 回) (神奈川), 2016. 9.
- 19) 家田俊也 : 変形性足関節に対する遠位脛骨斜め骨きり術 (DTOO) の臨床成績. 日本足の外科学会 (第 41 回) (千葉), 2016. 11.
- 20) 飯澤典茂, 森 淳, 大島康史, 片岡達紀, 高井信朗 : 人工膝関節における内側側副靭帯深層と後斜靭帯の回旋安定性に与える影響. 日本整形外科学会学術総会 (第 89 回) (横浜), 2016. 5.
- 21) 飯澤典茂, 大島康史, 松井秀平, 片岡達紀, 篠塚洋祐, 高井信朗 : 人工関節置換術における大腿骨回旋軸決定のための superimposed template について. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (第 8 回) (福岡), 2016. 7.
- 22) Iizawa N, Oshima Y, Kataoka T, Matsui S, Majima T¹⁾, Takai S¹⁾ (International University of Health and Welfare Hospital) : The Influence of Medial Osteophyte Removal on Correction of Varus Deformity in Total Knee Arthroplasty. International Society for Technology in Arthroplasty (29th) (Boston, USA), 2016. 10.
- 23) 飯澤典茂, 大島康史, 片岡達紀, 高井信朗 : 人工膝関節置換術における内側骨棘切除が変形矯正に及ぼす影響. 日本人工関節学会 (第 47 回) (沖縄), 2017. 2.
- 24) 家田俊也 : イリザロフ創外固定器を用いた足関節部骨折の治療経験. 日本骨折治療学会 (第 42 回) (東京), 2016. 7.
- 25) 平林篤志, 本村友一¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院救命救急センター) : H26 年度千葉県交通事故調査における PTD の検証. 日本救急医学会総会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 26) 平林篤志, 本村友一¹⁾, 益子一樹¹⁾, 久城正紀¹⁾, 八木貴典¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院救命救急センター) : 局地災害に対して Plan Red は有効か. 集団災害医学会 (第 22 回) (名古屋), 2017. 2.
- 27) 平林篤志, 橋口 宏, 阿部一雅, 岩下 哲, 米田 稔, 高井信朗 : 上腕骨近位部骨折・肩関節脱臼骨折に対するリバー型人工関節置換術の治療成績. 日本人工関節学会 (第 47 回) (沖縄), 2017. 2.
- 28) 萩原祐介, 南野光彦, 高井信朗 : 第 5 中手骨頸部粉碎骨折に対して鋼線髓内固定とロッキングプレート固定を併用した 1 例. 東日本整形災害外科学会 (第 65 回) (箱根), 2016. 9.
- 29) 萩原祐介, 南野光彦, 吉田 竜¹⁾, 橋口 宏, 高井信朗 (¹⁾ コネチカット大学ヘルスセンター) : デュプイトラン拘縮を合併した小指屈指腱皮下断裂に対して Ulnar Parametacarpal Flap を用いて治療した 1 例. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第 43 回) (広島), 2016. 11.
- 30) 我妻朋美¹⁾, 萩原祐介, 伏屋洋志¹⁾, 高橋美香¹⁾, 菅野麻希¹⁾, 土屋麻代¹⁾, 大林 茂¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科) : 中指内外転運動による母指対立動作に及ぼす効果の検討. 中部日本ハンドセラピィ研究会 (第 4 回) (高知), 2017. 1.
- 31) 萩原祐介, 南野光彦, 吉田 竜¹⁾, 高井信朗 (¹⁾ コネチカット大学ヘルスセンター) : 母指 CM 関節症の関節形成術前後における透視下動態観察. 東日本手外科研究会 (第 31 回) (札幌), 2017. 2.
- 32) 菅野麻希¹⁾, 萩原祐介, 伏屋洋志¹⁾, 上原秀幸¹⁾, 我妻朋美¹⁾, 大林 茂¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科) : 高精度小型ピンチメーターを用いた肘部管症候群患者の機能評価. 吸収ハンドセラピィ研究会 (第 8 回) (北九州), 2017. 2.
- 33) 片岡達紀, 飯澤典茂, 大島康史, 大場良輔, 高井信朗 : 若年性膝蓋骨上方脱臼の 1 例. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (第 8 回) (福岡), 2016. 7.
- 34) Kataoka T, Iizawa N, Oshima Y, Takai S : Sagittal Alignment in Total Knee Arthroplasty : Suggestion of a New Landmark. APOKA 2016 (7th) (Bangkok, Thailand), 2016. 8.
- 35) Kataoka T, Iizawa N, Oshima Y, Takabayashi N, Takai S : Evaluation of Medial Posterior Tibial Slope and Medial Posterior Capsule Slope. International Society for Technology in Arthroplasty (29th) (Boston, USA), 2016. 10.
- 36) 片岡達紀, 飯澤典茂, 大島康史, 高林直也, 奥村 瞬, 高井信朗 : 人工膝関節置換術における脛骨インプラント設置の新たな指標としての関節包後傾角 : 解剖死体を用いた研究. 日本人工関節学会 (第 47 回) (沖縄), 2017. 2.
- 37) Hashiguchi H, Okubo A, Iwashita S, Yoneda M, Takai S : Arthroscopic removal and tendon repair for refractory rotator cuff calcific tendinitis. APKASS 2016 Congress (Hong Kong), 2016. 6.
- 38) Watanabe H, Majima T¹⁾, Iizawa N, Kataoka T, Oshima Y, Mori A²⁾, Takai S¹⁾ (International University of Health and Welfare Hospital) : Operative versus nonoperative treatment of flexion-type Salter-Harris II fracture of the proximal tibial epiphysis : Retrospective review of 16 cases. Annual Meeting of the Japanese Orthopaedic Association (89th) (Yokohama), 2016. 5.
- 39) 大島康史, 飯澤典茂, 片岡達紀, 高井信朗 : 1 次修復を試みた膝複合靭帯損傷の 1 例. お茶の水膝・スポーツ懇話会 (第 26 回) (東京), 2016. 6.
- 40) 大島康史, 飯澤典茂, 片岡達紀, 高井信朗 : 人工膝関節置換術における大腿骨外科的上顆軸決定のための術前 CT 像を用いた super-

- imposed template の開発. 東日本整形災害外科学会学術集会 (第 65 回) (箱根), 2016. 9.
- 41) Nakajima T, Kim Y : Perioperative radiation exposure during combined anterior and posterior surgery in combination with eX-treme Lateral Interbody Fusion (“XLIF”). EUROSPINE 2016 (Berlin), 2016. 10.
 - 42) 中嶋隆夫, 金 竜, 須藤悦宏, 宮本雅史, 高井信朗 : LLIF における術中終板損傷の検討. 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 (第 25 回) (長崎), 2016. 10.
 - 43) 中嶋隆夫, 金 竜, 須藤悦宏, 宮本雅史, 高井信朗 : 腰椎変性すべり症に対する LLIF による矢状面アラインメント矯正効果. 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 (第 25 回) (長崎), 2016. 10.
 - 44) 中嶋隆夫, 金 竜, 須藤悦宏, 宮本雅史, 高井信朗 : 看護師と理学療法士による XLIF 手術の評価. 日本腰痛学会 (第 24 回) (甲府), 2016. 9.
 - 45) 中嶋隆夫, 金 竜, 須藤悦宏, 大久保敦, 岩下 哲, 萩原祐介, 橋口 宏, 宮本雅史, 高井信朗 : XLIF を用いた前後合併手術における X 線被曝の検討. 日本整形外科学会学術総会 (第 89 回) (横浜), 2016. 5.
 - 46) 阿部一雅, 北川泰之, 園木謙太郎, 小寺訓江, 角田 隆, 南野光彦, 高井信朗 : 18 年間の自然経過を観察した脛骨 adamantinoma の 1 例. 日本整形外科骨・軟部腫瘍学術集会 (第 43 回) (東京), 2016. 7.
 - 47) 阿部一雅, 河路秀巳, 植松卓哉, 小林俊之, 大場良輔, 佐竹美彦, 星川直哉, 岡崎愛未, 渡部 寛, 高井信朗 : 大腿骨転子部高度不安定型骨折に対して一期の人工骨頭置換術を施行した 1 例. 日本股関節学会学術集会 (第 43 回) (大阪), 2016. 11.
 - 48) 阿部一雅, 橋口 宏, 丸山 剛, 平林篤志, 中嶋隆夫, 萩原祐介, 岩下 哲, 米田 稔, 高井信朗 : 解剖学的人工肩関節置換術における術中所見およびインプラント設置位置と術後成績の相関. 日本人工関節学会 (第 47 回) (沖縄), 2017. 2.
 - 49) Okubo A, Hashiguchi H, Iwashita S, Takai S : The characteristics of rotator cuff tears in patients over 70 years old. International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (13th) (Jeju, Korea), 2016. 5.
 - 50) 大久保敦, 橋口 宏, 岩下 哲, 高井信朗 : 高齢者腱板断裂における合併病変の特徴および術後成績. 日本肩関節学会 (第 43 回) (広島), 2016. 10.
 - 51) 植松卓哉, 河路秀巳, 小林俊之, 大場良輔, 佐竹美彦, 渡部 寛, 星川直哉, 岡崎愛未, 阿部一雅, 高井信朗 : 大腿骨転子部骨折術後のカットアウトに対して Zweymuller 型 stem を使用し人工関節置換術を施行した 4 例の検討. 日本股関節学会学術集会 (第 43 回) (大阪), 2016. 11.
 - 52) 植松卓哉, 河路秀巳, 小林俊之, 大場良輔, 佐竹美彦, 渡部 寛, 星川直哉, 岡崎愛未, 阿部一雅, 高井信朗 : 大腿骨転子部骨折術後のカットアウトに対して GTR プレートシステムを併用して人工関節置換術を施行した 3 例. 日本人工関節学会 (第 47 回) (沖縄), 2017. 2.
 - 53) 松井秀平, 眞島任史¹⁾, 河路秀巳, 高橋謙治, 高井信朗 (¹⁾ 国際医療福祉大学病院) : 人工骨頭置換術においてセラミック製骨頭が白蓋の軟骨に与える影響 : 豚股関節器官培養モデルを使用した実験. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第 31 回) (福岡), 2016. 10.
 - 54) 川口宏志, 宮本雅史, 松井秀平, 正木 直, 高井信朗 : 腰椎黄色靭帯内血腫の 4 例. 東日本整形災害外科学会 (第 65 回) (箱根), 2016. 9.
 - 55) 今野俊介, 宮本雅史, 宮本 暖, 佐竹美彦, 水野祥寛, 加藤 恵, 高井信朗 : 体性感覚誘発電位による頸髄症診断精度の検討. 東日本整形災害外科学会 (第 65 回) (箱根), 2016. 9.
 - 56) 星川直哉, 河路秀巳, 植松卓哉, 大場良輔, 佐竹美彦, 渡部 寛, 岡崎愛未, 阿部一雅, 小林俊之, 高井信朗 : 人工股関節全置換術における術中自己血回収効率について進入方法が与える影響 : 単施設コホート研究. 日本股関節学会学術集会 (第 43 回) (大阪), 2016. 11.
 - 57) Oshima Y, Fetto-Joseph F¹⁾ (¹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, New York University Hospital for Joint Diseases) : A 14 year follow up of total hip replacement with a cementless “lateral flare” stem. Annual Congress of International Society for Technology in Arthroplasty (29th) (Boston), 2016. 10.
 - 58) Oshima Y, Iizawa N, Kataoka T, Takahashi K, Takai S : Preoperative Computed Tomography scan-based superimposable template of the surgical epicondylar axis for the adequate alignment of femoral component in Total Knee Arthroplasty. Annual Congress of International Society for Technology in Arthroplasty (29th) (Boston), 2016. 10.
 - 59) 岡崎愛未, 飯澤典茂, 岩下 哲, 片岡達紀, 高林直也, 大園翔太, 米田 稔, 高井信朗 : Zip Tight を併用した鎖骨遠位端骨折の治療成績. 東日本整形災害外科学会 (第 65 回) (箱根), 2016. 9.
 - 60) Majima T¹⁾, Syuhei M, Nishiike O¹⁾, Takahashi K, Oshima Y, Iizawa N, Takai S (¹⁾ International University of Health and Welfare Hospital) : Mechanical Properties of Soft Tissue Structure of Knee Sleeve in Flexion and Extension During TKA. Annual Congress of International Society for Technology in Arthroplasty (29th) (Boston), 2016. 10.
 - 61) 大島康史, 飯澤典茂, 片岡達紀, 高井信朗 : 内反膝に対し内側軟部組織を温存した人工膝関節置換術. お茶の水膝・スポーツ懇話会 (第 27 回) (東京), 2016. 12.
 - 62) 友利裕二, 南野光彦, 小寺訓江, 佐竹美彦, 園木謙太郎 : 尺骨茎状突起基部骨折を合併した橈骨遠位端骨折の治療成績 : Treatment

- v.s. Non-Treatment. 日本手外科学会 (第 59 回) (広島), 2016. 4.
- 63) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 高井信朗: イリザロフ・ミニ創外固定器を用いた母指中手骨底部骨折の治療成績. 日本最小侵襲整形外科学会 (第 22 回) (愛知), 2016. 11.
- 64) 友利裕二, 南野光彦, 小寺訓江, 高井信朗: 手指骨折の手術的治療 母指 CM 関節脱臼・骨折の治療. 東日本整形災害外科学会 (第 65 回) (箱根), 2016. 9.
- 65) 友利裕二, 南野光彦, 小寺訓江, 高井信朗: 患者立脚型評価および医療者側評価を用いた橈骨遠位端骨折の治療成績 AO 分類 A 型骨折と C 型骨折の比較. 日本骨折治療学会 (第 42 回) (東京), 2016. 7.
- 66) Satake Y, Tomori Y, Nanno M, Kodera N, Hagiwara Y, Takai S: Medial ulnar collateral ligament rupture was highly associated with pediatric medial epicondyle fracture in surgery. Annual meeting of America Society for Surgery of Hand (71st) (U.S.A), 2016. 10.
- 67) 佐竹美彦, 河路秀巳, 南 和文¹⁾, 丸山智久²⁾, 川俣博志³⁾, 植松卓哉, 小林俊之, 高井信朗 (¹⁾ 国際医療福祉大学臨床医学研究センター, 山王病院整形外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科): Ceramic on ceramic 人工股関節置換術におけるセラミック摩耗評価のための新しい単純 X 線撮影法. 日本股関節学会学術集会 (第 43 回) (大阪), 2016. 11.
- 68) Satake Y, Kawaji H, Minami K¹⁾, Maruyama T²⁾, Kawamata H³⁾, Uematsu T, Takai S (¹⁾ Clinical Research Center, International University of Health and Welfare, Department of Orthopaedic Surgery, Sanno Hospital, ²⁾ Radiological Centre, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital): A New Roentgenographic Technique to Assess Ceramic Wear in Ceramic on Ceramic Total Hip Arthroplasty. European Congress of Radiology (29th) (Austria), 2017. 3.
- 69) 奥村 瞬, 北川泰之, 宮本雅史, 高井信朗: 下腿に発生した Fibrous hamartoma of infancy の 1 例. 東日本整形災害外科学会 (第 65 回) (箱根), 2016. 9.
- 70) 正木 直, 南野光彦, 小寺訓江, 友利裕二, 萩原祐介, 高井信朗: 重度肘部管症候群における一次的示指外転機能再建の経験胸椎間板ヘルニアの治療経験. 東日本整形災害外科学会 (第 65 回) (箱根), 2016. 9.
- 71) 正木 直, 高橋謙治, 橋本三四郎¹⁾, 生田 太²⁾, 中村 洋³⁾, 木内信司⁴⁾, 伊藤寿彦, 岡崎愛未, 高井信朗: 変形性膝関節症保存治療における膝蓋下脂肪体の体積変化. 日本関節病学会 (第 44 回) (大分), 2016. 11.
- 72) 渡部 寛, 石井寛高¹⁾, 高橋謙治, 高井信朗, 小澤一史¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科解剖学・神経生物学): 変形性膝関節症滑膜での最適参照遺伝子の選定に基づいたステロイドホルモン受容体の発現解析と その BMI, 性との相関について. 運動器坑加齢医学研究会 (第 6 回) (東京), 2016. 11.
- 73) 渡部 寛, 眞島任史¹⁾, 高橋謙治, 河路秀巳, 高井信朗 (¹⁾ 国際医療福祉大学病院整形外科): 距骨後突起内側結節骨折の報告と新分類の提案. 文京整形外科カンファレンス (第 5 回) (東京), 2016. 7.
- 74) 渡部 寛, 石井寛高¹⁾, 高橋謙治, 高井信朗, 小澤一史¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科解剖学・神経生物学): 変形性膝関節症滑膜での最適参照遺伝子の選定に基づいたステロイドホルモン受容体の発現解析と その BMI, 性との相関について. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 122 回) (長崎), 2017. 3.
- 75) 渡部 寛, 高橋謙治, 井関祐也¹⁾, 加藤和夫²⁾, 新藤康弘³⁾, 生田 太⁴⁾, 丸山 剛, 高井信朗 (¹⁾ 八戸工業高等専門学校機械システムデザインコース, ²⁾ 明治大学理工学部, ³⁾ 東洋大学理工学部機械工学科, ⁴⁾ 広島国際大学大学院医療福祉科学研究科): 超音波による非侵襲的関節内温度測定法の開発. 日本関節病学会 (第 44 回) (大分), 2016. 11.
- 76) Watanabe H, Majima T¹⁾, Iizawa N, Kataoka T, Oshima Y, Mori A²⁾, Takai S (¹⁾ International University of Health and Welfare Hospital): Flexion-type Salter-Harris II fracture of the proximal tibial epiphysis: Operative versus nonoperative treatment. Congress of Asia Pacific Knee Society (9th) (Yokohama), 2016. 10.
- 77) 岡崎愛未, 高橋謙治, 橋本三四郎, 生田 太, 中村 洋, 木内信司, 正木 正, 松井秀平, 高井信朗 (¹⁾ 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック, ²⁾ 広島国際大学大学院医療福祉学研究科, ³⁾ 国際医療福祉大学, ⁴⁾ 八重洲クリニック): 顆間窩・脛骨顆間隆起形態が関節軟骨変性に及ぼす影響. 日本関節病学会 (第 44 回) (大分), 2016. 11.
- (7) 学術講演会:
- 1) 橋口 宏: 整形外科領域における漢方薬治療: 漢方の基礎知識編. きみさらず漢方研究会 (第 1 回) (千葉), 2016. 6.
 - 2) 橋口 宏: リバース型人工肩関節置換術: TM Reverse Shoulder & Comprehensive Reverse Shoulder. Sapporo Shoulder Course 2016 (札幌), 2016. 7.
 - 3) 橋口 宏: 整形外科領域における漢方. 幕張漢方セミナー (幕張), 2016. 7.
 - 4) 橋口 宏: Reverse Shoulder Arthroplasty: 良好な展開のための基本手技. 関東人工肩関節 (RSA) セミナー (第 1 回), 2016. 9.
 - 5) 橋口 宏: 整形外科領域における漢方薬: 痛み・冷えを中心に. 安房医師会学術講演会 (千葉), 2017. 3.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Mizuno N¹⁾, Yoneda M, Nakagawa S²⁾, Hayashida K³⁾ (1) Toyonaka Municipal Hospital, 2) Yukioka Hospital, 3) Osaka Police Hospital) : The pathology of the anterior capsule in patients over 40 years showing recurrent shoulder dislocation. Int Orthop 2016 ; 40 (1) : 81-86.
- 2) Kawaji H, Uematsu T, Oba R, Takai S : Conservative Treatment for Fracture of the Proximal Femur with Complications. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (1) : 2-5.

21. 女性生殖発達病態学分野

[付属病院女性診療科・産科]

研究概要

周産期部門、婦人科腫瘍部門、生殖内分泌部門、女性ヘルスケア部門、低侵襲手術部門の各部門でそれぞれ精力的に研究が行われた。周産期部門では、多くの不育症治療症例における周産期管理に関して詳細な解析を行った。また、子宮頸部円錐切除後の新たな子宮頸管縫縮術について報告した。婦人科腫瘍部門では、手術においては腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術や広汎子宮全摘術における神経温存術式の詳細な検討を行った。化学療法においては、分子標的薬による治療を積極的に導入し、症例を蓄積して報告した。生殖内分泌部門では、不育症例における各種自己抗体、凝固因子などを検討し予後との関連を解析し報告した。女性ヘルスケア部門、低侵襲手術部門では、骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術や子宮内膜症に対する腹腔鏡下手術を積極的に行い、その詳細を報告した。以上、各部門において活発に研究活動が行われており、その成果については、本邦および海外の学術集会および論文にて報告を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 竹下俊行：子宮形態異常. 産科と婦人科 2016；83 (5)：541-546.
- 2) 小野修一, 明楽重夫：Non-ARTの不妊症診療：体外受精なしでここまでできる6.子宮鏡検査とポリープ切除術. 産科と婦人科 2017；84 (3)：287-292.
- 3) 倉品隆平, 桑原慶充, 竹下俊行：絨毛膜下血腫. 周産期医学 2016；46 (増刊号)：211-213.
- 4) Shigemi D, Kawai N, Takeshita T：Ovarian Mature and Immature Teratomas in Monozygotic Twins：A Case Report of Simultaneous Presentation. Case Rep Obstet Gynecol 2017；Epub.
- 5) Shigemi D, Matsushashi T, Yamada T, Kamoi S, Takeshita T：Preoperative screening of thromboembolism using plasma D-dimer test and proximal vein compression ultrasonography in Japanese gynecologic patients. Ann Med Surg 2017；13 (15)：52-55.
- 6) Negishi Y, Shima Y, Takeshita T, Takahashi H：Distribution of invariant natural killer T cells and dendritic cells in late pre-term birth without acute chorioamnionitis. Am J Reprod Immunol 2017；77 (6).
- 7) Ichikawa T, Negishi Y, Shimizu M, Takeshita T, Takahashi H： α -Galactosylceramide-activated murine NK1.1 (+) invariant-NKT cells in the myometrium induce miscarriages in mice. Eur J Immunol 2016；48 (8)：1867-1877.
- 8) Nakaoka H, Gurumurthy A, Hayano T, Ahmadloo S, Omer W, Yamamoto A, Kurose K, Enomoto T, Akira S, Hosomichi K, Inoue I：Allelic Imbalance in Regulation of ANRIL through Chromatin Interaction at 9p21 Endometriosis Risk Locus. PLoS Genet 2016；12 (4)：e1005893.
- 9) Matsushima T, Akira S, Asakura H, Takeshita T：Low-dose gonadotropin-releasing hormone agonist therapy (draw-back therapy) for successful long-term management of adenomyosis associated with cerebral venous and sinus thrombosis from low-dose oral contraceptive use. Clin Exp Obstet Gynecol 2017；44 (1)：143-145.
- 10) 三浦 愛, 関根仁樹, 佐野めぐみ, 可世木華子, 渡邊建一郎, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行：全腹腔鏡下子宮全摘出術中に判明した両側重複腎盂尿管の1例. 関東連合産科婦人科学会誌 2016；53 (4)：583-587.
- 11) 竹下俊行：不育症：子宮形態異常, 染色体転座保因と甲状腺機能低下症. 日本産科婦人科学会誌 2017；69 (3)：1144-1150.

(2) 総説：

- 1) 桑原慶充：周産期管理がぐっとうまくなる！ ハイリスク妊娠の外来診療パーフェクトブック妊婦健診によるハイリスク妊娠の抽出. 産婦人科の実際 2016；65 (10)：1115-1120.
- 2) 桑原慶充：周産期管理がぐっとうまくなる！ ハイリスク妊娠の外来診療パーフェクトブック妊婦健診によるハイリスク妊娠の抽出. 産婦人科の実際 2016；65 (増刊号)：1115-1120.
- 3) 竹下俊行：【不育症 Up to Date】子宮形態異常 (解説/特集). 産科と婦人科 2016；83 (5)：541-546.
- 4) 竹下俊行：不育症の検査・診断 (Q2) 着床前診断と着床前スクリーニングの臨床的意義と問題点, 方法について教えてください (Q&A/特集). 臨床婦人科産科 2016；70 (4)：348-350.
- 5) 竹下俊行：不育症の検査・診断 子宮奇形の不育症への影響と検査 (解説/特集). 臨床婦人科産科 2016；70 (4)：331-334.

(3) 研究報告書：

- 1) Ichikawa T, Negishi Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takeshita T, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon

Medical School) : α -Galactosylceramide-activated murine NK1.1+ invariant-NKT cells in the myometrium induce miscarriages in mice. *European Journal of Immunology* 2016 ; 46 (8) : 1867-1877.

(4) 症例報告 :

- 1) 北島展子, 桑原慶充, 米澤美令, 吉川沙織, 大内 望, 倉品隆平, 澤倫太郎, 竹下俊行 : 治療抵抗性の臨床像を呈した血栓性素因合併妊娠の1例. *東京産科婦人科学会誌* 2016 ; 65 (4) : 760-765.
- 2) 細谷由貴, 重見大介, 渡邊朝子, 島田 学, 村川裕子, 河合尚基¹⁾ (1) 東京臨海病院産婦人科) : 卵巣甲状腺腫性カルチノイドの1例. *東京産科婦人科学会誌* 2017 ; 66 (1) : 112-116.
- 3) 上野悠太, 杉田匡聡¹⁾, 島田佳苗¹⁾, 坂本公彦¹⁾, 喜多川亮¹⁾, 近藤一成¹⁾, 佐藤奈加子¹⁾, 忠内 薫¹⁾, 角田 肇¹⁾ (1) NTT 東日本関東病院産婦人科) : 分葉状頸管腺過形成 (LEGH) の長期フォロー中に上皮内腺癌 (AIS) を合併した2症例. *東京産科婦人科学会誌* 2016 ; 65 (2) : 306-310.
- 4) 庄田有里, 関根仁樹, 白井有香, 可世木華子, 渡邊建一郎, 小野修一, 山本晃人, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 明樂重夫, 竹下俊行 : 腹腔鏡下子宮筋腫核出術後に子宮平滑筋肉腫の腹腔内播種がみられた1例. *東京産科婦人科学会誌* 2016 ; 65 (2) : 228-236.

著 書

- 1) 桑原慶充 : [編集] 周産期管理がぐっとよくなる! ハイリスク妊娠の外来診療 パーフェクトブック. 産婦人科の実際 (桑原慶充), 2016 ; pp115-120, 金原出版.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 竹下俊行 : 「日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医制度 : これまでの歩みとその将来」. 日本女性骨盤底医学会 (第18回) (北九州), 2016. 6.
- 2) 竹下俊行 : 技術認定からみた医療安全. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第56回) (長崎), 2016. 9.
- 3) 明樂重夫 : 産婦人科領域での技術認定制度の現状と将来展望 : 認定研修施設制度を発足させて. 日本内視鏡外科学会 (第29回) (横浜), 2016. 12.
- 4) 竹下俊行 : 着床前胚スクリーニング : わが国の現状と世界の動向. 日本産科婦人科遺伝診療学会 (第2回) (京都), 2016. 12.
- 5) 竹下俊行 : 着床前スクリーニング. ナースのためのART医学セミナー2016 (東京), 2016. 5.
- 6) 竹下俊行 : 産婦人科領域における内視鏡技術認定と施設認定について. 第28回青森内視鏡外科研究会 (青森), 2017. 2.
- 7) Akira S : Systematic laparoscopic surgery for deep infiltrating endometriosis. 5th Asian Conference on Endometriosis (Osaka), 2016. 9.

(2) 教育講演 :

- 1) 桑原慶充 : ゴナドトロピン製剤の変遷 : Prion statement の経緯と検証. 日本受精着床学会 (第34回) (軽井沢), 2016. 9.
- 2) 明樂重夫 : 性器脱の診断と治療. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第68回) (東京), 2016. 4.
- 3) 明樂重夫 : 骨盤臓器脱の手術 : LSC を中心に. 神奈川産科婦人科学会学術講演会 (第417回) (神奈川), 2017. 3.

(3) シンポジウム :

- 1) 市川雅男 : 大学病院での内視鏡手術教育 安全と挑戦のはざま. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第56回) (長崎), 2016. 9.
- 2) 明樂重夫 : 子宮内膜症性不妊における手術療法の意義 : ART か腹腔鏡か. 日本生殖医学会 (第61回) (横浜), 2016. 11.
- 3) 明樂重夫 : 骨盤臓器脱治療における腹腔鏡の意義. 日本女性医学学会 (第31回) (京都), 2016. 11.
- 4) Takeshita T : The Endoscopic Surgical Skill Qualification System In Gynecologic Endoscopy. 17th APAGE Annual Congress of Asia-Pacific Association For Gynecologic Endoscopy (Taipei), 2016. 11.
- 5) 明樂重夫 : 子宮内膜症性不妊における手術療法の意義 : ART か腹腔鏡か. 日本生殖医学会学術講演会 (第61回) (横浜), 2016. 11.
- 6) 明樂重夫 : 骨盤臓器脱治療における腹腔鏡の意義. 日本女性医学学会学術集会 (第31回) (京都), 2016. 11.

(4) セミナー :

- 1) 川瀬里衣子 : 女性診療科・産科での骨盤腫瘍への取り組み. 骨盤腫瘍セミナー (東京), 2016. 5.

(5) ワークショップ :

- 1) 米山剛一, 石橋 宰¹⁾, 川瀬里衣子, 山本晃人, 黒瀬圭輔, 山田 隆, 土居大祐, 鴨井青龍, 竹下俊行 (1) 大阪府立大生命環境科学研究科) : 子宮体癌において miR-200a, miR-200b, miR-429 は PTEN 遺伝子を標的としている. 日本産婦人科学会学術講演会 (第68回) (東京), 2016. 4.
- 2) 印出佑介, 中井章人, 関口敦子, 林 昌子, 石川 源, 竹下俊行 : 日本人妊産婦の正常分娩における標準分娩曲線の作成. 日本産婦人科学会学術講演会 (第68回) (東京), 2016. 4.
- 3) 市川雅男, 明樂重夫, 関根仁樹, 可世木華子, 渡邊建一郎, 小野修一, 竹下俊行 : 2016年4月 腹腔鏡下仙骨腔固定術保険収載 今

- こそ伝えたい重要事項：LSC-fit. 日本産科婦人科内視鏡学会（第56回）（長崎），2016. 9.
- 4) 小野修一, 米澤美令, 渡邊建一郎, 阿部 崇, 峯 克也, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行：子宮奇形に対する reproductive surgery. 日本受精着床学会（第34回）（軽井沢），2016. 9.
 - 5) 市川雅男, 明楽重夫, 可世木華子, 関根仁樹, 渡邊建一郎, 小野修一, 竹下俊行：Laparoscopic sacrocolpopexy (LSC) -fit- 病態に応じた術式最適化プロトコル. 日本内視鏡外科学会（第29回）（横浜），2016. 12.
 - 6) 渡邊建一郎, 市川雅男, 関根仁樹, 可世木華子, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行：深部子宮内膜症に対する腹腔鏡術後の排尿障害について. 日本内視鏡外科学会（第29回）（横浜），2016. 12.
 - 7) 松島 隆, 明楽重夫, 米山剛一, 竹下俊行：支給腺筋症のホルモン療法～GNRH アゴニスト長期投与を目指して：draw-back therapy. 日本エンドメトリオーシス学会（第38回）（東京），2017. 1.
 - 8) 市川雅男, 明楽重夫, 白井有香, 可世木華子, 渡邊建一郎, 小野修一, 竹下俊行：新しい子宮内膜症診断法：NMS-Eに基づく深部病変へのアプローチ 適応と限界を見極める. 日本エンドメトリオーシス学会（第38回）（東京），2017. 1.
- (6) 一般講演：
- 1) 可世木華子, 明楽重夫, 関根仁樹, 渡邊建一郎, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行：腹腔鏡下皮様嚢胞腫摘出術後のAMH推移について. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 2) 渡邊建一郎, 明楽重夫, 根本崇宏¹⁾, 竹下俊行¹⁾ 日本医大生体統御学：子宮内膜症患者におけるWnt4mRNAの発現の解析. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 3) 杉田洋佑, 石川 源, 川端伊久乃, 林 昌子, 山岸絵美, 原田寛子, 中井章人, 竹下俊行：産科危機的出血における緊急異型輸血の4例. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 4) 重見大介, 大和田桃子, 今道小百合, 松井遼子, 浜野愛理, 森 瑛子, 中田真理世, 松橋智彦, 山田 隆, 鴨井青龍, 竹下俊行：婦人科手術380例における周術期血栓塞栓症に関する検討：術前スクリーニング法の確立に向けて. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 5) 関根仁樹, 市川雅男, 可世木華子, 渡邊建一郎, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行：子宮内膜症に対する新たな術前評価法NMS-E (Numerical Multi-system of Endometriosis) の経腔エコーによる癒着評価は検者間で差はない. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 6) 松島 隆, 針金永佳, 針金幸代, 山口道子, 間瀬有里, 古市直子, 深見武彦, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行：支給腺筋症に対する薬物療法の子宮腫大抑制効果に関する検討. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 7) 黒瀬圭輔, 山本晃人, 川瀬里衣子, 米山剛一, 鴨井青龍, 竹下俊行：当院における上皮性境界悪性卵巣腫瘍の臨床的検討. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 8) 深見武彦, 黒木陸実, 間瀬有里, 古市直子, 立山尚子, 佐藤杏月, 針金幸代, 高屋 茜, 角田陽平, 稲垣知子, 米山剛一, 竹下俊行：双胎妊娠における妊娠中期の子宮下節を含めない頸管長の評価. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 9) 小野修一, 桑原慶充, 神戸沙織, 米澤美令, 渡邊建一郎, 明楽重夫, 竹下俊行：低刺激採卵周期における併用ゴナドトロピン製剤の比較解析～LH補充の臨床的意義. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回），2016. 4.
 - 10) 林 昌子, 富山僚子, 小野修一, 大内 望, 峯 克也, 桑原慶充, 関口敦子, 中井章人, 竹下俊行, 苛原 稔¹⁾ ¹⁾ 厚労科学研究「生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証と生殖補助医療技術の標準化に関する研究」班：生殖補助医療症例における癒着胎盤のリスク因子：ARTデータベースと周産期登録を用いた検討. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 11) 米澤美令, 神戸沙織, 可世木華子, 小野修一, 大内 望, 倉品隆平, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行：不育症症例における抗Phoshatidylethanolamine抗体の意義. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回），2016. 4.
 - 12) Yamamoto A, Kawase R, Kurose K, Yoneyama K, Takeshita T：Clinical study of immature teratoma. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 13) Kawase R, Kurose K, Yamamoto A, Yoneyama K, Takeshita T：Side effects of bevacizumab in epithelial ovarian cancer. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 14) Kuwabara K, Kanbe S, Yonezawa M, Ouchi N, Kurashina R, Sawa R, Nakai A, Takeshita T：Effect of progesterone on human cervical fibroblast-from basic research to clinical significance. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 15) Ichikawa M, Akira S, Sekine M, Ono S, Takeshita T：New diagnostic interface of endometriosi s：NMS-E (Numerical multi-scoring system of endometriosis). 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 16) Ito Y, Yamaguchi S¹⁾, Inde Y, Tsunoda Y, Kuroki M, Fukami T, Matsushima T, Yoneyama K, Takeshita T ¹⁾ Yamaguchi Women Hospital：Prevention strategies in perinatal women with group B streptococcal infection. 日本産婦人科学会学術講演会（第68回）（東京），2016. 4.
 - 17) 北島展子, 桑原慶充, 米澤美令, 吉川沙織, 大内 望, 倉品隆平, 澤倫太郎, 竹下俊行：治療抵抗性の臨床像を呈した血栓性素因合併妊娠の1例. 東京産科婦人科学会例会（第378回）（東京），2016. 5.

- 18) 山本晃人, 黒瀬圭輔, 川瀬里衣子, 池田真利子, 米山剛一, 竹下俊行: 妊娠初期における子宮頸部細胞診のピットフォール. 日本臨床細胞学会総会(春期大会)(第57回)(神奈川), 2016. 5.
- 19) 市川雅男, 明楽重夫, 関根仁樹, 可世木華子, 渡邊建一郎, 小野修一, 竹下俊行: Laparoscopic sacrocolpopexy (LSC)-fit -分娩時損傷から紐解く骨盤臓器脱治療-. 日本女性骨盤底医学会(第18回)(北九州), 2016. 6.
- 20) 可世木華子, 市川雅男, 関根仁樹, 明楽重夫, 竹下俊行: 当院のNTRにおける成績. 日本女性骨盤底医学会(第18回)(北九州), 2016. 6.
- 21) 米山剛一¹⁾, 寺崎美佳²⁾, 川瀬里衣子³⁾, 山本晃人³⁾, 黒瀬圭輔³⁾, 竹下俊行³⁾ ¹⁾ 日本医大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医大解析人体病理, ³⁾ 日本医大付属病院女性診療科・産科): 組織学的に破骨細胞様巨細胞が特徴的であった子宮平滑筋育種の1例. 日本婦人科腫瘍学会(第58回)(松江), 2016. 7.
- 22) 山本晃人, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 池田真利子, 米山剛一, 竹下俊行: Carboplatin 脱感作投与法を施行した卵巣癌症例の検討. 日本婦人科腫瘍学会(第58回)(松江), 2016. 7.
- 23) 黒瀬圭輔, 池田真利子, 山本晃人, 川瀬里衣子, 米山剛一, 鴨井青龍, 竹下俊行: 当院にて治療した上皮性境界悪性卵巣腫瘍の検討. 日本婦人科腫瘍学会(第58回)(松江), 2016. 7.
- 24) 針金永佳¹⁾, 米山剛一¹⁾, 間瀬有里¹⁾, 古市直子¹⁾, 伊藤友希¹⁾, 角田陽平¹⁾, 針金幸代¹⁾, 池田真利子¹⁾, 稲垣知子¹⁾, 高屋 茜¹⁾, 黒木陸実¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 山口道子¹⁾, 深見武彦¹⁾, 竹下俊行, その他1名 ¹⁾ 日本医大武蔵小杉病院女性診療科・産科): 術前診断に苦慮した卵巣原発癌肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会(第58回)(松江), 2016. 7.
- 25) 上野悠太, 杉田匡聡¹⁾, 佐藤歩美¹⁾, 坂本公彦¹⁾, 近藤一成¹⁾, 佐藤加奈子¹⁾, 忠内 薫¹⁾, 角田 肇¹⁾ ¹⁾ NTT 東日本関東病院): 分葉状頸管腺過形成(LEGH)の長期フォロー中に上皮内膜腺癌を合併した2例. 日本婦人科腫瘍学会(第58回)(松江), 2016. 7.
- 26) 島田佳苗¹⁾, 坂本公彦¹⁾, 上野悠太, 近藤一成¹⁾, 喜多川亮¹⁾, 佐藤加奈子¹⁾, 忠内 薫¹⁾, 杉田匡聡¹⁾ ¹⁾ NTT 東日本関東病院): 当院における初期子宮体癌縮小手術の検討. 日本婦人科腫瘍学会(第58回)(松江), 2016. 7.
- 27) 近藤一成¹⁾, 上野悠太, 島田佳苗¹⁾, 佐藤歩美¹⁾, 坂本公彦¹⁾, 喜多川亮¹⁾, 佐藤加奈子¹⁾, 忠内 薫¹⁾, 杉田匡聡¹⁾, 角田 肇¹⁾ ¹⁾ NTT 東日本関東病院産婦人科): 閉経後における子宮頸部円錐切除術の問題点. 日本婦人科腫瘍学会(第58回)(松江), 2016. 7.
- 28) 倉品隆平, 大内 望, 神戸沙織, 米澤美令, 桑原慶充, 澤倫太郎, 竹下俊行: 重症妊娠悪阻における入院長期化予測因子の検討. 日本周産期・新生児医学会(第52回)(富山), 2016. 7.
- 29) 川端英恵, 石川 源, 杉田洋佑, 寺田佳世子, 原田寛子, 尾崎景子, 山岸絵美, 菊地恵理子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 関口敦子, 中井章人, 竹下俊行: 当科において子宮内バルーンタンポナーデを施行した54例の検討. 日本周産期・新生児医学会(第52回)(富山), 2016. 7.
- 30) 大内 望, 桑原慶充, 吉川沙織, 米澤美令, 倉品隆平, 澤倫太郎, 竹下俊行: 当科における超高齢妊娠の予後に関する後方視的検討. 日本周産期・新生児医学会(第52回)(富山), 2016. 7.
- 31) 針金幸代, 米山剛一, 伊藤友希, 角田陽平, 稲垣知子, 高屋 茜, 黒木陸実, 佐藤杏月, 間瀬有里, 古市直子, 深見武彦, 松島 隆, 竹下俊行: 帝王切開癒痕部憩室が筋腫様に発育した1例. 日本周産期・新生児医学会(第52回)(富山), 2016. 7.
- 32) 米澤美令, 桑原慶充, 吉川沙織, 大内 望, 倉品隆平, 澤倫太郎, 竹下俊行: 抗血栓療法中に発生した絨毛膜下血腫の臨床転帰についての検討. 日本周産期・新生児医学会(第52回)(富山), 2016. 7.
- 33) 深見武彦, 針金幸代, 黒木陸実, 稲垣知子, 角田陽平, 伊藤友希, 高屋 茜, 松村好克, 松島 隆, 米山剛一, 竹下俊行: 妊娠20週の破水後に termination を施行し大量出血に至った常位癒着胎盤と前置癒着胎盤の2症例. 日本周産期・新生児医学会(第52回)(富山), 2016. 7.
- 34) 角田陽平¹⁾, 深見武彦¹⁾, 伊藤友希¹⁾, 針金幸代¹⁾, 稲垣知子¹⁾, 高屋 茜¹⁾, 黒木陸実¹⁾, 間瀬有里¹⁾, 山口道子¹⁾, 松島 隆¹⁾, 米山剛一¹⁾, 竹下俊行 ¹⁾ 日本医大武蔵小杉病院女性診療科・産科): 妊娠中期の切迫流早産例における Amniotic Fluid Sludge と妊娠予後との関連. 日本周産期・新生児医学会(第52回)(富山), 2016. 7.
- 35) Ichikawa M: Tailored posterior vaginal cmparmen rpairs based on defects in revctovaginal fascia to reduce meshu-related complications in laparoscopic sacrocolpopexy. International Urogynecological Association (41th)(South Africa), 2016. 8.
- 36) 可世木華子, 明楽重夫, 関根仁樹, 渡邊建一郎, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: 腹腔鏡下卵巣皮様嚢胞腫摘出術後の卵巣機能は低下しない. 日本産科婦人科内視鏡学会(第56回)(長崎), 2016. 9.
- 37) 渡邊建一郎, 市川雅男, 北島展子, 白石達典, 関根仁樹, 可世木華子, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: 深部子宮内膜症腹腔鏡術後の排尿障害について. 日本産科婦人科内視鏡学会(第56回)(長崎), 2016. 9.
- 38) 渡辺美千明¹⁾, 重見大介, 松橋智彦, 山田 隆, 鴨井青龍, 竹下俊行 ¹⁾ 博愛会菅間記念病院): プタ心臓をもちいた人工子宮筋腫モデルの作成と腹腔鏡下筋腫核出術の手術シミュレーション. 日本産科婦人科内視鏡学会(第56回)(長崎), 2016. 9.
- 39) 小野修一, 関根仁樹, 可世木華子, 渡邊建一郎, 阿部 崇, 峯 克也, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 子宮鏡下中隔切除術に対する術前ジェノゲスト投与の有効性. 日本産科婦人科内視鏡学会(第56回)(長崎), 2016. 9.
- 40) 関根仁樹, 市川雅男, 可世木華子, 渡邊建一郎, 小野修一, 明楽重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡手術における術後骨盤内感染発症のリスク

- ファクターの検討. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第56回) (長崎), 2016. 9.
- 41) 庄田有里, 松橋智彦, 重見大介, 杉田洋佑, 松井遼子, 浜野愛理, 森 瑛子, 中西一步, 山田 隆, 鴨井青龍, 竹下俊行: 腹腔鏡手術における深部静脈血栓症および肺血栓症の術前1次スクリーニングとして下肢超音波検査は有用か?. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第56回) (長崎), 2016. 9.
 - 42) 松橋智彦, 中西一步, 庄田有里, 杉田洋佑, 松井遼子, 重見大介, 浜野愛理, 森 瑛子, 山田 隆, 鴨井青龍, 竹下俊行: 子宮体癌術後の陰断端離開部小腸脱に対して吊り上げ法による腹腔鏡下陰断端縫合閉鎖術が有用であった1例. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第56回) (長崎), 2016. 9.
 - 43) 三倉麻子, 倉品隆平, 吉川沙織, 米澤美令, 大内 望, 山本晃人, 川瀬里衣子, 澤倫太郎, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 子宮動脈塞栓術を2度施行するも止血に至らず子宮摘出に至った1例. 日本医科大学医学会 (第84回) (東京), 2016. 9.
 - 44) 石原彩子, 黒瀬圭輔, 庄田有里, 山本晃人, 川瀬里衣子, 竹下俊行: 子宮体部脱分化癌の1例. 日本医科大学医学会 (第84回) (東京), 2016. 9.
 - 45) 北島展子, 渡邊建一郎, 白石達典, 関根仁樹, 可世木華子, 小野修一, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: LEP 配合剤内服中に卵巣出血を来した巨大後腹膜血腫を呈した1例. 東京産科婦人科学会例会 (第379回) (東京), 2016. 9.
 - 46) 米澤美令, 吉川沙織, 可世木華子, 渡邊建一郎, 小野修一, 大内 望, 倉品隆平, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 竹下俊行: 9番染色体逆位は不育症に関連するか?. 日本受精着床学会 (第34回) (軽井沢), 2016. 9.
 - 47) Kaseki H, Akira S, Sekine M, Watanabe K, Ono S, Ichikawa M, Takeshita T: Change of Anti-Müllerian hormone after endometrioma surgery by administration of oral contraception. Asian Conference on Endometriosis (5th) (大阪), 2016. 9.
 - 48) Ichikawa M, Akira S, Sekine M, Kaseki H, Watanabe K, Ono S, Takeshita T: A new compass in the surgical treatment of deep infiltrating endometriosis: a numerical multi-scoring system for endometriosis. Asian Conference on Endometriosis (5th) (大阪), 2016. 9.
 - 49) 小野修一, 桑原慶充, 加藤藤子, 吉川沙織, 米澤美令, 渡邊建一郎, 明楽重夫, 竹下俊行: ヒト卵胞液および血清中におけるオステオポンチンの存在と生理学的意義について. 日本生殖医学会 (第61回) (横浜), 2016. 11.
 - 50) Ichikawa M, Akira S, Takeshita T: New interface in the surgical treatment of deep infiltrating endometriosis: A numerical multi-scoring system for endometriosis. The Asia-Pacific Association for Gynecologic Endoscopy and Minimally Invasive Therapy (2016) (Taipei), 2016. 11.
 - 51) 可世木華子, 明楽重夫, 関根仁樹, 渡邊建一郎, 小野修一, 市川雅男, 竹下俊行: 骨盤臓器脱治療における, 従来法の立ち位置. 日本女性医学学会 (第31回) (京都), 2016. 11.
 - 52) 山本晃人, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 池田真利子, 山田 隆, 米山剛一, 鴨井青龍, 竹下俊行: 神経温存広汎性子宮全摘出術の検討. 日本婦人科手術学会 (第39回) (仙台), 2016. 11.
 - 53) 松井遼子, 鴨井青龍, 山田 隆, 松橋智彦, 中田真理世, 森 瑛子, 浜野愛理, 重見大介, 大和田桃子, 竹下俊行: 腔壁の開窓・形成に難渋した OHVIRA 症候群の1例. 日本婦人科手術学会 (第39回) (仙台), 2016. 11.
 - 54) 石原彩子, 黒瀬圭輔, 松橋智彦, 山本晃人, 川瀬里衣子, 山田 隆, 米山剛一, 鴨井青龍, 大橋隆治¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (日本医大病理診断科): 子宮体部 Dedifferentiated carcinoma の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第55回) (別府), 2016. 11.
 - 55) 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 山本晃人, 松原美幸¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (日本医大付属病院病理診断科): 子宮内膜細胞診に癌細胞が出現した乳癌既往のある卵巣癌の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第55回) (別府), 2016. 11.
 - 56) 桑原慶充, 片山 映¹⁾, 栗原佐知子¹⁾, 米澤美令, 大内 望, 竹下俊行¹⁾ (日本医大分子生物学・生化学教室): 2次元免疫プロットを用いた, Seronegative obstetrical antiphospholipid syndrome における病態関連分子の探索. 日本生殖免疫学会 (第31回) (神戸), 2016. 12.
 - 57) 市川智子, 根岸靖幸¹⁾, 清水真澄¹⁾, 竹下俊行, 高橋秀実¹⁾ (日本医大微生物免疫学): α -Galactosylceramide により活性化された子宮筋層内 NK1.1⁺ iNKT 細胞による流産の誘発. 日本生殖免疫学会 (第31回) (神戸), 2016. 12.
 - 58) 可世木華子, 市川雅男, 関根仁樹, 渡邊建一郎, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: 急性腹症で受診した子宮内膜症性卵巣嚢胞の手術適応について. 日本内視鏡外科学会 (第29回) (横浜), 2016. 12.
 - 59) 三幣百合愛, 黒瀬圭輔, 北島展子, 山本晃人, 川瀬里衣子, 竹下俊行: 子宮頸部原発顆粒球肉腫の1例. 東京産科婦人科学会 (第32回) (東京), 2016. 12.
 - 60) 白石達典, 明楽重夫, 可世木華子, 渡邊建一郎, 小野修一, 市川雅男, 竹下俊行: 支給腺筋症に対する LNG-IUS 療法において, GnRH アゴニスト併用は有効か. 日本エンドメトリオーシス学会 (第38回) (東京), 2017. 1.
 - 61) 角田陽平, 奥田直史, 山田舞夕, 三浦 愛, 清田裕美, 針金永佳, 針金幸代, 加藤雅彦, 高屋 茜, 黒木睦実, 深見武彦, 川端伊久乃, 松島 隆, 米山剛一, 竹下俊行: 術前に卵巣子宮内膜症性嚢胞の悪性転化を強く疑った1例. 日本エンドメトリオーシス学会 (第38回) (東京), 2017. 1.
 - 62) 針金永佳, 奥田直史, 山田舞夕, 三浦 愛, 清田裕美, 針金幸代, 加藤雅彦, 高屋 茜, 黒木睦実, 深見武彦, 川端伊久乃, 松島

- 隆, 米山剛一, 竹下俊行: 卵巣チョコレート嚢胞の癌化. 日本エンドメトリオーシス学会 (第 38 回) (東京), 2017. 1.
- 63) 可世木華子, 市川雅男, 佐野めぐみ, 白井有香, 渡邊建一郎, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: 当院における急性腹症を呈したチョコレート嚢胞症例の検討. 日本エンドメトリオーシス学会 (第 38 回) (東京), 2017. 1.
- 64) 白井有香, 市川雅男, 可世木華子, 明楽重夫, 竹下俊行: LSC 術後中部尿道スリング手術施行症例の検討. 日本骨盤臓器脱手術学会 (第 11 回) (東京), 2017. 3.
- 65) Negishi Y¹⁾, Ichikawa T, Shimizu N¹⁾, Takeshita H¹⁾, Kuroki K¹⁾, Takeshita T, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School): Innate Lymphocytes session (NKT cells and MAIT cells) NK1.1+ invariant natural killer T cells in the myometrium induce murine miscarriages via selective activation of DEC-205+ dendritic cells by α -Galactosylceramide. 日本免疫学会 (第 45 回) (沖縄), 2016. 12.
- 66) 戸山友香¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 中山聡子¹⁾, 川田由里子¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 塩路 豪¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医科大学泌尿器科): 骨盤臓器脱に対する LSC 術前後における排尿機能変化. 日本排尿機能学会 (第 23 回) (東京), 2016. 12.
- 67) 戸山友香¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 中山聡子¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 塩路 豪¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医科大学泌尿器科): 当院での骨盤臓器脱診療に関する産婦人科との連携体制 よりハイエンドなウロギネ診療を目指すために. 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 12.
- 68) 松村好克, 伊藤友希, 角田陽平, 針金幸代, 稲垣知子, 高屋 茜, 黒木睦実, 佐藤杏月, 間瀬有里, 古市直子, 深見武彦, 松島 隆, 米山剛一, 竹下俊行: 当院の品胎管理における産科と新生児科の連携. 神奈川医学会, 2016. 7.
- 69) 清田裕美, 小野修一, 関根仁樹, 可世木華子, 渡邊建一郎, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 腔中隔を合併した完全中隔子宮の 2 例. 関東連合産科婦人科学会, 2016. 5.
- 70) 針金幸代, 渡邊昇一, 米山剛一, 竹下俊行: 肝機能障害を契機に診断となった妊娠性肝内胆汁うっ滞症の 1 例. 関東連合産科婦人科学会, 2016. 5.
- 71) 角田陽平, 針金永佳, 伊藤友希, 針金幸代, 池田真利子, 高屋 茜, 黒木睦実, 間瀬有里, 深見武彦, 松島 隆, 米山剛一, 竹下俊行: 羊水過多症を呈し消化器症状の鑑別が困難であった HELLP 症候群の 1 例. 関東連合産科婦人科学会, 2016. 5.
- 72) 瀧澤俊広¹⁾, Banyar-Naing T¹⁾, 高橋宏典¹⁾, 大口昭英¹⁾, 竹下俊行, 齋藤 滋²⁾ (¹⁾ 日本医大分子解剖, ²⁾ 富山大学産婦人科): 妊娠高血圧症候群の病因論 ブラックボックスにこだむ 妊娠高血圧症候群の病態における non-coding RNA の関与. 日本妊娠高血圧学会, 2016. 9.
- 73) 三倉麻子, 倉品隆平, 吉川沙織, 米澤美令, 大内 望, 山本晃人, 川瀬里衣子, 澤倫太郎, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 子宮動脈塞栓術を 2 度施行するも止血に至らず子宮摘出に至った 1 例. 関東連合産科婦人科学会 (東京), 2016. 8.
- 74) 根岸靖幸¹⁾, 島 義雄¹⁾, 竹下俊行, 高橋秀実¹⁾ (¹⁾ 日本医大微生物免疫学): 絨毛膜羊膜炎を伴わない後期早産胎盤脱落膜における樹状細胞, NK 細胞, NKT 細胞の動態. 日本生殖免疫学会 (第 31 回) (神戸), 2016. 12.
- 75) 石原彩子, 黒瀬圭輔, 庄田有里, 山本晃人, 川瀬里衣子, 竹下俊行: 子宮内膜間質肉腫との鑑別を要した子宮体部脱分化癌の 1 例. 関東連合産科婦人科学会 (第 132 回) (東京), 2016. 10.
- 76) 松村好克¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 横山愛子¹⁾, 松川昇平¹⁾, 島 義雄¹⁾, 深見武彦, 松島 隆, 米山剛一, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大武蔵小杉病院新生児内科): 当院における未受診妊婦の検討. 日本周産期・新生児医学会 (第 52 回) (富山), 2016. 7.
- (7) ビデオセッション:
- 1) 市川雅男: 「これだけできるようになりたい POP 手術」現在, 私が LSC で大事にしている 3 つのポイント. 日本女性骨盤底医学会 (第 18 回) (北九州), 2016. 6.
 - 2) 市川雅男, 明楽重夫, 可世木華子, 白井有香, 渡邊建一郎, 小野修一, 竹下俊行: 直腸腔筋膜の外科解剖学的構造理解と LSC における non-mesh 腹腔鏡下後壁形成術への応用. 日本骨盤臓器脱手術学会 (第 11 回) (東京), 2017. 3.
- (8) 指定発言:
- 1) 林 昌子, 明楽重夫, 竹下俊行: 体外受精からの妊娠でみた子宮内膜症候群の周産期リスク. 日本エンドメトリオーシス学会 (第 38 回) (東京), 2017. 1.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Ishikawa T, Takizawa T, Iwaki J, Mishima T, Ui-Tei K, Takeshita T, Matsubara S, Takizawa T: Fc gamma receptor IIb participates in maternal IgG trafficking of human placental endothelial cells. *Int J Mol Med* 2015; 35 (5): 1273-1289.
- 2) Shigemitsu D, Yamaguchi S, Otsuka T, Kamoi S, Takeshita T: Seroprevalence of cytomegalovirus IgG antibodies among pregnant women in Japan from 2009-2014. *Am J Infect Control* 2015; 43 (11): 1218-1221.
- 3) Kuroki M, Yoneyama K, Watanabe A, Fukami T, Matsushima T, Katsumata N, Takeshita T: Rhabdomyosarcoma of the

Uterus : A Case Report. J Nippon Med Sch 2015 ; 82 (5) : 218-219.

- 4) Murakawa H, Iwata K, Takeshita T, Ozawa H : Immunoelectron microscopic observation of the subcellular localization of kisspeptin, neurokinin B and dynorphin A in KNDy neurons in the arcuate nucleus of the female rat. Neurosci Lett 2016 ; 26 (1) : 161-166.
- 5) Yoneyama K, Sekiguchi A, Matsushima T, Kawase R, Nakai A, Asakura H, Takeshita T : Pregnancy-associated Deaths : 31-year Experience. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (1) : 6-14.
- 6) Terasaki M, Terasaki Y, Yoneyama K, Kuwahara N, Wakamatsu K, Nagahama K, Kunugi S, Takeshita T, Shimizu A : Uterine leiomyosarcoma with osteoclast-like giant cells associated with high expression of receptor activator of nuclear factor κ B ligand. Hum Pathol 2015 ; 46 (11) : 1679-1684.
- 7) Takaya A, Peng W, Ishino K, Kudo M, Yamamoto T, Wada R, Takeshita T, Naito Z : Cystatin B as a potential diagnostic biomarker in ovarian clear cell carcinoma. Int J Oncol 2015 ; 46 (4) : 1573-1581.

[武蔵小杉病院女性診療科・産科]

研究概要

本教室では周産期領域、婦人科腫瘍領域を中心とした臨床的研究を行っている 1) 約 10 か月の準備期間を経て妊産婦のうつ、および母児のボンディング障害に対する臨床研究を開始した。 2) NICU チームと共同で、late preterm birth の原因に関する臨床研究を開始した。 3) 従来から継続している子宮頸管腺領域像と妊娠予後関連について切迫早産例を対象とした頸管腺領域像消失所見とヒアルロン酸および妊娠予後との関連について新たな知見を与えることができた。 4) 経陰超音波により内子宮口付近の羊水中に観察される「sludge」に着目し、「sludge」と流早産のリスクの上昇について報告した。 5) 近年増加傾向にあるやせ妊婦と FGR との関連について特に痩せ妊婦が妊娠中に体重増加不良の場合 FGR のリスクが高いことを報告した。 6) 日本医科大学各付属病院における過去 31 年間 26 例の妊産婦死亡例を解析し、羊水塞栓症が 7 例 (27. 0%) と最多であったことを明らかにした。また、頭蓋内出血にて死亡した 2 例において 2 例とも脳動脈瘤の家族歴を有していたことも明らかとなった。 7) 子宮体癌におけるマイクロ RNA の役割について研究を継続し、miR-200a, miR-200b and miR-429 が onco-miRs として類内膜腺癌において PTEN gene を標的としていることを明らかにした。 8) 北里大学薬学部、BML 先端研究所との共同研究にて卵巣癌患者において特異的な自己抗体を産生していることを明らかにした。これらは卵巣がん診断のバイオマーカーとして応用できると思われた。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) 三上幹男, 信田政子, 柴田健雄, 明石敏男, 新井 努, 新井正秀, 五十風豪, 石本人士, 伊藤めぐむ, 小川公一, 榊原秀也, 染谷健一, 中沢和美, 長塚正晃, 松島 隆, その他 8 名 : 産婦人科医師リクルート活動へのヒント発掘 : 第 1 報 神奈川県内私立大学医学部学生への調査. 日本医師会雑誌 2016 ; 145 (10) : 2155-2162.
- 2) 三上幹男, 信田政子, 柴田健雄, 明石敏男, 新井 努, 新井正秀, 五十風豪, 石本人士, 伊藤めぐむ, 小川公一, 榊原秀也, 染谷健一, 中沢和美, 長塚正晃, 松島 隆, その他 8 名 : 産婦人科医師リクルート活動へのヒント発掘 : 第 2 報 神奈川県内初期臨床研修医への調査. 日本医師会雑誌 2016 ; 145 (10) : 2163-2168.
- 3) Hasegawa J, Kawabata I, Takeda Y, Aoki H, Fukami T, Tajima A, Miyakoshi K, Otsuki K, Shinozuka N, Matsuda Y, Iwashita M, Okai T, Nakai A : Improving the Accuracy of Diagnosing Placenta Previa on Transvaginal Ultrasound by Distinguishing between the Uterine Isthmus and Cervix : A Prospective Multicenter Observational Study. Fetal Diagn Ther 2016 ; 41 (2) : 145-151.
- 4) 針金幸代, 米山剛一, 古市直子, 立山尚子, 稲垣知子, 黒木陸実, 佐藤杏月, 山口道子, 間瀬有里, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文 : 腸閉塞を併発した家族性大腸腺腫症合併妊娠の 1 例. 神奈川産科婦人科学会誌 2016 ; 53 (1) : 10-13.
- 5) 皆川友希, 川端伊久乃, 山口道子, 黒木陸実, 佐藤杏月, 間瀬有里, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 米山剛一 : 妊娠管理に難渋した子宮腺筋症合併妊娠の 1 例. 神奈川産科婦人科学会誌 2017 ; 2 (53) : 47-50.

(2) 総説 :

- 1) 米山剛一 : 子宮体がんにおけるゲノム・エピゲノムシステムの調整異常. 日医大医会誌 2017 ; 13 (1) : 22-30.
- 2) 川端伊久乃^{1,2)}, 中井章人²⁾ (1) 榊原記念病院産婦人科, (2) 日本医科大学産婦人科学教室) : 脳神経疾患合併妊娠. 周産期医学 2016 ; 46 (増刊号) : 190-192.

(3) 症例報告 :

- 1) Matsushima T, Akira S, Asakura H, Takeshita T : Low-dose gonadotropin-releasing hormone agonist therapy (draw-back

therapy) for successful long-term management of adenomyosis associated with cerebral venous and sinus thrombosis from low-dose oral contraceptive use. *Clinical and Experimental Obstetrics & Gynecology* 2017; 44 (1) : 143-145.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 米山剛一：妊産婦死亡と羊水塞栓症. 平成 28 年度第 5 回座間・綾瀬・海老名産婦人科医会（神奈川県），2016. 10.

(2) ワークショップ：

- 1) 富田真紀子¹⁾，加藤友康²⁾，池田俊一²⁾，石川光也²⁾，宇津木久仁子³⁾，宮城悦子⁴⁾，鈴木幸雄⁴⁾，米山剛一⁵⁾，黒木陸実⁵⁾，酒井 瞳⁶⁾，勝俣範之⁶⁾，小熊祐子⁷⁾，高橋 都¹⁾ (1) 国立がん研究センターがん対策情報センター がんサイバーシップ支援部，2) 国立がん研究センター附属病院婦人科，3) 癌研究会附属有明病院婦人科，4) 横浜市立大学附属病院産婦人科，5) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，6) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科，7) 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科・スポーツ医学研究センター)：婦人科がん患者の生活習慣改善必要性の認知と健康行動が QOL に与える影響について（婦人科がん治療の新展開）. 54 回日本癌治療学（神奈川県横浜市），2016. 10.

(3) プレナリーセッション：

- 1) 松島 隆，明楽重夫，米山剛一，竹下俊行：子宮筋症のホルモン療法～GnRH アゴニスト長期投与を目指して：draw-backtherapy（子宮筋症のホルモン療法 pro and con）. 第 38 回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会（東京都），2017. 1.

(4) 一般講演：

- 1) 米山剛一¹⁾，石橋 宰²⁾，川瀬里衣子¹⁾，山本晃人¹⁾，黒瀬圭輔¹⁾，山田 隆¹⁾，土居大祐¹⁾，鴨井青龍¹⁾，竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学産婦人科，2) 大阪府立大生命環境化学研究科)：子宮体癌において miR-200a,miR-200b,miR429 は PTEN 遺伝子を標的としている. 日本産科婦人科学会学術講演会（第 68 回）（東京都），2016. 4.
- 2) 松島 隆，針金永佳，針金幸代，山口道子，間瀬有里，古市直子，深見武彦，米山剛一，明楽重夫，竹下俊行：子宮筋症に対する薬物療法の子宮腫大抑制効果に関する検討. 日本産科婦人科学会学術講演会（第 68 回）（東京都），2016. 4.
- 3) 深見武彦，黒木陸実，間瀬有里，古市直子，立山尚子，佐藤杏月，針金幸代，高屋 茜，角田陽平，稲垣知子，米山剛一，竹下俊行：双胎妊娠における妊娠中期の子宮下節を含めない頸管長の評価. 日本産科婦人科学会学術講演会（第 68 回）（東京都），2016. 4.
- 4) Ito Y, Yamaguchi S, Inde Y, Tsunoda Y, Kuroki M, Fukami T, Matsushima T, Yoneyama K, Takeshita T : Prevention strategies in perinatal women with group B streptococcal infection. 日本産科婦人科学会学術講演会（第 68 回）（東京都），2016. 4.
- 5) 角田陽平，松島 隆，針金幸代，稲垣知子，黒木陸実，高屋 茜，間瀬有里，深見武彦，米山剛一，竹下俊行：妊娠 20 週頃より巨大な Amniotic fluid sludge を認めた 1 例. 日本超音波医学会学術集会（第 89 回）（京都府），2016. 5.
- 6) 針金幸代，松島 隆，角田陽平，高屋 茜，黒木陸実，間瀬有里，深見武彦，飯田晋也，米山剛一，竹下俊行：超音波ドブラ法を用い子宮温存治療し得た胎盤ポリープの 2 症例. 日本超音波医学会学術集会（第 89 回）（京都府），2016. 5.
- 7) 深見武彦：妊娠中・後期における子宮下筋開大と頸管長の変化. 日本超音波医学会学術集会（第 89 回）（京都府），2016. 5.
- 8) Takaya A¹⁾，Matsushima T¹⁾，Ito Y¹⁾，Harigane Y¹⁾，Fukami T¹⁾，Maemoto N²⁾，Motoda N²⁾，Kitayama Y²⁾，Yoneyama K²⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Musasikosugi Hospital, Japan, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School Musasikosugi Hospital, Japan) : Atypical polypoid adenomyoma of the uterus : clinicopathologic findings of 6 cases. The 19th international Congress of Cytology (Yokohama), 2016. 5.
- 9) 山本晃人，黒瀬圭輔，川瀬里衣子，池田真利子，米山剛一，竹下俊行：妊娠初期における子宮頸部細胞診のピットフォール. 日本臨床細胞学会総会春期大会（第 57 回）（横浜市），2016. 5.
- 10) 角田陽平，針金永佳，伊藤友希，針金幸代，池田真利子，高屋 茜，黒木陸実，間瀬有里，深見武彦，松島 隆，米山剛一，竹下俊行：羊水過多症を呈し消化器症状の鑑別が困難であった HELLP 症候群の 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第 131 回）（東京都），2016. 6.
- 11) 針金幸代¹⁾，渡邊昇一²⁾，米山剛一¹⁾，竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学産婦人科学教室，2) 勝楽堂病院産婦人科)：肝機能障害を契機に診断となった妊娠性肝内胆汁うっ滞症の 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第 131 回）（東京都），2016. 6.
- 12) 清田裕美，小野修一，関根仁樹，可世木華子，渡邊健一郎，市川雅男，明楽重夫，竹下俊行：腔中隔を合併した完全中隔子宮の 2 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第 131 回）（東京都），2016. 6.
- 13) 宮尾昌樹¹⁾，松村佳克²⁾，高屋 茜¹⁾，池田真利子¹⁾，針金幸代¹⁾，松川昇平²⁾，鳥 義雄²⁾，高橋 翼³⁾，米山剛一¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉産婦人科，2) 日本医科大学武蔵小杉病院新生児科，3) 日本医科大学武蔵小杉病院小児外科)：出生前診断された空腸閉鎖の 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第 131 回）（東京都），2016. 6.
- 14) 奥田直史，針金幸代，高屋 茜，針金永佳，松村佳克，角田陽平，稲垣知子，黒木陸実，加藤雅彦，山口道子，清田裕美，三浦 愛，山田舞夕，深見武彦，米山剛一，その他 1 名：降圧剤内服にて妊娠 30 週に顕著な羊水過少を来した 1 例. 神奈川産科婦人科学会

- 学術講演会（第414回）（神奈川県），2016. 7.
- 15) 深見武彦：頸管長計測：正しい計測法と早産予防への応用. 日本母体胎児医学会産婦人科超音波セミナー（第7回）（名古屋市），2016. 6.
 - 16) 池田真利子，黒瀬圭輔，清田裕美，庄田有里，山本晃人，川瀬里衣子，竹下俊行：腹膜癌との鑑別に苦慮した子宮体部漿液性腺癌4B期の1例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会（第58回）（鳥取県米子市），2016. 7.
 - 17) 米山剛一¹⁾，寺崎美佳²⁾，川瀬里衣子³⁾，山本晃人³⁾，黒瀬圭輔³⁾，竹下俊行³⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学解析人体病理，³⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科）：組織学的に破骨細胞様巨細胞が特徴的であった子宮平滑筋肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会（第58回）（鳥取県米子市），2016. 7.
 - 18) 山本晃人，川瀬里衣子，黒瀬圭輔，池田真利子，米山剛一，竹下俊行：Carboplatin 脱感作投与法を施行した卵巣癌症例の検討. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会（第58回）（鳥取県米子市），2016. 7.
 - 19) 黒瀬圭輔，池田真利子，山本晃人，川瀬里衣子，米山剛一，鴨井青龍，竹下俊行：当院にて治療した上皮性境界悪性卵巣腫瘍の検討. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会（第58回）（鳥取県米子市），2016. 7.
 - 20) 針金永佳，米山剛一，間瀬有里，古市直子，伊藤友希，角田陽平，針金幸代，池田真利子，稲垣知子，高屋 茜，黒木陸実，佐藤杏月，山口道子，深見武彦，松島 隆，その他2名：術前診断に苦慮した卵巣原発癌肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会（第58回）（鳥取県米子市），2016. 7.
 - 21) 針金幸代，米山剛一，伊藤友希，角田陽平，稲垣知子，高屋 茜，黒木陸実，佐藤杏月，間瀬有里，古市直子，深見武彦，松島 隆，竹下俊行：帝王切開癒痕部憩室が筋腫様に発育した1例. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第52回）（富山県），2016. 7.
 - 22) 深見武彦，針金幸代，黒木陸実，稲垣知子，角田陽平，伊藤友希，高屋 茜，松村好克，松島 隆，米山剛一，竹下俊行：妊娠20週の破水後に termination を施行し大量出血に至った常位癒着胎盤と前置癒着胎盤の2症例. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第52回）（富山県），2016. 7.
 - 23) 角田陽平，深見武彦，伊藤友希，針金幸代，稲垣知子，高屋 茜，黒木陸実，間瀬有里，山口道子，松島 隆，米山剛一，竹下俊行：妊娠中期の切迫流早産例における Amniotic Fluid Sludge と妊娠予後との関連. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第52回）（富山県），2016. 7.
 - 24) 松村好克¹⁾，矢代健太郎¹⁾，横山愛子¹⁾，松川昇平¹⁾，島 義雄¹⁾，深見武彦²⁾，松島 隆²⁾，米山剛一²⁾，竹下俊行³⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，³⁾ 日本医科大学産婦人科）：当院における未受診妊婦の検討. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第52回）（富山県），2016. 7.
 - 25) 奥田直史，高屋 茜，角田陽平，深見武彦，川端伊久乃，松島 隆，米山剛一：妊娠37週に急性腹症を発症し卵巣嚢胞破裂と誤診した腎血管筋脂肪腫破裂の1例. 日本医科大学医学会総会（第84回）（東京都），2016. 9.
 - 26) 山田舞夕，加藤雅彦，松島 隆，奥田直史，三浦 愛，清田裕美，針金永佳，角田陽平，針金幸代，高屋 茜，黒木陸実，松村好克，川端伊久乃，深見武彦，米山剛一：子宮鏡併用下により診断に至った Asherman 症候群合併子宮体癌の1例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会（第415回）（神奈川県川崎市），2016. 9.
 - 27) 清田裕美，松島 隆，川端伊久乃，黒木陸実，稲垣知子，針金永佳，高屋 茜，加藤雅彦，針金幸代，角田陽平，三浦 愛，山田舞夕，奥田直史，松村好克，深見武彦，その他1名：非典型的な胎児心拍モニターを呈した常位胎盤早期剥離の1例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会（第415回）（神奈川県川崎市），2016. 9.
 - 28) 岡田知之，黒木陸実，清田裕美，針金永佳，奥田直史，三浦 愛，山田舞夕，角田陽平，針金幸代，稲垣知子，加藤雅彦，高屋 茜，深見武彦，川端伊久乃，松島 隆，その他4名：術前診断に苦慮した虫垂原発転移性卵巣がんの1例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会（第415回）（神奈川県川崎市），2016. 9.
 - 29) 角田陽平¹⁾，高屋 茜¹⁾，奥田直史¹⁾，黒木陸実¹⁾，深見武彦¹⁾，松島 隆¹⁾，松川昇平²⁾，島 義雄²⁾，米山剛一¹⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院新生児科）：妊娠後期に急速に双胎間輸血症候群を発症した1例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第132回）（東京都），2016. 10.
 - 30) 小川 淳，黒木陸実，清田裕美，針金永佳，稲垣知子，深見武彦，松島 隆，米山剛一：IVR 施行後低部横切開放により児を娩出後，子宮全摘を施行した前置癒着胎盤の1例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第132回）（東京都），2016. 10.
 - 31) 三浦 愛，黒木陸実，山田舞夕，針金幸代，加藤雅彦，深見武彦，松島 隆，米山剛一：帝王切開癒痕部妊娠に癒痕楔状切除を施行した1例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第132回）（東京都），2016. 10.
 - 32) 川端伊久乃^{1,2)}，前田佳紀¹⁾，鈴木 僚¹⁾，中尾真大¹⁾，河村卓弥¹⁾，小野良子¹⁾，吉田 純¹⁾，桂木真司¹⁾，藤巻晴香¹⁾，歌野原祐子¹⁾，長友祐司¹⁾，高見澤格¹⁾，関 敦¹⁾，桃原哲也¹⁾，吉川 勉¹⁾，その他2名（¹⁾ 公益社団法人日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院，²⁾ 日本医科大学産婦人科学教室）：重症心不全を発症した大動脈弁閉鎖不全合併妊娠の1例. 日本妊娠高血圧学会学術集会（第37回）（埼玉県），2016. 10.
 - 33) 山田舞夕，加藤雅彦，深見武彦，奥田直史，三浦 愛，清田裕美，針金永佳，角田陽平，針金幸代，高屋 茜，黒木陸実，松村好

- 克, 川端伊久乃, 松島 隆, 米山剛一: 絨毛膜下血腫との鑑別を要した胎児共存奇胎の1例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会(第416回)(神奈川県), 2016. 11.
- 34) 福永ヒトミ¹⁾, 金子佳世¹⁾, 望月瑠美¹⁾, 吉賀尚子¹⁾, 大概昌子¹⁾, 八木 孝²⁾, 石川真由美²⁾, 石原嗣郎²⁾, 米山剛一³⁾, 南 志朗²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科: 妊娠糖尿病が依頼による療養指導が母体および出生児に与える効果の検討. 日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会(第32回)(岡山県), 2016. 11.
- 35) 清田裕美, 川端伊久乃, 黒木陸実, 三浦 愛, 山田舞夕, 奥田直史, 針金永佳, 角田陽平, 針金幸代, 加藤雅彦, 高屋 茜, 深見武彦, 松島 隆, 米山剛一, 明楽重夫, その他2名: マイナートラブルを契機に顕在化した産後うつ病の1例. 四水会(第376回)(東京都), 2016. 11.
- 36) 川端伊久乃, 清田裕美, 三浦 愛, 奥田直史, 山田舞夕, 針金永佳, 針金幸代, 角田陽平, 加藤雅彦, 高屋 茜, 黒木陸実, 松村好克, 深見武彦, 松島 隆, 米山剛一: 妊娠中期に発症した常位胎盤早期剥離の5例. 日本早産予防研究会学術集会(第10回)(栃木県), 2016. 11.
- 37) 鈴木 僚¹⁾, 川端伊久乃^{1, 4)}, 小林和江²⁾, 小澤輝恵²⁾, 前田佳紀¹⁾, 中尾真大¹⁾, 河村卓弥¹⁾, 小野良子¹⁾, 吉田 純¹⁾, 長山雅俊³⁾, 桂木真司¹⁾ (1) 榊原記念病院産婦人科, 2) 榊原記念病院看護部, 3) 榊原記念病院循環器内科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科: 成人先天性心疾患妊婦に対するマニティヨーガの経験. 女性スポーツ医学研究会学術集会(第30回)(東京都), 2016. 12.
- 38) 奥田直史, 高屋 茜, 角田陽平, 黒木陸実, 川端伊久乃, 深見武彦, 松島 隆, 米山剛一: 妊娠37週に急性腹症を発症した腎血管筋脂肪腫破裂の1例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会(第417回)(神奈川県), 2017. 3.
- 39) 角田陽平, 奥田直史, 山田舞夕, 三浦 愛, 清田裕美, 針金永佳, 針金幸代, 加藤雅彦, 高屋 茜, 黒木陸実, 深見武彦, 川端伊久乃, 松島 隆, 米山剛一, 竹下俊行: 術前に卵巣子宮内膜嚢胞の悪性転化を強く疑った1例. 第38回日本エンドメトリオーシス学会(東京), 2017. 1.
- 40) 針金永佳, 奥田直史, 山田舞夕, 三浦 愛, 清田裕美, 針金幸代, 加藤雅彦, 高屋 茜, 黒木陸実, 深見武彦, 川端伊久乃, 松島隆, 米山剛一, 竹下俊行: 卵巣チョコレート嚢胞の癌化. 第38回日本エンドメトリオーシス学会(東京), 2017. 1.
- 41) 黒瀬圭輔, 山本晃人, 川瀬里衣子, 米山剛一, 鴨井青龍, 竹下俊行: 当院における上皮性境界悪性卵巣腫瘍の臨床的検討. 第68回日本産科婦人科学会(東京), 2016. 4.
- 42) 石原綾子¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 松橋智彦¹⁾, 山本晃人¹⁾, 川瀬里衣子¹⁾, 山田 隆¹⁾, 米山剛一¹⁾, 鴨井青龍²⁾, 大橋隆治²⁾, 内藤善哉²⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学女性診療科・産科, 2) 日本医科大学付属病院病院病理部: 子宮体部 Dedifferentiated carcinoma の1例. 第55回日本臨床細胞学会秋季大会(大分, 別府), 2016. 11.
- 43) 沼崎令子¹⁾, 杉浦 賢¹⁾, 大原 樹¹⁾, 新井 努¹⁾, 木挽貢慈¹⁾, 佐々木康¹⁾, 茂田博行¹⁾, 米山剛一¹⁾, 宮城悦子¹⁾, 仲沢経夫¹⁾, 林康子¹⁾, 平澤 猛¹⁾, 市原三義¹⁾, 渡邊豊治¹⁾, 中野眞佐男¹⁾, その他4名 (1) 神奈川産科婦人科学会 婦人科悪性腫瘍対策部: 平成27年度 神奈川産科婦人科学会 婦人科悪性腫瘍登録集計報告 神奈川産科婦人科学会 婦人科悪性腫瘍対策部. 第414回神奈川産科婦人科学会(神奈川県), 2016. 7.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Yoneyama K, Sekiguchi A, Matsushima T, Kawase R, Nakai A, Asakura H, Takeshita T: Pregnancy-associated Deaths: 31-year Experience. J Nippon Med Sch 2016; 83 (1): 6-14.
- 2) Yamaguchi M, Fukami T, Asakura H, Takeshita T: Predicting onset of labor from echogenicity of the cervical gland area on vaginal ultrasonography at term. J Perinat Med 2015; 43 (5): 577-584.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 針金永佳¹⁾, 間瀬有里¹⁾, 古市直子¹⁾, 松村好克²⁾, 伊藤友希¹⁾, 角田陽平¹⁾, 針金幸代¹⁾, 稲垣知子¹⁾, 高屋 茜¹⁾, 黒木陸実¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 深見武彦¹⁾, 松島 隆¹⁾, 島 義雄²⁾, 米山剛一¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院新生児科: 原因不明の羊水過多を来し, 出生後に Prader-Willi 症候群が判明した1例. 神奈川県産科婦人科学会学術講演会(第412回)(神奈川県), 2015. 11.
- 2) 針金幸代, 松島 隆, 伊藤友希, 角田陽平, 飯田朝子, 稲垣知子, 黒木陸実, 佐藤杏月, 山口道子, 間瀬有里, 古市直子, 深見武彦, 米山剛一, 竹下俊行: 産褥出血をきたした胎盤ポリープに対し, UAE 後に血流低下を確認し TCR を行った1例. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(第55回)(神奈川県横浜市), 2015. 9.

[多摩永山病院女性診療科・産科]

研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。(1) 妊婦とスポーツ：妊婦スポーツの安全性や効果について、身体的及び精神的側面から幅広く研究を行っている。身体面では、活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラ、脈波伝導速度を用いた運動中の母児の血行動態変化、心機能評価をはじめ、スポーツが妊娠、分娩に与える影響・予後を広範囲に調査している。産褥期の子宮復古、母乳栄養確立母体の睡眠障害や妊娠中のマイナートラブルに与える影響などについて、興味深い成績をあげている。(2) 周産期領域：臨床面では、妊娠高血圧症候群・子宮内胎児発育不全に対し、超音波断層法・生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている。超音波断層法による母体腎・肝臓の観察では新たな視点から、妊娠高血圧症候群、胎児心拍数図の解析に対し有益なデータが集積しつつある。切迫早産に腔内洗浄治療・黄体ホルモン投与などの治療を行い早産の予防効果を上げている。また、胎児・新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い、脳内エネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yamada T¹⁾, Kawakami S²⁾, Yoshida Y²⁾, Kawamura H³⁾, Ohta S³⁾, Abe K⁴⁾, Hamada H⁴⁾, Dohi S⁵⁾, Ichizuka K⁵⁾, Takita H⁶⁾, Baba Y⁷⁾, Matsubara S⁷⁾, Mochizuki J⁸⁾, Yamagishi E, Nakai A, et al. (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Fukuda Hospital, Kumamoto, (3) Department of Maternal Fetal Medicine, Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health, (4) Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, (5) Department of Obstetrics and Gynecology, Showa University Northern Yokohama Hospital, (6) Department of Obstetrics and Gynecology, Showa University Hospital, (7) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, (8) Department of Obstetrics and Gynecology, Kitasato University Hospital, (9) Department of Obstetrics and Gynecology, Mie Chuo Medical Center, (10) and others) : Influenza 2014-2015 among pregnant Japanese women : primiparous vs multiparous women. *Eur J Clin Microbiol Infect Dis* 2016 ; 35 (4) : 665-671.
- 2) Hasegawa J¹⁾, Kawabata I, Takeda Y, Aoki H, Fukami T, Tajima A, Miyakoshi K, Otuki K, Shinozuka N, Matsuda Y, Iwashita M, Okai T, Nakai A (1) Department of Obstetrics and Gynecology, St. Marianna University School of Medicine, Kanagawa, Japan., (2) Japanese Organization of Prevention of Preterm delivery (JOPP) : Improving the Accuracy of Diagnosing Placenta Previa on Transvaginal Ultrasound by Distinguishing between the Uterine Isthmus and Cervix : A Prospective Multicenter Observational Study. *Fetal Diagn Ther*. 2016.
- 3) Hayashi M^{1,2)}, Fujimori K^{1,3)}, Yasumura S^{1,4)}, Goto A^{1,4)}, Nakai A^{1,2)} (1) Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey, Fukushima, Japan, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, Tokyo, Japan, (3) Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan, (4) Department of Public Health, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan) : Obstetric Outcomes in Women in Fukushima Prefecture during and after the Great East Japan Earthquake and Fukushima Nuclear Power Plant Accident : The Fukushima Health Management Survey. *Open Journal of Obstetrics and Gynecology* 2016 ; 6 (12) : 705-713.
- 4) Yamada T¹⁾, Obata-Yasuoka M²⁾, Hamada H²⁾, Baba Y³⁾, Ohkuchi A³⁾, Yasuda S⁴⁾, Kawabata K⁵⁾, Hirai C⁷⁾, Kusaka H⁸⁾, Murabayashi N⁹⁾, Inde Y¹⁰⁾, Umazume T¹⁾, Itakura A⁷⁾, Maeda M⁸⁾, Nakai A¹⁰⁾, et al. (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, University of Tsukuba Hospital, Tsukuba, Japan., (3) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University Hospital, Shimotsuke, Japan., (4) Department of Obstetrics and Gynecology, Fukushima Medical University Hospital, Fukushima, Japan., (5) Department of Obstetrics and Gynecology, Hakodate Central General Hospital, Hakodate, Japan., (6) Department of Obstetrics and Gynecology, Hiroshima University Hospital, Hiroshima, Japan., (7) Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University Hospital, Tokyo, Japan., (8) Department of Obstetrics and Gynecology, Mie Chuo Medical Center, Tsu, Japan., (9) Department of Obstetrics and Gynecology, Mie University Hospital, Tsu, Japan., (10) and others) : Isolated gestational proteinuria preceding the diagnosis of preeclampsia-an observational study. *Acta Obstet Gynecol Scand*. 2016 ; 95 (9) : 1048-1054.
- 5) Ogawa M¹⁾, Matsuda Y²⁾, Nakai A³⁾, Hayashi M³⁾, Sato S⁴⁾, Matsubara S⁵⁾ (1) Perinatal Medical Center, Tokyo Women's Medical University, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, International University of Health and Welfare Hospital, (3) Department of Obstetrics and Gynecology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, (4) Maternal and Perinatal Care Center, Oita Prefectural Hospital, (5) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University) : Standard curves of

placental weight and fetal/placental weight ratio in Japanese population : difference according to the delivery mode, fetal sex, or maternal parity. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 2016 ; 206 : 225-231.

- 6) Matsumoto Y^{1,2)}, Nakai A³⁾, Nishijima Y⁴⁾, Kishita E⁵⁾, Hakuno H⁵⁾, Sakoi M⁵⁾, Kusuda S⁶⁾, Unno N⁷⁾, Tamura M⁸⁾, Fujii T⁹⁾ (1) Medical Care Planning Division, Health Policy Bureau, Ministry of Health, Labour and Welfare, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, The University of Tokyo, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 4) Division of the Health for the Elderly, Ministry of Health, Labour and Welfare, 5) Medical Care Planning Division, Health Policy Bureau, Ministry of Health, Labour and Welfare, 6) Department of Neonatology, Maternal And Perinatal Center of Tokyo Women's Medical University, 7) Department of Obstetrics and Gynecology, Kitasato University School of Medicine, 8) Division of Neonatal Medicine, Center for Maternal, Fetal and Neonatal Medicine, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, 9) Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, The University of Tokyo) : Absence of neonatal intensive care units in secondary medical care zones is an independent risk factor of high perinatal mortality in Japan. J Obstet Gynaecol Res. 2016 ; 42 (10) : 1304-1309.
- 7) Hayashi M^{1,2)}, Fujimori K^{1,3)}, Yasumura S^{1,4)}, Goto A^{1,4)}, Nakai A^{1,2)} (1) Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine, Fukushima Medical University, 4) Department of Public Health, School of Medicine, Fukushima Medical University) : Obstetric Outcomes in Women in Fukushima Prefecture during and after the Great East Japan Earthquake and Fukushima Nuclear Power Plant Accident : The Fukushima Health Management Survey. Open Journal of Obstetrics and Gynecology 2016 ; 6 : 705-713.

(2) 総説 :

- 1) 中井章人 : 早産予防における黄体ホルモン療法の動向「17-OHPCが第一選択の予防治療」;産科. 週刊日本医事新報 2016 ; No. 4801 (4月5週) : 61-62.
- 2) 中井章人 : 胎児心拍数波形のレベル分類を有効に活用する ; CTGを読み解く第5回 ; 今こそ「母乳育児成功のための10カ条」を読み解く ; 特集. 助産師 2016 ; 70 (2) : 40-44.
- 3) 中井章人 : 1次施設における産後出血への具体的対応「シックインデックス, 心不全, 呼吸不全状態を知るため必ず脈拍数も留意」;産科 ; 「質疑応答 : プロからプロへ」. 週刊日本医事新報 2016 ; 4811 (7月2週号) : 58-58.
- 4) 中井章人 : [1] 陣痛促進中の胎児心拍異常 ; 各論. 臨床助産テキスト (竹田省監修, 福井トシ子編集) ; メディカ出版 2016 ; 2 (分娩) : 32-40.
- 5) 中井章人 : 助産師が知っておきたい妊娠期の「運動」運動前後に行なうメディカルチェックのポイント ; 特集. 助産雑誌 2016 ; 70 (8) : 619-624.
- 6) 中井章人 : 感染の影響を考慮する ; CTGを読み解く第6回 ; 産後ケア報告から見えてきた今後の課題 ; 特集. 助産師 2016 ; 70 (3) : 34-37.
- 7) 中井章人 : 総論 : 脳性麻痺の原因としての低酸素性虚血性脳症の関与 ; 特集 : 新生児低酸素性虚血性脳症. 周産期医学 2016 ; 46 (8) : 951-954.
- 8) 寺田佳世子, 中井章人 : 1. インフルエンザ ; 特集 : 妊娠と感染症 - 外来で聞かれてどう説明する? . 産科と婦人科 2016 ; 83 (9) : 999-1003.
- 9) 印出佑介, 中井章人 : 10. 周産期の臨床推論に活用できる超音波所見. 臨床助産テキスト (福井トシ子編集 ; メディカ出版) 2016 ; 4 (重要な周辺知識) : 126-141.
- 10) 印出佑介, 中井章人 : 14. 羊水・臍帯の異常 : 羊水量異常・臍帯捻転異常・臍帯附着部異常・単一臍帯嚢胞 ; II. 産科合併症の管理 : ハイリスク妊娠の外来診療パーフェクトブック : 周産期管理がぐっとまくなる. 産婦人科の実際 2016 ; 65 (臨時増刊号) : 1329-1342.
- 11) 中井章人 : 07. 産科危機的出血への対応ガイドライン : エビデンスに基づいたケアを実践するために ; 特集 : 助産師が抑えておきたいガイドライン. ペリネイタルケア 2016 ; 35 (11) : 1074-1076.
- 12) 中井章人 : CTG判読 上級編 : CTGを読み解く 第7回 ; 特集 : 妊産婦のメンタルヘルス. 助産師 2016 ; 70 (4) : 41-45.
- 13) 川端伊久乃, 中井章人 : 63. 脳神経疾患合併妊娠 ; partII 妊娠中【合併症妊娠】 ; 産科編 ; 周産期医学必修知識 第8版. 周産期医学 2016 ; 46 (増刊) : 190-192.
- 14) 杉田洋佑, 中井章人 : 135 胎児発育不全 ; partVI 胎児【臨床】 ; 産科編 ; 周産期医学 必修知識 第8版. 周産期医学 2016 ; 46 (増刊) : 409-411.
- 15) 中井章人 : 375 周産期医療システム - 産科 ; partVI【母子保健】 ; 母子保健編 ; 周産期医学 必修知識 第8版. 周産期医学 2016 ; 46 (増刊) : 1197-1201.
- 16) 林 昌子 : 原因, 対策, 問題点 ; 総論. 出生体重の低下傾向 ; 特集 : 妊婦の栄養 - 今, 妊婦は赤ちゃんの為に正しい食事をしている

のか、周産期医学 2016；46（12）：1457-1461.

- 17) 中井章人：切迫流早産；使い方の実際；臨床各論；性ステロイドホルモン研究の最前線と臨床応用；今月の臨床. 臨婦産 2017；71（1（2017年1月/2月合併増大号））：83-89.
- 18) 中井章人：1. 社会的・精神的な援助が必要な妊産婦（総論）；社会的・精神的な援助が必要な妊産婦への対応. 公益社団法人日本産婦人科医会研修ノート 2017；97：2-4.
- 19) 中井章人：「CTG判読-脳性麻痺の事例分析から」；CTGを読み解く 第8回最終回. 助産師 2017；71（1）：36-39.

(3) 症例報告：

- 1) 奥田直貴, 原田寛子, 寺田佳世子, 山岸絵美, 印出佑介, 林 昌子, 石川 源, 関口敦子, 中井章人：帝王切開術後の腹腔内大量出血のため搬送後緊急異型適合血輸血を行い救命し得た1例. 東京産婦会誌 2016；65（2）：404-407.
- 2) 原田寛子, 山岸絵美, 杉田洋佑, 川端英恵, 寺田佳世子, 尾崎景子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人：妊娠蛋白尿の管理中にネフローゼ症候群を発症した巣状分節性糸球体硬化症の1例. 東京産婦会誌 2016；65（4）：700-705.
- 3) 川端英恵, 林 昌子, 原田寛子, 佐野めぐみ, 寺田佳世子, 尾崎景子, 山岸絵美, 菊地恵理子, 印出佑介, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人：子宮内バルーンタンポナーデが整復に有効であった産褥子宮内反症の1例. 東京産婦会誌 2017；66（1）：66-69.

著 書

- 1) 小林由子¹⁾, 田島廣之²⁾, 中井章人 ¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：[分担] IVR術前画像診断の意義：III 良性疾患（子宮筋腫・腺筋症）に対するIVR. 一步先行く産科・婦人科領域のIVR（中島康夫, 田島廣之, 鈴木直, 田中守 2016 編集), 2016；pp98-104, MEDICAL VIEW.
- 2) 小林由子¹⁾, 田島廣之²⁾, 中井章人 ¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：[分担] IVR術前画像診断の意義：IV 悪性疾患に対するIVR. 一步先行く産科・婦人科領域のIVR（中島康夫, 田島廣之, 鈴木直, 田中守 編集), 2016；pp156-165, MEDICAL VIEW.
- 3) 中井章人：[分担] 分娩時の胎児心拍数モニタリング；II. ベッドサイドの新生児の診かた 改訂3版（河野寿夫・伊藤裕司), 2016；pp29-43, 南山堂.
- 4) 中井章人：[分担] 高齢妊娠；21. 産婦人科疾患. 「今日の治療視診」私はこうして治療している（総編集 福井次矢, 高木誠, 小室一成), 2017；pp1281-1282, 医学書院.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 中井章人：周産期と黄体ホルモン-昔と今. 生殖と女性医学（第9回）（東京都), 2016. 4.
- 2) 中井章人：脳性麻痺を防ぐ!?. 山形県周産期・新生児医療研究会（山形県), 2016. 6.
- 3) 中井章人：「CTGの判読」；助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）[®] レベル III 認証必修研修. 山口県母性衛生学会総会および学術講演会（第33回）（山口県宇部市), 2016. 6.
- 4) 中井章人：出血時の対応と胎児心拍モニタリングの判読. クリニカルラダー III 対応の研修会（主催：宮城県助産師会）（宮城県仙台市), 2016. 7.
- 5) 中井章人：産後出血への初期対応. 葛飾区産婦人科医会集談会（東京都葛飾区), 2016. 7.
- 6) 中井章人：胎児心拍数モニタリング. CLoCMiP レベル III 認証講習会（東京都), 2016. 7.
- 7) 中井章人：子宮収縮薬を用いた陣痛誘発と陣痛促進の注意点. CLoCMiP レベル III 認証講習会（東京都), 2016. 7.
- 8) 中井章人：周産期感染症. 東京オペラグープ創立64周年総会・学術集会（東京都), 2016. 8.
- 9) 中井章人：胎児心拍モニタリングを分析する（実践編）他助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）[®] レベル III 認証必修研修. 一般社団法人埼玉県助産師会安全対策委員会&助産師部会合同企画研修医療安全講習会（埼玉県浦和市), 2016. 9.
- 10) 中井章人：切迫早産管理 UPDATE. 徳島周産期研究会（徳島市), 2016. 10.
- 11) 中井章人：チーム医療と標準化で格差偏在に挑む!?. 福島県周産期セミナープログラム（福島市), 2016. 10.
- 12) 中井章人：難解なCTG所見-ワンポイントレッスン：テーマ；分娩監視装置モニターの読み方と対応. 平成28年度 コ・メディカル生涯研修会（沖縄県名護市), 2016. 11.
- 13) 中井章人：(1) 日本産婦人科学会の取り組み；(2) 学会の取り組み；議事2. 事例発表；より良い男女共同参画を目指して. 平成28年度日本医師会女性医師支援センター 大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会（共催：日本医学会連合）（東京都), 2016. 12.
- 14) 中井章人：産科救急と胎児モニタリング対応のポイント；テーマ. 助産師のちからアップ研修 一般社団法人兵庫県助産師会（神戸市), 2016. 12.
- 15) 中井章人：産後の過多出血：初期対応の重要性. 湘南地区産科救急座談会（神奈川県), 2017. 2.

- 16) 中井章人：「産婦人科医師の動向と必要医師数」について。産婦人科・小児科医師不足偏在問題対策プロジェクトチーム（東京都），2017. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 中井章人：常位胎盤早期剥離-周産期魂のみせどころ。日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第52回）（富山県富山市），2016. 7.
- (3) シンポジウム：
- 1) 中井章人：災害と周産期：「東京都の医療体制；首都直下地震に備えて」；テーマ 災害と周産期。平成28年度「救急の日」シンポジウム（東京都），2016. 9.
- 2) 中井章人：登録建築家って？プロフェッションと国家資格。JIA 建築家大会2016 大阪（大阪府），2016. 10.
- 3) 中井章人：産婦人科医師の地域偏在。診療科偏在について；周産期医療体制の現状について。平成28年度家族計画・母体保護法指導者講習会プログラム（東京都），2016. 12.
- 4) 林 昌子，明楽重夫，竹下俊行：ii 体外受精からの妊娠でみた子宮内膜症症例の周産期リスク；「大規模データから見た我が国における子宮内膜症の周産期リスク」；「子宮内膜症の life-long management を考える」。日本エンドメトリオーシス学会学術講演会（東京都），2017. 1.
- (4) セミナー：
- 1) 中井章人：CTG の判読。マタニティ&ベビーフェスタ2016 産婦人科臨床セミナー（横浜市），2016. 4.
- 2) 中井章人：子宮収縮薬を用いた陣痛誘発と陣痛促進の注意点：輸液管理。クリニカルラダーレベル III 認定講習会（東京都），2016. 4.
- (5) ワークショップ：
- 1) 大槻克文，松田義雄，中井章人，篠塚憲男，川端伊久乃，牧野康男，亀井良政，岩下光利，岡井 崇⁽¹⁾ 日本早産予防研究会）：他施設共同ランダム化比較試験の結果より；炎症を伴わない単胎頸管長短縮症例に対する頸管縫縮術は有用か；早産管理と児の予後。公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第68回）（東京都），2016. 4.
- 2) 印出佑介，中井章人，関口敦子，林 昌子，石川 源，竹下俊行：日本人妊産婦の正常分娩における標準分娩曲線の作成；10. 分娩管理。公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第68回）（東京都），2016. 4.
- (6) 一般講演：
- 1) 関口敦子，池田智明¹⁾，岡村州博²⁾，中井章人^{(1) 3 重大学，^{2) 東北公済病院}）：我が国の人工妊娠中絶術の方法・安全性の地域格差の検討；女性ヘルスケア（その他）。公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第68回）（東京都），2016. 4.}
- 2) 杉田洋佑，石川 源，川端伊久乃，林 昌子，山岸絵美，原田寛子，中井章人，竹下俊行：産科危機的出血における緊急異型輸血の4例；産科出血。公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第68回）（東京都），2016. 4.
- 3) 長田久夫¹⁾，計良和範²⁾，澁川祐紀³⁾，鈴木 真⁴⁾，田嶋 敦⁵⁾，石川 源，齋藤美貴⁶⁾，田中幹二⁷⁾（¹⁾ 千葉大学，²⁾ 松戸市立病院，³⁾ 船橋中央病院，⁴⁾ 亀田総合病院，⁵⁾ 順天堂浦安病院，⁶⁾ 津軽保健生活協同組合健生病院，⁷⁾ 弘前大周産期母子センター）：多職種からなる周産期急変対応チームの育成講習について；周産期ネットワーク。公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第68回）（東京都），2016. 4.
- 4) 林 昌子，富山僚子，小野修一，大内 望，峯 克也，桑原慶充，関口敦子，中井章人，竹下俊行，苛原 稔⁽¹⁾ 厚労科学研究「生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証と生食補助医療技術の標準化に関する研究」班）：生殖補助医療症例における癒着胎盤のリスク因子；ART データベースと周産期登録を用いた検討；ART・周産期予後。公益社団法人日本産科婦人科学会臨時総会ならびに学術講演会（第68回）（東京都），2016. 4.
- 5) 三倉麻子，倉品隆平，米澤美令，吉川沙織，大内 望，山本晃人，川瀬里衣子，澤倫太郎，桑原慶充，明楽茂夫，中井章人，竹下俊行：UAE 施行にて止血困難のため子宮全摘術に至った1例；産婦人科診療における IVR；テーマ。四水会（第375回）（東京都），2016. 5.
- 6) 寺田佳世子，関口敦子，杉田洋佑，川端英恵，山岸絵美，菊地恵理子，印出佑介，林 昌子，奥田直貴，石川 源，桑原慶充，中井章人：腫瘍表在血管の破綻により腹腔内出血をきたした巨大子宮筋腫の1例。関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第131回）（東京都），2016. 6.
- 7) 川端英恵，石川 源，杉田洋佑，寺田佳世子，原田寛子，尾崎景子，山岸絵美，菊地恵理子，印出佑介，林 昌子，奥田直貴，関口敦子，中井章人，竹下俊行：当科において子宮内バルーンタンポナーデを施行した54例の検討；分娩4。日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第52回）（富山県富山市），2016. 7.
- 8) 林 昌子¹⁾，関口敦子¹⁾，松田義雄²⁾，中井章人¹⁾（¹⁾ 日本医科大学，²⁾ 国際医療福祉大学）：低出生体重予防の観点からみた妊娠中の適切な体重増加量についての検討。日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第52回）（富山県富山市），2016. 7.
- 9) 川端英恵，石川 源，寺田佳世子，原田寛子，尾崎景子，山岸絵美，菊地恵理子，印出佑介，林 昌子，奥田直貴，関口敦子，中井章人：当科において子宮内バルーンタンポナーデを施行した54例の検討。日本医科大学医学会総会（第84回）（東京都），2016. 9.

- 10) Tamura K¹⁾, Ohneda W¹⁾, Yoshie M¹⁾, Ishikawa G²⁾, Nakai A²⁾, Takeshita T²⁾, Nishi H²⁾, Isaka K³⁾, Kuwabara N¹⁾, Eiichi T¹⁾ (1) Department of Endocrine and Neural Pharmacology, Tokyo University of Pharmacy and Life Science, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Tokyo Medical University) : Expression of NLRP3 inflammasome-related molecules in human trophoblasts. The International Federation of placenta Association in 2016 meeting (U.S.A Portland, Oregon), 2016. 9.
- 11) Yoshie M¹⁾, Tamura K¹⁾, Tamakoshi R¹⁾, Okada M¹⁾, Keno E¹⁾, Ishikawa G²⁾, Nakai A²⁾, Takeshita T²⁾, Nishi H³⁾, Isaka K³⁾, Kuwabara N¹⁾, Tachikawa E¹⁾ (1) Department of Endocrine and Neural Pharmacology, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, Tokyo, Japan, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan) : The role of exchange protein directly activated cAMP 2 (EPAC2) in cAMP-mediated trophoblast differentiation. The International Federation of placenta Associations in 2016 meeting (U.S.A Portland, Oregon), 2016. 9.
- 12) 川端英恵, 林 昌子, 原田寛子, 寺田佳世子, 尾崎景子, 山岸絵美, 菊地恵理子, 印出佑介, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人 : 子宮内バルーンタンポナーデが整復に有効であった産褥子宮内反症の1例. 東京産科婦人科学会例会 (第379回) (東京都), 2016. 9.
- 13) 山岸絵美 : 災害時妊産婦救護のための地域連携システム構築を目指し - 災害拠点病院の立場から見る南多摩医療圏 - : テーマ「示唆に富む症例」. 平成28年度日本医科大学産婦人科学教室同窓会臨床研究会 (東京都), 2016. 10.
- 14) 淀川祐紀¹⁾, 長田久夫²⁾, 坂上明子³⁾, 白井いづみ³⁾, 計良和範⁴⁾, 加古訓之⁵⁾, 鈴木 真⁶⁾, 比嘉美月²⁾, 田嶋 敦⁷⁾, 青木まり子⁷⁾, 飯塚美徳⁸⁾, 石川 源⁹⁾, 菊地範彦¹⁰⁾, 田中幹二, 齋藤美貴, その他1名 (1) JCHO 船橋中央病院 周産期科・麻酔科, 2) 千葉大学医学部付属病院 周産期母性科, 3) 千葉大学大学院 看護学研究科, 4) 千葉市立青葉病院 産婦人科, 5) 君津中央病院 救急科, 6) 亀田総合病院 産婦人科, 7) 順天堂大学医学部附属浦安病院 産婦人科, 8) 千葉市立海浜病院 産婦人科, 9) 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科, 10) その他) : - 多職種チーム連携を重視して - : 周産期急変対応シュミレーション講習の実施 : - 助産師・麻酔科医・産科医の立場から - : 分娩周産期の痛みを考える. 日本産科麻酔科学会学術集会 (第120回) (東京都), 2016. 11.
- 15) 佐野めぐみ¹⁾, 尾崎景子¹⁾, 川端英恵¹⁾, 寺田佳世子¹⁾, 山岸絵美¹⁾, 菊地恵理子¹⁾, 印出佑介¹⁾, 林 昌子¹⁾, 奥田直貴¹⁾, 石川 源¹⁾, 関口敦子¹⁾, 中井章人¹⁾, 赤枝朋嘉²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科, 2) 赤枝医院 産婦人科) : 母児ともに救命しえた子宮手術既往のない子宮破裂の1例. 東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同研修会 (第32回) 並びに東京産科婦人科学会例会 (第380回) (東京都), 2016. 12.
- 16) 菊地恵理子, 印出佑介, 川端英恵, 原田寛子, 寺田佳世子, 尾崎景子, 山岸絵美, 林 昌子, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人 : 胎盤ポリープ治療後妊娠における帝切時子宮出血に対して子宮圧縮縫合術を要した1例. 東京産科婦人科学会例会 (第381回) (東京都), 2017. 2.
- (7) 症例報告 :
- 1) 原田寛子, 山岸絵美, 杉田洋佑, 川端英恵, 寺田佳世子, 尾崎景子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人 : 妊娠蛋白尿の管理中にネフローゼ症候群を発症した巣状分節性糸球体硬化症の1例. 東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同研修会 (第31回) 並びに東京産科婦人科学会例会 (第378回) (東京都), 2016. 5.

論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 関口敦子, 中井章人 : 母体の生活習慣 (食習慣・体重管理) が胎児に及ぼす影響 : 児と母体の最新知識 : 特集 : 糖尿病と妊娠. プラクティス 2016 ; 33 (2) : 163-167.

著書

追加分著書 :

- 1) 中井章人 : [自著] レベル III 認証必須研修 CTG 対応テキスト ; 助産実践能力習熟段階 (クリニカルラダー)®. 図説 CTG テキスト, 2016 ; メジカルビュー社.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) 石原彩子, 村川裕子, 島田 学, 渡邊建一郎, 河合尚基 (1) 東京臨海病院) : 妊娠中に発症した敗血症の検討. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第130回) (千葉県千葉市), 2015. 10.

追加分特別講演：

- 1) 中井章人：産婦人科医療従事者が知っておきたい少子化対策．南多摩エリア周産期医療ネットワークグループ検討会（第10回）および多摩産婦人科病診連携懇話会（第48回）（東京都多摩市），2016. 3.

[千葉北総病院女性診療科・産科]

研究概要

当教室では婦人科腫瘍学部門，手術学部門，周産期学部門のそれぞれにおいて，主として臨床研究を行っている．婦人科腫瘍学部門：若年者子宮体癌患者に対して，子宮を温存するために，高用量の黄体ホルモンを投与している．投与中の治療効果，すなわち，形態学的な組織の変化について，昨年と同様，電子顕微鏡を使用して，治療中の超微形態の変化について研究を行っている．また，後腹膜リンパ節郭清術後のリンパ浮腫の予防は，大きなテーマであるが，予防法につき検討中である．手術学部門：子宮頸癌に対する自律神経温存広汎性子宮全摘術の術式について研究を継続中である．また，婦人科周術期の深部静脈血栓症-肺動脈塞栓症の発見や発症予知について研究である．周産期部門：成和会山口病院との共同で以下の研究を行った．一つは，周産期管理が向上した現代における一般分娩施設での産褥熱の動向について調査した．また，近年，本邦妊婦におけるサイトメガロウイルス（CMV）の保有率低下に伴い，重症の胎内感染症の増加が危惧されている．そこで，妊婦CMVスクリーニング検査をおこなっている．その，取り扱いにつき，引き続き，検討中である．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 松橋智彦，松井遼子，大和田桃子，重見大介，浜野愛理，森 瑛子，中田真理世，山田 隆，鴨井青龍：ラッププロテクターTMとEZアクセスTMを使用した腹腔鏡下子宮筋腫核出術（Laparoscopic myomectomy with capped retractor；LM-CR）．千葉県産科婦人科医学会 2016；10（1）：1-4.
- 2) 庄田有里，松橋智彦，重見大介，杉田洋佑，松井遼子，浜野愛理，森 瑛子，中西一步，山田 隆，鴨井青龍，竹下俊行¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 女性診療科・産科）：婦人科腹腔鏡手術における深部静脈血栓症および静脈血栓塞栓症に対する術前1次スクリーニングとして下肢超音波検査の有用性の検討．千葉県産科婦人科医学会 2017；10（2）：97-101.

著書

- 1) 中西一步，今井一章¹⁾，飯田哲士¹⁾，横田（ルイズ）奈朋¹⁾，近内勝幸¹⁾，小野瀬亮¹⁾，加藤久盛¹⁾（¹⁾神奈川県立がんセンター 婦人科）：〔共著〕腹水セルブロック所見から悪性腫瘍を否定した右心不全の1例．産科と婦人科，2017；pp230-234，診断と治療社.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 重見大介，大和田桃子，今道小百合，松井遼子，浜野愛理，森 瑛子，中田真理世，松橋智彦，山田 隆，鴨井青龍，竹下俊行¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 女性診療科・産科）：婦人科手術380例における周術期血栓塞栓症に関する検討：術前スクリーニング法の確立に向けて．日本産科婦人科学会（第68回）（東京），2016. 4.
- 2) 米山剛一¹⁾，石橋 幸²⁾，川瀬里衣子¹⁾，山本晃人³⁾，黒瀬圭輔³⁾，山田 隆，土居大祐¹⁾，鴨井青龍，竹下俊行³⁾（¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科，²⁾大阪府立大生命環境科学研究科，³⁾日本医科大学付属病院 女性診療科・産科）：子宮体癌においてmiR-200a,miR-200b,miR-429はPTEN遺伝子を標的としている．日本産科婦人科学会（第68回）（東京都），2016. 4.
- 3) 黒瀬圭輔¹⁾，山本晃人¹⁾，川瀬里衣子¹⁾，米山剛一²⁾，鴨井青龍，竹下俊行¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 女性診療科・産科，²⁾日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科）：当院における上皮性境界悪性卵巣腫瘍の臨床的検討．日本産科婦人科学会（第68回）（東京都），2016. 4.
- 4) 杉田洋佑，石川 源¹⁾，川端伊久乃¹⁾，林 昌子¹⁾，山岸絵美¹⁾，原田寛子¹⁾，中井章人¹⁾，竹下俊行²⁾（¹⁾日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科，²⁾日本医科大学付属病院 女性診療科・産科）：産科危機的出血における緊急異型輸血4例．日本産科婦人科学会（第68回）（東京都），2016. 4.
- 5) 中西一步，今井一章¹⁾，川野藍子¹⁾，井浦文香¹⁾，近内勝幸¹⁾，小野瀬亮¹⁾，加藤久盛¹⁾，片山佳代子²⁾（¹⁾神奈川県立がんセンター婦人科，²⁾神奈川県立がんセンター臨床研究所がん予防・情報学部）：初期卵巣癌における後腹膜リンパ節郭清はリンパ節再発を減らせるか．日本産科婦人科学会（第68回）（東京都），2016. 4.
- 6) 黒瀬圭輔¹⁾，池田真利子¹⁾，山本晃人¹⁾，川瀬里衣子¹⁾，米山剛一²⁾，鴨井青龍，竹下俊行¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 女性診療科・産科，²⁾日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科）：当院にて治療した上皮性境界悪性卵巣腫瘍の検討．日本婦人科腫瘍学会（第58回）（鳥取県），2016. 7.

- 7) 今井一章¹⁾, 片山佳代子²⁾, 中西一步, 川野藍子¹⁾, 井浦文香¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 宮城悦子³⁾, 平原史樹³⁾ (1) 神奈川県立がんセンター婦人科, 2) 神奈川県立がんセンター臨床研究所がん予防・情報学部, 3) 横浜市立大学付属病院産婦人科): 子宮体部癌肉腫における傍大動脈リンパ節郭清の意義. 日本婦人科腫瘍学会 (第 58 回) (鳥取県), 2016. 7.
- 8) 中西一步, 今井一章¹⁾, 川野藍子¹⁾, 井浦文香¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター婦人科): 上腹部に最大病変を形成し卵巣癌や卵管癌との鑑別を要した縦隔型肺癌. 日本婦人科腫瘍学会 (第 58 回) (鳥取県), 2016. 7.
- 9) 井浦文香¹⁾, 今井一章¹⁾, 川野藍子¹⁾, 中西一步, 近内勝幸¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター婦人科): 悪性転化を伴う成熟嚢胞性奇形腫 4 例の検討. 日本婦人科腫瘍学会 (第 58 回) (鳥取県), 2016. 7.
- 10) 松橋智彦, 中西一步, 庄田有里, 杉田洋佑, 松井遼子, 重見大介, 浜野愛理, 森 瑛子, 山田 隆, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科): 子宮体癌後の陰断端離開部小腸脱に対して吊り上げ法による腹腔鏡下陰断端縫合閉鎖術が有効であった 1 例. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 56 回) (長崎県), 2016. 9.
- 11) 杉田洋佑, 石川 源¹⁾, 山岸絵美¹⁾, 倉科隆平¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科): 当院における分娩後大出血と異形輸血の実態. ALSO-JAPAN (第 2 回) (岡山県), 2016. 9.
- 12) 松井遼子, 鴨井青龍, 大和田桃子, 浜野愛理, 森 瑛子, 中田真理世, 松橋智彦, 山田 隆, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科): 膈中隔が存在し, 膈の構造が複雑であった OHVIRA 症候群の 1 例. 日本産婦人科手術学会 (第 39 回) (宮城県), 2016. 11.
- 13) 庄田有里, 松橋智彦, 重見大介, 杉田洋佑, 松井遼子, 浜野愛理, 森 瑛子, 中西一步, 山田 隆, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科): 腹腔鏡手術における深部静脈血栓症および肺血栓症の術前 1 次スクリーニングとして下肢超音波検査は有効か?. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第 56 回) (長崎県), 2016. 9.
- 14) 庄田有里, 重見大介, 杉田洋佑, 松井遼子, 浜野愛理, 中西一步, 松橋智彦, 西方紀子, 山田 隆, 鴨井青龍: 人工妊娠中絶後に子宮筋腫の変性壊死を原因として発症した自然子宮穿孔. 関東連合婦人科学会 (第 132 回) (東京都), 2016. 10.
- 15) 庄田有里, 山口 暁¹⁾, 横田明重¹⁾, 杉田洋佑, 松井遼子, 浜野愛理, 中西一步, 松橋智彦, 西方紀子, 山田 隆, 鴨井青龍 (1) 山口病院): 妊娠終了後に子宮筋層の動静脈奇形形成が疑われた 7 例. 千葉県産科婦人科医学会平成 28 年度冬期学術集会 (千葉県), 2017. 2.
- 16) 松橋智彦, 浜野愛理, 庄田有里, 杉田洋佑, 松井遼子, 中西一步, 西方紀子, 山田 隆, 鴨井青龍: 卵巣に原発した大細胞神経内分泌癌の 1 例. 千葉県産科婦人科医学会平成 28 年度冬期学術集会 (千葉県), 2017. 2.
- 17) 池田真利子¹⁾, 上西園幸子¹⁾, 今井一章¹⁾, 中西一步, 川野藍子¹⁾, 松橋智彦, 井浦文香¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 酒井麻衣¹⁾, 関谷元幹¹⁾, 那須隆二¹⁾, 北村和久¹⁾, 岩撫成子¹⁾, 加藤久盛¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター婦人科): 当院で経験した卵巣小細胞癌の 2 例. 日本臨床細胞学会 (第 55 回秋季大会) (大分県), 2016. 11.
- 18) 八代藍子¹⁾, 今井一章¹⁾, 中西一步, 井浦文香¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター婦人科): 原発性腹膜癌が疑われる症例に対する治療前細胞診の意義. 日本臨床細胞学会春期大会 (第 57 回) (神奈川県), 2016. 5.
- 19) 今井一章¹⁾, 中西一步, 川野藍子¹⁾, 井浦文香¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター婦人科): 子宮体部癌肉腫における腹水細胞診陽性例の検討. 日本臨床細胞学会春期大会 (第 57 回) (神奈川県), 2016. 5.
- 20) 井浦文香¹⁾, 今井 1¹⁾, 川野藍子¹⁾, 中西一步, 近内勝幸¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター婦人科): 悪性転化に伴う成熟嚢胞性奇形腫 4 例における腹水細胞診の検討. 日本臨床細胞学会春期大会 (第 57 回) (神奈川県), 2016. 5.
- 21) 近内勝幸¹⁾, 今井一章¹⁾, 中西一步¹⁾, 八代藍子¹⁾, 井浦文香¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター婦人科): 内膜異型細胞 (ATEC) 症例の検体不適正に関する検討. 日本臨床細胞学会春期大会 (第 57 回) (神奈川県), 2016. 5.
- 22) 中西一步, 今井一章¹⁾, 川野藍子¹⁾, 井浦文香¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター婦人科): 子宮内頸部に腫瘤形成を示した上皮内乳頭状扁平上皮癌. 日本臨床細胞学会春期大会 (第 57 回) (神奈川県), 2016. 5.

22. 頭頸部・感覚器科学分野

[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]

研究概要

分野の主たる研究領域は鼻科学, 免疫アレルギー学, 耳科学, めまい平衡医学, 頭頸部外科学に関するものである。生理学的, 形態学的, 免疫学的, 分子生物的研究方法を駆使して, 質の高い基礎的臨床的研究成果を目指している。この入力された業績の英文, 和文論文, 学会発表で示されている通り, 様々な研究が症例報告を含めて, 質の高い成果として国内外に示されている。2016年度に発表された英文原著は昨年度より増加し12編であった。内容はアレルギー学7編, 鼻科学4編, その他1編である: 論文合計38; 和文原著4, 和文総説22。これらの数は国内外の耳鼻咽喉科学教室の上位である。これらの活動を援助するための外部からの競争的研究補助金獲得も積極的に行われ, 若手研究者の文部科学省研究費補助金やスタッフの厚生労働省科学研究費をはじめとした研究補助金を獲得している。分野教授自身は厚生労働省科学研究費補助金事業の1つの組織の分担研究者も行い, 2016年も継続中である。他にも2件の厚生労働省研究事業の分担研究者がいる。またアレルギー性鼻炎の舌下免疫療法の研究は継続して行っており, スギ花粉以外にもダニ抗原が実際に国内の薬剤製造承認を受け, 小児への適応も進んでいる。他の分野においても積極的に分野全員で国際学会や国内学会への参加, 発表も行い, 着実な成果を上げている。次年度も同じように質の高い, 患者のためになる基礎的臨床的研究を行っていききたい。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 若山 望¹⁾, 三枝英人²⁾, 山口 智¹⁾, 中村 毅¹⁾, 小町太郎¹⁾, 門園 修²⁾, 愛野威一郎¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 松岡智治¹⁾, 伊藤浩之¹⁾ (1) 日本医科大学大学院 頭頸部・感覚器外科学, 2) 東京女子医科大学 八千代医療センター 耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科): 原因が特定できない混合性喉頭麻痺症例の臨床的検討: 19年間にわたる16症例の検討. 日本気管食道科学会会報 2016; 67 (3): 201-208.
- 2) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤大星, 大久保公裕: 耳下腺手術後の口唇運動麻痺の多様性と顔面神経下顎辺縁枝障害の関係について. 頭頸部外科 2017; 26 (3): 363-366.
- 3) 渡邊健一¹⁾ (1) 日本医科大学感覚器・頭頸部外科): エピジェネティクスと生命現象の制御. 日本医科大学医学会雑誌 2016; 12 (4): 118-126.
- 4) Kanzaki S¹⁾, Hashiguchi K²⁾, Wakabayashi K³⁾, Suematsu K²⁾, Okubo K (1) Keio Univ, 2) Futaba Clinic, 3) KItasato Institute Hosp): Histamine antagonist bepotastine suppress nasal symptom caused by Japanese cedar and cypress pollen exposure. J Drug Assess 2016; 27 (5): 15-23.
- 5) Bousquet J¹⁾, Farrell J²⁾, Crooks G³⁾, Okubo K, et al. (1) CHRU, University Hospital, 2) Social Services and Public Safety, 3) EIP on AHA): Scaling up strategy of the chronic respiratory disease programme of the European innovation partnership on active and healthy aging (Actin plan B3: Area 5). Clin Transl Allergy 2016; 6 (29): オープンアクセス.
- 6) Bousquet J¹⁾, Helling P²⁾, Agache A³⁾, Okubo K, et al. (1) Montpellier University Hospital, 2) KU Leuven, 3) Transylvania University Brasov): ARIA 2016: Care pathways implementing emerging technologies for predictive medicine in rhinitis and asthma across the life cycle. Clin Transl Allergy 2016; 6 (47): オープンアクセス.
- 7) Okubo K, Gotoh M, Togawa M¹⁾, Saito A¹⁾, Ohashi Y²⁾ (1) Taiho Pharma, 2) Ohashi ENT & Allergy Clinic): Long-term safety and efficacy of bilastine following up to 12 weeks to 52 weeks of treatment of Japanese patients with allergic rhinitis: Results of an open-label trial. Auris Nasus Larynx 2016; 44 (3): 294-301.
- 8) Okubo K, Inoue IY, Numaguchi IH, Tanaka IK, Oshima IN, Mastumoto IY, Prohn 2M, Mehta 3A, Nishida IC, Geroge 3P (1) MSD KK, 2) MSD Oss, 3) Merck & Co): Montelukast in the treatment of perennial allergic rhinitis in pediatric Japanese patients: an open-label clinical trial. J Drug Assessment 2016; 5 (1): 6-14.
- 9) Okubo K, Gotoh K, Asako M¹⁾, Nomura Y²⁾, Togawa M³⁾, Saito H³⁾, Honda T³⁾, Ohashi Y⁴⁾ (1) Kansai Med Univ, 2) Nihon Univ, 3) Taiho Pharma, 4) Ohashi ENT & Allergy Clinic): Efficacy and safety of birastine in Japanese patients with perennial allergic rhinitis: A multi-center, randomized, double-blind, placebo-controlled, parallel-group phase III study. Allergology Int 2016; 66 (3): 97-105.
- 10) Mochizuki M¹⁾, Minowa F²⁾, Ishimoto C³⁾, Gin A¹⁾, Ishioka K¹⁾, Okubo K (1) Nippon Veterinary and Life Science Univ, 2) Minowa Horse Clinic, 3) Shizuoka Veterinary medical Association): The effect of aging biochemical markers in equine serum. J Equine Veterinary Sci 2016; 42 (1): 1-6.

- 11) Hashiguchi K¹⁾, Wakabayashi K²⁾, Togawa M³⁾, Saito A³⁾, Okubo K (¹⁾ Futaba Clinic, ²⁾ Kitasato Institute Hosp, ³⁾ Taiho Parma) : Therapeutic effect of bilastine in Japanese cedar pollinosis using an artificial exposure chamber (OHIO chamber). *Allergology Int* 2016 ; 66 (1) : 123-131.
- 12) 川内秀之¹⁾, 大久保公裕, 奥泉 薫²⁾, 亀田博之³⁾, 黒野祐一 (¹⁾ 島根大学, ²⁾ サノファイ, ³⁾ 鹿児島大学) : ディレグラ^R 配合錠の患者の申し出による鼻症状の評価と生活の質の改善効果 : 日本人通年性および季節性アレルギー性鼻炎患者における実地臨床下での検討. *アレルギー・免疫* 2016 ; 23 (12) : 103-122.
- 13) Miwa M¹⁾, Hasan S¹⁾, Miwa M¹⁾, Okubo K (¹⁾ Atopy Research Center, Juntendo University) : Filaggrin exists in human nose. *Allergol Int.* 2016 ; 65 (3) : 338-340.
- 14) Shiozawa A¹⁾, Miwa M, Ono N¹⁾, Sasaki D¹⁾, Hirotsu M¹⁾, Nakamura M¹⁾, Ikeda K¹⁾, Okubo K, Okumura K²⁾ (¹⁾ Dept of Otorhinolaryngology, Faculty of Medicine, Juntendo University, ²⁾ Atopy Research Center, Juntendo University) : Alteration of the values of nasal epithelial barrier function after one time application of topical corticosteroids around cedar pollen antigen provocation. *Proc Airway Sec Res* 2016 ; 17 (1) : 1-6.

(2) 総説 :

- 1) 山口 智, 松根彰志 : 鼻アレルギー. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2016 ; 88 (5) : 166-175.
- 2) 松根彰志 : 後鼻漏症候群. *感染と抗菌薬* 2016 ; 19 (2) : 158-162.
- 3) 松根彰志 : アレルギー性鼻炎およびその関連鼻疾患の病態における VEGF の関与. *耳鼻咽喉科と慢性炎症* 2016 ; 5 (2) : 58-63.
- 4) 松根彰志 : Local Allergic Rhinitis : “好酸球増多性鼻炎” と関連の可能性. *JOHNS* 2016 ; 32 (6) : 701-705.
- 5) 松根彰志, 大久保公裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院頭頸部・感覚器科学) : One airway, one disease からみた喘息と鼻副鼻腔炎 : 耳鼻咽喉科からのアプローチ. *日本内科学会雑誌* 2016 ; 105 (10) : 1935-1941.
- 6) 松根彰志 : 抗 LT 薬, 抗 PGD₂TXA₂ 薬はアレルギー性鼻炎の鼻閉に有効か. *PROGRESS IN MEDICINE* 2016 ; 36 (11) : 19-22.
- 7) 後藤 穰 : 抗ヒスタミン薬はアレルギー性鼻炎のすべてに有効か. *Progress in Medicine* 2016 ; 36 (11) : 1463-1467.
- 8) 後藤 穰 : 舌下免疫療法の現状と展望 アレルギー性鼻炎. *アレルギー・免疫* 2016 ; 23 (8) : 1072-1079.
- 9) 後藤 穰 : アレルギー疾患の治療総論 アレルゲン免疫療法. *日本医師会雑誌* 2016 ; 145 (特別1) : 110-111.
- 10) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎治療の新たな展開 開発中の新しい治療薬. *JOHNS* 2016 ; 32 (6) : 737-740.
- 11) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎におけるステロイド点鼻薬の使い方. *小児科* 2016 ; 57 (4) : 357-363.
- 12) 後藤 穰 : 抗ヒスタミン薬はアレルギー性鼻炎のすべてに有効か. *Progress in Medicine* (0287-3648) 36 巻 11 号 Page1463-1467 2016 ; 36 (11) : 1463-1467.
- 13) 後藤 穰 : アレルギー疾患の治療総論 アレルゲン免疫療法. *日本医師会雑誌* 2016 ; 145 (S1) : S110-S111.
- 14) 後藤 穰 : スギ花粉症に対する舌下免疫療法の適応と実際. *ENTONI* 2016 ; 5 (193) : 19-24.
- 15) 後藤 穰 : 舌下免疫療法の現状と展望 アレルギー性鼻炎. *アレルギー・免疫* 2016 ; 23 (8) : 1072-1079.
- 16) 松根彰志 : 小児アレルギー性鼻炎診断の問題点とその克服の意義 What are clinical problems to overcome in pediatric pollinosis and allergic rhinitis?. *THE CHEMICAL TIMES* 2017 ; 1 (1) : 18-21.
- 17) 松根彰志 : セルフケアの効果検証. *アレルギー・免疫* 2017 ; 24 (3) : 92-97.
- 18) 松根彰志 : 症状から見た救急疾患の診断と治療の手順 顔面痛. *JOHNS* 2017 ; 33 (3) : 297-300.
- 19) 原口美穂子, 後藤 穰 : スギ花粉症の鼻症状への対策. *医学と薬学* 2017 ; 74 (2) : 103-109.
- 20) 松根彰志 : アレルギー性鼻炎・好酸球性副鼻腔炎. *アレルギー・免疫* 2017 ; 24 (4) : 82-88.
- 21) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎に対するアレルゲン免疫療法. *日耳鼻* 2017 ; 120 (2) : 140-143.
- 22) 後藤 穰 : 新規抗ヒスタミン薬. *アレルギー・免疫* 2017 ; 24 (2) : 176-182.

著 書

- 1) 松根彰志, その他 55 名 : [分担] local allergic rhinitis の概念. *耳鼻咽喉科イノベーション-最新の治療・診断・疾患概念-* (小林俊光, 高橋晴雄, 浦野正美), 2016 ; pp129-131, 中山書店.
- 2) 村上亮介¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野) : [分担] 症例で学ぶ鼻科診療の実際眼窩尖端症候群で発症した IgG4 関連肥厚性硬膜炎. *鼻アレルギーフロンティア* (奥田稔, 宮本昭正), 2016 ; pp31-35, メディカルレビュー社.
- 3) 松根彰志 : [編集] アレルギー性鼻炎の最新免疫療法. *アレルギーの臨床*, 2017 ; pp16 (116) -42 (142), 北隆館.
- 4) 稲井俊太, 中溝宗永 : [分担] 第 2 章 疾患別がん薬物療法のルール 18. *頭頸部がん. がん薬物療法 現場のルール* (一般臨床で役立つポケットマニュアル) (弦間昭彦), 2016 ; pp139-144, 株式会社 南江堂.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 松根彰志：One airway, One disease：耳鼻咽喉科の立場から。日本アレルギー学会（第65回）（東京），2016. 6.

(2) 招待講演：

- 1) 中溝宗永：頸部腫瘍の鑑別診断。青春会学術講演会・講習会（第48回）（東京），2016. 9.
- 2) 中溝宗永：頸部腫瘍の鑑別診断。練馬区医師会学術部 臨床研究会（東京），2016. 10.
- 3) Okubo K：Efficacy and safety of sublingual immunotherapy tablet in patients with Japanese cedar pollenosis：A double blind, randomised, placebo-controlled study. The 12th Research Symposium on Human Natural Defence System（Seoul），2016. 10.

(3) 教育講演：

- 1) 横島一彦：明日からの診療に役立つ頸部腫瘍の診かた。日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会 アレルギー・感染症セミナー（第20回）（東京），2016. 11.

(4) シンポジウム：

- 1) 中溝宗永，横島一彦，稲井俊太，酒主敦子，坂井 梓，加藤大星，大久保公裕，大橋隆治¹⁾（¹⁾ 病理診断科）：手術療法を主とした耳下腺悪性腫瘍の予後に関わる問題点（唾液腺悪性腫瘍の分子病理から見た治療法の展望 - 予後向上を目的とした新たな展開を中心に）。日本口腔・咽頭学会（第29回）（松江），2016. 9.
- 2) 大久保公裕：ダニ舌下免疫療法の実践。日本アレルギー学会（第65回）（東京），2016. 5.
- 3) 大久保公裕，久田 智¹⁾，前田裕子¹⁾，大島信之¹⁾，田中宜之¹⁾（¹⁾ MSD）：デスロラタジンによる季節性アレルギー性鼻炎患者を対象とした第Ⅲ相2重盲検比較。日本アレルギー学会（第65回）（東京），2016. 5.
- 4) 大久保公裕，山本屋肇¹⁾（¹⁾ 小野薬品）：DP1拮抗薬ONO-4053の季節性アレルギー性鼻炎に対するプラセボ，ブランルカストを対照とした第Ⅱ相試験。日本アレルギー学会（第65回）（東京），2016. 5.
- 5) 大久保公裕，増山敬佑¹⁾，岡宮和弘²⁾，今野昭義³⁾（¹⁾ 山梨大学耳鼻咽喉科，²⁾ 鳥居薬品，³⁾ 南東北病院耳鼻咽喉科）：TO-203（ミテイクキュア）第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験報告。日本アレルギー学会（第65回）（東京），2016. 5.
- 6) 増山敬佑¹⁾，大久保公裕，岡宮和弘²⁾，今野昭義³⁾（¹⁾ 山梨大学耳鼻咽喉科，²⁾ 鳥居薬品，³⁾ 南東北病院耳鼻咽喉科）：TO-203（ミテイクキュア）第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験報告：成人および小児の部分集団における有効性および安全性の比較。日本アレルギー学会（第65回）（東京），2016. 5.
- 7) Okubo K：SQ HDM SLIT-tablet, a global solution：Evidence from Japan. European Academy of Allergy and Clinical Immunology 2016（Vienna, Austria），2016. 6.
- 8) 三輪正人：ドライノーズから考えるドライシンドローム：タフノーズへの展開。第4回日本ドライシンドローム学会（東京），2016. 9.
- 9) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎に対するアレルギー治療薬。総合アレルギー講習会（第3回）（横浜），2016. 12.

(5) セミナー：

- 1) 後藤 穰：アレルギー性鼻炎に対するアレルギー免疫療法。日本鼻科学会（第55回）（宇都宮），2016. 9.
- 2) 大久保公裕：舌下免疫療法：アレルギー性鼻炎に対する最新知見。日本鼻科学会（第55回）（宇都宮），2016. 10.

(6) ワークショップ：

- 1) Matsune S：Introduction of catheter therapy for sinusitis. Yonsei university college of medicine, Lecture（Seoul），2017. 3.

(7) 一般講演：

- 1) 松根彰志，若山 望，吉岡友真，石田麻里子，関根久遠，山口 智，大久保公裕：手術で得られた篩骨洞粘膜および下鼻甲粘膜における抗原特異的抗体産生の比較検討。日本耳鼻咽喉科学会（第117回）（名古屋），2016. 5.
- 2) Matsune S, Ishida M, Wakayama N, Yoshioka Y, Yamaguchi S, Sekine K, Okubo K：LOCAL ALLERGIC RHINITIS（LAR）IN JAPAN. ERS-ISIAN-IRS congress 2016（Stockholm），2016. 7.
- 3) 吉岡友真，山口 智，佐藤一樹，若山 望，石田麻里子，関根久遠，勝部康弘¹⁾，大久保公裕，松根彰志（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科）：小児閉塞性睡眠時無呼吸の加療後の身体発育に与える影響について。日本小児耳鼻咽喉科学会総会（第11回）（徳島），2016. 6.
- 4) 松根彰志：高齢者の鼻漏・後鼻漏をどうするか。耳鼻咽喉科臨床学会（第78回）（鹿児島），2016. 6.
- 5) 山口 智，石田麻里子，日高加奈子¹⁾，高山幸芳¹⁾，五味信也²⁾，佐藤一樹，吉岡友真，若山 望，関根久遠，松根彰志（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院言語療法室，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院理学療法室）：嚥下機能と全身状態の関連について：嚥下造影検査所見から。耳鼻咽喉科臨床学会（第78回）（鹿児島），2016. 6.
- 6) 若山 望，関根久遠，佐藤一樹，吉岡友真，石田麻里子，山口 智，松根彰志，大久保公裕：成人発症のPott's puffy tumorの経験。耳鼻咽喉科臨床学会（第78回）（鹿児島），2016. 6.
- 7) 高原恵理子，若山 望，松根彰志，大久保公裕：黄色ブドウ球菌エンテロトキシン刺激による培養鼻粘膜上皮からのサイトカイン産

- 生：ダニ抗原刺激との比較. 日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会（第4回）（倉敷），2016. 9.
- 8) 吉岡友真, 佐藤一樹, 石田麻理子, 山口 智, 勝部康弘, 松根彰志, 大久保公裕⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科)：小児睡眠時無呼吸症候群と成長障害について：血中 IGF-1 と骨年齢を用いた検討. 日本口腔・咽頭科学会（第29回）（松江市），2016. 9.
 - 9) 村上亮介, 中川洋子, 清水真澄, 若林あや子, 根岸靖幸, 廣井隆親¹⁾, 大久保公裕, 高橋秀実²⁾ ⁽¹⁾ 東京都医学総合研究所花粉症プロジェクト, ⁽²⁾ 日本医科大学微生物免疫学)：アレルギー性鼻炎マウスモデルにおける DEC-205 陽性樹状細胞亜群選択的活性化による抗アレルギー効果の検討. 日本アレルギー学会（第65回）（東京），2016. 6.
 - 10) 村上亮介, 鈴木宏隆, 加藤大星, 横島一彦, 大久保公裕：石灰沈着性頸長筋腱炎の2例. 耳鼻咽喉科臨床学会（第78回）（鹿児島），2016. 6.
 - 11) 松根彰志：Local Allergic Rhinitis (LAR) in Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital. The 12th Research Symposium on Human Natural Defense System (ソウル), 2016. 10.
 - 12) 松根彰志：アレルギー性鼻炎治療における鼻噴霧用ステロイドの活用法と意義. 日本鼻科学会（第55回）（宇都宮市），2016. 10.
 - 13) 後藤 稔, 大久保公裕, 岡本美考¹⁾, 金子真也²⁾, 今野昭義³⁾ ⁽¹⁾ 千葉大学耳鼻咽喉科, ⁽²⁾ 鳥居薬品, ⁽³⁾ 総合南東北病院耳鼻咽喉科)：鼻アレルギー診療ガイドラインから考えるスギ花粉症治療の目標 TO-194SL (シダトレン) 第 III 相試験結果から. 日本アレルギー学会（第65回）（東京），2016. 6.
 - 14) 濱田聡子¹⁾, 朝子幹也¹⁾, 小林良樹¹⁾, 河内理咲¹⁾, 高田洋平¹⁾, 神田 晃¹⁾, 後藤 稔, 大久保公裕, 友田幸一¹⁾ ⁽¹⁾ 関西医大耳鼻咽喉科)：免疫療法の新展開 当科スギ花粉症舌下免疫療法の治療効果に関する検討. 日本アレルギー学会（第65回）（東京），2016. 6.
 - 15) 西村友枝¹⁾, 佐伯真弓¹⁾, 北村紀子¹⁾, 後藤 稔, 大久保公裕, 森 晶夫²⁾, 神沼 修¹⁾, 廣井隆親¹⁾ ⁽¹⁾ 東京都医学総合研究所 花粉症プロジェクト, ⁽²⁾ 相模原病院)：マウスアレルギー性鼻炎モデルにおける CD4 陽性 T 細胞の関与. 日本アレルギー学会（第65回）（東京），2016. 6.
 - 16) 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 粉川隆行, 加藤大星, 大久保公裕：高齢頭頸部遊離再建症例の血行不全. 日本耳鼻咽喉科学会（第117回）（名古屋），2016. 5.
 - 17) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤大星, 大久保公裕：耳下腺・顎下腺手術後の口角運動麻痺の比較. 日本耳鼻咽喉科学会（第117回）（名古屋），2016. 5.
 - 18) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤大星, 宮下次廣¹⁾, 栗林茂彦¹⁾, 大橋隆治²⁾, 梅澤裕己³⁾, 中尾淳一³⁾, 大久保公裕 ⁽¹⁾ 放射線治療科, ⁽²⁾ 病理診断科, ⁽³⁾ 形成・美容・再建外科)：喉頭全摘出術を施行した T3 喉頭癌の術前評価と病理所見の比較. 日本頭頸部癌学会（第40回）（大宮），2016. 6.
 - 19) 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤大星, 大橋隆治¹⁾, 梅澤裕己²⁾, 中尾淳一²⁾, 大久保公裕 ⁽¹⁾ 病理診断科, ⁽²⁾ 形成・美容・再建外科)：顎下腺癌における穿刺吸引細胞診の信頼性と問題点. 日本頭頸部癌学会（第40回）（大宮），2016. 6.
 - 20) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤大星, 大久保公裕：症状緩和のために原発巣切除を行った下咽頭癌2症例. 耳鼻咽喉科臨床学会（第78回）（鹿児島），2016. 6.
 - 21) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 坂井 梓, 加藤大星, 青木秀治, 池園哲郎¹⁾, 大久保公裕 ⁽¹⁾ 埼玉医科大学耳鼻咽喉科)：外耳道全摘出術を施行した外耳道癌の治療成績. 日本頭頸部外科学会（第27回）（東京），2017. 2.
 - 22) Yokoshima K, Nakamizo M, Inai S, Sakanushi A, Kato T, Umezawa H, Nakao J, Okubo K：Diagnostic procedure and prediction of prognosis of asymmetry of the lip after parotidectomy and submandibular glandectomy. International Conference on Head and Neck Cancer (9th.) (Seattle), 2016. 7.
 - 23) Nakamizo M, Yokoshima K, Inai S, Sakanushi A, Kato T, Okubo K, Ohashi R：Prognosis of advanced hypopharyngeal carcinoma with radiographic and pathological metastasis in the lateral retropharyngeal node：A comparison with and without extracapsular spread. International Conference on Head and Neck Cancer (9th.) (Seattle), 2016. 7.
 - 24) 若山 望, 高原恵理子, 吉岡友真, 佐藤一樹, 松根彰志, 大久保公裕, 砂塚敏明¹⁾, 大村 智¹⁾ ⁽¹⁾ 北里大学北里生命科研究所創薬科学部門生物有機化学研究室)：新規マクロライド誘導体 EM900 のヒト鼻腔上皮細胞における抗炎症採用の検討. 日本鼻科学会（第55回）（宇都宮），2016. 10.
 - 25) Wakayama N, Matsune S, Yoshioka Y, Ishida M, Sekine K, Yamaguchi S, Okubo K, Sunazuka T¹⁾, Omura S¹⁾ ⁽¹⁾ Kitasato Institute for Life Science, Kitasato University, and The Kitasato Institute)：Suppression of inflammatory cytokines from cultured human nasal epithelial cells by CAM and EM900. ERS-ISIAN-IRS 2016 (Stockholm), 2016. 7.
 - 26) 佐藤一樹, 松根彰志, 吉岡友真, 若山 望, 石田麻理子, 関根久遠, 山口 智, 大久保公裕, 北村 伸¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院神経内科)：好酸球性副鼻腔炎における嗅覚障害の術後改善効果に関する検討. 日本鼻科学会（第55回）（宇都宮），2016. 10.
 - 27) Matsune S：Local allergic rhinitis in our university hospital. The 12th Research Symposium on Human Natural Defense System (Seoul), 2016. 10.
 - 28) Yoshioka Y, Matsune S, Satou K, Wakayama N, Ishida M, Sekine K, Yamaguchi S, Okubo IK ⁽¹⁾ Nippon Medical School Hospital, Otolaryngology)：Influence of Obstructive Sleep Apnea on Children's Physical Growth. ERS-ISIAN-IRS 2016 Congress (Stock-

- holm), 2016. 7.
- 29) 坂井 梓, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤大星, 中溝宗永, 大久保公裕: 顎下部動静脈奇形の1例. 日本頭頸部外科学会 (第27回) (東京), 2017. 2.
 - 30) 鈴木宏隆, 細矢 慶, 村上亮介, 増野 聡, 大久保公裕: 当院におけるアレルギー性鼻炎に対する手術療法の検討. 日本アレルギー学会 (第65回) (東京), 2016. 6.
 - 31) 鈴木宏隆, 細矢 慶, 村上亮介, 増野 聡, 大久保公裕: 当院でのアレルギー性鼻炎に対する下鼻甲介手術 Powered inferior turboplasty の検討. 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会 (第212回) (東京), 2016. 7.
 - 32) 鈴木宏隆, 細矢 慶, 小町太郎, 村上亮介, 若山 望, 吉野綾穂, 加藤大星, 大久保公裕: ソムリエ・料理人を対象としたオープンエッセンスによる嗅覚機能評価. 日本耳鼻咽喉科学会 (第117回) (名古屋), 2016. 5.
 - 33) 小町太郎, 吉野綾穂, 長谷川賢作, 馬場俊吉: 内視鏡下に摘出した涙道平滑筋腫症例. 日本鼻科学会 (第55回) (宇都宮), 2016. 10.
 - 34) 小町太郎¹⁾, 吉野綾穂¹⁾, 長谷川賢作¹⁾, 馬場俊吉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院): 鼻出血で発見された鼻涙管平滑筋腫症例. 日耳鼻千葉県地方部会 (第89回) (千葉県), 2016. 6.
 - 35) 加藤大星, 細矢 慶, 小町太郎, 村上亮介, 若山 望, 吉野綾穂, 鈴木宏隆, 大久保公裕: 内視鏡下鼻副鼻腔手術直後の睡眠状態の評価. 日本耳鼻咽喉科学会 (第117回) (名古屋), 2016. 6.
 - 36) 加藤大星, 三輪正人, 鈴木宏隆, 佐藤一樹, 吉岡邦暁, 村上亮介, 酒主敦子, 池田勝久¹⁾, 奥村 康²⁾ (¹⁾ 順天堂大学医学部付属病院 順天堂医院耳鼻咽喉頭頸科, ²⁾ 順天堂大学アトピー疾患研究センター): 鼻および口呼吸時の呼気凝集液の解析. 日本鼻科学会 (第55回) (宇都宮), 2016. 10.
 - 37) 加藤大星, 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 坂井 梓, 大久保公裕: 耳下腺に生じたIgG4関連疾患の1例. 日本頭頸部外科学会 (第27回) (東京), 2017. 2.
 - 38) 長谷川賢作, 矢間敬章¹⁾, 久家純子¹⁾, 國本泰臣¹⁾, 小町太郎, 馬場俊吉 (¹⁾ 鳥取大学医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科): 中耳病変を伴わない鼓膜肉芽腫症例. 日本耳科学会総会 (第26回) (長野), 2016. 10.
 - 39) 長谷川賢作, 加藤大星, 小町太郎, 吉野綾穂, 馬場俊吉: 合同手術を実施した2症例. 日本耳鼻咽喉科学会 千葉県地方部会 (第90回) (千葉), 2017. 1.
 - 40) 佐藤一樹, 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤大星, 坂井 梓, 吉岡邦暁, 大久保公裕: 認知症を併存する進行下咽頭癌1症例の治療経験. 日本口腔・咽頭科学会 (第29回) (松江), 2016. 9.
 - 41) 稲井俊太, 中溝宗永, 横島一彦, 酒主敦子, 加藤大星, 大久保公裕: 鼻中隔扁平上皮癌8例の検討. 日本頭頸部癌学会 (第40回) (大宮), 2016. 6.
 - 42) 稲井俊太, 中溝宗永, 横島一彦, 酒主敦子, 坂井 梓, 加藤大星, 大久保公裕: 頸部郭清術を先行した進行下咽頭癌症例の検討. 日本頭頸部外科学会 (第27回) (東京), 2017. 2.
 - 43) 吉岡邦暁, 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤大星, 坂井 梓, 佐藤一樹, 大久保公裕: 硬口蓋粘表皮癌1例の診療経験. 日本口腔・咽頭科学会 (第29回) (松江), 2016. 9.
 - 44) Okubo K, Yamamotoya H¹⁾ (¹⁾ Ono Pharmaceutical Co): Phase II clinical trial of ONO-4053, a novel DP-1 antagonist, in patients with seasonal allergic rhinitis. European Academy of Allergy and Clinical Immunology 2016 (Viena, Austria), 2016. 6.
 - 45) Okubo K, Okamoto Y¹⁾, Yonekura S¹⁾, Gotoh M, Kaneko S²⁾, Imai T³⁾ (¹⁾ Chiba Univ, ²⁾ Torii Pharmaceutical Co, ³⁾ Heiwadai Hosp): Efficacy and safety of sublingual immunotherapy in patients with Japanese cedar pollinosis. European Academy of Allergy and Clinical Immunology 2016 (Viena, Austria), 2016. 6.
 - 46) Okubo K, Togawa M¹⁾, Honda T¹⁾, Hashiguchi K²⁾ (¹⁾ TAIHO Pharmaceutical Co, ²⁾ Futaba Clinic): Efficacy of bilastine in Japanese cedar pollinosis: results of a randomised, double-blind, 4-way crossover, placebo-controlled, phase II study using artificial exposure chamber (OHIO chamber). European Academy Allergy and Clinical Immunology 2016 (Viena, Austria), 2016. 6.
 - 47) 三輪正人, 鈴木宏隆, 佐藤一樹, 加藤大星, 大久保公裕: 非侵襲的気道上皮機能の包括的評価法構築の試み. 日本医科大学・東京理科大学 第3回合同シンポジウム (東京), 2016. 12.
 - 48) 三輪正人: 気道シアストレス測定の試み. 日本医科大学・東京理科大学 第3回合同シンポジウム (東京), 2016. 12.
 - 49) 三輪正人, Hasan S¹⁾, 廣瀬 壯²⁾, 中島規幸³⁾, 三輪真由美⁴⁾, 大久保公裕, 奥村 康¹⁾ (¹⁾ 順天堂大学アトピー疾患研究センター, ²⁾ 三鷹台クリニック, ³⁾ なかじまクリニック, ⁴⁾ はりま坂クリニック): フィラグリン発現量の初代培養ヒト鼻粘膜上皮における変化. 第65回日本アレルギー学会 (東京), 2016. 6.
 - 50) 鈴木宏隆, 三輪正人, 加藤大星, 吉岡邦暁, 佐藤一樹, 村上亮介, 酒主敦子, 大久保公裕, ハウリー重紀¹⁾, 飯島史朗¹⁾, 奥村 康²⁾ (¹⁾ 文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科, ²⁾ 順天堂大学アトピー疾患研究センター): 鼻および口呼吸凝集液の解析. 第7回 AirwayMedicine 研究会 (大阪), 2016. 11.
 - 51) 三輪正人, 村上亮介, 加藤大星, 鈴木宏隆, 大久保公裕: LPS, PolyI:Cによる鼻粘膜上皮膜抵抗とバリア機能関連タンパクの発現

- の変化. 第4回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会(倉敷), 2016. 9.
- 52) 三輪正人, 大久保公裕: 初代培養ヒト鼻粘膜上皮細胞におけるフィラグリン発現量の変化. 第117回日本耳鼻咽喉科学会(名古屋), 2016. 5.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Otsuka H, Tsukagoshi H¹⁾, Kimura H²⁾, Takahashi I³⁾, Okubo K (¹⁾ Gumma Prefectural institutee, ²⁾ Infectious Disease Surveillance Center, ³⁾ Kaganawa General High School) : Are respiratory viruses involved in preseasonal symptoms or severity in Japanese cedar pollinosis?. Allergy Rhinol (Providence) 2016 ; 7 (2) : 62-68.
- 2) Otsuka H, Takahashi I¹⁾, Tokunou S²⁾, Endo S²⁾, Okubo K (¹⁾ Kanagawa General High School, ²⁾ Keihin Medical Laboratory) : Involvement of Staphylococcus aureus and Moraxella catarrhalis in Japanese cedar pollinosis. Am J Rhinol Allergy 2016 ; 30(3) : 99-106.

著書

追加分著書:

- 1) 大久保公裕: [自著] 薬いらずで鼻はスカッとよくなる. 薬いらずで鼻はスカッとよくなる(大久保公裕), 2016; pp1-168, 扶桑社.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 鈴木宏隆, 細矢 慶, 小町太郎, 吉岡友真, 大久保公裕: 眼窩底骨折を伴い眼窩膿瘍をきたした小児急性副鼻腔炎の1例. 日本鼻科学会(第54回)(広島), 2015. 10.
- 2) 鈴木宏隆, 細矢 慶, 小町太郎, 吉岡友真, 大久保公裕: 眼窩膿瘍をきたした小児急性副鼻腔炎の1例. 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会(第209回)(東京), 2015. 11.
- 3) 中村真浩¹⁾, 三輪正人, 池田勝久¹⁾ (¹⁾ 順天堂大学医学部耳鼻咽喉科) : 気道上皮と表皮でのフィラグリン発現の検討. 第34回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会(鳥羽), 2016. 3.
- 4) Miwa M, Hasan S¹⁾, Hirose T²⁾, Nakajima N³⁾, Miwa M⁴⁾, Okubo K, Okumura K¹⁾ (¹⁾ Atopy Research Center, Juntendo University, ²⁾ Mitakadai Clinic, ³⁾ Nakajima Clinic, ⁴⁾ Harimazaka Clinic) : Filaggrin in human nasal mucosa. The 16th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery (Tokyo), 2016. 3.

23. 男性生殖器・泌尿器科学分野

[付属病院泌尿器科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Uemura IH, Matsubara 2N, Kimura G, Yamaguchi 3A, Ledesma 4D, Dibonaventura 5M, Mohamed 6A, Basurto 5E, Mckinnon 5I, Wang 6E, Concialdi 5K, Narimatsu 4A, Aitoku 4Y (1) Department of Urology and Renal Transplantation, Yokohama City University Medical Center, Yokohama, Japan, (2) Division of Breast and Medical Oncology, National Cancer Center Hospital East, Chiba, Japan, (3) Division of Urology, Harasanshin General Hospital, Fukuoka, Japan, (4) Bayer Yakuhin, Ltd., 2-4-9, Umeda, Kita-ku, Osaka 530-0001, Japan, (5) Kantar Health, New York, NY, USA, (6) Bayer Healthcare, Whippany, NJ, USA) : Patient preferences for treatment of castration-resistant prostate cancer in Japan : a discrete-choice experiment. *BMC Urology* 2016 ; 16 : 63.
- 2) Evans C, Higano C, Keanec T, Andriole G, Saad F, Iversen P, Miller K, Kim C, Kimura G, Armstrong A, Sternberg C, Loriot Y, De Bono J, Noonberg S, Mansbach H, et al. : The PREVAIL Study : Primary Outcomes by Site and Extent of Baseline Disease for Enzalutamide-treated Men with Chemotherapy-naïve Metastatic Castration-resistant Prostate Cancer. *Eur Urol* 2016 ; 70 : 675-683.
- 3) Yamamoto Y^{1,2)}, Offord C³⁾, Kimura G⁴⁾, Kuribayashi S⁵⁾, Takeda H⁴⁾, Tsuchiya S^{2,6)}, Shimojo H¹⁾, Kanno H¹⁾, Bozic I⁷⁾, Nowak M⁷⁾, Bajzer Z⁸⁾, Dingli D^{3,9)} (1) Department of Pathology, Shinshu University School of Medicine, 3-1-1, Asahi, Matsumoto, Nagano 390-8621, Japan, (2) Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8603, Japan, (3) Department of Molecular Medicine, Mayo Clinic, 200 First St SW, Rochester, MN 55905, USA, (4) Department of Urology, Nippon Medical School Hospital, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8603, Japan, (5) Department of Radiology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8603, Japan, (6) Diagnostic Pathology, Ritsuzankai Iida Hospital, Iida, Nagano 395-0056, Japan, (7) Program for Evolutionary Dynamics, Harvard University, One Brattle Square, Suite 6, Cambridge, MA 02138-3758, USA, (8) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Mayo Clinic, 200 First St SW, Rochester, MN 55905, USA, (9) Division of Hematology, Mayo Clinic, Mayo Clinic, 200 First St SW, Rochester, MN 55905, USA) : Tumor and immune cell dynamics explain the PSA bounce after prostate cancer brachytherapy. *Br J Cancer* 2016 ; 115 : 195-202.
- 4) Kimura G, Yonese J, Fukagai T, Kamba T, Nishimura K, Nozawa M, Mansbach H, Theeuwes A, Beer T, Tombal B, Ueda T : Enzalutamide in Japanese patients with chemotherapy-naïve, metastatic castration-resistant prostate cancer : A post-hoc analysis of the placebo-controlled PREVAIL trial. *Int J Urol* 2016 ; 23 (5) : 395-403.
- 5) Kimura G, Ueda T¹⁾ (1) Chiba Cancer Center, Chiba, Japan) : Post hoc analysis of Japanese patients from the placebo-controlled PREVAIL trial of enzalutamide in patients with chemotherapy-naïve, metastatic castration-resistant prostate cancer—updated results. *Jpn J Clin Oncol* 2017 ; 47 (3) : 262-264.
- 6) 濱崎 務, 西村泰司, 飯ヶ谷重来, 遠藤勇氣, 柳 雅人, 鈴木康友, 近藤幸尋, 秋元成太 : 単一施設における泌尿器科経験平均3年の術者が施行した開腹前立腺全摘術の検討. *日本外科系連合学会誌* 2016 ; 41 (2) : 152-156.
- 7) 遠藤勇氣¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科) : 婦人科がん・泌尿器がんに関する新治療「膀胱がんに対する分子標的薬」. *腫瘍内科* 2016 ; 18 (2) : 145-153.
- 8) 戸山友香¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科) : 泌尿器科処方ofのすべて : すぐに使える実践ガイド 3 女性泌尿器科 : 腹圧性尿失禁. *臨床泌尿器科* 2016 ; 70 (4) : 076-077.
- 9) 戸山友香¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学医学部泌尿器科学教室) : 【泌尿器科処方ofのすべて : すぐに使える実践ガイド】女性泌尿器科膀胱エンドメトリオーシス. *臨床泌尿器科* 2016 ; 70 (4) : 80-82.
- 10) 戸山友香¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学医学部泌尿器科学教室) : 【泌尿器科処方ofのすべて : すぐに使える実践ガイド】女性泌尿器科骨盤臓器脱. *臨床泌尿器科* 2016 ; 70 (4) : 78-79.
- 11) 戸山友香¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学医学部泌尿器科学教室) : 【泌尿器科処方ofのすべて : すぐに使える実践ガイド】女性泌尿器科 腹圧性尿失禁. *臨床泌尿器科* 2016 ; 70 (4) : 76-77.

(2) 総説：

- 1) 木村 剛 : 超音波検査. VIII. 前立腺癌の検査・診断. 画像診断. 新前立腺癌学 : 最近の基礎研究と診断. *日本臨牀* 2016 ; 74 (3) :

310-317.

- 2) 木村 剛：腎がんにおける分子標的治療薬 特集 泌尿器科領域の診断・治療における最近の潮流. Cefiro 2016; 23 (3) : 14-19.
- 3) 木村 剛：進行性腎がんに対する免疫チェックポイント阻害薬. 特集 ここまで進歩した腎がん診療. 医学のあゆみ 2016; 257 (9) : 931-937.
- 4) 木村 剛：ハイリスク腎癌に対する術後アジュバント治療. 特集 進行性腎細胞癌に対する治療の最前線. 泌尿器外科 2016; 29 (6) : 959-967.
- 5) 木村 剛：骨転移に対する新しい放射性治療薬, Ra-223. 特集 2. 第4回泌尿器画像診断・治療技術研究会 (JSURT) 報告. 映像情報 Medical 2017; 49 (1) : 67-74.
- 6) 木村 剛：進行性腎細胞癌に対するニボルマブ-ASCO 2016 のデータを踏まえて. : 泌尿器癌における免疫治療の新展開～免疫チェックポイント阻害薬による治療. 泌尿器外科 2017; 30 (1) : 9-16.

著 書

- 1) 木村 剛：〔翻訳〕2章 11. 腎がん. がん薬物療法 現場のルール：一般臨床で役立つポケットマニュアル (弦間 昭彦, 久保田 馨, 宮 敏路, 勝俣 範之), 2016; pp84-91, 南江堂.
- 2) 木村 剛：〔翻訳〕2章 13. 精巣・後腹膜・縦隔胚細胞腫瘍. がん薬物療法 現場のルール：一般臨床で役立つポケットマニュアル (弦間 昭彦, 久保田 馨, 宮 敏路, 勝俣 範之), 2016; pp95-101, 南江堂.
- 3) 木村 剛：〔翻訳〕3章 2. 分子標的治療薬. D. mTOR 阻害薬. がん薬物療法 現場のルール：一般臨床で役立つポケットマニュアル (弦間 昭彦, 久保田 馨, 宮 敏路, 勝俣 範之), 2016; pp191-194, 南江堂.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 木村 剛, 近藤幸尋：アルファー線内用療法「骨転移治療の新しい選択肢の Ra-223：診療科横断的な取り組み」. 日本核医学会学術総会 (第 56 回) (名古屋市), 2016. 11.
- 2) 木村 剛：高齢者腎癌の薬物療法. 「高齢者泌尿器がんの薬物療法と看護ケア」. 日本老年泌尿器科学会 (第 29 回) (福岡市), 2016. 5.
- 3) 濱崎 務, 近藤幸尋：医療経済から見た daVinci と前立腺癌手術 (医療経済の側面から見た泌尿器腫瘍学の将来). 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 4.
- 4) 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科)：医療経済から見た davinci と前立腺癌手術. 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 4.
- 5) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科学)：「骨転移治療の新しい選択肢の Ra-223：診療科横断的な取り組み」：泌尿器科の立場から. 日本核医学会学術総会 (第 56 回) (名古屋), 2016. 11.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 濱崎 務¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 武田隼人¹⁾, 尾形吉彦¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 木村 剛, 近藤幸尋 (1) 日本医科大学 泌尿器科)：Body mass index がロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術の術中成績に与える影響. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 30 回) (大阪), 2016. 11.
- 2) 稲津宏紀¹⁾, 大澤秀一¹⁾, 新藤貴雄²⁾, 木全亮二³⁾, 濱崎 務²⁾, 木村 剛²⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 平成立石病院 泌尿器科, 2) 日本医科大学 泌尿器科, 3) 日本医科大学 武蔵小杉病院)：不完全重複腎盂尿管に合併した上部尿路結石に対して f-TUL を施行した 1 例. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 30 回) (大阪), 2016. 11.
- 3) 遠藤勇氣¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 武田隼人¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 泌尿器科)：当院における腹腔鏡下腎尿管全摘術についての検討. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 30 回) (大阪), 2016. 11.
- 4) 新藤貴雄¹⁾, 柴山慶太¹⁾, 武田隼人¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 泌尿器科)：ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘後に肝梗塞を発症した 1 例. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 30 回) (大阪), 2016. 11.
- 5) 赤塚 純¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科)：RALP における骨盤底ドレーン管理について. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 30 回) (大阪), 2016. 11.
- 6) 大林康太郎¹⁾, 野村俊一郎¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 武田隼人¹⁾, 中山聡子¹⁾, 戸山友香¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科)：上部尿路癌患者における鏡視下腎尿管全摘除術後の膀胱内再発の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 4.
- 7) 飯ヶ谷重来¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 程塚直人¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 武田隼人¹⁾, 中山聡子¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 泌尿器科)：当科における脂肪肉腫の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 4.
- 8) 濱崎 務¹⁾, 長沢正人²⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 武田隼人¹⁾, 尾形吉彦¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 野村俊一郎¹⁾, 松澤一郎¹⁾,

- 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科, ²⁾ 会津中央病院 泌尿器科) : 当院におけるロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術 (RARP) : 5 ポートへの試み. 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 4.
- 9) 新藤貴雄¹⁾, 武田隼人¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科) : 周術期の管理に難渋した腎細胞癌下大静脈腫瘍塞栓の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 4.
- 10) 戸山友香¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 中山聡子¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 塩路 豪¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 市川雅男²⁾, 明楽重夫²⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学 女性診療科) : 当院での骨盤臓器脱診療に関する産婦人科との連携体制 : よりハイエンドなウロギネ診療を目指すために. 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 4.
- 11) 天河 亮¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 中山聡子¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 長谷川匡²⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科, ²⁾ 札幌医科大学附属病院 病理診断科・病理部) : 膀胱原発の Inflammatory myofibroblastic tumor の 1 例. 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 4.
- 12) 遠藤勇氣¹⁾, 鈴木康友²⁾, 赤塚 純¹⁾, 武田隼人¹⁾, 野村俊一郎¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学 千葉北総病院) : 当院における膀胱全摘術の安全性および予後についての検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 4.
- 13) 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 武田隼人¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科) : 腹腔鏡下前立腺全摘除術における Tz 癌の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 104 回) (仙台), 2016. 4.
- 14) 天河 亮¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 大林康太郎¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科) : IgG4 関連腎臓病 腎盂壁肥厚病変の 2 例. 西日本泌尿器科学会総会 (第 68 回) (山口県下関), 2016. 11.
- 15) 井上 泰¹⁾, 尾形吉彦²⁾, 塩路 豪²⁾, 佐藤三洋²⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 泌尿器科) : 胆道再建した腎細胞癌胆嚢管転移. 西日本泌尿器科学会総会 (第 68 回) (山口県下関), 2016. 11.
- 16) 遠藤勇氣¹⁾, 野村俊一郎¹⁾, 松岡 諒¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 武田隼人¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 広範に Rhabdoid feature を伴う GCSF 産生透視腎癌の 1 例. 西日本泌尿器科学会総会 (第 68 回) (山口県下関), 2016. 11.
- 17) 新藤貴雄¹⁾, 木村 剛¹⁾, 程塚直人¹⁾, 香山重軌¹⁾, 武田隼人¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科) : 周術期の管理に難渋した腎細胞癌 IVC 腫瘍塞栓の臨床的検討. 腎癌研究会 (第 47 回) (東京), 2016. 8.
- 18) 稲津宏紀¹⁾, 木村 剛²⁾, 遠藤勇氣²⁾, 松澤一郎²⁾, 鈴木康友³⁾, 濱崎 務²⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 平成立石病院 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科) : Sunitinib 投与後の血小板輸血にて早期に抗 HLA 抗体産生による血小板輸血不応状態を示した転移性腎癌の 2 例. 腎癌研究会 (第 47 回) (東京), 2016. 8.
- 19) 戸山友香¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 中山聡子¹⁾, 川田由里子¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 塩路 豪¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 市川雅男²⁾, 明楽重夫²⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学 女性診療科) : 骨盤臓器脱に対する LSC 術前後における排尿機能変化. 日本排尿機能学会 (第 23 回) (東京), 2016. 12.
- 20) 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 武田隼人¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科) : 当科におけるロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘除術の初期検討. 二本泌尿器科学会東部総会 (第 81 回) (青森), 2016. 11.
- 21) 稲津宏紀¹⁾, 大澤秀一¹⁾, 木全亮二²⁾, 濱崎 務²⁾, 木村 剛²⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 平成立石病院 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学 泌尿器科) : G-CSF 産生腎盂癌の 1 例. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 81 回) (青森), 2016. 10.
- 22) 井上 泰¹⁾, 尾形吉彦²⁾, 塩路 豪²⁾, 佐藤三洋²⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 泌尿器科) : 胆道再建した腎細胞癌胆嚢管転移. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 81 回) (青森), 2016. 10.
- 23) 香山重軌¹⁾, 箕輪忠明¹⁾, 柳 雅人²⁾, 赤塚 純³⁾, 竹中 圭⁴⁾, 近藤幸尋³⁾ (1) 博慈会記念総合病院 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, ³⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科, ⁴⁾ 博慈会記念総合病院呼吸器内科) : 外傷性気胸に続発した陰嚢内気腫の 1 例. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 81 回) (青森), 2016. 10.
- 24) 赤塚 純¹⁾, 木村 剛¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 武田隼人¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 腎 2 : 分子標的治療 (1). 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (横浜), 2016. 10.
- 25) 遠藤勇氣¹⁾, 木全亮二²⁾, 赤塚 純¹⁾, 武田隼人¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 泌尿器科) : 膀胱温存療法後の膀胱全摘における血清サイトケラチン 19 フラグメント値の有用性. 日本癌治療学会学術集会 (第 54 回) (横浜), 2016. 10.
- 26) Endo Y¹⁾, Akastuka J¹⁾, Takeda H¹⁾, Matsuzawa I¹⁾, Hamasaki T¹⁾, Kimura G¹⁾, Kondo Y¹⁾ (1) Department of Urology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Efficacy of laparoscopic surgery with transurethral cutting for bladder endometriosis. WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY (34th) (CAPE TOWN, SOUTH AFRICA), 2016. 11.
- (3) ワークショップ :
- 1) Kimura G, Kondo Y : Perspectives on CRPC treatment-enzalutamide is promised as a first option for CRPC treatment-. Workshop 1, "Controversy in treatment of advanced prostate cancer". 日本臨床腫瘍学会 (第 14 回) (神戸市), 2016. 7.

(4) 一般講演：

- 1) 木村 剛, 近藤幸尋：腎淡明細胞癌の組織構築と臨床病理学的特性. 日本泌尿器科学会西部総会（第 68 回）（下関市），2016. 11.
- 2) 永森 聡¹⁾, 上村博司²⁾, 和久本芳彰³⁾, 植村天受⁴⁾, 木村 剛⁵⁾, 横溝 晃⁶⁾, 菊川浩明⁷⁾, 絹谷清剛⁸⁾, 細野 眞⁹⁾, 山口 郁¹⁰⁾, 筒井弘一, 松永瑛典, 松原伸晃（¹⁾ 国立病院機構北海道がんセンター泌尿器科, ²⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター泌尿器・腎移植科, ³⁾ 順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学, ⁴⁾ 近畿大学医学部泌尿器科学教室, ⁵⁾ 日本医科大学泌尿器科学教室, ⁶⁾ 九州大学大学院医学研究院泌尿器科学分野, ⁷⁾ 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科, ⁸⁾ 日本核医学会, ⁹⁾ バイエル薬品株式会社開発本部, ¹⁰⁾ その他）：骨転移のある日本人の症候性去勢抵抗性前立腺癌患者への塩化ラジウム-223 の第 II 相試験. 日本癌治療学会（横浜市），2016. 10.
- 3) 富田善彦^{1, 2)}, Motzer R³⁾, 篠原信雄⁴⁾, 北村 寛^{5, 6)}, 大家基嗣⁷⁾, 江藤正俊^{8, 9)}, 齋藤 満, 田邊一成, 木村 剛, 米瀬淳二, 矢尾正祐, Mchenry M, Berghorn E, 深沢 賢（¹⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科腎泌尿器病態学・分子腫瘍学分野, ²⁾ 山形大学医学部附属病院, ³⁾ Memorial Sloan Kettering Cancer Center, ⁴⁾ 北海道大学医学部, ⁵⁾ 札幌医科大学附属病院, ⁶⁾ 富山大学医学部, ⁷⁾ 慶應義塾大学病院, ⁸⁾ 熊本大学大学院生命科学研究部, ⁹⁾ 九州大学病院, ¹⁰⁾ その他）：腎細胞癌に対するニボルマブとエベロリムスの比較試験（CheckMate025）：日本人サブ解析. 日本癌治療学会（横浜市），2016. 10.
- 4) 松原伸晃¹⁾, 木村 剛²⁾, 山口秋人³⁾, レデスマダイアン⁴⁾, ディボナヴェンチャーラマルコ⁴⁾, モハメッドアティーシャ⁴⁾, バスルトエンリケ⁴⁾, マックキノニアン⁴⁾, ワンエドワード⁴⁾, コンシアルディクリステン⁴⁾, 相徳泰子⁴⁾, 上村博司⁵⁾（¹⁾ 国立がん研究センター東病院 乳腺科・血液化学療法科, ²⁾ 日本医科大学 泌尿器科, ³⁾ 医療法人 原三信病院 泌尿器科, ⁴⁾ バイエル薬品株式会社マーケットアクセス本部, ⁵⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター 泌尿器・腎移植科）：Patient preferences for treatment of castration-resistant prostate cancer in Japan. 日本泌尿器科学会総会（第 104 回）（仙台市），2016. 4.
- 5) 松原伸晃¹⁾, 木村 剛²⁾, 山口秋人³⁾, レデスマダイアン⁴⁾, ディボナヴェンチャーラマルコ⁴⁾, モハメッドアティーシャ⁴⁾, バスルトエンリケ⁴⁾, マックキノニアン⁴⁾, ワンエドワード⁴⁾, コンシアルディクリステン⁴⁾, 相徳泰子⁴⁾, 上村博司⁵⁾（¹⁾ 国立がん研究センター東病院 乳腺科・血液化学療法科, ²⁾ 日本医科大学 泌尿器科, ³⁾ 医療法人 原三信病院 泌尿器科, ⁴⁾ バイエル薬品株式会社マーケットアクセス本部, ⁵⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター 泌尿器・腎移植科）：Patient preferences for treatment of castration-resistant prostate cancer in Japan. 日本泌尿器科学会総会（第 104 回）（仙台市），2016. 4.
- 6) 杉山貴之¹⁾, 小山政史²⁾, 野澤昌弘³⁾, 藤本清秀⁴⁾, 岸田 健⁵⁾, 木村 剛⁶⁾, 徳田倫章⁷⁾, 樋之津史郎⁸⁾, 下妻晃二郎⁹⁾, 赤座英之¹⁰⁾, 大園誠一郎¹⁾（¹⁾ 浜松医科大学泌尿器科, ²⁾ 埼玉医科大学国際医療センター泌尿器科, ³⁾ 近畿大学医学部泌尿器科, ⁴⁾ 奈良県立医科大学泌尿器科, ⁵⁾ 神奈川県立がんセンター泌尿器科, ⁶⁾ 日本医科大学泌尿器科, ⁷⁾ 佐賀県立病院好生館泌尿器科, ⁸⁾ 岡山大学病院新医療研究 開発センター, ⁹⁾ 立命館大学生命科学部生命医科学科, ¹⁰⁾ その他）：根治切除不能または転移性の腎細胞癌患者に対する 1st line TKI 療法不応後のエベロリムスの有効性および安全性の検討：多施設共同第 II 相試験. 日本泌尿器科学会総会（第 104 回）（仙台市），2016. 4.
- 7) 中山聡子¹⁾, 大林康太郎¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 戸山友香¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 泌尿器科）：Gemcitabine + Cisplatin 療法後, 間欠的な Gemcitabine 単剤療法で長期 SD を得られた転移性膀胱癌の 1 例. 日本泌尿器腫瘍学会（第二回）（神奈川県横浜市），2016. 10.
- 8) 濱崎 務, 長沢正人, 赤塚 純, 遠藤勇氣, 武田隼人, 尾形吉彦, 飯ヶ谷重来, 新藤貴雄, 野村俊一郎, 松澤一郎, 木村 剛, 近藤幸尋：当院におけるロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術（RARP）：5 ポートへの試み. 日本泌尿器科学会総会（第 104 回）（仙台），2016. 4.
- 9) 濱崎 務, 赤塚 純, 遠藤勇氣, 武田隼人, 尾形吉彦, 飯ヶ谷重来, 新藤貴雄, 井上 泰, 松澤一郎, 木村 剛, 近藤幸尋：Body mass index がロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術（RARP）の術中成績に与える影響. 日本泌尿器内視鏡学会（第 30 回）（大阪），2016. 11.
- 10) 武田隼人¹⁾, 木村 剛¹⁾, 大林康太郎¹⁾, 栗林茂彦²⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 中山聡子¹⁾, 戸山友香¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 宮下次廣²⁾, 近藤幸尋¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学 放射線治療科）：前立腺癌外照射治療の晩期有害事象に対して施行した高気圧酸素療法の有用性の検討. 日本泌尿器科学会総会（第 104 回）（仙台），2016. 4.
- 11) 林 達郎¹⁾, 萩原喜一²⁾, 佐野雅之²⁾, 上原 翔²⁾, 小川将宏²⁾, 山崎六志²⁾, 砂倉瑞明²⁾, 増田 均²⁾, 山本真也²⁾, 福井 巖²⁾, 米瀬淳二²⁾, 湯浅 健²⁾（¹⁾ 日本医科大学 泌尿器科, ²⁾ がん研有明病院 泌尿器科）：がん研有明病院における難治性胚細胞腫瘍に対する TGP（パクリタキセル, ゲムシタピン, シスプラチン）救済化学療法の成績. 日本泌尿器科学会総会（第 104 回）（仙台），2016. 4.
- 12) 赤塚 純¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 武田隼人¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 泌尿器科）：当科におけるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術による断端陽性症例の検討：腹腔鏡下前立腺全摘除術の経験と比較して. 日本泌尿器科学会総会（第 104 回）（仙台），2016. 4.
- 13) 林 達郎¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 泌尿器科）：転移性胚細胞腫瘍に対する救済化学療法の実際. Young Urologists Conference（第 21 回）（東京），2017. 2.

- 14) 遠藤勇気¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科)：尿路上皮癌と血中サイトケラチン 19 フラグメント. 膀胱温存勉強会 (第 8 回) (東京), 2017. 1.
- 15) 戸山友香¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科)：「尿管ステント留置を要した腎盂腎炎に起因する敗血症：当科症例 解析結果」. 谷根千腎カンファレンス (第 6 回) (東京), 2016. 6.
- 16) 佐野雅之¹⁾, 尾形吉彦¹⁾, 塩路 豪¹⁾, 佐藤三洋¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 泌尿器科)：転移性腎細胞癌に対するスニチニブ投与により免疫性血小板減少症を呈した 1 例. 日本泌尿器腫瘍学会学術集会 (第 2 回) (横浜), 2016. 10.
- 17) Go K¹⁾, Yukihiko K¹⁾ (1) Department of Urology,Nippon Medical School)：Perspectives on CRPC treatment : enzalutamide is promised as a first option for CRPC treatment. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第 14 回) (神戸), 2016. 7.
- 18) 大林康太郎¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 野村俊一郎¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇気¹⁾, 武田隼人¹⁾, 戸山友香¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 大永 崇²⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学 泌尿器科, 2) 富山県工業技術センター)：未治療転移性前立腺癌患者におけるマイクロ流体チップシステムを用いた末梢血循環腫瘍細胞捕捉成績. 日本ヒト細胞学会学術集会 (第 34 回) (奈良), 2016. 7.
- 19) Iigaya S¹⁾, Hayashi T¹⁾, Akastuka J¹⁾, Yasuoka S¹⁾, Endo Y¹⁾, Toyama Y¹⁾, Hamasaki T¹⁾, Kimura G¹⁾, Kondo Y¹⁾ (1) Department of Urology,Nippon Medical School,Tokyo,Japan)：Outcome of Salvage Radiation Therapy for Recurrent Prostate Cancer Post-Radical Prostatectomy. Congress of Asian Prostate Society (The 6th) (Seoul,Korea), 2016. 9.
- 20) 安岡正太郎¹⁾, 木村 剛¹⁾, 戸山友香¹⁾, 松岡 諒¹⁾, 高橋圭吾¹⁾, 柴山慶太¹⁾, 大林康太郎¹⁾, 井上 泰¹⁾, 新藤貴雄¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇気¹⁾, 林 達郎¹⁾, 中山聡子¹⁾, 濱崎 務¹⁾, その他 3 名 (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科)：前立腺原発びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 623 回) (東京), 2017. 2.
- 21) 高橋圭吾, 木村 剛, 松岡 諒, 安岡正太郎, 柴山慶太, 大林康太郎, 渡邊晃秀, 井上 泰, 新藤貴雄, 飯ヶ谷重来, 遠藤勇気, 赤塚 純, 林 達郎, 中山聡子, 戸山友香, その他 2 名 (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科)：膀胱 urothelial carcinoma,lipid cell variant の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 622 回) (東京), 2016. 12.
- 22) 松岡 諒¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 戸山友香¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器科)：Rhabdoid feature をともなう成人型腎細胞癌の 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 621 回) (東京), 2016. 6.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Beer T¹⁾, Armstrong A²⁾, Rathkopf D³⁾, Loriot Y⁴⁾, Sternberg C⁵⁾, Higano C⁶⁾, Iversen P⁷⁾, Evans C⁸⁾, Kim C⁹⁾, Kimura G, Kurt M¹⁰⁾, Saad F, Bjartell A, Borre M, Mulders P (1) Knight Cancer Institut, 2) Duke Cancer Institute, 3) Memorial Sloan Kettering Cancer Center, 4) Institut Gustave-Roussy, 5) San Camillo and Forlanini Hospitals, 6) University of Washington, 7) Rigshospitalet, 8) UC Davis Cancer Center, 9) Asan Medical Center, 10) and others)：Enzalutamide in Men with Chemotherapy-naïve Metastatic Castration-resistant Prostate Cancer : Extended Analysis of the Phase 3 PREVAIL Study. Eur Urol 2017 ; 71 : 151-154.
- 2) 飯ヶ谷重来¹⁾, 西村泰司¹⁾, 遠藤勇気²⁾, 柳 雅人²⁾, 鈴木康友²⁾, 濱崎 務²⁾, 近藤幸尋²⁾, 秋元成太²⁾ (1) 那須赤十字病院 泌尿器科, 2) 日本医科大学 泌尿器科)：平均年齢 90 歳の超高齢者に対する経尿道的前立腺切除術の検討. 日本外科系連合会誌 2016 ; 41 (2) : 147-151.
- 3) 濱崎 務¹⁾, 西村泰司²⁾, 飯ヶ谷重来²⁾, 遠藤勇気¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 秋元成太¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 那須赤十字病院 泌尿器科)：単一施設における泌尿器科経験平均 3 年の術者が施行した開腹前立腺全摘術の検討. 日本外科系連合学会誌 2016 ; 41 (2) : 152-156.
- 4) 清水宏之¹⁾, 長谷川潤¹⁾, 沖 守²⁾ (1) はせがわ病院, 2) 成守会クリニック)：TUEB (経尿道的バイポーラー前立腺核出術). 泌尿器外科 2014 ; 27 (4) : 453-457.

追加分症例報告：

- 1) 遠藤勇気¹⁾, 飯ヶ谷重来¹⁾, 西村泰司¹⁾, 石井直弘²⁾, 鈴木康友³⁾, 濱崎 務³⁾, 近藤幸尋³⁾ (1) 那須赤十字病院泌尿器科, 2) 那須赤十字病院形成外科, 3) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：外傷により巨大会陰部腫瘍の 1 例. 日本外科系連合学会誌 2016 ; 41 (2) : 244-247.

[武蔵小杉病院泌尿器科]

研究概要

当科では現在、尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石、尿路感染症、前立腺肥大症などの排尿障害を中心に診療および臨床的研究を行っている。特筆すべきものを以下に示す。1) 前立腺癌に対しては、現在、局所麻酔下での前立腺生検を行っている。局所麻酔下でも患者さ

んの苦痛の軽減がはかれるよう鎮静薬剤の導入を含め検討を行っている。2) 筋層浸潤性膀胱癌に関しては、術前動注化学療法を導入することにより、その治療の安全性および効果、膀胱温存の可能性についても検討している。3) 尿管結石の保存的治療についてはα1ブロッカーを併用した治療を行い、自然排石向上の可能性を調査している。また、Ho-YAGレーザーを用いた内視鏡下結石破碎術を積極的に行っている。4) 下部尿路症状(LUTS)や過活動膀胱(OAB)に対して、国際前立腺症状スコア(IPSS)や過活動膀胱症状スコア(OABSS)および尿流動態検査を実施して各種内服における治療効果を判定している。5) 性感染症に関しては、当院における、地域的特性について調査している。6) その他、稀な症例については適宜症例報告をすることに努めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 富田祐司, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：尿路・性器の感染症 急性前立腺炎. 臨床泌尿器科 2016; 70 (4) : 22-24.
- 2) 富田祐司, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：尿路・性器の感染症 慢性前立腺炎. 臨床泌尿器科 2016; 70 (4) : 25-28.
- 3) 富田祐司, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：尿路・性器の感染症 急性精巣上体炎. 臨床泌尿器科 2016; 70 (4) : 29-31.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 大澤秀一¹⁾, 稲津宏紀¹⁾, 新藤貴雄²⁾, 武田隼人²⁾, 木全亮二, 近藤幸尋²⁾ (1) 平成立石病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：当院における上部尿路結石に対するf-TULの臨床的検討. 日本泌尿器内視鏡学会総会(第30回)(大阪), 2016. 11.
- 2) 木全亮二, 富田祐司, 川田(河原崎)由里子, 堀内和孝, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：全長型金属尿管ステント(Resonance)の使用経験. 日本泌尿器内視鏡学会総会(第30回)(大阪), 2016. 11.
- 3) 稲津宏紀¹⁾, 大澤秀一¹⁾, 新藤貴雄²⁾, 木全亮二, 濱崎 務²⁾, 木村 剛²⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 平成立石病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：不完全重複腎盂尿管に合併した上部尿路結石に対してf-TULを施行した1例. 日本泌尿器内視鏡学会総会(第30回)(大阪), 2016. 11.
- 4) 木全亮二, 富田祐司, 川田(河原崎)由里子, 堀内和孝, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：外来診療での尿中NMP22迅速定性法(BladderチェックNMP22)の臨床的有用性の検討. 日本泌尿器科学会総会(104回)(仙台), 2016. 4.
- 5) 川田由里子, 木全亮二, 富田祐司, 堀内和孝, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：シェーグレン症候群を合併した頻尿症の2症例. 日本泌尿器科学会総会(第104回)(仙台), 2016. 4.
- 6) 富田祐司, 木全亮二, 川田由里子, 堀内和孝, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：腹膜透析患者の去勢抵抗性前立腺癌に対するアピラテロンの使用経験. 日本泌尿器科学会総会(第104回)(仙台), 2016. 4.
- 7) 各務 裕¹⁾, 川田由里子 (1) 東戸塚記念病院泌尿器科)：膀胱原発悪性リンパ腫の1例. 日本泌尿器科学会総会(第104回)(仙台), 2016. 4.
- 8) 戸山友香¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 中山聡子¹⁾, 川田(河原崎)由里子, 佐々木崇¹⁾, 塩路 豪¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 市川雅男²⁾, 明楽重夫²⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院女性診療科)：当院での骨盤臓器脱診療に関する産婦人科との連携体制-よりハイエンドなウロギネ診療を目指すために-. 日本泌尿器科学会総会(第104回)(仙台), 2016. 4.
- 9) 富田祐司, 木全亮二, 川田由里子, 堀内和孝, 北山康彦¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理診断科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：腎平滑筋肉腫の1例. 日本泌尿器科学会東部総会(第81回)(青森), 2016. 10.
- 10) 稲津宏紀¹⁾, 大澤秀一¹⁾, 木全亮二, 濱崎 務²⁾, 木村 剛²⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 平成立石病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：G-CSF産生腎盂癌の1例. 日本泌尿器科学会東部総会(第81回)(青森), 2016. 10.

[多摩永山病院泌尿器科]

研究概要

当科では感染症、結石から神経疾患、腫瘍を中心に診察、研究を行っているが特質すべき点を列記する。1) 尿路感染症：扱う感染症は急性単純性膀胱炎から結石性腎盂腎炎まで重症度は多岐に亘る一方、起炎菌側の問題として抗生剤に対する耐性化がある。耐性化傾向の検討も含め最適な治療法を研究している。2) 尿路結石：軟性内視鏡を用いた手術の他、有痛時の体外衝撃波結石破碎術も行い臨床的検討を行っている。3) 排尿障害：施設入所中の全介助を要する排尿障害を伴った症例への対応として尿道ステントを積極的に用い、その有用性を検討している。4) 前立腺癌：放射線による治療の他に局所進行性のハイリスク前立腺癌に対して拡大前立腺全摘除術、拡大リンパ

節郭清術を行いその有効性をみている。内分泌治療法の適応となった症例に対してはその副作用、特に糖・脂質代謝異常、骨密度の減少については検討を行い合併症の予防に役立てている。5) 腹腔鏡手術：尿膜管遺残症に対し低侵襲性と整容性追求の為、単孔式手術適応を検討している。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 佐野雅之, 尾形吉彦, 塩路 豪, 佐藤三洋：転移性腎細胞癌に対するスニチニブ投与により免疫性血小板減少症を呈した1例。泌尿器腫瘍学会（第2回）（横浜），2016. 10.
- 2) 尾形吉彦, 佐野雅之, 塩路 豪, 佐藤三洋, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 木村 剛¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院）：当科における尿膜管腫瘍に対する手袋を使用した単項式腹腔鏡下尿膜管摘除術の成績。日本泌尿器内視鏡学会（第30回）（大阪），2016. 11.

[千葉北総病院泌尿器科]

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, ²⁾日本医科大学泌尿器科学）：前立腺全摘術後尿失禁のマネジメント。日医大医会誌 2016；127-132.

(2) 症例報告：

- 1) 三神 晃¹⁾, 遠藤勇氣²⁾, 柳 雅人¹⁾, 根本 勺¹⁾, 濱崎 努²⁾, 木村 剛²⁾, 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, ²⁾日本医科大学付属病院泌尿器科）：腎 Mucinous tubular and spindle cell carcinoma の術後リンパ節転移に対し外科的切除を行った1例。日本泌尿器科学会雑誌 2017；108：30-34.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 鈴木康友²⁾, 戸山友香¹⁾, 中山聡子¹⁾, 根本 勺²⁾, 柳 雅人²⁾, 鈴木健太²⁾, 箕輪忠明²⁾, 中森央貴²⁾, 三神 晃²⁾, 野村俊一郎¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 近藤幸尋¹⁾（¹⁾日本医科大学 泌尿器科, ²⁾日本医科大学千葉北総病院）：前立腺全摘術後尿失禁に対する尿道スリング術後メッシュ感染をきたした3症例。日本泌尿器科学会総会（第104回）（仙台），2016. 4.
- 2) 根本 勺¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 鈴木健太¹⁾, 中森央貴¹⁾, 三神 晃¹⁾, 鈴木康友¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科）：表在性膀胱癌に対する尿アルカリ化療法併用によるマイトマイシン膀胱内注入療法の治療経験。日本泌尿器科学会総会（仙台），2016. 4.
- 3) 守田晃二郎¹⁾, 根本 勺¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 箕輪忠明¹⁾, 中森央貴¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, ²⁾日本医科大学付属病院 泌尿器科）：後腹膜原発リンパ管嚢腫に対し、腫瘍切除術を施行した1例。千葉泌尿器科集談会（第105回）（千葉），2016. 6.
- 4) 箕輪忠明¹⁾, 根本 勺¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 中森央貴¹⁾, 三神 晃¹⁾, 近藤幸尋²⁾, 鈴木康友¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, ²⁾日本医科大学付属病院 泌尿器科）：術前化学療法が奏功し骨盤内臓器全摘術にて治療し得た前立腺肉腫の1例。日本泌尿器科学会東部総会（第81回）（青森），2016. 10.
- 5) 田邊邦明¹⁾, 根本 勺¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 中森央貴¹⁾, 守田晃二郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 戸山友香²⁾, 赤塚 純²⁾, 野村俊一郎²⁾, 松澤一郎²⁾, 濱崎 務²⁾, 木村 剛²⁾, 近藤幸尋²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, ²⁾日本医科大学付属病院 泌尿器科）：腹腔鏡下前立腺全摘術後尿失禁に対する術前患者因子の検討。日本泌尿器科学会東部総会（第81回）（青森），2016. 10.
- 6) 中森央貴¹⁾, 根本 勺¹⁾, 守田晃二郎¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, ²⁾日本医科大学付属病院 泌尿器科）：ジェムザール・ドセタキセル併用による外来化学療法で小康状態の得られた膀胱癌の2例。日本癌治療学会学術集会（第54回）（神奈川県），2016. 10.
- 7) 柳 雅人¹⁾, 三神 晃²⁾, 羽鳥 努³⁾, 守田晃二郎¹⁾, 中森央貴¹⁾, 箕輪忠明⁴⁾, 田邊邦明¹⁾, 根本 勺¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋⁵⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, ²⁾がん研有明病院 泌尿器科, ³⁾日本医科大学千葉北総病院 病理診断科, ⁴⁾博慈会記念総合病院 泌尿器科, ⁵⁾日本医科大学付属病院 泌尿器科）：TUR で診断したビルハイツ住血吸虫症の1例。日本泌尿器内視鏡学会総会（第30回）（大阪），2016. 11.
- 8) 田邊邦明¹⁾, 根本 勺¹⁾, 守田晃二郎¹⁾, 中森央貴¹⁾, 塩路 豪²⁾, 三浦剛史³⁾, 坪井成美⁴⁾, 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋⁵⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, ²⁾日本医科大学多摩永山病院 泌尿器科, ³⁾三井記念病院 緩和ケア科, ⁴⁾小林病院 泌尿器科, ⁵⁾日本

医科大学付属病院 泌尿器科)：腹腔鏡下前立腺全摘術の難易度予測因子の検討：骨盤の形態と前立腺体積との関連性. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 30 回) (大阪), 2016. 11.

- 9) 守田晃二郎¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 中森央貴¹⁾, 箕輪忠明¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 根本 勺¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院 泌尿器科)：透析患者の左腎癌に対する腎摘除術後の難治性リンパ漏の 1 例. 千葉泌尿器科集談会 (第 106 回) 千葉県泌尿器科医会学術集会 (第 58 回) (千葉), 2016. 12.
- 10) 鈴木康友¹⁾, 戸山友香²⁾, 中山聡子²⁾, 赤塚 純²⁾, 野村俊一郎²⁾, 松沢一郎²⁾, 濱崎 務²⁾, 木村 剛²⁾, 守田晃二郎¹⁾, 中森央貴¹⁾, 田邊邦明¹⁾, 柳 雅人¹⁾, 根本 勺¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院, 2) 日本医科大学付属病院)：腹腔鏡下前立腺全摘術における術後下部尿路症状と術前患者因子との相関についての検討. 日本排尿機能学会 (第 23 回) (東京), 2016. 12.

追加分一般講演：

- 1) 箕輪忠明¹⁾, 根本 勺¹⁾, 川俣博志²⁾, 柳 雅人¹⁾, 塩路 豪¹⁾, 三浦剛史¹⁾, 坪井成美¹⁾, 近藤幸尋³⁾, 鈴木康友¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, 2) 日本医科大学千葉北総病院放射線科, 3) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：当院における膀胱癌 T1 high grade 症例に対する骨盤内動注化学療法 of 検討. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 80 回) (東京), 2015. 9.

24. 眼科学分野

[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科]

研究概要

網膜関連では補償光学(AO)眼底カメラを用いた高解像度視細胞画像解析と遺伝子解析による疾患解析を展開した。様々な網膜疾患の解析をAOカメラを応用し他科とも連携して行った。オカルト黄斑ジストロフィーに対する全国症例収集研究プロジェクトにおいて、中心的役割を果たし論文を報告した。網膜遺伝子治療研究においては、神経保護因子であるBDNFを発現させるAAVベクターを作製し、マウス緑内障モデルにおいてその神経保護効果を報告した。また霊長類における遺伝子導入効率上昇と安全性の検討を行うため、カニクイザルを用いAAVベクターと手術を組み合わせることで飛躍的に遺伝子導入効率を上昇させることを報告した。白内障手術関連では水素溶解眼内灌流液の角膜内皮保護効果を報告した。また細隙灯顕微鏡を用いてOVD動態を観察する方法を様々な条件で評価した。さらに、プリロード型IOL(p-IOL)操作時の表面筋電計測(EMG)を施行、操作感の評価項目として比較検討した。また、IOL強膜内固定術を含む難症例白内障手術手技や無虹彩例に対する眼内レンズ移植術に関する研究も開始した。眼炎症関連では眼免疫の基礎研究として、眼内における免疫チェックポイント分子群の探索と機能解析を角膜移植モデルと末梢性免疫寛容モデルを用いて行った。眼炎症疾患モデルである自己免疫性強膜炎モデルの病態解析を行った。臨床研究として、Vogt-小柳-原田病(VKH)の治療に関する多施設共同研究、VKHの再発に関与する因子の解析、強膜炎の続発緑内障の臨床統計的解析を行った。緑内障関連では、原発開放隅角緑内障と正常眼圧緑内障のBody Mass Indexの比較、日本医科大学付属病院緑内障外来の点眼使用状況について調べ発表した。多施設共同研究として、濾過胞感染発生率および治療における既定の治療戦略の有効性について報告した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kunishige T, Taniguchi H, Terada M, Akiba H, Yagita H, Abe R, Hori J : Protective Role of ICOS and ICOS Ligand in Corneal Transplantation and in Maintenance of Immune Privilege. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 2016 ; 57 (15) : 6815-6823.
- 2) Takahashi K, Igarashi T, Miyake K, Kobayashi M, Yaguchi C, Iijima O, Yamazaki Y, Katakai Y, Miyake N, Kameya S, Shimada T, Takahashi H, Okada T : Improved intravitreal AAV-mediated inner retinal gene transduction after surgical internal limiting membrane (ILM) peeling in cynomolgus monkeys. *Molecular Therapy* 2017 ; 25 (1) : 296-302.
- 3) Gocho K, Akeo K, Itoh N, Kameya S, Hayashi T, Katagiri S, Gekka T, Ohkuma Y, Tsuneoka H, Takahashi H : High resolution adaptive optics retinal image analysis at early-stage central areolar choroidal dystrophy with PRPH2 mutation. *OSLI retina* 2016 ; 47 (12) : 1115-1126.
- 4) Ishikawa K, Gekka T, Hayashi T, Kikuchi S, Kameya S, Tsuneoka H : Closure of a full-thickness macular hole without vitrectomy in choroideraemia. *Clin Exp Optom (Epub ahead of print)* 2016 ; 1-2.
- 5) Fujinami K, Kameya S, Kikuchi S, Ueno S, Kondo M, Hayashi T, Shinoda K, Machida S, Kuniyoshi K, Kawamura Y, Akahori M, Yoshitake K, Katagiri S, Nakanishi A, Sakuramoto H, et al. : Novel RP1L1 Variants and Genotype-Photoreceptor Microstructural Phenotype Associations in Cohort of Japanese Patients With Occult Macular Dystrophy. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2016 ; 57 (11) : 4837-46.
- 6) Igarashi T, Miyake K, Kobayashi M, Kameya S, Fujimoto C, Nakamoto K, Takahashi H, Igarashi T, Miyake N, Iijima O, Hirai Y, Shimada T, Okada T, Takahashi H : Tyrosine triple mutated AAV2-BDNF gene therapy in a rat model of transient IOP elevation. *Mol Vis* 2016 ; 22 (22) : 816-826.
- 7) Kubota D, Gocho K, Akeo K, Kikuchi S, Sugahara M, Matsumoto C, Shinoda K, Mizota A, Yamaki K, Takahashi H, Kameya S : Detailed analysis of family with autosomal recessive bestrophinopathy associated with new BEST1 mutation. *Doc Ophthalmol* 2016 ; 132 (3) : 233-43.
- 8) Ichinohe S, Igarashi T, Nakajima D, Ono M, Takahashi H : Symptoms of Dry Eye Disease and Personality Traits. *PLoS One* 2016 ; 11 (11) : 1-9.
- 9) 小野真史 : 医療安全とコーチング (病院組織コーチング 8). *病院* 2017 ; 76 (1) : 70-72.
- 10) Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H : Efficacy of Ophthalmic Viscosurgical Devices in Preventing Temperature Rise at the Corneal Endothelium during Phacoemulsification. *Curr Eye Res* 2016 ; 41 (12) : 1548-1552.
- 11) Igarashi T, Ohsawa I, Kobayashi M, Igarashi T, Suzuki H, Iketani M, Takahashi H : Hydrogen prevents corneal endothelial damage in phacoemulsification cataract surgery. *Sci Rep* 2016 ; 6 (6) : 31190.

- 12) 鈴木久晴：PEA 装置 原理と歴史, 白内障手術関連機器の歴史と未来. IOL&RS 2016 ; 30 (4) : 479-483.
 - 13) 白鳥 宙, 鈴木久晴：角膜内皮保護の実際と工夫. Monthly Book OCULISTA 2016 ; 45 (12) : 65-71.
 - 14) 鈴木久晴：半円式 CCC マーカー. 眼科手術 2016 ; 29 (4) : 618-621.
 - 15) 柴 琢也, 松島博之, 森山 涼, 鈴木久晴, 石井 清：コンサルテーションコーナー エキスパートに聞く (Q&A). IOL & RS 2016 ; 30 (3) : 450-455.
 - 16) 鈴木久晴, 鈴木 崇, 小早川信一郎, 松浦一貴, 早田光孝：手術相談室 症例呈示 白内障術後眼内炎に対する初期治療 (Q&A). 眼科手術 2016 ; 29 (3) : 457-461.
 - 17) 鈴木久晴：こだわりの診療器具 半円式 CCC マーカー. IOL&RS 2016 ; 30 (2) : 296-299.
 - 18) 伊東和香子, 鈴木久晴, 仲野裕一郎, 芹澤元子, 佐藤景子, 伊藤由紀子, 高橋 浩：回折型 3 重焦点眼内レンズの臨床成績. あたらしい眼科 2017 ; 34 (1) : 127-131.
 - 19) Kunishige T, Taniguchi H, Terada M, Akiba H, Yagita H, Abe R, Hori J : Protective role of ICOS and ICOS Ligand in corneal transplantation and in maintenance of immune privilege. Invest Ophthalmol Vis Sci 2016 ; 57 (15) : 6815-6823.
 - 20) Horie Y, Kitaichi N, Hijioka K, Sonoda HK, Saishin Y, Kezuka T, Goto H, Takeuchi M, Nakamura S, Kimoto T, Shimakawa M, Kita M, Sugita S, Mochizuki M, Hori J, et al. : Ocular Behçet disease is less complicated with allergic disorders. A nationwide survey in Japan. Clinical and Experimental Rheumatology 2016 ; 102 (6) : 111-114.
 - 21) Koudouna E, Okumura N, Okazaki N, Nakano S, Inoue R, Fullwood JN, Hori J, Kinoshita S, Koizumi N : Immune Cells on the Corneal Endothelium of an Allogeneic Corneal Transplantation Rabbit Model. Invest Ophthalmol Vis Sci 2017 ; 58 (1) : 242-251.
 - 22) Igarashi T, Miyake K, Kobayashi M, Kameya S, Fujimoto C, Nakamoto K, Takahashi H, Igarashi T, Miyake N, Iijima O, Hirai O, Shimada T, Okada T, Takahashi H : Tyrosine triple mutated AAV2-BDNF gene therapy in a rat model of transient intraocular pressure (IOP) elevation. Mol Vis 2016 ; 16 (22) : 816-26.
 - 23) Igarashi T, Ohsawa I, Kobayashi M, Igarashi T, Suzuki H, Iketani M, Takahashi H : Hydrogen prevents corneal endothelial damage in phacoemulsification cataract surgery. Sci Rep 2016 ; 6 (31) : 190-199.
 - 24) Takahashi K, Igarashi T, Miyake K, Kobayashi M, Yaguchi C, Iijima O, Yamazaki Y, Katakai Y, Miyake N, Kameya S, Shimada T, Takahashi H, Okada T : Improvement of AAV-mediated transduction by surgical Internal limiting membrane (ILM) peeling in nonhuman primate retina. Mol ther 2017 ; 25 (1) : 296-302.
 - 25) Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H : Efficacy of Ophthalmic Viscosurgical Devices in Preventing Temperature Rise at the Corneal Endothelium during Phacoemulsification. Curr Eye Res 2016 ; 41 (12) : 1548-1552.
 - 26) Ichinohe S, Igarashi T, Nakajima D, Ono M, Takahashi H : The symptoms of dry eye disease and personality traits. PLoS one 2016 ; 11 (11) : 1-9.
 - 27) Gocho K, Akeo K, Itoh N, Kameya S, Hayashi T, Katagiri S, Gekka T, Ohkuma Y, Tsuneoka H, Takahashi H : High-Resolution Adaptive Optics Retinal Image Analysis at Early Stage Central Areolar Choroidal Dystrophy With PRPH2 Mutation. Ophthalmic Surg Lasers Imaging Retina 2016 ; 47 (12) : 1115-1126.
 - 28) Audo I, Gocho K, Rossant F, Mohand-Saïd S, Loquin K, Bloch I : Functional and high-resolution retinal imaging monitoring photoreceptor damage in acute macular neuroretinopathy. Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology 2016 ; 254 (5) : 855-864.
 - 29) Kubota D, Gocho K, Akeo K, Kikuchi S, Sugahara M, Matsumoto C : Detailed analysis of family with autosomal recessive bestrophinopathy associated with new BEST1 mutation. Documenta Ophthalmologica 2016 ; 132 (3) : 233-243.
 - 30) 小野真史：病院組織コーティング・8 医療安全とコーティング. 病院 2017 ; 7 (1) : 70-72.
 - 31) Ichinohe S, Ishi T, Takahashi H, Kaneda M : Physiological contribution of P2X receptors in postreceptor signal processing in the mouse retina. Neuroscience Research 2017 ; 115 (2017) : 5-12.
 - 32) Kobayashi M, Igarashi T, Takahashi H, Fujimoto C, Suzuki H, Takahashi H : The correlation between plasma osmolarity and tear osmolarity. International ophthalmology 2017 ; (2) : 1-9.
- (2) 総説：
- 1) 中元兼二：質の高い眼圧下降治療. IOL&RS 2016 ; 30 (4) : 598-601.
 - 2) 國重智之, 小早川信一郎：ハイリスク眼への白内障手術：高齢者の白内障手術：硬い核及びチン小体脆弱症例への対応. IOL & RS 2016 ; 30 (3) : 347-352.
 - 3) 小早川信一郎：眼内レンズセミナー：Double elements 型人工虹彩 (解説). あたらしい眼科 2016 ; 33 (4) : 547-548.
 - 4) 堀 純子：非感染性ぶどう膜炎の新しい薬物治療. 日本の眼科 2016 ; 87 (10) : 1316-1317.
 - 5) 堀 純子：腸内細菌そうが自己免疫性ぶどう膜炎を引き起こす. 日本の眼科 2017 ; 88 (1) : 34-35.

- 6) 白鳥 宙, 堀 純子: 海外医学情報「Vogt-小柳-原田病のゲノムワイド関連解析による疾患感受性遺伝子の特定」. 日本の眼科 2016; 87 (5): 590-591.
- 7) 伊東和香子, 鈴木久晴, 仲野裕一郎, 芹澤元子, 佐藤景子, 伊藤由紀子: 回折型3重焦点眼内レンズの臨床成績. あたらしい眼科 2017; 34 (1): 127-131.
- 8) 篠崎和美¹⁾, 吉富健志²⁾, 永田 啓³⁾, 柏木賢治⁴⁾, 川瀬和秀⁵⁾, 野田佳宏⁶⁾, 山西茂喜⁷⁾, 小野眞史⁸⁾, 奥田保男⁹⁾ (1) 東京女子医科大学眼科, 2) 秋田大学眼科, 3) 滋賀医科大学医療情報部, 4) 山梨大学眼科, 5) 岐阜大学眼科, 6) 大分大学眼科, 7) 愛媛大学眼科, 8) 日本医科大学眼科, 9) 放射線医学総合研究所医療情報室): 眼科領域の医療情報「標準化」の国際化, 眼科部門システムからのレポート送信「標準化」に向けて: 2016年度「標準化」でコストダウン・相互運用性を目指した快適な眼科領域の医療情報環境への活動報告. 日本の眼科 2017; 88 (3): 318 (54)-318 (54).

著 書

- 1) 中元兼二: [分担] 眼圧日内変動. 前視野緑内障に向き合う PPG を発見した時, どう考え管理するか (中澤徹), 2016; pp206-207, 文光堂.
- 2) 中元兼二, 高野 宙: [分担] 13. 眼圧検査2) 眼圧日内変動. 眼科検査ガイド 第2版 (根木昭), 2016; pp440-442, 文光堂.
- 3) 國重智之: [分担] 核分割・処理. Monthly Book OCULISTA (オクリスタ) 45 How to 水晶体再建 (鈴木久晴), 2016; pp42-47, 全日本病院出版会.
- 4) 高橋 浩: [分担] 周辺部角膜潰瘍. 眼科臨床エキスパート, 角結膜疾患の治療戦略 (島崎潤), 2016; pp322-328, 医学書院.
- 5) 白鳥 宙, 鈴木久晴: [分担] 角膜内皮保護の実際と工夫. Monthly Book OCULISTA (オクリスタ) 45 How to 水晶体再建 (鈴木久晴), 2016; pp65-71, 全日本病院出版会.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 中元兼二: 実践的緑内障治療戦略. 練馬区眼科医会学術講演会 (東京), 2016. 4.
- 2) 中元兼二: 病態を考慮した緑内障薬物治療戦略. Tokyo West Ophthalmic Conference (第9回) (東京), 2016. 5.
- 3) 中元兼二: 眼圧下降治療: 理想と現実. EYES CUBE MEETING (第3回), 2016. 5.
- 4) 中元兼二: 実践的緑内障治療戦略. 宮崎県眼科医会講演会 (宮崎), 2016. 6.
- 5) 中元兼二: 眼圧の測り方. Ophthalmic Academy of Glaucoma (東京), 2016. 10.
- 6) 中元兼二: 緑内障の最新の診断と治療の現状. 旭川眼科フォーラム (旭川), 2016. 11.
- 7) 中元兼二: 病態を考慮した緑内障治療. 千葉船橋眼科講演会 (千葉), 2016. 11.
- 8) 中元兼二: 病態を考慮した緑内障治療戦略. 神奈川県眼科医会病院見学会および講習会 (第45回) (神奈川), 2016. 11.
- 9) 中元兼二: 正常眼圧緑内障のリスクファクターと眼圧. OS-G カンファレンス (第2回) (神奈川), 2017. 1.
- 10) 中元兼二: 眼圧変動. Ophthalmic Academy of Glaucoma (東京), 2017. 2.
- 11) 中元兼二: 実践緑内障診断. 京滋緑内障カンファレンス (第39回) (京都), 2017. 3.
- 12) 小早川信一郎: 眼内レンズ・白内障手術合併症への対処. 東京歯科大学眼科イブニングセミナー (第16回) (市川), 2016. 11.
- 13) 小早川信一郎: ランチョンセミナー 29: クオリティ眼内レンズセミナー: テクニストーリック徹底討論. 日本臨床眼科学会 (第70回) (京都), 2016. 11.
- 14) 亀谷修平: 補償光学 (Adaptive Optics) 眼底カメラでみる網膜視神経疾患 (モーニングクルズス). 日本臨床視覚電気生理学会 (第64回) (伊勢志摩), 2016. 9.
- 15) 鈴木久晴: 白内障術者のための硝子体手術入門 硝子体手術を始めよう インストラクションコース 5. JSCRS 学術総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 16) Suzuki H, Takano Y: Trifocal Toric · Extended Range of Vision · Accommodating 2016 ASCRS. The 41th ASCRS (New Orleans), 2016. 5.
- 17) 鈴木久晴: 前囊切開におけるリスク対策, 白内障手術リスク対策最前線～進化した OVD と信頼できる IOL を味方につけて～モーニングセミナー 9. 日本眼科学会総会 (第120回) (宮城), 2016. 4.
- 18) 鈴木久晴: 前囊切開におけるリスク対策, 白内障手術リスク対策最前線～進化した OVD と信頼できる IOL を味方につけて～, モーニングセミナー 9. 日本眼科学会総会 (第120回) (宮城), 2016. 4.
- 19) 鈴木久晴: 角膜内皮脆弱例に対する内皮保護戦略, 角膜内皮を護りたい～分散型 OVD シェルガン登場～, ランチョンセミナー 7. JSCRS 学術総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 20) 鈴木久晴: 前房内・角膜内皮温度測定, 「匠」展示パネル. JSCRS 学術総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 21) 鈴木久晴: 低侵襲白内障手術と最新 Phaco マシンの臨床評価. 北信 AMO 白内障研究会 (第6回) (長野), 2016. 7.

- 22) 鈴木久晴：Toric・マルチフォーカル IOL 使用上のポイント．オーシャンズの会（第3回）（神奈川），2016. 10.
- 23) 鈴木久晴：白内障～これからの人生をたのしむために・・・屈折矯正手術としての白内障手術～，2016年10月22日（神奈川）．日本医科大学武蔵小杉病院市民公開講座（神奈川），2016. 10.
- 24) 鈴木久晴：今できる低侵襲白内障手術と眼内レンズアップデート．東京都眼科集団会（第791回）（東京），2016. 11.
- 25) 鈴木久晴：今できる低侵襲白内障手術と眼内レンズアップデート．神戸眼科臨床懇話会（第58回）（神戸），2016. 11.
- 26) 鈴木久晴：シェルガンのここに喝！サタデーブニング「この製品のここに「喝！」．JSCRS ウインターセミナー（第5回）（東京），2016. 12.
- 27) 鈴木久晴：白内障手術と明視域を考える～臨床における眼内レンズの明視域～，ランチョンセミナー3．日本眼科手術学会学術総会（第40回）（東京），2017. 1.
- 28) 鈴木久晴：三焦点眼内レンズの使用法と現状，ランチョンセミナー6．日本眼科手術学会学術総会（第40回）（東京），2017. 1.
- 29) 鈴木久晴：今できる低侵襲白内障手術と眼内レンズアップデート．川崎眼科フォーラム（第18回）（神奈川），2017. 2.
- 30) 鈴木久晴：実験的評価を基礎とした安全な白内障手術の実践．平成29年度岩見沢地区学術セミナー（北海道），2017. 3.
- 31) 堀 純子：強膜炎の基礎と臨床．東京女子医大八千代病院千葉講演会（東京），2016. 5.
- 32) 堀 純子：眼炎症疾患の最新の話：続発緑内障の管理．成田地区病診連携の会（千葉），2016. 7.
- 33) 堀 純子：眼炎症疾患の最新の話：続発緑内障の管理．成田地区眼科講演会（第8回）（千葉），2016. 9.
- 34) 堀 純子：実践！強膜炎診断：全身性疾患を見抜き，最適治療を選択する．越後眼科研究会（第20回）（新潟），2016. 9.
- 35) 堀 純子：強膜炎診断のアップデート：原因精査から治療選択と合併管理まで．埼玉県眼科教育講演会（埼玉），2016. 10.
- 36) 堀 純子：パネルディスカッション，特別講演・炎症疾患におけるサイトカインの役割：生物学的製剤から学んだこと．東京眼炎症セミナー（第1回）（東京），2016. 10.
- 37) 堀 純子：眼炎症疾患の最新の話：続発緑内障の管理．成田地区眼科講演会（第8回）（千葉），2016. 9.
- 38) 堀 純子：実践！強膜炎診断：全身性疾患を見抜き，最適治療を選択する．越後眼科研究会（第20回）（新潟），2016. 9.
- 39) 堀 純子：強膜炎診断のアップデート：原因精査から治療選択と合併管理まで．埼玉県眼科教育講演会（埼玉），2016. 10.
- 40) 堀 純子：【パネルディスカッション，特別講演・炎症疾患におけるサイトカインの役割：生物学的製剤から学んだこと】．東京眼炎症セミナー（第1回）（東京），2016. 10.
- 41) 片上千加子，高村悦子，堀 純子，篠崎和美，外園千恵，加藤直子，佐々木香る：インストラクションコース17 やさしい角結膜感染症クリニック：コンタクトレンズ関連角膜炎感染症．日本臨床眼科学会（第70回）（京都），2016. 11.
- 42) 堀 純子：強膜炎の基礎と臨床：全身疾患を見抜き，最適治療を選択する．東京歯科大学眼科学術講演会（千葉），2016. 11.
- 43) 堀 純子：強膜炎診断のアップデート：原因精査から治療選択と合併管理まで．千代田区眼科医会学術講演会（東京），2016. 11.
- 44) 堀 純子：強膜炎治療の現状と展望．静岡県眼科医会アップデートセミナー（第6回）（静岡），2016. 11.
- 45) 堀 純子：眼免疫と眼炎症疾患について．眼科学術講演会（第2回）（新潟），2016. 11.
- 46) 堀 純子：免疫による炎症病態制御による免疫「眼表面の炎症制御，免疫特性」ランチョンセミナー．角膜カンファレンス2017（福岡），2017. 2.
- 47) 高橋 浩：術後眼内炎を見たら．ランチョンセミナー術後眼内炎を完封せよII．日本眼科学会総会（第120回）（仙台），2016. 4.
- 48) 高橋 浩：超音波白内障手術と角膜内皮障害：新しい視点．山陰眼科集談会（第61回）（米子），2016. 5.
- 49) 高橋 浩：眼の成人病．世田谷区眼疾患アップデートセミナー（東京），2016. 6.
- 50) 高橋 浩：第23回難儀な手術シリーズ．第24回千駄木眼科フォーラム（東京），2016. 7.
- 51) 高橋 浩：結膜疾患の基本と診断．平成28年度東京都眼科医会卒後研修会（東京），2016. 8.
- 52) 高橋 浩：眼薬理がつなぐQOL，臨床編．日本眼薬理学会ランチョンセミナー（第36回）（東京），2016. 9.
- 53) 高橋 浩：炎症が関与するオキュラーサーフェス疾患の治療戦略．函館眼科フォーラム（函館），2016. 10.
- 54) 高橋 浩：白内障手術侵襲を考える．広島県眼科学会学術講演会（広島），2016. 11.
- 55) 高橋 浩：第24回難儀な手術シリーズ．千駄木眼科フォーラム（第25回）（東京），2016. 12.
- 56) 高橋 浩：超音波白内障手術と角膜障害．京都眼科フォーラム（第49回）（京都），2017. 2.
- 57) 高橋 浩：超音波白内障手術と角膜内皮障害．岡山眼科フォーラム（第20回）（岡山），2017. 3.
- 58) 高橋 浩：知っておきたい眼の成人病．小石川医師会学術講演会（東京），2017. 3.
- 59) 高橋 浩：知っておきたい眼の成人病．群馬県日本医科大学医師会学術講演会（高崎），2017. 3.
- (2) 招待講演：
- 1) Gocho K：Retinal Pigment Epithelium, Imaging symposium. 13th The International Symposium on Ocular Pharmacology & Therapeutics (ISOPT clinical) (Rome), 2016. 12.
- (3) 教育講演：
- 1) 小早川信一郎，塙本 宰，二宮欣彦，森山 涼：インストラクションコース3：実例から考える眼内レンズ縫着・強膜内固定．JSCRS

- 学術総会（第31回）（京都），2016. 6.
- 2) 小早川信一郎，埴本 宰，鈴木久晴，西村栄一：インストラクションコース5：白内障術者の硝子体手術入門。JSCRS学術総会（第31回）（京都），2016. 6.
 - 3) 小早川信一郎，太田俊彦，松崎有修，松島博之，西村栄一：インストラクションコース9：縫着術と強膜内固定術 A to Z。JSCRS学術総会（第31回）（京都），2016. 6.
 - 4) 小早川信一郎，太田俊彦，江口秀一郎，松島博之，西村栄一：インストラクションコース40：縫着術と強膜内固定術 A to Z。日本臨床眼科学会（第70回）（京都），2016. 11.
 - 5) 小早川信一郎，加賀達志，鈴木久晴，西村栄一：インストラクションコース4：白内障術者の硝子体手術入門：硝子体手術を始めよう。日本眼科手術学会総会（第40回）（東京），2017. 1.
 - 6) 小早川信一郎，太田俊彦，松島博之，西村栄一：インストラクションコース13：これから始める眼内レンズ縫着術と強膜内固定術。日本眼科手術学会総会（第40回）（東京），2017. 1.
 - 7) 小野眞史：ドライアイ（DE）とは：シルマーテスト（涙液量検査）の実際：シェーグレン（SS）の診断と治療。ドライマウス講習会（第27回）（東京），2016. 5.
 - 8) 小野眞史：ドライアイ（DE）とは：シルマーテスト（涙液量検査）の実際：シェーグレン（SS）の診断と治療。ドライマウス講習会（第28回）（東京），2016. 9.
 - 9) 小野眞史：コーチングスキル①聞く。リハビリテーションに活かす医療コーチング研修会（東京），2017. 1.
 - 10) 小野眞史：コーチングスキル②承認と③フィードバック。リハビリテーションに活かす医療コーチング研修会（東京），2017. 1.
 - 11) 小野眞史：コーチングスキル④相手の特徴を掴む。リハビリテーションに活かす医療コーチング研修会（東京），2017. 1.
 - 12) 小野眞史：ロービジョンケアへの実践。リハビリテーションに活かす医療コーチング研修会（東京），2017. 1.
 - 13) 鈴木久晴：多焦点眼内レンズ，教育セミナー7：付加価値眼内レンズアップデート。日本眼科学会総会（第120回）（仙台），2016. 4.
 - 14) 鈴木久晴：みんなで考える白内障手術「何故上手くいかないのか，どう教えれば良いのか」インストラクションコース8。JSCRS学術総会（第31回）（京都），2016. 6.
 - 15) 鈴木久晴：初心者に必要なフェイコマシンの知識と設定値，核分割法，経験500眼までの白内障手術（初心者に必要な白内障手術の知識）プラクティス3。JSCRS学術総会（第31回）（京都），2016. 6.
 - 16) 鈴木久晴：白内障手術における眼内レンズ選択法とアップデート2016。神奈川県眼科医会病院見学会および講習会（第45回）（神奈川），2016. 11.
 - 17) 鈴木久晴：核分割トラブル：白内障手術の術中トラブルとその対処法。日本眼科手術学会（第40回）（東京），2017. 1.
 - 18) 鈴木久晴：硝子体手術の導入と基礎 白内障術者のための硝子体手術入門 硝子体手術を始めよう インストラクションコース。日本眼科手術学会（第40回）（東京），2017. 1.
- (4) シンポジウム：
- 1) 中元兼二：線維柱帯切除術の実践 Practice of trabeculectomy 線維柱帯切除術の実践。日本緑内障学会（第27回）（横浜），2016. 9.
 - 2) 小早川信一郎：シンポジウム-2：眼手術関連薬物治療：薬物徐放コンタクトレンズ。日本眼薬理学会（第36回）（東京），2016. 9.
 - 3) 鈴木久晴：白内障手術UPDATE。川崎市病院眼科勤務医シンポジウム（神奈川），2016. 11.
 - 4) 鈴木久晴：白内障手術教育，総会長企画1 手術教育。日本眼科手術学会（第40回）（東京），2017. 1.
 - 5) Hori J：Molecular mechanisms of immune privilege of the cornea-as a potential of Immune checkpoint therapy。European Association for Vision and Eye Research (EVER) 2016 (Nice)，2016. 10.
 - 6) 高橋 浩：日本眼科学会社会保険会議シンポジウム「平成28年度診療報酬改訂の評価」。日本眼科学会総会（第120回）（仙台），2016. 4.
 - 7) 高橋 浩：シンポジウム・眼手術関連薬物治療，周術期ドライアイの薬物治療。日本眼薬理学会（第36回）（東京），2016. 9.
 - 8) 高橋 浩：シンポジウム・角膜と緑内障，角膜とレーザー治療。角膜カンファランス2017（福岡），2017. 2.
- (5) セミナー：
- 1) 中元兼二：モーニングセミナー16（緑内障患者にSLTをどのように使いたいでしょうか？）。日本眼科学会総会（第120回）（仙台），2016. 4.
 - 2) 中元兼二：・参天製薬株式会社共催 イブニングセミナー 1（徹底生討論会 こんなときどうする？ 治療強化を巡って熱く語ります！）。日本緑内障学会（第27回）（横浜），2016. 9.
 - 3) 中元兼二：ランチョンセミナー3 緑内障ハイリスク眼を知る Vol 2 眼圧編講演会（日内変動が大きい症例を見極める）。日本臨床眼科学会（第70回）（京都），2016. 11.
 - 4) 小早川信一郎：眼内レンズ合併症外伝。マグノリアオブサルミックセミナー（第2回）（東京），2016. 8.

(6) 一般講演：

- 1) 白鳥 宙, 中元兼二, 高野靖子, 高橋 浩：原発開放隅角緑内障と正常眼圧緑内障の Body Mass Index の比較. 日本眼科学会総会 (第 120 回) (仙台), 2016. 4.
- 2) 中元兼二：濾過胞感染発生率および治療に関する多施設共同研究における既定の治療戦略の有効性. 日本眼科学会総会 (第 120 回) (仙台), 2016. 4.
- 3) 庄司信行¹⁾, 新垣淑邦²⁾, 中元兼二, 山本哲也³⁾, 桑山泰明⁴⁾ (1) 北里大, 2) 琉球大, 3) 岐阜大, 4) 福島アイクリニック)：濾過胞感染発生率および治療に関する多施設共同研究における既定の治療戦略の有効性. 日本眼科学会総会 (第 120 回) (仙台), 2016. 4.
- 4) 高野靖子, 中元兼二, 白鳥 宙, 高橋 浩：日本医科大学付属病院緑内障外来の点眼使用状況. 日本緑内障学会 (第 27 回) (横浜), 2016. 9.
- 5) 白鳥 宙, 中元兼二, 高野靖子, 高橋 浩：複数回の薬物治療時眼圧日内変動測定で夜間眼圧上昇を認めた原発開放隅角緑内障の 1 例. 日本臨床眼科学会 (第 70 回) (京都), 2016. 11.
- 6) 中元兼二, 高野靖子, 白鳥 宙, 高橋 浩：ニードリングによる濾過胞再建術後一過性の著しい視力低下を来した 1 例. 日本眼科手術学会学術総会 (第 40 回) (東京), 2017. 1.
- 7) Arima T, Suzuki H, Shiwa T, Takahashi H：Alteration of the ophthalmic viscosurgical device retention in the anterior chamber by a direction of the infusion port of the Balanced Tip[®]. American Society of Cataract and Refractive Surgery (New Orleans), 2016. 5.
- 8) 有馬武志, 仲野裕一郎, 内山昌明, 清水 章, 高橋 浩：ラット眼球における peroxisome proliferator-activated receptor の局在. 日本病理学会総会 (第 105 回) (仙台), 2016. 5.
- 9) 有馬武志, 仲野裕一郎, 内山昌明, 清水 章, 高橋 浩：灌流口からの水流による角膜内皮細胞侵襲の評価. JSCRS (第 31 回) (京都), 2016. 6.
- 10) 有馬武志, 小早川信一郎, 高橋 浩：シャンデリア併用網膜復位術において眼内炎を発症した 1 例. 日本眼科手術学会総会 (第 40 回) (東京), 2017. 1.
- 11) 有馬武志, 志和利彦：視覚と癒し. 癒しの環境研究会プログラム (第 62 回) (東京), 2016. 6.
- 12) Nakano Y, Suzuki H, Shiwa T, Takahashi H：Temperature alteration in the anterior chamber during phacoemulsification with different pulse modes. ASCRS/ASOA Symposium & Congress (New Orleans), 2016. 5.
- 13) 仲野裕一郎, 有馬武志, 内山昌明, 清水 章, 高橋 浩：ラット眼球の PPAR (peroxisome proliferator-activated receptors) α , γ の局在. 日本眼科学会総会 (第 120 回) (仙台), 2016. 4.
- 14) 仲野裕一郎, 鈴木久晴, 伊東和香子, 芹澤元子, 宮里佑未, 由井智子, 高橋 浩：回折型 3 重焦点眼内レンズの臨床成績. 日本白内障屈折矯正手術学会 (第 31 回) (京都), 2016. 6.
- 15) 薫 一帆, 小早川信一郎, 北原由紀, 秋庭幹生：プリロード型眼内レンズの評価. JSCRS 学術総会 (第 31 回) (京都), 2016. 6.
- 16) Takano Y, Suzuki H, Shiwa T, Takahashi H：Temperature alteration of the incision site and the aqueous humor during phacoemulsification using Balanced Tip. The 41th ASCRS (New Orleans), 2016. 5.
- 17) 高野靖子, 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩：Stable Chamber Tubing における超音波乳化吸引術中の前房内圧の検討. JSCRS 学術総会 (第 31 回) (京都), 2016. 6.
- 18) 高野靖子, 中元兼二, 白鳥 宙, 高橋 浩：緑内障外来患者の点眼使用状況. 日本緑内障学会 (第 27 回) (横浜), 2016. 9.
- 19) Kunishige T, Hori J：Role of V-domain Ig suppressor of T cell activation (VISTA) in Anterior Chamber Associated Immune Deviation. ARVO (Seattle), 2016. 5.
- 20) 國重智之, 堀 純子：間質性腎炎ぶどう膜炎症候群 (TINU) を同時期に発症した一卵性双生児の症例. 日本眼科学会総会 (第 120 回) (仙台), 2016. 4.
- 21) 國重智之, 鈴木 界, 中元兼二, 高橋 浩：白内障手術後に脈絡膜出血の合併を疑った Sturge-Weber 症候群の 1 例. 日本眼科手術学会 (第 40 回) (東京), 2017. 1.
- 22) 小早川信一郎, 小澤啓子：一般演題 O5-6：多焦点眼内レンズを挿入した神経繊維腫症 1 型の 1 例. 日本白内障学会総会 (第 55 回) (盛岡), 2016. 7.
- 23) Takahashi K, Igarashi T, Miyake K, Kobayashi M, Yaguchi C, Iijima O, Yamazaki Y, Katakai Y, Miyake N, Kameya S, Shimada T, Takahashi H, Okada T：AAV-mediated efficient transduction of the nonhuman primate retina by surgical internal limiting membrane peeling. Japan Society of Gene and Cell Therapy (東京), 2016. 7.
- 24) 高橋和久, 五十嵐勉, 三宅弘一, 小林舞香, 矢口智恵美, 飯島 修, 山崎吉之, 片貝祐子, 三宅紀子, 亀谷修平, 島田 隆, 高橋 浩, 岡田尚巳：サル硝子体手術および内境界膜剥離による遺伝子導入効率の改善. 網膜シンポジウム RRM (Retina research meeting) (第 9 回) (東京), 2016. 12.
- 25) Kameya S, Kubota D, Gocho K, Akeo K, Kikuchi S, Sugahara M, Matsumoto SC, Shinoda K, Mizota A, Yamaki K, Taka-

- hashi H: High resolution imaging analysis of family with autosomal recessive bestrophinopathy associated with new BEST1 mutation. ARVO Imaging conference (Seattle), 2016. 4.
- 26) Kubota D, Kameya S, Gocho K, Akeo K, Kikuchi S, Sugahara M, Matsumoto SC, Shinoda K, Mizota A, Yamaki K, Takahashi H: Detailed analysis of family with autosomal recessive bestrophinopathy associated with new BEST1 mutation. ISCEV (第54回) (Singapore), 2016. 8.
- 27) 明尾慶一郎, 久保田大紀, 菊地佐知子, 後町清子, 林 孝彰, 常岡 寛, 山木邦比古, 高橋 浩, 亀谷修平: コロイデレミア保因者のAO解析について. 日本臨床視覚電気生理学会 (第64回) (伊勢志摩), 2016. 9.
- 28) 久保田大紀, 菊地佐知子, 後町清子, 明尾慶一郎, 山木邦比古, 高橋 浩, 三浦雅博, 亀谷修平: 全エクソーム解析にてDFNB31遺伝子に複合ヘテロ変異を認めた非典型アッシャー症候群の一家系. 日本臨床視覚電気生理学会 (第64回) (伊勢志摩), 2016. 9.
- 29) 丸山佳織, 小野眞史, 鮫島智子, 高橋 浩: 小児の癍痕性角膜混濁による弱視眼で良好な視力を得た1例. 角膜カンファレンス2017 (福岡), 2017. 2.
- 30) 小野眞史, 鈴木雅也, 熊谷直也, 高橋 浩: 帯状疱疹後三叉神経痛の羞明による前頭葉賦活. 日本眼科学会総会 (第120回) (仙台), 2016. 4.
- 31) かづきれいこ, 青木 律, 小野眞史, 小川 令: 眼瞼痙攣患者の機能的・美容的問題に対する極薄粘着テープの効果. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第59回) (福岡), 2016. 4.
- 32) Ono M, Nagaosa S, Sono N, Saijo H: Objective and quantitative evaluations of the feeling of difficulty swallowing caused by dry mouth: the visualization and effects of subjective complaints. The 4th International Conference on Serviceology (東京), 2016. 9.
- 33) 小野眞史, 鈴木雅也, 熊谷直也, 高橋 浩: 眼不快による前頭葉賦活および外乱血流の同時計測. 日本臨床眼科学会 (第70回) (京都), 2016. 11.
- 34) 丸山佳織, 小野眞史, 高橋永幸, 鮫島智子, 高橋 浩: 小児の癍痕性角膜混濁による弱視眼で良好な視力を得た1例. 角膜カンファレンス (第41回) (福岡), 2017. 2.
- 35) 小倉瑛里子, 小野眞史, 高橋永幸, 高橋 浩: 放射状角膜切開による屈折矯正術後眼内レンズ度数算出が困難であった2例. 角膜カンファレンス (第41回) (福岡), 2017. 2.
- 36) 大石典子, 中元兼二, 小野眞史, 高橋 浩: 角膜内皮移植術後グラフトの脱落を来した症例の検討. 角膜カンファレンス (第41回) (福岡), 2017. 2.
- 37) 武田幸人, 小野眞史, 鈴木雅也, 熊谷直也, 高橋 浩: 角膜知覚低下による眼不快時前頭葉賦活低下. 角膜カンファレンス (第41回) (福岡), 2017. 2.
- 38) 小野眞史, 鈴木雅也, 熊谷直也, 高橋 浩: 健常人における眼不快時の前頭葉賦活計測と全身血流の影響. 角膜カンファレンス (第41回), 2017. 2.
- 39) 清水 愛, 北原由紀, 竹内修子, 前田紗恵香, 岩本雅子, 中山滋章, 高橋 浩, 小早川信一郎: 複数回の斜視手術を施行した症例の検討. 日本弱視斜視学会総会 (第72回) (横浜), 2016. 6.
- 40) 北原由紀: ナーシングプログラム 白内障手術のインフォームドコンセント〜いつ, だれが, どう説明しているの?〜「インフォームドコンセント—医師が患者に伝えたい事」. JSCRS 総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 41) 北原由紀, 中山滋章, 竹内修子, 前田紗恵香, 清水 愛, 岩本雅子, 高橋 浩, 小早川信一郎: 乳児内斜視を疑われた Congenital Dysplastic Muscle の1例. 日本臨床眼科学会 (第71回) (京都), 2016. 11.
- 42) 北原由紀, 小早川信一郎, 秋庭幹生, 薫 一帆, 高橋 浩: 27 ゲージ硝子体手術における網膜剥離手術成績. 日本眼科手術学会学術総会 (第40回) (東京), 2017. 1.
- 43) 竹内修子, 北原由紀, 中山滋章, 清水 愛, 前田紗恵香, 岩本雅代, 高橋 浩, 小早川信一郎: 日本医科大学多摩永山病院における成人の麻痺性斜視の手術成績. 日本眼科手術学会学術総会 (第40回) (東京), 2017. 1.
- 44) 岩本雅代, 北原由紀, 中山滋章, 竹内修子, 清水 愛, 前田紗恵香, 高橋 浩, 小早川信一郎: 日本医科大学多摩永山病院における成人の斜視の手術成績. 日本眼科手術学会学術総会 (第40回) (東京), 2017. 1.
- 45) Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H: Keratic Precipitates after cataract surgery. The 41th ASCRS (New Orleans), 2016. 5.
- 46) Takano Y, Suzuki H, Shiwa T, Takahashi H: Temperature alteration of the incision and in the anterior chamber by using Balanced Tip™ during phacoemulsification. The 41th ASCRS (New Orleans), 2016. 5.
- 47) Nakano Y, Suzuki H, Shiwa T, Takahashi H: Temperature alteration in the anterior chamber during phacoemulsification with different pulse modes. The 41th ASCRS (New Orleans), 2016. 5.
- 48) Takeshi A, Hisaharu S, Toshihiko S, Hiroshi T: Alteration of the ophthalmic viscosurgical device retention in the anterior chamber by a direction of the infusion port of the Balanced Tip®. The 41th ASCRS (New Orleans), 2016. 5.

- 49) Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H : Keratic Precipitates after cataract surgery. 29th APACRS (Bali), 2016. 7.
- 50) Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H : Keratic Precipitates after cataract surgery. XXXIV Congress of the ESCRS (Copenhagen), 2016. 9.
- 51) 鈴木久晴, 大木孝太郎, 増田洋一郎, 高橋 浩 : ワンポートスリーブにおける前房内粘弾性物質残存率の検討 : 第2報. JSCRS 学術総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 52) 宮里佑未, 鈴木久晴, 芹澤元子, 伊東和香子, 由井智子, 高橋 浩 : Alcon 社製トーリック眼内レンズに起因したと考えられる TASS の1例. JSCRS 学術総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 53) 高野靖子, 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : Stable Chamber Tubing における超音波乳化吸引術中の前房内圧の検討. JSCRS 学術総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 54) 増田洋一郎, 岡本俊紀, 岩城久泰, 大木孝太郎, 鈴木久晴, 常岡 寛 : 灌流ハイドロダイセクション効果の誘発メカニズム. JSCRS 学術総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 55) 仲野裕一郎, 鈴木久晴, 伊東和香子, 芹澤元子, 宮里佑未, 由井智子, 高橋 浩 : 回折型3重焦点眼内レンズの臨床成績. JSCRS 学術総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 56) 有馬武志, 鈴木久晴, 仲野裕一郎, 志和利彦, 高橋 浩 : 灌流口からの水流による角膜内皮細胞侵襲の評価. JSCRS 学術総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 57) 鈴木久晴, 五十嵐勉, 志和利彦, 五十嵐勉 : 白内障手術後の角膜裏面沈着物と温流, 匠ビデオ. JSCRS 学術総会 (第31回) (京都), 2016. 6.
- 58) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : 細隙灯顕微鏡による白内障手術中の前房動態の観察. 臨床眼科学会 (第70回) (京都), 2016. 11.
- 59) 五十嵐勉, 大澤郁朗, 小林舞香, 鈴木久晴, 高橋 浩 : 白内障手術時の超音波由来フリーラジカルによる角膜内皮障害に対する水素の有用性. 臨床眼科学会 (第70回) (京都), 2016. 11.
- 60) 宮里佑未, 鈴木久晴, 芹澤元子, 伊東和香子, 由井智子, 高橋 浩 : Alcon 社製トーリック眼内レンズに起因したと考えられる TASS の1例. 東京都眼科集団会 (東京), 2016. 11.
- 61) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : スリーブの灌流口の位置が OVD 残存状態へ影響するか定性的に評価する. 日本眼科手術学会 (第40回) (東京), 2017. 1.
- 62) 宮田康平, 鈴木久晴, 白鳥 宙, 宮里佑未, 中島大司, 高橋 浩 : 白内障手術中のディスコビスク®による角膜乾燥予防効果の検討. 日本眼科手術学会 (第40回) (東京), 2017. 1.
- 63) 宮里佑未, 鈴木久晴, 白鳥 宙, 中島大司, 宮田康平, 高橋 浩 : 灌流液で満たした Vivinex iSert™ による 1.8mm 切開からの挿入. 日本眼科手術学会 (第40回) (東京), 2017. 1.
- 64) 仲野裕一郎, 鈴木久晴, 高橋 浩 : 眼球を固定しながら CCC を作成した場合の正確性. 日本眼科手術学会 (第40回) (東京), 2017. 1.
- 65) 武田彩佳, 小倉瑛里子, 中島大司, 杉田智子, 高橋永幸, 鈴木久晴, 高橋 浩 : 失明僚眼の角膜を交換移植した網膜剥離の1例. 日本眼科手術学会 (第40回) (東京), 2017. 1.
- 66) Shiratori N, Kunishige T, Hori J : Clinical statistics for recurrence of Vogt-Koyanagi-Harada Disease. ARVO (Seattle), 2016. 5.
- 67) Kunishige T, Taniguchi H, Ohno T, Azuma M, Hori J : Role of V-domain Ig suppressor of T cell activation (VISTA) in Anterior Chamber Associated Immune Deviation. ARVO (Seattle), 2016. 5.
- 68) Taniguchi H, Kunishige T, Akiba H, Yagita H, Abe R, Hori J : Expression of ICOS and Foxp3 on T cells infiltrating in corneal allografts. ARVO (Seattle), 2016. 5.
- 69) 武田彩佳, 高橋永幸, 桑名正隆, 堀 純子 : SAPHO 症候群に合併した強膜炎の1例. 日本眼科学会総会 (第120回) (仙台), 2016. 4.
- 70) 南 想, 國重智之, 五十嵐徹, 堀 純子 : 間質性腎炎ぶどう膜炎症候群 (TINU) を同時期に発症した一卵性双生児の症例. 日本眼科学会総会 (第120回) (仙台), 2016. 4.
- 71) 石原麻美, 目黒 明, 南場研一, 大野重昭, 蕪城俊克, 高瀬 博, 望月 學, 後藤 浩, 竹内 大, 堀 純子, 北市伸義, 水木信久 : ゲノムワイド関連遺伝子解析を用いた眼サルコイドーシス感受性遺伝子のスクリーニング. 日本眼科学会総会 (第120回) (仙台), 2016. 4.
- 72) 由井智子, 塚田玲子, 堀 純子 : 日本医大眼科におけるベーチェット病のインフリキシマブ導入前後疾患活動性評価. 日本眼科学会総会 (第120回) (仙台), 2016. 4.
- 73) 白鳥 宙, 由井智子, 國重智之, 堀 純子 : 難知性強膜炎における免疫抑制剤と生物学的製剤の治療成績. 日本眼炎症学会 (第50回) (東京), 2016. 7.
- 74) 宮田康平, 由井智子, 國重智之, 高橋永幸, 堀 純子 : 強膜炎における続発性緑内障の臨床統計. 日本眼炎症学会 (第50回) (東

- 京), 2016. 7.
- 75) 中島大司, 國重智之, 堀 純子: 網膜血管病変を呈した血管内大細胞型 B 細胞性悪性リンパ種の 1 例. 日本臨床眼科学会 (第 70 回) (京都), 2016. 11.
- 76) 武田彩佳, 高橋永幸, 桑名正隆, 堀 純子: SAPHO 症候群に随伴する眼病変と治療成績. 日本臨床眼科学会 (第 70 回) (京都), 2016. 11.
- 77) 山崎将志, 有馬武志, 仲野裕一郎, 内山昌明, 五十嵐勉, 高橋 浩: 水素点眼による角膜アルカリ外傷モデルの病理学的検討. 角膜カンファレンス 2017 (福岡), 2017. 2.
- 78) 窪倉真樹子, 中元兼二, 高橋 浩: 日本医科大学付属病院における急性原発閉塞隅角緑内障に対する治療の実態. 角膜カンファレンス 2017 (福岡), 2017. 2.
- 79) 五十嵐勉, 大澤郁朗, 小林舞香, 鈴木久晴, 高橋 浩: 白内障手術時の超音波由来フリーラジカルによる角膜内皮障害に対する水素の有用性. 日本臨床眼科学会 (第 70 回) (京都), 2016. 11.
- 80) 高橋永幸, 五十嵐勉, 矢口智恵美, 小林舞香, 藤本千明, 高橋 浩: コンタクトレンズ装用者に対するレバミピド点眼によるドライアイの自覚症状・他覚所見. 日本臨床眼科学会 (第 70 回) (京都), 2016. 11.
- 81) Kobayashi M, Igarashi T, Miyake K, Miyake N, Nakamoto K, Hirai Y, Takahashi H, Okada T: Tyrosine-mutated AAV2 (Y730, 500, 444F) mediated BDNF rescued inner retina in rat retinal ischemic injury model. European society of gene and cell therapy (Florence), 2016. 10.
- 82) Gocho K, Akeo K, Itoh N, Hayashi T, Katagiri S: High resolution adaptive optics retinal image analysis in early-stage central areolar choroidal dystrophy with a PRPH2 mutation. 2016 Annual Meeting of the European Association for Vision and Eye Research (EVER) (Nice), 2016. 10.
- 83) Gocho K, Kubota D, Kameya S, Akeo A, Kikuchi S, Sugahara M: High resolution imaging analysis of family with autosomal recessive bestrophinopathy associated with new BEST1 mutation16. Euretina 2016 Annual Meeting (Copenhagen), 2016. 9.
- 84) Gocho K, Akeo K, Ito N, Hayashi T, Kubota D, Kameya S: Comparison of two sampling methods for assessing the cone mosaic in adaptive optics retinal images. 2016 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO) (Seattle), 2016. 5.
- 85) Paques M, Li-Calzi C, Gocho K, Chaumette C, Benchaboune M, Ullern M: Time-lapse imaging of dry age-related macular degeneration using adaptive optics: insights into cell kinetics. 2016 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO) (Seattle), 2016. 5.
- 86) 一戸 唱, 石井俊行, 高橋 浩, 金田 誠: マウス網膜における P2X プリン受容体の生理的役割 (Physiological contribution of P2X-purinoreceptor at postreceptor processing in the mouse retina). 日本神経科学大会 (第 39 回) (横浜), 2016. 7.
- 87) 窪倉真樹子: 日本医科大学付属病院における急性原発閉塞隅角緑内障に対する治療の現状. Sendagi Ophthalmic Seminar (第 5 回) (東京), 2016. 9.
- 88) 山崎将志, 中元兼二: 水晶体再建術後に網膜静脈閉塞症を来した原発閉塞隅角緑内障の 1 例. Tokyo Glaucoma Retina Joint Conference (東京), 2017. 2.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 小早川信一郎, 埴本 宰, 井上吐州, 西村栄一: コンサルテーションコーナー: エキスパートに聞く (Q&A). IOL & RS 2016: 30 (1): 137-140.
- 2) 小早川信一郎: 難治症例の白内障手術: わかりやすい臨床講座: 高齢者の白内障手術における問題点と対策 (解説/特集). 日本の眼科 2016: 87 (2): 156-159.
- 3) 堀 純子: 眼の免疫学. 医学のあゆみ 2016: 256 (13): 1254-1254.
- 4) 國重智之, 堀 純子: 角膜移植後免疫応答にみる眼内微小環境の特殊性. 医学のあゆみ 2016: 256 (13): 1259-1261.
- 5) Nakajima N, Igarashi T, Yaguchi C, Ueda M: Ophthalmoplegia without severe painful eyelid swelling in acute dacryoadenitis: a case report. 臨床神経学 2016: 56 (1): 23-6.

追加分原著:

- 1) Nagaosa S, Sonoi N, Saijo H, Ono M: Objective and quantitative evaluations of the feeling of difficulty swallowing caused by dry mouth: the visualization and effects of subjective complaints. Proceedings of ICServ 2016 2016: 4: 261-263.
- 2) 鈴木久晴: 白内障手術の進歩 開眼手術から屈折矯正手術へ. 日本医科大学医学会雑誌 2016: 12 (1): 32.

著 書

追加分著書：

- 1) 中元兼二, 高野靖子：〔分担〕第2章 緑内障治療による合併症・副作用緑内障治療薬の副作用. 一目でわかる眼疾患の見分け方 上巻（上幸次, 山本哲也, 大路正人, 門之園一明）, 2016；pp196-199, メジカルビュー社.
- 2) 亀谷修平：〔分担〕ぶどう膜疾患, 網膜・硝子体疾患：中心性輪紋状脈絡膜ジストロフィー. 一目でわかる眼疾患の見分け方 下巻（井上幸次他）, 2016；p79, メジカルビュー.

25. 疼痛制御麻酔科学分野

[付属病院麻酔科・ペインクリニック]

研究概要

本分野の研究基盤は、全身麻酔の機序解明と新たな麻酔薬・麻酔法の開発、外科系集中治療管理と患者重症化阻止、ならびに神経障害性疼痛解明と慢性痛の一掃対策の3つのテーマであり、本年も大学院生を中心に多くの臨床および基礎的研究が行われた。さらに従来からの多領域にわたる基礎的研究・臨床研究が継続して行われた。基礎研究の一部は、薬理学分野鈴木教授、解剖学分野小澤教授の指導下で行われ、神経障害性疼痛における機序解明、麻酔による日内変動遺伝子変化の研究であり、本分野基礎研究内容である麻酔と臓器 microRNA 変動とともに、その成果が報告された。また、臨床においては手術侵襲制御、周術期体液・代謝管理、人工呼吸管理、術後疼痛管理、緩和ケア、ペインクリニック等従来のテーマについても幅広く研究が行われた。以下に主な内容を示す。基礎研究：マイクロアレイ、realtime RT-PCR、細胞培養装置、パッチクランプ等を用いて、1) 麻酔による体内重要臓器における遺伝子発現への影響、2) 全身炎症反応・組織障害に対する麻酔薬の臓器保護効果と microRNA の関連、3) 全身麻酔にともなう日内変動の変化とその機序の解明、4) 神経障害性疼痛の機序と治療効果等。臨床研究：臨床麻酔、外科系集中治療、ペインクリニック、緩和医療領域において、1) 周術期 β 遮断薬の効果、2) 周術期心イベントの発生要因解明、3) 新たな輸液製剤の臨床的效果、4) 外科侵襲による生体反応、5) 非侵襲的人工呼吸管理、6) ECMO、7) 新たな疼痛管理法等。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Iwasaki M, Zhao H¹, Jaffer T¹, Unwith S¹, Benzonana L¹, Lian Q², Sakamoto A, Ma D¹ (¹ Department of Surgery and Cancer, Imperial College London, ² Department of Anesthesiology, Wenzhou Medical University) : Volatile anesthetics enhance the metastasis related cellular signaling including CXCR2 of ovarian cancer cells. *Oncotarget* 2016 ; 7 (18) : 26042-26056.
- 2) Nagamoto S, Iijima N¹, Ishii H¹, Takumi K¹, Higo S¹, Aikawa S¹, Anzai M, Mtsuo I, Nakagawa S, Takashima N², Shigeyoshi Y², Sakamoto A, Ozawa H¹ (¹ Department of Anatomy and Neurobiology, Graduate sSchool of Medicine, Nippon Medical School, ² Department of Anatomy and Neurobiology, Kinki University Faculty of Medicine) : Establishment of an in vitro cell line experimental system for the study of inhalational anesthetic mechanisms. *Neuroscience Letters* 2016 ; 620 : 163-168.
- 3) Matsuo I, Iijima N¹, Takumi K¹, Higo S¹, Aikawa S¹, Anzai M, Ishii H¹, Sakamoto A, Ozawa H¹ (¹ Department of Anatomy and Neurobiology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Characterization of sevoflurane effects on Per2 expression using ex vivo bioluminescence imaging of the suprachiasmatic nucleus in transgenic rats. *Neuroscience Research* 2016 ; 107 : 30-37.
- 4) Okabe T¹, Terashima H², Sakamoto A (¹ Department of Anesthesiology, Hitachinaka General Hospital, ² Hitachinaka Medical Education and Research Center, University of Tsukuba Hospital) : What is the manner of gastric emptying after ingestion of liquids with differences in the volume under uniform glucose-based energy content?. *Clinical Nutrition* 2016 ; S0261-5614 (16) : 30213-30218.
- 5) Onaka H, Ishikawa M, Mizuguchi Y¹, Uchida E¹, Sakamoto A (¹ Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Evaluation of postoperative pain control and quality of recovery in patients using intravenous patient-controlled analgesia with fentanyl : A prospective randomized study. *Journal of Nippon Medical School* 2016 ; 83 (4) : 158-166.
- 6) Hori Y, Nakayama A, Sakamoto A : Surgery cancellations after entering the operating room. *JA Clinical Reports* 2016.
- 7) Ito N, Sakai A¹, Miyake N², Maruyama M^{1,3}, Iwasaki H¹, Miyake K², Okada T², Sakamoto A, Suzuki H¹ (¹ Department of Pharmacology, Nippon Medical School, ² Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ³ Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School) : miR-15b mediates oxaliplatin-induced chronic neuropathic pain through BACE1 down-regulation. *Br J Pharmacol.* 2017 ; 174 (5) : 386-395.
- 8) Kishikawa H, Kaguchi H, Tsuboko Y, Nakatani H, Ishikawa M, Sakamoto A : Effect of Propofol on Human Neutrophil Apoptosis in vitro. *Anaesthesia & Critical Care Medicine Journal* 2017 ; 2 (1) : 1-7.

(2) 症例報告：

- 1) Furuichi Y, Hamada A, Nakazato K, Kobayashi K, Sakamoto A : Severe respiratory depression and bradycardia before induction of anesthesia and onset of Takotsubo cardiomyopathy after cardiopulmonary resuscitation. *Journal of Clinical Anesthesia*

2016 ; 35 : 275-277.

- 2) Hori Y, Kishikawa H, Sakamoto A : Anesthetic management of a patient with esophageal penetration of a tracheal stent : a case report. JA Clinical Reports 2016.

著 書

- 1) 坂本篤裕 : [分担] 麻酔と心・血管作動薬. 麻酔科学レビュー 2017 (澄川耕二, 岩崎寛), 2017 ; pp80-86, 総合医学社.
- 2) 岩崎雅江, 坂本篤裕 : [分担] 腹腔鏡下仙骨脛固定術. 最先端外科手術の麻酔管理 (稲垣喜三 編), 2016 ; pp221-224, 克誠堂出版.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 坂本篤裕 : 病院運営と麻酔科医. 第一回旭川周術期管理研究会 (旭川), 2016. 5.

(2) 招待講演 :

- 1) 古市結富子¹⁾, 清水 淳¹⁾ (1) 榊原記念病院 麻酔科) : 麻酔科から見た無輸血の工夫. 日本低侵襲心臓手術学会 (第1回) (大阪), 2016. 7.

(3) シンポジウム :

- 1) 保利陽子, 坂本篤裕 : 周術期麻酔科コンサルテーションシンポジウム『周術期患者管理』. 日本手術医学会 (第38回) (沖縄), 2016. 11.
- 2) 鈴木規仁 (1) 緩和ケア科) : 大学病院での医療用麻薬安全使用の取り組みと課題. 第21回日本緩和医療学会学術大会 (京都), 2016. 6.
- 3) 宗友あゆみ, 坂本篤裕 : 後期研修医の本音を聞く会. 日本麻酔学会学術集会 (第63回) (福岡), 2016. 5.
- 4) 石川真士, 坂本篤裕 : 医療事故調査制度とインフォームドコンセント. 日本臨床麻酔学会第36回大会 (高知), 2016. 11.

(4) セミナー :

- 1) 市場晋吾¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科系集中治療科) : 重度 ARDS に対するサポート療法 : ECMO と血液浄化の併用. 日本呼吸療法医学会学術集会 (名古屋), 2016. 7.

(5) ワークショップ :

- 1) 市場晋吾¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院外科系集中治療科) : 文献レビュー : 急性呼吸不全管理 : 人工呼吸療法の周辺. 日本呼吸療法医学会学術集会 (名古屋), 2016. 7.

(6) 一般講演 :

- 1) 古市結富子, 岡部 格¹⁾, 坂本篤裕 (1) たちなか総合病院 麻酔科) : ロボット支援下前立腺悪性腫瘍手術における温風加温式装置用アンダーブランケットの効果. 日本麻酔科学会 (第63回) (福岡), 2016. 5.
- 2) 古市結富子¹⁾, 清水 淳¹⁾, 森 啓介¹⁾, 高橋祐生¹⁾, 大槻達郎¹⁾, 坂本篤裕 (1) 榊原記念病院麻酔科) : 術前より長期の低ナトリウム血症を認めた症例に対して僧帽弁形成術と冠動脈バイパス術の麻酔を施行した経験. 日本臨床麻酔学会 (第36回) (高知), 2016. 11.
- 3) 保利陽子, 岸川洋昭, 鈴木規仁, 坂本篤裕 : 神経痛性筋萎縮症の疼痛管理経験. 日本ペインクリニック学会 (第50回) (横浜), 2016. 7.
- 4) 仲野耕平, 岡部 格¹⁾, 田中俊輔¹⁾, 鎌形千尋²⁾, 坂本篤裕 (1) (株) 日立製作所 たちなか総合病院, 2) 公益財団法人結核予防会 複十字病院) : 肛門部手術に対する超音波ガイド下仙骨硬膜外ブロックの効果の検討. 日本区域麻酔学会 第3回学術集会 (弘前), 2016. 4.
- 5) 永本盛嗣¹⁾, 梅井菜央¹⁾, 市場晋吾¹⁾, 間瀬大司¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院外科系集中治療科) : レプトスピラ症による急性呼吸促進症候群に VV-ECMO が奏功した1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 6) 宗友あゆみ, 梅井菜央¹⁾, 市場晋吾¹⁾, 間瀬大司¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院外科系集中治療科) : 周術期に VA-ECMO 管理を要した症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 7) 木村崇之, 梅井菜央¹⁾, 市場晋吾¹⁾, 間瀬大司¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院外科系集中治療科) : Stanford A 型急性大動脈解離術後の挿管期間に影響する因子. 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 8) 山下 碧, 梅井菜央¹⁾, 市場晋吾¹⁾, 間瀬大司¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院外科系集中治療科) : 血液悪性腫瘍患者の予後に影響する因子. 日本集中治療医学会学術集会 (札幌), 2017. 3.
- 9) 佐藤真美子, 坂本篤裕 : Bentall 術後の吻合部仮性動脈瘤の診断と治療方針決定に経食道心エコーが有用であった1症例. 日本心臓血管麻酔学会 (第21回学術大会) (神奈川県), 2016. 9.
- 10) 濱田絢華, 源田雄紀, 坂本篤裕 : New Radical-7 に搭載された補正機能 : IN VIVO 機能の臨床的意義の検討. 日本麻酔学会学術集会 (第63回) (福岡), 2016. 5.

- 11) 竹田寛恵, 坂本篤裕: フェンタニルを用いた IVPCA での最適な術後疼痛管理. 日本麻酔学会学術集会 (第 63 回) (福岡), 2016. 5.
- 12) 石川真士, 坂本篤裕: 全身麻酔後の呼吸抑制と低酸素血症: 頻度とリスク因子の検討. 日本麻酔学会学術集会 (第 63 回) (福岡), 2016. 5.
- 13) 永本盛嗣, 坂本篤裕: 吸入麻酔薬作用機構の研究のための cell line を用いた in vitro 実験系の確立. 日本麻酔学会学術集会 (第 63 回) (福岡), 2016. 5.
- 14) 黒木直美, 坂本篤裕: 1 次感覚神経節 miR-15b のオキサリプラチン誘発性神経障害疼痛における解析. 日本麻酔学会学術集会 (第 63 回) (福岡), 2016. 5.
- 15) 滝井 (旧姓) (中山) 絢未, 坂本篤裕: 当指摘の予定心臓手術後患者における抜管時 NPPV の有効性の検討. 日本麻酔学会学術集会 (第 63 回) (福岡), 2016. 5.
- 16) 木村崇之, 岡部 格¹⁾, 古市結富子²⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ (株) 日立製作所ひたちなか総合病院麻酔科, ²⁾ 公益法人 榊原記念病院): クロウ・深瀬症候群に対する麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 17) 古川亜理沙, 松尾いづみ, 石橋めぐみ, 坂本篤裕: 経尿道的尿路結石除去術後に敗血症性ショックおよび急性呼吸窮迫症候群をきたし, 集中治療管理を要した 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 18) 小川雄太郎, 佐藤真美子, 石川真士, 坂本篤裕: 術中に喘息重発作を発症した症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 19) 中室貴代, 源田雄紀, 坂本篤裕: 運動誘発電位モニタリング依頼があった 13 歳女児の頸髄硬膜外血腫除去術における麻酔管理方法の検討 ミダゾラムを使用した全静脈麻酔で速やかな覚醒が得られ 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 20) 蔭山慎平, 石川真士, 坂本篤裕: Awake craniotomy における呼吸モニタリングの工夫. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 21) 山下 碧, 源田雄紀, 坂本篤裕: 胸骨正中切開時に生じた気管チューブ損傷の 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 22) 近藤優香, 花井紗弥子, 杉田彩子, 坂本篤裕: 手術中に出血性ショックとアナフィラキシーショックをきたした症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 23) 今野 舞, 竹内純平, 坂本篤裕: ロボット支援下前立腺全摘術 (RARP) における皮下気腫発生 6 例の検討. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 24) 宮本絵里, 並里 大, 石橋めぐみ, 坂本篤裕: 自発呼吸下で麻酔管理を行った転移性脳腫瘍手術の 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 25) 日野浦果歩, 岩崎宏俊, 大槻達郎, 石川真士, 坂本篤裕: 薬物治療抵抗性甲状腺クリーゼに対する甲状腺全摘術に術前血漿交換療法が有用であった 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 26) 平田康三郎, 森田智教, 源田雄紀, 坂本篤裕: 低心機能の患者に対し大動脈バルーンパンピングしようかて腹部手術を 2 回施行した 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 27) 亀井信孝, 中川真志, 石橋めぐみ, 坂本篤裕: IABP 挿入下に体位変換を要した手術の全身麻酔管理 2 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 28) 水野友喜, 竹田寛恵, 岸川洋昭, 坂本篤裕: 麻酔による心停止の既往がある患者の全身麻酔下での乳房部分切除を無事終了し得た 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 29) 金子美穂, 岩崎雅江, 菊入麻紀子, 源田雄紀, 坂本篤裕: ステロイド心筋症による低心機能患者の全身麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 30) 神谷歩美, 保利陽子, 坂本篤裕: 脳幹部海綿状血管腫の術中操作により心停止をきたした 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 31) 三澤真梨恵, 保利陽子, 坂本篤裕: 手術室入室後に手術中止となった症例の検討. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 56 回) (東京), 2016. 9.
- 32) 岸川洋昭, 坂本篤裕: 硬膜外麻酔・鎮痛が腹腔鏡下食道アカラシア手術の周術期管理に与える影響. 日本臨床麻酔学会第 36 回大会 (高知), 2016. 11.
- 33) 木村崇之, 佐藤真美子, 源田雄紀, 坂本篤裕: 脳梗塞を契機に発見された巨大左房粘液種に対する麻酔経験. 日本臨床麻酔学会第 36 回大会 (高知), 2016. 11.
- 34) 岩崎雅江, 安斎めぐみ, 松尾いづみ, 保利陽子, 長岡竜太¹⁾, 杉谷 巖¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院内分泌外科): 甲状腺悪性腫瘍手術における術中神経モニタリング結果に影響する因子の考察. 日本臨床麻酔学会第 36 回大会 (高知), 2016. 11.
- 35) 石川真士, 坂本篤裕: SafetyNet 導入による術後モニタリング変化の検討. 日本臨床麻酔学会第 36 回大会 (高知), 2016. 11.
- 36) 仲野耕平, 石川真士, 黒木直美, 坂本篤裕: 症例から術後覚醒遅延について考察する. 日本臨床麻酔学会第 36 回大会 (高知), 2016.

- 11.
- 37) 羽田玲子, 源田雄紀, 岸川洋昭, 進士誠一¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ (日本医科大学付属病院消化器外科): 長時間碎石位により発症した Well leg compartment syndrome (WLCS) 3 症例の報告. 日本臨床麻酔学会第 36 回大会 (高知), 2016. 11.
- 38) 竹田寛恵, 松尾いづみ, 古市結富子, 坂本篤裕: 修正型電気痙攣療法 (mECT) でロクロニウムを使用した 1 例. 日本臨床麻酔学会第 36 回大会 (高知), 2016. 11.
- 39) 菊入麻紀子, 源田雄紀, 坂本篤裕: 全身麻酔下における亜酸化窒素とオピオイドの皮膚切開時循環動態抑制効果の比較. 日本臨床麻酔学会第 36 回大会 (高知), 2016. 11.
- 40) 並里 大, 石川真士, 坂本篤裕: SafetyNet による術後モニタリングで急変を早期発見できた 2 症例. 日本臨床麻酔学会第 36 回大会 (高知), 2016. 11.
- 41) 山本真記子, 石川真士, 坂本篤裕: 肝切除術における術後肝障害のリスク因子の検討. 日本臨床麻酔学会第 36 回大会 (高知), 2016. 11.
- 42) 仲野耕平¹⁾, 岸川洋昭¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ (日本医科大学麻酔科学教室): ロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺全摘術と腹腔鏡下根治的前立腺全摘術に対する麻酔管理の比較. 日本麻酔科学会中国・四国支部第 53 回学術集会 (岡山), 2016. 9.
- 43) 古市結富子¹⁾, 清水 淳¹⁾, 大槻達郎¹⁾, 高橋祐生¹⁾, 森 啓介²⁾, 古市昌之³⁾, 山中将太³⁾, 高梨秀一郎⁴⁾, 坂本篤裕¹⁾ (榊原記念病院麻酔科, ²⁾ 千葉西総合病院麻酔科, ³⁾ 榊原記念病院心臓血管外科, ⁴⁾ 日本医科大学麻酔科学教室): 当院における腹部大動脈瘤緊急開腹症例に関する検討. 日本集中治療医学会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.

論文

[追加分]

追加分症例報告:

- 1) Hori Y, Taniguchi K, Okabe T¹⁾, Sakamoto A¹⁾ (Department of Anesthesiology, Hitachinaka General Hospital): A case of unexpectedly difficult intubation caused by a large asymptomatic choanal polyp. JA Clinical Reports 2016.

[武蔵小杉病院麻酔科]

研究概要

武蔵小杉病院麻酔科では主に臨床に即した研究を行っている 医局員が日常の麻酔 ペイン業務で邁進する種々の問題疑問により発生起案したテーマを元にチームを編成し研究を進めている 従って臨床にすぐ反映され有益となる研究テーマであるという特徴を有している 食道がん 肺がん等の開胸手術における侵襲防御 産科領域の麻酔管理法 気道管理法は当科の長年のテーマであり継続的な研究を行っている

研究業績

論文

(1) 症例報告:

- 1) Inagi T¹⁾, Hoshina H²⁾, Suzuki M²⁾, Wada M²⁾, Bito H²⁾, Sakamoto A³⁾ (Yokohama Asahi Chuo General Hospital, ²⁾ Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ³⁾ Nippon Medical School Hospital): Remifentanyl-induced alterations in neutrophil numbers after surgery. JA Clinical Reports 2016; 2 (5): DOI: 10.1189/s40981-016-0031-z.
- 2) Iwase Y, Suzuki M, Bito H: A case report of intracranial hemorrhage after spinal anesthesia. JA Clinical Reports 2017; 3 (11).

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 鈴木万三¹⁾, 鈴木新平¹⁾, 岩瀬友里¹⁾, 鳥海博司¹⁾, 尾藤博保¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科): 腹腔鏡下大腸直腸手術における創部感染のリスク因子. 日本麻酔科学会学術集会 (第 63 回) (福岡), 2016. 5.
- 2) 長田洋平¹⁾, 鈴木万三¹⁾, 稲木敏一郎²⁾, 菊谷健彦³⁾, 尾藤博保¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科, ²⁾ 横浜旭中央総合病院麻酔科, ³⁾ 東戸塚記念病院麻酔科): 腹腔鏡下虫垂切除周術期管理における硬膜外ブロックと腹横筋膜面ブロック 腹直筋鞘ブロックの比較. 日本麻酔科学会学術集会 (63 回) (福岡), 2016. 5.
- 3) 和田美紀¹⁾, 岩瀬友里¹⁾, 鈴木新平¹⁾, 坂本光太郎²⁾, 赤羽日出男¹⁾, 尾藤博保¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科, ²⁾ 谷津保健病院): 開胸術後疼痛症候群に対し薬物療法が著効した 2 症例. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部合同学術大会 (第 56 回) (東京 (虎ノ門)), 2016. 9.
- 4) 堂本修平¹⁾, 長江泰孝¹⁾, 岩瀬友里¹⁾, 大角 真¹⁾, 尾藤博保¹⁾, 赤羽日出男¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科): 星状神経節微

- 弱電流治療の効果. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部大会 (第 56 回) (東京 (虎ノ門)), 2016. 9.
- 5) 長田洋平¹⁾, 鈴木新平¹⁾, 堂本修平¹⁾, 坂本光太郎²⁾, 尾藤博保¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科, 2) 谷津保健病院): 先天性表皮水疱症患者に McGrath 喉頭鏡補助下に経口気管支ファイバー挿管を行った 1 症例. 日本臨床麻酔学会 (第 36 回) (高知), 2016. 11.
- 6) 福島悠基¹⁾, 鈴木万三¹⁾, 長江泰孝¹⁾, 長田洋平¹⁾, 大角 真¹⁾, 尾藤博保¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 麻酔科): 局所麻酔薬が投与可能な NMOC カテーテルの有用性. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部合同集会 (第 56 回) (虎ノ門), 2016. 9.
- 7) 塚本加奈子¹⁾, 坂本光太郎¹⁾, 鈴木新平²⁾, 尾藤博保²⁾ (1) 医療法人社団保健会 谷津保健病院, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院): 一般病棟帰室後に血痰で判明した陰圧性肺出血の 1 例. 日本臨床麻酔学会 (第 36 回) (高知), 2016. 11.

[多摩永山病院麻酔科]

研究概要

当科では周術期管理及びペインクリニックに関する臨床的研究を継続的に行っている。周術期管理は、どんな症例にも対応でき単純で安全な麻酔法、末梢神経ブロックやくも膜下鎮痛、硬膜外鎮痛などを駆使した合併症の少ない周術期疼痛管理の研究を行っている。ペインクリニックでは、難治性の痛みに対する侵襲的治療を積極的に行っている。脊柱管狭窄症の病態と痛みの関係、硬膜外癒着に対する硬膜外洗浄法や神経剥離術などの臨床研究を中心に行っている。今後も新たな治療法を取り入れて臨床活動を行う。

研究業績

著書

- 1) 水野幸一¹⁾, 内木亮介¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院麻酔科): [分担] 脊柱管内インターベンション透視下神経ブロック UPDATE. ペインクリニック, 2016; pp898-906, 真興交易 (株) 医書出版部.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 内木亮介¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院麻酔科): ラツツカテーテルの手技: 疼痛緩和に伴う薬物療法とともに. 神経ブロック手技研究会 (第 13 回) (東京都), 2016. 11.

(2) シンポジウム:

- 1) 内木亮介¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院麻酔科): 腰部硬膜外腔における癒着剥離 (ペインクリニックインターベンショナル治療). 日本ペインクリニック学会 (第 50 回) (横浜市), 2016. 7.
- 2) 内木亮介¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院麻酔科): ペインクリニックとは、なんぞや?: 現在の問題点から考える将来. 東京・南関東疼痛懇話会 (第 31 回) (東京都), 2017. 2.

(3) 一般講演:

- 1) 内木亮介¹⁾, 清水祐一郎¹⁾, 米内大輔¹⁾, 水野幸一¹⁾, 杖下隆哉¹⁾, 坂本篤裕²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院麻酔科, 2) 日本医科大学麻酔科学教室): 反復硬膜外洗浄 (神経剥離) と硬膜外神経形成術により症状が改善した腰部脊柱管狭窄症の 1 症例. 日本ペインクリニック学会 (第 50 回) (横浜市), 2016. 7.
- 2) 小澤あや¹⁾, 水野幸一¹⁾, 清水祐一郎¹⁾, 杖下隆哉¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院麻酔科, 2) 日本医科大学麻酔科学教室): IV-PCA とくも膜下鎮痛の併用は、上腹部開腹手術において硬膜外鎮痛と同等の効果が得られる. 日本臨床麻酔学会 (第 36 回) (高知市), 2016. 11.

[千葉北総病院麻酔科]

研究業績

論文

(1) 症例報告:

- 1) Kim C¹⁾, Seino Y^{2,3)}, Sakamoto A¹⁾ (1) Department of Anesthesiology and Pain Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School): A Case Report: Adaptive Servo Ventilation for a Patient with Acute Heart Failure and Central Sleep Apnea. International Journal of Anesthetics and Anesthesiology 2017; 4 (1).

著 書

- 1) 金 徹：〔分担〕1章総説 2. 末梢神経障害の保存療法. 超入門 手術で治すしびれと痛み（編集：井須豊彦，金景成），2016；pp9-13, 株式会社メディカ出版，大阪.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 伊藤公亮, 渡邊 悠, 神谷一郎, 辻本芳孝, 金 徹, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 麻酔科)：術後の抗凝固療法開始後に硬膜外血腫をきたした1例. 日本麻酔科学会学術集会（第63回）（福岡），2016. 5.

追加分一般講演：

- 1) Okada K¹⁾, Saito N¹⁾, Matsumoto H¹⁾, Kim C, Hata N²⁾ (¹⁾ Shock and Trauma Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital)：Revalence and associated factors of developing venous thromboembolism in the perioperative period. 28th annual congress European Society of Intensive Care Medicine（ドイツ ベルリン），2015. 10.

26. 救急医学分野

[付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター]

研究概要

救急医学分野では研究テーマを「ショック・虚血再灌流に続発する臓器障害発生の機序解明」と設定し、外科、脳外科、整形外科、集中治療、熱傷、中毒、災害医学をサブスペシャリティーに持つ各グループが、幅広い学術研究・学会・論文発表を行った。・外傷外科領域：重症外傷患者に対する staged laparotomy や open abdominal management とその閉腹法など、外傷手術手技や術後管理に関する研究を進め報告を行った。・脳神経外科領域：重症頭部外傷、脳血管障害、蘇生後脳症および脳死や終末期医療に関して、文部科学省・厚生労働省科学研究費等の複数の助成を受け、臨床的、基礎的研究を行ない、多くの成果を発表した。重症頭部外傷に対する早期低体温療法導入の効果に関する国内外多施設共同研究を当講座主導で進め、頭蓋内病態把握および予後改善を目指した研究を推進している。・集中治療領域：重症病態に併発する呼吸不全、循環動態に関するモニタリングおよび管理指標に関する研究・発表を行った。また、熱中症の発生状況の分析や対策に関する報告など、熱中症全国調査に基づく研究発表や社会に対する啓発活動を行った。・災害医療領域：ドクターカー運用や多数傷病者対応・テロ・事態対応など、本学が推進する積極的な病院前救急医療を行うためのシステム構築に関する研究から実際の活動まで、幅広い研究発表を行った。・基礎研究領域：文部科学省・厚生労働省科学研究費やその他の競争的資金を受け、全身性炎症反応、臓器障害、Post intensive care syndrome の機序解明に向けた動物実験、予防医学や医療体制に関する研究を行い、その成果を発表した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 須崎 真¹⁾、小原俊彦¹⁾、若栗大朗¹⁾、桐木園子¹⁾、小野寺直子¹⁾、兵働英也¹⁾、荒木 尚^{1,2)}、宮内雅人^{1,2)}、川井 真^{1,2)}、横田裕行²⁾、安武正弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院総合診療センター、²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：日本医科大学付属病院総合診療センターにおける救急・総合診療研修の取り組みと初期臨床研修医による評価。日本病院総合診療医学会雑誌 2016；10 (2)：29-34.
- 2) Nakae R, Takayama Y, Kuwamoto K, Naoe Y, Sato H, Yokota H：Time Course of Coagulation and Fibrinolytic Parameters in Patients with Traumatic Brain Injury. Journal of Neurotrauma 2016；33 (7)：688-695.
- 3) Yokobori S, Spurlock M¹⁾、Lee S¹⁾、Shyam G¹⁾、Bullock R：Microdialysis as Clinical Evaluation of Therapeutic Hypothermia in Rat Subdural Hematoma Model. Methods Mol Biol. 2016；1642：413-431.
- 4) 金 史英、萩原 純、石井浩統、松居亮平、萩原令彦、片桐美和、増野智彦、新井正徳、辻井厚子、横田裕行：腹腔内出血制御症例の検討：腹部外傷における腹腔内出血コントロール：Interventional Radiology と Damage Control Surgery の適応の限界。日本腹部救急医学会雑誌 2016；36 (6)：1043-1051.
- 5) 吉野美緒、重村朋子、高田治樹、市村美帆、稲本絵里、川尻泰樹、増野智彦、松井 豊、横田裕行：病院前救急診療活動に従事する医師の外傷性ストレスに関する研究。トラウマティック・ストレス 2016；14 (1)：63-72.

(2) Review：

- 1) Yokobori S, Yokota H：Targeted temperature management in traumatic brain injury. Journal of Intensive Care 2016；4 (28)：epub open access.

(3) 総説：

- 1) 荒木 尚：頭部外傷と意識障害。日本神経救急学会雑誌 2016；28 (2)：19-23.
- 2) 横田裕行：頭を打ったとき。NHK テキストきょうの健康 4月号 2017；(349)：104-109.
- 3) Araki T, Yokota H, Morita A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School)：Pediatric Traumatic Brain Injury：Characteristic Features, Diagnosis, and Management. Neurol Med Chir (Tokyo) 2017；57 (2)：82-93.
- 4) 栗栖 薫、横田裕行、荒木 尚 (¹⁾ 広島大学病院脳神経外科)：臓器提供と脳神経外科医：脳死判定の現況と今後の課題。Neurosurgical Emergency 2016；21 (2)：151-154.
- 5) Yokobori S, Nakae R, Yokota H, Spurlock M¹⁾、Mondello S²⁾、Gajavelli S¹⁾、Bullock R¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, FL, USA., ²⁾ Department of Biomedical and Dental Sciences and Morphofunctional Imaging, University of Messina, Messina, Italy.)：Subdural hematoma decompression model：A model of traumatic brain injury with ischemic-reperfusional pathophysiology：A review of the literature. Behav Brain Res. 2016；25：epub.

- 6) 横田裕行：熱中症対策. NHK テキスト きょうの健康 7月号 2016；(340)：66-69.
- 7) 宮内雅人：食中毒対策. NHK テキスト きょうの健康 7月号 2016；(340)：70-73.
- (4) 症例報告：
- 1) 吉田文哉, 恩田秀賢, 五十嵐豊, 石井浩統, 榎本健太郎, 塚本剛志, 増野智彦, 辻井厚子, 新井正徳, 横田裕行：高気圧酸素治療が有効であった気腫性感染症の2症例. 日本臨床高気圧酸素・潜水医学会雑誌 2016；13 (1)：14-18.
 - 2) 石井浩統, 萩原令彦, 山名英俊, 恩田秀賢, 増野智彦, 横田裕行, 根井貴仁¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院感染制御部)：高エンドトキシン血症を呈したレジオネラ肺炎の1例. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2016；20 (1)：79-83.
 - 3) 山名英俊^{1, 2)}, 増野智彦¹⁾, 内海清乃¹⁾, 藤本将友¹⁾, 緒方翔一¹⁾, 五十嵐豊¹⁾, 萩原 純¹⁾, 横堀将司¹⁾, 布施 明¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 筑波メディカルセンター病院)：鬼怒川堤防決壊に伴う病院避難時に発生した軽症者バス搬送中の患者急変. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2016；37 (2)：284-287.
 - 4) 杉中宏司^{1, 2)}, 中山文彦^{1, 2)}, 本村友一^{1, 2)}, 益子一樹^{1, 2)}, 八木貴典^{1, 2)}, 原 義明^{1, 2)}, 松本 尚^{1, 2)}, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学大学院救急医学分野)：CTによっても同定できなかった大腿骨複合骨折の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2016；37 (2)：333-337.
 - 5) 金谷貴大, 桑原広輔, 萩原 純, 横堀将司, 吉田文哉, 塚本剛志, 増野智彦, 金 史英, 辻井厚子, 横田裕行：肝硬変に起した十二指腸静脈瘤破裂の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2016；37 (2)：349-353.
 - 6) 金谷貴大, 五十嵐豊, 額健太, 恩田秀賢, 横堀将司, 榎本健太郎, 荒木 尚, 坂本和嘉子, 布施 明, 横田裕行：HELLP 症候群に合併した尾状核出血の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2016；37 (2)：391-394.
 - 7) 岩井健司, 榎本健太郎, 塚本剛志, 松居亮平, 吉田文哉, 坂本和嘉子, 宮内雅人, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行：難治性気胸を合併した気道熱傷の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2016；37 (2)：450-454.
 - 8) 吉野雄大, 岩井健司, 松居亮平, 石井浩統, 萩原令彦, 萩原 純, 増野智彦, 金 史英, 新井正徳, 横田裕行：Veno-Venous Extracorporeal Membrane Oxygenationを導入し緊急手術を行った低酸素血症を伴う食道破裂の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2016；37 (2)：497-500.
- (5) Review Article：
- 1) Araki T, Yokota H, Fuse A：Brain Death in Pediatric Patients in Japan：Diagnosis and Unresolved Issues. Neurologia medicochirurgica 2016；56 (1)：1-8.
- (6) プロシーディング：
- 1) 山田真史奈^{1, 4)}, 松田明久²⁾, 千葉知宏³⁾, 相磯貞和⁴⁾, 増野智彦, 松本 尚¹⁾, 宮下正夫²⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 杏林大学医学部病理学教室, 4) 慶應義塾大学医学部解剖学教室)：重症敗血症モデルマウスにおけるSI4G-Humaninの効果. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2016；20 (1)：145-145.
 - 2) 増野智彦：救急医療におけるHBOTの意義と将来. 日本高気圧環境・潜水医学会誌 2016；51 (4)：231-231.

著 書

- 1) 井上泰豪¹⁾, 横田裕行 (1) 一般財団法人広南会広南病院血管内脳神経外科)：〔分担〕急性期意識障害の判定：意識レベルを正しく伝える. メディカルスタッフのための臨床医学 (〔監修〕矢崎義雄 [編集] 吉澤篤人), 2016；pp26-33, 医薬ジャーナル社.
- 2) 横堀将司, 横田裕行：〔分担〕頭部外傷. EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針 (第4版) (〔編集〕田村晃, 松谷雅生, 清水輝夫, 辻貞俊, 塩川芳昭, 成田善孝), 2016；pp240-248, メディカルビュー社.
- 3) 荒木 尚, 横田裕行, 森田明夫¹⁾ (1) 日本医科大学大学院脳神経外科)：〔分担〕小児の頭部外傷. EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針 (第4版), 2016；pp249-255, メディカルビュー社.
- 4) 五十嵐豊, 横田裕行：〔分担〕重症頭部外傷治療・管理のガイドライン. 救急・ICUですぐに役立つ”超”ガイドラインこれだけBOOK (〔編集〕阿南英明), 2017；pp67-72, MC メディカ出版.
- 5) 金 史英, 横田裕行：〔分担〕手術関連薬. Pocket Drugs 2017 (〔監修〕福井次矢 [編集] 小松康宏, 渡邊裕司), 2017；pp822-829, 医学書院.
- 6) 金 史英, 横田裕行：〔分担〕止血薬. Pocket Drugs 2017 (〔監修〕福井次矢 [編集] 小松康宏, 渡邊裕司), 2017；pp830-836, 医学書院.
- 7) 横田裕行：〔分担〕超高齢社会に対応した救急医療体制の再構築が喫緊の課題. 医療界キーパーソンに聞く PART3 (〔編著〕長野祐也), 2017；pp37-47, ぎょうせい.
- 8) 横堀将司：〔分担〕第8章 頭部外傷. 改訂第5版 外傷初期診療ガイドライン (へるす出版), 2016；pp125-141, へるす出版.
- 9) 横堀将司：〔分担〕神経集中治療 重症頭部外傷に対して低体温療法は有効か?. 救急・集中治療, 2016；pp866-872, 総合医学社.
- 10) 横堀将司：〔分担〕脳室ドレナージ：頭蓋内の解剖・生理学を理解して適切な管理を行う. Intensivist, 2016；pp527-533, メディカルサイエンスインターナショナル.

- 11) 横堀将司：〔分担〕頭部外傷と低体温療法：Timing と Target が重要なのだ！. 救急医学, 2016；pp704-707, へるす出版.
- 12) 小原良規¹⁾ (1) 整形外科リウマチ外科)：〔自著〕Ortho interface 災害医療と血栓症. Salvus (菅野伸彦, 高井信朗, 田中 栄, 土屋弘行, 福田寛二), 2017；pp2-3, 株式会社メディカルレビュー社.
- 13) 横田裕行：〔分担〕ショッカー緊急検査と処置. 今日の治療指針 2017, 2017；pp8-9, 医学書院.
- 14) 小笠原智子：〔分担〕消化管損傷 (十二指腸を含む). 今日の治療指針 2017, 2017；pp63-63, 医学書院.
- 15) 横田裕行：〔分担〕1次救命処置 (BLS)：成人. 今日の治療指針 2017, 2017；pp79-81, 医学書院.
- 16) 浅利 靖¹⁾, 太田 凡²⁾, 坂本哲也³⁾, 嶋津岳士⁴⁾, 鈴木 昌⁵⁾, 谷川攻一⁶⁾, 長尾 建⁷⁾, 藤谷茂樹⁸⁾, 三宅康史⁹⁾, 森村尚登¹⁰⁾, 横田裕行 (1) 北里大学医学部救命救急医学, 2) 京都府立医科大学大学院医学研究科救急・災害医療システム学, 3) 帝京大学医学部救急医学講座, 4) 大阪大学大学院医学系研究科生体統御医学講座救急医学, 5) 慶應義塾大学医学部救急医学, 6) 福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター, 7) 日本大学病院循環器病センター循環器内科, 8) 聖マリアンナ医科大学救急医学集中治療部, 9) 帝京大学医学部救急医学講座, 10) その他)：〔翻訳責任者〕AMLS (Advanced Medical Life Support) 日本語版一観察に基づいたアプローチ. AMLS (Advanced Medical Life Support) 日本語版一観察に基づいたアプローチ (【監訳】坂本哲也, 谷川攻一), 2016；へるす出版.
- 17) 増野智彦：〔分担〕破傷風. 今日の治療指針 2017, 2017；pp192-194, 医学書院.

学会発表

(1) 会長講演：

- 1) 横田裕行：重症頭部外傷治療への挑戦. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回), 2016. 11.

(2) 特別講演：

- 1) 増野智彦：ショック輸液. 千駄木プレホスピタル研究会 (第22回) (東京), 2016. 6.

(3) 招待講演：

- 1) Yokobori S : Geriatric TBI in Japan : Lessons from the country with the highest longevity in the world. International Conference of Emergency Medicine 2016 (Cape Town), 2016. 4.
- 2) Yokobori S : Progress of Intravascular Temperature Management : Lessons from the Recent Trials. Annual conference of Taiwan Emergency Medicine (Taipei), 2016. 6.
- 3) 横堀将司：救急医療における意識の評価と管理. 救急災害医療セミナー (名古屋), 2016. 9.
- 4) 横堀将司：救急現場で遭遇する意識障害：『けいれん』と『てんかん』を中心に. 宮城県救急医療研究会第18回学術集会 (仙台) (仙台), 2016. 9.
- 5) 横堀将司：脳神経モニタリングを用いた神経集中治療の基本. 脳神経外科救命医によるケースディスカッション in 関西 (大阪), 2016. 9.
- 6) 横堀将司：社会構造の変化と頭部外傷治療の変遷. 2016年度 日本損害保険協会 研究報告会 (東京), 2016. 12.
- 7) Araki T, Yokota H : Simulation-based training for determination of brain death in Japan. Annual Conference of Neurotrauma Society of India (25th) (Delhi, India), 2016. 8.
- 8) 増野智彦：熱中症診療の最新の動向と日常診療のコツ. 浅草医師会学術講演会 (東京), 2016. 7.

(4) 教育講演：

- 1) 横田裕行：脳死下臓器提供時の課題と展望. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第19回) (福島), 2016. 5.
- 2) 横田裕行：脳死下臓器提供の課題と今後：救急医の視点から. 日本呼吸器学会学術講演会 (第56回) (京都), 2016. 4.
- 3) 横堀将司：頭部外傷. 国際脳神経救急・集中治療合同シンポジウム ENLS コース (東京) (東京), 2016. 11.
- 4) 横堀将司：初期治療における頭部外傷治療戦略. 日本外傷学会総会・学術集会 (第30回) (東京), 2016. 5.
- 5) 増野智彦：救急医療におけるHBOTの意義と将来. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第51回) (東京), 2016. 12.

(5) シンポジウム：

- 1) 小塚隆司¹⁾, 緒形翔一¹⁾, 吉田文哉, 吉野雄大, 山名英俊, 増野智彦, 横田裕行 (1) 東京消防庁)：血管認識度の穿刺成功率への影響について. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第19回) (福島), 2016. 5.
- 2) 横堀将司, 金谷貴大, 恩田秀賢, 栗本健太郎, 荒木 尚, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行：治療標準化の流れは頭部外傷関連多発外傷のPreventable Trauma Deathを減らせたのか?. 日本外傷学会総会・学術集会 (第30回) (東京), 2016. 5.
- 3) 布施 明, 萩原 純, 布施理美, 宮内雅人, 横田裕行：警視庁IMATの運用：病院前救急診療として. 日本病院前救急診療医学会学術集会 (第11回) (岡山), 2016. 12.
- 4) 須崎紳一郎¹⁾, 布施 明 (1) 武蔵野赤十字病院 救命救急センター)：救急医による国際線機内ドクターコール応需の経験. 日本航空医療学会総会 (第23回) (埼玉), 2016. 10.
- 5) 中江竜太^{1, 2)}, 高山泰広, 横堀将司, 直江康孝²⁾, 佐藤秀貴, 横田裕行, 鈴木謙介¹⁾, 兵頭明夫¹⁾ (1) 獨協医科大学越谷病院 脳神経

- 外科, 2) 川口市立医療センター 救命救急センター) : 高齢者頭部外傷における凝固線溶系マーカーの経時変化の特徴と治療戦略. 日本脳神経外科学会総会 (第 75 回) (福岡), 2016. 9.
- 6) 中江竜太^{1,2)}, 高山泰広²⁾, 横堀将司²⁾, 直江康孝²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 横田裕行²⁾, 鈴木謙介¹⁾, 兵頭明夫¹⁾ (1) 独協医科大学越谷病院脳神経外科, 2) 日本医科大学救急医学) : 重症頭部外傷の子後予測因子と治療戦略. 日本脳神経外傷学会 (第 40 回) (東京), 2017. 3.
- 7) 荒木 尚, 横田裕行, 師田信人¹⁾ (1) 東京都立小児総合医療センター脳神経外科) : Abusive Head Trauma に対する脳神経外科的治療の意義 : 単純事故症例との転帰比較. 日本脳神経外傷学会 (第 40 回) (東京), 2017. 3.
- 8) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 荒木 尚, 横堀将司, 中江竜太 : 脳圧センサーハンズオンセミナーからみる脳神経外傷の研修について. 日本脳神経外傷学会 (第 40 回) (東京), 2017. 3.
- 9) 金 史英, 増野智彦, 萩原 純, 萩原一樹, 瀧口 徹, 萩原令彦, 辻井厚子, 新井正徳, 横田裕行 : 出血制御を要した腹腔内出血, 後腹膜出血症例の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (横浜), 2017. 3.
- 10) 横田裕行^{1,3)}, 荒木 尚^{1,3)}, 有賀 徹^{2,3)} (1) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野, 2) 独立行政法人労働者健康安全機構, 3) 臓器移植関連学会協議会臓器提供施設体制整備委員会) : 円滑な脳死下臓器提供に向けて. 日本臨床倫理学会第 5 回年次大会 (東京), 2017. 3.
- 11) 横堀将司, 末廣栄一, 黒田泰弘, 小畑仁司, 河北賢哉, 八ツ繁寛, 畝本恭子, 中村普彦, 宮城知也, 平尾朋仁 : HOPES Trial : 局所性脳損傷患者に対する早期導入脳低温療法の有効性の検討 : 進捗と課題. 日本脳低温療法・体温管理学会 (第 19 回) (松山), 2016. 7.
- 12) 横堀将司, 横山瑞恵, 山崎直人, 齋藤徳子, 金谷貴大, 山名英俊, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 : 重症熱中症に対する血管内冷却法を用いた冷却効果の検討. 日本脳低温療法・体温管理学会 (第 19 回) (松山), 2016. 7.
- 13) Yokobori S, Spurlock M¹⁾, Lee S¹⁾, Gajavelli S¹⁾, Bullock R¹⁾, Hiroyuki Y (1) Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami FL, USA) : Challenges with Lab to Bed, Bed to Lab Endless Cascade for the Innovation of Treatment for Traumatic Brain Injury. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 76 回) (福岡), 2016. 10.
- 14) 齋藤伸行¹⁾, 八木貴典¹⁾, 岡田一宏¹⁾, 久城正紀¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 院内感染症に対する qSOFA スコアの診断制度の検査. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
- 15) 渥美生弘¹⁾, 後藤 励²⁾, 坂本哲也³⁾, 森村尚登⁴⁾, 長尾 建⁵⁾, 浅井康文⁶⁾, 横田裕行, 田原良雄⁷⁾, 長谷 守⁸⁾, 酒井未知⁹⁾ (1) 聖隷浜松病院救命救急センター, 2) 慶應義塾大学大学院経営管理研究所, 3) 帝京大学救急医学, 4) 横浜市立大学救急医学, 5) 日本大学病院循環器センター, 6) 函館新都市病院, 7) 国立循環器病研究センター心臓血管内科, 8) 札幌禎心会病院心臓血管センター, 9) ヘルスサービス R&D センター (CHORD-J)) : ECPR 導入における費用対効果. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
- 16) 小畑仁司¹⁾, 黒田泰弘¹⁾, 木下浩作¹⁾, 永山正雄¹⁾, 坂本哲也¹⁾, 横田裕行 (1) 大阪府三島救命救急センター, 2) 香川大学医学部救急災害医学, 3) 日本大学医学部救急医学系救急集中治療医学, 4) 国際医療福祉大学熱海病院神経内科, 脳卒中・神経センター, 5) 帝京大学医学部救急医学) : Emergency Neurological Life Support (ENLS) コースの日本開催と今後の展開. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
- 17) Yamada M^{1,3)}, Matsuda A²⁾, Aiso S³⁾, Masuno T, Matsumoto H¹⁾, Miyashita M²⁾, Yokota H (1) Department of Shock and Trauma Center/Hokusho HEMS, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Department of Anatomy, Keio University School of Medicine) : A novel therapeutic seeds protecting from chronic cognitive impairment in post-intensive care unit syndrome. 国際脳神経救急・集中治療合同シンポジウム (東京), 2016. 11.
- 18) 荒木 尚, 横田裕行 : 臓器提供施設における体制整備の努力を振り返る. 日本臨床腎移植学会 (第 50 回) (神戸), 2017. 2.
- 19) 石川秀樹^{1,2)}, 伊藤雅史^{1,2)}, 山澤文裕²⁾, 石原 哲¹⁾, 宮崎舜賢¹⁾, 田中秀治²⁾, 三橋敏武²⁾, 真鍋知宏²⁾, 横田裕行¹⁾, 猪口正孝¹⁾ (1) 東京都医師会救急委員会, 2) 東京マラソン医療救護対策検討部会) : 東京マラソンから東京オリンピック・パラリンピックへの繋ぐ医療体制. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 20) 岡田一宏^{1,2)}, 齋藤伸行^{1,2)}, 八木貴典^{1,2)}, 原 義明^{1,2)}, 松本 尚^{1,2)}, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院救急医学) : 外傷症例における venous thromboembolism (VTE) 発生の予測に対する D-dimer の有用性の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 21) 山田真吏奈^{1,3)}, 松田明久²⁾, 相磯貞和³⁾, 増野智彦, 松本 尚¹⁾, 宮下正夫²⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 慶應義塾大学医学部解剖学教室) : 全身炎症が脳機能に与える影響の検討から得られた治療シーズ : 基礎研究. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 22) 荒木 尚, 川井 真, 宮内雅人, 須崎 真, 若栗浩明, 桐木園子, 横堀将司, 恩田秀賢, 榎本健太郎, 横田裕行 : 多発外傷患者における頭部外傷診療の意義. 救急整形外傷シンポジウム (第 22 回) (札幌), 2016. 6.
- 23) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 横堀将司, 榎本健太郎, 恩田秀賢, 五十嵐豊, 山口昌紘, 高山泰広, 佐藤秀貴, 北菌雅敏, 森田明

- 夫：小児重症頭部外傷による頭蓋内圧亢進に対する治療選択と減圧開頭術の適応. 日本小児救急医学会（第30回）（仙台），2016. 7.
- 24) Araki T, Miyauchi M, Suzaki M, Degawa R, Wakakuri H, Saegusa T, Onodera N, Kirinoki S, Ohara T, Hyodo H, Kawai M, Yasutake M, Yokota H, Morita A, Ito Y: Characteristics and management of mild traumatic brain injury with intracranial hemorrhagic lesion in children. 日本病院総合診療医学会（第13回）（東京），2016. 9.
- 25) 増野智彦, 横田裕行: 出血性ショック患者に対する人工血液の効果と問題点. 日本血液代替物学会年次大会（第23回）（東京），2016. 11.
- (6) パネルディスカッション:
- 1) 横堀將司, 金谷貴大, 瀨瀬健太, 恩田秀賢, 榎本健太郎, 荒木 尚, 布施 明, 横田裕行: 外傷診療標準化は多発外傷合併頭部外傷の転帰を改善したか? 日本頭部外傷データベース登録症例による検討. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第19回）（福島），2016. 5.
 - 2) 荒木 尚: 虐待による頭部外傷の特徴と治療. 日本小児医療政策研究会（第13回）（東京），2017. 3.
 - 3) 石川秀樹¹⁾, 石原 哲¹⁾, 宮崎舜賢¹⁾, 横山隆捷¹⁾, 小山英樹¹⁾, 大桃丈知¹⁾, 三浦邦久¹⁾, 横田裕行¹⁾, 伊藤雅史¹⁾, 猪口正孝¹⁾ (1) 東京都医師会救急委員会): 東京都における高齢者救急: 東京を都民の終の棲家とするために. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 4) 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 山村英治¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 望月 徹¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター): 病院前救護における熱傷初期診療標準化. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 5) 松本 尚¹⁾, 竹島茂人³⁾, 益子一樹^{1,2)}, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学, 2) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 3) 自衛隊中央病院救急科): 陸上自衛隊野外手術システムの展開と外傷診療チームの編成. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 6) 塚本剛志, 川井 真, 横田裕行: “Preventable Trauma Disability”を減らすための挑戦. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 7) 原 義明¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 八木貴典¹⁾, 益子一樹¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 本村友一¹⁾, 中山文彦¹⁾, 岡田一宏¹⁾, 川井 真, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): Preventable Disability 撲滅のためには外傷センターの質を担保する必要がある. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 8) 横堀將司, 金谷貴大, 山口昌紘, 萩原 純, 石井浩統, 恩田秀賢, 榎本健太郎, 荒木 尚, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行: 心停止患者における転帰予測と治療: Biomarker-based treatment strategy への挑戦. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 9) 木下順弘¹⁾, 横田裕行, 小池 薫²⁾, 織田 順³⁾ (1) 救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会（国立病院機構大阪医療センター）, 2) 京都大学初期診療・救急医学, 3) 東京医科大学救急・災害医学): 救急医療における終末期症例 WEB 登録の最終結果について. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 10) 荒木 尚^{1,2)}, 市川光太郎¹⁾, 西山和孝¹⁾, 新津健裕¹⁾, 山本剛史¹⁾, 種市尋宙¹⁾, 長村敏生¹⁾, 鶴 智光¹⁾, 梅原 実¹⁾, 里見 昭¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本小児救急医学会脳死問題検討委員会, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 小児の脳死および臓器移植に関する意識調査: 日本小児救急医学会脳死問題検討委員会アンケート報告. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 11) 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 益子一樹, 齋藤伸行, 飯田浩章, 本村友一, 中山文彦, 岡田一宏, 安松比呂志, 横田裕行: 超分子ゲルを用いたダメージコントロール手術時のパッキング素材の開発. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 12) 東 和明¹⁾, 小山 敦²⁾, 村尾亮子²⁾, 新谷史明²⁾, 金子純也, 横田裕行 (1) 水戸済生会総合病院, 2) いわき市立総合磐城共立病院): 一酸化炭素 (CO) 中毒における顔色の評価と経皮的酸素飽和度 (SpO₂) の測定. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 13) 山田真吏奈^{1,3)}, 松田明久²⁾, 増野智彦³⁾, 松本 尚¹⁾, 宮下正夫²⁾, 横田裕行³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野): 救急医学研究を進展させるためにできること: 基礎研究者の立場から. 日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
 - 14) 金 史英, 松居亮平, 塩田浩平, 瀧口 徹, 石木義人, 萩原 純, 萩原令彦, 石井浩統, 増野智彦, 新井正徳, 横田裕行: 広範囲腹壁欠損を伴い、複数回の出血性ショックイベントを併発した劇症型大腸アメーバの1例から学ぶ. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会（第8回）（大阪国際会議場），2016. 9.
- (7) セミナー:
- 1) 横田裕行: 脳死判定にほける補助検査. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会（第29回）（東京），2016. 6.
 - 2) 横堀將司: 血管内体温管理法の現状と可能性. 日本脳低温療法・体温管理学会（第19回）（松山），2016. 7.

- 3) 横堀将司：脳室ドレナージ。JSEPTIC セミナー（第 29 回）（東京），2016. 9.
 - 4) 横堀将司：救急・集中治療領域における持続脳波測定の有用性。日本救急医学会総会・学術集会（第 44 回）（東京），2016. 11.
 - 5) 荒木 尚：薬物療法。脳神経救急・集中治療セミナー（東京），2016. 11.
 - 6) 荒木 尚：脳死判定。小児救急における脳死患者の対応セミナー（仙台），2016. 7.
 - 7) 荒木 尚：小児外傷の特徴と諸問題。医研セミナー（札幌），2016. 10.
- (8) ワークショップ：
- 1) 荒木 尚，横田裕行，布施 明，横堀将司，榎本健太郎，恩田秀賢：救急・集中治療における一般の脳死判定の現況と患者対応に関する研究。日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会（第 29 回）（東京），2016. 6.
 - 2) 藤田昌久¹⁾，工藤大介²⁾，加藤康幸²⁾，椎野泰和²⁾，佐々木淳一²⁾，横田裕行²⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院医療安全管理部感染制御室，²⁾ 救急外来部門における感染対策検討（ERIC）ワーキンググループ）：救急外来部門における感染対策：ハード面からの提言。日本救急医学会総会・学術集会（第 44 回）（東京），2016. 11.
 - 3) 椎野泰和¹⁾，池田弘人²⁾，工藤大介²⁾，志馬伸朗²⁾，佐々木淳一²⁾，横田裕行²⁾（¹⁾ 川崎医科大学救急医学，²⁾ 日本救急医学会救急外来部門における感染対策検討委員会）：救急外来部門における感染対策：ソフト面からの提言。日本救急医学会総会・学術集会（第 44 回）（東京），2016. 11.
 - 4) 志馬伸朗¹⁾，柳原克紀¹⁾，佐々木淳一¹⁾，池田弘人¹⁾，工藤大介¹⁾，椎野泰和¹⁾，横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本救急医学会救急外来部門における感染対策検討委員会）：救急外来における微生物検査。日本救急医学会総会・学術集会（第 44 回）（東京），2016. 11.
 - 5) 森田正則¹⁾，横田順一郎¹⁾，佐々木淳一²⁾，横田裕行²⁾（¹⁾ 堺市立総合医療センター救命救急センター，²⁾ 日本救急医学会救急外来部門における感染対策検討委員会）：病院前における感染対策予防策の現状と課題。日本救急医学会総会・学術集会（第 44 回）（東京），2016. 11.
- (9) ポスター：
- 1) 萩原 純，金谷貴大，桑原広輔，横堀将司，金 史英，横田裕行：救命センターで経験した重症筋無力症の 1 例。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第 19 回）（福島），2016. 5.
 - 2) 宮内雅人，山名英俊，萩原 純，増野智彦，布施 明，横田裕行：救急現場における最適な呼吸数計測方法の検討：呼吸数測定器 Nellcor PM1000N の使用経験。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第 19 回）（福島），2016. 5.
 - 3) 稲毛俊介¹⁾，岡田 慧¹⁾，荻上友梨香¹⁾，渡邊友佳¹⁾，恩田秀賢，横堀将司，榎本健太郎，布施 明，片山志郎¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部）：急性脳損傷患者に対するアセトアミノフェン静注製剤の有効性に関する検討。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第 19 回）（福島），2016. 5.
 - 4) 九城正紀¹⁾，益子一樹¹⁾，本村友一¹⁾，安松比呂志¹⁾，八木貴典¹⁾，齋藤伸行¹⁾，原 義明¹⁾，松本 尚¹⁾，横田裕行，千葉県交通事故調査委員会（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター）：千葉県におけるラピッドカー運用の提言。日本病院前救急診療医学学会学術集会（第 11 回）（岡山），2016. 12.
 - 5) 池田有紗¹⁾，倉持有希²⁾，永射新司²⁾，横堀将司，山名英俊，梅本一紀，鶴町宗大，油原信二，寺岡晋太郎，萩原令彦，小笠原智子，恩田秀賢，石井浩統，増野智彦，宮内雅人，その他 2 名（¹⁾ 医学部第 3 学年，²⁾ 東京消防庁日本医大委託研修生）：高度救命救急センターにおける急性中毒患者の転帰決定因子の検討。日本医科大学医学会総会（第 84 回）（東京），2016. 9.
 - 6) 平形希利慧¹⁾，萩原 純，山口昌紘，桑原広輔，瀧口 徹，横堀将司，金 史英，横田裕行，齋藤 研²⁾，児玉詠美²⁾，玉井秀明²⁾，林田真喜子³⁾（¹⁾ 医学部第 5 年生，²⁾ 日本医科大学付属病院初期臨床研修医，³⁾ 法医学）：当初診断に苦慮した有機リン中毒の 1 例：過去 10 年間の症例を振り返る。日本医科大学医学会総会（第 84 回）（東京），2016. 9.
 - 7) 中井将人¹⁾，朝倉隆之，横堀将司，後藤祥子，大塚悠介，小林純子，塩田浩平，金谷貴大，萩原一樹，石木義人，塚本剛志，榎本健太郎，増野智彦，布施 明，横田裕行，その他 1 名（¹⁾ 医学部第 3 学年）：ラット急性硬膜下血腫モデルにおける行動実験評価：神経再生医療を目指して。日本医科大学医学会総会（第 84 回）（東京），2016. 9.
 - 8) 山本雅貴¹⁾，倉持有希²⁾，永射新司²⁾，横堀将司，山名英俊，齋藤 研，児玉詠美，土方奈奈子，玉井秀明，桑原広輔，山口昌紘，瀧口 徹，萩原 純，金 史英，増野智彦，その他 2 名（¹⁾ 医学部第 3 学年，²⁾ 東京消防庁日本医大委託研修生）：ドクターカーによる外傷患者病院前救護の有用性の検討。日本医科大学医学会総会（第 84 回）（東京），2016. 9.
 - 9) 中村真寿美¹⁾，萩原 純，瀧口 徹，山口昌紘，桑原広輔，横堀将司，金 史英，増野智彦，横田裕行，根井貴仁²⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院初期臨床研修医，²⁾ 日本医科大学付属病院医療安全管理部感染制御室）：ピロリ菌 3 次除菌を契機に劇症型クロストリジウム・ディフィシル感染症を発症した 1 例。日本医科大学医学会総会（第 84 回）（東京），2016. 9.
 - 10) 大塚悠介，石木義人，沼尾紳一郎，後藤祥子，林 美香，塩田浩平，金谷貴大，萩原一樹，塚本剛志，榎本健太郎，金 史英，新井正徳，辻井厚子，横田裕行：突発性食道破裂に対し，経腹的アプローチで良好な経過を得た 1 例。日本医科大学医学会総会（第 84 回）（東京），2016. 9.
 - 11) 寺岡晋太郎，山名英俊，萩原令彦，児玉 誠，石井浩統，恩田秀賢，小笠原智子，新井正徳，辻井厚子，横田裕行：肺癌の腕頭動脈・右鎖骨下動脈浸潤による咯血に対して集学的治療により救命し得た 1 例。日本医科大学医学会総会（第 84 回）（東京），2016.

9.

- 12) 後藤祥子, 塩田浩平, 小林順子, 大塚悠介, 金谷貴大, 萩原一樹, 石木義人, 塚本剛志, 榎本健太郎, 辻井厚子, 横田裕行: III 度熱中症に対し血管内冷却装置 Thermogard® を用いた急速冷却した 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
 - 13) 小林純子, 萩原令彦, 児玉 誠, 寺岡晋太郎, 山名英俊, 石井浩統, 恩田秀賢, 小笠原智子, 新井正徳, 横田裕行, 伊藤路子¹⁾, 岡部杏慈¹⁾, 市山 進¹⁾, 田中真百合¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院皮膚科): 口腔内から食道粘膜が逸脱した類天疱瘡の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
 - 14) 山名英俊, 萩原 純, 横堀将司, 藤江 聡¹⁾, 世良俊樹¹⁾, 小井土雄一²⁾, 布施 明, 大友康裕¹⁾, 横田裕行 (1) 東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センター, 2) 国立病院機構災害医療センター救命救急科): 都心部におけるドクターカーの有効性に関する一考察. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 22 回) (名古屋), 2017. 2.
 - 15) 久城正紀¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 岡田一宏¹⁾, 太田黒崇伸¹⁾, 本村友一¹⁾, 益子一樹¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 外傷患者に対する挿管回避・肺炎予防を目的とした NPPV (Noninvasive Positive Pressure Ventilation). 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
 - 16) 萩原 純, 中村真寿美, 瀧口 徹, 山口昌紘, 桑原広輔, 横堀将司, 金 史英, 増野智彦, 根井貴仁¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院医療安全全部感染制御室): ピロリ菌 3 次除菌を契機に劇症型クロストリジウム・デフィシル感染症を発症した 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
 - 17) 菊池広子¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 山村英治¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 望月 徹¹⁾, 松田 潔¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター): ホメピゾールの登場がもたらす, 治療法への影響. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
 - 18) 樽本浩司^{1,2)}, 齋藤伸行^{1,2)}, 八木貴典^{1,2)}, 原 義明^{1,2)}, 松本 尚^{1,2)}, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院救急医学): 頸椎頸髄損傷患者における外傷性椎骨動脈損傷の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
 - 19) 田畑輝海¹⁾, 松園幸雅¹⁾, 藤江康行¹⁾, 勝守高士¹⁾, 大嶋壽海¹⁾, 横田裕行 (1) 荒尾市市民病院救急科): イルベサルタン + アムロジピン配合錠の大量服薬により治療に難渋した 1 例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
 - 20) 山田真史奈, 増野智彦, 松本 尚, 横田裕行: 早期の感染コントロールは, 敗血症マウスモデルにおける PICS 脳機能障害を抑制させる. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
 - 21) 諸江雄太¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 田上 隆¹⁾, 金子純也¹⁾, 福田令雄¹⁾, 小柳正雄¹⁾, 北橋章子¹⁾, 田中知恵¹⁾, 柴田あみ¹⁾, 久野将宗¹⁾, 工藤小織¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 待機的気管切開術の合併症は術者の卒後年数で差がでるか?. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
 - 22) 秋山 豪¹⁾, 佐竹秀一¹⁾, 白石振一郎¹⁾, 伊藤雅之²⁾, 土佐亮一¹⁾, 横田裕行 (1) 会津中央病院救命救急センター, 2) 会津中央病院外傷再建外科): 集学的治療により救命し得た開放性骨盤骨折の 1 症例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
 - 23) 萩原令彦, 金 史英, 足立国大, 吉野雄大, 松居亮平, 石井浩統, 萩原 純, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行: 両閉鎖孔ヘルニアが併存していた腹壁癭痕ヘルニア陥頓の 1 例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
 - 24) 中山文彦^{1,2)}, 益子一樹^{1,2)}, 八木貴典^{1,2)}, 齋藤伸行^{1,2)}, 原 義明^{1,2)}, 松本 尚^{1,2)}, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学救急医学): 鈍的胸部大動脈損傷治療の課題. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
 - 25) 須崎 真¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 若栗大朗¹⁾, 桐木園子¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 兵働英也¹⁾, 荒木 尚^{1,2)}, 宮内雅人^{1,2)}, 川井 真^{1,2)}, 横田裕行²⁾, 安武正弘¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 大学病院救急外来を受診したてんかん・痙攣症例の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- (10) 一般講演:
- 1) 塩田浩平, 松居亮平, 小林純子, 金谷貴大, 萩原一樹, 石木義人, 塚本剛志, 榎本健太郎, 金 史英, 増野智彦, 横田裕行: 全大腸壊死, 腹腔内膿瘍を形成した劇症型アメーバ性大腸炎の一救命例. 日本救命医療学会総会・学術集会 (第 31 回) (福岡), 2016. 9.
 - 2) 萩原 純, 吉野雄大, 五十嵐豊, 横堀将司, 布施 明, 横田裕行: 過去の経験で東京オリンピックに備えられるか. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 19 回) (福島), 2016. 5.
 - 3) 中山文彦^{1,2)}, 益子一樹^{1,2)}, 本村雄一^{1,2)}, 安松比呂志^{1,2)}, 服部 陽^{1,2)}, 阪本太吾^{1,2)}, 原 義明^{1,2)}, 齋藤伸行^{1,2)}, 八木貴典^{1,2)}, 飯田浩章^{1,2)}, 瀬尾卓生^{1,2)}, 近田祐介^{1,2)}, 岡田一宏^{1,2)}, 松本 尚^{1,2)}, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野): 鈍的外傷による下大静脈損傷の治療の課題. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 30 回) (東京), 2016. 5.
 - 4) 奥寺 敬¹⁾, 荒木 尚, 畝本恭子²⁾, 永山正雄³⁾ (1) 富山大学大学院危機管理医学 (救急・災害医学), 2) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, 3) 国際医療福祉大学熱海病院神経内科, 同脳卒中・神経センター): JRC 蘇生ガイドライン 2015・脳神経蘇生における頭部外傷および Spinal Emergency の新設. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 30 回) (東京), 2016. 5.

- 5) 松本 学¹⁾, 岩瀬史朗¹⁾, 井上潤一¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 河野陽介¹⁾, 木下大輔¹⁾, 岩瀬弘明²⁾, 横田裕行 (1) 山梨県立中央病院救命救急センター, 2) 山梨県立中央病院整形外科): 急性期バイオマーカーによる外傷凝固障害予測. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 30 回) (東京), 2016. 5.
- 6) 石井浩統, 金 史英, 松居亮平, 萩原令彦, 萩原 純, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行: 肋骨骨折の胸腔鏡所見. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 30 回) (東京), 2016. 5.
- 7) 佐々木晶子¹⁾, 宮内雅人^{1,2)}, 須崎 真¹⁾, 荒木 尚^{1,2)}, 川井 真^{1,2)}, 横田裕行²⁾, 安武正弘¹⁾ (1) 日本医科大学総合診療センター, 2) 日本医科大学高度救命救急センター): 軽症頭部外傷で来院, 異所性妊娠が判明した 1 例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 30 回) (東京), 2016. 5.
- 8) 坂本和嘉子^{1,2)}, 増野智彦¹⁾, 塚本剛志¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 趙 東威²⁾, バニャータンナイン²⁾, 瀧澤俊広²⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学, 2) 日本医科大学分子解剖学): 正常ラット腸間膜リンパ液の miRNA の安定性. 日本 Shock 学会総会 (第 31 回) (東京), 2016. 10.
- 9) 由井奏子, 恩田秀賢, 金谷貴大, 横堀将司, 榎本健太郎, 荒木 尚, 布施 明, 横田裕行: 両側瞳孔散大の急性硬膜下血腫で転帰良好であった 1 例. 日本神経救急学会学術集会 (第 30 回) (東京), 2016. 6.
- 10) 藤江 聡¹⁾, 世良俊樹¹⁾, 萩原 純, 横堀将司, 布施 明, 久野将宗²⁾, 畝本恭子²⁾, 小井土雄一³⁾, 大友康裕¹⁾, 横田裕行 (1) 東京医科歯科大学附属病院救命救急センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, 3) 災害医療センター救命救急科): 東京ドクターレジストリ. 日本病院前救急診療医学会学術集会 (第 11 回) (岡山), 2016. 12.
- 11) 横堀将司, 金谷貴大, 山口昌紘, 五十嵐豊, 恩田秀賢, 荒木 尚, 布施 明, 横田裕行: 頭部外傷患者における自動瞳孔計を用いた対光反射測定の臨床的意義. 日本脳神経外傷学会 (第 40 回) (東京), 2017. 3.
- 12) 松本 学¹⁾, 岩瀬史朗¹⁾, 井上潤一¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 中野 真²⁾, 横田裕行³⁾ (1) 山梨県立中央病院救命救急センター, 2) 山梨県立中央病院脳神経外科): 救命救急センターにおける頭頸部外傷に対する血管内治療. 日本脳神経外傷学会 (第 40 回) (東京), 2017. 3.
- 13) 柴田あみ¹⁾, 金子純也¹⁾, 工藤小織¹⁾, 北橋章子¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 大腿筋膜を用いた頭蓋形成術の有用性. 日本脳神経外傷学会 (第 40 回) (東京), 2017. 3.
- 14) 恩田秀賢, 金谷貴大, 横堀将司, 荒木 尚, 布施 明, 横田裕行: 両側瞳孔散大急性硬膜下血腫症例に対する治療の検討. 日本脳神経外傷学会 (第 40 回) (東京), 2017. 3.
- 15) 中村祐基, 石井浩統, 神戸勇人, 藤田彩恵, 若田部誠, 山名秀俊, 萩原令彦, 恩田秀賢, 小笠原智子, 根井貴仁, 増野智彦, 宮内雅人, 横田裕行 (1) 日本医科大学感染制御室): 集中治療により救命しえた多臓器不全を伴うオウム病に対して救命しえた 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 67 回) (栃木), 2017. 2.
- 16) 金谷貴大, 横堀将司, 瀧口 徹, 萩原 純, 塩田浩平, 小林純子, 土合昌巳, 青木宏信, 恩田秀賢, 増野智彦, 荒木 尚, 金 史英, 布施 明, 横田裕行: 30 分を超える心停止後に良好な帰転を得た小児重症頭部外傷の 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 67 回) (栃木), 2017. 2.
- 17) 塩田浩平, 塚本剛志, 小林純子, 土合昌巳, 金谷貴大, 萩原一樹, 石木義人, 多賀麻里絵, 桑原広輔, 榎本健太郎, 宮内雅人, 新井正徳, 川井 誠, 横田裕行: 救命医と形成外科医とのチーム医療・フルニエ壊疽の 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 67 回) (栃木), 2017. 2.
- 18) 瀧口 徹, 金 史英, 萩原 純, 石井浩統, 小笠原智子, 萩原令彦, 石木義人, 萩原一樹, 小林純子, 土合昌巳, 新井正徳, 辻井厚子, 増野智彦, 横田裕行: 外傷に ECMO を導入し, 送血により損傷部に再出血を来した 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 67 回) (栃木), 2017. 2.
- 19) 樽本浩司¹⁾, 山本真梨子¹⁾, 阪本太吾¹⁾, 中山文彦¹⁾, 服部 陽¹⁾, 安松比呂志¹⁾, 益子一樹¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 液体大麻による body packer の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (横浜), 2017. 3.
- 20) 三樹いずみ¹⁾, 村田 智¹⁾, 上田達夫¹⁾, 杉原史恵¹⁾, 安井大祐¹⁾, 斎藤英正¹⁾, 横田裕行, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学): 重症急性膵炎に対する膵局所動注療法の治療効果と合併症. 日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (横浜), 2017. 3.
- 21) 萩原一樹, 金 史英, 瀧口 徹, 石木義人, 萩原令彦, 石井浩統, 萩原 純, 小笠原智子, 増野智彦, 辻井厚子, 新井正徳, 横田裕行: 広範囲の腹壁欠損をきたした劇症型アメーバ性大腸炎の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (横浜), 2017. 3.
- 22) 萩原一樹, 金 史英, 小林純子, 塩田浩平, 金谷貴大, 瀧口 徹, 石木義人, 塚本剛志, 萩原令彦, 石井浩統, 萩原 純, 小笠原智子, 増野智彦, 辻井厚子, 新井正徳, その他 3 名: 広範囲の腹壁欠損を合併したアメーバ性大腸炎の 1 例. 過大侵襲研究会 (東京), 2016. 9.
- 23) 横堀将司, 金谷貴大, 山口昌紘, 五十嵐豊, 恩田秀賢, 榎本健太郎, 荒木 尚, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行: 心停止後症候群における自動瞳孔計を用いた脳幹機能評価の有用性. 日本脳神経モニタリング学会 (第 22 回) (東京), 2016. 7.
- 24) 山名英俊^{1,2)}, 塩田浩平¹⁾, 柳田邦昭¹⁾, 青木宏信¹⁾, 萩原令彦¹⁾, 石井浩統¹⁾, 恩田秀賢¹⁾, 小笠原智子¹⁾, 横堀将司¹⁾, 塚本 剛¹⁾, 増野智彦¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 辻井厚子¹⁾, 布施 明¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院救命救急科, 2) 筑波メディカルセンター病院救急診療科): 洋上救急にて太平洋上より長距離搬送した広範囲熱傷の 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 67 回) (栃木), 2017.

2.

- 25) 山本小奈実¹⁾, 山勢博彰¹⁾, 田戸朝美¹⁾, 佐伯京子¹⁾, 立野淳子²⁾, 横田裕行¹⁾ 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻臨床看護学講座, ²⁾ 小倉記念病院): 脳死下臓器提供における看護師の役割についてのガイドライン(案)作成. 日本集中治療医学会学術集会(第44回)(札幌), 2017. 3.
- 26) 岡田一宏¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 久城正紀¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 重症外傷における persistent inflammation, immunosuppression, and catabolism syndrome の新診断基準. 日本集中治療医学会学術集会(第44回)(札幌), 2017. 3.
- 27) 藤木 悠¹⁾, 亦野文宏¹⁾, 久保田麻紗美¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 小南修二¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 横田裕行, 森田明夫²⁾ ¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): くも膜下出血予後予測因子としての Stress Index (BS/K ratio) の有用性. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 28) 並木 淳¹⁾, 多村知剛¹⁾, 関根和彦²⁾, 葉季久雄³⁾, 宮武 論⁴⁾, 横堀将司, 横田裕行, 堀 進悟¹⁾ ¹⁾ 慶應義塾大学医学部救急医学, ²⁾ 東京都済生会中央病院救急診療科, ³⁾ 平塚市民病院救急科, ⁴⁾ 済生会宇都宮病院救急科): 瞳孔計を用いた対光反射の定量評価による蘇生後脳症の予後予測: 多施設共同前向き研究の進捗状況. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 29) 太田黒崇伸¹⁾, 久城正紀¹⁾, 近田祐介¹⁾, 岡田一宏¹⁾, 八木貴典¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 救急外来受診患者における quick Sepsis-Related Organ Failure Assessment (qSOFA) を用いた敗血症診断の検証. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 30) 藤江 聡¹⁾, 世良俊樹¹⁾, 山名英俊, 萩原 純, 久野将宗²⁾, 金村剛宗³⁾, 布施 明, 加地正人¹⁾, 小井土雄一³⁾, 横田裕行, 大友康裕¹⁾ ¹⁾ 東京医科歯科大学付属病院, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院, ³⁾ 国立病院機構災害医療センター): 東京ドクターカーレジストリ 2015. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 31) 工藤小織¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 横田裕行, 柴田あみ¹⁾, 谷 将星¹⁾, 金子純也¹⁾, 栗本健太郎, 田上 隆¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 抗凝固, 抗血小板薬使用における脳出血の検討. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 32) 秋山真之¹⁾, 小山 敦¹⁾, 村尾亮子¹⁾, 駒沢大輔²⁾, 足立国大¹⁾, 横田裕行¹⁾ いわき市立総合磐城共立病院救命救急センター, ²⁾ いわき市立総合磐城共立病院消化器内科): 暴露形態がほぼ同一でありながら経過に大きな差異を生じた一酸化炭素中毒の2症例. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 33) 山本真梨子^{1,2)}, 齋藤伸行^{1,2)}, 益子一樹^{1,2)}, 八木貴典^{1,2)}, 原 義明^{1,2)}, 松本 尚^{1,2)}, 横田裕行²⁾ ¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学救急医学): 外傷性肺嚢胞 18 例に関する臨床的検討. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 34) 中江竜太^{1,2)}, 高山泰広³⁾, 横堀将司³⁾, 直江康孝²⁾, 佐藤秀貴³⁾, 横田裕行³⁾, 鈴木謙介¹⁾, 兵頭明夫¹⁾ ¹⁾ 独協医科大学越谷病院脳神経外科, ²⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ³⁾ 日本医科大学救急医学): 重症頭部外傷患者における凝固線溶系マーカーの経時変化と予後予測. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 35) 阪本太吾¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 重症外傷を除外するための D タイマーを用いたリスク評価. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 36) 中村俊介¹⁾, 三宅康史²⁾, 清水敬樹³⁾, 小田泰崇³⁾, 神田 潤³⁾, 白石振一郎³⁾, 若杉雅浩³⁾, 横田裕行³⁾ ¹⁾ 和歌山ろうさい病院救急科, ²⁾ 帝京大学救急医学講座, ³⁾ 日本救急医学会熱中症に関する委員会): 熱中症による中枢神経系後遺症の予後に関する検討: Heatstroke STUDY 2014 の結果分析より. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 37) 金子純也¹⁾, 柴田あみ¹⁾, 田中知恵¹⁾, 田上 隆¹⁾, 福田令雄¹⁾, 北橋章子¹⁾, 小柳正雄¹⁾, 久野将宗¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 横田裕行¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 救急医にとっての IVR 救急医はどこまで IVR を行うべきか. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 38) 久城正紀^{1,2)}, 齋藤伸行^{1,2)}, 岡田一宏^{1,2)}, 八木貴典^{1,2)}, 益子一樹^{1,2)}, 原 義明^{1,2)}, 松本 尚^{1,2)}, 横田裕行²⁾ ¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学救急医学講座): 骨盤骨折に対する血管造影検査の適応. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 39) 平林篤志¹⁾, 本村友一¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 平成 26 年度千葉県交通事故調査による PTD の検証. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 40) 直江康孝¹⁾, 小川太志¹⁾, 中野公介¹⁾, 米沢光平¹⁾, 鈴木 剛¹⁾, 中島靖浩¹⁾, 細井康太郎¹⁾, 徳田裕二¹⁾, 横田裕行¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター): 当院救命救急センターに入室した妊産婦救急患者の実態. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 41) 松居亮平, 石井浩統, 萩原令彦, 萩原 純, 増野智彦, 金 史英, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行: V-V-ECMO 導入下に開胸開腹手術を行った突発性食道破裂の1救命例. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016. 11.
- 42) 小川太志¹⁾, 徳田裕二¹⁾, 細井康太郎¹⁾, 中島靖浩¹⁾, 鈴木 剛¹⁾, 米沢光平¹⁾, 中野公介¹⁾, 直江康孝¹⁾, 横田裕行¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター): 上部消化管出血に対する外科的治療の検討. 日本救急医学会総会・学術集会(第44回)(東京), 2016.

11.

- 43) 小田有哉^{1,2)}, 齋藤伸行^{1,2)}, 服部 陽^{1,2)}, 安松比呂志^{1,2)}, 益子一樹^{1,2)}, 原 義明^{1,2)}, 松本 尚^{1,2)}, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学救急医学) : 出血性胃潰瘍における再出血ハイリスクについての検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
- 44) Araki T, Yokota H, Akira F, Yokobori S, Onda H, Kuwamoto K : Therapeutic strategy for severe traumatic brain injury in children and indication of decompressive craniectomy-a single center experience. Annual Meeting of the International Society of Pediatric Neurosurgery (44th) (Kobe), 2016. 10.
- 45) 荒木 尚, 市川光太郎, 横田裕行, 森田明夫 : 小児の脳死および臓器移植に関する意識調査 : 日本小児救急医学会脳死問題検討委員会アンケート報告. 日本脳神経外科学会総会・学術集会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
- 46) 荒木 尚, 宮内雅人¹⁾, 川井 真¹⁾, 安武正弘¹⁾, 須崎 真¹⁾, 出口龍哉¹⁾, 兵働英也¹⁾, 桐木園子¹⁾, 小野寺直子¹⁾, 若栗大朗¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 三枝太郎¹⁾, 横田裕行, 森田明夫²⁾, 伊藤保彦³⁾ (1) 日本医科大学総合診療科, 2) 日本医科大学脳神経外科, 3) 日本医科大学小児科) : 小児の軽症な頭部外傷の診断と入院適応 - 頭蓋内出血性病変を有する症例の転帰から -. 日本病院総合診療医学会学術集会 (第13回) (東京), 2016. 9.
- 47) 新井正徳, 金 史英, 萩原 純, 石井浩統, 萩原令彦, 瀧口 徹, 石木義人, 増野智彦, 小笠原智子, 横田裕行 : 破裂性腹部大動脈瘤の術後 open abdomen となり両側腹直筋鞘前葉反転法により閉鎖した症例の長期合併症の検討. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 (第8回) (大阪), 2016. 9.
- 48) 新井正徳, 金 史英, 増野智彦, 石井浩統, 萩原 純, 横田裕行 : Successful management of an early phase of abdominal wall reconstruction in patients with ruptured abdominal aortic aneurysm requiring open abdomen : A case report. Annual Congress of Korean Society of Acute Care Surgery (10th) (Busan, Korea), 2016. 4.
- 49) 瀧口 徹¹⁾, 金 史英¹⁾, 萩原一樹¹⁾, 萩原 純¹⁾, 石木義人¹⁾, 石井浩統¹⁾, 萩原令彦¹⁾, 小笠原智子¹⁾, 増野智彦¹⁾, 新井正徳¹⁾, 辻井厚子¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 救命救急科) : V-V, V-A ECMO を導入した頭部外傷を伴う出血性ショック症例. 外傷症例検討会 (東京), 2016. 11.
- 50) 瀧口 徹, 金 史英, 萩原一樹, 萩原 純, 石木義人, 石井浩統, 萩原令彦, 小笠原智子, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行 : 腹部刺創で腹動脈起始部損傷を生じ遅発性胃壊死を生じた1例. 日本 Acute Care Surgery 学会 (第8回) (大阪), 2016. 9.
- 51) 恩田秀賢 : くも膜下出血術後における髄液中 IL-6. STROKE 2017 (大阪), 2017. 3.
- 52) Araki T, Yokota H, Fuse A, Yokobori S, Kuwamoto K, Takayama Y : Selecting therapeutic methods from the neuro-intensive care protocol and indication of decompressive craniectomy in the management of severe traumatic brain injury in children. Annual Meeting of International Society for Pediatric Neurosurgery (44th), 2016. 10.
- 53) 松居亮平, 金 史英, 足立国大, 田山英樹, 岩井健司, 秋山真之, 石井浩統, 萩原令彦, 萩原 純, 増野智彦, 辻井厚子, 新井正徳, 横田裕行 : 横行結腸癌による消化管穿孔術後の閉腹が困難であった1例 (. 日本臨床外科学会総会 (第78回) (東京), 2016. 11.
- 54) 山田真吏奈, 千葉智宏¹⁾, 松田明久²⁾, 相磯貞和³⁾, 増野智彦, 松本 尚, 横田裕行, 宮下正夫²⁾ (1) 杏林大学医学部病理学, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 慶應義塾大学医学部解剖学) : PICS 病態におけるアストロサイトの役割. 外科侵襲とサイトカイン研究会 (第23回) (東京), 2016. 7.
- 55) 萩原令彦, 金 史英, 足立国大, 吉野雄大, 岩井健司, 松居亮平, 石井浩統, 萩原 純, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行 : Video-assisted thoracoscopic surgery による骨片摘出と肋骨プレート固定術を併用した外傷性肋骨骨折の1例. 日本呼吸器外科学会総会 (第33回) (京都), 2016. 5.
- 56) Irahara T^{1,2)}, Sato N²⁾, Otake K^{1,2)}, Inoue K³⁾, Koike K²⁾, Yokota H¹⁾ (1) Graduate School of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Primary Care and Emergency Medicine, Kyoto University, 3) Laboratory of Nutrition Chemistry, Division of Food Science and Biotechnology, Graduate School of Agriculture, Kyoto University) : Neuromuscular Electrical Stimulation (NMES) can Improve Lipid Metabolism and Survival of the Acute Endotoxic Shock Mice. The 8th Congress of the International Federation of Shock Societies (Tokyo), 2016. 10.
- (11) 研修会 :
1) 荒木 尚 : 脳死に至る病態と脳死判定について. 日本臓器移植ネットワーク研修会 (東京), 2016. 4.
- (12) English Session :
1) 田上 隆^{1,2)}, 諸江雄太¹⁾, 福田令雄¹⁾, 田中知恵¹⁾, 柴田あみ¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 康永秀生²⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, 2) 東京大学公共健康医学専攻臨床疫学・経済学) : Antithrombin use and 28-day mortality in patients with severe burns : an observational nationwide study. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
- (13) Joint Session :
1) 布施 明, 横堀将司, 荒木 尚, 横田裕行 : あらためて秋葉原無差別殺傷事件の医療対応をふりかえる. 日本外傷学会総会・学術集

会（第30回）（東京），2016. 5.

(14) poster :

- 1) Araki T, Yokota H, Fuse A, Yokobori S, Kuwamoto K, Onda H, Morita A : Therapeutic strategy for severe traumatic brain injury in children and indication of decompressive craniectomy A single center experience. World Congress of Pediatric Intensive Care (8th) (Toronto, Canada), 2016. 6.
- 2) Yamada M, Chiba T¹⁾, Matsuda A²⁾, Aiso S³⁾, Masuno T, Matsumoto H, Yokota H, Miyashita M²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ³⁾ Department of Anatomy, Keio University School of Medicine) : The Roll of Astrocytes in the Nervous System Dysfunction, Sepsis Induced Memory Impairment. The 8th Congress of the International Federation of Shock Societies (Tokyo), 2016. 10.
- 3) Otake K^{1,2)} (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Primary Care and Emergency Medicine, Kyoto University) : Lactoferrin Prevents Intestinal Epithelial Cell Damage Induced by Clostridium Difficile Toxin B. The 8th Congress of the International Federation of Shock Societies (Tokyo), 2016. 10.
- 4) Sekiguchi K¹⁾, Yamada M, Chiba T¹⁾, Matsuda A²⁾, Aiso S³⁾, Masuno T, Matsumoto H, Yokota H, Miyashita M²⁾, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ³⁾ Department of Anatomy, Keio University School of Medicine) : S14G-Humanin Improves the Survival from Severe Sepsis. The 8th Congress of the International Federation of Shock Societies (Tokyo), 2016. 10.

(15) Up-to-Date セッション :

- 1) 小畑仁司¹⁾, 黒田泰弘²⁾, 木下浩作³⁾, 永山正雄⁴⁾, 坂本哲也⁵⁾, 横田裕行, 有賀 徹⁶⁾ (¹⁾ 大阪府三島救命救急センター, ²⁾ 香川大学医学部救急災害医学, ³⁾ 日本大学医学部救急医学系救急集中治療医学, ⁴⁾ 国際医療福祉大学熱海病院神経内科, 脳卒中・神経センター, ⁵⁾ 帝京大学医学部救急医学, ⁶⁾ 昭和大学病院長) : Emergency Neurological Life Support (ENLS) コースの日本開催に向けて. 日本神経救急学会学術集会 (第30回) (東京), 2016. 6.

(16) ラウンドテーブルディスカッション :

- 1) 横田裕行 : 救命救急センター運営について 総論. 日本臨床知識学会第1回学術集会 (東京), 2017. 1.

(17) ワークショップビデオ :

- 1) 山本真梨子¹⁾, 服部 陽¹⁾, 阪本太吾¹⁾, 中山文彦¹⁾, 安松比呂志¹⁾, 本村友一¹⁾, 益子一樹¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総行院救命救急センター) : 現場にて切迫心停止となった外傷性子宮筋腫破裂の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第53回) (横浜), 2017. 3.

(18) 学生・研修医セッション :

- 1) 阿部浩征¹⁾, 中江竜太²⁾, 細井康太郎¹⁾, 鈴木 剛¹⁾, 米沢光平¹⁾, 中野公介¹⁾, 小川 太¹⁾, 直江康孝¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 独協医科大学越谷病院脳神経外科) : 大動脈縮窄症に合併したくも膜下出血の1例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
- 2) 由井奏子, 恩田秀賢, 金谷貴大, 山口昌紘, 横堀将司, 栗本健太郎, 荒木 尚, 布施 明, 横田裕行 : HITTにより良好な転帰を得た両側瞳孔散大呈した急性硬膜下血腫症例の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
- 3) 石川裕美子¹⁾, 田上 隆¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 福田令雄¹⁾, 盤井佑輔¹⁾, 久野将宗¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : 突発性食道破裂に対して, ポリグリコール酸シートを内視鏡的に使用した1例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.

(19) 関連セッション (シンポジウム) :

- 1) 益子一樹¹⁾, 安松比呂志¹⁾, 本村友一¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 指導救命士とタッグでMCを育てる. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
- 2) 近田祐介^{1,2)}, 八木貴典^{1,2)}, 原 義明^{1,2)}, 松本 尚^{1,2)}, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学救急医学) : 外傷性高次脳機能障害から子どもたちの未来を守る. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
- 3) 久野将宗¹⁾, 久保田稔¹⁾, 金子純也¹⁾, 工藤小織¹⁾, 田中知恵¹⁾, 福田令雄¹⁾, 北橋章子¹⁾, 小柳正雄¹⁾, 田上 隆¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : 救命救急センターICUにおける急性肺塞栓症予防に向けた深部静脈血栓症 (DVT) スクリーニング. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.

(20) 関連セッション (パネルディスカッション) :

- 1) 松園幸雄¹⁾, 大嶋壽海¹⁾, 勝守高士¹⁾, 田畑輝海¹⁾, 西 芳徳²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 荒尾市民病院救急科, ²⁾ 西整形外科医院) : 2次救急病院におけるICT導入. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
- 2) 田上 隆¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 久野将宗¹⁾, 工藤小織¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 小柳正雄¹⁾, 北橋章子¹⁾, 金子純也¹⁾, 福田令雄¹⁾, 田中知恵¹⁾, 柴田あみ¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : 重症救急疾患 big data・データベース構築と臨床研究への活用. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.

- 3) 苛原隆之^{1,2)}, 佐藤格夫²⁾, 大嶽康介^{1,2)}, 色田 悟²⁾, 井上和生³⁾, 小池 薫²⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学, 2) 京都大学初期診療・救急医学, 3) 京都大学栄養化学): 「もし大学病院の救急医が基礎研究をやったら」: 臨牀的視点からの基礎研究の重要性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- (21) 救急科領域講習:
- 1) 荒木 尚, 横田裕行: 小児救急医療の特徴と課題. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- (22) 講演:
- 1) 荒木 尚: 小児頭部外傷の診療. 日本小児救急医学会 (第 7 回) 加賀百万石教育研修セミナー (金沢), 2016. 12.
- 2) 横田裕行: 神経外傷治療の現状と未来—重症頭部外傷と neurointensive care. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会 (福岡), 2016. 9.
- 3) 横田裕行: 災害から身を守る: 自分の命, 家族の命. 海老名市医師会市民災害医療講習会 (神奈川), 2016. 10.
- 4) 横田裕行: 頸部損傷への対応と評価のポイント. 音声・嚙下・呼吸の懇話会 (第 20 回) (東京), 2017. 1.
- 5) 横田裕行: 多数傷病者発生時における対応要領. 平成 29 年度東京民間救急コールセンター登録事業者連絡協議会勉強会 (東京), 2017. 2.
- 6) 横田裕行: 救急における死体検案. 平成 28 年度死体検案研修会 (基礎) (東京), 2016. 11.
- 7) 荒木 尚: 小児頭部外傷の診断と治療 不安と苦手意識をどう克服してきたか. 佐賀大学こどもセンター多科合同カンファレンス (第 1 回) (佐賀), 2016. 5.
- 8) 荒木 尚: 小児外傷の特徴と諸問題. 日本看護協会認定看護学校 小児救急部門 (東京), 2016. 5.
- 9) 荒木 尚: 私の附設 和して同じない道が教えてくれたもの. 久留米大学附設中学・高等学校第四地区保護者会 (久留米), 2016. 9.
- 10) 荒木 尚: 僕の仕事と命の意味について: 中学時代に考えていたことから. 文京区立第八中学校 道徳地区公開講座 (東京), 2016. 9.
- 11) 荒木 尚: いのちと心の授業: 救急医療の現場と中学時代に考えていたこと. 文京区立第六中学校 道徳地区公開講座 (東京), 2016. 11.
- (23) 特別セッション:
- 1) 久保達彦¹⁾, 中山恵美子²⁾, 五十嵐豊, 夏川知輝³⁾, 島田千智⁴⁾, 富岡譲二⁵⁾, 小井土雄一⁶⁾ (1) 産業医科大学医学部公衆衛生学, 2) 亀田総合病院救命救急部, 3) 大阪府済生会千里病院千里救命救急センター, 4) 国立感染症研究所, 5) 社会医療法人緑泉会米盛病院, 6) 国立病院機構災害医療センター, 7) 厚生労働省医政局災害対策室 DMAT 事務局): The Minimum Data Set- 災害医療チームの活動日報に関する WHO 国際基準. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 22 回) (名古屋), 2017. 2.
- 2) 松園幸雄¹⁾, 大嶋壽海¹⁾, 勝守高士¹⁾, 田畑輝海¹⁾, 西 芳徳²⁾, 横田裕行 (1) 荒尾市民病院救急科, 2) 西整形外科医院): 熊本地震における当院の災害対策. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 3) 石木義人, 増野智彦, 高橋聡子, 稲毛俊介, 松永 龍, 横田裕行: 熊本地震重急性期における当院の医療支援活動. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- (24) 要望演題:
- 1) 石川秀樹^{1,2)}, 伊藤雅史^{1,2)}, 山澤文裕²⁾, 石原 哲¹⁾, 宮崎舜賢¹⁾, 田中秀治²⁾, 三橋敏武²⁾, 真鍋知宏²⁾, 横田裕行¹⁾, 猪口正孝¹⁾ (1) 東京都医師会救急委員会, 2) 東京マラソン医療救護対策検討部会): 東京マラソンにおける近隣協力医療機関の準備状況と今後の課題. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 22 回) (名古屋), 2017. 2.

著 書

[追加分]

追加分著書:

- 1) 新井正徳: [分担] 肝損傷の術後管理. 外傷の術後管理のスタンダードはこれだ! (清水敬樹), 2016: pp84-96, 羊土社.

学会発表

追加分教育講演:

- 1) 横堀将司, 金谷貴大, 瀬瀬健太, 金子純也, 恩田秀賢, 栗本健太郎, 荒木 尚, 畝本恭子, 布施 明, 横田裕行: 重症頭部外傷患者の神経集中治療. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.

追加分一般講演:

- 1) Yokobori S, Hergenroeder G¹⁾, Yokota H, Yamaguchi M, Kuroda Y¹⁾, Kawakita K¹⁾, Kobata H, Oda Y¹⁾, Yatushige H¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Hirao T¹⁾, Tasaki O¹⁾, Kaneko J, Unemoto K, Suehiro E¹⁾, et al. (1) HOPES Investigators): HOPES Trial: The randomized multicenter controlled trial for preoperative early-induced hypothermia and its scientific rationale. Symposium of

the International Neurotrauma Society (12th) (Cape Town (South Africa)), 2016. 2.

- 2) 新井正徳, 金 史英, 萩原 純, 石井浩統, 松居亮平, 萩原令彦, 吉田直人, 足立国大, 吉野雄大, 小山 敦, 増野智彦, 辻井厚子, 横田裕行: 閉腹困難となった open abdomen の新たな治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 3.
- 3) 三宅康史¹⁾, 横田裕行, 奥寺 敬²⁾, 小田泰崇³⁾, 北原孝雄⁴⁾, 清水敬樹⁵⁾, 白石振一郎⁶⁾, 坪倉正治⁷⁾, 中村俊介¹⁾, 若杉雅治²⁾ (1) 昭和大学医学部救急医学, 2) 富山大学大学院医学薬学研究部危機管理医学, 3) 山口大学大学院医学系研究科救急・生体侵襲制御医学分野, 4) 横浜旭中央総合病院脳血管センター, 5) 東京都立多摩総合医療センター救命救急センター, 6) 会津中央病院救命救急センター, 7) 東京大学医科学研究所): 低体温症の実態: Hypothermia STUDY2014 中間報告. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.
- 4) 岡田一宏¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 柴田あみ¹⁾, 九城正紀¹⁾, 阪本太吾¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): Persistent inflammation, immunosuppression and catabolism syndrome (PICS) 発症の関連因子についての検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.
- 5) 久野将宗¹⁾, 金子純也¹⁾, 磐井佑輔¹⁾, 田上 隆¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 谷 将星¹⁾, 富永直樹¹⁾, 福田令雄¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 心肺停止蘇生後に SSEP N-20 陰性から意識が回復した 2 症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.
- 6) 松居亮平, 新井正徳, 石井浩統, 萩原令彦, 萩原 純, 増野智彦, 金 史英, 宮内雅人, 辻井厚子, 横田裕行: 当院における Open abdominal management (OAM) 症例の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.
- 7) 苛原隆之^{1,2)}, 佐藤格夫²⁾, 大嶽康介^{1,2)}, 齋藤龍史²⁾, 角田洋平²⁾, 森 智治²⁾, 大鶴 繁²⁾, 井上和生³⁾, 小池 薫²⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野, 2) 京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学分野, 3) 京都大学大学院農学研究科食品生物科学専攻栄養化学分野): 敗血症早期の運動介入は PGC-1α を介して脂質代謝と生存率を改善する. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.
- 8) 阪本太吾¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 柴田あみ¹⁾, 岡田一宏¹⁾, 益子一樹¹⁾, 本村友一¹⁾, 八木貴典¹⁾, 原 義明¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): ICU 再入室例の原因に関する検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.
- 9) 齋藤伸行¹⁾, 八木貴典¹⁾, 岡田一宏¹⁾, 阪本太吾¹⁾, 本村友一¹⁾, 原 義昭¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 早期離床のための人工呼吸器離脱過程に関する検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.
- 10) 松本 学¹⁾, 岩瀬史明¹⁾, 井上潤一¹⁾, 小林辰輔¹⁾, 宮崎善史¹⁾, 河野洋介¹⁾, 加藤頼子¹⁾, 池田督司¹⁾, 木下大輔¹⁾, 横田裕行 (1) 山梨県立中央病院救命救急センター): 脳低温療法施行症例における心肺停止後症候群脳モニタリング値の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.
- 11) 宮内雅人, 吉野雄大, 岩井健司, 松居亮平, 山名英俊, 石井浩統, 横堀将司, 増野智彦, 横田裕行: パルスオキシメーターを利用した呼吸数測定器 Nellcor PM1000N の使用経験. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.
- 12) 山名英俊, 吉野雄大, 萩原 純, 石井浩統, 恩田秀賢, 横堀将司, 増野智彦, 宮内雅人, 布施 明, 横田裕行: ドクターカーにて早期介入し独歩自宅退院した VF の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.

追加分シンポジウム:

- 1) 横堀将司, 山口昌紘, 五十嵐豊, 恩田秀賢, 榎本健太郎, 荒木 尚, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行: 心停止後症候群における転帰予測: 対光反射測定による脳幹機能評価の有用性. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.

追加分セミナー:

- 1) 横堀将司: 集中治療における神経モニタリング -Intensivist のための Minimum essential. 日本集中治療医学会学術集会 (第 43 回) (神戸), 2016. 2.

追加分招待講演:

- 1) Yokobori S: Neuromonitoring. AO Neuro Symposium-Neurotrauma (Sendai Japan), 2016. 2.

[武蔵小杉病院救命救急センター]

研究概要

昨年度は国際学会参加や海外誌への論文掲載など充実した業績をあげたと思っていたが, その反動か今年度は活動が低調であった. 発表論文は 5 本, 著作は 2 冊, 学会発表は 19 回に留まった. 日々の救急診療に追われて臨床漬けの 1 年だったと改めて思うが, 発表, 論文も臨床の症例報告が主体であった. 一方, 松田が熱傷初期診療の標準化, 望月が救急現場の感染制御という, ここ数年取り組んでいるテーマに沿ってシンポジウムなどで発表討議を重ねた. 今後は基礎的研究を含めた系統的な医学研究に取り組んでいく必要があると痛感している.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 森村尚登¹⁾, 問田千晶²⁾, 安部 猛²⁾, 竹内一郎³⁾, 服部 潤³⁾, 服部響子⁴⁾, 高橋耕平²⁾, 本多英喜²⁾, 内山宗人²⁾, 松田 潔⁵⁾, 中川儀英⁶⁾, 浅利 靖³⁾ (1) 東京大学大学院医学系研究科救急医学, 2) 横浜市立大学医学部救急医学教室, 3) 北里大学医学部救命救急医学, 4) 北里大学医学部産婦人科学産科学, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 6) 東海大学医学部専門診療学系救命医学)：地域災害医療計画策定のための新たな災害医療需給均衡指標 (災害医療リスクゾーン). J・J・DisastMed 2016; 21: 10-17.

(2) 総説：

- 1) 望月 徹¹⁾ (1) 感染制御部)：地域の院内感染防止対策において臨床検査技師に求められる役割. 検査と技術 2016; 44 (11)：1112-1113.

(3) 症例報告：

- 1) 山村英治¹⁾, 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 岸 泰宏²⁾ (1) 救命救急センター, 2) 精神科)：ヘリウムガス吸入による自殺未遂の1例. 中毒研究 2016; 29 (4)：355-359.
- 2) 山村英治¹⁾, 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾ (1) 救命救急センター)：胸骨圧迫による横隔膜損傷を合併したと考えられた院外心停止の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2017; 37 (1)：57-59.
- 3) 山村英治¹⁾, 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 田高廣之²⁾ (1) 救命救急センター, 2) 血管内・低侵襲治療センター)：シートベルトによる両側内胸動脈損傷に対して動脈塞栓術を施行した1例. 日本救急医学会雑誌 2017; 28 (1)：1-8.

著書

- 1) 松田 潔：〔分担〕外傷病院前救護ガイドライン. 救急・ICUですぐに役立つ超ガイドラインこれだけBOOK (阿南英明), 2017; pp42-46, メディカ出版.
- 2) 望月 徹¹⁾ (1) 救命救急センター・感染制御部)：〔分担〕地域の院内感染防止対策において臨床検査技師に求められる役割. 検査と技術, 2016; pp1112-1113, 医学書院.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 望月 徹¹⁾, その他1名 (1) 救命救急センター・感染制御部)：口腔機能管理と人工呼吸器関連肺炎 (口腔機能管理と外科感染症). 日本外科感染症学会総会・学術集会 (第66回) (東京都), 2016. 11.
- 2) 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 山村英治¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 望月 徹¹⁾ (1) 救命救急センター)：病院前における熱傷診療標準化への取り組み (熱傷診療の標準化). 日本熱傷学会関東地方会学術集会 (第44回) (東京都), 2017. 2.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 山村英治¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 望月 徹¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 救命救急センター, 2) 附属病院高度救命救急センター)：病院前救護における熱傷初期診療標準化 (熱傷初期診療標準化の挑戦). 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京都), 2016. 11.

(3) 一般講演：

- 1) 山村英治¹⁾, 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 長谷川智宏¹⁾ (1) 救命救急センター)：抗菌薬投与により心停止となった1例. 日本集中治療医学会総会 (第44回) (札幌市), 2017. 3.
- 2) 望月 徹¹⁾, 野口周作¹⁾, 上野ひろむ¹⁾, 小林綾乃¹⁾, 吉岡美香¹⁾ (1) 感染制御部)：海外からの転院で多剤耐性菌対策を広範囲熱傷の1例. 日本感染症学会総会・学術講演会 (第90回) (仙台市), 2016. 4.
- 3) 望月 徹¹⁾, その他1名 (1) 救命救急センター・感染制御部)：海外からの転院で多剤耐性菌対策を徹底できた広範囲熱傷の1例. 神奈川県感染症医学会 (第80回) (横浜市), 2016. 9.
- 4) 菊池広子¹⁾, 松田 潔¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 山村英治¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 望月 徹¹⁾, 黒川 顕¹⁾ (1) 救命救急センター)：外傷性出血性ショックに対する緊急開腹術にて救命し得たものの, 術中覚醒を訴えた1症例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第30回) (東京都), 2016. 5.
- 5) 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 山村英治¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 野口周作²⁾, 小林正人²⁾, 竹ノ下尚子¹⁾ (1) 救命救急センター, 2) 薬剤部)：病院間連携により中毒薬物血中濃度を緊急検査するネットワーク構築に関する調査. 日本中毒学会総会・学術集会 (第38回) (新潟市), 2016. 7.
- 6) 小林正人¹⁾, 笠原英城¹⁾, 野口周作¹⁾, 松田 潔²⁾, 菊池広子²⁾, 石丸直樹²⁾, 遠藤広史²⁾, 山村英治²⁾, 渡邊顕弘²⁾, 長谷川智宏²⁾ (1)

薬剤部, 2) 救命救急センター) : ホメピゾールを投与した急性メタノール中毒の1例. 日本中毒学会総会・学術集会 (第38回) (新潟市), 2016. 7.

- 7) 菊池広子¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 山村英治¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 望月 徹¹⁾, 松田 潔¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 救命救急センター, 2) 附属病院高度救命救急センター) : ホメピゾールの登場がもたらす, 治療法への影響. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京都), 2016. 11.
 - 8) 渡辺 允¹⁾, 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 山村英治¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 長谷川智宏¹⁾ (1) 救命救急センター) : 転倒による両側下顎骨折を伴った1例. 日本救急医学会関東地方会・学術集会 (第67回) (宇都宮市), 2017. 2.
 - 9) 森村尚登¹⁾, 問田千晶²⁾, 高橋耕平²⁾, 内山宗人²⁾, 本多英喜²⁾, 服部 潤³⁾, 竹内一郎³⁾, 安部 猛²⁾, 服部響子⁴⁾, 松田 潔⁵⁾, 中川儀英⁶⁾, 浅利 靖³⁾, 猪口正孝⁷⁾, 勝見 敦⁸⁾, 吉原克則⁹⁾, その他1名 (1) 東京大学大学院医学研究科救急医学, 2) 横浜市立大学救急医学教室, 3) 北里大学医学部救命救急医学, 4) 北里大学医学部産婦人科学産科学, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 6) 東海大学医学部専門診療学系救命医学, 7) 平成立石病院, 8) 武蔵野赤十字病院救命救急センター, 9) 東邦大学大森病院救命救急センター) : 災害対応計画における被災地域内災害拠点病院の予測医療需給均衡 (RRR) と支援優先度 (PMS) の類型化. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第22回) (名古屋市), 2017. 2.
 - 10) 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 山村英治¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 石室正輝¹⁾, 小峰達也¹⁾, 鈴木貴博²⁾ (1) 救命救急センター, 2) 川崎市立井田病院) : 総合防災訓練における亜急性期災害医療の取組. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第22回) (名古屋市), 2017. 2.
 - 11) 石原優里¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 山村英治¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 菊池広子¹⁾, 望月 徹¹⁾, 松田 潔¹⁾, 田島廣之²⁾ (1) 救命救急センター, 2) 血管内・低侵襲治療センター) : 非閉塞性腸間膜虚血性 (NOMI) に対して保存的治療にて回復した1例. 日本腹部救急医学会総会・学術集会 (第53回) (横浜市), 2017. 3.
 - 12) 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 山村英治¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 門馬 治²⁾, 上野訓子²⁾, 齋藤桂輔²⁾ (1) 救命救急センター, 2) 看護部) : 集中治療現場における救急救命士教育の現状と課題. 日本集中治療医学会総会・学術集会 (第44回) (札幌市), 2017. 3.
 - 13) 遠藤広史¹⁾, 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 山村英治¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 長谷川智宏¹⁾, 望月 徹¹⁾ (1) 救命救急センター) : トロンボモジュリン32症例の検討. 日本集中治療医学会総会・学術集会 (第44回) (札幌市), 2017. 3.
 - 14) 山村英治¹⁾, 松田 潔¹⁾, 菊池広子¹⁾, 石丸直樹¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 長谷川智宏¹⁾ (1) 救命救急センター) : 抗菌薬投与により心停止に至った1例. 日本集中治療医学会総会・学術集会 (第44回) (札幌市), 2017. 3.
- (4) 特別セッション :
- 1) 中森知毅¹⁾, 三田直人¹⁾, 松田 潔²⁾, 菊池広子²⁾, 林 宗博³⁾, 中村光伸⁴⁾ (1) 独立行政法人労働者健康安定機構横浜労災病院救命救急センター救急災害医療部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 3) 日本赤十字社医療センター救命救急センター, 4) 前橋赤十字病院救命救急センター) : 熊本地震被害支援 : 阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議 (ADRO) 立ち上げの経緯と存在意義について (平成28年熊本地震). 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京都), 2016. 11.

著 書

[追加分]

追加分 :

- 1) 松田 潔 : [分担] 高齢者の外傷. 改訂第2版 JPTEC ガイドブック (一般社団法人JPTEC協議会), 2016 ; pp190-194, へるす出版.

学会発表

追加分ワークショップ :

- 1) 望月 徹¹⁾, その他1名 (1) 救命救急センター・感染制御部) : 感染制御医の立場 (救急外来部門における感染症対策). 日本救急医学会関東地方会学術集会 (第66回) (東京都), 2016. 2.

[多摩永山病院救命救急センター]

研究概要

当施設の臨床研究は, 3次救急医療施設として, 多発外傷のダメージコントロール, 重症頭部外傷に対する脳保護療法, 脳卒中急性期治療 (血管内治療, 手術), 中毒, 災害医療の各テーマにわたり取り組んでいる. 集中治療領域として, 循環動態モニタリング, 脳低温療法, 神経生理学的モニタリングについて研究発表を行い, 病院前診療としてドクターアンビュランスや, 救急救命士教育の検討も行っている. さらに, 昨年度からDPCデータと病院前情報を統合したビッグデータの解析を開始した.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsumura Y, Tagami T, Nakada T, Shinozaki K, Nomura T, Tahara Y, Sakurai A, Yonemoto N, Nagao K, Yaguchi A, Morimura N : Nighttime is associated with decreased survival and resuscitation efforts for out-of-hospital cardiac arrests : a prospective observational study. *Critical Care* 2016 ; 20 (1) : 141-141.
- 2) Tagami T, Matsui H¹⁾, Ishinokami S, Oyanagi M, Kitahashi A, Fukuda R, Unemoto K, Fushimi K²⁾, Yasunaga H¹⁾ (1) Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine University of Tokyo, 2) Department of Health Informatics and Policy, Tokyo Medical and Dental University Graduate School of Medicine) : Amiodarone or nifekalant upon hospital arrival for refractory ventricular fibrillation after out-of-hospital cardiac arrest. *Resuscitation* 2016 ; 109 : 127-132.
- 3) Tagami T, Matsui H¹⁾, Kuno M, Moroe Y, Kaneko J, Unemoto K, Fushimi K²⁾, Yasunaga H¹⁾ (1) Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine University of Tokyo, 2) Department of Health Informatics and Policy, Tokyo Medical and Dental University Graduate School of Medicine) : Early antibiotics administration during targeted temperature management after out-of-hospital cardiac arrest : a nationwide database study. *BMC Anesthesiol* 2016 ; 16 (1) : 89-89.
- 4) Tagami T, Matsui H¹⁾, Tanaka C, Kaneko J, Kuno M, Ishinokami S, Unemoto K, Fushimi K²⁾, Yasunaga H¹⁾ (1) Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine University of Tokyo, 2) Department of Health Informatics and Policy, Tokyo Medical and Dental University Graduate School of Medicine) : Amiodarone Compared with Lidocaine for Out-Of-Hospital Cardiac Arrest with Refractory Ventricular Fibrillation on Hospital Arrival : a Nationwide Database Study. *Cardiovasc Drugs Ther.* 2016 ; 30 (5) : 485-491.
- 5) Tagami T, Yasunaga H¹⁾ (1) Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine University of Tokyo) : The authors reply. *Critical Care Medicine* 2016 ; 44 (9) : 911-912.
- 6) Yamana H¹⁾, Matsui H¹⁾, Tagami T, Hirashima J¹⁾, Fushimi K²⁾, Yasunaga H¹⁾ (1) Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, University of Tokyo, 2) Department of Health Informatics and Policy, Tokyo Medical and Dental University Graduate School of Medicine) : De-escalation versus continuation of empirical antimicrobial therapy in community-acquired pneumonia. *J Infect* 2016 ; 73 (4) : 314-325.
- 7) Tanaka C, Kuno M, Yokota H, Tagami T, Nakada T, Kitamura N, Tahara Y, Sakurai A, Yonemoto N, Nagao K, Yaguchi A, Morimura N : Changes in atropine use for out-of-hospital cardiac arrest patients with non-shockable rhythm between 2002 and 2012. *Resuscitation* 2016 ; 101 : 5-6.
- 8) Tagami T, Matsui H¹⁾, Moroe Y, Fukuda R, Shibata A, Tanaka C, Unemoto K, Fushimi K²⁾, Yasunaga H¹⁾ (1) Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine University of Tokyo, 2) Department of Health Informatics and Policy, Tokyo Medical and Dental University Graduate School of Medicine) : Antithrombin use and 28-day in-hospital mortality among severe-burn patients : an observational nationwide study. *Ann Intensive Care* 2017 ; 7 (1) : 18-26.

(2) 総説：

- 1) 田上 隆：重症救急疾患の big data 解析：DPC データベース研究からその先へ。 *臨床麻酔* 2016 ; 40 (7) : 1009-1016.
- 2) Tagami T, Yasunaga H¹⁾, Yokota H¹⁾ (1) Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine University of Tokyo) : Antiarrhythmic drugs for out-of-hospital cardiac arrest with refractory ventricular fibrillation. *Critical Care* 2017 ; 21 (1) : 59-59.
- 3) 田上 隆：ビッグデータからみた DIC 治療。 *Coagulation & Inflammation* 2016 ; 2 (2) : 59-66.

(3) 症例報告：

- 1) 久野将宗, 畝本恭子, 金子純也, 田上 隆, 福田令雄, 北橋章子, 小柳正雄, 諸江雄太, 工藤小織, 田中知恵, 柴田あみ：治療に難渋した虚血性心疾患による高齢者心肺停止蘇生後の1例。 *日本救急医学会関東地方会雑誌* 2016 ; 37 (2) : 272-275.

著書

- 1) 諸江雄太, 磐井佑輔, 田上 隆, 福田令雄, 畝本恭子：〔分担〕救急で遭遇する病態とその救急薬：3. 急性腹症の救急薬。 *Modern Physician (モダンフィジシャン)* (木下浩作), 2016 ; pp553-557, (株) 新興医学出版社。
- 2) 畝本恭子：〔分担〕突然の意識障害。 *今日の治療指針 2017* (福井次矢), 2017 ; pp9-10, 医学書院。
- 3) 畝本恭子：〔分担〕脳卒中。 *救急・集中治療 エキスパートブック R35* (三宅康史), 2017 ; pp86-105, 日本医事新報社。

- 4) 金子純也, 畝本恭子: [分担] 急性脳血管障害患者における輸液療法の実践. 救急医学 (佐藤枢), 2016; pp1657-1663, へるす出版.
- 5) Tagami T, Yasunaga H¹⁾, Yokota H (1) Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, University of Tokyo, Graduate School of Medicine): [分担] Antiarrhythmic Drugs for Out-of-hospital Cardiac Arrest with Refractory Ventricular Fibrillation. Annual Update in Intensive Care and Emergency Medicine 2017, 2017; pp59-65.
- 6) 田上 隆: [分担] 心肺蘇生に関わる治療薬: 難治性心室細動. 救急医学 (佐藤枢), 2016; pp1495-1501, へるす出版.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 田上 隆: 2次救命処置における薬剤の効果: 「ALPS」スタディ. 東京レサシテーションアカデミー 2017 (国士舘大学世田谷キャンパス), 2017. 3.
- 2) 田上 隆: 難治性VFに対するアミオダロンとリドカインの投与効果の比較: a Nationwide Database Study. 東京レサシテーションアカデミー 2017 (国士舘大学世田谷キャンパス), 2017. 3.
- 3) 田上 隆: 日本のウツタインデータからわかること 病院内での集中治療: 救命の連鎖の第5番目の輪. 東京レサシテーションアカデミー 2017 (国士舘大学世田谷キャンパス), 2017. 3.
- 4) 田上 隆: 集中治療室での「循環呼吸動態管理」: 経肺熱希釈法モニターによる評価. 沖縄県麻酔・集中治療研究会 (第46回) (沖縄), 2017. 3.

(2) 招待講演:

- 1) Tagami T: Still a place for any antiarrhythmic agents? - CPR. 37th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (第37回) (Brussels Belgium), 2017. 3.
- 2) Tagami T: Quantitative diagnosis of pulmonary edema using extravascular lung water-Hemodynamic monitoring: what is new?. 37th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (第37回) (Brussels Belgium), 2017. 3.
- 3) Tagami T: Severe burns. 37th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (第37回) (Brussels Belgium), 2017. 3.
- 4) Tagami T: Hospital triage of the patient after cardiac arrest-Before the ICU. 37th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (第37回) (Brussels Belgium), 2017. 3.

(3) 教育講演:

- 1) 田上 隆: ARDS: 肺血管外水分量と治療戦略. 日本呼吸療法医学会学術集会 (第38回) (名古屋), 2016. 7.

(4) シンポジウム:

- 1) 久野将宗, 久保田稔, 金子純也, 工藤小織, 田中知恵, 福田令雄, 北橋章子, 小柳正雄, 田上 隆, 諸江雄太, 畝本恭子, 横田裕行: 救命救急センターICUにおける急性肺塞栓予防に向けた深部静脈血栓症 (DVT) スクリーニング. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京都), 2016. 11.

(5) パネルディスカッション:

- 1) 田上 隆, 畝本恭子, 久野将宗, 工藤小織, 諸江雄太, 小柳正雄, 北橋章子, 金子純也, 福田令雄, 田中知恵, 柴田あみ, 横田裕行: 重症救急疾患 big data・データベース構築と臨床研究への活用. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京都), 2016. 11.
- 2) 金子純也, 久野将宗, 諸江雄太, 畝本恭子: 現場での医療チームの活動について. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第22回) (名古屋), 2017. 2.

(6) セミナー:

- 1) 畝本恭子: 脳神経蘇生の脳卒中初期対応から再開通まで. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京都), 2016. 11.
- 2) 久野将宗: CSCA-TTT. 7th seminar of disaster medicine in Laos, Vientiane (第7回) (Laos Vientiane), 2016. 12.
- 3) 田上 隆: 循環呼吸動態管理 現時点のエビデンスとこれから向かうべき方向. 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 4) 畝本恭子: 神経集中治療ハンズオン (神経集中治療の醍醐味を感じる). 日本集中治療医学会学術集会 (第44回) (札幌), 2017. 3.

(7) 一般講演:

- 1) 石之神小織, 畝本恭子, 北橋章子, 金子純也, 谷 将星, 松田 潔, 横田裕行: 脳出血後のリハビリ中にDVTにより肺梗塞となった2症例の検討. 日本脳卒中学会総会 (第41回) (札幌), 2016. 4.
- 2) 久野将宗, 久保田稔¹⁾, 金子純也, 田中知恵, 福田令雄, 小柳正雄, 工藤小織, 諸江雄太, 北橋章子, 畝本恭子 (1) 日本医科大学多摩摩永山病院中央検査室): 入院後の急性肺塞栓症発症予防としての深部静脈血栓症 (DVT) スクリーニングの取り組み. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第19回) (福島), 2016. 5.
- 3) Tagami T: Prophylactic Antimicrobials for severe burns. 3rd SepsEast conference 2016 (第3回) (Hungary Budapest), 2016.

- 11.
- 4) 柴田あみ, 金子純也, 工藤小織, 北橋章子, 畝本恭子, 横田裕行: 血管攣縮期後の手術待機中に多発脳梗塞を来したクモ膜下出血の1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第130回) (東京都), 2016. 9.
 - 5) 金子純也: 当センターにおける癲癇重責発作への対応. 町田 Epilepsy Forum (町田), 2016. 9.
 - 6) Kuno M, Arai T, Suzuki K, Harikae K: Disaster preparedness effort in south-tama, Tokyo region. 10th EUROPEAN CONGRESS ON EMERGENCY MEDICINE (第10回) (Austria Vienna), 2016. 10.
 - 7) Tanaka C, Tagami T, Matsumoto H, Matsuda K, Kim S, Moroe Y, Fukuda R, Unemoto K, Yokota H: Recent trends in management strategy and 28-day mortality of blunt splenic injury in Japan: A nationwide trauma database study. Critical Care Canada Forum 2016 (Canada Toronto), 2016. 10.
 - 8) 金子純也, 柴田あみ, 田中知恵, 北橋章子, 福田令雄, 田上 隆, 小柳正雄, 工藤小織, 久野将宗, 諸江雄太, 畝本恭子, 栗本健太郎, 横田裕行: 当救命センターにおける重症クモ膜下出血 (WFNSgrV) の治療成績. 日本脳神経外科学会第75回学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
 - 9) 畝本恭子, 柴田あみ, 谷 将星, 金子純也, 北橋章子, 工藤小織, 山崎道生¹⁾, 玉置智規¹⁾, 横田裕行, 森田明夫²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科): 高齢者頭部外傷予後不良因子の検討. 日本脳神経外科学会第75回学術総会 (第75回) (福岡), 2016. 9.
 - 10) 田中知恵: 2004年から2014年の日本外傷データベースを用いた脾損傷治療における予後の推移の検討. 多摩救命救急カンファレンス (第8回) (東京), 2016. 10.
 - 11) 工藤小織, 畝本恭子, 横田裕行, 柴田あみ, 谷 将星, 金子純也, 栗本健太郎, 田上 隆: 抗凝固, 抗血小板薬使用における脳出血の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
 - 12) 田上 隆, 諸江雄太, 福田令雄, 田中知恵, 柴田あみ, 畝本恭子, 康永秀生¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 東京大学公共健康医学専攻臨床疫学・経済学): Antithrombin use and 28-day mortality in patients with severe burns: an observational nationwide study. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
 - 13) 諸江雄太, 畝本恭子, 田上 隆, 金子純也, 福田令雄, 小柳正雄, 北橋章子, 田中知恵, 柴田あみ, 久野将宗, 工藤小織, 横田裕行: 待機的気管切開術の合併症は術者の卒後年数で差が出るか?. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
 - 14) 金子純也, 柴田あみ, 田中知恵, 田上 隆, 福田令雄, 北橋章子, 小柳正雄, 久野将宗, 諸江雄太, 畝本恭子, 横田裕行: 救急医にとってのIVR 救急医はどこまでIVRを行うべきか. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
 - 15) 久野将宗, 大場次郎^{1, 2)}, 苛原隆之^{1, 3)}, 甲斐聡一郎^{1, 4)}, 夏川知輝^{1, 2)}, 上野 力^{1, 5)}, 前川和彦^{1, 6)} (¹⁾ 災害人道医療支援会 HuMA, ²⁾ 大阪府済生会千里病院, ³⁾ 京都大学医学部附属病院, ⁴⁾ 兵庫県災害医療センター, ⁵⁾ 晴山記念病院, ⁶⁾ ツル虎ノ門外科・リハビリテーション病院): 国内災害における医療系 NGO が果たせる新たな役割の可能性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
 - 16) Kuno M, Harikae K¹⁾, Suzuki K²⁾, Arai T³⁾, Tokuoka K⁴⁾ (¹⁾ Hino Municipal Hospital, ²⁾ Nippon Sport Science University, ³⁾ Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, ⁴⁾ Tokai University Hachioji Hospital): Web-nolo: The practical application of an online Chronology System. 13th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (第13回) (Tai Bangkok), 2016. 11.
 - 17) 金子純也, 中野博之¹⁾, 田中一貴¹⁾, 鈴木健介, 柴田あみ, 田中知恵, 田上 隆, 福田令雄, 北橋章子, 小柳正雄, 久野将宗, 工藤小織, 諸江雄太, 畝本恭子 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院循環器科): 近位部狭窄に起因する脳底動脈先端部閉塞に対して血栓回収後に狭窄部のステント留置を行った2症例. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第32回) (兵庫), 2016. 11.
 - 18) Tanaka C, Tagami T, Moroe Y, Fukuda R, Iwai Y, Unemoto K, Kim S, Matsuda K, Matsumoto H, Yokota H: Trend of management and mortality for blunt splenic injury between 2004 and 2014 in Japan. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
 - 19) 久野将宗, 大場次郎¹⁾, 苛原隆之¹⁾, 堤 由香¹⁾, 松下明子¹⁾, 成田桜子¹⁾, 夏川知輝¹⁾, 甲斐聡一郎¹⁾, 上野 力¹⁾, 前川和彦¹⁾ (¹⁾ 特定非営利活動法人災害医療人道支援会 (HuMA)): 災害人道医療支援会 (HuMA) の熊本地震への初期対応から見た今後の海外支援への可能性. 日本国際保健医療学会 (第31回) (福岡), 2016. 12.
 - 20) 柴田あみ, 金子純也, 工藤小織, 北橋章子, 畝本恭子, 横田裕行: 大腿筋を用いた頭蓋形成術の有用性. 日本脳神経外傷学会 (第40回) (東京), 2017. 3.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Tagami T, Matsui H¹⁾, Fushimi K²⁾, Yasunaga H¹⁾ (¹⁾ Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine University of Tokyo, ²⁾ Department of Health Informatics and Policy, Tokyo Medical

and Dental University Graduate School of Medicine) : Validation of the prognostic burn index : A nationwide retrospective study. Burns 2015 ; 41 (6) : 1169-1175.

- 2) Tagami T : Changes in treatments and outcomes among elderly patients with out-of-hospital cardiac arrest between 2002 and 2012 : A post hoc analysis of the SOS-KANTO 2002 and 2012. Resuscitation 2015 ; 97 : 76-82.

追加分研究報告書 :

- 1) Tagami T, Matsui H¹⁾, Yasunaga H¹⁾ (¹⁾ Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine University of Tokyo) : Antithrombin and mortality in severe pneumonia patients with sepsis-associated disseminated intravascular coagulation : an observational nationwide study : repl. Journal of thrombosis and haemostasis 2015 ; 13 (4) : 680-682.
- 2) Tagami T, Yasunaga H¹⁾ (¹⁾ Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine University of Tokyo) : Reply to Legrand and Lafaurie. Clinical Infectious Diseases 2016 ; 62 (11) : 1465-1466.
- 3) Tagami T, Yasunaga H (¹⁾ Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine University of Tokyo) : Reply to Hueley. Clinical Infectious Diseases 2016 ; 62 (9) : 1193.

著 書

追加分 :

- 1) 畝本恭子 : [分担] 海外文献紹介 Prophylactic antibiotics ; 求む, 新しい知見. 救急医学, 2016 ; pp118-119, へるす出版.
- 2) 金子純也, 畝本恭子 : [分担] アナフィラキシーへの対応. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 2015 ; pp709-715, 医学書院.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) Tagami T, Kuno M, Moroe Y, Kaneko J, Iwai Y, Unemoto K : Prophylactic Antimicrobials During Therapeutic Hypothermia After Out-of-hospital Cardiac Arrest : A Nationwide Database Study. The Society for Emergency Medicine In Singapore Annual Scientific Meeting/International Resuscitation Science Symposium of 2016 (Singapore), 2016. 2.

追加分シンポジウム :

- 1) 田上 隆 : SOS-KANTO2012 The 総括—過去・現在そして未来—第1班 Assessment Guidelines (G2000 versus G2010) Group. 日本救急医学会関東地方会学術集会 (第66回) (東京), 2016. 2.

追加分特別講演 :

- 1) 畝本恭子 : 質の高い脳蘇生を目指した心拍再開後ケアトレーニングについて. 日本脳神経外科救急学会 (第21回) (東京), 2016. 1.
- 2) 畝本恭子 : JATCO 共催企画 机上シミュレーション「～終末期の「選択肢提示」を中心に～」. 日本脳神経外科救急学会 (第21回) (東京), 2016. 1.
- 3) Tagami T : The fifth link in the chain of survival concept-After cardiac arrest. The 36th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (第36回) (Brusseles Belgium), 2016. 3.
- 4) Tagami T : Quantitative diagnosis of ARDS using extravascular lung water-Respiratory monitoring in ARDS. The 36th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (第36回) (Brusseles Belgium), 2016. 3.
- 5) Tagami T : Severe burns-Severe burns. The 36th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brusseles Belgium), 2016. 3.

[千葉北総病院救命救急センター]

研究概要

当施設は千葉県北総地域の基幹救急医療施設として平成6年1月に開設し, その後, 平成8年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に, 同年11月に千葉県の基幹災害拠点病院に認可された. 平成11年4月には県内8施設目の救命救急センターに認定され, 各種学会, 研究会において活発な活動を行っている. 平成13年10月からは, 厚生労働省のドクターヘリ事業における千葉県の基地病院となり, 千葉県及び茨城県南部で発生した重症外傷, 薬物中毒, 急性冠症候群, 急性大動脈疾患, 脳卒中などの様々な重症患者に対して早期の医療介入を行い, 適切な治療を提供している. さらに, 平成22年6月からはドクターヘリ事業を補完する目的にラビッドカーの運用も開始し成果を挙げている. 教育活動としては, JATEC, JPTEC, MCLS, ATOM, SSTTなどの標準化教育プログラムの指導者を多数擁し, 医師, 看護師, 本学学生, 救急救命士, 専門学校生などへの質の高い救急医療教育を提供している. また, フライトドクターを目指す医師のための教育プログラムも確立している. 対外的にも千葉県の災害医療対策の中心的存在として, 多数の訓練の企画立案, 実

施に携わっている。研究テーマは、体幹部外傷や重症骨盤骨折の病態生理の解明に関する研究、外傷患者に対するダメージコントロールの効果に関する研究、救急医療システム、特に外傷システムや新たな小児重症救急医療体制の構築に関する研究、災害医療における現場動画転送に関する研究、メディカルコントロールに関する研究等、多岐に渡っている。また、日本大学工学部・理工学部や自動車メーカーと連携し、交通事故調査と損傷の解明に関する産学共同研究も行っている。これらの研究成果を国内学会、専門誌ばかりでなく国際学会や英文雑誌で発表し、広く内外に情報発信している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 本村友一, 服部 陽, 平林篤志, 松本 尚, 横田裕行¹⁾, 小出麻記子²⁾, 重山香織²⁾, 寺井孝宏²⁾, 松本 勉³⁾, 笹山 実⁴⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野, 2) 日本医科大学千葉北総病院看護部, 3) 栄町消防本部, 4) ちば消防共同指令センター) : スマートフォン動画伝送システムを使用した一般市民による救急通報 (119 番通報) の有用性. 日本臨床救急医学会雑誌 2016 ; 19 : 466-473.
- 2) 望月康廣¹⁾, 本村友一 (1) 日本大学工学部) : 群衆事故災害予防に関するバイオメカニクス研究のアプローチ. 技術と社会の関連を巡って 2016 ; 16 (49).
- 3) 鈴木基継¹⁾, 本村友一 (1) 日本大学大学院) : 胸部および腹部への圧迫が呼吸に及ぼす影響. 日本機械学会 2016 ; 16 (40).
- 4) 益子一樹, 服部 陽, 阪本太吾, 中山文彦, 安松比呂志, 本村友一, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚 : 致死的外傷性腹腔内出血に対する DCR with DCS. 日本腹部救急医学会雑誌 2016 ; 36 (6) : 1037-1042.
- 5) 益子邦洋¹⁾, 本村友一 (1) 医療法人社団永生会 南多摩病院) : HEM-Net が推進する救急医療のイノベーション : D-Call Net の開発と運用. 近代消防 2016 ; 37-41.
- 6) Homma H¹⁾, Oda J¹⁾, Yukioka T¹⁾, Hayashi S²⁾, Suzuki T¹⁾, Kawai K¹⁾, Nagata K¹⁾, Sano H¹⁾, Takyu H¹⁾, Sato N³⁾, Taguchi H⁴⁾, Mashiko K, Azuhata T⁵⁾, Ito M⁶⁾, Fukuhara T⁷⁾, et al. (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Tokyo Medical University, 2) Department of Anatomy, Tokyo Medical University, 3) Department of Primary Care and Emergency Medicine, Graduate School of Medicine and University School of Medicine, Kyoto University, 4) Emergency Department, Ikoma City Hospital, 5) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nihon University Itabashi Hospital, 6) Department of Traumatology and Reconstruction Surgery, Fukushima Medical University, 7) Advanced Disaster Medical and Emergency Critical Care Center, Niigata University Medical and Dental Hospital) : Effectiveness of cadaver-based educational seminar for trauma surgery : skills retention after half-year follow-up. Acute Medicine & Surgery 2017 ; 4 (1) : 57-67.
- 7) Nishimoto T¹⁾, Mukaiyama K¹⁾, Tominaga S²⁾, Lubbe N³⁾, Kiuchi T³⁾, Motomura T, Matsumoto H (1) Nihon University, College of Engineering, Biomechanics Research Unit, 2) Nihon University, College of Science and Technology, 3) Toyota Motor Corporation, Vehicle Safety Development) : Serious injury prediction algorithm based on large-scale data and under-triage control. Accident Analysis and Prevention 2017 ; 98 : 266-276.
- 8) Matsuda A, Miyashita M, Matsumoto S, Sakurazawa N, Takahashi G, Matsutani T, Yamada M, Ushida E : Comparison between metallic stent and transanal decompression tube for malignant large-bowel obstruction. J Surg Res. 2016 ; 205 (2) : 474-81.
- 9) Sathornviriyapong S, Matsuda A, Miyasita M, Matsumoto S, Sakurazawa N, Kawano Y, Yamada M : Impact of Neoadjuvant Chemoradiation on Short-Term Outcomes for Esophageal Squamous Cell Carcinoma Patients : A Meta-analysis. Ann Surg Oncol. 2016 ; 23 (11) : 3632-40.
- 10) Hara Y, Ghazizadeh M¹⁾, Shimizu H¹⁾, Matsumoto H, Saito N, Yagi T, Mashiko K, Mashiko K, Kawai M²⁾, Yokota H²⁾ (1) Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Kanagawa, Japan, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Delayed expression of circulating TGF- β 1 and BMP-2 levels in human nonunion long bone fracture healing. J Nippon Med Sch 2017 ; 84 (1) : 12-18.
- 11) Nobuyuki S¹⁾, Kazuhiro S²⁾, Tetsu O³⁾, Takashi K⁴⁾, Yuya Y⁵⁾, Yuta T⁶⁾, Hiroshi A⁷⁾, Hiroyuki K⁸⁾, Aito T⁹⁾, Kota H¹⁰⁾, Yukio W, Hisashi M¹⁾ (1) Shock and Trauma Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital, 3) Intensive Care Unit, Department of Anesthesiology, Saitama Medical Center, 4) Department of Emergency and Critical Care Medicine, National Disaster Medical Center, 5) Department of Emergency Medicine, Saga-Ken Medical Center Koseikan, 6) Department of Emergency Medicine, Yamagata Prefectural Central Hospital, 7) Department Intensive Care Medicine, Iizuka Hospital, 8) Advanced Emergency Care Center, Saga University Hospital, 9) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Tsukuba Medical Center Hospital, 10) and others) : Efficacy of poly-

myxin B-immobilized fiber hemoperfusion for patients with septic shock caused by Gram-negative bacillus infection. PLOS ONE 2017 ; 30 (12 (3)) : e0173633.

(2) 総説 :

- 1) 益子一樹, 松本 尚 : 救急傷病の画像診断戦略胸部外傷. 救急医学 2016 ; 40 (10) : 1226-1235.
- 2) 益子一樹, 松本 尚 : 救急室での開胸術と開腹術・出血性ショック時の大動脈遮断手技. 臨床外科 2016 ; 71 (11) : 128-132.
- 3) 齋藤伸行^{1,2)} (1) 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院 感染制御部) : 外傷患者に合併する肺炎. 日本外科感染症学会雑誌 2016 ; 13 (3) : 209-221.

(3) 研究報告書 :

- 1) 小井土雄一¹⁾, 松本 尚, 本村友一, 中村光伸²⁾, 町田浩志²⁾, 小早川義貴¹⁾, 阿南英明³⁾, 山口 誠⁴⁾, 横田英己⁵⁾ (1) 国立病院機構 災害医療センター, 2) 前橋赤十字病院, 3) 藤沢市民病院, 4) 千葉市消防局, 5) 朝日航洋株式会社) : 地域医療搬送に関する研究. 平成 28 年度厚生労働省科学研究費補助金 (地域医療基盤開発推進研究事業) 「首都直下型地震・南海トラフ地震等の大規模災害時に医療チームが効果的, 効率的に活動するための今後の災害医療体制のあり方に関する研究」2017.

(4) 症例報告 :

- 1) 杉中宏司, 中山文彦, 本村友一, 益子一樹, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : CTによっても同定されなかった大腿骨複合骨折の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2016 ; 37 (2) : 333-337.
- 2) Hara Y, Matsumoto H, Yokota H¹⁾, Kawai M¹⁾, Yagi T, Saito N, Yasumatsu H, Mashiko K, Motomura T, Iida H (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Hospital) : The Pedicled Omental Flap Technique for Treating Extensive Defects or Soft-Tissue Infection of the Pelvic Area : A Report of 2 Cases. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (6) : 257-261.

著 書

- 1) 本村友一 : [分担] 複数患者への対応. 外傷初期診療ガイドライン 第5版 (日本外傷学会・日本救急医学会監修), 2016 ; pp263-269, へるす出版.
- 2) 益子一樹 : [分担] 緊張性気胸に対する胸腔穿刺, 胸腔ドレナージ. 外傷初期診療ガイドライン 第5版 (日本外傷学会・日本救急医学会監修), 2016 ; pp93-94, へるす出版.
- 3) 黒柳美里, 黒柳能光¹⁾ (1) 北里大学) : [自著] 第1章 : 事例から学ぶ～外科材料への応用を目的とした原料の開発と作製/加工/評価 第3節 ヒアルロン酸とコラーゲンを基材とした組織癒着防止材の開発. 手術用シーラント材・癒着防止材の利便化向上を目指した製品開発, 2016 ; pp16-25, (株) 技術情報協会.
- 4) 原 義明 : [分担] 第7章 骨盤外傷. 外傷初期診療ガイドライン 第5版 (日本外傷学会・日本救急医学会監修), 2016 ; pp113-122, へるす出版.
- 5) 齋藤伸行 : [分担] 特殊な人工呼吸様式 proportional assist ventilation (PAV). 救急・集中治療アドバンス 急性呼吸不全 (藤野裕士), 2016 ; pp152-158, 中山書店.
- 6) 齋藤伸行, 松本 尚 : [分担] 基礎疾患との関連性 外傷. 救急・集中治療アドバンス 重症患者における炎症と凝固・線溶系反応 (松田直之), 2017 ; pp152-165, 中山書店.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 松本 尚 : 「救急医療の現場から医療機器・医薬品開発に期待すること」. ジャパンライフサイエンスウィーク 2016 (東京都), 2016. 4.

(2) 招待講演 :

- 1) Motomura T : Advanced Automatic Collision Notification (AACN) system in Japan. 次世代自動車ヘルスケア研究会 (第1回) (原州, 韓国), 2016. 12.
- 2) Motomura T : New update of Doctor-Heli system in Japan. 韓国航空医療学会 (第6回) (天安, 韓国), 2016. 12.
- 3) Yamada M³⁾, Matsuda A¹⁾, Chiba T²⁾, Aiso S³⁾, Masuno T, Yokota H, Miyashita M¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, 3) Department of Anatomy, Keio University School of Medicine) : THE EFFECT OF S14G-HUMANIN ON MEMORY IMPAIRMENT INDUCED BY SEVERE SEPSIS. Shock (39th) (Austin, Texas, USA), 2016. 6.
- 4) Yasumatsu H : My Life as a Young Trauma Surgeon. AJOU International Trauma Conference (Suwon, Gyeonggi province, South Korea), 2016. 6.

(3) 教育講演：

- 1) 松本 尚：「REBOA」. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会（第 8 回）（大阪府大阪市），2016. 9.
- 2) 齋藤伸行：PICS 予防とリハビリテーション. 日本集中治療学会学術集会（第 44 回）（北海道札幌市），2017. 3.

(4) シンポジウム：

- 1) 佐藤友子¹⁾，本村友一⁽¹⁾ 佐賀県医療センター好生館）：平成 28 年熊本地震における超急性期空路調整と九州の課題. 日本航空医療学会（第 23 回）（埼玉県川越市），2016. 11.
 - 2) 町田浩志¹⁾，本村友一⁽¹⁾ 前橋赤十字病院 高度救命救急センター）：平成 28 年熊本地震におけるドクターヘリ活動の実績と今後の課題. 日本航空医療学会（第 23 回）（埼玉県川越市），2016. 11.
 - 3) 益子一樹，安松比呂志，本村友一，八木貴典，原 義明，松本 尚，横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 救急医学）：指導救命士とタッグで MC を育てる. 日本救急医学会（第 44 回）（東京），2016. 11.
 - 4) 岡田一宏，齋藤伸行，八木貴典，原 義明，松本 尚，横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 救急医学）：外傷症例における venous thromboembolism (VTE) 発生の予測に対する D-dimer の有用性の検討. 日本救急医学会（第 44 回）（東京），2016. 11.
 - 5) 安松比呂志，益子一樹，樽本浩司，山本真梨子，服部 陽，阪本太吾，中山文彦，本村友一，松本 尚，横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 救急医学）：当施設における Damage Control Resuscitation strategy と Damage Control Surgery. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会（第 8 回）（大阪府大阪市），2016. 9.
 - 6) 益子一樹，阪本太吾，平林篤志，安松比呂志，飯田浩章，本村友一，齋藤伸行，八木貴典，原 義明，松本 尚：茨城県常総市水害における航空医療体制構築とドクターヘリ活動. 日本病院前救急診療医学会総会・学術集会（第 11 回）（岡山県岡山市），2016. 12.
 - 7) 八木貴典，齋藤伸行，近田祐介，本村友一，益子一樹，原 義明，松本 尚，横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター）：日本外傷データバンクを用いた本邦における小児外傷の現況. 日本小児救急医学会学術集会（第 30 回）（宮城県仙台市），2016. 7.
 - 8) 原 義明，飯田浩章，川井 真¹⁾（¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター）：整形外科医の嫌いな整形外科. 救急整形外傷シンポジウム（第 22 回）（北海道札幌市），2016. 6.
 - 9) 佐藤友子¹⁾，大塚尚実²⁾，藤塚健次³⁾，木村友一，山内延貴⁴⁾，町田浩志³⁾，吉田隆浩⁵⁾，林田和之⁶⁾，八木正晴⁷⁾，奥本克己⁸⁾（¹⁾ 滋賀県医療センター好生館救命救急センター，²⁾ 熊本赤十字病院麻酔科，³⁾ 前橋赤十字病院高度救命救急センター集中治療科・救急科，⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院庶務課，⁵⁾ 岐阜大学医学部附属病院高次救命治療センター，⁶⁾ 熊本赤十字病院総合救命治療センター外傷外科，⁷⁾ 浦添総合病院救命救急センター，⁸⁾ 熊本赤十字病院総合救命救急センター救急科）：平成 28 年熊本地震における超急性期の空路搬送調整. 日本集団災害医学会（第 22 回）（名古屋），2017. 2.
 - 10) 齋藤伸行，八木貴典，岡田一宏，久城正紀，松本 尚，横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 救急医学）：院内感染症に対する qSOFA スコアの診断精度の検証. 日本集中治療学会学術集会（第 44 回）（北海道札幌市），2017. 3.
 - 11) 齋藤伸行，八木貴典，浅野 健¹⁾，曾我晶子¹⁾，岡田一宏，久城正紀，松本 尚（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 臨床倫理委員会）：3 次救急医療施設における臨床倫理課題への取り組み. 日本集中治療学会学術集会（第 44 回）（北海道札幌市），2017. 3.
 - 12) 山田真吏奈，松田明久¹⁾，相磯貞和²⁾，増野智彦³⁾，松本 尚，宮下正夫¹⁾，横田裕行³⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科，²⁾ 慶應義塾大学医学部解剖学教室，³⁾ 日本医科大学 救急医学）：全身炎症が脳機能に与える影響の検討から得られた治療シーズ 基礎研究. 日本救急医学会総会・学術集会（第 44 回）（東京），2016. 11.
 - 13) Matsuda A¹⁾，Yamada M¹⁾，Miyashita M¹⁾，Uchida A¹⁾（¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School）：THE PREDICTIVE ROLE OF LIPID MEDIATORS FOR POSTOPERATIVE COMPLICATIONS AFTER GASTROINTESTINAL SURGERY. International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo, Japan), 2016. 10.
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 本村友一：救急自動通報システム (D-Call Net) 試行運用上の課題と対策の進捗. 自動車技術会 2016 年春季フォーラム（名古屋），2016. 6.
 - 2) 本村友一：救急自動通報システム (D-Call Net) 試行運用の実事例と全国展開への展望. 日本航空医療学会（第 23 回）（埼玉県川越市），2016. 10.
 - 3) 本村友一，松本 尚，益子邦洋¹⁾，石川博敏¹⁾，西本哲也¹⁾，木内 透¹⁾（¹⁾ 救急ヘリ病院ネットワーク D-Call Net 研究会）：世界初！救急自動通報システム (D-Call Net) の試行運用開始と進捗. 日本救急医学会（第 44 回）（東京），2016. 11.
 - 4) 中村光伸¹⁾，山本瑞樹²⁾，高森美枝³⁾，横田英己⁴⁾，小林啓二⁵⁾，市原正行⁶⁾，町田浩志¹⁾，本村友一（¹⁾ 前橋赤十字病院 高度救命救急センター 集中治療科・救急科，²⁾ 朝日航洋株式会社 運航部 運航管理グループ，³⁾ 株式会社ウェザーニューズ 航空気象コンテンツサービス，⁴⁾ 朝日航洋株式会社 航空事業本部営業統括部，⁵⁾ 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構，⁶⁾ 厚生労働省 DMAT 事務局）：熊本地震では何ができたのか？：ヘリコプターの動態監視システム. 日本救急医学会（第 44 回）（東京），2016. 11.
 - 5) 松本 尚，竹島茂人¹⁾，益子一樹，横田裕行²⁾（¹⁾ 自衛隊中央病院 救急科，²⁾ 日本医科大学 救急医学）：自衛隊野外手術システムの展開と外傷診療チームの編成. 日本救急医学会（第 44 回）（東京），2016. 11.
 - 6) 原 義明，齋藤伸行，八木貴典，益子一樹，飯田浩章，本村友一，中山文彦，岡田一宏，川井 真¹⁾，松本 尚，横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本

- 医科大学 救急医学) : Preventable Disability 撲滅のためには外傷センターの質を担保する必要がある. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 7) 齋藤伸行, 宮田茂樹¹⁾, 松本 尚⁽¹⁾ 国立循環器病研究センター 輸血管理室) : 救命救急センターにおける MTP の現状. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 8) 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 益子一樹, 齋藤伸行, 飯田浩章, 本村友一, 中山文彦, 岡田一宏, 安松比呂志, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 超分子ゲルを用いたダメージコントロール手術時のパッキング素材の開発. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 9) 益子一樹, 樽本浩司, 山本真梨子, 阪本太吾, 中山文彦, 服部 陽, 本村友一, 安松比呂志, 松本 尚 : 国内 high volume center で外傷外科を学ぶ. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 (第 8 回) (大阪府大阪市), 2016. 9.
- 10) 益子一樹, 服部 陽, 安松比呂志, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 外傷外科修練には教育施設としての「重症外傷センター」が必要である. 日本外科学会定期学術集会 (第 116 回) (大阪府大阪市), 2016. 4.
- 11) 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 益子一樹, 齋藤伸行, 飯田浩章, 本村友一, 中山文彦, 岡田一宏, 安松比呂志, 阪本太吾, 黒柳美里, 瀬尾卓生, 近田祐介, 久城正紀, その他 4 名 : 重症体幹部・四肢外傷の診断成績と外傷センターとしての要件. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 30 回) (東京都千代田区), 2016. 5.
- 12) 山田真吏奈, 松田明久¹⁾, 増野智彦²⁾, 松本 尚, 宮下正夫¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学 救急医学) : 救急医学研究を進展させるためにできること : 基礎研究者の立場から. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- (6) セミナー :
- 1) 松本 尚 : 初療室での damage control surgery. 日本集中治療学会学術集会 (第 44 回) (北海道札幌市), 2017. 3.
- (7) ワークショップ :
- 1) 本村友一, 松本 尚, 西本哲也¹⁾, 石川敏博²⁾, 益子邦洋²⁾ (1) 日本大学工学部, 2) D-call Net 研究会) : 世界初の日本版医師派遣 AACN (Advanced Automatic collision Notification) 救急自動通報システム (D-Call Net) の開発. 日本救急医学会関東地方会学術集会 (第 67 回) (栃木県下都賀郡壬生町), 2017. 2.
- (8) ポスター :
- 1) Matsumoto H, Mashiko K, Yasumatsu H, Motomura T, Nakayama F, Sakamoto T, Hattori Y, Okada K, Seo T, Konda Y, Kujo M, Gomi M, Saito N, Yagi T, Hara Y : Fundamental experience of developing temporary packing material using polymer gel to control solid organ hemorrhage. European Congress of Trauma & Emergency Surgery (17th) (Vienna, Austria), 2016. 4.
- (9) 一般講演 :
- 1) Motomura T^{4,1)}, Hisanori K¹⁾, Hisashi M¹⁾, Tetsuya N^{4,2)}, Kunihiko M^{4,3)}, Hiroto I^{4,3)} (, 2) Nihon University Biomechanics Research Unit, 3) HEM-Net, 4) D-Call Net study group) : Development and operation of the Japan Advanced Automatic Collision Notification (D-Call Net) Service. World Trauma Congress (3rd) (New Delhi), 2016. 8.
- 2) 本村友一, 平林篤志, 山内延貴, 松本 尚, 藤塚健次¹⁾, 町田浩志¹⁾, 中村光伸¹⁾, 大塚尚実²⁾, 佐藤友子³⁾ (1) 前橋赤十字病院, 2) 熊本赤十字病院, 3) 佐賀県医療センター好生館) : ドクターヘリ調整部 (熊本県庁) の活動 (他機関ヘリによる航空医療搬送). 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 3) 高橋礼子¹⁾, 近藤久禎¹⁾, 嶋村文彦²⁾, 本村友一, 小井土雄一¹⁾ (1) 災害医療センター 臨床研究部, 2) 千葉県救急医療センター) : 広域災害時における DMAT・消防の連携体制強化 : 第 5 回緊急消防援助隊全国合同訓練より. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 4) 平林篤志, 本村友一, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 平成 26 年度千葉県交通事故調査による PTD の検証. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 5) 関根和弘¹⁾, 田中秀治¹⁾, 匂坂 量¹⁾, 原 貴大¹⁾, 田久浩志¹⁾, 本村友一, 松本 尚, 島崎修次¹⁾ (1) 国士館大学大学院 救急システム研究科 救急システム専攻) : 救急隊の行う外傷フィールドトリアージの臨床的有用性についての後方視的検討. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 6) 町田浩志¹⁾, 松本 尚, 中村光伸¹⁾, 本村友一, 佐藤友子²⁾, 大塚尚実³⁾, 林田和之⁴⁾, 八木正晴⁵⁾, 吉田隆浩⁶⁾, 藤塚健次¹⁾ (1) 前橋赤十字病院 高度救命救急センター 集中治療科・救急科, 2) 佐賀県医療センター好生館, 3) 熊本赤十字病院 麻酔科, 4) 熊本赤十字病院 総合救命救急センター 外傷外科, 5) 浦添総合病院 救命救急センター 総合診療部, 6) 岐阜大学医学部附属病院 高次救命治療センター) : 平成 28 年熊本地震における参集ドクターヘリ群の活動概略. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 7) 太田黒崇伸, 久城正紀, 近田祐介, 岡田一宏, 八木貴典, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 救急外来受診患者における quick Sepsis-Related Organ Failure Assessment (qSOFA) を用いた敗血症診断の検証. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.

- 8) 樽本浩司, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 頸椎頸髓損傷患者における外傷性椎骨動脈損傷の検討. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 9) 山本真梨子, 齋藤伸行, 益子一樹, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 外傷性肺嚢胞 18 例に関する臨床的検討. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 10) 阪本太吾, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 重症外傷を除外するための D ダイマーを用いたリスク評価. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 11) 二宮宣文¹⁾, 不動寺純明²⁾, 今本俊郎³⁾, 樽本浩司 (1) 塩田記念病院 救急科, ²⁾ 亀田総合病院 救命救急科, ³⁾ 埼玉県立小児医療センター) : 医療過疎地域における救急科の役割. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 12) 久城正紀, 齋藤伸行, 岡田一宏, 八木貴典, 益子一樹, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 骨盤骨折に対する血管造影検査の適応. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 13) 小田有哉, 齋藤伸行, 服部 陽, 安松比呂志, 益子一樹, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 出血性胃潰瘍における再出血ハイリスクについての検討. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 14) 宮本 拓¹⁾, 池知大輔¹⁾, 樽本浩司, 清水弘毅¹⁾, 山下 進¹⁾ (1) 独立行政法人地域医療機能推進機構 徳山中央病院) : Wernicke 脳症を発症した慢性腎不全患者の 1 例. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 15) 中山文彦, 益子一樹, 八木貴典, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 鈍的胸部大動脈損傷治療の課題. 日本救急医学会 (第 44 回) (東京), 2016. 11.
- 16) 久城正紀, 益子一樹, 本村友一, 安松比呂志, 八木貴典, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾, 千葉県交通事故調査委員会 (1) 日本医科大学 救急医学) : 千葉県におけるラピッドカー運用の提言. 日本病院前救急診療医学会総会・学術集会 (第 11 回) (岡山県岡山市), 2016. 12.
- 17) Saito N, Yagi T, Matsumoto H, Hara Y, Motomura T¹⁾, Iida H, Yasymatsu H, Mashiko K, Yokota H (1) Nippon Medical School, Emergency and Critical Care Medicine) : Therapeutic trigger value of fibrinogen in patients with severe trauma. Annual Meeting of the American Association for the Surgery of Trauma & Clinical Congress of Acute Care Surgery (75th) (Hawaii), 2016. 9.
- 18) 飯田浩章, 市川頼子, 五味基央, 瀬尾卓生, 原 義明, 松本 尚, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救命救急センター) : 寛骨臼骨折術後に発生した血栓塞栓症の 2 例. 救急整形外傷シンポジウム (第 22 回) (北海道札幌市), 2016. 6.
- 19) 中山文彦, 益子一樹, 本村友一, 安松比呂志, 服部 陽, 阪本太吾, 原 義明, 齋藤伸行, 八木貴典, 飯田浩章, 瀬尾卓生, 近田祐介, 岡田一宏, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 鈍的外傷による下大静脈損傷の治療の課題. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 30 回) (東京都千代田区), 2016. 5.
- 20) 五味基央, 原 義明, 飯田浩章, 瀬尾卓生, 杉中宏司, 後藤美咲, 市川頼子, 川井 真¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 外傷性の頸胸椎移行部骨折に合併した胸部大動脈損傷の検討. 日本骨折治療学会 (第 42 回) (東京), 2016. 7.
- 21) 山本真梨子, 服部 陽, 阪本太吾, 中山文彦, 安松比呂志, 本村友一, 益子一樹, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 現場にて切迫心停止となった外傷性子官筋腫破裂の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 53 回) (神奈川県横浜市), 2017. 3.
- 22) 原 義明, 飯田浩章, 瀬尾卓生, 五味基央, 市川頼子, 川井 真¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 当施設における見逃し外傷の実態. 日本骨折治療学会 (第 42 回) (東京), 2016. 7.
- 23) 岡田一宏, 齋藤伸行, 久城正紀, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 重症外傷における persistent inflammation, immunosuppression, and catabolism syndrome の新診断基準. 日本集中治療学会学術集会 (第 44 回) (北海道札幌市), 2017. 3.
- 24) 町田浩志¹⁾, 中村光伸¹⁾, 木村友一, 佐藤友子²⁾, 大塚尚実³⁾, 林田和之⁴⁾, 八木正晴⁵⁾, 吉田隆浩⁶⁾, 松本 尚 (1) 前橋赤十字病院高度救命救急センター集中治療科・救急科, ²⁾ 佐賀県医療センター好生館救命救急センター, ³⁾ 熊本赤十字病院麻酔科, ⁴⁾ 熊本赤十字病院総合救命治療センター外傷外科, ⁵⁾ 浦添総合病院救命救急センター, ⁶⁾ 岐阜大学医学部附属病院高次救命治療センター) : 平成 28 年熊本地震におけるドクターヘリ統括本部の活動と存在意義. 日本集団災害医学会 (第 22 回) (名古屋), 2017. 2.
- 25) 中村光伸¹⁾, 山本瑞樹²⁾, 高森美枝³⁾, 横田英己²⁾, 小林啓二⁴⁾, 市原正行⁵⁾, 町田浩志¹⁾, 木村友一 (1) 前橋赤十字病院高度救命救急センター集中治療科・救急科, ²⁾ 朝日航洋株式会社, ³⁾ 株式会社ウェザーニューズ航空気象コンテンツサービス, ⁴⁾ 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構, ⁵⁾ 厚生労働省 DMAT 事務局) : 熊本地震では何ができたのか? : ヘリコプター動態監視システム. 日本集団災害医学会 (第 22 回) (名古屋), 2017. 2.
- 26) 平林篤志, 本村友一, 益子一樹, 松本 尚 : 局地災害に対して Plan Red は有効か?. 日本集団災害医学会 (第 22 回) (名古屋), 2017. 2.
- 27) 山内延貴¹⁾, 渡邊暁洋²⁾, 丹内一成³⁾, 小原裕樹⁴⁾, 武政輝希⁵⁾, 木村友一, 嶋村文彦⁶⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院庶務課・災害対策室, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤部・災害対策室, ³⁾ 千葉県病院局経営管理課, ⁴⁾ 東京慈恵会医科大学附属病院医療安産推進室, ⁵⁾ 千葉県救急医療センター看護部, ⁶⁾ 千葉県救急医療センター外傷治療科) : 千葉県 DMAT ロジスティック会の研修効果について

て。日本集団災害医学会（第22回）（名古屋），2017. 2.

- 28) Yamada M¹⁾, Chiba T²⁾, Matsuda A³⁾, Aiso S¹⁾, Masuno T, Matsumoto H, Yokota H³⁾, Miyashiya M (1) Department of Anatomy, Keio University School of Medicine, 2) Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, 3) Department of Surgery, Nippon Medical School) : THE ROLE OF ASTROCYTES IN THE NERVOUS SYSTEM DYSFUNCTION, SEPSIS INDUCED MEMORY IMPAIRMENT. International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo, Japan), 2016. 10.
- 29) Sekiguchi K³⁾, Yamada M¹⁾, Chiba T²⁾, Matsuda A³⁾, Aiso S¹⁾, Masuno T, Matsumoto H, Yokota H, Miyashita M³⁾ (1) Department of Anatomy, Keio University School of Medicine, 2) Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, 3) Department of Surgery, Nippon Medical School) : S14G-HUMANIN IMPROVES THE SURVIVAL FROM SEVERE SEPSIS. International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo, Japan), 2016. 10.
- 30) Konda Y, Matsuda A, Yamada M, Shibata A, Ichikawa Y, Saito N, Yagi T, Hara Y, Matsumoto H, Yokota H : THE ALTERATIONS OF MILK FAT GLOBULE EGF-FACTOR 8 AND THE ASSOCIATION WITH ORGAN DYSFUNCTION IN TRAUMA ICU PATIENTS. International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo, Japan), 2016. 10.
- 31) Sumi Y¹⁾, Matsuda A²⁾, Yamada M, Kuroda Y¹⁾, Zhang J³⁾, Junger W³⁾, Tanaka H¹⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Juntendo University Urayasu Hospital, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, 3) Department of Surgery, Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School) : PLASMA ATP/ADENOSINE BALANCE AND THE INFLAMMATORY RESPONSE TO ELECTIVE SURGERY. International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo, Japan), 2016. 10.
- 32) 山田真吏奈, 増野智彦¹⁾, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 早期の感染コントロールは、敗血症マウスモデルにおける PICS 脳機能障害を抑制させる。日本救急医学会総会・学術集会（第44回）（東京），2016. 11.
- 33) Masuda H¹⁾, Matsuda A¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Yamada M¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : NON-OCCLUSIVE MESENTERIC ISHEMIA : PATHOGENESIS, DIAGNOSTIC AND THERAPEUTIC MODALITIES FROM OUR EXPERIENCES. International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo, Japan), 2016. 10.
- 34) Ando F¹⁾, Matsuda A¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Sakurazawa N¹⁾, Sekiguchi K¹⁾, Yamada M¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : THE PREDICTIVE VALUE OF THE LYMPHOCYTE-TO-MONOCYTE RATIO ON INFECTIOUS COMPLICATIONS AFTER LAPAROSCOPIC COLORECTAL CANCER. International Federation of Shock Societies (8th) (Tokyo, Japan), 2016. 10.
- 35) Matsuda A¹⁾, Miyashita M¹⁾, Yamada M¹⁾, Matsutani T¹⁾, Sekiguchi K¹⁾, Kuriyama S¹⁾, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : ASSOCIATION OF GALECTIN-3 BLOOD LEVELS AND POSTOPERATIVE COMPLICATIONS AFTER COLORECTAL CANCER SURGERY. Shock (39th) (Austin, Texas, USA), 2016. 6.
- 36) 樽本浩司, 山本真梨子, 阪本太吾, 中山文彦, 服部 陽, 安松比呂志, 益子一樹, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 液体大麻による body packer の1例。日本腹部救急医学会総会（第53回）（神奈川県横浜市），2017. 3.
- (10) Joint Session :
- 1) 阪本太吾, 齋藤伸行, 八木貴典, 益子一樹, 飯田浩章, 本村友一, 中山文彦, 岡田一宏, 瀬尾卓生, 安松比呂志, 杉中宏司, 原 義明, 松本 尚, 横堀将司¹⁾, 横田裕行¹⁾, その他5名 (1) 日本医科大学 救急医学) : 外傷医と脳外科医の連携に関する北総モデルの提案。日本外傷学会総会・学術集会（第30回）（東京都千代田区），2016. 5.
- (11) デジタルポスター :
- 1) 久城正紀, 齋藤伸行, 岡田一宏, 太田黒崇伸, 本村友一, 益子一樹, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 外傷患者に対する挿管回避・肺炎予防を目的とした NPPV (Noninvasive Positive Pressure Ventilation)。日本集中治療学会学術集会（第44回）（北海道札幌市），2017. 3.
- (12) 一般演題 :
- 1) 山田真吏奈¹⁾, 千葉知宏²⁾, 松田明久³⁾, 相磯貞和⁴⁾, 増野智彦¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行¹⁾, 宮下正夫³⁾ (1) 日本医科大学救急医学, 2) 杏林大学医学部病理学, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科, 4) 慶應義塾大学医学部解剖学) : PICS 病態におけるアストロサイトの役割。外科侵襲とサイトカイン研究会（第23回）（東京），2016. 7.
- (13) 救急科領域講習 :
- 1) 松本 尚 : 動画でみる外傷初療。日本救急医学会（第44回）（東京），2016. 11.
- (14) 動画セッション :
- 1) 服部 陽, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 益子一樹, 齋藤伸行, 飯田浩章, 本村友一, 中山文彦, 岡田一宏, 安松比呂志, 阪本太吾, 黒柳美里, 瀬尾卓生, 近田祐介, その他4名 : 頸部血管中枢側への経胸腔的アプローチ。日本外傷学会総会・学術集会（第30回）（東京都千代田区），2016. 5.

(15) 優秀演題：

- 1) 益子一樹, 安松比呂志, 飯田浩章, 本村友一, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚：外傷センターを中心とした広域外傷システム構築の効果. 日本外傷学会総会・学術集会（第30回）（東京都千代田区），2016. 5.

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 瀬尾卓生：注意すべき四肢外傷. 小児外科 2016；48（2）：196-201.

追加分原著：

- 1) Matsumoto H, Mashiko K, Hara Y, Yagi T, Hayashida K, Mashiko K, Saito N, Iida H, Motomura T, Yasumatsu H, Kamayama D, Hirabayashi A, Yokota H¹⁾, Ishikawa H²⁾, Kunimatsu T²⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Nonprofit Organization of emergency Medical Network of Helicopter and Hospital, Tokyo, Japan) : Dispatch of helicopter emergency medical services via advanced automatic collision notification. the journal of emergency medicine 2016；50（3）：437-443.

追加分症例報告：

- 1) 岡田一宏, 八木貴典, 齋藤伸行, 松本 尚, 横田裕行¹⁾, 別所竜蔵²⁾, 畑 典武^{3,4)} (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院心臓血管外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, 4) 日本医科大学千葉北総病院循環器内科) : 多発外傷に併発した呼吸不全に対して venovenous extracorporeal membrane oxygenation を使用した5例の検討. 日本救急医学会雑誌 2016；27（2）：56-61.

著書

追加分著書：

- 1) 岡田一宏, 松本 尚：〔分担〕溺水. 呼吸器疾患 最新の治療 2016-2018（杉山幸比古, 門田淳一, 弦間昭彦），2016；pp176-178, 南江堂.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) 山田真吏奈¹⁾, 松田明久²⁾, 千葉知宏³⁾, 相磯貞和⁴⁾, 増野智彦⁵⁾, 松本 尚¹⁾, 宮下正夫²⁾, 横田裕行⁵⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 杏林大学医学部病理学教室, 4) 慶應義塾大学医学部解剖学教室, 5) 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野（同 高度救命救急センター）：重症敗血症モデルマウスにおける S14G-Humanin の効果. エンドトキシン血症救命治療研究会（第20回）（東京），2016. 1.

27. 形成再建再生医学分野

[付属病院形成外科・再建外科・美容外科]

研究概要

形成外科・再建外科・美容外科に関係する臨床医学研究、創傷治癒学・再生医学などの基礎医学研究、またこれらのトランスレーショナルリサーチを行った。多くの業績となったのは、ケロイドの発症機序の解明に関する研究である。現在ケロイドは遺伝因子、全身的因子、また局所因子が関与する複雑な発症機序を有していると考えられる。これらの因子を一つ一つ研究しているが、われわれの基礎および臨床研究の成果から、ケロイドの原因として血管系の異常が示唆されており、これに関する学会発表・論文発表が多く行った。またメカノバイオロジーとメカノセラピーに関するトランスレーショナルリサーチも進んでいる。メカノバイオロジーとは、重力や張力、せん断応力、静水圧や浸透圧といった物理的刺激が、細胞や組織、臓器にどのような影響を与えるかを解析する物理生物学の研究分野である。物理的刺激は組織から細胞、細胞膜から核内へ、さまざまな構造；接着分子やイオンチャネル、細胞骨格などのメカノセンサー；を通じて感受され、物理化学的信号に変換されながらシグナル伝達系路；メカノシグナル伝達経路；に影響を与えることがわかってきた。われわれはメカノバイオロジー、すなわち細胞の物理的環境を考える研究領域を、臨床に応用することを「メカノセラピー」と命名し、多くの研究発表を行った。またリンパ浮腫の評価・治療方法、爪疾患の病態解明や新規治療方法に関する報告など革新的な研究成果があった。また各種装置を用いた皮弁の血行動態の評価や新しい皮弁の開発も昨年度に引き続き行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 松本典子¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：胸骨筋の統計学的検討。日形会誌 2016；36 (4)：158-161.
- 2) 佐野仁美¹⁾, 大木更一郎²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 大木皮膚科)：第1趾巻き爪に対するそがわ式爪矯正法：即時効果と短期的治療効果の検討。日本形成外科学会誌 2016；36 (7)：299-303.
- 3) 小川 令¹⁾, 飯村剛史¹⁾, 柘植琢哉¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：低侵襲・短時間のリンパ管静脈吻合手術をめざして—診断と手術の工夫—。形成外科 2016；59 (8)：813-818.
- 4) 櫻井 透¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 森田明夫²⁾, 中溝宗永³⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 3) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科)：再発頭蓋底腫瘍手術における筋体付き前外側大腿皮弁移植の経験。日本頭蓋顎顔面外科学会誌 2016；32 (2)：55-60.
- 5) Matsumoto N¹⁾, Aoki M¹⁾, Nakao J¹⁾, Peng W²⁾, Takami Y³⁾, Umezawa H¹⁾, Akaishi S¹⁾, Ohashi R²⁾, Naito Z²⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Integrated Diagnostic Pathology, Graduate School of Medicine Nippon Medical School, 3) Plastic and Reconstructive Surgery, Tokyo Rosai Hospital)：Experimental Rat Skin Flap Model That Distinguishes between Venous Congestion and Arterial Ischemia：The Reverse U-Shaped Bipedicled Superficial Inferior Epigastric Artery and Venous System Flap. Plastic & Reconstructive Surgery 2017；139 (1)：79e-84e.
- 6) Ogawa R¹⁾, Ono S¹⁾, Akaishi S¹⁾, Dohi T¹⁾, Iimura T¹⁾, Nakao J¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Reconstruction after Anterior Chest Wall Keloid Resection Using Internal Mammary Artery Perforator Propeller Flaps. Plast Reconstr Surg Glob Open 2016；4 (9)：e1049.
- 7) Aoki M¹⁾, Akaishi S¹⁾, Nakao J¹⁾, Dohi T¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Objective Spectrometric Measurement of Keloid Color in the East Asian Population：Pitfalls of Subjective Color Measurements. J Nippon Med Sch 2016；83 (4)：142-149.
- 8) Umezawa H¹⁾, Nakao J¹⁾, Matsutani T²⁾, Kuwahara H¹⁾, Taga M¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Hospital)：Usefulness of the Clavien-Dindo Classification in Understanding the Limitations and Indications of Larynx-preserving Esophageal Reconstruction. Plast Reconstr Surg Glob Open 2016；4 (11)：e1113.
- 9) Huang C¹⁾, Du Y²⁾, Nebzdyk C^{3,4)}, Ogawa R⁵⁾, Koyama T⁶⁾, Orgill D³⁾, Fu X⁷⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Beijing Tsinghua Changgung Hospital, Medical Center, Tsinghua University, Beijing, China., 2) Department of Biomedical Engineering, School of Medicine, Tsinghua University, Beijing, China., 3) Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts., 4) Department of Anesthesiology, Perioperative and Pain

- Medicine, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts., ⁵⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School., ⁶⁾ Men's Health Clinic Tokyo, ⁷⁾ Institute of Basic Medical Science, The General Hospital of PLA, Beijing, China.) : Regeneration of hair and other skin appendages : A microenvironment-centric view. *Wound Repair Regen* 2016 ; 24 (5) : 759-766.
- 10) Kuwahara H^{1,2)}, Tosa M^{2,3)}, Egawa S²⁾, Murakami M³⁾, Mohammad G²⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Department of Molecular Pathology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, Institute of Gerontology, ³⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, Musashi Kosugi Hospital) : Examination of Epithelial Mesenchymal Transition in Keloid Tissues and Possibility of Keloid Therapy Target. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 2016 ; 4 (11) : e1138.
- 11) Ono S¹⁾, Hayashi H²⁾, Ohi H³⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School, ³⁾ Hand & Microsurgery Center, Seirei Hamamatsu General Hospital) : Imaging Studies for Preoperative Planning of Perforator Flaps : An Overview. *Clin Plast Surg* 2017 ; 44 (1) : 21-30.
- 12) Sano H¹⁾, Oki K²⁾, Sogawa H³⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Dermatology, Oki Dermatology Clinic, ³⁾ Department of Orthopedics, Sogawa Clinic) : The Stainless Steel Wire-based Method of Sogawa Effectively Corrects Severe Ingrown Nails. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 2016 ; 4 (8) : e846.
- 13) Sakuraba M^{1,2)}, Umezawa H³⁾, Miyamoto S⁴⁾, Fujiki M⁴⁾, Higashino T¹⁾, Oshima A¹⁾, Tsuboi M⁵⁾ (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, National Cancer Center Hospital East, ²⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Iwate Medical University, ³⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, National Cancer Center Hospital, ⁵⁾ Department of Thoracic Surgery, National Cancer Center Hospital East) : Reconstructive Surgery for Bronchopleural Fistula and Empyema : New Application of Free Fascial Patch Graft Combined with Free Flap. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 2017 ; 5 (1) : e1199.
- 14) 朝日林太郎¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 顔面皮膚悪性腫瘍治療に対するドレーン孔タイプ真皮欠損用グラフト (インテグラ®) の使用経験. *創傷* 2016 ; 7 (3) : 137-140.
- 15) Aoki H¹⁾, Aoki M¹⁾, Katsuta E²⁾, Ramanathan R¹⁾, Idowu M³⁾, Spiegel S⁴⁾, Takabe K²⁾ (¹⁾ Division of Surgical Oncology, Department of Surgery, Virginia Commonwealth University School of Medicine and Massey Cancer Center, Richmond, Virginia, ²⁾ Division of Surgical Oncology, Department of Surgery, Virginia Commonwealth University School of Medicine and Massey Cancer Center, Richmond, Virginia, ³⁾ Department of Pathology, Virginia Commonwealth University School of Medicine and Massey Cancer Center, Richmond, Virginia., ⁴⁾ Department of Biochemistry & Molecular Biology, Virginia Commonwealth University School of Medicine and Massey Cancer Center, Richmond, Virginia) : Host sphingosine kinase 1 worsens pancreatic cancer peritoneal carcinomatosis. *Journal of Surgical Research* 2016 ; 205 (2) : 510-517.
- 16) 飯村剛史^{1,2)}, 小野真平¹⁾, 朝日林太郎¹⁾, 赤石諭史¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ 行徳総合病院形成外科) : 局所陰圧閉鎖療法における細菌汚染・感染の可能性と多剤耐性菌院内伝播への対策 - 形成外科医として知っておくべきこと -. *日本形成外科学会誌* 2017 ; 37 (3) : 111-116.
- 17) Aoki H^{1,2)}, Aoki M^{1,2)}, Yang J³⁾, Katsuta E^{1,2)}, Mukhopadhyay P^{1,2)}, Ramanathan R¹⁾, Woelfel I^{1,2)}, Wang X³⁾, Spiegel S²⁾, Zhou H³⁾, Takabe K^{1,2)} (¹⁾ Division of Surgical Oncology, Department of Surgery, Virginia Commonwealth University School of Medicine, Richmond, Virginia, ²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Virginia Commonwealth University School of Medicine, Richmond, Virginia, ³⁾ Department of Microbiology and Immunology, Virginia Commonwealth University School of Medicine, Richmond, Virginia) : Murine model of long-term obstructive jaundice. *Journal of Surgical Research* 2016 ; 206 (1) : 118-125.
- (2) 総説 :
- 1) 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 神経線維腫の外科的治療 レックリングハウゼン病で傷が綺麗に治る理由. *日本レックリングハウゼン病学会雑誌* 2016 ; 7 (1) : 14-16.
- 2) 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 【泌尿器科処方すべて - すぐに使える実践ガイド】 周術期予定手術 肥厚性癬痕の予防 (解説/特集). *臨床泌尿器科* 2016 ; 70 (4) : 246-248.
- 3) 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : ケロイド・肥厚性癬痕は完治できる! : その病態から最新治療まで. *日本臨床皮膚科医会雑誌* 2016 ; 33 (4) : 498-504.
- 4) 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 肥厚性癬痕・ケロイドの手術. *手術* 2016 ; 70 (9) : 1145-1151.
- 5) 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : ケロイド・肥厚性癬痕に対する保存的治療のトピックと今後

- の展開：血管の制御がケロイド・肥厚性瘢痕の治癒を促す. PEPARS 2016 ; 117 : 1-6.
- 6) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：ケロイド・肥厚性瘢痕に対する外科的治療のトピックと今後の展開：張力の制御がケロイド・肥厚性瘢痕の治癒を促す. PEPARS 2016 ; 117 : 48-56.
 - 7) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：研究や留学が臨床を豊にする！：いま、形成外科に求められること. 形成外科 2016 ; 59 (12) : 1271-1276.
 - 8) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：ケロイド・肥厚性瘢痕. JOHNS 2016 ; 32 (11) : 1639-1644.
 - 9) 小川 令¹⁾, 高田弘弥^{1,2)}, 小山太郎^{1,3)}, 佐野仁美¹⁾, 赤石諭史¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ 株式会社ピクシー中央研究所, ³⁾ メンズヘルスクリニック東京)：皮膚・軟部組織のメカノバイオロジーとメカノメディシン：形成外科・美容医療・創傷治療におけるメカノセラピー. 医学のあゆみ 2016 ; 257 (10) : 1063-1069.
 - 10) Ogawa R¹⁾, Akaishi S¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Endothelial dysfunction may play a key role in keloid and hypertrophic scar pathogenesis- ; Keloids and hypertrophic scars may be vascular disorders. Medical Hypotheses 2016 ; 96 : 51-60.
 - 11) Yagmur C¹⁾, Sinan Engin M¹⁾, Ogawa R²⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Ondokuz Mayls University Faculty of Medicine, Samsun, Turkey, ²⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Can subphysiological cold application be utilized in excessive dermal scarring prophylaxis and treatment? : A promising hypothetical perspective. Medical Hypotheses 2016 ; 97 : 4-6.
 - 12) Ogawa R¹⁾, Akaishi S¹⁾, Kuribayashi S²⁾, Miyashita T²⁾ (1) Department of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Keloids and Hypertrophic Scars Can Now Be Cured Completely : Recent Progress in Our Understanding of the Pathogenesis of Keloids and Hypertrophic Scars and the Most Promising Current Therapeutic Strategy. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (2) : 46-53.
 - 13) 百束比古¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 江浦重義¹⁾, 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, Vu-Quang V²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ ベトナム国立熱傷研究所)：微小血管吻合付加皮弁 (microvascular augmented flaps)：特に超薄化のための適用について (特集 皮弁の再考：Flap Revisited). 形成外科 2016 ; 59 (7) : 738-748.
 - 14) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Keloid and Hypertrophic Scars Are the Result of Chronic Inflammation in the Reticular Dermis. International Journal of Molecular Sciences 2017 ; 18 (3) : 606.
- (3) その他：
- 1) 小川 令¹⁾, 赤石諭史¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：瘢痕・ケロイドの手術における切開・縫合法の工夫. PEPARS 2017 ; 123 : 61-68.
- (4) 症例報告：
- 1) 青木宏信¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 奈良慎平¹⁾, 早川 潤²⁾, 田辺雄次郎²⁾, 植田高弘²⁾, 前田美穂²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院小児科)：小児顔面の横紋筋肉腫の緩和治療に Mohs ペーストが有効であった 1 例. 日本形成外科学会誌 2016 ; 36 (5) : 217-221.
 - 1) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：ケロイド・肥厚性瘢痕は完治する！：発症機序から、柴苓湯を含めた最新治療まで. Phil 漢方 2016 ; 59 : 16-17.
 - 2) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：メカノバイオロジーから考えた気道の再生医学. 日本気管食道科学会会報 2016 ; 67 (2) : 103-105.
 - 3) 赤石諭史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：ケロイド内血管の多角的検討. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2016 ; 10 (1) : 51-54.
 - 4) 小川 令¹⁾, 赤石諭史¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：ケロイド・肥厚性瘢痕に対する副腎皮質ホルモンテープ剤 (ステロイドテープ) の有用性：フルドロキシコルチド製剤 (ドレニゾン® テープ) とデブロドンプロピオン酸エステル製剤 (エクラー® プラスター) の比較検討. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2016 ; 10 (1) : 55-60.
 - 5) 小川 令¹⁾, 赤石諭史¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 栗林茂彦²⁾, 宮下次廣²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院放射線治療科)：治療に難渋したケロイド症例の検討：ケロイドは完治できる！. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2016 ; 10 (1) : 61-66.
 - 6) 小川 令¹⁾, 秋田定伯²⁾, 赤石諭史¹⁾, 岡部圭介³⁾, 清水史明⁴⁾, 須永 中⁵⁾, 土佐泰祥⁶⁾, 長尾宗朝⁷⁾, 村尾尚規⁸⁾, 山脇聖子⁹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ 長崎大学病院形成外科, ³⁾ 慶應義塾大学病院形成外科, ⁴⁾ 大分大学医学部附属病院形成外科, ⁵⁾ 自治医科大学附属病院形成外科, ⁶⁾ 昭和大学病院形成外科, ⁷⁾ 岩手医科大学附属病院形成外科, ⁸⁾ 北海道大学病院形成外科, ⁹⁾ 京都大学医学部附属病院形成外科)：JSW Scar Scale の改訂：治療ガイドライン作成に向けて - 第 2 回 -. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2016 ; 10 (1) : 33-50.

- 7) 百東比古^{1,2)} (1) 日本医科大学名誉教授, ²⁾ 前日本医科大学付属病院形成外科・美容外科主任教授) : 癬痕・ケロイド治療研究会 10 年を振り返って. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2016 ; 10 (1) : 7-32.
- 8) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Discussion : Identification of Key Modules and Hub Genes of Keloids with Weighted Gene Coexpression Network Analysis. Plastic & Reconstructive Surgery 2017 ; 139 (2) : 391-392.

著 書

- 1) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : [分担] 癬痕の予防. 創傷治癒コンセンサスドキュメント : 手術手技から周術期管理まで (日本創傷治癒学会ガイドライン委員会), 2016 ; pp20-21, 全日本病院出版会.
- 2) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : [分担] 電気メスによる切開は, メスなどの鋭的切開よりも創傷治癒が障害される. 創傷治癒コンセンサスドキュメント - 手術手技から周術期管理まで - (日本創傷治癒学会ガイドライン委員会), 2016 ; pp74-75, 全日本病院出版会.
- 3) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : [分担] 創部の抜糸, 抜糸後は, 肥厚性癬痕予防のため, テープなどで3か月以上固定する. 創傷治癒コンセンサスドキュメント - 手術手技から周術期管理まで - (日本創傷治癒学会ガイドライン委員会), 2016 ; pp206-207, 全日本病院出版会.
- 4) 小川 令¹⁾, 秋田定伯²⁾, 紺家千津子³⁾, 竹内裕也⁴⁾, 中村哲也^{4, 5)}, 森本尚樹⁶⁾, 吉田 昌⁷⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ 長崎大学医学部形成外科, ³⁾ 金沢医科大学看護学部, ⁴⁾ 慶應義塾大学医学部外科学, ⁵⁾ 稲城市立病院外科, ⁶⁾ 関西医科大学形成外科, ⁷⁾ 国際医療福祉大学病院外科) : [編集] 創傷治癒コンセンサスドキュメント - 手術手技から周術期管理まで - (日本創傷治癒学会ガイドライン委員会), 2016 ; 全日本病院出版会.
- 5) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : [分担] 肥厚性癬痕の予防. 臨床泌尿器科増刊号 (編集 : 大家基嗣, 近藤幸尋, 小島祥敬), 2016 ; pp246-248, 医学書院.
- 6) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : [分担] 現代におけるメイクアップセラピーの意義 : 形成外科から. リハビリメイク 見えてくる, メイクアップセラピーという選択肢 (監修 : 百東比古, 編集 : 青木律, かづきれいこ), 2016 ; pp6-7, 克誠堂出版.
- 7) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : [分担] Mechanobiology and mechanotherapy in Tissue Engineering. In Situ Tissue Regeneration-Host Cell Recruitment and Biomaterial Design - (Edited by Lee SJ, Yoo JJ and Atala A), 2016 ; pp165-181, Elsevier.
- 8) Stekelenburg C¹⁾, Marck R^{1, 2)}, Tuinebreijer W¹⁾, De Vet H³⁾, Ogawa R⁴⁾, Van Zuijlen P^{1, 2)} (1) Association of Dutch Burn Centers, Beverwijk, The Netherlands, ²⁾ MOVE Research Institute, VU University of Amsterdam, The Netherlands, ³⁾ Department of Epidemiology and Biostatistics, VU University Medical Center, Amsterdam, The Netherlands ; , ⁴⁾ Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : [分担] A systematic review on burn scar contracture treatment : searching for evidence. Progress in burn scar contracture treatment-A clinimetric and clinical evaluation - (Edited by Stekelenburg Cm), 2016 ; pp60-79, Ridderprint BV.
- 9) Sano H¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : [分担] Mechanobiology and Mechanotherapy for the Nail. Mechanobiology (Edited by Rawlinson SCF), 2017 ; pp267-273, Wiley Blackwell.
- 10) Ogawa R¹⁾, Huang C²⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Beijing Tsinghua Changgung Hospital, Tsinghua University, Beijing) : [分担] Mechanobiology and Mechanotherapy for Cutaneous Scarring. Mechanobiology (Edited by Rawlinson SCF), 2017 ; pp255-265, Wiley Blackwell.
- 11) Hsu C¹⁾, Ogawa R²⁾ (1) Department of Dermatology, National Cheng-Kung University College of Medicine and Hospital, Tainan, ²⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : [分担] Mechanobiology and Mechanotherapy for Skin Disorders. Mechanobiology (Edited by Rawlinson SCF), 2017 ; pp221-237, Wiley Blackwell.
- 12) Huang C¹⁾, Du Y²⁾, Ogawa R³⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Beijing Tsinghua Changgung Hospital, Tsinghua University, Beijing, ²⁾ Department of Biomedical Engineering, School of Medicine, Tsinghua University, Beijing, ³⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : [分担] Mechanobiology and Mechanotherapy for Cutaneous Wound-Healing. Mechanobiology (Edited by Rawlinson SCF), 2017 ; pp239-253, Wiley Blackwell.
- 13) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : [分担] Multimodal Scar Management. The Scar Book (Edited by Krakowski AC, Shumaker PR), 2017 ; pp224-232, Wolter Kluwer.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：生命史をたどり未来の美容医療を変える！：メカノバイオロジーの最新理論と美容医療への応用。日本美容外科学会 (JSAPS) 学術集会 (第 128 回) (東京), 2017. 1.

(2) 招待講演：

- 1) Ogawa R¹⁾, Iimura T¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Analysis of LVA patients using Lymphoscintigraphy with SPECT-CT. International Symposium of Lymphedema Surgery and Breast Reconstruction of the University of Tokyo (2nd) (Tokyo), 2016. 4.
- 2) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：いま，形成外科に求められること：研究や留学が臨床を豊かにする。形成外科集学医療技術研究会 (第 16 回) (大阪), 2016. 4.
- 3) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Aesthetic Scar Management. International Congress of The Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery (The 15th) (Taipei), 2016. 5.
- 4) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Recent Advances in Total Scar Management. International Congress of The Oriental Society of Aesthetic Plastic Surgery (The 15th) (Taipei), 2016. 5.
- 5) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Advances in Scar Management for Asian Patients. MEVOS International Congress of Aesthetic Surgery and Medicine (第 2 回) (Dalian), 2016. 6.
- 6) 福原茂朋¹⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所病態解析学部門大学院医学研究科分子細胞構造学分野)：蛍光イメージングによる血管の形成・維持・破綻の分子機構の解明。谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 7) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：NPWT の作用機序と KCI の Line-Up. KCI フォーラム, 2016. 10.
- 8) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Strategy to treat heavy scars. Congress of Wound Union of Wound HeFlorencealing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 9) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：The latest in keloid and hypertrophic scar pathophysiology and treatment strategies. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 10) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Pathophysiology of Hypertrophic/Keloid Scarring. Scar Academy London (London), 2016. 11.
- 11) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Surgery for Keloid Scars. Scar Academy London (London), 2016. 11.
- 12) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：External Beam/Brachtherapy. Scar Academy London (London), 2016. 11.
- 13) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：The Latest in Keloid and Hypertrophic Scar Pathophysiology and Treatment Strategies. Dongsan Wound Forum (Daegu), 2016. 11.
- 14) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：ケロイド・肥厚性瘢痕の治療が変わった！：瘢痕形成の最新理論と治療の実践。博多形成外科フォーラム (第 9 回) (博多), 2017. 2.
- 15) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：The Latest in Keloid and Hypertrophic Scar Pathophysiology and Treatment Strategies. Korean Society for Dermatologic Surgery (The 22th) (Seoul), 2017. 2.
- 16) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：The Latest in Keloid and Hypertrophic Scar Pathophysiology and Treatment Strategies. Shanghai International Plastic & Aesthetic Surgery Conference (16th) (Shanghai), 2017. 3.
- 17) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Mechanobiology of Wound Healing and Scarring. Wound Healing Conference in Brigham and Women's Hospital (Boston), 2017. 3.

(3) 教育講演：

- 1) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：熱傷の瘢痕治療が変わった！：瘢痕拘縮・肥厚性瘢痕・ケロイドの発症機序から最新治療まで。日本熱傷学会総会・学術集会 (第 42 回) (舞浜), 2016. 6.
- 2) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)：Total Scar Management from Laser to Surgery. MEVOS International Congress of Aesthetic Surgery and Medicine (第 2 回) (Dalian), 2016. 6.
- 3) 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科)：当院における乳房再建の工夫。合同乳房再建カンファレンス (第 1 回) (東京), 2016. 6.

- 4) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Total Scar Management from Surgery to Conservative Therapies. Health Manpower Development Plan (HMDP) - Visiting Experts program in Singapore Plastic Surgery (The 4th) (Singapore), 2017. 1.
 - 5) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Burn Reconstruction and Principle of Flap Surgery. Health Manpower Development Plan (HMDP) - Visiting Experts program in Singapore Plastic Surgery (The 4th) (Singapore), 2017. 1.
 - 6) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Translational Research of Mechanobiology and Mechanotherapy for Wound Healing. Health Manpower Development Plan (HMDP) - Visiting Experts program in Singapore Plastic Surgery (The 4th) (Singapore), 2017. 1.
 - 7) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Super-thin Flaps. Health Manpower Development Plan (HMDP) - Visiting Experts program in Singapore Plastic Surgery (The 4th) (Singapore), 2017. 1.
 - 8) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Pediatric and Upper Limb/ Chest Wall Scar Reconstruction. Health Manpower Development Plan (HMDP) - Visiting Experts program in Singapore Plastic Surgery (The 4th) (Singapore), 2017. 1.
 - 9) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Case Discussion. Health Manpower Development Plan (HMDP) - Visiting Experts program in Singapore Plastic Surgery (The 4th) (Singapore), 2017. 1.
 - 10) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : The Latest in “Scar” Pathophysiology and Treatment Strategies : From Perforator Flaps to Laser Treatments. Plastic Surgery Grand Rounds in Harvard Medical School (N/A) (Boston), 2017. 3.
- (4) シンポジウム :
- 1) 小川 令¹⁾, 赤石論史¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 小野真平¹⁾, 松本典子¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 癧痕・ケロイドにおける手術の役割. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
 - 2) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 穿通枝皮弁による contour 再建は機能・整容両面で治療アウトカムを向上する : 大腿部をドナーとする遊離穿通枝皮弁を用いた治療戦略. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
 - 3) 梅澤裕己¹⁾, 梅澤まり子²⁾, 中尾淳一¹⁾, 中溝宗永³⁾, 横島一彦³⁾, 松谷 毅⁴⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器内科, 3) 日本医科大学付属病院耳鼻科・頭頸部外科, 4) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 下咽頭再建手術患者の嚥下困難症状の原因を探る. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
 - 4) 飯村剛史^{1, 2)}, 福嶋善光³⁾, 汲田伸一郎³⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 行徳総合病院形成外科, 3) 日本医科大学放射線医学) : リンパシンチグラフィと SPECT-CT によるリンパ浮腫の新しい分類法. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
 - 5) 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : ケロイド・肥厚性癧痕に対するレーザー治療は効果があるのか. 日本創傷外科学会 (第 8 回) (東京), 2016. 7.
 - 6) 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 多賀麻里絵¹⁾, 青木宏信¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 自家組織を用いた乳房再建のトラブルシューティング : 動脈穿通枝をグラフトとした皮弁の救済. 日本創傷外科学会 (第 8 回) (東京), 2016. 7.
 - 7) 梅澤裕己¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 多賀麻里絵¹⁾, 松谷 毅²⁾, 中溝宗永³⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科) : 下咽頭食道癌手術の気管孔形成症例の解析と血流を評価・温存して創傷治癒を促す工夫. 日本創傷外科学会 (第 8 回) (東京), 2016. 7.
 - 8) 佐野仁美¹⁾, 市岡 滋²⁾, 野一色千景¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 埼玉医科大学病院形成外科・美容外科) : 酸素を使って難治性創傷を制する : 酸素を利用した創傷治療. 日本創傷外科学会 (第 8 回) (東京), 2016. 7.
 - 9) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 目立たない傷あとのための術中・術後管理法. 日本創傷治療学会 (第 46 回) (東京), 2016. 12.
 - 10) Arima J¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Hypertension is an aggravation factor of keloids and hypertrophic scars. Jahrestagung der DGPRAC (The 47th) (Kassel), 2016. 9.
 - 11) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Total Management of Scars- From Surgery to Scars-. Congress of International Society of Aesthetic Plastic Surgery (The 23rd) (Kyoto), 2016. 10.

- 12) 小山太郎^{1,2)}, 小林一広¹⁾, 小川 令²⁾ (1) メンズヘルスクリニック東京, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 毛髪再生とメカノバイオロジー. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第25回) (大阪), 2016. 9.
- 13) 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 権 知華¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): インプラントサイザーを用いた簡便な皮弁のマウント. 日本形成外科手術手技学会 (第22回) (東京), 2017. 2.
- 14) 小野真平¹⁾, 林 宏光²⁾, 大井宏之³⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院放射線科, 3) 聖隷浜松病院手外科・マイクロサージャリーセンター): 安全な皮弁手術を行うためのMDCTによる穿通枝術造影検査の有用性. 日本形成外科手術手技学会 (第22回) (東京), 2017. 2.
- (5) パネルディスカッション:
- 1) Ono S¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School): Clinical Applications of Perforator-based Flaps in Upper Limb Soft Tissue Reconstruction. Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 13th) (金沢), 2016. 5.
 - 2) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School): The Latest in Keloid and Hypertrophic Scar Pathophysiology and Treatment Strategies: Pathological Scars Can Be Treated by Employing Up-to-Date Surgical Management. Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 13th) (金沢), 2016. 5.
 - 3) 小川 令¹⁾, 秋田定伯²⁾, 赤石論史¹⁾, 岡部圭介³⁾, 清水史明⁴⁾, 土佐泰祥⁵⁾, 長尾宗朝⁶⁾, 村尾尚規⁷⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 長崎大学医学部形成外科, 3) 慶應義塾大学医学部形成外科, 4) 大分大学医学部形成外科, 5) 昭和大学医学部形成外科, 6) 岩手医科大学形成外科, 7) 北海道大学医学部形成外科): 癬痕・ケロイド治療指針作成に向けて. 癬痕・ケロイド治療研究会 (第11回) (東京), 2016. 8.
 - 4) 野本俊一¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 成長因子製剤による合併症の検討. 日本美容外科学会総会 (第39回) (京都), 2016. 10.
 - 5) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 癬痕・ケロイド治療の現状と課題. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第25回) (大阪), 2016. 9.
 - 6) 松本典子¹⁾, 彭 為霞²⁾, 青木雅代¹⁾, 赤石論史¹⁾, 大橋隆治²⁾, 内藤善哉²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学統御機構診断病理学): ケロイド組織における硝子化した膠原線維の組織学的検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第25回) (大阪), 2016. 9.
- (6) セミナー:
- 1) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): ケロイドは完治できる!: 形成外科の知識と技術がケロイドを克服する. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第59回) (福岡), 2016. 4.
 - 2) 小野真平¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 医療従事者が満足する足病治療から患者が喜ぶ足病治療へー治療アウトカム向上における患者満足度の重要性ー. 日本下肢救済・足病学会学術集会 (第8回) (東京), 2016. 5.
 - 3) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 合併症予防の観点からみた創閉鎖. MIST 維新の会 (N/A) (川崎), 2016. 5.
 - 4) Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School): Advanced Technology for Wound Healing and Scar Management: Possibility of Mechanobiology and Mechanotherapy. Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 13th) (金沢), 2016. 5.
 - 5) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 合併症予防の観点からみた創閉鎖. MIST 維新の会 (N/A) (川崎), 2016. 7.
 - 6) 佐野仁美¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 手術部位感染および病的癬痕予防のための閉創手技の理論と実践. 日本人工関節学会 (第47回) (沖縄), 2017. 2.
- (7) ワークショップ:
- 1) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): メカノセラピーにおける力のイメージングへの期待. 「力とレオロジーのイメージング」ワークショップ (第1回) (東京), 2016. 7.
 - 2) 中尾淳一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): OsiriX 入門. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第34回) (東京), 2016. 11.
- (8) 一般講演:
- 1) 青木宏信¹⁾, 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 糸やステープラーを使用しないコットンファイバー植皮法. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第59回) (福岡), 2016. 4.
 - 2) 野本俊一¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): フェイスリフト技術を応用した“再建美容外科”の試み. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第59回) (福岡), 2016. 4.
 - 3) 藪野雄大¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 奈良慎平¹⁾, 金子蘭子²⁾, 青木宏信¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外

- 科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科): 気管孔閉鎖術の検討と文献的考察. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 4) 多賀麻里絵¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 松谷 毅²⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院消化器外科): 当院における食道再建: 再建アルゴリズムと Clavien-Dindo 分類. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 5) かづきれいこ^{1,2)}, 青木 律^{2,3)}, 小野眞史⁴⁾, 小川 令²⁾ (¹⁾ REIKOKAZKI, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ³⁾ グリーンウッドスキンクリニック立川, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院眼科): 眼瞼痙攣患者の機能的・美容的問題に対する極薄粘着テープの効果. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 6) 秋元正宇¹⁾, 石井暢明¹⁾, 櫻井 透¹⁾, 小川 令²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 小児頭蓋への移植肋骨, 移植頭蓋骨外板の 10 年経過後の運命. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 7) 野一色千景¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 当院でのケロイド患者の統計学的観察. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 8) 三羽英之¹⁾, 佐野仁美¹⁾, 大木更一郎²⁾, 小川 令³⁾ (¹⁾ 会津中央病院形成外科, ²⁾ 大木皮膚科, ³⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 第 2-5 趾巻き爪に対するそがわ式爪矯正法の有用性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 9) 本田 梓¹⁾, V V²⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ ベトナム国立熱傷センター形成外科): 鎖骨上皮弁 (Supraclavicular Flap) の臨床・解剖学的検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 10) 安藤玲奈¹⁾, 村上正洋²⁾, 金子繭子²⁾, 渡邊真泉²⁾, 若林奈緒¹⁾, 桑原広輔¹⁾, 庄司真美¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科): 退行性下眼瞼内反症に対し Lower Eyelid Retractor 後層のタックキングと前層の前転を行った症例の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 11) 大木琴美^{1,2)}, 藪野雄大³⁾, 小川 令³⁾ (¹⁾ 博慈会記念総合病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, ³⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 内転筋間膿瘍, および腹直筋ガス産性膿瘍 (症例 2 のみ) を合併した恥骨骨髓炎の 2 症例. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 12) 中村加奈恵¹⁾, 桑原広輔¹⁾, 佐野仁美¹⁾, 大木琴美²⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ²⁾ 博慈会記念総合病院形成外科): 左鼠径部リンパ節転移が疑われた原発不明扁平上皮癌. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 13) 桑原広輔¹⁾, 小川 令¹⁾, 佐野仁美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 巻き爪の発症における歩行動態および足趾把持能力の関係. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 14) 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 多賀麻里絵¹⁾, 青木宏信¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 乳房下垂を再現するためのティッシュエキスパンダー挿入位置の工夫. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 15) 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 多賀麻里絵¹⁾, 青木宏信¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): ティッシュオキシメーターを用いた, 遊離腹部皮弁による乳房再建時の工夫. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 16) 佐野仁美^{1,2)}, 若林奈緒²⁾, 吉村陽子³⁾, 寺師浩人⁴⁾, 中村加奈恵²⁾, 小川 令²⁾ (¹⁾ 会津中央病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, ³⁾ 藤田保健衛生大学形成外科, ⁴⁾ 神戸大学形成外科): 専門医取得後の女性医師のキャリア形成に関する考察. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 17) 奈良慎平¹⁾, 藪野雄大¹⁾, 本田 梓¹⁾, 柘植琢哉¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 濃硫酸による化学損傷後, 敗血症性ショックとなり緊急手術を要した 1 例. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 18) 渋谷偉織¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 石井暢明¹⁾, 香西達一¹⁾, 櫻井 透¹⁾, 野一色千景¹⁾, 小川 令²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 脂腺母斑から発生した有棘細胞癌の治療経験. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 19) 石井暢明¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 香西達一¹⁾, 渋谷偉織¹⁾, 櫻井 透¹⁾, 野一色千景¹⁾, 小川 令²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 陥凹性癬痕, ケロイド・肥厚性癬痕に対するミルフィーユ縫合の有用性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 20) 香西達一¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 石井暢明¹⁾, 渋谷偉織¹⁾, 櫻井 透¹⁾, 野一色千景¹⁾, 小川 令²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 有限要素法によるシミュレーションを用いた様々な創傷被覆材の力学的検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 21) 野一色千景¹⁾, 久保田芳明²⁾, 高木 元²⁾, 有馬樹里¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容

- 外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院循環器内科): ケロイドの発生・増悪と血管内皮機能障害の関連性の検討. 日本血管不全学会学術集会 (第1回) (東京), 2016. 4.
- 22) 佐野仁美^{1,3)}, 大木更一郎²⁾, 小川 令³⁾ (¹⁾ 会津中央病院 形成外科, ²⁾ 大木皮膚科, ³⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 陥入爪術後残存爪の再陥入に対するそがわ式爪矯正法の効果. 日本下肢救済・足病学会学術集会 (第8回) (東京), 2016. 5.
- 23) Nakamura K¹⁾, Akaishi S¹⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School): Partial Resection and Post-Operative Radiation Therapy for Huge Keloids. Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 13th) (金沢), 2016. 5.
- 24) Sano H^{1,2)}, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Aizu Chuo Hospital): Mechanobiological Analyzes of Nail Deformities using a Tail Suspension Animal Model. Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 13th) (金沢), 2016. 5.
- 25) Mitsuwa H¹⁾, Ogawa R²⁾, Sano H^{1,2)} (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Aizu Chuo Hospital, ²⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School): High effective novel therapy using Sogawa method for severe ingrown nails. Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (The 13th) (金沢), 2016. 5.
- 26) Ono S¹⁾, Ohi H²⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Hand Surgery & Microsurgery Center, Seirei Hamamatsu General Hospital, Shizuoka): A Free Superficial Palmar Branch Of the Radial Artery (SPBRA) Flap for Finger Soft-tissue Reconstruction. Joint Meeting of the American Association of Plastic Surgeons and Plastic Reserach Council (N/A) (NewYork), 2016. 5.
- 27) Matsumoto N¹⁾, Aoki M¹⁾, Nakao J¹⁾, Umezawa H¹⁾, Akaishi S¹⁾, Takami Y²⁾, Peng W³⁾, Ohashi R³⁾, Naito Z³⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Tokyo Rosai Hospital, ³⁾ Department of Integrated Diagnostic Pathology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School Hospital): A Novel Experimental Rat Skin Flap Model That Distinguish Between Venous Congestion and Arterial Ischemia: the Reverse U-Shaped Bipedicled Superficial Inferior Epigastric Artery Flap. Joint Meeting of the American Association of Plastic Surgeons and Plastic Reserach Council (N/A) (NewYork), 2016. 5.
- 28) 小野真平¹⁾, 奈良慎平¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 熱傷再建における perforator-based bilobe flap (穿通枝双葉皮弁) の有用性. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第42回) (舞浜), 2016. 6.
- 29) 奈良慎平¹⁾, 藪野雄大¹⁾, 本田 梓¹⁾, 柘植琢哉¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 濃硫酸による化学損傷後, 敗血症性ショック・DIC となり救命治療を行った1例. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第42回) (舞浜), 2016. 6.
- 30) 桑原広輔¹⁾, ビュービン²⁾, 梅澤裕己³⁾, 小川 令³⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院救命救急科, ²⁾ ベトナム国立熱傷研究所, ³⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 熱傷再建における鎖骨上皮弁 (Supraclavicular Flap) の有用性. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第42回) (舞浜), 2016. 6.
- 31) 小野真平¹⁾, 中村加奈恵¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 体幹部の比較的大きな円形欠損再建における Bear-hand flap の有用性. 関東形成外科学会東京地方会 (第285回) (東京), 2016. 7.
- 32) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 指尖部再建において橈骨動脈浅掌枝皮弁 (SPBRA flap) は重要な治療選択肢の1つである. 日本創傷外科学会 (第8回) (東京), 2016. 7.
- 33) 中村加奈恵¹⁾, 赤石諭史¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 巨大ケロイドに対する部分切除術及び術後放射線治療の有用性. 日本創傷外科学会 (第8回) (東京), 2016. 7.
- 34) 上田百蔵¹⁾, 小野真平¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): Freeman-Sheldon 症候群の風車翼手に対する手術経験の1例. 谷根千形成懇話会 (第15回) (東京), 2016. 7.
- 35) 吉野由希子¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 小野真平¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 外傷性の指伸筋腱中央索断裂治療における我々の治療戦略. 谷根千形成懇話会 (第15回) (東京), 2016. 7.
- 36) 矢富良寛¹⁾, 中村加奈恵¹⁾, 杉本貴子¹⁾, 江浦重義¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): Threaded-Reduction-Tool を用いて整復を行った前頭骨陥没骨折の1例. 谷根千形成懇話会 (第15回) (東京), 2016. 7.
- 37) 権 知華¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 中尾淳一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): DIEP 皮弁を用いた乳房再建: 早期退院を目指したドナー閉創の工夫. 谷根千形成懇話会 (第15回) (東京), 2016. 7.
- 38) 中村加奈恵¹⁾, 赤石諭史¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 巨大ケロイドに対する部分切除及び術後放射線療法. 谷根千形成懇話会 (第15回) (東京), 2016. 7.
- 39) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 医工連携が形成外科の未来を照らす筋電義手の世界. 谷根千形成懇話会 (第15回) (東京), 2016. 7.

- 40) 柳田邦昭¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): MDCT を用いた筋横隔動脈穿通枝の解析と臨床応用に関する検討. 谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 41) 森本摩耶¹⁾, 飯村剛史¹⁾, 柘植琢哉¹⁾, 野田良博¹⁾, 安藤玲奈¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 当科におけるリンパ管静脈吻合の工夫と進歩. 谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 42) 柘植琢哉¹⁾, 青木雅代¹⁾, 久保村憲¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): ラット DDB モデルにおけるスフィンゴシン 1 リン酸外用の治療効果. 谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 43) 野一色千景¹⁾, 早坂明哲²⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学医学教育センター): ケロイドの原因と部位の統計学的観察. 谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 44) 若林奈緒^{1,2)}, 高田弘弥^{1,3)}, 星 貴之⁴⁾, 坂井 敦²⁾, 佐野仁美¹⁾, 鈴木秀典²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学薬理学教室, 3) 株式会社ビクシー中央研究所, 4) 東京大学大学院情報理工学系研究所システム情報学専攻): 非接触圧刺激の創傷治癒における役割と感知機構の解明. 谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 45) 佐野仁美¹⁾, 多賀麻里絵¹⁾, 市岡 滋²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 埼玉医科大学形成外科): 微小循環可視化モデルによる陰圧閉鎖下, 血流増加メカニズムの検証. 谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 46) 野田良博¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 森本摩耶¹⁾, 安藤玲奈¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 村上正洋²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科): 茨の道 涙道再建とその光明. 谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 47) 久保村憲¹⁾, 青木雅代¹⁾, 柘植琢哉¹⁾, 藪野雄大¹⁾, 飯村剛史¹⁾, 西川みどり¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 当院における陰圧閉鎖療法 70 症例の検討. 谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 48) 多賀麻里絵¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 松谷 毅²⁾, 横島一彦³⁾, 中溝宗永³⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 頭頸部悪性腫瘍切除後再建手術において胸鎖関節切除を施行した 7 例の検討. 谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 49) 松本典子¹⁾, 彭 為霞²⁾, 青木雅代¹⁾, 赤石論史¹⁾, 大橋隆治²⁾, 内藤善哉²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学統御機構診断病理学): ケロイド組織における硝子化した膠原線維の組織学的検討. 谷根千形成懇話会 (第 15 回) (東京), 2016. 7.
- 50) 中村加奈恵¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 巨大ケロイドに対する部分切除及び術後放射線療法. 癬痕・ケロイド治療研究会 (第 11 回) (東京), 2016. 8.
- 51) 野一色千景¹⁾, 早坂明哲²⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学医学教育センター): ケロイドの原因・部位・性差の検討. 癬痕・ケロイド治療研究会 (第 11 回) (東京), 2016. 8.
- 52) 設楽洗介¹⁾, 井出彩香¹⁾, 赤石論史²⁾, 小川 令²⁾ (1) 日本医科大学 医学部, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): ケロイド外来におけるアンケート調査の解析. 癬痕・ケロイド治療研究会 (東京), 2016. 8.
- 53) 宅見信哉¹⁾, 堀米知温²⁾, 矢野博子¹⁾, 長谷川友美¹⁾, 吉田郁代¹⁾, 中嶋安弓¹⁾, 来福七央人¹⁾, 平井洋平²⁾, 小川 令³⁾ (1) 小林製菓株式会社, 2) 関西学院大学理工学部生命科学科, 3) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): ウサギ耳介肥厚性癬痕に及ぼすヘパリン類似物質及び関連物質の影響. 癬痕・ケロイド治療研究会 (第 11 回) (東京), 2016. 8.
- 54) 梅澤裕己¹⁾, 大泉 旭²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 明理会中央総合病院整形外科): 一般病院における軟部組織欠損を伴う開放骨折の治療戦略. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 55) 野本俊一¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): フェイスリフト技術を応用した“再建美容外科”の試み・第 2 報: きずあとを残さない再建術への挑戦. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 56) 柘植琢哉¹⁾, 青木雅代¹⁾, 久保村憲¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): ラット DDB モデルにおけるスフィンゴシン-1 リン酸 (SIP) 外用の治療効果. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 57) 柳田邦昭¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): MDCT を用いた筋横隔動脈穿通枝の解析と臨床応用に関する検討. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 58) 権 知華¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): DIEP 皮弁を用いた乳房再建: 早期退院を目指したドナー閉創の工夫. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 59) 中村加奈恵¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 巨大ケロイドに対する部分切除及び術後放射線療法. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 60) 吉野由希子¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 指伸筋腱中央索断裂修復後の PIP 関節伸展拘縮に対して側正中切開アプローチで関節授動術・腱剥離術をおこなった 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 61) 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 権 知華¹⁾, 柳原恵子²⁾, 武井寛幸²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科): 当院における人工物を用いた乳房再建の成績. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京),

2016. 9.

- 62) 上田百蔵¹⁾, 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : Freeman-Sheldon 症候群の風車翼手に対する手術経験の1例. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 63) 野一色千景¹⁾, 早坂明哲²⁾, 赤石諭史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学医学教育センター) : ケロイドの原因・部位・性差の検討. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 64) 森本摩耶¹⁾, 飯村剛史²⁾, 柘植琢哉¹⁾, 野田良博¹⁾, 安藤玲奈¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 行徳総合病院形成外科) : 当科におけるリンパ管静脈吻合の工夫と進歩. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 65) 若林奈緒^{1,2)}, 高田弘弥^{1,3)}, 星 孝之⁴⁾, 坂井 敦²⁾, 佐野仁美¹⁾, 鈴木秀典²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学薬理学教室, 3) 株式会社ピクシー中央研究所, 4) 東京大学大学院情報理工学系) : 非接触圧刺激の創傷治癒における役割と感知機構の解明. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 66) 久保村憲¹⁾, 青木雅代¹⁾, 柘植琢哉¹⁾, 藪野雄大¹⁾, 飯村剛史¹⁾, 西川みどり¹⁾, 赤石諭史¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 当院における陰圧閉鎖療法50症例の検討. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 67) 香西達一¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 石井暢明¹⁾, 渋谷偉織¹⁾, 櫻井 透¹⁾, 小川 令²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 様々な創傷被覆材に負荷をかけた際の有限要素法を用いた力学的効果の解析. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 68) 石井暢明¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 香西達一¹⁾, 渋谷偉織¹⁾, 櫻井 透¹⁾, 小川 令²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 瘻痕治療におけるミルフィーユ縫合という選択肢. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 69) 矢富良寛¹⁾, 中村加奈恵¹⁾, 杉本貴子¹⁾, 江浦重義¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : Threaded-Reduction-Toolを用いて整復を施行した前頭骨陥没骨折の1例. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 70) 野田良博¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 森本摩耶¹⁾, 安藤玲奈¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 村上正洋²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科) : 当院における涙道再建の考察. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 71) 櫻井 透¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 石井暢明¹⁾, 香西達一¹⁾, 渋谷偉織¹⁾, 小川 令²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 皮膚原発性腺様嚢胞癌3例の治療経験. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 72) 渋谷偉織¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 石井暢明¹⁾, 香西達一¹⁾, 櫻井 透¹⁾, 小川 令²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 脂腺母斑を母地として発生した悪性腫瘍の治療経験. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 73) 秋元正宇¹⁾, 石井暢明¹⁾, 香西達一¹⁾, 渋谷偉織¹⁾, 櫻井 透¹⁾, 太組一郎²⁾, 小川 令³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 頭蓋骨欠損への遊離骨移植の長期フォローアップ結果. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 74) 小川 令¹⁾, 赤石諭史¹⁾, 有馬樹里¹⁾, 野一色千景¹⁾, 松本典子¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : いわゆる「ケロイド体質」の解明に向けて. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 75) 多賀麻里絵¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 横島一彦²⁾, 中溝宗永²⁾, 松谷 毅³⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 3) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 頭頸部悪性腫瘍切除後再建手術において胸鎖骨切除を施行した7例の検討. 日本医科大学医学会総会 (第84回) (東京), 2016. 9.
- 76) 多賀麻里絵¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 中溝宗永²⁾, 松谷 毅³⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 3) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 頸胸部境界領域の難治性潰瘍・瘻孔に対するアプローチ. 日本創傷外科学会 (第8回) (東京), 2016. 7.
- 77) かづきれいこ^{1,2)}, 青木 律^{2,3)}, 小川 令²⁾ (1) REIKO KAZKI, 2) 日本医科大学付属病院 形成外科・再建外科・美容外科, 3) グリーンウッドスキンクリニック立川) : 眼瞼下垂手術後の不満足に対しリハビリメイクで精神的改善を得た1症例. 日本美容外科学会総会 (第39回) (京都), 2016. 10.
- 78) 多賀麻里絵¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 涙小管断裂に対し緊急涙小管形成術を施行した3例における術中工夫. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第43回) (広島), 2016. 11.
- 79) 権 知華¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 瘻痕皮弁の可能性: 植皮生着後早期の瘻痕皮弁. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第43回) (広島), 2016. 11.
- 80) 柘植琢哉¹⁾, 飯村剛史^{1,2)}, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 行徳総合病院) : リンパ管静脈吻合手術の非適応症例の検討. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第43回) (広島), 2016. 11.

- 81) 梅澤裕己¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 松谷 毅²⁾, 萩原信敏²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 末期食道癌患者に対する再建外科の介入 : 食道バイパス手術の考察. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第 43 回) (広島), 2016. 11.
- 82) 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 後大腿皮弁を用いた形態機能に配慮した安全な会陰再建. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第 43 回) (広島), 2016. 11.
- 83) 柳田邦昭¹⁾, Vu Q²⁾, 梅澤裕己¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) ベトナム国立熱傷研究所病院形成外科) : 海外施設への協力 : bipedicle free flap による再建. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第 43 回) (広島), 2016. 11.
- 84) 藪野雄大¹⁾, 小野真平²⁾, 張 萌雄²⁾, 権 知華²⁾, 中村加奈恵²⁾, 小川 令²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 高齢者の下腿に発生したエクリン汗孔癌の 1 例. 関東形成外科学会 (第 286 回) (東京), 2016. 12.
- 85) Sano H¹⁾, Oki K¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : TREATMENT OF INGROWN AND PINCER NAILS BY USING THE STAINLESS STEEL WIRE-BASED SOGAWA-METHOD. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 86) Kuwahara H¹⁾, Tosa M²⁾, Ghazizadeh M²⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : IN VITRO ANALYSIS OF THE EPITHELIAL MESENCHYMAL TRANSITION DURING THE GROWTH AND GENERATION OF KELOIDS. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 87) Kanae N¹⁾, Hitomi S¹⁾, Oki K¹⁾, Rei O¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : COMPARATIVE ANALYSIS OF THE CHARACTERISTICS OF NAIL ORTHOTIC DEVICES. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 88) Marie T¹⁾, Hitomi S¹⁾, Rei O¹⁾, Shigeru I²⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Saitama Medical University) : FOOT BATHS MAY INCREASE THE RISK OF MAJOR AMPUTATION IN CHRONIC LIMB ULCER COMPARED TO SHOWERING CASES. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 89) Yatomi Y¹⁾, Ono S¹⁾, Nakao J¹⁾, Akaishi S¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : RECONSTRUCTION OF ANTERIOR CHEST WALL KELOIDS USING INTERNAL MAMMARY ARTERY-PERFORATOR FLAPS. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 90) Morimoto M¹⁾, Dohi T¹⁾, Akaishi S¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : 1064NM LONG-PULSED ND : YAG LASER TREATMENT OF KELOIDS AND HYPERTROPHIC SCARS, THE OUTCOME ANALYSIS USING JAPAN SCAR WORKSHOP SCAR SCALE 2015. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 91) Kuwahara K¹⁾, Sano H¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : INFLUENCE OF WALKING BEHAVIOR ON PINCER NAIL DEVELOPMENT. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 92) Mitsuwa H¹⁾, Sano H²⁾, Ogawa R²⁾, Ichioka S³⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 3) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Saitama Medical University) : Role Of Nitric Oxide During Negative Pressure Wound Therapy. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 93) Gon C¹⁾, Akaishi S¹⁾, Arima J¹⁾, Noishiki C¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : RELATIONSHIP BETWEEN KELOID SEVERITY AND HYPERTENSION. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence, Italy), 2016. 9.
- 94) Aoki H¹⁾, Ono S¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Skin Graft Not Fixed By Needles Or Staples. PRS KOREA 2016 (The 74th) (Seoul), 2016. 11.
- 95) 本田 梓¹⁾, 奈良慎平¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 脊髄損傷患者の褥瘡予防におけるロホクッションの有用性. 日本褥瘡学会学術集会 (第 18 回) (横浜), 2016. 9.
- 96) 外蘭 優¹⁾, 小野真平²⁾, 上田百蔵²⁾, 小川 令²⁾ (1) 国立がん研究センター東病院 形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : ラットにおける植皮片の血行再開の経時的変化 - 光超音波顕微鏡による 3 次元血管網の描出 -. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 25 回) (大阪), 2016. 9.
- 97) 佐野仁美¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 伸展刺激に対する成人リンパ管内皮細胞の細胞

- 応答. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 25 回) (大阪), 2016. 9.
- 98) 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 権 知華¹⁾, 柳田邦昭¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): Tissue oximetry は乳腺外科手術後創縁壊死の予測に役立つか. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 25 回) (大阪), 2016. 9.
- 99) 安藤玲奈¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 土佐眞美子²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科): ケロイド発生及び拡大における上皮間葉転換 (EMT) の関与の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 25 回) (大阪), 2016. 9.
- 100) 多賀麻里絵¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 中溝宗永²⁾, 横島一彦²⁾, 松谷 毅³⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 3) 日本医科大学付属病院消化器外科): 胸鎖関節および胸骨切除が必要になった頭頸部悪性腫瘍切除後の再建手術の検討. 日本頭頸部癌学会学術集会 (第 40 回) (埼玉), 2016. 6.
- 101) 梅澤裕己¹⁾, 中尾淳一¹⁾, 多賀麻里絵¹⁾, 松谷 毅²⁾, 野村 務²⁾, 萩原信俊²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 食道癌手術における頭頸部での再建手術: 再建外科医の役割. 日本頭頸部癌学会学術集会 (第 40 回) (埼玉), 2016. 6.
- 102) Noishiki C¹⁾, Kubota Y²⁾, Takagi G²⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School): Role of peripheral endothelial function in the aberrant wound healing of patients with keloids. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence), 2016. 9.
- 103) Ono S¹⁾, Ohi H²⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Hand & Microsurgery Center, Seirei Hamamatsu General Hospital, Shizuoka): A Free Superficial Palmar Branch of the Radial Artery (SPBRA) Flap for Finger Soft-tissue Reconstruction. Annual Meeting of The Americal Society for Surgery of the Hand (The 71th) (Texas), 2016. 9.
- 104) 櫻井 透¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 石井暢明¹⁾, 香西達一¹⁾, 渋谷偉織¹⁾, 小川 令²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 鼻骨骨折における「手術カブラー」を用いたエコー下整復術. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 34 回) (東京), 2016. 11.
- 105) 櫻井 透¹⁾, 石井暢明¹⁾, 渡辺光子²⁾, 白井 舞²⁾, 山瀬 綾³⁾, 秋元正宇¹⁾, 小川 令⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院看護部, 3) 日本医科大学千葉北総病院皮膚科, 4) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 褥瘡との鑑別を要した壊疽性膿皮症と皮膚白血病の教訓的 1 例. 日本褥瘡学会学術集会 (第 18 回) (横浜), 2016. 9.
- 106) 石井暢明¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 櫻井 透¹⁾, 渡辺光子²⁾, 白井 舞²⁾, 小川 令³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院看護部, 3) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 殿部皮膚潰瘍に対する半回転盤プロペラ皮弁. 日本褥瘡学会学術集会 (第 18 回) (横浜), 2016. 9.
- 107) 村井保夫¹⁾, 森田明夫¹⁾, 石坂栄太郎¹⁾, 築山 敦¹⁾, 中川俊佑¹⁾, 梅澤裕己²⁾, 小川 令²⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 遊離筋皮弁を用いた頭蓋底再建手術後の頭蓋底再建再手術の経験. 日本脳腫瘍の外科学会 (第 21 回) (東京), 2016. 9.
- 108) 高田弘弥^{1, 2)}, 小川 令²⁾ (1) 株式会社ビクシー中央研究所, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): メカノ感受性 ATP-Ca²⁺ シグナリングが創傷治癒を促進しアトピー性皮膚炎を改善する. 日本医科大学・東京理科大学合同シンポジウム (第 3 回) (東京), 2016. 12.
- 109) 白井 舞¹⁾, 渡辺光子¹⁾, 倉本雅男¹⁾, 石井暢明²⁾, 櫻井 透²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院看護部, 2) 日本医科大学千葉北総病院形成外科): 再入院患者における持ち込み褥瘡の現状と課題. 日本褥瘡学会学術集会 (第 18 回) (横浜), 2016. 9.
- 110) 中尾淳一¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 権 知華¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 武井寛幸²⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院乳腺科): 乳房下垂を再現するためのティッシュエキスパンダー挿入位置の工夫. 日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会 (第 4 回) (千葉), 2016. 10.
- 111) Matsumoto M¹⁾, Ansai S²⁾, Aoki M¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of the Development for Dermatopathology, Japan Dermatopathology Promotin Organization): Differential diagnosis of earlobe keloid. 日本美容外科学会 (JSAPS) 学術集会 (第 128 回) (東京), 2017. 1.
- 112) 高見佳宏¹⁾, 小川 令²⁾ (1) 東京労災病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 脂肪組織由来幹細胞の血管内皮細胞増殖因子産生能に対する陰圧の影響. 日本熱傷学会関東地方会 (第 25 回) (東京), 2017. 2.
- 113) Xiao H¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 胸壁ケロイドの治療: 異なる治療様式のレビューと手術アルゴリズムの提案. 日本医科大学外国人留学者研究会 (第 27 回) (東京), 2017. 2.
- 114) Abdelhakim M¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科): 2014 年に形成再建再生医学分野において百束比古教授, 小川令教授の下で学んだ経験. 日本医科大学外国人留学者研究会 (第 27 回) (東京), 2017. 2.
- 115) 桑原広輔¹⁾, 萩原 純²⁾, 横堀将司²⁾, 桑本健太郎²⁾, 小川 令¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外

- 科, ²⁾ 日本医科大学付属病院救命救急科) : 抗腫瘍化学療法中に陰部蜂窩織炎を繰り返した C 群溶血性連鎖球菌感染症の稀な 1 例. 日本創傷外科学会 (第 8 回) (東京), 2016. 7.
- 116) Noda Y¹⁾, Matsumoto N¹⁾, Peng W²⁾, Ohashi R²⁾, Akaishi S¹⁾, Naito Z²⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Integrated Diagnostic Pathology, Graduate School of Medicine Nippon Medical School) : The Histological Analysis Of Keloidal Collagen With Duration In The Earlobe. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence), 2016. 9.
- 117) Noda Y¹⁾, Imura T¹⁾, Tsuge T¹⁾, Fukushima Y²⁾, Kumita S²⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Analysis Of The Outcome Of Lymphovenous Anastomosis Using Lymphoscintigraphy And SPECT-CT, New Classification Of Lower-Limb Lymphedema. Congress of Wound Union of Wound Healing Society (The 5th) (Florence), 2016. 9.
- 118) Yoshino Y¹⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : 1064nm Long-pulsed Nd : YAG Laser Treatment of Keloids and Hypertrophic Scars : The Outcome Analysis using Japan Scar Workshop Scar Scale 2015. Annual Meeting of American Burn Association (The 49th) (Boston), 2017. 3.
- 119) Yoshino Y¹⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Tips and Pitfalls of Burn Reconstruction using Local Flaps-Difference between Island and Skin Pedicled Flaps. Annual Meeting of American Burn Association (The 49th) (Boston), 2017. 3.
- 120) Fujii N¹⁾, Akaishi S²⁾, Ogawa R²⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Osaka City University Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Mechanobiology of Wound Healing and Scarring. Annual Meeting of American Burn Association (The 49th) (Boston), 2017. 3.
- 121) Kubomura K¹⁾, Noishiki C¹⁾, Arima J¹⁾, Akaishi S¹⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Relationship between Scar Severity, Hypertension and Endothelial Dysfunction : Endothelial Dysfunction May Promote the Development and Aggravation of Pathologic Scars. Annual Meeting of American Burn Association (The 49th) (Boston), 2017. 3.
- 122) 外 蘭 優¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 下顎再建手術における血管柄付き遊離腓骨弁と肩甲骨弁との比較. 千葉頭頸部腫瘍研究会 (第 31 回) (千葉), 2017. 2.
- 123) Tsuge T¹⁾, Aoki M¹⁾, Kubomura K¹⁾, Akaishi S¹⁾, Takabe K²⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Roswell Park Cancer Institute) : Topical Application of Sphingosine-1-Phosphate Promotes Deep Dermal Burn Healing. Annual Academic Surgical Congress (The 12th) (Las Vegas), 2017. 2.
- 1) 藪野雄大¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院形成外科) : 形成外科ってどんな科? : こんなとき, 形成外科に行こう!. 日本医科大学多摩永山病院 公開講座 (第 46 回) (東京), 2017. 3.

論 文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) Aoki M^{1,2)}, Aoki H^{1,2)}, Ramanathan R¹⁾, Hait N²⁾, Takabe K^{1,2)} (¹⁾ Division of Surgical Oncology, Department of Surgery, Virginia Commonwealth University School of Medicine and Massey Cancer Center, West Hospital, ²⁾ Department of Biochemistry & Molecular Biology, Virginia Commonwealth University School of Medicine and Massey Cancer Center, West Hospital) : Sphingosine-1-Phosphate Signaling in Immune Cells and Inflammation : Roles and Therapeutic Potential. Mediators of Inflammation 2016 ; 2016 : ID : 8606878- (全 11 ページ).

追加分症例報告 :

- 1) Matsumoto N¹⁾, Umezawa H¹⁾, Ohashi R²⁾, Peng W²⁾, Naito Z²⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Integrated Diagnostic Pathology, Graduate School of Medicine Nippon Medical School) : Surgical Treatment of Rare Sclerosing Polycystic Adenosis of the Deep Parotid Gland. Plast Reconstr Surg Glob Open 2016 ; 4 (3) : e645.
- 2) 香西達一¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 小川 令²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 耳瘻孔様外観を呈し, 眉毛外側から頭蓋骨内までに及んだ類皮嚢腫の 1 例. 日本頭蓋顎顔面外科学会誌 2015 ; 31 (4) : 292-297.
- 3) 金子繭子¹⁾, 梅澤裕己²⁾, 江浦重義²⁾, 小川 令²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 欠損が比較的軽度な気管皮膚瘻の治療経験. 創傷 2016 ; 7 (1) : 15-19.
- 4) Matsumoto N¹⁾, Umezawa H¹⁾, Ohashi R²⁾, Peng W³⁾, Naito Z³⁾, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic, Reconstructive and

Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, ²⁾Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, ³⁾Department of Integrated Diagnostic Pathology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School Hospital) : Surgical Treatment of Rare Sclerosing Polycystic Adenosis of the Deep Parotid Gland. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 2016 ; 4 (3) : e645.

追加分グラビア :

- 1) 小川 令¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科) : 物理的刺激を負荷して3次元培養した線維芽細胞の共焦点顕微鏡画像. *日本医科大学医学会雑誌* 2015 ; 11 (4) : 178-179.

[武蔵小杉病院形成外科]

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Kuwahara H¹⁾, Tosa M, Egawa S²⁾, Murakami M, Mohammad G²⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital, ²⁾Department of Molecular Pathology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, Institute of Gerontology) : Examination of Epithelial Mesenchymal Transition in Keloid Tissues and Possibility of Keloid Therapy Target. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 2016 ; 4 (11) : e1138-e1145.

(2) 総説 :

- 1) 村上正洋 : 上眼瞼皮膚弛緩症に対する手術. *眼科グラフィック* 2016 ; 5 (6) : 585-589.

(3) 症例報告 :

- 1) Watanabe M, Anzai S¹⁾, Iwakiri I, Fukumoto T²⁾, Murakami M (1) Division of Dermatology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ²⁾Sapporo Institute for Dermatopathology) : Case of pleomorphic rhabdomyosarcoma arising on subcutaneous tissue in an adult patient : Review of the published works of 13 cases arising on cutaneous or subcutaneous tissue. *The Journal of Dermatology* 2017 ; 44 (1) : 59-63.
- 1) 村上正洋 : 眼瞼手術における縫合法. *PEPARS* 2017 ; 123 : 41-52.

著書

- 1) 仲上豪二郎¹⁾, 志村知子²⁾, 村上正洋, 野口裕幸³⁾ (1) 東京大学大学院医学系研究科老年看護学/創傷看護学, ²⁾ 日本医科大学付属病院看護部, ³⁾ 北里大学保健衛生専門学院臨床工学専攻科, CE野口企画) : [分担] 第2章 非侵襲的陽圧換気療法マスク. *ベストプラクティス 医療関連機器圧迫創傷の予防と管理* (日本褥瘡学会), 2016 ; pp39-49, 日本褥瘡学会.
- 2) 村上正洋 : [分担] 第3章 各論 I 眼瞼の形成手術 P. 眼瞼皮膚弛緩 : 眉毛下皮膚切除. *眼科臨床エキスパート 眼形成手術 眼瞼から涙器まで* (高比良雅之・後藤浩), 2016 ; pp250-258, 医学書院.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 村上正洋 : 傷のきれいな治し方 : 新鮮創傷からケロイドまで. *川崎市北部皮膚懇話会 (第4回)* (川崎), 2017. 3.

(2) 教育講演 :

- 1) Murakami M : sub-brow blepharoplasty. *APSOPRS (9th) & JSOPRS (4th) JOINT MEETING (Osaka)*, 2016. 8.
- 2) 村上正洋 : 形成外科医の独学眼瞼手術. *新潟市形成外科医会例会 (第2回)* (新潟), 2016. 11.
- 3) 村上正洋 : まぶたの加齢 : 若いころのように開けられますか. *日本医科大学武蔵小杉病院公開講座* (川崎), 2016. 12.
- 4) 土佐真美子 : キズアトをきれいになおす方法. *日本創傷外科学会総会・学術集会 (第8回) 市民公開講座* (東京), 2016. 7.
- 5) 村上正洋 : まぶたの加齢 : 昔のように目を開けられますか?. *日本美容医療協会市民公開講座* (新潟), 2016. 7.

(3) シンポジウム :

- 1) 村上正洋, 中村 敏¹⁾ (1) なかむら眼科・形成外科) : 眼瞼下垂症手術と機能 : 眼科医とのコラボレーションの重要性について. *日本形成外科学会総会・学術集会 (第59回)* (福岡), 2016. 4.
- 2) 村上正洋 : 眼瞼下垂症手術 : 保険診療の立場から. *日本美容外科学会学術集会 (第126回)* (新潟), 2016. 7.

(4) セミナー :

- 1) 土佐真美子 : スカーレスヒーリングを目指す形成外科医からの提言 : 術後瘢痕をきれいにするためのコツと対応. *関東連合産婦人科学会総会・学術集会 (第131回)* (東京), 2016. 6.

(5) ポスター：

- 1) 土佐眞美¹, 阿部芳憲¹, 枝川聖子², 村上正洋, 田中信之¹ (1) 日本医科大学先端医学研究所遺伝子制御学, 2) 日本医科大学先端医学研究所分子細胞構造学)：組織幹細胞を標的とした新規ケロイド治療法の確立に向けた基盤的研究. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 25 回) (大阪), 2016. 9.
- 2) 村上正洋：いわゆるサバティカル研修の経験：University of Adelaide,Oculoplastic Unit を見学して. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 3) 大木琴美^{1, 2}, 藪野雄大^{3, 4}, 小川 令³ (1) 博慈会記念総合病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 3) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 4) 日本医科大学付属病院高度救急救命センター)：内転筋間膿瘍, および腹直筋ガス産性膿瘍 (症例のみ) を合併した恥骨骨髄炎の 2 症例. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 4) 庄司真美, 土佐眞美, 岩切 致, 渡邊真泉, 金子繭子, 安藤玲奈, 村上正洋：前胸部皮下様嚢腫の 4 例. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 5) 伊吾田慎一¹, 土佐眞美, 岩切 致, 村上正洋 (1) 東戸塚記念病院形成外科)：CT 画像診断で, 臀部の粉瘤を疑った myxoid MFH (fibrosarcoma) の 1 例. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 6) 土佐眞美, 岩切 致, 村上正洋：ケロイド専門外来における治療の最前線. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.

(6) 一般講演：

- 1) 安藤玲奈, 桑原大彰^{1, 2}, 土佐眞美, 小川 令¹ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科, 2) Department of Plastic Surgery,Helsinki University Hospital)：ケロイド発生及び拡大における上皮間葉転換 (EMT) の関与の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 25 回) (大阪), 2016. 9.
- 2) 山本光宏¹, 村上正洋 (1) やまもと形成外科クリニック)：上眼瞼皮膚弛緩症に対する眉毛下皮膚切除術. 新潟眼科集談会 (第 120 回) (新潟), 2016. 12.
- 3) 藪野雄大¹, 梅澤裕己¹, 奈良慎平¹, 金子繭子, 青木宏信¹, 小川 令¹ (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：気管孔閉鎖術の検討と文献的考察. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 4) 安藤玲奈¹, 村上正洋, 金子繭子, 渡邊真泉, 若林奈緒¹, 桑原広輔¹, 庄司真美¹, 小川 令 (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：退行性下眼瞼内反症に対し Lower Eyelid Retractor 後層のタッキングと前層の前転を行った症例の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回) (福岡), 2016. 4.
- 5) 土佐眞美, 岩切 致, 本田 梓, 金子繭子, 村上正洋：炎症性粉瘤切開後に発生したケロイド症例から考える炎症性粉瘤切開およびケロイド治療における留意点の検討. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 8 回) (東京), 2016. 7.

[千葉北総病院形成外科]

研究概要

コンピュータ・シミュレーションによる臨床上のさまざまな現象の解明をテーマに研究をおこなっている。ケロイドの進展機序に関するコンピュータシミュレーションの研究、頭蓋顔面外科領域とくに脳神経外科との境界領域における頭蓋再建術の研究に成果があった。皮膚手術シミュレーションの研究は、様々な皮膚形成術をモデル化し、手術シミュレーションを行うものである。皮膚形成術により発生する皮膚の進展、圧縮変形、応力、ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明した。褥瘡発生機序の研究は褥瘡モデルを作成し様々な力学的条件からその発生機序を解明するものである。これらの結果から褥瘡発生予防効果の高いシートの形状を考察した。今後褥瘡発生予防のための新しい器具の開発、褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発等が期待できる。ケロイドの進展機序に関する研究はケロイドをモデル化し応力集中の状況からその進展機序を解明しようとするものである。従来のモデルでは説明のできなかった様々ケロイドの特性について構造力学的に解析した。さらにケロイドの進展予防のためのシリコンシートの作用機序について解明を試みた。3Dプリンタを導入し手術実体模型の作成の研究を進めた。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 秋元正宇：顔面瘰癧形成主義の理論と適応. 形成外科 2017 ; 60 (3) : 255-263.

著書

- 1) 太組一朗¹, 秋元正宇, 寺本 明² (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 東京労災病院脳神経外科)：〔分担〕脳神経外科手術においても、術後整容に気を配ることが要求される。創傷治癒コンセンサスドキュメント-手術手技から周術期管理まで- (日本創傷治癒学会ガイ

ドライン委員会), 2016; pp58-59, 全日本病院出版会.

学会発表

(1) ワークショップ:

1) 秋元正宇: DICOM viewer 入門. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第 34 回), 2016. 11.

(2) 一般講演:

- 1) 秋元正宇, 石井暢明, 櫻井 透, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 小児頭蓋への移植肋骨, 移植頭蓋骨外板の 10 年経過後の運命. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回), 2016. 4.
- 2) 渋谷偉織, 秋元正宇, 石井暢明, 香西達一, 櫻井 透, 野一色千景, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 脂腺母斑から発生した有棘細胞癌の治療経験. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回), 2016. 4.
- 3) 石井暢明, 秋元正宇, 香西達一, 渋谷偉織, 櫻井 透, 野一色千景, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 陥凹性瘢痕, ケロイド・肥厚性瘢痕に対するミルフィーユ縫合の有用性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回), 2016. 4.
- 4) 香西達一, 秋元正宇, 石井暢明, 渋谷偉織, 櫻井 透, 野一色千景, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 有限要素法によるシミュレーションを用いた様々な創傷被覆材の力学的検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 59 回), 2016. 4.
- 5) 秋元正宇, 石井暢明, 香西達一, 渋谷偉織, 櫻井 透, 太組一朗¹⁾, 小川 令²⁾ (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 付属病院形成外科): 頭蓋骨欠損への遊離骨移植の長期フォローアップ結果. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回), 2016. 9.
- 6) 櫻井 透, 秋元正宇, 石井暢明, 香西達一, 渋谷偉織, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 皮膚原発性腺様嚢胞癌 3 例の治療経験. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回), 2016. 9.
- 7) 渋谷偉織, 秋元正宇, 石井暢明, 香西達一, 櫻井 透, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 脂腺母斑を母地として発生した悪性腫瘍の治療経験. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回), 2016. 9.
- 8) 香西達一, 秋元正宇, 石井暢明, 渋谷偉織, 櫻井 透, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 様々な創傷被覆材に負荷をかけた際の有限要素法を用いた力学的効果の解析. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回), 2016. 9.
- 9) 石井暢明, 秋元正宇, 香西達一, 渋谷偉織, 櫻井 透, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 瘢痕治療におけるミルフィーユ縫合という選択肢. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回), 2016. 9.
- 10) 石井暢明, 秋元正宇, 櫻井 透, 渡辺光子¹⁾, 白井 舞¹⁾, 小川 令²⁾ (1) 千葉北総病院看護部, 2) 付属病院形成外科): 殿部皮膚潰瘍に対する半回転盤プロペラ皮弁. 日本褥瘡学会学術集会 (第 18 回), 2016. 9.
- 11) 櫻井 透, 石井暢明, 渡辺光子¹⁾, 白井 舞¹⁾, 山背 綾²⁾, 秋元正宇, 小川 令³⁾ (1) 千葉北総病院看護部, 2) 千葉北総病院皮膚科, 3) 付属病院形成外科): 褥瘡との鑑別を要した壊疽性膿皮症と皮膚白血病の教訓的 1 例. 日本褥瘡学会学術集会 (第 18 回), 2016. 9.
- 12) 秋元正宇: 顔面骨折における Free Dicom Viewer 3DSlicer の使用経験. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第 34 回), 2016. 11.
- 13) 櫻井 透, 秋元正宇, 石井暢明, 香西達一, 渋谷偉織, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科): 鼻骨骨折における「手術カプラー」を用いたエコー下整復術. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第 34 回), 2016. 11.
- 14) Masataka A: Long term followup of catcher's mask cranioplasty. Asean Pacific Craniofacial Assosiation (Nara), 2016. 12.

28. リハビリテーション学分野

[付属病院リハビリテーション科]

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 角南英子¹⁾, 福井遼太¹⁾, 木村郁夫¹⁾, 宮野佐年¹⁾, 原 行弘⁽¹⁾ 総合東京病院 リハビリテーション科)：両下腿義足となった糖尿病の1症例. 日本リハビリテーション医学会学術集会 (第53回) (京都), 2016. 6.
- 2) 土屋麻代¹⁾, 伏屋洋志²⁾, 大林 茂²⁾, 辻内和人¹⁾, 原 行弘¹⁾ (1) 日本医科大学 付属病院 リハビリテーション科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 リハビリテーション科)：ボツリヌス毒素注射と機能的電気刺激の併用療法による痙性麻痺手の機能改善効果. 日本リハビリテーション医学会学術集会 (第53回) (京都), 2016. 6.

29. 付属病院付置施設等

[付属病院遺伝診療科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tosa M¹⁾, Watanabe A, Ghazizadeh M¹⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashi-kosugi Hospital, Kawasaki, Japan) : IL-6 Polymorphism and Susceptibility to Keloid Formation in Japanese Population. *J Invest Dermatol* 2016 ; 136 (5) : 1069-1072.
- 2) Nakamura-Takahashi IA, Miyake IK, Watanabe IA, Hirai IY, Iijima IO, Miyake IN, Adachi IK, Nitahara-Kasahara IY, Kinoshita 2H, Noguchi 3T, Abe 3S, Narisawa 4S, Jose Luis 4M, Shimada 1T, Okada 1T (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan ; 2) Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Dental Materials Science, Tokyo Dental College, Tokyo, Japan, 3) Department of Anatomy, Tokyo Dental College, Tokyo, Japan, 4) Sanford Children's Health Research Center, Sanford-Burnham Prebys Medical Discovery Institute, La Jolla, California, USA) : Treatment of hypophosphatasia by muscle-directed expression of bone-targeted alkaline phosphatase via self-complementary AAV8 vector. *Mol Ther Methods Clin Dev* 2016 ; 3.
- 3) Yamamoto J^{1,2)}, Sekizawa A²⁾, Suzumori N³⁾, Yamada T⁴⁾, Samura O⁵⁾, Nishiyama M⁶⁾, Miura K⁷⁾, Sawai H⁸⁾, Murotsuki J⁹⁾, Kitagawa M¹⁰⁾, Kamei Y, Masuzaki H, Hirahara F, Endo T, Fukushima A, et al. (1) Natural Science Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University, Tokyo, Japan, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Showa University School of Medicine, Tokyo, Japan, 3) Division of Clinical and Molecular Genetics, Department of Obstetrics and Gynecology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, Nag, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan, 5) Department of Obstetrics and Gynecology, The Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japa, 6) Center of Maternal-Fetal, Neonatal and Reproductive Medicine, National Center for Child Health and Development, Tokyo, Japan, 7) Department of Obstetrics and Gynecology, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki, Japan, 8) Department of Obstetrics and Gynecology, Hyogo College of Medicine, Nishinomiya, Japan) : A survey on awareness of genetic counseling for non-invasive prenatal testing : The first year experience in Japan. *J Hum Genet* 2016 ; 61 (12) : 995-1001.
- 4) Iwasaki N¹⁾, Tsurumi M²⁾, Asai K²⁾, Shimizu W²⁾, Watanabe A, Ogata M³⁾, Takizawa M³⁾, Ide R³⁾, Yamamoto T⁴⁾, Saito K⁴⁾ (1) Diabetes Center, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan ; Tokyo Women's Medical University Institute of Medical Genetics, Tokyo, Japan ; Tokyo W, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Diabetes Center, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan, 4) Tokyo Women's Medical University Institute of Medical Genetics, Tokyo, Japan ; Tokyo Women's Medical University Institute of Integrated Medical Science) : Pancreatic developmental defect evaluated by celiac artery angiography in a patient with MODY5. *Hum Genome Var* 2016 ; 14 (3) : 16022.
- 5) 藤本英也^{1,2)}, 渡邊 淳¹⁾, 堤 正好^{1,3)}, 山口敏和^{1,4)}, 伊藤尚志¹⁾, 権藤延久^{1,5)}, 神山 誠^{1,6)}, 菅野康吉^{1,7)}, 野村文夫^{1,8)} (1) 一般社団法人日本衛生検査所協会「遺伝子関連検査受託倫理審査委員会」, 2) 株式会社 LSI メディエンス, 3) 株式会社 エスアールエル, 4) 株式会社 ビー・エム・エル, 5) 株式会社 ファルコバイオシステムズ, 6) 株式会社 保健科学研究所, 7) 栃木県立がんセンター研究所 がん遺伝子研究室・がん予防研究室, 8) 千葉大学医学部附属病院 マススペクトロメトリー検査診断学・遺伝子診療部) : 衛生検査所における遺伝子関連検査・染色体検査の受託状況. *日本遺伝カウンセリング学会誌* 2016 ; 37 (3) : 143-148.

著書

- 1) 渡邊 淳 : [分担] 低フォスファターゼ症. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (福嶋義光), 2016 ; pp212-213, 南江堂.
- 2) 渡邊 淳 : [分担] エーラス・ダンロス症候群. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (福嶋義光), 2016 ; pp225-226, 南江堂.
- 3) 渡邊 淳 : [分担] 皮膚弛緩症. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (福嶋義光), 2016 ; pp226-227, 南江堂.
- 4) 渡邊 淳 : [分担] 薬理遺伝学. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (福嶋義光), 2016 ; pp405-409, 南江堂.
- 5) 渡邊 淳 : [翻訳] 第3章 ヒトゲノム：遺伝子の構造と機能. トンプソン&トンプソン遺伝医学 (原書8版) (福嶋義光), 2017 ; メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 6) 佐々木元子, 渡邊 淳 : [分担] FG 症候群. 小児科診療 Vol.79 増刊号 小児の症候群, 2016 ; 診断と治療社.
- 7) 佐々木元子, 渡邊 淳 : [分担] popliteal pterygium (膝窩翼状片) 症候群. 小児科診療 Vol.79 増刊号 小児の症候群, 2016 ; 診断と治療社.

- 8) 佐々木元子, 渡邊 淳: [分担] 進行性骨化性線維異形成症候群. 小児科診療 Vol.79 増刊号 小児の症候群, 2016; 診断と治療社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) Watanabe A: Genetic Education for Undergraduate Medical Students in Japan "Education of Genetics: Genetics Education for Undergraduate Medical Students in Asia". The International Congress of Human Genetics (13th) (Kyoto), 2016. 4.

(2) シンポジウム:

- 1) 佐々木元子, 渡邊 淳: 認定遺伝カウンセラーとしての役割 (遺伝学的検査情報に関連する臨床現場の情報フローについて). 日本遺伝子診療学会 (第23回) (東京), 2016. 10.

(3) 一般講演:

- 1) 佐々木元子, 渡邊 淳, 三宅秀彦, 鈴木由美, 保坂 愛, 米澤美令¹⁾, 倉品隆平¹⁾, 大内 望¹⁾, 黒田知子²⁾, 青山直樹²⁾, 川崎奈美²⁾, 林 博子²⁾, 加藤恵一²⁾, 島田 隆, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, ²⁾ 加藤レディースクリニック): 育症・習慣流産の精査にて発見された染色体異常に関わる遺伝カウンセリング. 日本遺伝子診療学会 (第23回) (東京), 2016. 10.
- 2) 佐々木元子, 渡邊 淳, 三宅秀彦, 鈴木由美, 保坂 愛, 米澤美令¹⁾, 倉品隆平¹⁾, 大内 望¹⁾, 黒田知子²⁾, 青山直樹²⁾, 川崎奈美²⁾, 林 博子²⁾, 加藤恵一²⁾, 島田 隆, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, ²⁾ 加藤レディースクリニック): 習慣流産の精査を契機に発見された染色体異常への遺伝カウンセリング. 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会 (第2回) (京都), 2016. 12.
- 3) Sasaki M, Watanabe A, Miyake H, Suzuki Y, Hosaka A, Mine K¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Kuroda T²⁾, Aoyama N²⁾, Kawasaki N²⁾, Hayashi H²⁾, Kato K²⁾, Shimada T, Takeshita T¹⁾ (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Kato Ladies Clinic): Genetic counseling for chromosome abnormality found in the examine of infertility or miscarriage-the role of clinical genetics division. The Annual Meeting of The Japanese Society for Genetic Counseling (40th) (Kyoto), 2016. 4.
- 4) Watanabe A, Tajima H²⁾, Nemoto S³⁾, Sasaki M, Kawamura M¹⁾, Okada T¹⁾, Shimada T (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School Hospital, ³⁾ Department of Pediatric Dentistry, Nihon University school of Dentistry at Matsudo): Hypophosphatasia diagnosed during childhood in Japan. The International Congress of Human Genetics (13th) (Kyoto), 2016. 4.

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Yaoita M¹⁾, Niihori T¹⁾, Mizuno S²⁾, Okamoto N³⁾, Hayashi S⁴⁾, Watanabe A, Yokozawa M⁵⁾, Suzumura H⁶⁾, Nakahara A⁷⁾, Nakano Y⁸⁾, Hokosaki T⁹⁾, Ohmori A¹⁰⁾, Sawada H, Migita O, Mima A, et al. (¹⁾ Department of Medical Genetics, Tohoku University School of Medicine, Sendai, Japan, ²⁾ Department of Pediatrics, Central Hospital, Aichi Human Service Center, Kasugai, Japan, ³⁾ Department of Medical Genetics, Osaka Medical Center, Research Institute for Maternal and Child Health, Izumi, Japan, ⁴⁾ Department of Neonatology, The Jikei University Hospital, Tokyo, Japan, ⁵⁾ Department of Pediatric Cardiology, Hokkaido Medical Center for Child Health and Rehabilitation, Sapporo, Japan, ⁶⁾ Department of Pediatrics, Dokkyo Medical University, Tochigi, Japan, ⁷⁾ Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, University of Miyazaki, Miyazaki, Japan, ⁸⁾ Department of Cardiology, Nagano Children's Hospital, Nagano, Japan, ⁹⁾ Department of Pediatrics, Yokohama City University Hospital, Yokohama, Japan, ¹⁰⁾ and others): Spectrum of mutations and genotype-phenotype analysis in Noonan syndrome patients with RIT1 mutations. *Human Genet* 2016; 135 (2): 209-222.
- 2) Watanabe A, Satoh K¹⁾, Maniwa T¹⁾, Matsumoto K¹⁾ (¹⁾ Department of Biosignaling and Radioisotope Experiment, Interdisciplinary Center for Science Research, Organization for Research, Shimane University.): Proteomic analysis for the identification of serum diagnostic biomarkers for joint hypermobility syndrome. *Int J Mol Med* 2016; 37 (2): 461-467.
- 3) Yamada K¹⁾, Watanabe A²⁾, Takeshita H³⁾, Matsumoto K¹⁾ (¹⁾ Department of Biosignaling and Radioisotope Experiment, Interdisciplinary Center for Science Research, Organization for Research and Academic Informat, ²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8603, Japan, ³⁾ Department of Legal Medicine, Faculty of Medicine, Shimane University, Enya-cho, Izumo, Shimane 693-8501, Japan): A method for quantification of serum tenascin-X by nano-LC/MS/MS. *Clin Chim Acta* 2016; 459: 94-100.

[付属病院心臓血管集中治療科]

研究概要

学会活動では、循環器救急・集中治療に関する研究および症例報告を、日本集中治療医学会、循環器学会、心臓病学会などで発表した。論文報告では、急性大動脈解離における発熱とプロカルシトニン・凝固系パラメータの検討、急性大動脈解離における血清エラスチン濃度の検討などの英文原著ならびに症例報告を行った。臨床治験では、心室性不整脈に対する多施設共同非盲検非対照試験（ONO-1101 後期第Ⅱ相/第Ⅲ相試験）を実施し、多施設共同登録研究では、急性冠症候群患者における脂質リスクとコントロールに関する前向き観察研究（EXPLORE-J 研究）、日本における急性心筋梗塞患者の治療および予後実態調査（JAMIR 前向き試験）に加わり登録を開始した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Akutsu K, Yamanaka H, Katayama M, Yamamoto T, Takatyama M, Osaka M, Sato N, Shimizu W : The Usefulness of Measuring Serum Elastin Fragment Level in the Diagnosis of an Acute Aortic Dissection. *Am J Cardiol* 2016 ; 18 (9) : 1405-1409.
- 2) Inoue Arita Y, Akutsu K, Yamamoto T, Kawanaka H, Kitamura M, Murata H, Miyachi H, Hosokawa Y, Tanaka K, Shimizu W : Fever in acute aortic dissection is caused by endogenous mediators that influence the extrinsic coagulation pathway and do not elevate procalcitonin. *Intern Med* 2016 ; 55 (14) : 1845-1852.
- 3) Inoue Arita Y¹⁾, Akutsu K, Yamamoto T, Kawanaka H¹⁾, Kitamura M, Murata H¹⁾, Miyachi H, Hosokawa Y, Tanaa K, Shimizu W¹⁾ (1) 循環器内科) : A Fever in Acute Aortic Dissection is Caused by Endogenous Mediators that Influence the Extrinsic Coagulation Pathway and Do Not Elevate Procalcitonin. *Int Med* 2016 ; 55 (14) : 1845-1852.
- 4) 林 洋史, 鈴木啓士, 三軒豪仁, 古瀬領人, 黄 俊憲, 細川雄亮, 塚 宏一, 山本 剛, 岩崎雄樹¹⁾, 林 明聡¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 循環器内科) : Purkinje 線維を起源とする複数の心室期外収縮に対しカテーテルアブレーションを行い electrical storm を抑制し得た心筋梗塞の 1 例. *心臓* 2016 ; 48 (-) : 166-171.
- 5) Suzuki K, Yamamoto T, Takagi I¹⁾, Furuse E, Sangen H, Hayashi H, Miyachi H, Hosokawa Y, Akutsu K, Wataru S¹⁾ (1) 循環器内科) : Impact of Edoxaban Approval for Venous Thromboembolism on Length of Hospitalization. *Jpn J Thromb Hemost* 2017 ; 28 (1) : 50-54.

(2) 総説：

- 1) 塚 宏一 : 急性大動脈解離の臨床像；大動脈解離の診断と治療の最近の動向. *カレントセラピー* 2016 ; 34 (9) : 832-837.
- 2) 塚 宏一, 藤川拓也 : 急性大動脈症の診療体制について；循環器病の診療体制. *循環器内科* 2016 ; 79 (6) : 528-531.
- 3) 三軒豪仁, 山本 剛, 清水 渉 : 今週のハイライト 急性心筋炎劇症化の予測因子と補助循環に関して. *日本集中治療医学会雑誌* 2016 ; 23 (6) : 621-622.
- 4) 山本 剛, 田島廣之¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血管内低侵襲治療センター) : カテーテル治療の効果とテクニック. *Heart View* 2016 ; 20 (11) : 73-78.
- 5) 山本 剛 : 心エコーを用いた輸液循環管理. *体液・代謝管理* 2016 ; 32 (-) : 29-34.
- 6) 田島廣之¹⁾, 金城忠志¹⁾, 竹ノ下尚子¹⁾, 市川太郎²⁾, 一色彩子²⁾, 菊池有史³⁾, 佐藤直樹³⁾, 村田 智⁴⁾, 小野澤志郎⁴⁾, 三樹いづみ⁴⁾, 山本 剛⁵⁾, 中沢 賢 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター, 2) 同 放射線科, 3) 同 循環器内科, 4) 放射線科, 5) 埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科) : 急性肺血栓塞栓症の IVR (画像下治療). *血管外科* 2016 ; 35 (1) : 24-30.
- 7) 山本 剛 : ICU でチェックしたい心機能の項目. *INTENSIVIST* 2017 ; 9 (1) : 126-129.

著書

- 1) 高橋健太, 山本 剛 : [共著] 心電図モニタリング. *循環管理 Q & A : 研修医からの質問* (山科 章), 2016 ; ppe271-e277, 総合医学社.
- 2) 三軒豪仁, 山本 剛, 清水 渉 : [共著] 術中 2 緊急手術と CPR, V-A ECMO. *ハートチームのための心臓血管外科手術 周術期管理のすべて* (國原 孝), 2017 ; pp68-75, メジカルビュー社.
- 3) 小野寺健太, 山本 剛 : [共著] 動脈ライン. これだけは知っておきたい循環管理 研修医からの質問 323 (山科 章), 2016 ; ppe264-e270, 総合医学社.
- 4) 黄 俊憲, 山本 剛 : [共著] 急性肺塞栓症. *ハートチームのための心臓血管外科手術 周術期管理のすべて* (國原 孝), 2017 ; pp570-581, メジカルビュー社.
- 5) 山本 剛, 古山景子¹⁾ (1) 付属病院看護部) : [分担] CCU における治療から回復期までのチームアプローチ. *糖尿病を併せ持つ患者へのチームアプローチ* (数間恵子), 2016 ; pp2-8, 看護の科学社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 坏 宏一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院・心臓血管集中治療科, 東京都CCUネットワーク学術委員会) : Differences and Similarities of Type B Acute Aortic Dissection with Communicating and with Non-communicating False Lumen. 日本循環器学会学術総会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 2) 山本 剛, 坏 宏一, 清水 渉 : 「循環器集中治療医学」トレーニングプログラムの必要性. 日本心臓病学会学術集会 (第64回) (東京), 2016. 9.
- 3) 山本 剛 : 急性肺血栓症への内科治療, 心停止例からER外来治療例まで. 日本救急医学会総会・学術集会 (第44回) (東京), 2016. 11.
- 4) 三軒豪仁, 山本 剛, 小野寺健太, 鈴木啓士, 高橋健太, 黄 俊憲, 太良修平, 細川雄亮, 坏 宏一, 高野仁司¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 循環器内科) : Cardiologist Should be a Cardial Intensivist in Emergency Cardiogacular Care. 日本循環器学会学術総会 (第81回) (金沢), 2017. 3.

(2) ポスター：

- 1) 坏 宏一, 吉野秀朗¹⁾, 桃原哲也¹⁾, 清水 渉, 山本 剛, 長尾 建¹⁾, 高山守正¹⁾, その他9名 (1) 東京都CCUネットワーク学術委員会) : B型急性大動脈解離の発症直後の血圧はどうなっているか?. 日本心臓病学会学術集会 (第64回) (東京), 2016. 9.
- 2) 坏 宏一, 吉野秀朗¹⁾, 桃原哲也¹⁾, 清水 渉, 山本 剛, 長尾 建¹⁾, 高山守正¹⁾, その他9名 (1) 東京都CCUネットワーク学術委員会) : B型急性大動脈解離の発症直後の血圧はどうなっているか?. 東京CCU研究会 (第36回) (東京), 2016. 12.
- 3) Akutsu K, Yoshino H¹⁾, Tobaru T¹⁾, Takahashi T¹⁾, Hagiya K¹⁾, Shimizu W, Shimokawa T¹⁾, Watanabe Y¹⁾, Ogino H¹⁾, Yamamoto T, Nagao K¹⁾, Takayama M¹⁾ (1) 東京都CCUネットワーク学術委員会) : Are Systolic Blood Pressures in the Patients with Acute Type B Aortic Dissection Really High at Symptom Onset?. 日本循環器学会学術総会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 4) 笹本 希¹⁾, 坏 宏一, 高橋健太, 黄 俊憲, 三軒豪仁, 細川雄亮, 太良修平, 山本 剛, 清水 渉¹⁾ (1) 循環器内科) : 急性大動脈解離における血圧の左右差の検討. 日本集中治療学会総会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 5) 三軒豪仁, 中村有希¹⁾, 鈴木啓士, 古瀬領人, 黄 俊憲, 久保田芳明¹⁾, 乾 恵輔¹⁾, 青山里恵¹⁾, 細川雄亮, 村井綱児¹⁾, 太良修平, 時田祐吉, 坏 宏一, 山本 剛, 高木 元¹⁾, その他4名 (1) 循環器内科) : Relationship Between Anatomical Variant of Infrapopliteal Arteries AND Incidence of Critical Limb Ischemia. 日本心血管インターベンション治療学会 2016 (東京), 2016. 7.
- 6) 黄 俊憲, 稲見茂信¹⁾, 高野仁司¹⁾, 小野寺健太, 鈴木啓士, 三軒豪仁, 乾 恵輔¹⁾, 久保田芳明¹⁾, 青山里恵, 太良修平, 細川雄亮, 時田祐吉¹⁾, 山本 剛, 山本 剛, 浅井邦也¹⁾, その他1名 (1) 循環器内科) : 安定冠動脈疾患患者における高感度CRP値とコレステロール結晶の関連: 光干渉断層検査 (OCT) を用いた検討. 日本心臓病学会学術集会 (第64回) (東京), 2016. 9.
- 7) 黄 俊憲, 鈴木啓士, 小野寺健太, 高橋健太, 三軒豪仁, 太良修平, 坏 宏一, 山本 剛, 石井庸介¹⁾, 清水 渉²⁾ (1) 心臓血管外科, 2) 循環器内科) : 硬膜外血腫の手術翌日に心停止となり, 浮遊性右心腔内血栓による三尖弁閉塞の関与が疑われた肺塞栓症の1例. 肺塞栓症研究会 (第23回) (東京), 2016. 11.
- 8) 黄 俊憲, 稲見茂信¹⁾, 高野仁司¹⁾, 小野寺健太, 鈴木啓士, 三軒豪仁, 乾 恵輔¹⁾, 久保田芳明¹⁾, 青山里恵, 太良修平, 細川雄亮, 時田祐吉¹⁾, 山本 剛, 浅井邦也¹⁾, 清水 渉¹⁾ (1) 循環器内科) : 安定冠動脈疾患患者における高感度CRP値とコレステロール結晶の関連: 光干渉断層検査 (OCT) を用いた検討. 日本冠疾患学会学術集会 (第30回) (東京), 2016. 12.
- 9) 黄 俊憲, 鈴木啓士, 小野寺健太, 高橋健太, 三軒豪仁, 太良修平, 坏 宏一, 山本 剛, 石井庸介¹⁾, 清水 渉²⁾ (1) 心臓血管外科, 2) 循環器内科) : 硬膜外血腫の手術翌日に心停止となり, 浮遊性右心腔内血栓による三尖弁閉塞の関与が疑われた肺塞栓症の1例. 日本集中治療学会総会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 10) Ko T, Inami S¹⁾, Takano H¹⁾, Onodera K, Suzuki K, Furuse E, Sangena H, Inui K¹⁾, Kubota Y¹⁾, Aoyama R, Tara S, Tokita Y¹⁾, Yamamoto T, Asai K¹⁾, Shimiau W¹⁾ (1) 循環器内科) : Relationship between high-sensitivity CRP levels and non-culprit lesion cholesterol crystals assessed by OCT in patients with stable coronary artery disease. 日本循環器学会学術総会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 11) 由井奏子, 高橋健太, 太良修平, 藤本雄飛, 柴崎幹生, 坏 宏一, 山本 剛, 清水 渉 : 内視鏡検査の送気により胃穿孔から腹部コンパートメント症候群を来した1例. 日本集中治療学会総会 (第44回) (札幌), 2017. 3.
- 12) 細川雄亮, 黄 俊憲, 厚見佳彦¹⁾, 宮國知世¹⁾, 小野寺健太, 鈴木啓士, 古瀬領人, 三軒豪仁, 中村有希¹⁾, 久保田芳明¹⁾, 青山里恵¹⁾, 村井綱児¹⁾, 太良修平, 時田祐吉¹⁾, 坏 宏一, その他5名 (1) 循環器内科) : Dioを用いてロータプレータを施行した高度屈曲病変のST上昇心筋梗塞の1例. 日本心血管インターベンション治療学会 (第25回) (東京), 2016. 7.
- 13) Hosokawa Y, Yamamoto T, Nagao K¹⁾, Kuroki N¹⁾, Tachibana E¹⁾, Takayama T¹⁾, Shimizu W, Takayama M¹⁾ (1) Tokyo CCU Network Scientific Committee, Tokyo, Japan) : Hemodynamic compromise during transportation predicts in-hospital mortality among cardiogenic shock patients from Tokyo CCU Network. 日本循環器学会学術総会 (第81回) (金沢), 2017. 3.
- 14) Kuroki N¹⁾, Nagao K¹⁾, Takayama T¹⁾, Hosokawa Y, Tachibana E¹⁾, Abe D²⁾, Yamamoto T, Takayama M¹⁾ (1) Tokyo CCU

Network Scientific Committee, Tokyo, Japan, ²⁾Department of Cardiology, Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital, Tokyo, Japan) : Clinical Impact of Admission Blood Pressure in Patients Admitted to the CCU for Cardiogenic Shock from Tokyo CCU Network Database. 日本循環器学会学術総会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.

(3) 一般講演 :

- 1) 坏 宏一, 吉野秀朗¹⁾, 桃原哲也¹⁾, 清水 涉, 山本 剛, 長尾 建¹⁾, 高山守正¹⁾, その他 12 名 (¹⁾ 東京都 CCU ネットワーク学術委員会) : A 型急性大動脈解離の発症直後の血圧はどうなっているか? . 日本脈管学会総会 (第 57 回) (奈良), 2016. 10.
- 2) Akutsu K, Watanabe A, Shimizu W : Clinical Course of 17 Patients with Vascular Type Ehlers-Danlos Syndrome. 日本循環器学会総会 (第 81 回) (金沢), 2017. 3.
- 3) 高圓雅博¹⁾, 坏 宏一, 吉永 綾¹⁾, 青山里恵¹⁾, 村井綱児¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 浅井邦也¹⁾, 清水 涉¹⁾ (¹⁾ 循環器内科) : 短期間に大動脈解離を再発し腎機能障害合併で血圧コントロールに難渋した 1 例. 日本循環器学会関東地方会 (第 242 回) (東京), 2016. 12.
- 4) 丸 有人, 高橋健太, 鈴木幹人, 中島大智, 笹本 希, 小野寺健太, 福泉 偉, 黄 俊憲, 三軒豪仁, 太良修平, 坏 宏一, 山本剛, 清水 涉 : 心停止後症候群に伴う痙攣発作を繰り返したが低体温療法および適切なたんかん重積管理により神経学転帰が良好であった 1 例. 東京都 CCU 研究会 (東京), 2016. 12.
- 5) 三軒豪仁 : Culotte-stent Technique to an ostial stenosis at jailed common iliac artery. Guro Live (韓国), 2016. 10.
- 6) 成田憲紀, 三軒豪仁, 鈴木啓士, 古瀬領人, 乾 恵輔¹⁾, 青山里恵, 細川雄亮, 太良修平, 時田祐吉¹⁾, 坏 宏一, 山本 剛, 高野仁司¹⁾, 清水 涉¹⁾ (¹⁾ 循環器内科) : Effectiveness of percutaneous transluminal renal angioplasty (PTRA) for patients with renal artery stenosis and severely decreased renal function. 日本心血管インターベンション治療学会 2016 (東京), 2016. 7.
- 7) 小野寺健太, 三軒豪仁, 高橋健太, 黄 俊憲, 林 洋史, 坪井一平¹⁾, 太良修平, 坏 宏一, 山本 剛, 清水 涉¹⁾ (¹⁾ 循環器内科) : 一時的ペーシングが必要な重症心疾患患者への冠脈静洞ペーシングの有用性. 日本集中治療学会総会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
- 8) 福泉 偉, 時田祐吉¹⁾, 小野寺健太, 黄 俊憲, 三軒豪仁, 中村有希¹⁾, 乾 恵輔¹⁾, 久保田芳明¹⁾, 青山里恵, 井守洋一¹⁾, 太良修平, 細川雄亮, 村井綱児, 高野仁司¹⁾, 桐山智成²⁾, その他 4 名 (¹⁾ 循環器内科, ²⁾ 放射線科) : 不安定プラークの存在を 18FDG-PET および血管内視鏡にて同定し得た労作性狭心症の 1 例. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第 48 回) (東京), 2016. 5.
- 9) 福泉 偉, 時田祐吉¹⁾, 小野寺健太, 黄 俊憲, 三軒豪仁, 中村有希¹⁾, 乾 恵輔¹⁾, 久保田芳明¹⁾, 青山里恵, 井守洋一¹⁾, 太良修平, 細川雄亮, 村井綱児, 高野仁司¹⁾, 桐山智成²⁾, その他 4 名 (¹⁾ 循環器内科, ²⁾ 放射線科) : 不安定プラークの存在を 18FDG-PET および血管内視鏡にて同定し得た労作性狭心症の 1 例. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 30 回) (兵庫), 2016. 10.
- 10) Ko T, Inami S¹⁾, Takano H¹⁾, Onodera K, Suzuki K, Furuse E, Sangen H, Inui K¹⁾, Kubota Y¹⁾, Aoyama R, Tara S, Tokita Y¹⁾, Yamamoto T, Asai K¹⁾, Shimizu W¹⁾, et al. (¹⁾ 循環器内科) : Relationship between high-sensitivity C-reactive protein levels and non-culprit lesion cholesterol crystals assessed by optical coherence tomography in patients with stable coronary artery disease. 日本心血管インターベンション治療学会 2016 (東京), 2016. 7.
- 11) 丸 有人, 高橋健太, 小野寺健太, 福泉 偉, 黄 俊憲, 三軒豪仁, 太良修平, 坏 宏一, 山本 剛, 清水 涉 : 拡張型心筋症に併発した VT storm に対して中心静脈 (Middle cardiac vein) からのアブレーションが有効であった 1 例. 日本循環器学会関東地方会 (第 243 回) (東京), 2017. 2.
- 12) 笹本 希, 高橋健太, 中島大智¹⁾, 丸 有人, 小野寺健太, 福泉 偉, 黄 俊憲, 三軒豪仁, 太良修平, 坏 宏一, 山本 剛, 清水 涉 (¹⁾ 付属病院研修医) : 心停止後症候群に伴う痙攣発作を繰り返したが, 低体温療法および適切な痙攣管理により神経学転帰が良好であった 1 例. 東京 CCU 研究会 (第 36 回) (東京), 2016. 12.
- 13) 鈴木啓士, 小野寺健太, 黄 俊憲, 高橋健太, 三軒豪仁, 細川雄亮, 坏 宏一, 山本 剛, 清水 涉, 石井庸介¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 新田 隆¹⁾ (¹⁾ 心臓血管外科) : 院外心停止からの蘇生, CABG, 集学的管理にて心移植待機となった川崎病後の冠動脈瘤による若年性心筋梗塞の 1 例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第 25 回), 2016. 8.
- 14) Wakakuri H¹⁾, Hosokawa Y, Akutsu K, Hyodo H¹⁾, Yamamoto T, Ohara T¹⁾, Shimizu W, Kawai M¹⁾, Yasutake M¹⁾ (¹⁾ Department of General Medicine & Health Science) : Clinical characteristics of acute coronary syndrome patients visiting department of general medicine in a teaching hospital of Japan. WONCA Europe Conference 2016 (デンマーク), 2016. 6.
- 15) 三軒豪仁, 太良修平, 高木 元¹⁾, 鈴木啓士, 古瀬領人, 黄 俊憲, 林 洋史¹⁾, 小野寺健太, 中村有希¹⁾, 乾 恵輔¹⁾, 久保田芳明¹⁾, 青山里恵¹⁾, 細川雄亮, 村井綱児¹⁾, 時田祐吉¹⁾, その他 6 名 (¹⁾ 循環器内科) : 膝窩動脈三分枝の解剖学的亜型と重症下肢虚血発症の関連. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 25 回), 2016. 7.
- 16) 成田憲紀¹⁾, 三軒豪仁, 古瀬領人, 鈴木啓士, 黄 俊憲, 乾 恵輔²⁾, 青山里恵²⁾, 久保田芳明²⁾, 細川雄亮, 太良修平, 時田祐吉²⁾, 坏 宏一, 山本 剛, 高野仁司²⁾, 清水 涉²⁾, その他 5 名 (¹⁾ 弘前大学医学部附属病院循環器内科, ²⁾ 循環器内科) : 高度腎機能低下を有する腎動脈狭窄患者に対する PTRA の有用性. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 25 回) (東京), 2016. 7.
- 1) 三軒豪仁 : 心血管救急領域における Torinias の有用性. CCT 2016 (神戸), 2016. 10.

[付属病院病理診断科・病理部]

研究概要

現在病理診断科病理部スタッフ、病理専門医である専任病理医9名、細胞検査士9名含む技師11名、事務員1名に加え、病理学教室と協力しながら日常診断業務（病理組織診断、細胞診、剖検診断）を遂行している。研究テーマは、主に日常業務や毎週開催の内部検討会などに取り上げられた症例などから見出されている。その他、診療各科と共同開催している乳腺、甲状腺、内分泌、婦人科および消化器カンファレンス等で検討された症例については、お互いに情報交換することにより知識が深まり、臨床側も病理側も、より踏み込んだ発表や研究ができるようになってきている。研究対象臓器は、乳腺、膵臓、婦人科、呼吸器、腎臓、など多岐に渡り、各種学会において病理学教室の医師や臨床医が我々病理診断科病理部と共同で発表を行っている。その他にも、病理学会、臨床細胞学会などで、多くの発表と研究サポートを行った。今後も、新たな人材も活かしつつ、継続して研究に取り組んでいきたいと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ohashi R¹⁾, Sakatani T¹⁾, Matsubara M¹⁾, Watarai Y¹⁾, Yanagihara K²⁾, Yamashita K²⁾, Tsuchiya S³⁾, Takei H²⁾, Naito Z¹⁾
(¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Hospital, (²⁾ Department of Breast Surgery, Nippon Medical School Hospital, (³⁾ Department of Pathology, Iida Hospital) : Mucinous carcinoma of the breast : a comparative study on cytohistological findings associated with neuroendocrine differentiation in 37 patients. *Cytopathology* 2016 ; 27 (3) : 193-200.
- 2) Ohashi R¹⁾, Kawahara K²⁾, Fujii T²⁾, Takei H³⁾, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Hospital, (²⁾ Department of Integrated Diagnostic Pathology, Nippon Medical School, (³⁾ Department of Breast Surgery, Nippon Medical School) : Higher expression of EpCAM is associated with poor clinical and pathological responses in breast cancer patients undergoing neoadjuvant chemotherapy. *Pathology International* 2016 ; 66 (4) : 210-217.
- 3) Ohashi R¹⁾, Matsubara M¹⁾, Watarai Y¹⁾, Yanagihara K²⁾, Yamashita K²⁾, Tsuchiya S³⁾, Takei H²⁾, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, (²⁾ Department of Breast Surgery, Nippon Medical School Hospital, (³⁾ Department of Diagnostic Pathology, Iida Hospital) : Pleomorphic lobular carcinoma of the breast : a comparison of cytopathological features with other lobular carcinoma variants. *Cytopathology* 2016 ; 28 (2) : 122-130.
- 4) Ohashi R¹⁾, Hayama A¹⁾, Matsubara M¹⁾, Watarai Y¹⁾, Sakatani T¹⁾, Takei H²⁾, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, (²⁾ Department of Breast Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Fine needle aspiration cytology of signet ring cells in the breast carcinoma : a cytohistological study of 11 cases. *International Journal of Clinical and Experimental Pathology* 2016 ; 9 (6) : 6414-6422.
- 5) Ohashi R¹⁾, Hayama A¹⁾, Yanagihara K²⁾, Yamashita K²⁾, Sakatani T¹⁾, Takei H²⁾, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School, (²⁾ Department of Breast Surgery, Nippon Medical School) : Prognostic significance of mucin expression profiles in breast carcinoma with signet ring cells : a clinicopathological study. *Diagnostic Pathology* 2016 ; 11 (1) : 131-131.
- 6) Ohashi R¹⁾, Kawahara K¹⁾, Namimatsu S¹⁾, Igarashi T²⁾, Sakatani T¹⁾, Sugitani I²⁾, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, (²⁾ Department of Endocrine Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Clinicopathological significance of a solid component in papillary thyroid carcinoma. *Histopathology* 2016 ; 70 (5) : 775-781.
- 7) Wada R, Yagihashi S, Naito Z : Expression of delta-HER2 mRNA and its clinicopathological correlation in HER2-overexpressing breast cancers. *Molecular Medicine Reports* 2016 ; 14 : 5104-5110.
- 8) Takata H, Kudo M, Yamamoto T, Ueda J, Ishino K, Peng W, Wada R : The increased expression of PDIA3 and its association with cell proliferation and worse prognosis in hepatocellular carcinoma. *Oncology Letters* 2016 ; 12 : 4696-4904.
- 9) Kanzaki A, Kudo M, Ansai S, Peng W, Ishino K, Yamamoto T, Wada R, Fujii T, Teduka K, Kawahara K, Kawamoto Y, Kitamura T, Kawana S, Saeki H, Naito Z : Insulin-like growth factor 2 mRNA-binding protein-3 as a marker for distinguishing between cutaneous squamous cell carcinoma and keratoacanthoma. *Int J Oncol* 2016 ; 48 : 1007-1015.

(2) 総説：

- 1) 大橋隆治¹⁾, 清水 章²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院病理診断科, (²⁾ 日本医科大学解析人体病理学) : 腎生検病理診断の実際とその進歩。病理と臨床 2016 ; 34 (12) : 1265-1272.
- 2) Itoh N¹⁾, Ohashi R²⁾, Nagata M¹⁾ (¹⁾ Department of Kidney and Vascular Pathology, Tsukuba University Faculty of Medicine, (²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Hospital) : C3 glomerulopathy and current dilemmas. *Clinical and Experimental Nephrology* 2016 ; DOI : 10.1007/s10157-016-1358-5.

(3) 症例報告：

- 1) Yui S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Imadome K¹⁾, Arai A¹⁾, Takahashi M²⁾, Ohashi R³⁾, Nakayama K¹⁾, Shimizu A²⁾, Inokuchi K¹⁾ (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, (2) Department of Analytic Pathology, Nippon Medical School, (3) Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital): Epstein Barr virus positive T cell lymphoproliferative disease following cord blood transplantation for acute myeloid leukemia. Journal of Nippon Medical School 2016; 83 (1): 35-42.

著 書

- 1) 清水 章, 北村博司¹⁾ (1) 国立病院機構 千葉東病院 臨床病理診断部): [分担] 腎生検病理診断の実際と新たな展開. 病理と臨床, 2016; pp1259-1259, 文光堂.
- 2) 大橋隆治, 清水 章¹⁾ (1) 日本医科大学解析人体病理学): [分担] 腎生検病理診断の実際とその進歩. 病理と臨床 (清水章/北村博司), 2016; pp1265-1272, 文光堂.
- 3) 長濱清隆, 清水 章: [分担] 分子標的薬による腎障害. 病理と臨床 (清水章・北村博司), 2016; pp1326-1330, 文光堂.
- 4) 大橋隆治¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院病理診断科): [自著] 腎・泌尿器の病理. カラーイラストで学ぶ集中講義病理学 (清水道生, 内藤善哉), 2016; pp268-287, メジカルビュー社.
- 5) 和田龍一¹⁾ (1) 日本医科大学 統御機構診断病理学): [分担] 集中講義, 病理学 (改定第2版). 集中講義, 病理学 (改定第2版) (清水道生, 内藤善哉), 2016; pp1-383, MEDICAL VIEW.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 大橋隆治：小児ネフローゼ症候群の病理. 関東小児腎研究会 (第83回) (東京), 2017. 2.
- 2) 大橋隆治：巣状糸球体硬化症の病理. 東北腎生検カンファレンス (第13回) (仙台), 2016. 12.
- 3) 大橋隆治：C3腎症の病理診断とその問題点. 沖縄県腎病理カンファレンス (第12回) (沖縄), 2016. 7.

(2) シンポジウム：

- 1) 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 大橋隆治 (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科): 手術治療を主とした耳下腺悪性腫瘍の予後に関わる問題点. 日本口腔・咽頭科学学会総会 (第29回) (松江), 2016. 9.

(3) セミナー：

- 1) Ohashi R: Fine needle aspiration findings of squamous cell carcinoma of the breast. International Conference of Clinical Cytology (Yokohama, Japan), 2016. 5.
- 2) Ohashi R¹⁾ (1) Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital): Fine needle aspiration findings of squamous cell carcinoma of the breast. International Conference of Clinical Cytology. International Conference of Clinical Cytology (57回) (Yokohama), 2016. 5.

(4) ワークショップ：

- 1) 大橋隆治：術前針生検および細胞診による“鑑別困難”症例の実情. 日本臨床細胞学会秋季大会 (第55回) (大分), 2016. 11.

(5) 一般講演：

- 1) 真田麻梨恵¹⁾, 長岡竜太¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 杉谷 巖¹⁾, 大橋隆治 (1) 日本医科大学付属病院内分泌外科): 若年性甲状腺濾胞癌の1例. 日本臨床外科学会 (第78回) (東京), 2016. 11.
- 2) 石原彩子¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 内藤善哉^{2, 3)}, 大橋隆治 (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学統御機構診断病理学, (3) 日本医科大学付属病院病理診断科): 子宮体部 Dedifferentiated carcinoma の1例. 日本臨床細胞学会秋季大会 (第55回) (大分), 2016. 11.
- 3) 川瀬里衣子¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 竹下俊之¹⁾, 大橋隆治 (1) 日本医科大学女性診療科・産科): 子宮内膜細胞診に癌細胞が出現した乳癌既往のある卵巣癌の1例. 日本臨床細胞学会秋季大会 (第55回) (大分), 2016. 11.
- 4) 大林康太郎¹⁾, 木村 剛¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 大橋隆治 (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科): 顕著なリンパ管侵襲を示した腎淡明細胞癌の1例. 日本泌尿器学会 (第104回) (仙台), 2016. 4.
- 5) 柳原恵子¹⁾, 鈴木えりか¹⁾, 中井麻木¹⁾, 山下浩二¹⁾, 武井寛之¹⁾, 大橋隆治 (1) 日本医科大学付属病院乳腺科): 転移性乳がんに対するエリプリンの有用性と安全性. 日本乳癌学会総会 (第24回) (東京), 2016. 6.
- 6) 真田麻梨恵¹⁾, 長岡竜太¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 清水一雄¹⁾, 杉谷 巖¹⁾, 大橋隆治 (1) 日本医科大学付属病院内分泌外科): 高齢者未分化癌に対するレンパチニブの使用経験. 日本内分泌・甲状腺外科学会, 2016. 5.
- 7) 中山幸治¹⁾, 野呂林太郎¹⁾, 功刀しのぶ²⁾, 清家正博¹⁾, 久保田馨¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 大橋隆治 (1) 日本医科大学付属病院呼吸器内科, (2) 日本医科大学解析人体病理学): 肺癌舌転移に対しニボルマブが効果を示した肺腺癌の1例. 肺癌地方会, 2016. 12.
- 8) 横島一彦¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 大久保公裕¹⁾, 大橋隆治 (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 喉頭全摘術を施行した T3 喉

頭癌の術前評価と病理所見の比較. 日本頭頸部癌学会 (第 40 回) (さいたま市), 2016. 6.

- 9) 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 大久保公裕¹⁾, 大橋隆治¹⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 顎下腺癌における穿刺吸引細胞診の信頼性と問題点. 日本頭頸部癌学会 (第 40 回) (さいたま市), 2016. 6.
- 10) 山西慎吾¹⁾, 五十嵐徹¹⁾, 田辺雄次郎¹⁾, 大橋隆治¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科): NS/LAH に SLE を合併した 1 男児例. 日本小児腎臓病学会 (第 51 回) (名古屋市), 2016. 7.
- 11) 遠藤陽子¹⁾, 大橋隆治, 内藤善哉^{2, 1)} (1) 日本医科大学付属病院病理診断科, 2) 日本医科大学統御機構診断病理学): 多形線腫由来の癌肉腫の 1 例. 日本病理学会総会 (第 105 回) (仙台), 2016. 5.
- 12) 大橋隆治, 川原清子¹⁾, 並松茂樹⁴⁾, 坂谷貴司²⁾, 杉谷 巖³⁾, 内藤善哉^{2, 1)} (1) 日本医科大学統御機構診断病理学, 2) 日本医科大学付属病院病理診断科, 3) 日本医科大学内分泌外科, 4) 日本医科大学付属病院病理部): Clinical significance of solid components in the papillary thyroid carcinoma. 日本病理学会総会 (105 回) (仙台), 2016. 5.
- 13) 河本陽子¹⁾, 和田龍一^{1, 2)}, 彭 為霞^{1, 2)}, 手塚 潔¹⁾, 川原清子¹⁾, 恩田宗彦^{1, 2)}, 遠藤陽子^{1, 2)}, 石井英昭²⁾, 内藤善哉^{1, 2)} (1) 日本医科大学 統御機構診断病理学, 2) 日本医科大学付属病院 病理診断科): 未治療漿液性腺癌の原発巣と播種巣の細胞像と発現マーカーの比較検討. 日本臨床細胞学会総会春期大会 (第 57 回) (横浜), 2016. 5.
- 14) 遠藤陽子, 大橋隆治, 坂谷貴司, 内藤善哉: 多形線腫由来の癌肉腫の 1 例. 日本病理学会総会 (第 105 回) (仙台), 2016.

論文

[追加分]

追加分症例報告:

- 1) Matsumoto N¹⁾, Umezawa H¹⁾, Ohashi R²⁾, Peng W²⁾, Naito Z²⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital): Surgical treatment of rare sclerosing polycystic adenosis of the deep parotid gland. Plastic Reconstructive Surgery Global Open 2016; 17 (4 (3)): e645.

学会発表

追加分教育講演:

- 1) 大橋隆治: 好酸球性肺炎にネフローゼ症候群を合併した 1 例. 東京腎生検カンファレンス (第 84 回) (東京), 2016. 3.

追加分招待講演:

- 1) 大橋隆治: 腎病理診断へのアプローチ (尿細管間質病変). 四国小児腎疾患研究会 (第 17 回) (徳島), 2016. 2.

[付属病院臨床検査部]

研究概要

2015 年 10 月から臨床検査部、輸血部と病理部は臨床検査室の品質と能力に関する国際規格認定に向けて準備を開始、2016 年 12 月日本適合性認定協会より国際規格 ISO 15189 の認定を受けた。国際標準化機構 (International Organization for Standardization: ISO) は、『物質およびサービスの国際交換を容易にし、知的、科学的、技術的および経済的活動分野の協力を助長させるために、世界的な標準化およびその関連活動の発展開発を図ること』を目的とし、特に ISO 15189 は臨床検査室における品質マネジメントシステムとその技術能力に特化した基準である。付属病院は ISO 15189 の全ての分野で認定を受け、特に生理機能検査部門は本邦大学病院 80 施設のうち 18 番目の認定であった。ISO 15189 認定取得の過程で病理部と共に、814 の標準手順書および 482 の記録文書を作成し、緊急検査項目に検体受付から結果報告までの報告時間を設定し、迅速な検査結果の提供ができるシステムの運用を開始した。更に、研究面では 2015 年 3 月に発効した『体外診断用医薬品等の臨床研究におけるガイドライン』に基づく新しい臨床研究システムの下、研究成果を報告することができた。今後も国際規格レベルの検査技術の維持向上をはかり、常に信頼性の高い検査結果を迅速に提供し、患者サービスの向上に繋げて行きます。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 柴田泰史¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部): 症例を通して学ぶ、救急検査の実際と注意点 意識障害. Medical Technology 2016; 44 (12): 1255-1259.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 鳴海武長¹⁾, 間宮一夫¹⁾, 三橋 太¹⁾, 柴田泰史¹⁾, 橋本政子¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 本間 博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部) : POCT 対応血糖測定器の管理運用における精度管理・サポート体制構築と POC コーディネーターの役割. 日本医学検査学会 (第 65 回) (神戸市), 2016. 9.
- 2) 鷺尾洋平¹⁾, 篠山明宏¹⁾, 中村祐三¹⁾, 橋本政子¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 根井貴仁²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部, 2) 日本医科大学付属病院 安全管理部 感染制御室) : 自動同定機器で *Staphylococcus schleifeli subsp.coagulans* と誤同定された *S.aureus* による感染性心内膜炎・眼内炎の 1 例. 日本微生物学会総会・学術集会 (第 28 回) (長崎県), 2017. 1.
- 3) 杉本諒司¹⁾, 田代彩香¹⁾, 中村祐三¹⁾, 橋本政子¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 根井貴仁²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部, 2) 日本医科大学付属病院 安全管理部 感染制御室) : *Salmonella Choleraesuis* による頸部膿瘍の 1 例. 日本微生物学会総会・学術集会 (第 28 回) (長崎県), 2017. 1.
- 4) 大川咲奈¹⁾, 渡邊 淳²⁾, 佐々木香織¹⁾, 三橋 太¹⁾, 堤 章江¹⁾, 小嶋佳子¹⁾, 橋本政子¹⁾, 遠藤康実¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部, 2) 日本医科大学付属病院 遺伝診療科・ゲノム先端医療部) : 全自動遺伝子解析装置の付属病院導入による成果と課題. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京都), 2016. 9.
- 5) 植竹和也, 村山智美, 山下純一, 三橋 太, 青砥泰二, 橋本政子, 遠藤康実 (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部) : 低濃度域まで測定可能な「フレックスカートリッジ タクロリムス TAC」基礎的検討報告. 私立医科大学臨床検査技師会学術研修会 (第 34 回) (東京都), 2016. 10.
- 6) 柴田泰史¹⁾, 橋本政子¹⁾, 本間 博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部) : 血液ガス分析装置によるクレアチニン測定の有用性とランニングコストについて. 日本臨床救急医学会総会・学術 (第 19 回) (郡山市), 2016. 5.
- 7) 柴田泰史¹⁾, 間宮一夫¹⁾, 山下純一¹⁾, 鳴海武長¹⁾, 伊藤左貴¹⁾, 橋本政子¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 本間 博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部) : ヨウ素の血糖測定に及ぼす影響の検討. 日本医学検査学会 (第 65 回) (神戸市), 2016. 9.

[付属病院薬剤部]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 加藤あゆみ¹⁾, 湧島伴之助²⁾, 萬年琢也³⁾, 江川 孝⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部 国際緊急援助隊医療チーム, 2) 鳥取大学医学部附属病院薬剤部 国際緊急援助隊医療チーム, 3) 山形県立中央病院薬剤部 国際緊急援助隊医療チーム, 4) 就実大学薬学部総合医療薬学 国際緊急援助隊医療チーム) : ネパール大地震災害に対する医療活動における薬剤師のかかわり. 医療薬学 2016 ; 42 (5) : 356-363.

学会発表

(1) セミナー：

- 1) 杉山未緒 : 当院 NST による高齢患者への退院支援. 第 19 回薬薬連携協議会 (都立駒込病院), 2017. 3.

(2) 一般講演：

- 1) 飯田謙司¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾, 大久保善朗²⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院精神神経科) : 当院循環器内科と精神神経科における抗不安薬・睡眠薬の外来処方と入院処方の統計. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 2) 稲毛俊介¹⁾, 岡田 慧¹⁾, 荻上友梨香¹⁾, 渡邊友佳¹⁾, 恩田秀賢²⁾, 横堀将司²⁾, 栗本健太郎²⁾, 布施 明²⁾, 片山志郎¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院救命救急科) : 急性脳損傷患者に対するアセトアミノフェン静注製剤の有効性に関する検討. 臨床救急医学会 (福島県), 2016. 5.
- 3) 鈴木 藍¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部) : タベンタドール塩酸塩錠へオピオイドスイッチングを行った 3 例についての効果と副作用の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 4) 久保村優¹⁾, 渡辺 圭¹⁾, 井ノ口岳洋¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部) : 非小細胞肺癌におけるクリゾチニブとワルファリンカリウムとの相互作用が疑われた 1 症例. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 5) 矢島 領¹⁾, 林 太祐¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部) : 本医科大学付属病院における終末期がん患者を対象としたプレガバリンの使用実態. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 6) 田中弘人¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 岸田悦子¹⁾, 鈴木 藍¹⁾, 鶴川百合²⁾, 保科滋明²⁾, 片山志郎¹⁾, 弦間昭彦³⁾, 清家正博³⁾, 久保田馨³⁾ (1) 日

- 本医科大学付属病院薬剤部, ²⁾ 相澤病院 薬剤管理情報センター, ³⁾ 日本医科大学付属病院呼吸器内科): 外来におけるシスプラチン・ショートハイドレーション法の腎機能に及ぼす影響. 癌治療学会学術集会 (第 54 回) (パシフィコ横浜), 2016. 10.
- 7) 鈴木 藍¹⁾, 久保村優¹⁾, 宇波奈央子¹⁾, 中村博子¹⁾, 加藤あゆみ¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): オピオイドスイッチングにおけるタベンタドール塩酸塩錠の有用性についての検討. 日本緩和医療薬学会 (第 10 回) (静岡県), 2016. 6.
 - 8) 鈴木 藍¹⁾, 井ノ口岳洋¹⁾, 久保村優¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): 乳癌患者におけるペグフィルグラスチムの効果と副作用についての検討. 日本医療薬学会 (第 26 回) (京都), 2016. 9.
 - 9) 飯田謙司¹⁾, 朝山健太郎²⁾, 大久保善朗²⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, ²⁾ 日本医科大学付属病院精神神経科): 総合病院における抗不安薬及び睡眠薬の処方統計調査. 日本総合病院精神医学会学術総会 (第 29 回) (東京), 2016. 11.
 - 10) 植田るか¹⁾, 齊藤まみ¹⁾, 萩原 研¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): 当院における医薬品使用の実態調査. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
 - 11) 植田るか¹⁾, 稲毛俊介¹⁾, 長原新太郎¹⁾, 岡田 慧¹⁾, 奈良弘恵¹⁾, 森 洵子¹⁾, 矢島羽奈¹⁾, 加藤あゆみ¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本): クラウド機能を用いた薬剤部緊急連絡網の構築. 日本災害医療薬剤師学会 (第 6 回) (岐阜), 2017. 2.
 - 12) 渡辺 圭¹⁾, 片山志郎¹⁾, 加藤あゆみ¹⁾, 中村博子¹⁾, 稲葉恵理¹⁾, 宇波奈央子¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): 緩和ケアチームと病棟薬剤師の連携. 東京都緩和医療研究会 (第 4 回) (東京), 2016. 10.
 - 13) 長原新太郎¹⁾, 星川美夕紀¹⁾, 木村早百合¹⁾, 林 太祐¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学): 小児白血病患者での L-アスパラギナーゼ筋注時におけるエムラ (R) クリームの有用性について. 日本薬学会 (第 137 回) (仙台), 2017. 3.
 - 14) 岸田悦子¹⁾, 清家正博¹⁾, 峯岸裕司¹⁾, 片山志郎¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 田中弘人¹⁾ (1) 日本医科大学): 非小細胞肺癌患者に対するニボルマブの有害事象および検査モニタリングの実態調査. 日本肺癌学会学術集会 (第 57 回) (福岡), 2016. 12.
 - 15) 岸田悦子¹⁾, 清家正博¹⁾, 久保田馨¹⁾, 片山志郎¹⁾, 武井寛幸¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 中井麻木¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 田中弘人弘人¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院): 日本医科大学付属病院外来化学療法室におけるがん患者指導管理料 3 算定への取り組み. 日本医療薬学会年会 (第 26 回) (京都), 2016. 9.
 - 16) 本城和義¹⁾, 櫻井 実¹⁾ (1) 日本医科大学 検診医療センター): 当施設における HPLC システム適合性試験方法の検証. 日本核医学会学術総会 (第 56 回) (愛知), 2016. 11.
 - 17) 輪湖哲也¹⁾, 田中弘人¹⁾, 岸田悦子¹⁾, 片山志郎²⁾, 穂山真理³⁾, 徳満琴恵³⁾, 村田智子³⁾, 弦間昭彦⁴⁾, 峯岸裕司⁴⁾, 清家正博⁴⁾, 久保田馨⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院化学療法科, ²⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ³⁾ 日本医科大学付属病院看護部, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院呼吸器内科): 外来化学療法室における患者満足度調査: 2012 年と 2015 年の比較. 日本癌治療学会学術総会 (第 54 回) (横浜), 2016. 10.
 - 18) 林 太祐¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学): 当院におけるポリファーマシーの現状と薬剤師介入効果のシミュレーション. 日本医療薬学会 (第 26 回) (京都), 2016. 9.
 - 19) 中村博子¹⁾, 加藤あゆみ¹⁾, 鈴木 藍¹⁾, 宇波奈央子¹⁾, 稲葉恵理¹⁾, 矢島 領¹⁾, 武田弘太郎¹⁾, 久保村優¹⁾, 木村早百合¹⁾, 林 太祐¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): 緩和ケアチーム薬剤師による病棟薬剤師へ医療用麻薬の介入推進の試み. 日本薬学会関東支部大会 (第 60 回) (東京), 2016. 9.
 - 20) 萩原 研, 矢島羽奈, 長原新太郎, 玉井理大 (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): 軽度褥瘡発生患者に使用された薬剤・被覆材の治療効果と経済効果の検討. 日本褥瘡学会学術集会 (第 18 回) (神奈川県横浜), 2016. 9.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 鈴木 藍¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): がん治療と緩和ケア (6): 抗がん剤の薬物動態と薬力学について: エルロチニブを例として. 日本医科大学医学会雑誌 2015; 11 (1): 12-15.
- 2) 杉山美緒¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): がん治療と緩和ケア (7): 終末期がん患者における輸液治療の現状と QOL 指標. 日本医科大学医学会雑誌 2015; 11 (3): 145-150.
- 3) 菅谷和也¹⁾, 片山志郎¹⁾, 伊勢雄也¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): 臨床現場における薬剤師の役割 (1): 糖尿病治療における薬剤師の立場. 日本医科大学医学会雑誌 2015; 11 (3): 151-154.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 萩原 研¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 大坂奈央子¹⁾, 齊藤まみ¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): 日本医科大学付属病院における外来院外処方的一般名処方の推移. 日本医科大学医学会総会 (第 83 回) (東京), 2015. 9.

- 2) 伊勢雄也¹⁾, 萩原 研¹⁾, 大坂奈央子¹⁾, 齊藤まみ¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部) : 薬品情報室における情報収集と提供内容. 日本医科大学医学会総会 (第 83 回) (東京), 2015. 9.
- 3) 坂野博之¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部) : S-ICU における薬剤師の薬物治療への介入状況. 日本医科大学医学会総会 (第 83 回) (東京), 2015. 9.
- 4) 林 太祐¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部) : 病棟薬剤師による薬物治療への介入と安全性への関与. 日本医科大学医学会総会 (第 83 回) (東京), 2015. 9.
- 5) 岡田 慧¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院薬剤部) : 手術室薬剤師によるアレルギーを有する周術期患者への関与. 日本医科大学医学会総会 (第 83 回) (東京), 2015. 9.

[付属病院看護部]

研究概要

看護部では、各専門領域ならびに担当領域において看護研究を実施し、学会等で報告した。ここでは、今年度4病院研修「臨床における看護の取り組み」で実施した看護研究を紹介する。「看護補助者の食事介助場面におけるシミュレーション教育」「シナリオ開発とその評価」、「大学病院の専門領域に勤務する看護師のワークエンゲイジメントに影響する要因」、「急性期病院における筋萎縮性側索硬化症患者家族の退院支援」、「化学放射線療法に伴う経口摂取困難のある当頸部がん患者への援助 症状マネジメントの方略に焦点を当てて」の4題であった。今後ブラッシュアップさせ、院外に報告予定である。

研究業績

著書

- 1) 内藤明子：〔分担〕第4部 看護の統合と今後の展望 第12章 看護ケアのマネジメント. ナーシング・グラフィカ基礎看護学 (1) 看護学概論第6版 (志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕), 2017; pp230-249, メディカ出版.
- 2) 伊藤奈津子：〔分担〕褥瘡を治すために必要なこと ①褥瘡の評価 (病棟で働くことになったら, 褥瘡について, こんなことも知っておこう：「ナースであれば, これだけは」編. 評価・選択・実行できる褥瘡ケアレビュー (丹波光子), 2016; pp38-42, 学研メディカル秀潤社.
- 3) 稲田浩美：〔分担〕褥瘡を治すために必要なこと ②褥瘡治療・ケアの実際 (病棟で働くことになったら, 褥瘡について, こんなことを知っておこう：「ナースであれば, これだけは」編. 評価・選択実行できる褥瘡ケアレビュー (丹波光子), 2016; pp51-56, 学研メディカル秀潤社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 杉山理恵：急性期から考える栄養管理と嚥下機能へのアプローチ (患者の回復を促すためのチーム医療：栄養管理). 日本クリティカルケア看護学会学術集会 (第 12 回) (栃木・下野), 2016. 6.
- 2) 増田恭子：大学病院における SCU 開設後の血管内治療開始時間短縮への取り組み. 日本脳卒中学会 (第 41 回) (札幌), 2016. 4.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 榊 由里：クリティカルケア領域における高齢患者の end-of-life：家族に対する意思決定支援 (クリティカルケア領域におけるエンドオブライフ). 日本クリティカルケア看護学会学術集会 (第 12 回) (栃木・下野), 2016. 6.
- 2) 志村知子：便失禁管理の実践へのアプローチ (便失禁管理の Best Practice を考える). 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 (第 25 回) (金沢), 2016. 6.
- 3) 志村知子：日本褥瘡学会における医療関連圧迫創傷の取り組み (今日からあなたも褥瘡管理のプロ!! -最新のトピックス-). 日本病態栄養学会学術集会 (第 20 回) (京都), 2017. 1.

(3) セミナー：

- 1) 倉藤晶子¹⁾, 分倉千鶴子¹⁾, 荒井聡子¹⁾, 佐藤浩美¹⁾, 山口 円¹⁾, 松岡美恵¹⁾ (1) 日本手術看護学会基準・手順委員会) : 「手術看護業務基準」の作成について. 日本手術看護学会年次大会 (第 30 回) (仙台), 2016. 10.
- 2) 志村知子, 海田真治子¹⁾ (1) 久留米大学病院 看護部) : 医療関連機器圧迫創傷って, 何だか知ってますか? : その対策と予防について. 日本褥瘡学会九州・沖縄地方学術集会 (第 13 回) (佐賀), 2016. 4.
- 3) 志村知子：クリティカルな状態にある患者の皮膚保護対策最前線 (ガイドラインに基づく新アプローチ! 入院中の皮膚を保護する方法). 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 (第 25 回) (金沢), 2016. 6.
- 4) 志村知子：医療機器がもたらす ICU 患者の皮膚損傷 -「医療関連機器圧迫創傷」と「スキン・ケア」対策- (最新 ICU における機器と危機管理の基礎と実践：ECG・SpO2 編). 看護理工学会学術集会 (第 4 回) (岩手), 2016. 10.

- 5) 志村知子, 山崎早苗¹⁾ (1) 東海大学医学部付属病院 看護部) : 今, クリティカルケアに必要とされる知識とスキル : エビデンスで実証されたスキネクア. 日本救急看護学会学術集会 (第 18 回) (幕張), 2016. 10.
- (4) ポスター :
- 1) 深田陽子, 西川律子, 山口文子 : A 病院における AYA 世代がん患者の看護ケアの取り組み. 日本緩和医療学会学術大会 (第 21 回) (京都), 2016. 6.
 - 2) 西川律子, 小栗智美, 深田陽子, 細萱順一, 白川陸美, 志村知美, 榊 由里, 穂山真理, 佐藤憲明 : 大学病院入院患者に対して看護師が使用する不眠時薬に関する調査. 日本 CNS 看護学会学術集会 (第 3 回) (東京), 2016. 6.
 - 3) 山田理恵, 細萱順一, 背戸陽子 : クリティカルケアに関わる新人看護師の重症患者と家族の関わり方への支援. 日本クリティカルケア看護学会学術集会 (第 12 回) (下野), 2016. 6.
 - 4) 末松宏美, 富岡康友, 上原あゆみ, 杉山理恵, 細萱順一, 伊与恭子, 佐藤憲明, 背戸陽子 : 心大血管術後の呼吸器離脱難渋症例に対して院内リソースを活用するにあたってのプライマリナーズの役割. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
 - 5) 中山誠一, 亀ヶ谷泰匡, 中村幸子, 細萱順一, 背戸陽子 : A 病院外科系集中治療室における心臓血管外科患者を対象とした HFNC の使用症例の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
 - 6) 中村幸子, 佐藤拓也, 中山智香子, 山本喜子, 亀ヶ谷泰匡, 細萱順一, 背戸陽子, 青木圭介¹⁾, 鈴木健一²⁾, 市場晋吾³⁾ (1) 日本医科大学付属病院 リハビリテーション部, 2) 日本医科大学付属病院 臨床工学部, 3) 日本医科大学付属病院 外科系集中治療室) : 長期 ECMO 管理における看護実践のポイントの検討 : 胚移植までのブリッジとして ECMO を装着した症例を経験して. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
 - 7) 細萱順一, 末松宏美, 富岡靖友, 上原あゆみ, 杉山理恵, 桐原佳裕¹⁾, 吉澤剛幸¹⁾, 河野麻美¹⁾, 伊与恭子, 佐藤憲明, 背戸陽子 (1) 日本医科大学付属病院 リハビリテーション科) : 心大血管術後の呼吸器離脱難渋症例に対してチーム医療を展開したことにより自宅退院が得られた 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
 - 8) 若林恵子, 工藤美美 : 患者アンケート調査からみた一般外来における JTAS を活用したトリアージシステムの評価. 日本看護学会看護管理 (第 47 回) (金沢), 2016. 9.
- (5) 一般講演 :
- 1) 古山景子, 水口苑絵, 仲程知恵, 菊永恭子 : アルツハイマー型認知症を有する糖尿病患者・家族への在宅療養支援の 1 例 : 入院・外来・地域とのチーム医療連携. 日本糖尿病看護・教育看護学会学術集会 (第 21 回) (山梨), 2016. 9.
 - 2) 満松 恵¹⁾, 内海真紀¹⁾, 和泉秀子¹⁾, 砂田由梨香¹⁾, 椿原久美子¹⁾, 北出和美¹⁾, 青沼なお子¹⁾, 五十嵐直子¹⁾, 東 千絵¹⁾ (1) 東京 Breast Care Nursing 研究会) : 東京 Breast Care Nursing 研究会 5 年間の活動について : アンケート結果より活動内容を評価する. 日本乳がん看護研究会 (第 12 回) (東京), 2016. 11.
 - 3) 池田征史, 鈴木規仁¹⁾, 山口文子, 中村博子²⁾, 菊永恭子, 岡村由美子, 森川昭子, 千田英理子 (1) 日本医科大学付属病院 緩和ケア科, 2) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : オキシコドン塩酸塩水和合物導入クリニカルパス作成報告. 日本クリニカルパス学会学術集会 (第 17 回) (金沢), 2016. 11.
 - 4) 川原龍太, 志村知子, 横山瑞恵, 牛島麻衣, 鈴木雅智, 高橋幸憲, 田端陽太, 西畑 毅, 佐藤憲明 : 口腔ケアで生じる環境汚染防護対策第 4 報 : 異なる吸引機能を持つデバイスによる環境汚染の差. 日本救急看護学会学術集会 (第 18 回) (千葉), 2016. 10.
 - 5) 細萱順一, 山田理恵, 亀ヶ谷泰匡, 曾我部久美, 白川陸美, 背戸陽子 : awake ECMO 患者に対する End-of-Life ケアの経験. 日本クリティカルケア看護学会学術集会 (第 14 回) (下野), 2016. 6.
 - 6) 田辺 緑, 柴本はる菜¹⁾, 武田保江¹⁾ (1) 日白大学看護学部看護学科メディカルスタッフ研修センター) : 胃瘻増設予定の患者を経口摂取可能に導いたチームアプローチ : 姿勢調整の重要性を考察する. 日本脳神経看護研究会 (第 43 回) (福岡), 2016. 9.
 - 7) 水口苑絵, 小栗智美 : 糖尿病足病変を経験した患者の足病変の捉え方. フットケア学会学術集会 (第 15 回) (岡山), 2017. 3.
 - 8) 山田友紀, 高島 泉, 細萱順一, 背戸陽子, 渡邊 誠¹⁾, 佐々木孝²⁾, 小川俊一¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院小児科, 2) 日本医科大学付属病院心臓血管外科) : 成人ユニットとしての外科系集中治療室における小児心臓血管外科の術後急変の経験と今後の課題. 日本小児循環器学会総会・学術集会 (第 52 回) (東京), 2016. 7.
 - 9) 亀ヶ谷泰匡, 中山誠一, 高島 泉, 中村幸子, 細萱順一, 瀬戸利昌, 背戸陽子, 鈴木健一¹⁾, 梅井菜央¹⁾, 市場晋吾²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 臨床工学部, 2) 日本医科大学付属病院 外科系集中治療室) : 胚移植を受ける重症呼吸不全患者の ECMO 搬送における看護師の役割. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
 - 10) 細萱順一, 末松宏美, 富岡靖友, 杉山理恵, 背戸陽子, 桐原佳裕¹⁾, 間瀬大司²⁾, 芝田匡史²⁾, 川瀬康裕³⁾, 坂本俊一郎³⁾, 師田哲郎³⁾, 新田 隆³⁾ (1) 日本医科大学付属病院 リハビリテーション科, 2) 日本医科大学付属病院 外科系集中治療室, 3) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 心大血管術後の呼吸器離脱難渋症例に対して他職種チームアプローチにより自宅退院が得られた 1 例. 心臓血管外科学会ウインターセミナー学術集会 (第 31 回) (長野), 2017. 1.
 - 11) 細萱順一 : 全身麻酔を受けた術後患者の離床時における自律神経活動の評価研究. 日本集中治療医学会学術集会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.

- 12) 高野亜希子¹⁾ (1) 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科)：精神科看護師が抱く陰性感情と精神的健康度及び職場におけるソーシャルサポートの関連. 日本精神保健看護学会学術集会 (第26回) (滋賀・大津), 2016. 7.
- 13) 宇佐美伊織, 大井真貴子, 中川まどか, 倉藤晶子, 谷合信彦¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科)：腹腔鏡下肝切除術における苦手意識改善に対する取り組み. 日本手術医学会総会 (第38回) (沖縄), 2016. 11.
- 14) 中川まどか, 倉藤晶子, 谷合信彦¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科)：高反発傾斜付きクッションを用いた腹腔鏡下大腸切除術による褥瘡発生率の軽減. 日本手術医学会総会 (第38回) (沖縄), 2016. 11.
- 15) 穂山真理, 橋本裕子, 鈴木規仁¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 麻酔科 緩和ケア科)：大学病院がん診療センターで診察を受けている外来患者の「生活のしやすさに関する質問票」の活用状況と今後の課題. 日本緩和ケア医療学会学術大会 (第21回) (京都), 2016. 6.
- 16) 穂山真理, 橋本裕子, 鈴木規仁¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 麻酔科 緩和ケア科)：大学病院がん診療センターで診察を受けている外来患者の「生活のしやすさに関する質問票」の活用状況と今後の課題. 日本緩和ケア医療学会学術大会 (第21回) (京都), 2016. 6.
- (6) 交流集会：
- 1) 中村美鈴¹⁾, 茂呂悦子²⁾, 谷島雅子²⁾, 佐藤博昭³⁾, 宇都宮明美⁴⁾, 細萱順一, 榎 由里, 佐藤幹代¹⁾, 内藤明子 (1) 自治医科大学大学院看護学研究科, 2) 自治医科大学附属病院, 3) 自治医科大学大学院看護学研究科博士前期課程, 4) 聖路加国際大学大学院)：38単位 Advanced Practice Nursing 教育課程における急性・重症患者看護専門看護師の実習展開の現状と課題. 日本看護科学学会学術集会 (第36回) (東京), 2016. 12.
- 2) 森小律恵¹⁾, 古山景子¹⁾, 岡崎優子¹⁾, 中山法子¹⁾, 黒田久美子¹⁾, 米田昭子¹⁾, 福井トシ子¹⁾, 数間恵子²⁾ (1) 日本糖尿病教育・看護学会 特別委員会, 2) 日本糖尿病教育・看護学会)：特定行為研修を活用しよう！：特定行為研修は糖尿病看護に何をもたらすのか？. 日本糖尿病看護・教育看護学会学術集会 (第21回) (山梨), 2016. 9.

[付属病院放射線科技師室]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Suda M: Benefits of Time-of-flight Positron Emission Tomography Computed Tomography with ¹³N-ammonia. *Annals of Nuclear Cardiology* 2016; 2 (1) : 188-191.
- 2) 小川匡史¹⁾, 鍛冶尚利¹⁾, 土橋俊男¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院)：Spoiled equilibrium pulse を使用した 3D 高速 SE 法の基礎的検討. *日本放射線技術学会雑誌* 2017; 73 (1) : 26-32.
- 3) 高橋大輔¹⁾, 小倉明夫²⁾, 林 則夫²⁾, 清野真也³⁾, 河合良介⁴⁾, 松田 豪⁵⁾, 土井 司⁶⁾, 土橋俊男 (1) 公益財団法人仁泉会北福島医療センター, 2) 群馬県立健康科学大学, 3) 福島県立医科大学附属病院, 4) メドエルジャパン株式会社, 5) GEヘルスケア・ジャパン株式会社, 6) 大阪大学医学部附属病院)：1.5TMR 装置における条件付き MRI 対応人工内耳の安全性に関する検証. *日本放射線技術学会誌* 2016; 72 (8) : 674-680.
- 4) Suda M¹⁾, Onoguchi M²⁾, Tomiyama T³⁾, Ishihara K⁴⁾, Takahashi N⁵⁾, Sakurai M⁴⁾, Matsumoto K⁶⁾, Kumita S³⁾ (1) 日本医科大学付属病院 放射線科, 2) 金沢大学医薬保健研究域保健学系 医療科学領域, 3) 日本医科大学 放射線医学, 4) 日本医科大学 健診医療センター, 5) 日本医科大学 循環器内科, 6) 京都医療科学大学医療科学部 放射線技術学科)：The reproducibility of time-of-flight PET and conventional PET for the quantification of myocardial blood flow and coronary flow reserve with ¹³N-ammonia. *Journal of Nuclear Cardiology* 2016; 23 (3) : 457-472.

(2) 総説：

- 1) 土橋俊男：最近の MRI 装置・検査：歯科用金属材料と MRI の関係. *日本磁気歯科学会雑誌* 2016; 25 (1) : 8-13.
- 2) 土橋俊男：各社 MRI 装置の B1+rms 確認方法. *Rad Fan* 2016; 14 (5) : 24-28.

著書

- 1) 土橋俊男, 石森佳幸¹⁾ (1) 茨城県立医療大学)：[分担] 第3章放射線検査別の安全に関する留意点・3・3 MRI 検査. *医療安全管理学* (佐藤 幸光, 東村 享治), 2017; pp168-181, 株式会社 オーム社.

学会発表

(1) 宿題講演：

- 1) 土橋俊男：MRI 検査の安全管理. 日本放射線技術学会（第 72 回），2016. 4.

(2) 教育講演：

- 1) 土橋俊男：条件付き MRI 対応デバイス患者の安全管理. 日本磁気共鳴医学会（第 44 回），2016. 9.
- 2) 吉澤賢史：ピクセルごとに評価する T1-mapping とは. 東京 MRI 動態機能研究会（第 12 回）（東京都），2017. 1.

(3) セミナー：

- 1) 土橋俊男：B1+rms の制御方法に関して（条件付き MRI 対応植込み型デバイスにおける B1+rms 制御）. 日本磁気共鳴医学会（第 44 回），2016. 9.

(4) 一般講演：

- 1) 鍛治尚利，小川匡史，土橋俊男：Spoiled Equilibrium pulse を使用した 3D 高速 SE 法の基礎的検討. 日本放射線技術学会秋季学術大会（第 44 回）（大宮），2016. 10.
- 2) 土橋俊男：強磁性体の持ち込み事故と医療デバイスの安全管理. 関西 MRI 技術研究会（第 100 回），2016. 9.
- 3) 吉澤賢史，原科悟史，et al.：Non-contrast-enhanced MR angiography of the distal lower extremities using T2-prepared balanced SSFP. 日本放射線技術学会（第 44 回）（大宮），2016. 10.
- 4) 菅谷正範，工藤正寿，中島宗一郎，渡邊裕次郎，秀永慎一，村木巖太郎，土橋俊男：異なる ADCT の心電同期撮影における管電流変調の応答特性. 日本放射線技術学会 東京支部春季学術大会（第 70 回）（東京），2016. 5.

[付属病院 ME 部]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 鈴木健一¹⁾，市場晋吾^{1,2)}（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部，²⁾ 日本医科大学付属病院 外科系集中治療科）：体外循環成人 extracorporeal membrane oxygenation (ECMO)；デバイスからみた現状と展望. 人工臓器 2016；45（3）：208-213.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 鈴木健一¹⁾，市場晋吾^{1,2)}（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部，²⁾ 日本医科大学付属病院 外科系集中治療科）：ECMO Up to Date. 日本集中治療医学会 近畿地方会（第 61 回）（大坂），2016. 7.

(2) 教育講演：

- 1) 鈴木健一¹⁾，市場晋吾^{1,2)}（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部，²⁾ 日本医科大学付属病院 外科系集中治療科）：ECMO 治療の歴史と日本における今後の ECMO 治療戦略と問題点. 日本体外循環技術医学会 東北地方会（第 35 回）（山形），2016. 6.

(3) シンポジウム：

- 1) 鈴木健一¹⁾，市場晋吾^{1,2)}，黄川田弥生¹⁾，内田千草¹⁾，大和田恵子¹⁾，豊富達智¹⁾，八重田知見¹⁾，少前貴康¹⁾，中山拓也¹⁾，小磯那津美¹⁾，佐々木拓也¹⁾，戸村泰規¹⁾，志村亜由香¹⁾，河原香織¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部，²⁾ 日本医科大学付属病院 外科系集中治療科）：ECMO Transport の現況と展望. 日本人工臓器学会（第 54 回）（鳥取県），2016. 11.
- 2) 鈴木健一¹⁾，市場晋吾¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部）：VV-ECMO 管理法. 日本集中治療医学会（第 44 回）/日本経皮的心肺補助研究会（第 27 回）（札幌），2017. 3.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 鈴木健一¹⁾，市場晋吾^{1,2)}（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部，²⁾ 日本医科大学付属病院 外科系集中治療科）：ECMO デバイスにおけるカニューレ圧力特性の比較検討. 日本体外循環技術医学会（第 42 回）（東京），2016. 10.

(5) セミナー：

- 1) 鈴木健一¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部）：ECMO Treatment Basic & Practical. チーム医療 CE 研究会・東日本フレッシュマンセミナー（東京），2016. 9.
- 2) 内田千草¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部）：ECMO をやれって言うけど，PCPS と何が違うの？（よくわかるシリーズ循環）. 東京都臨床工学技士会（第 24 回）（東京都），2016. 6.

(6) 一般講演：

- 1) 鈴木健一¹⁾，市場晋吾^{1,2)}，高田 裕³⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部，²⁾ 日本医科大学付属病院 外科系集中治療科，³⁾ 近畿大

- 学医学部附属病院 ME 部) : In-Vitro Evaluation of Pressure Characteristics among Different ECMO Circuitries. EUROELSO (第 5 回) (Glasgow), 2016. 5.
- 2) 鈴木健一¹⁾, 市場晋吾^{1,2)}, 黄川田弥生¹⁾, 小磯那津美¹⁾, 佐藤 望¹⁾, 河原香織¹⁾, 鈴木英正¹⁾, 小林 涼¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院 外科系集中治療科) : ECMO 搬送を経験して. 日本体外循環技術医学会 (第 42 回) (東京), 2016. 10.
 - 3) 中山拓也¹⁾, 市場晋吾¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 豊富達智¹⁾, 鈴木絵梨¹⁾, 高木 元²⁾, 桐木園子²⁾, 太良修平²⁾, 宮本正章²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院循環器内科) : ストレーナー関連トラブルの原因検証. 第 51 回日本高気圧環境・潜水医学会学術集会 (〒113-0023 東京都文京区向丘 2-20-7 学校法人日本医科大学同窓会橋桜会館), 2016. 12.
 - 4) 小磯那津美¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 小林 涼¹⁾, 鈴木英正¹⁾, 吉田康平¹⁾, 佐藤 望¹⁾, 河原香織¹⁾, 黄川田弥生¹⁾, 市場晋吾¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部) : 当院における ECMO チームの役割. 人工臓器学会大会 (第 54 回) (鳥取県米子市西町 86 番地米子コンベンションセンター), 2016. 11.
 - 5) 佐藤 望¹⁾, 吉田康平¹⁾, 河原香織¹⁾, 小磯那津美¹⁾, 黄川田弥生¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 市場晋吾²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院 外科系集中治療部) : 当院における ECMO 成績と臨床工学技士の関りについて. 日本体外循環技術医学会大会 (第 42 回) (東京都江戸川区), 2016. 10.
 - 6) 佐々木拓也¹⁾, 岩崎雄樹²⁾, 坪井一平²⁾, 淀川顕司²⁾, 林 明聡²⁾, 宮内靖史²⁾, 鈴木健一¹⁾, 市場晋吾¹⁾, 清水 渉²⁾, 新田 隆³⁾ (1) ME 部, 2) 循環器内科, 3) 心臓血管外科) : デバイス感染による CRT-D 抜去後の着用型自動除細動器装着中に, 血行動態が安定した VT が出現したが, レスポンスボタンにより電氣的除細動を回避しえた 1 例. 日本不整脈心電学会学術大会 (北海道 札幌コンベンションセンター), 2016. 7.
 - 7) 戸村泰規¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 市場晋吾¹⁾, 高橋健太²⁾, 岩崎雄樹²⁾, 林 明聡²⁾, 丸 有人²⁾, 藤本雄飛²⁾, 萩原かな子²⁾, 岡英一郎²⁾, 林洋史²⁾, 山本哲平²⁾, 淀川顕司²⁾, 清水 渉²⁾, 新田隆隆³⁾, その他 3 名 (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院 循環器内科, 3) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 術中 CARTO マッピングにより同定した, 左前下行枝近位部直下起源の心室性期外収縮に対して開胸下冷凍凝固が奏功した 1 例. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2016 (福岡県福岡市博多区石城町 2-1 福岡国際会議場), 2016. 10.
 - 8) 志村亜由香¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 黄川田弥生¹⁾, 内田千草¹⁾, 三野輪恵子¹⁾, 豊富達智¹⁾, 八重田知見¹⁾, 中山拓也¹⁾, 戸村泰規¹⁾, 市場晋吾¹⁾, 岩崎雄樹²⁾, 林 明聡²⁾, 丸 有人²⁾, 藤本雄飛²⁾, 萩原かな子²⁾, その他 5 名 (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院 循環器内科) : 心房細動アブレーションに用いるロング Agilis シース内からの 8Fr-SOUNDSTAR による超音波画像の有用性. 日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会 2016 (福岡県 福岡国際会議場), 2016. 10.
 - 9) 木村友子, 鈴木健一, 八重田知見, 豊富達智, 橋本美紀, 美野輪恵子, 内田千草, 黄川田弥生, 大石沙織, 市場晋吾 : ペーシングによる大動脈バルーンパンピング (IABP) のトリガー不良症例報告. 東京都臨床工学技士会 (第 24 回) (品川), 2016. 6.
 - 10) 遠藤小鈴 : 透析装置洗浄用の消毒薬誤混入におけるリスク要因の検討とその対策. 関東臨床工学会 (第 7 回) (箱根), 2016. 11.
 - 11) 吉田康平¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 倉藤晶子²⁾, 上村明子²⁾, 谷合信彦³⁾, 坂本篤裕⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院 看護部, 3) 日本医科大学付属病院 消化器・乳腺外科, 4) 日本医科大学付属病院 麻酔科) : 自己血回収装置の回収誤差についての検証. 第 38 回日本手術医学会総会 (沖縄), 2016. 11.
- (7) 学術セッション :
- 1) 鈴木健一¹⁾, 安野 誠²⁾, 黒光弘幸³⁾, 倉島直樹⁴⁾, 石田沙織⁵⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 群馬県立心臓血管センター 臨床工学課, 3) 松下記念病院, 4) 東京医科歯科大学附属病院 ME センター, 5) かわぐち心臓呼吸器病院 臨床工学科) : ECCO2R (ExtraCorporeal CO2 Removal) の実際. 日本体外循環技術医学会 (第 42 回) (東京), 2016. 10.

著 書

{追加分}

追加分 :

- 1) 戸村泰規¹⁾, 古市結富子²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院 麻酔科) : [共著] 第 II 章 機器管理関連除細動器 AED. ME 機器 安全使用・管理マニュアル虎の巻 (坂本 篤裕・竹田 晋浩), 2015 ; pp79-96, 克誠堂出版株式会社.

学会発表

追加分一般講演 :

- 1) 菊地 舜¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 小磯那津美²⁾, 竹田晋治 (1) ME 部, 2) 外科系集中治療科) : 当院における人工呼吸器の回路交換時期の検討について. 第 23 回東京都臨床工学会 (東京都新宿区河田町 8-1), 2015. 6.
- 2) 戸村泰規¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 濱田ゆう子¹⁾, 大石沙織¹⁾, 黄川田弥生¹⁾, 内田千草¹⁾, 美野輪恵子¹⁾, 橋本美紀¹⁾, 少前貴康¹⁾, 竹田晋浩¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 ME 部) : 当院手術室における麻酔器の保守管理の有用性. 第 40 回日本外科系連合学会学術集会 (東京

[ワクチン療法研究施設]

研究概要

当研究施設は、1972年（昭和47）に開設され、故丸山千里名誉教授が開発した人型結核菌体抽出物質（SSM：いわゆる丸山ワクチン）による悪性腫瘍の免疫療法を中心に研究を行っている。SSMの治験登録患者数は、そのほとんどが学外からの紹介患者であり、2016年末日現在、401513例に達している。これら患者の大半が進行期癌・終末期癌であることは、SSMが治験薬として供給されているにも拘らず、その使用実態は治療薬であることの反映といえる。これらの点を考慮し、SSMの投与方法は画一に限定せず、主治医からの経過報告を基に患者ごとに個別に検討する体制をとっている。これらの研究の結果、基本投与方法のSSM-A・SSM-B交互隔日投与のほかにA単独隔日・B単独隔日・AB交互連日投与等にするこゝで、化学療法・放射線療法等の副作用、特に白血球数減少の軽減、一般状態（QOL：Quality of Life）の改善につながる症例が報告されている。SSM使用患者は、大半が進行期癌もしくは終末期癌であるにも拘らず、良好な一般状態を維持しつつ、当初の予想を超えた長期延命の報告がみられることは、SSMが癌治療における全身療法として重責を果たしている結果といえる。現在、SSMの使用状況・成績についての検討とともに、SSMの本来の使用目的といえるBRM（Biological Response Modifiers）としての作用および癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌におけるQOL向上と延命効果の立場からの検討、SSMと既存の治療法との併用時における効果的な投与方法の検討、長期生存者については背景要因の解析、延命効果におよぼす要因の影響の検討を行っている。また、伴侶動物における癌免疫療法としてのSSMの応用についても検討を行っている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) 飯田和美：人型結核菌体抽出物質（SSM：丸山ワクチン）による免疫療法-BRM（Biological Response Modifier）としての有用性。比較統合医療学会誌 2015；23（1）：54-54.

[付属病院東洋医学科]

研究概要

本年度は、従来「未病」と考えられてきた概念が、「自然免疫担当細胞」の体内異物に対する持続的な応答の可能性「自然炎症（homeostatic inflammation）」ではないかとの新たな概念を提唱し、その内容を日本東洋医学会雑誌にまとめ総説として「未病と自然炎症：生薬成分による制御の可能性」というタイトルで発表した（日本東洋医学雑誌，2016，67（2）：195-203）。また、同様の内容を昨年第43回日本小児東洋医学会のシンポジウムなどで発表し、本年度論文として発表する（日本小児東洋医学雑誌，2016，29：195-203）とともに、総説としてまとめた（最新の免疫学からみた東洋医学による治療戦略の意義。アレルギー・免疫，2016，23（3）：349-356）。また、こうした「自然炎症」が体内に侵入した病原微生物や抗癌剤などの薬剤使用に伴い体内に発生した細胞破壊産物由来の脂質・核酸群に対する生体の応答であること示し、「生体応答と各種の疾病」、「邪正闘争としての疾病」、「未病と自然炎症」などの講演をした。また、エイズなどのウイルス持続感染症が体表面の粘膜組織内の樹状細胞およびナチュラルキラーT（NKT）細胞を標的としたものであり、その制御に関わるのが、粘膜内のCD8陽性キラーT細胞（CTLならびに $\gamma\delta$ T細胞であることに着目し、糖脂質であるセラミドによるCTLの活性化法を検討し、科学論文として纏める（*Immunology*, 2017 (in press)）とともに、「HIV感染と $\gamma\delta$ T細胞」の総説を発表（炎症と免疫，2016，24（3）：173-177。（5月）し、「漢方薬による $\gamma\delta$ T細胞活性化」に関する研究を展開している。また一漢方薬の成分の1つである甘草由来のグリチルリチンに着目し、その中に、「自然炎症」改善作用や樹状細胞活性化作用を昨年に引き続き展開している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shinya E¹, Shimizui M¹, Owaki A¹, Paoletti S², Mori L², De Libero G², Takahashi H⁽¹⁾ Departments of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²Singapore Immunology Network) : Hemopoietic cell kinase (Hck) and p21-activated kinase 2 (PAK2) are involved in the down-regulation of CD1a lipid antigen presentation by HIV-1 Nef in dendritic cells. *Virology* 2016 ; 487 : 285-295.
- 2) Murakami R¹, Nakagawa Y¹, Shimizu M¹, Wakabayashi A¹, Negishi Y¹, Hiroi T², Okubo K³, Takahashi H⁽¹⁾ Departments of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Department of Allergy and Immunology, Tokyo Metropolitan

- Institute of Medical Science, ³⁾ Department of Oto-Rhino-Laryngology, Nippon Medical School) : Effects of dendritic cell subset manipulation on airway allergy in a mouse model. *International Archives of Allergy and Immunology* 2016 ; 168 (4) : 219-232.
- 3) Ichikawa T¹⁾, Negishi Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (¹⁾ Departments of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : α -galactosylceramide-activated murine NK1.1+ invariant-NKT cells in the myometrium induce miscarriages in mice. *European Journal of Immunology* 2016 ; 46 (8) : 1867-1877.
- 4) Azuma H¹⁾, Watanabe E¹⁾, Ohtsuka Y¹⁾, Negishi Y¹⁾, Ohkura S¹⁾, Shinya E¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Induction of langerin⁺ Langerhans cell-like cells expressing reduced TLR3 from CD34⁺ cord blood cells stimulated with GM-CSF, TGF-beta1, and TNF-alpha. *Biomedical Research* 2016 ; 37 (5) : 271-281.
- 5) Osono E¹⁾, Honda K¹⁾, Inoue Y¹⁾, Norose Y¹⁾, Takahashi M¹⁾, Ichimura K¹⁾, Kamano C¹⁾, Shinya E¹⁾, Takaku S, Okamatsu K¹⁾, Kawamoto S¹⁾, Takizawa H¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Detection method for aquatic bacteria of the fingers, as a potential origin of the aqueous solution contamination. *Biocontrol Science* 2017 ; 22 (1) : 61-65.

(2) 総説 :

- 1) 高橋秀実 : 最新の免疫学からみた東洋医学による治療戦略の意義. *アレルギー・免疫* 2016 ; 23 (3) : 349-356.
- 2) 高橋秀実 : 未病と自然炎症 : 生薬成分による制御の可能性. *日本東洋医学雑誌* 2016 ; 67 (2) : 195-203.
- 3) 高橋秀実 : HIV 感染と自然免疫. *アレルギー・免疫* 2016 ; 23 (5) : 684-690.
- 4) 高橋秀実 : エイズウイルスの新たな感染標的とその制御. *東京都医師会雑誌* 2016 ; 69 (5) : 431-435.
- 5) 高橋秀実 : γ δ T 細胞と生体制御 (序). *炎症と免疫* 2016 ; 24 (3) : 171-172.
- 6) 高橋秀実 : HIV 感染と γ δ T 細胞. *炎症と免疫* 2016 ; 24 (3) : 173-177.
- 7) 高橋秀実 : 未病と自然炎症 : 生薬成分による制御の可能性. *日本小児東洋医学雑誌* 2016 ; 29 (1) : 195-203.
- 8) 津田篤太郎 : 鍼灸師のためのカルテ講座 (第 26 回) 背部痛 (1). *医道の日本* 2016 ; 75 (4) : 118-124.
- 9) 津田篤太郎 : 鍼灸師のためのカルテ講座 (第 27 回) 背部痛 (2). *医道の日本* 2016 ; 75 (5) : 112-117.
- 10) 津田篤太郎 : 鍼灸師のためのカルテ講座 (第 28 回) 糖尿病 (1). *医道の日本* 2016 ; 75 (6) : 116-120.
- 11) 津田篤太郎 : 鍼灸師のためのカルテ講座 (第 29 回) 糖尿病 (2). *医道の日本* 2016 ; 75 (7) : 103-108.
- 12) 津田篤太郎 : 鍼灸師のためのカルテ講座 (第 30 回) 圧迫骨折 (1). *医道の日本* 2016 ; 75 (8) : 92-97.
- 13) 津田篤太郎 : 鍼灸師のためのカルテ講座 (第 31 回) 圧迫骨折 (2). *医道の日本* 2016 ; 75 (9) : 106-111.
- 14) 津田篤太郎 : 鍼灸師のためのカルテ講座 (第 32 回) 大腿骨頸部骨折 (1). *医道の日本* 2016 ; 75 (10) : 134-138.
- 15) 津田篤太郎 : 私の処方 めまいとヒデルギン. *Modern Physician* 2016 ; 36 (11) : 1220-1220.
- 16) 津田篤太郎 : 鍼灸師のためのカルテ講座 (第 33 回) 大腿骨頸部骨折 (2). *医道の日本* 2016 ; 75 (11) : 137-143.
- 17) 津田篤太郎 : 【他科への手紙】 リウマチ膠原病科→歯科口腔外科. *週刊日本医事新報* 2016 ; (4833) : 49-49.

著 書

- 1) 高橋秀実 : [監修] 免疫疾患. 臨床病理学各論看護師特定行為研修, 2016 ; pp1-4. ヴェクソンインターナショナル株式会社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 平馬直樹 : 浅田宗伯の業績と功績. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 4.
- 2) 高橋秀実 : 日本医科大学における東洋医学に関する卒前・卒後教育. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 5.
- 3) 平馬直樹 : 中医学の魅力. 国際薬膳師会研究会 (東京), 2016. 5.
- 4) 高橋秀実 : 丸山ワクチン作用機序に関する最新の知見. 第 14 回 NPO 「丸山ワクチンとがんを考える会」 講演会 (東京), 2016. 5.
- 5) 高橋秀実 : 生薬成分による制御の可能性 : 丸山ワクチン作用機序について. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 6.
- 6) 津田篤太郎 : “気” の比較文化論. KAMPO Medical Conference (東京, 2016. 7.1), 2016. 7.
- 7) 高橋秀実 : 丸山ワクチンの作用機序と展望. 平成 28 年度第一回医療問題懇談会 (東京), 2016. 7.
- 8) 平馬直樹 : 日本における中医臨床. 薬剤師のための中医学セミナー (東京), 2016. 8.
- 9) 平馬直樹 : 中国との医学交流で得たもの. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 9.
- 10) 高橋秀実 : 東洋医学の考え方 気血陰陽とは. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 10.
- 11) 津田篤太郎 : 米国の補完代替医療の現状と課題. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 12.
- 12) 高橋秀実 : 東洋医学の考え方 (2) 気滞証, 陰虚証, 六経弁証と衛気血管弁証の導入. KAMPO Medical Conference (東京), 2017. 1.

- 13) 平馬直樹：早わかり日本における中医学受容史 古代～中世篇. KAMPO Medical Conference (東京), 2017. 2.
- 14) 津田篤太郎：戦国セレブのマルヒ漢方カルテ：曲直瀬玄朔「医学天正記」を読む. KAMPO Medical Conference (東京), 2017. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 若林あや子¹⁾ (1) 日本医科大学微生物学免疫学教室)：食品学の基礎. 第11期アレルギー大学 (千葉), 2016. 4.
 - 2) 高橋秀実：日本医科大学における東洋医学に関する卒前・卒後教育. 日本東洋医学会学術総会 (第67回) (高松), 2016. 6.
 - 3) 津田篤太郎：鍼灸外来で役立つプライマリケアとフィジカルアセスメントの知識. 第65回全日本鍼灸学会学術大会 (札幌), 2016. 6.
 - 4) 若林あや子¹⁾ (1) 日本医科大学微生物学免疫学教室)：アレルギーの食品栄養学. アレルギー大学ベーシックプログラム (千葉), 2016. 7.
 - 5) 津田篤太郎：総合診療で役立つ漢方 はじめの一步. 日本病院総合診療医学会学術総会 (第13回) (東京), 2016. 9.
 - 6) 津田篤太郎：プライマリケアに役立つ漢方. 第582回実地医家のための会 (東京), 2016. 4.
 - 7) 菅沼 栄：陰陽学説①. 東京中医学研究会 (東京), 2016. 4.
 - 8) 平馬直樹：漢方方剤運用のための基礎理論講座 4 血の病証と治療その2. 仙台中医学研究会 (宮城), 2016. 5.
 - 9) 菅沼 栄：陰陽学説②・辛涼解表薬. 東京中医学研究会 (東京), 2016. 5.
 - 10) 平馬直樹：漢方方剤運用のための基礎理論講座 3 血の病証と治療 その1. 神奈川実践漢方勉強会 (横浜), 2016. 5.
 - 11) 菅沼 栄：五行学説①・辛涼解表剤. 東京中医学研究会 (東京), 2016. 6.
 - 12) 菅沼 栄：五行学説②・去暑薬. 東京中医学研究会 (東京), 2016. 7.
 - 13) 津田篤太郎：アレルギー診療における東洋医学. 新潟薬科大学高度薬剤師教育研究センター平成28年度薬剤師生涯教育講座プログラム第6回 (新潟), 2016. 9.
 - 14) 菅沼 栄：気の生理と病理①・補益薬①. 東京中医学研究会 (東京), 2016. 9.
 - 15) 津田篤太郎：からだの不調とのつき合い方 セルフケア. 中央区民カレッジ「住み慣れた場所で生き生きと暮らそう」第4回 (東京), 2016. 10.
 - 16) 菅沼 栄：気の生理と病理②・補益薬②. 東京中医学研究会 (東京), 2016. 10.
 - 17) 平馬直樹：漢方方剤運用のための基礎理論講座 5 津液の病証と治療その1. 仙台中医学研究会 (宮城), 2016. 10.
 - 18) 津田篤太郎：東洋医学とは？. 第三回郡山地区臨床研修指定病院合同漢方研究会 (郡山), 2016. 11.
 - 19) 菅沼 栄：血の生理と病理・補血薬. 東京中医学研究会 (東京), 2016. 11.
 - 20) 平馬直樹：漢方方剤運用のための基礎理論講座 4 血の病証と治療 その2. 神奈川実践漢方勉強会 (横浜), 2016. 11.
 - 21) 高橋秀実：漢方処方構成と効果, 副作用「葛根湯」. 第3回日本漢方教育懇話会 (東京), 2017. 2.
- (3) シンポジウム：
- 1) Takahashi H, Murakami R¹⁾, Nakagawa Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Wakabayashi A¹⁾, Negishi Y¹⁾, Hiroi T²⁾, Shinya E¹⁾, Ohkubo K³⁾ (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Allergy and Immunology, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, 3) Department of Oto-Rhino-Laryngology, Nippon Medical School) : Airway allergy can be controlled through dendritic cell subset manipulation in a mouse model. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne), 2016. 8.
 - 2) Negishi Y¹⁾, Ichikawa T¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Roles of iNKT and dendritic cells in myometrium for the induction of miscarriages by α -galactosylceramide. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne), 2016. 8.
 - 3) Takeshita H¹⁾, Watanabe E¹⁾, Kobayashi F²⁾, Nakagawa Y¹⁾, Yamanishi S²⁾, Norose Y¹⁾, Shinya E¹⁾, Kumagai Y¹⁾, Ito Y²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Autoantibody production by murine B-1a cells stimulated with Helicobacter pylori urease through Toll-like receptor 2 signaling. 16TH International Congress of Immunology.(Melbourne), 2016. 8.
 - 4) Shinya E¹⁾, Shimizu M¹⁾, Owaki A¹⁾, Okura S¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : HIV-1 Nef down-regulated CD1a lipid antigen presentation in immature dendritic cells through hemopoietic cell kinase (Hck) and p21-activated kinase 2 (PAK2). 16TH International Congress of Immunology.(Melbourne), 2016. 8.
 - 5) Otsuka Y¹⁾, Koike E¹⁾, Azuma H¹⁾, Mayumi N²⁾, Saeki H²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Dermatology, Nippon Medical School) : Effect of TNF- α on the process of Langerhans cell induction from human peripheral mononuclear cells. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne), 2016. 8.
 - 6) Kogo H¹⁾, Shimizu M¹⁾, Tomita Y¹⁾, Matsumura J¹⁾, Uchida E²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Division of Gastroenterology, Department of Surgery, Nippon Medical School) : In vivo suppression

- of a tumor growing through activated CD8⁺ CTLs primed by administration of α -galactosylceramide. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne), 2016. 8.
- 7) Wakabayashi A¹⁾, Yonekawa M¹⁾, Ishii K¹⁾, Kuroki K¹⁾, Shinya E¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : HMGB-1 contributes to the enhancement of co-stimulatory molecule-expression and cross-presentation by mucosal DCs through oral administration of cholera toxin. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne), 2016. 8.
- 8) 高橋秀実：丸山ワクチン作用機序について。日本医科大学医学会第26回公開シンポジウム（東京），2016. 6.
- 9) 津田篤太郎：傷寒論再々考 傷寒論の「省略された背景」とは？ 増永静人の議論に学ぶ。第67回日本東洋医学会学術総会（高松），2016. 6.
- 10) 平馬直樹：中国との医学交流で得たもの。日本中医学学会学術総会（東京），2016. 9.
- 11) 平馬直樹：日本の中医学の需要と現状。日本東洋医学会関東甲信越支部総会（新潟），2016. 10.
- (4) 一般講演：
- 1) Ishii K, Nakagawa Y¹⁾, Negishi Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takahashi M¹⁾, Takaku S, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Extracellular pH and hypoxia affect on the function and development of antigen-specific cytotoxic T lymphocytes. 16TH International Congress of Immunology (Melbourne), 2016. 8.
- 2) Tsuda T, Okada M¹⁾ (1) Immuno-Rheumatology Center, St Luke's International Hospital) : A case of drug hypersensitivity mimicking adult-onset still's disease. the 13th International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity (Kyoto), 2016. 10.
- 3) 廣田 薫, 高久 俊, 小野顕人, 石井一史, 津田篤太郎, 平馬直樹, 高橋秀実：多汗症と脂漏性皮膚炎における東洋医学的考察。第67回日本東洋医学会学術総会（高松），2016. 6.
- 4) 高久 俊, 廣田 薫, 小野顕人, 平馬直樹, 高橋秀実：玉屏風散末処方20症例の検討：その体質改善薬としての有用性。第67回日本東洋医学会学術総会（高松），2016. 6.
- 5) 小野顕人, 廣田 薫, 高久 俊, 津田篤太郎, 平馬直樹, 高橋秀実：腓頭部腫瘍による閉塞性黄疸に対し漢方治療で改善を認めた1例。第67回日本東洋医学会学術総会（高松），2016. 6.
- 6) 津田篤太郎：漢方治療により症状がマスクされた悪性消化管間葉腫瘍の1例。第67回日本東洋医学会学術総会（高松），2016. 6.
- 7) 齊藤 均¹⁾, 廣田 薫, 高久 俊, 小野顕人, 石井一史, 津田篤太郎, 平馬直樹, 高橋秀実 (1) 東京都立広尾病院) : 漢方治療により症状の改善を認めた心サルコイドーシスの1例。第67回日本東洋医学会学術総会（高松），2016. 6.
- 8) Wakabayashi A¹⁾, Yonekawa M¹⁾, Ishii K, Murakami R¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : High mobility group box protein-1 released from damaged intestinal tissues contributes to the activation of mucosal dendritic cells and the sensitization of antigen-specific T cells. 第65回日本アレルギー学会学術大会（東京），2016. 6.
- 9) 村上亮介¹⁾, 中川洋子¹⁾, 清水真澄¹⁾, 若林あや子¹⁾, 根岸靖幸¹⁾, 廣井隆親²⁾, 大久保公裕³⁾, 高橋秀実 (1) 日本医科大学微生物学免疫学教室, 2) 東京都医学総合研究所花粉症プロジェクト, 3) 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室) : アレルギー性鼻炎マウスモデルにおけるDEC-205陽性樹状細胞亜群選択的活性化による抗アレルギー効果の検討。第65回日本アレルギー学会学術大会（東京），2016. 6.
- 10) 津田篤太郎：慢性疼痛の治療に「医療学」の視点から近づく。第3回日本糖尿病医療学学会（京都），2016. 10.
- 11) Shinya E¹⁾, Shimizu M¹⁾, Owaki A¹⁾, Nakamura Y²⁾, Matsuura N²⁾, Ishizuya T²⁾, Mori L³⁾, De Libero G³⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Students, Nippon Medical School, 3) Singapore Immunology Network) : Hck might be a key player in the quadruple interaction between HIV-1 Nef, CD1, PAK2 and Hck in the down-regulation of CD1 lipid Ag presentation by Nef. 第30回日本エイズ学術集会・総会（鹿児島），2016. 11.
- 12) 松村次郎¹⁾, 大脇敦子¹⁾, 清水真澄¹⁾, 大倉定之¹⁾, 新谷英滋¹⁾, 高橋秀実 (1) 日本医科大学微生物学免疫学教室) : ART中のreservoirであるNKT細胞の制御に関わる $\gamma\delta$ T細胞の役割。第30回日本エイズ学術集会・総会（鹿児島），2016. 11.
- 13) Negishi Y¹⁾, Shima Y²⁾, Takeshita T³⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, 3) Department of Pediatrics, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Kinetics of dendritic cells, NK cells and natural killer T cells in the late preterm delivery without Chorioamnionitis. 第31回日本生殖免疫学会総会（神戸），2016. 12.
- 14) Takahashi H, Murakami R¹⁾, Shimizu M¹⁾, Wakabayashi A¹⁾, Takeshita H¹⁾, Koike E¹⁾, Negishi Y¹⁾, Ohkura S¹⁾, Ohkubo K²⁾ (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Oto-Rhino-Laryngology, Nippon Medical School) : Airway allergy induced by histamine released from IgE-sensitized mast cells can be controlled through dendritic cell subset manipulation in a mouse model. 第45回日本免疫学会学術集会（沖縄），2016. 12.
- 15) Shinya E¹⁾, Shimizu M¹⁾, Owaki A¹⁾, De Libero G²⁾, Mori L²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Singapore Immunology Network) : Hematopoietic cell kinase (Hck) might play a key role in HIV-1 Nef

- down-regulation of CD1s lipid Ag presentation in iDCs. 第45回日本免疫学会学術集会(沖縄), 2016. 12.
- 16) Kumagai Y¹, Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : The analysis of interaction between HIV-1 gp120 and chemokine receptor by using multivalent V3 epitope grafted at immunoglobulin hypervariable regions. 第45回日本免疫学会学術集会(沖縄), 2016. 12.
- 17) Wakabayashi A¹, Yonekawa M¹, Takeshita H¹, Azuma H¹, Kumagai Y¹, Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Intestinal DEC-205⁺ DCs activated by HMGB-1 released through cholera toxin-stimulation contribute to cross-priming of mucosal CTLs. 第45回日本免疫学会学術集会(沖縄), 2016. 12.
- 18) Negishi Y¹, Ichikawa T¹, Shimizu M¹, Koike E¹, Ohtsuka Y¹, Takeshita T², Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : NK1.1⁺ invariant natural killer T cells in the myometrium induce murine miscarriages via selective activation of DEC-205⁺ dendritic cells by α -Galactosylceramide. 第45回日本免疫学会学術集会(沖縄), 2016. 12.
- 19) Kougo H¹, Shimizu M¹, Yonekawa M¹, Tomita Y¹, Uchida E², Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Division of Gastroenterology, Department of Surgery, Nippon Medical School) : Sequential administration of α -galactosylceramide induced suppression of a murine tumor growing in vivo through CD8⁺ CTLs via activated DEC-205⁺ dendritic cells in vivo. 第45回日本免疫学会学術集会(沖縄), 2016. 12.
- 20) Takaku S, Shimizu M¹, Ishii K, Matumura J¹, Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Synergistic enhancement of CD8⁺ T cell-mediated tumor vaccine effects by Japanese Kampo medicine ninjin'yoeito. 日本免疫学会学術集会(第45回)(沖縄), 2016. 12.
- 21) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (36). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 4.
- 22) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (37). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 5.
- 23) 小野顕人: 睪頭部腫瘍による閉塞性黄疸に対し漢方治療で改善を認めた1例. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 5.
- 24) 高久 俊: 玉屏風散末の体質改善としての有用性. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 5.
- 25) 廣田 薫: 多汗症と脂漏性皮膚炎における東洋医学的考察 I. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 5.
- 26) 齊藤 均¹ (¹ 東京都立広尾病院) : 漢方治療により症状の改善を認めた心サルコイドーシスの1例. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 5.
- 27) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (38). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 6.
- 28) 廣田 薫: 汗証の基礎知識と多汗症と脂漏性皮膚炎における東洋医学的考察 II. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 6.
- 29) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (39). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 7.
- 30) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (40). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 9.
- 31) 小野顕人: 不登校に対して漢方治療を試みた1例. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 9.
- 32) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (41). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 10.
- 33) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (42). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 11.
- 34) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (43). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 12.
- 35) 石井一史: 乳癌術後化学療法と漢方治療. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 12.
- 36) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (44). KAMPO Medical Conference (東京), 2017. 1.
- 37) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (45). KAMPO Medical Conference (東京), 2017. 2.
- 38) 郷家明子: 鍼灸入門: 経絡治療の実際 (46). KAMPO Medical Conference (東京), 2017. 3.
- 39) 高橋秀実: Suppression of a Tumor Growing through Activated CD8⁺ CTLs Primed by Administration of α -galactosylceramide (α -GalCer) in vivo. 平成27年度丸山ワクチン研究助成発表会(東京), 2017. 3.

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 津田篤太郎: 鍼灸師のためのカルテ講座(第24回) 膝の痛み. 医道の日本 2016; 75 (2): 116-121.
- 2) 津田篤太郎: 鍼灸師のためのカルテ講座(第25回) ポーエン病. 医道の日本 2016; 75 (3): 95-101.

追加分原著:

- 1) Negishi Y¹, Shima Y², Takeshita T³, Takahashi H (¹ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ² Department of Pediatrics, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ³ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Distribution of invariant natural killer T cells and dendritic cells in late preterm birth without acute chorioamnionitis. American Journal of Reproductive Immunology 2017; 77 (6).

- 2) Takaku S, Shimizu M¹⁾, Takahashi H⁽¹⁾ (Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Japanese kampo medicine ninjin'yoeito synergistically enhances tumor vaccine effects mediated by CD8⁺ T cells. *Oncology Letters* 2017 ; 13 (5) : 3471-3478.
- 3) Kogo H¹⁾, Shimizu M¹⁾, Negishi Y¹⁾, Uchida E²⁾, Takahashi H⁽¹⁾ (Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Gastroenterology, Department of Surgery, Nippon Medical School) : Suppression of murine tumor growth through CD8⁺ CTLs via activated DEC-205⁺ dendritic cells by sequential administration of α -galactosylceramide in vivo. *Immunology* 2017 ; 151 (3) : 324-339.

追加分臨床報告 :

- 1) 高久 俊, 高久千鶴乃, 平馬直樹, 高橋秀実 : 少量の玉屏風散末内服の体質改善薬としての有用性. *日本東洋医学雑誌* 2017 ; 68 (3) : 202-201.
- 2) Takaku S, Osono E¹⁾, Takaku C, Hiramama N, Takahashi H⁽¹⁾ (越谷大袋クリニック) : Three cases of hemodialysis patients with carpal tunnel syndrome that were successfully treated with Goshakusan. *Kampo medicine* 2016 ; 67 (1) : 28-33.

学会発表

追加分教育講演 :

- 1) 高橋秀実 : 漢方と免疫. 平成 27 年度日本東洋医学会関東甲信越地区春期教育講演会 (東京), 2016. 3.
- 2) 菅沼 栄 : 下焦湿熱. 東京中医学研究会 (東京), 2016. 1.
- 3) 菅沼 栄 : 中医学歴史・中薬学総論①. 東京中医学研究会 (東京), 2016. 2.
- 4) 津田篤太郎 : 総合診療と東洋医学. 平成 27 年度関東甲信越地区春期教育講演 (東京), 2016. 3.

追加分一般講演 :

- 1) Kuroki K¹⁾, Ishida¹⁾, Takahashi H⁽¹⁾ (Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : The approach for the determination of chlamydial proteins inhibiting the lysosomal fusion. 第 89 回日本細菌学会総会 (大阪), 2016. 3.
- 2) 郷家明子 : 鍼灸入門 : 経絡治療の実際 (33). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 1.
- 3) 郷家明子 : 鍼灸入門 : 経絡治療の実際 (34). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 2.
- 4) 郷家明子 : 鍼灸入門 : 経絡治療の実際 (35). KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 3.
- 5) 菅沼 栄 : 中医学基本概念・中薬学総論②・辛温解表薬. 東京中医学研究会 (東京), 2016. 3.

追加分特別講演 :

- 1) 平馬直樹 : 日本近代漢方医学生存運動の領袖浅田宗伯. 2016 中医学薬学術研討会 (台北), 2016. 3.
- 2) 平馬直樹 : 肝の病証と治療. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 1.
- 3) 平馬直樹 : 中医理論の中で肝を中心に病態及び治療について. 山形漢方古典輪読会 (山形), 2016. 1.
- 4) 高橋秀実 : 最新の免疫学からみた東洋医学による治療戦略の意義. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 2.
- 5) 津田篤太郎 : 更年期と漢方. KAMPO Medical Conference (東京), 2016. 3.
- 6) 平馬直樹 : 日本の中医学 - 歴史と現状. 沖縄中医学研究会 (沖縄), 2016. 3.

[ゲノム先端医療部]

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Tosa M¹⁾, Watanabe A, Ghazizadeh M¹⁾ (Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, Kawasaki, Japan) : IL-6 polymorphism and susceptibility to keloid formation in Japanese population. *J Invest Dermatol* 2016 ; 136 (5) : 1069-1072.
- 2) Yamada K^{1, 2)}, Watanabe A³⁾, Takeshita H²⁾, Matsumoto K¹⁾ (Department of Biosignaling and Radioisotope Experiment, Interdisciplinary Center for Science Research, Organization for Research and Academic Informat, ²⁾ Department of Legal Medicine, Faculty of Medicine, Shimane University, Enya-cho, Izumo, Shimane 693-8501, Japan, ³⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8603, Japan) : A method for quantification of serum tenascin-X by nano-LC/MS/MS. *Clinica Chimica Acta* 2016 ; 459 : 94-100.
- 3) Iwasaki N¹⁾, Tsurumi M²⁾, Asai K²⁾, Shimizu W²⁾, Watanabe A, Ogata M³⁾, Takizawa M³⁾, Ide R³⁾, Yamamoto T⁴⁾, Saito K⁴⁾ (Diabetes Center, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan ; Tokyo Women's Medical University Institute of

- Medical Genetics, Tokyo, Japan ; Tokyo W, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Diabetes Center, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Tokyo Women's Medical University Institute of Medical Genetics, Tokyo, Japan ; Tokyo Women's Medical University Institute of Integrated Medical Science) : Pancreatic developmental defect evaluated by celiac artery angiography in a patient with MODY5. Hum Genome Var 2016 ; 14 (3) : 16622.
- 4) Ichiyama S¹⁾, Matayoshi T, Kaneko T, Shimizu A, Osada S, Watanabe A, Kanzaki A, Mitsui K, Tsuruoka S, Iwakiri K, Kawana S, Saeki H : Successful multitarget therapy using prednisolone, mizoribine, and tacrolimus for Henoch-Schönlein purpura nephritis in children. J Dermatol (in press) 2016 ; 44 (4) : e56-e57.
- 5) Hirata M, Nagai A, Kamatani Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Kubo M, Muto K, Kiyohara Y, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, et al. : Overview of BioBank Japan follow-up data in 32 diseases. Journal of Epidemiology (in press) 2017 ; 27 (3) : S22-S28.
- 6) Takahashi Y¹⁾, Sawai H²⁾, Murotsuki J³⁾, Satoh S⁴⁾, Yamada T⁵⁾, Hayakawa H⁶⁾, Kouduma Y⁷⁾, Sase M⁸⁾, Watanabe A, Miyazaki O⁹⁾, Nishimura G¹⁰⁾ (¹⁾ Nagara Medical Center, Fetal-Maternal medicine, ²⁾ Hyogo College of Medicine, Obstetrics and Gynecology, ³⁾ Miyagi Children's Hospital, Department of Obstetrics, ⁴⁾ Obstetrics and Gynecology, Elm Josei Clinic, ⁵⁾ Obstetrics and Gynecology, Hokkaido University, ⁶⁾ Aichi Shoni Hoken Iryo Sogo Center, Obstetrics and Gynecology, ⁷⁾ Kurume Daigaku, Obstetrics and Gynecology, ⁸⁾ Yamaguchi Kenritsu Sogo Iryo Center, ⁹⁾ Kokuritsu Kenkyu Kaihatsu Hojin Kokuritsu Seiiku Iryo Kenkyu Center, Radiology, ¹⁰⁾ and others) : Parental serum alkaline phosphatase activity as an auxiliary tool for prenatal diagnosis of hypophosphatasia. Prenat Diagn (in press) 2017 ; 37 (5) : 491-496.
- 7) 藤本英也^{1,2)}, 渡邊 淳¹⁾, 堤 正好^{1,3)}, 山口敏和^{1,4)}, 伊藤尚志¹⁾, 権藤延久^{1,5)}, 神山 誠^{1,6)}, 菅野康吉^{1,7)}, 野村文夫^{1,8)} (¹⁾ 一般社団法人日本衛生検査所協会「遺伝子関連検査受託倫理審査委員会」, ²⁾ 株式会社 LSI メディエンス, ³⁾ 株式会社 エスアールエル, ⁴⁾ 株式会社 ビー・エム・エル, ⁵⁾ 株式会社 ファルコバイオシステムズ, ⁶⁾ 株式会社 保健科学研究所, ⁷⁾ 栃木県立がんセンター研究所 がん遺伝子研究室・がん予防研究室, ⁸⁾ 千葉大学医学部附属病院 マススペクトロメトリー検査診断学・遺伝子診療部) : 衛生検査所における遺伝子関連検査・染色体検査の受託状況. 日本遺伝カウンセリング学会誌 2016 ; 37 (3) : 143-148.

著 書

- 1) 渡邊 淳 : [分担] 低フォスファターゼ症. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (福嶋義光), 2016 ; pp212-213, 南江堂.
- 2) 渡邊 淳 : [分担] エーラス・ダンロス症候群. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (福嶋義光), 2016 ; pp225-226, 南江堂.
- 3) 渡邊 淳 : [分担] 皮膚弛緩症. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (福嶋義光), 2016 ; pp226-227, 南江堂.
- 4) 渡邊 淳 : [分担] 薬理遺伝学. 遺伝カウンセリングマニュアル改訂第3版 (福嶋義光), 2016 ; pp405-409, 南江堂.
- 5) 渡邊 淳 : [翻訳] 第3章 ヒトゲノム: 遺伝子の構造と機能. トンプソン&トンプソン遺伝医学 (原書8版) (福嶋義光), 2017 ; メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 6) 佐々木元子¹⁾, 渡邊 淳 (¹⁾ 日本医科大学附属病院 遺伝診療科) : [分担] FG 症候群. 小児科診療 Vol.79 増刊号 小児の症候群, 2016 ; (株) 診断と治療社.
- 7) 佐々木元子¹⁾, 渡邊 淳 (¹⁾ 日本医科大学附属病院 遺伝診療科) : [分担] popliteal pterygium (膝窩翼状片) 症候群. 小児科診療 Vol.79 増刊号 小児の症候群, 2016 ; (株) 診断と治療社.
- 8) 佐々木元子¹⁾, 渡邊 淳 (¹⁾ 日本医科大学附属病院 遺伝診療科) : [分担] 進行性骨化性線維異形成症候群. 小児科診療 Vol.79 増刊号 小児の症候群, 2016 ; (株) 診断と治療社.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) Watanabe A : Genetic Education for Undergraduate Medical Students in Japan "Education of Genetics : Genetics Education for Undergraduate Medical Students in Asia". The International Congress of Human Genetics (13th) (kyoto), 2016. 4.

(2) シンポジウム :

- 1) 佐々木元子¹⁾, 渡邊 淳 (¹⁾ 日本医科大学附属病院 遺伝診療科) : 認定遺伝カウンセラーとしての役割 (遺伝学的検査情報に関連する臨床現場の情報フローについて). 日本遺伝子診療学会 (第23回) (東京), 2016. 10.

(3) 一般講演 :

- 1) Watanabe A, Tajima H¹⁾, Nemoto S²⁾, Sasaki M³⁾, Kawamura M, Okada T⁴⁾, Shimada T³⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Department of Pediatric Dentistry, Nihon University school of Dentistry at Matsudo, ³⁾ Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, ⁴⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Hypophosphatasia diagnosed during childhood in Japan. The International Congress of Human Genetics (13th) (kyoto), 2016. 4.

- 2) Sasaki M¹⁾, Watanabe A, Miyake H¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Hosaka A¹⁾, Mine K²⁾, Yonezawa M²⁾, Kuroda T³⁾, Aoyama N³⁾, Kawasaki N³⁾, Hayashi H³⁾, Kato K³⁾, Shimada T¹⁾, Takeshita T²⁾ (1) Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, 3) Kato Ladies Clinic) : Genetic counseling for chromosome abnormality found in the examination of infertility or miscarriage-the role of clinical genetics division. The Annual Meeting of The Japanese Society for Genetic counseling kyo (40th) (Kyoto), 2016. 4.
- 3) 佐々木元子¹⁾, 渡邊 淳, 三宅秀彦¹⁾, 鈴木由美¹⁾, 保坂 愛¹⁾, 米澤美令²⁾, 倉品隆平²⁾, 大内 望²⁾, 黒田知子³⁾, 青山直樹³⁾, 川崎奈美³⁾, 林 博子³⁾, 加藤恵一³⁾, 島田 隆¹⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 遺伝診療科, 2) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, 3) 加藤レディースクリニック) : 不育症・習慣流産の精査にて発見された染色体異常に関わる遺伝カウンセリング. 日本遺伝子診療学会 (第23回) (東京), 2016. 10.
- 4) 佐々木元子¹⁾, 渡邊 淳, 三宅秀彦¹⁾, 鈴木由美¹⁾, 保坂 愛¹⁾, 米澤美令²⁾, 倉品隆平²⁾, 大内 望²⁾, 黒田知子³⁾, 青山直樹³⁾, 川崎奈美³⁾, 林 博子³⁾, 加藤恵一³⁾, 島田 隆¹⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 遺伝診療科, 2) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, 3) 加藤レディースクリニック) : 習慣流産の精査を契機に発見された染色体異常への遺伝カウンセリング. 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会 (第2回) (京都), 2016. 12.

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Yamamoto-Nemoto S¹⁾, Shimada R¹⁾, Tajima H²⁾, Iwasawa E¹⁾, Shimizu Y¹⁾, Tuna E³⁾, Ogawa K¹⁾, Watanabe A, Shimizu T¹⁾ (1) Department of Pediatric Dentistry, Nihon University School of Dentistry at Matsudo, Matsudo, Japan, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Pediatric Dentistry, Istanbul University Faculty of Dentistry, Istanbul, Turkey) : Oral symptoms and bone observations in odonto-hypophosphatasia. *Open J Stomatology* 2016 ; 6 (12) : 245-251.
- 2) Watanabe A, Satoh K¹⁾, Maniwa T, Matsumoto K (1) Department of Biosignaling and Radioisotope Experiment, Interdisciplinary Center for Science Research, Organization for Research, Shimane University,) : Proteomic analysis for the identification of serum diagnostic biomarkers for joint hypermobility syndrome. *Int J Mol Med* 2016 ; 37 (2) : 461-467.

30. 武蔵小杉病院付置施設等

[武蔵小杉病院消化器病センター]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Mizutani S¹⁾, Suzuki H¹⁾, Aimoto T¹⁾, Yamagishi S¹⁾, Mishima K¹⁾, Watanabe M¹⁾, Kitayama Y²⁾, Motoda N²⁾, Isshiki S³⁾, Uchida E⁴⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School MusashiKosugi Hospital, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School MusashiKosugi Hospital, 3) Department of Radiology, Nippon Medical School MusashiKosugi Hospital, 4) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Usefulness of Color Coding Resected Samples from a Pancreaticoduodenectomy with Tissue Marking Dyes for a Detailed Examination of Surgical Margin Surrounding the Uncinate Process of the Pancreas. Journal of Nippon Medical School 2017 ; 84 (1).
- 2) 渡辺昌則, 千原直人, 三島圭介, 清水貴夫, 中田亮輔, 山岸征嗣, 前島顕太郎, 水谷 聡, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 抗血栓薬内服患者の内視鏡検査における生検以上の手技 : カイドライン順守の結果. 日本腹部救急医学会雑誌 2016 ; 36 (5) : 883-888.
- 3) 渡辺昌則, 埴 秀暁, 三島圭介, 黒田誠司, 豊田哲鎬, 吉野雅則, 水谷 聡, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 待機的大腸手術の予防抗菌薬順守に関する retrospective study. 日本外科感染症学会雑誌 2016 ; 13 (4) : 287-293.

(2) 総説：

- 1) 中田亮輔¹⁾, 中橋 龍¹⁾, 橋爪 誠²⁾ (1) 九州大学 医学研究院 先端医療医学講座, 2) 九州大学 先端医療イノベーションセンター) : 手術支援ロボット・新しい内視鏡技術により実現する医療イノベーション. 光技術コンタクト 2016 ; 54 (6) : 4-10.

(3) 症例報告：

- 1) 村木 輝¹⁾, 有田 淳²⁾, 小松茂治²⁾, 高橋和裕²⁾, 大山莉奈¹⁾, 三島圭介¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 東戸塚記念病院 外科, 3) 日本医科大学 消化器外科) : Interval Appendectomy 施行後に診断された腫瘍形成性虫垂炎を伴った虫垂子宮内膜症の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2016 ; 36 (4) : 777-780.
- 2) 村木 輝¹⁾, 有田 淳²⁾, 小松茂治²⁾, 高橋和裕²⁾, 大山莉奈¹⁾, 三島圭介¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 東戸塚記念病院 外科, 3) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下に修復した子宮広間膜裂孔ヘルニアによるイレウスの1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2016 ; 36 (5) : 911-914.
- 3) 大山莉奈¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 小峯 修¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊義正¹⁾, 渋谷 肇¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科) : 胃瘻を軸として発症した胃軸捻転症の1例. 日本消化器外科学会雑誌 2016 ; 49 (10) : 971-978.
- 4) Chihara N, Mishima K, Suzuki H, Watanabe M, Toyoda T, Uchida E¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Totally Extraperitoneal (TEP) Removal of an Infected Mesh by Laparoscopy After Open Preperitoneal Repair : Initial case report. J Nippon Med Sch 2017 ; 84 (1) : 45-48.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 千原直人¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 早期大腸癌の拡大内視鏡診断. 東京大腸癌フォーラム (第33回) (東京), 2016. 9.

(2) シンポジウム：

- 1) 小山裕司, 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 村木 輝, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院 消化器外科) : 当院における嵌頓ヘルニアに対する腹腔鏡手術 Laparoscopic procedure for incarcerated groin and obturator hernia in our department. 日本ヘルニア学会学術集会 (第14回) (東京), 2016. 10.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 野村 聡¹⁾, 福田 俊¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 神尾幸則¹⁾, 川島吉之¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科) : 胸腔鏡下食道癌手術における術式の定型化と課題. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第69回) (岡山), 2016. 10.
- 2) Chihara N¹⁾, Suzuki H¹⁾, Watanabe M¹⁾, Muraki A¹⁾, Koyama Y¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Laparoscopic hernia repair for adult females in our department-Laparoscopic procedure for hydrocele of the canal of Nuck. 日本ヘルニア学会学術集会 (第14回) (Tokyo Ja-

- pan), 2016. 10.
- 3) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 村木 輝, 小山裕司, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): Laparoscopic hernia repair for adult females in our department-Laparoscopic procedure for hydrocele of the canal of Nuck. 日本ヘルニア学会学術集会 (第14回) (東京), 2016. 10.
- (4) ワークショップ:
- 1) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 三浦克洋, 豊田哲鎬, 清水貴夫, 小山裕司, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 当科における The Japan NBI Expert Team (JNET) 分類に対する Validation study. 神奈川県消化器病医学会総会 (第49回) (神奈川), 2016. 11.
- (5) 一般講演:
- 1) 清水貴夫, 鈴木英之, 千原直人: 診断に苦慮した症例. 東京大腸癌フォーラム (第33回) (東京), 2016. 9.
- 2) 清水貴夫, 鈴木英之, 吉野雅則, 豊田哲鎬, 村木 輝, 大山莉奈, 渡辺昌則: 腸閉塞を来たした虫垂粘液嚢胞腺腫の1例. 神奈川消化器病医学会総会 (第49回) (横浜), 2016. 11.
- 3) 清水貴夫¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 范姜明志¹⁾, 渋谷 肇¹⁾, 端山 軍¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 山田太郎¹⁾, 鈴木英之²⁾, 内田英二³⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 3) 日本医科大学 消化器外科): 若年発症の横行結腸・下行結腸軸捻転症を腹腔鏡補助下に治療した1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第71回) (三重), 2016. 11.
- 4) Muraki A¹⁾, Chihara N¹⁾, Suzuki H¹⁾, Koyama Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Ooyama R¹⁾, Nakata R¹⁾, Mishima K¹⁾, Kuroda S¹⁾, Yamagishi S¹⁾, Toyoda T¹⁾, Hanawa H¹⁾, Miura K¹⁾, Watanabe M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School, 2) Department of Gastroenterological surgery, Nippon Medical School): Impact of standardization for operative procedure of the transabdominal preperitoneal (TAPP) approach for groin hernia. - It improves the surgical technique of young generation surgeons. The 12th International Congress of the Asia Pacific Hernia Society (Tokyo), 2016. 10.
- 5) 村木 輝¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 三島圭介¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 中田亮輔¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 野村 聡¹⁾, 塙秀暁¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 千原直人¹⁾, 内田英二²⁾, その他5名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): 腹腔鏡下虫垂切除術における手術材料コスト削減に向けた取り組み. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第71回) (三重県伊勢市), 2016. 11.
- 6) 村木 輝¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 前島颯太郎¹⁾, 三島圭介¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 佐藤悦基²⁾, 福田直人²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 川崎協同病院, 3) 日本医科大学 消化器外科): HER2陽性切除不能・再発胃癌における S-1+CDDP+Trastuzumab 療法の検討. 日本消化器外科学会大会 (第14回) (兵庫県神戸), 2016. 11.
- 7) 村木 輝¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 前島颯太郎¹⁾, 三島圭介¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科): Efficacy of S-1, cisplatin & trastuzumab in patients with HER2-positive unresectable gastric cancer. 日本胃癌学会総会 (第89回) (広島), 2017. 3.
- 8) 前島颯太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 村木 輝, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科): 切除不能進行再発胃癌に対する SP 療法の有害事象対策と外来化学療法. 日本消化器外科学会大会 (第14回) (神戸), 2016. 11.
- 9) 前島颯太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 渡辺昌則, 水谷 聡, 吉野雅則, 千原直人, 三島圭介, 村木 輝, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科): 腹腔鏡下幽門側胃切除術における肥満が及ぼす術中・術後の合併症. 日本胃癌学会総会 (第89回) (広島), 2017. 3.
- 10) Kuroda S^{1, 3)}, Miyagawa Y¹⁾, Adachi K¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Cohen J²⁾, Glorioso J²⁾, Suzuki H³⁾, Uchida E⁴⁾, Okada T¹⁾ (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Microbiology and Molecular Genetics, University of Pittsburgh, USA, 3) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 4) Department of Surgery, Nippon Medical School): Protocol optimization for high-yield production of non-toxic herpes simplex virus-based vectors using a novel producer cell line. 第39回日本分子生物学会年会 (横浜), 2016. 11.
- 11) 野村 聡¹⁾, 福田 俊¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 神尾幸則¹⁾, 中村 聡¹⁾, 江原一尚¹⁾, 川島吉之¹⁾, 有馬美和子²⁾, 大久保悠³⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター消化器内科, 3) 埼玉県立がんセンター放射線治療科): 75歳以上の高齢者におけるリスク評価と至適手術術式の検討. 日本食道学会学術集会 (第70回) (東京), 2016. 7.
- 12) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 三浦克洋, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器外科): 術前胃生検にて group3 (胃腺腫) と診断された症例の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第91回) (東京), 2016. 5.
- 13) 塙 秀暁¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 野村 聡¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 三島圭介¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科): 当科での胸腔鏡下食道切除術. 神奈川消化器外科研究会 (横浜), 2016. 6.
- 14) 塙 秀暁¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 三島圭介¹⁾, 野村 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科): ニトログリセリン製剤を用いた術前気管支動脈造影3DCTの有用性. 日本食道学会学術集会 (第70回) (東京), 2016. 7.
- 15) 塙 秀暁¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修²⁾, 野村 聡¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 三島圭介¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院

- 消化器病センター, ²⁾ さいたま市民医療センター, ³⁾ 日本医科大学 (外科): Experience of intraoperative accidental diseases in thoracoscopic esophagectomy. 日本消化器外科学会総会 (第71回) (徳島), 2016. 7.
- 16) 山岸征嗣¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 助川 誠¹⁾, 針金幸平¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院 (外科): 十二指腸 Brunner 腺癌の1例. 消化器外科学会総会 (71) (徳島), 2016. 7.
- 17) 山岸征嗣¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 谷合信彦²⁾, 村木 輝¹⁾, 三島圭介¹⁾, 針金幸平¹⁾, 助川 誠¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院 (外科): Study of postoperative clinical course of open liver resection in our hospital. 肝胆膵外科学会 (大阪), 2016. 6.
- 18) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 三島圭介¹⁾, 村木 輝¹⁾, 大山莉奈¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 北山康彦²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, ³⁾ 日本医科大学外科: SMA 神経叢全周温存脾頭十二指腸切除に対する Tissue Marking Dye による DPM 細分類と DPM 陽性の部位別検討. 第116回日本外科学会定期学術集会 (大阪), 2016. 4.
- 19) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 三島圭介¹⁾, 村木 輝¹⁾, 針金幸平¹⁾, 助川 誠¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学外科: 腹腔動脈合併尾側脾切除 (DP-CAR) における Kocker 授動を起点とした腹腔動脈へのアプローチ. 第28回日本肝胆膵外科学会学術集会 (大阪), 2016. 6.
- 20) 水谷 聡¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 三島圭介¹⁾, 村木 輝¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 一色彩子²⁾, 北山康彦³⁾, 内田英二⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, ⁴⁾ 日本医科大学外科: SMA 神経叢全周温存脾頭十二指腸切除における Tissue Marking Dye を用いた DPM 細分類と DPM 陽性の部位別検討. 第71回日本消化器外科学会総会 (徳島), 2016. 7.
- 21) Mizutani S¹⁾, Suzuki H¹⁾, Aimoto T¹⁾, Yamagishi S¹⁾, Mishima K¹⁾, Muraki A¹⁾, Sukegawa M¹⁾, Harigane K¹⁾, Maejima K¹⁾, Yoshino M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Uchida E²⁾ (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²⁾ 2Department of Surgery, Nippon Medical School) : Detailed examination of mesopancreas in pancreatic head carcinoma patients undergoing circumferential superior mesenteric arterial nerve plexus-preserving pancreaticoduodenectomy. IAP & JSP & AOPA (Sendai Japan), 2016. 8.
- 22) 渡辺昌則, 三島圭介, 埴 秀暁, 黒田誠司, 豊田哲鎬, 吉野雅則, 水谷 聡, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 (消化器病外科): 待機的大腸手術の予防抗菌薬順守に関する retrospective study. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第29回) (東京), 2016. 12.
- 23) 渡辺昌則, 勝俣範之¹⁾, 野村 聡, 埴 秀暁, 三島圭介, 黒田誠司, 門倉玄武¹⁾, 鈴木英之, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科: A phase I study of weekly paclitaxel plus CDDP/5FU chemotherapy in advanced esophageal cancer. 日本消化器外科学会総会 (第71回) (徳島), 2016. 7.
- 24) 渡辺昌則, 勝俣範之¹⁾, 埴 秀暁, 門倉玄武¹⁾, 三島圭介, 黒田誠司, 野村 聡, 鈴木英之, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科, ²⁾ 日本医科大学消化器外科: 食道がんに対する3週毎5FU+CDDP+ 毎週パクリタキセル (weekly PCF) 療法の第I相試験. 日本食道学会学術集会 (第70回) (東京), 2016. 7.
- 25) 渡辺昌則, 千原直人, 三島圭介, 黒田誠司, 埴 秀暁, 水谷 聡, 吉野雅則, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科: 抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡手技に関する合併症の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第91回) (東京), 2016. 5.
- 26) 三浦克洋¹⁾, 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 (外科): 大腸 Cold polypectomy の現状と問題点. 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 (第103回) (東京), 2016. 12.
- 27) 坊 英樹, 前島顕太郎, 三島圭介, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 (消化器外科): 消化器癌手術における SSI 防止をめざした閉創. 日本外科学会定期学術集会 (116回) (大阪), 2016. 4.
- 28) 豊田哲鎬, 鈴木英之, 清水貴夫, 黒田誠司, 埴 秀暁, 千原直人, 吉野雅則, 渡辺昌則, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 (外科): 腸重積を契機に診断され腹腔鏡補助下回盲部切除術を施行した虫垂粘液嚢胞腺腫の1例. 日本大腸肛門病学会 (第71回) (三重), 2016. 11.
- 29) 豊田哲鎬, 鈴木英之, 吉野雅則, 村木 輝, 清水貴夫: 自動縫合器を用いたストーマ脱出に対する手術術式. 神奈川ストーマ研究会 (第39回) (神奈川), 2016. 12.
- 30) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 付属病院消化器外科: 進行再発大腸癌後期化学療法における Regorafenib, TAS-102 の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第116回) (大阪), 2016. 4.
- 31) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 付属病院消化器外科: 進行再発大腸癌後期化学療法における経口化学療法の検討. 日本消化器外科学会総会 (第71回) (徳島), 2016. 7.

- 32) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 付属病院消化器外科: 進行再発大腸癌に対する SOX 療法の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 71 回) (三重), 2016. 11.
- 33) 鈴木英之¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 清水貴夫¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 付属病院消化器外科: レゴラフェニブによる後期化学療法で長期 SD が得られている再発大腸癌の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 78 回) (東京), 2016. 11.
- 34) 中田亮輔¹⁾, 鈴木直樹²⁾, 服部麻木²⁾, 神保教広³⁾, 小幡 聡³⁾, 宗崎良太⁴⁾, 赤星朋比古¹⁾, 田口智章³⁾, 家入里志⁵⁾, 橋爪 誠¹⁾ (1) 九州大学大学院医学研究院先端医療医学講座, 2) 東京慈恵医科大学高次元医用画像工学研究所, 3) 九州大学医学研究院小児外科分野, 4) 九州大学病院先端医工学診療部, 5) 鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児外科学分野: 小児肝移植症例に対する 4 次元画像を用いた予測診断法開発の試み. 第 25 回日本コンピュータ外科学会大会 (東京), 2016. 11.
- 35) 中田亮輔¹⁾, 池田哲夫¹⁾, 赤星朋比古¹⁾, 橋爪 誠¹⁾ (1) 九州大学 先端医工学診療部: 術前画像解析に基づいて立体構造と硬度を再現し, 透明で超音波透過性の肝実質を持つ肝臓 3D モデルのシミュレータ, ナビゲータとしての有用性の検討. 第 116 回日本外科学会定期学術集会 (大阪), 2016. 4.
- 36) 中田亮輔¹⁾, 池田哲夫¹⁾, 赤星朋比古¹⁾, 小栗 晋²⁾, 中橋 龍³⁾, 小野木真哉³⁾, 荒田純平⁴⁾, 長尾吉泰¹⁾, 橋爪 誠¹⁾ (1) 九州大学病院 先端医工学診療部, 2) 九州大学先端融合医療ドックスナビ研究拠点, 3) 九州大学先端医療イノベーションセンター, 4) 九州大学大学院工学研究院機械工学部門: 透明で変形可能な超音波透過性の肝実質を持つ肝臓 3D シミュレーターモデルの有用性. 第 26 回九州内視鏡下外科手術手技研究会 (福岡), 2016. 9.
- 37) 中田亮輔¹⁾, 赤星朋比古¹⁾, 田上和夫²⁾, 長尾吉泰¹⁾, 池田哲夫¹⁾, 橋爪 誠¹⁾ (1) 九州大学病院 先端医工学診療部, 2) 上野外科胃腸科病院: 難治性胸腹水を伴う門脈圧亢進症をきたした直腸動静脈奇形に対し腹腔鏡手術による根治的手術を施行した 1 例. 第 23 回日本門脈圧亢進症学会総会 (神戸), 2016. 9.
- 38) 三島圭介¹⁾, 渡邊昌則¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 野村 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科: 2 箇所穿孔部位を認めた Boerhaave 症候群の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 70 回) (東京), 2016. 7.
- 39) 助川 誠¹⁾, 山本康弘¹⁾, 西越崇博¹⁾, 木田裕之¹⁾, 重原健吾¹⁾ (1) 小林病院 外科: 当院における胃 GIST 手術症例の検討. 日本臨床外科学会 北海道支部例会 (第 110 回) (北海道大学大学院医学研究科 医学部学友会館「フラテ」), 2016. 12.
- 40) 助川 誠¹⁾, 山本康弘¹⁾, 西越崇博¹⁾, 木田裕之¹⁾, 重原健吾¹⁾ (1) 小林病院 外科: 小腸脂肪腫茎捻転の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 29 回) (パシフィコ横浜), 2016. 12.
- 41) 助川 誠¹⁾, 山本康弘¹⁾, 西越崇博¹⁾, 木田裕之¹⁾, 重原健吾¹⁾ (1) 小林病院 外科: 術前診断が困難であった小腸脂肪腫茎捻転の 1 例. 日本臨床外科学会北海道支部総会 (第 109 回) (北海道立道民活動センターかでの 2.7), 2016. 7.
- 42) 山際 亮¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渋谷 肇¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 小峯 修¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 山田太郎¹⁾, 福島慶久¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科: 経肛門異物に対して開腹手術を行った 2 例. 大宮医学会総会 (第 51 回) (さいたま市), 2017. 3.
- 43) 山際 亮¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 福島慶久¹⁾, 渋谷 肇¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 山田太郎¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科: 小腸 GIST に対する化学療法で肝転移に形態学的変化を認めた 1 例. 臨床外科学会 (第 78 回) (東京都), 2016. 11.
- 44) 山際 亮¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 小峯 修¹⁾, 福島慶久¹⁾, 渋谷 肇¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 山田太郎¹⁾ (1) さいたま市民医療センター 外科: 十二指腸穿孔が疑われた十二指腸憩室結石嵌頓の症例について. 埼玉外科集談会 (第 34 回) (さいたま市), 2016. 11.
- 45) Keisuke M¹⁾, Hideki B¹⁾, Hideyuki S¹⁾, Masanori W¹⁾, Masanori Y¹⁾, Satoshi M¹⁾, Naoto C¹⁾, Kentaro M¹⁾, Akira M¹⁾, Eiji U²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科: Prognostic Impact of Postoperative Morbidity and Limited Operation in the Elderly. 日本胃癌学会総会 (第 89 回) (広島), 2017. 3.

追加分一般講演:

- 1) 三島圭介¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡邊昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 村木 輝¹⁾, 奥畑好章¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器センター, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科: 当科における胃 GIST 手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第 88 回) (大分), 2016. 3.
- 2) 三島圭介¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 鈴木英樹¹⁾, 渡邊昌則¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 村木 輝¹⁾, 奥畑好章¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科: 早期胃癌に対する開腹手術と腹腔鏡補助下手術の比較. 日本胃癌学会総会 (第 88 回) (大分), 2016. 3.

追加分 ワークショップ:

- 1) 三島圭介¹⁾, 千原直人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 渡邊昌則¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 村木 輝¹⁾, 助川 誠¹⁾, 針金幸平¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科: 当科での嵌頓ヘルニアに対する緊急腹腔鏡下手術. 日本腹部救急医学会総会 (第 52 回) (東京), 2016. 3.

[武蔵小杉病院中央検査室]

研究概要

平成 28 年度に於いては、日本臨床検査自動化学会会誌に投稿した高木豊の「ゴンペルツ曲線を利用したプロトロンビン時間凝固プロファイル解析によるフィブリノゲン量の推定」が平成 28 年度第 23 回論文賞受賞となり、日本臨床検査自動化学会第 48 回大会に於いて授賞式と受賞講演が行われた。同大会に於いては、尿定性試験紙反射率から尿定量検査における再検ロジック構築を試みようとする報告も行った。生理機能検査分野では平成 23 年から新生児 A・ABR を導入したが、要再検となる新生児が 10% に達していたため検査時期の検討を実施し、日齢 3 日で要再検となった新生児が日齢 4 日または 5 日でパスとなることを確認し、検査時期を日齢 4 日に統一した。現在は、耳鼻科から実施要請のある嗅覚検査と鼻腔通気度の開始を目指している。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 高木 豊, 間宮一夫¹⁾, 常木美智子¹⁾, 臼井一城, 田村祥子, 影山憲貴¹⁾, 中島由美子, 森本 進, 岸 恵, 勝部康弘⁽¹⁾ 附属病院臨床検査部)：ゴンペルツ曲線を利用したプロトロンビン時間凝固プロファイル解析によるフィブリノゲン量の推定。日本臨床検査自動化学会（第 48 回）（横浜），2016. 9.
- 2) 田村祥子, 高木 豊, 中島由美子, 森本 進, 岸 恵, 勝部康弘：尿定量検査における試験紙反射率を利用した再検ロジックの試み。日本臨床検査自動化学会（第 48 回）（横浜），2016. 9.
- 3) 荒木久美, 井出尚子, 西島美輝子, 森本 進, 勝部康弘, 山本英世¹⁾ (1) 武蔵小杉病院内科)：心臓超音波検査にて発見された高齢者の左室緻密化障害 (LV noncompaction) の 1 例。日本医科大学医学会総会（第 84 回）（東京），2016. 9.

[武蔵小杉病院薬剤部]

研究概要

武蔵小杉病院薬剤部では新体制 4 年目を迎え、医療経費率への貢献、プレアボイド報告：神奈川県での報告数トップ、優秀事例表彰、院内定数薬の整理を行いました。また、日病薬の平成 28 年度がん薬物療法認定薬剤師、がん専門薬剤師海外派遣事業で派遣者に選出され、貴重な経験を積むことができました。さらに、ラジオ出演や厚労省事業への参加などもあり、大学病院としての実績を内外ともに示したと考えます。

研究業績

著 書

- 1) 笠原英城：〔共著〕妊婦授乳婦への薬物療法と海外リスク分類、服薬指導薬剤情報。今日の治療指針 2017；pp1685-1713。医学書院。
- 2) 笠原英城：〔共著〕耳鼻科、眼科他：処方ポイント、薬剤ポイント。治療薬ハンドブック 2017；じほう。
- 3) 三瓶由香：〔分担〕他職種スタッフの役割（薬剤師の役割）。ナースがわかる&はなせる心不全まるわかり BOOK（佐藤直樹），2016；pp162-167。メディカ出版。
- 4) 野口周作, 笠原英城：〔分担〕日経 DI クイズ（猫に手をかまれた患者）。日経 DI クイズ 18（日経ドラッグインフォメーション），2016；pp77-78。日経 BP 社。
- 5) 松岡順子, 笠原英城：〔分担〕日経 DI クイズ（RS ウイルス感染症にオノンを処方する理由）。日経 DI クイズ 18（日経ドラッグインフォメーション），2016；pp57-58。日経 BP 社。
- 6) 吉田奈央, 笠原英城：〔自著〕新薬クローズアップ タケキャブ錠 10mg, 20mg（ボノプラザンフマル酸塩）。調剤と情報，2016；pp115-122。じほう。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 笠原英城：島根県病院薬剤師会 プレアボイド研修会。島根県病院薬剤師会（島根），2016. 9.
- 2) 笠原英城：病院薬剤師に信頼される情報提供とは。埼玉県病院薬剤師会（大宮），2016. 11.
- 3) 笠原英城：妊娠と薬。神奈川県病院薬剤師会（横浜），2017. 3.
- 4) 笠原英城：現場で活躍する薬剤師の実例報告 プレアボイド。神奈川県薬剤師会（根岸），2017. 3.

(2) シンポジウム：

- 1) 笠原英城：医療安全に貢献するプレアボイド事例。日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第 46 回）（千葉），2016. 8.

- 2) 笠原英城：プレアボイド新ステージ（様式3の世界）処方設計・提案による薬物治療効果の向上。日本医療薬学会（第26回）（京都），2016. 9.
- (3) 一般講演：
- 1) 白田 誠¹⁾，永井 徹¹⁾，原 弘士¹⁾，五十嵐俊¹⁾，牧野淳子²⁾，岩崎弥生²⁾，戸田裕太²⁾，吉田奈央，野口周作，内田裕之³⁾，吉村 歩⁴⁾，五十嵐文⁴⁾，蛭田剛俊⁵⁾，山永雄介⁶⁾（¹⁾ 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター，²⁾ 厚木市立病院 薬剤管理指導室，³⁾ 関東労災病院 薬剤部，⁴⁾ 横浜市立市民病院 薬剤部，⁵⁾ 神奈川県立汐見台病院，⁶⁾ 神奈川県立循環器呼吸器病センター 薬剤部）：メロペネム（MEPM）の対緑膿菌のCLSIプレイクポイント（BP）変更による治療への影響。医療薬学フォーラム2016 クリニカルファーマシーシンポジウム（第24回）（滋賀），2016. 6.
 - 2) 野口周作，吉田奈央，内田裕之¹⁾，牧野淳子²⁾，岩崎弥生²⁾，戸田裕太²⁾，白田 誠³⁾，永井 徹³⁾，原 弘士³⁾，五十嵐俊³⁾，蛭田剛俊⁴⁾，吉村 歩⁵⁾，五十嵐文⁵⁾，山永雄介⁶⁾（¹⁾ 関東労災病院 薬剤部，²⁾ 厚木市立病院 薬剤管理指導室，³⁾ 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター，⁴⁾ 神奈川県立汐見台病院，⁵⁾ 横浜市立市民病院 薬剤部，⁶⁾ 神奈川県立循環器呼吸器病センター 薬剤部）：神奈川県下7施設におけるVCM低感受性MRSAの検出状況と治療の現状。医療薬学フォーラム2016 クリニカルファーマシーシンポジウム（第24回）（滋賀），2016. 6.
 - 3) 牧野淳子¹⁾，岩崎弥生¹⁾，戸田裕太¹⁾，内田裕之²⁾，蛭田剛俊³⁾，吉田奈央，野口周作，山永雄介⁴⁾，吉村 歩⁵⁾，五十嵐文⁵⁾，白田 誠⁶⁾，永井 徹⁶⁾，原 弘士⁶⁾，五十嵐俊⁶⁾（¹⁾ 厚木市立病院 薬剤管理指導室，²⁾ 関東労災病院 薬剤部，³⁾ 神奈川県立汐見台病院，⁴⁾ 神奈川県立循環器呼吸器病センター 薬剤部，⁵⁾ 横浜市立市民病院 薬剤部，⁶⁾ 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター）：抗MRSA治療薬（VCM,TEIC）の投与初期血中濃度コントロールと患者アウトカム。医療薬学フォーラム2016 クリニカルファーマシーシンポジウム（第24回）（滋賀），2016. 6.
 - 4) 青木悠佳¹⁾，山永雄介²⁾，吉田奈央，野口周作，牧野淳子³⁾，岩崎弥生³⁾，戸田裕太³⁾，内田裕之⁴⁾，吉村 歩⁵⁾，五十嵐文⁵⁾，蛭田剛俊⁶⁾，白田 誠⁷⁾，永井 徹⁷⁾，原 弘士⁷⁾，五十嵐俊⁷⁾（¹⁾ 神奈川県立こども医療センター，²⁾ 神奈川県立循環器呼吸器病センター 薬剤部，³⁾ 厚木市立病院 薬剤管理指導室，⁴⁾ 関東労災病院 薬剤部，⁵⁾ 横浜市立市民病院 薬剤部，⁶⁾ 神奈川県立汐見台病院，⁷⁾ 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター）：神奈川県下8施設における抗菌薬使用量と薬剤感受性の検討。医療薬学フォーラム2016 クリニカルファーマシーシンポジウム（第24回）（滋賀），2016. 6.
 - 5) 望月瑠美¹⁾，青木和代¹⁾，吉田房江¹⁾，東さやか，此松晶子，福永ヒトミ¹⁾，笠原英城（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部）：SMO治験コーディネーター（CRC）導入に向けての業務整備：SMO手順を作成した取り組み。CRCと臨床試験のあり方を考える会議（第16回）（大宮），2016. 9.
 - 6) 前岡理利子，丸山二美子¹⁾，海野麻祐美²⁾，田沼里衣子³⁾，野口周作，笠原英城，石川真由美⁴⁾，南 史朗⁵⁾（¹⁾ 医療法人仁寿会中村病院 検査科，²⁾ 医療法人仁寿会中村病院 薬剤科，³⁾ 医療法人葛会アイビークリニック 栄養科，⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科，⁵⁾ 日本医科大学先端医学研究所）：インスリン治療中の2型糖尿病患者に対するリラグルチド併用の有用性について。日本糖尿病学会年次学術集会（第59回）（京都），2016. 5.
 - 7) 綿屋朋子，此松晶子，宮田広樹，野口周作，若城由美子，笠原英城：リトドリン塩酸塩注の先発品と後発品における血管障害発現率の調査。日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第46回）（千葉），2016. 8.
 - 8) 先崎貴洋，松岡順子，野口周作，宮田広樹，若城由美子，笠原英城：腎機能低下患者におけるプレアボイド報告の分析。かながわ薬剤師学術大会（第15回）（横浜），2017. 1.
 - 9) 松岡順子，先崎貴洋，野口周作，宮田広樹，若城由美子，笠原英城：当院におけるプレアボイド報告に伴う医療経済効果。日本医療薬学会年会（第26回）（京都），2016. 9.
 - 10) 田原 温，宮田広樹，野口周作，若城由美子，笠原英城：CONUT法を用いた栄養評価と癌化学療法による副作用発現に関する検討。日本医療薬学会年会（第26回）（京都），2016. 9.
 - 11) 小林正人，笠原英城，野口周作，松田 潔¹⁾，菊池広子¹⁾，石丸直樹¹⁾，遠藤広史¹⁾，山村英治¹⁾，渡邊顕弘¹⁾，長谷川智弘¹⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター科）：ホメピゾールを投与した急性メタノール中毒の1例。日本中毒学学術大会（第38回）（新潟），2016. 7.
- (4) ラジオ出演：
- 1) 笠原英城：プレアボイドの現状と課題。ラジオ NIKKEI（虎の門），2016. 11.

著 書

{追加分}

追加分：

- 1) 此松晶子，勝俣範之¹⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科）：〔分担〕7. 病原微生物・悪性新生物とくすり 悪性腫瘍 卵巣癌。病気とくすり 基礎と実践 Expert'sGuide 2016（根本英一），2016；pp1436-1439，南山堂.
- 2) 宮田広樹，勝俣範之¹⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科）：〔分担〕7. 病原微生物・悪性新生物とくすり 悪性腫瘍 卵巣

[武蔵小杉病院看護部]

研究概要

著書 1) PICS 予防の取組 2) 疼痛コントロールとアセスメントの仕方チェックポイント 3) 多職種チームの運営 4) 抗がん剤投与時の器材の解説 5, 6, 7, 8, 9) 白血球減少時のケア 10) 抗がん剤の血管外漏出時の対応 11) アルブミン懸濁型パクリタキセルの特徴・注意点 12) ドキソルビシン塩酸塩リポソーム剤の特徴と注意点 学会発表 1) 院内認定制度の導入と課題 2) 特定・認定看護師を活用した新人看護師の技術教育の実際と課題 3) 退院支援介入シートの効果と在院日数削減への取組 4) 帝王切開準備クラスの評価と課題 5) 女性限定がん患者サロンの効果と課題 6) 「高齢者看護コース」の立案と実践 7) 事故再発予防指導が必要な子供と家族の看護実践 8) 看護学生がみにつけておくべき災害看護能力 9) SMO 治験コーディネーター導入に向けての業務整備 10) 間質性肺炎患者の水嚥下時の呼吸相 11) 当院での療法選択の実際 12) RST リンクナース育成の必要性 13) がん告知で混乱状態の家族と患者への支援 14) 先天性表皮水泡患者の皮膚障害予防の経験 15) 大腿骨頸部骨折を伴う重症 CTEPH に対し BPA を行った高齢患者の看護 16) NICU に入室した子供の父親の思い・母親の初回面会までの期間 17) 患者相談室の苦情相談の実態調査と課題 18) 人工呼吸器離脱への多職種協働リハビリ 19) 外科病棟の栄養サポート導入 20) ストーマの造設患者への医療チームサポート・受け持ち看護師の役割 21) 在日ブラジル人学校生徒の栄養調査 22) 視力障害の独居高齢者のストーマ外来での関わり 23) 病棟における NST の役割 24) 長時間ビデオ脳波モニタリング中の発作を安全に記録する工夫 25) 過去 7 年間の NST 活動評価からの課題 26) NST の取組 論文 1) 慢性呼吸器疾患者の呼吸と嚥下の調整 2) サルコペニア疑いの呼吸不全患者に外来で実施した運動療法

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 高木 聡, 板倉潮人¹⁾, 宮川哲夫²⁾ (1) 呼吸器内科, 2) 昭和大学大学院保健医学研究所呼吸ケア領域): 慢性呼吸器疾患患者における呼吸と嚥下の調整に関する研究: 呼吸相・嚥下の要因について. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌 2016; 20 (3): 114-123.

(2) 症例報告:

- 1) 中村康一¹⁾, 板倉潮人²⁾, 小林和陽³⁾, 野口周作⁴⁾, 加藤和久⁵⁾, 白杵二郎²⁾, 高木 聡, 月岡悦子, 山口貴子, 齋藤浩子 (1) 整形外科, 2) 呼吸器内科, 3) 栄養科, 4) 薬剤部, 5) ME 部): サルコペニアが疑われる呼吸不全例に対し外来で運動療法と栄養療法を実施した 1 例. 日本呼吸ケアリハビリテーション学会誌 2016; 26 (2): 345-348.

著書

- 1) 山口貴子, 月岡悦子: [自著] PICS 予防に対する取り組み (ICU 入室患者が抱える苦悩を理解する). INTENSIVE CARE NURSING REVIEW, 2016; pp36-40, 学研メディカル秀潤社.
- 2) 石田洋子: [自著] だれがチームをまとめるか. HEART nursing 春季増刊号 (佐藤直樹 (循環器内科)), 2016; pp194-200, メディカ出版.
- 3) 小野寺恵子: [分担] 白血球減少時は, 生もの禁止にしなくてもよい. プロフェッショナルがんナース Vol.6 No.6 (勝俣範之), 2016; pp12-12, メディカ出版.
- 4) 小野寺恵子: [分担] 白血球減少時は, マスクの着用は不要. プロフェッショナルがんナース Vol.6 No.6 (勝俣範之), 2016; pp13-13, メディカ出版.
- 5) 小野寺恵子: [分担] 白血球減少時だからといって個室管理は不要! 退院延期はナンセンス. プロフェッショナルがんナース Vol.6 No.6 (勝俣範之), 2016; pp14-14, メディカ出版.
- 6) 小野寺恵子: [分担] 白血球減少後の G-CSF 製剤の投与は不要. プロフェッショナルがんナース Vol.6 No.6 (勝俣範之), 2016; pp15-15, メディカ出版.
- 7) 小野寺恵子: [分担] 白血球減少時の発熱性好中球減少症予防にはニューキノロン系抗菌薬を使用する!. プロフェッショナルがんナース Vol.6 No.6 (勝俣範之), 2016; pp16-16, メディカ出版.
- 8) 小野寺恵子: [分担] 抗がん剤の血管外漏出には副腎皮質ステロイドの皮下・皮内注射は行わない. プロフェッショナルがんナース Vol.6 No.6 (勝俣範之), 2016; pp30-30, メディカ出版.
- 9) 小野寺恵子: [分担] アルブミン懸濁型パクリタキセル. プロフェッショナルがんナース 2017 年別冊がん化学療法の薬 - 抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・支持療法 - (勝俣範之), 2017; pp194-195, メディカ出版.
- 10) 小野寺恵子: [分担] ドキソルビシン塩酸塩リポソーム剤. プロフェッショナルがんナース 2017 年別冊がん化学療法の薬 - 抗がん剤・ホルモン剤・分子標的薬・支持療法 - (勝俣範之), 2017; pp154-155, メディカ出版.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 野沢大樹, 月岡悦子, 石川真由美¹⁾, 八木 孝¹⁾, 板倉潮人²⁾ (1) 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, 2) 呼吸器内科)：過去7年間のNST活動評価からみえた課題. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (第32回) (岡山県), 2017. 2.

(2) ランチョンセミナー：

- 1) 伊藤美由紀, 岡田冬香：長時間ビデオ脳波モニタリング中の看護 安全に発作を記録する為の工夫. 全国てんかんセンター協議会総会 奈良大会 2017 (奈良県), 2017. 2.

(3) 一般講演：

- 1) 齋藤浩子：院内認定教育制度の導入と課題. 日本医療マネジメント学会学術総会 (第18回) (福岡県), 2016. 4.
- 2) 金子佳世：新人看護師育成研修における特定・認定看護師を活用した看護技術教育の実際と課題. 第18回日本医療マネジメント学会学術総会 (福岡県), 2016. 4.
- 3) 軽部みなと, 長崎千恵子, 青山豊子：退院支援介入シートによる効果と在院日数削減に向けた取り組み. 日本医療マネジメント学会学術総会 (第18回) (福岡県), 2016. 4.
- 4) 廣岡梨花：帝王切開準備クラスの評価と今後の課題. 日本母性看護学会学術集会 (第18回) (福岡県), 2016. 4.
- 5) 藤原佳美, 酒井 瞳¹⁾, 高橋順子, 栗原香織, 伊藤桃子, 小野寺恵子, 此松晶子²⁾ (1) 腫瘍内科, 2) 薬剤部)：女性限定がん患者サロンの効果と課題について. 日本緩和医療学会学術大会 (第21回) (京都府), 2016. 6.
- 6) 窪田裕子：急性期病院における「高齢者看護コース」の立案と実践：大学と病院の協働. 日本製十字看護学会学術集会 (第17回) (北海道北見市), 2016. 7.
- 7) 寒竹由香理, 広瀬幸美¹⁾, 佐藤朝美¹⁾ (1) 横浜市立大学大学院 医学研究科)：事故再発予防のための指導が必要となる子どもと家族の看護実践. 日本小児看護学会学術集会 (第26回) (大分県), 2016. 7.
- 8) 大高 彩, 濱井妙子¹⁾ (1) 静岡県立大学看護学部)：看護学生がみにつけておくべき災害看護能力：災害看護実践者のインタビュー調査から. 日本災害看護学会年次大会 (第18回) (福岡県久留米市), 2016. 8.
- 9) 望月瑠美, 青木和代, 吉田房江, 東さやか¹⁾, 此松晶子¹⁾, 福永ヒトミ, 笠原英城¹⁾ (1) 薬剤部)：SNO 治験コーディネーター (CRC) 導入に向けての業務整備：SMO 手順を作成した取り組み. CRC と臨床試験のあり方を考える会議 (第16回) (大宮市), 2016. 9.
- 10) 高木 聡, 板倉潮人¹⁾, 宮川哲夫²⁾ (1) 呼吸器内科, 2) 昭和大学大学院)：間質性肺炎患者における水嚥下時の呼吸相に関する研究. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会 (第22回) (新潟県新潟市), 2016. 9.
- 11) 前田幸生：当院における療法選択の実際. 日本腹膜透析医学会学術集会・総会 (第22回) (札幌市), 2016. 9.
- 12) 高木 聡, 板倉潮人¹⁾, 白杵二郎¹⁾, 中村康一²⁾, 小林和陽³⁾, 野口周作⁴⁾ (1) 呼吸器内科, 2) 整形外科, 3) 栄養科, 4) 薬剤部)：看護必要度 呼吸ケアから見えるRSTリンクナースの育成の必要性について. 日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会 (第26回) (横浜市), 2016. 10.
- 13) 土井聖美, 佐々木久美子：先天性表皮水泡患者の皮膚障害予防を経験して. 日本手術看護学会年次大会 (第30回) (仙台市), 2016. 10.
- 14) 島田 昂, 高木 聡, 金子佳世：大腿骨頸部骨折を伴う重症CTEPHに対しBPAを行った高齢患者の看護. 日本看護学会-慢性期看護-学術集会 (第47回) (鳥取県米子市), 2016. 11.
- 15) 酒井加奈, 黒部葉子：NICUに搬送された子供の父親が抱く思い：母親が初回面会するまでの期間について. 日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会 (第47回) (三重県), 2016. 11.
- 16) 伊藤桃子, 舩谷寛子, 窪田裕子, 小駒絵織, 小笠原香子, 伊藤則子, 高橋順子, 岸 泰宏¹⁾ (1) 精神科)：患者相談室における苦情相談の実態調査：患者の苦情の様相からみえた患者相談室の今後の課題. 神奈川県病院学会 (第35回) (神奈川県), 2016. 11.
- 17) 月岡悦子, 岡本淳一¹⁾ (1) 呼吸器外科)：人工呼吸器離脱に向けた他職種協働によるリハビリテーション. 神奈川県呼吸器外科研究会 (第9回) (横浜市), 2016. 11.
- 18) 中野美咲, 月岡悦子, 長谷川一実, 金子佳世：外科病棟における栄養サポートの導入：看護師の意識変化. 神奈川県看護学会 (第18回) (横浜市), 2016. 12.
- 19) 川上 薫, 宮迫梨恵：ストーマを造設した患者への医療チームによるサポート・受け持ち看護師の役割について. 神奈川ストーマ研究会 (第39回) (神奈川県川崎市), 2016. 12.
- 20) 大高 彩, 加藤由佳¹⁾, 濱井妙子²⁾, 石田さと子³⁾ (1) 静岡県賀茂健康福祉センター, 2) 静岡県立大学, 3) 聖隷予防検診センター)：在日ブラジル人学校に通う児童生徒の栄養調査. 日本国際保健医療学会 (第31回) (福岡県久留米市), 2016. 12.
- 21) 小野崎純：視力障害を抱えた独居高齢者のストーマ外来での関わり：訪問看護の活用を視野に入れて. 神奈川ストーマ研究会 (第39回) (神奈川県川崎市), 2016. 12.
- 22) 月岡悦子, 中野美咲, 長谷川一実：病棟におけるNSTの役割. 神奈川県看護学会 (第18回) (横浜市), 2016. 12.
- 23) 小林和陽¹⁾, 月岡悦子 (1) 栄養科)：NSTの取組. 日本病態栄養学会年次学術集会 (第20回) (岡山県), 2017. 2.

(4) ポスター演題：

- 1) 藤原佳美：がん告知を受け混乱状態にあった家族と患者への支援 - 診断期から終末期。日本死の臨床研究会年次大会（第40回）（札幌市），2016. 10.

著書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 勝俣範之¹⁾，栗原香織⁽¹⁾ 腫瘍内科）：〔共著〕がん疼痛。薬局 67 巻 4 号 2016 年増刊号 病気とくすり 2016, 2016；pp1454-1458, 南山堂.
- 2) 小野寺恵子：〔分担〕投与する際の器材に注意が必要な抗がん剤。オンコロジーナース Vol.9 No.4, 2016；pp12-18, 日経研出版.

〔武蔵小杉病院放射線科技師室〕

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 西村祥循，池田龍紀，黒瀬厚成，高橋 徹：1.5T MRI 装置による DKI の臨床有用性の検討。日本磁気共鳴医学会（第44回）（大宮），2016. 9.
- 2) 鈴木信子^{1,2)}，小川衣美^{2,3)}，黒瀬厚成^{2,4)}，大塚恒太郎^{2,4)}，池田龍紀^{2,4)}，岩瀬和寿^{2,5)}，大河原伸弘^{2,6)} ⁽¹⁾ 日本鋼管病院放射線科，²⁾ 川崎市乳がん検診2次読影判定会，³⁾ 帝京大学医学部附属溝口中央放射線部，⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科，⁵⁾ 京浜総合病院放射線科，⁶⁾ 聖マリアンナ医科大学病院画像センター）：川崎市乳がん検診2次読影における取り組み。日本乳癌検診学会学術総会（久留米），2016. 11.
- 3) 宮田周司：新人教育について。日本医科大学放射線技術合同フォーラム（東京），2016. 11.

〔武蔵小杉病院認知症センター〕

研究概要

日本医科大学武蔵小杉病院は川崎市から認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症に係わる鑑別診断と専門医療相談を行ない、認知症についての臨床的、社会医学的研究を行っている。新しい取り組みとして、認知症を持つ入院患者のために認知症ケアチームを作り実践している。街ぐるみ認知症相談センターにおいては認知症になっても安心して暮らせるように、一般市民、医療機関、介護機関、行政、企業などとネットワークを作る連携事業を行う研究をしている。1 街ぐるみ認知症相談センターで認知症の早期発見、また認知症の介護をしている方を支援するための相談業務を行ない、家族支援や認知症相談についての研究を実施した。2 相談者のもの忘れなどに関する情報をかかりつけ医へ提供し、かかりつけ医を中心とした認知症の診療システムを構築する試みを実施し、その効果について研究をしている。3 市民が認知症について理解を深めるような試みとして、川崎市と共催の市民公開講座の実施、地域催事への参加、勉強会への講師派遣などを行っている。4 認知症介護に携わる専門家と医療との連携を促進するための試みとして、専門職向けの公開講座を年に3回、地域のかかりつけ医とのミーティングを年に2回実施している。5 若年認知症の人と家族を支援するための会を6回開催し、若年認知症についての研究を実施している。6 認知症と始めて診断された人を対象とした認知症始めて教室の開催を継続している。7 川崎市ウエルフェアイノベーション公募型研究開発事業において、エーザイや川崎市の企業（富士通）と地域住民一人ひとりが”まち”の主役となる双方向性のモバイル情報サービスによる認知症と生きる地域づくりに取り組み、認知症早期発見、認知症予防等を目的としたシステムの検証実験を実施した。8 川崎市における若年認知症の実態調査を実施している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 矢野健次¹⁾，野村俊明²⁾，鷺野明美³⁾，新妻宏文⁴⁾，松本 勲⁵⁾，津村省吾，加藤昌義 ⁽¹⁾ 広島刑務所，²⁾ 日本医科大学医療心理学教室，³⁾ 日本福祉大学，⁴⁾ 宮城刑務所，⁵⁾ 大阪医療刑務所，⁶⁾ 尾道刑務所）：刑事施設における高齢者の動向と健康管理。正医学第 2016；65 (2)：21-36.
- 2) 中村 祐¹⁾，北村 伸²⁾，永久保太士³⁾，小林雅人⁴⁾，本間 昭⁵⁾ ⁽¹⁾ 香川大学 医学部精神神経医学講座，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター，³⁾ 第一三共株式会社データサイエンス部，⁴⁾ 第一三共株式会社臨床開発部，⁵⁾ お多福もの忘れクリニック）：

メマンチン塩酸塩のドネペジル塩酸塩併用時における中等度および高度アルツハイマー型認知症に対する有効性および安全性. Geriatric Medicine 2016; 54 (11): 1147-1158.

- 3) 山下真里¹⁾, 山田和彬²⁾, 山口 崇²⁾, 平井洋子³⁾, 下川昭夫³⁾ (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 2) 医療法人社団心身会シルバーデイケア, 3) 首都大学東京): ソシオメトリー分析を用いた認知症者の相互交流の特徴: 認知機能・日常生活 (ADL)・移動能力・周辺症状との関連. 日本認知症ケア学会誌 2017; 15 (4): 772-784.

(2) 総説:

- 1) 櫻村正美¹⁾ (1) 日本医科大学医療心理学教室): 【高齢者への精神療法】 認知症におけるうつ・不安に対する認知行動療法の可能性. 精神科 2016; 28 (5): 406-410.
- 2) 櫻村正美¹⁾, 野村俊明¹⁾ (1) 日本医科大学医療心理学教室): 知行動療法の紹介. 日本医科大学医学会雑誌 2016; 12 (2): 57-60.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 北村 伸¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 最新の認知症診断と治療法. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.

(2) セミナー:

- 1) 北村 伸¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 問診と神経学的診察 認知症診療の実践セミナー「認知症診療の実際」. 日本老年医学会学術集会 (第57回) (金沢), 2016. 6.

(3) ワークショップ:

- 1) 北村 伸¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 簡易な神経所見のとり方実践講座「神経所見のとり方と病的所見の画像を用いた解説」「神経所見のとり方の実践講習」. 日本老年精神医学会学術集会 (第31回) (金沢), 2016. 6.
- 2) 北村 伸¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 簡易な神経所見のとり方実践講座 (アップグレードコース)「神経所見のとり方の実践セミナー」. 日本老年精神医学会学術集会 (第31回) (金沢), 2016. 6.

(4) 一般講演:

- 1) 櫻村正美¹⁾ (1) 日本医科大学医療心理学教室): 介護ストレスの軽減を目的とした家族への心理的介入: 日本語版 START (STrategies for RelaTives) を実施した一事例報告. 日本家族心理学会 (第33回)・日本交流分析学会 (第41回) 合同大会 (千葉県), 2016. 10.
- 2) 川西智也¹⁾, 櫻村正美²⁾, 原 祐子³⁾, 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 山下真里¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 深津 亮³⁾, 三品雅洋⁴⁾, 野村俊明²⁾, 北村 伸⁵⁾ (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学医療心理学教室, 3) 西熊谷病院, 4) 日本医科大学大学院医学研究科 脳病態画像解析学講座, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 地域包括支援センターが関与した, 地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (1): 迷惑行為の類型. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 3) 櫻村正美¹⁾, 川西智也²⁾, 原 祐子³⁾, 稲垣千草²⁾, 根本留美²⁾, 山下真里²⁾, 並木香奈子²⁾, 深津 亮³⁾, 三品雅洋⁴⁾, 野村俊明¹⁾, 北村 伸⁵⁾ (1) 日本医科大学医療心理学教室, 2) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 3) 西熊谷病院, 4) 日本医科大学大学院医学研究科 脳病態画像解析学講座, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 地域包括支援センターが関与した, 地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (2): 迷惑行為に関連する要因について. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 4) 原 祐子¹⁾, 櫻村正美²⁾, 川西智也³⁾, 稲垣千草³⁾, 根本留美³⁾, 山下真里³⁾, 並木香奈子³⁾, 深津 亮¹⁾, 三品雅洋⁴⁾, 野村俊明²⁾, 北村 伸⁵⁾ (1) 西熊谷病院, 2) 日本医科大学医療心理学教室, 3) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 4) 日本医科大学大学院医学研究科 脳病態画像解析学講座, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 地域包括支援センターが関与した, 地域在住高齢者の迷惑行為の実態 (3): 当該高齢者への対応と支援上の課題. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 5) 根本留美¹⁾, 川西智也¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 山下真里¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 三品雅洋²⁾, 野村俊明³⁾, 北村 伸⁴⁾ (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学大学院医学研究科 脳病態画像解析学講座, 3) 日本医科大学医療心理学教室, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 若年層におけるもの忘れ相談の現状: 街ぐるみ認知症相談センター利用状況から. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 6) 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 川西智也¹⁾, 山下真里¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 長久美江子¹⁾, 井上志津子¹⁾, 三品雅洋²⁾, 野村俊明³⁾, 北村 伸⁴⁾ (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学大学院医学研究科 脳病態画像解析学講座, 3) 日本医科大学医療心理学教室, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 地域の認知症相談における MCI への対応. 第6回日本認知症予防学会学術集会. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 7) 並木香奈子¹⁾, 小八重幹生²⁾, 井上志津子¹⁾, 長久美江子¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 川西智也¹⁾, 根本留美³⁾, 三品雅洋⁴⁾, 野村俊明⁵⁾, 北村 伸¹⁾ (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 2) 株式会社富士通ゼネラル, 3) 日本医科大学大学院医学研究科 脳病態画像解析学講座, 4) 日本医科大学医療心理学教室, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 高齢者健康支援モバイルサービスを利用した認知症予防と早期発見の有効性. 日本認知症予防学会学術集会 (第6回) (仙台), 2016. 9.
- 8) 櫻村正美¹⁾ (1) 日本医科大学医療心理学教室): 護家族と介護準備家族を対象とした集団版認知行動療法プログラムの試み: 日本語版

START 短縮版プログラム報告. 日本家族研究・家族療法学会 (第 33 回) (長崎), 2016. 9.

- 9) 櫻村正美¹⁾, 野村俊明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学医療心理学教室): 軽度認知障害の高齢者を対象とした認知行動療法の試み. 日本心理臨床学会秋季大会 (第 35 回) (横浜), 2016. 9.
- 10) 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 川西智也¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 三品雅洋²⁾, 野村俊明³⁾, 北村 伸⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, ²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 脳病態画像解析学講座, ³⁾ 日本医科大学医療心理学教室, ⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 地域における継続的相談が認知症早期受診に果たす意義: 初回来談者と継続来談者の受診推奨時の MMSE 得点の比較より. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
- 11) 根本留美¹⁾, 稲垣千草¹⁾, 川西智也¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 石渡明子²⁾, 三品雅洋³⁾, 野村俊明⁴⁾, 北村 伸⁵⁾ (¹⁾ 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, ²⁾ 日本医科大学医学研究科神経内科学分野, ³⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 脳病態画像解析学講座, ⁴⁾ 日本医科大学医療心理学教室, ⁵⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター): 若年層における認知症早期発見に関する一考察: 若年性アルツハイマー病が疑われた地域のもの忘れ相談所事例から. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.
- 12) 川西智也¹⁾, 櫻村正美²⁾, 原 祐子³⁾, 稲垣千草¹⁾, 根本留美¹⁾, 並木香奈子¹⁾, 三品雅洋⁴⁾, 野村俊明²⁾, 北村 伸⁵⁾ (¹⁾ 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, ²⁾ 日本医科大学医療心理学教室, ³⁾ 公益財団法人西熊谷病院, ⁴⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 脳病態画像解析学講座, ⁵⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 認知症センター): 地域包括支援センターが関与した高齢者の迷惑行為の分類: フォーカスグループインタビューによる調査. 日本老年精神医学会 (第 31 回) (金沢), 2016. 6.

31. 多摩永山病院付置施設等

[多摩永山病院病理部]

研究概要

現在の主な研究テーマは以下の通りである。

1. 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断（外来・病棟・術中・剖検時）の確立。
2. 免疫細胞・組織化学（サイトケラチン7/20/34 β E12/35 β H11, MIB-1, Napsin A, Villin）を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立。
3. 乳腺腫瘍
 - 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立；細胞転写法を用いてER, PgR, HER2蛋白質, MIB-1指数の他, HER2に関しては蛋白の過剰発現と遺伝子増幅（CISH）の両方を検討する。
 - 2) 乳癌における, ホルモンレセプターと細胞骨格, 接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究；HER2タンパク質と基底膜分解酵素について。
4. 細胞転写法による中皮腫の免疫細胞学的診断法の確立（特異抗体；カルレチニン, CK5/6, メゾテリン, D2-40, WT1 など）。
5. 骨軟部腫瘍
穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立（免疫組織化学, 電顕的検索の併用）。
6. 子宮癌
子宮内膜癌の細胞診による診断の確立（免疫組織化学, 電顕的検索の併用）とくにセルブロック法。
7. リンパ節病変
 - 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ。
 - 2) リンパ節病変の分子生物学的検索。
 - 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 松並平晋, 細根 勝：細胞診検査を取り巻く環境変化：ベセスダシステムと液状化検体細胞診（LBC）. モダンメディア 2016；62（12）：398-402.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 片山博徳, 細根 勝, 前田昭太郎¹⁾（¹⁾ LSI メディエンス病理・細胞診センター）：乳腺細胞診の実際. 公益財団法人東京都保険医療公社東京都がん検診センター細胞検査士養成講座（平成28年度）（東京）, 2016. 8.
- 2) 片山博徳：免染・迅速：基礎から上級まで. 中級者のための病理技術STEP UP 同学院講習会（第3回）（東京）, 2016. 9.
- 3) 片山博徳, 細根 勝, 前田昭太郎¹⁾（¹⁾ LSI メディエンス病理・細胞診センター）：中皮腫救済申請と特殊染色について. 同学院形態学講演会（北海道）, 2016. 7.
- 4) 細根 勝：リンパ節の病理と細胞診. 公益財団法人東京都保険医療公社東京都がん検診センター細胞検査士養成講座（平成28年度）（東京）, 2016. 9.

(2) シンポジウム：

- 1) 片山博徳：Biomedical Laboratory Scientist in Japan. 日本医学検査学会（第65回）（神戸）, 2016. 9.
- 2) Hosone M, Katayama H, Yanagida Y, Maeda S, Naito Z¹⁾（¹⁾ Department of Integrative Pathology of Nippon Medical School）：A Pathologist's View on Cytodiagnosis of MALT Lymphoma：A Brief Introduction to The Symposium. International Congress of Cytology（The 19th）（Yokohama）, 2016. 5.
- 3) 片山博徳, 細根 勝, 新井 悟, 内藤善哉¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 清水道生³⁾（¹⁾ 日本医科大学病理学統御機構・腫瘍学, ²⁾ LSI メディエンス病理・細胞診センター, ³⁾ 博慈会記念総合病院病理診断センター）：ニッチな領域の細胞診“消化管の細胞診”. 日本臨床細胞学会秋期大会（第55回）（大分）, 2016. 11.

(3) セミナー：

- 1) 細根 勝：リンパ節・骨髄・縦隔. 日本臨床細胞学会細胞診断学セミナー（第41回）（東京）, 2016. 8.

(4) 一般講演：

- 1) Hosone M, Arai S, Katayama H, Naito Z¹⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : An unusual case of HHV8-negative effusion lymphoma : a case report ; morphologically high-grade, clinically low-grade. Society for Hematopathology & European Association for Haematopathology (Basel,Swiss), 2016. 9.
- 2) Katayama H, Hosone M, Arai S, Iwase H, Yanagida Y, Hayashi K¹⁾, Maeda S¹⁾, Hirata T²⁾, Naito Z³⁾ (1) Mitsubishi Chemical Medience, Pathology and Cytology Center, 2) Department of Thoracic Surgery Nippon Medical School Tama-nagayama Hospital, 3) Department of Integrative Pathology of Nippon Medical School) : Immunocytochemical detection of matrix metalloproteinase 9 in mesothelioma cells and reactive mesothelial cells. The European Congress of Cytology (Liverpool,UK), 2016. 10.
- 3) Yanagida Y, Hosone M, Katayama H, Isobe H, Kawano K, Iwase H, Higo M, Arai S, Maeda S¹⁾, Naito Z²⁾ (1) Mitsubishi Chemical Medience, Pathology and Cytology Center, 2) Dept. of Integrative Pathology of Nippon Medical School) : CD30-positive ALK-negative pleomorphic large B-cell lymphoma with an unusual cytomorphology mimicking metastatic carcinoma in touch imprint cytology : a case of potential pitfall. International Congress of Cytology (The 19th) (Yokohama), 2016. 5.
- 4) Yanagida Y, Hosone M, Arai S, Katayama H, Naito Z¹⁾ (1) Dept. of Integrative Pathology of Nippon Medical School) : Usefulness of intraoperative rapid immunocytochemistry : A case of pineal germinoma diagnosed by intraoperative histology and cytology. International Federation of Biomedical Laboratory Science (The 32nd) (Kobe), 2016. 9.
- 5) Yanagida Y, Hosone M, Katayama H, Maeda S¹⁾, Naito Z²⁾ (1) Life Science Medience, Pathology and Cytology Center, 2) Department of Integrative Pathology of Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : A current topic of effusion cytology : HHV8-negative common effusion lymphoma : morphologically high-grade, clinically low-grade. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (The 24th) (Chonburi, Thailand), 2017. 1.
- 6) Hosone M, Arai S, Katayama H, Yanagida Y, Maeda S, Naito Z¹⁾ (1) Department of Integrative Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : A challenging area : cytodiagnosis of MALT lymphoma-differential diagnoses and limitation. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (The 24th) (Chonburi, Thailand), 2017. 1.
- 7) Katayama H, Hosone M, Arai S, Iwase H, Yanagida Y, Hayashi K¹⁾, Maeda S¹⁾, Hirata T²⁾, Naito Z³⁾ (1) Mitsubishi Chemical Medience, Pathology and Cytology Center, 2) Department of Thoracic Surgery Nippon Medical School Tama-nagayama Hospital, 3) Department of Integrative Pathology of Nippon Medical School) : How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology : utility of immunochemical staining and p16/CDKN2A FISH using cell transfer method and/or cell block method. International Congress of Cytology (19th) (Yokohama), 2016. 5.

論文

[追加分]

追加分症例報告：

- 1) 高尾嘉宗¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 片山博徳, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学消化器外科) : 食道類基底細胞癌の1例. 外科 2015 ; 77 (13) : 1561-1564.
- 2) Yoshino N¹⁾, Hirata T¹⁾, Takeuchi C²⁾, Hosone M (1) Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 2) Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School) : A Case of Primary Pulmonary Diffuse Large B-cell Lymphoma Diagnosed by Transbronchial Biopsy. Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2015 ; 21 (4) : 396-398.

学会発表

- 1) 石川裕美子¹⁾, 馬來康太郎¹⁾, 大森 順¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 川見典之¹⁾, 植木信江¹⁾, 津久井拓¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 細根 勝, 井川 修³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 消化器科, 2) 日本医科大学 消化器肝臓内科, 3) 日本医科大学多摩永山病院 循環器内科) : 急激に進行し心転移を来した未分化胃癌の1例. 日本内科学会関東地方会 (第622回) (東京), 2016. 3.

追加分教育講演：

- 1) 細根 勝 : リンパ節の病理と細胞診. 公益財団法人東京都保険医療公社東京都がん検診センター細胞検査士養成講座 (平成27年度) (東京), 2015. 9.

追加分ポスター：

- 1) 吉野直之¹⁾, 竹内千枝¹⁾, 平田知己¹⁾, 白田実男²⁾, 細根 勝 (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, 2) 日本医科大学付属病院 呼吸器外科) : 当科における ALK 肺癌の検討. 日本呼吸器外科学会総会 (第32回) (香川県高松市), 2015. 5.
- 2) 竹内千枝¹⁾, 平田知己¹⁾, 吉野直之¹⁾, 原 鶴子¹⁾, 細根 勝, 新井 悟, 白田実男¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科) : 胸腔鏡下に切除した心外膜発生の気管支原生嚢胞の一手術例. 日本呼吸器外科学会総会 (第32回) (香川県高松市), 2015. 5.

追加分一般講演：

- 1) 井川 修¹⁾, 細根 勝, 新 博次¹⁾ (1) 多摩永山病院内科, 循環器内科)：ヒト心臓標本：不整脈の理解に必要な心臓解剖. 日本不整脈学会 (第 30 回)・心電学会合同学術集会 (第 32 回), 2015. 7.
- 2) 竹内千枝¹⁾, 平田知己¹⁾, 吉野直之¹⁾, 原千鶴子²⁾, 細根 勝, 新井 悟, 白田実男³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院呼吸器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科, 3) 日本医科大学付属病院呼吸器外科)：胸腔鏡下に切除した心外膜発生の気管支原性嚢胞の一手術例. 日本呼吸器外科学会総会 (第 32 回) (高松), 2015. 5.
- 3) 平田知己¹⁾, 吉野直之¹⁾, 竹内千枝¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 林久美子²⁾, 青木 隆²⁾, 細根 勝, 新井 悟, 片山博徳, 白田実男³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, 2) LSI メディエンス, 3) 日本医科大学呼吸器外科)：早期中皮腫が考慮される 1 例. 肺癌学会総会 (第 56 回) (東京), 2015. 11.
- 4) 平田知己¹⁾, 吉野直之¹⁾, 竹内千枝¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 林久美子²⁾, 青木 隆²⁾, 細根 勝, 新井 悟, 片山博徳, 白田実男¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, 2) LSI メディエンス)：早期胸膜中皮腫が考慮される 1 例. 日本肺癌学会学術集会 (第 56 回) (横浜), 2015. 11.
- 5) 小杉宗範¹⁾, 中込明裕¹⁾, 森澤太一郎¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 村田広茂¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 川口直美¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 細根 勝, 清水 渉²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 循環器内科, 2) 日本医科大学付属病院 循環器内科)：単冠動脈症に重症冠動脈病変を合併した虚血性心筋症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 236 回) (東京), 2015. 9.
- 6) 小杉宗範¹⁾, 中込明裕¹⁾, 森澤太一郎¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 村田広茂¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 川口直美¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 細根 勝, 清水 渉²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 循環器内科, 2) 日本医科大学付属病院 循環器内科)：超高齢男性に発症し, 比較的長期生存した原発性体腔液リンパ腫類似リンパ腫の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 617 回) (東京), 2015. 9.

追加分セミナー：

- 1) 細根 勝：リンパ節・骨髄・縦隔. 日本臨床細胞学会細胞診断学セミナー (第 40 回) (東京), 2015. 8.

追加分パネルディスカッション：

- 1) 守屋慶一¹⁾, 田村秀人¹⁾, 中村恭子¹⁾, 細根 勝, 猪口孝一²⁾ (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, 2) Shinakasaka clinic)：Primary esophageal B cell lymphoma treated by Helicobacter pylori eradication and literature review. 日本血液学会学術集会 (第 77 回) (金沢), 2015. 10.

[多摩永山病院中央検査室]

研究概要

中央検査室は、「安全かつ迅速な臨床検査の実践, 発展向上に努める」, 「臨床検査を通して多摩永山病院の地域貢献に寄与する」の 2 点を理念として臨床検査業務を遂行している. 平成 28 年度は, 研究用にホルター心電図解析装置を増設し, また一般検査において全自動尿分析装置が機種変更され, 研究支援体制ならびに機器の安定運用が確保された. 今年度は, 受託研究として「イムノアッセイ検査における機器の比較検討」, 共同研究として「新規 HCV 抗体試薬の比較検討」を行った. 今後も結果報告の迅速化に努め, 患者さまの満足度を向上させ, 正確・精密な検査データを提供するために臨床検査の安全管理を徹底する. 今年度の主な研究は下記の通りである 1) 運動負荷試験 (呼吸器疾患における心肺運動負荷試験, 6 分間歩行試験) 2) 全自動尿分析装置 US-3500 の基礎的検討 3) 臨床検査に使用する水について 4) 当院における過去 4 年間のカルバペネム体制腸内細菌科細菌 (CRE) の検出状況 5) 脳波測定, 脳死判定時の脳波/ABR6) アーキテクト・PIVKA-II の基礎的検討 7) 脳死下臓器提供における臨床検査技師の役割 8) MRSA 積極的監視培養における報告時間短縮の効果 9) 法的脳死判定における脳波・ABR10) MRSA 積極的関し培養における報告時間短縮の効果

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 榎本純子, 野路佳子, 作間俊介, 渡部百合子, 井上 淳, 金子朋広：全自動尿分析装置 US-3500 の基礎的検討. 医療と検査機器・試薬 2016 ; 39 (5) : 521-529.
- 2) Tamaki T¹⁾, Kubota M, Node Y¹⁾, Morita A²⁾ (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Tamagayama Hospital, 2) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School) : Continuous Vagus Nerve Monitoring during Carotid Endarterectomy. Open Journal of Modern Neurosurgery 2016 ; 7 (1) : 1-9.
- 3) 田杭直哉¹⁾, 鈴木美子, 近藤匡慶¹⁾, 長野植彦¹⁾, 吉田真人¹⁾, 菅谷量俊¹⁾, 丸山 弘²⁾, 中南秀将³⁾, 野口雅久³⁾, 村田和也¹⁾ (1) 多摩永山病院薬剤部, 2) 多摩永山病院外科, 3) 東京薬科大学薬学部病原微生物学教室) : マイクロスキャン Pos Combo 3.1J パネルを用いたプロンプト法で MIC 1 μ g/mL および 2 μ g/mL を示す methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* 株に対する vancomycin の有効性. 日本化学療法学会雑誌 2016 ; 64 (3) : 530-538.

著 書

- 1) 加藤政利：〔分担〕5章 運動負荷試験. 呼吸機能検査技術教本 (JAMT 技術教本シリーズ) (日本臨床衛生検査技師会), 2016 ; pp131-148, 株式会社じほう.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 久野将宗¹⁾, 久保田稔, 金子純也¹⁾, 工藤小織¹⁾, 田中知恵¹⁾, 福田令雄¹⁾, 北橋章子¹⁾, 小柳正雄¹⁾, 田上 隆¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 大学院医学研究科救急医学分野) : 救命救急センターにおける急性肺塞栓症予防に向けた深部静脈血栓症 (DVT) スクリーニング. 日本救急医学会・学術大会 (第 44 回) (東京都), 2016. 11.

(2) セミナー：

- 1) 久保田稔：法的脳死判定における脳波・ABR 検査. 青森県健康福祉部 法的脳波判定等における脳波測定研修会 (青森県), 2017. 1.
- 2) 久保田稔：EEG・ABR (2016 年救急医療における脳死患者の対応セミナー). 日本臓器移植ネットワーク本部 (神奈川県), 2016. 12.
- 3) 久保田稔：脳死下臓器提供における臨床検査技師の役割 (2016 年救急医療における脳死患者の対応セミナー). 日本臓器移植ネットワーク本部 (神奈川県), 2016. 12.
- 4) 久保田稔：脳波測定. 日本救急医学会総会・学術大会 (第 44 回) (東京都), 2016. 11.
- 5) 久保田稔：法的脳死判定における脳波検査のポイント. 長野県臓器移植普及推進協議会 (長野県), 2016. 10.
- 6) 久保田稔：脳死判定時の脳波/ABR. 日本小児救急医学会 (第 30 回) (宮城県), 2016. 7.
- 7) 久保田稔：脳波測定. 脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第 29 回) (東京都), 2016. 6.

(3) 一般講演：

- 1) 久野将宗¹⁾, 久保田稔, 金子純也¹⁾, 田中知恵¹⁾, 福田令雄¹⁾, 小柳正雄¹⁾, 工藤小織¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 北橋章子¹⁾, 畝本恭子¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター) : 入院後の急性肺塞栓症発病予防としての深部静脈血栓症 (DVT) スクリーニングの取り組み. 日本救急学会総会・学術大会 (第 19 回) (福島県), 2016. 5.
- 2) 四田千穂美：臨床検査に使用する水. 連結型分析装置研究会 (第 9 回) (東京都), 2016. 4.
- 3) 鈴木 亮, 加藤政利, 四田千穂美, 渡部百合子, 井上 淳, 金子朋広：「アーキテクト・PIVKAIL」の基礎的検討. 東京都医学検査学会 (第 12 回) (東京都), 2016. 10.
- 4) 鈴木美子, 田杭直哉¹⁾, 田中 愛¹⁾, 山本 愛¹⁾, 上原隆志²⁾, 丸山 弘³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院感染制御部, ²⁾ 多摩永山病院呼吸器腫瘍内科・感染制御部, ³⁾ 多摩永山病院外科・感染制御部) : 当院における過去 4 年間のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) の検出状況. 日本化学療法学会総会 (第 64 回) (兵庫県), 2016. 6.
- 5) 鈴木美子, 田杭直哉¹⁾, 田中 愛¹⁾, 山本 愛¹⁾, 丸山 弘¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院感染制御部) : MRSA 積極的監視培養における報告時間短縮の効果. 日本環境感染学会総会・学術集会 (第 32 回) (兵庫県), 2017. 2.
- 6) 長野慎彦¹⁾, 菅谷量俊¹⁾, 田杭直哉¹⁾, 田中 愛²⁾, 鈴木美子, 丸山 弘²⁾, 高瀬久光¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院薬剤部, ²⁾ 多摩永山病院感染制御部) : 日本医科大学多摩永山病院救命救急センターにおける MRSA アクティブサーベイランスによる感染制御と入院時リスク因子の検証. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京都), 2016. 9.
- 7) 黒田香織¹⁾, 田杭直哉¹⁾, 菅谷量俊¹⁾, 高瀬久光¹⁾, 鈴木美子, 丸山 弘²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院薬剤部, ²⁾ 多摩永山病院外科) : 当院におけるカンジダ血症治療成績の実態調査. 日本環境感染学会総会・学術集会 (第 32 回) (兵庫県), 2017. 2.
- 8) 田中里美¹⁾, 田杭直哉¹⁾, 鈴木美子, 菅谷量俊¹⁾, 丸山 弘²⁾, 高瀬久光¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院薬剤部, ²⁾ 多摩永山病院外科) : TAZ/PIPC の特定抗菌薬使用届出制導入による AUD 及び AHI に対する影響, 及び緑膿菌の薬剤感受性の推移. 日本環境感染学会総会・学術集会 (第 32 回) (兵庫県), 2017. 2.

〔多摩永山病院薬剤部〕

研究概要

本年度の研究内容は多岐にわたり, 学会発表では, 感染関連 7 件, がん緩和関連 4 件, 医薬品管理/経済関連 3 件, 糖尿病関連 2 件, 救命救急関連 2 件と臨床業務に直結する演題でまとめている. 1. 医療経済の意識「外来がん化学療法における薬剤師による抗がん剤の規格組み合わせ最適化の取り組み」では, 処方された外来がん化学療法の抗がん剤 1,298 件のうち, 規格修正の主治医代行入力が 22 件で, 6,5775 円の薬剤費の削減につなげ, 医師の業務負担軽減と適正な在庫管理に寄与している.

また, DPC 制度における保険点数を算出し, 包括点数の取得から病院経営の収益に波及することに着目した研究を実践している. 肺癌にハイライトし, 平均在院日数およびレジメンの薬剤投与日数に基づき収益を算出した結果, レジメンにより収益差を認め支出に与える

影響を認めた。発表者は入職1年目であり、薬物療法の適正化のみならず、経営意識を浸透させる機会となった。2. 薬物療法の安全性「造影剤使用時のメトホルミンが腎臓に及ぼす影響」では、大変興味深い結果を得た。ビグアナイド薬はヨード造影剤使用時に乳酸アシドーシスの危険が上昇するため休薬することが勧められているが、臨床では必ずしも休薬されていない現状を通してリスクマネジメントの観点からペトロスペクティブに検討している。適切な管理のもと、造影剤使用時のメトホルミン使用は腎機能悪化にならず、むしろ腎保護的に作用している可能性が示唆された。本研究は、メトホルミン未使用群との比較のため多変量回帰分析を行い、論文投稿に至っている。3. 今後の課題 病棟業務が進展するなか、薬剤師の介入機会を得ている現状から臨床研究意欲を高める姿勢が肝要である。ケースレポートを含め、プロトコール作成からエビデンス構築に至るまでさらなる研究に寄与していきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 田杭直哉, 鈴木美子¹⁾, 近藤匡慶, 長野慎彦, 吉田真人, 菅谷量俊, 丸山 弘²⁾, 中南秀将³⁾, 野口雅久³⁾, 村田和也 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 中央検査室, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ³⁾ 東京薬科大学薬学部 病原微生物学教室) : マイクロスキキャン® Pos Combo 3.1J パネルを用いたプロンプト法における MIC 1 $\mu\text{g}/\text{mL}$ および 2 $\mu\text{g}/\text{mL}$ の methicillin-resistant Staphylococcus aureus 株に対する vancomycin の有効性. 日本化学療法学会雑誌 2016 ; 64 (3) : 530-538.
- 2) 近藤匡慶, 菅谷量俊, 田杭直哉, 長野慎彦, 吉田真人, 丸山 弘¹⁾, 村田和也 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : プロトコールに基づく薬剤師のバンコマイシン血中濃度測定オーダー介入による適正使用への取り組み. 医薬品相互作用研究 2017 ; Vol.41 (No.1) : 27-33.

著書

- 1) 高瀬久光 : [共著] スプーン1杯を目標にしませんか! 緩和ケアの魔法の言葉 : どう声をかけたらいいかわからない時の道標. 緩和ケア増刊号 26 Suppl.(森田 達也), 2016 ; pp8-10, 青海社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 高瀬久光 : 「緩和医療とがん疼痛治療」. 平成 28 年度がん専門薬剤師集中講義教育講座 (東京), 2016. 5.
- 2) 高瀬久光 : 「緩和医療とがん疼痛治療」. 平成 28 年度がん専門薬剤師集中講義教育講座 (福岡), 2016. 12.
- 3) 高瀬久光 : 「患者とのコミュニケーション～ロジカル・トータルサポート」. がん薬物療法セミナー (金沢), 2016. 12.
- 4) 高瀬久光 : 「がん患者さんのためのロジカル・トータルサポート」. 佐賀薬剤師生涯学習講演 (佐賀), 2017. 2.

(2) シンポジウム：

- 1) 高瀬久光 : 今こそ緩和医療専門薬剤師育成を考えよう : 地元開催の緩和医療薬物療法教育プログラムにみる生きた教育とその重要性 石川県における取り組み, 日本緩和医療薬学会年会 (第 10 回) (浜松), 2016. 6.
- 2) 高瀬久光 : 緩和ケア領域における薬剤師のアプローチと将来展望～院内・院外での医薬品の適正使用に向けた取り組み～医薬品の適正使用に向けたロジカル・トータルサポート. 日本医薬品安全性学会学術大会 (第 2 回) (岐阜), 2016. 7.

(3) ワークショップ：

- 1) 高瀬久光, 井手口直子¹⁾, 平井みどり²⁾, 片山志郎³⁾ (¹⁾ 帝京平成大学 薬学部, ²⁾ 神戸大学医学部附属病院 薬剤部, ³⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 「緩和医療におけるストレスマネジメント 2」: ロールプレイを交えたシミュレーションする. 日本緩和医療薬学会年会 (第 10 回) (浜松), 2016. 6.

(4) 一般講演：

- 1) 田杭直哉, 近藤匡慶, 黒田香織, 菅谷量俊, 高瀬久光, 鈴木美子¹⁾, 上原隆志²⁾, 丸山 弘³⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 中央検査室, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器腫瘍内科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : VCM 投与時における初回トラフ値ごとの有効性及び安全性の検討. 日本化学療法学会西日本支部総会 (第 64 回) (沖縄), 2016. 11.
- 2) 近藤匡慶, 長野慎彦, 田上 隆¹⁾, 菅谷量俊, 津田充穂, 田杭直哉, 久野将宗¹⁾, 畝本恭子¹⁾, 高瀬久光 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 救命救急センター) : 救命救急センターにおける持続注射薬使用状況に基づく配合変化早見表の検討. 日本薬学会 (第 137 年会) (仙台), 2017. 3.
- 3) 遠藤友佳, 杉原加寿子, 亀山明美, 菅谷量俊, 加藤浩子, 小谷英太郎¹⁾, 横山 正²⁾, 中井章人³⁾, 高瀬久光 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 消化器外科・乳腺外科・一般外科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科) : 糖尿病関連のインシデント調査. くすりと糖尿病学会 (第 5 回) (神戸), 2016. 10.
- 4) 杉原加寿子, 亀山明美, 菅谷量俊, 村田和也, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高瀬久光 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科) : メトホルミン投与例における造影剤使用後の腎機能. 日本糖尿病学会 (59 回) (京都), 2016. 5.

- 5) 吉田直樹, 田杭直哉, 吉田真人, 長谷川茉莉子, 近藤匡慶, 高瀬久光: 肺癌におけるレジメンと DPC に基づく収支の関連性の検討. 日本薬学会 (137 回) (仙台), 2017. 3.
- 6) 黒田香織, 田杭直哉, 菅谷量俊, 高瀬久光, 鈴木美子¹⁾, 丸山 弘²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 中央検査室, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科: 当院におけるカンジダ血症治療成績の実態調査. 日本環境感染学会総会 (第 32 回) (神戸), 2017. 2.
- 7) 田中里美, 田杭直哉, 鈴木美子¹⁾, 菅谷量俊, 丸山 弘²⁾, 高瀬久光 (1) 日本医科大学多摩永山病院 中央検査室, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科: TAZ/PIPC の特定抗菌薬使用届出制導入による AUD 及び AHI に対する影響, 及び P.aeruginosa の薬剤感受性の推移について. 日本環境感染学会総会 (第 32 回) (神戸), 2017. 2.
- 8) 山口佳代子¹⁾, 高瀬久光, 高橋喜統¹⁾, 丹羽 修¹⁾ (1) 金沢医科大学病院 薬剤部: プレンツキシマブベトチンによる末梢神経障害性疼痛の症状緩和に少量オキシコドンの有用性を認めた 1 例. 日本緩和医療薬学会年会 (第 10 回) (浜松), 2016. 6.
- 9) 鳥越一宏¹⁾, 原田慎一²⁾, 高瀬久光, 佐野元彦³⁾, 中川貴之⁴⁾, 伊勢雄也⁵⁾, 葛巻直子¹⁾, 溝口広一⁶⁾, 吉澤一巳⁷⁾, 成田 年¹⁾, 徳山尚吾²⁾ (1) 星薬科大学 薬学部, ²⁾ 神戸学院大学 薬学部, ³⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 薬剤部, ⁴⁾ 京都大学医学部附属病院 薬剤部, ⁵⁾ 日本医科大学附属病院 薬剤部, ⁶⁾ 東北薬科大学 薬学部, ⁷⁾ 東京理科大学 薬学部: 研究に関する意識調査からみた現状と研究推進委員会の支援課題. 日本緩和医療薬学会年会 (第 10 回) (浜松), 2016. 6.
- 10) 池田博昭¹⁾, 二宮昌樹¹⁾, 中妻 章¹⁾, 高瀬久光, 池田純子²⁾ (1) 徳島文理科大学香川薬学部, ²⁾ 株式会社サザンクロス・トワニー薬局: ヤーズ配合錠の安全性速報や医薬品リスク管理計画等を補う対策の検討. 日本臨床試験学会学術集会総会 (第 8 回) (大阪), 2017. 1.
- 11) 池田博昭¹⁾, 高瀬久光, 柴田ゆうか²⁾, 中妻 章¹⁾, 池田純子³⁾, 二宮昌樹¹⁾ (1) 徳島文理科大学香川薬学部, ²⁾ 広島大学病院 薬剤部, ³⁾ 株式会社サザンクロス・トワニー薬局: 医薬品リスク管理計画 (RMP) をお薬手帳で活用する方策の検討. 日本薬学会 (第 137 回) (仙台), 2017. 3.
- 12) 戸都舞衣子¹⁾, 原田知彦¹⁾, 吉田真人, 京谷充崇¹⁾, 大滝由美¹⁾, 櫻井 学¹⁾, 岸本有佳¹⁾, 斎木一郎¹⁾, 酒井リカ²⁾, 菊池正孝¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター 薬剤科, ²⁾ 神奈川県立がんセンター 腫瘍内科: 分子標的薬の外來初回導入における薬剤指導の現状と課題. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第 14 回) (神戸), 2016. 6.
- 13) 吉田真人, 深尾彰平, 高山喜光, 村野萌実, 堀川佳津美, 菅谷量俊, 高瀬久光: 外來がん化学療法における薬剤師による抗がん剤の規格組み合わせ最適化の取り組みーがん化学療法における CDTM の実践ー. 日本病院薬剤師会関東ブロック (第 46 回) (幕張), 2016. 8.
- 14) 吉田真人: 臨床現場での情報活用の実際. がん医療の質向上のための薬剤師連携ネットワーク (第 2 回) (神奈川), 2017. 1.
- 15) 長野慎彦, 近藤匡慶, 菅谷量俊, 久野将宗¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 畝本恭子¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 救命救急センター: 救命救急センターにおける MRSA アクティブサーベイランスと入院時リスク因子の検討. 日本臨床救急医学会総会 (第 19 回) (福島), 2016. 5.
- 16) 長野慎彦, 菅谷量俊, 田杭直哉, 田中 愛¹⁾, 鈴木美子¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 高瀬久光 (1) 日本医科大学多摩永山病院 感染制御部: 日本医科大学多摩永山病院救命救急センターにおける MRSA アクティブサーベイランスによる感染制御と入院時リスク因子の検証. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 17) 高瀬久光: Irsogladine maleate prevents oral candidiasis associated with radiotherapy in patients with head and neck cancer. 日本医科大学総会 (東京), 2016. 7.
- 18) 高山喜光, 深尾彰平, 吉田真人, 淡路健作, 村田和也: 神経障害性疼痛を伴う難治性がん性疼痛に対してプレガバリンカプセルとデュロキセチンカプセルの併用が著効した 1 例. 日本緩和医療薬学会年会 (第 10 回) (浜松), 2016. 6.
- 19) 津田充穂, 長野慎彦, 近藤匡慶, 菅谷量俊, 村田和也, 高瀬久光: 救命救急病棟における薬剤師常駐業務の必要性: 高度急性期医療における業務標準化に向けて. 医療薬学フォーラム 2016 クリニカルファーマシーシンポジウム (第 24 回) (滋賀), 2016. 6.
- 20) 菅谷量俊, 田杭直哉, 近藤匡慶, 黒田香織, 田中里美, 村田和也, 高瀬久光: 抗真菌薬の適正使用への取り組み: 日本医科大学多摩永山病院 薬剤部の Antimicrobial stewardship team (AST) としての役割. 医療薬学フォーラム 2016 クリニカルファーマシーシンポジウム (第 24 回) (滋賀), 2016. 6.

[多摩永山病院看護部]

研究概要

今年度は 9 演題で日本救急看護学会学術集会, 日本糖尿病教育・看護学会, 日本緩和医療学会, 日本糖尿病学会年次学術集会, 日本がん看護学会学術集会, 日本がん看護学会, 日本集中治療医学会学術集会, 日本看護学会ーヘルスプロモーション学術集会, 東京都看護協会多摩南地区支部看護研究発表会で発表が行われた。1. 高齢糖尿病患者の療養支援におけるジレンマを事例を通してワークショップを実施。2. 看護師 11 名に対して半構面接行い糖尿病患者に対する看護師の認識, 患者への関わりについて調査。その結果, 看護師の認識は 2 つのカテゴリーと 11 のサブカテゴリーに分類された。3. 消化器外科におけるがん患者の苦痛スクリーニング票の使用状況を調査し

た結果、気持ちの辛さスケールは平均が3、4以上は40%で、そのうち化学療法入院患者は61%を占めていた。4. ドクターカー活動におけるプレホスピタル現場で、資器材不足をまねく因子を半構成面接を通して調査した結果、予期せぬ出来事と不安定な心理状態の2つの因子が影響していることが明確になった。5. 産婦人科混合病棟に勤務する看護師の褥婦に対する思いを面接調査を行い、4つのカテゴリーに分類された。6. がん患者指導管理料算定後、継続支援の現状調査を行った結果、20名(19%)に継続支援が実施されていた。7. 平成27年6月～28年6月までにがん患者指導管理料算定した患者の現状調査を行った結果、対象患者は97名で、その内88名が消化器外科の患者であった。対応看護師はがん看護専門看護師、乳がん看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師であった。対応平均時間は52.8分であった。8. ICU-AWリスクが高い50歳代の脳出血患者に対して、早期離床に向けた能動運動を促した結果、MMTの改善が見られた。9. 頸椎後方手術に使用する馬蹄型頭部支持器による皮膚トラブル軽減に向けて支持器の工夫を行った。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 荒井永地, 新行内賢, 石ヶ森重之, 山本裕之, 及川真奈：ドクターカー活動における現場での資器材不足をまねく因子. 日本救急看護学会学術集会(第18回)(千葉県), 2016. 10.
- 2) 柴田まり子：糖尿病患者に対する看護師の認識・関わり方：語りから見えてきた看護師への支援方法. 日本糖尿病教育・看護学会学術集会(第21回)(山梨県), 2016. 9.
- 3) 一瀬友里, 水本陽子, 小島さとみ, 熊谷智子：頸椎後方手術における圧と皮膚トラブルの関係：馬蹄型頭部支持器の評価から顔面の皮膚トラブル軽減を目指して. 東京都看護協会多摩南地区支部看護研究発表会(平成28年度)(東京都), 2016. 12.

(2) 口演：

- 1) 後藤 円, 栗栖啓充¹⁾, 松下隆哉²⁾, 宮城調司³⁾, 金川千恵⁴⁾, 酒井眞知子⁵⁾, 嶋田紗知⁶⁾, 高橋大悟⁷⁾, 中野貴世⁸⁾, 野口武志⁹⁾, 野添美岐¹⁰⁾ (1) 多摩丘陵病院薬剤科, (2) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科, (3) 立川相互病院内分泌・代謝科, (4) 立川相互病院看護部, (5) 多摩みなみクリニック, (6) あきしま相互病院通所リハビリ, (7) 全国労働金庫健康保険組合健康指導部, (8) 高村内科クリニック, (9) 調布東山病院薬剤科, (10) その他)：「高齢者糖尿病：療養支援のジレンマ」多施設・多職種でのワークショップの試み：臨床倫理4分割表を用いて. 日本糖尿病学会年次学術集会(第59回)(京都府), 2016. 5.

(3) 示説：

- 1) 滝澤聖子, 高仲雅子：A病院におけるがん患者指導管理料算定の現状. 日本がん看護学会学術集会(第31回)(高知県), 2017. 2.
- 2) 高仲雅子, 滝澤聖子：がん患者指導管理の継続支援の現状と課題. 日本がん看護学会学術集会(第31回)(高知県), 2017. 2.
- 3) 佐々木千絵, 北井美樹：産婦人科混合病棟に勤務する看護師の褥婦に対する思い. 日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会(第47回)(三重県), 2016. 11.
- 4) 高仲雅子, 吉川栄省¹⁾, 高山善光²⁾, 稲本絵里³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院精神神経科, (2) 日本医科大学多摩永山病院薬剤部, (3) 日本医科大学多摩永山病院医療連携室)：消化器外科患者の苦痛のスクリーニング質問票の使用状況と課題. 日本緩和医療学会学術大会(第21回)(京都府), 2016. 6.
- 5) 中村 愛, 長野 忍, 山本裕之, 前田省悟, 上原みずき：ICU-AWリスクが高い患者に対する早期離床に向けた能動運動の有効性. 日本集中治療医学会学術集会(第44回)(北海道), 2017. 3.

【多摩永山病院消化器科】

研究概要

当科は消化器全般の疾患を診療の対象とし、幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指すとともに、消化器疾患に関する臨床研究を行っている。研究活動としては、1) 日常診療で多く遭遇する消化管出血の現状や病態を、上部および下部消化管の内視鏡検査を用いて解析している。具体的には、*Helicobacter pylori* 感染や非ステロイド性消炎鎮痛薬と胃病変との関連性や *Helicobacter pylori* の2次除菌、3次除菌における有効性の比較検討、透析患者における尿素呼気試験を含めた *Helicobacter pylori* の存在診断法の検討、食道胃逆流症、機能的胃症、過敏性腸症候群などの消化管運動異常の解析、および、逆流性食道炎や胃潰瘍の発生機序に関して、基礎および臨床疫学的な研究を行っている。2) アルコール性脂肪肝や非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の病態を検討するとともに、C型慢性肝炎に対する経口薬による治療効果と副作用の発現、について検討し症例を蓄積中である。3) 炎症性腸疾患の診断と治療について、とくに潰瘍性大腸炎に対する白血球(顆粒球)吸着療法、および抗TNF製剤による治療の症例を蓄積している。4) 中国、韓国、ベトナム、タイ、ネパール、ミャンマー、バングラデシュなど東南アジアの国々において *Helicobacter pylori* 感染・胃十二指腸疾患の現状と、背景胃粘膜や病態の相異について疫学調査を行っている。特に、平成22年度4月より大分大学との共同研究「アジア諸国における *Helicobacter pylori* 感染の実態と胃発癌機序の解明」が始まっているほか、胆汁酸逆流が胃粘膜に及ぼす影響についても他施設との共同研究を行っている。

研究業績

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 松久威史：何でも答えます。Helicobacter カンファレンス 2016 (2016.01.30.) (東京), 2016. 10.

(2) シンポジウム：

- 1) Matsuhisa T：Characteristic endoscopic findings in *Helicobacter pylori* positive and negative cases. Mongolian Conference (Mongol), 2016. 6.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 正岡健洋¹、鈴木秀和¹、西澤俊宏¹、小俣富美雄¹、伊藤慎芳¹、浅岡大介¹、水野滋章¹、大草敏史¹、川村 洋¹、徳永健吾¹、佐々木仁¹、鳥居 明¹、栗原直人¹、松久威史、鈴木雅之¹ (1) 東京 HP 研究会)：東京都内他施設共同調査による *Helicobacter pylori* 1 次・2 次除菌率の経年変化 続報。ヘリコバクター学会 (第 22 回) (大分), 2016. 6.

(4) ワークショップ：

- 1) 小俣富美雄¹、高橋信一²、徳永健吾²、伊藤慎芳²、川村 洋²、水野滋章²、永原章仁²、浅岡大介²、川上浩平²、河合 隆²、鈴木秀和²、正岡健洋²、大草敏史²、松久威史、西澤俊宏²、その他 6 名 (1) 聖路加国際病院内科, 2) 東京 HP 研究会)：血清抗ヘリコバクターピロリ IgG 抗体の診断能の検討。カットオフ値に注目して：東京都他施設共同研究。ヘリコバクター学会学術集会 (第 22 回) (大分), 2016. 6.
- 2) 中村正彦¹、村山争明²、松久威史、山岡吉生³ (1) 北里大学薬学部病態解析学, 2) 日本大学薬学部病原微生物学, 3) 大分大学環境・予防医学)：アジア諸国における上部消化管患者における NHPH 感染実態の検討。ヘリコバクター学会学術集会 (第 22 回) (大分), 2016. 6.

(5) 一般講演：

- 1) 重松 秀、津久井拓、高木信介、佐藤 航、丸木雄太、馬來康太郎、名児耶浩幸、横山 正¹、吉田 寛¹、山本 彰²、上田達男²、中込明裕³、草間芳樹³、岩切勝彦⁴ (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院放射線科, 3) 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科, 4) 日本医科大学消化器・肝臓内科)：脾動脈瘤塞栓術後に急性膵炎を合併した 1 例。日本消化器病学会関東支部例会 (第 340 回) (東京), 2016. 7.
- 2) 津久井拓、重松 秀、高木信介、佐藤 航、馬來康太郎、名児耶浩幸、横山 正¹、牧野浩司¹、草間芳樹²、岩切勝彦³ (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器・乳腺外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科, 3) 日本医科大学消化器・肝臓内科)：脾動脈瘤塞栓術後急性膵炎の治癒後出現した膵仮性嚢胞にパンクレリパーゼが著効を示した 1 例。日本内科学会関東地方会 (第 631 回) (東京), 2017. 3.
- 3) 佐藤 航、三井啓吾¹、高木信介、重松 秀、大森 順²、秋元直彦¹、鈴木将大¹、小杉友紀¹、馬來康太郎¹、勝矢由紀子¹、江原彰仁¹、瀬尾継彦¹、米澤真興²、田中 周¹、辰口篤志¹、その他 2 名 (1) 日本医科大学消化器・肝臓内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科)：術後再建腸管症例におけるバルーン内視鏡による ERCP 関連手技の検討。日本消化器病学会総会 (第 102 回) (東京), 2016. 4.
- 4) 佐藤 航、三井啓吾¹、高木信介、重松 秀、大森 順²、秋元直彦¹、鈴木将大¹、小杉友紀¹、馬來康太郎¹、勝矢由紀子¹、江原彰仁¹、瀬尾継彦¹、米澤真興²、田中 周¹、辰口篤志¹、その他 2 名 (1) 日本医科大学消化器・肝臓内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科)：術後再建腸管症例におけるバルーン内視鏡による ERCP 関連手技の検討。日本消化器病学会総会 (第 102 回) (東京), 2016. 4.
- 5) 佐藤 航、三井啓吾¹、高木信介、重松 秀、大森 順²、秋元直彦¹、鈴木将大¹、小杉友紀¹、馬來康太郎¹、勝矢由紀子¹、江原彰仁¹、瀬尾継彦¹、米澤真興²、田中 周¹、辰口篤志¹、その他 2 名 (1) 日本医科大学消化器・肝臓内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科)：術後再建腸管症例におけるバルーン内視鏡による ERCP 関連手技の検討。日本消化器病学会総会 (第 102 回) (東京), 2016. 4.
- 6) 大森 順¹、三井啓吾²、高木信介、重松 秀、秋元直彦²、佐藤 航、鈴木将大²、小杉友紀²、馬來康太郎、江原彰仁²、米澤真興¹、田中 周²、辰口篤志²、藤森俊二¹、岩切勝彦² (1) 日本医科大学千葉北総病院内科, 2) 日本医科大学消化器・肝臓内科)：バルーン内視鏡による小腸悪性リンパ腫の内視鏡診断とその特徴。日本消化器内視鏡学会総会 (第 92 回) (神戸), 2016. 11.
- 7) 大森 順¹、三井啓吾²、高木信介、重松 秀、秋元直彦²、佐藤 航、鈴木将大²、小杉友紀²、馬來康太郎、江原彰仁²、米澤真興¹、田中 周²、辰口篤志²、藤森俊二¹、岩切勝彦² (1) 日本医科大学千葉北総病院内科, 2) 日本医科大学消化器・肝臓内科)：バルーン内視鏡による小腸悪性リンパ腫の内視鏡診断とその特徴。日本消化器内視鏡学会総会 (第 92 回) (神戸), 2016. 11.
- 8) 川本愛実¹、河越哲郎¹、丸木雄太¹、鮑本哲兵¹、山脇博士¹、小高康裕¹、新福摩弓、名児耶浩幸、植木信江¹、二神生爾¹、岩切勝彦¹ (1) 日本医科大学消化器・肝臓内科)：長期観察し得た化学療法による臨床的 CR 達成切除不能胃癌の 1 例。日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 103 回) (東京), 2016. 12.
- 9) 河越哲郎¹、丸木雄太¹、名児耶浩幸、小杉友紀¹、植木信江¹、辰口篤志¹、二神生爾¹、岩切勝彦¹ (1) 日本医科大学消化器・肝臓

- 内科)：切除不能高腫瘍量大腸癌 (ESMO group2) の治療戦略. 日本消化器病学会大会 (第 58 回) (神戸), 2016. 11.
- 10) 植木信江¹⁾, 鮎本哲兵¹⁾, 丸木雄太¹⁾, 山脇博士¹⁾, 小高 康裕¹⁾, 名見耶 浩幸, 楠 正典²⁾, 河越 哲郎¹⁾, 二神 生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切 勝彦¹⁾ (1) 日本医科大学消化器・肝臓内科, (2) 日本医科大学千葉北総病院内科)：高齢者の胃腫瘍性病変における ESD の有効性と安全性. 日本消化器病学会大会 (第 58 回) (神戸), 2016. 11.
- 11) 樋口和寿¹⁾, 二神生爾¹⁾, 山脇博士¹⁾, 金子恵子¹⁾, 橋本知実¹⁾, 小高康裕¹⁾, 名見耶浩幸, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 中塚雄久²⁾, 川本智章¹⁾, 岩切勝彦¹⁾ (1) 日本医科大学消化器・肝臓内科, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：難治性心窩部痛症候群に対し EUS を施行することで早期慢性膵炎と診断できた 5 症例. 日本消化器病学会大会 (第 58 回) (神戸), 2016. 11.
- 12) 山脇博士¹⁾, 二神生爾¹⁾, 橋本知実¹⁾, 小高康裕¹⁾, 名見耶浩幸, 河越哲郎¹⁾, 岩切勝彦¹⁾ (1) 日本医科大学消化器・肝臓内科)：acotiamide および PPI 併用群における消化管運動能ならびに脳幹 peptide に及ぼす影響の解析. 日本消化器病学会総会 (第 102 回) (東京), 2016. 4.
- 13) 大森 順¹⁾, 三井啓吾²⁾, 高木信介, 重松 秀, 秋元直彦²⁾, 佐藤 航, 鈴木将大²⁾, 小杉友紀²⁾, 馬來康太郎, 勝矢由紀子²⁾, 江原彰仁²⁾, 米澤真興¹⁾, 田中 周²⁾, 辰口篤志²⁾, 藤森俊二¹⁾, その他 1 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院内科, (2) 日本医科大学消化器・肝臓内科)：バルーン内視鏡を中心とした小腸悪性リンパ腫診断とその予後. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 91 回) (東京), 2016. 5.
- 14) 村井隆三¹⁾, 松久威史, 青柳賀子¹⁾, 羽田丈紀¹⁾ (1) おなか会おなかクリニック)：一般臨床におけるボノプラザンを用いたピロリ菌除菌治療成績 (会議録). 日本消化器病学会総会 (第 102 回) (東京), 2016. 4.
- 15) Nakamura M¹⁾, Overby A¹⁾, Matsuhisa T, Yamaoka Y²⁾, Sharma S³⁾, Yee T⁴⁾, Murayama S⁵⁾ (1) School of Pharmacy, Kitazato Univ., (2) Department of Environment and Prevention Medicine, Oita School of Medicine, (3) School of Pharmacy, Nihon Univ., (4) Nepal Medical School, (5) Department of GI and HBP Surgery, No2 Defence Service General Hospital)：Prevalence of non-Helicobacter pylori Helicobacter in Upper Gastrointestinal Diseases in Myanmar and Nepal. Asia Pacific Digestive Week (Kobe), 2016. 11.
- 16) 徳永健吾¹⁾, 伊藤慎芳¹⁾, 水野滋章¹⁾, 栗原直人¹⁾, 松久威史, 鈴木雅之¹⁾, 永原章仁¹⁾, 浅岡大介¹⁾, 竹内義明¹⁾, 小俣富美雄¹⁾, 川上浩平¹⁾, 西澤俊宏¹⁾, 河合 隆¹⁾, 川村 洋¹⁾, 鳥居 明¹⁾, その他 6 名 (1) 東京 HP 研究会)：シタフロキサシンを用いた H.pylori 3 次除菌療法の有用性 - 東京都内他施設検討 -. ヘリコバクター学会 (第 22 回) (大分), 2016. 6.

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 松久威史：Helicobacter pylori 感染状況の変遷 - 年次・地域・人種・菌株の差異 - The trend of Helicobacter pylori infection rate : time, region, race, and stain- アジア地域における Helicobacter pylori 感染率. Helicobacter Research 2015 ; 19 (5) : 469-473.
- 2) 松久威史：Helicobacter year book 2014~2015-Helicobacter 研究の更なる飛躍：Helicobacter 研究の最新レビュー Helicobacter pylori と非胃・十二指腸疾患とのかわり. Helicobacter Research 19 2015 ; 19 (2) : 155-160.

追加分原著：

- 1) Tomtitchong P¹⁾, Timtonom S²⁾, Eiamtrakul S³⁾, Miki M⁴⁾, Matsuhisa T, Yamada N⁵⁾, Matsukura N⁶⁾ (1) Department of Surgery, Faculty of Medicine Thammasat University, (2) Department of Medicine, Kawila Hospital, (3) Division of Pathology, Army Institute of Pathology, (4) Shiroishi central Hospital, (5) The Second Department of Pathology, Nippon Medical School, (6) The First Department of Surgery, Nippon Medical School)：Gastroduodenal pathology in Patients with Asymptomatic Gallbladder Stones. Hepato-Gastroenterology 2014 ; 61 (1) : 236-239.
- 2) Matsuhisa T, Yamaoka Y¹⁾, Uchida T²⁾, Duger D³⁾, Adijasuren B⁴⁾, Khasag O⁵⁾, Tegshee T⁵⁾, Tsogt-Ochir B⁶⁾ (1) Department of Environmental and Preventive Medicine, Oita University of Medicine, (2) Department of Molecular Pathology, Oita University of Medicine, (3) Mongolian National University of Medical Science, (4) Department of Endoscopy, Ulaanbaatar Songdo Hospital, (5) Department of Gastroenterology, Mongolian National University of Medical Science, (6) Department of Gastroenterology, Third Central State Hospital)：Gastric mucosa in Mongolian and Japanese patients with gastric cancer and Helicobacter pylori infection. World Journal of Gastroenterology 2015 ; 21 (27) : 8408-8417.

著書

追加分著書：

- 1) 松久威史：[分担] ピロリ感染を診断する. ピロリ菌除菌治療パーフェクトガイド (編集：榊 信廣), 2015 ; pp5-11, 日本医事新報社.

学会発表

追加分教育講演：

- 1) 松久威史：ヘリコバクター・ピロリ感染からみた日本人の胃病変：アジア人との相違. 東京消化器内視鏡技師研究会（第29回）（東京），2016. 2.

追加分特別講演：

- 1) Matsuhisa T, Yamaoka Y¹⁾ (¹⁾ Oita University) : Study of gastric cancer, *Helicobacter pylori* infection and gastric mucosa in Mongolian : comparison with Japanese. *Helicobacter* Symposium in Mongolia (Khovsgol), 2015. 7.

32. 千葉北総病院付置施設等

[千葉北総病院集中治療室]

研究概要

開設以来、重症循環器疾患を主体に集中管理を要する内科疾患についての病態、診断、治療に係る研究を継続し、原著と症例報告を含め9件を欧文誌上で発表、その他の研究課題を含め国内外の主要学会で報告した。急性冠症候群については、心筋梗塞の予後についての研究、冠動脈疾患の画像評価を主体とする研究を継続している。千葉北総病院ではドクターヘリ搬送される重症循環器疾患が多く、その有用性についての検討も継続している。急性心不全については、急性腎障害の合併（心腎連関）についての研究継続とともに、重症度判定法、心不全症例の季節による特徴、肥満との関係ならびに肝機能障害との関係、高尿酸血症との関係、貧血との関係についての研究を進めている。急性大動脈解離では肺、腎を主体とした合併症についての研究、肺循環については旅行者血栓症を含めた肺血栓塞栓症についての研究を続けている。また、心停止後に入院した症例の神経学的保護を目的とした低体温療法の有用性、脳内酸素飽和度の臨床的意義ならびに最新の体表冷却装置の特長についての研究を継続している。その他、急性膵炎、敗血症、全身性炎症反応症候群、急性肺障害、急性腎不全などについて、薬物療法、急性血液浄化療法、呼吸管理法を中心に研究を継続している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Inami T¹⁾, Okabe M²⁾, Matsushita M, Kobayashi N, Inokuchi K²⁾, Hata N, Seino Y¹⁾, Shimizu W³⁾ (1) Dept of Hematology, Nippon Medical School, 2) Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : JAK2 mutation and acute coronary syndrome complicated with stent thrombosis. *Heart Vessel* 2016 ; 31 (10) : 1714-1716.
- 2) Kobayashi N, Takano M¹⁾, Hata N, Kume N²⁾, Tsurumi M, Shirakabe A, Okazaki H, Shibuya J, Shiomura R, Nishigoori S, Seino Y¹⁾, Shimizu W³⁾ (1) Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Division of Clinical Pharmacy, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kobe Gakuin University, 3) Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Matrix Metalloproteinase-9, as a Marker for Plaque Rupture and a Predictor of Adverse Clinical Outcome in Patients with Acute Coronary Syndrome : An Optical Coherence Tomography Study. *Cardiology* 2016 ; 135 (-) : 56-65.
- 3) Okazaki H, Shirakabe A, Kobayashi N, Hata N, Shinada T, Matsushita M, Yamamoto Y, Shibuya J, Shiomura R, Nishigoori S, Asai K¹⁾, Shimizu W¹⁾ (1) Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : The Prognostic Impact of Uric Acid in Patients with Severely Decompensated Acute Heart Failure. *J Cardiol* 2016 ; 68 (5) : 384-391.
- 4) Shirakabe A, Kobayashi N, Hata N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Okazaki H, Matsushita M, Yamamoto Y, Yokoyama S, Asai K¹⁾, Shimizu W¹⁾ (1) Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : The serum heart-type fatty acid-binding protein (HFABP) levels can be used to detect the presence of acute kidney injury on admission in patients admitted to the non-surgical intensive care unit. *BMC Cardiovascular Disorders* 2016 ; 16 (1) : 174.
- 5) Komiyama H¹⁾, Takano H²⁾, Nakamura S²⁾, Takano M¹⁾, Hata N, Miyauchi Y¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K²⁾, Shimizu W²⁾ (1) Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Geographical Predisposition Influences on the Distribution and Tissue Characterisation of Eccentric Coronary Plaques in Non-Branching Coronary Arteries : Cross-Sectional Study of Coronary Plaques Analysed by Intravascular Ultrasound. *Cardiovascular Ultrasound* 2016 ; 14 (1) : 47.

(2) 総説：

- 1) 畑 典武：急性肺血栓塞栓症における retrievable IVC フィルター挿入は不要？. *ICU と CCU* 2016 ; 40 (10) : 685-691.

(3) 症例報告：

- 1) Shiomura R, Kobayashi N, Hata N, Shimizu W¹⁾ (1) Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Rapid Growth of Giant Coronary Artery Aneurysm following Treatment of Stent Edge Dissection. *JACC Cardiovascular Interventions* 2016 ; 9 (13) : e127-e128.
- 2) Kobayashi N, Shibata Y, Hata N, Shimizu W¹⁾ (1) Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Formation of Infectious Coronary Artery Aneurysms After Percutaneous Coronary Intervention in a Patient With Acute Myocardial Infarction Due to Septic Embolism. *JACC : Cardiovascular Interventions* 2017 ; 10 (3) : e21-e22.
- 3) Shibuya J, Kobayashi N, Hata N, Bessho R¹⁾, Fujii M¹⁾, Shimizu W²⁾ (1) Dept of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School

Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Dept of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Intravascular Ultrasound and Optical Coherence Tomography Images for Direct Right Coronary Artery Injury after Tricuspid Valve Annuloplasty. Eurointervention 2017 ; 12 (16) : 1969-1969.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Shirakabe A, Ikeda Y¹⁾, Saito T¹⁾, Peiyong Z¹⁾, Hata N, Asai K²⁾, Shimizu W²⁾, Sadojima J¹⁾ (¹⁾ Dept of Cell Biology and Molecular Medicine, Rutgers New Jersey Medical School, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Drp1-dependent mitochondrial autophagy plays a protective role against pressure-overload-induced mitochondrial dysfunction and heart failure. 日本生理学会大会 (第 94 回) (浜松), 2017. 3.

(2) セミナー :

- 1) 畑 典武 : 急性心不全における心腎連関 (企画セミナー : 集中治療と臓器連関). 日本集中治療医学会総会 (第 44 回) (札幌), 2017. 3.
- 2) Shirakabe A : Early treatment of Tolvaptan in Acute Heart Failure with AKI. Annual Philippine Society of Nephrology Convention (37th) (Manila), 2017. 3.

(3) 一般講演 :

- 1) 木内一貴, 小林宣明, 西郡 卓, 岡崎大武, 畑 典武, 栗原 理¹⁾, 清野精彦¹⁾, 鶴見昌史²⁾, 脇田知志³⁾, 清水 渉⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院循環器内科, ²⁾ 石川島記念病院循環器内科, ³⁾ 日本医科大学血液内科, ⁴⁾ 日本医科大学循環器内科) : 肺動脈塞栓症を契機に遺伝子変異の特定に至った先天性アンチトロンビン欠乏症の 1 例. 日本内科学会関東甲信越地方会 (第 624 回) (東京), 2016. 6.
- 2) 澁谷淳介 : 三尖弁形成術後に右冠動脈閉塞をきたし, 血管内イメージングで観察し得た 1 例. 千葉心血管インターベンション研究会 (第 18 回) (千葉), 2016. 7.
- 3) 白壁章宏 : 心不全におけるミトコンドリアオートファジーの役割. 日本医科大学医学会総会 (第 84 回) (東京), 2016. 9.
- 4) 澁谷淳介, 小林宣明, 内山沙央里, 西郡 卓, 塩村玲子, 岡崎大武, 白壁章宏, 品田卓郎, 畑 典武, 清水 渉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学循環器内科) : 冬季発症急性冠症候群の臨床的特徴と予後 : Optical coherence tomography を用いた検討. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
- 5) 塩村玲子, 小林宣明, 内山沙央里, 西郡 卓, 澁谷淳介, 岡崎大武, 白壁章宏, 品田卓郎, 畑 典武, 清水 渉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学循環器内科) : 収縮期血圧低値の急性心不全は予後不良であり, 肝胆道系酵素値が予後を予測しうる. 日本心臓病学会学術集会 (第 64 回) (東京), 2016. 9.
- 6) 白壁章宏, 小林宣明, 岡崎大武, 松下誠人, 澁谷淳介, 西郡 卓, 畑 典武, 浅井邦也¹⁾, 清水 渉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学循環器内科) : Clinical significance of the measurement of urinary liver-fatty acid-binding protein (LFABP) excretion in acute heart failure patients. 日本心不全学会 (第 20 回) (札幌), 2016. 10.
- 7) Shirakabe A, Kobayashi N, Okazaki H, Matsushita M, Shibuya J, Nishigoori S, Hata N, Asai K¹⁾, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : The Serum Heart-type Fatty Acid-Binding Protein (HFABP) Levels Can be Used to Detect the Presence of Acute Kidney Injury on Admission in Patients Admitted to the Non-surgical Intensive Care Unit. AHA Scientific Session 2016 (New Orleans), 2016. 11.
- 8) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Okazaki H, Matsushita M, Shibuya J, Nishigoori S, Asai K¹⁾, Shimizu W¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Clinical significance of the measurement of Urinary Liver-Fatty Acid-Binding Protein (LFABP) Excretion in Acute Heart Failure Patients. AHA Scientific Session 2016 (New Orleans), 2016. 11.

[千葉北総病院病理部]

研究業績

著 書

- 1) 清水秀樹, 羽鳥 努, 京本晃典, 笹谷昌司 : [分担] 病理検査で必要な化学物質に関する法規制 : 毒物および劇物取締法・労働安全衛生法. MEDICAL TECHNOLOGY 2016 Vol.44 No.9, 2016 ; pp998-1004, 医歯薬出版株式会社.
- 2) 清水秀樹 : [分担] 質疑応答 臨床一般/法律・雑件「ホルムアルデヒドとエチレンオキシド取扱者への検診はどうなっているか?」(回答). 週刊日本医事新報 (梅澤俊彦), 2016 ; pp60-61, 日本医事新報社.
- 3) 清水秀樹 : [分担] 読者質問箱臨床検査で使用されている有機溶剤が妊娠中の臨床検査技師とその胎児に及ぼす影響と対処方法につ

いて教えてください。検査と技術 vol45 No2 (株式会社 医学書院編集室), 2017; pp154-156. 株式会社 医学書院.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 清水秀樹: 病理業務における試薬管理のマネジメント. 神奈川県医学検査学会 (第 65 回) (横浜市), 2016. 11.
- 2) 清水秀樹: 病理検査室の作業環境対策・化学物質のリスクアセスメントと濃度低減装置. 北日本医学検査学会 (第 5 回) (新潟県), 2016. 10.

(2) 一般講演:

- 1) 三枝順子, 京本晃典, 小黒辰夫¹⁾, 浅野伍朗²⁾, 羽鳥 努¹⁾ 日本医科大学共同研究施設 形態解析研究室, ²⁾ 博慈会高等看護学院): 広視野樹脂包埋法 (FSEM) を用いての乳癌腫瘍の中心部と辺縁部における癌細胞の比較検討. 日本臨床分子形態学界 総会・学術集会 (第 48 回) (熊本県), 2016. 9.
- 2) 柳 雅人¹⁾, 三神 晃²⁾, 羽鳥 努, 守田晃二郎¹⁾, 中森央貴¹⁾, 箕輪忠明³⁾, 田邊邦明¹⁾, 根本 勺¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, ²⁾ がん研有明病院 泌尿器科, ³⁾ 博慈会記念総合病院 泌尿器科, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科): TUR で診断したビルハイツ住血吸虫症の 1 例. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 30 回) (大阪府), 2016. 11.

著 書

[追加分]

追加分:

- 1) 中村直哉¹⁾, 佐々木惇²⁾, 有田茂実³⁾, 伊古田勇人⁴⁾, 井野元智恵¹⁾, 佐藤信也⁵⁾, 佐藤勇一郎⁶⁾, 清水秀樹, 芹澤昭彦⁷⁾, 武井英博⁸⁾, 平戸純子⁹⁾ (¹⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学, ²⁾ 埼玉医科大学病理学, ³⁾ 千葉県がんセンター臨床病理部病理診断科, ⁴⁾ 群馬大学大学院医学系研究科病態病理学分野, ⁵⁾ 国際医療福祉大学福岡保険医療学部医学検査学科, ⁶⁾ 宮崎大学医学部附属病院病理診断科・病理部, ⁷⁾ 東海大学医学部附属病院病理検査技術科, ⁸⁾ 旭川医科大学病理部, ⁹⁾ 群馬大学医学部附属病院病理部・病理診断科): [共著] 中枢神経・脳脊髄液. 細胞診ガイドライン 3 甲状腺・内分泌・神経系 2015 年版 (日本臨床細胞学会), 2015; pp130-196. 金原出版株式会社.

学会発表

追加分ワークショップ:

- 1) 清水秀樹, 羽鳥 努: 病理診断業務における職場環境改善の流れと法的背景: 化学物質について. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 54 回) (名古屋), 2015. 7.

[千葉北総病院薬剤部]

研究概要

ここ数年学会参加等に補助をしてきたその成果が芽吹き始めている。発表されたものはそのレベルが上がっており、発表していないまでも目標をみつけ更なる業務・研究への意欲が感じられる。今後の活動に期待していきたい。

研究業績

論 文

(1) 総説:

- 1) 浜田康次: 「R」と「N」の違い. 青レシピプラス 2016; 2 (3): 1-3.
- 2) 浜田康次: 最新の保険査定事例から 20. alfresa pharmacy news 2016; (265): 3-3.
- 3) 浜田康次: 魚インスリンと吸入インスリン. レシピプラス 2016; 15 (2): 108-108.
- 4) 浜田康次: お薬ランキング (ARB). 治療 2016; 98 (4): 479-479.
- 5) 浜田康次: お薬ランキング (β 遮断薬). 治療 2016; 98 (5): 611-611.
- 6) 浜田康次: 最新の保険査定事例から 21. alfresa pharmacy news 2016; (267): 3-3.
- 7) 浜田康次: お薬ランキング (利尿薬). 治療 2016; 98 (6): 767-767.
- 8) 浜田康次: 最近, 高額な医薬品が増えています. ① 内服薬~その1~. 月刊ナーシング 2016; 36 (6): 4-5.
- 9) 浜田康次: 感染症治療薬, 最新の処方動向は?. 薬局 2016; 67 (7): 5-7.
- 10) 浜田康次: 最新の保険査定事例から 22. alfresa pharmacy news 2016; (269): 3-3.
- 11) 浜田康次: お薬ランキング (カルシウム拮抗薬). 治療 2016; 98 (7): 951-951.

- 12) 浜田康次：統合失調症治療薬の新技術. 青レシピプラス 2016；3 (3)：1-3.
- 13) 浜田康次：妻を帽子と間違えた男. レシピプラス 2016；115 (3)：25-25.
- 14) 浜田康次：最新の保険査定事例から 23. alfresa pharmacy news 2016；(271)：3-3.
- 15) 浜田康次：お薬ランキング (HMG-CoA 還元酵素阻害剤). 治療 2016；98 (8)：1171-1171.
- 16) 浜田康次：最新の保険査定事例から 24. alfresa pharmacy news 2016；(273)：3-3.
- 17) 浜田康次：お薬ランキング (ヒスタミン H2 受容体拮抗薬). 治療 2016；98 (9)：1367-1367.
- 18) 浜田康次：最近、高額な医薬品が増えています。②内服薬～その 2～. 月刊ナーシング 2016；36 (10)：4-5.
- 19) 浜田康次：バイエルクロスと解熱薬. 青レシピプラス 2016；4 (4)：1-3.
- 20) 浜田康次：人体 600 万年史. レシピプラス 2016；15 (4)：53-53.
- 21) 浜田康次：お薬ランキング (プロトンポンプ阻害薬). 治療 2016；98 (10)：1531-1531.
- 22) 浜田康次：お薬ランキング (便秘治療薬). 治療 2016；98 (11)：1719-1719.
- 23) 浜田康次：最近、高額な医薬品が増えています。③注射薬～その 1～. 月刊ナーシング 2016；36 (12)：4-5.
- 24) 浜田康次：お薬ランキング (解熱鎮痛薬). 治療 2016；98 (12)：1887-1887.
- 25) 浜田康次：お薬ランキング (睡眠薬). 治療 2017；99 (1)：7-7.
- 26) 浜田康次：最後の一葉. レシピプラス 2017；16 (1)：106-106.
- 27) 浜田康次：48 時間：抗インフルエンザウイルス薬. 青レシピプラス 2017；4 (1)：1-3.
- 28) 浜田康次：お薬ランキング (フルオロキノロン系抗菌薬). 治療 2017；99 (2)：123-123.
- 29) 浜田康次：お薬ランキング (抗てんかん薬). 治療 2017；99 (3)：291-291.
- 30) 浜田康次：最近、高額な医薬品が増えています。④注射薬～その 2～. 月刊ナーシング 2017；37 (3)：4-5.
- 31) 渡邊暁洋：地震・火山災害の医療支援, 被災地最前線で薬剤師個人が持っておきたい知識とスキル～ライフラインが断たれた被災地での計量調剤の実践ポイント 2～散剤調剤：上皿天秤がない場合. 薬局 2016；67 (13)：157-159.

著書

- 1) 渡邊暁洋：〔分担〕災害時こそチーム医療が機能する (ひろがった専門家の連携の輪)：薬剤師の役割. 多職種連携で支える災害医療 (小井土雄一・石井美恵子), 2017；pp18-19, 医学書院.
- 2) 濱田康次：〔編集〕わかりやすい薬剤情報提供のための一写真付/服薬指導 CD-ROM 2016 年 9 月版 (患者向け医薬品情報 CD 化編集委員会), 2016；じほう.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 浦 裕之¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部)：慢性期を見据えた急性期てんかん薬物療法. 臨床救急医療薬学研究会 (第 41 回) (東京), 2016. 9.

(2) シンポジウム：

- 1) 渡邊暁洋¹⁾, 勝田 恵¹⁾, 花澤迪子¹⁾, 馬替 仁¹⁾, 福田恵子¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部)：過去の事例から学び, 災害医療体制のあり方について考えよう～薬剤師からの発信～：災害医療における薬剤師をとりまく環境. 日本医療薬学会 (第 26 回) (京都), 2016. 9.
- 2) 渡邊暁洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部)：熊本地震の経験から考える！災害時における薬剤師の役割と課題：薬事コーディネートと薬剤師支援業務. 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 (第 55 回) (岡山), 2016. 11.
- 3) 浦 裕之¹⁾, 渡邊暁洋¹⁾, 山口彩子¹⁾, 田中千尋¹⁾, 屋代亜弓¹⁾, 山崎恵子¹⁾, 石原裕子¹⁾, 福田恵子¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部)：回復期リハビリテーション病棟での薬剤師の関わり：急性期から回復期へ患者を送る際に伝えたいこと. 日本病院薬剤師会関東ブロック (第 46 回) (千葉), 2016. 8.

(3) 一般講演：

- 1) 下川陽子^{1,2)}, 松本智司¹⁾, 太田杏奈¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 伏屋洋志¹⁾, 平野知子¹⁾, 小泉はるか¹⁾, 古山めぐみ¹⁾, 池森紀夫¹⁾, 福田恵子²⁾, 井上大輔¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院緩和ケアチーム, 2) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部)：当院におけるフェンタニルパッカルの使用状況と課題. 日本緩和医療学会学術大会 (第 21 回) (京都), 2016. 6.
- 2) 小泉はるか¹⁾, 下川陽子^{1,2)}, 松本智司¹⁾, 太田杏奈¹⁾, 栗山 翔¹⁾, 伏屋洋志¹⁾, 平野知子¹⁾, 古山めぐみ¹⁾, 池森紀夫¹⁾, 井上大輔²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院緩和ケアチーム, 2) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部)：がん患者に対する STAS-J 症状版を用いた苦痛のスクリーニングの現状と課題. 日本緩和医療学会学術大会 (第 21 回) (京都), 2016. 6.
- 3) 田中千尋¹⁾, 下川陽子¹⁾, 馬替 仁¹⁾, 勝田 恵¹⁾, 渡邊暁洋¹⁾, 福田恵子¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部)：肝動脈化学療法/肝動脈化学療法施行患者における当院での制吐剤の使用状況と悪心・嘔吐の発現率について. 日本病院薬剤師会関東ブロック

(第46回)(千葉), 2016. 8.

- 4) 渡邊暁洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部: 災害医療における薬剤師教育の在り方について. 日本集団災害医学会総会・学術集会(第22回)(名古屋), 2017. 2.
- 5) 中園裕紀¹⁾, 渡邊暁洋¹⁾, 福田恵子¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部: 当院における非弁膜症性心房細動に対するDOAC使用動向調査. 千葉県病院薬剤師会会員研究発表会(第32回)(千葉県), 2017. 3.
- 6) 実川東洋^{1,3)}, 齋藤伸行^{2,3)}, 八木貴典²⁾, 松本 尚²⁾, 日野光紀³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院感染制御部: 持続的腎代替療法(CRRT)に対するVCM投与初期設計への薬学的介入効果の検証. 日本集中治療医学会学術集会(第44回)(札幌), 2017. 3.

(1) セミナー:

[千葉北総病院放射線センター]

研究業績

2) 丸山智之: 上肢の撮影技術の解説. 放射線技術学会東京支部セミナー(第106回)(東京), 2016. 6.

(2) 一般講演:

- 1) 阿部雅志: 急性期脳梗塞における胸部大動脈解離合併症例との鑑別での技師の役割. NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会(第32回)(神戸), 2016. 11.
- 2) 阿部雅志: 急性期脳梗塞における胸部大動脈解離合併症例との鑑別での役割: 放射線技師の立場から. 千葉北総神経放射線研究会(第88回)(千葉), 2017. 3.
- 1) 阿部雅志: 「スポーツ損傷における整形外科領域の画像診断」膝関節MRI検査のポイント. フォーシーズンズフォーラム(第72回)(東京), 2016. 5.
- 2) 阿部雅志: 胸部の撮影技術と画像診断. 日本放射線技術学会東京支部東京支部技術フォーラム(第215回)(東京), 2016. 11.
- 3) 阿部雅志: 脾・胆道のMRIについて. フォーシーズンズフォーラム(第72回)(東京), 2017. 2.
- 4) 丸山智之: “胸部の撮影技術と画像診断” 一般撮影領域の撮影技術について. 放射線技術学会東京支部技術フォーラム(第215回)(東京), 2016. 11.
- 5) 丸山智之: “救急診療における一般撮影技術”: こんな時どうする? どう撮る?. 東京ERミーティング(第5回)(東京), 2017. 1.

著書

[追加分]

追加分著書:

- 1) 阿部雅志: [分担] クリニカルスタッフとしてのしびれ・痛み治療へのかかわり 放射線技師の立場から. クリニカルスタッフのためのしびれ・痛み診療と薬物治療, 2014; 中外医学社.
- 2) 阿部雅志: [分担] クリニカルスタッフとしてのしびれ・痛み治療へのかかわり 放射線技師の立場から. クリニカルスタッフのためのしびれ・痛み診療と薬物治療(電子版), 2014; 中外医学社.

学会発表

追加分一般講演:

- 1) 阿部雅志: 撮影法の解析と画像診断⑥(MRI編). 日本放射線技術学会東京支部東京部会(第88回)(東京), 2015. 6.
- 2) 阿部雅志: 緊急MRI検査に対する当院教育プログラム. 脳神経血管内治療学会学術総会(第31回)(岡山), 2015. 11.
- 3) 阿部雅志: 拡散テンソルを用いた腓骨神経描出の試み. 日本脳神経CI学会総会(第39回)(東京), 2016. 1.

[千葉北総病院歯科]

研究概要

当科では、歯科治療におけるスレーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究および臨床的效果についての研究
全身疾患と歯科治療の関係において、II型糖尿病と歯周病との関係についての研究
交通外傷におけるインプラント治療への長期応用における臨床的效果についての研究
有病者における口腔衛生管理に対する臨床的效果についての研究
周術期患者に対する口腔衛生管理に対する臨床的效果各種ブラシにおける有用性および安全性の検証乳酸菌生成が歯周病に及ぼす影響

歯周病セルフチェックアンケート開発などを行っている

研究業績

著書

- 1) 吉峰正彌¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院歯科)：〔分担〕口腔疾患から波及する全身への連鎖疾患が口腔ケアで軽減される理由とは、多職種協働チーム先制医療での口腔ケアFAQ50(鴨井久一, 菊谷武), 2016; pp24-25, 一世出版。
- 2) 鴨井久博¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院歯科)：〔分担〕NST(栄養サポートチーム)とチーム医療における口腔ケアの必要性を教えてください。多職種協働チーム先制医療での口腔ケアFAQ50(鴨井久一, 菊谷武), 2016; pp128-129, 一世出版。
- 3) 吉峰正彌¹⁾, 鴨井久博¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院歯科)：〔分担〕鼻の違和感と鼻水が出る。DENTAL DIAMOND, 2017; pp21-22, デンタルダイヤモンド社。

学会発表

(1) その他：

- 1) 鴨井久博¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院歯科)：超高齢化社会におけるインプラントサポートティップセラピー。秋季歯周病学会学術大会(第59回)(新潟), 2016. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 藤川瑞穂¹⁾, 村田侑加¹⁾, 大木亜悠子¹⁾, 吉峰正彌¹⁾, 鴨井久博¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院歯科)：病院歯科における周術期口腔機能管理の現状と課題。日本口腔ケア学会総会・学術大会(第13回)(千葉), 2016. 4.
- 2) 久野彰子¹⁾, 高澤理奈¹⁾, 鴨井久博²⁾ (日本医科大学付属病院口腔科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院歯科)：医科から歯科へ院内紹介のあった症例の検討。春季歯周病学会学術大会(第58回)(鹿児島), 2016. 5.
- 3) 吉峰正彌¹⁾, 岡崎加奈¹⁾, 藤島伸¹⁾, 小木曾令実¹⁾, 村田侑加¹⁾, 藤川瑞穂¹⁾, 大木亜悠子¹⁾, 鴨井久博¹⁾, 浅木信安²⁾ (日本医科大学千葉北総病院歯科, ²⁾ 浅木歯科医院)：外来化学療法患者における口腔機能管理。秋季歯周病学会学術大会(第59回)(新潟), 2016. 10.
- 4) 藤友崇¹⁾, 古橋宏紀¹⁾, 澤井典子¹⁾, 森本佳伸²⁾, 松原善²⁾, 一圓剛³⁾, 一圓仁³⁾, 皆川直人³⁾, 鴨井久博⁴⁾, 田中司朗⁵⁾, 鴨井久一⁶⁾ (株式会社DeNAライフサイエンス, ²⁾ 第一三共ヘルスケア株式会社, ³⁾ ヒュービットジェノミクス株式会社, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院歯科, ⁵⁾ 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻薬剤疫学分野臨床研究管理学分野, ⁶⁾ 日本歯科大学)：歯周病リスク評価のための新規セルフチェックアンケートの開発とその評価。秋季歯周病学会学術大会(第59回)(新潟), 2016. 10.
- 5) 藤川瑞穂¹⁾, 岡崎加奈¹⁾, 藤島伸¹⁾, 小木曾令実¹⁾, 村田侑加¹⁾, 大木亜悠子¹⁾, 吉峰正彌¹⁾, 鴨井久博¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院歯科)：大型太陽電池付酸化チタン電極内蔵歯ブラシの口腔清掃効果について。2016年度ライフケア学会学術大会(茅ヶ崎), 2016. 11.

[千葉北総病院看護部]

研究概要

本年度の院内研究発表は7演題であった。研究テーマは、自部署の日常業務の中で生じた疑問や思いを研究につなげたものとなっていた。研究結果は、患者の安全の担保につながるもの、疑問への解決を裏付けるものとなった。そして、他部署においても業務改善への活用や新人教育への活用ができるものであった。また、今年度は委員会からの研究発表が行われた。地域と病院、外来と病棟の連携を強化していく時期にあり、疾患や予防に対する退院時教育で何をすべきかを考える良い機会となった。テーマ6. 7. については、4病棟の看護継続教育において1年間受講し、その成果を4病棟と院内の看護研究発表会にて発表を行った。

〈テーマ〉

1. 心電図モニタのアラームに対する思考と行動の調査
- 認識からの判断と行動の実態 -
2. 4階西病棟看護師の手指衛生アルコール擦式剤使用に関する意識調査
3. 脳神経センターにおける行動制限(抑制・拘束)フローチャート導入
- 行動制限(抑制・拘束)時間とせん妄発症率の減少を目指して -
4. 5階東病棟における中心静脈ライン関連血流感染防止への介入効果の検討
5. 再入院患者における持ち込み褥瘡の現状と課題
6. 集中治療室におけるアクションカードを活用するための災害訓練 - エマルゴトレーニングシステムを用いた学習効果 - 7. 熟達した器械出し看護師が得た実践知の獲得過程 - 熟達者が語る実践知の要素 - 院外発表は、教育講演1演題、海外学会2演題を含む10演題が行われた。毎年取り組んでいる看護研究をそれぞれの分野の学会で発表した。

研究業績

著書

- 1) 大森章代：〔分担〕第4章 現場およびへり搬送中の処置介助 V. 開胸. フライトナースハンドブック～救急現場での活動と搬送のために～(監修：日本航空医療学会 編集：日本航空医療学会フライトナースハンドブック編集委員会), 2017; pp117-121, へるす出版.
- 2) 渡辺光子：〔分担〕Part3 排便機能障害へのアプローチ 3. 便失禁ケア用品の特徴と使い方. 排泄ケアガイドブック ―コンチネンスケアの充実をめざして―(編集：一般社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会), 2017; pp223-227, 照林社.
- 3) 渡辺光子：〔分担〕Part4 スキンケア 2. 排便機能障害のスキンケア. 排泄ケアガイドブック ―コンチネンスケアの充実をめざして―(編集：一般社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会), 2017; pp239-246, 照林社.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 白井 舞：高齢者のスキンケア：ベストプラクティス. 日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会（第13回）（東京都 江東区），2016. 12.

(2) 一般講演：

- 1) 倉本雅男, 渡辺光子, 白井 舞：持ち込み褥瘡患者における再入院患者の割合と状況分析. 日本在宅医療学会学術集会（第27回）（神奈川県 横浜市），2016. 6.
- 2) 白井 舞, 渡辺光子, 倉本雅男, 石井暢明¹⁾, 櫻井 透¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 形成外科)：再入院患者における持ち込み褥瘡の現状と課題. 日本褥瘡学会学術集会（第18回）（神奈川県 横浜市），2016. 9.
- 3) 平田貴和子：抗がん剤に関連する医療安全対策の課題：インシデント・アクシデントレポートからの分析. 千葉県看護研究学会（第35回）（千葉県 美浜区），2017. 2.
- 4) 小泉はるか, 平野知子, 古山めぐみ, 下川陽子¹⁾, 松本智司²⁾, 太田杏奈³⁾, 栗山 翔²⁾, 伏屋洋志⁴⁾, 池森紀夫⁵⁾, 井上大輔⁶⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 臨床心理士, 4) 日本医科大学千葉北総病院 リハビリテーション科, 5) 日本医科大学千葉北総病院 メンタルヘルス科, 6) 日本医科大学千葉北総病院 緩和ケア科)：がん患者に対する STAS-J 症状版を用いた苦痛のスクリーニングの現状と課題. 日本緩和医療学会学術大会（第21回）（京都府 京都市），2016. 6.
- 5) 高澤直央：高次脳機能障害によるペーシング障害によって摂食方法を変更した事例. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（第22回）（新潟県 新潟市），2016. 9.
- 6) 渡辺郷美¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 感染制御部)：ICN ネットワーク CHIBA における手指衛生サーベイランス活動の実態調査. 日本環境感染学会総会・学術集会（第32回）（兵庫県 神戸市），2017. 2.
- 7) 渡辺郷美¹⁾, 高橋一美¹⁾, 齋藤伸行¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 感染制御部)：挿入時のケアバンドル実施率調査による中心静脈ライン関連血流感染の減少. 日本環境感染学会総会・学術集会（第32回）（兵庫県 神戸市），2017. 2.
- 8) 水野雅子, 増渕美恵子：Discharge support for the acute care hospital in Japan：Lessons learned from community-based care transitions program in the us. East Asian Forum of Nursing Scholars (The 20th) (Hong Kong), 2017. 3.
- 9) 渡辺光子, 松本智司¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：Sost Coagulation for the Treatment of Intractable Hyper Granulation around Intestinal Stoma Sites. WUWHS (5th) (ITALY), 2016. 9.

〔4〕 付 置 研 究 施 設

1. 先端医学研究所

[分子細胞構造学分野]

研究概要

先端医学研究所分子細胞構造学分野では、平成28年4月1日に新任教授である福原茂朋が赴任し、“血管に関わる疾患の予防法、治療法開発に向けた分子基盤の構築”という新たな研究目標を掲げ、研究をスタートさせた。血管は、からだのすべての細胞に酸素や栄養を供給する生命維持に必須のライフラインであり、その機能異常は、多岐に渡る疾患の発症や進展と密接に関連している。当該研究室では、“血管が如何に形作られ機能しているのか? ”、“血管機能の破綻が如何に様々な病気を発症するのか?”といった疑問を分子レベルで解明することで、上記研究目標の達成を目指している。具体的には、胚が透明なゼブラフィッシュをモデル脊椎動物として用い、蛍光イメージング技術を駆使することで研究を進めてきた。その結果、本年度は、内腔圧が血管新生における血管伸長を抑えることを発見し、内腔圧による血管新生の新たな制御機構を同定した。また、成魚の長時間ライブイメージング法を独自に確立し、皮膚創傷治癒に伴う血管新生の制御機構について解析を行った。さらに、血管新生における内皮細胞の集団細胞移動を制御するメカニズムについて解析し、内皮細胞間の力学的相互作用が血管新生における内皮細胞の一方向移動を制御していることを明らかにした。また、Rap1 低分子量Gタンパク質が、造血幹細胞の発生に極めて重要な役割を持つことを発見した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakajima H¹⁾, Yamamoto K²⁾, Agarwala S³⁾, Terai K⁴⁾, Fukui H¹⁾, Fukuhara S, Ando K¹⁾, Miyazaki T¹⁾, Yokota Y¹⁾, Schmelzer E⁵⁾, Belting H⁵⁾, Affolter M⁵⁾, Lecaudey V⁶⁾, Mochizuki N¹⁾ (1) Department of Cell Biology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, 2) Laboratory of System Physiology, Department of Biomedical Engineering, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, 3) Developmental Biology, SFB850, Institute for Biology I, Albert Ludwigs University of Freiburg, 4) Department of Pathology and Biology of Diseases, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 5) Biozentrum der Universität Basel, 6) Department of Developmental Biology of Vertebrates, Institute for Cell Biology and Neurosciences, Goethe University of Frankfurt) : Flow-dependent endothelial YAP regulation that contributes to vessel maintenance. *Developmental Cell* 2017 ; 40 (6) : 523-536.
- 2) Chiba A¹⁾, Watanabe-Takano H¹⁾, Terai K²⁾, Fukui H¹⁾, Miyazaki T¹⁾, Uemura M²⁾, Hashimoto H³⁾, Hibi M³⁾, Fukuhara S⁴⁾, Mochizuki N¹⁾ (1) Department of Cell Biology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, 2) Laboratory of Function and Morphology, Institute of Molecular and Cellular Biosciences, University of Tokyo, 3) Laboratory of Organogenesis and Organ Function, Bioscience and Biotechnology Center, Nagoya University, 4) Department of Molecular Pathophysiology, Institute of Advanced Medical Science, Nippon Medical School) : Osteocrin, a peptide secreted from the heart and other tissues, contributes to cranial osteogenesis and chondrogenesis in zebrafish. *Development* 2017 ; 144 (2) : 334-344.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 福原茂朋¹⁾, 望月直樹²⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所分子細胞構造学分野, 2) 国立循環器病研究センター研究所細胞生物学部) : 血管新生におけるメカノトランスダクション機構の役割. 日本生体医工学会大会 (第55回) (富山 (富山国際会議場)), 2016. 4.
- 2) 福原茂朋¹⁾, 望月直樹²⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所分子細胞構造学分野, 2) 国立循環器病研究センター研究所細胞生物学部) : 血管新生の蛍光イメージング. 日本炎症・再生医学会 (第37回) (京都 (京都市勧業館 みやこめっせ)), 2016. 6.
- 3) Fukuhara S¹⁾ (1) Department of Molecular Pathophysiology, Institute of Advanced Medical Science, Nippon Medical School) : Live imaging of vascular development in zebrafish. *New Era of Angiogenesis Research (Organized by Japan Vascular Biology and Medicine Organization)* (Grand Front Osaka), 2016. 7.
- 4) 福原茂朋¹⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所分子細胞構造学分野) : 創傷治癒に伴う血管新生のライブイメージング. 日本血管生物医学学会秋期シンポジウム (東京医科歯科大学), 2016. 9.
- 5) 福原茂朋¹⁾, 若山勇紀²⁾, 望月直樹²⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所分子細胞構造学分野, 2) 国立循環器病研究センター研究所細胞生物学部) : 血管新生における内皮細胞の一方向性移動を制御する分子機構. 日本生化学会大会 (第89回) (東北大学川内北キャンパス), 2016. 9.
- 6) 福原茂朋¹⁾, 安藤康史²⁾, 望月直樹²⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所分子細胞構造学分野, 2) 国立循環器病研究センター研究所細胞

生物学部)：血管壁細胞の in vivo ライブイメージング. 日本分子生物 (第 39 回) (パシフィコ横浜), 2016. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 弓削進弥¹⁾, 國田 樹²⁾, 西山功一²⁾, 望月直樹³⁾, 福原茂朋¹⁾ (1) 日本医科大学 先端医学研究所 病態解析学部門, 2) 熊本大学 国際先端医学研究機構, 3) 国立循環器病研究センター研究所 細胞生物学部)：ゼブラフィッシュ成魚の長時間ライブイメージングにより明らかになった血管新生の新たな制御機構. 日本分子生物学会年会 (第 39 回) (横浜 (パシフィコ横浜)), 2016. 11.
- 2) Fukuhara S¹⁾, Wakayama Y²⁾, Mochizuki N²⁾ (1) Department of Molecular Pathophysiology, Institute of Advanced Medical Science, Nippon Medical School, 2) Department of Cell Biology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute)：Molecular mechanism underlying front-rear polarization and directional migration of endothelial tip cells during sprouting angiogenesis. International Vascular Biology Meeting 2016 (19th) (Boston), 2016. 10.

[細胞生物学分野]

研究概要

大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野(先端医学研究所 細胞生物学部門)では, 細胞内小器官のミトコンドリアがエネルギー産生だけでなく多くの病気や老化現象に関わっていることを明らかにし, その機能を重視しながら様々な疾患への関与を探っている。「科学は実用されて光り輝く」を基本とし, 研究が社会に寄与するための基盤となる基礎研究を進めている. ミトコンドリアから発せられる活性酸素が, ほとんどの生活習慣病や老化の原因となることは今や広く知られている. 水素分子が効果的な抗酸化作用を示すことを明らかにし, 2007 年に Nature Medicine に論文を発表した後は, 他の研究室からの報告が相次ぎ, その引用論文は 550 報以上の報告にいたっている. 本年度は, 分子状水素の多彩な機能のメカニズムを追求し, 解明できた内容を論文として発表することができた. 臨床試験では, 水素ガス医療を本格的に臨床応用することに向けての試みが始まり, 論文も発表された. ミトコンドリア病に対しては, タウリン治療が希少疾患の治験段階継続中である. 今年度も国内外での水素の臨床応用に関心が高まり, 水素研究発表の講演が多かったが, 水素の効果が社会的な話題となった. 学会活動においては, 5 月に分子状水素医学生物学会の設立記念講演会を, また 9 月には日本 CellDeath 学会第 25 年会を行った.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Settineri R, Ji J, Luo C, Ellithorpe RR, Mattos FG, Rosenblatt S, Valle LJ, Jinenez A, Ohta S, Nicolson LG : Effects of Hydrogenized Water on Intracellular Biomarkers for Antioxidants, Glucose Uptake, Insulin Signaling and SIRT 1 and Telomerase Activity. American Journal of Food and Nutrition 2016 ; 4 (6) : 161-168.
- 2) Ono T¹⁾, Kamimura N, Matsubashi T¹⁾, Nagai T²⁾, Nishiyama T¹⁾, Endo J¹⁾, Hishiki T^{3, 4)}, Nakanishi T^{3, 5)}, Shimizu N⁶⁾, Tanaka H⁶⁾, Ohta S, Suematsu M³⁾, Ieda M¹⁾, Sano M¹⁾, Fukuda K^{1, 7, 8)}, et al. (1) Dept Cardiol., Keio Univ. Sch. Med., 2) Electron Microscope Labo., Keio Univ. Hosp., 3) Dept. Biochem., Keio Univ. Sch. Med., 4) Clinical and Translational Res. Ctr., Keio Univ. Sch. Med., 5) MS Business Unit, Shimadzu Corporation, 6) Div. Rheumatol., Center for Antibody and Vaccine Therapy, IMSUT Hosp., The Inst. Med. Sci., The Univ. Tokyo, 7) Div. Anti-aging Med., Ctr. Mol. Medicine, Jichi Med. Univ., 8) JST, PRESTO) : The histone 3 lysine 9 methyltransferase inhibitor chaetocin improves prognosis in a rat model of high salt diet-induced heart failure. Sci Rep. 2017 ; 7 : 39752.
- 3) Tamura T¹⁾, Hayashida K¹⁾, Sano M¹⁾, Suzuki M¹⁾, Shibusawa T¹⁾, Yoshizawa J¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Suzuki T¹⁾, Ohta S, Morisaki H¹⁾, Fukuda K¹⁾, Hori S¹⁾ (1) Dept Emergency and Critical Care Med, Keio Univ. Sch. Med.) : Feasibility and Safety of Hydrogen Gas Inhalation for Post-Cardiac Arrest Syndrome-First-in-Human Pilot Study. Circ J 2016 ; 80 (8) : 1870-1873.
- 4) Nakashima Y, Ohta S, Wolf MA : Blue light-induced oxidative stress in live skin. Free Radic Biol Med. 2017 ; 108 (17) : 300-310.

著書

- 1) 太田成男：〔自著〕ミトコンドリアと老化. 日本臨床 74 巻 9 号 老化制御と疾患, 2016 ; pp1456-1460, 日本臨床社.
- 2) 太田成男：〔自著〕ここまでわかった水素水 最新 Q&A. 続・水素水とサビない身体, 2017 ; 小学館.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 太田成男：分子状水素による酸化ストレス軽減と遺伝子発現制御：基礎医学から臨床応用へ. 日本臨床検査自動化学会 (第 48 回) 大

会 (横浜), 2016. 9.

2) 太田成男: 分子状水素による遺伝子発現制御. 日本分子状水素医学生物学会設立記念大会 (第6回年会) (横浜), 2016. 5.

3) 太田成男: 細胞死を抑制する分子状水素. 日本 Cell Death 学会学術集会 (第25回) (東京), 2016. 9.

4) 太田成男: 分子水素の可能性 (脳卒中に学ぶ). スパズム・シンポジウム (第33回) (大阪), 2017. 3.

(2) 招待講演:

1) Ohta S: The molecular mechanism by which H₂ regulates gene expression. What is the primary target of H₂?. Symposium of Chinese Hydrogen Biomedical Association (3rd) (China), 2016. 9.

2) Ohta S: Introduction of Japanese Society of Hydrogen and current situation of hydrogen in Japan. 2016 KOREA International Symposium on Hydrogen (KOREA), 2016. 11.

(3) 基調講演:

1) 太田成男: 水素医学の創始, 展開, 応用とメカニズム. NPO 法人国際医科学研究会フォーラム (第12回) (東京), 2016. 6.

(4) シンポジウム:

1) 上村尚美: 水素水による脳機能維持効果と健康増進への展望. 日本体力医学会大会 (第71回) (岩手), 2016. 9.

2) 太田成男: 水素研究の up-to-date. 日本抗加齢医学会総会 (第16回) (横浜), 2016. 6.

(5) 一般講演:

1) Inai K, Kamimura N, Nishimaki K, Yokota T, Ohta S: Anti-inflammatory and pro-cell death effects of oxidized arachidonic acid in RAW264.7 cells. 日本薬理学会年会 (第90回) (長崎), 2017. 3.

2) Kamimura N, Ichimiya H, Iuchi K, Ohta S: Molecular hydrogen induces expression of the PGC-1 α gene, followed by stimulation of the α pathway that regulates FGF21, and the fatty acid and steroid metabolism. 日本薬理学会年会 (第90回) (長崎), 2017. 3.

3) 上村尚美: 水素分子は転写活性化コアクチベーターである PGC-1 α 遺伝子の発現を誘導することにより脂肪酸代謝を高める. 日本分子状水素医学生物学会設立記念大会 (第6回年会) (横浜), 2016. 5.

4) 井内勝哉: 分子状水素はフリーラジカル連鎖反応に介入して酸化脂質メディエーターを改変することを介して遺伝子発現を制御する. 日本分子状水素医学生物学会設立記念大会 (第6回年会) (横浜), 2016. 5.

5) 上村尚美, 一宮治美, 井内勝哉, 太田成男: 糖尿病モデルマウスにおいて水素分子により誘導される脂肪酸代謝メカニズムの解明. 日本分子生物学会年会 (第39回) (横浜), 2016. 12.

6) 西植貴代美, 井内勝哉, 上村尚美, 横田 隆, 太田成男: 水素分子は多価不飽和脂肪酸のフリーラジカル連鎖反応に介入しジェン生成を抑制する. 日本分子生物学会年会 (第39回) (横浜), 2016. 12.

7) 中嶋祐也, Wolf MA, 太田成男: ブルーライト照射による皮膚への酸化ストレス誘導. 日本分子生物学会 (第39回) (横浜), 2016. 12.

[遺伝子制御学分野]

研究概要

我々は、がん抑制因子 p53 の解析を進めることで、がん化及びがん抑制の分子機構を明らかにすることを目的に研究を続けている。この過程で、p53 の誘導遺伝子の同定を行い、Noxa を始めとする様々な p53 標的遺伝子を発見し解析すると共に、p53 がグルコース代謝を制限することでがん化を抑制していることを発見した。更に、がんは少数存在する幹細胞様の細胞から発生・進行することが明らかとなりつつある。がん幹細胞は化学療法後のがん再発の原因となっており、がん幹細胞をいかにして排除するかが重要な課題となっている。阿部は hedgehog 経路の転写因子 Gli1 が MEP50/PRMT5 アルギニンメチル基転移酵素複合体によって活性化される新しい機構を発見し、この機構ががんの微小環境でのがん幹細胞の維持に重要である事を明らかにして論文を投稿している。同時に、上原はがん微小環境で産生される I 型 IFN ががん幹細胞の維持に働いていることを見出した。中嶋は、抗がん剤によるがん細胞のアポトーシス誘導のメカニズムを解析しており、大学院生の鈴木と共に非小細胞肺癌細胞でシャペロン介在性オートファジーによる生存因子 MCL1 の選択的安定化が肺癌細胞の生存を促進することで抗がん剤に対する抵抗性を誘導していることを見出し報告した。谷村は、Toll 様受容体のシグナル伝達分子 MYD88 が転写因子 NF- κ B 依存的に HIF-1 を誘導してがん化を促進することを見出して論文を投稿している。岩淵は HIF1 による肺癌の治療抵抗性のメカニズムを、清水はグルコース代謝によるがん幹細胞の新たな維持機構を解明し、論文にまとめている。これらの解析に加えて、林は内耳のコルチ器にある支持細胞が全てマクロファージであることを見出し、これがウイルスや細菌の感染から聴覚受容体である有毛細胞を保護していること、このマクロファージが産生するサイトカインが突発性難聴の原因となっていることを発見し、現在論文を投稿している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Suzuki J¹⁾, Nakajima W¹⁾, Suzuki H²⁾, Asano Y¹⁾, Tanaka N¹⁾ (1) Department of Molecular Oncology, Institute for Advanced Medical Sciences, Nippon Medical School, 2) Division of Morphological and Biomolecular Research, Nippon Medical School) : Chaperone-mediated autophagy promotes lung cancer cell survival through selective stabilization of the pro-survival protein, MCL1. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 2017 ; 482 (4) : 1334-1340.

(2) 総説：

- 1) Nakajima W¹⁾, Tanaka N¹⁾ (1) Department of Molecular Oncology, Institute for Advanced Medical Sciences, Nippon Medical School) : BH3 mimetics : Their action and efficacy in cancer chemotherapy. *Integr Cancer Sci Therap.* 2016 2016 ; 3 (3) : 437-441.
- 2) Abe Y¹⁾, Tanaka N¹⁾ (1) Department of Molecular Oncology, Institute for Advanced Medical Sciences, Nippon Medical School) : The Hedgehog Signaling Networks in Lung Cancer : The Mechanisms and Roles in Tumor Progression and Implications for Cancer Therapy. *Biomed. Res. Int.* 2016.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 上原郁野¹⁾, 田中信之¹⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所遺伝子制御学部門) : I型インターフェロンの癌幹細胞での役割と発がんに対する影響. 日本分子生物学会年会 (第39回) (横浜), 2016. 12.
- 2) 鈴木淳也¹⁾, 中嶋 亘¹⁾, 田中信之¹⁾ : オートファジーによるアポトーシスの抑制機構の解析. 日本分子生物学会年会 (第39回) (横浜), 2016. 12.
- 3) 中嶋 亘¹⁾, 浅野由ミ¹⁾, 武井寛幸²⁾, 田中信之¹⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所遺伝子制御学部門, 2) 日本医科大学大学院乳腺外科学) : BRCAness 乳癌細胞株の微小管阻害薬パクリタキセルに対する抵抗性機構の解析. 日本分子生物学会年会 (第39回) (横浜), 2016. 12.
- 4) 阿部芳憲¹⁾, 谷村篤子¹⁾, 上原郁野¹⁾, 田中信之¹⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所遺伝子制御学部門) : アルギニンメチル基転移酵素 PRMT5 を介した大腸癌発症の分子機構. 日本分子生物学会年会 (第39回) (横浜), 2016. 12.
- 5) 清水幹容¹⁾, 田中信之¹⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所遺伝子制御学部門) : IL-8 は糖代謝を制御することでがん幹細胞の発生に関与する. 日本分子生物学会年会 (第39回) (横浜), 2016. 12.
- 6) 谷村篤子¹⁾, 田中信之¹⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所遺伝子制御学部門) : マウス大腸炎症組織における DNA 損傷応答の抑制. 日本分子生物学会年会 (第39回) (横浜), 2016. 12.
- 7) 岩渕 (吉田) 千里¹⁾, 武内 進^{1, 2)}, 田中信之¹⁾ (1) 日本医科大学先端医学研究所遺伝子制御学部門, 2) 日本医科大学大学院呼吸器内科学) : 転写因子 HIF-1a による肺癌での抗癌剤耐性獲得の分子機構. 日本分子生物学会年会 (第39回) (横浜), 2016. 12.

[生体機能制御学分野]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Oriyasa C¹⁾, Kondo Y²⁾, Katsmata H¹⁾, Terada M³⁾, Akimoto T⁴⁾, Sakuma Y⁵⁾, Minami S¹⁾ (1) Institute for Advanced Medical Sciences, Nippon Medical School, Kanagawa 211-8533, Japan, 2) Department of Animal Sciences, Teikyo University of Science, Tokyo 120-0045, Japan, 3) Laboratory Animal Research Center, Dokkyo Medical University, Tochigi 321-0293, Japan, 4) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, 5) University of Tokyo Health Science, Tokyo 206-0033, Japan) : Vomeronasal signal deficiency enhances parental behavior in socially isolated male mice. *Physiology & Behavior* 2017 ; 168 : 98-102.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 田口雄亮, 豊島由香, 時田玲子, 加藤久典¹⁾, 高橋伸一郎²⁾, 南 史朗 (1) 東京大学総括プロジェクト機構・総括寄付講座「食と生命」, 2) 東京大学大学院・農学生命科学研究科・応用動物科学専攻) : 低タンパク質食給餌ラットから単離した肝細胞で起こる脂質合

成亢進はインスリン非依存的である。日本栄養・食糧学会大会（第70回）（神戸，神戸ポートピアホテル・西宮，武庫川女子大），2016. 5.

2) 豊島由香，時田玲子，田口雄亮，高橋伸一郎¹⁾，加藤久典²⁾，南 史朗（¹⁾ 東京大学大学院・農学生命科学研究科・応用動物科学専攻，²⁾ 東京大学総括プロジェクト機構・総括寄付講座「食と生命」）：低タンパク質栄養に应答して起こる褐色脂肪組織の脱共役タンパク質 UCP1 量の増加とエネルギー消費の亢進。日本栄養・食糧学会大会（第70回）（神戸，神戸ポートピアホテル・西宮，武庫川女子大），2016. 5.

3) 折笠千登世¹⁾，近藤保彦²⁾，勝又晴美¹⁾，寺田 節³⁾，秋元敏雄⁴⁾，佐久間康夫⁵⁾，南 史朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学・先端医学研究所，²⁾ 帝京科学大学，³⁾ 独協医科大学，⁴⁾ 日本医科大学，⁵⁾ 東京医療学院大学）：単飼飼育条件下における TRPC2 遺伝子欠損雄マウスの養育行動。第39回日本神経科学学会大会（横浜），2016. 7.

(2) 日本アミノ酸学会 2016 年度科学・技術賞 受賞講演：

1) 豊島由香：低タンパク質栄養によるインスリン活性増強機構とその生理的意義。日本アミノ酸学会（第10回）（東京・東京大学），2016. 9.

追加分一般講演：

1) Orikasa C, Nagaoka K, Katsumata H, Sato M, Kondo Y, Sakuma Y, Minami S: Social isolation prompts maternal behavior in sexually naïve male ddN mice. 第42回日本神経内分泌第23回日本行動神経内分泌合同学術集会（仙台），2015. 9.

2. 健診医療センター

研究概要

健診医療センターでは、微小な腫瘍性病変や転移巣のPET検査による検出能の向上に務めており、病変の大きさと描出能についての関係性を調査している。また、アンモニアPET検査における小児症例への適用について、被ばく線量の抑制と検査画質および精度の向上など検討を進めている。また、心サルコイドーシスへのPET検査について5時間以上の絶食が必要となるが、それ以前の糖質制限が検査の質を左右するため、食事による制限方法についての検討を進めている。精神神経科や薬理学教室とともに、アミロイドイメージングやタウイメージング、精神疾患の治療薬などに関する治験を進め、成果を上げている。同様に、PETおよびfMRIを利用した臨床研究も並行して実施し、診断能や再現性向上についても検討が進められている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Suda M¹, Kiriya T², Ishihara K¹, Onoguchi M³, Kobayashi Y², Sakurai M¹, Shibutani T³, Kumita S² (1) Clinical Imaging Center for Healthcare, (2) Department of Radiology, Nippon Medical School, (3) Department of Quantum Medical Technology, Kanazawa University) : The high matrix acquisition technique for imaging of atherosclerotic plaque inflammation in fluorine-18 fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography with time-of-flight : Phantom study. Journal of Nuclear Cardiology 2016 ; 1-10.

著書

- 1) 櫻井 実¹, 木田哲生² (1) 日本医科大学健診医療センター, (2) 滋賀医科大学医学部附属病院) : [分担] 放射線検査別の安全に関する留意点 核医学. 医療安全管理学 (日本放射線技術学会), 2017 ; pp200-217, オーム社.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 橋本英伸¹, 福嶋善光^{1,2}, 汲田伸一郎¹, 富山 毅¹, 桐山智成¹, 石原圭一² (1) 日本医科大学付属病院 放射線科, (2) 日本医科大学健診医療センター) : ¹³N-ammonia 心筋血流 PET における static image を用いた心筋血流予備能予測の可能性. 日本心臓核医学会総会・学術大会 (三重県津市), 2016. 7.
- 2) 阿部愛子¹, 櫻井 実¹, 長谷康二¹, 金谷浩司¹, 本郷めぐみ¹, 青山里愛¹, 織田絵里香², 石原圭一¹ (1) 日本医科大学健診医療センター, (2) 日本医科大学付属病院) : PET 画像における微小病変評価に対する精度向上の一考察. 日本核医学技術学会総会学術大会 (第36回) (名古屋), 2016. 11.
- 3) 櫻井 実¹, 本郷めぐみ¹, 長谷康二¹, 金谷浩司¹ (1) 日本医科大学健診医療センター) : アミロイドPETにおける画像再構成法の検討. 日本放射線技術学会東京支部春季学術大会 (第70回) (東京), 2016. 5.
- 4) 田代順也¹, 浅野恭司¹, 須田匡也¹, 吉田伸二郎¹, 原科悟史¹, 犬貝雅徳¹, 横 利夫¹, 櫻井 実² (1) 日本医科大学付属病院, (2) 日本医科大学健診医療センター) : Ga-67 SPECT の短時間収集における撮像条件の検討. 日本放射線技術学会東京支部 (第70回) (東京), 2016. 5.

追加分一般講演：

- 1) Hashimoto H¹, Fukushima Y^{1,2}, Kumita S¹, Ishihara K², Tomiyama T¹, Kiriya T¹, Imai S¹, Kobayashi Y¹, Sugihara Y¹, Sohara K¹ (1) 日本医科大学付属病院, (2) 日本医科大学健診医療センター) : Feasibility of myocardial-flow-reserve estimation using static image of ¹³N-ammonia myocardial perfusion PET. 日本循環器学会総会・学術大会 (第80回) (仙台), 2016. 3.

3. 成田国際空港クリニック

研究概要

空港クリニックでは、引き続き国際空港の救急医療を担う診療機関としての診療実績をまとめ分析することを中心に研究を進めていきたい。昨年は旅客患者の分析を実施したが、検疫所からの検査依頼を受けた患者のうちデング熱患者の年度毎の状況の比較や分析もまとめたいと考えている。また、救急患者や著明に増加している外国人旅客患者の特徴をまとめ明らかにするとともに、地域の特徴や発病や傷病の予防につながるようデータを検討して行きたい。さらに、継続的に症例のデータ化を適切に進め、将来様々な角度から検討ができるようにして行くとともに、空港内診療所に特徴的な疾患についても継続的に調査検討を進めたい。災害時の対処、特に航空機事故やテロ対処を確実にするための訓練やマニュアルの見直しについても研究して行く予定で、具体的な見直し作業への調整を進め2020年の東京オリンピックまでには終了したいと考えている。さらに、ジカウイルス感染症のような新興再興の熱帯感染症の症例について必要に応じて調査し、検討して行きたいと考える。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 赤沼雅彦, 松浦直子：成田国際空港クリニック 2015年度旅客患者の分析. 日本宇宙航空環境医学会（第62回）（愛知県），2016. 10.

[5] そ の 他

1. 研究部

[共同研究施設形態解析研究室]

研究概要

共同研究施設形態解析研究室は、電子顕微鏡、レーザー顕微鏡などの形態研究に関する種々の機器の管理、運営および共同利用のための機器の維持を業務としている。一方、必要に応じて形態機器の技術指導および共同研究も実施している。また、附属病院、関連病院から依頼された病理生検材料について、診断サポートのための電子顕微鏡による検索、報告も行っている。本診断サポートにおいては、平成27年度末に設置された日本電子JEM-1400Plus型透過型電子顕微鏡を使い、デジタルデータで報告する試行を行ってきた。次年度からは紙媒体は使わず、電子顕微鏡検索像および報告書の入ったCDで返却の予定である。研究としては、鈴木はヒト血小板の顆粒の立体構造解析のために予備実験を行い、次年度に超高压電子顕微鏡で観察するための種々の試料作製を行った。一方、文科省科研費基盤研究(C)「止血能を有した救命蘇生用人工血液カクテルの開発」(研究代表者：萩沢康介・防衛医科大学校)の研究分担者として従事し、リボソームから作製された人工血小板および赤血球を使った *in vitro* および *in vivo* の実験における形態的検討、報告を行った。また、慶應大学医学部の依頼で、CDC42 遺伝子異常の血小板の形態的検索を共同研究として2症例を実施した。2例の本症患者血小板はいずれも一部が白血球ほどの大型で球状になるとともに、直径2~4ミクロンの空胞も存在する結果を得た。安達、佐佐木は解析人体病理学、統御機構病理学、附属病院病理部との共同研究を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hagisawa K¹⁾, Kinoshita M²⁾, Miyawaki H³⁾, Sato S⁴⁾, Miyazaki H⁵⁾, Takeoka S⁶⁾, Suzuki H⁷⁾, Iwaya K⁸⁾, Seki S²⁾, Shono S²⁾, Saitoh D⁵⁾, Nishida Y¹⁾, Handa M⁹⁾ (1) Department of Physiology, National Defense Medical College, Saitama, Japan, (2) Department of Immunology and Microbiology, National Defense Medical College, Saitama, Japan, (3) Department of Traumatology and Critical Care Medicine, National Defense Medical College, Saitama, Japan, (4) Division of Biomedical Information Sciences, National Defense Medical College, Saitama, Japan, (5) Division of Traumatology, National Defense Medical College Research Institute, Tokorozawa, Japan, (6) Department of Life Science and Medical Bioscience, Graduate School of Advanced Science and Engineering, Waseda University, Tokyo, Japan, (7) Division of Morphological and Biomolecular Research, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (8) Department of Pathology, SASAKI Institute, Kyoundo Hospital, Chiyoda, Tokyo, Japan, (9) Department of Transfusion Medicine and Cell Therapy, School of Medicine, Keio University, Tokyo, Japan) : Fibrinogen γ -chain peptide-coated adenosine 5'diphosphate-encapsulated liposomes rescue mice from lethal blast lung injury via adenosine signaling. *Crit Care Med.* 2016 ; 44 (9) : e827-837.
- 2) Suzuki J¹⁾, Nakajima W¹⁾, Suzuki H²⁾, Asano Y¹⁾, Tanaka N¹⁾ (1) Department of Molecular Oncology, Institute for Advanced Medical Sciences, Nippon Medical School, (2) Division of Morphological and Biomolecular Research, Nippon Medical School) : Chaperone-mediated autophagy promotes lung cancer cell survival through selective stabilization of the pro-survival protein, MCL1. *Biochem Biophys Res Commun.* 2017 ; 482 (4) : 1334-1340.

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 鈴木英紀¹⁾ (1) 日本医科大学 共同研究施設 形態解析研究室)：ヒト正常および異常血小板 α 顆粒の微細構造について.. 生体ボリュームイメージング研究部会&生理研研究会合同ワークショップ (岡崎市), 2016. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 佐々木千鶴子¹⁾, 夏木靖典¹⁾, 四戸 歩¹⁾, 高木正之¹⁾, 大沼繁子²⁾, 鈴木英紀³⁾ (1) 聖マリアンナ医科大学 大学院電子顕微鏡研究施設, (2) 聖マリアンナ医科大学 病理学教室, (3) 日本医科大学 共同研究施設 形態解析研究室)：導電性コーティング剤 BEL-1 を使用した免疫 SEM への応用. 医学生物学電子顕微鏡技術学会第32回学術講演会 (東京), 2016. 5.
- 2) 鈴木英紀¹⁾, 萩沢康介²⁾, 武岡真司³⁾, 半田 誠⁴⁾, 木下 学¹⁾ (1) 日本医科大学 共同研究施設 形態解析研究室, (2) 防衛医科大学校, (3) 早稲田大学 理工学術院, (4) 慶應義塾大学医学部輸血・細胞療法センター)：人工血小板 (H12 (ADP) リボソーム) のマウス肺出血モデルへの投与時の動態について. 第38回日本血栓止血学会学術集会 (奈良市), 2016. 6.

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Kawaguchi M¹⁾, Kitajima K¹⁾, Kanokoda M¹⁾, Suzuki H²⁾, Miyashita K¹⁾, Nakajima M¹⁾, Nuriya H³⁾, Kasahara K⁴⁾, Hara T¹⁾
(¹⁾ Stem Cell Project, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, ²⁾ Division of Morphological and Biomolecular Research, Nippon Medical School, ³⁾ Core Technology and Research Center, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, ⁴⁾ Laboratory of Biomembrane, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science) : Efficient production of platelets from mouse embryonic stem cells by enforced expression of Gata2 in late hemogenic endothelial cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 2016 ; 474 (3) : 462-468.

2. 医学教育センター

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Umihara J¹⁾, Nishikitani M²⁾ (1) 日本医科大学, 2) 九州大学) : Association between Social Ties and Life Satisfaction in Quake-affected Communities. ストレス科学 2016 ; 30 (4) : 48-63.
- 2) Umihara J¹⁾, Nishikitani M²⁾, Kubota K¹⁾ (1) 日本医科大学, 2) 九州大学) : Rapport between cancer patients and their physicians is critical for patient satisfaction with treatment decisions. J Nippon Med Sch 2016 ; 83 (6) : 235-247.

(2) 総説：

- 1) 海原純子¹⁾ (1) 日本医科大学) : ストレス概論：男性のストレス, 女性のストレス. 精神療法 2016 ; 42 (5) : 629-634.
- 2) 海原純子¹⁾ (1) 日本医科大学) : ストレス社会から見た未病ケア. 未病と抗老化 2016 ; 25 : 16-21.

著書

- 1) 海原純子¹⁾ (1) 日本医科大学) : [自著] 震災と心のケア. 今日1日が小さな一生, 2016 ; pp1-120, あさ出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 海原純子¹⁾ (1) 日本医科大学) : がんと向き合える社会の為に. 日本臨床腫瘍学会 (第14回) (神戸), 2016. 7.

(2) シンポジウム：

- 1) 藤倉輝道 : 医師養成課程において進行する改革：卒業時学修成果の質保証. 臨床法学教育学会創立10周年記念第2回プレシンポジウム (東京都), 2017. 1.
- 2) 藤倉輝道 : 平成28年度前期トライアル評価 日本医科大学事例報告. 平成28年度文部科学省大学改革推進事業 基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成 公開シンポジウム (東京), 2017. 2.

(3) ワークショップ：

- 1) Abe K¹⁾, Inoue C, Hanya M²⁾, Yoshida T³⁾, Goto M⁴⁾ (1) Nagoya University, 2) Meijo University, 3) Okayama University, 4) Mie University) : Guess SP's pain!! : a game to standardize pain expressions (Training Technique Sessions). Association of Standardized Patient Educators (15th) (Tampa, Florida, USA), 2016. 6.

(4) 一般講演：

- 1) 早坂明哲, 井上千鹿子, 伊藤保彦¹⁾, 竹下俊行, 藤倉輝道 (1) 日本医科大学大学院医学研究科 小児・思春期医学) : タブレット端末を利用したOSCE実施支援システムの評価者によるユーザ評価. 日本医学教育学会大会 (第48回) (大阪), 2016. 7.
- 2) 早坂明哲, 井上千鹿子, 伊藤保彦¹⁾, 竹下俊行, 藤倉輝道 (1) 日本医科大学大学院医学研究科 小児・思春期医学) : タブレット端末を利用したOSCE実施支援システムのユーザ評価. 大学ICT推進協議会2016年度年次大会 (京都), 2016. 12.
- 3) 井上千鹿子, 早坂明哲, 藤倉輝道 : シミュレーション用ムラージュ (特殊メイク) の教材開発と低コスト化の取り組み. 日本医学教育学会 (第48回) (大阪医科大学), 2016. 7.
- 4) 阿曾亮子, 桑原健太郎¹⁾, 前田美穂¹⁾, 金原和也²⁾, 伊東泰夫²⁾, 井上千鹿子, 竹下俊行, 藤倉輝道 (1) 小児科, 2) 日本医科大学SPの会) : 模擬患者 (SP) 参加の4年次小児科医療面接トレーニングにおける真剣さに与えるシミュレーション効果の検討. 日本医学教育学会大会 (第48回) (大阪), 2016. 7.
- 5) 海原純子¹⁾, 錦谷まりこ²⁾ (1) 日本医科大学, 2) 九州大学) : ストレス予防とレジリエンススコア化とのかかわり. 日本心身医学会 (第57回) (仙台), 2016. 6.
- 6) 海原純子¹⁾, 錦谷まりこ²⁾ (1) 日本医科大学, 2) 九州大学) : レジリエンスとしての行動傾向の効果 : K6 および CES-D で示されるうつとのかかわり. 日本ストレス学会総会 (東京), 2016. 10.
- 7) 海原純子¹⁾, 錦谷まりこ²⁾ (1) 日本医科大学, 2) 九州大学) : 運動習慣とポジティブ感情とのかかわり : レジリエンスへの可能性について. 日本ポジティブサイコロジイ医学会 (第6回) (京都), 2016. 10.
- 8) 藤倉輝道, 松本 尚¹⁾, 三宅弘一²⁾, 櫻村正美³⁾ (1) 日本医科大学 救急医学, 2) 日本医科大学 生化学 分子遺伝学, 3) 日本医科大学 臨床心理学) : 仲間と, そして市民としてのSP参加で学ぶ: 新入生オリエンテーション TBL 第2報. 日本医学教育学会 (第48回) (大阪府高槻市), 2016. 7.

3. 学生部

[学生相談室]

研究概要

学生相談室では、医学生や看護学生を対象にした個別の心理相談（カウンセリング）や心理教育的活動を主にしており、必然的に、それに関わる調査研究や実践研究、臨床心理学領域の研究を課題としている。対人援助職を志向している学生の自己理解や心理的成長に向けたサポートのため、また、学生のメンタルヘルスに関わる諸問題の援助をすすめていくためである。今年度は、学生相談室が新入生対象に20年間にわたり実施してきた「大学精神保健調査（UPI）」の集計データを統計解析にかけることで、自覚症状の訴え56項目と健康尺度4項目に関して、全国の大学平均と比較したときの本学新入生の特徴と20年間の年次推移を論じた。全国の大学平均と比較すると、本学新入生は自覚症状の訴えも健康尺度も得点平均値の低いことがわかった。他学部に比べて医学部のUPI得点が低い傾向が知られていて本学も同様であるとわかった。そうした本学新入生のUPI得点の低さは、1995年～2014年の20年間にわたって、数年ごとの変動はあるものの一貫していた。しかしまた、20年間のなかでは、近年にかけて低得点傾向が強まっていることがわかった。考察では、本学新入生の低得点について、メンタルヘルス不調に関する質問項目に対する防衛的態度から回答を控えた可能性や、そもそも心身の調子をこまやかに自覚していない可能性、また、医学部受験を志向している段階で将来の職業アイデンティティを定めている心理的強み、目的意識の高さについて論じた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 鋤柄のぞみ, 加藤優子, 樫村正美¹⁾, 野村俊明¹⁾ (1) 日本医科大学医療心理学教室) : UPI (University Personality Inventory) からみる本学新入生の特徴. 日本医科大学基礎科学紀要 2016 ; 45 : 1-18.

付 表

1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1) 平成 28 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金）交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	審査 区分	氏 名	所属・職名	交付決定額		研 究 課 題 名
				直接経費 (万円)	間接経費 (万円)	
新学術領域研究 (研究領域提案型)		小林 克典	薬理学・准教授	270	81	※精神疾患のプレシナプスエンドフェノ タイプの形成・維持機構の解析
基盤研究 (B)	一般	大久保善朗	精神・行動医学分野・大学院教授	330	99	※アミロイド関連うつ病の分子イメージ ング
基盤研究 (B)	〃	布施 明	救急医学・准教授	430	129	新しい災害医療対応シミュレーション システムを用いた災害医学教育、災害 医療の実践
基盤研究 (B)	〃	福原 茂朋	分子細胞構造学分野・大学院教 授	500	150	生体イメージングによる血管新生の多 様性と普遍性の解明
基盤研究 (B)	〃	鈴木 秀典	薬理学・大学院教授	360	108	ヒト長鎖ノンコーディング RNA の包 括的解析を通じた神経障害性疼痛の根 治治療法開発
若手研究 (A)		田上 隆	救急医学・助教	400	120	※重症救急疾患 big data：データベース 構築と臨床研究への活用
研究活動 スタート支援		安井 大祐	臨床放射線医学・助教	110	33	※単分散系エマルジョンを用いた革新的 薬剤送達系に関する基礎的検討
基盤研究 (B) (一部基金)	一般	太田 成男	細胞生物学分野・大学院教授	390	117	※健康増進と疾病予防に寄与する分子状 水素の多様な機能を発揮するメカニズ ムの解明
〃	〃	岡田 尚巳	分子遺伝医学分野・大学院教授	240	72	※アデノ随伴ウイルスベクターを応用し た脳神経疾患に対する遺伝子細胞療法
〃	〃	横堀 将司	救急医学・講師	260	78	※虚血再灌流病態を伴う外傷性脳内血腫 に対する術前急速導入脳低温療法の有 効性の検討
計 10 件				3,290	987	
					4,277	

2) 平成 28 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金）研究分担の交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	審査区分	研究代表者・所属	研究分担者・所属・職名	交付決定額		研究課題名
				直接経費	間接経費	
				(万円)	(万円)	
基盤研究 (A)		鈴木 和幸 電気通信大学	佐藤 直樹 循環器内科学・准教授	20	6	※リスクモードとオンラインモニタリング技術高度化に着目した未然防止体系の新展開
基盤研究 (B)	一般	関野 正樹 東京大学	武井 寛幸 乳腺外科学分野・大学院教授	60	18	※センチネルリンパ節を特定する磁気プローブの開発
〃	〃	西本 哲也 日本大学	本村 友一 救急医学・助教	60	18	※ヒト胸腹部の損傷メカニズムの解明による災害発生時の安全ガイドラインの作成
〃	〃	宮川 成雄 早稲田大学	藤倉 輝道 医学教育センター・教授	20	6	※法専門職教育の再定義と臨床法学教育の研究
〃	〃	西野 武士 東京大学	岡本 研 代謝・栄養学・准教授	130	39	※蛋白凝集神経変性疾患に対するキサントニン酸化酵素阻害剤の病変進行遅延効果の機構解明
〃	〃	齋藤 滋 富山大学	瀧澤 俊広 分子解剖学分野・大学院教授	30	9	※母体、胎児免疫相関から見た妊娠維持機構ならびにその破綻
〃	〃	石渡 喜一 脳神経疾患研究所 南東北創薬・サイクロトロン研究所	三品 雅洋 神経内科学・教授	30	9	アデノシン A2A 受容体の分子イメージング：ファーストインヒューマン研究
〃	〃	石村 郁夫 東京成徳大学	野村 俊明 武蔵境校舎 医療心理学・教授	75	22.5	感情障害へのコンパッションフォーカストセラピーの治療マニュアルの作成と効果の検証
〃	〃	吉田 (今中) 恭子 三重大学	勝部 康弘 小児・思春期医学・准教授	30	9	川崎病の病態を制御する細胞外マトリックス分子の機能解明
〃	〃	山田 和彦 鹿児島大学	清水 章 解析人体病理学分野・大学院教授	20	6	前臨床サル移植モデルによる革新的脾臓・腎移植法を用いた糖尿病性腎症根治療法の確立
〃	〃	佐原 寿史 鹿児島大学	清水 章 解析人体病理学分野・大学院教授	30	9	血管内皮障害に基づく炎症・自然免疫活性化の制御による同種・異種肺移植成績向上戦略
計 11 件				505	151.5	
					656.5	

3) 平成 28 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	審査区分	氏 名	所属・職名	交付決定額		研 究 課 題 名
				直接経費	間接経費	
				(万円)	(万円)	
基盤研究 (C)	一般	長谷部 孝	武蔵境校舎 生物学教室・准教授	50	15	※消化管上皮幹細胞の起源と幹細胞制御における Notch シグナル経路の役割
〃	〃	前林 勝也	臨床放射線医学・准教授	*0	0	※悪性神経膠腫の治癒向上を目指した照射法探索のための基礎と臨床の融合型研究 *補助事業期間延長のため
〃	〃	濱田 知宏	感覚情報科学・助教	90	27	※心の性を司る視索前野性的二型核および分界条床核の性差形成機構
〃	〃	竹下 俊行	女性生殖発達病態学分野・大学院教授	50	15	※原因不明不育症における新規自己抗体とその標的抗原の同定
〃	〃	上村 尚美	細胞生物学・准教授	120	36	※水素分子の糖尿病改善効果と遺伝子発現誘導における作用機序の解明
〃	〃	西山 康裕	神経内科学・助教	110	33	※脳梗塞モデルにおけるミクログリアとマクロファージが神経機能に与える影響の解明
〃	〃	高橋 謙治	整形外科学・准教授	120	36	※MRI による非侵襲温度分布モニタリングを指標とした関節深部加温法の開発
〃	〃	岡田 浩典	分子遺伝医学・特別研究生	100	30	※超音波血液脳関門開放と AAV ベクターを用いた成体マーマーモセットてんかんモデルの開発
〃	〃	菊地 浩人	武蔵境校舎 物理学教室・准教授	70	21	※ヒトには効くがバクテリアには効かない痛風薬—酵素薬剤相互作用のダイナミクス—
〃	〃	澤井 信彦	分子解剖学・講師	80	24	※キスペプチンによる甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンを介した生殖生理調節を検証する
〃	〃	小澤 一史	解剖学・神経生物学分野・大学院教授	120	36	※新規生殖制御系への環境情報入力と三次元的相互作用、生活環に関する機能形態学的研究
〃	〃	喜納 裕美	分子遺伝医学・特別研究生	80	24	※筋ジストロフィーの遺伝子治療を目指した免疫寛容誘導法の検討
〃	〃	李 卿	衛生学公衆衛生学・特別研究生	40	12	※カーバメイト系農薬による抗癌免疫機能への影響及びその機序
〃	〃	林田真喜子	法医学・准教授	50	15	※法医中毒薬毒物の QTOF データに対する包括的マルチプロセス解析の検討
〃	〃	宮永 晃彦	呼吸器内科学・助教	90	27	※肺神経内分泌腫瘍の遺伝子変異・融合遺伝子の同定と新規治療標的バイオマーカーの開発
〃	〃	神尾孝一郎	呼吸器内科学・助教	80	24	※自家骨髄細胞の肺線維化病態への臨床応用に向けた培養系構築と脾臓の役割に関する研究
〃	〃	吾妻安良太	呼吸器内科学・教授	80	24	※肺線維化病態における mTOR-SPARC 経路の解明と新規バイオマーカーの探索
〃	〃	寺崎 美佳	解析人体病理学・助教	90	27	※炎症性肺炎におけるサバイビンの分子病態の解明と新規遺伝子治療法の開発
〃	〃	功刀しのぶ	解析人体病理学・講師	50	15	※間質性肺炎におけるマイクロ RNA、エクソソームを介する病態の解析と臨床応用
〃	〃	三品 雅洋	神経内科学・教授	80	24	※レヴィ小体病における脳機能の代償とアミロイド分布の関連に関する研究
〃	〃	田村 秀人	血液内科学・准教授	90	27	※骨髄腫微小環境における SLAM ファミリー分子の機能解析と新規治療の開発
〃	〃	猪口 孝一	血液内科学分野・大学院教授	80	24	※新規 RCSI1-ABL1 遺伝子癌化能と分子標的薬開発
〃	〃	岳野 光洋	アレルギー膠原病内科学・准教授	110	33	※ベーチェット病における M2 マクロファージ機能不全とその修復による治療戦略
〃	〃	桑名 正隆	アレルギー膠原病内科学分野・大学院教授	110	33	※末梢血単球を標的とした強皮症に対する新規治療法の開発

〃	〃	永野 昌俊	薬理学・講師	120	36	※染色体重複モデル動物を用いた科学的根拠に基づく自閉症治療法開発の基礎的研究
〃	〃	植田 高弘	小児・思春期医学・准教授	90	27	※脂肪由来間葉系幹細胞を用いた骨髄再生の研究・人工骨髄の作成をめざして
〃	〃	三宅 弘一	分子遺伝医学・准教授	120	36	※ダイヤモンド・ブラックファン貧血の新規動物モデル作製と治療法の開発
〃	〃	深澤 隆治	小児・思春期医学・准教授	90	27	※川崎病発症機序の解明
〃	〃	松谷 毅	消化器外科学・講師	130	39	※外科的侵襲時における脂肪組織と M1/M2 マクロファージのクロストーク機構の解明
〃	〃	石井 永一	解析人体病理学・研究生	140	42	※ラット肝臓移植モデルを用いた移植肝臓の免疫寛容獲得の機序とバイオマーカーの同定
〃	〃	山田 岳史	消化器外科学・講師	150	45	※cell free DNA を用いた EGFR 阻害剤耐性獲得機序解明
〃	〃	松下 晃	消化器外科学・助教	130	39	※睪癌における Stat5 の生物学的役割とそのシグナル伝達経路について
〃	〃	近藤 幸尋	男性生殖器・泌尿器科学分野・大学院教授	80	24	※尿路上皮癌における生理活性酸化脂質の新規役割の究明
〃	〃	松根 彰志	頭頸部・感覚器科学・教授	110	33	※難治性鼻副鼻腔炎病態における局所粘膜での抗体産生に関する研究。
〃	〃	五十嵐 徹	小児・思春期医学・講師	140	42	※網膜動脈閉塞症に対する水素水点眼の臨床応用
〃	〃	高橋 浩	眼科学分野・大学院教授	110	33	※網膜酸化ストレス傷害に対する水素水点眼の効果
〃	〃	堀 純子	眼科学・准教授	70	21	※眼組織の移植と再生のための眼免疫応答の制御
〃	〃	小川 令	形成再建再生医学分野・大学院教授	50	15	※ケロイド発生における局所、全身、遺伝因子の相互作用機序の解明
〃	〃	村上 正洋	形成再建再生医学・准教授	50	15	※ケロイドにおける Th17 細胞/制御性 T 細胞による免疫機構の解明と新治療の開発
〃	〃	若林あや子	微生物学・免疫学・助教	90	27	※細菌外毒素による腸管からの損傷関連分子パターンの放出と食物アレルギー反応の誘導
〃	〃	野村 務	消化器外科学・准教授	50	15	※医学生を対象とした効率的な内視鏡外科手術手技トレーニングプログラムの開発
〃	〃	洲鎌 秀永	生体統御科学・講師	160	48	※パーキンソン病発症における慢性ストレスおよび活性化ミクログリア作用の解析
〃	〃	大倉 定之	微生物学・免疫学・助教	130	39	※ヒト化マウスモデルにおける HIV-1 感染病態への粘膜局所自然免疫の関与の解明
〃	〃	岡 敦子	武蔵境校舎 生物学教室・教授	120	36	※消化管上皮幹細胞の系譜解析とニッチ形成機構解明のための培養系の開発
〃	〃	永原 則之	基礎医学 RI 研究室・准教授	120	36	※硫化水素および硫黄酸化物産生不全モデル・硫黄転移酵素ノックアウトマウスの病態代謝
〃	〃	杉原 仁	内分泌糖尿病代謝内科学分野・大学院教授	110	33	※メタボリックシンドローム発症と摂食行動：新規モデルマウスを用いた解析
〃	〃	藤倉 輝道	医学教育センター・教授	50	15	※市民と共に学ぶ医療を実現する次世代模擬患者養成プログラム開発に関する研究
〃	〃	海原 純子	医学教育センター・特任教授	100	30	※女性医師のワークファミリー・コンフリクトの解決と持続的就労を可能にする要因の研究
〃	〃	荒木 尚	救急医学・講師	50	15	※救急・集中治療における一般の脳死判定の現況と患者対応に関する研究
〃	〃	可知 悠子	衛生学公衆衛生学・助教	50	15	※非正規雇用の健康影響に関する国際比較研究
〃	〃	後藤 穰	頭頸部・感覚器科学・准教授	130	39	※体系的ゲノムワイド解析にもとづく舌下免疫療法の有効性診断法の開発
〃	〃	大塚 俊昭	衛生学公衆衛生学・准教授	40	12	※メタボリック症候群発症予測指標としての血中多価不飽和脂肪酸の有用性：職域疫学研究

〃	〃	李 英姫	衛生学公衆衛生学・講師	120	36	※好中球性アレルギー喘息病態における Nrf2 の役割
〃	〃	金涌 佳雅	法医学・講師	90	27	※死後髄液から死亡前発症のけいれん発作の有無を検出する法医診断技術の基盤的研究
〃	〃	石井 健男	呼吸器内科学・特別研究生	130	39	※COPD 増悪における肺と gap junction の役割と肺由来新規バイオマーカー
〃	〃	三宅 紀子	分子遺伝医学・テクニカル・スタッフ	120	36	※脳神経病変を標的とした成体リソゾーム病の新規遺伝子治療法の開発
〃	〃	松本 多絵	小児・思春期医学・助教	150	45	※AAV ベクターによる低ホスファターゼ血症の遺伝子治療
〃	〃	早川 潤	小児・思春期医学・講師	90	27	※造血幹細胞移植における脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた細胞療法の可能性の検討
〃	〃	山西 慎吾	小児・思春期医学・助教	120	36	※乳幼児早期マウスへの抗生剤投与の自然リンパ球への影響と喘息との関連
〃	〃	島 義雄	小児・思春期医学・教授	80	24	※自然免疫からみた早産発来機序の解明
〃	〃	佐伯 秀久	皮膚粘膜病態学分野・大学院教授	70	21	※アトピー性皮膚炎および乾癬の遺伝要因の研究
〃	〃	肥田 道彦	精神・行動医学・講師	110	33	※認知症におけるデフォルトモードネットワーク異常に関する分子イメージング研究
〃	〃	汲田伸一郎	臨床放射線医学分野・大学院教授	50	15	※半導体 SPECT 装置を用いた冠血流予備能測定：アンモニア PET との比較研究
〃	〃	松田 明久	消化器外科学・助教	120	36	※リゾリン脂質の外科侵襲後炎症性生体反応への関与とその治療応用
〃	〃	萩原 信敏	消化器外科学・助教	140	42	※微量検体からの遺伝子変異診断による消化管間質腫瘍の新規治療戦略
〃	〃	宮下 正夫	消化器外科学・教授	130	39	※MMP-9 の発現に関わる miRNA に着目した食道癌 新規診断・治療法の検討
〃	〃	水口 義昭	消化器外科学・助教	100	30	※胆管癌上皮間葉移行における TGF-β/miR-200 ファミリーの直接交絡
〃	〃	新田 隆	心臓血管外科学分野・大学院教授	140	42	※ダブルポテンシャル法を応用した低侵襲心房細動手術の確立
〃	〃	石角太一郎	呼吸器外科学・講師	150	45	※胸部悪性腫瘍に対する新規内視鏡的凍結融解療法の開発
〃	〃	仁藤智香子	神経内科学・准教授	110	33	※アデノ随伴ウイルスを用いて遺伝子導入した歯髄幹細胞移植による新規脳梗塞治療の開発
〃	〃	金 景成	脳神経外科学・助教	80	24	※吸収性スクリューによる頸椎椎間関節固定術の生体力学的研究
〃	〃	坂本 篤裕	疼痛制御麻酔科学分野・大学院教授	130	39	※全身麻酔薬作用機序における分子生物学的検討
〃	〃	彭 為霞	統御機構診断病理学・講師	90	27	※網羅的な蛋白質解析による子宮内膜腺癌バイオマーカーの同定及び治療標的候補の検索
〃	〃	渡邊 健一	頭頸部・感覚器科学・准教授	130	39	※老人性難聴とエピジェネティクス—DNA メチル化とヒストン蛋白質修飾の解析
〃	〃	鈴木 久晴	眼科学・准教授	120	36	※白内障手術における前房温度と角膜内皮傷害
〃	〃	塚本 剛志	救急医学・助教	110	33	※外傷後臓器障害発生における骨軟部組織損傷の役割に関する研究
〃	〃	藤崎 弘士	武蔵境校舎 物理学教室・准教授	160	48	動的データに内在するレアイベント性の新規な特徴付けと生体時系列への応用
〃	〃	工藤 光洋	統御機構診断病理学・講師	120	36	IGF2BPs と関連する遺伝子間の相互依存関係を可視化する遺伝子ネットワーク解析
〃	〃	大林 茂	リハビリテーション学・講師	180	54	くも膜下出血後の遂行機能障害の客観的診断指標の創出と早期社会復帰戦略
〃	〃	原 行弘	リハビリテーション学分野・大学院教授	140	42	手内筋麻痺改善を促す機能的電気刺激装置内臓グローブの開発

〃	〃	Wolf Alexander	細胞生物学・講師	80	24	Oxidative stress in skeletal muscle exercise and injury
〃	〃	三上 俊夫	武蔵境校舎 スポーツ科学教室・准教授	190	57	運動による抗うつ効果に脳内イノシンを介したBDNFの発現調節が関与するか否か
〃	〃	勝又 聖夫	衛生学公衆衛生学・助教	240	72	「ニコチンはドーピング防止規程の監視対象物質である」ことの認識に基づくタバコ対策
〃	〃	西楨貴代美	細胞生物学・マネジメントサポート・スタッフ	120	36	脂質ラジカル連鎖反応への水素分子の関与：水素の抗炎症作用メカニズムの解明に向けて
〃	〃	横田 隆	分子生物学・マネジメントサポート・スタッフ	120	36	水素分子の虚血再灌流障害後の予後改善効果と作用機序の解明
〃	〃	吉野 美緒	小児・思春期医学・アシスタントサポート・スタッフ	110	33	交通外傷児と家族のPTSDに関する研究—早期スクリーニングと心理教育の効果検証—
〃	〃	中澤 秀夫	武蔵境校舎 数学教室・教授	80	24	ヘルムホルツ方程式の解の評価と対応する非定常問題の解の平滑化評価に関する研究
〃	〃	鈴木 由香	生体機能制御学・講師	90	27	低タンパク質栄養による肝臓翻訳抑制因子4E-BP1増加が肝臓脂質蓄積に果たす役割
〃	〃	宮川世志幸	分子遺伝医学・講師	130	39	新規無毒化HSVベクターを用いた神経細胞選択的治療遺伝子デリバリーシステムの開発
〃	〃	柿沼 由彦	生体統御学分野・大学院教授	140	42	心筋アセチルコリン産生システム機能亢進による中枢介入機構・効果の検討
〃	〃	平井 幸彦	分子遺伝医学・講師	150	45	適正製造規範に適合する簡易精製が可能な次世代AAVベクターの開発 その2
〃	〃	長濱 清隆	解析人体病理学・助教	120	36	糸球体病変を規定する分子の同定とその応用
〃	〃	櫻澤 信行	消化器外科学・助教	150	45	胃の発癌に係るハイリスク胃炎に対するブラックラズベリーパウダーの効果の検討
〃	〃	川田 智之	衛生学公衆衛生学分野・大学院教授	250	75	睡眠時呼吸障害とメタボリックシンドロームに関する総合的研究
〃	〃	茂木 孝	呼吸器内科学・助教	60	18	レセプトデータベースを用いた慢性呼吸器疾患患者の診療における観察的調査研究
〃	〃	山口 晃志	法医学・講師	80	24	法医学的に有用な睡眠薬代謝物の探索
〃	〃	奥田 貴久	法医学・講師	120	36	心肺蘇生時の胸部圧迫に伴う心嚢破裂発生機序の解明
〃	〃	大野 曜吉	法医学分野・大学院教授	100	30	慢性過剰飲酒における肝ADH1および3の活性動態とアルコール性肝障害進展への影響
〃	〃	高橋 秀実	微生物学・免疫学分野・大学院教授	140	42	Vγ1Vδ1型γδT細胞活性化生薬成分の同定：新たなHIV制御法開発に向けて
〃	〃	岩切 勝彦	消化器内科学分野・大学院教授	110	33	長期高ガストリン血症の胃粘膜に及ぼす影響
〃	〃	二神 生爾	消化器内科学・准教授	100	30	FD患者のCCR2/CD68細胞を介した消化管知覚神経由来MBP蛋白抑制の解析
〃	〃	宮内 靖史	循環器内科学・准教授	120	36	心房細動における心房炎症の意義と電気生理学的特徴：FDG-PETを用いた検討
〃	〃	時田 祐吉	循環器内科学・助教	90	27	iPS細胞の冠動脈内注入による低侵襲心筋再生療法
〃	〃	太良 修平	循環器内科学・助教	130	39	定量的3D血流イメージを用いた血管再生治療後の微小血流評価
〃	〃	木田 厚瑞	呼吸器内科学・特任教授	140	42	Cutis laxa類似病態の肺気腫：エクソソームによる診断とLTBP4補充療法
〃	〃	服部久弥子	呼吸器内科学・助教	50	15	COPDと心血管疾患の臓器相関の新機序解明に向けたガレクチン-3の役割の探索
〃	〃	野呂林太郎	呼吸器内科学・講師	200	60	4遺伝子シグネチャーによるI期肺腺癌再発予測システムの構築

〃	〃	久保田 馨	呼吸器内科学・教授	140	42	がん患者の QOL モニタリングの研究
〃	〃	白杵 二郎	呼吸器内科学・講師	80	24	薬剤性肺障害における内皮細胞由来 EMPs の臨床マーカーとしての可能性探索
〃	〃	清家 正博	呼吸器内科学・准教授	180	54	ドライバー遺伝子異常肺癌の薬剤耐性機序における長鎖ノンコーディング RNA の意義
〃	〃	山口 博樹	血液内科学・准教授	190	57	先天性角化不全症の新規原因遺伝子変異の同定と新規治療法の開発
〃	〃	白井悠一郎	アレルギー膠原病内科学・助教	90	27	強皮症難治性臓器病変克服に向けた発症前治療標的の同定
〃	〃	Ruby Pawankar	小児・思春期医学・特任教授	110	33	乳児期における腸内細菌叢の構成、新たなバイオマーカーとアレルギー疾患の発症の解明
〃	〃	浅野 健	小児・思春期医学・准教授	90	27	エピジェネティクスによる薬剤耐性機序における p38 α の関与の研究
〃	〃	大橋 隆治	統御機構診断病理学・准教授	120	36	川崎病におけるエクソソーム microRNA の研究：新たな診断法、治療に向けて
〃	〃	勝部 康弘	小児・思春期医学・准教授	110	33	遺伝性心筋症の iPS 細胞由来心筋細胞の機能解析
〃	〃	下田 健吾	精神・行動医学・准教授	190	57	双極性障害における白質障害の解明と早期診断にむけた有用性の検討
〃	〃	館野 周	精神・行動医学・准教授	180	54	タウイメージングによる老年期幻覚妄想の病態解明研究
〃	〃	田島 廣之	臨床放射線医学・教授	170	51	新規ステント・フィルターを用いた重症静脈血栓塞栓症に対するハイブリッド IVR 治療
〃	〃	川野 陽一	消化器外科学・助教	130	39	劇症肝不全への自己肝温存同所性部分肝移植での肝細胞テロメア長による肝機能回復予測
〃	〃	和田 龍一	統御機構診断病理学・准教授	90	27	乳癌における癌細胞の幹細胞化阻害による実験的転移抑制治療
〃	〃	小泉 岐博	消化器外科学・助教	110	33	Liquid biopsy を用いた直腸癌術前化学療法の効果予測因子の同定
〃	〃	中村 慶春	消化器外科学・准教授	160	48	膀胱癌化学療法効果予測 miRNA の同定とバイオマーカー探索
〃	〃	藤井 正大	心臓血管外科学・准教授	140	42	心房細動がもたらす心房筋リモデリングとバイオマーカーとしての microRNA の解明
〃	〃	網谷 亮輔	心臓血管外科学・助教	60	18	周術期心不全治療のための水チャンネル・アクアポリンの研究
〃	〃	井村 肇	心臓血管外科学・准教授	200	60	開心術後心房細動：機序解明に向けた多角的アプローチと新たな予防法の研究
〃	〃	白田 実男	呼吸器外科学分野・大学院教授	140	42	末梢小型肺癌に対する新しい内視鏡治療法の開発
〃	〃	須田 智	神経内科学・助教	170	51	歯髄由来幹細胞とヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の融合による新規脳出血治療の開発
〃	〃	高井 信朗	整形外科科学分野・大学院教授	100	30	3D 画像を用いた膝関節症発生要因としての回旋不安定性解析
〃	〃	坂井 敦	薬理学・講師	130	39	小児期の神経障害性疼痛抵抗性に着目した新規治療標的の探索
〃	〃	木村 剛	男性生殖器・泌尿器科学・准教授	100	30	組織中および尿中ビッグデータに基づいた BCG 注入後膀胱癌再発予測システムの開発
〃	〃	中嶋 亘	遺伝子制御学・講師	210	63	乳癌のサブタイプ別に化学療法の治療効果を決定づける因子の解析と治療予測効果の検討
〃	〃	中元 兼二	眼科学・講師	120	36	緑内障における前房水と血中 BDNF の濃度の検討
〃	〃	本間 耕平	感覚情報科学・助教	90	27	患者 iPS 細胞由来視細胞標識による網膜色素変性症疾患メカニズムの解析

〃	〃	尹 成珠	感覚情報科学・助教	80	24	マウス双極細胞周辺受容野応答極性反転のメカニズム解析
〃	〃	横室 茂樹	消化器外科学・准教授	120	36	重症敗血症における CRP の役割と治療効果
〃	〃	山田真吏奈	救急医学・講師	130	39	PICS 関連の中樞神経障害を予測するバイオマーカーの開発と臨床応用
〃	〃	増野 智彦	救急医学・講師	130	39	出血性ショック後臓器障害における分泌型 microRNA・運搬体エキソゾームの関与
挑戦の萌芽研究	特設分野研究	野村 俊明	武蔵境校舎 医療心理学教室・教授	120	36	※高齢者の「反社会的行動」に関する研究—医療・福祉・司法からの多面的アプローチ
		渡邊 淳	分子遺伝医学・准教授	60	18	※一般市民への「ヒトの遺伝」リテラシー向上を目指した課題調査とプログラム・教材開発
	〃	樫村 正美	武蔵境校舎 医療心理学教室・講師	90	27	※高齢者支援のための心理社会的介入プログラムの開発
	〃	江本 直也	内分泌糖尿病代謝内科学・教授	50	15	※神経経済学的適応障害としての2型糖尿病の行動経済学的病態分析
	〃	佐々木元子	付属病院 遺伝診療科・医療技術員	90	27	※学校教育への「ヒトの遺伝」導入に向けた課題と方策の明確化
	〃	安武 正弘	総合医療・健康科学分野・大学院教授	40	12	※新型高洗浄環境技術<CUSP>を用いた高齢者睡眠障害に関する研究
	〃	山崎 峰雄	神経内科学・准教授	110	33	※血清 NMR データを用いた新たなアルツハイマー病診断法の開発
	〃	足立 好司	脳神経外科学・准教授	60	18	※NMR メタボロミクスを用いた脳腫瘍血清診断
	〃	岡田 尚巳	分子遺伝医学分野・大学院教授	110	33	ヘルペスウイルス LATmiRNA を利用した CRISPRCas システムと遺伝子治療
	〃	鈴木 秀典	薬理学分野・大学院教授	70	21	標的細胞特異的エクソソームを用いた RNA 配送システムによる神経障害性疼痛治療
	〃	荻原 郁夫	感覚情報科学・准教授	170	51	細胞内輸送局在制御機構を基盤とする新しい作用機序のてんかん分子治療戦略の開発
	〃	太田 成男	細胞生物学分野・大学院教授	110	33	水素ガス吸引によって虚血再灌流障害を複合的に軽減する作用機作の総合的解明
〃	横堀 将司	救急医学・講師	70	21	急性硬膜下血腫—幹細胞移植モデルを用いた急性期プレコンディショニング治療の確立	
若手研究 (B)	〃	田上 隆	救急医学・助教	260	78	地理空間情報の救急医学研究への応用
	〃	栗田 二郎	心臓血管外科学・助教	*0	0	※徐放化多血小板血漿による血管新生療法の開発 *補助事業期間延長のため
	〃	阿部 新	神経内科学・助教	80	24	※急性期脳梗塞における ADMA 値の経時変化と身体機能予後への影響
	〃	石井 俊行	感覚情報科学・助教	20	6	※コリン作動性ニューロンにおける新たなコリン代謝経路の解明
	〃	林 美雪	小児・思春期医学・助教	80	24	※小児喘息の phenotype-endotype に寄与するバイオマーカーの解明
	〃	丸山 基世	実験動物管理室・助教	80	24	※冷痛覚過敏の治療標的としての TRPV3 チャンネル機能解析
	〃	関根 久遠	頭頸部・感覚器科学・助教	60	18	※新たな内耳性難聴治療法の開発 RNAi による難聴原因蛋白 Cochlin の発現抑制
	〃	細萱 順一	付属病院 集中治療室・看護師	50	15	※全身麻酔を受けた術後患者の自律神経活動を基盤とした離床プログラムの開発
	〃	林 昌子	女性生殖発達病態学・講師	70	21	※母体血中 RNA を用いた HLA 遺伝子の動態解析～胎児バイオマーカー開発への展開
	〃	井上千鹿子	医学教育センター・助教	70	21	※医療系学生の臨床推論能力を高めるムラージュ教材の開発

〃	井内 勝哉	細胞生物学・助教	150	45	※ミトコンドリア生体分子の化学修飾に着目した水素の抗炎症作用メカニズムの解明
〃	Lee Hyunjin	細胞生物学・ポスター	120	36	※エピジェネティクス制御からみた水素の抗炎症作用のメカニズム
〃	岩田 衣世	解剖学・神経生物学・講師	90	27	※プロゲステロンとその代謝産物による体温調節に関する機能形態学的メカニズムの解析
〃	猪俣 稔	呼吸器内科学・特別研究生	110	33	※肺線維化病態におけるエクソソームを介した肺と骨髄のクロストークに関する研究
〃	國保 成暁	呼吸器内科学・ポスター	80	24	※mTOR 阻害薬による薬剤性肺障害の病態解明と疾患関連蛋白のバイオマーカーの検索
〃	秋山美知子	皮膚粘膜病態学・助教	90	27	※Nestin siRNA によるメラノーマの腫瘍抑制効果について
〃	小野澤志郎	臨床放射線医学・助教	110	33	※リアルタイム抗がん剤濃度コントロールによる革新的閉鎖循環下骨盤内抗がん剤灌流療法
〃	赤城 一郎	分子解剖学・特別研究生	120	36	※食道癌における分子標的治療薬の開発を目指した lincRNA の網羅的機能解析
〃	上田 純志	消化器外科学・助教	90	27	※ESRP1 を用いた肺癌の治療法開発
〃	肥後 心平	解剖学・神経生物学・助教	80	24	※吸入麻酔薬による Per2 発現抑制機構の解明—ICU 症候群の機構解明を志向して—
〃	BANYAR T. NAING	分子解剖学・助教	160	48	※Placenta specific long-non-coding RNA analysis: a new molecular basis of miscarriage
〃	倉品 隆平	女性生殖発達病態学・助教	120	36	※19 番染色体マイクロ RNA クラスタに着目したトロホプラスト形成の機構解明
〃	國重 智之	眼科学・助教	120	36	※角膜血管リンパ管新生における ICOS の働き
〃	石井 浩統	救急医学・助教	120	36	トヨタ生産方式による医療現場教育の標準化とカイゼン効果の研究
〃	三沢 彩	代謝・栄養学・ポスター	240	72	前立腺がんにおけるアンドロゲン応答性マイクロ RNA のエピゲノム作用機構の解明
〃	託見 健	解剖学・神経生物学・講師	90	27	生殖機能中枢キスペプチンニューロンを制御する神経ネットワークの解明
〃	田嶋 華子	小児・思春期医学・助教	70	21	小児肥満リスク予測因子としての日齢 0 から 3 歳までの腸内細菌叢解析
〃	桐山 智成	臨床放射線医学・助教	150	45	CT 吸収補正および呼吸同期を併用した半導体 SPECT による心筋血流定量法の開発
〃	上田 達夫	臨床放射線医学・助教	70	21	加温抗癌剤を用いた革新的な肝動脈化学塞栓術の開発
〃	石田麻里子	頭頸部・感覚器科学・助教	70	21	本邦における LAR の実態と病態解明に関する研究
〃	青木 雅代	形成再建再生医学・助教	180	54	スーパーカーボネートアパタイトを用いたケロイド・肥厚性瘢痕の核酸外用薬治療の確立
〃	佐野 仁美	形成再建再生医学・助教	40	12	メカノバイオロジーの観点より爪変形性疾患の病態解明を目指す
〃	下山 隆	神経内科学・助教	60	18	SCU における脳梗塞早期再灌流療法後の急性腎障害発症とバイオマーカーに関する検討
〃	五十嵐 豊	救急医学・助教	160	48	マイクロ波照射による脳損傷モデルの研究
〃	石川 真士	疼痛制御麻酔科学・講師	200	60	microRNA を用いた急性肝機能障害特異的診断マーカーの検討

計 184 件 19,980 5,994
25,974

4) 平成 28 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究分担の交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	審査区分	研究代表者・所属	研究分担者・所属・職名	交付決定額		研究課題名
				直接経費	間接経費	
				(万円)	(万円)	
基盤研究 (C)	一般	荻部 洋行 日本歯科大学	大久保善朗 精神・行動医学分野・大学院教授	5	1.5	※非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価
〃	〃	荻部 洋行 日本歯科大学	舘野 周 精神・行動医学・准教授	5	1.5	※非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価
〃	〃	荻部 洋行 日本歯科大学	肥田 道彦 精神・行動医学・講師	5	1.5	※非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価
〃	〃	林 研至 金沢大学	清水 渉 循環器内科学分野・大学院教授	50	15	※遺伝性不整脈の新規原因遺伝子検索およびゼブラフィッシュを用いた不整脈重症度評価
〃	〃	高木章乃夫 岡山大学	太田 成男 細胞生物学分野・大学院教授	20	6	※脂肪肝炎～肝発癌の病期に応じた最適な酸化ストレス介入療法の開発
〃	〃	吉見 竜介 横浜市立大学	岳野 光洋 アレルギー膠原病内科学・准教授	10	3	※ユビキチン化修飾系を治療標的とする膠原病の新規治療法の可能性について
〃	〃	八田耕太郎 順天堂大学	岸 泰宏 精神・行動医学・准教授	4	1.2	※神経炎症を視点にしたせん妄の予測、予防、治療に関する総合研究
〃	〃	倉林 睦 高知大学	柿沼 由彦 生体統御科学分野・大学院教授	15	4.5	※新たなメカニズムによる血糖コントロールと糖代謝異常の治療への展開
〃	〃	鈴木 洋 昭和大学	佐藤 直樹 循環器内科学・准教授	1	0.3	※神奈川循環器救急レジストリーの構築—急性重症心筋梗塞の予後改善へ向けての対策—
〃	〃	井上 政則 慶應義塾大学	小野澤志郎 臨床放射線医学・助教	2	0.6	※乳糜胸水に対する経皮的胸管塞栓術の基礎的検討：実験動物モデルの確立と安全性の検討
〃	〃	軸菌 智雄 大阪府立大学	杉谷 巖 内分泌外科学分野・大学院教授	10	3	※穿刺吸引細胞診検体のトランスクリプトーム解析による甲状腺癌術前診断の可能性を探る
〃	〃	田中 水緒 神奈川県立こども医療センター	永原 則之 基礎 RI 研究室・准教授	30	9	※小児腫瘍高精度診断マーカーの開発
〃	〃	田中 水緒 神奈川県立こども医療センター	片山 映 代謝・栄養学・助教	30	9	※小児腫瘍高精度診断マーカーの開発
〃	〃	佐藤 格夫 京都大学	平川 慶子 法医学・助教	20	6	※テラヘルツ計測、代謝物計測を応用した腸管虚血壊死の新たな早期診断確立
〃	〃	佐藤 格夫 京都大学	金涌 佳雅 法医学・講師	5	1.5	※テラヘルツ計測、代謝物計測を応用した腸管虚血壊死の新たな早期診断確立
〃	〃	松崎 利行 群馬大学	澤井 信彦 分子解剖学・講師	2	0.6	※アクアポリン 2 のトラフィッキングに重要な分子の同定とトラフィッキング機構の解明
〃	〃	萩沢 康介 防衛医科大学校	鈴木 英紀 形態解析共同研究施設・准教授	20	12	止血能を有した救命蘇生用人口血液カクテルの開発
〃	〃	石井亜紀子 筑波大学	喜納 裕美 分子遺伝医学分野・研究生	10	3	経口免疫寛容の誘導による外来遺伝子発現法の検討
〃	〃	石井亜紀子 筑波大学	岡田 浩典 分子遺伝医学分野・研究生	10	3	経口免疫寛容の誘導による外来遺伝子発現法の検討

ク	ク	橋詰令太郎 三重大学	宮川世志幸 分子遺伝学・講師	10	3	ダウン症候群の核型正常化による合併症の予防および治療法確立に向けた研究
ク	ク	門脇 光輝 滋賀県立大学	中澤 秀夫 武蔵境校舎 数学・教授	10	3	屈折現象を伴う波動伝播に対する空間遠方での漸近解析とその散乱理論への応用
ク	ク	三谷 明久 東京大学	寺崎 泰弘 解析人体病理学・准教授	10	3	呼吸器疾患における Hippo シグナル伝達の役割の検討
ク	ク	高橋 宏典 自治医科大学	瀧澤 俊広 分子解剖学分野・大学院教授	10	3	MicroRNA の網羅的解析による妊娠高血圧腎症と早産の病態解明・発症予知
ク	特設分野	松田 陽子 東京都健康長寿医療センター	松下 晃 消化器外科学・助教	5	1.5	幹細胞における老化機序解明と組織再生へ向けた試み
挑戦的萌芽研究		森 智治 京都大学	平川 慶子 法医学・助教	40	12	※血清と尿の NMR データを用いた発熱原因の予測
ク		森 智治 京都大学	金涌 佳雅 法医学・講師	5	1.5	※血清と尿の NMR データを用いた発熱原因の予測
ク		村井 俊哉 京都大学	平川 慶子 法医学・助教	20	6	※血清 NMR データを用いた電気けいれん療法の効果予測
ク		小池 薫 京都大学	平川 慶子 法医学・助教	115	34.5	近赤外スペクトル情報をフルに活用する臓器障害モニタリングシステムの開発
ク		小池 薫 京都大学	金涌 佳雅 法医学・講師	50	15	近赤外スペクトル情報をフルに活用する臓器障害モニタリングシステムの開発
ク		鈴木 崇生 京都大学	平川 慶子 法医学・助教	15	5	※核磁気共鳴データのパターン認識解析による敗血症関連脳症の予後予測法の開発
ク		鈴木 崇生 京都大学	金涌 佳雅 法医学・講師	5	1.5	※核磁気共鳴データのパターン認識解析による敗血症関連脳症の予後予測法の開発
ク		吉村 長久 京都大学	平川 慶子 法医学・助教	25	7.5	核磁気共鳴データのパターン認識解析による緑内障線維柱帯切除術の予後予測法の開発
ク		上本 伸二 京都大学	平川 慶子 法医学・助教	10	3	血清を用いた新規概念による睥癌検出手法の開発
ク		大貫 麻美 白百合女子大学	渡邊 淳 分子遺伝医学・准教授	10	3	新しい生命科学教育の根幹を担う日本独自の学際的幼児教育プログラムの開発
計 34 件				604	187.2	
					791.2	

5) 平成28年度補助委託一覧

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
野村俊明	人文科学・社会科学・医療心理学	分担	科学研究費補助金 科学研究	高齢者支援のための心理社会的介入プログラムの開発	櫻村正美	日本医科大学医療心理学教室
野村俊明, 北村伸, 山本卓	人文科学・社会科学・医療心理学	分担	科学研究費補助金 科学研究 (C)	高齢者の「反社会的行動」に関する研究：医療・福祉・司法からの多面的アプローチ	野村俊明	日本医科大学医療心理学教室
野村俊明, 川崎直樹	人文科学・社会科学・医療心理学	分担	科学研究費補助金 科学研究 (B)	感情障害へのコンパッション・フォーカストセラピーの治療マニュアルの作成と効果の検証	石村郁夫	東京成徳大学応用心理学部
野村俊明, 早坂明哲, 井上千鹿子	人文科学・社会科学・医療心理学	分担	科学研究費補助金 科学研究 (C)	市民と共に学ぶ医療を実現する次世代模擬患者養成プログラム開発に関する研究	藤倉輝道	日本医科大学
	人文科学・社会科学・医療心理学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	高齢者の「反社会的行動」に関する研究	野村俊明	
	自然科学・数学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	ヘルムホルツ方程式の解の評価と対応する非定常問題の解の平滑化評価に関する研究	中澤秀夫	日本医科大学 医学部
中澤秀夫	自然科学・数学	分担	科学研究費補助金 科学研究 (C)	屈折現象を伴う波動伝播に対する空間遠方での漸近解析とその散乱理論への応用	門脇光輝	滋賀県立大学工学部
	自然科学・物理学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	ヒトには効くがバクテリアには効かない痛風薬：酵素薬相互作用のダイナミクス	菊地浩人	日本医科大学
	自然科学・物理学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	動的データに内在するレイアウト性の新規な特徴付けと生体時系列への応用	藤崎弘士	日本医科大学
	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	消化管上皮幹細胞の系譜解析とニッチ形成機構解明のための培養系の開発	岡 敦子	
	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	消化管上皮幹細胞の起源と幹細胞制御におけるNotch シグナル経路の役割	長谷部孝	
武藤三千代	スポーツ科学	分担	科学研究費補助金 科学研究 (C)	「ニコチンはドーピング防止規程の監視対象物質である」ことの認識に基づくタバコ対策	勝又聖夫	基礎医学衛生学公衆衛生学分野
瀧澤俊広	分子解剖学分野	分担	科学研究費補助金 科学研究 (B)	母体、胎児免疫相関から見た妊娠維持機構ならびにその破綻	齋藤 滋	富山大学・大学院医学薬学研究部 (医学)・教授
瀧澤俊広	分子解剖学分野	分担	科学研究費補助金 科学研究 (C)	MicroRNA の網羅的解析による妊娠高血圧腎症と早産の病態解明・発症予知	高橋宏典	自治医科大学・医学部・講師
	分子解剖学分野	代表	科学研究費補助金 科学研究 (B)	Placenta specific long-non-coding RNA analysis : a new molecular basis of miscarriage	Naing BT	日本医科大学・医学部・助教
	分子解剖学分野	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	キスペプチンによる甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンを介した生殖生理調節を検証する	澤井信彦	日本医科大学・医学部・講師
澤井信彦	分子解剖学分野	分担	科学研究費補助金 科学研究 (C)	アクアポリン2のトラフィック機構の解明	松崎利行	群馬大学・大学院医学系研究科・教授
	解剖学・神経生物学分野	代表	日本イライリリー株式会社 教育・研究助成金	ヒトエストロゲン受容体変異体の機能と発現調節機構の解明	服部裕次郎	解剖学・神経生物学分野
飯島典生, 託見健, 石井寛高, 岩田衣世, 肥後心平	解剖学・神経生物学分野	代表分担	科学研究費補助金 科学研究 (C)	新規生殖制御系への環境情報入力と3次元の相互作用, 生活環境に関する機能形態学的研究	小澤一史	解剖学・神経生物学分野
	解剖学・神経生物学分野	代表	科学研究費補助金 科学研究 (B)	プロゲステロンとその代謝産物による体温調整に関する機能形態学的メカニズムの解明	岩田衣世	解剖学・神経生物学分野

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	解剖学・神経生物学分野	代表	科学研究費補助金 手研究 (B)	吸引麻酔薬による Per2 発現抑制機構の解明： ICU 症候群の機構解明を志向して	肥後心平	解剖学・神経生物学分野
	解剖学・神経生物学分野	代表	科学研究費補助金 手研究 (B)	生殖機能中枢キヌベパチンニューロンを制御す る神経ネットワークの解明	託見 健	解剖学・神経生物学分野
	感覚情報科学分野	代表	科学研究費補助金 芽研究	細胞内輸送局を制御機構を基盤とする新しい作 用機序のてんかん分子治療戦略の開発	萩原郁夫	
	感覚情報科学分野	代表	ノバルティスファーマ 株式会社	眼疾患にかかわる網膜内 P2X 受容体の探索	石井俊行	日本医科大学 感覚情報 科学分野
	感覚情報科学分野	代表	科学研究費補助金	コリン作動性ニューロンにおける新たなコリン 代謝経路の解明	石井俊行	日本医科大学 感覚情報 科学分野
	感覚情報科学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	患者 IPS 細胞由来視細胞標識による網膜色素変 性症疾患メカニズムの解析	本間耕平	日本医科大学
本間耕平	感覚情報科学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	IPS 細胞の冠動脈内注入による低侵襲心筋再生 療法	時田祐吉	
	感覚情報科学分野	代表	ノバルティスファーマ 研究助成 2016	細胞株の違いが文化誘導された視細胞の光応答 に与える影響の研究	金田 誠	
	感覚情報科学分野	代表	ノバルティスファーマ 研究助成 (眼疾患領域)	代謝型グルタミン酸受容体 6 型の細胞内輸送・ 局在シグナル領域の探索	金田 誠	
	感覚情報科学分野	代表	アステラスアカデミッ クスサポート	中枢神経系疾患領域に関する研究	金田 誠	
	感覚情報科学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	マウス双極細胞周辺受容野応答極性反転のメカ ニズム解析	尹 成珠	感覚情報科学分野
	感覚情報科学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	心の性を司る視索前野野性的二型核及び分界糸床 核の性差形成機構	濱田知宏	
	感覚情報科学分野	代表	平成 29 年度笹川科学研 究助成	網膜視細胞における P2X7 受容体の生理学的機 能の解明	一戸 唱	
	生体統御科学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	心筋アセチルコリン産生システム機能亢進によ る中枢介入機構・効果の検討	柿沼由彦	日本医科大学 生体統御 科学分野
	生体統御科学分野	代表	喫煙科学研究財団助成 金	心臓非神経性アセチルコリンシステムの活性化 による中枢性ストレス抵抗性応答惹起の可能性 についての基礎的研究	柿沼由彦	日本医科大学 生体統御 科学分野
	生体統御科学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ノルアドレナリンによるミミクログリア活性化と 退行性神経変性病態のメカニズム	洲鎌秀永	日本医科大学 生体統御 科学分野
岡本 研	代謝・栄養学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (B)	蛋白質凝集神経変性疾患に対するキサンチン酸化 酵素阻害剤の病変進行遅延効果の機構解明	西野武士	
岡本 研	代謝・栄養学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ヒトには効くがバクテリアには効かない痛風 薬：酵素薬相互作用のダイナミクス	菊地浩人	
	代謝・栄養学分野	代表	痛風財団研究助成	キサンチン酸化還元酵素における基質、阻害剤 結合過程の動的解析	岡本 研	
	分子遺伝医学分野	代表	AMED 平成 28 年度日 本医療研究開発機構研 究費(革新的バイオ医薬 品創出基盤技術開発事 業)	骨格筋指向性のあるペプチド付加モルフォノ 核酸 DDS 技術の臨床応用に向けた開発	岡田尚巳	
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	AMED 平成 28 年度日 本医療研究開発機構研 究費(難治性疾患実用化 研究事業)	ALS に対する新規治療技術の創出	山梨裕司	東京大学医科学研究所腫 瘍抑制分野

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	AMED 平成28年度日本医療研究開発機構研究費(創薬支援ネットワーク)	筋萎縮治療に対する創薬基盤パイオメーカーの探索と治療法開発に関する研究	山梨裕司	東京大学医科学研究所腫瘍抑制分野
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	AMED A-STEP 研究開発支援プログラムハイリクス年度採択課題	AAV中空粒子を用いる臓器特異的DDSの臨床応用に向けた開発	峰野純一	タカラバイオ株式会社
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	AMED 平成28年度日本医療研究開発機構研究費(医薬品等規制調和・評価研究事業)	遺伝子治療製品の第一種使用における生物多様性の確保のための評価法のあり方及びウイルス排出に関する試	小野寺雅史	国立成育医療研究センター成育遺伝研究部
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	AMED 平成28年度日本医療研究開発機構研究費(難治性疾患実用化研究事業)	デルマタン4-O-硫酸基転移酵素-1欠損に基づくエーラスタンダロス症候群の病態解明と治療法の開発	古庄知己	国立大学法人信州大学医学部附属病院
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	AMED 平成28年度日本医療研究開発機構研究費(難治性疾患実用化研究事業)	難治性神経変性疾患に対する神経シナプス形成を促進させるマイクロRNAの補充による新規治療法の開発と確立	北條浩彦	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	AMED 平成28年度日本医療研究開発機構研究費(難治性疾患実用化研究事業)	遺伝性髄鞘形成不全症の病態に基づく革新的な治療法の開発のための研究	井上 健	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所
渡邊 淳	分子遺伝医学分野	分担	AMED 平成28年度日本医療研究開発機構研究費(革新的がん医療実用化研究事業)	ゲノム情報で規定される超高リスク群の診断と、層別化・個別化予防のためのエビデンス構築をめざした臨床	吉田輝彦	
三宅弘一	分子遺伝医学分野	分担	AMED 平成28年度日本医療研究開発機構研究費(再生医療実現拠点ネットワークプログラム幹細胞・再生医学イノベーションイノベーション)	ダイレクトリプログラミングによる心臓再生と分子基盤解明	家田真樹	慶應義塾大学医学部内科学教室循環器
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	厚生労働省補助金 革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業 医薬品分野	遺伝性難病に対する遺伝子治療薬の臨床開発に向けた安全性・有効性評価法の確立・ガイドライン作成・人材育成	小野寺雅史	国立成育医療研究センター成育遺伝研究部
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	精神・神経疾患研究開発補助金	ジストロフィン欠損モデル動物を基盤とした筋ジストロフィーの新しい治療法開発	武田伸一	国立精神・神経医療研究センター
渡邊 淳	分子遺伝医学分野	分担	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患実用化促進事業)	胎児・新生児骨系疾患の診断と予後に関する研究	澤井英明	兵庫医科大学医学部産科婦人科学
宮川世志幸	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費助成事業 基盤研究(B)	アデノ随伴ウイルスベクターを応用した脳神経疾患に対する遺伝子細胞療法	岡田尚巳	
宮川世志幸	分子遺伝医学分野	代表分担	科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究	ヘルペスウイルスLATmiRNAを利用したCRISPR/Cas システムと遺伝子治療	岡田尚巳	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	新規無毒化 HSV ベクターを用いた神経細胞選 択的治療遺伝子デリバリーシステムの開発	宮川世志幸	
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	適正製造規範に適合する簡易精製可能な次世 代 AAV ベクターの開発 その2	平井幸彦	
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	ダイヤモンド・ブラックファン貧血の新規動物 モデル作製と治療法の開発	三宅弘一	
三宅弘一	分子遺伝医学分野	代表分担	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	脳神経病変を標的とした成体リゾーム病の新 規遺伝子治療法の開発	三宅紀子	
三宅弘一	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	炎症性肺疾患におけるサバイビンの分子病態の 解明と新規遺伝子治療法の開発	寺崎美佳	日本医科大学解析人体病 理学
三宅弘一	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	AAV ベクターによる低ホスファターゼ血症の 遺伝子治療	松本多絵	日本医科大学小児科
猪口孝一, 三宅弘一	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	先天性角化不全症の新規原因遺伝子変異の同定 と新規治療法の開発	山口博樹	日本医科大学血液内科
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究	一般市民への「ヒトの遺伝」リテラシー向上を 目指した課題調査とプログラム・教材開発	渡邊 淳	
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費助成事業 若手研究 (B)	機能強化型間葉系間質細胞を用いた細胞移植治 療法開発の基盤研究	笠原優子	
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	筋ジストロフィーの遺伝子治療を目指した免疫 寛容誘導法の検討	喜納裕美	
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	超音波血液脳関門開放と AAV ベクターを用い た成体マーマーモセトてんかんモデルの開発	岡田浩典	
岡田浩典	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	経口免疫寛容の誘導による外来遺伝子発現法の 検討	石井亜紀子	筑波大学医学医療系
喜納裕美	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	経口免疫寛容の誘導による外来遺伝子発現法の 検討	石井亜紀子	筑波大学医学医療系
齋藤文仁, 坂井 敦	薬理学分野	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	ヒト長鎖ノンコーディング RNA の包括的解析 を通じた神経障害性疼痛の根治治療法開発	鈴木秀典	
坂井 敦	薬理学分野	代表分担	科学研究費補助金 芽研究	標的細胞特異的エクソソームを用いた RNA 配 送システムによる神経障害性疼痛治療	鈴木秀典	
	薬理学分野	代表	新学術領域研究	精神疾患のプレシナプスエンドフュノタイプの 形成・維持機構の解析	小林克典	
鈴木秀典, 齋藤文仁, 坂井 敦, 三ヶ原靖規	薬理学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	染色体重複モデル動物を用いた科学的根拠に基 づく自閉症治療法開発の基礎的研究	永野昌俊	
鈴木秀典	薬理学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	小児期の神経障害性疼痛抵抗性に着目した新規 治療標的の探索	坂井 敦	日本医科大学精神・行動 医学
鈴木秀典	薬理学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (B)	アミロイド関連うつ病の分子イメーシング	大久保善朗	日本医科大学基礎医学 RI 研究室
永野昌俊	薬理学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	硫化水素および硫黄酸化物産生不全モデル・硫 黄転移酵素ノックアウトマウスの病態代謝	永原則之	
寺崎泰弘	解析人体病理学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	炎症性肺疾患におけるサバイビンの分子病態の 解明と新規遺伝子治療法の開発	寺崎美佳	
寺崎泰弘	解析人体病理学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	間質性肺炎におけるマイクロ RNA, エクソソー ムを介する病態の解析と臨床応用	功刀しのぶ	
清水 章	解析人体病理学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ラット肝臓移植モデルを用いた移植肝臓の免疫 寛容獲得の機序とパイオマーカーの同定	石井永一	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	解析人体病理学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	糸球体病変を規定する分子の同定とその応用	長濱清隆	
寺崎泰弘	解析人体病理学分野	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	呼吸器疾患における Hippo シグナル伝達の役割の検討	三谷明久	東京大学, 保健・健康推進本部
清水 章	解析人体病理学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (B)	前臨床サル移植モデルによる革新的障島・腎移植法を用いた糖尿病性腎症根治療法の確立	山田和彦	鹿児島大学, 医用ミニブロンター
清水 章	解析人体病理学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (B)	血管内皮障害に基づく炎症・自然免疫活性化の制御による同種・異種肺移植成績向上戦略	佐原寿史	鹿児島大学, 医用ミニブロンター
清水 章	解析人体病理学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	長期高ガスストリン血症の胃粘膜に及ぼす影響	岩切勝彦	消化器内科
	解析人体病理学分野	代表	日本医科大学大学院医学研究科特別経費(研究科分)個別研究プロジェクト	パラフィン切片マイクロガイセクシオンによる間質性肺炎の早期線維化異からの病態関連因子の抽出とバイオマーカー開発・治療応用	寺崎泰弘	
坂谷貴司	統御機構診断病理学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	乳癌における癌細胞の幹細胞化阻害による実験的転移抑制治療	和田龍一	
内藤善哉, 和田龍一	統御機構診断病理学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	網羅的な蛋白質解析による子宮内膜腺癌バイオマーカーの同定及び治療標的候補の探索	彰 為霞	
内藤善哉	統御機構診断病理学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	癌化学療法効果予測 miRNA の同定とバイオマーカー探索	中村慶春	消化器外科学
内藤善哉, 長谷川友紀, 後小松康信, 尾林宏, 鳥羽三聡, 堀口佳代, 森脇裕正, 金沢睦子, 奈津子, 小段真理子	統御機構診断病理学分野	分担	厚生労働省科研費補助金	医療安全指標の開発及び他施設間比較体制の検討と病理部門等と安全管理部門との連携が院内の医療安全体制に与える影響に関する研究	伏見清秀	東京医科歯科大学クオリティ・マネジメント・センター
	微生物学・免疫学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ヒトマウスモデルにおける HIV-1 感染病態への粘膜局所自然免疫の関与の解明	大倉定之	日本医科大学微生物学・免疫学教室
	微生物学・免疫学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	細菌外毒素による腸管からの損傷関連分子パターンとの放出と食物アレルギー反応の誘導	若林あや子	日本医科大学微生物学・免疫学教室
根岸靖幸	微生物学・免疫学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	自然免疫からみた早産発来機序の解明	島 義雄	日本医科大学武蔵小杉病院 新生児内科
	微生物学・免疫学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	V γ IV δ 1 型 γ δ T 細胞活性化生薬成分の同定：新たな HIV 制御法の開発に向けて	高橋秀実	日本医科大学微生物学・免疫学教室
高橋秀実	微生物学・免疫学分野	分担	私立大学戦略的研究 盤形成支援事業	Clinical Rebiopsy Bank Project を基盤とした包括的がん治療開発拠点形成：再発癌における樹状細胞の解析	弦間昭彦	日本医科大学
高橋秀実	微生物学・免疫学分野	分担	がんプロジェクト	粘膜自然免疫活性化と腫瘍制御	弦間昭彦	日本医科大学
	微生物学・免疫学分野	代表	NPO 丸山ワクケン研究 助成	BCG 及びヒト型結核菌関連物質による樹状細胞活性化の検討	高橋秀実	日本医科大学微生物学・免疫学教室

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
稲垣弘文, 勝又聖夫, 大塚俊昭	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	睡眠時呼吸障害とメタボリックシンドロームに 関する総合的研究	川田智之	大学院医学研究科
稲垣弘文, 勝又聖夫	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	喫煙科学研究財団	喫煙状況を踏まえた睡眠時呼吸障害と耐糖能障 害との関連性	川田智之	大学院医学研究科
月岡関夫, 勝又聖夫	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	Jミルク	地域在住高齢者の過去における牛乳摂取頻度と メンタルヘルス	川田智之	大学院医学研究科
川田智之, 稲垣弘文, 平田紀美, 小林麻 衣子	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	「ニコチンはドーピング防止規程の監視対象物 質である」こと認識に基づくタバコ対策	勝又聖夫	日本医科大学
川田智之, 良妻安太, 稲垣弘文, 平田幸代	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	好中性アレルギー喘息病態におけるNr2fの役 割	李 英姬	
川田智之, 高橋美保, 植草協子	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	非正規雇用の健康影響に関する国際比較研究	可知悠子	
平川慶子	法医学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	法医中毒薬毒物のQTOFデータに対する包括的 マルチプロセス解析の検討	林田眞喜子	日本医科大学法医学
早川秀幸	法医学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	死後髄液から死亡前発症のいれん発作の有無 を検出する法医診断技術の基盤的研究	金浦佳雅	日本医科大学法医学
奥田貴久	法医学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	法医学的に有用な睡眠薬代謝物の検索	山口晃志	日本医科大学法医学
平川慶子, 金浦佳雅	法医学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	心臓蘇生時の胸部圧迫に伴う心臓破裂発生機序 の解明	奥田貴久	日本医科大学法医学
平川慶子, 金浦佳雅	法医学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	慢性過剰飲酒における肝ADH1および3の活性 動態とアルコール性肝障害進展への影響	大野曜吉	日本医科大学法医学
平川慶子, 金浦佳雅	法医学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	テラヘルツ計測、代謝物計測を応用した腸管虚 血壊死の新たな早期診断確立	佐藤格夫	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 芽研究	血清と尿のNMRデータを用いた発熱原因の予 測	森 智治	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 芽研究	核磁気共鳴データのパターン認識解析による敗 血症関連脳症の予後予測法の開発	鈴木崇生	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 芽研究	近赤外スペクトル情報をフルに活用する臓器障 害モニタリングシステムの開発	小池 薫	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 芽研究	血清NMRデータを用いた新たなアレルツハイ マー病診断法の開発	山崎峰雄	日本医科大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 芽研究	血清NMRデータを用いた電気けいれん療法の 効果予測	村井俊哉	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 芽研究	NMRメタボロミクスを用いた脳腫瘍血清診断	足立好司	日本医科大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 芽研究	血清を用いた新規概念による膀胱検出方法の開 発	上本伸二	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 芽研究	核磁気共鳴データのパターン認識解析による緑 内障繊維柱帯切除術の予後予測法の開発	吉村長久	京都大学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
齋藤文仁, 坂本篤裕, 坂井敦, 丸山基世	基礎医学共同研究利用施設・実験動物管理室	分担	科学研究費補助金 基 盤研究 (B)	ヒト長鎖ノンコーディングRNAの包括的解析を通して神経障害性疼痛の根治治療法開発	鈴木秀典	日本医科大学 薬理学
永原則之	基礎医学共同研究利用施設・基礎医学放射線同位元素研究室	代表	科学研究費補助金 基 盤研究 (C)	硫化水素および硫黄酸化物産生不全モデル・硫黄転移酵素ノックアウトマウスの病態代謝	永原則之	日本医科大学
	基礎医学共同研究利用施設・基礎医学放射線同位元素研究室	分担	科学研究費補助金 基 盤研究 (C)	小児腫瘍高精度診断マーカーの開発	田中水緒	地方独立行政法人神奈川県立こども医療センター (臨床研究所)
三品雅洋	循環器内科学分野・千葉北総病院循環器内科	代表	科学研究費補助金 基 盤研究 (C)	心房細動における心房炎症の意義と電気生理学的特徴：FDG-PETを用いた検討	宮内靖史	一般財団法人脳神経疾患研究所
	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	分担	科学研究費補助金 基 盤研究 (B)	アデノシンA2A受容体の分子イメージング：アナーシトインヒューマン研究	石渡喜一	
	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	代表	科学研究費補助金 基 盤研究 (C)	レヴィ小体病における脳機能の代償とアミロイド分布の関連に関する研究	三品雅洋	
須田 智	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	代表分担	科学研究費補助金 基 盤研究 (C)	アデノ随伴ウイルスを用いて遺伝子導入した歯髄幹細胞移植による新規脳梗塞治療の開発	仁藤智香子	
仁藤智香子	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	代表分担	科学研究費補助金 基 盤研究 (C)	菌髄由来幹細胞とヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の融合による新規脳出血治療の開発	須田 智	
	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	代表	科学研究費補助金 基 盤研究 (C)	脳梗塞モデルにおけるミクログリアとマクロファージが神経機能に与える影響の解明	西山康裕	
	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	代表	科学研究費補助金 基 盤研究 (C)	血清NMRデータを用いた新たなアルツハイマー病診断法の開発	山崎峰雄	
	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	代表	科学研究費補助金 基 盤研究 (B)	急性期脳梗塞におけるADMA値の経時変化と身体機能予後への影響	阿部 新	国立大学法人東京大学
	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	代表	科学研究費補助金 基 盤研究 (B)	SCUにおける脳梗塞早期再灌流療法後の急性腎障害発症とバイオマーカーに関する検討	下山 隆	
阿部 新	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	分担	戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)	食シグナルの認知科学の新展開と脳を活性化させる次世代機能性食品開発へのグランドデザイン	阿部恭子	
木村和美	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	分担	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	発症時刻不明の脳梗塞患者に対する静注血栓溶解療法の適応拡大を目指した臨床研究	豊田一則	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
	神経内科学分野・千葉北総病院神経・脳血管内科	代表	科学研究費補助金 基 盤研究	血清NMRデータを用いた新たなアルツハイマー病診断法の開発	山崎峰雄	
坂田宗之, 石橋賢士, 三品雅洋, 日浦幹夫	神経内科学分野・脳病態画像解析学講座	分担	科学研究費補助金 基 盤研究 (B)	代謝型グルタミン酸受容体1型の分子イメージング：フアーストインヒューマン研究 平成24-27年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) No. 24390298	石渡喜一	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム
	神経内科学分野・脳病態画像解析学講座	代表	科学研究費補助金 基 盤研究 (C)	平成26-28年度学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)「レヴィ小体病における脳機能の代償とアミロイド分布の関連に関する研究」(No. 26461321)	三品雅洋	日本医科大学大学院医学研究科脳病態画像解析学講座

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
坂田宗之、 鷲野谷利 幸、片山宗 潤、石橋賢 一、豊原 土、三品雅 洋	神経内科学分野・脳病態画像解析学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)	平成28年度科学研究費補助金基盤研究(B)「ア デノシンA2A受容体の分子イメージング： ファーストインヒビター研究」(No. 16H05396)	石渡喜一	地方独立行政法人東京都 健康長寿医療センター研 究所神経画像研究チーム
鶴岡秀一	腎臓内科学分野・付属病院腎臓内科	代表	石橋由紀子記念基金	造血幹細胞移植後腎障害の発症機序の解明	三井亜希子	日本医科大学腎臓内科
桑名正隆	腎臓内科学分野・付属病院腎臓内科	分担	厚生労働省科研費補助 金	慢性腎臓病(CKD)進行例の実態把握と透析導 入回避のための有効な指針の作成に関する研究	山縣邦弘	筑波大学
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	採消血単球を標的とした強皮症に対する新規治 療法の開発	桑名正隆	日本医科大学
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科	分担	厚生労働省科研費補助 金	血液凝固異常症に関する研究	村田 満	慶應義塾大学
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科	分担	厚生労働省科研費補助 金	疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域 横断的な難治性肺高血圧症症例登録研究	田村雄一	国際医療福祉大学 三田 病院
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科	分担	厚生労働省科研費補助 金	強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分 類・診療ガイドライン作成事業	尹 浩信	熊本大学大学院生命科学 研究部
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科	分担	AMED 委託研究開発費	強皮症の病態解明および革新的医薬品開発の研 究	尹 浩信	熊本大学大学院生命科学 研究部
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科	分担	AMED 委託研究開発費	重症肺高血圧症に対するエビデンスを構築する 新規戦略的研究	巽浩一郎	千葉大学大学院医学研究 院
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科	分担	厚生労働省科研費補助 金	自己免疫疾患に関する調査研究班	住田孝之	筑波大学医学医療系
岳野光洋	アレルギー・膠原病内科	分担	厚生労働省科研費補助 金	ベータチエット病に関する調査研究	水木信久	横浜市立大学
岳野光洋	アレルギー・膠原病内科	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ユビキチン化修飾系を治療標的とする膠原病の 新規治療法の可能性について	吉見竜介	横浜市立大学
山口博樹	アレルギー・膠原病内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	強皮症難治性臓器病変克服に向けた発症前治療 標的の同定	白井悠一郎	日本医科大学
山口博樹	血液内科学分野・付属病院血液内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	先天性角化不全症の新規原因遺伝子変異の同定 と新規治療法の開発	山口博樹	日本医科大学 血液内科
山口博樹	血液内科学分野・付属病院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助 金	難治性疾患克服研究事業)稀少小児遺伝性血液 疾患に対する新規責任遺伝子の探索と遺伝子診 断システムに関する研究	小高勢二	名古屋大学 小児科
山口博樹	血液内科学分野・付属病院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助 金	先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断 ガイドラインの作成に関する研究	伊藤悦朗	弘前大学 小児科
山口博樹	血液内科学分野・付属病院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助 金	成人難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞 移植療法の治療成績向上につながる基盤整備の ための多施設共同研究	福田隆浩	ガンセンター中央病院
辰口篤志	消化器内科学分野・付属病院消化器・肝臓 内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	長期高ガストロリン血症の胃粘膜に及ぼす影響	岩切勝彦	消化器内科学
	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科	代表	日本糖尿病学会・欧州 糖尿病財団 交換留学 助成	Dissecting the role of microRNAs in pancreatic beta cell lipotoxicity	長尾元嗣	ルンドト大学糖尿科セ ンター
	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科	代表	上原記念生命科学財団 海外留学助成金 リサーチフェローシップ	CD36 を介した降 β 細胞脂肪毒性発現機構の 解明	長尾元嗣	ルンドト大学糖尿科セ ンター

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
長尾元嗣	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	代表分担	科学研究費補助金(基盤研究(C))	メタボリックシンドローム発症と摂食行動：新規モデルマウスを用いた解析	杉原 仁	日本医科大学
長尾元嗣	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	代表分担	喫煙科学研究財団研究助成	ニコチン投与母ラットあるいは父ラットからの出生仔における成長後の耐糖能異常の検討	杉原 仁	日本医科大学
稲垣恭子	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助金	家族性高コレステロール血症に関する研究	石橋 俊	自治医科大学
石井健男, 神尾孝一郎, 木田厚瑞	内分泌糖尿病代謝内科学分野・千葉北総病院内分泌内科 呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科, 化学療法科 呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表 代表 代表分担	科学研究費補助金(萌芽研究) 科学研究費補助金(基盤研究(C)) 科学研究費補助金(基盤研究(C))	神経経済学的適応障害としての2型糖尿病の行動経済学的病態分析 ドライバード伝子異常肺癌の薬剤耐性機序における長鎖ノンコーディングRNAの意義 COPDと心血管疾患の臓器相関の新機序解明に向けたガレクチン-3の役割の探索	江本直也 清家正博 服部久弥子	日本医科大学千葉北総病院内分泌内科 日本医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学分野 呼吸ケアクリニック
吾妻安良太	呼吸器内科学分野・武蔵小杉病院呼吸器内科 呼吸器内科学分野・武蔵小杉病院呼吸器内科	代表 代表分担	科学研究費補助金(基盤研究(C)) 文科省科研費(基盤研究(C))	薬剤性肺障害における内皮細胞由来EMPの臨床マーカーとしての可能性探索 平成26-28年度「自家骨髄細胞の肺線維化病態への臨床応用に向けた培養系構築と脾臓の役割に関する研究」	白杵二郎 神尾孝一郎	
館野 周, 上田 諭, 肥田道彦	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科 精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表 分担	科学研究費補助金(基盤研究(C)) 科学研究費補助金(基盤研究(B))	タウイメーキングによる老年期幻覚妄想の病態解明研究 アミロイド関連うつ病の分子イメーキング	館野 周 大久保善朗	
館野 周	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金(基盤研究(C))	認知症におけるデフォルトモードネットワーク異常に関する分子イメーキング研究	肥田道彦	日本医科大学
岸 泰宏	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科 精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担 代表	科学研究費補助金(基盤研究(C)) 科学研究費補助金(基盤研究(B))	非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価 神経炎症を視覚にしたせん妄の予測、予防、治療に関する総合研究	菊部洋行 八田耕太郎 大久保善朗	順天堂大学
	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金(基盤研究(C)) 科学研究費補助金(基盤研究(B))	アミロイド関連うつ病の分子イメーキング	大久保善朗	
	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	平成28年度スポーツ振興くじ助成事業・ドーピング分析機器等整備事業「ドーピング検査手法の実効性の確保に関する整備事業」	中枢神経作用薬の高次脳機能に対する効果および薬物動態を同定するための脳機能画像を用いた新しいドーピング検査技術の研究開発	大久保善朗	
	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	量子科学技術研究開発機構委託研究	分子イメーキングを用いた精神神経疾患の診断法の開発	大久保善朗	
	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	(公財)先進医薬研究振興財団一般研究助成	老年期うつ病のドーパミントランスポーターイメーキング	大久保善朗	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
大久保善朗、笹野周、肥田道彦	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メソタルヘルズ科	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価	苅部洋行	日本歯科大学 生命歯学部
	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メソタルヘルズ科	代表	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)	認知症の情動認知評価法の開発とデフオルトモード脳機能・分子イメージング研究の融合(国際共同研究強化)	肥田道彦	
	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メソタルヘルズ科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	双極性障害における白質障害の解明と早期診断に向けた有用性の検討	下田健吾	日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルズ科
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	エビデンスに基づく薬剤耐性機序におけるp38 α の関与の研究	浅野 健	
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	交通外傷児と家族のPTSDに関する研究	吉野美緒	日本医科大学 小児科
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	乳幼児早期マウスへの抗生剤投与の自然リンパ球への影響と喘息との関連	山西慎吾	小児科
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	小児喘息の phenotype-endotype に寄与するバイオマーカーの解明	林 美雪	小児科
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	乳児期における腸内細菌叢の構成、新たなバイオマーカーとアレルギー疾患の発症の解明	パワソルルビー	小児科
	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科、放射線治療科	代表	農林水産省高度化事業 科学研究費補助金 若手研究(B)	PET/MRI一体機における認知症診断の精度向上を目的としたMRI吸収補正法の開発	関根鉄朗	日本医科大学 放射線医学
中村香織、新田雅之、河野佐和	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科、放射線治療科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	悪性神経腫腫の治療向上を目指す照射法探索のための基礎と臨床の融合型研究	上田達夫	日本医科大学
瀧本哲也、師田信人、寺島慶太、清谷知子、中面哲也、市村幸一、大杉夕子、金村米博、前林勝也	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科、放射線治療科	代表分担	厚労省労働省科研費補助金	小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療	前林勝也	地方独立行政法人大阪市 民病院機構大阪市立総合 医療センター
	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科、放射線治療科	代表		単分散系エマルジョンを用いた革新的薬剤送達系に関する基礎的検討	安井大祐	放射線医学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
石井庸介, 坂本俊一 郎, 宮城泰 雄	心臓血管外科学分野・付属病院心臓血管 外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ダブルポテンシヤル法を応用した低侵襲心房細 動手術の確立	新田 隆	日本医科大学付属病院心 臓血管外科
坂本俊一郎	心臓血管外科学分野・付属病院心臓血管 外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心房細動がもたらす心房筋リモデリングとバイ オマーカーとしての microRNA の解明	藤井正大	千葉北総病院心臓血管外 科
藤井正大, 別所竜蔵	心臓血管外科学分野・付属病院心臓血管 外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科 呼吸器外科学分野・付属病院呼吸器外科・ 千葉北総病院呼吸器外科	分担 代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	周術期心不全治療のための水チャネル・アク アポリンの研究	網谷亮輔	千葉北総病院心臓血管外 科
	呼吸器外科学分野・付属病院呼吸器外科・ 千葉北総病院呼吸器外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	末梢小型肺癌に対する新しい内視鏡治療法の開 発	白田実男	日本医科大学 大学院医 学研究科
	呼吸器外科学分野・付属病院呼吸器外科・ 千葉北総病院呼吸器外科	代表	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構	末梢型肺癌に対する新しい内視鏡学的治療に関する 臨床研究	白田実男	日本医科大学 大学院医 学研究科 呼吸器外科学 分野
白田実男	呼吸器外科学分野・付属病院呼吸器外科・ 千葉北総病院呼吸器外科	分担	日本医療研究開発機構 (AMED)	Photodynamic Therapy による非熱的不整脈治 療器の開発 (AS2415004P)	荒井巨憲	慶應義塾大学 理工学部
平川慶子	脳神経外科学分野・千葉北総病院脳神経 外科	代表分担	科学研究費補助金 萌芽研究	NMR メタボロミクスを用いた脳腫瘍血清診断	足立好司	日本医科大学武蔵小杉病 院脳神経外科
	脳神経外科学分野・千葉北総病院脳神経 外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	吸収性スクリニユーによる頸椎間関節固定術の 生体力学的研究	金 景成	
	整形外科分野・付属病院整形外科・リウ マチ外科, 武蔵小杉病院整形外科, 多摩永 山病院整形外科, 千葉北総病院整形外科	代表	公益財団法人 高橋産 業経済研究財団	変形性膝関節症における簡易的な迅速PCL組織 学的診断法の開発	大高康史	
後藤 穰	頭頸部・感覚器科学分野・付属病院耳鼻咽 喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉 科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病 院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助 金	免疫療法による花粉症治療の新しい展開を目指 した研究	岡本美考	千葉大学耳鼻咽喉科頭頸 部外科
大久保公 裕, 松根彰 志	頭頸部・感覚器科学分野・付属病院耳鼻咽 喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉 科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病 院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助 金	ナットウキナーゼブライゼボ対照ランダム化2重 盲検比較	藤枝重治	福井大学医学部耳鼻咽喉 科
齋藤 彰, 木村 剛	男性生殖器・泌尿器科学分野・付属病院泌 尿器科 男性生殖器・泌尿器科学分野・付属病院泌 尿器科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	組織中および尿中ビッグデータに基づいたBCG 注入後膀胱癌再発予測システムの開発	木村 剛	日本医科大学泌尿器科
	男性生殖器・泌尿器科学分野・付属病院泌 尿器科	代表	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構 (AMED)	機序の異なる多重解析による癌コンパニオ ンシステムの開発	山本陽一朗	信州大学医学部 病理組織 学
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼 眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼 眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	眼組織の移植と再生のための眼免疫応答の制御	堀 純子	眼科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼 眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼 眼科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	角膜血管リンパ管新生における ICOS の働き	國重智之	眼科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼 眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼 眼科	代表	平成28年度若手研究者 奨励助成金	新規の自己免疫性強膜炎モデルの開発と眼局所 の分子病態解析	谷口ヒロ子	眼科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼 眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼 眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	網膜酸化ストレス傷害に対する水素水点眼の効 果	高橋 浩	眼科

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	白内障手術における前房温度と角膜内皮障害	鈴木久晴	眼科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科	代表	バイエール薬品アカデミックサポート	オカルト黄斑ジストロフィーの遺伝子解析と補償光学眼底カメラによる解析	亀谷修平	眼科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科	代表	日本アールコン株式会社 2016年度研究助成	エクソソームとダイレクトシークエンス解析による遺伝性網膜疾患の未知遺伝子解析	亀谷修平	眼科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科	代表	国立研究開発法人科学技術振興機構, 革新的研究開発推進プログラム (ImPACT)	脳情報の可視化と制御による「活力溢れる生活の実現」[ニューテララーマイド]	小野真史	眼科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科	代表	日本アールコン株式会社 2016年度研究助成	緑内障に対する神経保護因子を用いた遺伝子治療	五十嵐勉	眼科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科	代表	日本アールコン株式会社 2016年度研究助成	眼炎症を制御するための免疫チェックポイント分子の機能解析	堀 純子	眼科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	網膜動脈閉塞症に対する水素水点眼の臨床応用	五十嵐徹	小児科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	緑内障における前房水と血中BDNFの濃度の検討	中元兼二	眼科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	慢性過剰飲酒における肝ADH1および3の活性動態とアルコール性肝障害進展に及ぼす影響	大野曜吉	法医学
	疼痛制御麻酔科学分野・付属病院麻酔科・ペインクリニック	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	全身麻酔作用機序における分子生物学的検討	坂本篤裕	日本医科大学医学研究科
	疼痛制御麻酔科学分野・付属病院麻酔科・ペインクリニック	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	microRNAを用いた急性肝機能障害特異的診断マーカーの検討	石川真士	麻酔科・ペインクリニック
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	新しい災害医療対応シミュレーションシステムを用いた災害医学教育, 災害医療の実践	布施 明	
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B) (一部基金)	ヒト胸腹部の損傷メカニズムの解明による災害発生時の安全ガイドラインの作成	西本哲也	日本大学
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B) (一部基金)	虚血再灌流病態を伴う外傷性脳内血腫に対する術前急速導入脳低温療法の有効性の検討	横堀将司	

小山博史,
宮内雅人,
横田裕行,
石井浩統,
鈴木進吾
本村友一
末廣栄一,
黒田泰弘,
増野智彦,
小田泰崇,
河井信行,
田中佐智
子, 河北賢
哉

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
増野智彦, 松居亮平, 横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C) (基金)	救急・集中治療における一般の脳死判定の現況と患者対応に関する研究	荒木 尚	
塚本剛志, 新井正徳, 横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C) (基金)	外傷後臓器障害発生前における骨軟部組織損傷の役割に関する研究	塚本剛志	
塚本剛志, 横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C) (基金)	出血性ショック後臓器障害における分泌型 mi-croRNA・運搬体エキソソームの関与	増野智彦	
山田真智 奈, 増野智 彦, 須田 智	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 芽研究 (基金)	急性硬膜下血腫 - 幹細胞移植モデルを用いた急性期プレロンゲンディシヨニニング治療の確立	横堀将司	
工藤小織, 畠本恭子, 久野将宗, 諸江雄大, 田中知恵	救急医学分野・急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 手研究 (B) (基金)	マイクログ波照射に脳損傷モデルの研究	五十嵐豊	
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 芽研究 (基金)	地理空間情報の救急医学研究への応用	田上 隆	
横堀将司, 太田黒崇伸	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 手研究 (A)	重症救急疾患 big data : データベース構築と臨床研究への活用	田上 隆	
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C) (基金)	PICS 関連の中脳神経障害を予測するバイオマーカーの開発と臨床応用	山田真史奈	
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	主任	厚生労働省科研費補助金	脳死患者の家族に選択肢提示を行う際の対応のあり方に関する研究	横田裕行	
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	主任	厚生労働省科研費補助金	化学・爆弾テロ等重大事案 (事件) に対する机上シミュレーションによる訓練・対応手法の検討に関する研究	布施 明	
横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	分担	厚生労働行政推進調査 事業補助金	救急医療体制の推進に関する研究	山本保博	一般財団法人救急振興財 団
荒木 尚	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	脳死患者の家族に選択肢提示を行う際の対応のあり方に関する研究	横田裕行	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	心臓突然死の生命予後・機能予後を改善させるための一般市民によるAEDの有効活用に関する研究	坂本哲也	帝京大学医学部救急医学講座
横堀将司	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	2020年オゾンピンク・バラリンピック大会に向けた外国人・障害者等に対する熱中症対策に関する研究	三宅康史	帝京大学医学部救急医学講座
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金(若手研究(B))	トヨタ生産方式による医療現場教育の標準化とカイゼン効果の研究研究課題	石井浩統	
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター	代表	基盤研究(B)(一部基金)	虚血再灌流病態を伴う外傷性脳内血腫に対する術前急速導入脳低温療法の有効性の検討	横堀将司	
本村友一、宇治橋貞行	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	科学研究費補助金(基盤研究(B))	ヒト胸腹部の損傷メカニズムの解明による災害発生時の安全ガイドラインの作成	西本哲也	日本大学工学部
	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金(基盤研究(C))	PICS関連の中枢神経障害を予測するバイオマーカーの開発と臨床応用	山田真吏奈	
益子一樹、八木貴典、安松比呂志、中山文彦、黒柳美里、大田黒崇伸、松本尚	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	代表分担	NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク(HEM-Net) 調査研究事業助成	CS集約化に関する調査研究	益子一樹	日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター
本村友一	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	トヨタ受託研究	歩行者、自転車乗員における頭部・頸部・体幹部への傷害に関する研究	尚	
本村友一	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	マツダ自動車共同研究	リアルワールドでの交通事故被害軽減に向けた研究	尚	
本村友一	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	代表	株式会社ケイイズ共同研究	トリアーディングプラス機能評価研究に関する研究	本村友一	
本村友一	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	D-Call Net 研究会	救急自動通報システム(D-Call Net)の開発・運用に向けた研究	益子邦洋	D-Call Net 研究会
本村友一	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	自動車技術会	交通事故被害予測と自動通報に関する検討	宇治橋貞幸	日本文理大学
本村友一	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	日本航空医療学会	災害時のドクターヘリのあり方検討	早川達也	聖隷三方原病院
本村友一	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	HEM-Net 助成金	災害時に複数のドクターヘリを運用する際に、各部門で行うべき業務内容を明確にし、医療搬送を安全・迅速かつ適切にえるシステム構築の研究	中村光伸	前橋赤十字病院
増野智彦、須田智、山田真吏奈	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	科学研究費補助金(萌芽研究)	急性脳腫瘍下血腫・幹細胞移植モデルを用いた急性期ブレコングデンシジョンニング治療の確立	横堀将司	日本医科大学救急医学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
本村友一	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	首都直下型地震・南海トラフ地震等の大規模災害時に医療チームが効果的、効率的に活動するための今後の災害医療体制のあり方に関する研究	松本 尚	日本医科大学医学部 外科
山田真吏奈	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	科学研究費補助金 (C)	重症敗血症におけるCRPの役割と治療効果	横室茂樹	日本医科大学医学部 外科
山田真吏奈	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	科学研究費補助金 (C)	胃の発痛に係るハイリリスク胃炎に対するブラックラズベリーパウダーの効果の検討	櫻澤信行	日本医科大学 外科
山田真吏奈	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	科学研究費補助金 (C)	MMP-9の発現に関わるmiRNAに着目した食道癌 新規診断・治療法の検討	宮下正夫	日本医科大学医学部 外科
山田真吏奈	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	科学研究費補助金 (C)	リゾリン脂質の外科侵襲後炎症性生体反応への関与とその治療応用	松田明久	日本医科大学医学部 外科
松本 尚	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	代表	三井住友海上福祉財団	高齢交通事患者の長期機能予後に関する前向き調査	齋藤伸行	日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター
松本 尚、本村友一	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	首都直下型地震に対応したDMATの戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究	定光大海	大阪医療センター
松本 尚、本村友一	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	災害時における医療チームと関係機関との連携に関する研究	小井土雄一	災害医療センター
土佐真美子	形成再生医学分野・付属病院形成外科	代表	科学研究費補助金 (B)	ケロイド発生における局所、全身、遺伝因子の相互作用機序の解明	小川 令	日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科
渡邊 淳	形成再生医学分野・付属病院形成外科	代表	科学研究費補助金 (B)	スーパーカーボネートアパタイトを用いたケロイド・肥厚性瘢痕の核酸外用薬治療の確立	青木雅代	日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科
深澤隆治	形成再生医学分野・武蔵小杉病院形成外科	代表分担	科学研究費補助金 (C)	メカノパノイロジンの観点より爪変形性疾患の病態解明を目指す	佐野仁美	日本医科大学付属病院形成外科
大橋隆治	付属病院付置施設等・付属病院病理診断科・病理部	代表分担	科学研究費補助金 (C)	ケロイドにおけるTh17細胞/制御性T細胞による免疫機構の解明と新治療の開発	村上正洋	武蔵小杉病院形成外科部長
渡邊 淳	付属病院付置施設等・ゲノム先端医療部	代表分担	科学研究費補助金 (C)	学校教育への「ヒトの遺伝」導入に向けた課題と方策の明確化	佐々木元子	日本医科大学付属病院病理診断科
笠原英城	武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院薬剤部	分担	科学研究費補助金 (C)	川崎病におけるエクソソームmicroRNAの研究：新たな診断法、治療に向けて	大橋隆治	日本医科大学付属病院病理診断科
			科学研究費補助金 (C)	川崎病の発症機序の解明	深澤隆治	日本医科大学小児科
			科学研究費補助金 (C)	学校教育への「ヒトの遺伝」導入に向けた課題と方策の明確化	佐々木元子	日本医科大学付属病院遺伝診療科
			科学研究費補助金 (C)	医薬品リスク管理計画制度の効果的な実装と一層の充実のための基盤研究	林 昌洋	虎の門病院薬剤部
			科学研究費補助金 (C)	高齢者の「反社会的行動」に関する研究－医療・福祉・司法からの多面的アプローチ－	野村俊明	日本医科大学 医療心理学教室
			科学研究費補助金 (B)	生体イメーシングによる血管新生の多様性と普適性の解明	福原茂朋	日本医科大学先端医学研究所分子細胞構造学分野

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	先端医学研究所・分子細胞構造学分野	代表	日本医療研究開発機構(AMED)革新的先端研究開発支援事業ソロタイブ	血管新生におけるメカノトランスダクション機構の解明	福原茂明	日本医科大学先端医学研究所分子細胞構造学分野
	先端医学研究所・分子細胞構造学分野	代表	平成28年度(題48回)公益財団法人アステラス病態代謝研究会研究助成金	生理的・病的血管新生の生体イメージング	福原茂明	日本医科大学先端医学研究所分子細胞構造学分野
	先端医学研究所・細胞生物学分野	代表	日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究(B)	健康増進と疾病予防に寄与する分子状水素の多様な機能を発揮するメカニズムの解明	太田成男	大学院医学研究所
	先端医学研究所・細胞生物学分野	代表	日本学術振興会科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究	水素ガス吸引によって虚血再灌流障害を複合的に軽減する作用機序の総合的解明	太田成男	大学院医学研究所
	先端医学研究所・細胞生物学分野	代表	日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究(C)	水素分子の糖尿病改善効果と遺伝子発現誘導における作用機序の解明	上村尚美	先端医学研究所
	先端医学研究所・細胞生物学分野	代表	日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究(C)	Oxidative stress in skeletal muscle exercise and injury	Wolf A	先端医学研究所
	先端医学研究所・細胞生物学分野	代表	日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究(B)	ミトコンドリア生体分子の化学修飾に着目した水素の抗炎症作用メカニズムの解明	井内勝哉	先端医学研究所
	先端医学研究所・細胞生物学分野	代表	日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究(C)	脂質ラジカル連鎖反応への水素分子の関与：水素の抗炎症作用メカニズムの解明に向けて	西横真代美	先端医学研究所
	先端医学研究所・細胞生物学分野	代表	日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究(C)	水素分子の虚血再灌流障害後の予後改善効果と作用機序の解明	横田 隆	先端医学研究所
	先端医学研究所・	代表	日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究(B)	エビジェネティクス制御からみた水素の抗炎症作用のメカニズム	Lee H	先端医学研究所
太田成男	先端医学研究所・細胞生物学分野	分担	日本医療研究開発機構(AMED)難治性疾患実用化研究事業	タウリンによるMELAS脳卒中様発作再発抑制療法の実用化	砂田芳秀	川崎医科大学
太田成男	先端医学研究所・細胞生物学分野	分担	日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究(C)	脂肪肝炎～肝発癌の病期に応じた最適な酸化ストレス介入療法の開発	高木章乃夫	岡山大学
木下 学, 武岡真司, 酒井宏水, 鈴木英紀, 齋藤大蔵	研究部・共同研究施設形態解析研究室	分担	科学研究費補助金 基礎研究(C)	止血能を有した救命蘇生用人工血液カクテルの開発	萩沢康介	防衛医科大学
	医学教育センター	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	医療系学生の臨床推論能力を高めるムラージュ教材の開発	井上千鹿子	日本医科大学医学教育センター

6) 平成28年度学術受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
宋 曉輝 ^{1,2)}	日本医科大学 分子解剖学, ²⁾ 哈尔滨医科大学基础医学学院 薬理学・中国)・分子解剖学分野	個人	優秀賞	マウス精巢に特異的に発現している長鎖 ノンコーディングRNAの同定. Identification of mouse testis-associated long noncoding RNAs (2017年2月4日(土), 日本医大桜会館/東京)	第27回学校法人日本医科大留学 外国人留学者研究会プログラム	2017	2
荻原郁夫	感覚情報科学分野	個人	研究褒賞	SCN1A 遺伝子変異マウスを用いた Dravet 症候群発症機序解明 (長年の貢献に対して)	公益財団法人てんかん治療研究振興財団	2017	3
内藤善哉	統御機構診断病理学分野	個人	功労賞		東京都臨床細胞学会	2016	7
可知悠子	衛生学公衆衛生学分野	個人	第75回日本公衆衛生学会総会 優秀口演賞	社会経済的要因と心理的ストレス反応との関連: 思春期の子どもにおける経時的検討		2016	10
坂本悠記	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	個人	第9回脳血管山峰会 優秀論文賞	Relative systolic blood pressure reduction and clinical outcomes in hyperacute intracerebral hemorrhage: the SAMURAI-ICH observational study.	脳血管山峰会	2016	9
Mishina M	神経内科学分野・脳病態画像解析学講座	個人	Annals of Nuclear Medicine Frequently Cited Paper 2014	Low density of sigma1 receptors in early Alzheimer's disease	日本核医学学会	2015	7
Fujimori S ^{1,6)} , Fukunaga K ²⁾ , Taisei M ²⁾ , Kubo M ²⁾ , Hanada R ³⁾ , Hayashida M ⁴⁾ , Sakurai T ⁵⁾ , Mitsui K ¹⁾ , Iwakiri K ¹⁾ , Sakamoto C ¹⁾	(¹⁾ Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, Department of Gastroenterology, ²⁾ RIKEN Center for Integrative Medical Sciences, Yokohama, ³⁾ Medical Co. LTA Sumida Hospital, Tokyo, ⁴⁾ Kyorin University School of Medicine, The Third Department of Internal Medicine, Tokyo, ⁵⁾ National Center for Global Health and Medicine, Department of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo, ⁶⁾ Gastroenterology and Hepatology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital)・消化器内科学分野・千葉北総病院消化器内科	グループ	Oral Free Paper Prize	Bactericidal/permeability increasing fold-containing family B member 4 (BPIFB4) is associated with nonsteroidal anti-inflammatory drug-associated small intestinal mucosal injury	United European Gastroenterology Week (The 24th)	2016	10
長尾元嗣, 浅井 明, 杉原 仁, 及川真一	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	グループ	第15回 オレオサイエンス賞	脂肪摂取と2型糖尿病	日本油化学会	2016	9
関根鉄朗	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科, 放射線治療科	個人	JRS (日本医学放射線学会)	Silver Medal		2016	4

青山純也 ¹⁾	(¹)日本医科大学付属病院 心臓血管外科・心臓血管外科学分野・付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科	個人	Young Investigator's Award	多発性心室期外収縮に対する胸腔鏡心拍動下心外膜焼灼の1例	日本循環器学会 越地方会	2016	2
佐藤 俊 ¹⁾ , 加藤昌克 ²⁾ , 佐久間康夫 ²⁾ , 寺本 明 ¹⁾	(¹)日本医科大学 脳神経外科学科, ²⁾ 日本医科大学第一生理学教室)・脳神経外科学分野・付属病院脳神経外科	個人	JPS IRISAWA Memorial Matt outstanding paper award	Sexually dimorphic modulation of GABAA receptor currents by melatonin in rat gonadotropin-releasing hormone	日本生理学会	2008	6
鈴木久晴, 五十嵐勉, 志和利彦	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科	個人	第31回JSCRS学術総会「匠」ビデオグランプリ	白内障手術後の角膜裏面沈着物と温流, 「匠」ビデオ	第31回JSCRS	2016	6
Yoshino Y ¹⁾ , Ueda H ¹⁾ , Ono S ¹⁾ , Ogawa R ¹⁾	(¹)Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School)・形成再生医学分野・付属病院形成外科・再建外科・美容外科	グループ	Best Poster Award of the 49th Annual Meeting of American Burn Association	Tips and Pitfalls of Burn Reconstruction using Local Flaps: Difference between Island and Skin Pedicled Flaps	American Burn Association	2017	3
松岡順子	武蔵小杉病院付属施設等・武蔵小杉病院薬剤部	個人	薬物治療効果の向上 優秀事例賞		公益社団法人神奈川県薬剤師会	2017	3
Yanagida Y, Hosone M, Katayama H, Maeda S ¹⁾ , Naito Z ²⁾	(¹)Life Science Medicine, Pathology and Cytology Center, (²)Department of Integrative Pathology of Nippon Medical School, Tokyo, Japan)・多摩永山病院付属施設等・多摩永山病院病理部	個人	The Second Prize of The 24th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytology in the poster contest	A current topic of effusion cytology: HHV8-negative common effusion lymphoma: morphologically high-grade, clinically low-grade	Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytology	2017	1
阿部雅志	千葉北総病院放射線センター	個人	第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会優秀ポスター賞(コメディカル部門)	急性期脳梗塞における胸部大動脈解離合併症例との鑑別での技師の役割		2016	11
海原純子 ^{1,1)}	(¹)日本医科大学)・医学教育センター	個人	日本ストレス学会賞(加藤, 岩根賞)	被災地における生活満足度と地域とのつながりのかかわりについて	日本ストレス学会	2016	10

7) 平成28年度知的財産一覧(特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
西野武士, 加藤信介, 加藤雅子, 鈴木秀典, 岡本研	代謝・栄養学分野	認知症の予防及び/又は治療のための医薬	PCT/JP2016/055226 2/23/2016	WO2016/136727 9/1/2016	A1	国立大学法人鳥取大学, 学校法人日本医科大学, 日本ケミファ株式会社
岡田尚巳, 武田伸一, 喜納裕美	分子遺伝医学分野	薬剤送達粒子及びその製造方法	2013-510981 4/16/2012	W02012/144446 10/26/2012	6007463 9/23/2016	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
岡田尚巳, 岡田浩典, 宮川世志幸, 峰野純一, 蝶野英人	分子遺伝医学分野	核酸封入 AAV 中空粒子	2017-014461 1/30/2017			学校法人日本医科大学, タカラバイオ株式会社
岡田尚巳, 岡田浩典, 喜納裕美, 榎竜嗣, 西江敏和, 峰野純一	分子遺伝医学分野	アデノ随伴ウイルス(AAV)キヤプシドタンパク質の変異体	2017-014377 1/30/2017			学校法人日本医科大学, タカラバイオ株式会社
村田 智	臨床放射線医学分野・放射線治療科 付属病院放射線科, 放射線治療科	隣灌流装置及びその制御方法			5992385 8/26/2016	
田中之, 上原郁野	先端医学研究所・遺伝子制御学分野	炎症性サイトカインの機能を抑制する炎症性疾患治療剤			特許第6043997号 11/25/2016	田中之, 上原郁野
阿部芳憲, 清家正博, 弦間昭彦, 田中之	先端医学研究所・遺伝子制御学分野	肺癌治療のための抗癌剤の効果の検査法	特願: 2016-094888号 5/6/2016			阿部芳憲, 清家正博, 弦間昭彦, 田中之
田中之, 林裕史, 上原郁野, 中嶋亘, 鈴木英紀	研究部・共同研究施設 形態解析研究室	内耳疾患治療剤	2016-232704 11/30/2016			学校法人 日本医科大学

2. 動物実験実施状況

1) 平成28年度教室別動物実験実施予定者数および実験計画書(課題)数(平成28年4月～平成29年3月)

教室名	予定者数	受講者数	課題数	報告書数
[基礎医学(武蔵境校舎)]				
生物学	4	4	3	3
スポーツ科学	6	6	4	4
小計	10	10	7	7
[基礎科学]				
分子解剖学	9	8	3	3
解剖学・神経生物学	17	15	16	16
感覚情報科学	19	13	6	6
生体統御科学	12	12	8	7
代謝・栄養学	14	12	5	5
分子遺伝医学	25	24	10	10
薬理学	19	19	8	8
解析人体病理学	17	17	14	14
統御機構病理学	16	10		
微生物学・免疫学	20	18	11	11
衛生学公衆衛生学	5	6	1	1
法医学	20	11	5	5
形態解析共同研究施設		2		
実験動物管理室	17	16	7	7
アイソトープ研究室	6	2	1	1
小計	216	185	95	94
実験予定者の合計	390			
講習会受講者数の合計	471			
課題数の合計	202			
報告書数の合計	201			

科名	予定者数	受講者数	課題数	報告書数
[附属病院]				
循環器内科学	7	7	6	6
神経内科学		19	2	2
腎臓内科学		9	1	1
血液内科学	3	4		
消化器内科学	8	7	1	1
内分泌糖尿病代謝内科学	6	17	4	4
呼吸器内科学		9		
アレルギー・膠原病内科学	6	11	4	4
小児・思春期医学	3	5	1	1
皮膚粘膜病態学	5	7	4	4
疼痛制御麻酔科学	5	6	3	3
臨床放射線医学	2	4		
呼吸器外科学	6	8	3	3
消化器外科学		12	1	1
心臓血管外科学		8	3	3
脳神経外科学		7		
乳腺外科学		2		
眼科学	22	12	10	10
頭頸部・感覚器科学	2	1	1	1
女性生殖発達病態学	26	9	1	1
形成再生医学		32	8	8
整形外科学	10	1		
救命医学		11	9	9
ワクチン療法		2		
生命科学研究所センター		3		
小計	111	208	59	59

科・部門・教室名	予定者数	受講者数	課題数	報告書数
[武蔵小杉病院]				
内分泌糖尿病動脈硬化内科		2	3	3
呼吸器内科		1		
血管内・低侵襲治療センター		2		
小児科		1		
小計	0	6	3	3
[多摩永山病院]				
小児科		4	1	1
循環器内科		2		
呼吸器内科		1		
消化器科		1		
外科		1		
女性診療科		1		
眼科		1		
病理部		3		
放射線科				
耳鼻科				
小計	0	12	1	1
[千葉北総病院]				
循環器内科	2	2	1	1
小児科		3		
救急救命センター	1	9	1	1
心臓血管外科	1	1	1	1
外科	2	1	1	1
脳神経外科	4	2	1	1
小計	10	18	5	5
[先端医学研究所]				
病態解析学	6	5	1	1
細胞生物学	16	8	10	10
遺伝子制御学	11	11	18	18
生体機能制御学	10	8	3	3
小計	43	32	32	32

2) 平成28年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率(ヶージ数を基に算出(%))

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス	SPF 動物飼育室	40.5	38.8	43.9	44.6	47.2	45.5	48.0	43.1	41.4	44.6	45.1	43.9	43.9
	P1A クリーン動物飼育室	51.8	52.1	50.1	53.0	49.0	46.5	43.9	48.2	50.1	50.4	48.4	47.9	49.3
ラット	P1A クリーン動物飼育室	25.5	30.6	25.5	40.8	32.7	23.5	24.5	31.6	20.4	22.4	24.5	25.5	27.3
モルモット		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウサギ	クリーン動物飼育室	60.0	13.3	13.3	13.3	13.3	10.0	10.0	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	13.9
イヌ・ブタ		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
魚		40.0	40.0	45.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	20.0	20.0	20.0	20.0	31.7

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス	SPF 動物飼育室	54.9	59.1	57.0	59.5	59.1	57.7	58.2	59.8	59.1	63.3	62.4	65.9	59.7
	P3A 感染動物飼育室	11.5	11.5	8.3	15.6	17.7	19.8	19.8	26.0	26.0	26.0	22.9	24.0	19.1
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	59.5	52.4	58.6	68.1	73.3	76.2	94.3	87.6	84.8	84.8	84.3	86.2	75.8
	P1A クリーン動物飼育室	73.3	70.5	60.0	65.2	61.0	65.7	61.4	61.9	65.7	64.3	67.1	65.2	65.1
ラット	S P F 動物飼育室	54.7	47.3	50.7	58.7	64.7	60.0	58.7	49.3	60.0	61.3	48.0	41.3	54.6
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	2.2	0.3
	P1A クリーン動物飼育室	49.4	67.2	53.9	65.6	61.1	65.0	66.7	67.8	66.1	76.7	60.6	53.3	62.8
ウサギ・モルモット	P1A クリーン動物飼育室	5.0	6.7	6.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.3

3) 平成28年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	91	94	97	131	190	174	100	74	91	103	157	112	1,414
	P1A クリーン動物飼育室	245	243	348	178	367	365	250	610	190	419	283	402	3,900
ラット	P1A クリーン動物飼育室	38	40	83	47	28	20	23	49	31	51	35	51	496
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ		5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ブタ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚		0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	285	298	335	396	250	355	201	492	153	564	224	367	3,920
	P3A 感染動物飼育室	1	6	11	60	2	14	21	11	0	0	0	21	147
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	20	65	110	50	51	91	100	146	45	98	77	69	922
	P1A クリーン動物飼育室	97	65	104	74	90	60	60	60	81	95	167	81	1,115
ラット	SPF 動物飼育室	33	18	38	121	54	34	44	72	43	49	34	60	600
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	10	30
	P1A クリーン動物飼育室	106	104	141	142	172	154	124	140	136	180	76	92	1,567
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	1	18	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
モルモット		0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

4) 平成28年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	115	56	86	96	144	177	102	116	127	76	175	145	1,415
	P1A クリーン動物飼育室	315	205	312	298	402	354	261	530	229	381	324	386	3,997
ラット	P1A クリーン動物飼育室	36	40	45	66	58	18	31	48	34	42	34	44	496
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ		17	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	24
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ブタ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚		4	4	0	3	0	3	1	2	4	0	1	0	22

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	199	281	346	359	308	314	193	362	253	461	199	372	3,647
	P3A 感染動物飼育室	1	2	1	3	6	18	9	16	0	7	11	6	80
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	42	72	50	24	37	53	76	122	77	76	111	73	813
	P1A クリーン動物飼育室	127	113	89	92	45	101	44	66	110	166	52	133	1,138
ラット	SPF 動物飼育室	126	26	45	29	114	28	75	47	30	95	27	95	737
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	7	21
	P1A クリーン動物飼育室	104	88	111	144	117	127	114	200	117	184	118	111	1,535
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	6	3	10	0	0	24	0	0	0	12	0	3	58
モルモット		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

5) 平成28年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	12,807	13,539	13,111	14,902	16,216	16,200	16,433	14,761	11,641	17,519	13,617	13,805	174,551
	P1A クリーン動物飼育室	27,602	27,922	25,801	27,553	26,042	23,799	23,452	24,848	21,095	32,283	23,825	26,271	310,493
ラット	P1A クリーン動物飼育室	1,444	1,485	1,789	2,490	1,732	1,429	1,248	1,528	1,039	1,446	1,271	1,415	18,316
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ		486	136	120	124	109	90	79	60	50	74	56	38	1,422
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ブタ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚		723	673	810	766	744	684	631	554	414	518	369	403	7,289

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	27,307	29,951	28,547	31,427	28,556	29,655	31,447	32,407	29,595	42,535	31,729	35,759	378,915
	P3A 感染動物飼育室	810	282	812	1,562	1,760	1,573	1,592	1,838	1,475	2,155	1,433	1,552	16,844
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	9,168	8,879	9,329	11,027	11,880	11,896	13,207	14,341	10,958	16,067	12,660	13,500	142,912
	P1A クリーン動物飼育室	15,305	14,747	13,832	14,310	15,050	13,900	14,265	14,568	11,626	18,179	12,949	14,064	172,795
ラット	SPF 動物飼育室	5,402	4,853	4,649	6,462	6,375	5,641	5,301	5,022	5,009	7,130	4,214	3,766	63,824
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	119	354	473
	P1A クリーン動物飼育室	5,723	6,052	6,341	6,471	7,718	8,853	9,161	9,500	6,228	10,480	6,547	6,670	89,744
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	93	207	144	93	93	90	93	90	75	111	84	60	1,233
モルモット		0	31	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70

あ と が き

皆さんは「日本医科大学研究業績年報」をどのように活用なさっているでしょうか。研究を行なう上で、それを外へ発信することは大変重要です。学会発表もそうですが、論文然りです。研究に関しては日常の仕事に於けるブレイクスルーとして行なっていくわけですが、それを学会発表し論文化してはじめて研究が完結するものと思います。それらを日本医科大学全体の業績としてまとめた「日本医科大学研究業績年報」は本学の年間の研究の結果の賜物です。この膨大な業績を行なって頂いた先生方に感謝すると同時にデータ入力にご協力下さった各研究室の皆様、また取り纏めにご尽力下さった事務方の皆様に御礼申し上げます。

日本医科大学は現在これまでの本学の方針とは異なり弦間学長のリーダーシップのもとにアカデミックな分野において大きく楯を切ろうとしています。日本医科大学のブランド化がその一つです。その中では人工知能（AI）を用いてがんの診断および治療に結びつけていくものです。今や AI は将棋の藤井聡太四段で話題にはなっていますが、今後は多くの職種で活躍されるものとして知られています。人間の判断によって成されている放射線診断や病理診断など今後は AI の力を借りる将来がありえます。そこで本学がこれらをリーダーシップをとれるように準備していくことは大切です。

昨年度より日本学術振興会の科学研究費申請も大学教職員には、ある意味で義務化され、本学の科学研究費もここ2年間で約1億円の増額をみております。これも先生方の研究のアクティビティーの増加の賜物です。「日本医科大学研究業績年報」を日本学術振興会の科学研究費申請に限らず多くの競争的資金を得るためのデータベースとして本年報をご活用頂ければ幸いです。また他の研究室の業績を鑑みて共同研究をして頂き、全学を挙げての研究基盤形成にお役立て頂ければ幸いです。その上で今後の「日本医科大学研究業績年報」も本年よりボリューム増に成ることを祈っております。皆様方の今後の研究の発展をお祈りしております。

平成 29 年 7 月

研究部部长 近藤 幸尋

平成29年 7 月 31 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学
研 究 部 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

TEL 03 (3822) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10

TEL 03 (3910) 4 3 1 1-5